

### VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針

## 目 次

1. 概要	1
2. 基本方針	2
3. 地盤の解析用物性値	3
3.1 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値	3
3.2 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値	15
3.2.1 全応力解析に用いる解析用物性値	15
3.2.2 有効応力解析に用いる解析用物性値	16
3.2.3 その他の解析用物性値	17
4. 極限支持力	23
4.1 基礎地盤（狐崎部層・牧の浜部層・改良地盤）の極限支持力	23
4.2 直接基礎の支持力算定式	30
4.3 杭基礎の支持力算定式	31
5. 耐震評価における地下水位設定方針	32
5.1 基本方針	32
5.2 浸透流解析	36
5.3 建物・構築物の耐震評価における地下水位設定	42
5.4 土木構造物の耐震評価における地下水位設定	44
6. 地質断面図	50
7. 地盤の速度構造	54
7.1 入力地震動の設定に用いる地下構造モデル	54
7.2 地震応答解析に用いる解析モデル	56
8. 地盤の液状化強度特性の代表性，網羅性及び保守性	57
8.1 液状化強度試験箇所への代表性及び網羅性	57
8.2 地盤の液状化強度特性における保守性	62

## 1. 概要

本資料は、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」に基づき、設計基準対象施設並びに常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備、常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備が設置される重大事故等対処施設（特定重大事故等対処施設を除く。）、常設重大事故防止設備（設計基準拡張）が設置される重大事故等対処施設（特定重大事故等対処施設を除く。）、及び常設重大事故緩和設備（設計基準拡張）が設置される重大事故等対処施設（以下「常設重大事故等対処施設」という。）、並びに波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震安全性評価を実施するに当たり、対象施設を設置する地盤の物理特性、強度特性、変形特性等の地盤物性値の設定、支持性能評価で用いる地盤諸元及び耐震評価における地下水位の設定に関する基本的な考え方を示したものである。

## 2. 基本方針

設計基準対象施設，常設重大事故等対処施設及び波及的影響の設計対象とする下位クラス施設において，対象施設を設置する地盤の物理特性，強度特性，変形特性等の解析用物性値については，各種試験に基づき設定する。全応力解析及び有効応力解析等に用いる解析用物性値は，設置変更許可申請書（添付書類六）を踏まえ，設計及び工事の計画の認可申請において設定する。

なお，設置変更許可申請書（添付書類六）において，防潮堤の基礎地盤の安定性評価に用いた改良地盤の解析用物性値については，設置変更許可後に施工することから，実施工において所定の物性値が確保され，防潮堤の基礎地盤の安定性評価に変更ないことを，改良地盤施工時の品質管理において確認する。

対象施設を設置する地盤の地震時における支持性能評価については，設計基準対象施設及び常設重大事故等対処施設の耐震重要度分類又は施設区分に応じた地震力により地盤に作用する接地圧が，地盤の極限支持力に基づく評価基準値に対して妥当な安全余裕を有することを確認することによって行う。

極限支持力は，対象施設の支持岩盤の支持力試験又は「日本道路協会 平成14年3月道路橋示方書・同解説 I 共通編・IV下部構造編」（以下「道路橋示方書」という。）の支持力算定式に基づいた，室内試験の結果により設定する。

杭基礎の押込み力及び引抜き力に対する支持性能評価において，液状化検討対象層である地下水位以深の盛土及び旧表土の杭周面摩擦力を支持力として考慮せず，支持性能評価を行うことを基本とする。ただし，杭周面地盤に地下水位以浅の盛土及び旧表土，改良地盤，セメント改良土並びに岩盤がある場合は，その杭周面摩擦力を支持力として考慮する。

耐震評価における地下水位は，対象施設と地下水位低下設備との位置関係，浸透流解析結果等を踏まえ，対象施設ごとに高めに設定し保守性を確保するとともに，地下水位が低い場合の影響についても確認する。

### 3. 地盤の解析用物性値

#### 3.1 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値

設置変更許可申請書に記載された解析用物性値を表3-1～表3-3に、設定根拠を表3-4～表3-6に示す。動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性を図3-1～図3-6に示す。設置変更許可申請書に記載された解析用物性値については、原位置試験及び室内試験から得られた各種物性値を基に設定した。

改良地盤の解析用物性値については、防潮堤の基礎地盤の安定性評価に影響を与えない観点で、施工時の品質管理において表3-7のとおり確認する。試験頻度は、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針—セメント系固化材を用いた深層・浅層混合処理工法—，日本建築センター」を参照し、100本の改良コラムに1箇所以上とする。

表 3-1(1) 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値(狐崎部層)

岩種・岩級		物理特性	強度特性*			変形特性				
		単位体積重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	静的・動的的特性			静的特性		動的特性		
			せん断強度 $\tau_0$ (N/mm <sup>2</sup> )	内部摩擦角 $\phi$ (°)	残留強度 $\tau$ (N/mm <sup>2</sup> )	静弾性係数 $E_s$ (N/mm <sup>2</sup> )	静ポアソン比 $\nu_s$	動せん断弾性係数 $G_d$ (N/mm <sup>2</sup> )	動ポアソン比 $\nu_d$	減衰定数 h
B級	砂岩	26.4	1.72	43.0	$1.30 \sigma^{0.73}$	1,770	0.25	表3-1(2)参照	0.03	
	頁岩	26.9	1.58	46.0	$1.36 \sigma^{0.62}$	2,160	0.28		0.03	
	ひん岩	28.7	1.72	43.0	$1.30 \sigma^{0.73}$	1,770	0.31		0.03	
C <sub>H</sub> 級	砂岩	26.2	1.72	43.0	$1.30 \sigma^{0.73}$	1,770	0.24		0.03	
	頁岩	26.6	1.58	46.0	$1.36 \sigma^{0.62}$	2,160	0.25		0.03	
	ひん岩	28.0	1.72	43.0	$1.30 \sigma^{0.73}$	1,770	0.29		0.03	
C <sub>M</sub> 級	砂岩	25.2	0.49	47.0	$1.16 \sigma^{0.62}$	980	0.26		0.03	
	頁岩	25.8	0.49	47.0	$1.16 \sigma^{0.62}$	980	0.20		0.03	
	ひん岩	25.2	0.49	47.0	$1.16 \sigma^{0.62}$	980	0.26		0.03	
C <sub>L</sub> 級	砂岩	24.1	0.46	44.0	$0.73 \sigma^{0.76}$	400	0.31		0.03	
	頁岩	24.1	0.44	27.0	$0.58 \sigma^{0.31}$	400	0.31		0.03	
	ひん岩	24.1	0.46	44.0	$0.73 \sigma^{0.76}$	400	0.31		0.03	
D級	砂岩	20.2	0.10	24.0	$0.41 \sigma^{0.49}$	78	0.38	$G_0 = 255.4 \sigma^{0.26}$ $G_d / G_0 =$ $1 / (1 + 119 \gamma^{0.63})$	$h =$ $0.085 \gamma /$ $(0.00026 + \gamma)$ $+ 0.028$	
	頁岩	20.2	0.10	24.0	$0.12 \sigma^{0.21}$	39	0.38			
	ひん岩	20.2	0.10	24.0	$0.41 \sigma^{0.49}$	78	0.38			

注記\* : 岩盤の引張強度は、潜在亀裂を考慮して見込まない。

表 3-1(2) 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値(狐崎部層)

岩種・岩級		速度層	動的変形特性	
			動せん断弾性係数 $G_d(N/mm^2)$	動ポアソン比 $\nu_d$
B級 及び C <sub>H</sub> 級	砂岩	第2速度層	$1.5 \times 10^3$	0.44
		第3速度層	$5.9 \times 10^3$	0.40
		第4速度層	$13.2 \times 10^3$	0.36
		第5速度層	$16.5 \times 10^3$	0.35
	頁岩	第2速度層	$1.6 \times 10^3$	0.44
		第3速度層	$6.0 \times 10^3$	0.40
		第4速度層	$13.5 \times 10^3$	0.36
		第5速度層	$16.7 \times 10^3$	0.35
	ひん岩	第3速度層	$6.4 \times 10^3$	0.40
		第4速度層	$14.2 \times 10^3$	0.36
		第5速度層	$17.6 \times 10^3$	0.35
	C <sub>M</sub> 級	砂岩	第1速度層	$0.2 \times 10^3$
第2速度層			$1.5 \times 10^3$	0.44
第3速度層			$5.7 \times 10^3$	0.40
第4速度層			$12.7 \times 10^3$	0.36
第5速度層			$15.8 \times 10^3$	0.35
頁岩		第1速度層	$0.2 \times 10^3$	0.48
		第2速度層	$1.5 \times 10^3$	0.44
		第3速度層	$5.9 \times 10^3$	0.40
		第4速度層	$13.0 \times 10^3$	0.36
		第5速度層	$16.2 \times 10^3$	0.35
ひん岩		第2速度層	$1.5 \times 10^3$	0.44
		第3速度層	$5.7 \times 10^3$	0.40
		第4速度層	$12.7 \times 10^3$	0.36
C <sub>L</sub> 級	第1速度層	$0.2 \times 10^3$	0.48	
	第2速度層	$1.4 \times 10^3$	0.44	
	第3速度層	$5.5 \times 10^3$	0.40	
D級	第1速度層	表 3-1(1) 参照	0.48	
	第2速度層		0.44	

表 3-2(1) 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値(牧の浜部層)

岩種・岩級		物理特性	強度特性*			変形特性				
		単位体積重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	静的・動的特性			静的特性		動的特性		
			せん断強度 $\tau_0$ (N/mm <sup>2</sup> )	内部摩擦角 $\phi$ (°)	残留強度 $\tau$ (N/mm <sup>2</sup> )	静弾性係数 $E_s$ (N/mm <sup>2</sup> )	静ポアソン比 $\nu_s$	動せん断弾性係数 $G_d$ (N/mm <sup>2</sup> )	動ポアソン比 $\nu_d$	減衰定数 h
B級	砂岩	26.4	1.29	54.0	$1.12 \sigma^{0.74}$	4,100	0.21	表3-2(2)参照	0.03	
	頁岩	27.1	1.25	32.0	$0.96 \sigma^{0.31}$	3,700	0.23		0.03	
	ひん岩	27.9	1.29	54.0	$1.12 \sigma^{0.74}$	2,800	0.18		0.03	
C <sub>H</sub> 級	砂岩	26.2	1.29	54.0	$1.12 \sigma^{0.74}$	1,900	0.19		0.03	
	頁岩	27.1	1.25	32.0	$0.96 \sigma^{0.31}$	1,900	0.22		0.03	
	ひん岩	27.9	1.29	54.0	$1.12 \sigma^{0.74}$	1,900	0.18		0.03	
C <sub>M</sub> 級	砂岩	25.5	0.78	50.0	$1.09 \sigma^{0.72}$	1,200	0.24		0.03	
	頁岩	25.4	0.76	32.0	$0.96 \sigma^{0.31}$	1,500	0.21		0.03	
	ひん岩	25.5	0.78	50.0	$1.09 \sigma^{0.72}$	1,200	0.24		0.03	
C <sub>L</sub> 級	砂岩	23.1	0.46	44.0	$0.73 \sigma^{0.76}$	250	0.26		0.03	
	頁岩	23.1	0.44	27.0	$0.58 \sigma^{0.31}$	180	0.26		0.03	
	ひん岩	23.1	0.46	44.0	$0.73 \sigma^{0.76}$	250	0.26		0.03	
D級	砂岩	20.2	0.10	24.0	$0.41 \sigma^{0.49}$	78	0.38	$G_0 = 255.4 \sigma^{0.26}$ $G_d / G_0 =$ $1 / (1 + 119 \gamma^{0.63})$	$h =$ $0.085 \gamma /$ $(0.00026 + \gamma)$ $+ 0.028$	
	頁岩	20.2	0.10	24.0	$0.12 \sigma^{0.21}$	39	0.38			
	ひん岩	20.2	0.10	24.0	$0.41 \sigma^{0.49}$	78	0.38			

注記\* : 岩盤の引張強度は、潜在亀裂を考慮して見込まない。



表 3-2(2) 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値(牧の浜部層)

岩種・岩級		速度層	動的変形特性	
			動せん断弾性係数 $G_d(N/mm^2)$	動ポアソン比 $\nu_d$
B級 及び C <sub>H</sub> 級	砂岩	第2速度層	$1.2 \times 10^3$	0.45
		第3速度層	$4.7 \times 10^3$	0.41
		第4速度層	$11.5 \times 10^3$	0.34
		第5速度層	$16.8 \times 10^3$	0.33
	頁岩	第2速度層	$1.2 \times 10^3$	0.45
		第3速度層	$4.7 \times 10^3$	0.41
		第4速度層	$11.5 \times 10^3$	0.34
		第5速度層	$16.8 \times 10^3$	0.33
	ひん岩	第3速度層	$4.7 \times 10^3$	0.41
		第4速度層	$11.5 \times 10^3$	0.34
		第5速度層	$16.8 \times 10^3$	0.33
	C <sub>M</sub> 級	砂岩	第1速度層	$0.2 \times 10^3$
第2速度層			$1.2 \times 10^3$	0.45
第3速度層			$4.7 \times 10^3$	0.41
第4速度層			$11.5 \times 10^3$	0.34
第5速度層			$16.8 \times 10^3$	0.33
頁岩		第1速度層	$0.2 \times 10^3$	0.48
		第2速度層	$1.2 \times 10^3$	0.45
		第3速度層	$4.7 \times 10^3$	0.41
		第4速度層	$11.5 \times 10^3$	0.34
		第5速度層	$16.8 \times 10^3$	0.33
ひん岩		第2速度層	$1.2 \times 10^3$	0.45
		第3速度層	$4.7 \times 10^3$	0.41
		第4速度層	$11.5 \times 10^3$	0.34
C <sub>L</sub> 級	第1速度層	$0.2 \times 10^3$	0.48	
	第2速度層	$1.2 \times 10^3$	0.45	
	第3速度層	$4.7 \times 10^3$	0.41	
D級	第1速度層	表 3-2(1) 参照	0.48	
	第2速度層		0.45	

表 3-3 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値(盛土ほか)

岩種・岩級	物理特性 単位体積重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	強度特性				変形特性				
		静的・動的特性				静的特性		動的特性		
		せん断強度 $\tau_0$ (N/mm <sup>2</sup> )	内部摩擦角 $\phi$ (°)	引張強度 $\sigma_t$ (N/mm <sup>2</sup> )	残留強度 $\tau$ (N/mm <sup>2</sup> )	静弾性係数 $E_s$ (N/mm <sup>2</sup> )	静ポアソン比 $\nu_s$	動せん断弾性係数 $G_d$ (N/mm <sup>2</sup> )	動ポアソン比 $\nu_d$	減衰定数 $h$
盛土	20.6	0.06	30.0	—	$0.06 + \sigma \tan 30.0^\circ$	$198 \sigma^{0.60}$	0.40	$G_0 = 382 \sigma^{0.71}$ $G_d/G_0 =$ $1 / (1 + \gamma / 0.00036)^*$	0.48	$h = 0.183 \gamma / (\gamma + 0.000261)$
旧表土	19.0	0.08	26.2	—	$0.08 + \sigma \tan 26.2^\circ$	$302 \sigma^{0.80}$	0.40	$G_0 = 211 \sigma^{0.42}$ $G_d/G_0 =$ $1 / (1 + \gamma / 0.00087)$	0.46	$\gamma < 3 \times 10^{-4}$ $h = 0.125 + 0.020 \log \gamma$ $3 \times 10^{-4} \leq \gamma < 2 \times 10^{-2}$ $h = 0.374 + 0.091 \log \gamma$ $2 \times 10^{-2} \leq \gamma$ $h = 0.22$
断層 及びシーム	18.6	0.067	22.2	—	$0.067 + \sigma \tan 22.2^\circ$	圧縮方向 $124.5 \sigma^{0.90}$ せん断方向 $44.43 \sigma^{0.90}$	0.40	$G_0 = 192.3 \sigma^{0.74}$ $G_d/G_0 =$ $1 / (1 + \gamma / 0.0012)^*$	0.46	$\gamma < 1 \times 10^{-4}$ $h = 0.024$ $1 \times 10^{-4} \leq \gamma < 1.6 \times 10^{-2}$ $h = 0.024 + 0.089 (\log \gamma + 4)$ $1.6 \times 10^{-2} \leq \gamma$ $h = 0.22$
セメント改良土	21.6	0.65	44.3	0.46	$0.21 + \sigma \tan 40.9^\circ$	690	0.26	$G_0 = 1670$ $G_d/G_0 =$ $1 / (1 + \gamma / 0.00085)$	0.36	$\gamma < 3.8 \times 10^{-5}$ $h = 0.014$ $3.8 \times 10^{-5} \leq \gamma$ $h = 0.151 + 0.031 \log \gamma$
改良地盤	20.6	1.39	22.1	0.65	$0.51 + \sigma \tan 34.6^\circ$	4,480	0.19	$G_0 = 1940$ $G_d/G_0 =$ $1 / (1 + \gamma / 0.00136)$	0.35	$\gamma < 1.2 \times 10^{-4}$ $h = 0.031$ $1.2 \times 10^{-4} \leq \gamma < 5.2 \times 10^{-3}$ $h = 0.227 + 0.050 \log \gamma$ $5.2 \times 10^{-3} \leq \gamma$ $h = 0.113$
背面補強工	24.0	—				28,000	0.2	11,667	0.2	0.05
置換コンクリート	22.5									

注記\* : 残存剛性率 ( $G_d/G_0$ ) が小さい領域は次式で補間  
 $G_0 = E_s / 2 (1 + \nu_s)$  ,  $G_d/G_0 = 1 / (1 + \gamma / \gamma_m)$  ,  $\gamma_m = \tau_f / G_0$

表 3-4 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値の設定根拠(狐崎部層)

岩種・岩級		物理特性	強度特性	変形特性	
			静的・動的的特性	静的特性	動的特性
B級 及び C <sub>H</sub> 級	砂岩	密度試験	ブロックせん断試験* 摩擦抵抗試験*	岩盤変形試験*	PS検層
	頁岩			岩盤変形試験*	
	ひん岩		砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
C <sub>M</sub> 級	砂岩	密度試験	ブロックせん断試験 摩擦抵抗試験	岩盤変形試験	
	頁岩		砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
	ひん岩	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
C <sub>L</sub> 級	砂岩	密度試験	ロックせん断試験 摩擦抵抗試験	換算値	
	頁岩		換算値	砂岩と同じ値	
	ひん岩	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
D級	砂岩	密度試験	ロックせん断試験 摩擦抵抗試験	換算値	繰返し三軸試験
	頁岩	換算値	換算値	換算値	砂岩と同じ値
	ひん岩	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値

注記\* : B級については, C<sub>H</sub>級と同じ値を用いる。

表 3-5 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値の設定根拠(牧の浜部層)

岩種・岩級		物理特性	強度特性	変形特性	
			静的・動的特性	静的特性	動的特性
B級	砂岩	密度試験	C <sub>H</sub> 級と同じ値	換算値	PS 検層
	頁岩				
	ひん岩	C <sub>H</sub> 級と同じ値			
C <sub>H</sub> 級	砂岩	密度試験	ブロックせん断試験 摩擦抵抗試験	岩盤変形試験	
	頁岩		換算値	砂岩と同じ値	
	ひん岩		砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
C <sub>M</sub> 級	砂岩	密度試験	ブロックせん断試験 摩擦抵抗試験	岩盤変形試験	
	頁岩		ブロックせん断試験 摩擦抵抗試験	岩盤変形試験	
	ひん岩	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
C <sub>L</sub> 級	砂岩	密度試験	ロックせん断試験 摩擦抵抗試験	換算値	
	頁岩		換算値	砂岩と同じ値	
	ひん岩	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
D級	砂岩	密度試験	ロックせん断試験 摩擦抵抗試験	換算値	繰返し三軸試験
	頁岩	換算値	換算値	換算値	砂岩と同じ値
	ひん岩	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値

表 3-6 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値の設定根拠(盛土ほか)

岩種・岩級	物理特性	強度特性	変形特性	
		静的・動的特性	静的特性	動的特性
盛土	現場密度試験	三軸圧縮試験	三軸圧縮試験	繰返し三軸試験
旧表土	密度試験	三軸圧縮試験	三軸圧縮試験	繰返し三軸試験
断層及びシーム	密度試験	単純せん断試験	単純せん断試験	繰返し単純せん断試験
セメント改良土	現場密度試験	三軸圧縮試験 岩石の引張強さ試験	三軸圧縮試験	PS 検層 繰返し三軸試験
改良地盤	密度試験	三軸圧縮試験 岩石の引張強さ試験	平板載荷試験	PS 検層 繰返し三軸試験
背面補強工 置換コンクリート		コンクリート標準示方書 構造性能照査編		

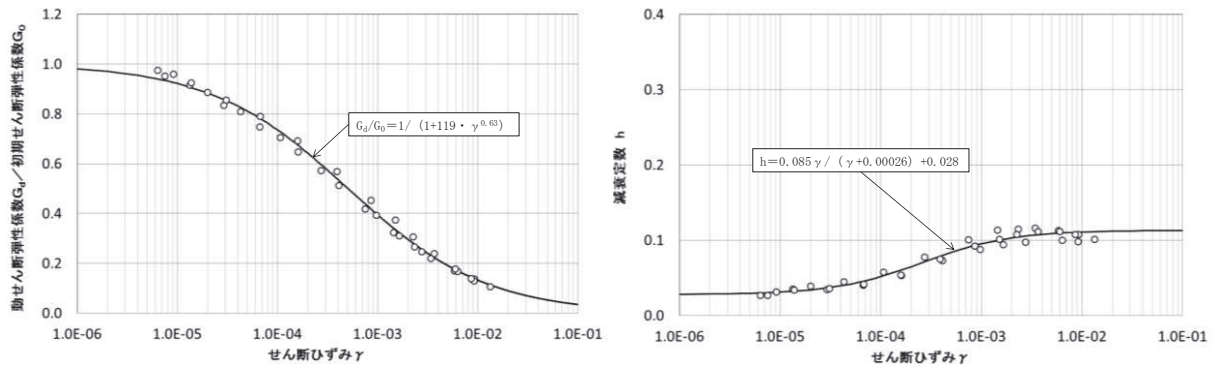
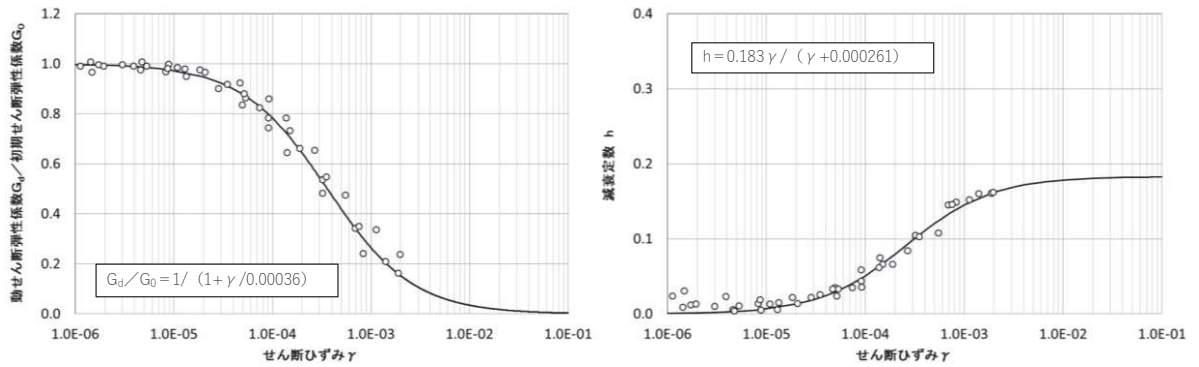


図 3-1 D級岩盤の動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性



注記\* : 残存剛性率 ( $G_d/G_0$ ) が小さい領域は次式で補間。

$$G_0 = E_s / 2(1 + \nu_s) \quad , \quad G_d/G_0 = 1 / (1 + \gamma / \gamma_m) \quad , \quad \gamma_m = \tau_f / G_0$$

なお、 $\tau_f$ は条件（拘束圧）によって異なるためグラフには表記していない。

図 3-2 盛土の動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性

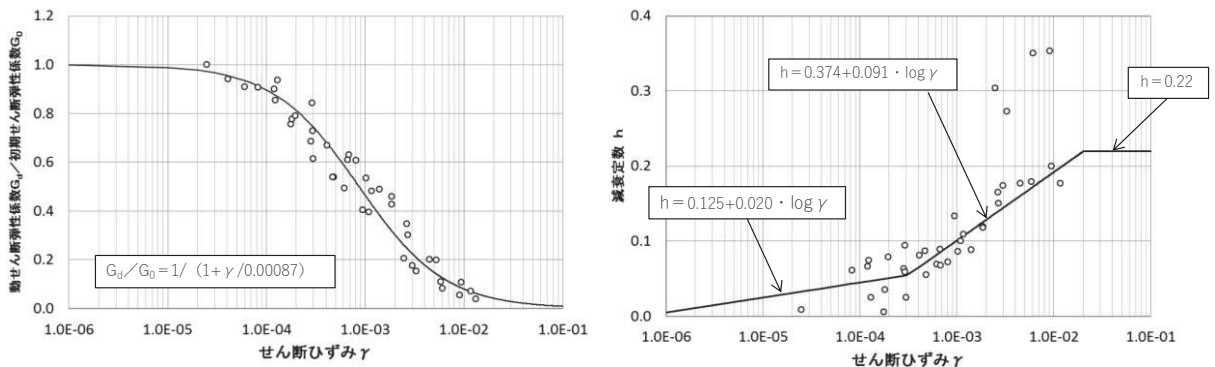
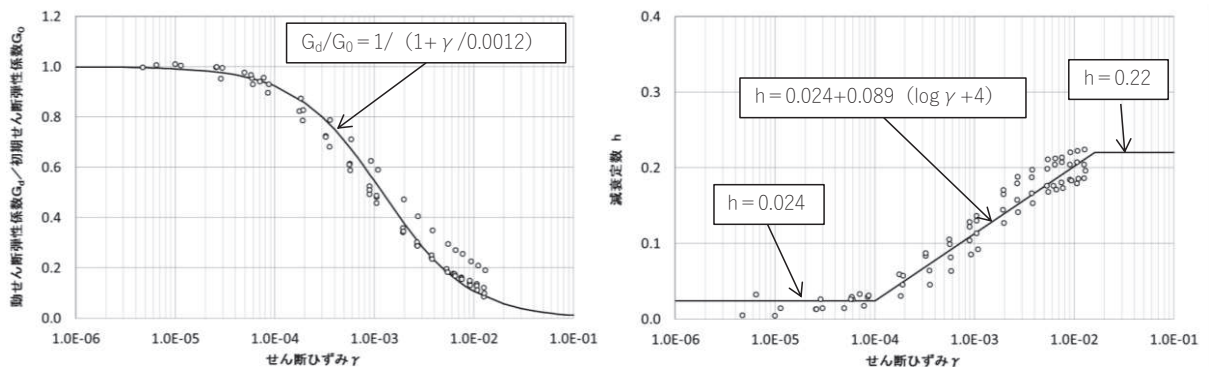


図 3-3 旧表土の動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性



注記\* : 残存剛性率 ( $G_d/G_0$ ) が小さい領域は次式で補間。

$$G_0 = E_s / 2(1 + \nu_s) \quad , \quad G_d/G_0 = 1 / (1 + \gamma / \gamma_m) \quad , \quad \gamma_m = \tau_f / G_0$$

なお,  $\tau_f$ は条件 (拘束圧) によって異なるためグラフには表記していない。

図 3-4 断層・シームの動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性

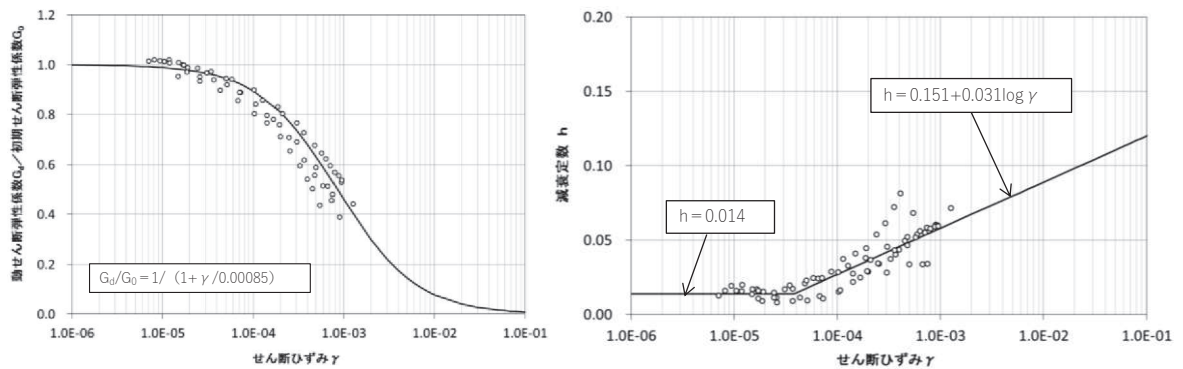


図 3-5 セメント改良土の動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性

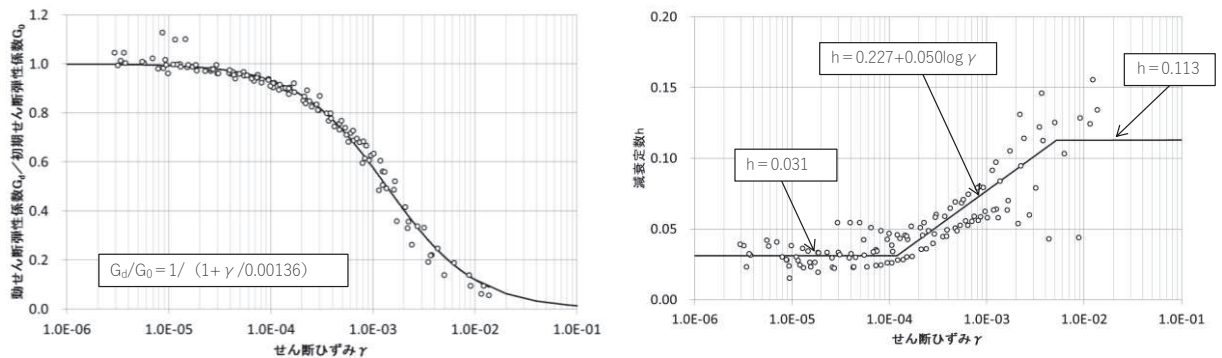


図 3-6 改良地盤の動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存特性

表 3-7 改良地盤（高圧噴射攪拌工法）の品質確認試験及び基準値

項目	解析用物性値		基準値	
	平均値 (N/mm <sup>2</sup> )	平均-1σ (N/mm <sup>2</sup> )	平均値 (N/mm <sup>2</sup> )	平均-1σ (N/mm <sup>2</sup> )
せん断強度, $\tau_0$	1.39 三軸圧縮試験 (JGS 0523)	1.38 三軸圧縮試験 (JGS 0523)	一軸圧縮強度 $q_u$ 4.1以上 土の一軸圧縮試験 (JIS A1216)	一軸圧縮強度 $q_u$ 4.1以上 土の一軸圧縮試験 (JIS A1216)
内部摩擦角, $\phi$	22.1° 三軸圧縮試験 (JGS 0523)	22.1° 三軸圧縮試験 (JGS 0523)	一軸圧縮強度 $q_u$ 4.1以上 土の一軸圧縮試験 (JIS A1216)	一軸圧縮強度 $q_u$ 4.1以上 土の一軸圧縮試験 (JIS A1216)
引張強度, $\sigma_t$	0.65 岩石の引張強さ試験方法 (JIS M0303)	0.45 岩石の引張強さ試験方法 (JIS M0303)	0.65以上 岩石の引張強さ試験方法 (JIS M0303)	0.45以上 岩石の引張強さ試験方法 (JIS M0303)
初期せん断 弾性係数, $G_0$	1940 PS検層 (JGS 1122)	1210* PS検層 (JGS 1122)	1940以上 PS検層 (JGS 1122)	1210以上 PS検層 (JGS 1122)

注記\* : 詳細設計段階で設定した解析用物性値



### 3.2 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値

設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値を表 3-8～表 3-11 に、その設定根拠を表 3-12～表 3-15 に示す。

#### 3.2.1 全応力解析に用いる解析用物性値

原子炉建屋の地震応答解析に用いる地盤モデルは、原子炉建屋の直下における地盤調査結果及び既往の地震観測記録の分析に基づいて設定する。原子炉建屋の地震応答解析に用いる地盤モデルの地盤物性値を表 3-8 に、設定根拠を表 3-12 に示す。表 3-8 に示す地盤モデルのうち表層地盤（O.P.+14.8m～O.P.±0m）には、地盤調査結果に基づき、初期せん断弾性係数  $G_0$ 、 $G/G_0-\gamma$  曲線及び  $h-\gamma$  曲線の非線形特性を設定した。

なお、制御建屋の地震応答解析においては、地震動を直接入力としている。

### 3.2.2 有効応力解析に用いる解析用物性値

建物・構築物及び土木構造物の動的解析において、地震時における地盤の有効応力の変化に応じた影響を考慮する必要がある場合は、有効応力解析を実施する。

地盤の液状化強度特性は、代表性及び網羅性を踏まえた上で保守性を考慮し、敷地全体の液状化強度試験から得られる液状化強度特性を保守的に下限値とする。

また、防潮堤における液状化強度特性については、設置変更許可段階での設定方針に従い、旧表土は施設近傍の試験結果から得られる液状化強度特性を保守的に下限値とし、盛土は上記同様、敷地全体の液状化強度試験から得られる液状化強度特性を保守的に下限値とする。

設置変更許可申請書における解析用物性値は全応力解析用に設定しているため、液状化検討対象層の物理的及び力学的特性から、各層の有効応力解析に必要な物性値を設定する。

また、有効応力解析に用いる狐崎部層及び牧の浜部層の解析用物性値は、設置変更許可申請書（添付書類六）に記載した値に基づき、表 3-9 及び表 3-10 のとおりに設定する。狐崎部層及び牧の浜部層の速度構造については、後述の「7. 地盤の速度構造」に示す。なお、表 3-9 及び表 3-10 に示す解析用物性値については、設置変更許可段階における「防潮堤の構造成立性」で実施した解析に用いた物性値と同様である。

地盤の物理的及び力学的特性は、日本産業規格（JIS）又は地盤工学会（JGS）の基準に基づいた試験の結果から設定することとした。

### 3.2.3 その他の解析用物性値

#### (1) マンメイドロック（以下「MMR」という。）及び置換工

MMR 及び置換工については、表 3-11 及び表 3-15 のとおり解析用物性値を設定する。

MMR の強度特性は、保守的に内部摩擦角  $\phi$  を考慮しないものの、せん断強度は、 $C_M$  級岩盤のせん断強度より十分大きい\*ことから、建物・構築物及び土木構造物の基礎地盤として施工している。

注記\* : MMR と  $C_M$  級岩盤の強度比較について

- ・岩盤の強度は深く分布するほど大きくなるため、一例として、原子炉建屋設置レベル（盛土層厚 30m）に分布する狐崎部層の  $C_M$  級岩盤のせん断強度と MMR（既設）のせん断強度を比較する。
- ・比較の結果、以下のとおり、MMR（既設）のせん断強度の方が十分大きい。
- ・MMR（既設）のせん断強度  $\tau_0$  (kN/m<sup>2</sup>) = 3120 (kN/m<sup>2</sup>)
- ・原子炉建屋設置レベルにおける  $C_M$  級岩盤のせん断強度 (kN/m<sup>2</sup>)

$$\begin{aligned}
 &= \tau_0 + \sigma \tan \phi \\
 &= \tau_0 + \gamma \times z \times \tan \phi \\
 &= 490 \text{ (kN/m}^2\text{)} + 20.6 \text{ (kN/m}^3\text{)} \times 30 \text{ (m)} \times \tan 47^\circ \\
 &= 1153 \text{ (kN/m}^2\text{)}
 \end{aligned}$$

ここに、

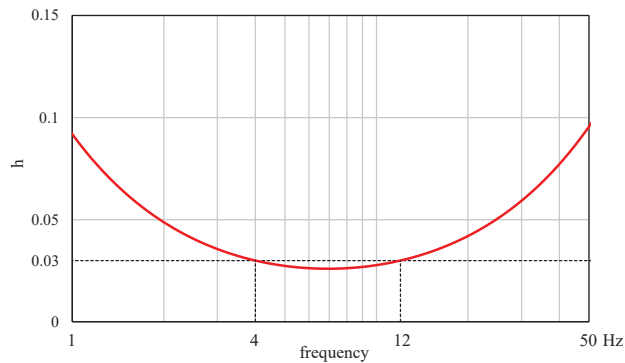
- $\tau_0$  : 狐崎部層  $C_M$  級岩盤のせん断強度
- $\sigma$  : 拘束圧
- $\gamma$  : 盛土の単位体積重量 (20.6kN/m<sup>3</sup>)
- $z$  : 盛土の層厚 (30m)

表 3-8 原子炉建屋の地震応答解析に用いる地盤モデルの地盤物性値

	地層レベル O.P. (m)	単位体積重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	せん断波速度 $V_s$ (m/s)	減衰定数* <sup>2</sup> h (%)
表層地盤	+14.80	18.6	* 1	3* <sup>3</sup>
	±0.00	23.3	900* <sup>4</sup>	3
底面地盤	-14.10	23.8	1300	3
	-25.00	24.6	2150	3
	-80.00	25.0	2440	3
	-200.0	25.0	2440	3

注記\*1：O.P. +14.8m～O.P. ±0m は，上載圧依存を考慮してせん断波速度と相関のある初期せん断弾性係数  $G_0$  を設定する。また，ひずみ依存による非線形特性を考慮する。地盤の応答解析においては 10 層に分割する。

注記\*2：レーリー減衰（4Hz，12Hz）



注記\*3：ひずみ依存による非線形特性を考慮する。

注記\*4：PS 検層結果と観測記録の分析より設定

初期せん断弾性係数  $G_0$  は，PS 検層結果により次式で設定する。

$$G_0 = 1787 \cdot \sigma_c^{0.84}$$

ここで，

$$\sigma_c = Z \cdot \rho_t \cdot 2/3 \text{ (MN/m}^2\text{)}$$

$Z$ ：深度 (m)

$$\rho_t = 18.6 \text{ (kN/m}^3\text{)}$$

$G/G_0-\gamma$  曲線は、原位置せん断試験結果による強度定数と拘束圧から求めたせん断強度  $\tau_m$  と初期せん断弾性係数  $G_0$  から、基準ひずみ  $\gamma_m$  を算定し次式により求める。

$$G/G_0 = 1 / (1 + \gamma / \gamma_m)$$

ここで、

$$\gamma_m = \tau_m / G_0$$

$$\tau_m = \tau_0 + \sigma_m \cdot \tan \phi \quad (\text{N/mm}^2)$$

$$\tau_0 = 0.1 \quad (\text{N/mm}^2)$$

$$\phi = 33.9 \quad (^\circ)$$

$$\sigma_{m,d} = 3/4 \cdot Z \cdot \rho_t \quad (\text{N/mm}^2)$$

$h-\gamma$  曲線は、繰返し三軸試験結果に基づき次式により求める。

$$h = 0.183 \cdot \gamma / (\gamma + 0.000261)$$

表 3-9 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値（液状化検討対象層）

		敷地全体		防潮堤	
		旧表土	盛土	旧表土	
物理特性	密度 $\rho$ (g/cm <sup>3</sup> )	1.94 (1.88) *	2.10 (1.90) *	敷地全体旧表土 と同値 (物理特性, 変形特性, 強度特性)	
	間隙率 $n$	0.437	0.363		
変形特性	動せん断弾性係数 $G_{ma}$ (kN/m <sup>2</sup> )	$2.110 \times 10^5$	$7.071 \times 10^4$		
	基準平均有効拘束圧 $\sigma_{ma}'$ (kN/m <sup>2</sup> )	$1.0 \times 10^3$	$1.0 \times 10^3$		
	ポアソン比 $\nu$	0.40	0.40		
	減衰定数の上限値 $h_{max}$	0.220	0.183		
強度特性	粘着力 $c$ (N/mm <sup>2</sup> )	0.08 (0.00) *	0.06 (0.10) *		
	内部摩擦角 $\phi$ (°)	26.2 (38.7) *	30.0 (33.9) *		
液状化特性	変相角 $\phi_p$ (°)	28.0	28.0		28.0
	液状化パラメータ	$S_1$	0.005		0.005
		$w_1$	1.0	14.0	1.3
		$p_1$	1.4	1.0	1.2
		$p_2$	1.5	0.6	0.8
$c_1$		2.0	2.8	2.75	

注記\*：括弧内の数字は、地下水位以浅の値を表す。

表 3-10 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値（非液状化層）

		D 級岩盤	改良地盤	セメント改良土	
物理特性	密度 $\rho$ (g/cm <sup>3</sup> )	2.06 (1.95) *	2.10 (2.00) *	2.20	
	間隙率 $n$	0.349	0.00	0.00	
変形特性	動せん断弾性係数 $G_{ma}$ (kN/m <sup>2</sup> )	$2.000 \times 10^5$	$1.94 \times 10^6$ ( $1.84 \times 10^6$ )	$1.67 \times 10^6$	
	基準平均有効拘束圧 $\sigma_{ma}'$ (kN/m <sup>2</sup> )	$1.0 \times 10^3$	$1.0 \times 10^3$	$1.0 \times 10^3$	
	ポアソン比 $\nu$	第1速度層	0.48	0.35	0.36
		第2速度層	0.44(狐崎部層) 0.45(牧の浜部層)		
	減衰定数の上限値 $h_{max}$	0.113	0.113	0.080	
強度特性	粘着力 $c$ (N/mm <sup>2</sup> )	0.10	1.39	0.65	
	内部摩擦角 $\phi$ (°)	24.0	22.1	44.3	

注記\*：括弧内の数字は、地下水位以浅の値を表す。

表3-11 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値（MMR及び置換工）

	物理特性	強度特性				変形特性			
	単位体積重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	せん断強度 $\tau_0$ (N/mm <sup>2</sup> )	内部摩擦角 $\phi$ (°)	引張強度 $\sigma_t$ (N/mm <sup>2</sup> )	残留強度 $\tau$ (N/mm <sup>2</sup> )	ヤング係数 (N/mm <sup>2</sup> )	せん断剛性 (N/mm <sup>2</sup> )	ポアソン比	減衰定数 (%)
MMR (既設) ( $f'_{ck} = 15.6$ N/mm <sup>2</sup> )	22.6	3.12	-*	1.43	-*	20590	8579	0.2	3
MMR (新設) ( $f'_{ck} = 21.0$ N/mm <sup>2</sup> )	22.5	4.20	-*	1.75	-*	23500	9792	0.2	3
置換工 ( $f'_{ck} = 24.0$ N/mm <sup>2</sup> )	22.56	4.80	-*	1.91	-*	25000	10417	0.2	3

注記\*：内部摩擦角及び残留強度は保守的に考慮しない。

表 3-12 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値の設定根拠（全応力解析）  
（対象施設：原子炉建屋）

解析用物性値		根拠	
単位体積重量	$\gamma$	表層地盤	密度検層結果より設定
		底面地盤	密度検層結果に基づく平均値
せん断波速度	$V_s$	表層地盤	PS 検層結果と観測記録の分析より設定
		底面地盤	PS 検層結果に基づく平均値
初期せん断剛性弾性係数	$G_0$	表層地盤	PS 検層結果に基づき算定
動的変形特性	$G/G_0 - \gamma$ $h - \gamma$	表層地盤	原位置せん断試験結果及び繰返し三軸試験結果により算定

表 3-13 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値の設定根拠  
（液状化検討対象層）

		敷地全体		防潮堤	
		旧表土	盛土	旧表土	
物理特性	密度 $\rho$	物理試験	物理試験	敷地全体旧表土と同値 (物理特性, 変形特性, 強度特性)	
	間隙率 $n$	物理試験	物理試験		
変形特性	動せん断弾性係数 $G_{ms}$	動的変形特性に基づき設定	動的変形特性に基づき設定		
	基準平均有効拘束圧 $\sigma'_{ms}$	$G_{ms}$ に対応する値	$G_{ms}$ に対応する値		
	ポアソン比 $\nu$	慣用値*	慣用値*		
	減衰定数の上限値 $h_{max}$	動的変形特性に基づき設定	動的変形特性に基づき設定		
強度特性	粘着力 $c$	三軸圧縮試験	三軸圧縮試験		
	内部摩擦角 $\phi$				
液状化特性	変相角 $\phi_p$	液状化強度試験 に基づく要素シミュレーション	液状化強度試験 に基づく要素シミュレーション	液状化強度試験 に基づく要素シミュレーション	
	液状化パラメータ				$S_1$
					$w_1$
					$p_1$
					$p_2$
$c_1$					

注記\*：原子力発電所地質・地盤の調査試験法および地盤の耐震安定性の評価手法 報告書第4編 建屋基礎地盤の耐震安定性評価 例示編 昭和60年（社）土木学会 原子力土木委員会

表 3-14 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値の設定根拠  
(非液状化層)

		D級岩盤	改良地盤	セメント改良土
物理特性	密度 $\rho$	物理試験	物理試験	物理試験
	間隙率 $n$	物理試験	間隙が小さいため0と設定	
変形特性	動せん断弾性係数 $G_{ms}$	動の変形特性に基づき設定	PS検層によるS波速度、密度に基づき設定	
	基準平均有効拘束圧 $\sigma_{ms}'$	$G_{ms}$ に対応する値	—	—
	ポアソン比 $\nu$	PS検層	PS検層	PS検層
	減衰定数の上限値 $h_{max}$	動の変形特性に基づき設定	動の変形特性に基づき設定	動の変形特性に基づき設定
強度特性	粘着力 $c$	ロックせん断試験	三軸圧縮試験	三軸圧縮試験
	内部摩擦角 $\phi$			

表3-15 設置変更許可申請書に記載されていない解析用物性値の設定根拠  
(MMR及び置換工)

	物理特性	強度特性		変形特性			
	単位体積重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	せん断強度 $\tau_0$ (N/mm <sup>2</sup> )	引張強度 $\sigma_t$ (N/mm <sup>2</sup> )	ヤング係数 (N/mm <sup>2</sup> )	せん断剛性 (N/mm <sup>2</sup> )	ポアソン比	減衰定数 (%)
MMR (既設) ( $f'_{ck} = 15.6\text{N/mm}^2$ )	文献に基づき設定*1	文献に基づき設定*2 ( $\tau_0=1/5f'_{ck}$ )	文献に基づき設定*1 ( $\sigma_t=0.23f'_{ck}{}^{2/3}$ )	文献に基づき設定*1	ヤング係数とポアソン比の関係より算出	文献に基づき設定*1	岩盤と同じ値
MMR (新設) ( $f'_{ck} = 21.0\text{N/mm}^2$ )	文献に基づき設定*1	文献に基づき設定*2 ( $\tau_0=1/5f'_{ck}$ )	文献に基づき設定*1 ( $\sigma_t=0.23f'_{ck}{}^{2/3}$ )	文献に基づき設定*1	ヤング係数とポアソン比の関係より算出	文献に基づき設定*1	岩盤と同じ値
置換工 ( $f'_{ck} = 24.0\text{N/mm}^2$ )	文献に基づき設定*1	文献に基づき設定*2 ( $\tau_0=1/5f'_{ck}$ )	文献に基づき設定*1 ( $\sigma_t=0.23f'_{ck}{}^{2/3}$ )	文献に基づき設定*1	ヤング係数とポアソン比の関係より算出	文献に基づき設定*1	岩盤と同じ値

注記\*1：土木学会 2002年 コンクリート標準示方書[構造性能照査編]

\*2：土木学会 2013年 コンクリート標準示方書[ダムコンクリート編]



#### 4. 極限支持力

極限支持力は、対象施設の支持岩盤の支持力試験又は道路橋示方書の支持力算定式に基づき設定することを基本とする。

##### 4.1 基礎地盤（狐崎部層・牧の浜部層・改良地盤）の極限支持力

基礎地盤（狐崎部層・牧の浜部層・改良地盤）の極限支持力を表 4-1 に示す。

基礎地盤（狐崎部層・牧の浜部層・改良地盤）の極限支持力は、設置変更許可申請書（添付書類六）に示した支持力試験結果を基に設定する。設置許可変更申請書（添付書類六）に示した支持力試験実施位置を図 4-1～図 4-3、支持力試験結果を図 4-4～図 4-6 に示す。

表 4-1 基礎地盤（狐崎部層・牧の浜部層・改良地盤）の極限支持力

基礎地盤	極限支持力 (N/mm <sup>2</sup> )
狐崎部層	13.7
牧の浜部層	11.4
改良地盤	4.4

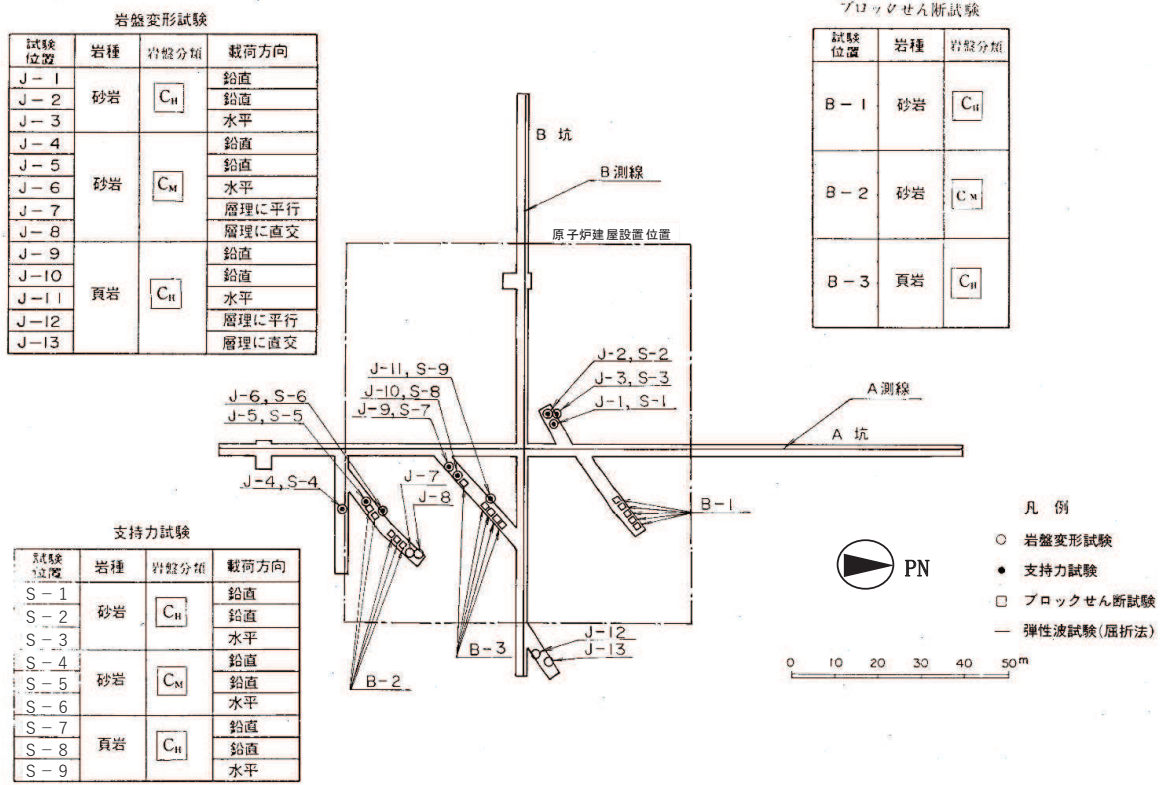


図 4-1 支持力試験実施位置(狐崎部層)

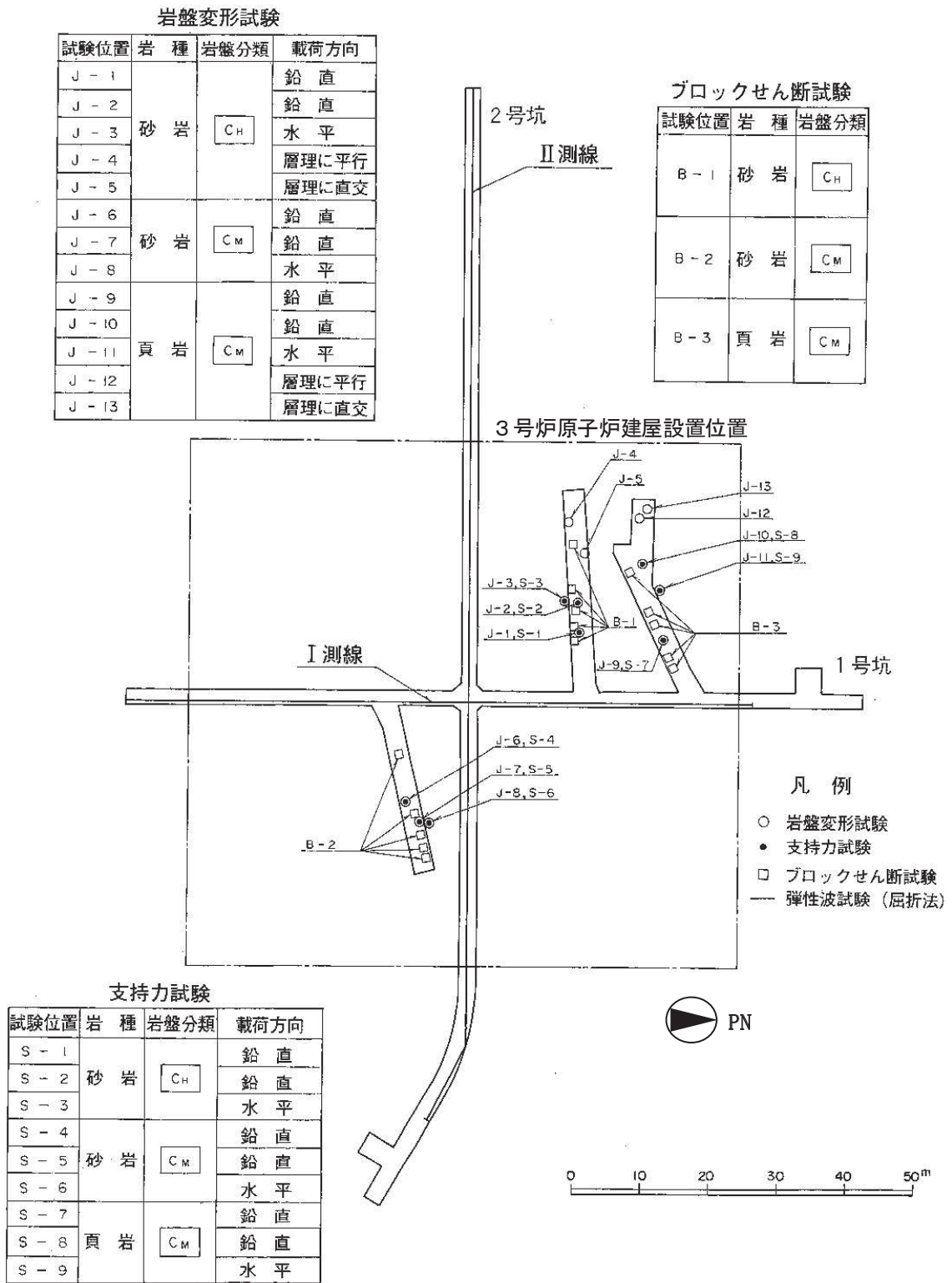


図 4-2 支持力試験実施位置 (牧の浜部層)

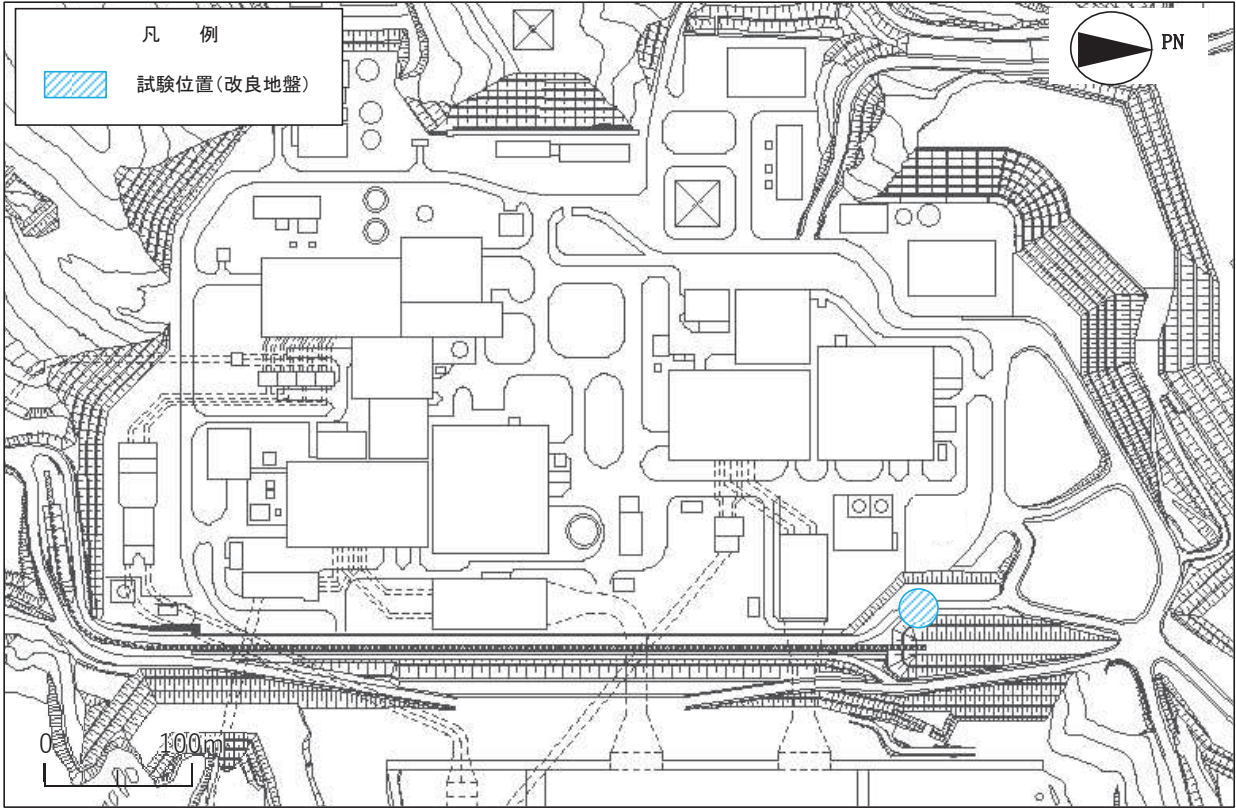


圖 4-3 支持力試驗實施位置(改良地盤)

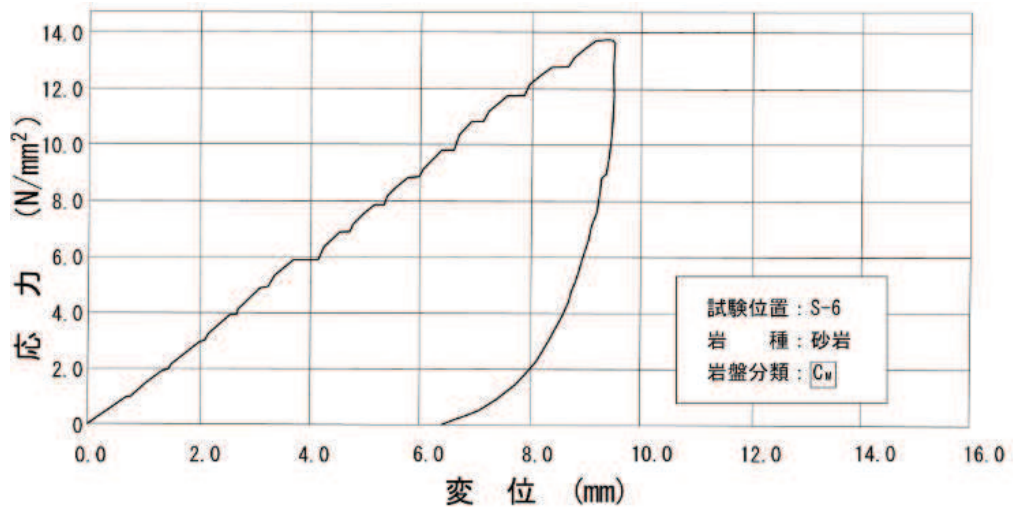
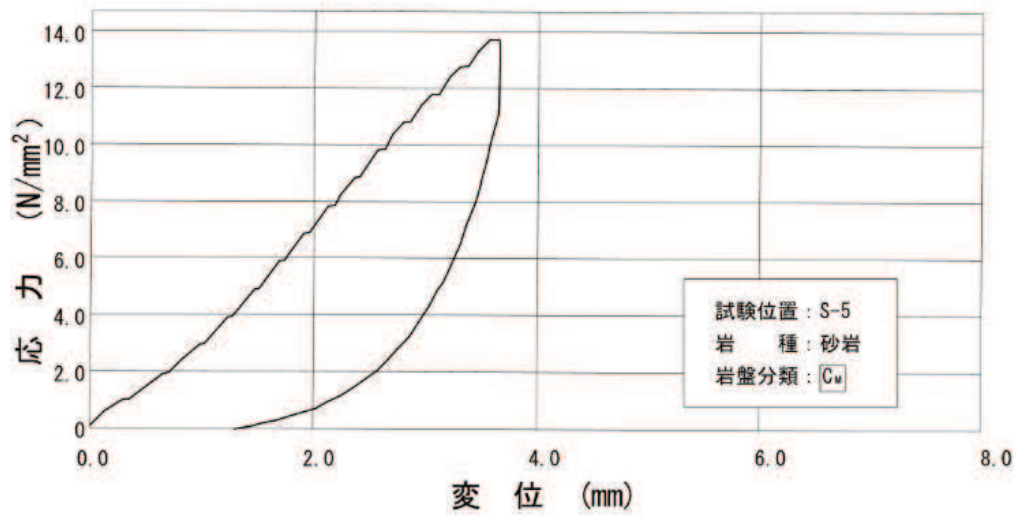
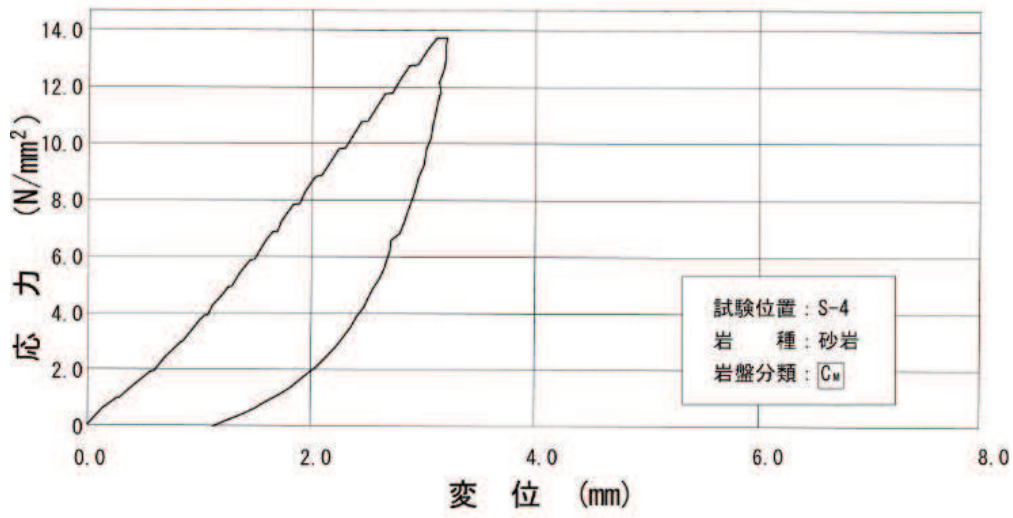


図 4-4 支持力試験結果 (狐崎部層)

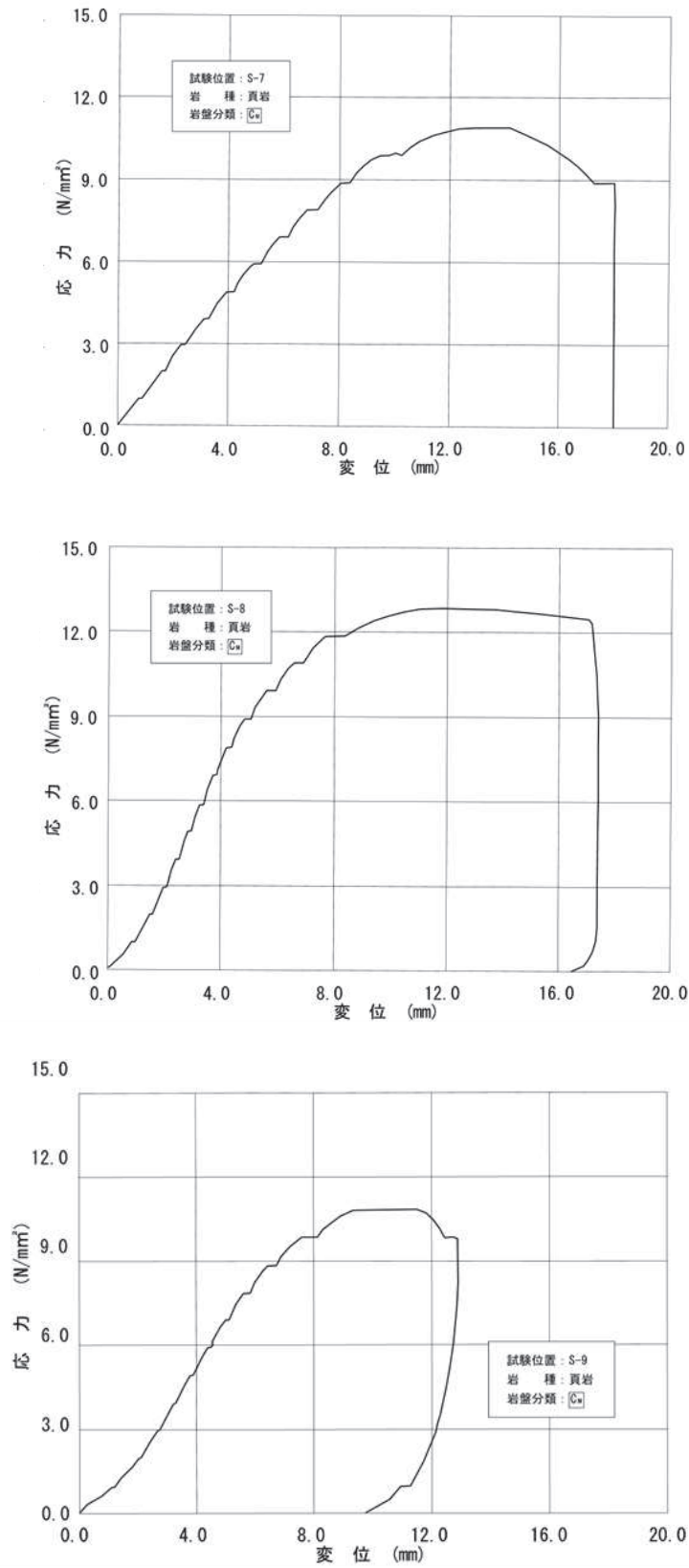


図 4-5 支持力試験結果 (牧の浜部層)

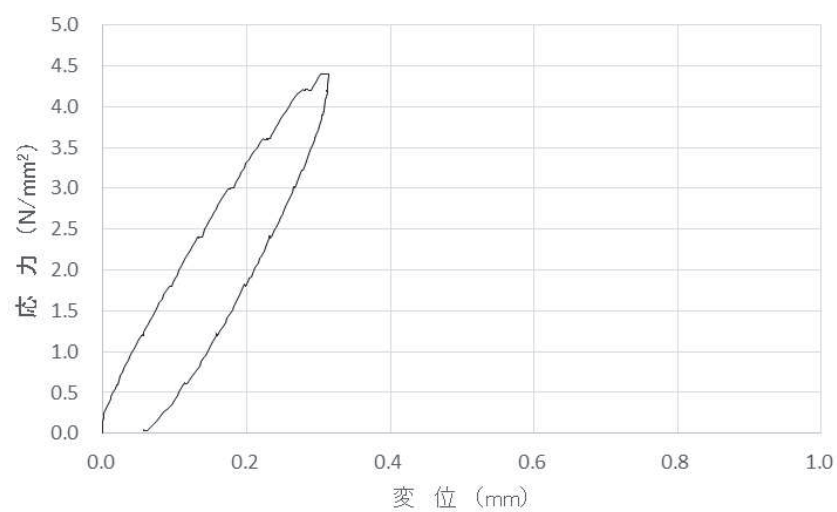


図 4-6 支持力試験結果 (改良地盤)

## 4.2 直接基礎の支持力算定式

道路橋示方書による直接基礎の支持力算定式を以下に示す。

- ・道路橋示方書による極限支持力算定式（直接基礎）

$$Q_u = A_e \{ \alpha \kappa c N_c S_c + \kappa q N_q S_q + 1/2 \gamma_1 \beta B_e N_\gamma S_\gamma \}$$

ここで、

$Q_u$  : 荷重の偏心傾斜，支持力係数の寸法効果を考慮した地盤の  
極限支持力 (kN)

$c$  : 地盤の粘着力 (kN/m<sup>2</sup>)

$q$  : 上載荷重 (kN/m<sup>2</sup>) で，  $q = \gamma_2 D_f$

$A_e$  : 有効載荷面積 (m<sup>2</sup>)

$\gamma_1, \gamma_2$  : 支持地盤及び根入れ地盤の単位体積重量 (kN/m<sup>3</sup>)

ただし，地下水位以下では水中単位体積重量とする。

$B_e$  : 荷重の偏心を考慮した基礎の有効載荷幅 (m)

$$B_e = B - 2 e_B$$

$B$  : 基礎幅 (m)

$e_B$  : 荷重の偏心量 (m)

$D_f$  : 基礎の有効根入れ深さ (m)

$\alpha, \beta$  : 基礎の形状係数

$\kappa$  : 根入れ効果に対する割増し係数

$N_c, N_q, N_\gamma$  : 荷重の傾斜を考慮した支持力係数

$S_c, S_q, S_\gamma$  : 支持力係数の寸法効果に関する補正係数



#### 4.3 杭基礎の支持力算定式

杭基礎の押込み力及び引抜き力に対する支持力評価において、液状化検討対象層である地下水位以深の盛土及び旧表土は杭周面摩擦力を支持力として考慮せず、支持力評価を行うことを基本とする。ただし、杭周面地盤に地下水位以浅の盛土及び旧表土、改良地盤、セメント改良土並びに岩盤がある場合は、その杭周面摩擦力を支持力として考慮する。

##### ・道路橋示方書による極限支持力算定式

(杭基礎[中掘り工法])

$$R_u = q_d A + U \sum L_i f_i$$

ここで、

$R_u$  : 地盤から決まる杭の極限支持力 (kN)

$q_d$  : 杭先端における単位面積あたりの極限支持力度 (kN/m<sup>2</sup>)

$$q_d = 3 \cdot q_u$$

$q_u$  : 支持岩盤の一軸圧縮強度 (kN/m<sup>2</sup>)

$A$  : 杭先端面積 (m<sup>2</sup>)

$U$  : 杭の周長 (m)

$L_i$  : 周面摩擦力を考慮する層の層厚 (m)

$f_i$  : 周面摩擦力を考慮する層の最大周面摩擦力度 (kN/m<sup>2</sup>)

## 5. 耐震評価における地下水位設定方針

### 5.1 基本方針

建物・構築物及び土木構造物は、地下水位低下設備<sup>\*1</sup>の効果が及ぶ範囲においては、その機能を考慮した設計用地下水位を設定し水圧の影響を考慮する。なお、地下水位低下設備の効果が及ばない範囲においては、自然水位<sup>\*2</sup>より保守的に設定した水位又は地表面にて設計用地下水位を設定し、水圧の影響を考慮する。

耐震評価において参照する設計用地下水位の設定方法を表 5-1 に示す。

注記\*1：地下水位低下設備と排水経路確保について

- ・防潮堤下部の地盤改良等により地下水の流れが遮断され敷地内の地下水位が地表面付近まで上昇するおそれがあることを踏まえ、地下水位を一定の範囲に保持するため地下水位低下設備を設置する。
- ・地下水位低下設備で汲み上げた地下水は、支線排水路、敷地の北側及び南側に設置した幹線排水路から構成される屋外排水路を通じて海へ排水されることにより地下水位を一定の範囲に保持する。
- ・このうち、敷地側集水ピットから海への排水経路を構成する北側幹線排水路流末部（敷地側集水ピット（北側）、北側排水路（防潮堤横断部）及び出口側集水ピット（北側））、南側幹線排水路流末部（敷地側集水ピット（南側）、南側排水路（防潮堤横断部）及び出口側集水ピット（南側））については、基準地震動  $S_s$  に対し機能維持することにより、排水経路を確保する（図 5-1(1)）。
- ・また、地震時においては、敷地の形状又は仮設ホース等の取り付けにより、排水路流末部までの排水経路を確保する設計とする。No. 1, No. 3, No. 4 揚水井戸は、揚水井戸から敷地側集水ピットまでの排水経路が短く、支線排水路に期待せず敷地の形状により地表面を通じて敷地側集水ピットへ排水可能である（図 5-1(2)）。No. 2 揚水井戸は排水経路が相対的に長いため、仮設ホース等の取り付けにより敷地側集水ピットへ排水する。
- ・地下水位低下設備の詳細は「VI-2-1-1-別添 1 地下水位低下設備の設計方針」を参照。地下水位低下設備及び地下水の排水経路を構成する屋外排水路の耐震評価方針については「VI-2-13-1 地下水位低下設備の耐震計算の方針」を参照。

\*2：自然水位とは、地下水位低下設備等の人為的な措置の影響が含まれない地下水位を指す。O. P. +14. 8m 盤は浸透流解析の境界条件として地下水位低下設備の機能を考慮している一方、O. P. +14. 8m 盤以外の地下水位は地下水位低下設備の影響が含まれない。

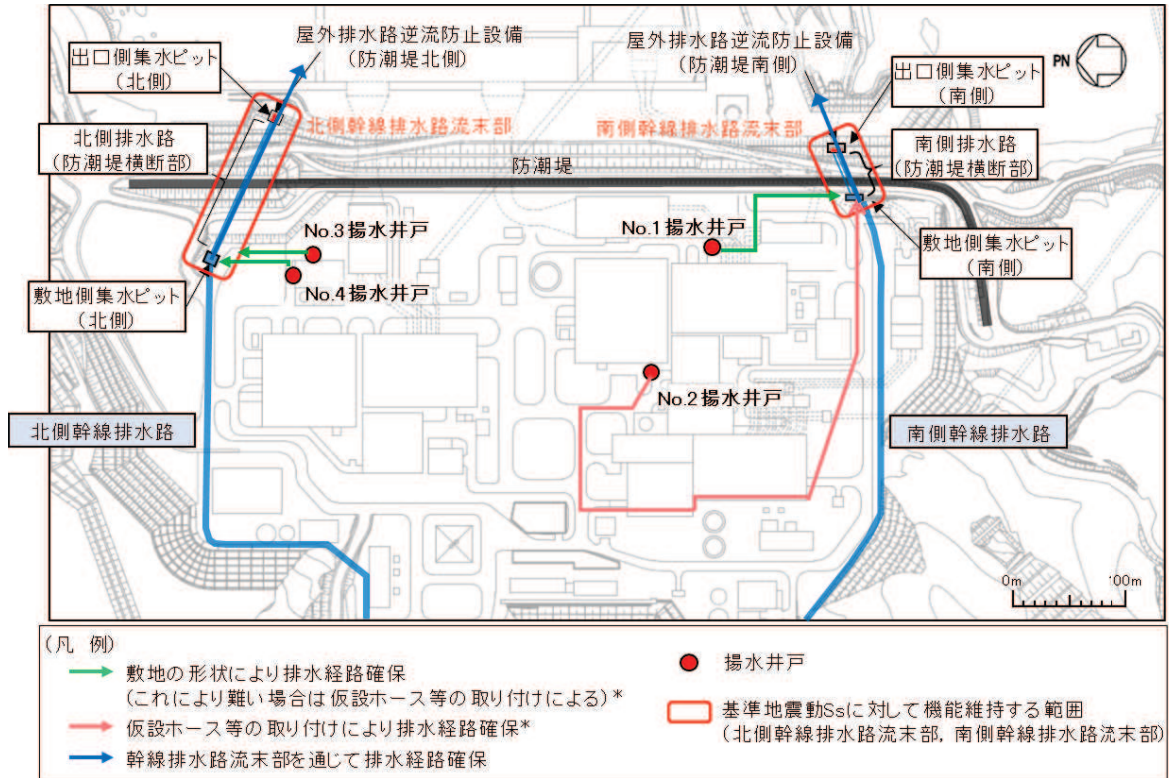


図 5-1(1) 屋外排水路の耐震性の確保範囲

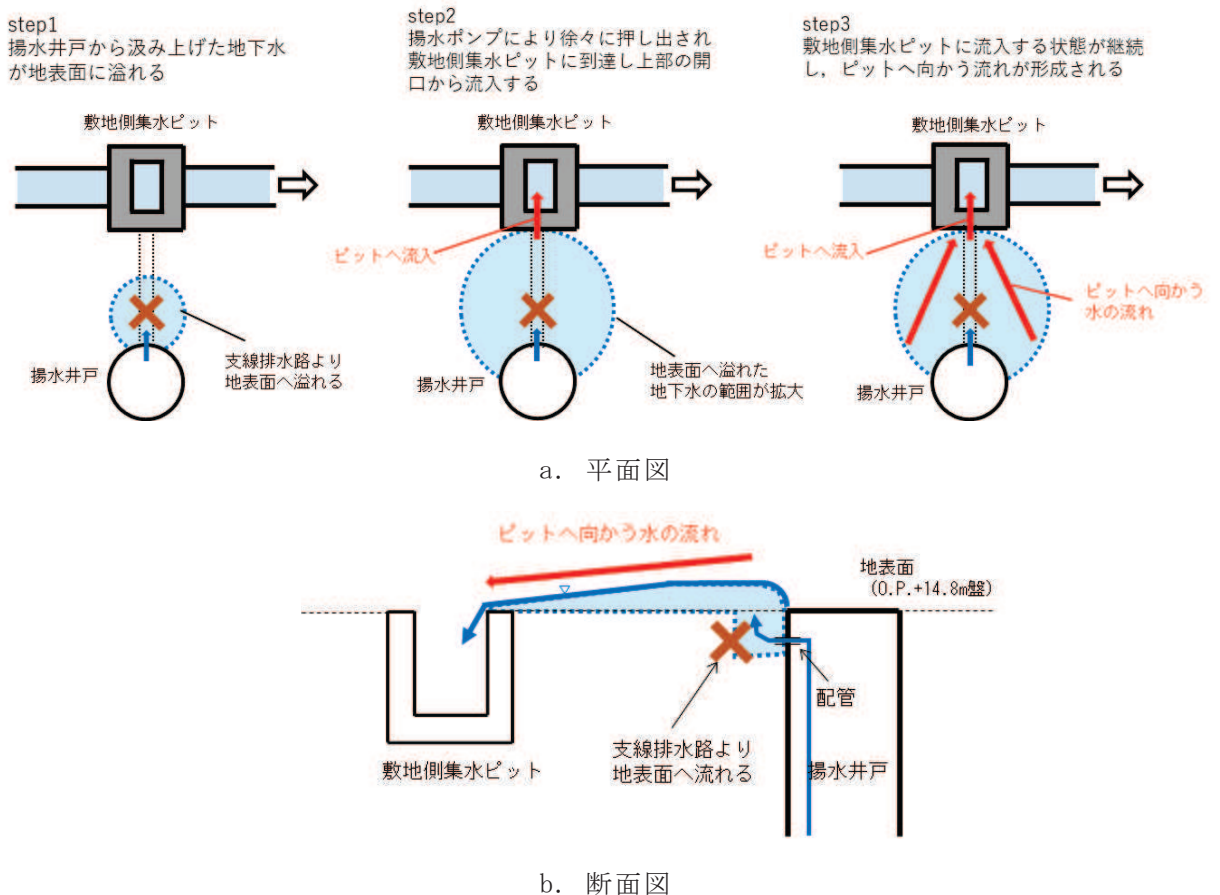


図 5-1(2) 敷地の形状により地表面を通じて排水する考え方

表 5-1 設計用地下水位の設定方法

エリア	施設等	設計用地下水位の設定方法	備考
0. P. +14. 8m 盤 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物・構築物</li> <li>・土木構造物</li> <li>・保管場所・アクセスルート*<sup>1</sup></li> </ul>	地下水位低下設備の機能を考慮した浸透流解析に基づき保守的に設定	地下水位低下設備のうち揚水井戸の水位も同様に設定 (VI-2-13-4 地下水位低下設備揚水井戸の耐震性についての計算書)
0. P. +62m 盤 エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物・構築物</li> <li>・土木構造物</li> <li>・保管場所・アクセスルート</li> </ul>	地表面に設定	
0. P. +3. 5m 盤 エリア (防潮堤 より海側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木構造物</li> <li>・アクセスルート</li> </ul>	朔望平均満潮位	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルート斜面</li> </ul>	自然水位より保守的に設定した水位* <sup>2</sup> 又は地表面に設定	

(■：地下水位低下設備の効果が及ぶ範囲)

注記\*1： 0. P. +14. 8m 盤のアクセスルート・保管場所は地下水位低下設備の機能喪失を考慮

\*2： 近傍に比較可能な観測水位のあるアクセスルート斜面は、地下水位低下設備の機能を考慮しない浸透流解析に基づき自然水位より保守的に設定 (詳細は「VI-1-1-6-別添 1 可搬型重大事故等対処設備の保管場所及びアクセスルート」参照)

浸透流解析を用いた 0. P. +14. 8m 盤の設計用地下水位の設定フローを図 5-2 に示す。0. P. +14. 8m 盤の設計用地下水位の設定において参照する浸透流解析は、敷地及び構造物の配置等を適切に考慮するものとし、観測水位との比較 (広域モデルを用いた非定常解析による) によりモデルの妥当性を確認した上で、水位を高め評価する条件設定を与えた予測解析 (水位評価モデルを用いた定常解析による) を行う手順とし、得られた解析水位を包絡するよう設計用地下水位を設定する。

解析水位の保守性は、解析に用いるパラメータ (透水係数) を保守的に設定、ドレーンの考慮範囲を信頼性が確保された範囲に限定 (縮小) 、並びに境界条件を保守的に設定すること等により確保する。

設計用地下水位は、降雨条件の不確実性等も踏まえ、十分な余裕を有することを確認する。また、設計用地下水位を高め設定することを踏まえ、地下水位が設計用地下水位より低い場合の影響についても耐震評価において確認する。

なお、耐震評価における設計用地下水位を設定した後は、観測水位による検証を行い、設計用地下水位を上回る可能性のある事象が発生した場合は、設計用地下水位の再検討を行う。

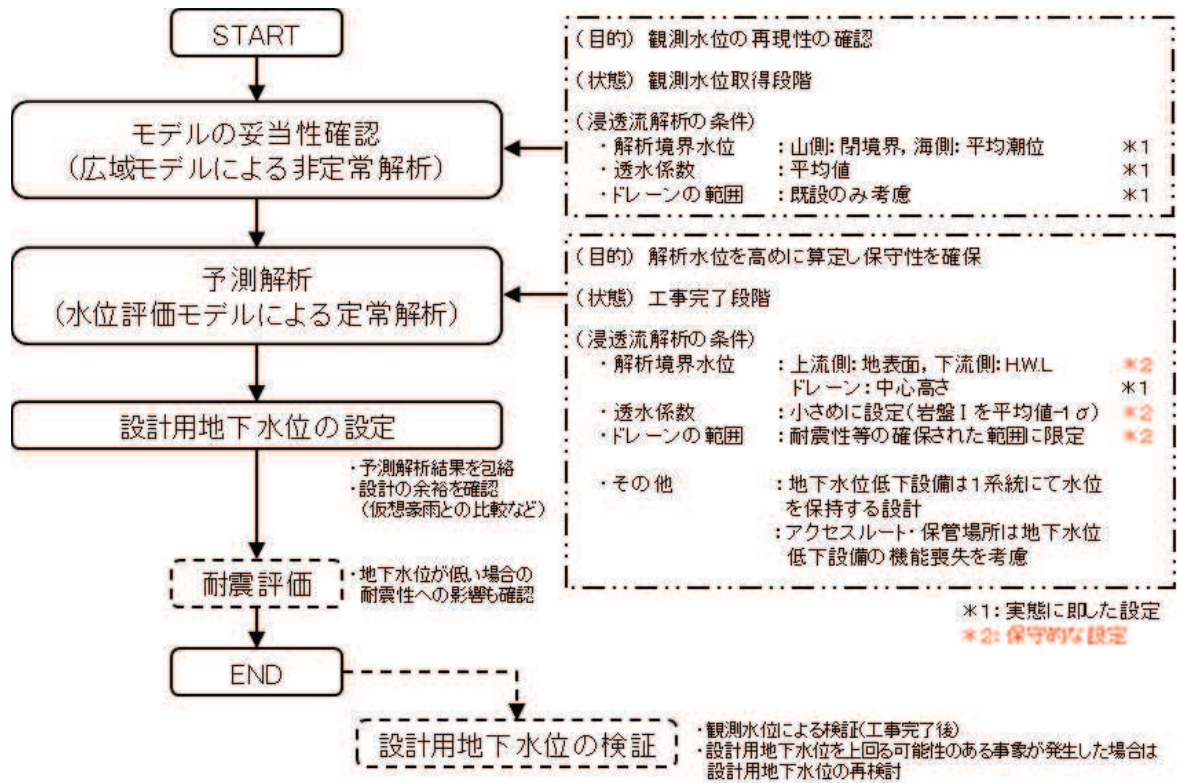


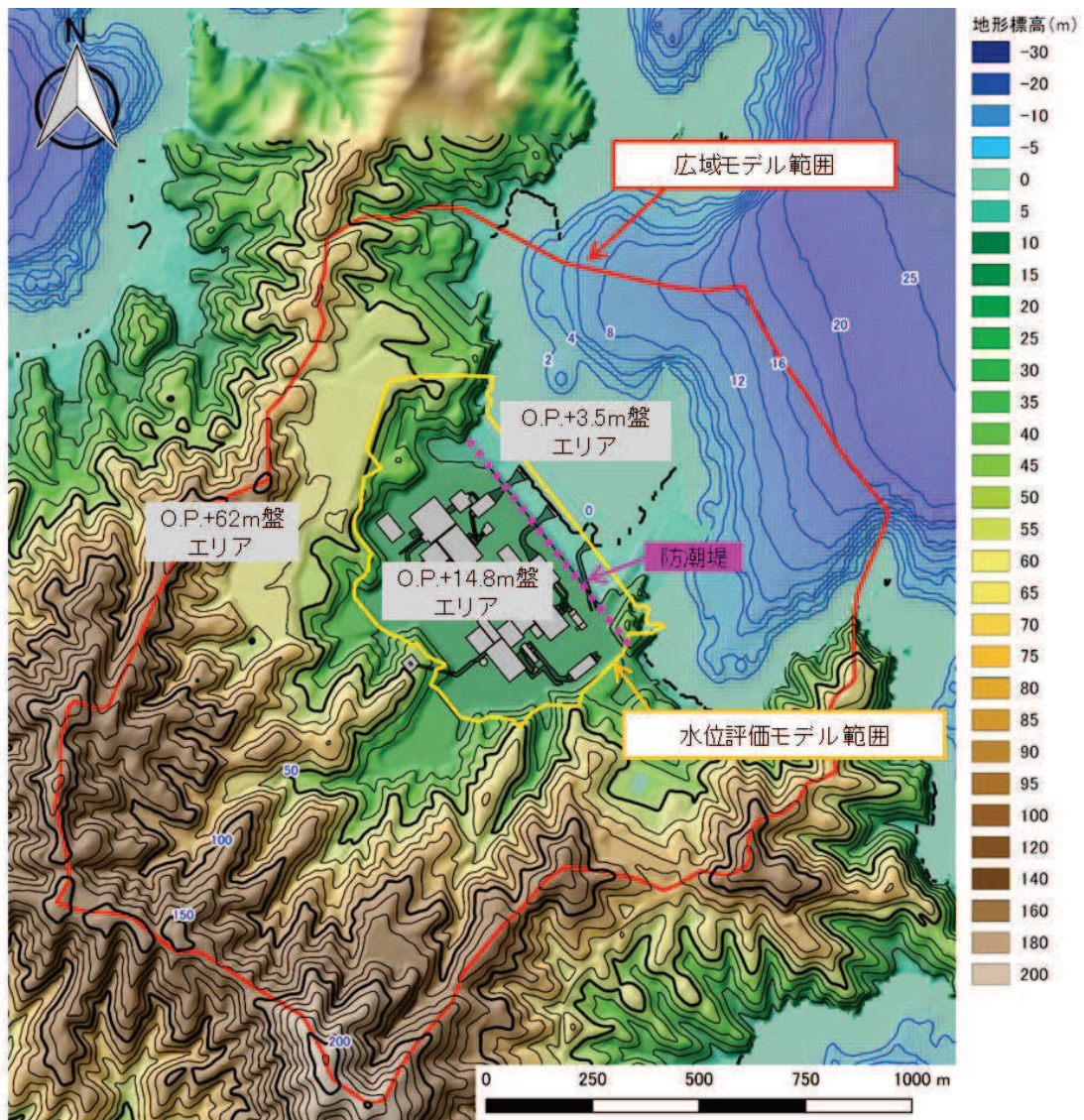
図 5-2 浸透流解析を用いた設計用地下水水位の設定フロー (O. P. +14. 8m 盤)

## 5.2 浸透流解析

浸透流解析には、地表水と地下水の挙動を同時に取扱うことができる GETFLOWS (GEneral purpose Terrestrial fluid-FLOW Simulator) バージョン: Ver. 6. 64. 0. 1, Ver. 6. 64. 0. 2 を使用する。解析コードの検証及び妥当性確認の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム (解析コード) の概要」に示す。

O. P. +14. 8m 盤の水位設定において使用する各浸透流解析モデルの範囲は図 5-3 に示す通りであり、広域モデルは分水嶺までの範囲、水位評価モデルは O. P. +14. 8m 盤と周辺の法面までをモデル化している。

モデルの妥当性確認に用いる広域モデルの鳥瞰図を図 5-4 及び予測解析に用いる水位評価モデルの鳥瞰図を図 5-5 にそれぞれ示す。



注) 本図はモデル化範囲を示したものであり地形や施設等は各浸透流解析モデルの目的に応じて設定する。

図 5-3 O. P. +14. 8m 盤の水位設定に用いる浸透流解析モデル範囲

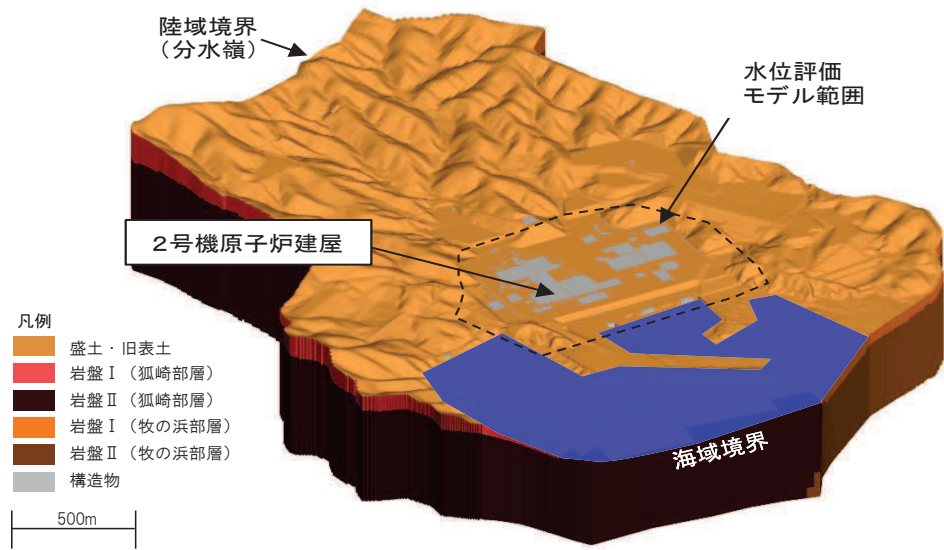


図 5-4 広域モデル鳥瞰図

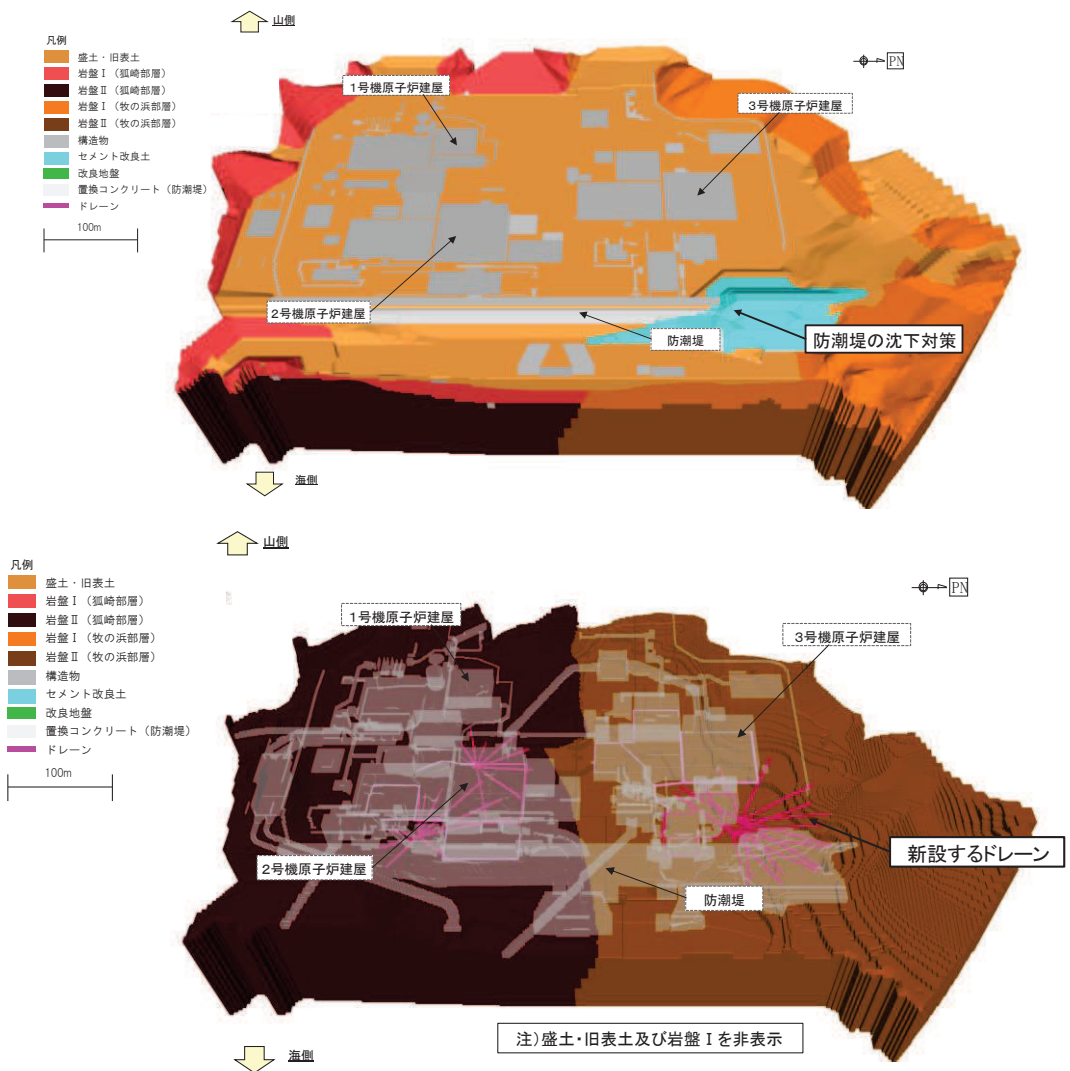


図 5-5 水位評価モデル鳥瞰図

モデルの妥当性確認に使用する広域モデルにおいては、検証期間（2006～2007年及び2013～2014年）に対応した地盤・構造物の配置をモデル化に反映し、試験データに基づき水理特性（透水係数）を設定した。透水係数の設定値と設定根拠を表5-2に示す。

表5-2 透水係数の設定値と設定根拠（広域モデル）

地層		設定値 (m/s)	設定根拠
盛土・旧表土		$3.0 \times 10^{-5}$	粒度試験に基づくクレーガーらの方法により求めた値の平均値に基づき設定
狐崎 部層	岩盤Ⅰ	$2.0 \times 10^{-6}$	透水試験結果の平均値に基づき設定
	岩盤Ⅱ	$5.0 \times 10^{-7}$	
牧の浜 部層	岩盤Ⅰ	$1.0 \times 10^{-6}$	
	岩盤Ⅱ	$1.0 \times 10^{-7}$	
セメント改良土・改良地盤		— (設定なし)	—
透水層（碎石）		— (設定なし)	—
コンクリート 構造物 (MMR含む)		— (不透水)	—

予測解析に使用する水位評価モデルにおいては、揚圧力・地下水位が高めに評価されるよう、建屋に生じる揚圧力への影響が最も大きい地盤（地盤Ⅰ）の透水係数を試験結果の平均値-1σに設定した。透水係数の設定値と設定根拠を表5-3に示す。

表5-3 透水係数の設定値と設定根拠（水位評価モデル）

地層		設定値 (m/s)	設定根拠
盛土・旧表土		$3.0 \times 10^{-5}$	粒度試験に基づくクレーガーらの方法により求めた値の平均値に基づき設定
狐崎 部層	岩盤Ⅰ	$7.0 \times 10^{-6}$	透水試験結果の平均値に基づき設定
	岩盤Ⅱ	$5.0 \times 10^{-7}$	
牧の浜 部層	岩盤Ⅰ	$2.0 \times 10^{-7}$	
	岩盤Ⅱ	$1.0 \times 10^{-7}$	
セメント改良土・改良地盤		$2.0 \times 10^{-7}$	透水試験結果の平均値に基づき設定
透水層（碎石）		$1.0 \times 10^{-2}$	透水試験結果の平均値に基づき設定
コンクリート 構造物 (MMR含む)		— (不透水)	—



予測解析において考慮するドレーンは、既設・新設を含めて耐久性・耐震性・保守管理性等の確保状況に応じて設定する。また、ドレーンの配置は、地下水位の上昇による耐震性への影響が図 5-6 のように段階的に生じることを踏まえて、建物・構築物へ作用する揚圧力影響に着目し設定しており、原子炉建屋・制御建屋エリア、第 3 号機海水熱交換器建屋\*エリアのそれぞれにおいて、地下水位低下設備を 2 系統設置し、1 系統にて設計揚圧力を保持できるように設定している。

予測解析において考慮するドレーンの配置を図 5-7 に示す。

注記\*：2 号機申請対象である「防潮壁（第 3 号機海水熱交換器建屋）」の支持構造物として耐震安全性を確保するため、地下水位低下設備を設置する。

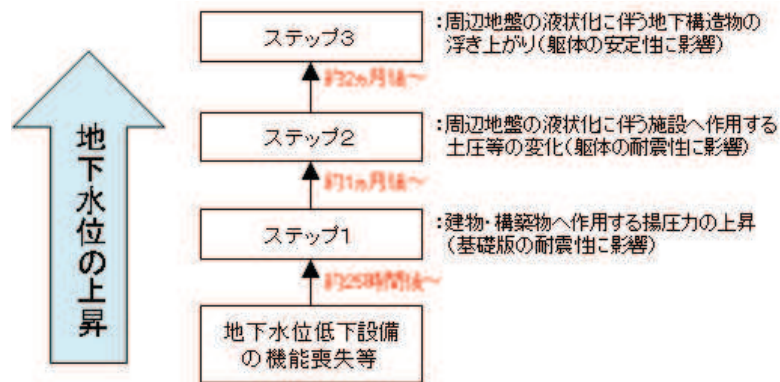


図 5-6 地下水位上昇による耐震性への影響

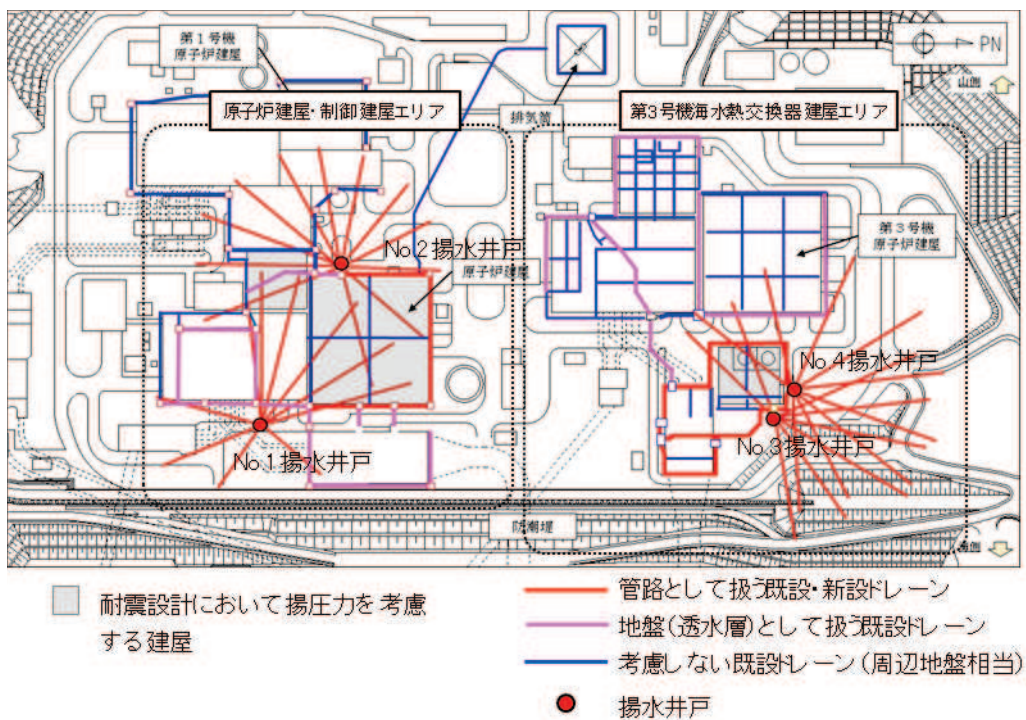
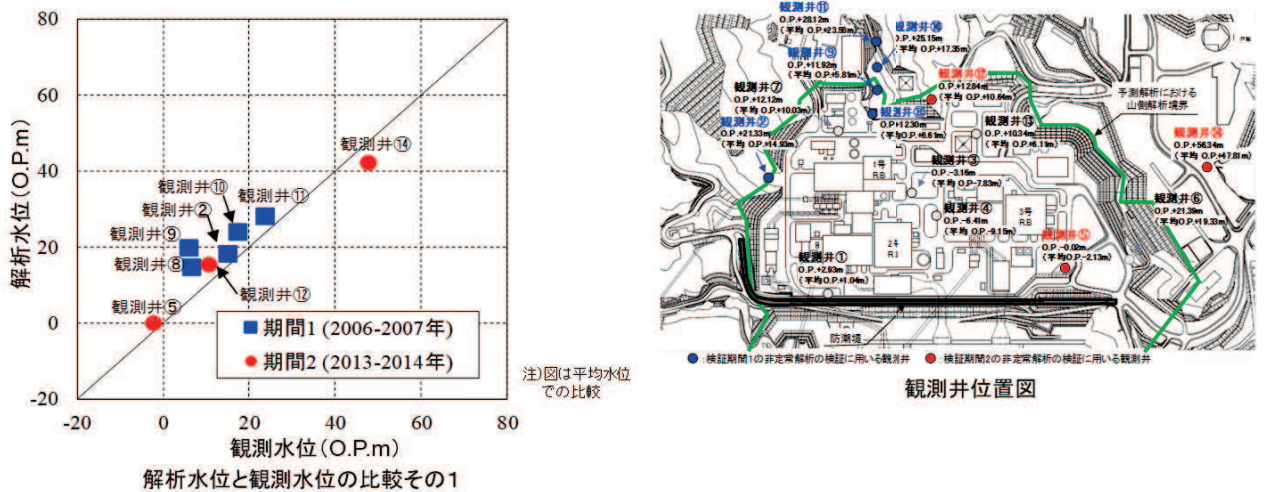


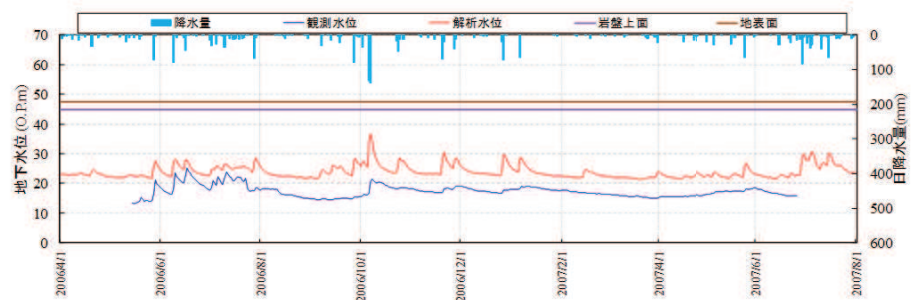
図 5-7 O.P.+14.8m 盤の予測解析において考慮するドレーンの配置

図 5-2 の浸透流解析フローに基づくモデルの妥当性確認結果は図 5-8 に示すとおりであり、解析水位は降雨及び観測水位と概ね連動していることを確認した。これを踏まえて実施した、予測解析結果を図 5-9 に示す。

設計用地下水水位は、予測解析により得られた解析水位を包絡するよう、施設ごとに設定する。

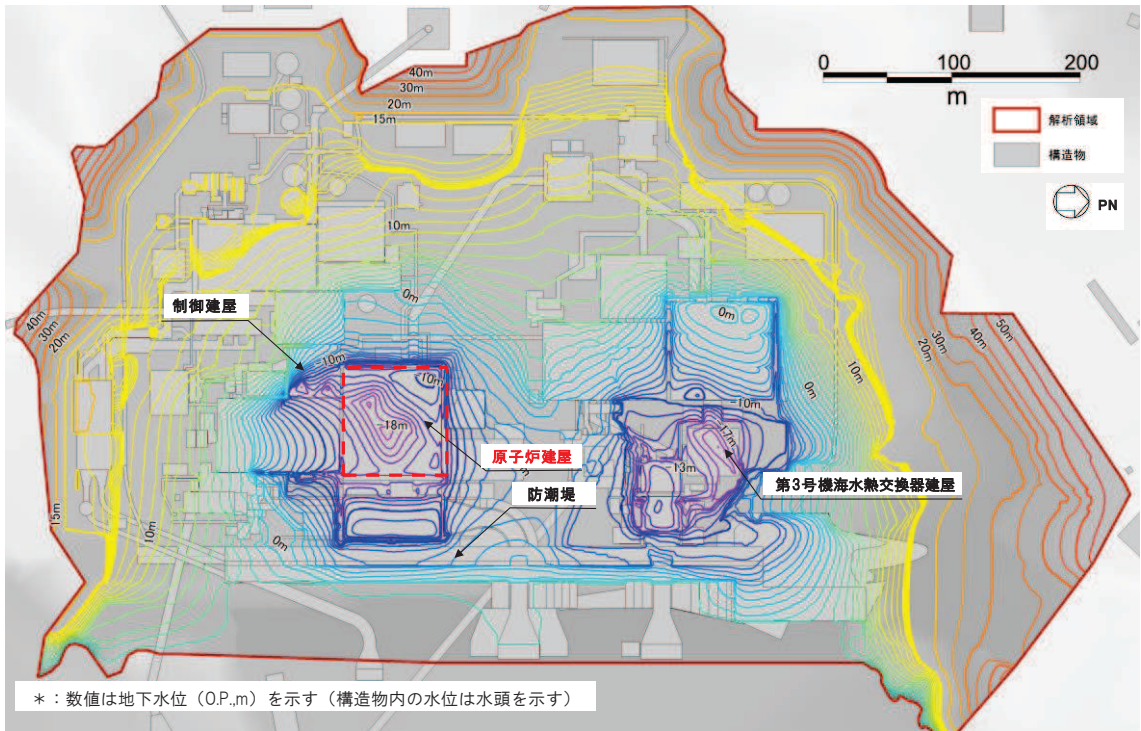


解析水位と観測水位の比較その1

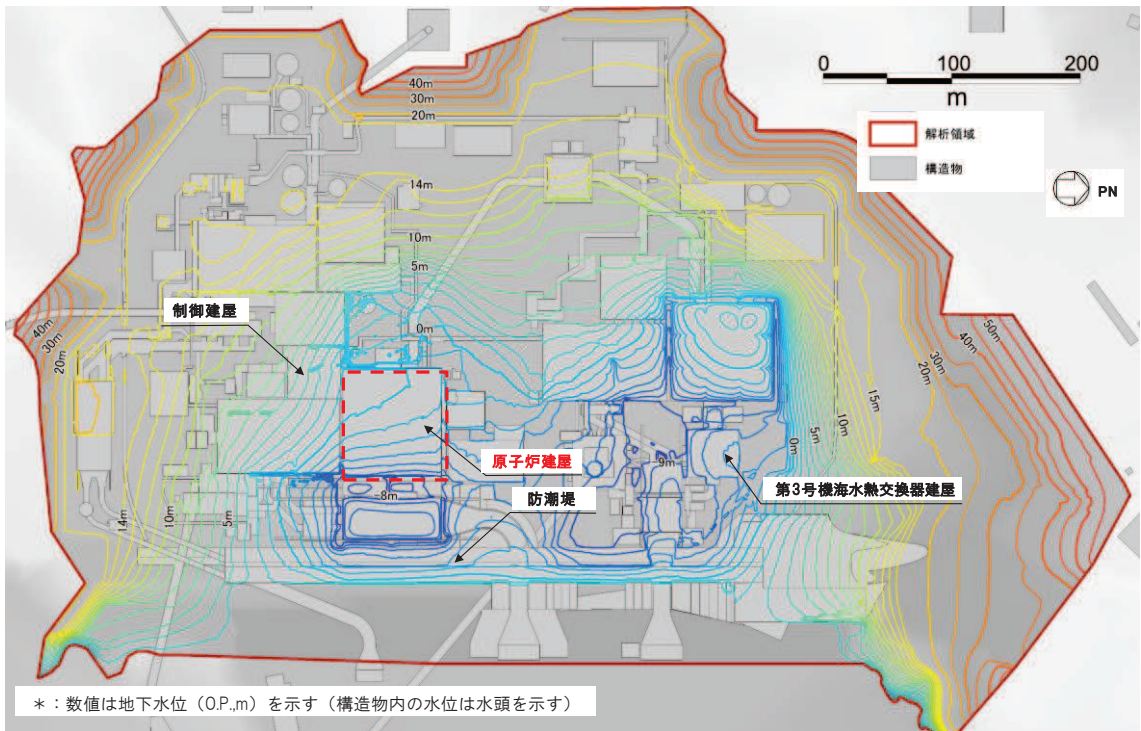


解析水位と観測水位の比較その2(観測井⑩)

図 5-8 モデルの妥当性確認結果



(1) 建物・構築物，土木構築物の水位設定用



(補足) 地下水位分布は地下水位低下設備の機能喪失を仮定し、2ヵ月後の水位上昇を考慮したものであり、アクセスルートの評価における地中構築物の浮上り評価において参照する。  
 詳細は「VI-1-1-6-別添1 可搬型重大事故等対処設備の保管場所及びアクセスルート」を参照。

(2) 保管場所・アクセスルート評価用

図 5-9 予測解析結果 (O.P. +14.8m)

### 5.3 建物・構築物の耐震評価における地下水位設定

建物・構築物の耐震評価における設計用地下水位の設定を表 5-4 に示す。

表 5-4 建物・構築物における設計用地下水位の設定一覧

施設名称	建設時工事計画認可申請時の設計用地下水位・揚圧力	浸透流解析による地下水位・揚圧力	設計用地下水位・揚圧力	備考 1	備考 2 (関連図書)
原子炉建屋 (基礎底面0. P. -14. 1m)	29. 4kN/m <sup>2</sup> *1	8. 4kN/m <sup>2</sup> *1	29. 4kN/m <sup>2</sup> *1		VI-2-2-2 原子炉建屋の耐震性についての計算書
制御建屋 (基礎底面0. P. -1. 5m)	0. 0kN/m <sup>2</sup> *1	4. 6kN/m <sup>2</sup> *1	4. 9kN/m <sup>2</sup> *1		VI-2-2-4 制御建屋の耐震性についての計算書
第 3 号機 海水熱交換器建屋 (基礎底面0. P. -12. 5m～ 0. P. -16. 25m)	14. 7kN/m <sup>2</sup> *1	4. 3kN/m <sup>2</sup> *1	14. 7kN/m <sup>2</sup> *1		VI-2-2-30 第3号機海水熱交換器建屋の耐震性についての計算書
排気筒 (基礎底面0. P. -4. 0m)	0. P. +5. 0m	0. P. +13. 8m	0. P. +14. 8m	地表面	VI-2-2-26 排気筒基礎の耐震性についての計算書
緊急時対策建屋 (基礎底面0. P. +45. 5m)	—*2	— (解析領域外)	0. P. +62. 0m	地表面	VI-2-2-24 緊急時対策建屋の耐震性についての計算書
緊急用電気品建屋 (基礎底面0. P. +52. 9m)	—*2	— (解析領域外)	0. P. +62. 3m	地表面	VI-2-2-22 緊急用電気品建屋の耐震性についての計算書

注記\*1：建屋基礎底面に作用する平均揚圧力。建屋の関連図書では「浮力」と表記する。

\*2：建設時の工事計画認可申請対象外。

#### 5.4 土木構造物の耐震評価における地下水位設定

土木構造物の耐震評価における設計用地下水位の設定を表 5-5 に示す。

表 5-5(1) 土木構造物における設計用地下水位の設定一覧

施設名称		建設時工事計画 認可時の 設計用地下水位	予測解析による 地下水位	設計用 地下水位	備考 1	備考 2 (関連図書)
原子炉機器 冷却海水 配管ダクト	横断	O. P. -14. 20m	O. P. -14. 15m～ O. P. -5. 67m	O. P. -10. 50m～ O. P. -3. 50m		VI-2-2-12 原子炉機器冷却海水配管ダクトの耐震性についての計算書 VI-2-2-12-1 原子炉機器冷却海水配管ダクト (水平部) の耐震性についての計算書 VI-2-2-12-2 原子炉機器冷却海水配管ダクト (鉛直部) の耐震性についての計算書
排気筒連絡 ダクト	縦断	O. P. -8. 00m～ O. P. +4. 50m	O. P. -7. 14m～ O. P. +13. 44m	O. P. +5. 73m～ O. P. +14. 80m		VI-2-2-28 排気筒連絡ダクトの耐震性についての計算書
	横断 (断面①)	O. P. -8. 00m	O. P. -7. 17m～ O. P. -3. 98m	O. P. +5. 73m		
	横断 (断面②)	O. P. -8. 00m	O. P. -3. 28m～ O. P. -1. 49m	O. P. +5. 80m		
	横断 (断面③)	O. P. -8. 00m	O. P. -2. 50m～ O. P. -0. 53m	O. P. +5. 83m		
	横断 (断面⑤)	O. P. -1. 69m	O. P. +1. 10m～ O. P. +7. 97m	O. P. +8. 19m～ O. P. +9. 00m		
	横断 (断面⑦)	O. P. +0. 22m	O. P. +5. 36m～ O. P. +10. 74m	O. P. +10. 10m～ O. P. +12. 00m		
軽油タンク連絡ダクト	—*	O. P. -5. 82m～ O. P. +2. 17m	O. P. -3. 00m～ O. P. +3. 00m		VI-2-2-20 軽油タンク連絡ダクトの耐震性についての計算書	

注記\* : 建設時の工事計画認可申請対象外。

表 5-5(2) 土木構造物における設計用地下水位の設定一覧

施設名称		建設時工事計画 認可時の 設計用地下水位	予測解析による 地下水位	設計用 地下水位	備考 1	備考 2 (関連図書)
取水路	縦断	0. P. -14. 10m～ 0. P. +2. 43m	0. P. -11. 60m～ 0. P. +2. 43m	0. P. -4. 53m～ 0. P. +2. 43m		VI-2-10-4-4 取水路の耐震性についての 計算書
	横断 (標準部①)	0. P. +2. 43m	0. P. +1. 93m	0. P. +2. 43m	朔望平均 満潮位	VI-2-10-4-4-1 取水路 (漸拡部) の耐震 性についての計算書
	横断 (標準部②)	0. P. +2. 43m	0. P. +0. 30m～ 0. P. +2. 16m	0. P. +2. 43m	朔望平均 満潮位	VI-2-10-4-4-2 取水路 (標準部) の耐震 性についての計算書
	横断 (標準部③ (防潮堤横 断部) )	0. P. +2. 43m	0. P. -4. 89m～ 0. P. -2. 26m	0. P. +2. 43m	朔望平均 満潮位	
	横断 (標準部④ (防潮堤横 断部) )	0. P. +2. 43m	0. P. -6. 22m～ 0. P. -3. 17m	0. P. -1. 00m		
	曲がり部 南北	0. P. +2. 43m	0. P. -9. 57m～ 0. P. -3. 89m	0. P. -1. 01m		
	曲がり部 東西	—*	0. P. -7. 32m～ 0. P. +2. 26m	0. P. -1. 03m～ 0. P. +2. 43m		
	漸拡部 東西	0. P. -14. 10m～ 0. P. +2. 43m	0. P. -14. 13m～ 0. P. +2. 17m	0. P. -4. 53m～ 0. P. +2. 43m		

注記\* : 建設時の工事計画認可申請対象外。



表 5-5(3) 土木構造物における設計用地下水位の設定一覧

施設名称		建設時工事計画 認可時の設計用 地下水位	予測解析による 地下水位	設計用 地下水位	備考 1	備考 2 (関連図書)
海水 ポンプ室	縦断	0. P. -14. 10m～ 0. P. +8. 83m	0. P. -12. 64m～ 0. P. +12. 82m	0. P. -8. 50m～ 0. P. +14. 00m		VI-2-2-8 海水ポンプ室の耐震性についての計算書
	横断	0. P. -14. 10m～ 0. P. +2. 43m	0. P. -14. 13m～ 0. P. +2. 24m	0. P. -8. 50m～ 0. P. +2. 43m		
軽油 タンク室	南北	—*	0. P. -14. 29m～ 0. P. -3. 72m	0. P. -3. 00m		VI-2-2-14 軽油タンク室の耐震性についての計算書
	東西	—*	0. P. -5. 82m～ 0. P. +5. 20m	0. P. -3. 00m～ 0. P. +6. 50m		
軽油 タンク室 (H)	南北	—*	0. P. -12. 80m～ 0. P. -3. 72m	0. P. -3. 00m		VI-2-2-16 軽油タンク室 (H) の耐震性についての計算書
	東西	—*	0. P. -5. 82m～ 0. P. +5. 20m	0. P. -3. 00m～ 0. P. +6. 50m		
取水口 (貯留堰)	南北 (標準部)	0. P. +2. 43m	0. P. +2. 43m	0. P. +2. 43m	朔望平均満潮位	VI-2-10-4-3 取水口の耐震性についての計算書
	南北 (漸縮部)	0. P. +2. 43m	0. P. +2. 31m	0. P. +2. 43m	朔望平均満潮位	
復水貯蔵 タンク基礎	南北	0. P. +2. 00m～ 0. P. +9. 50m	0. P. -14. 29m～ 0. P. -3. 72m	0. P. -3. 00m		VI-2-2-6 復水貯蔵タンク基礎の耐震性についての計算書
	東西	0. P. -6. 00m	0. P. -5. 82m～ 0. P. +2. 17m	0. P. -3. 00m ～0. P. +3. 00m		
ガスタービン 発電設備 軽油タンク室	南北	—*	— (解析領域外)	0. P. +62. 30m	地表面	VI-2-2-18 ガスタービン発電設備軽油タンク室の耐震性についての計算書
	東西	—*	— (解析領域外)	0. P. +62. 30m	地表面	

注記\*：建設時の工事計画認可申請対象外。

表 5-5(4) 土木構造物における設計用地下水位の設定一覧

施設名称		建設時工事計画 認可時の設計用 地下水位	予測解析による 地下水位	設計用 地下水位	備考 1	備考 2 (関連図書)
防潮堤 (鋼管式 鉛直壁)	横断 (岩盤部①)	—*	0. P. +14. 80m	0. P. +3. 50m～ 0. P. +19. 50m		VI-2-10-2-2 防潮堤の耐震性についての 計算書 VI-2-10-2-2-1 防潮堤 (鋼管式鉛直壁) の耐震性についての計算書
	横断 (岩盤部②)	—*	0. P. +5. 88m～ 0. P. +9. 65m	0. P. +6. 00m～ 0. P. +18. 00m		
	横断 (一般部①)	—*	0. P. -14. 20m～ 0. P. +2. 43m	0. P. +2. 43m	朔望平均満潮位	
	横断 (一般部②)	—*	0. P. -8. 21m～ 0. P. +2. 43m	0. P. +2. 43m	朔望平均満潮位	
	横断 (一般部③)	—*	0. P. -15. 34m～ 0. P. +2. 43m	0. P. +2. 43m	朔望平均満潮位	
	横断 (一般部④)	—*	0. P. -11. 13m～ 0. P. +2. 43m	0. P. +2. 43m～ 0. P. +14. 80m		
	RC 遮水壁	—*	— (解析領域外)	0. P. +30. 0m	地表面	
防潮堤 (盛土堤防)	横断①	—*	0. P. -2. 47m～ 0. P. +2. 54m	0. P. +2. 43m～ 0. P. +14. 80m		VI-2-10-2-2 防潮堤の耐震性についての 計算書 VI-2-10-2-2-2 防潮堤 (盛土堤防) の耐 震性についての計算書
防潮壁	第 2 号機 海水ポンプ室	—*	0. P. -14. 00m～ 0. P. -4. 25m	0. P. -11. 50m ～0. P. -3. 00m		VI-2-10-2-3 防潮壁の耐震性についての 計算書 VI-2-10-2-3-1 杭基礎構造防潮壁 鋼製 遮水壁 (鋼板) の耐震性についての計算書 VI-2-10-2-3-2 杭基礎構造防潮壁 鋼製 遮水壁 (鋼桁) の耐震性についての計算書 VI-2-10-2-3-3 杭基礎構造防潮壁 鋼製 扉の耐震性についての計算書 VI-2-10-2-3-4 防潮壁 (第3号機海水熱交 換器建屋) の耐震性についての計算書
	第 2 号機 放水立坑	—*	0. P. +1. 22m～ 0. P. +11. 14m	0. P. +4. 50m～ 0. P. +12. 50m		
	第 3 号機 海水ポンプ室	—*	0. P. -15. 59m～ 0. P. -8. 51m	0. P. -10. 00m ～0. P. -6. 50m		
	第 3 号機 放水立坑	—*	0. P. -10. 15m～ 0. P. -4. 34m	0. P. -9. 00m～ 0. P. +5. 00m		

注記\* : 建設時の工事計画認可申請対象外。

表 5-5(5) 土木構造物における設計用地下水位の設定一覧

施設名称		建設時工事計画認可時の設計用地下水位	予測解析による地下水位	設計用地下水位	備考 1	備考 2 (関連図書)
取放水路流路縮小工	第 1 号機取水路	—*	0. P. +11. 54m～ 0. P. +17. 18m	0. P. +14. 80m～ 0. P. +19. 50m	地表面	VI-2-10-2-4 取放水路流路縮小工の耐震性についての計算書
	第 1 号機放水路	—*	0. P. +13. 75m～ 0. P. +14. 80m	0. P. +14. 80m	地表面	VI-2-10-2-4-1 取放水路流路縮小工 (第1号機取水路) の耐震性についての計算書 VI-2-10-2-4-2 取放水路流路縮小工 (第1号機放水路) の耐震性についての計算書
第 3 号機海水ポンプ室	縦断	0. P. -12. 53m～ 0. P. +1. 24m	0. P. -13. 77m～ 0. P. +6. 90m	0. P. -12. 00m～ 0. P. +8. 00m		VI-2-2-10 第3号機海水ポンプ室の耐震性についての計算書
	横断	0. P. -12. 79m～ 0. P. +1. 60m	0. P. -13. 14m～ 0. P. -4. 77m	0. P. -12. 00m～ 0. P. -2. 50m		
揚水井戸 (第 3 号機海水ポンプ室防潮壁区画内)	南北	—*	0. P. -14. 50m～ 0. P. -8. 86m	0. P. -12. 50m～ 0. P. -7. 00m		VI-2-10-2-8-3 浸水防止蓋 (揚水井戸 (第3号機海水ポンプ室防潮壁区画内) ) の耐震性についての計算書
	東西	—*	0. P. -13. 58m～ 0. P. -7. 77m	0. P. -12. 50m～ 0. P. -4. 50m		
第 3 号機補機冷却海水系放水ピット		—*	0. P. -14. 86m～ 0. P. -5. 06m	0. P. -14. 00m～ 0. P. -5. 00m		VI-2-10-2-8-4 浸水防止蓋 (第3号機補機冷却海水系放水ピット) の耐震性についての計算書
屋外排水路逆流防止設備 (防潮堤南側)		—*	0. P. +5. 84m～ 0. P. +7. 65m	0. P. +6. 00m～ 0. P. +18. 00m		VI-2-10-2-6-1 屋外排水路逆流防止設備の耐震性についての計算書 VI-2-10-2-6-1-1 屋外排水路逆流防止設備 (防潮堤南側) の耐震性についての計算書

注記\* : 建設時の工事計画認可申請対象外。

## 6. 地質断面図

地震応答解析に用いる地質断面図は，評価対象地点近傍のボーリング調査等の結果に基づき，岩盤，盛土及び旧表土の分布を確認し作成する。図 6-1 に敷地内で実施したボーリング調査位置図を示す。

代表例として，図 6-1 に示す断面位置の地質断面図を図 6-2～図 6-5 に示す。

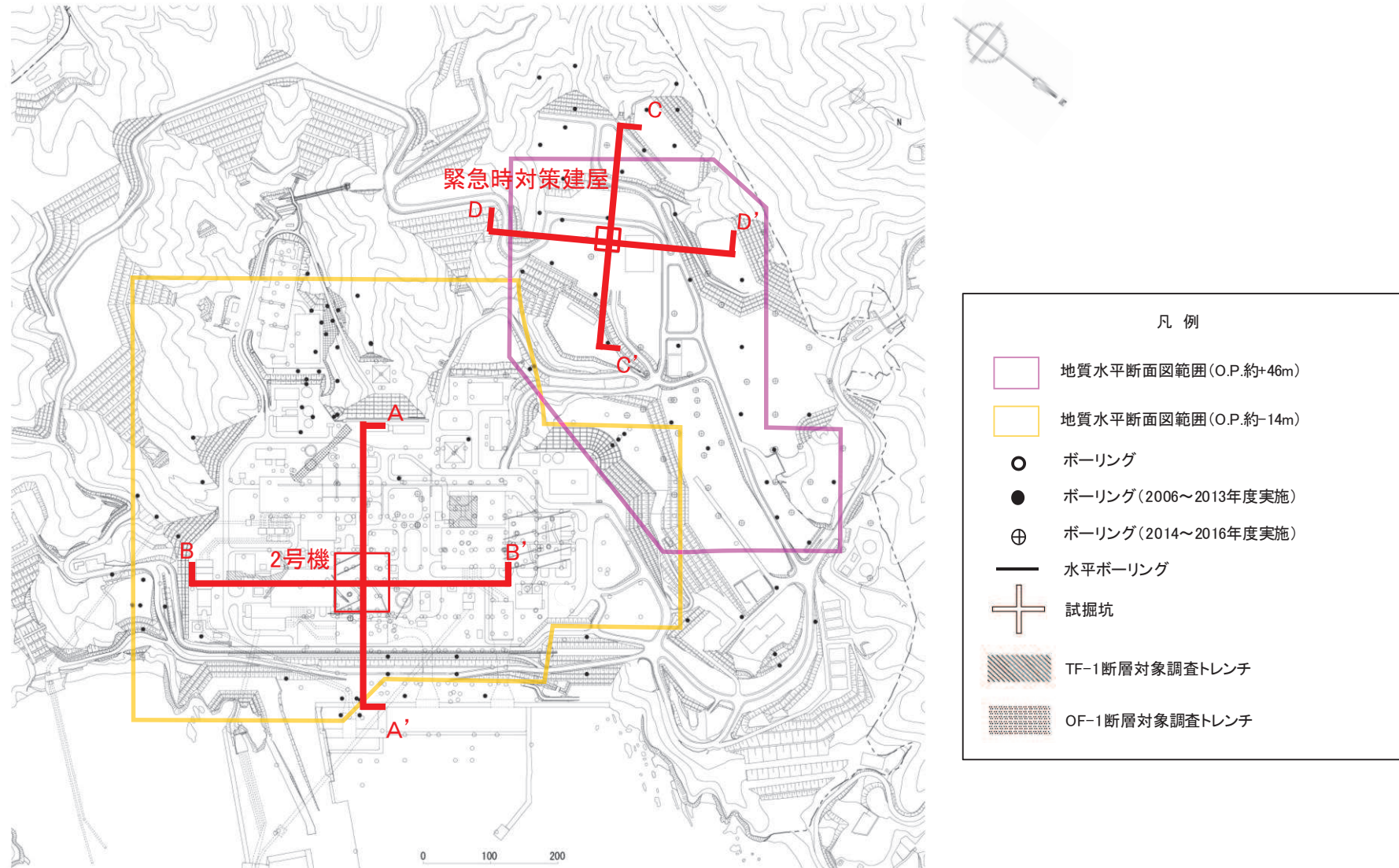


図 6-1 ボーリング調査位置図

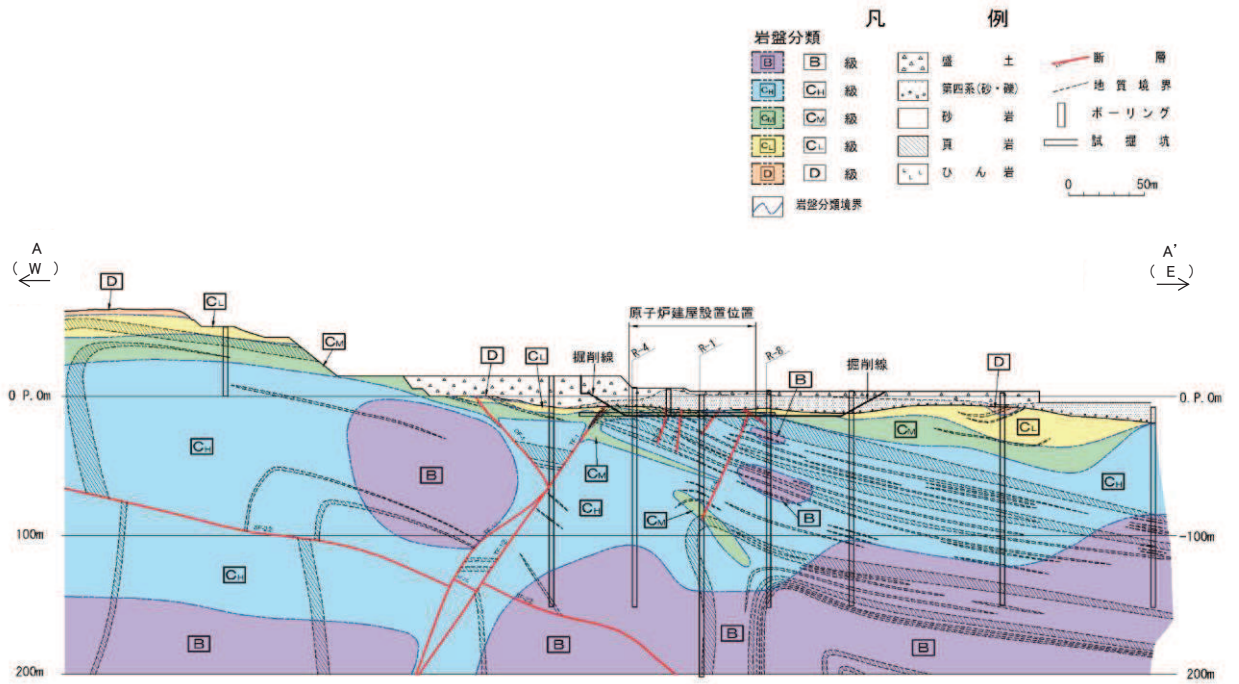


図 6-2 地質断面図（第 2 号機原子炉建屋中央，東西方向）（A-A' 断面）

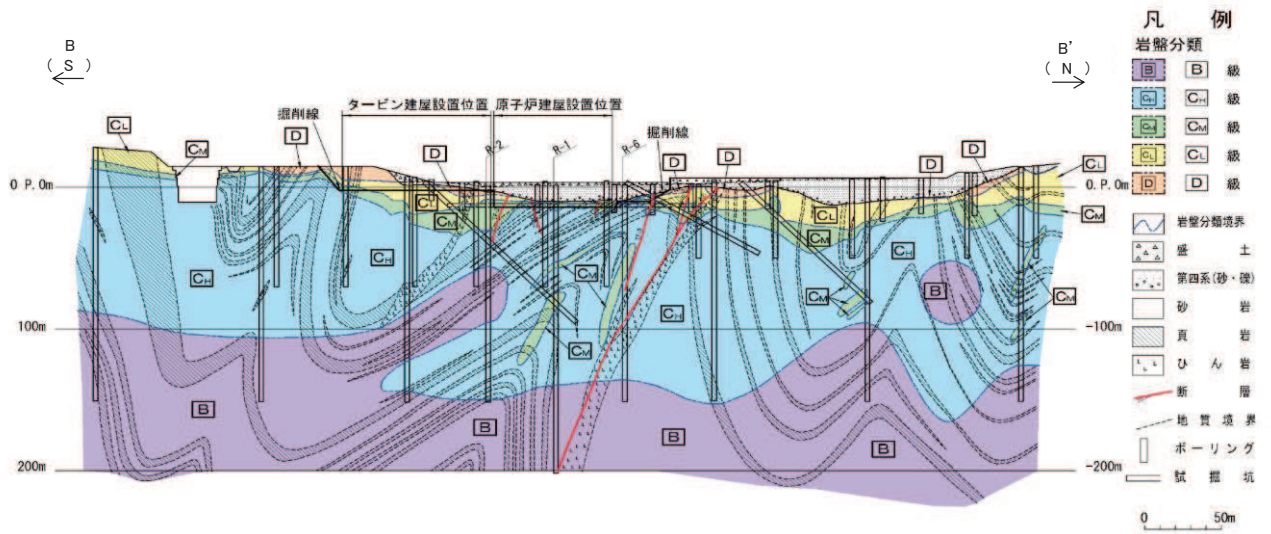


図 6-3 地質断面図（第 2 号機原子炉建屋中央，南北方向）（B-B' 断面）



## 7. 地盤の速度構造

### 7.1 入力地震動の設定に用いる地下構造モデル

入力地震動の設定に用いる地下構造モデルについては、解放基盤表面(0.P.-14.1m)から、0.P.-200mまでの岩盤(狐崎部層又は牧の浜部層)をモデル化する。地下構造モデルの概要を表7-1に示す。入力地震動算定の概念図を図7-1及び図7-2に示す。

表 7-1 入力地震動の策定に用いる地下構造モデル

地層	狐崎部層		牧の浜部層	
標高	解放基盤表面～0.P.-200m		解放基盤表面～0.P.-200m	
P波速度 $V_p$ (m/s)	0.P.-14.1m ～ -25.0m	3,420	0.P.-14.1m ～ -27.0m	3,380
	0.P.-25.0m ～ -80.0m	4,700	0.P.-27.0m ～ -50.0m	4,380
	0.P.-80.0m ～ -200.0m	5,130	0.P.-50.0m ～ -200.0m	5,060
S波速度 $V_s$ (m/s)	0.P.-14.1m ～ -25.0m	1,300	0.P.-14.1m ～ -27.0m	1,360
	0.P.-25.0m ～ -80.0m	2,150	0.P.-27.0m ～ -50.0m	2,040
	0.P.-80.0m ～ -200.0m	2,440	0.P.-50.0m ～ -200.0m	2,520
動ポアソン比 $\nu_d$	0.P.-14.1m ～ -25.0m	0.42	0.P.-14.1m ～ -27.0m	0.40
	0.P.-25.0m ～ -80.0m	0.37	0.P.-27.0m ～ -50.0m	0.36
	0.P.-80.0m ～ -200.0m	0.35	0.P.-50.0m ～ -200.0m	0.34
単位体積重量 $\gamma_t$ (kN/m <sup>3</sup> )	0.P.-14.1m ～ -25.0m	23.8	0.P.-14.1m ～ -27.0m	26.1
	0.P.-25.0m ～ -80.0m	24.6	0.P.-27.0m ～ -50.0m	26.4
	0.P.-80.0m ～ -200.0m	25.0	0.P.-50.0m ～ -200.0m	26.5
減衰定数 $h$ (%)	0.P.-14.1m ～ -25.0m	3	0.P.-14.1m ～ -27.0m	3
	0.P.-25.0m ～ -80.0m		0.P.-27.0m ～ -50.0m	
	0.P.-80.0m ～ -200.0m		0.P.-50.0m ～ -200.0m	



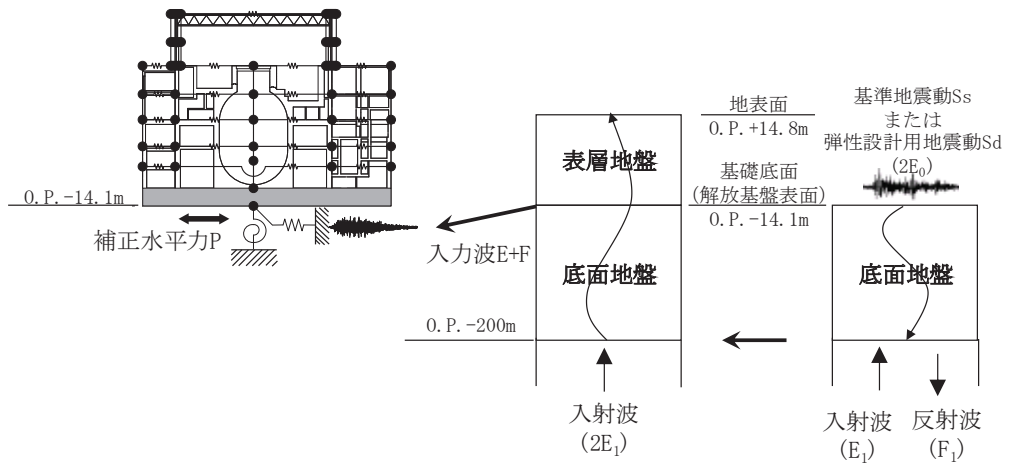


図 7-1 入力地震動算定の概念図（建物・構築物）

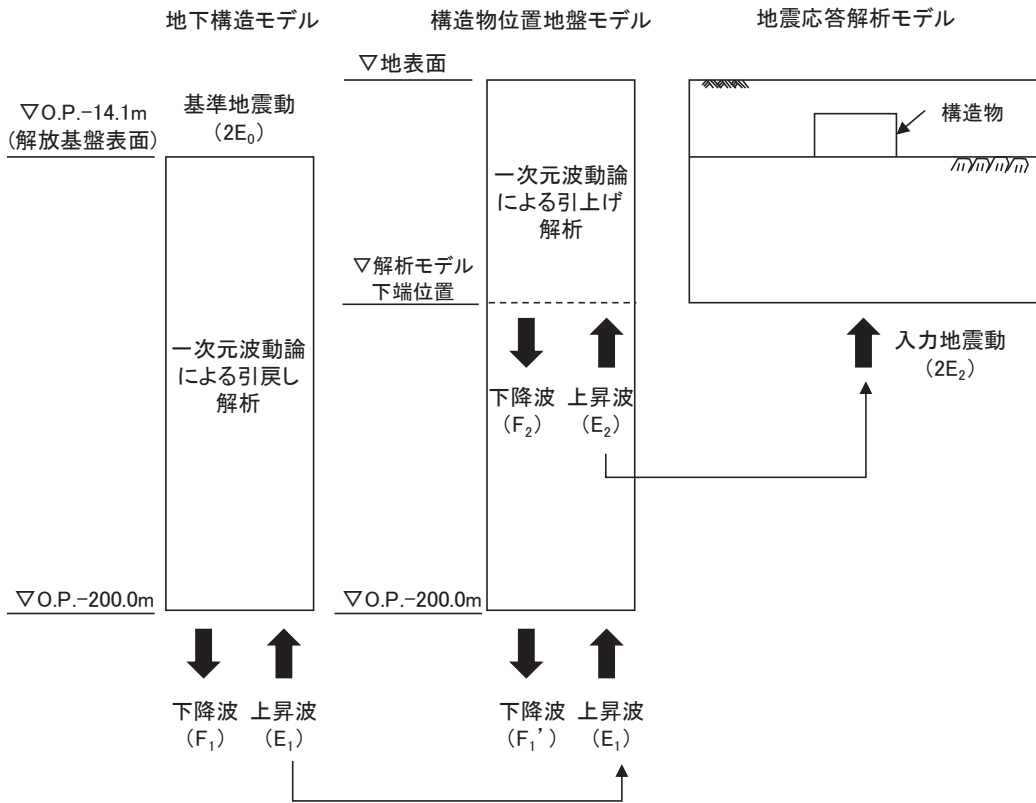


図 7-2 入力地震動算定の概念図（土木構築物）

## 7.2 地震応答解析に用いる解析モデル

原子炉建屋の地震応答解析に用いる地盤モデルは、原子炉建屋の直下における地盤調査結果及び既往の地震観測記録の分析に基づいて設定する。原子炉建屋の地震応答解析に用いる地盤モデルの地盤物性値は「3.2.1 全応力解析に用いる解析用物性値」に示すとおりである。

また、土木構造物の地震応答解析に用いる地盤モデルは、構造物周辺の地盤調査結果に基づいて設定する。土木構造物の地震応答解析に用いる地盤モデルの地盤物性値は、「3.1 設置変更許可申請書に記載された解析用物性値」、「3.2.2 有効応力解析に用いる解析用物性値」及び「3.2.3 その他の解析用物性値」に示すとおりである。

## 8. 地盤の液状化強度特性の代表性，網羅性及び保守性

本章では，「3.2.2 有効応力解析に用いる解析用物性値」に記載した地盤の液状化強度特性の代表性，網羅性及び保守性についての確認結果を記載する。

### 8.1 液状化強度試験箇所の代表性及び網羅性

「3.2.2 有効応力解析に用いる解析用物性値」は設置変更許可段階での液状化強度試験結果に基づき保守的に下限値として設定しているが，設計及び工事の計画の認可申請に当たって，液状化検討対象層である盛土の液状化強度試験結果の代表性向上を目的とし，追加液状化強度試験を実施した。設置変更許可段階での液状化強度試験箇所及び追加液状化強度試験箇所の平面配置を図 8-1 に示す。

液状化強度試験箇所の代表性及び網羅性については，旧表土に対して粒度分布，細粒分含有率及び N 値，盛土に対して粒度分布，細粒分含有率及び相対密度を指標に，液状化強度試験箇所と敷地全体を比較することにより確認する。なお，盛土の追加試験は設置変更許可段階以降に実施していることから，設置変更許可段階で示した代表性及び網羅性に変更がないことを確認する。

旧表土については，設置変更許可段階から変更はなく，図 8-2 に示すとおり，粒度分布，細粒分含有率及び N 値はおおむね敷地全体の平均的な範囲にあり，代表性及び網羅性があることを確認している。また，盛土については，設置変更許可段階以降に追加試験を実施していることから，追加試験を含めた代表性及び網羅性の結果を図 8-3 に示す。図 8-3 から，盛土の追加試験結果は，粒度分布，細粒分含有率，N 値及び相対密度がおおむね敷地全体の平均的な範囲にあることから，代表性及び網羅性があることを確認した。

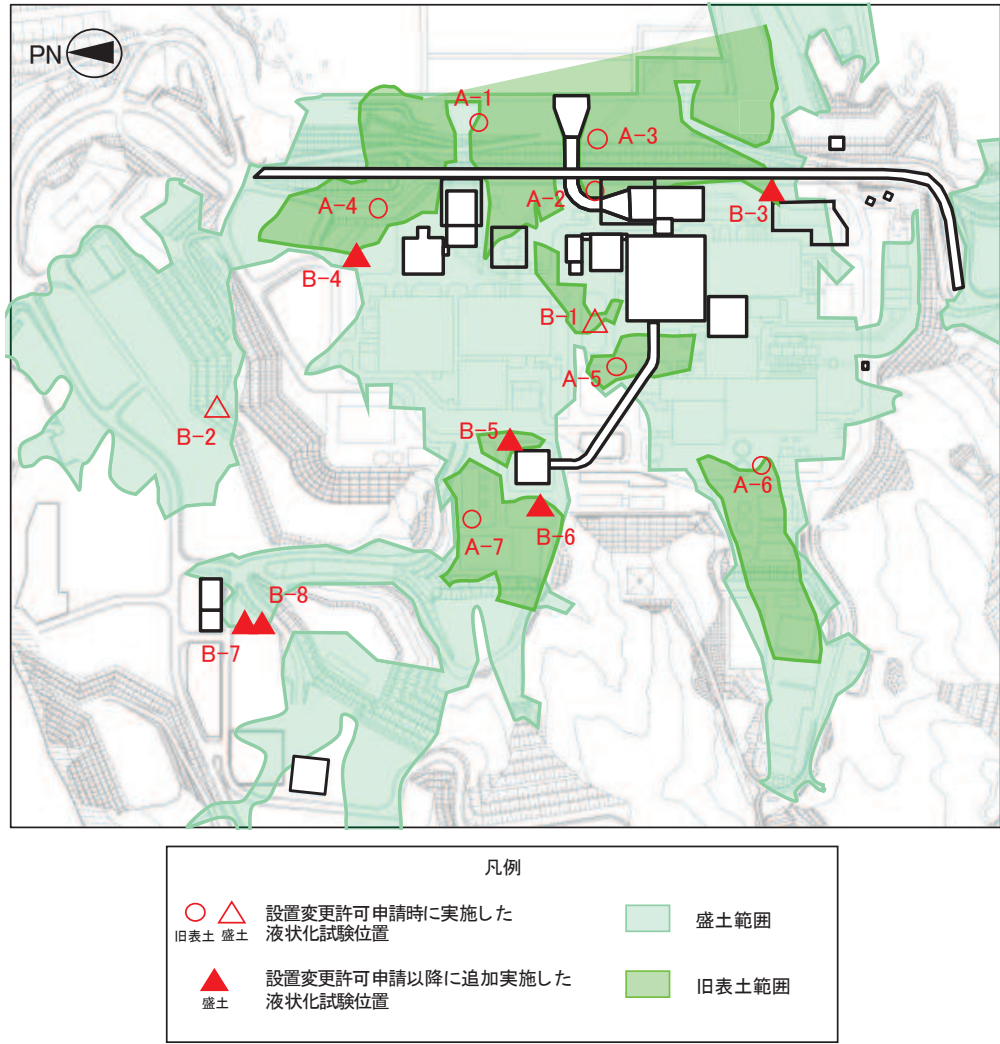


図 8-1 液状化強度試験箇所の平面配置

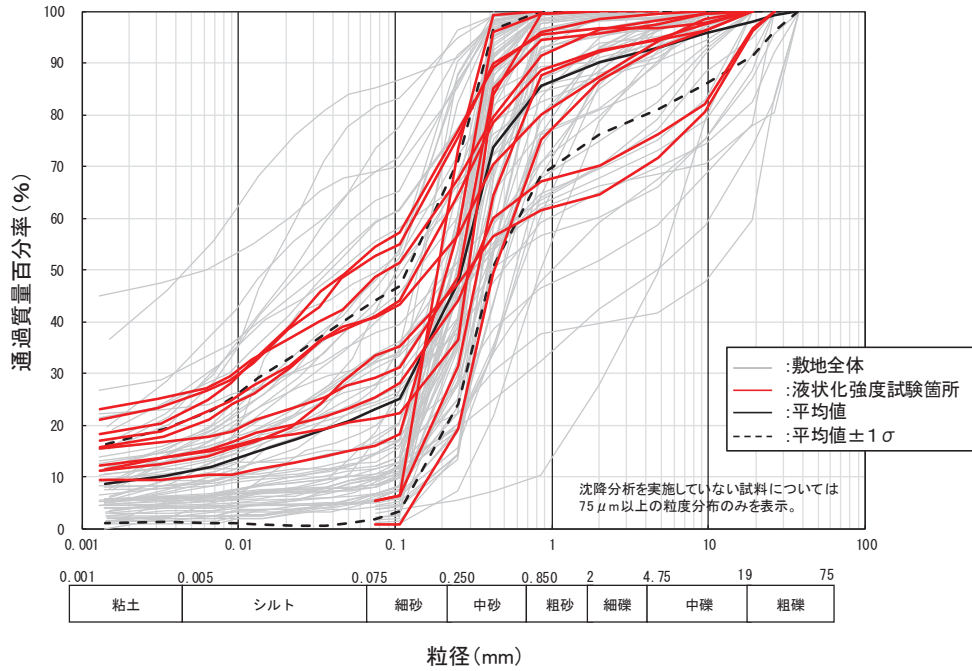


図 8-2(1) 旧表土の液状化強度試験箇所の代表性及び網羅性確認結果 (粒度分布)

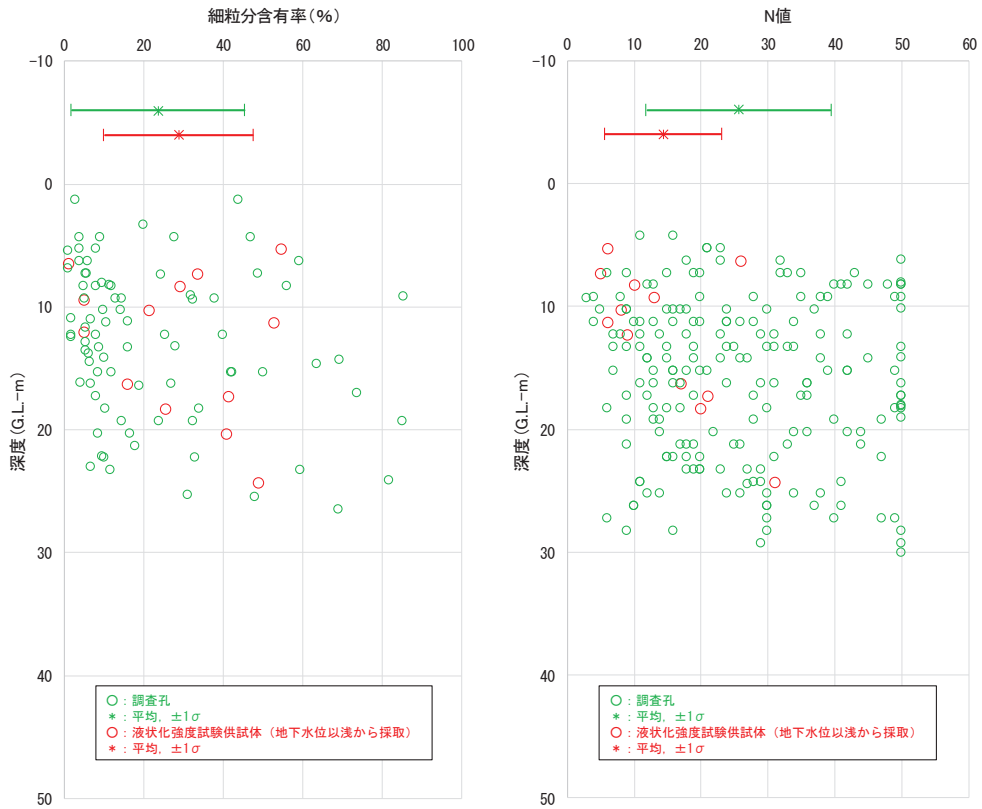


図 8-2(2) 旧表土の液状化強度試験箇所の代表性及び網羅性確認結果 (細粒分含有率  $F_c$  及び  $N$  値)

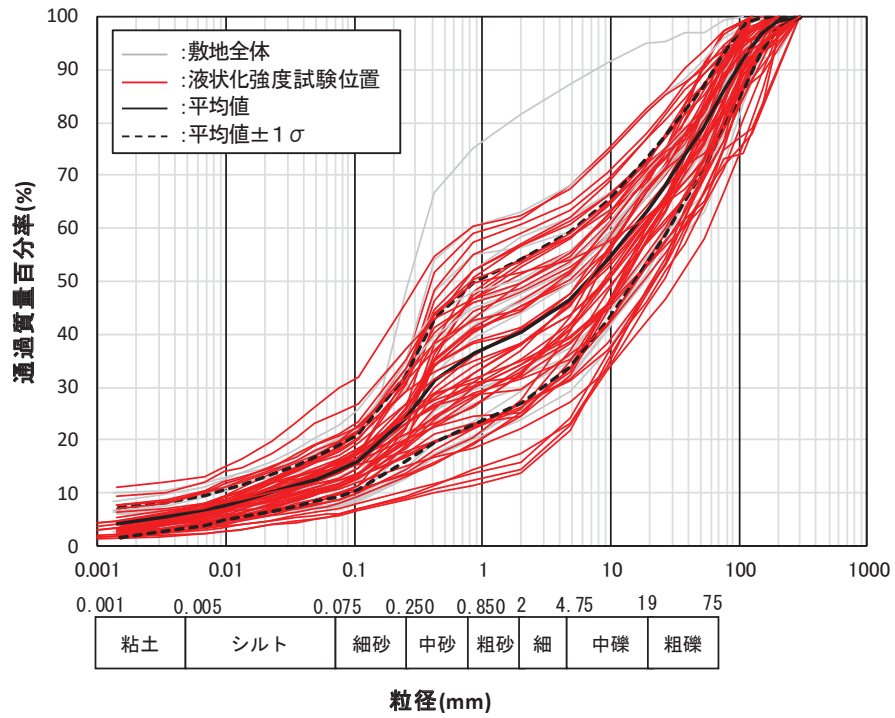


図 8-3(1) 盛土の液状化強度試験箇所の子表性及び網羅性確認結果 (粒度分布)

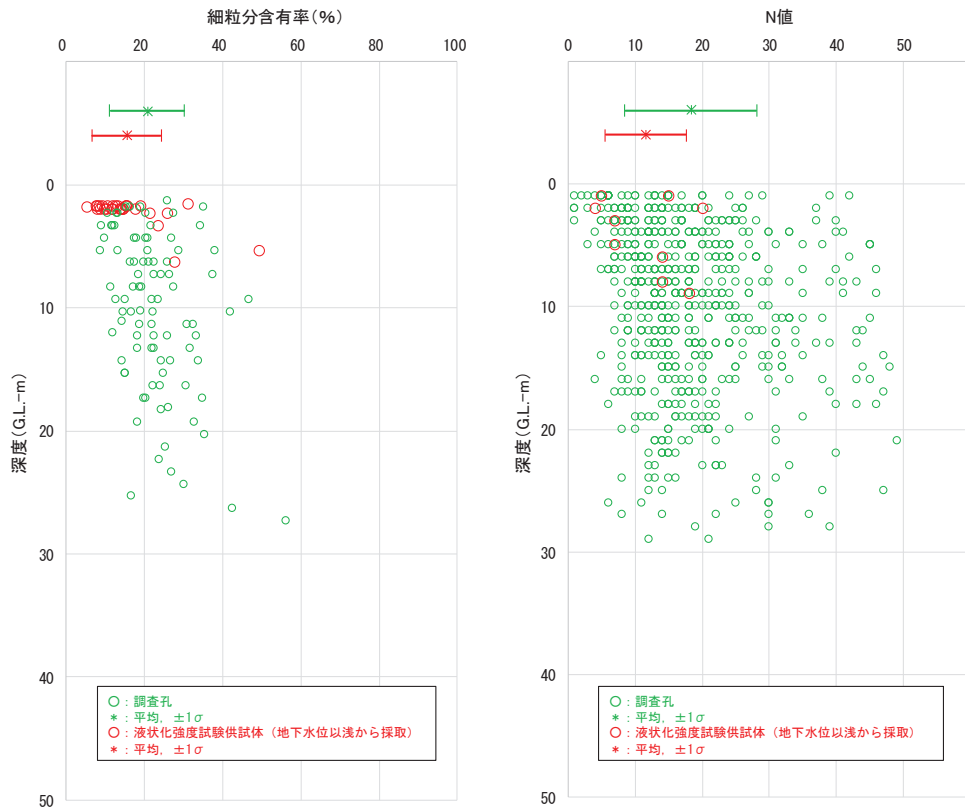


図 8-3(2) 盛土の液状化強度試験箇所の子表性及び網羅性確認結果 (細粒分含有率  $F_c$  及び  $N$  値)

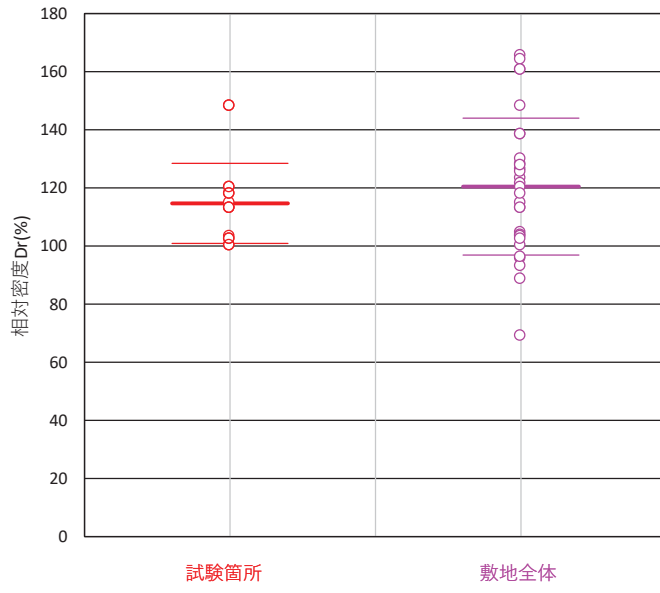


図 8-3(3) 盛土の液状化強度試験箇所の代表性及び網羅性確認結果 (相対密度)

## 8.2 地盤の液状化強度特性における保守性

設置変更許可段階で示した方針のとおり、「3.2.2 有効応力解析に用いる解析用物性値」に記載した地盤の液状化強度特性は、液状化強度試験に基づき下限値として設定していること及び盛土の追加液状化強度試験結果がこの液状化強度特性（下限値）を上回っていることから、地盤の液状化強度特性における保守性を確認した。

地盤の液状化強度特性における保守性の確認結果を図 8-4 に示す。



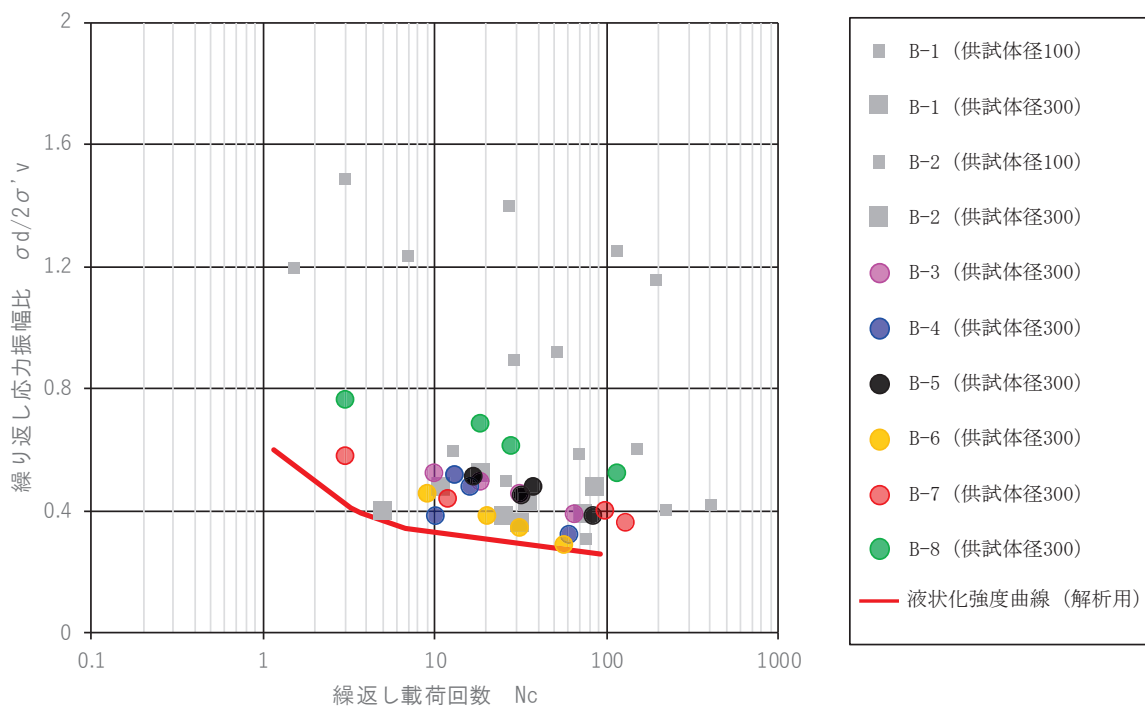


図 8-4(1) 液状化強度特性の代表性及び保守性確認結果 (盛土)

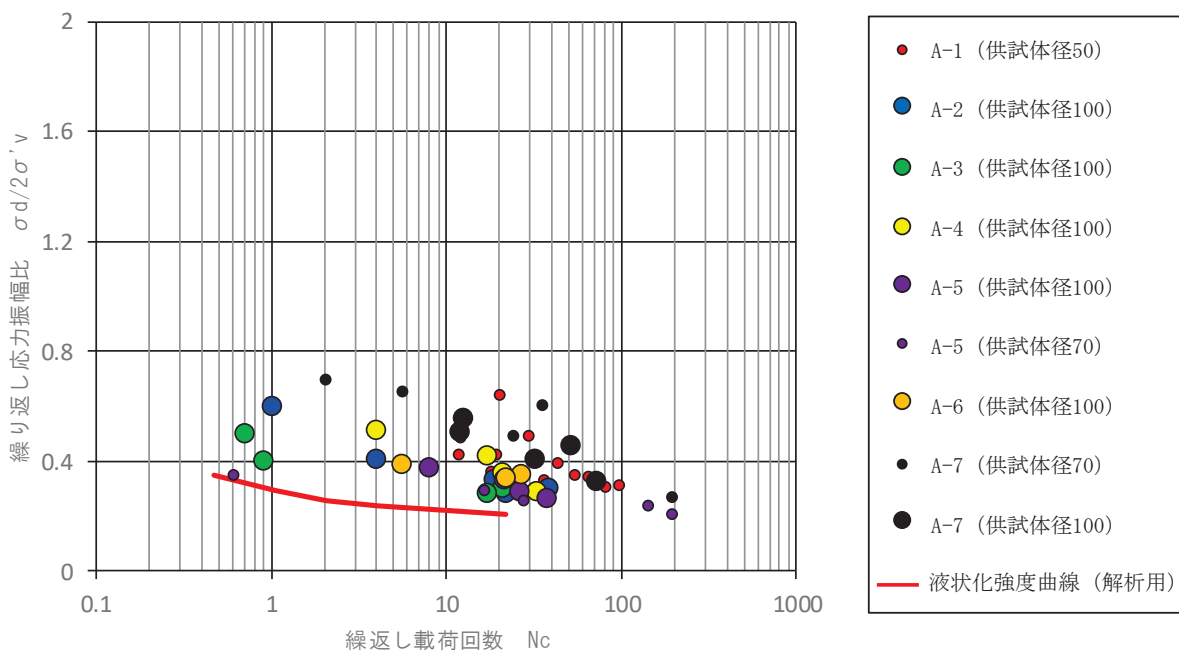


図 8-4(2) 液状化強度特性の代表性及び保守性確認結果 (旧表土)

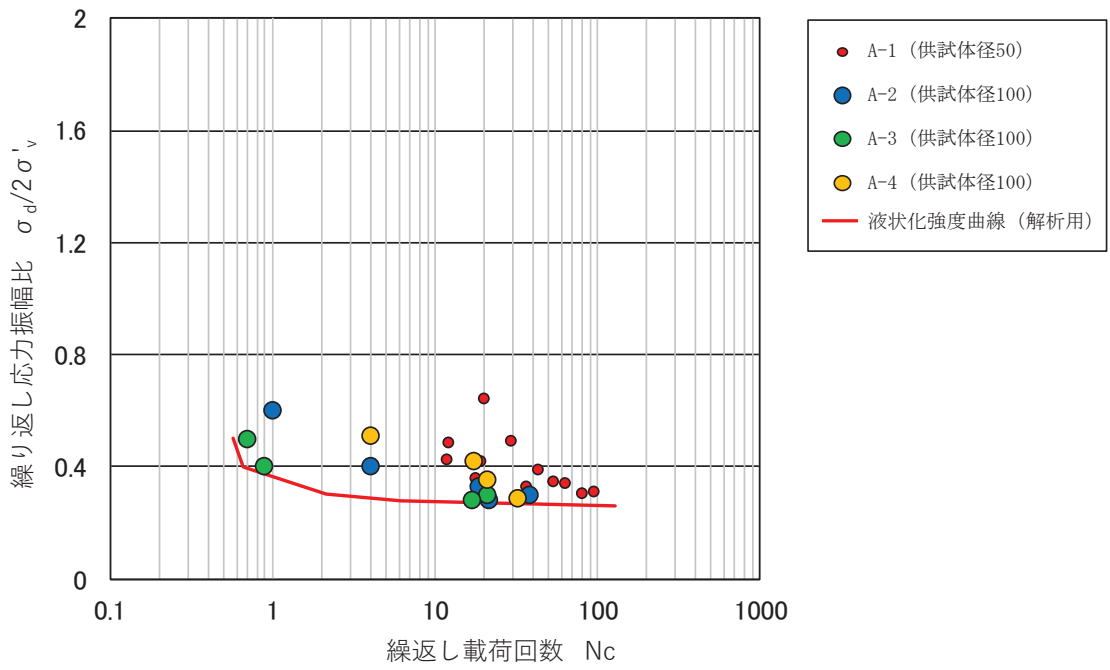


図 8-4(3) 液状化強度特性の代表性及び保守性確認結果 (防潮堤, 旧表土)

VI-2-1-4 耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分の  
基本方針

## 目次

1. 概要 .....	1
2. 設計基準対象施設の耐震重要度分類.....	1
2.1 耐震設計上の重要度分類 .....	1
2.2 発電用原子炉施設の区分 .....	2
2.2.1 区分の概要 .....	2
2.2.2 各区分の定義 .....	2
2.2.3 間接支持機能及び波及的影響 .....	2
3. 設計基準対象施設の耐震重要度分類の取合点.....	3
4. 重大事故等対処施設の施設区分 .....	4
4.1 耐震設計上の設備の分類 .....	4
4.2 重大事故等対処施設の区分 .....	5
4.2.1 区分の概要 .....	5
4.2.2 各区分の定義 .....	5
4.2.3 間接支持機能及び波及的影響 .....	5
5. 重大事故等対処施設の施設区分の取合点.....	5

## 1. 概要

本資料は、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」のうち「3. 耐震重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分」に基づき、設計基準対象施設の耐震設計上の重要度分類及び重大事故等対処施設の施設区分の基本方針について説明するものである。

## 2. 設計基準対象施設の耐震重要度分類

### 2.1 耐震設計上の重要度分類

設計基準対象施設の耐震設計上の重要度を次のように分類する。

#### (1) Sクラスの施設

地震により発生するおそれがある事象に対して、原子炉を停止し、炉心を冷却するために必要な機能を持つ施設、自ら放射性物質を内蔵している施設、当該施設に直接関係しておりその機能喪失により放射性物質を外部に拡散する可能性のある施設、これらの施設の機能喪失により事故に至った場合の影響を緩和し、放射線による公衆への影響を軽減するために必要な機能を持つ施設及びこれらの重要な安全機能を支援するために必要となる施設、並びに地震に伴って発生するおそれがある津波による安全機能の喪失を防止するために必要となる施設であって、その影響が大きいものであり、次の施設を含む。

- a. 原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する機器・配管系
- b. 使用済燃料を貯蔵するための施設
- c. 原子炉の緊急停止のために急激に負の反応度を付加するための施設、及び原子炉の停止状態を維持するための施設
- d. 原子炉停止後、炉心から崩壊熱を除去するための施設
- e. 原子炉冷却材圧力バウンダリ破損事故後、炉心から崩壊熱を除去するための施設
- f. 原子炉冷却材圧力バウンダリ破損事故の際に、圧力障壁となり放射性物質の放散を直接防ぐための施設
- g. 放射性物質の放出を伴うような事故の際に、その外部放散を抑制するための施設であり、上記の「放射性物質の放散を直接防ぐための施設」以外の施設
- h. 津波防護機能を有する設備（以下「津波防護施設」という。）及び浸水防止機能を有する設備（以下「浸水防止設備」という。）
- i. 敷地における津波監視機能を有する施設（以下「津波監視設備」という。）

#### (2) Bクラスの施設

安全機能を有する施設のうち、機能喪失した場合の影響がSクラスの施設と比べ小さい施設であり、次の施設を含む。

- a. 原子炉冷却材圧力バウンダリに直接接続されていて、1次冷却材を内蔵しているか又は内蔵し得る施設
- b. 放射性廃棄物を内蔵している施設（ただし、内蔵量が少ない又は貯蔵方式により、その破損により公衆に与える放射線の影響が「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則

(昭和 53 年通商産業省令第 77 号) 第 2 条第 2 項第 6 号に規定する「周辺監視区域」外における年間の線量限度に比べ十分に小さいものは除く。)

- c. 放射性廃棄物以外の放射性物質に関連した施設で、その破損により、公衆及び従事者に過大な放射線被ばくを与える可能性のある施設
- d. 使用済燃料を冷却するための施設
- e. 放射性物質の放出を伴うような場合に、その外部放散を抑制するための施設で、S クラスに属さない施設

(3) C クラスの施設

S クラスに属する施設及び B クラスに属する施設以外の一般産業施設又は公共施設と同等の安全性が要求される施設

2.2 発電用原子炉施設の区分

2.2.1 区分の概要

当該施設に課せられる機能は、その機能に直接的に関連するもののほか、補助的な役割を持つもの、支持構造物等の間接的な施設を含めた健全性が保たれて初めて維持し得るものであることを考慮し、これらを主要設備、補助設備、直接支持構造物、間接支持構造物及び波及的影響を考慮すべき施設に区分する。

2.2.2 各区分の定義

各区分の設備とは次のものをいう。

- (1) 主要設備とは、当該機能に直接的に関連する設備をいう。
- (2) 補助設備とは、当該機能に間接的に関連し、主要設備の補助的役割を持つ設備をいう。
- (3) 直接支持構造物とは、主要設備、補助設備に直接取り付けられる支持構造物又はこれらの設備の荷重を直接的に受ける支持構造物をいう。
- (4) 間接支持構造物とは、直接支持構造物から伝達される荷重を受ける構造物（建物・構築物、土木構造物）をいう。
- (5) 波及的影響を考慮すべき施設とは、下位クラス施設のうち、その破損等によって上位クラス施設に波及的影響を及ぼすおそれのある施設をいう。波及的影響を考慮すべき施設の検討については、添付書類「VI-2-1-5 波及的影響に係る基本方針」に示す。

ここで上位クラス施設とは、耐震重要施設及び常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備、常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類が S クラスのもの）又は常設重大事故緩和設備（設計基準拡張）が設置されている重大事故等対処施設をいい、下位クラス施設とは、上位クラスの施設以外の発電所内にある施設（資機材等を含む。）をいう。

2.2.3 間接支持機能及び波及的影響

同一系統設備に属する主要設備、補助設備及び直接支持構造物については同一の耐震重要度とするが、間接支持構造物の支持機能及び設備相互間の影響については、それぞれ関連する設備の耐震設計に適用される地震動に対して安全上支障ないことを確認するものと

する。

設計基準対象施設の耐震重要度分類を表 2-1 に、設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類を表 2-2 に示す。同表には、当該施設を支持する構造物の支持機能が維持されることを確認する地震動及び波及的影響を考慮すべき施設に適用する地震動（以下「検討用地震動」という。）を併記する。

### 3. 設計基準対象施設の耐震重要度分類の取合点

設計基準対象施設の耐震重要度分類の取合点は、以下のとおりとする。

- (1) 機器とそれに接続する配管系との耐震重要度分類が異なる場合の取合点は、原則として、機器から見て第 1 弁とする。取合点となる第 1 弁は、上位の耐震重要度分類に属するものとする。
- (2) 原子炉格納容器バウンダリは、バウンダリを構成する弁までを S クラスとする(図 3-1 参照)。

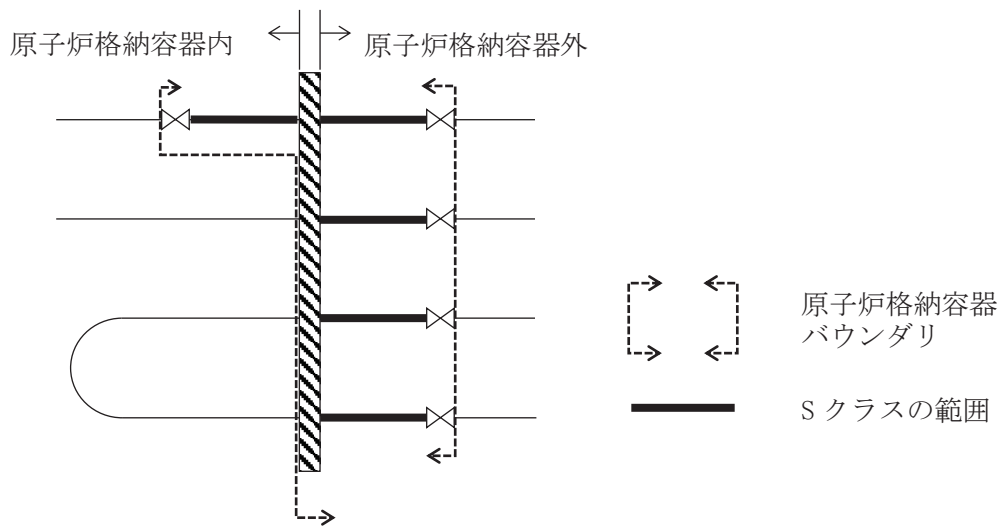


図 3-1 原子炉格納容器バウンダリと S クラスの範囲

- (3) 配管系中で耐震重要度分類が異なる場合の取合点は、原子炉冷却材圧力バウンダリ周りで第 2 隔離弁までがバウンダリの場合は第 2 弁<sup>(注1)</sup>、その他は上位の耐震重要度分類から見て第 1 弁<sup>(注2)</sup>とする。取合点となる弁は、図 3-2 に示すように上位の耐震重要度分類に属するものとする。

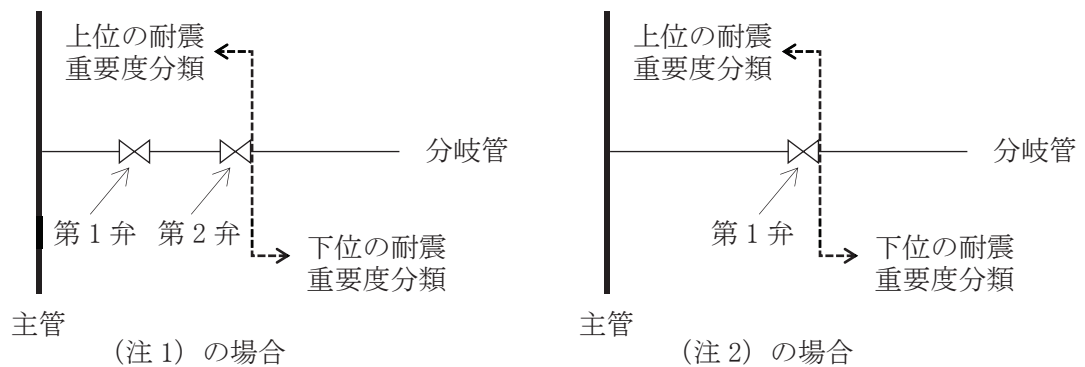


図 3-2 配管系中の取合点

#### 4. 重大事故等対処施設の施設区分

##### 4.1 耐震設計上の設備の分類

重大事故等対処施設について、耐震設計上の区分を設備が有する重大事故等時に対処するために必要な機能を踏まえて、以下のとおりに分類する。

- (1) 基準地震動  $S_s$  による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの
  - a. 常設耐震重要重大事故防止設備
 

常設重大事故防止設備であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの
  - b. 常設重大事故緩和設備
 

重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの
  - c. 常設重大事故防止設備(設計基準拡張)(当該設備が属する耐震重要度分類が S クラスのもの)
 

設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の発生を防止する機能を有する常設重大事故防止設備以外の常設のもので当該設備が属する耐震重要度分類が S クラスのもの
  - d. 常設重大事故緩和設備(設計基準拡張)
 

設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する常設重大事故緩和設備以外の常設のもの
- (2) 静的地震力に対して十分に耐えるよう設計するもの
  - a. 常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備
 

常設重大事故防止設備であって、耐震重要度分類が B クラス又は C クラスに属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの
  - b. 常設重大事故防止設備(設計基準拡張)(当該設備が属する耐震重要度分類が B クラス又は C クラスのもの)
 

設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の発生を防止する機能を有する常設重大事故防止設備以外の常設のもので当該設備が属する耐震重要度分類が B クラス又は C クラスのもの
- (3) 弾性設計用地震動  $S_d$  に 2 分の 1 を乗じたものによる地震力に対して十分に耐えるよう設計するもの
  - a. 常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備
 

常設重大事故防止設備であって、耐震重要度分類が B クラスに属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するものうち、共振のおそれのあるもの
  - b. 常設重大事故防止設備(設計基準拡張)(当該設備が属する耐震重要度分類が B クラスの



もの)

設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の発生を防止する機能を有する常設重大事故防止設備以外の常設のもので当該設備が属する耐震重要度分類がBクラスのものうち、共振のおそれのあるもの

#### 4.2 重大事故等対処施設の区分

##### 4.2.1 区分の概要

当該施設に課せられる機能は、その機能に関連するもののほか、支持構造物等の間接的な施設を含めた健全性が保たれて初めて維持し得るものであることを考慮し、これらを設備、直接支持構造物、間接支持構造物及び波及的影響を考慮すべき施設に区分する。

##### 4.2.2 各区分の定義

各区分の設備とは次のものをいう。

- (1) 設備とは、重大事故等に対処するために必要な機能を有する設備で、重大事故等時に当該機能に直接的に関連する設備及び間接的に関連する設備をいう。
- (2) 直接支持構造物とは、設備に直接取り付けられる支持構造物、若しくはこれらの設備の荷重を直接的に受ける支持構造物をいう。
- (3) 間接支持構造物とは、直接支持構造物から伝達される荷重を受ける構造物（建物・構築物、土木構造物、車両）をいう。
- (4) 波及的影響を考慮すべき施設とは、下位クラス施設の破損等によって上位クラス施設に波及的影響を及ぼすおそれのある施設をいう。波及的影響を考慮すべき施設の検討については、添付書類「VI-2-1-5 波及的影響に係る基本方針」に示す。

##### 4.2.3 間接支持機能及び波及的影響

設備の直接支持構造物については設備と同一の設備分類とするが、間接支持構造物の支持機能及び設備相互間の影響については、それぞれ関連する設備の耐震設計に適用される地震動に対して安全上支障のないことを確認するものとする。

重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設を表4-1に、重大事故等対処施設の申請設備の設備分類を表4-2に示す。同表には、当該施設を支持する構造物の支持機能が維持されることを確認する地震動及び波及的影響を考慮すべき施設に適用する地震動(以下「検討用地震動」という。)を併記する。

#### 5. 重大事故等対処施設の施設区分の取合点

重大事故等対処施設の施設区分の取合点は、以下のとおりとする。

- (1) 機器とそれに接続する配管系との、上位クラス施設と下位クラス施設の取合点は、原則として、機器から見て第1弁とする。取合点となる第1弁は、上位クラス施設に属するものとする。
- (2) 配管系中の上位クラス施設と下位クラス施設の取合点は、原子炉冷却材圧力バウンダリ周りで第2隔離弁までがバウンダリの場合は第2弁<sup>(注1)</sup>、その他は上位クラスから見て第1弁

(注2) とする。取合点となる弁は、図 5-1 に示すように上位クラス施設に属するものとする。

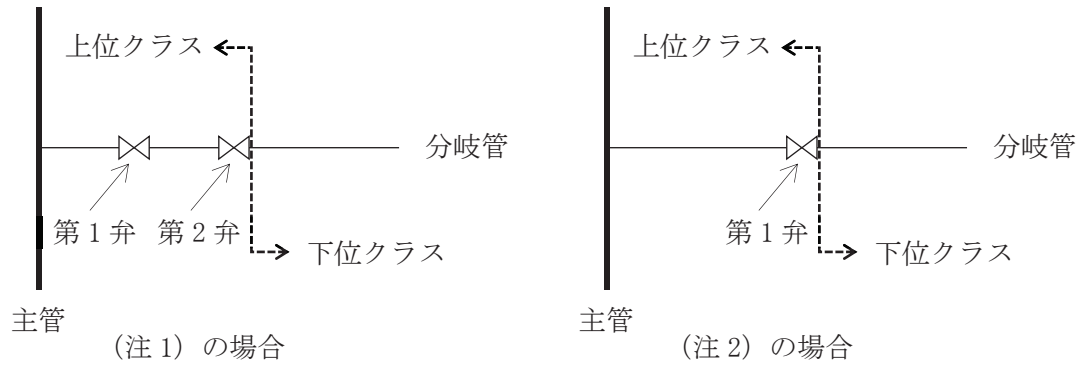


図 5-1 配管系中の取合点

表 2-1 設計基準対象施設の耐震重要度分類表 (1/6)

耐震重要度 分類	機能別分類	主要設備*1		補助設備*2		直接支持構造物*3		間接支持構造物*4		波及的影響を 考慮すべき施設 *5	
		適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	検討用 地震動 *6	適用範囲	検討用 地震動 *6
Sクラス	(i)「原子炉冷却材圧力バウンダリ」を構成する機器・配管系	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉圧力容器</li> <li>原子炉冷却材圧力バウンダリに属する容器・配管・ポンプ・弁</li> </ul>	S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>隔離弁を閉とするために必要な電気計装設備</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉圧力容器支持スカート</li> <li>機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉本体の基礎</li> <li>原子炉建屋</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S s S s S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉しゃへい壁</li> <li>中央制御室天井照明</li> <li>タービン建屋</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> </ul>	S s S s S s S s S s
	(ii) 使用済燃料を貯蔵するための施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料プール</li> <li>使用済燃料貯蔵ラック</li> </ul>	S S	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> </ul>	S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋クレーン</li> <li>燃料交換機</li> <li>制御棒貯蔵ラック</li> <li>燃料チャンネル着脱機</li> <li>タービン建屋</li> </ul>	S s S s S s S s S s
	(iii) 原子炉の緊急停止のために急激に負の反応度を付加するための施設及び原子炉の停止状態を維持するための施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御棒, 制御棒駆動機構及び制御棒駆動水圧系(スクラム機能に関する部分)</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>炉心支持構造物</li> <li>電気計装設備</li> <li>チャンネルボックス</li> </ul>	S S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>原子炉本体の基礎</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S s S s S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央制御室天井照明</li> <li>タービン建屋</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> </ul>	S s S s S s S s
	(iv) 原子炉停止後, 炉心から崩壊熱を除去するための施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉隔離時冷却系</li> <li>高圧炉心スプレイ系</li> <li>残留熱除去系(停止時冷却モード運転に必要な設備)</li> <li>冷却水源としてのサブレーションチェンバ</li> </ul>	S S S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該施設の冷却系(原子炉補機冷却水系(原子炉補機冷却海水系を含む), 高圧炉心スプレイ補機冷却水系(高圧炉心スプレイ補機冷却海水系を含む))</li> <li>炉心支持構造物</li> <li>非常用電源及び計装設備(ディーゼル発電機及びその冷却系・補助施設を含む)</li> <li>当該施設の機能維持に必要な空調設備</li> </ul>	S S S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>海水ポンプ室</li> <li>原子炉機器冷却海水配管ダクト</li> <li>軽油タンク室</li> <li>軽油タンク連絡ダクト</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S s S s S s S s S s S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>海水ポンプ室門型クレーン</li> <li>竜巻防護ネット</li> <li>原子炉建屋クレーンダクト</li> <li>中央制御室天井照明</li> <li>耐火隔壁</li> <li>タービン建屋</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> <li>防護設備(防潮堤(鋼管式鉛直壁))</li> </ul>	S s S s S s S s S s S s S s S s

表 2-1 設計基準対象施設の耐震重要度分類表 (2/6)

耐震重要度分類	機能別分類	主要設備*1		補助設備*2		直接支持構造物*3		間接支持構造物*4		波的影響を考慮すべき施設 *5	
		適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	検討用地震動*6	適用範囲	検討用地震動*6
Sクラス	(v) 原子炉冷却材圧力バウンダリ破損事故後、炉心から崩壊熱を除去するための施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常用炉心冷却系</li> <li>1) 高圧炉心スプレイ系</li> <li>2) 低圧炉心スプレイ系</li> <li>3) 残留熱除去系(低圧注水モード運転に必要設備)</li> <li>4) 自動減圧系</li> <li>冷却水源としてのサブレーションチェンバ</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該施設の冷却系(原子炉補機冷却水系(原子炉補機冷却海水系を含む)、高圧炉心スプレイ補機冷却水系(高圧炉心スプレイ補機冷却海水系を含む))</li> <li>非常用電源及び計装設備(ディーゼル発電機及びその冷却系・補助施設を含む)</li> <li>中央制御室の遮蔽及び空調設備</li> <li>当該施設の機能維持に必要な空調設備</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>海水ポンプ室</li> <li>原子炉機器冷却海水配管ダクト</li> <li>軽油タンク室</li> <li>軽油タンク連絡ダクト</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S s S s S s S s S s S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>海水ポンプ室門型クレーン</li> <li>竜巻防護ネット</li> <li>原子炉建屋クレーン</li> <li>中央制御室天井照明</li> <li>タービン建屋</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> <li>防護設備(防潮堤(鋼管式鉛直壁))</li> </ul>	S s S s S s S s S s S s S s
	(vi) 原子炉冷却材圧力バウンダリ破損事故の際に、圧力障壁となり放射性物質の放散を直接防ぐための施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉格納容器</li> <li>原子炉格納容器バウンダリに属する配管・弁</li> </ul>	S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>隔離弁を閉とするために必要な電気計装設備</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S s S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉ウェルカバー</li> <li>中央制御室天井照明</li> <li>タービン建屋</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> </ul>	S s S s S s S s S s
	(vii) 放射性物質の放出を伴うような事故の際に、その外部放散を抑制するための施設で上記(vi)以外の施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード運転に必要設備)</li> <li>可燃性ガス濃度制御系</li> <li>原子炉建屋原子炉棟</li> <li>非常用ガス処理系及び排気筒</li> <li>原子炉格納容器圧力抑制装置(ベントヘッド、ダウンカム等)</li> <li>冷却水源としてのサブレーションチェンバ</li> </ul>	S S S S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該施設の冷却系(原子炉補機冷却水系(原子炉補機冷却海水系を含む))</li> <li>非常用電源及び計装設備(ディーゼル発電機及びその冷却系・補助施設を含む)</li> <li>当該施設の機能維持に必要な空調設備</li> </ul>	S S S	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>海水ポンプ室</li> <li>原子炉機器冷却海水配管ダクト</li> <li>軽油タンク室</li> <li>軽油タンク連絡ダクト</li> <li>排気筒連絡ダクト</li> <li>排気筒基礎</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S s S s S s S s S s S s S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1号機排気筒</li> <li>海水ポンプ室門型クレーン</li> <li>竜巻防護ネット</li> <li>原子炉建屋クレーン</li> <li>中央制御室天井照明</li> <li>タービン建屋</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> <li>防護設備(防潮堤(鋼管式鉛直壁))</li> </ul>	S s S s S s S s S s S s S s

表 2-1 設計基準対象施設の耐震重要度分類表 (3/6)

耐震重要度分類	機能別分類	主要設備*1		補助設備*2		直接支持構造物*3		間接支持構造物*4		波及的影響を考慮すべき施設 *5	
		適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	検討用地震動*6	適用範囲	検討用地震動*6
Sクラス	(viii) 津波防護機能を有する設備及び浸水防止機能を有する設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>防潮堤</li> <li>防潮壁</li> <li>取放水路流路縮小工</li> <li>貯留堰</li> <li>逆流防止設備</li> <li>水密扉</li> <li>浸水防止蓋</li> <li>浸水防止壁</li> <li>逆止弁付ファンネル</li> <li>貫通部止水処置</li> </ul>	S	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器等の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3号機海水熱交換器建屋</li> <li>取水口</li> <li>防潮堤(鋼管式鉛直壁)</li> <li>出口側集水ピット(屋外排水路逆流防止設備(防潮堤南側))</li> <li>出口側集水ピット(屋外排水路逆流防止設備(防潮堤北側))</li> <li>防潮壁(第2号機放水立坑)</li> <li>防潮壁(第3号機放水立坑)</li> <li>揚水井戸(第3号機海水ポンプ室防潮壁区画内)</li> <li>原子炉建屋</li> <li>制御建屋</li> <li>軽油タンク室</li> <li>原子炉機器冷却海水配管ダクト</li> <li>第3号機補機冷却海水系放水ピット</li> <li>海水ポンプ室</li> <li>第3号機海水ポンプ室</li> </ul>	S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>海水ポンプ室門型クレーン</li> <li>竜巻防護ネット</li> <li>前面護岸</li> <li>第1号機取水路</li> <li>第3号機取水路</li> <li>北側排水路</li> <li>アクセスルート(防潮堤(盛土堤防))</li> <li>タービン建屋</li> <li>防音設備(防潮堤(鋼管式鉛直壁))</li> </ul>	S s
	(ix) 敷地における津波監視機能を有する施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波監視カメラ</li> <li>取水ピット水位計</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常用電源及び計装設備(ディーゼル発電機及びその冷却系・補助施設を含む)</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器、配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>防潮堤(盛土堤防)</li> <li>海水ポンプ室</li> <li>原子炉機器冷却海水配管ダクト</li> <li>軽油タンク室</li> <li>軽油タンク連絡ダクト</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>海水ポンプ室門型クレーン</li> <li>竜巻防護ネット</li> <li>北側排水路</li> <li>アクセスルート(防潮堤(盛土堤防))</li> <li>タービン建屋</li> <li>中央制御室天井照明</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> <li>防音設備(防潮堤(鋼管式鉛直壁))</li> </ul>	S s
	(x) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料プール水補給設備(残留熱除去系(燃料プール水の補給に必要な設備))</li> <li>ほう酸水注入系*7</li> <li>原子炉圧力容器内部構造物*8</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常用電源及び計装設備(ディーゼル発電機及びその冷却系・補助施設を含む)</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> <li>原子炉圧力容器</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>海水ポンプ室</li> <li>原子炉機器冷却海水配管ダクト</li> <li>軽油タンク室</li> <li>軽油タンク連絡ダクト</li> <li>制御建屋</li> <li>原子炉本体の基礎</li> </ul>	S s	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋クレーン</li> <li>燃料交換機</li> <li>原子炉しゃへい壁</li> <li>ほう酸水注入系テストタンク</li> <li>中央制御室天井照明</li> <li>海水ポンプ室門型クレーン</li> <li>竜巻防護ネット</li> <li>タービン建屋</li> <li>補助ボイラー建屋</li> <li>第1号機制御建屋</li> <li>防音設備(防潮堤(鋼管式鉛直壁))</li> </ul>	S s

表 2-1 設計基準対象施設の耐震重要度分類表 (4/6)

耐震重要度 分類	機能別分類	主要設備*1		補助設備*2		直接支持構造物*3		間接支持構造物*4	
		適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	検討用 地震動 *5
Bクラス	(i) 原子炉冷却材圧力バウンダリに直接接続されていて、一次冷却材を内蔵しているか又は内蔵し得る施設	・主蒸気系(主蒸気第二隔離弁から主蒸気止め弁まで)	B*9	—	—	・機器・配管等の支持構造物	B*9	・原子炉建屋 ・タービン建屋(主蒸気第二隔離弁から主蒸気止め弁までの配管・弁を支持する部分)	S d S d
		・主蒸気逃がし安全弁排気管	B*10	—	—	・機器・配管等の支持構造物	B*10	・原子炉建屋	S s
		・主蒸気系及び給水系 ・原子炉冷却材浄化系	B B	—	—	・機器・配管等の支持構造物	B	・原子炉建屋 ・タービン建屋	S <sub>B</sub> S <sub>B</sub>
	(ii) 放射性廃棄物を内蔵している施設、ただし内蔵量が少ない又は貯蔵方式により、その破損によって公衆に与える放射線の影響が周辺監視区域外における年間の線量限度に比ベ十分に小さいものは除く	・放射性廃棄物処理設備、ただし、Cクラスに属するものは除く	B	—	—	・機器・配管等の支持構造物	B	・原子炉建屋 ・タービン建屋 ・焼却炉建屋 ・サイトバンカ建屋	S <sub>B</sub> S <sub>B</sub> S <sub>B</sub> S <sub>B</sub>

表 2-1 設計基準対象施設の耐震重要度分類表 (5/6)

耐震重要度 分類	機能別分類	主要設備*1		補助設備*2		直接支持構造物*3		間接支持構造物*4	
		適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	検討用 地震動 *6
Bクラス	(iii)放射性廃棄物以外の放射性物質に関連した施設で、その破損により、公衆及び従業員に過大な放射線被ばくを与える可能性のある施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸気タービン、湿分離加熱器、主復水器、給水加熱器及びその主要配管</li> <li>・復水浄化系</li> <li>・復水貯蔵タンク</li> <li>・燃料プール冷却浄化系</li> <li>・放射線低減効果の大きい遮蔽</li> <li>・制御棒駆動水圧系(放射生流体を内蔵する部分、ただし、スクラム機能に関するものを除く)</li> <li>・原子炉建屋クレーン</li> <li>・燃料取扱設備</li> <li>・制御棒貯蔵ラック</li> </ul>	B  B B B B B B B	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管等の支持構造物</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋</li> <li>・タービン建屋</li> <li>・タービンベデスタル</li> <li>・復水貯蔵タンク基礎</li> </ul>	S <sub>B</sub> S <sub>B</sub> S <sub>B</sub> S <sub>B</sub>
	(iv)使用済燃料を冷却するための施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料プール冷却浄化系</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉補機冷却水系(原子炉補機冷却海水系を含む)</li> <li>・電気計装設備</li> </ul>	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋</li> <li>・海水ポンプ室</li> <li>・原子炉機器冷却海水配管ダクト</li> </ul>	S <sub>B</sub> S <sub>B</sub> S <sub>B</sub>
	(v)放射性物質の放出を伴うような場合に、その外部放散を抑制するための施設で、Sクラスに属さない施設	—	—	—	—	—	—	—	—

表 2-1 設計基準対象施設の耐震重要度分類表 (6/6)

耐震重要度 分類	機能別分類	主要設備*1		補助設備*2		直接支持構造物*3		間接支持構造物*4		
		適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	耐震 クラス	適用範囲	検討用 地震動 *6	
Cクラス	(i)原子炉の反応度を抑制するための施設でSクラス及びBクラスに属さない施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉再循環流量制御装置</li> <li>制御棒駆動水圧系(Sクラス及びBクラスに属さない部分)</li> </ul>	C C	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>制御建屋</li> </ul>	S <sub>c</sub> S <sub>c</sub>	
	(ii)放射性物質を内蔵しているか、又はこれに関連した施設でSクラス及びBクラスに属さない施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>試料採取系</li> <li>固化装置より下流の固体廃棄物取扱い設備(貯蔵庫を含む)</li> <li>雑固体系</li> <li>新燃料貯蔵設備</li> <li>その他</li> </ul>	C C C C C	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管等の支持構造物</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>タービン建屋</li> <li>焼却炉建屋</li> <li>サイトバンカ建屋</li> </ul>	S <sub>c</sub> S <sub>c</sub> S <sub>c</sub> S <sub>c</sub>	
	(iii)放射線安全に関係しない施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環水系</li> <li>タービン補機冷却系</li> <li>補助ボイラー</li> <li>消火系</li> <li>開閉所、発電機、変圧器</li> <li>換気空調系(Sクラスの換気空調系以外のもの)</li> <li>タービン建屋クレーン</li> <li>圧縮空気系</li> <li>その他</li> </ul>	C C C C C C C C C	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>海水ポンプ室</li> <li>タービン建屋</li> <li>制御建屋</li> <li>当該施設に係る屋外コンクリート構造物</li> </ul>	S <sub>c</sub> S <sub>c</sub> S <sub>c</sub> S <sub>c</sub> S <sub>c</sub>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地下水位低下設備</li> </ul>	C*11	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気計装設備</li> </ul>	C*11	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	C*11	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋</li> <li>制御建屋</li> <li>当該施設に係る屋外コンクリート構造物</li> </ul>	S <sub>s</sub> S <sub>s</sub> S <sub>s</sub>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外排水路(敷地側集水ピット(北側)、北側排水路(防潮堤横断部)、出口側集水ピット(北側)、敷地側集水ピット(南側)、南側排水路(防潮堤横断部)及び出口側集水ピット(南側))</li> </ul>	C*11	—	—	—	—	—	—	



- 注記\*1： 主要設備とは、当該機能に直接的に関連する設備をいう。
- \*2： 補助設備とは、当該機能に間接的に関連し、主要設備の補助的役割を持つ設備をいう。
- \*3： 直接支持構造物とは、主要設備、補助設備に直接取り付けられる支持構造物又はこれらの設備の荷重を直接的に受ける支持構造物をいう。
- \*4： 間接支持構造物とは、直接支持構造物から伝達される荷重を受ける構造物（建物・構築物、土木構造物）をいう。
- \*5： 波及的影響を考慮すべき施設とは、下位クラス施設のうち、その破損等によって上位クラス施設に波及的影響を及ぼすおそれのある施設をいう。
- \*6：  $S_s$ ：基準地震動 $S_s$ により定まる地震力  
 $S_d$ ：弾性設計用地震動 $S_d$ により定まる地震力  
 $S_B$ ：Bクラス施設に適用される地震力  
 $S_C$ ：Cクラス施設に適用される静的地震力
- \*7： ほう酸水注入系は、安全機能の重要度を考慮して、Sクラスに準じて取り扱う。
- \*8： 原子炉圧力容器内部構造物は、炉内にあることの重要度を考慮して、Sクラスに準じて取り扱う。
- \*9： Bクラスではあるが、弾性設計用地震動 $S_d$ に対し破損しないことを確認する。
- \*10： 主蒸気逃がし安全弁排気管については、基準地震動 $S_s$ に対して破損しないことを確認することで、蒸気凝縮性能の信頼性を担保する。
- \*11： Cクラスではあるが、基準地震動 $S_s$ に対し機能維持することを確認する。

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (1/13)

- 印は耐震計算書を添付する設備
- 印は耐震計算書を添付しない設備
- ×印は撤去する設備
- ※は新設又は新規登録の設備

【 】内は検討用地震動を示す。

施設	耐震重要度分類	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
1. 原子炉本体 (1) 炉心		○チャンネルボックス ○炉心支持構造物			○原子炉建屋【S s】 ○原子炉本体の基礎【S s】	○タービン建屋【S s】*1 ○制御建屋【S s】*1
(2) 原子炉圧力容器		○原子炉圧力容器 ○原子炉圧力容器支持構造物 ○原子炉圧力容器付属構造物 ○原子炉圧力容器内部構造物				○原子炉しゃへい壁【S s】

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (2/13)

耐震重要度分類 施設	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を 考慮すべき施設
2. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 (1) 燃料取扱設備		<input type="checkbox"/> 燃料交換機 (第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> 原子炉建屋クレーン (第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> 燃料チャンネル着脱機 (第1,2号機共用)		<input type="checkbox"/> 原子炉建屋【S s】	<input type="checkbox"/> タービン建屋【S s】* <sup>1</sup> <input type="checkbox"/> 制御建屋【S s】* <sup>1</sup>
(2) 使用済燃料貯蔵設備	<input type="checkbox"/> 使用済燃料プール (設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> キャスクピット (第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> 使用済燃料貯蔵ラック (設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> 制御棒・破損燃料貯蔵ラック	<input type="checkbox"/> 制御棒貯蔵ラック <input type="checkbox"/> 制御棒貯蔵ハンガ	<input type="checkbox"/> 燃料プール冷却浄化系ポンプ入口温度 <input type="checkbox"/> 燃料貯蔵プール水温度 <input type="checkbox"/> 燃料貯蔵プール水位 <input type="checkbox"/> 燃料プールライナドレン漏えい <input type="checkbox"/> 使用済燃料プール水位/温度 (ガイドパルス式) ※		<input type="checkbox"/> 原子炉建屋クレーン【S s】 <input type="checkbox"/> 燃料交換機【S s】 <input type="checkbox"/> 制御棒貯蔵ラック【S s】 <input type="checkbox"/> 燃料チャンネル着脱機【S s】
(3) 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備	<input type="checkbox"/> 関連配管	<input type="checkbox"/> 燃料プール冷却浄化系熱交換器 (設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> 燃料プール冷却浄化系ポンプ (設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> スキマサージタンク (設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用) <input type="checkbox"/> 関連配管			

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (3/13)

施設	耐震重要度分類	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
3. 原子炉冷却系統施設						
(1) 原子炉冷却材再循環設備		○原子炉再循環ポンプ ○関連配管・弁			○原子炉建屋【S s】	○タービン建屋【S s】*1 ○制御建屋【S s】*1
(2) 原子炉冷却材の循環設備		○主蒸気逃がし安全弁逃がし弁機能用 アキュムレータ ○主蒸気逃がし安全弁自動減圧機能用 アキュムレータ ○主蒸気流量制限器 ○関連配管・弁 (主蒸気系, 復水給水系)	□低圧第1 給水加熱器ドレンタンク □関連配管・弁 (主蒸気系, 復水給水系, 給水加熱器 ドレンベント系, 復水浄化系, 抽気 系)		□タービン建屋【S d】	
(3) 残留熱除去設備		○残留熱除去系熱交換器 ○残留熱除去系ポンプ ○残留熱除去系ストレーナ ○関連配管・弁				
(4) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備		○高圧炉心スプレイ系ポンプ ○高圧炉心スプレイ系ストレーナ ○低圧炉心スプレイ系ポンプ ○低圧炉心スプレイ系ストレーナ ○関連配管・弁 (高圧炉心スプレイ系, 低圧炉心ス プレイ系)	□関連配管 (高圧炉心スプレイ系)			
(5) 原子炉冷却材補給設備		○原子炉隔離時冷却系ポンプ ○関連配管・弁 (原子炉隔離時冷却系)	□復水移送ポンプ □復水貯蔵タンク □関連配管 (補給水系)		□復水貯蔵タンク基礎 【S <sub>B</sub> 】	

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (4/13)

耐震重要度分類 施設	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を 考慮すべき施設
(6) 原子炉補機冷却設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原子炉補機冷却水系熱交換器</li> <li>○原子炉補機冷却水ポンプ</li> <li>○原子炉補機冷却海水ポンプ</li> <li>○原子炉補機冷却水サージタンク</li> <li>○原子炉補機冷却海水系ストレナ</li> <li>○高圧炉心スプレイ補機冷却水系熱交換器</li> <li>○高圧炉心スプレイ補機冷却水ポンプ</li> <li>○高圧炉心スプレイ補機冷却海水ポンプ</li> <li>○高圧炉心スプレイ補機冷却水サージタンク</li> <li>○高圧炉心スプレイ補機冷却海水系ストレナ</li> <li>○関連配管 (原子炉補機冷却水系, 原子炉補機冷却海水系, 高圧炉心スプレイ補機冷却水系, 高圧炉心スプレイ補機冷却海水系)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>□関連配管 (原子炉補機冷却水系, 原子炉補機冷却海水系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海水ポンプ室【S s】</li> <li>○原子炉機器冷却海水配管ダクト【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海水ポンプ室門型クレーン【S s】</li> <li>○竜巻防護ネット【S s】</li> <li>○原子炉建屋クレーン【S s】</li> <li>○防護設備 (防潮堤 (鋼管式鉛直壁))【S s】<sup>*1</sup></li> </ul>
(7) 原子炉冷却材浄化設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関連配管・弁 (原子炉冷却材浄化系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□関連配管 (原子炉冷却材浄化系)</li> </ul>			
(8) 原子炉格納容器内の原子炉冷却材の漏えいを監視する装置			<ul style="list-style-type: none"> <li>□ドライウェル送風機冷却コイルドレン流量</li> <li>□ドライウェル床ドレンサンブ水位</li> </ul>		
(9) 蒸気タービン本体		<ul style="list-style-type: none"> <li>□復水器</li> <li>□関連配管・弁</li> </ul>			
(10) 蒸気タービンの附属設備		<ul style="list-style-type: none"> <li>□湿分分離加熱器</li> <li>□スチームコンバータ中間熱交換器</li> <li>□湿分分離加熱器第1段加熱器ドレンタンク</li> <li>□湿分分離加熱器第2段加熱器ドレンタンク</li> <li>□スチームコンバータフラッシュタンク</li> <li>□関連配管 (タービン補助蒸気系, 抽気系, タービングランド蒸気系, 復水器空気抽出系, 復水給水系, 給水加熱器ドレンベント系, スチームコンバータ系)</li> </ul>			

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (5/13)

施設	耐震重要度分類	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
4. 計測制御系統施設 (1) 制御材		○制御棒			○原子炉建屋【S s】 ○原子炉本体の基礎【S s】	○タービン建屋【S s】*1 ○制御建屋【S s】*1
(2) 制御材駆動装置		○制御棒駆動機構 ○水圧制御ユニット (アキュムレータ) ○水圧制御ユニット (窒素容器) ○関連配管・弁 (制御棒駆動水圧系)	□スクラム排出容器 □関連配管 (制御棒駆動水圧系)			
(3) ほう酸水注入設備		○ほう酸水注入系ポンプ ○ほう酸水注入系貯蔵タンク ○関連配管・弁 (ほう酸水注入系)				
(4) 計測装置		○起動領域モニタ ○出力領域モニタ ○原子炉隔離時冷却系ポンプ駆動用タービン入口蒸気圧力 ○原子炉隔離時冷却系ポンプ出口圧力 ○高圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力 ○原子炉冷却材浄化系入口流量 ○原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 ○高圧炉心スプレイ系ポンプ出口流量 ○残留熱除去系ポンプ出口流量 ○低圧炉心スプレイ系ポンプ出口流量 ○原子炉圧力 ○原子炉水位 ○原子炉水位 (広帯域) ○原子炉水位 (燃料域) ○ドライウエル圧力 ○圧力抑制室圧力 ○ドライウエル温度 ○圧力抑制室内空気温度 ○サプレッションプール水温度 ○格納容器内雰囲気酸素濃度		□残留熱除去系ポンプ出口圧力 □低圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力 □残留熱除去系熱交換器入口温度 □残留熱除去系熱交換器出口温度	○制御建屋【S s】	○耐火隔壁【S s】 ○中央制御室天井照明【S s】 ○補助ボイラー建屋【S s】*1 ○第 1 号機制御建屋【S s】*1

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (6/13)

施設	耐震重要度分類	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
(4) 計測装置 (つづき)		○格納容器内雰囲気水素濃度 ○原子炉再循環ポンプ入口流量 ○圧力抑制室水位				
(5) 原子炉非常停止信号		—				
(6) 工学的安全施設等の起動信号		—				
(7) 制御用空気設備		○関連配管・弁 (高圧窒素ガス供給系)		□関連配管 (高圧窒素ガス供給系)		
(8) 発電用原子炉の運転を管理するための制御装置		—				
(9) その他		○6-2C 母線電圧※ ○6-2D 母線電圧※ ○6-2H 母線電圧※ ○4-2C 母線電圧※ ○4-2D 母線電圧※ ○125V 直流主母線 2A 電圧※ ○125V 直流主母線 2B 電圧※ ○250V 直流主母線電圧※ ○HPCS125V 直流主母線電圧※ ○原子炉補機冷却水系系統流量		□送受話装置 (ページング) (警報装置を含む。) ※ □統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム, IP 電話及び IP-FAX) ※ □無線連絡設備 (固定型) ※ □衛星電話設備 (固定型) ※ □安全パラメータ表示システム (SPDS) □データ伝送設備※ □通信事業者回線 (統合原子力防災ネットワーク) ※ □電力保安通信用回線※ □通信事業者回線※ □残留熱除去系熱交換器冷却水入口流量 ※	□緊急時対策建屋【Sc】	○ほう酸水注入系テストタンク【Ss】

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (7/13)

耐震重要度分類 施設	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を 考慮すべき施設
5. 放射性廃棄物の廃棄施設 (1) 気体、液体又は固体廃棄物処理設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○排気筒</li> <li>○関連配管・弁 (放射性ドレン移送系)</li> <li>×関連配管 (サブプレッション プール水貯蔵系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□関連配管 (気体廃棄物処理系, 放射性ドレン移送系, 機器ドレン系, 床ドレン・化学廃液系, サイトバンカ設備, 廃スラッジ系, 濃縮廃液系)</li> <li>×関連配管・弁 (サブプレッションプール水貯蔵系)</li> <li>×サブプレッションプール水移送ポンプ</li> <li>×サブプレッションプール水貯蔵タンク (第 1, 2 号機共用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□関連配管 (床ドレン・化学廃液系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○排気筒基礎【S s】</li> <li>○原子炉建屋【S s】</li> <li>□排気筒連絡ダクト【S<sub>B</sub>】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タービン建屋【S s】*1</li> <li>○制御建屋【S s】*1</li> <li>○第 1 号機排気筒【S s】</li> </ul>



表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (8/13)

施設	耐震重要度分類	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
6. 放射線管理施設						
(1) 放射線管理用計測装置		<input type="checkbox"/> 主蒸気管放射線モニタ <input type="checkbox"/> 格納容器内雰囲気放射線モニタ (D/W) <input type="checkbox"/> 格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C) <input type="checkbox"/> 燃料取替エリア放射線モニタ <input type="checkbox"/> 原子炉建屋原子炉棟排気放射線モニタ		<input type="checkbox"/> 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ <input type="checkbox"/> 燃料交換フロア放射線モニタ <input type="checkbox"/> モニタリングポスト (第1号機設備, 第1, 2, 3号機共用) <input type="checkbox"/> 構内ダストモニタ (第1号機設備, 第1, 2, 3号機共用)	<input type="checkbox"/> 原子炉建屋【S s】 <input type="checkbox"/> 制御建屋【S s】	<input type="checkbox"/> タービン建屋【S s】*1 <input type="checkbox"/> 制御建屋【S s】*1 <input type="checkbox"/> 補助ボイラー建屋【S s】*1 <input type="checkbox"/> 第1号機制御建屋【S s】*1
(2) 換気設備		<input type="checkbox"/> 中央制御室送風機 <input type="checkbox"/> 中央制御室再循環送風機 <input type="checkbox"/> 中央制御室排風機 <input type="checkbox"/> 中央制御室再循環フィルタ装置 <input type="checkbox"/> 関連配管 (中央制御室換気空調系)				
(3) 生体遮蔽装置		<input type="checkbox"/> 中央制御室しゃへい壁	<input type="checkbox"/> 2次しゃへい壁 (原子炉建屋原子炉棟外壁) <input type="checkbox"/> 補助しゃへい (原子炉建屋) <input type="checkbox"/> 補助しゃへい (タービン建屋) <input type="checkbox"/> 補助しゃへい (制御建屋) <input type="checkbox"/> 原子炉しゃへい壁		<input type="checkbox"/> タービン建屋【S <sub>B</sub> 】	
(4) その他				<input type="checkbox"/> モニタリングポスト (データ伝送系 (有線)) ※ <input type="checkbox"/> モニタリングポスト (データ伝送系 (無線)) ※	<input type="checkbox"/> 緊急時対策建屋【S <sub>C</sub> 】	

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (9/13)

耐震重要度分類 施設	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を 考慮すべき施設
7. 原子炉格納施設 (1) 原子炉格納容器  (2) 原子炉建屋  (3) 圧力低減設備 その他の安全設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原子炉格納容器</li> <li>○機器搬出入用ハッチ</li> <li>○逃がし安全弁搬出入口</li> <li>○制御棒駆動機構搬出入口</li> <li>○サプレッションチェンバ出入口</li> <li>○所員用エアロック</li> <li>○配管貫通部</li> <li>○電気配線貫通部</li>   <li>○原子炉建屋原子炉棟 (二次格納施設)</li> <li>○原子炉建屋大物搬入口</li> <li>○原子炉建屋エアロック</li>   <li>○真空破壊弁</li> <li>○ダウンカム</li> <li>○ベント管</li> <li>○ベント管ベローズ</li> <li>○ベントヘッダ</li> <li>□ドライウェルスプレイ管</li> <li>○サプレッションチェンバスプレイ管</li> <li>○非常用ガス処理系空気乾燥装置</li> <li>○非常用ガス処理系排風機</li> <li>○非常用ガス処理系フィルタ装置</li> <li>○可燃性ガス濃度制御系再結合装置加熱器</li> <li>○可燃性ガス濃度制御系再結合装置ブロフ</li> <li>○可燃性ガス濃度制御系再結合装置</li> <li>○関連配管・弁 (非常用ガス処理系, 可燃性ガス濃度制御系, 原子炉格納容器調気系)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>□関連配管 (原子炉格納容器調気系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原子炉建屋【S s】</li>   <li>○原子炉建屋基礎版【S s】</li>   <li>○排気筒連絡ダクト【S s】</li> <li>○排気筒基礎【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原子炉ウェルカバー【S s】</li> <li>○タービン建屋【S s】*1</li> <li>○制御建屋【S s】*1</li> </ul>

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (10/13)

耐震重要度分類 施設	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を 考慮すべき施設
8. その他発電用原子炉の 附属施設 (1) 非常用電源設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○非常用ディーゼル発電設備ディーゼル機関</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備調速装置</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備非常調速装置</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備機関付清水ポンプ</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備空気だめ (自動)</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備空気だめ (手動)</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備燃料デイトンク</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプ※</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備軽油タンク※</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備非常用ディーゼル発電機</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備励磁装置</li> <li>○非常用ディーゼル発電設備保護継電装置</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備高圧炉心スプレイ系 ディーゼル機関</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備調速装置</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備非常調速装置</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備機関付清水ポンプ</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備空気だめ (自動)</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備空気だめ (手動)</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備燃料デイトンク</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備燃料移送ポンプ※</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備軽油タンク※</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備励磁装置</li> <li>○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備保護継電装置</li> <li>○関連配管・弁※</li> <li>○無停電交流電源用静止形無停電電源装置</li> <li>○125V 蓄電池 2A 及び 2B</li> <li>○125V 蓄電池 2H</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○原子炉建屋【S s】</li> <li>○制御建屋【S s】</li> <li>○軽油タンク室【S s】</li> <li>○軽油タンク室(H)【S s】</li> <li>○軽油タンク連絡ダクト 【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タービン建屋【S s】*1</li> <li>○制御建屋【S s】*1</li> </ul>



表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (12/13)

耐震重要度分類 施設	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を 考慮すべき施設
(4) 浸水防護施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防潮堤（鋼管式鉛直壁）*3※</li> <li>○防潮堤（盛土堤防）*3※</li> <li>○防潮壁（第2号機海水ポンプ室）*3※</li> <li>○防潮壁（第2号機放水立坑）*3※</li> <li>○防潮壁（第3号機海水ポンプ室）*3※</li> <li>○防潮壁（第3号機放水立坑）*3※</li> <li>○防潮壁（第3号機海水熱交換器建屋）*3※</li> <li>○取放水路流路縮小工（第1号機取水路）*3※</li> <li>○取放水路流路縮小工（第1号機放水路）*3※</li> <li>○貯留堰*3※</li> <li>○逆流防止設備*3※</li> <li>○水密扉*3※</li> <li>○浸水防止蓋*3※</li> <li>○逆止弁付ファンネル*3※</li> <li>○貫通部止水処置*3※</li> <li>○津波監視カメラ*3※</li> <li>○取水ピット水位計*3※</li> <li>○浸水防止壁*3※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□水密扉※</li> <li>□堰※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□水密扉※</li> <li>□堰※</li> <li>○水密扉【S s】*2※</li> <li>○堰【S s】*2※</li> <li>○貫通部止水処置【S s】*2※</li> <li>○逆流防止装置【S s】*2※</li> <li>○循環水系隔離システム【S s】*2※</li> <li>○タービン補機冷却海水系隔離システム【S s】*2※</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第3号機海水熱交換器建屋【S s】</li> <li>○取水口【S s】</li> <li>○防潮堤（鋼管式鉛直壁）【S s】</li> <li>○防潮堤（盛土堤防）【S s】</li> <li>○出口側集水ピット（屋外排水路逆流防止設備（防潮堤南側））【S s】</li> <li>○出口側集水ピット（屋外排水路逆流防止設備（防潮堤北側））【S s】</li> <li>○防潮壁（第2号機放水立坑）【S s】</li> <li>○防潮壁（第3号機放水立坑）【S s】</li> <li>○揚水井戸（第3号機海水ポンプ室防潮壁区画内）【S s】</li> <li>○海水ポンプ室【S s】</li> <li>○原子炉機器冷却海水配管ダクト【S s】</li> <li>○第3号機補機冷却海水系放水ピット【S s】</li> <li>○第3号機海水ポンプ室【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1号機取水路【S s】</li> <li>○第3号機取水路【S s】</li> <li>○北側排水路【S s】</li> <li>○アクセスルート（防潮堤（盛土堤防））【S s】</li> <li>○竜巻防護ネット【S s】</li> <li>○前面護岸【S s】</li> <li>○防護設備（防潮堤（鋼管式鉛直壁））【S s】</li> </ul>
(5) 補機駆動用燃料設備	—				
(6) 非常用取水設備			<ul style="list-style-type: none"> <li>○貯留堰【S s】※</li> <li>○取水口【S s】※</li> <li>○取水路【S s】※</li> <li>○海水ポンプ室【S s】※</li> </ul>		

表 2-2 設計基準対象施設の申請設備の耐震重要度分類 (13/13)

耐震重要度分類 施設	S	B	C	間接支持構造物	波及的影響を 考慮すべき施設
9. 施設共通 (1) 地下水位低下設備			○ドレーン【S s】*4※ ○接続柵【S s】*4※ ○揚水井戸【S s】*4※ ○揚水ポンプ【S s】*4※ ○水位計【S s】*4※ ○制御盤【S s】*4※ ○電源盤【S s】*4※ ○関連配管・弁【S s】*4※	○揚水井戸 (第2号機 原子炉建屋東側) 【S s】 ○揚水井戸 (第2号機 原子炉建屋西側) 【S s】 ○揚水井戸 (第3号機 海水熱交換器建屋東 側)【S s】 ○揚水井戸 (第3号機 海水熱交換器建屋北 側)【S s】 ○原子炉建屋【S s】 ○制御建屋【S s】	○タービン建屋【S s】*1 ○制御建屋【S s】*1 ○補助ボイラー建屋【S s】*1 ○第1号機制御建屋【S s】*1
(2) 屋外排水路			○敷地側集水ピット (北側) 【S s】*5※ ○北側排水路 (防潮堤横断部) 【S s】*5※ ○出口側集水ピット (北側) 【S s】*5※ ○敷地側集水ピット (南側) 【S s】*5※ ○南側排水路 (防潮堤横断部) 【S s】*5※ ○出口側集水ピット (南側) 【S s】*5※		

注記\*1：間接支持構造物への波及的影響評価を実施する。

\*2：火災感知及び消火の機能並びに地震時の溢水伝播を防止する設備としての耐震設計方針を示す。

\*3：津波防護施設、浸水防止設備及び津波監視設備としての耐震重要度を示す。

\*4：地下水位を一定の範囲に保持するための設備としての耐震設計方針を示す。

\*5：地下水位低下設備で汲み上げた地下水を海へ排出するための屋外排水路としての耐震設計方針を示す。

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(1/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	1. 常設耐震重要重大事故防止設備  常設重大事故防止設備であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの	1. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 ・使用済燃料プール (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用) ・使用済燃料貯蔵ラック (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用) ・制御棒・破損燃料貯蔵ラック ・燃料プール冷却浄化系熱交換器 (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用) ・燃料プール冷却浄化系ポンプ (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用) ・スキマサージタンク (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用) ・関連配管 ・サイフォンブレイク孔	・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】	・原子炉建屋クレーン【S s】 ・燃料交換機【S s】 ・制御棒貯蔵ラック【S s】 ・燃料チャンネル着脱機【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・制御建屋*【S s】
		2. 原子炉冷却系統施設 ・主蒸気逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ ・主蒸気逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ ・主蒸気逃がし安全弁 ・高圧代替注水系タービンポンプ ・復水貯蔵タンク ・直流駆動低圧注水系ポンプ ・復水移送ポンプ ・ほう酸水注入系ポンプ ・ほう酸水注入系貯蔵タンク ・原子炉補機冷却水サージタンク ・関連配管 ・関連弁 ・原子炉格納容器 ・フィルタ装置出口側ラプチャディスク ・フィルタ装置 ・遠隔手動弁操作設備 ・排気筒 ・炉心支持構造物	・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物 ・原子炉圧力容器支持スカート	・原子炉建屋【S s】 ・復水貯蔵タンク基礎【S s】 ・原子炉本体の基礎【S s】 ・排気筒基礎【S s】 ・排気筒連絡ダクト【S s】	・第 1 号機排気筒【S s】 ・原子炉ウェルカバー【S s】 ・原子炉しゃへい壁【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・制御建屋*【S s】

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(2/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	1. 常設耐震重要重大事故防止設備  常設重大事故防止設備であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉圧力容器</li> <li>・原子炉建屋ブローアウトパネル</li> <li>・給水スパーージャ</li> <li>・残留熱除去系配管（原子炉圧力容器内部）</li> <li>・高圧炉心スプレイ系配管（原子炉圧力容器内部）</li> <li>・高圧炉心スプレイスパーージャ</li> <li>・差圧検出・ほう酸水注入系配管（ティーより N11 ノズルまでの外管）</li> <li>・差圧検出・ほう酸水注入系配管（原子炉圧力容器内部）</li> <li>・残留熱除去系熱交換器</li> </ul>			
		3. 計測制御系統施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御棒</li> <li>・制御棒駆動機構</li> <li>・水圧制御ユニット（アキュムレータ）</li> <li>・水圧制御ユニット（窒素容器）</li> <li>・ほう酸水注入系ポンプ</li> <li>・ほう酸水注入系貯蔵タンク</li> <li>・起動領域モニタ</li> <li>・出力領域モニタ</li> <li>・高圧代替注水系ポンプ出口圧力</li> <li>・直流駆動低圧注水系ポンプ出口圧力</li> <li>・復水移送ポンプ出口圧力</li> <li>・残留熱除去系熱交換器出口温度</li> <li>・高圧代替注水系ポンプ出口流量</li> <li>・残留熱除去系洗浄ライン流量（残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量）</li> <li>・残留熱除去系洗浄ライン流量（残留熱除去系 B 系格納容器冷却ライン洗浄流量）</li> <li>・直流駆動低圧注水系ポンプ出口流量</li> <li>・原子炉圧力</li> <li>・原子炉圧力（SA）</li> <li>・原子炉水位（広帯域）</li> <li>・原子炉水位（燃料域）</li> <li>・原子炉水位（SA 広帯域）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> <li>・原子炉圧力容器支持スカート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋【S s】</li> <li>・原子炉本体の基礎【S s】</li> <li>・制御建屋【S s】</li> <li>・復水貯蔵タンク基礎【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央制御室天井照明【S s】</li> <li>・耐火隔壁【S s】</li> <li>・原子炉しゃへい壁【S s】</li> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・制御建屋*【S s】</li> <li>・補助ボイラー建屋*【S s】</li> <li>・第 1 号機制御建屋*【S s】</li> </ul>



表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(3/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
<p>基準地震動S<sub>s</sub>による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの</p>	<p>1. 常設耐震重要 重大事故防止設備</p> <p>常設重大事故防止設備であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉水位 (SA 燃料域)</li> <li>・圧力抑制室圧力</li> <li>・圧力抑制室内空気温度</li> <li>・サプレッションプール水温度</li> <li>・格納容器内水素濃度 (D/W)</li> <li>・格納容器内水素濃度 (S/C)</li> <li>・復水貯蔵タンク水位</li> <li>・原子炉格納容器代替スプレイ流量</li> <li>・圧力抑制室水位</li> <li>・関連配管</li> <li>・関連弁</li> <li>・フィルタ装置出口水素濃度</li> <li>・原子炉圧力容器温度</li> <li>・フィルタ装置入口圧力 (広域帯)</li> <li>・フィルタ装置出口圧力 (広域帯)</li> <li>・フィルタ装置水位 (広域帯)</li> <li>・フィルタ装置水温度</li> <li>・高圧窒素ガス供給系 ADS 入口圧力</li> <li>・代替高圧窒素ガス供給系窒素ガス供給止め弁入口圧力</li> <li>・6-2F-1 母線電圧</li> <li>・6-2F-2 母線電圧</li> <li>・6-2C 母線電圧</li> <li>・6-2D 母線電圧</li> <li>・4-2C 母線電圧</li> <li>・4-2D 母線電圧</li> <li>・125V 直流主母線 2A 電圧</li> <li>・125V 直流主母線 2B 電圧</li> <li>・125V 直流主母線 2A-1 電圧</li> <li>・125V 直流主母線 2B-1 電圧</li> <li>・250V 直流主母線電圧</li> <li>・差圧検出・ほう酸水注入系配管 (ティーより N11 ノズルまでの外管)</li> <li>・差圧検出・ほう酸水注入系配管 (原子炉圧力容器内部)</li> </ul>			

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(4/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	1. 常設耐震重要 重大事故防止設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炉心支持構造物</li> <li>・原子炉圧力容器</li> <li>・主蒸気逃がし安全弁自動減圧機能用 アキュムレータ</li> <li>・主蒸気逃がし安全弁</li> </ul>			
	常設重大事故防止設備 であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの	4. 放射線管理施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器内雰囲気放射線モニタ (D/W)</li> <li>・格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C)</li> <li>・フィルタ装置出口放射線モニタ</li> <li>・耐圧強化ベント系放射線モニタ</li> <li>・使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (低線量)</li> <li>・使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量)</li> <li>・中央制御室送風機</li> <li>・中央制御室再循環送風機</li> <li>・中央制御室排風機</li> <li>・中央制御室再循環フィルタ装置</li> <li>・中央制御室しゃへい壁</li> <li>・関連配管</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋【S s】</li> <li>・制御建屋【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋クレーン【S s】</li> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・制御建屋*【S s】</li> <li>・補助ボイラー建屋*【S s】</li> <li>・第1号機制御建屋*【S s】</li> </ul>
		5. 原子炉格納施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉格納容器</li> <li>・機器搬出入用ハッチ</li> <li>・逃がし安全弁搬出入口</li> <li>・制御棒挿入機構搬出入口</li> <li>・サブプレッションチェンバ出入口</li> <li>・所員用エアロック</li> <li>・配管貫通部</li> <li>・電気配線貫通部</li> <li>・真空破壊弁</li> <li>・ダウンカマ</li> <li>・ベント管</li> <li>・ベント管ベローズ</li> <li>・ベントヘッド</li> <li>・ドライウェルスプレイ管</li> <li>・サブプレッションチェンバスプレイ管</li> <li>・復水移送ポンプ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋【S s】</li> <li>・復水貯蔵タンク基礎【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉ウェルカバー【S s】</li> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・制御建屋*【S s】</li> </ul>

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設 (5/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	1. 常設耐震重要 重大事故防止設備  常設重大事故防止設備であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復水貯蔵タンク</li> <li>・フィルタ装置</li> <li>・フィルタ装置出口側ラプチャディスク</li> <li>・関連配管</li> <li>・関連弁</li> <li>・遠隔手動弁操作設備</li> <li>・遠隔手動弁操作設備遮蔽</li> </ul>			
		6. 非常用電源設備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用ディーゼル発電設備軽油タンク</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備軽油タンク</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン機関</li> <li>・ガスタービン発電設備調速装置</li> <li>・ガスタービン発電設備非常調速装置</li> <li>・ガスタービン発電設備燃料移送ポンプ</li> <li>・ガスタービン発電設備軽油タンク</li> <li>・ガスタービン発電設備燃料小出槽</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン発電機</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン発電機励磁装置</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン発電機保護継電装置</li> <li>・緊急時対策所軽油タンク</li> <li>・125V 蓄電池 2A 及び 2B</li> <li>・125V 代替蓄電池</li> <li>・250V 蓄電池</li> <li>・関連配管</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (非常用)</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (高圧炉心スプレイ系用)</li> <li>・パワーセンタ (非常用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (非常用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (高圧炉心スプレイ系用)</li> <li>・動力変圧器 (非常用)</li> <li>・動力変圧器 (高圧炉心スプレイ系用)</li> <li>・460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (非常用)</li> <li>・中央制御室 120V 交流分電盤 (非常用)</li> <li>・ガスタービン発電機接続盤</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (緊急用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽油タンク室【S s】</li> <li>・緊急用電気品建屋【S s】</li> <li>・ガスタービン発電設備軽油タンク室【S s】</li> <li>・軽油タンク室(H)【S s】</li> <li>・緊急時対策建屋【S s】</li> <li>・原子炉建屋【S s】</li> <li>・制御建屋【S s】</li> <li>・軽油タンク連絡ダクト【S s】</li> <li>・ガスタービン発電設備車両【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・制御建屋*【S s】</li> <li>・補助ボイラー建屋*【S s】</li> <li>・第1号機制御建屋*【S s】</li> </ul>

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(6/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S <sub>s</sub> による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	1. 常設耐震重要重大事故防止設備  常設重大事故防止設備であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動力変圧器 (緊急用)</li> <li>・パワーセンタ (緊急用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (緊急用)</li> <li>・ガスタービン発電設備燃料移送ポンプ接続盤</li> <li>・460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)</li> <li>・120V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)</li> <li>・中央制御室 120V 交流分電盤 (緊急用)</li> <li>・125V 充電器 2A 及び 2B</li> <li>・125V 直流主母線盤 2A 及び 2B</li> <li>・125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1</li> <li>・125V 直流分電盤 2A-1, 2A-2, 2A-3, 2B-1, 2B-2 及び 2B-3</li> <li>・125V 直流電源切替盤 2A 及び 2B</li> <li>・125V 直流 RCIC モータコントロールセンタ</li> <li>・125V 充電器 2H</li> <li>・125V 直流主母線盤 2H</li> <li>・125V 代替充電器</li> <li>・250V 充電器</li> <li>・250V 直流主母線盤</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (緊急時対策所用)</li> <li>・動力変圧器 (緊急時対策所用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (緊急時対策所用)</li> <li>・105V 交流電源切替盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・105V 交流分電盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・120V 交流分電盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・210V 交流分電盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・125V 直流主母線盤 (緊急時対策所用)</li> </ul>			
		7. 補機駆動用燃料設備 ・非常用ディーゼル発電設備軽油タンク ・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備軽油タンク ・ガスタービン発電設備軽油タンク ・関連配管	・機器・配管等の支持構造物	・軽油タンク室【S <sub>s</sub> 】 ・軽油タンク室(H)【S <sub>s</sub> 】 ・ガスタービン発電設備軽油タンク室【S <sub>s</sub> 】	—
		8. 非常用取水設備 ・貯留堰	—	・取水口【S <sub>s</sub> 】	・前面護岸【S <sub>s</sub> 】

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設 (7/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
<p>基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの</p>	<p>2. 常設重大事故緩和設備</p> <p>重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの</p>	<p>1. 核燃料物質の取扱及び貯蔵施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済燃料プール (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用)</li> <li>・使用済燃料貯蔵ラック (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用)</li> <li>・制御棒・破損燃料貯蔵ラック</li> <li>・使用済燃料プール水位/温度 (ガイドパルス式)</li> <li>・使用済燃料プール水位/温度 (ヒートサーモ式)</li> <li>・関連配管</li> <li>・使用済燃料プール監視カメラ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋クレーン【S s】</li> <li>・燃料交換機【S s】</li> <li>・制御棒貯蔵ラック【S s】</li> <li>・燃料チャンネル着脱機【S s】</li> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・制御建屋*【S s】</li> </ul>
		<p>2. 原子炉冷却系統施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主蒸気逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ</li> <li>・主蒸気逃がし安全弁</li> <li>・高圧代替注水系タービンポンプ</li> <li>・復水貯蔵タンク</li> <li>・復水移送ポンプ</li> <li>・代替循環冷却ポンプ</li> <li>・残留熱除去系ストレーナ</li> <li>・原子炉補機冷却水サージタンク</li> <li>・関連配管</li> <li>・関連弁</li> <li>・炉心支持構造物</li> <li>・原子炉圧力容器</li> <li>・給水スパーージャ</li> <li>・残留熱除去系配管 (原子炉圧力容器内部)</li> <li>・残留熱除去系熱交換器</li> <li>・原子炉格納容器</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</li> <li>・原子炉圧力容器支持スカート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋【S s】</li> <li>・復水貯蔵タンク基礎【S s】</li> <li>・原子炉本体の基礎【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・制御建屋*【S s】</li> <li>・原子炉しゃへい壁【S s】</li> </ul>

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設 (8/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
<p>基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの</p>	<p>2. 常設重大事故緩和設備</p> <p>重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの</p>	<p>3. 計測制御系統施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほう酸水注入系ポンプ</li> <li>・ほう酸水注入系貯蔵タンク</li> <li>・高圧代替注水系ポンプ出口圧力</li> <li>・代替循環冷却ポンプ出口圧力</li> <li>・復水移送ポンプ出口圧力</li> <li>・残留熱除去系熱交換器入口温度</li> <li>・高圧代替注水系ポンプ出口流量</li> <li>・残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量)</li> <li>・残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系 B 系格納容器冷却ライン洗浄流量)</li> <li>・代替循環冷却ポンプ出口流量</li> <li>・原子炉圧力</li> <li>・原子炉圧力 (SA)</li> <li>・原子炉水位 (広帯域)</li> <li>・原子炉水位 (燃料域)</li> <li>・原子炉水位 (SA 広帯域)</li> <li>・原子炉水位 (SA 燃料域)</li> <li>・ドライウエル圧力</li> <li>・圧力抑制室圧力</li> <li>・ドライウエル温度</li> <li>・圧力抑制室内空気温度</li> <li>・サブプレッションプール水温度</li> <li>・原子炉格納容器下部温度</li> <li>・格納容器内雰囲気酸素濃度</li> <li>・格納容器内水素濃度 (D/W)</li> <li>・格納容器内水素濃度 (S/C)</li> <li>・格納容器内雰囲気水素濃度</li> <li>・復水貯蔵タンク水位</li> <li>・原子炉格納容器代替スプレイ流量</li> <li>・原子炉格納容器下部注水流量</li> <li>・圧力抑制室水位</li> <li>・原子炉格納容器下部水位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> <li>・原子炉圧力容器支持スカート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉建屋【S s】</li> <li>・制御建屋【S s】</li> <li>・復水貯蔵タンク基礎【S s】</li> <li>・緊急時対策建屋【S s】</li> <li>・原子炉本体の基礎【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CRD 自動交換機【S s】</li> <li>・耐火隔壁【S s】</li> <li>・原子炉建屋クレーン【S s】</li> <li>・中央制御室天井照明【S s】</li> <li>・原子炉しゃへい壁【S s】</li> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・制御建屋*【S s】</li> <li>・補助ボイラー建屋*【S s】</li> <li>・第 1 号機制御建屋*【S s】</li> </ul>

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(9/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
<p>基準地震動 S<sub>s</sub> による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの</p>	<p>2. 常設重大事故緩和設備</p> <p>重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドライウエル水位</li> <li>・ 原子炉建屋内水素濃度</li> <li>・ 関連配管</li> <li>・ 関連弁</li> <li>・ 無線連絡設備 (固定型)</li> <li>・ 衛星電話設備 (固定型)</li> <li>・ 安全パラメータ表示システム (SPDS)</li> <li>・ データ伝送設備</li> <li>・ フィルタ装置出口水素濃度</li> <li>・ 静的触媒式水素再結合装置動作監視装置</li> <li>・ 原子炉圧力容器温度</li> <li>・ フィルタ装置入口圧力 (広帯域)</li> <li>・ フィルタ装置出口圧力 (広帯域)</li> <li>・ フィルタ装置水位 (広帯域)</li> <li>・ フィルタ装置水温度</li> <li>・ 6-2F-1 母線電圧</li> <li>・ 6-2F-2 母線電圧</li> <li>・ 6-2C 母線電圧</li> <li>・ 6-2D 母線電圧</li> <li>・ 4-2C 母線電圧</li> <li>・ 4-2D 母線電圧</li> <li>・ 125V 直流主母線 2A 電圧</li> <li>・ 125V 直流主母線 2B 電圧</li> <li>・ 125V 直流主母線 2A-1 電圧</li> <li>・ 125V 直流主母線 2B-1 電圧</li> <li>・ 差圧検出・ほう酸水注入系配管 (ティーより N11 ノズルまでの外管)</li> <li>・ 差圧検出・ほう酸水注入系配管 (原子炉圧力容器内部)</li> <li>・ 炉心支持構造物</li> <li>・ 原子炉圧力容器</li> </ul>			

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(10/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	2. 常設重大事故緩和設備  重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの	4. 放射線管理施設 ・格納容器内雰囲気放射線モニタ(D/W) ・格納容器内雰囲気放射線モニタ(S/C) ・フィルタ装置出口放射線モニタ ・使用済燃料プール上部空間放射線モニタ(低線量) ・使用済燃料プール上部空間放射線モニタ(高線量) ・中央制御室送風機 ・中央制御室再循環送風機 ・中央制御室排風機 ・中央制御室再循環フィルタ装置 ・緊急時対策所非常用送風機 ・緊急時対策所非常用フィルタ装置 ・2次しゃへい壁(原子炉建屋原子炉棟外壁) ・補助しゃへい(原子炉建屋) ・補助しゃへい(制御建屋) ・中央制御室しゃへい壁 ・中央制御室待避所遮蔽 ・緊急時対策所遮蔽 ・関連配管	・機器・配管、電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】 ・制御建屋【S s】 ・緊急時対策建屋【S s】	・原子炉建屋クレーン【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・制御建屋*【S s】 ・補助ボイラー建屋*【S s】 ・第1号機制御建屋*【S s】
		5. 原子炉格納施設 ・原子炉格納容器 ・機器搬出入用ハッチ ・逃がし安全弁搬出入口 ・制御棒駆動機構搬出入口 ・サプレッションチェンバ出入口 ・所員用エアロック ・配管貫通部 ・電気配線貫通部 ・原子炉建屋原子炉棟(二次格納施設) ・原子炉建屋大物搬入口 ・原子炉建屋エアロック	・機器・配管、電気計装設備等の支持構造物 ・原子炉圧力容器支持スカート	・原子炉建屋【S s】 ・復水貯蔵タンク基礎【S s】 ・排気筒連絡ダクト【S s】 ・排気筒基礎【S s】 ・原子炉本体の基礎【S s】	・原子炉ウエルカバー【S s】 ・原子炉建屋クレーン【S s】 ・第1号機排気筒【S s】 ・原子炉しゃへい壁【S s】 ・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】



表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(11/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
<p>基準地震動 S<sub>s</sub> による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの</p>	<p>2. 常設重大事故緩和設備</p> <p>重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真空破壊弁</li> <li>・ダウンコマ</li> <li>・ベント管</li> <li>・ベント管ベローズ</li> <li>・ベントヘッド</li> <li>・ドライウェルスプレイ管</li> <li>・サプレッションチェンバスプレイ管</li> <li>・復水移送ポンプ</li> <li>・代替循環冷却ポンプ</li> <li>・復水貯蔵タンク</li> <li>・残留熱除去系ストレーナ</li> <li>・残留熱除去系熱交換器</li> <li>・高圧代替注水系タービンポンプ</li> <li>・ほう酸水注入系ポンプ</li> <li>・ほう酸水注入系貯蔵タンク</li> <li>・非常用ガス処理系排風機</li> <li>・静的触媒式水素再結合装置</li> <li>・フィルタ装置</li> <li>・フィルタ装置出口側ラプチャディスク</li> <li>・関連配管</li> <li>・関連弁</li> <li>・炉心支持構造物</li> <li>・原子炉圧力容器</li> <li>・残留熱除去系配管（原子炉圧力容器内部）</li> <li>・給水スパーージャ</li> <li>・差圧検出・ほう酸水注入系配管（ティーより N11 ノズルまでの外管）</li> <li>・差圧検出・ほう酸水注入系配管（原子炉圧力容器内部）</li> <li>・非常用ガス処理系空気乾燥装置</li> <li>・非常用ガス処理系フィルタ装置</li> <li>・排気筒</li> <li>・原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置</li> <li>・遠隔手動弁操作設備</li> <li>・遠隔手動弁操作設備遮蔽</li> </ul>			

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(12/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
<p>基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの</p>	<p>2. 常設重大事故緩和設備</p> <p>重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの</p>	<p>6. 非常用電源設備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用ディーゼル発電設備軽油タンク</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備軽油タンク</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン機関</li> <li>・ガスタービン発電設備調速装置</li> <li>・ガスタービン発電設備非常調速装置</li> <li>・ガスタービン発電設備燃料移送ポンプ</li> <li>・ガスタービン発電設備軽油タンク</li> <li>・ガスタービン発電設備燃料小出槽</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン発電機</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン発電機励磁装置</li> <li>・ガスタービン発電設備ガスタービン発電機保護継電装置</li> <li>・緊急時対策所軽油タンク</li> <li>・125V 蓄電池 2A 及び 2B</li> <li>・125V 代替蓄電池</li> <li>・関連配管</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (非常用)</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (高圧炉心スプレイ系用)</li> <li>・パワーセンタ (非常用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (非常用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (高圧炉心スプレイ系用)</li> <li>・動力変圧器 (非常用)</li> <li>・動力変圧器 (高圧炉心スプレイ系用)</li> <li>・460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (非常用)</li> <li>・中央制御室 120V 交流分電盤 (非常用)</li> <li>・ガスタービン発電機接続盤</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (緊急用)</li> <li>・動力変圧器 (緊急用)</li> <li>・パワーセンタ (緊急用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (緊急用)</li> <li>・ガスタービン発電設備燃料移送ポンプ接続盤</li> <li>・460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)</li> <li>・120V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)</li> <li>・中央制御室 120V 交流分電盤 (緊急用)</li> <li>・125V 充電器 2A 及び 2B</li> </ul>	<p>・機器・配管, 電気計装設備等の支持構造物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽油タンク室【S s】</li> <li>・緊急用電気品建屋【S s】</li> <li>・ガスタービン発電設備軽油タンク室【S s】</li> <li>・軽油タンク室(H)【S s】</li> <li>・軽油タンク連絡ダクト【S s】</li> <li>・緊急時対策建屋【S s】</li> <li>・原子炉建屋【S s】</li> <li>・制御建屋【S s】</li> <li>・ガスタービン発電設備車両【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御建屋*【S s】</li> <li>・タービン建屋*【S s】</li> <li>・補助ボイラー建屋*【S s】</li> <li>・第1号機制御建屋*【S s】</li> </ul>

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(13/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	2. 常設重大事故緩和設備  重大事故等対処設備のうち、重大事故が発生した場合において、当該重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する設備であって常設のもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・125V 直流主母線盤 2A 及び 2B</li> <li>・125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1</li> <li>・125V 直流分電盤 2A-1, 2A-2, 2A-3, 2B-1, 2B-2 及び 2B-3</li> <li>・125V 直流電源切替盤 2A 及び 2B</li> <li>・125V 直流 RCIC モータコントロールセンタ</li> <li>・125V 充電器 2H</li> <li>・125V 直流主母線盤 2H</li> <li>・125V 代替充電器</li> <li>・メタルクラッドスイッチギア (緊急時対策所用)</li> <li>・動力変圧器 (緊急時対策所用)</li> <li>・モータコントロールセンタ (緊急時対策所用)</li> <li>・105V 交流電源切替盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・105V 交流分電盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・120V 交流分電盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・210V 交流分電盤 (緊急時対策所用)</li> <li>・125V 直流主母線盤 (緊急時対策所用)</li> </ul>			
		7. 補機駆動用燃料設備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用ディーゼル発電設備軽油タンク</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備軽油タンク</li> <li>・ガスタービン発電設備軽油タンク</li> <li>・関連配管</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器・配管等の支持構造物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽油タンク室【S s】</li> <li>・軽油タンク室(H)【S s】</li> <li>・ガスタービン発電設備軽油タンク室【S s】</li> </ul>	—
		8. 非常用取水設備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・貯留堰</li> <li>・取水口</li> <li>・取水路</li> <li>・海水ポンプ室</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取水口【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前面護岸【S s】</li> <li>・防護設備 (防潮堤 (鋼管式鉛直壁))【S s】</li> </ul>

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(14/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
基準地震動 S s による地震力に対して重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないように設計するもの	3. 常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)  設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の拡大を防止し、又はその影響を緩和するための機能を有する常設重大事故緩和設備以外の常設のもの	1. 原子炉冷却系統施設 ・原子炉補機冷却水系熱交換器 ・原子炉補機冷却水ポンプ ・原子炉補機冷却海水ポンプ ・原子炉補機冷却水サージタンク ・原子炉補機冷却海水系ストレーナ ・関連配管	・機器・配管、電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】 ・海水ポンプ室【S s】 ・原子炉機器冷却海水配管ダクト【S s】	・竜巻防護ネット【S s】 ・海水ポンプ室門型クレーン【S s】 ・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・防護設備 (防潮堤 (鋼管式鉛直壁))【S s】*
	2. 非常用電源設備 ・非常用ディーゼル発電設備非常用ディーゼル機関 ・非常用ディーゼル発電設備調速装置 ・非常用ディーゼル発電設備非常調速装置 ・非常用ディーゼル発電設備機関付清水ポンプ ・非常用ディーゼル発電設備空気だめ (自動) ・非常用ディーゼル発電設備燃料デイトンク ・非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプ ・非常用ディーゼル発電設備非常用ディーゼル発電機 ・非常用ディーゼル発電設備励磁装置 ・非常用ディーゼル発電設備保護継電装置 ・関連配管 ・関連弁	・機器・配管、電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】 ・軽油タンク室【S s】 ・軽油タンク連絡ダクト【S s】	・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】	

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(15/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
静的地震力又は共振のおそれのある設備については弾性設計用地震動Sdに2分の1を乗じたものによる地震力に対して十分に耐えうる設計のもの	4. 常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備  常設重大事故防止設備であって、耐震重要施設に属する設計基準事故対処設備が有する機能を代替するもの以外のもの	1. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 ・使用済燃料プール水位/温度 (ガイドバルブ式) ・使用済燃料プール水位/温度 (ヒートサーモ式) ・使用済燃料プール監視カメラ	・電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】	・原子炉建屋クレーン【S s】 ・燃料交換機【S s】 ・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】
		2. 原子炉冷却系統施設 ・関連配管	・機器・配管等の支持構造物	・復水貯蔵タンク基礎【S s】	—
		3. 計測制御系統施設 ・ドライウエル圧力 ・ドライウエル温度 ・無線連絡設備 (固定型) ・衛星電話設備 (固定型)	・電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】 ・制御建屋【S s】 ・緊急時対策建屋【S s】	・中央制御室天井照明【S s】 ・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・補助ボイラー建屋*【S s】 ・第1号機制御建屋*【S s】
		4. 放射線管理施設 ・2次しゃへい壁 (原子炉建屋原子炉棟外壁) ・補助しゃへい (原子炉建屋) ・補助しゃへい (制御建屋)	—	・原子炉建屋【S s】 ・制御建屋【S s】	・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・補助ボイラー建屋*【S s】 ・第1号機制御建屋*【S s】
		5. 非常用取水設備 ・取水口 ・取水路 ・海水ポンプ室	—	—	・前面護岸【S s】 ・防護設備 (防潮堤 (鋼管式鉛直壁))【S s】

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(16/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
<p>当該設備が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力に十分に耐えることができるように設計するもの</p>	<p>5. 常設重大事故防止設備(設計基準拡張)</p> <p>設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の発生を防止する機能を有する常設重大事故防止設備以外の常設のもの</p>	<p>1. 原子炉冷却系統施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残留熱除去系熱交換器</li> <li>・ 残留熱除去系ポンプ</li> <li>・ 残留熱除去系ストレーナ</li> <li>・ ドライウェルスプレイ管</li> <li>・ サプレッションチェンバスプレイ管</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ系ポンプ</li> <li>・ 復水貯蔵タンク</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ系ストレーナ</li> <li>・ 低圧炉心スプレイ系ポンプ</li> <li>・ 低圧炉心スプレイ系ストレーナ</li> <li>・ 原子炉隔離時冷却系ポンプ</li> <li>・ 原子炉補機冷却水系熱交換器</li> <li>・ 原子炉補機冷却水ポンプ</li> <li>・ 原子炉補機冷却海水ポンプ</li> <li>・ 原子炉補機冷却水サージタンク</li> <li>・ 原子炉補機冷却海水系ストレーナ</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ補機冷却水系熱交換器</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ補機冷却水ポンプ</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ補機冷却海水ポンプ</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ補機冷却水サージタンク</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ補機冷却海水系ストレーナ</li> <li>・ 関連配管</li> <li>・ 関連弁</li> <li>・ 炉心支持構造物</li> <li>・ 原子炉圧力容器</li> <li>・ 原子炉格納容器</li> <li>・ ジェットポンプ</li> <li>・ 高圧炉心スプレイ系配管 (原子炉圧力容器内部)</li> <li>・ 高圧炉心スプレイスパージャ</li> <li>・ 低圧炉心スプレイ系配管 (原子炉圧力容器内部)</li> <li>・ 低圧炉心スプレイスパージャ</li> <li>・ 給水スパージャ</li> <li>・ 残留熱除去系配管 (原子炉圧力容器内部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器・配管、電気計装設備等の支持構造物</li> <li>・ 原子炉圧力容器支持スカート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉建屋【S s】</li> <li>・ 復水貯蔵タンク基礎【S s】</li> <li>・ 海水ポンプ室【S s】</li> <li>・ 原子炉機器冷却海水配管ダクト【S s】</li> <li>・ 原子炉本体の基礎【S s】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 竜巻防護ネット【S s】</li> <li>・ 海水ポンプ室門型クレーン【S s】</li> <li>・ 原子炉しゃへい壁【S s】</li> <li>・ 原子炉ウエルカバー【S s】</li> <li>・ 制御建屋*【S s】</li> <li>・ タービン建屋*【S s】</li> <li>・ 防護設備(防潮堤(鋼管式鉛直壁))【S s】*</li> </ul>

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(17/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
当該設備が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力に十分に耐えることができるように設計するもの	5. 常設重大事故防止設備(設計基準拡張)  設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の発生を防止する機能を有する常設重大事故防止設備以外の常設のもの	3. 計測制御系統施設 ・原子炉隔離時冷却系ポンプ出口圧力 ・高圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力 ・残留熱除去系ポンプ出口圧力 ・低圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力 ・残留熱除去系熱交換器入口温度 ・原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量 ・高圧炉心スプレイ系ポンプ出口流量 ・残留熱除去系ポンプ出口流量 ・低圧炉心スプレイ系ポンプ出口流量 ・原子炉補機冷却水系系統流量 ・残留熱除去系熱交換器冷却水入口流量 ・6-2H 母線電圧 ・HPCS125V 直流主母線電圧	・電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】 ・制御建屋【S s】	・耐火隔壁【S s】 ・中央制御室天井照明【S s】 ・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・補助ボイラー建屋*【S s】 ・第1号機制御建屋*【S s】
		4. 原子炉格納施設 ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系ポンプ ・残留熱除去系ストレーナ ・ドライウェルススプレイ管 ・サブプレッションチェンバススプレイ管 ・関連配管 ・関連弁 ・原子炉格納容器	・機器・配管，電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】	・原子炉ウェルカバー【S s】 ・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】
		5. 非常用電源設備 ・非常用ディーゼル発電設備非常用ディーゼル機関 ・非常用ディーゼル発電設備調速装置 ・非常用ディーゼル発電設備非常調速装置 ・非常用ディーゼル発電設備機関付清水ポンプ ・非常用ディーゼル発電設備空気だめ(自動) ・非常用ディーゼル発電設備燃料デイトンク ・非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプ ・非常用ディーゼル発電設備非常用ディーゼル発電機 ・非常用ディーゼル発電設備励磁装置	・機器・配管，電気計装設備等の支持構造物	・原子炉建屋【S s】 ・軽油タンク室【S s】 ・軽油タンク室(H)【S s】 ・軽油タンク連絡ダクト【S s】 ・制御建屋【S s】	・制御建屋*【S s】 ・タービン建屋*【S s】 ・補助ボイラー建屋*【S s】 ・第1号機制御建屋*【S s】

表 4-1 重大事故等対処施設の耐震設計上の分類別施設(18/18)

耐震設計上の分類	機能別分類	設備	直接支持構造物	間接支持構造物	波及的影響を考慮すべき施設
当該設備が属する耐震重要度分類のクラスに適用される地震力に十分に耐えることができるように設計するもの	5. 常設重大事故防止設備(設計基準拡張)  設計基準対象施設のうち、重大事故等時に機能を期待する設備であって、重大事故の発生を防止する機能を有する常設重大事故防止設備以外の常設のもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常用ディーゼル発電設備保護継電装置</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備高圧炉心スプレイ系ディーゼル機関</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備调速装置</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備非常调速装置</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備機関付清水ポンプ</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備空気だめ(自動)</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備燃料デイトンク</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備燃料移送ポンプ</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備励磁装置</li> <li>・高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備保護継電装置</li> <li>・125V 蓄電池 2H</li> <li>・関連配管</li> <li>・関連弁</li> <li>・125V 充電器 2H</li> <li>・125V 直流分電盤 2H</li> </ul>			

注記\* : 間接支持構造物への波及的影響評価を実施する。



表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類(1/23)

本表では、「常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備」を「常設重大事故防止設備」と表記する。

○印は耐震計算書を添付する。

□印は耐震計算書を添付しない。

【 】内は検討用地震動を示す。

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
1. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設			
(1) 使用済燃料貯蔵設備			
○使用済燃料プール（設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用）	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【Ss】 ○燃料交換機【Ss】
○使用済燃料貯蔵ラック（設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用）	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【Ss】 ○燃料交換機【Ss】 ○制御棒貯蔵ラック【Ss】 ○燃料チャンネル着脱機【Ss】
○制御棒・破損燃料貯蔵ラック	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【Ss】 ○燃料交換機【Ss】
○使用済燃料プール水位/温度（ガイドパルス式）	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【Ss】 ○燃料交換機【Ss】
○使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【Ss】 ○燃料交換機【Ss】
(2) 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備			
○燃料プール冷却浄化系熱交換器（設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用）	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Bクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○燃料プール冷却浄化系ポンプ（設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用）	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Bクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○スキマサージタンク（設計基準対象施設としてのみ第1,2号機共用）	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Bクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	○原子炉建屋クレーン【Ss】 ○燃料交換機【Ss】
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Bクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	○原子炉建屋クレーン【Ss】 ○燃料交換機【Ss】

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (2/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備	○原子炉建屋クレーン【S s】 ○燃料交換機【S s】
○関連配管	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	○原子炉建屋クレーン【S s】 ○燃料交換機【S s】
○関連配管	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【S s】 ○燃料交換機【S s】
(3)その他			
○使用済燃料プール監視カメラ	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【S s】
○使用済燃料プール(設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【S s】 ○燃料交換機【S s】
○使用済燃料貯蔵ラック (設計基準対象施設としてのみ第 1, 2 号機共用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【S s】 ○燃料交換機【S s】 ○制御棒貯蔵ラック【S s】 ○燃料チャンネル着脱機【S s】
○制御棒・破損燃料貯蔵ラック	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン【S s】 ○燃料交換機【S s】
□サイフォンブレイク孔	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	○原子炉建屋クレーン【S s】 ○燃料交換機【S s】
2. 原子炉冷却系統施設			
(1)原子炉冷却材の循環設備			
○主蒸気逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備	—
○主蒸気逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○主蒸気逃がし安全弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (3/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Bクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
(2) 残留熱除去設備			
○残留熱除去系熱交換器	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○残留熱除去系ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○残留熱除去系ストレーナ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
□ドライウェルスプレイ管	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○サプレッションチェンバースプレイ管	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	—
(3) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			
○高圧炉心スプレイ系ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○復水貯蔵タンク	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備 ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ストレーナ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○低圧炉心スプレイ系ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○低圧炉心スプレイ系ストレーナ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (4/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○高圧代替注水系タービンポンプ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉隔離時冷却系ポンプ	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○直流駆動低圧注水系ポンプ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○復水移送ポンプ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○代替循環冷却ポンプ	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○残留熱除去系ストレーナ	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○ほう酸水注入系ポンプ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○ほう酸水注入系貯蔵タンク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○残留熱除去系ポンプ	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Bクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
(4) 原子炉補機冷却設備			
○原子炉補機冷却水系熱交換器	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (5/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○原子炉補機冷却水ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○原子炉補機冷却海水ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	○海水ポンプ室門型ク レーン【S s】 ○竜巻防護ネット 【S s】
○原子炉補機冷却水サージタン ク	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○原子炉補機冷却海水系ストレ ーナ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ補機冷却水 系熱交換器	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ補機冷却水 ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ補機冷却海 水ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○海水ポンプ室門型ク レーン【S s】 ○竜巻防護ネット 【S s】
○高圧炉心スプレイ補機冷却水 サージタンク	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ補機冷却海 水系ストレーナ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○海水ポンプ室門型ク レーン【S s】 ○竜巻防護ネット 【S s】
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	○海水ポンプ室門型ク レーン【S s】 ○竜巻防護ネット 【S s】
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○海水ポンプ室門型ク レーン【S s】 ○竜巻防護ネット 【S s】
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (6/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
(5)その他			
○炉心支持構造物	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
○原子炉圧力容器	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	○原子炉しゃへい壁 【S s】
○原子炉格納容器	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	○原子炉ウエルカバー 【S s】
○ジェットポンプ	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
□フィルタ装置出口側ラプチャ ディスク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○フィルタ装置	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○遠隔手動弁操作設備	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○遠隔手動弁操作設備遮蔽	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○排気筒	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	○第1号機排気筒 【S s】
○高圧炉心スプレイ系配管（原 子炉圧力容器内部）	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
○高圧炉心スプレイスパージャ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
○原子炉建屋ブローアウトパネ ル	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○低圧炉心スプレイ系配管（原 子炉圧力容器内部）	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
○低圧炉心スプレイスパージャ	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
○給水スパージャ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
○残留熱除去系配管（原子炉圧 力容器内部）	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—
○残留熱除去系熱交換器	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備（設計基準拡張）	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (7/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○差圧検出・ほう酸水注入系配管 (ティーより N11 ノズルまでの外管)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○差圧検出・ほう酸水注入系配管 (原子炉圧力容器内部)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
□関連弁	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
□関連弁	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
□関連弁	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
3. 計測制御系統施設			
(1) 制御材			
○制御棒	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
(2) 制御材駆動装置			
○制御棒駆動機構	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○水圧制御ユニット (アキュムレータ)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○水圧制御ユニット (窒素容器)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Bクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
(3) ほう酸水注入設備			
○ほう酸水注入系ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ほう酸水注入系貯蔵タンク	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (8/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
(4) 計測装置			
○起動領域モニタ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○出力領域モニタ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○高圧代替注水系ポンプ出口圧力	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○直流駆動低圧注水系ポンプ出口圧力	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○代替循環冷却ポンプ出口圧力	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉隔離時冷却系ポンプ出口圧力	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○残留熱除去系ポンプ出口圧力	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○耐火隔壁【S s】
○低圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○復水移送ポンプ出口圧力	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○残留熱除去系熱交換器入口温度	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○残留熱除去系熱交換器出口温度	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○高圧代替注水系ポンプ出口流量	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイライン洗浄流量)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—



表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (9/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系B系格納容器 冷却ライン洗浄流量)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○直流駆動低圧注水系ポンプ出 口流量	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○代替循環冷却ポンプ出口流量	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉隔離時冷却系ポンプ出 口流量	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ポンプ出 口流量	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○残留熱除去系ポンプ出口流量	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○耐火隔壁【S s】
○低圧炉心スプレイ系ポンプ出 口流量	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○原子炉圧力	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○耐火隔壁【S s】
○原子炉圧力 (SA)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉水位 (広帯域)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○耐火隔壁【S s】
○原子炉水位 (燃料域)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉水位 (SA 広帯域)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉水位 (SA 燃料域)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ドライウェル圧力	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○圧力抑制室圧力	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ドライウェル温度	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (10/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○圧力抑制室内空気温度	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○サブプレッションプール水温度	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉格納容器下部温度	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○CRD 自動交換機 【S s】
○格納容器内雰囲気酸素濃度	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故緩和設備	—
○格納容器内水素濃度 (D/W)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○格納容器内水素濃度 (S/C)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○格納容器内雰囲気水素濃度	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故緩和設備	—
○復水貯蔵タンク水位	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉格納容器代替スプレイ 流量	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉格納容器下部注水流量	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○圧力抑制室水位	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○耐火隔壁【S s】
○原子炉格納容器下部水位	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○CRD 自動交換機 【S s】
○ドライウェル水位	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉建屋内水素濃度	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン 【S s】
(5) 制御用空気設備			
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (11/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
(6)その他			
○無線連絡設備 (固定型)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【S s】
○衛星電話設備 (固定型)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【S s】
○安全パラメータ表示システム (SPDS)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【S s】
□データ伝送設備	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【S s】
○フィルタ装置出口水素濃度	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○静的触媒式水素再結合装置 動作監視装置	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン 【S s】
○原子炉圧力容器温度	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○フィルタ装置入口圧力 (広帯 域)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○フィルタ装置出口圧力 (広帯 域)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○フィルタ装置水位 (広帯域)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○フィルタ装置水温度	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉補機冷却水系系統流量	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○残留熱除去系熱交換器冷却水 入口流量	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧窒素ガス供給系 ADS 入 口圧力	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○代替高圧窒素ガス供給系窒素 ガス供給止め弁入口圧力	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○6-2F-1 母線電圧	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【S s】
○6-2F-2 母線電圧	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【S s】

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (12/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○6-2C 母線電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○6-2D 母線電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○6-2H 母線電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○4-2C 母線電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○4-2D 母線電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○125V 直流主母線 2A 電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○125V 直流主母線 2B 電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○125V 直流主母線 2A-1 電圧	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○125V 直流主母線 2B-1 電圧	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○250V 直流主母線電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○HPCS125V 直流主母線電圧	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○中央制御室天井照明 【 S s 】
○差圧検出・ほう酸水注入系配管 (ティーより N11 ノズルまでの外管)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○差圧検出・ほう酸水注入系配管 (原子炉圧力容器内部)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○炉心支持構造物	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○原子炉圧力容器	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉しゃへい壁 【 S s 】
○主蒸気逃がし安全弁自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	—
○主蒸気逃がし安全弁	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (13/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
4. 放射線管理施設			
(1) 放射線管理用計測装置			
○格納容器内雰囲気放射線モニタ (D/W)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○フィルタ装置出口放射線モニタ	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○耐圧強化ベント系放射線モニタ	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	—
○使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (低線量)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン 【S s】
○使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン 【S s】
(2) 換気設備			
○中央制御室送風機	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○中央制御室再循環送風機	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○中央制御室排風機	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○中央制御室再循環フィルタ装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○緊急時対策所非常用送風機	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	—
○緊急時対策所非常用フィルタ装置	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (14/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
(3) 生体遮蔽装置			
○2次しゃへい壁 (原子炉建屋 原子炉棟外壁)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Bクラス ・ 常設重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○補助しゃへい (原子炉建屋)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Bクラス ・ 常設重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○補助しゃへい (制御建屋)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Bクラス ・ 常設重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○中央制御室しゃへい壁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○中央制御室待避所遮蔽	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	—
○緊急時対策所遮蔽	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	—
5. 原子炉格納施設			
(1) 原子炉格納容器			
○原子炉格納容器	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	○原子炉ウエルカバー 【S s】
○機器搬出入用ハッチ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○逃がし安全弁搬出入口	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○制御棒駆動機構搬出入口	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○サブプレッションチェンバ出入口	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○所員用エアロック	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○配管貫通部	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ Sクラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (15/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○電気配線貫通部	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
(2) 原子炉建屋			
○原子炉建屋原子炉棟 (二次格納施設)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故緩和設備	○制御建屋【S s】 ○タービン建屋 【S s】
○原子炉建屋大物搬入口	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故緩和設備	—
○原子炉建屋エアロック	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故緩和設備	—
(3) 圧力低減設備その他の安全設 備			
○真空破壊弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○ダウンカム	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○ベント管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○ベント管ベローズ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○ベントヘッド	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
□ドライウェルスブレイ管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備 ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○サブプレッションチェンバスブ レイ管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備 ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○復水移送ポンプ	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○代替循環冷却ポンプ	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	—
○復水貯蔵タンク	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (16/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○残留熱除去系ストレーナ	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○残留熱除去系熱交換器	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧代替注水系タービンポンプ	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○ほう酸水注入系ポンプ	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○ほう酸水注入系貯蔵タンク	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○残留熱除去系ポンプ	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ガス処理系排風機	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故緩和設備	—
○静的触媒式水素再結合装置	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○原子炉建屋クレーン 【S s】
○フィルタ装置	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
□フィルタ装置出口側ラプチャディスク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連弁	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故緩和設備	—
(4) その他			
○原子炉格納容器	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	○原子炉ウエルカバー 【S s】
○残留熱除去系熱交換器	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○炉心支持構造物	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉圧力容器	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○原子炉しゃへい壁 【S s】



表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (17/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○残留熱除去系配管 (原子炉圧力容器内部)	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○給水スパーージャ	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○差圧検出・ほう酸水注入系配管 (ティーより N11 ノズルまでの外管)	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○差圧検出・ほう酸水注入系配管 (原子炉圧力容器内部)	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉建屋原子炉棟	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○制御建屋【S s】 ○タービン建屋【S s】
○原子炉建屋大物搬入口	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○原子炉建屋エアロック	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○非常用ガス処理系空気乾燥装置	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○非常用ガス処理系フィルタ装置	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○排気筒	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	○第 1 号機排気筒【S s】
○原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
□フィルタ装置出口側ラプチャディスク	重大事故等対処施設	・常設重大事故緩和設備	—
○遠隔手動弁操作設備	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○遠隔手動弁操作設備遮蔽	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○フィルタ装置	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
□関連弁	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
6. 非常用電源設備  (1) 非常用発電装置  ○非常用ディーゼル発電設備非常用ディーゼル機関	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・S クラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (18/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○非常用ディーゼル発電設備調 速装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備非 常调速装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備機 関付清水ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備空 気だめ (自動)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備燃 料デイトンク	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備燃 料移送ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備軽 油タンク	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○非常用ディーゼル発電設備非 常用ディーゼル発電機	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備励 磁装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○非常用ディーゼル発電設備保 護継電装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼ ル発電設備高圧炉心スプレイ 系ディーゼル機関	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼ ル発電設備调速装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼ ル発電設備非常调速装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼ ル発電設備機関付清水ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼ ル発電設備空気だめ (自動)	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (19/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備燃料デイトンク	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備燃料移送ポンプ	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備軽油タンク	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備励磁装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備保護継電装置	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○ガスタービン発電設備ガスタービン機関	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備调速装置	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備非常调速装置	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備燃料移送ポンプ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備軽油タンク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備燃料小出槽	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備ガスタービン発電機	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備ガスタービン発電機励磁装置	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備ガスタービン発電機保護継電装置	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○緊急時対策所軽油タンク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 蓄電池 2A 及び 2B	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Sクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (20/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○125V 蓄電池 2H	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○125V 代替蓄電池	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○250V 蓄電池	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備	—
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) ・ 常設重大事故緩和設備 (設計基準拡張)	—
○関連弁	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・ S クラス ・ 常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・ 常設重大事故緩和設備	—
(2) その他			
○メタルクラッドスイッチギア (非常用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○メタルクラッドスイッチギア (高圧炉心スプレイ系用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○パワーセンタ (非常用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○モータコントロールセンタ (非常用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○モータコントロールセンタ (高圧炉心スプレイ系用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○動力変圧器 (非常用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○動力変圧器 (高圧炉心スプレ イ系用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○460V 原子炉建屋交流電源切替 盤 (非常用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—
○中央制御室 120V 交流分電盤 (非常用)	重大事故等対処施設	・ 常設耐震重要重大事故防止設備 ・ 常設重大事故緩和設備	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (21/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○ガスタービン発電機接続盤	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○メタルクラッドスイッチギア (緊急用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○動力変圧器 (緊急用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○パワーセンタ (緊急用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○モータコントロールセンタ (緊急用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備燃料移 送ポンプ接続盤	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○460V 原子炉建屋交流電源切替 盤 (緊急用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○120V 原子炉建屋交流電源切替 盤 (緊急用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○中央制御室 120V 交流分電盤 (緊急用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 充電器 2A 及び 2B	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 直流主母線盤 2A 及び 2B	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 直流分電盤 2A-1, 2A-2, 2A-3, 2B-1, 2B-2 及び 2B-3	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 直流電源切替盤 2A 及び 2B	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 直流 RCIC モータコント ロールセンタ	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 充電器 2H	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備 ・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—
○125V 直流主母線盤 2H	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 直流分電盤 2H	重大事故等対処施設	・常設重大事故防止設備 (設計基準拡張)	—

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (22/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○125V 代替充電器	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○250V 充電器	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○250V 直流主母線盤	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備	—
○メタルクラッドスイッチギア (緊急時対策所用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○動力変圧器 (緊急時対策所 用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○モータコントロールセンタ (緊急時対策所用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○105V 交流電源切替盤 (緊急時 対策所用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○105V 交流分電盤 (緊急時対策 所用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○120V 交流分電盤 (緊急時対策 所用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○210V 交流分電盤 (緊急時対策 所用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○125V 直流主母線盤 (緊急時対 策所用)	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
7. 補機駆動用燃料設備  (1)燃料設備			
○非常用ディーゼル発電設備軽 油タンク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○高圧炉心スプレイ系ディーゼ ル発電設備軽油タンク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○ガスタービン発電設備軽油タ ンク	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
○関連配管	重大事故等対処施設	・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	—
8. 非常用取水設備  (1)取水設備			
○貯留堰	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	・Cクラス ・常設耐震重要重大事故防止設備 ・常設重大事故緩和設備	○前面護岸【S s】

表 4-2 重大事故等対処施設の申請設備の設備分類 (23/23)

設備名称	施設区分	耐震重要度分類 設備分類	波及的影響を 考慮すべき施設
○取水口	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Cクラス</li> <li>・常設重大事故防止設備</li> <li>・常設重大事故緩和設備</li> </ul>	○前面護岸【S s】
○取水路	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Cクラス</li> <li>・常設重大事故防止設備</li> <li>・常設重大事故緩和設備</li> </ul>	—
○海水ポンプ室	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Cクラス</li> <li>・常設重大事故防止設備</li> <li>・常設重大事故緩和設備</li> </ul>	○防護設備 (防潮堤 (鋼管式鉛直壁)) 【S s】

VI-2-1-5 波及的影響に係る基本方針



## 目 次

1.	概要	1
2.	基本方針	1
3.	波及的影響を考慮した施設の設計方針	1
3.1	波及的影響を考慮した施設の設計の観点	1
3.2	不等沈下又は相対変位の観点による設計	2
3.3	接続部の観点による設計	3
3.4	損傷、転倒、落下等の観点による建屋内施設の設計	3
3.5	損傷、転倒、落下等の観点による建屋外施設の設計	4
4.	波及的影響の設計対象とする下位クラス施設	4
4.1	不等沈下又は相対変位の観点	4
4.2	接続部の観点	6
4.3	建屋内施設の損傷、転倒、落下等の観点	6
4.4	建屋外施設の損傷、転倒、落下等の観点	12
5.	波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計方針	17
5.1	耐震評価部位	17
5.2	地震応答解析	17
5.3	設計用地震動又は地震力	17
5.4	荷重の種類及び荷重の組合せ	17
5.5	許容限界	18
5.5.1	建物・構築物	18
5.5.2	機器・配管系	18
5.5.3	土木構造物	18
6.	工事段階における下位クラス施設の調査・検討	19

## 1. 概要

本資料は、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」の「3.3 波及的影響に対する考慮」に基づき、設計基準対象施設及び重大事故等対処施設の耐震設計を行うに際して、波及的影響を考慮した設計の基本的な考え方を説明するものである。

本資料の適用範囲は、設計基準対象施設及び重大事故等対処施設である。

## 2. 基本方針

設計基準対象施設のうち耐震重要度分類の S クラスに属する施設（以下「S クラス施設」という。）、重大事故等対処施設のうち常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備、常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類が S クラスのもの）及び常設重大事故緩和設備（設計基準拡張）並びにこれらが設置される常設重大事故等対処施設（以下「SA 施設」という。）は、下位クラス施設の波及的影響によって、それぞれその安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないように設計する。

## 3. 波及的影響を考慮した施設の設計方針

### 3.1 波及的影響を考慮した施設の設計の観点

S クラス施設の設計においては、「設置許可基準規則の解釈別記 2」（以下「別記 2」という。）に記載の以下の 4 つの観点で実施する。

SA 施設の設計においては、別記 2 における「耐震重要施設」を「SA 施設」に、「安全機能」を「重大事故等に対処するために必要な機能」に読み替えて適用する。

- ①設置地盤及び地震応答性状の相違等に起因する相対変位又は不等沈下による影響
- ②耐震重要施設と下位のクラスの施設との接続部における相互影響
- ③建屋内における下位のクラスの施設の損傷、転倒、落下等による耐震重要施設への影響
- ④建屋外における下位のクラスの施設の損傷、転倒、落下等による耐震重要施設への影響

また、上記①～④以外に設計の観点に含める事項がないかを確認する。原子力発電情報公開ライブラリ (NUCIA:ニューシア) に登録された原子力発電所の被害情報と東北地方太平洋沖地震時の女川原子力発電所の不適合情報から地震による被害情報を抽出し、その要因を整理する。地震被害の発生要因が「別記 2」①～④の検討事項に分類されない要因については、その要因も設計の観点に追加する。

以上の①～④の具体的な設計方法を以下に示す。

### 3.2 不等沈下又は相対変位の観点による設計

建屋外に設置する設計基準対象施設及び重大事故等対処施設を対象に、別記 2①「設置地盤及び地震応答性状の相違等に起因する相対変位又は不等沈下による影響」の観点で、上位クラス施設の安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないよう下位クラス施設を設計する。

#### (1) 地盤の不等沈下による影響

下位クラスの施設が設置される地盤の不等沈下により、上位クラス施設の安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないよう、以下のとおり設計する。

離隔による防護を講じて設計する場合には、下位クラス施設の不等沈下を想定しても上位クラス施設に衝突しない程度に十分な距離をとって配置するか、下位クラス施設と上位クラス施設の間に波及的影響を防止するために、衝突に対する強度を有する障壁を設置する。下位クラス施設を上位クラス施設への波及的影響を及ぼす可能性がある位置に設置する場合には、下位クラス施設を上位クラス施設と同等の支持性能をもつ地盤に、同等の基礎を設けて設置する。

支持性能が十分でない地盤に下位クラス施設を設置する場合は、基礎の補強や周辺の地盤改良等を行った上で、同等の支持性能を確保する。

上記の方針で設計しない場合は、下位クラス施設が設置される地盤の不等沈下を想定し、上位クラス施設の有する機能を保持するよう設計する。

以上の設計方針のうち、不等沈下を想定し、上位クラス施設の有する機能を保持するよう設計する下位クラス施設を「4. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設」に、その設計方針を「5. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計方針」に示す。

#### (2) 建屋間の相対変位による影響

下位クラス施設と上位クラス施設との相対変位により、上位クラス施設の安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないよう、以下のとおり設計する。

離隔による防護を講じて設計する場合には、下位クラス施設と上位クラス施設との相対変位を想定しても、下位クラス施設が上位クラス施設に衝突しない程度に十分な距離をとって配置するか、下位クラス施設と上位クラス施設との間に波及的影響を防止するために、衝突に対する強度を有する障壁を設置する。

下位クラス施設と上位クラス施設との相対変位により、下位クラス施設が上位クラス施設に衝突する位置にある場合には、衝突部分の接触状況の確認、建屋全体評価又は局部評価を実施し、衝突に伴い、上位クラス施設について、それぞれ

その安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能が損なわれるおそれのないよう設計する。

以上の設計方針のうち、建屋全体評価又は局部評価を実施して設計する下位クラス施設を「4. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設」に、その設計方針を「5. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計方針」に示す。

### 3.3 接続部の観点による設計

建屋内外に設置する設計基準対象施設及び重大事故等対処施設を対象に、別記 2②「耐震重要施設と下位のクラスの施設との接続部における相互影響」の観点で、上位クラス施設の安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないよう下位クラス施設を設計する。

上位クラス施設と下位クラス施設との接続部には、原則、上位クラス施設の隔離弁等を設置することにより分離し、事故時等に隔離されるよう設計する。隔離されない接続部以降の下位クラス施設については、下位クラス施設が上位クラス施設の設計に用いる地震動又は地震力に対して、内部流体の内包機能、機器の動的機能、構造強度等を確保するよう設計する。又は、これらが維持されなくなる可能性がある場合は、下位クラス施設の損傷と隔離によるプロセス変化により、上位クラス施設の内部流体の温度、圧力に影響を与えても、支持構造物を含めて系統としての機能が設計の想定範囲内に維持されるよう設計する。

以上の設計方針のうち、内部流体の内包機能、機器の動的機能、構造強度を確保するよう設計する下位クラス施設を「4. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設」に、その設計方針を「5. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計方針」に示す。

### 3.4 損傷、転倒、落下等の観点による建屋内施設の設計

建屋内に設置する設計基準対象施設及び重大事故等対処施設を対象に、別記 2③「建屋内における下位のクラスの施設の損傷、転倒、落下等による耐震重要施設への影響」の観点で、上位クラス施設の安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないよう下位クラス施設を設計する。

離隔による防護を講じて設計する場合には、下位クラス施設の損傷、転倒、落下等を想定しても上位クラス施設に衝突しない程度に十分な距離をとって配置するか、下位クラス施設と上位クラス施設の間に波及的影響を防止するために衝突に対する強度を有する障壁を設置する。

下位クラス施設を上位クラス施設への波及的影響を及ぼす可能性がある位置に設置する場合には、下位クラス施設が上位クラス施設の設計に用いる地震動又は地震力に対して、下位クラス施設が損傷、転倒、落下等に至らないよう構造強度設計を行う。

上記の方針で設計しない場合は、下位クラス施設の損傷、転倒、落下等を想定し、上位クラス施設の有する機能を保持するよう設計する。

以上の設計方針のうち、構造強度設計を行う、又は下位クラス施設の損傷、転倒、落下等を想定し、上位クラス施設の有する機能を保持するよう設計する下位クラス施設を「4. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設」に、その設計方針を「5. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計方針」に示す。

### 3.5 損傷、転倒、落下等の観点による建屋外施設の設計

建屋外に設置する設計基準対象施設及び重大事故等対処施設を対象に、別記 2④「建屋外における下位のクラスの施設の損傷、転倒、落下等による耐震重要施設への影響」の観点で、上位クラス施設の安全機能及び重大事故等に対処するために必要な機能を損なわないよう下位クラス施設を設計する。

離隔による防護を講じて設計する場合には、下位クラス施設の損傷、転倒、落下等を想定しても上位クラス施設に衝突しない程度に十分な距離をとって配置するか、下位クラス施設と上位クラス施設の間に波及的影響を防止するために衝突に対する強度を有する障壁を設置する。

下位クラス施設を上位クラス施設への波及的影響を及ぼす可能性がある位置に設置する場合には、下位クラス施設が上位クラス施設の設計に用いる地震動又は地震力に対して、下位クラス施設が損傷、転倒及び落下等に至らないよう構造強度設計を行う。

上記の方針で設計しない場合は、下位クラス施設の損傷、転倒、落下等を想定し、上位クラス施設の有する機能を保持するよう設計する。

以上の設計方針のうち、構造強度設計を行う、又は下位クラス施設の損傷、転倒、落下等を想定し、上位クラス施設の有する機能を保持するよう設計する下位クラス施設を「4. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設」に、その設計方針を「5. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計方針」に示す。

## 4. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設

「3. 波及的影響を考慮した施設の設計方針」に基づき、構造強度等を確保するように設計するものとして選定した下位クラス施設を以下に示す。

### 4.1 不等沈下又は相対変位の観点

#### (1) 地盤の不等沈下による影響

不等沈下によって影響を及ぼす施設はない。

(2) 建屋間の相対変位による影響

a. タービン建屋

下位クラス施設であるタービン建屋は上位クラス施設である原子炉建屋及び制御建屋に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う相対変位により衝突して、原子炉建屋及び制御建屋に対して波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

b. 補助ボイラー建屋

下位クラス施設の補助ボイラー建屋は上位クラス施設である制御建屋に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う相対変位により衝突して、制御建屋に対して波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

c. 第1号機制御建屋

下位クラス施設の第1号機制御建屋は上位クラス施設である制御建屋に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う相対変位により衝突して、制御建屋に対して波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

d. 制御建屋

本施設は上位クラス施設であるが、同じく上位クラス施設の原子炉建屋に隣接していることから、地震による相対変位により衝突して、原子炉建屋及び制御建屋自身に波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

ここで選定した波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の相対変位により、波及的影響を受けるおそれのある上位クラス施設を表 4-1 に示す。

表 4-1 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設（相対変位）

波及的影響を受けるおそれのある 上位クラス施設	波及的影響の設計対象とする 下位クラス施設
原子炉建屋 制御建屋	タービン建屋
制御建屋	補助ボイラー建屋
	第 1 号機制御建屋
原子炉建屋	制御建屋*

注記\*：当該建屋は上位クラス施設であるが、原子炉建屋に近接していることから、原子炉建屋及び制御建屋それぞれについて相対変位の影響を確認する。なお、制御建屋に対する原子炉建屋の影響は、原子炉建屋に対する制御建屋の影響確認内容と同様であるため記載を省略する。

#### 4.2 接続部の観点

上位クラス施設と下位クラス施設との接続部は隔離弁等により隔離されていること、又は下位クラス施設の損傷と隔離によるプロセス変化に対する上位クラス施設への過渡条件が設計の想定範囲内に維持されることから、接続部における相互影響の観点で波及的影響を及ぼす下位クラス施設はない。

#### 4.3 建屋内施設の損傷、転倒、落下等の観点

##### (1) 施設の損傷、転倒及び落下等による影響

##### a. 原子炉しゃへい壁

下位クラス施設の原子炉しゃへい壁は上位クラス施設である原子炉圧力容器に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒により、原子炉圧力容器に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

##### b. 原子炉建屋クレーン

下位クラス施設の原子炉建屋クレーンは上位クラス施設である使用済燃料プール、使用済燃料貯蔵ラック等の上部又は近傍に設置していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒、落下により、使用済燃料プール等に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

##### c. 燃料交換機

下位クラス施設の燃料交換機は上位クラス施設である使用済燃料プール、使用済燃料貯蔵ラック等の上部又は近傍に設置していることから、上位クラ

ス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒，落下により，使用済燃料プール等に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

d. 制御棒貯蔵ラック

下位クラス施設の制御棒貯蔵ラックは上位クラス施設である使用済燃料貯蔵ラックの近傍に設置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒，落下により，使用済燃料貯蔵ラックに衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

e. 燃料チャンネル着脱機

下位クラス施設の燃料チャンネル着脱機は上位クラス施設である使用済燃料貯蔵ラックの近傍に設置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒，落下により，使用済燃料貯蔵ラックに衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

f. 原子炉ウェルカバー

下位クラス施設の原子炉ウェルカバーは上位クラス施設であるドライウェルの上部に設置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う落下により，ドライウェルに衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

g. CRD 自動交換機

下位クラス施設の CRD 自動交換機は上位クラス施設である原子炉格納容器下部水位及び原子炉格納容器下部温度の上部に設置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う落下により，原子炉格納容器下部水位等に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

h. 中央制御室天井照明

下位クラス施設の中央制御室天井照明は上位クラス施設である原子炉制御盤，原子炉補機制御盤等の上部に設置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う落下により，原子炉制御盤等に衝突し



波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

i. ほう酸水注入系テストタンク

下位クラス施設のほう酸水注入系テストタンクは上位クラス施設であるほう酸水注入系ポンプ出口圧力に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒により、ほう酸水注入系ポンプ出口圧力に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

j. 耐火隔壁

下位クラス施設である耐火隔壁は上位クラス施設である中央制御室外原子炉停止装置盤，原子炉系（広域水位）計装ラック等に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒により、中央制御室外原子炉停止装置盤等に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

ここで選定した波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の損傷，転倒，落下等により波及的影響を受けるおそれのある上位クラス施設を表 4-2 に示す。

表 4-2 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設  
 (建屋内施設の損傷, 転倒, 落下等) (1/3)

波及的影響を受けるおそれのある 上位クラス施設	波及的影響の設計対象とする 下位クラス施設
原子炉圧力容器	原子炉しゃへい壁
使用済燃料プール 使用済燃料貯蔵ラック 制御棒・破損燃料貯蔵ラック 燃料プール冷却浄化系配管 スキマサージタンク 静的触媒式水素再結合装置 FPC 燃料プール注入逆止弁 静的触媒式水素再結合装置動作監視装置 原子炉建屋内水素濃度 使用済燃料プール水位/温度 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量, 低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	原子炉建屋クレーン
使用済燃料プール 使用済燃料貯蔵ラック 制御棒・破損燃料貯蔵ラック 燃料プール冷却浄化系配管 スキマサージタンク FPC 燃料プール注入逆止弁 使用済燃料プール水位/温度	燃料交換機
使用済燃料貯蔵ラック	制御棒貯蔵ラック 燃料チャンネル着脱機
ドライウエル	原子炉ウエルカバー
原子炉格納容器下部水位 原子炉格納容器下部温度	CRD 自動交換機

表 4-2 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設  
 (建屋内施設の損傷, 転倒, 落下等) (2/3)

波及的影響を受けるおそれのある 上位クラス施設	波及的影響の設計対象とする 下位クラス施設
原子炉冷却制御盤 原子炉制御盤 原子炉補機制御盤 原子炉保護系盤 原子炉保護系試験盤 原子炉系プロセス計装盤 残留熱除去系(A)・低圧炉心スプレイ系盤 残留熱除去系(B・C)盤 高圧炉心スプレイ系盤 原子炉隔離時冷却系盤 格納容器第一隔離弁盤 格納容器第二隔離弁盤 自動減圧系盤 FPC・FPMUW・SLC・MUWC・MUWP・FW 制御盤 トリップチャンネル盤 FCS・SGTS 盤 サプレッションプール水温度記録監視盤 格納容器計装配管隔離弁盤 所内補機制御盤 タービン発電機制御盤 所内電源制御盤 非常用換気空調系盤 HPCS 系非常用換気空調系盤 RCW・RSW 盤 漏えい検出系盤 計算機バッファ補助リレー盤 M/C 補助継電器盤 AM 制御盤 起動領域モニタ・安全系プロセス放射線モニタ盤 出力領域モニタ盤 出力領域モニタ補助盤	中央制御室天井照明

表 4-2 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設  
 (建屋内施設の損傷, 転倒, 落下等) (3/3)

波及的影響を受けるおそれのある 上位クラス施設	波及的影響の設計対象とする 下位クラス施設
TIP 制御盤 格納容器内雰囲気モニタ盤 HPAC 制御盤 代替注水制御盤 DCLI 制御盤 フィルタベント系制御盤 緊急用電源切替操作盤 差圧計 安全パラメータ表示システム (SPDS) データ伝送設備 データ表示装置 無線連絡設備 (固定型) 衛星電話設備 (固定型)	中央制御室天井照明
ほう酸水注入系ポンプ出口圧力	ほう酸水注入系テストタンク
中央制御室外原子炉停止装置盤 原子炉系 (広域水位) 計装ラック 原子炉系 (狭域水位) 計装ラック 残留熱除去系計装ラック S/C 圧力, S/C-R/B 差圧計器架台 圧力抑制室水位 RCW サージタンク水位	耐火隔壁

#### 4.4 建屋外施設の損傷，転倒，落下等の観点

##### (1) 施設の損傷，転倒，落下等による影響

###### a. 海水ポンプ室門型クレーン

下位クラス施設の海水ポンプ室門型クレーンは上位クラス施設である原子炉補機冷却海水ポンプ，原子炉補機冷却海水系配管等の上部又は近傍に設置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う転倒，落下により，原子炉補機冷却海水ポンプ等に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

###### b. 竜巻防護ネット

下位クラス施設の竜巻防護ネットは上位クラス施設である原子炉補機冷却海水ポンプ，原子炉補機冷却海水系配管等の上部又は近傍に設置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う落下により，原子炉補機冷却海水ポンプ等に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

###### c. 第1号機取水路

下位クラス施設の第1号機取水路は上位クラス施設である防潮堤の下部の地中に位置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により，防潮堤の支持機能に波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

###### d. 第3号機取水路

下位クラス施設の第3号機取水路は上位クラス施設である防潮堤の下部の地中に位置していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により，防潮堤の支持機能に波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

###### e. 北側排水路

下位クラス施設の北側排水路は上位クラス施設である防潮堤内を横断していることから，上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により，防潮堤に波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

f. アクセスルート（防潮堤（盛土堤防））

下位クラス施設のアクセスルート（防潮堤の盛土堤防部と一体となっている部分）は上位クラス施設である防潮堤と一体の構造となっていることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により、防潮堤の機能に波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

g. 防護設備（防潮堤（鋼管式鉛直壁））

下位クラス施設の防護設備（防潮堤（鋼管式鉛直壁））は上位クラス施設である防潮堤と一体の構造であり、防潮壁等の上部又は近傍に設置していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷、落下により、防潮堤等の機能に波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

h. タービン建屋

下位クラス施設のタービン建屋は上位クラス施設である防潮壁、逆流防止設備等に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により、防潮壁等に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

i. 補助ボイラー建屋

下位クラス施設の補助ボイラー建屋は上位クラス施設である制御建屋に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により、制御建屋に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

j. 第1号機制御建屋

下位クラス施設の第1号機制御建屋は上位クラス施設である制御建屋に隣接していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により、制御建屋に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

k. 第1号機排気筒

下位クラス施設の第1号機排気筒は斜面上に位置していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により、上位クラス施設である排気筒に衝突し波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

1. 前面護岸

下位クラス施設の前面護岸は上位クラス施設である取水口、貯留堰の近傍に位置していることから、上位クラス施設の設計に適用する地震動又は地震力に伴う損傷により、取水口等の取水機能に波及的影響を及ぼすおそれが否定できない。

このため波及的影響の設計対象とした。

ここで選定した波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の損傷、転倒、落下等により波及的影響を受けるおそれのある上位クラス施設を表4-3に示す。

表 4-3 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設  
 (建屋外施設の損傷, 転倒, 落下等) (1/2)

波及的影響を受けるおそれのある 上位クラス施設	波及的影響の設計対象とする 下位クラス施設
原子炉補機冷却海水ポンプ 原子炉補機冷却海水系配管 RSW ポンプ吐出逆止弁 RSW ポンプ吐出弁 RSW ポンプ吐出連絡管止め弁 高圧炉心スプレイ補機冷却海水ポンプ 高圧炉心スプレイ補機冷却海水系配管 高圧炉心スプレイ補機冷却海水系ストレーナ HPSW ポンプ吐出逆止弁 HPSW ポンプ吐出弁 RSW ポンプ出口圧力計器架台 HPSW ポンプ出口圧力計器架台 防潮堤 防潮壁 浸水防止蓋 逆止弁付ファンネル 貫通部止水処置 取水ピット水位計 浸水防止壁	海水ポンプ室門型クレーン
原子炉補機冷却海水ポンプ 原子炉補機冷却海水系配管 RSW ポンプ吐出逆止弁 RSW ポンプ吐出弁 RSW ポンプ吐出連絡管止め弁 高圧炉心スプレイ補機冷却海水ポンプ 高圧炉心スプレイ補機冷却海水系配管 高圧炉心スプレイ補機冷却海水系ストレーナ HPSW ポンプ吐出逆止弁 HPSW ポンプ吐出弁 RSW ポンプ出口圧力計器架台 HPSW ポンプ出口圧力計器架台	竜巻防護ネット



表 4-3 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設  
 (建屋外施設の損傷, 転倒, 落下等) (2/2)

波及的影響を受けるおそれのある 上位クラス施設	波及的影響の設計対象とする 下位クラス施設
逆止弁付ファンネル 貫通部止水処置 取水ピット水位計	竜巻防護ネット
防潮堤	第 1 号機取水路
	第 3 号機取水路
	北側排水路
	アクセスルート (防潮堤 (盛土堤防))
防潮堤 防潮壁 (海水ポンプ室, 第 3 号機海水ポンプ室) 浸水防止壁 海水ポンプ室	防護設備 (防潮堤 (鋼管式鉛直壁))
防潮壁 逆流防止設備 貫通部止水処置 原子炉建屋 制御建屋	タービン建屋
制御建屋	補助ボイラー建屋
	第 1 号機制御建屋
排気筒	第 1 号機排気筒
取水口 貯留堰	前面護岸

## 5. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計方針

「4. 波及的影響の設計対象とする下位クラス施設」で選定した施設の耐震設計方針を以下に示す。

### 5.1 耐震評価部位

波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の評価対象部位は、それぞれの損傷モードに応じて選定する。すなわち、評価対象下位クラス施設の不等沈下、相対変位、接続部における相互影響、損傷、転倒、落下等を防止するよう、主要構造部材、支持部及び固定部等を対象とする。

また、下位クラス施設の転倒を想定して設計する施設については、上位クラス施設の機能に影響がないよう評価部位を選定する。

各施設の耐震評価部位は、添付書類「VI-2-11-1 波及的影響を及ぼすおそれのある下位クラス施設の耐震評価方針」の「3.1 耐震評価部位」に示す。

### 5.2 地震応答解析

波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の耐震設計において実施する地震応答解析については、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」の「10. 耐震計算の基本方針」に従い、既工認で実績があり、かつ最新の知見に照らしても妥当な手法及び条件を基本として行う。

各施設の設計に適用する地震応答解析は、添付書類「VI-2-11-1 波及的影響を及ぼすおそれのある下位クラス施設の耐震評価方針」の「3.2 地震応答解析」に示す。

### 5.3 設計用地震動又は地震力

波及的影響の設計対象とする下位クラス施設においては、上位クラス施設の設計に用いる地震動又は地震力を適用する。

各施設の設計に適用する地震動又は地震力は、添付書類「VI-2-11-1 波及的影響を及ぼすおそれのある下位クラス施設の耐震評価方針」の「3.3 設計用地震動又は地震力」に示す。

### 5.4 荷重の種類及び荷重の組合せ

波及的影響の防止を目的とした設計において用いる荷重の種類及び荷重の組合せについては、波及的影響を受けるおそれのある上位クラス施設と同じ運転状態において下位クラス施設に発生する荷重を組み合わせる。

また、転倒を想定し、上位クラス施設の機能に影響がないよう設計する場合は、転倒等に伴い発生する荷重を組み合わせる。

荷重の設定においては、実運用・実事象上定まる範囲を考慮して設定する。

各施設の設計に適用する荷重の種類及び組み合わせは、添付書類「VI-2-11-1 波及的影響を及ぼすおそれのある下位クラス施設の耐震評価方針」の「3.4 荷重の種類及び荷重の組合せ」に示す。

## 5.5 許容限界

波及的影響の設計対象とする下位クラス施設の評価に用いる許容限界設定の考え方を、以下建物・構築物，機器・配管系及び土木構造物に分けて示す。

### 5.5.1 建物・構築物

建物・構築物について、離隔による防護を講じることで、下位クラス施設の相対変位等による波及的影響を防止する場合は、下位クラス施設と上位クラス施設との距離を基本として許容限界を設定する。

また、施設の構造を保つことで、下位クラス施設の損傷，転倒，落下等を防止する場合は、鉄筋コンクリート造の耐震壁の最大せん断ひずみに対して J E A G 4 6 0 1 - 1987 に基づく終局点に対応するせん断ひずみ，部材に発生する応力に対して「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」に基づく許容応力度，又は「鋼構造設計規準」に基づく弾性限強度を許容限界として設定する。

### 5.5.2 機器・配管系

機器・配管系について、施設の構造を保つことで、下位クラス施設の接続部における相互影響及び損傷，転倒，落下等を防止する場合は、許容限界として、評価部位に塑性ひずみが生じる場合であっても、その量が小さなレベルにとどまって破断延性限界に十分な余裕を有していることに相当する許容限界を設定する。機器の動的機能維持を確保することで、下位クラス施設の接続部における相互影響を防止する場合は、許容限界として機能確認済加速度を設定する。

配管については、配管耐震評価上影響のある下位クラス配管を上位クラス配管に含めて構造強度設計を行う。

また、転倒を想定する場合は、下位クラスの施設の転倒に伴い発生する荷重により、上位クラス施設の評価部位に塑性ひずみが生じる場合であっても、その量が小さなレベルにとどまって破断延性限界に十分な余裕を有していること，また転倒した下位クラス施設と上位クラス施設との距離を許容限界として設定する。

### 5.5.3 土木構造物

土木構造物について、施設の構造を保つことで、下位クラス施設の損傷，転倒，落下等を防止する場合は、構造部材の許容応力度又は終局耐力や基礎地盤の極限支持力度に対し妥当な安全余裕を考慮することを基本として許容限界を設定する。

また、構造物の安定性や変形により上位クラス施設の機能に影響がないよう設計する場合は、構造物のすべりや変形量に対し妥当な安全余裕を考慮することを基本として許容限界を設定する。

防護設備の防護柵のように、施設が破断し落下することを防止する場合は、大きな変形が生じ耐力が低下する前であることを確認した変形量（指標として塑性率 4）を許容限界とする。

各施設の評価に適用する許容限界は、添付書類「VI-2-11-1 波及的影響を及ぼすおそれのある下位クラス施設の耐震評価方針」の「3.5 許容限界」に示す。

#### 6. 工事段階における下位クラス施設の調査・検討

工事段階においても、設計基準対象施設及び重大事故等対処施設の設計段階の際に検討した配置・補強等が設計どおりに施されていることを、敷地全体を俯瞰した調査・検討を行うことで確認する。また、仮置資材等、現場の配置状況等の確認を必要とする下位クラス施設についても併せて確認する。

工事段階における検討は、別記 2 の 4 つの観点のうち、③及び④の観点、すなわち下位クラス施設の損傷、転倒、落下等による影響について、プラントウォークダウンにより実施する。

確認事項としては、設計段階において検討した離隔による防護の観点で行う。すなわち、施設の損傷、転倒、落下等を想定した場合に上位クラス施設に衝突するおそれのある範囲内に下位クラス施設がないこと、又は間に衝撃に耐えうる障壁、緩衝物等が設置されていること、仮置資材等については固縛など、転倒及び落下を防止する措置が適切に講じられていることを確認する。

ただし、仮置資材等の下位クラス施設自体が、明らかに影響を及ぼさない程度の大きさ、重量等の場合は対象としない。

以上を踏まえて、損傷、転倒、落下等により、上位クラス施設に波及的影響を及ぼす可能性がある下位クラス施設が抽出されれば、必要に応じて、上記の確認事項と同じ観点で対策・検討を行う。

すなわち、下位クラス施設の配置を変更したり、間に緩衝物等を設置したり、固縛等の転倒・落下防止措置等を講じたりすることで対策・検討を行う。

また、工事段階における確認の後も、波及的影響を防止するように現場を保持するため、保安規定に機器設置時の配慮事項等を定めて管理する。

## VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針

## 目 次

1. 概要.....	1
2. 地震応答解析の方針.....	4
2.1 建物・構築物.....	4
2.2 機器・配管系.....	8
2.3 屋外重要土木構造物.....	10
3. 設計用減衰定数.....	12

別紙 1 地震観測網について

1. 概要

本資料は、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」のうち「4. 設計用地震力」に基づき、建物・構築物、機器・配管系及び屋外重要土木構造物の耐震設計を行う際の地震応答解析の基本方針を説明するものである。

図 1-1、図 1-2 及び図 1-3 に建物・構築物、機器・配管系及び屋外重要土木構造物の地震応答解析の手順をそれぞれ示す。

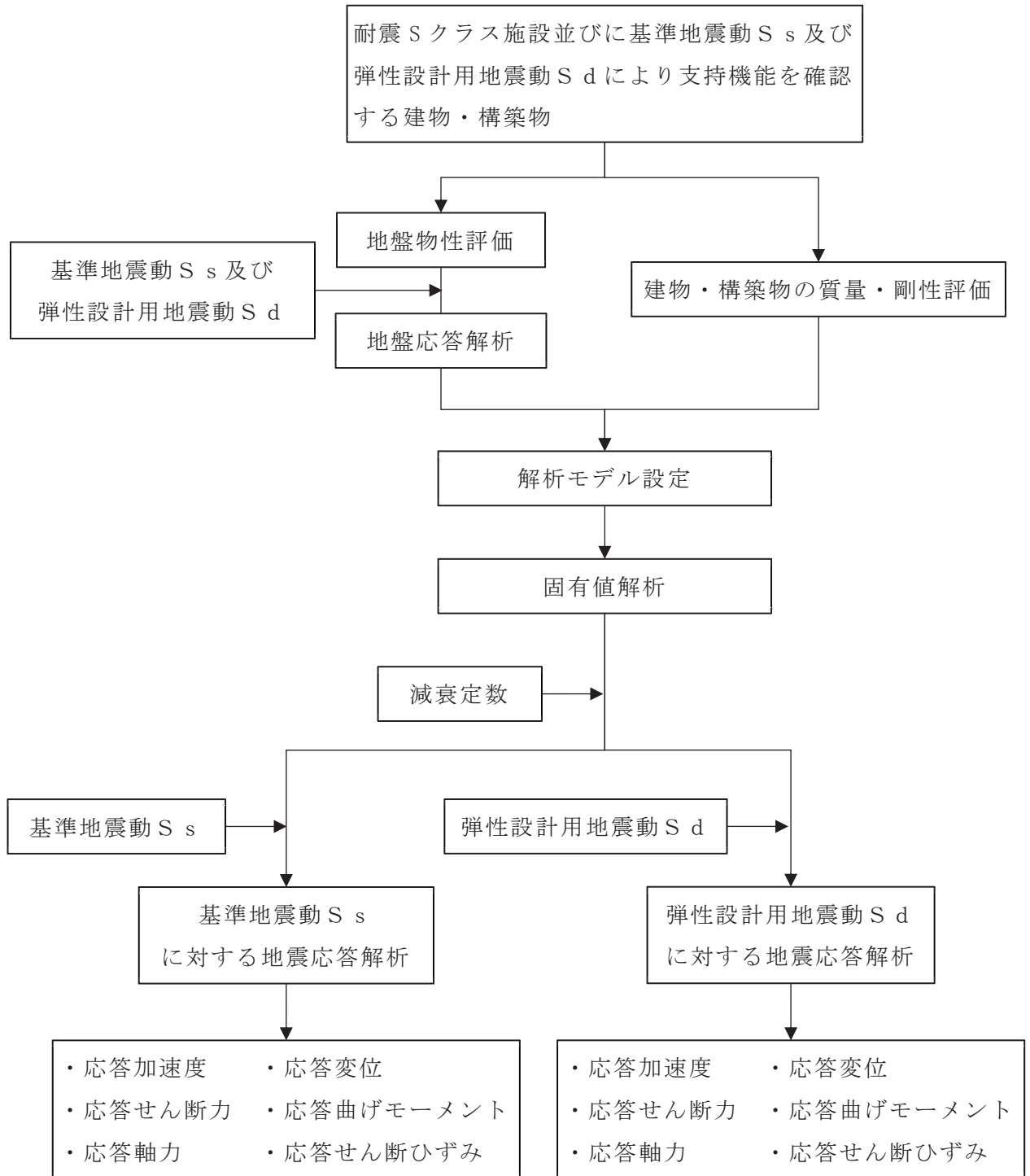


図 1-1 建物・構築物の地震応答解析の手順

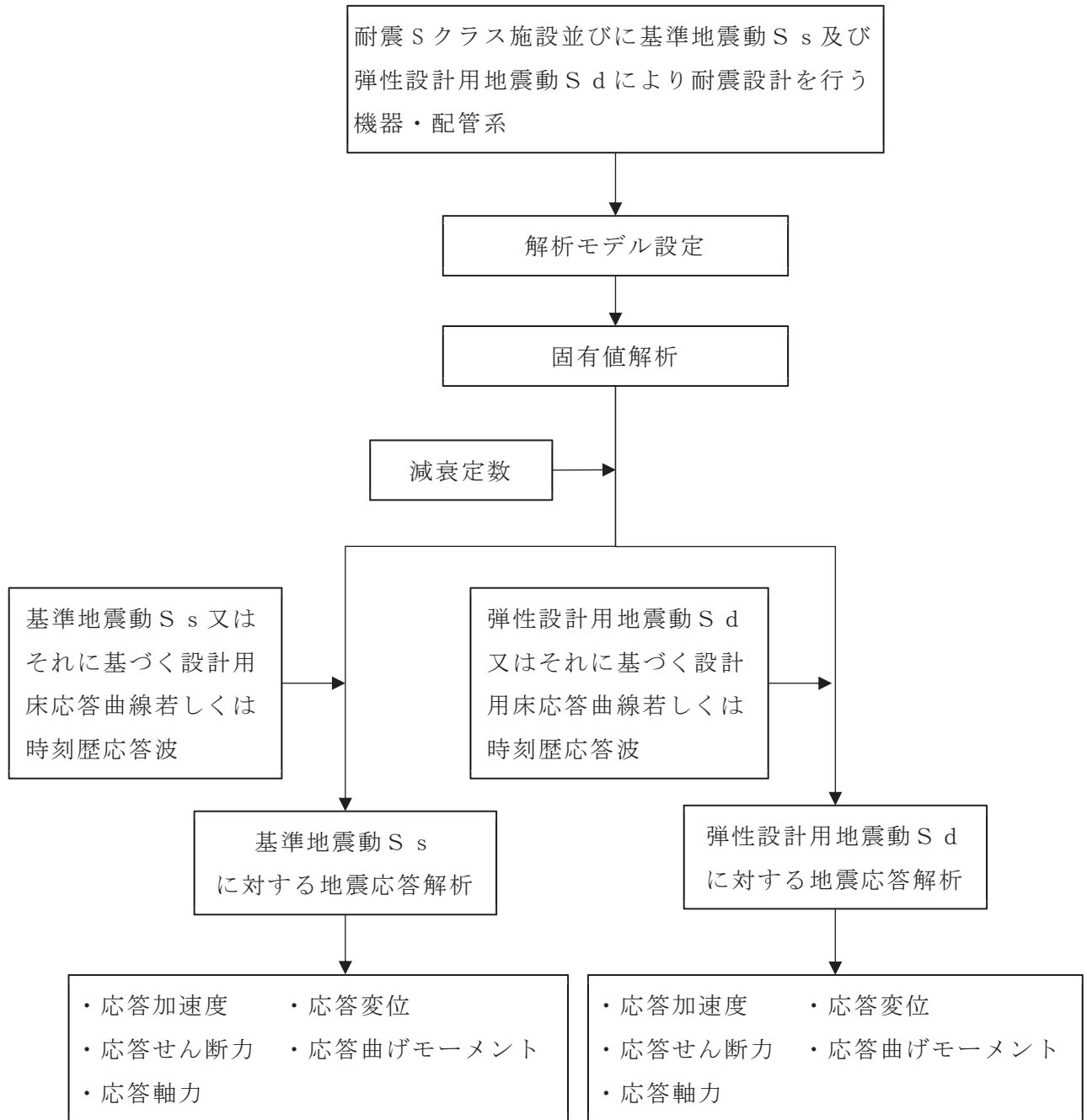


図 1-2 機器・配管系の地震応答解析の手順



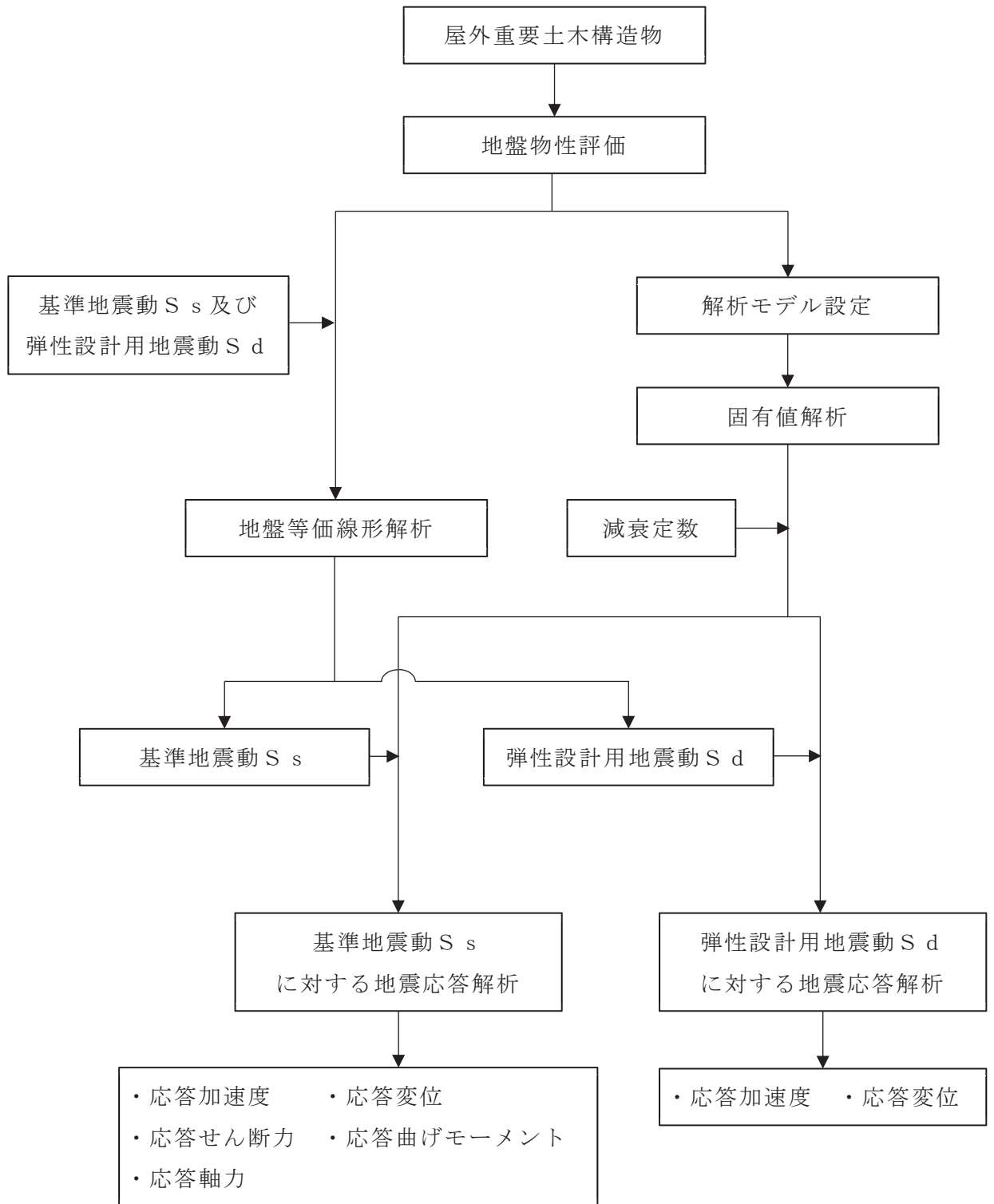


図 1-3 屋外重要土木構造物の地震応答解析の手順

## 2. 地震応答解析の方針

### 2.1 建物・構築物

#### (1) 入力地震動

解放基盤表面は、S波速度が約1.4km/sのO.P.-14.1mとしている。

建物・構築物の地震応答解析における入力地震動は、解放基盤表面で定義される基準地震動 $S_s$ 及び弾性設計用地震動 $S_d$ を基に、対象建物・構築物の地盤の非線形特性等の条件を適切に考慮した上で、必要に応じ2次元FEM解析、1次元波動論又は1次元地盤応答解析により、地震応答解析モデルの入力位置で評価した入力地震動を設定する。

地盤条件を考慮する場合には、地震動評価で考慮した敷地全体の地下構造との関係にも留意し、地盤の非線形応答に関する動的変形特性を考慮する。また、必要に応じ敷地における観測記録による検証や最新の科学的・技術的知見を踏まえ、地質・速度構造等の地盤条件を設定する。

また、設計基準対象施設におけるBクラスの建物・構築物及び重大事故等対処施設におけるBクラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がBクラスのもの）が設置される重大事故等対処施設の建物・構築物のうち共振のおそれがあり、動的解析が必要なものに対しては、弾性設計用地震動 $S_d$ を1/2倍したものをを用いる。

#### (2) 解析方法及び解析モデル

動的解析による地震力の算定に当たっては、地震応答解析手法の適用性及び適用限界等を考慮の上、適切な解析法を選定するとともに、建物・構築物に応じた適切な解析条件を設定する。また、原則として、建物・構築物の地震応答解析及び床応答曲線の策定は、線形解析及び非線形解析に適用可能な時刻歴応答解析法による。

建物・構築物の動的解析に当たっては、建物・構築物の剛性はそれらの形状、構造特性等を十分考慮して評価し、集中質点系等に置換した解析モデルを設定する。

動的解析には、建物・構築物と地盤との相互作用を考慮するものとし、解析モデルの地盤のばね定数は、基礎版の平面形状、基礎側面と地盤の接触状況及び地盤の剛性等を考慮して定める。各入力地震動が接地率に与える影響を踏まえて、地盤ばねには必要に応じて、基礎浮上りによる非線形性又は誘発上下動を考慮できる浮上り非線形性を考慮するものとする。設計用地盤定数は、原則として、弾性波試験によるものをを用いる。

地盤－建物・構築物連成系の減衰定数は、振動エネルギーの地下逸散及び地震応答における各部のひずみレベルを考慮して定める。

地震応答解析において、主要構造要素がある程度以上弾性範囲を超える場合には、実験等の結果に基づき、該当する建物部分の構造特性に応じて、その弾塑性挙動を適切に模擬した復元力特性を考慮した地震応答解析を行う。

また、Sクラスの施設を支持する建物・構築物及び常設耐震重要重大事故防止設備、常設重大事故緩和設備、常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）又は常設重大事故緩和設備（設計基準拡張）が設置される重大事故等対処施設を支持する建物・構築物の支持機能を検討するための動的解析において、施設を支持する建物・構築物の主要構造要素がある程度以上弾性範囲を超える場合には、その弾塑性挙動を適切に模擬した復元力特性を考慮した地震応答解析を行う。

地震応答解析に用いる材料定数については、材料物性のばらつき等を適切に考慮する。また、ばらつきによる変動が建物・構築物の振動性状や応答性状に及ぼす影響として考慮すべきばらつきの要因を選定した上で、選定された要因を考慮した動的解析により設計用地震力を設定する。

なお、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震等の地震やコンクリートの乾燥収縮によるひび割れ等に伴う初期剛性の低下について観測記録を用いた検討により確認したことから解析モデルに考慮する。復元力特性の設定にあたっては、地震やコンクリートの乾燥収縮によるひび割れ等の要因は初期剛性及びその後の剛性を低下させるが、機能維持限界耐力及び終局耐力は既工認の復元力特性の各耐力を上回っていることを試験等により確認したことから、この復元力特性に初期剛性低下を反映して適用する。

建物・構築物の3次元応答性状及び機器・配管系への影響については、建物・構築物の3次元FEMモデルによる解析に基づき、施設の重要性、建屋規模、構造特性を考慮して評価する。3次元応答性状等の評価は、周波数応答解析法等による。解析方法及び解析モデルについては、添付書類「VI-2-1-8 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する影響評価方針」に示す。

原子炉建屋は設備の補強や追加等の改造工事に伴う重量増加が有意であることから、原子炉建屋の応答性状及び機器・配管系へ及ぼす影響については、重量増加を反映したモデルによる解析に基づき評価する。解析方法及び解析モデルについては、添付書類「VI-2-2-1 原子炉建屋の地震応答計算書」の別紙に示す。

建物・構築物の動的解析において、地震時における地盤の有効応力の変化に伴う影響を考慮する場合には、有効応力解析等を実施する。有効応力解析に用いる液状化強度特性は、敷地の原地盤における代表性及び網羅性を踏まえた上で実施した液状化強度試験結果に基づき、保守性を考慮して設定する。

また、更なる信頼性の向上を目的として設置した地震観測網から得られた観測記録により振動性状を把握する。動的解析に用いるモデルについては、地震観測網

により得られた観測記録を用い解析モデルの妥当性確認等を行う。地震観測網の概要は、別紙1「地震観測網について」に示す。

## a. 解析方法

建物・構築物の地震応答は、(1)式 of 多質点系の振動方程式を Newmark- $\beta$  法 ( $\beta = 1/4$ ) を用いた直接積分法により求める。

$$[m] \cdot \{\ddot{x}\}_t + [c] \cdot \{\dot{x}\}_t + [k] \cdot \{x\}_t = -[m] \cdot \{\ddot{y}\}_t \quad (1)$$

ここで、

$[m]$  : 質量マトリックス

$[c]$  : 減衰マトリックス

$[k]$  : 剛性マトリックス

$\{\ddot{x}\}_t$  : 時刻  $t$  の加速度ベクトル

$\{\dot{x}\}_t$  : 時刻  $t$  の速度ベクトル

$\{x\}_t$  : 時刻  $t$  の変位ベクトル

$\{\ddot{y}\}_t$  : 時刻  $t$  の入力加速度ベクトル

ここで、時刻  $t + \Delta t$  における解を次のようにして求める。なお、 $\Delta t$  は時間メッシュを示す。

$$\{x\}_{t+\Delta t} = \{x\}_t + \{\dot{x}\}_t \cdot \Delta t + \left[ \left( \frac{1}{2} - \beta \right) \cdot \{\ddot{x}\}_t + \beta \cdot \{\ddot{x}\}_{t+\Delta t} \right] \cdot \Delta t^2 \quad (2)$$

$$\{\dot{x}\}_{t+\Delta t} = \{\dot{x}\}_t + \frac{1}{2} \cdot [\{\ddot{x}\}_t + \{\ddot{x}\}_{t+\Delta t}] \cdot \Delta t \quad (3)$$

$$\{\ddot{x}\}_{t+\Delta t} = \{\ddot{x}\}_t + \{\Delta \ddot{x}\}_{t+\Delta t} \quad (4)$$

(2), (3) 及び (4) 式を (1) 式に代入して整理すると、加速度応答増分ベクトルが次のように求められる。

$$\{\Delta \ddot{x}\}_{t+\Delta t} = -[A]^{-1} \cdot ([B] + [m] \cdot \{\Delta \ddot{y}\}_{t+\Delta t}) \quad (5)$$

ここで、

$$[A] = [m] + \frac{1}{2} \cdot \Delta t \cdot [c] + \beta \cdot \Delta t^2 \cdot [k]$$

$$[B] = \left( \Delta t \cdot [c] + \frac{1}{2} \cdot \Delta t^2 \cdot [k] \right) \cdot \{\ddot{x}\}_t + \Delta t \cdot [k] \cdot \{\dot{x}\}_t$$

$$\{\Delta \ddot{y}\}_{t+\Delta t} = \{\ddot{y}\}_{t+\Delta t} - \{\ddot{y}\}_t$$

(5) 式を (2), (3) 及び (4) 式に代入することにより、時刻  $t + \Delta t$  の応答が時刻  $t$  の応答から求められる。

## b. 解析モデル

代表的な建物・構築物の解析モデルを以下に示す。

### (a) 原子炉建屋

水平方向は、地盤との相互作用を考慮し、耐震壁等の曲げ及びせん断剛性を評価した多質点系モデルとする。鉛直方向は、地盤との相互作用を考慮し、耐震壁等の軸剛性及び屋根トラスの曲げせん断剛性を評価した多質点系モデルとする。

### (b) 原子炉建屋屋根トラス

原子炉建屋屋根トラスは水平 2 方向及び鉛直方向地震力の同時入力の影響を受ける可能性があることから、原子炉建屋の燃料取替床レベル (O.P. 33.2m) より上部の躯体 (屋根鉄骨、柱、梁、耐震壁、屋根スラブ及び下屋部屋根スラブ) をモデル化した立体フレームモデルとする。各鉄骨部材は軸変形及び曲げ変形を考慮したはり要素と軸変形のみを考慮したトラス要素とし、耐震壁及び外周はりは各々シェル要素並びに軸変形及び曲げ変形を考慮したはり要素としてモデル化する。

### (c) 排気筒

排気筒は四角鉄塔支持形鋼管構造であり、水平 2 方向及び鉛直方向地震力の同時入力の影響を受ける可能性があることから、構成部材を立体的にモデル化した立体フレームモデルとし、部材に発生する応力を地震応答解析によって直接評価できるモデルとする。地震応答解析は、周辺地質や地下水位の状況を模擬できる、地盤と基礎構造を一体化した 2 次元 FEM モデルにより、上部構造の入力地震動を算定する。構成部材のうち、筒身及び鉄塔部の主柱については軸変形及び曲げ変形を考慮したはり要素として、鉄塔斜材及び水平材についてはトラス要素としてモデル化する。

### (d) 緊急時対策建屋

水平方向は、地盤との相互作用を考慮し、耐震壁等の曲げ及びせん断剛性を評価した多質点系モデルとする。鉛直方向は、地盤との相互作用を考慮し、耐震壁等の軸剛性を評価した多質点系モデルとする。

## 2.2 機器・配管系

### (1) 入力地震動又は入力地震力

機器・配管系の地震応答解析における入力地震動又は入力地震力は、基準地震動  $S_s$  及び弾性設計用地震動  $S_d$  又は当該機器・配管系の設置床における設計用床応答曲線若しくは時刻歴応答波とする。設計用床応答曲線の作成方法については、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す。

なお、建屋応答解析における各入力地震動が接地率に与える影響を踏まえ、誘発上下動を考慮するモデルを用いている場合については、鉛直方向の加速度応答時

刻歴に，以下のとおり誘発上下動を考慮することとする。

- ・  $V + X_v$
- ・  $V + Y_v$
- ・  $V - X_v$
- ・  $V - Y_v$

ここで，

$V$ ：鉛直方向地震力に対する鉛直方向の加速度応答時刻歴

$X_v$ ： $X$ 方向地震力に対する誘発上下動の加速度応答時刻歴

$Y_v$ ： $Y$ 方向地震力に対する誘発上下動の加速度応答時刻歴

また，設計基準対象施設における B クラスの機器・配管系及び重大事故等対処施設における B クラスの施設の機能を代替する常設重大事故防止設備又は常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類が B クラスのもの）が設置される重大事故等対処施設の機器・配管系のうち共振のおそれがあり，動的解析が必要なものに対しては，弾性設計用地震動  $S_d$  を基に線形解析により作成した設計用床応答曲線の応答加速度を  $1/2$  倍したものをを用いる。

## (2) 解析方法及び解析モデル

動的解析による地震力の算定に当たっては，地震応答解析手法の適用性，適用限界等を考慮の上，適切な解析法を選定するとともに解析条件として考慮すべき減衰定数，剛性等の各物性値は適切な規格・基準，あるいは実験等の結果に基づき設定する。ここで，原子炉本体の基礎については，鋼板とコンクリートの複合構造物として，より現実に近い適正な地震応答解析を実施する観点から，既往の知見や実物の原子炉本体の基礎を模擬した試験体による加力試験結果を踏まえて，妥当性，適用性を確認した上で，コンクリートの剛性変化を適切に考慮した復元力特性を設定する。

機器の解析に当たっては，形状，構造特性等を考慮して，代表的な振動モードを適切に表現できるよう質点系モデル，有限要素モデル等に置換し，設計用床応答曲線を用いたスペクトルモーダル解析法又は時刻歴応答解析法により応答を求める。配管系については，適切なモデルを作成し，設計用床応答曲線を用いたスペクトルモーダル解析法又は時刻歴応答解析法により応答を求める。また，スペクトルモーダル解析法又は時刻歴応答解析法を用いる場合は材料物性のばらつき等を適切に考慮する。

クレーン類におけるスペクトルモーダル解析法及び時刻歴応答解析法の選択に当たっては，衝突・すべり等の非線形現象を模擬する観点又は既往研究の知見を取り入れ実機の挙動を模擬する観点で，材料物性のばらつき等への配慮をしつつ時刻歴応答解析法を用いる等，解析対象とする現象，対象設備の振動特性・構造特性

等を考慮し適切に選定する。

3次元的な広がりを持つ設備については、3次元的な配置を踏まえ、適切にモデル化し、水平2方向及び鉛直方向の応答成分について適切に組み合わせるものとする。具体的な方針については添付書類「VI-2-1-8 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する影響評価方針」に示す。

剛性の高い機器は、その機器の設置床面の最大応答加速度の1.2倍の加速度を震度として作用させて構造強度評価に用いる地震力を算定する。

#### a. 解析方法

スペクトルモーダル解析法における最大値は、二乗和平方根（SRSS）法により求める。時刻歴応答解析法においては直接積分法又はモーダル時刻歴解析による。

#### b. 解析モデル

代表的な機器・配管系の解析モデルを以下に示す。

##### (a) 原子炉格納容器，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物

原子炉格納容器，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物は、建物質量に対しその質量が比較的大きく、また支持構造上からも原子炉建屋による影響が無視できないため、原子炉建屋と連成させた解析モデルを用いる。原子炉格納容器，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物は、多質点系モデルに置換し、各構造物を結合するスタビライザ等は等価なばねに置換する。

##### (b) 一般機器

容器，熱交換器等の一般の機器は、機器本体及び支持構造物の剛性をそれぞれ考慮し、原則として重心位置に質量を集中させた1質点系モデルに置換する。

ただし、振動特性の観点から質量分布，剛性変化等を考慮する方が適切と考えられる構造の場合は、多質点系モデルに置換する。

##### (c) 配管

配管は、その振動性状を適切に考慮するため、3次元多質点はりモデルに置換する。

##### (d) クレーン類

クレーン類は、その構造特性を考慮して3次元はりモデルに置換する。なお、すべり等の非線形現象を考慮する場合は、すべり要素等の非線形要素を取り入れた上で3次元はりモデルに置換する。

### 2.3 屋外重要土木構造物

#### (1) 入力地震動

屋外重要土木構造物及び重大事故等対処施設における常設耐震重要重大事故防



止設備，常設重大事故緩和設備，常設重大事故防止設備（設計基準拡張）（当該設備が属する耐震重要度分類がSクラスのもの）又は常設重大事故緩和設備（設計基準拡張）が設置される重大事故等対処施設の土木構造物の地震応答解析における入力地震動は，解放基盤表面で定義される基準地震動 $S_s$ を基に，対象構造物の地盤条件を適切に考慮した上で，1次元波動論により，地震応答解析モデルの入力位置で評価した入力地震動を設定する。地盤条件を考慮する場合には，地震動評価で考慮した敷地全体の地下構造との関係にも留意し，地盤の非線形応答に関する動的変形特性を考慮する。

## (2) 解析方法及び解析モデル

動的解析による地震力の算定に当たっては，地震応答解析手法の適用性及び適用限界等を考慮の上，適切な解析法を選定するとともに，各構造物に応じた適切な解析条件を設定する。地震応答解析は，地盤と構造物の相互作用を考慮できる手法とし，地盤及び構造物の地震時における非線形挙動の有無や程度に応じて，線形，等価線形，非線形解析のいずれかにて行う。地震応答解析に用いる材料定数については，材料物性のばらつき等による変動が屋外重要土木構造物の振動性状や応答性状に及ぼす影響を検討し，材料物性のばらつき等を適切に考慮する。

また，動的解析にて地震時の地盤の有効応力の変化に伴う影響を考慮する場合には，有効応力解析を実施する。有効応力解析に用いる液状化強度特性は，敷地の原地盤における代表性及び網羅性を踏まえた上で実施した液状化強度試験結果に基づき，保守性を考慮して設定する。液状化等を示す土層については，敷地の中で当該土層の分布範囲等を踏まえた上で，ばらつき及び不確実性を考慮して液状化強度特性を設定する。上部土木構造物及び機器・配管系への加速度応答に対する保守的な配慮として，地盤の非液状化の影響を考慮する場合は，原地盤において非液状化の条件を仮定した解析を実施する。

また，地震応答解析では，水平地震動と鉛直地震動の同時加振とするが，構造物の応答特性により水平2方向の同時性を考慮する必要がある場合は，水平2方向の組合せについて適切に評価する。具体的な方針については添付書類「VI-2-1-8 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する影響評価方針」に示す。

重大事故等対処施設のうち，設計基準対象施設の既往評価を適用できる基本構造等と異なる施設については，適用する地震力に対して，要求される機能及び構造健全性が維持されることを確認するため，当該施設の構造を適切にモデル化した上での地震応答解析，加振試験等を実施する。

### 3. 設計用減衰定数

地震応答解析に用いる減衰定数は、「原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1987, (社) 日本電気協会」及び「原子力発電所耐震設計技術指針 J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版, (社) 日本電気協会」(以下「J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版」という。)に記載されている減衰定数を設備の種類, 構造等により適切に選定するとともに, 試験等で妥当性が確認された値も用いる。具体的には表 3-1 に示す値を用いる。

なお, 建物・構築物の地震応答解析に用いる鉄筋コンクリートの減衰定数については, 既往の知見に加え, 入力地震動による建物・構築物の応答レベル及び構造形状の複雑さを踏まえて, 既施設の地震観測記録等により検討を行った結果, 適用性が確認できたことから表 3-1 に示す建物・構築物に対して 5%と設定する。

地盤と屋外重要土木構造物の連成系地震応答解析モデルの減衰定数については, 地中構造物としての特徴, 同モデルの振動特性を考慮して適切に設定する。

表 3-1 減衰定数

建物・構築物

対象設備		使用材料	減衰定数 (%)	
			水平方向	鉛直方向
原子炉建屋	建屋	鉄筋コンクリート	5	5
		鉄骨	2	2
	地盤	-	J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版の 近似法により算定*	
原子炉建屋 屋根トラス	建屋	鉄筋コンクリート	5	5
		鉄骨	2	2
排気筒	構築物	鉄筋コンクリート	5	5
		鉄骨	2	2
		鋼材	1	1
	地盤	-	粘性減衰及び履歴減衰を設定	
緊急時対策建屋	建屋	鉄筋コンクリート	5	5
	地盤	-	J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版の 近似法により算定*	

注記\*：地盤条件及び基礎形状等に基づき動的地盤ばねを算定し， J E A G 4 6 0 1 -  
1991 追補版の近似法により算定

機器・配管系

対象設備	減衰定数(%)	
	水平方向	鉛直方向
溶接構造物	1.0	1.0 <sup>*1</sup>
ボルト及びリベット構造物	2.0	2.0 <sup>*1</sup>
ポンプ・ファン等の機械装置	1.0	1.0 <sup>*1</sup>
燃料集合体	7.0	1.0 <sup>*1</sup>
制御棒駆動機構	3.5	1.0 <sup>*1</sup>
空調用ダクト	2.5	2.5 <sup>*1</sup>
電気盤	4.0	1.0 <sup>*1</sup>
使用済燃料貯蔵ラック	7.0 <sup>*3</sup>	1.0 <sup>*1</sup>
建屋クレーン	2.0 <sup>*3</sup>	2.0 <sup>*1</sup>
燃料交換機	2.0 <sup>*3</sup>	1.5 (2.0) <sup>*1*2</sup>
配管系	0.5～3.0 <sup>*3*4</sup>	0.5～3.0 <sup>*1*3*4</sup>
液体の揺動	0.5	-

注記\*1： 既往の研究等において、設備の地震入力方向の依存性や減衰特性について検討され、妥当性が確認された値

\*2： ( ) 外は、燃料交換機のトロリ位置が端部にある場合、( ) 内は、燃料交換機のトロリ位置が中央部にある場合

\*3： 既往の研究等において、試験及び解析等により妥当性が確認されている値

\*4： 具体的な適用条件を「配管系の減衰定数」に示す。

参考文献

電力共通研究「機器・配管系に対する合理的耐震評価法の研究」(2000～2001年)

電力共通研究「鉛直地震動を受ける設備の耐震評価手法に関する研究」(1995～1998年)

浪田ほか、「水中振動試験によるBWR使用済燃料貯蔵ラックの減衰比」, 日本機械学会

[No.10-8] Dynamics and Design Conference 2010 論文集 No.417

長坂ほか、「BWR使用済燃料貯蔵ラックの減衰特性評価」, 日本原子力学会「2015年秋の大会」No. B36

配管系の減衰定数

配管区分* <sup>1</sup>		減衰定数(%)* <sup>2</sup>	
		保温材無	保温材有* <sup>3</sup>
I	スナップ及び架構レストレイント支持主体の配管系で、支持具（スナップ又は架構レストレイント）の数が4個以上のもの	2.0	3.0* <sup>4</sup>
II	スナップ、架構レストレイント、ロッドレストレイント、ハンガ等を有する配管系で、アンカ及びUボルトを除いた支持具の数が4個以上であり、配管区分Iに属さないもの	1.0	2.0* <sup>4</sup>
III	Uボルトを有する配管系で、架構で水平配管の自重を受けるUボルトの数が4個以上のもの	2.0* <sup>4</sup>	3.0* <sup>4</sup>
IV	配管区分I、II及びIIIに属さないもの	0.5	1.5* <sup>4</sup>

注記\*1： 支持具の種類及び数は、アンカからアンカまでの独立した振動系について算定する。支持具の算定は、当該支持点を同一方向に複数の支持具で分配して支持する場合には、支持具数は1個として扱い、同一支持点を複数の支持具で2方向に支持する場合は2個として取扱うものとする。

\*2： 水平方向及び鉛直方向の減衰定数は同じ値を使用

\*3： 保温材有の減衰定数は、無機多孔質保温材による付加減衰定数として1.0%を考慮したものである。金属保温材による付加減衰定数は、配管全長に対する金属保温材使用割合が40%以下の場合1.0%を適用するが、金属保温材使用割合が40%を超える場合は0.5%とする。

\*4： J E A G 4 6 0 1 -1991 追補版で規定されている配管系の減衰定数に、既往の研究等において妥当性が確認された値を反映

参考文献

電力共通研究「機器・配管系に対する合理的耐震評価法の研究」（2000～2001年）

電力共通研究「鉛直地震動を受ける設備の耐震評価手法に関する研究」（1995～1998年）

## 地震観測網について

## 目次

1. 概要	1
2. 地震観測網の基本方針	1
3. 地震観測網の配置計画	1

## 1. 概要

女川原子力発電所第2号機の主要な建屋には、原子炉格納施設等の安全上重要な施設の実地震時の振動特性を把握するために、各建屋に地震計を設置し、継続して地震観測を行う。また、比較的規模の大きい地震の観測記録が得られた場合は、それらの測定結果に基づく解析等により、主要な施設の健全性を確認すること等に活用する。また、原子炉をスクラムさせるようなある程度以上の地震が起こった場合には、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震等の影響を踏まえて設計体系に反映した事項（初期剛性低下の考慮等）について分析し、設計の妥当性を確認する。

なお、地震観測装置の設置に当たっては、地震観測を継続して実施するために、地震観測網の適切な維持管理を行うとともに、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震等に対する振動性状の詳細検討結果に応じて観測装置の充実を図る。

## 2. 地震観測網の基本方針

原子炉建屋については、地震時の建屋の水平方向及び鉛直方向の振動特性を把握するため、建屋の基礎上、原子炉棟の外壁面の適切な位置に地震計を配置することにより、実地震による建屋の振動（建屋増幅特性、ロッキング動及び捩れ）を観測する。

制御建屋については、地震時の建屋の水平方向及び鉛直方向の振動特性を把握するため、建屋の基礎上及び最上部の適切な位置に地震計を配置することにより、実地震による建屋の振動（建屋増幅特性）を観測する。

なお、地震計は、原則として水平2成分と鉛直1成分の計3成分を観測するものとする。

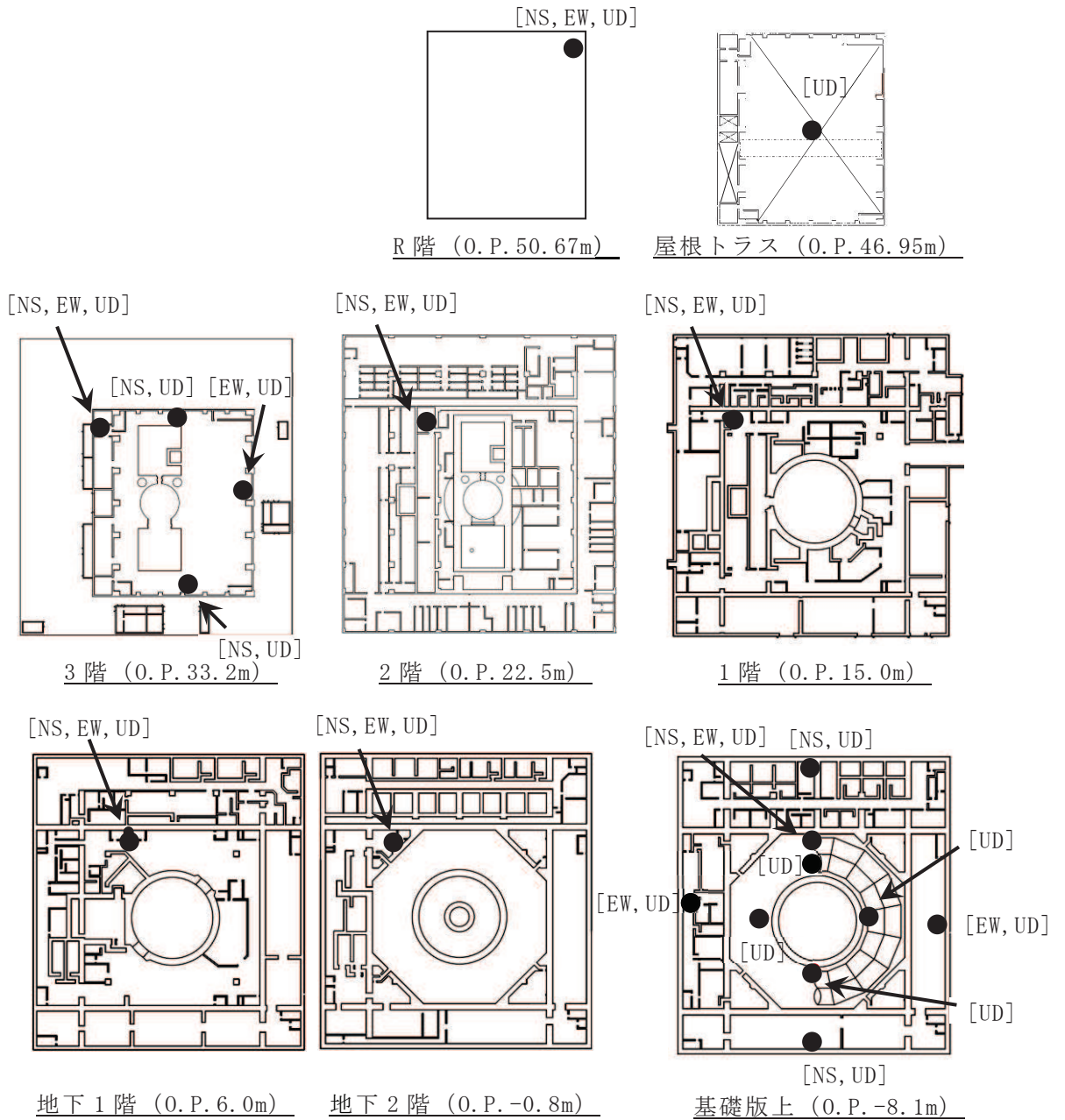
## 3. 地震観測網の配置計画

各建屋の地震計の設置方針を表3-1に示す。地震計配置を図3-1及び図3-2に示す。

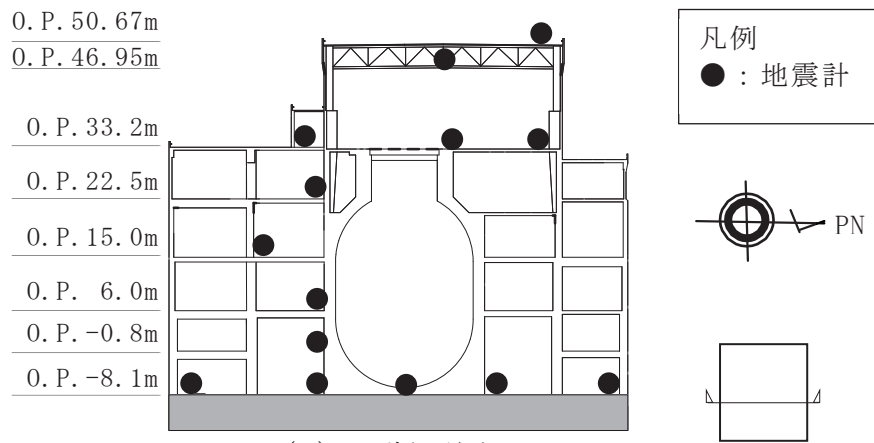


表 3-1 各建屋の地震計の設置方針

建屋		設置方針
原子炉 建屋	原子炉棟の外壁	・水平方向及び鉛直方向の振動を観測する。
	基礎	・水平方向及び鉛直方向の振動を観測する。 ・ロッキング動及び振れを確認できるように設置する。
制御建屋		・水平方向及び鉛直方向の振動を観測する。

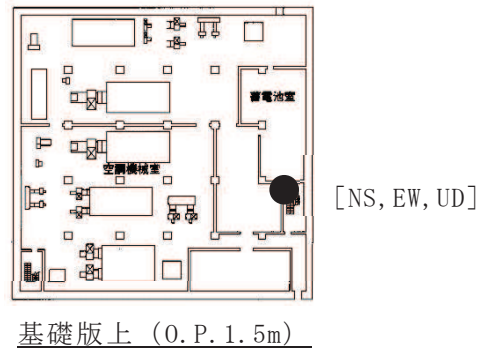
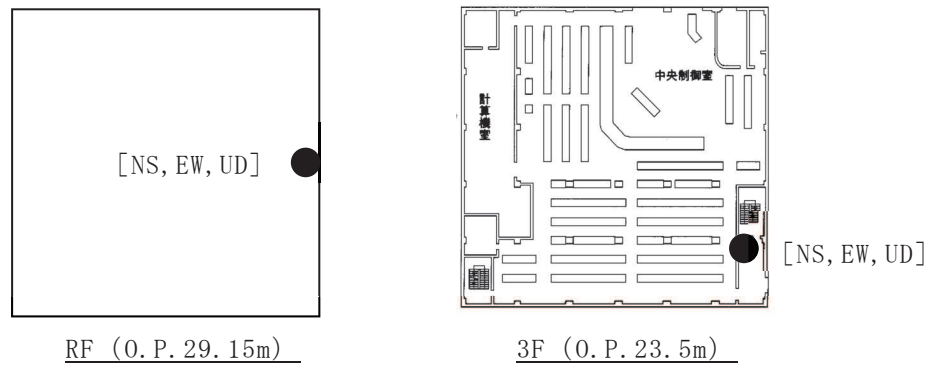


(1) 平面図

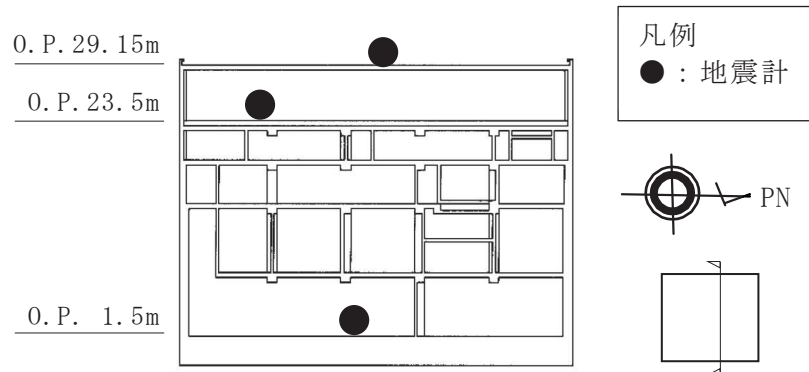


(2) 断面図

図 3-1 地震計配置図 (原子炉建屋)



(1) 平面図



(2) 断面図

図 3-2 地震計配置図 (制御建屋)

## VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針

## 目次

1.	概要	1
2.	設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度作成に係る基本方針及び作成方法	1
2.1	基本方針	1
2.1.1	設計用床応答曲線	1
2.1.2	設計用最大応答加速度	1
2.2	作成方法	3
2.2.1	応答スペクトルの作成方法	3
2.2.2	設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成方法	3
2.2.3	設計用床応答曲線の作成位置	6
2.2.4	設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の適用方法	6
3.	地震応答解析モデル	7
4.	設計用最大応答加速度及び設計用床応答曲線	66
4.1	弾性設計用地震動 $S_d$	66
4.2	基準地震動 $S_s$	67
4.3	余震荷重を算定するための地震動	68

## 1. 概要

本資料は、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」のうち「4. 設計用地震力」に基づき、機器・配管系の動的解析に用いる設計用床応答曲線の作成方針及びその方針に基づき作成した設計用床応答曲線に関して説明するものである。また、機器・配管系の静的解析に用いる設計用最大応答加速度及び静的震度についても併せて説明する。

## 2. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度作成に係る基本方針及び作成方法

### 2.1 基本方針

#### 2.1.1 設計用床応答曲線

- (1) 添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」のうち「2. 地震応答解析の方針」に基づき策定した各原子炉施設の解析モデルに対して、入力地震動を用いた時刻歴応答解析を行い、各質点位置における加速度応答時刻歴を求める。入力地震動は、添付書類「VI-2-1-2 基準地震動  $S_s$  及び弾性設計用地震動  $S_d$  の策定概要」に基づくものとして、表 2-1 及び表 2-2 に示す。
- (2) (1) で求めた各質点の加速度応答時刻歴を入力として、減衰付 1 自由度系の応答スペクトルを必要な減衰定数の値に対して求める。
- (3) (2) で求めた応答スペクトルに対し、各原子炉施設の固有周期のシフトを考慮し、周期方向に±10%の拡幅を行う。本資料においては、これを「床応答曲線」という。
- (4) (3) で求めた床応答曲線に対し、材料物性の不確かさ等を考慮して作成したものを設計用床応答曲線とする。

#### 2.1.2 設計用最大応答加速度

2.1.1 (1) で求めた各質点の加速度応答時刻歴の最大値（最大応答加速度）に対し、材料物性の不確かさ等や乾燥収縮及び地震によるコンクリートのひび割れに対する影響を考慮して作成したものを設計用最大応答加速度とする。

表 2-1 入力地震動（基準地震動 S<sub>s</sub>）

基準地震動		最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )	
		水平方向	鉛直方向
S <sub>s</sub> -D 1	プレート間地震の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	640	430
S <sub>s</sub> -D 2	海洋プレート内地震 (SMGA* マントル内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	1,000	600
S <sub>s</sub> -D 3	海洋プレート内地震 (SMGA* 地殻内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	800	500
S <sub>s</sub> -F 1	プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (応力降下量 (短周期レベル) の不確かさ)	717	393
S <sub>s</sub> -F 2	プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA* 位置と応力降下量 (短周期レベル) の不確かさの重畳)	722	396
S <sub>s</sub> -F 3	海洋プレート内地震 (SMGA* マントル内) の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA* マントル内集約)	835	443
S <sub>s</sub> -N 1	2004 年北海道留萌支庁南部地震 (K-NET 港町) の検討結果に保守性を考慮した地震動	620	320

注記\*：強震動生成域

表 2-2 入力地震動（弾性設計用地震動 S<sub>d</sub>）

弾性設計用地震動	最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )	
	水平方向	鉛直方向
S <sub>d</sub> -D 1	371	249
S <sub>d</sub> -D 2	580	348
S <sub>d</sub> -D 3	464	290
S <sub>d</sub> -F 1	359	197
S <sub>d</sub> -F 2	361	198
S <sub>d</sub> -F 3	418	222
S <sub>d</sub> -N 1	310	160

## 2.2 作成方法

### 2.2.1 応答スペクトルの作成方法

#### (1) 解析方法

2.1.1(1)で述べた方針で時刻歴応答解析を行い、各モデルの各質点における加速度応答時刻歴を求める。この加速度応答時刻歴を入力波として応答スペクトルを作成する。すなわち、入力波の絶対加速度を $\ddot{Y}_i$ とおけば、質点系の振動方程式は、

$$\ddot{Z}_i + 2 \cdot h \cdot \omega \cdot \dot{Z}_i + \omega^2 \cdot Z_i = -\ddot{Y}_i \cdot \dots \cdot \dots (2.1)$$

ただし、

- $\omega$  : 質点系の固有円振動数
- $Z_i$  : i 質点上の質点の相対変位
- $h$  : 減衰定数

地震の間の $\ddot{Y}_i + \ddot{Z}_i$ の最大値を $\omega$ 及び $h$ をパラメータとして求め、応答スペクトルを作成する。応答スペクトルの作成には、「FRS Calculation System」、  
「VIANA」、  
「CHERRY」、  
「FACS」及び「FRS Enveloping for BWR」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。

#### (2) 減衰定数

応答スペクトルは、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」の機器・配管系の減衰定数を用いて作成する。

#### (3) 数値計算用諸元

固有周期作成幅	0.05～1.0s
固有周期計算間隔	
0.05 ～ 0.1s	$\Delta \omega = 4.0 \text{rad/s}$
0.1 ～ 0.2s	$\Delta \omega = 1.5 \text{rad/s}$
0.2 ～ 0.39s	$\Delta \omega = 0.5 \text{rad/s}$
0.39 ～ 0.94s	$\Delta \omega = 1.0 \text{rad/s}$
0.94 ～ 1.0s	$\Delta \omega = 0.38 \text{rad/s}$

### 2.2.2 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成方法

#### (1) 設計用床応答曲線

設計用床応答曲線は、基準地震動 $S_s$ 又は弾性設計用地震動 $S_d$ による時刻歴応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトルを固有周期の多少のずれにより、応答に大幅な変化が生じないよう周期軸方向に±10%の拡幅を行ったものと材料物性の不確かさ等を考慮して作成した応答スペクトルを



包絡させたものである（図 2-1）。ただし、材料物性の不確かさ等を考慮して作成する応答スペクトルについては、±10%の拡幅は考慮しない。

(2) 設計用最大応答加速度

設計用最大応答加速度は、基準地震動  $S_s$  又は弾性設計用地震動  $S_d$  による時刻歴応答解析から得られる応答波の最大値（最大応答加速度）と材料物性の不確かさ等を考慮した時刻歴応答解析から得られる応答波の最大値を包絡させたものである。

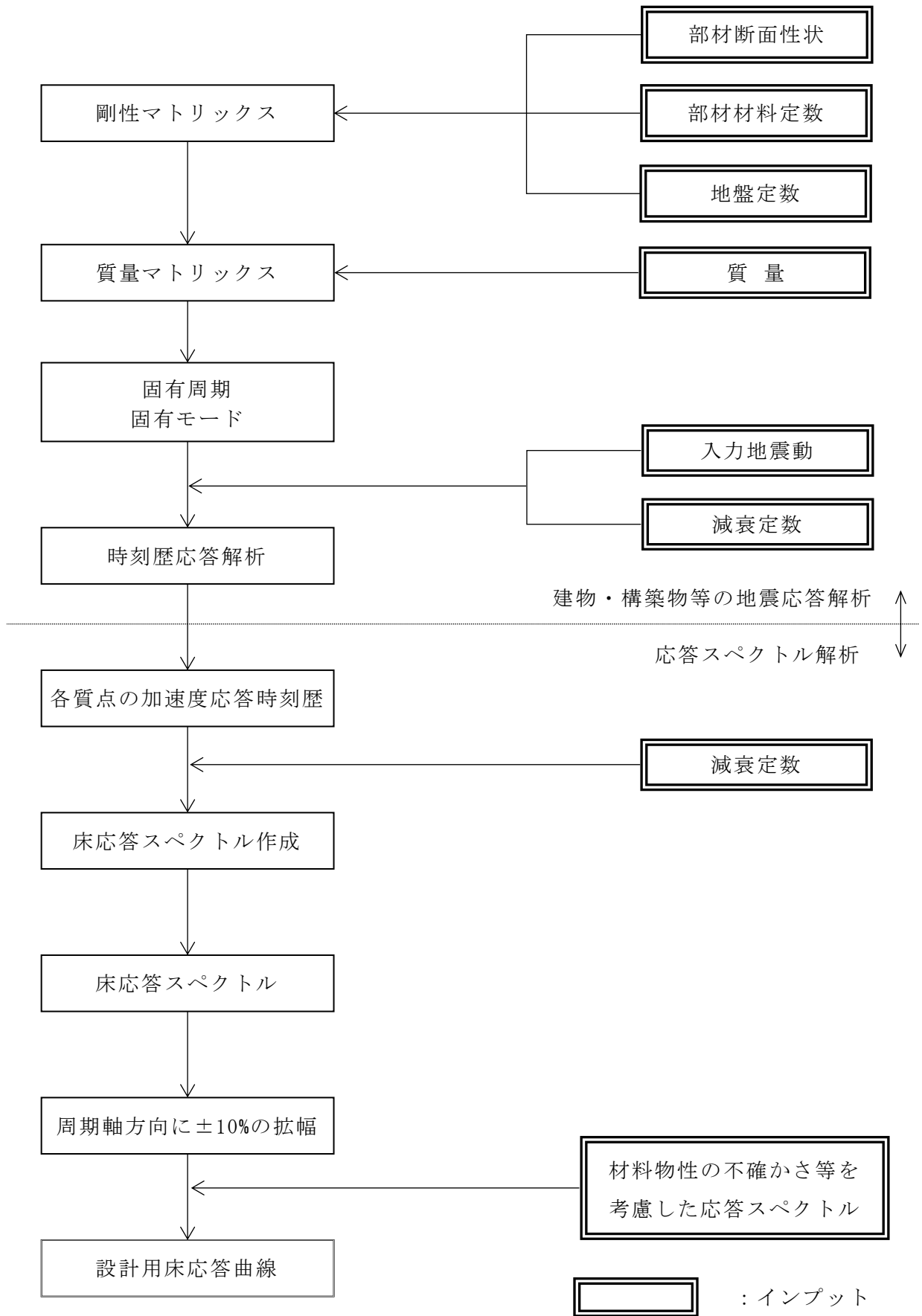


図 2-1 設計用床応答曲線の作成方法

### 2.2.3 設計用床応答曲線の作成位置

図 3-1(1)～図 3-17(3)の解析モデルについて設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度を作成する。

### 2.2.4 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の適用方法

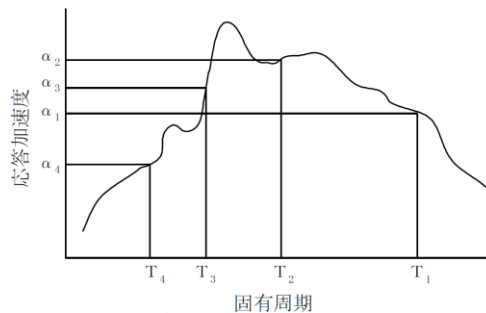
#### (1) 概要

機器・配管系の動的地震力を求める場合は、それぞれの据付け位置における設計用床応答曲線又は設計用最大応答加速度を使用して設計震度を定める。この場合、以下の運用方法に従う。

#### (2) 運用方法

##### a. 設計用床応答曲線

- (a) 振動方向に合わせ、水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用床応答曲線を使用する。
- (b) 設計用床応答曲線は、配管系が設置されている位置を包絡する設計用床応答曲線を適用する。また、異なる建物・構築物を渡る配管系については、配管系が設置されている位置を包絡する設計用床応答曲線を適用する。ただし、設計用床応答曲線の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。
- (c) 設計用床応答曲線を用いて動的解析を行う場合には以下に示す方法によりモード合成を行うものとする。



$T_s$  :  $s$  次の固有周期

$\alpha_s$  :  $T_s$  に対応する震度

$\phi_{si}$  :  $s$  次の  $i$  質点の固有モード

$\beta_s$  :  $s$  次の刺激係数

$A_i$  :  $i$  質点の設計震度

$$A_i = \sqrt{\sum_{s=1}^n (\beta_s \cdot \phi_{si} \cdot \alpha_s)^2}$$

b. 設計用最大応答加速度

- (a) 振動方向に合わせ、水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用最大応答加速度を使用する。なお、耐震計算書においては、無次元化した設計震度として記載されることもある。
- (b) 設計用最大応答加速度は、配管系が設置されている位置を包絡する設計用最大応答加速度を適用する。また、異なる建物・構築物を渡る配管系については、配管系が設置されている位置を包絡する設計用最大応答加速度を適用する。ただし、設計用最大応答加速度の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。

3. 地震応答解析モデル

(1) 原子炉建屋

原子炉建屋の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-1 原子炉建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-1 (1) 及び図 3-1 (2) に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図 3-1 (3) に示す。

(2) 制御建屋

制御建屋の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-3 制御建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-2 (1) 及び図 3-2 (2) に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図 3-2 (3) に、誘発上下動を考慮する場合の地震応答解析モデルを図 3-2 (4) 及び図 3-2 (5) に示す。

(3) 復水貯蔵タンク基礎

復水貯蔵タンク基礎の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-5 復水貯蔵タンク基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS 方向の地震応答解析モデルを図 3-3 (1) 及び図 3-3 (2) に、EW 方向の地震応答解析モデルを図 3-3 (3) 及び図 3-3 (4) に示す。

(4) 海水ポンプ室

海水ポンプ室の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-7 海水ポンプ室の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS 方向の地震応答解析モデルを図 3-4 (1) に、加速度応答算出位置を図 3-4 (2) に、EW 方向の地震応答解析モデルを図 3-4 (3) に、加速度応答算出位置を図 3-4 (4) に示す。

(5) 第 3 号機海水ポンプ室

第 3 号機海水ポンプ室の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-9 第 3 号機海水ポンプ室の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS 方向の地震応答解析モデルを図 3-5 (1) に、加速度応答算出位置を図 3-5 (2) に、EW 方向の地震応答解析モデルを図 3-5 (3) に、加速度応答算出位置を図 3-5 (4) に示す。

(6) 原子炉機器冷却海水配管ダクト（水平部）

原子炉機器冷却海水配管ダクト（水平部）の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-11 原子炉機器冷却海水配管ダクト（水平部）の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。地震応答解析モデルを図 3-6（1）に、加速度応答算出位置を図 3-6（2）に示す。

(7) 軽油タンク室

軽油タンク室の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-13 軽油タンク室の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS 方向の地震応答解析モデルを図 3-7（1）に、加速度応答算出位置を図 3-7（2）に、EW 方向（タンク室）の地震応答解析モデルを図 3-7（3）に、加速度応答算出位置を図 3-7（4）に、EW 方向（ポンプ室）の地震応答解析モデルを図 3-7（5）に、加速度応答算出位置を図 3-7（6）に示す。

(8) 軽油タンク室（H）

軽油タンク室（H）の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-15 軽油タンク室（H）の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS 方向の地震応答解析モデルを図 3-8（1）に、加速度応答算出位置を図 3-8（2）に、EW 方向の地震応答解析モデルを図 3-8（3）に、加速度応答算出位置を図 3-8（4）に示す。

(9) ガスタービン発電設備軽油タンク室

ガスタービン発電設備軽油タンク室の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-17 ガスタービン発電設備軽油タンク室の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS 方向の地震応答解析モデルを図 3-9（1）に、加速度応答算出位置を図 3-9（2）に、EW 方向の地震応答解析モデルを図 3-9（3）に、加速度応答算出位置を図 3-9（4）に示す。

(10) 軽油タンク連絡ダクト

軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-19 軽油タンク連絡ダクトの地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。地震応答解析モデルを図 3-10（1）に、加速度応答算出位置を図 3-10（2）に示す。

(11) 緊急用電気品建屋

緊急用電気品建屋の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-21 緊急用電気品建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-11（1）及び図 3-11（2）に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図 3-11（3）に示す。

(12) 緊急時対策建屋

緊急時対策建屋の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-23 緊急時対策建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-12（1）及び図 3-12（2）に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図 3-

12 (3) に示す。

(13) 排気筒基礎

排気筒基礎の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-25 排気筒基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS 方向の地震応答解析モデルを図 3-13 (1) に、加速度応答算出位置を図 3-13 (2) に、EW 方向の地震応答解析モデルを図 3-13 (3) に、加速度応答算出位置を図 3-13 (4) に示す。

(14) 排気筒連絡ダクト

排気筒連絡ダクトの地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-27 排気筒連絡ダクトの地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-14 (1)、図 3-14 (3)、図 3-14 (5) 及び図 3-14 (7) に、加速度応答算出位置を図 3-14 (2)、図 3-14 (4)、図 3-14 (6) 及び図 3-14 (8) に示す。

(15) 第 3 号機海水熱交換器建屋

第 3 号機海水熱交換器建屋の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-29 第 3 号機海水熱交換器建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-15 (1) に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図 3-15 (2) に、誘発上下動を考慮する場合の地震応答解析モデルを図 3-15 (3) に示す。

(16) 原子炉圧力容器、原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎

原子炉圧力容器、原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-3-2 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-16 (1) 及び図 3-16 (2) に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図 3-16 (3) に示す。

(17) 炉心及び原子炉内部構造物

炉心及び原子炉内部構造物の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-3-2 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図 3-17 (1) 及び図 3-17 (2) に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図 3-17 (3) に示す。

(18) サプレッションチェンバ

サプレッションチェンバの地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-9-2-1-2 サプレッションチェンバの耐震性についての計算書」に記載する全体はりモデルを用いる。地震応答解析モデルを図 3-18 に示す。

$E_c = 1.99 \times 10^4$	N/mm <sup>2</sup>
$7.94 \times 10^3$	N/mm <sup>2</sup> (燃料取替床上部)
$2.52 \times 10^4$	N/mm <sup>2</sup> (追設耐震壁)
$G_c = 8.53 \times 10^3$	N/mm <sup>2</sup>
$3.41 \times 10^3$	N/mm <sup>2</sup> (燃料取替床上部)
$1.05 \times 10^4$	N/mm <sup>2</sup> (追設耐震壁)
$E_s = 2.05 \times 10^5$	N/mm <sup>2</sup> (追設ブレース)
$G_s = 7.90 \times 10^4$	N/mm <sup>2</sup> (追設ブレース)

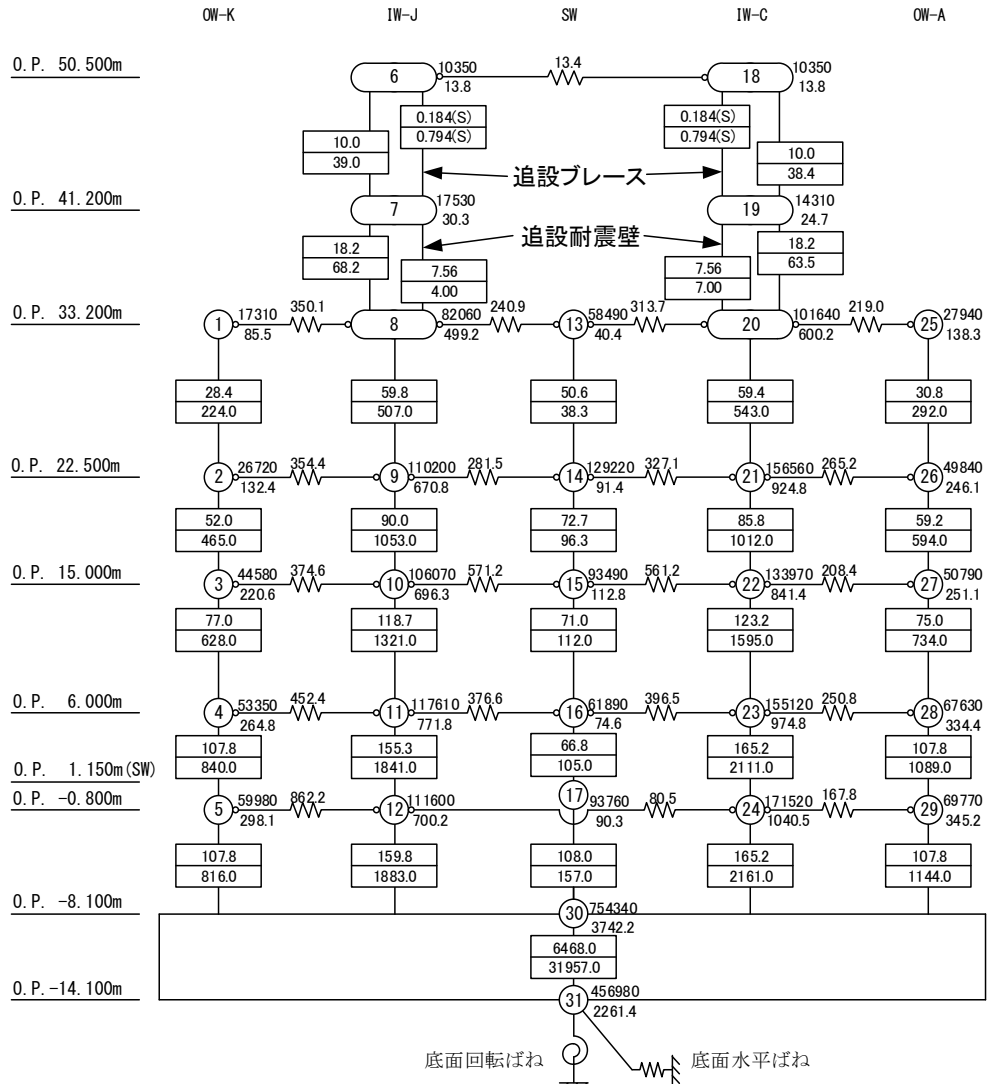
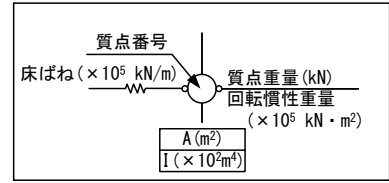
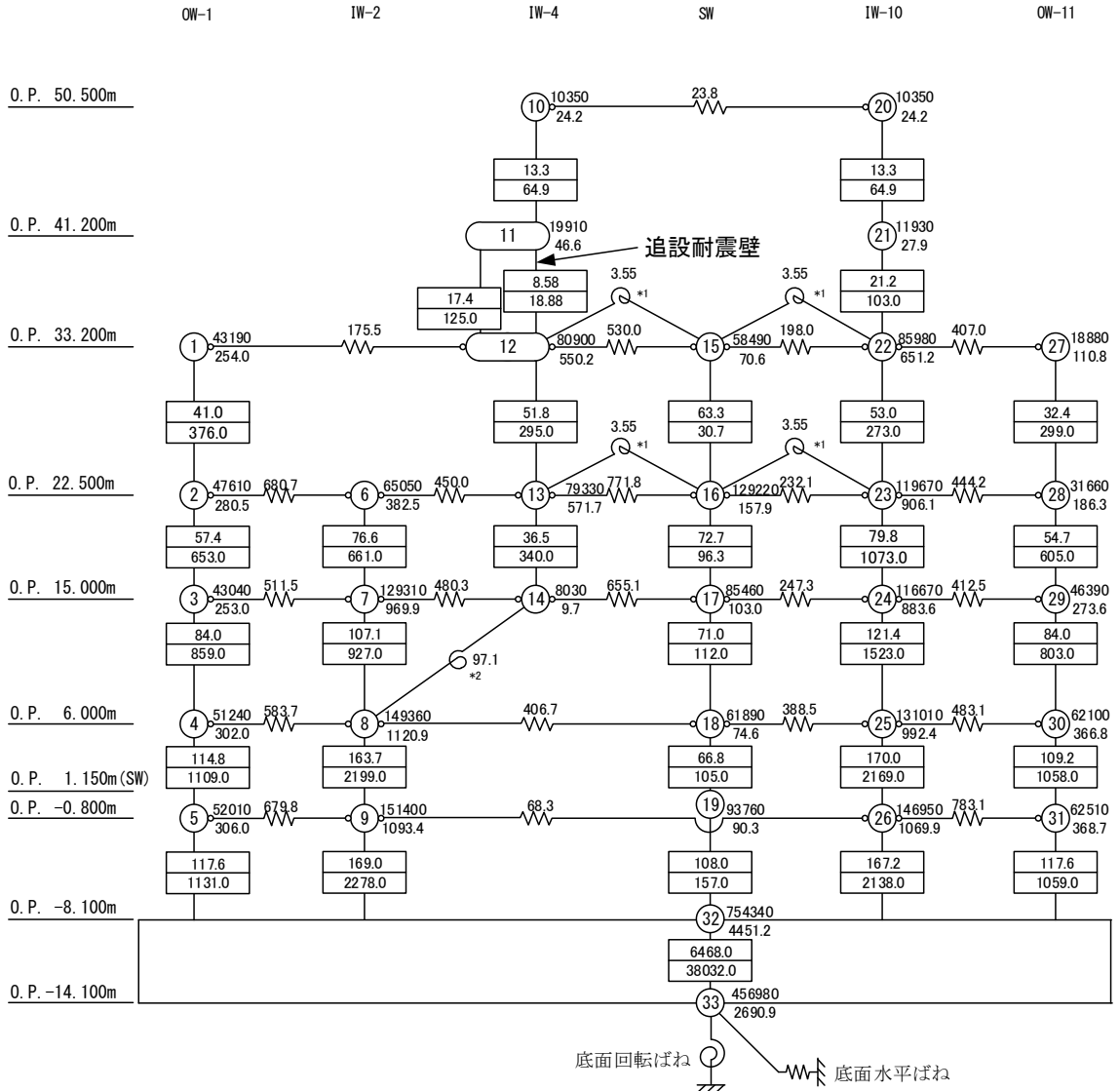
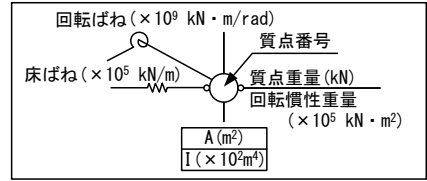


図 3-1 (1) 原子炉建屋の地震応答解析モデル (NS 方向)

$E_c = 2.12 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$   
 $1.32 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$  (燃料取替床上部)  
 $2.52 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$  (追設耐震壁)  
 $G_c = 9.10 \times 10^3 \text{ N/mm}^2$   
 $5.69 \times 10^3 \text{ N/mm}^2$  (燃料取替床上部)  
 $1.05 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$  (追設耐震壁)

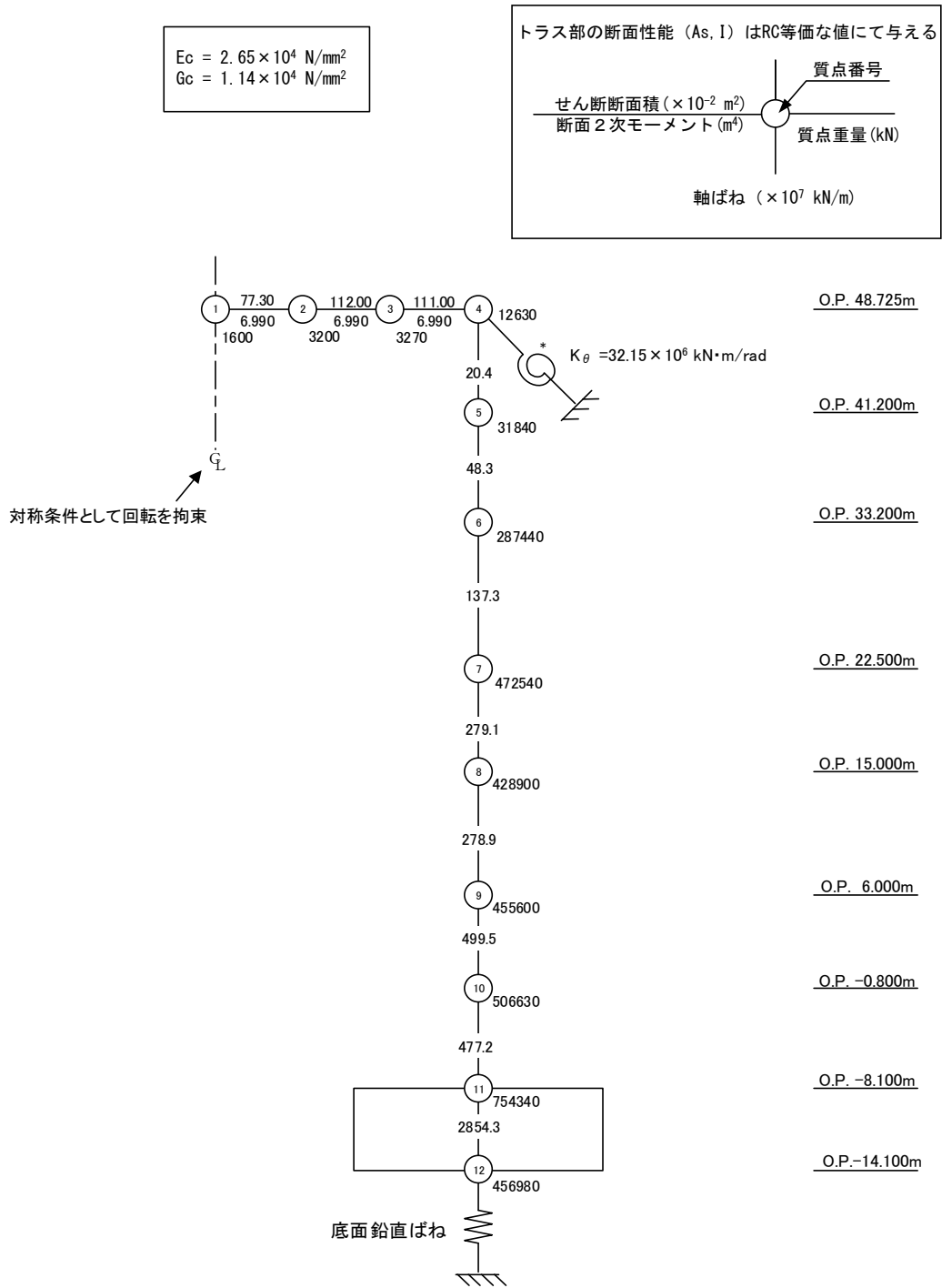


注記\*1: プール壁の回転ばね

注記\*2: 内部ボックス壁の軸抵抗を考慮した回転ばね

図 3-1 (2) 原子炉建屋の地震応答解析モデル (EW 方向)





注記\* : 屋根トラス端部回転拘束ばね

図 3-1 (3) 原子炉建屋の地震応答解析モデル (鉛直方向)

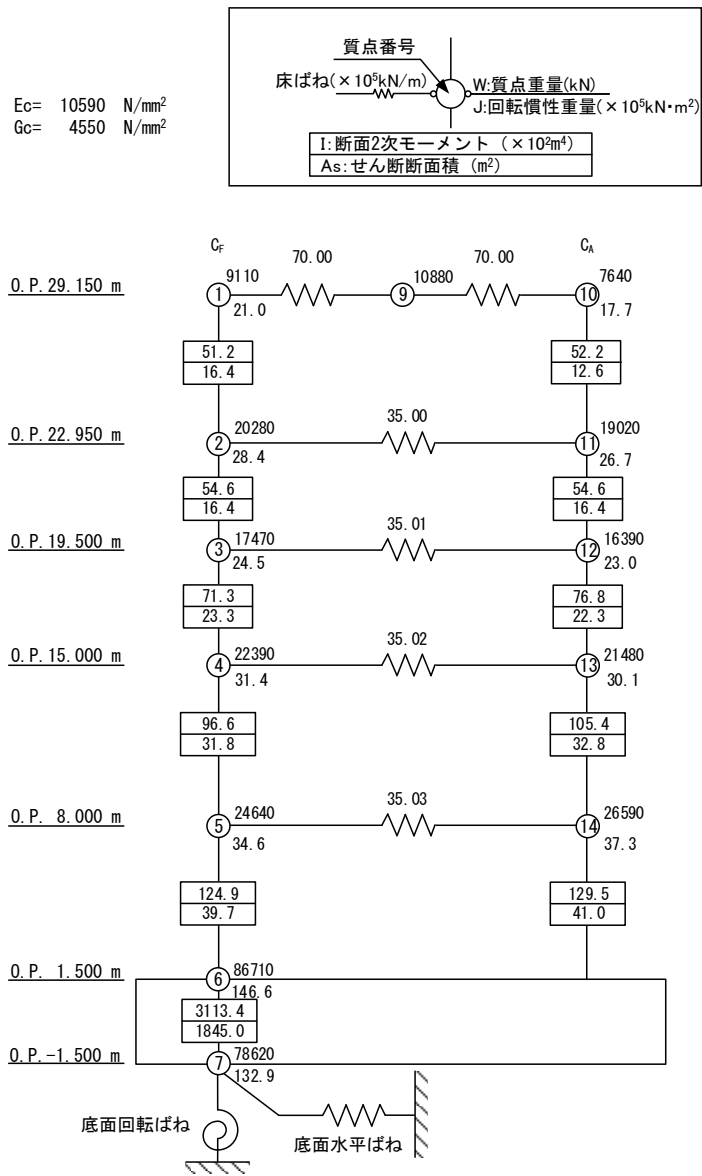


図 3-2 (1) 制御建屋の地震応答解析モデル (NS 方向)

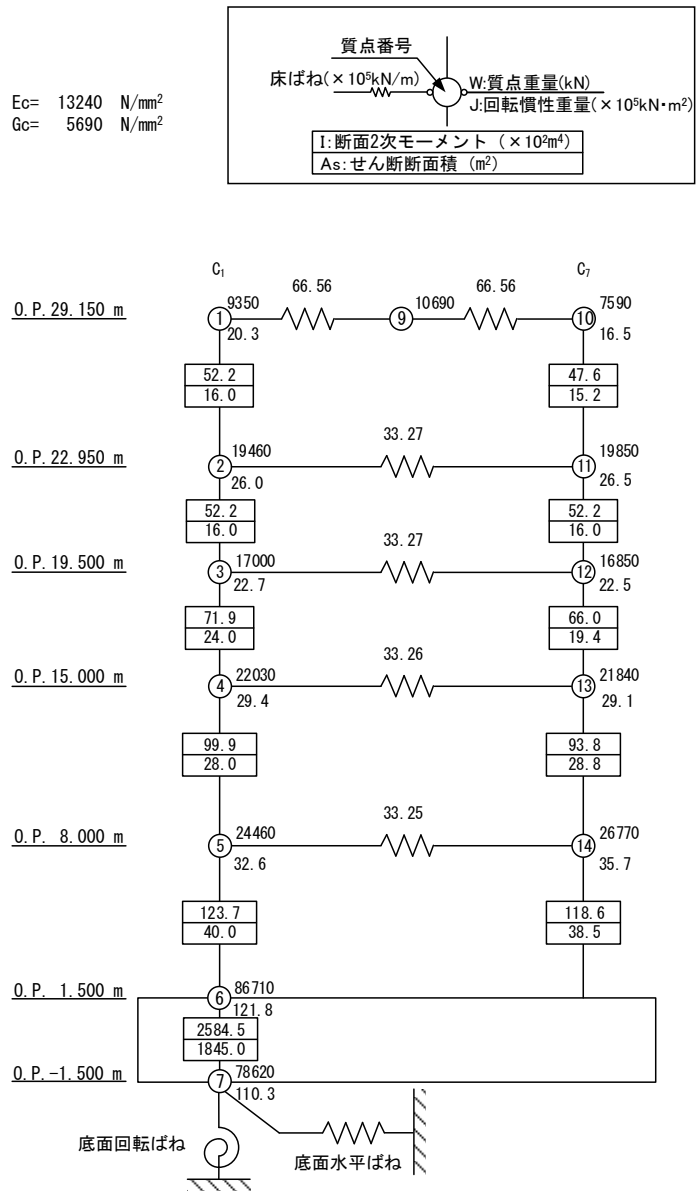


図 3-2 (2) 制御建屋の地震応答解析モデル (EW 方向)

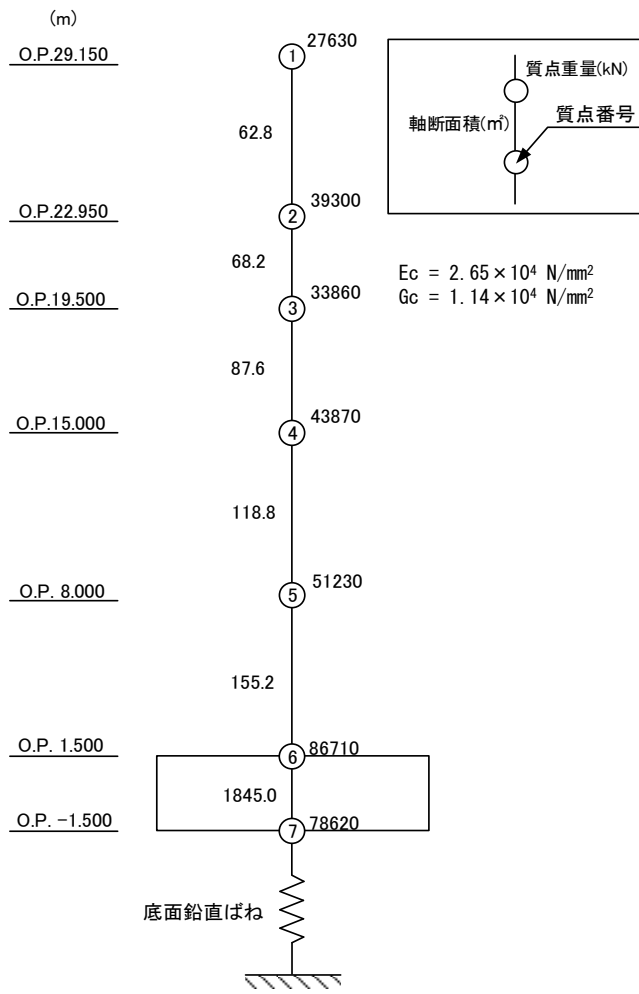
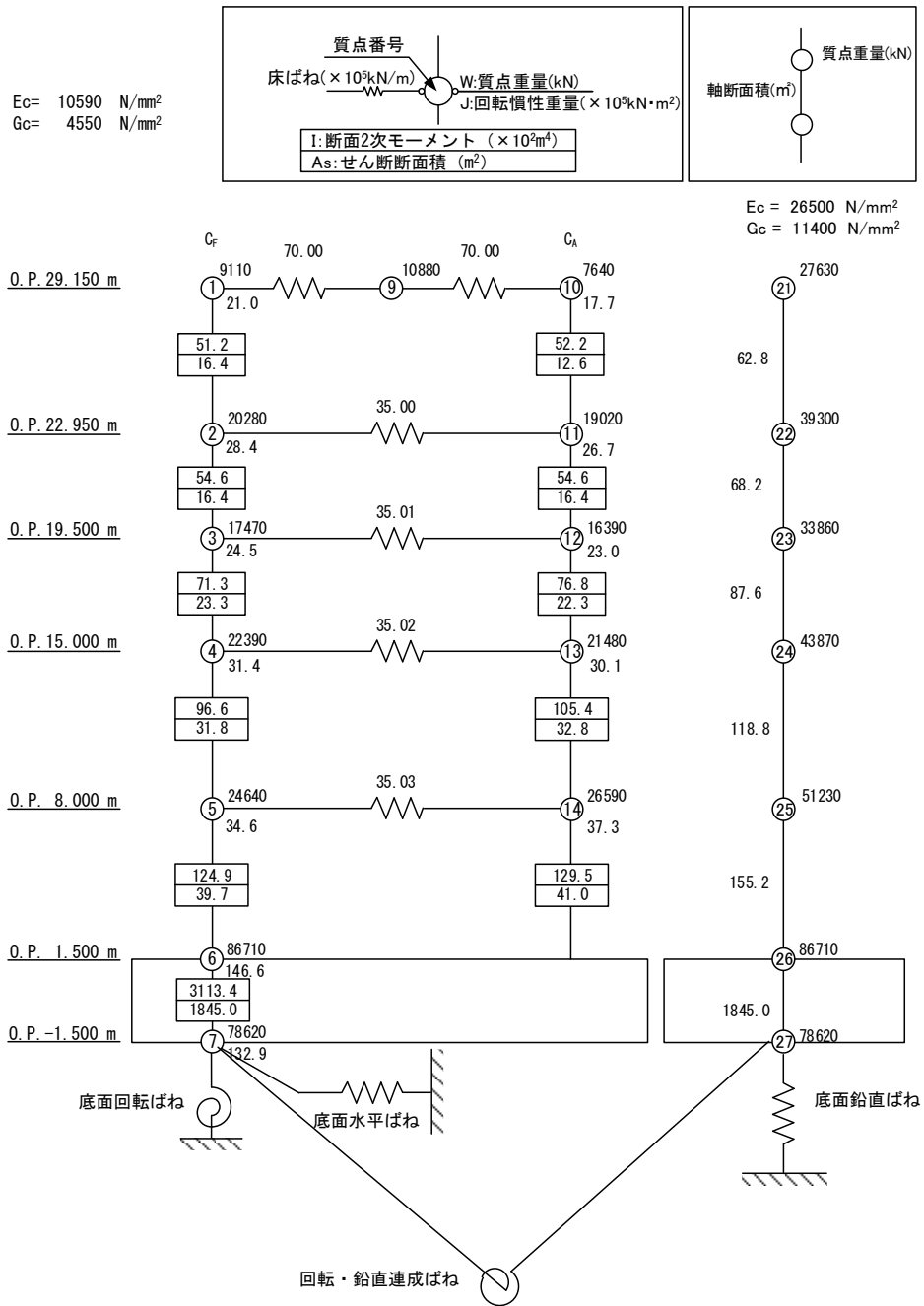


図 3-2 (3) 制御建屋の地震応答解析モデル (鉛直方向)



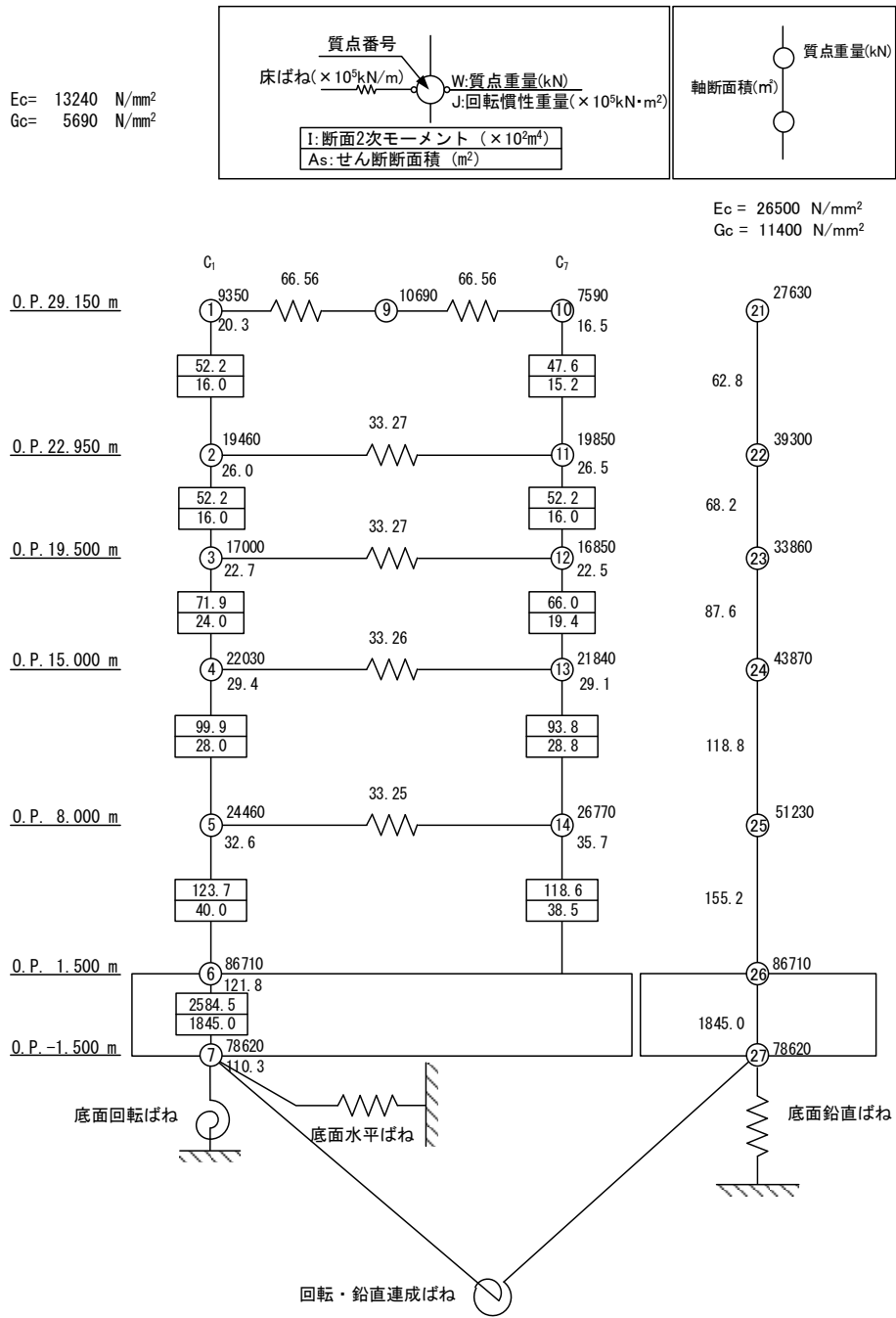


図 3-2 (5) 制御建屋の地震応答解析モデル (誘発上下動考慮, EW 方向)

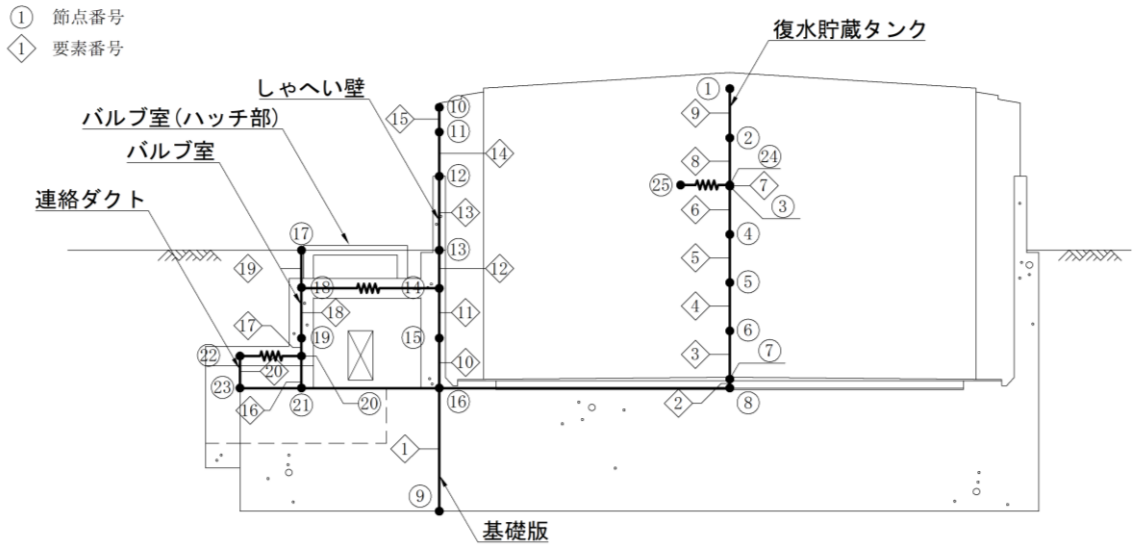


図 3-3 (1) 復水貯蔵タンク基礎の地震応答解析モデル (NS 方向, 水平方向)

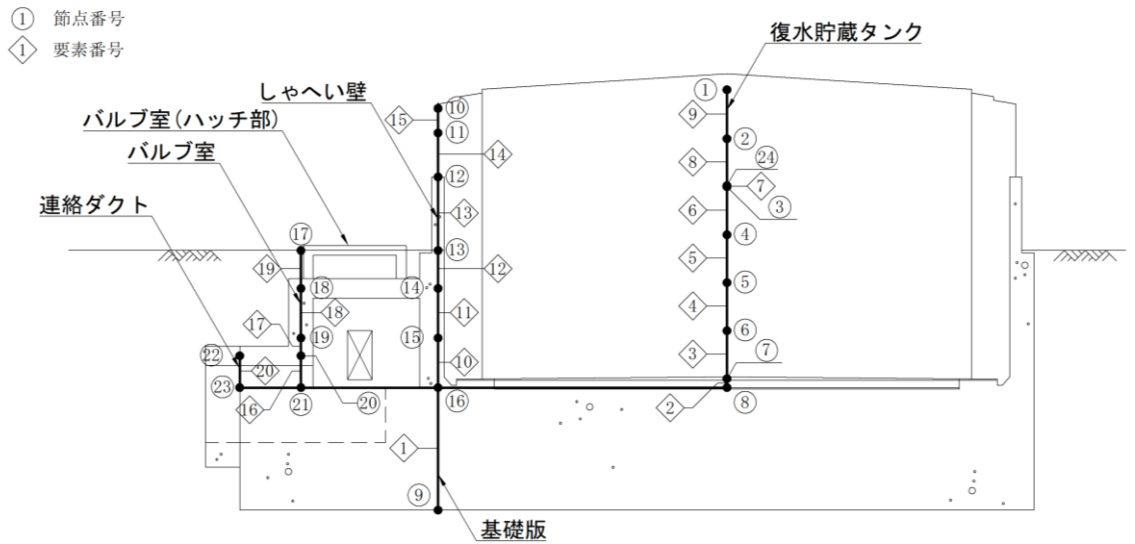


図 3-3 (2) 復水貯蔵タンク基礎の地震応答解析モデル (NS 方向, 鉛直方向)

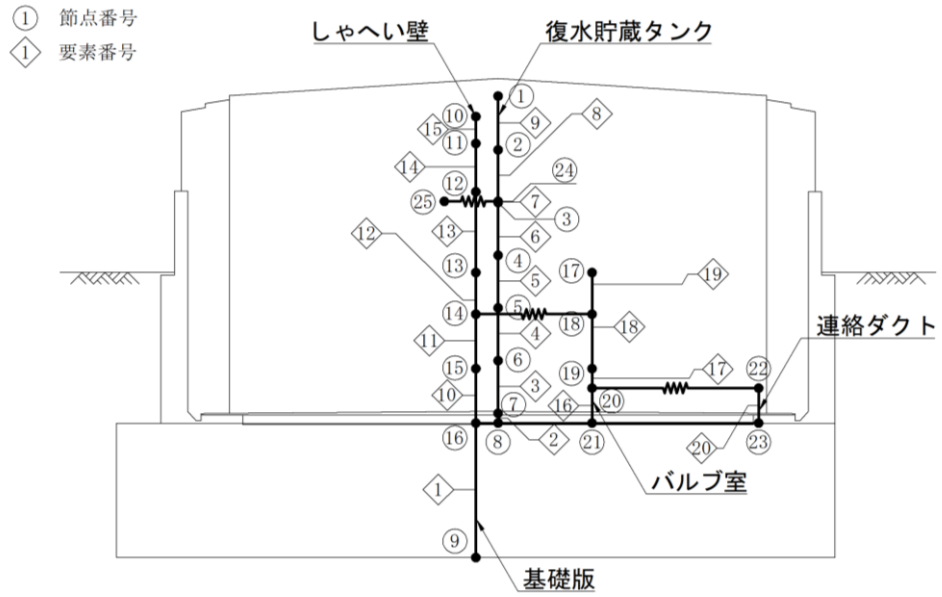


図 3-3 (3) 復水貯蔵タンク基礎の地震応答解析モデル (EW 方向, 水平方向)

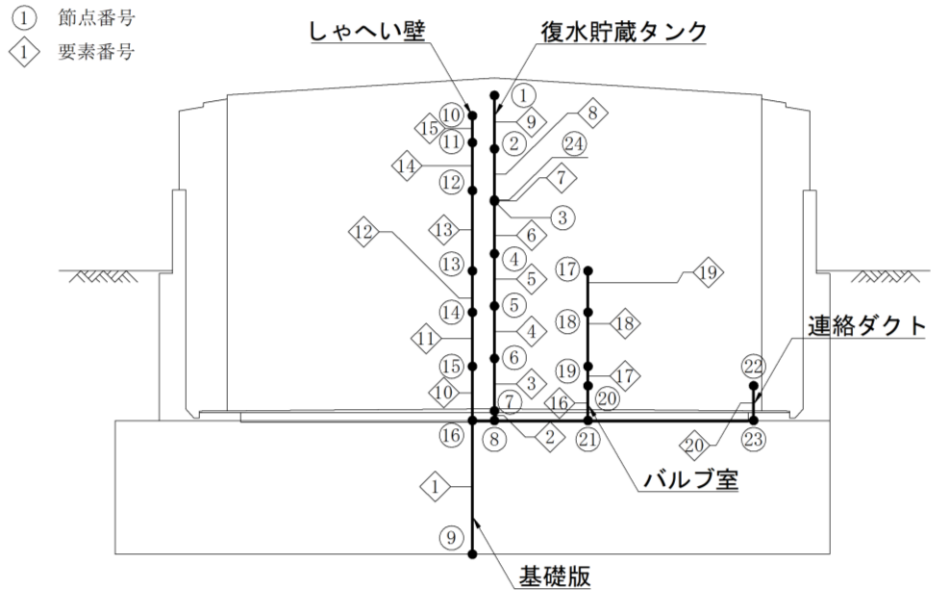
















図 3-3 (4) 復水貯蔵タンク基礎の地震応答解析モデル (EW 方向, 鉛直方向)



凡 例

- |   |   |  |
|---|---|--|
|  B級    |  旧表土             |  海水ポンプ室 |
|  C級    |  盛土              |  海水ポンプ室 |
|  D級    |  セメント改良土         |  |
|  E級    |  MMR             |  |
|  F級    |  地盤改良土           |  |
|  速度層境界 |  背面補強工及び置換コンクリート |  |

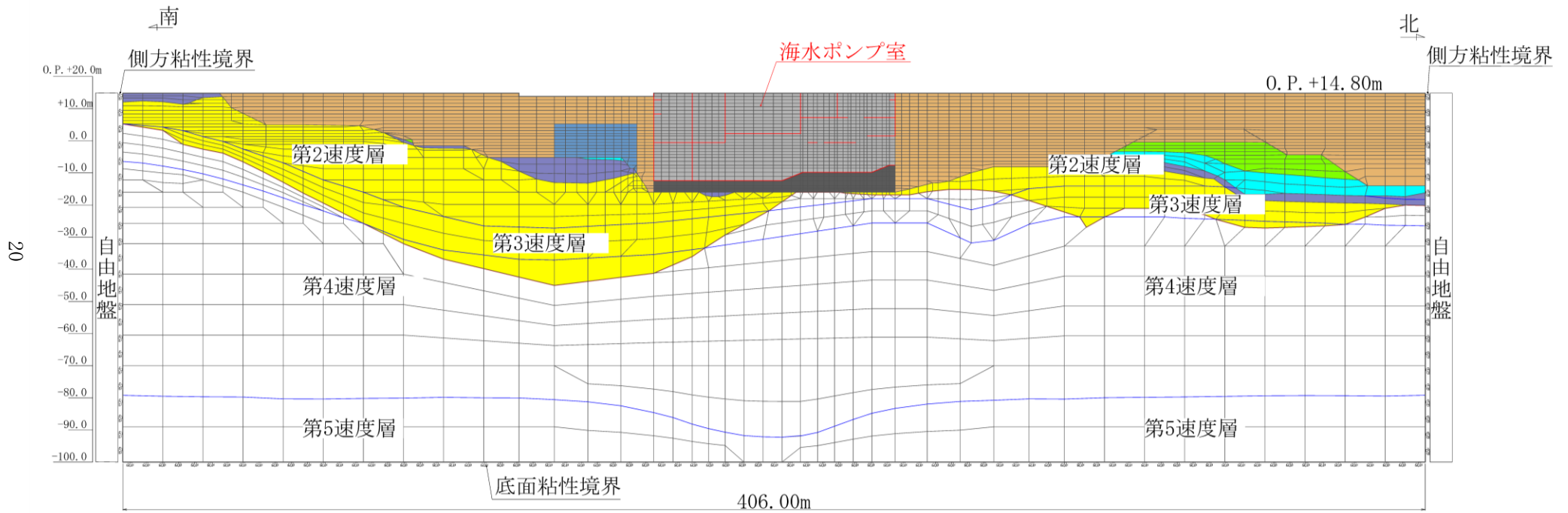


図 3-4 (1) 海水ポンプ室の地震応答解析モデル(NS 方向)

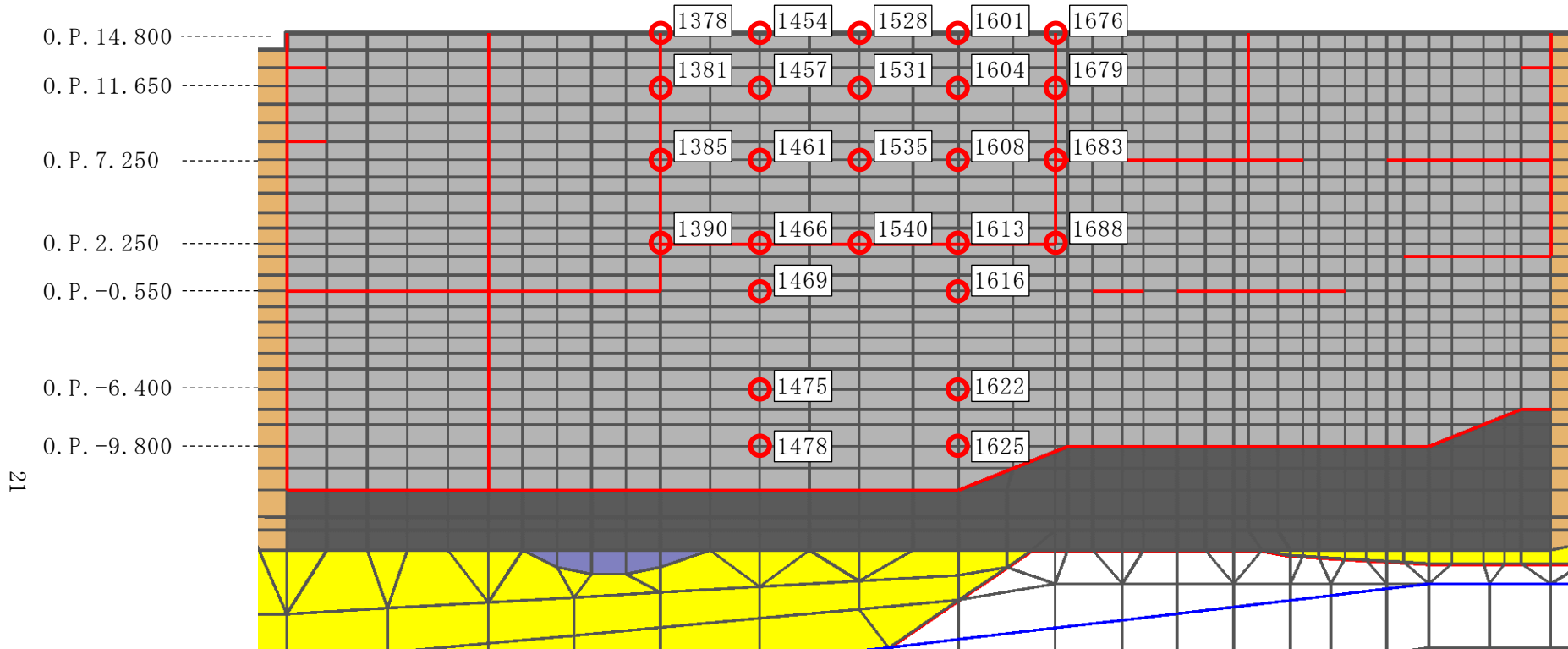


図 3-4 (2) 海水ポンプ室の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, NS 方向)

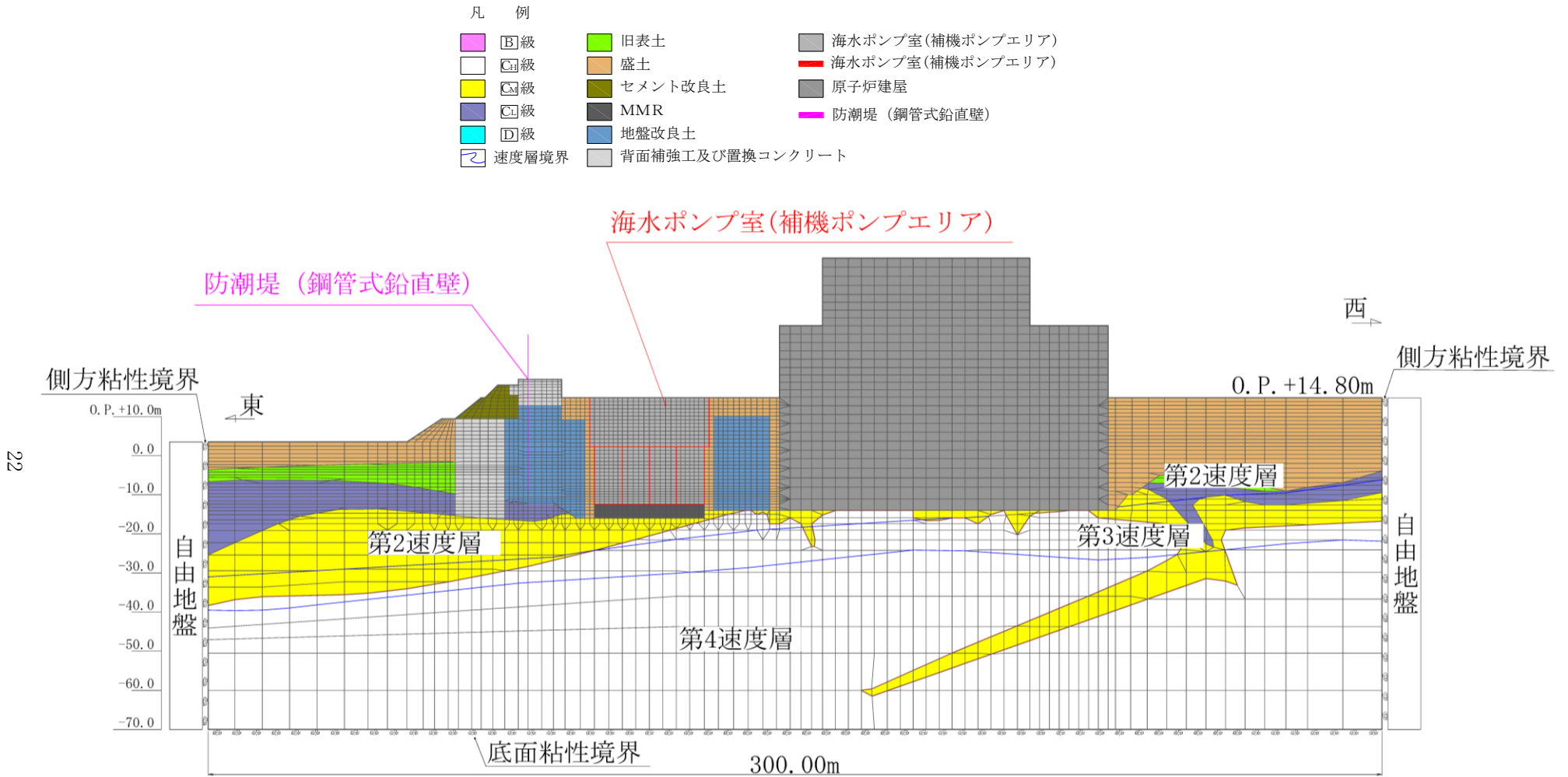
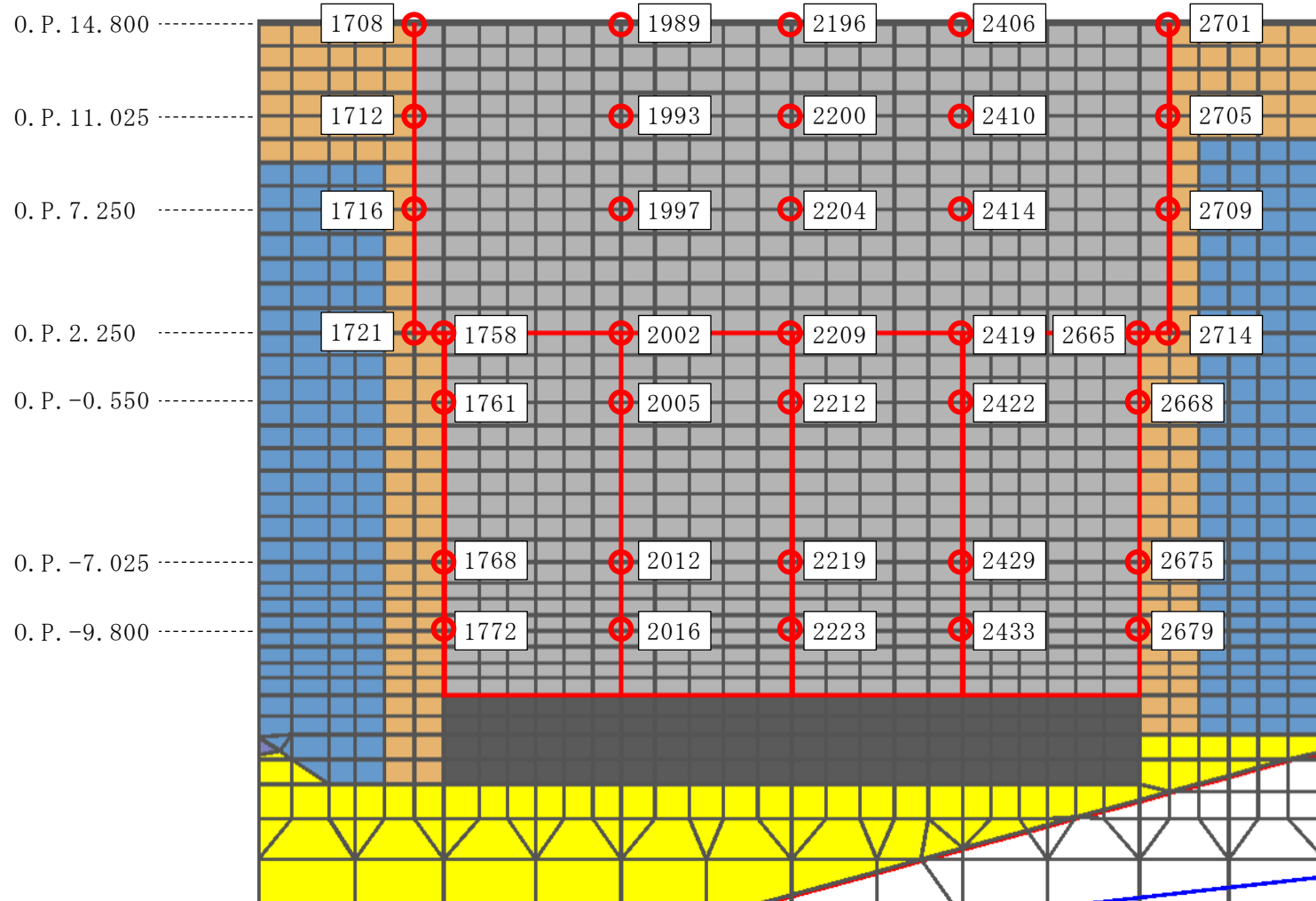


図 3-4 (3) 海水ポンプ室(補機ポンプエリア)の地震応答解析モデル(EW方向)



23

図 3-4 (4) 海水ポンプ室（補機ポンプエリア）の加速度応答算出位置（地震応答解析モデルの拡大図，EW 方向）

凡 例

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| ■ B 級              | ■ 旧表土                   |
| □ C <sub>H</sub> 級 | ■ 盛土                    |
| ■ C <sub>M</sub> 級 | ■ MMR                   |
| ■ C <sub>L</sub> 級 | ■ 第3号機海水ポンプ室(循環水ポンプエリア) |
| ■ D 級              | — 第3号機海水ポンプ室(循環水ポンプエリア) |
| ⊃ 速度層境界            |                         |

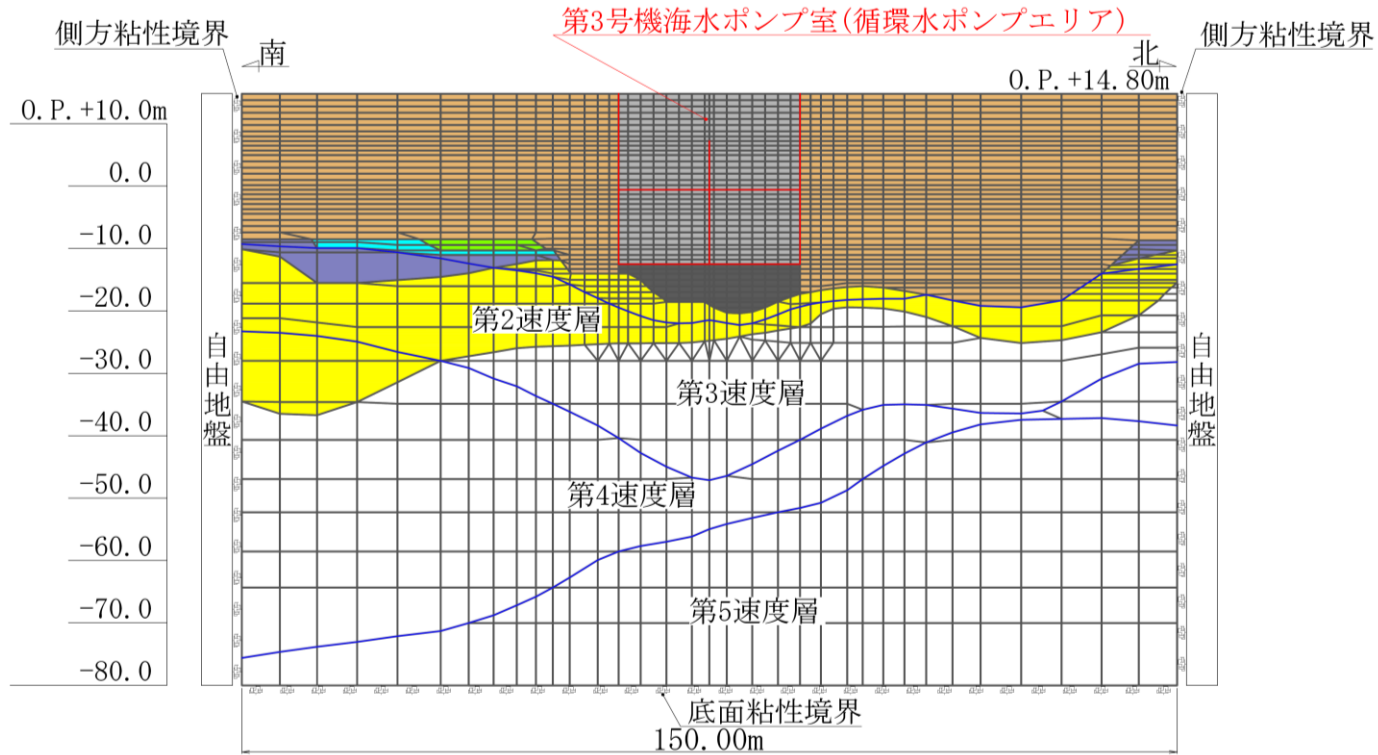


図 3-5 (1) 第 3 号機海水ポンプ室 (循環水ポンプエリア) の地震応答解析モデル (NS 方向)

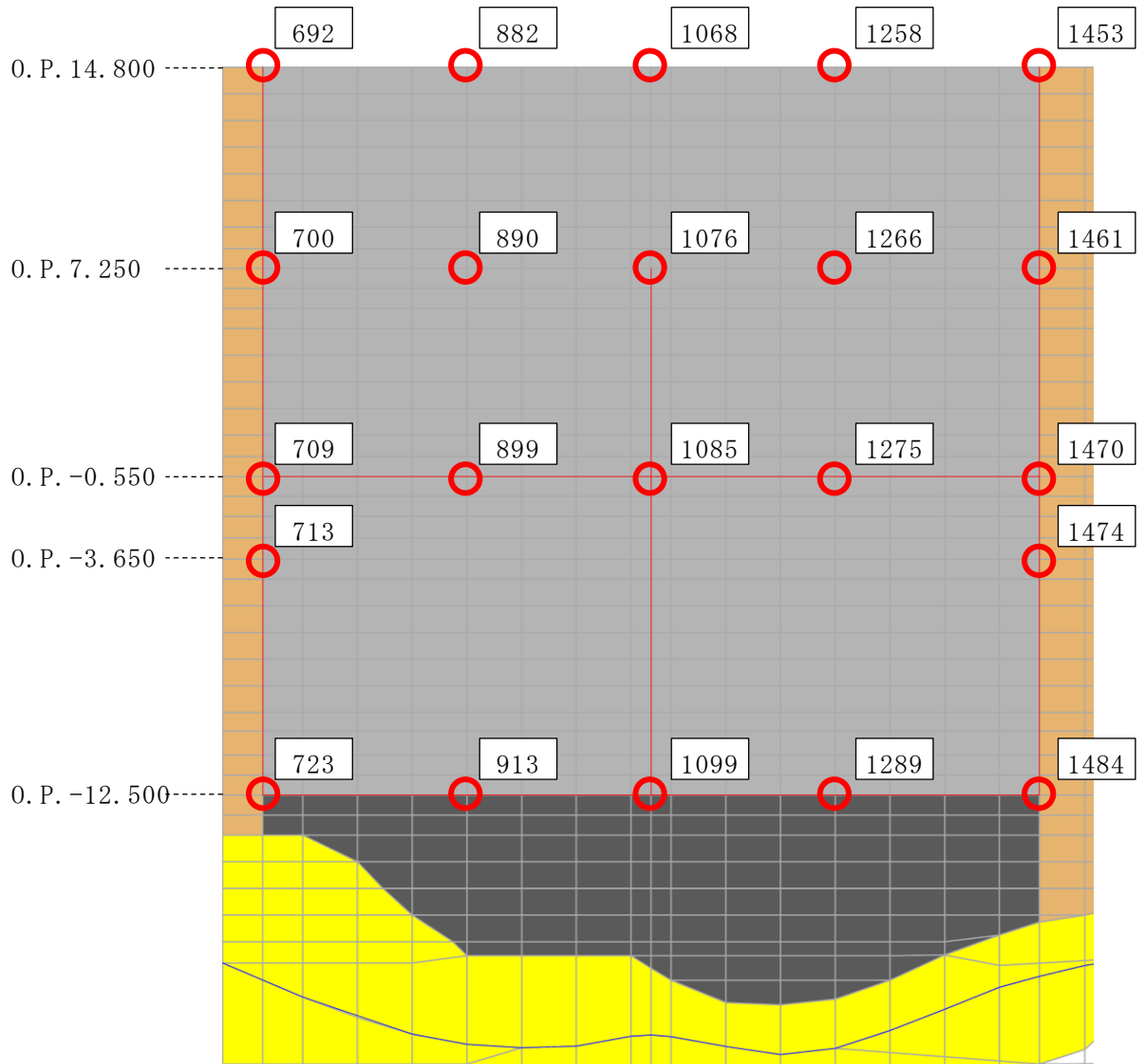


図 3-5 (2) 第 3 号機海水ポンプ室（循環水ポンプエリア）の加速度応答算出位置  
（地震応答解析モデルの拡大図，NS 方向）

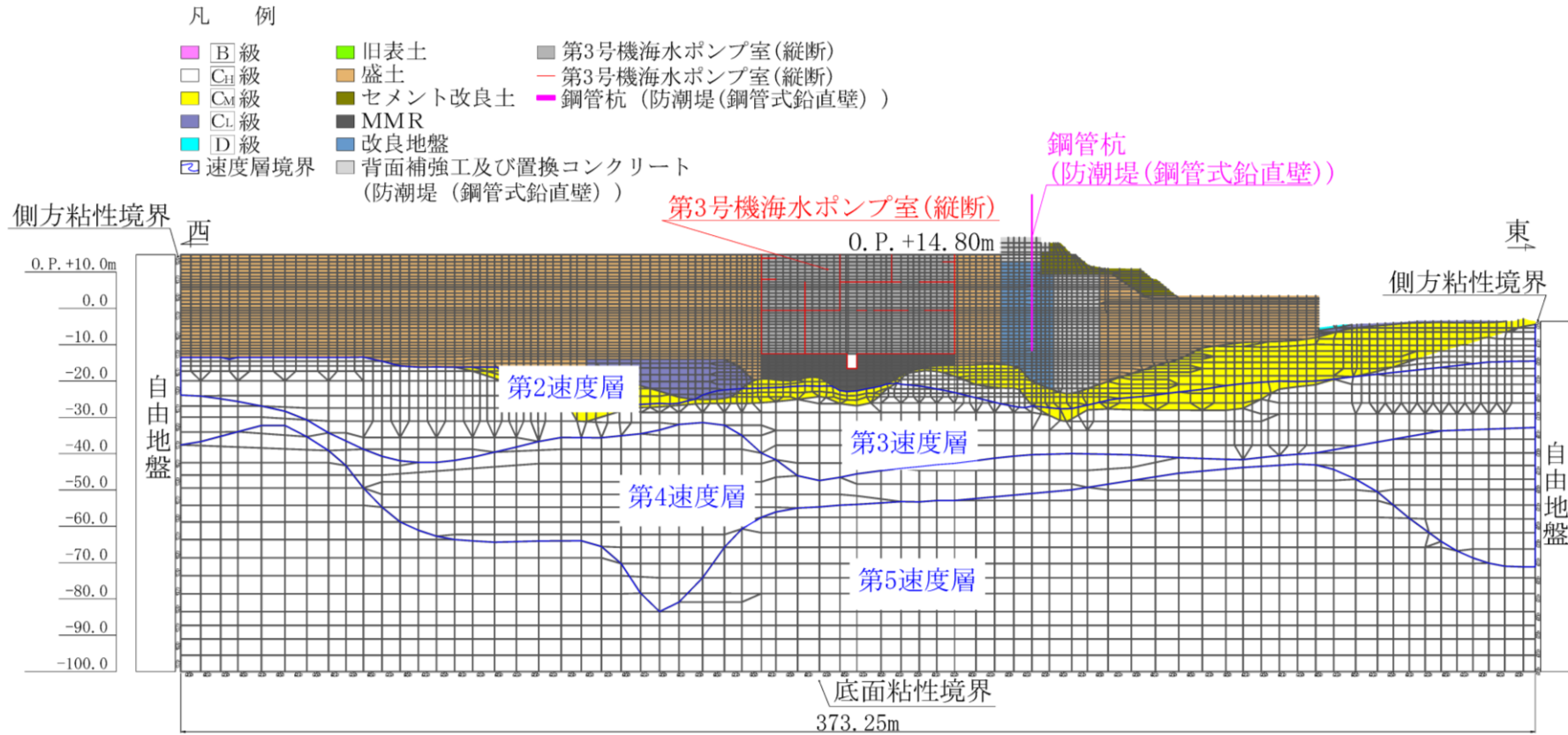


図 3-5 (3) 第 3 号機海水ポンプ室の地震応答解析モデル (EW 方向)

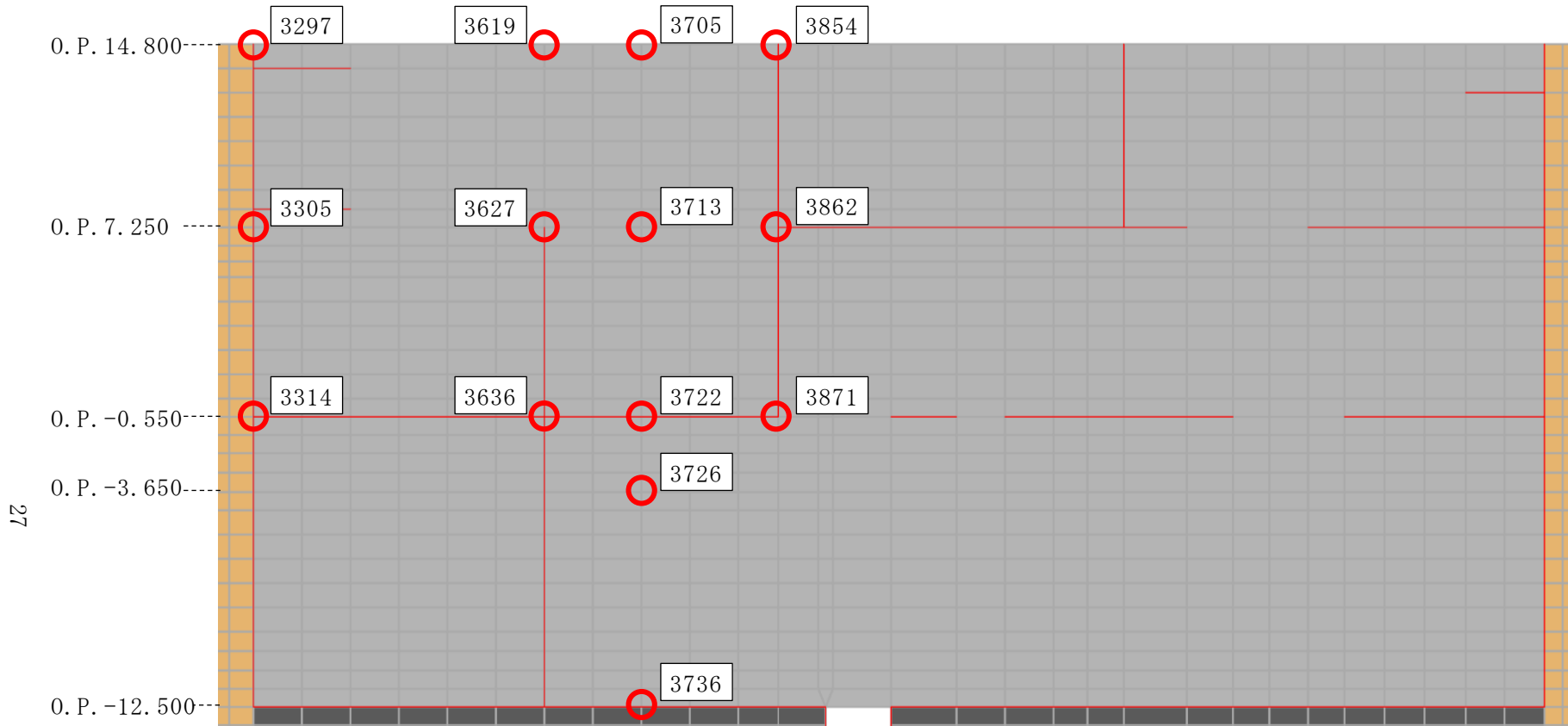


図 3-5 (4) 第 3 号機海水ポンプ室の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, EW 方向)



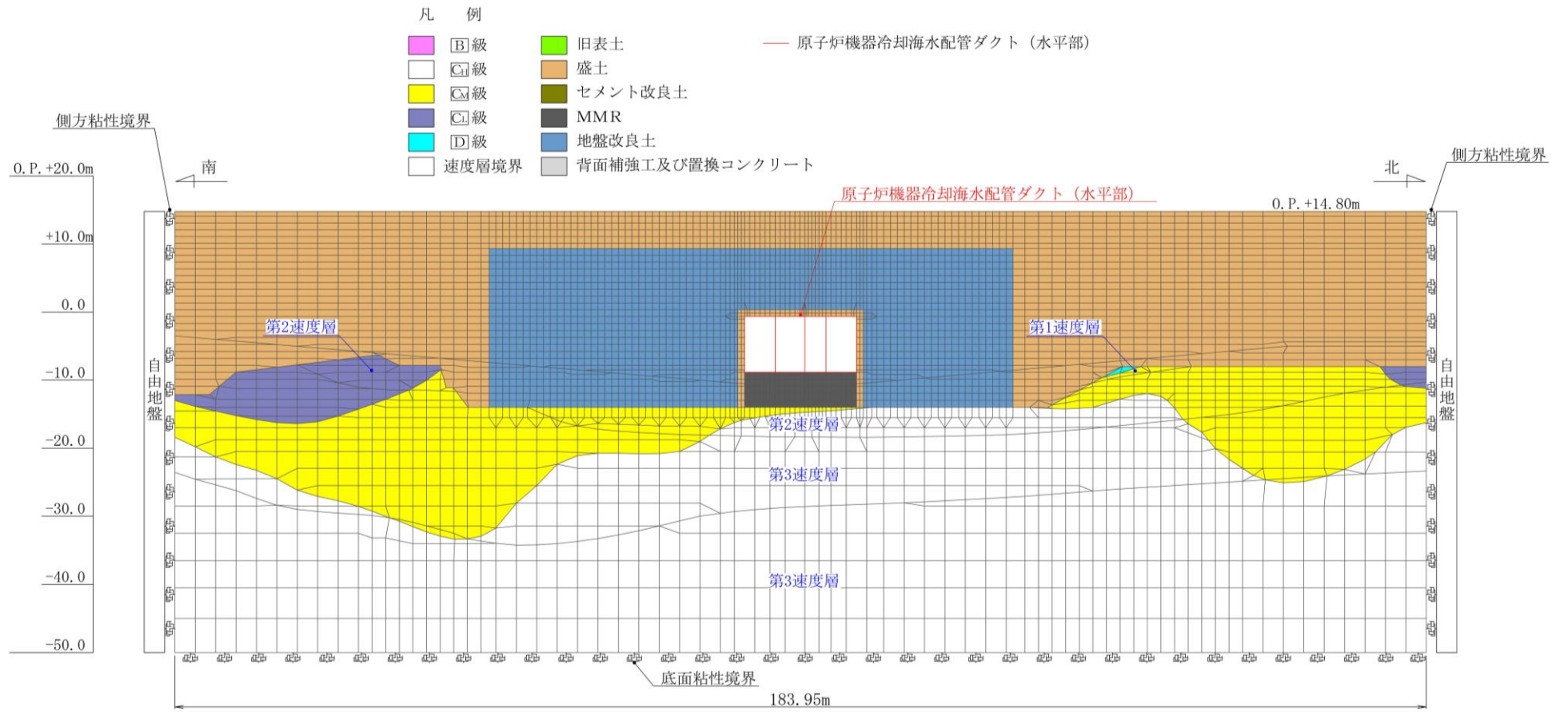


図 3-6 (1) 原子炉機器冷却海水配管ダクト (水平部) の地震応答解析モデル

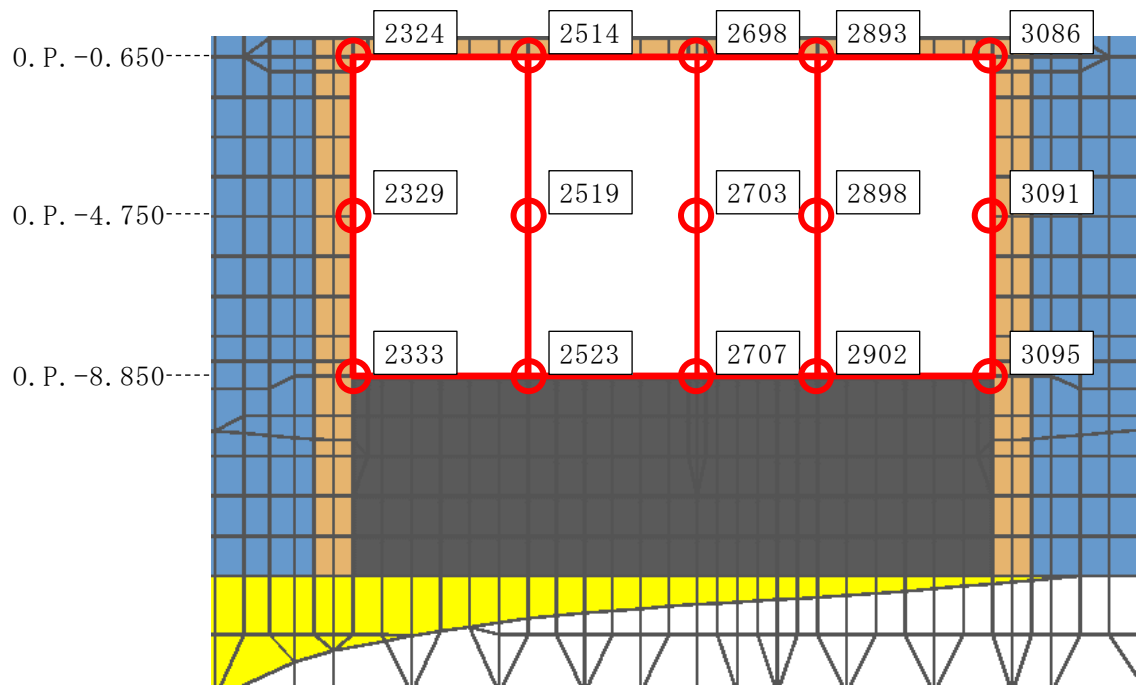


図 3-6 (2) 原子炉機器冷却海水配管ダクト（水平部）の加速度応答算出位置  
 （地震応答解析モデルの拡大図）

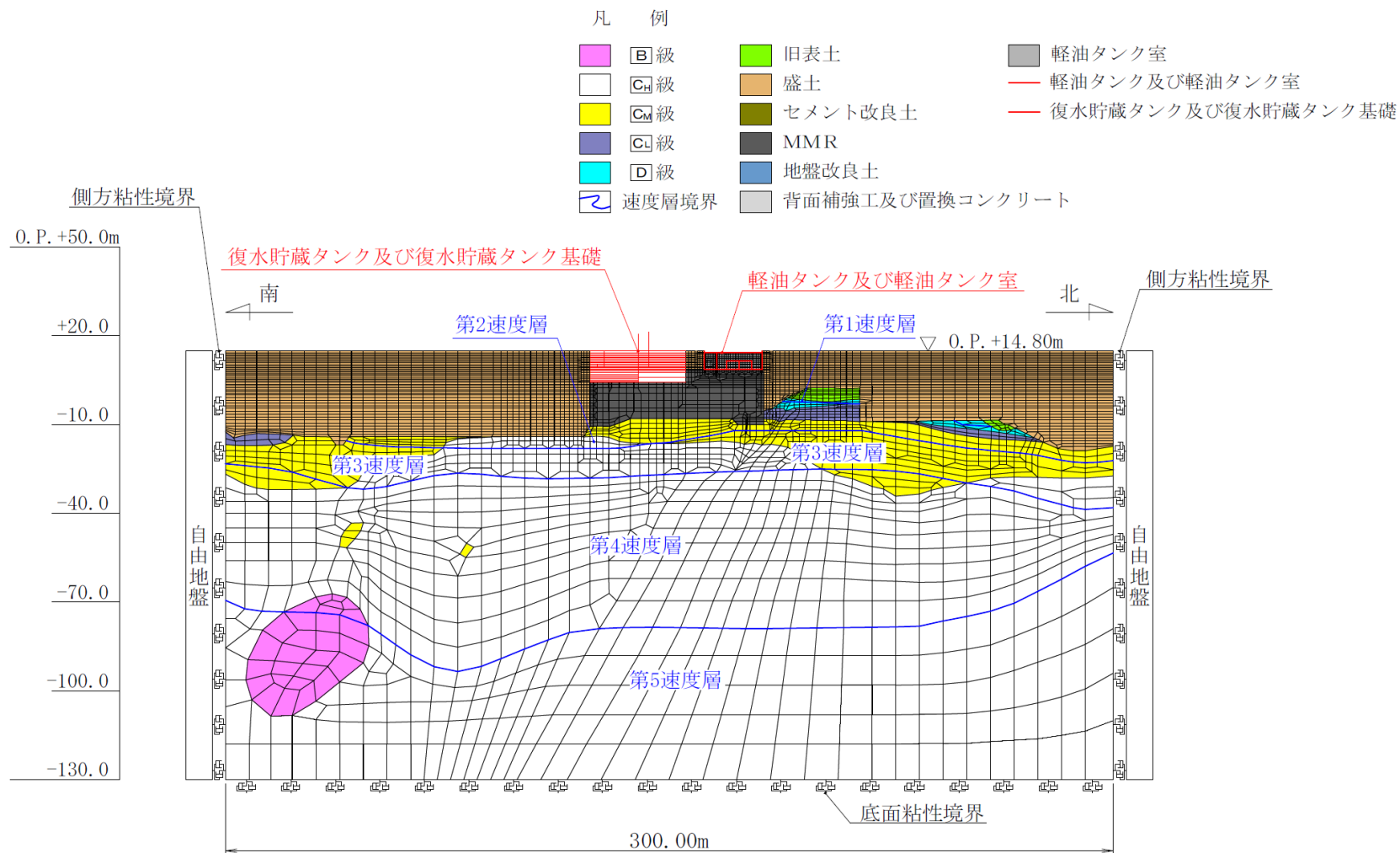


図 3-7 (1) 軽油タンク室の地震応答解析モデル(NS 方向)

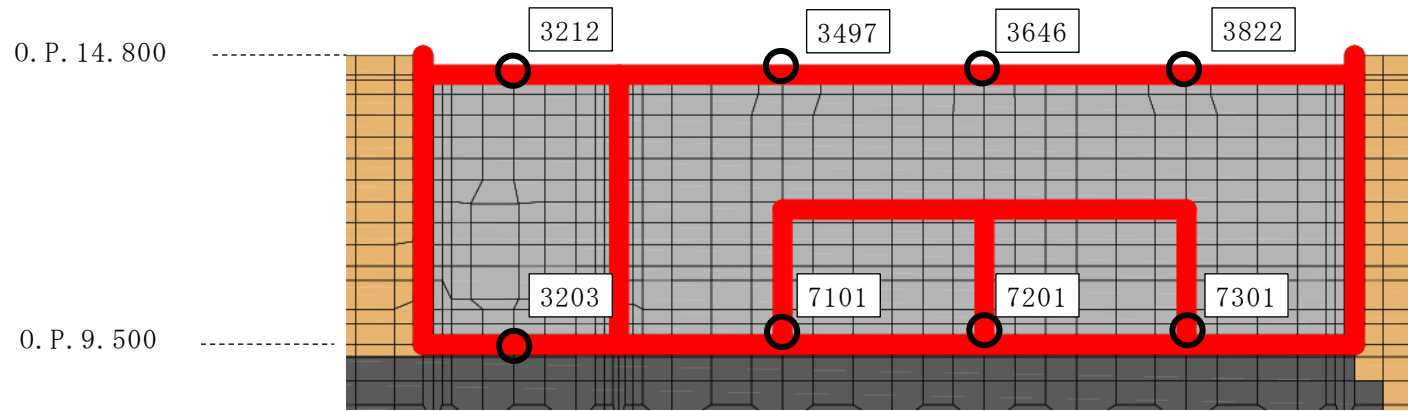


図 3-7 (2) 軽油タンク室の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, NS 方向)

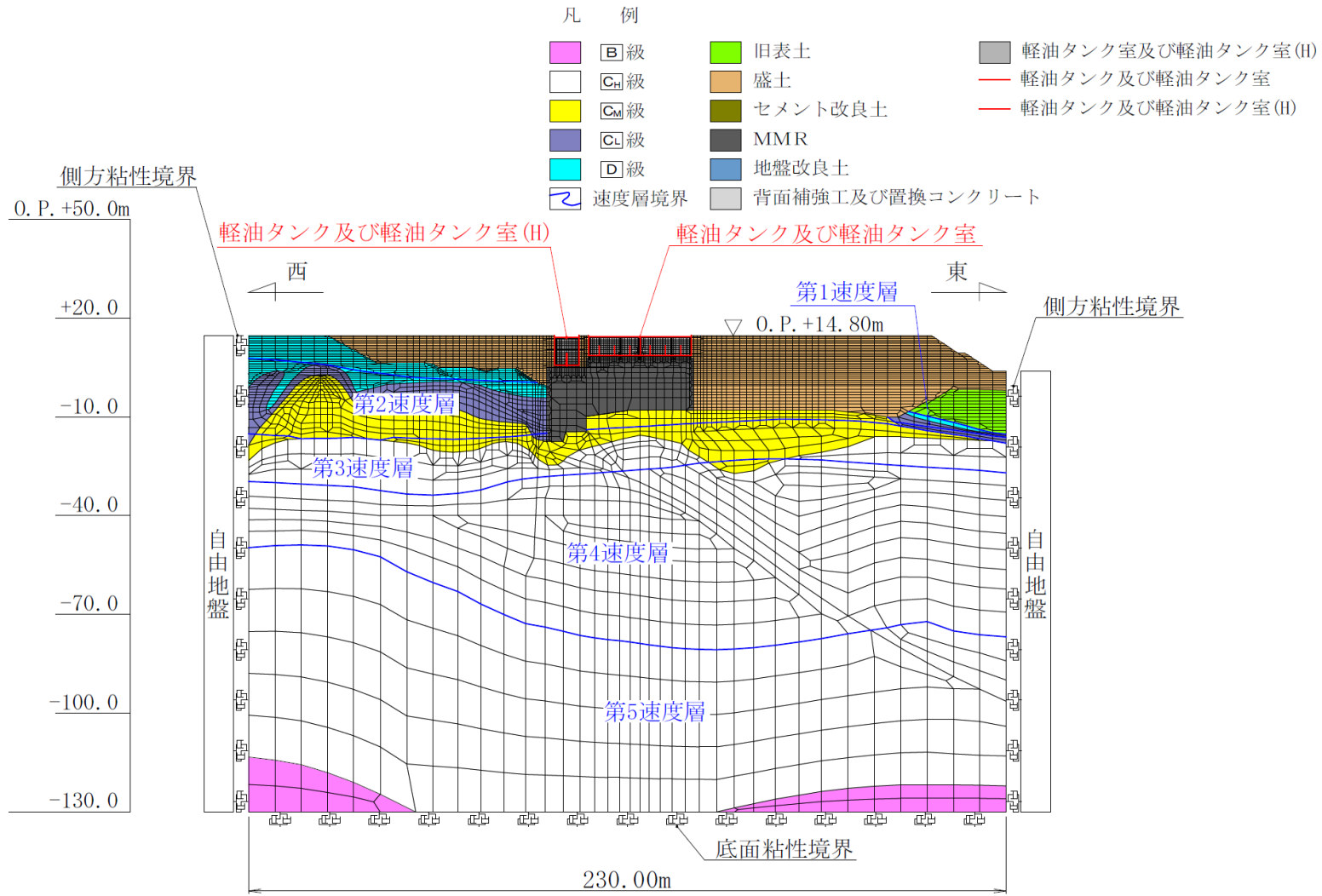


図 3-7 (3) 軽油タンク室の地震応答解析モデル (EW 方向 (タンク室))

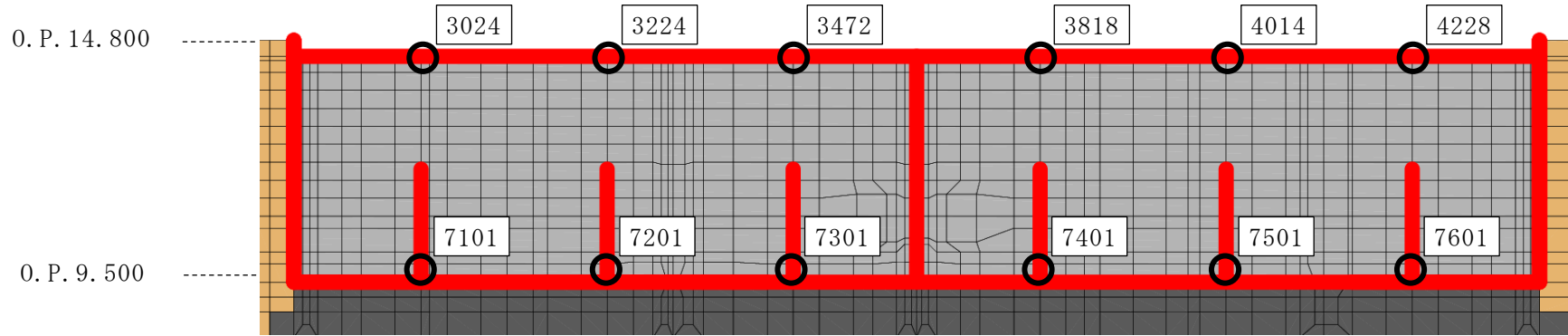


図 3-7 (4) 軽油タンク室の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, EW 方向 (タンク室))

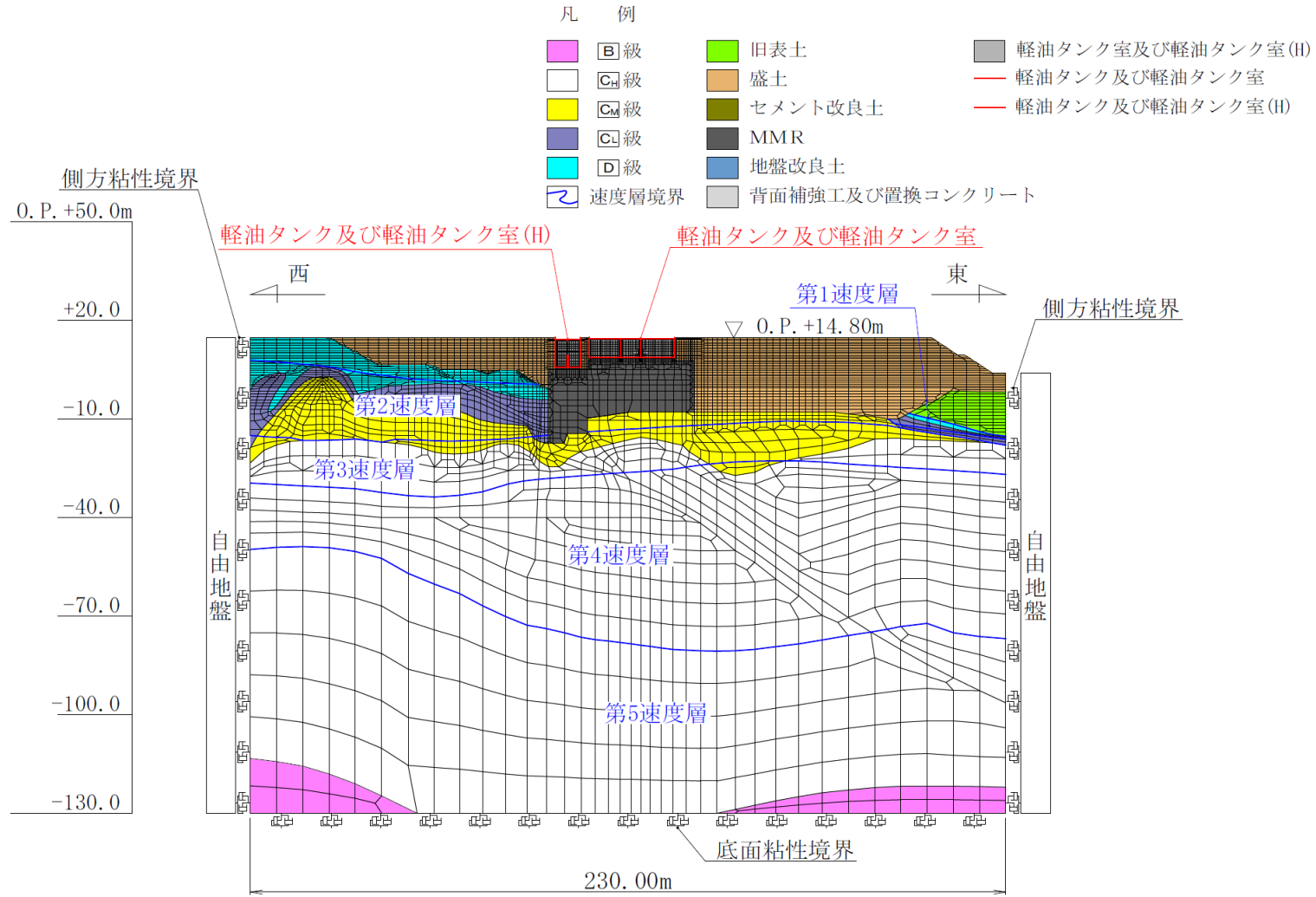


図 3-7 (5) 軽油タンク室の地震応答解析モデル (EW 方向 (ポンプ室))

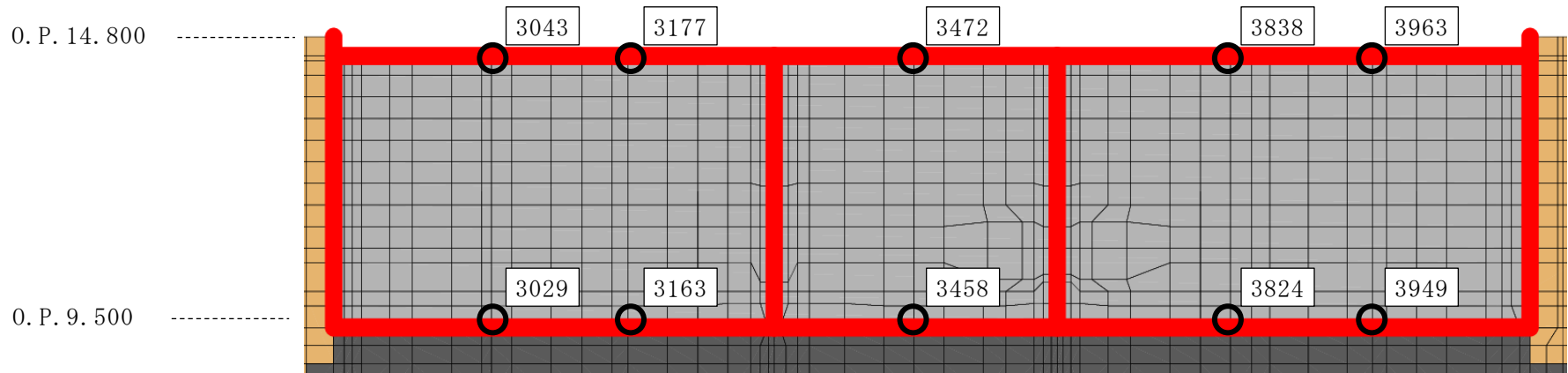


図 3-7 (6) 軽油タンク室の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, EW 方向 (ポンプ室))



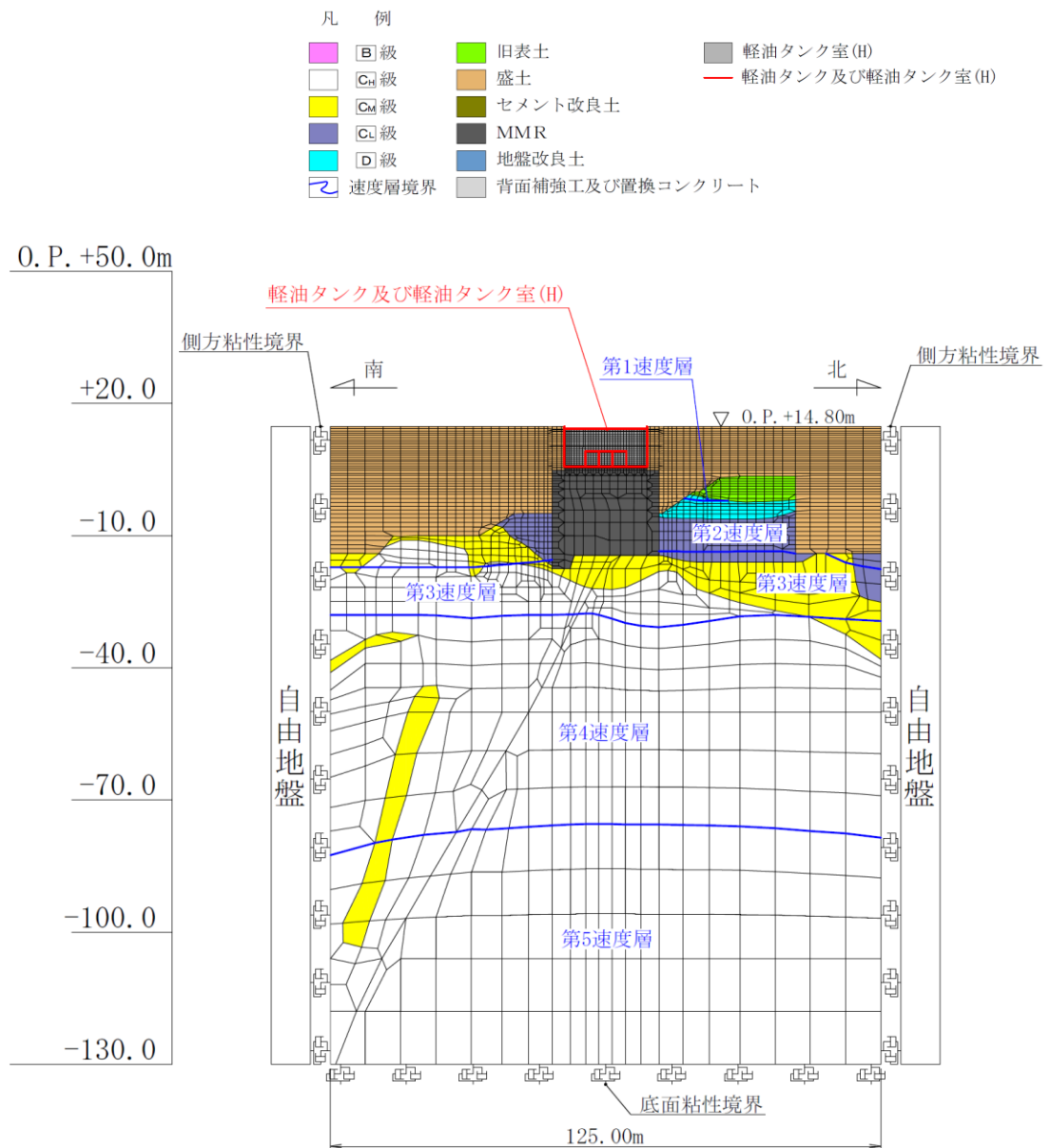


図 3-8 (1) 軽油タンク室 (H) の地震応答解析モデル(NS 方向)

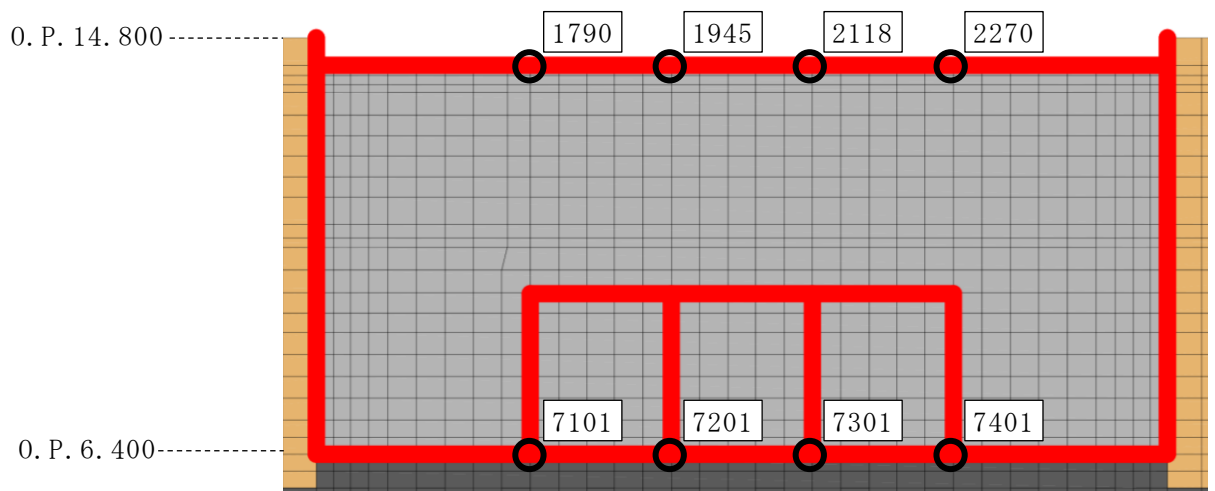


図 3-8 (2) 軽油タンク室 (H) の加速度応答算出位置  
(地震応答解析モデルの拡大図, NS 方向)

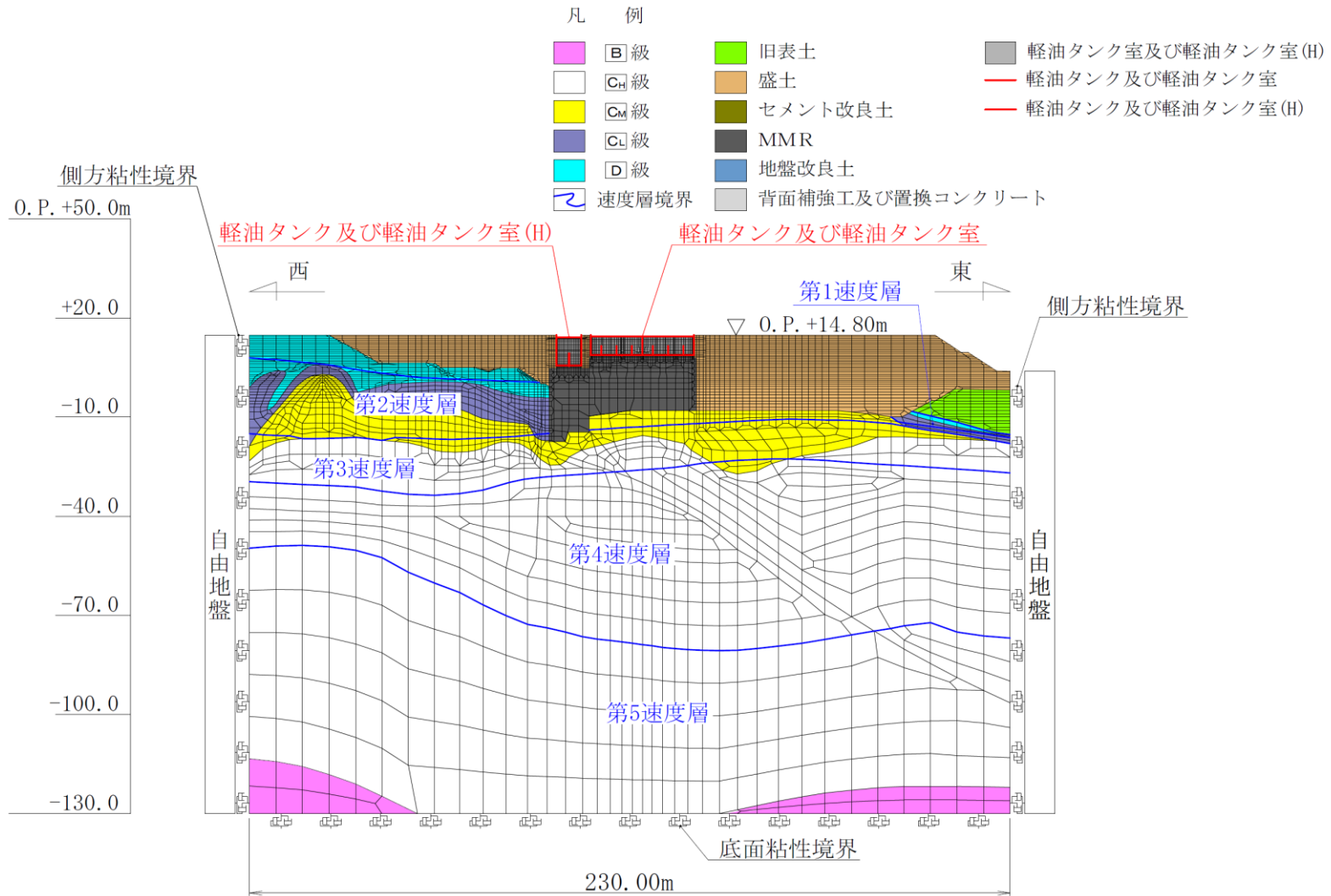


図 3-8 (3) 軽油タンク室 (H) の地震応答解析モデル (EW 方向)

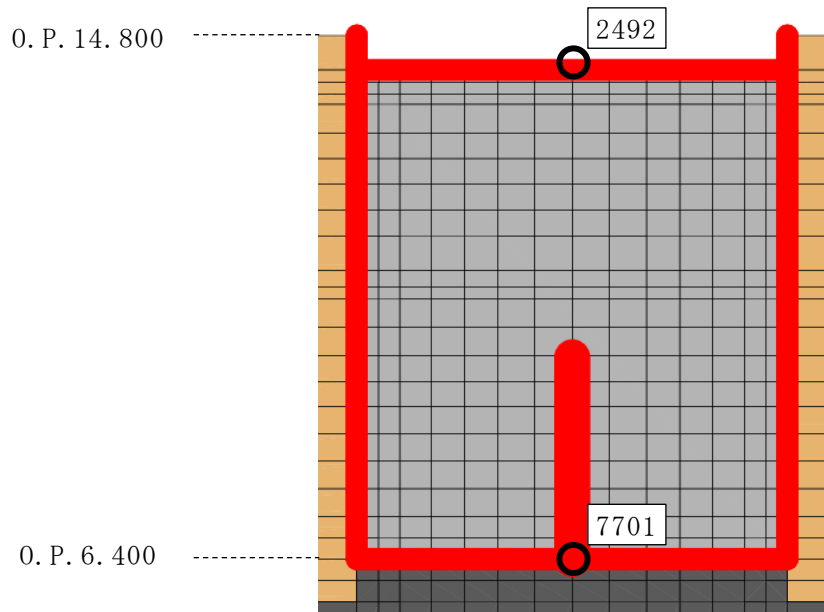


図 3-8 (4) 軽油タンク室 (H) の加速度応答算出位置  
(地震応答解析モデルの拡大図, EW 方向)

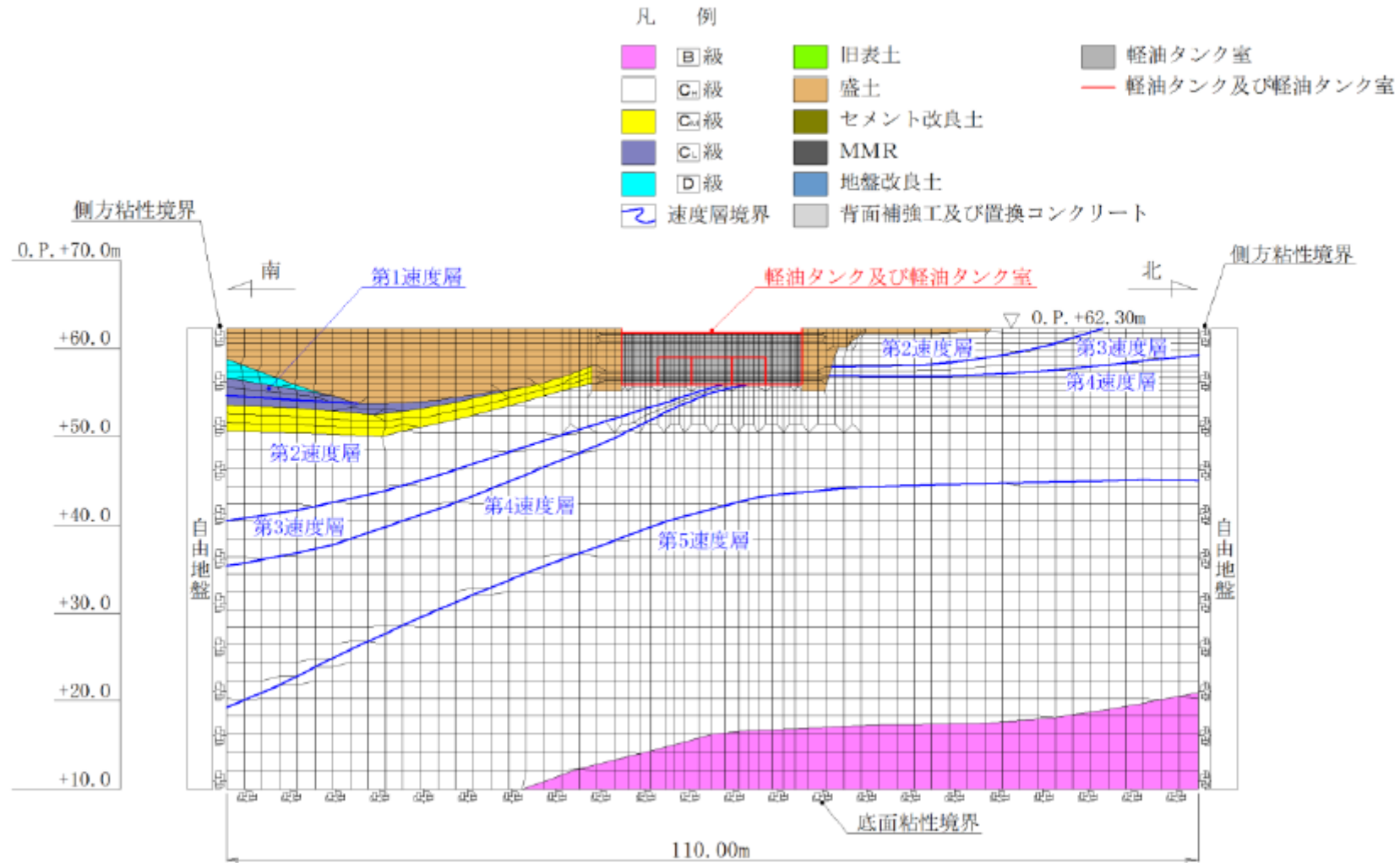


図 3-9 (1) ガスタービン発電設備軽油タンク室の地震応答解析モデル(NS 方向)

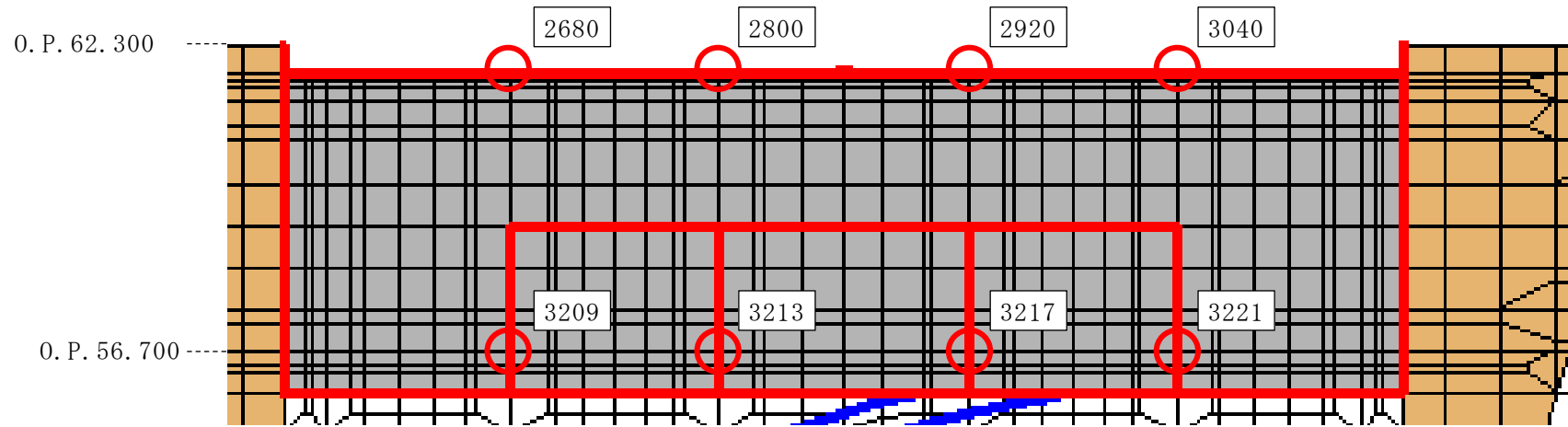


図 3-9 (2) ガスタービン発電設備軽油タンク室の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, NS 方向)

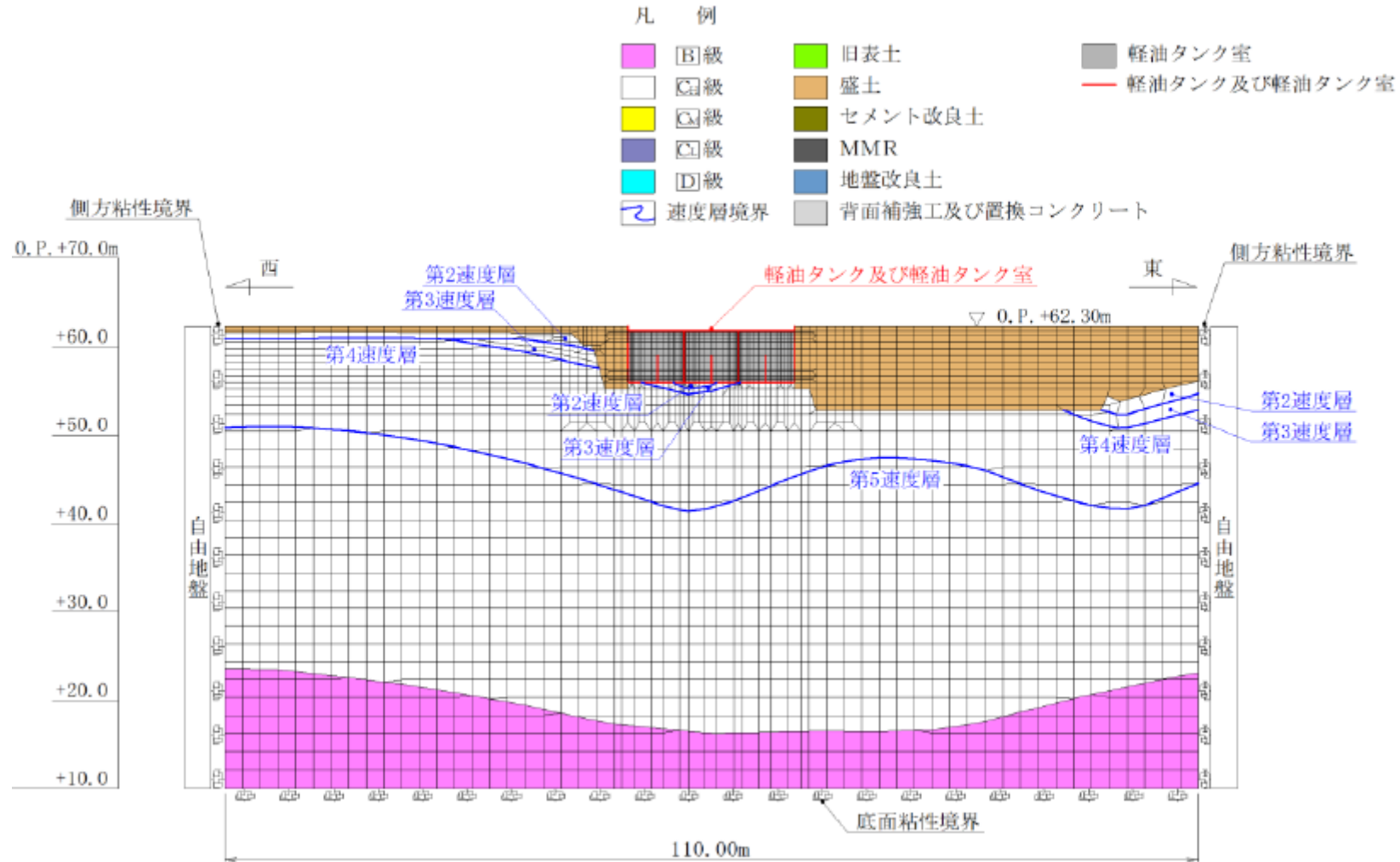
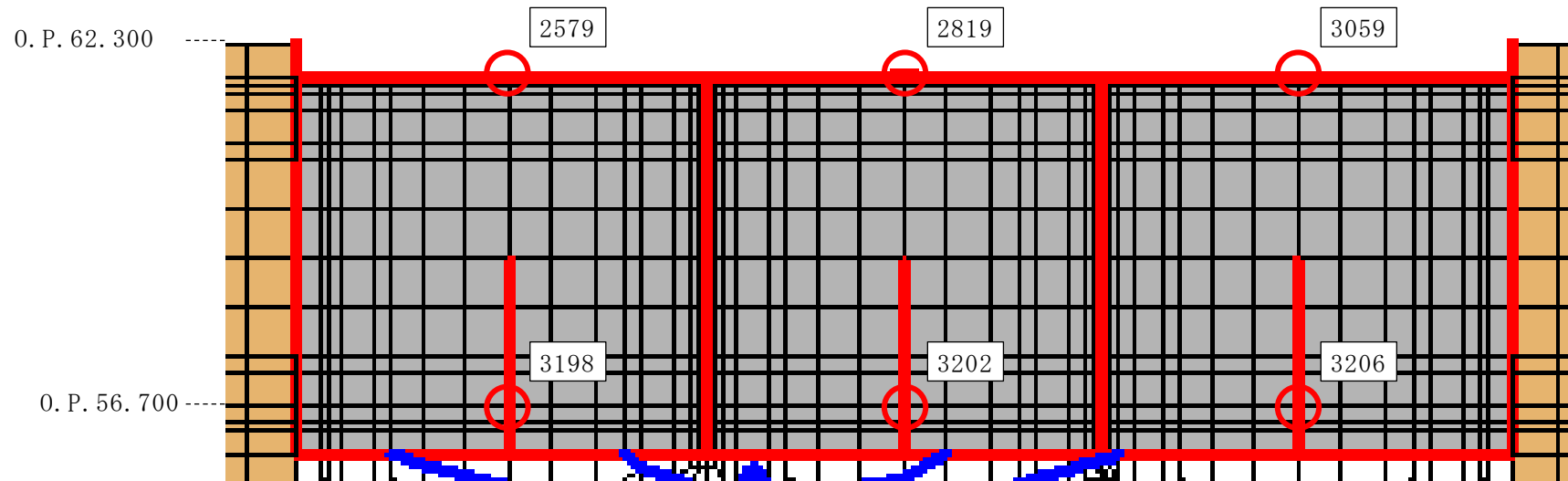


図 3-9 (3) ガスタービン発電設備軽油タンク室の地震応答解析モデル (EW 方向)



43

図 3-9 (4) ガスタービン発電設備軽油タンク室の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, EW 方向)



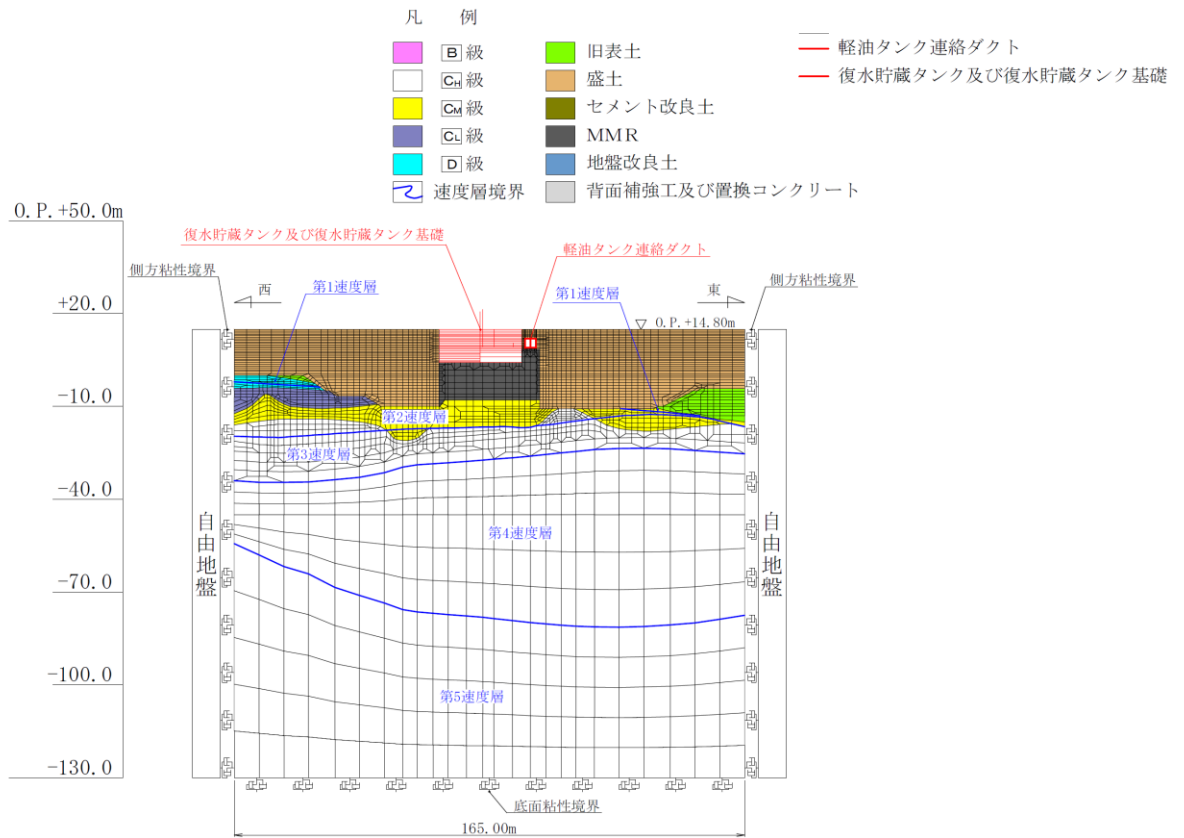


図 3-10 (1) 軽油タンク連絡ダクトの地震応答解析モデル

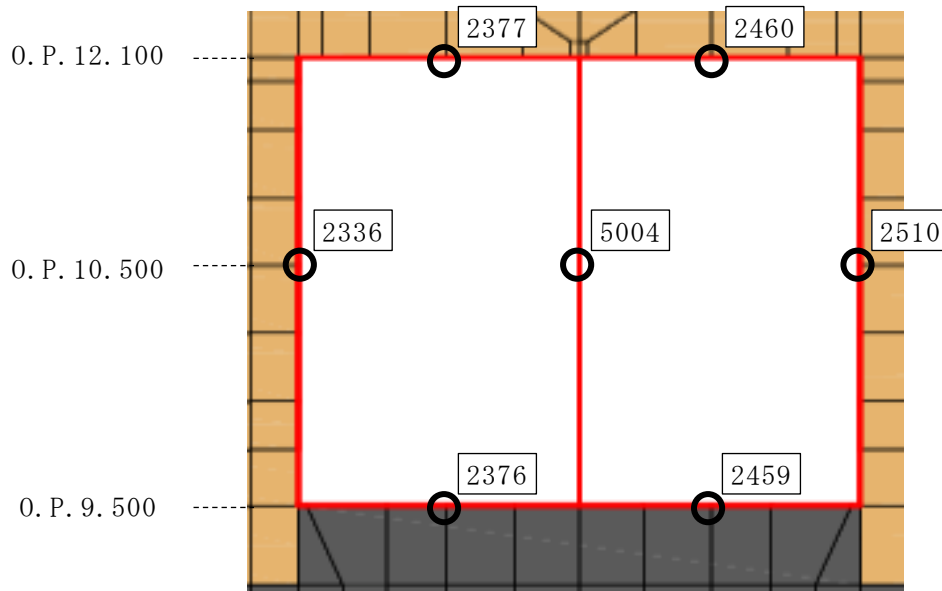


図 3-10 (2) 軽油タンク連絡ダクトの加速度応答算出位置  
(地震応答解析モデルの拡大図, NS 方向)

$E_c = 2.44 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$   
 $2.05 \times 10^5 \text{ N/mm}^2$  (地上鉄骨部)  
 $G_c = 1.02 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$   
 $7.90 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$  (地上鉄骨部)

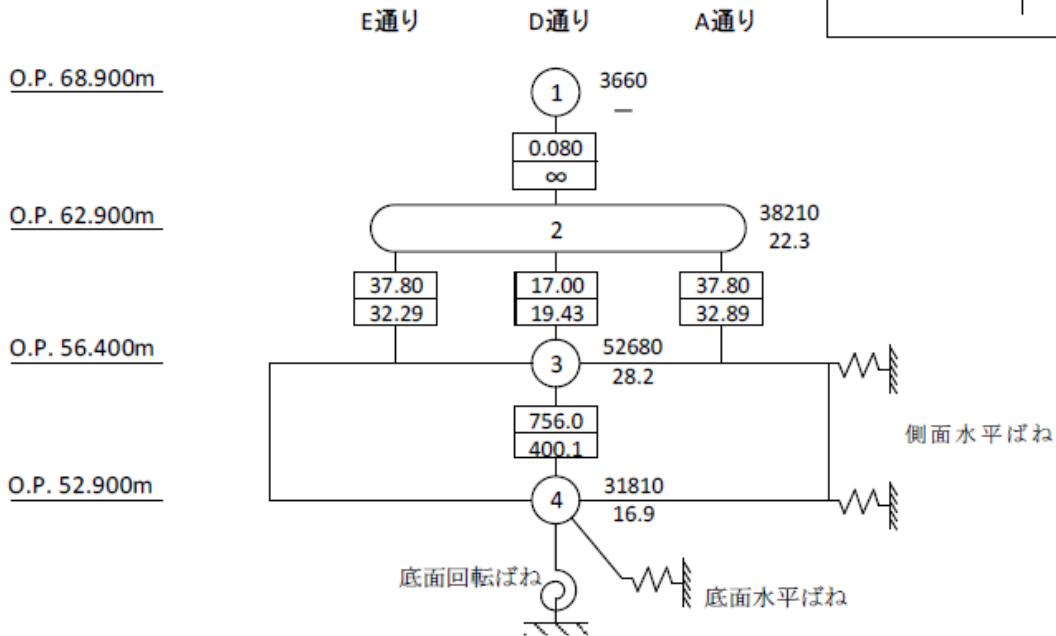
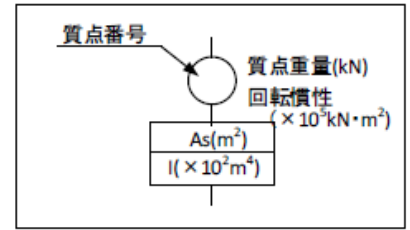


図 3-11 (1) 緊急用電気品建屋の地震応答解析モデル (NS 方向)

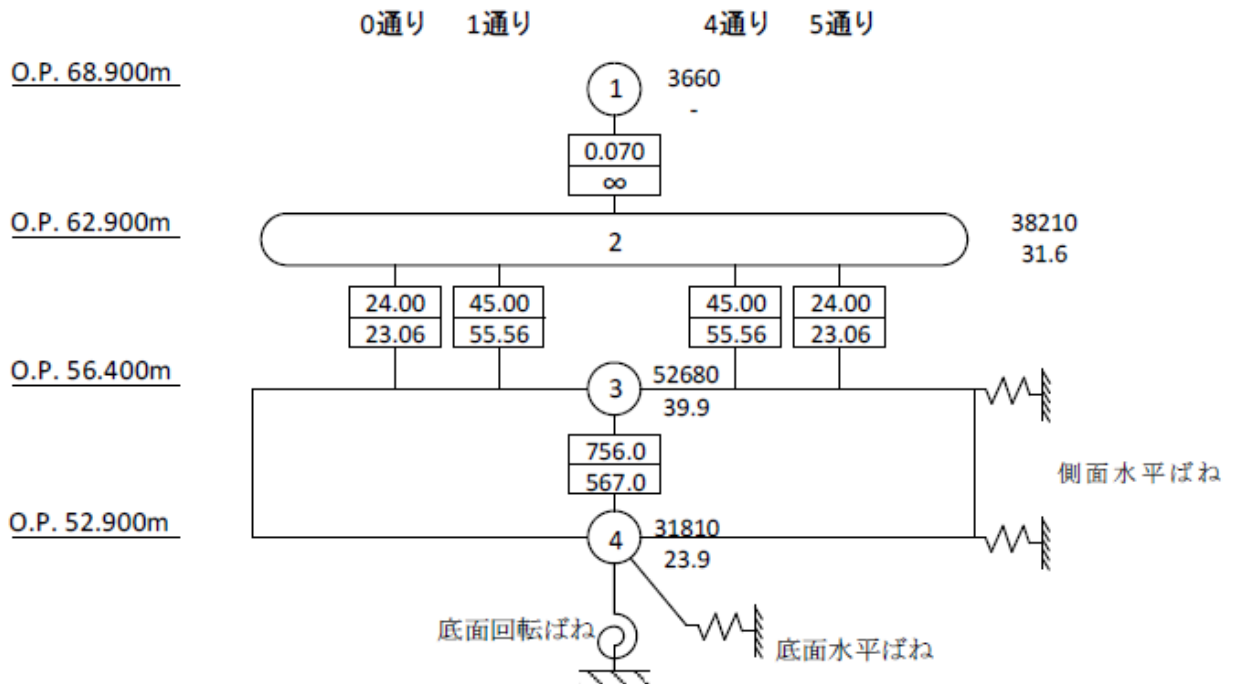


図 3-11 (2) 緊急用電気品建屋の地震応答解析モデル (EW 方向)

$E_c = 2.44 \times 10^4 \text{ N/mm}^2$   
 $2.05 \times 10^5 \text{ N/mm}^2$  (地上鉄骨部)

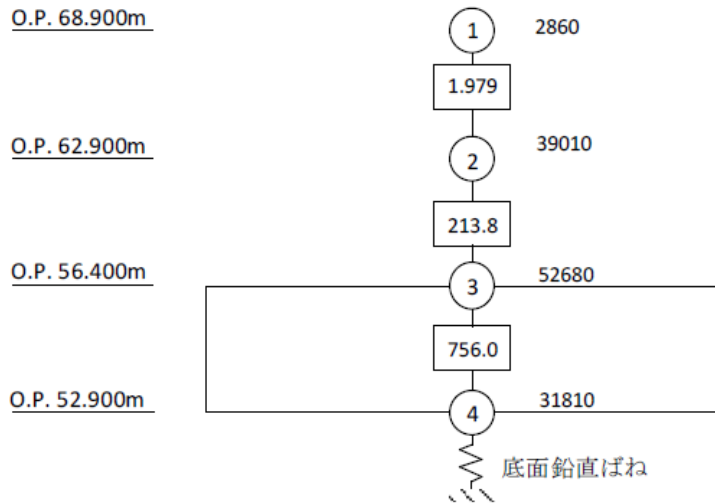
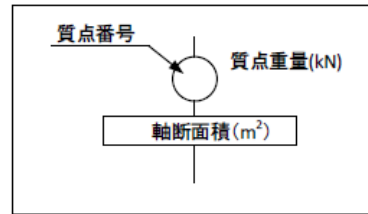


図 3-11 (3) 緊急用電気品建屋の地震応答解析モデル (鉛直方向)

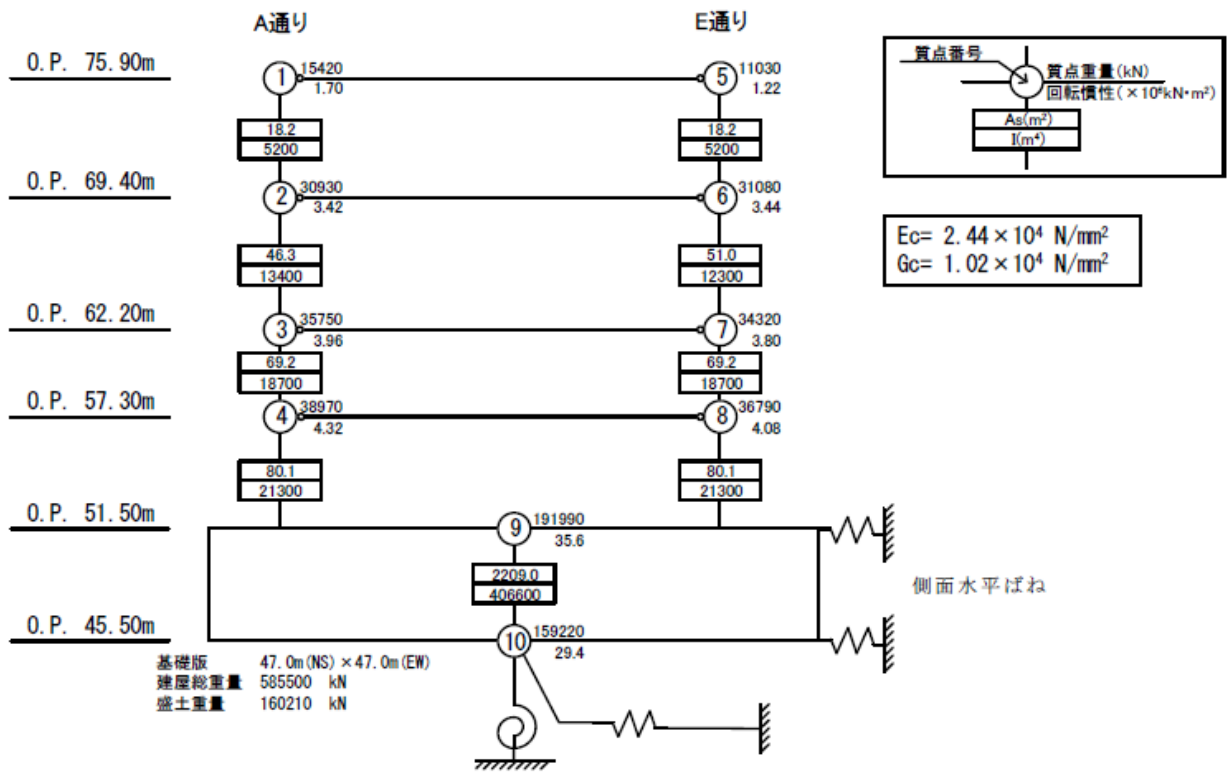


図 3-12 (1) 緊急時対策建屋の地震応答解析モデル (NS 方向)

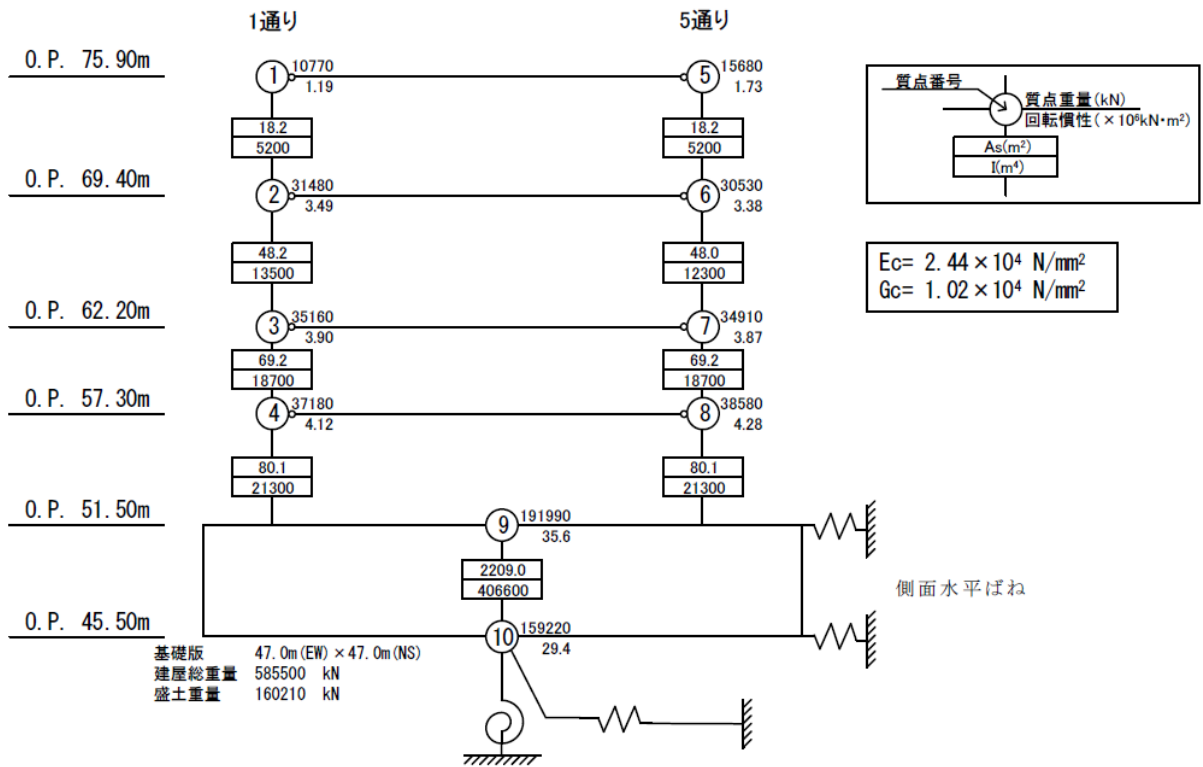


図 3-12 (2) 緊急時対策建屋の地震応答解析モデル (EW 方向)

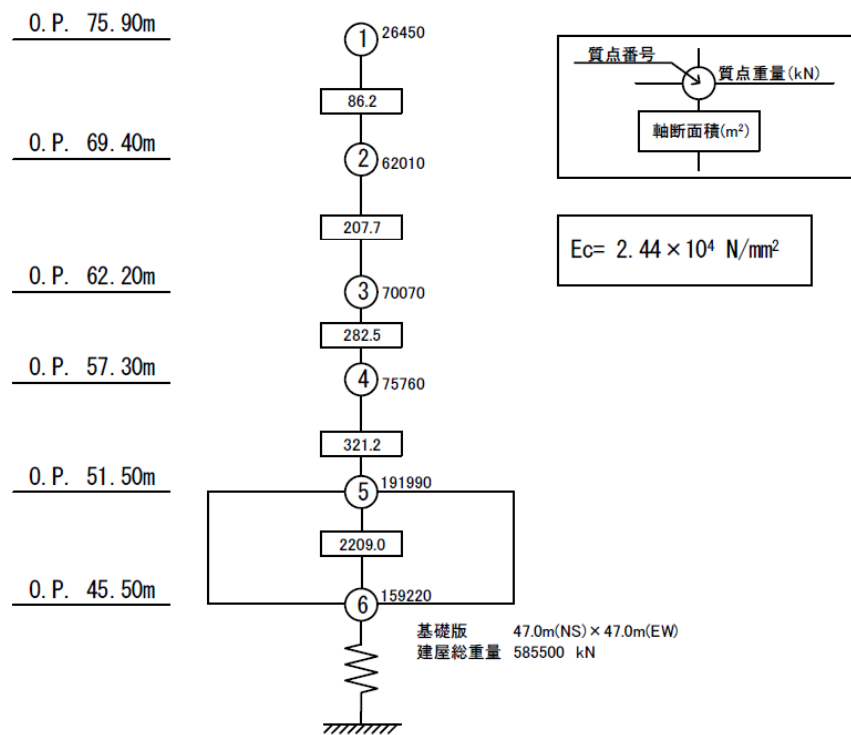


図 3-12 (3) 緊急時対策建屋の地震応答解析モデル (鉛直方向)

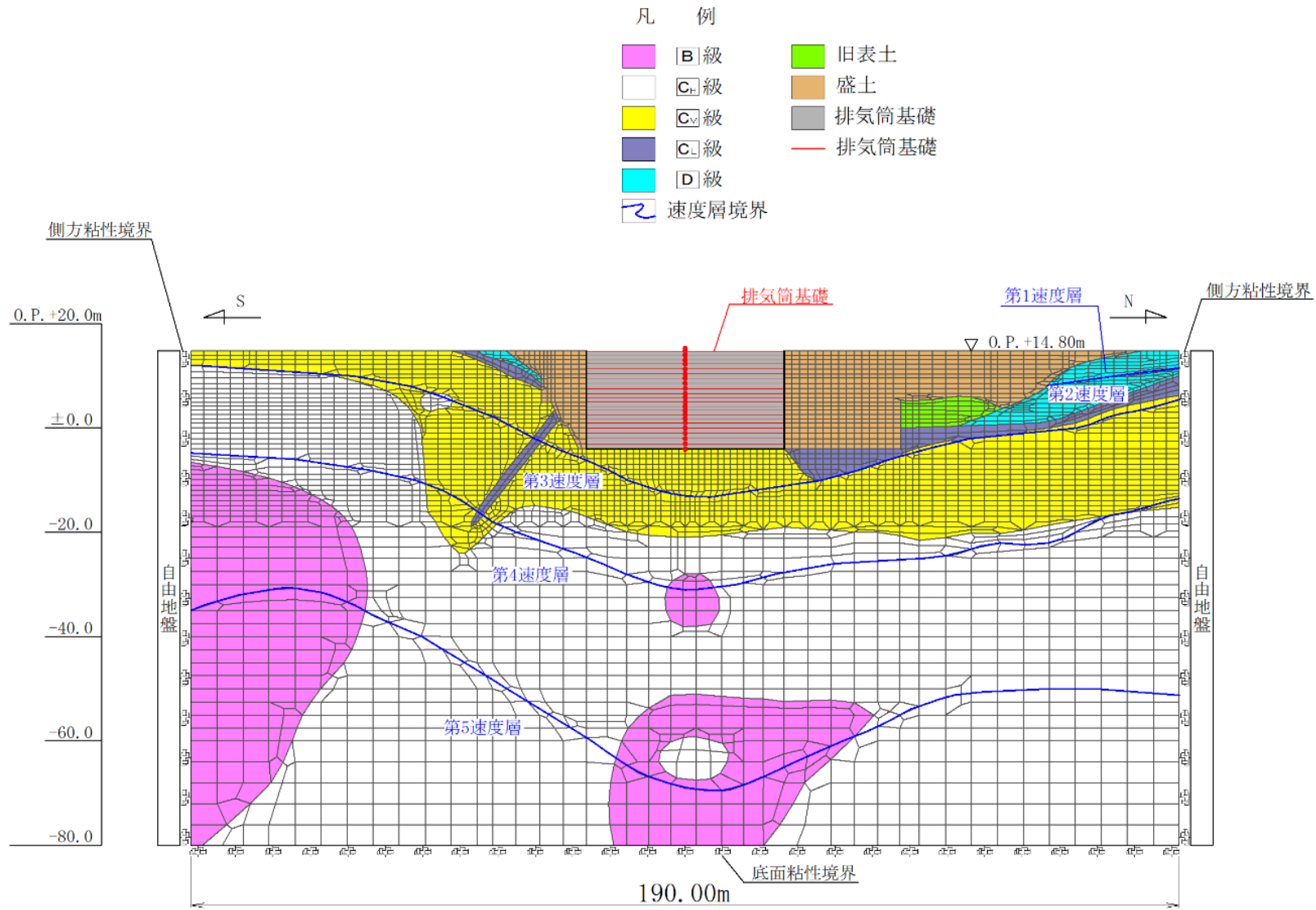


図 3-13 (1) 排気筒基礎の地震応答解析モデル(NS 方向)

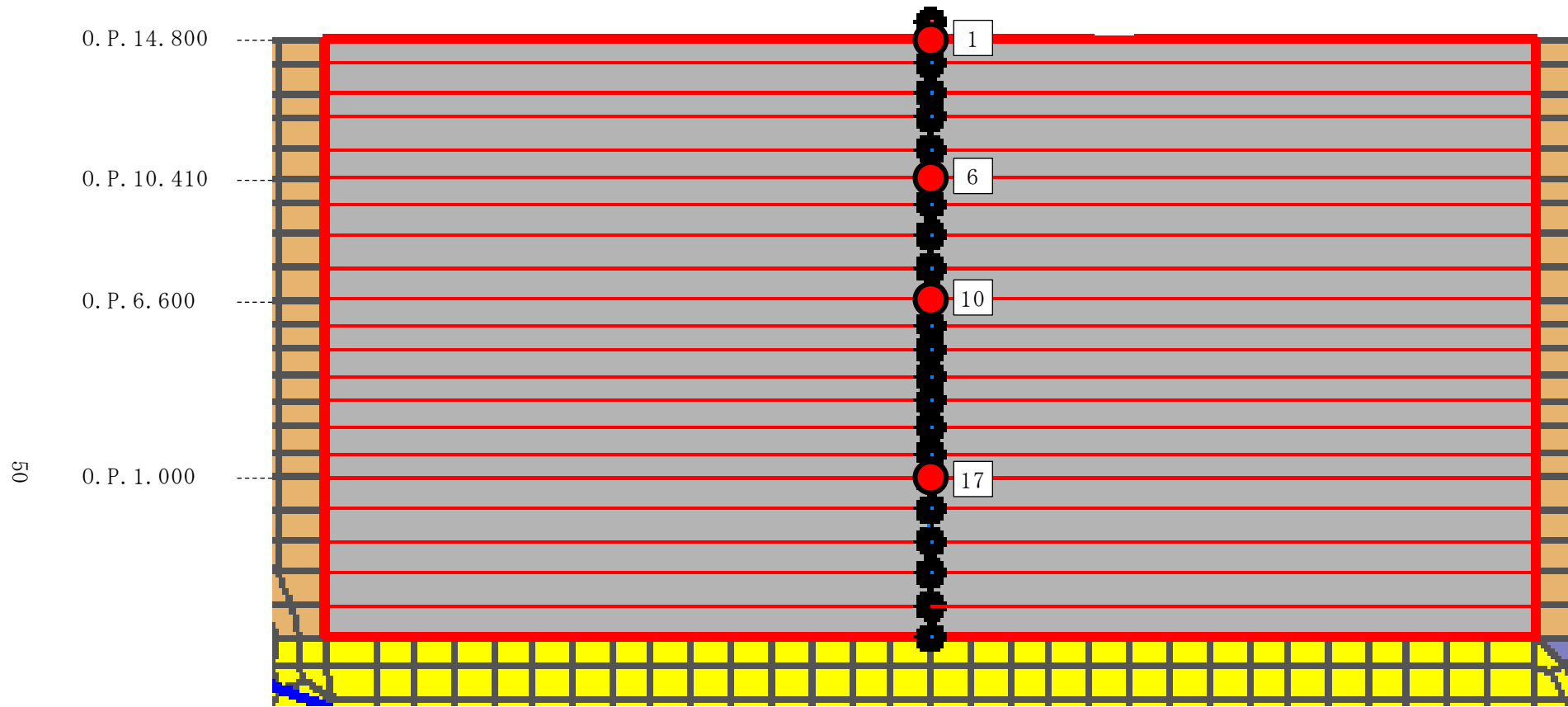


図 3-13 (2) 排気筒基礎の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, NS 方向)

- 凡 例
- |   |  |
|---|--|
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #FF00FF; border: 1px solid black;"></span> B級               | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #00FF00; border: 1px solid black;"></span> 旧表土   |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #FFFFFF; border: 1px solid black;"></span> C <sub>H</sub> 級 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #8B4513; border: 1px solid black;"></span> 盛土    |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #FFFF00; border: 1px solid black;"></span> C <sub>M</sub> 級 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #808080; border: 1px solid black;"></span> 排気筒基礎 |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #483D8B; border: 1px solid black;"></span> C <sub>L</sub> 級 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border-bottom: 2px solid red;"></span> 排気筒基礎                       |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #00CED1; border: 1px solid black;"></span> D級               |  |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border-bottom: 2px dashed blue;"></span> 速度層境界                                |  |

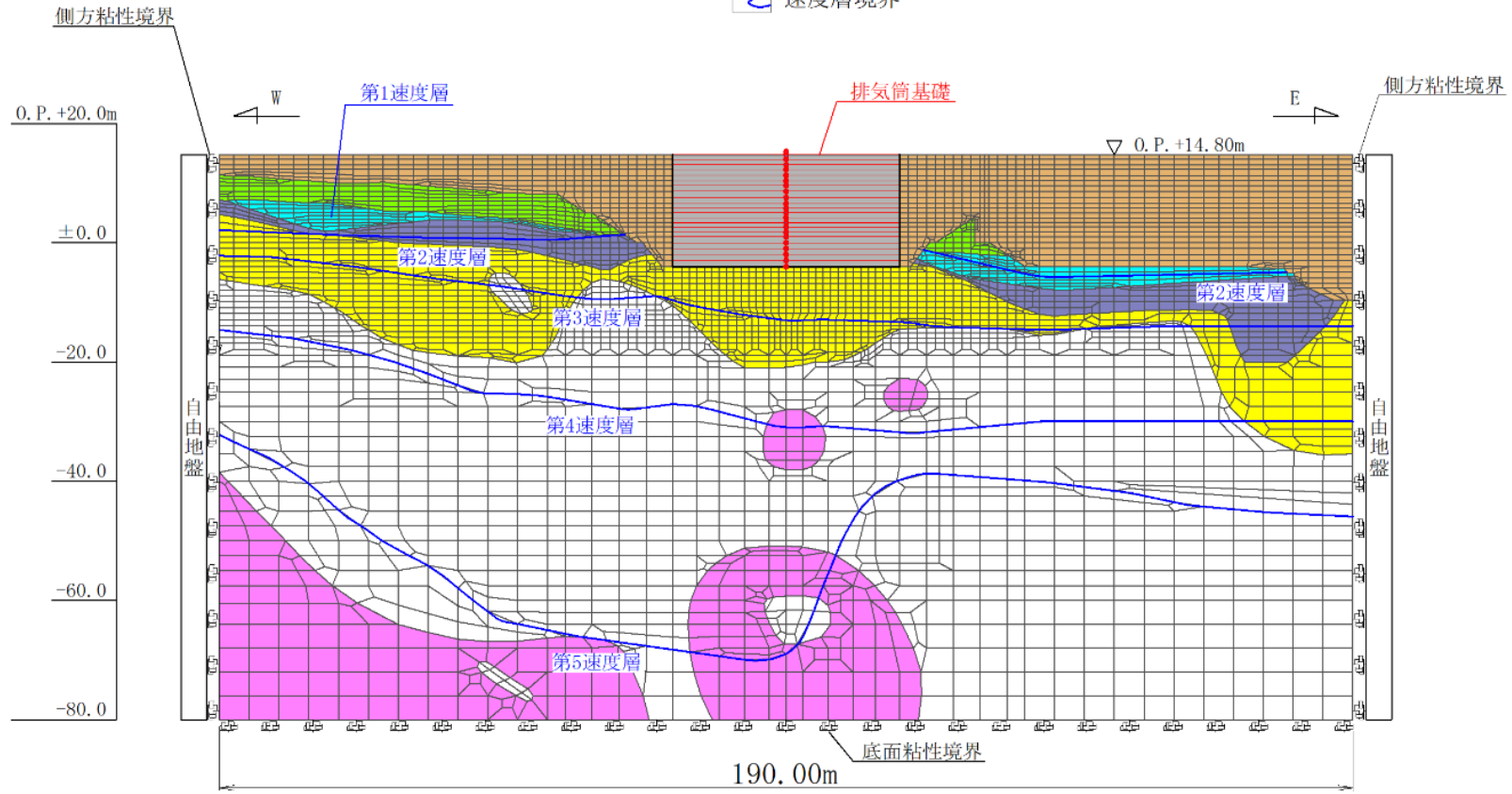


図 3-13 (3) 排気筒基礎の地震応答解析モデル (EW 方向)



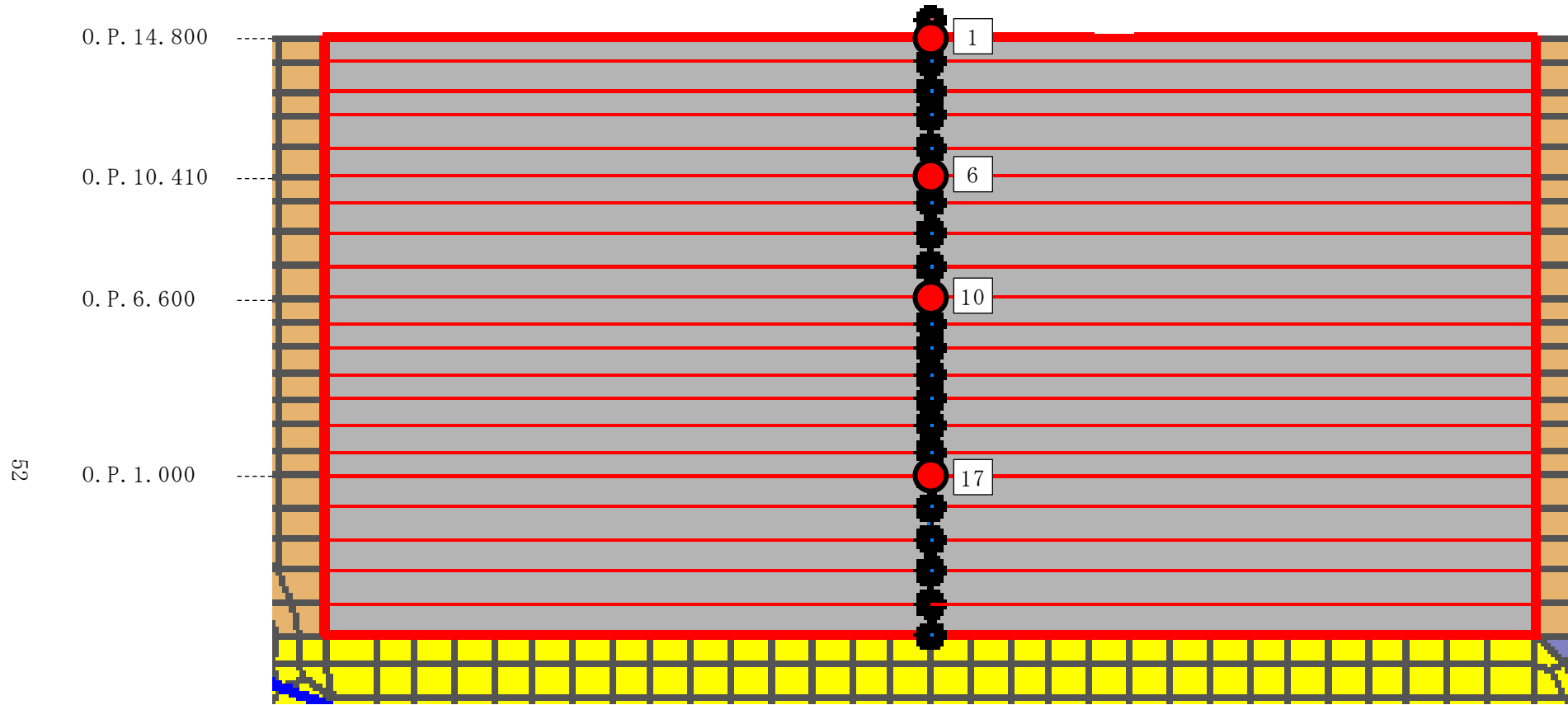


図 3-13 (4) 排気筒基礎の加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, EW 方向)

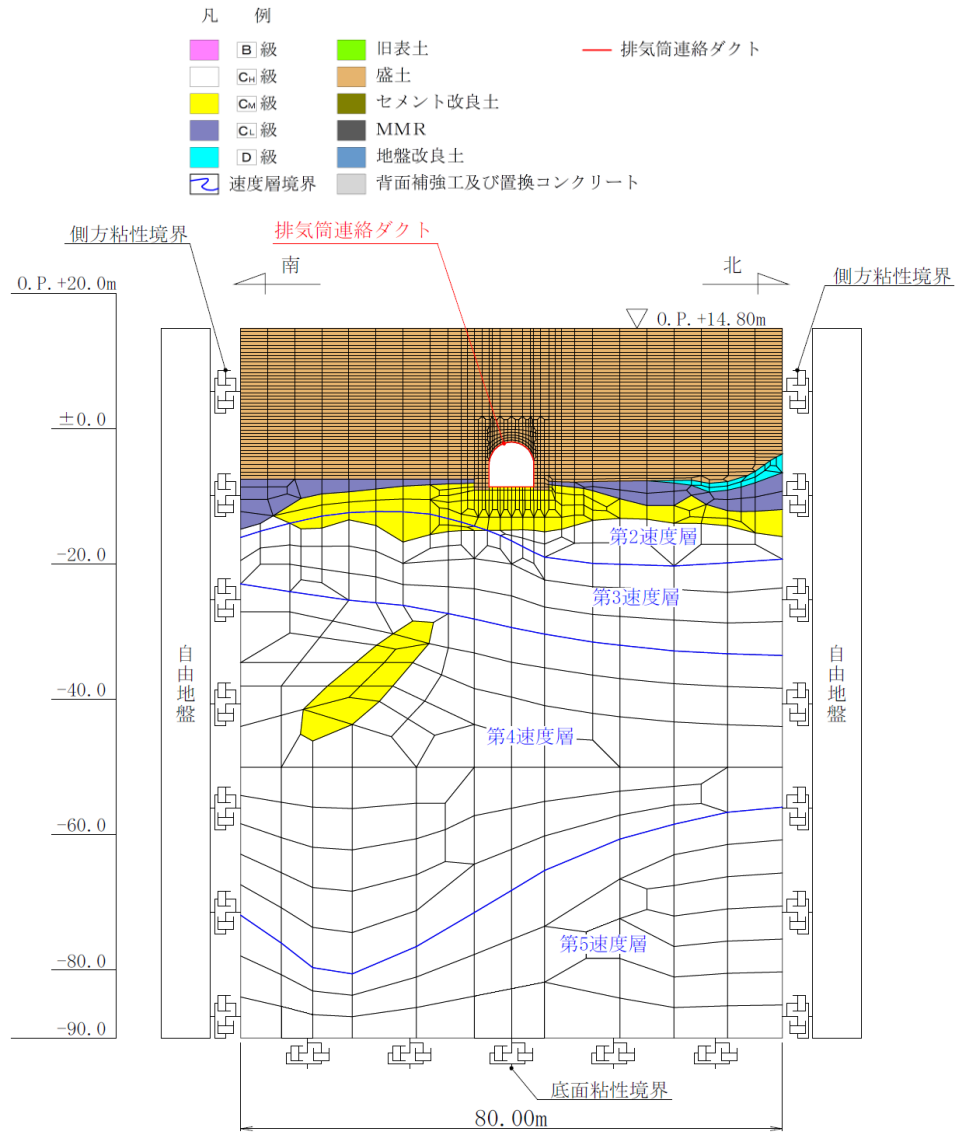


図 3-14 (1) 排気筒連絡ダクトの地震応答解析モデル (断面①)

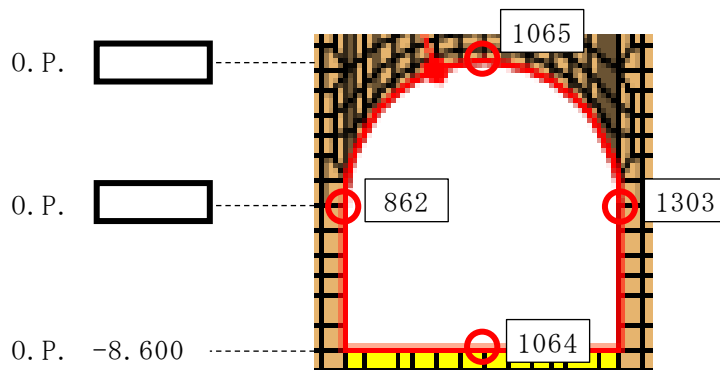


図 3-14 (2) 排気筒連絡ダクトの加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, 断面①)

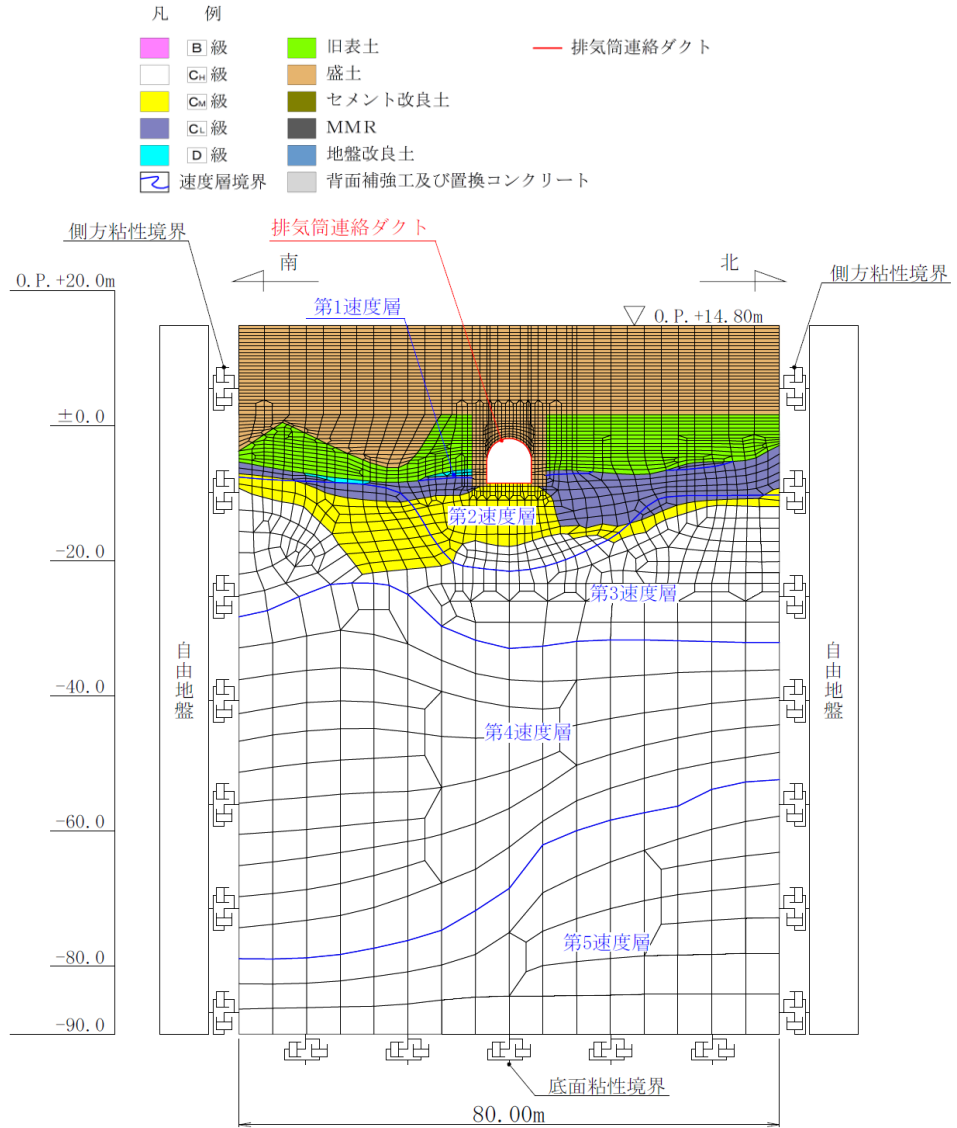


図 3-14 (3) 排気筒連絡ダクトの地震応答解析モデル (断面③)

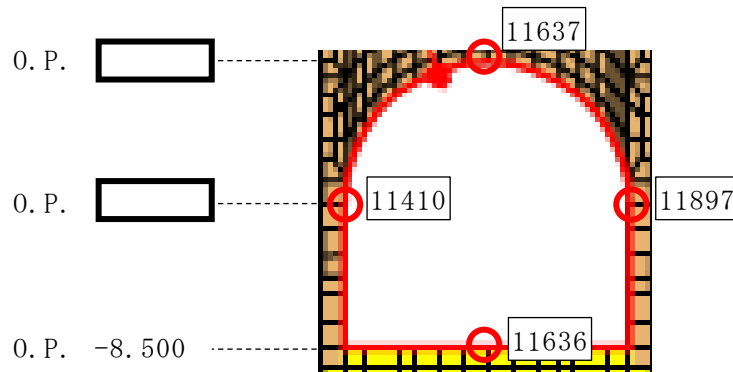


図 3-14 (4) 排気筒連絡ダクトの加速度応答算出位置 (地震応答解析モデルの拡大図, 断面③)

- 凡 例
- B級
  - 旧表土
  - 排気筒連絡ダクト
  - C<sub>1</sub>級
  - 盛土
  - C<sub>2</sub>級
  - セメント改良土
  - MMR
  - C<sub>3</sub>級
  - 地盤改良土
  - D級
  - 背面補強工及び置換コンクリート
  - 速度層境界

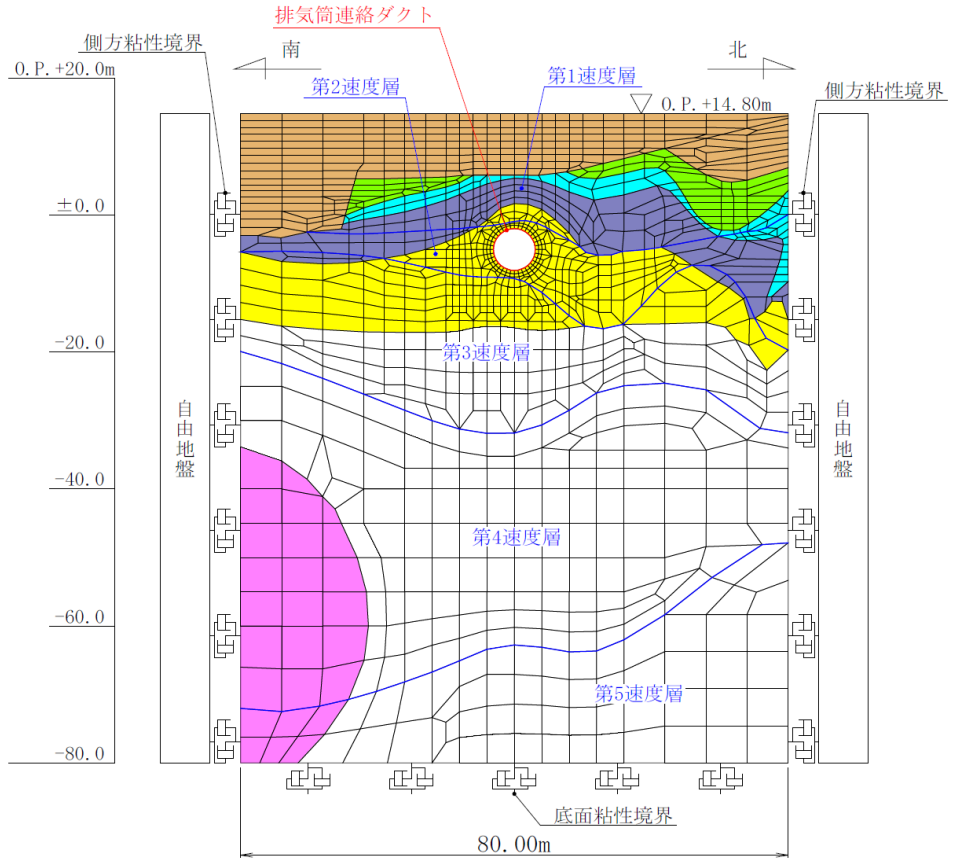


図 3-14 (5) 排気筒連絡ダクトの地震応答解析モデル (断面⑤)

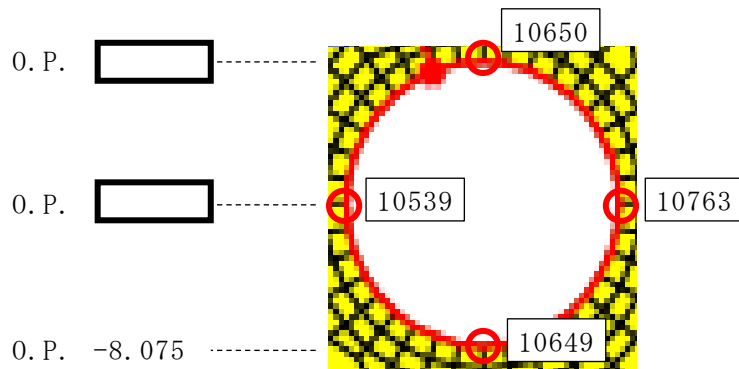


図 3-14 (6) 排気筒連絡ダクトの加速度応答算出位置  
(地震応答解析モデルの拡大図, 断面⑤)

- 凡 例
- |  |       |  |                 |  |            |
|--|-------|--|-----------------|--|------------|
|  | B級    |  | 旧表土             |  | 排気筒連絡ダクト   |
|  | C級    |  | 盛土              |  | 断層 (ソリッド)  |
|  | C級    |  | セメント改良土         |  | 断層 (ジョイント) |
|  | C級    |  | MMR             |  |            |
|  | D級    |  | 地盤改良土           |  |            |
|  | 速度層境界 |  | 背面補強工及び置換コンクリート |  |            |

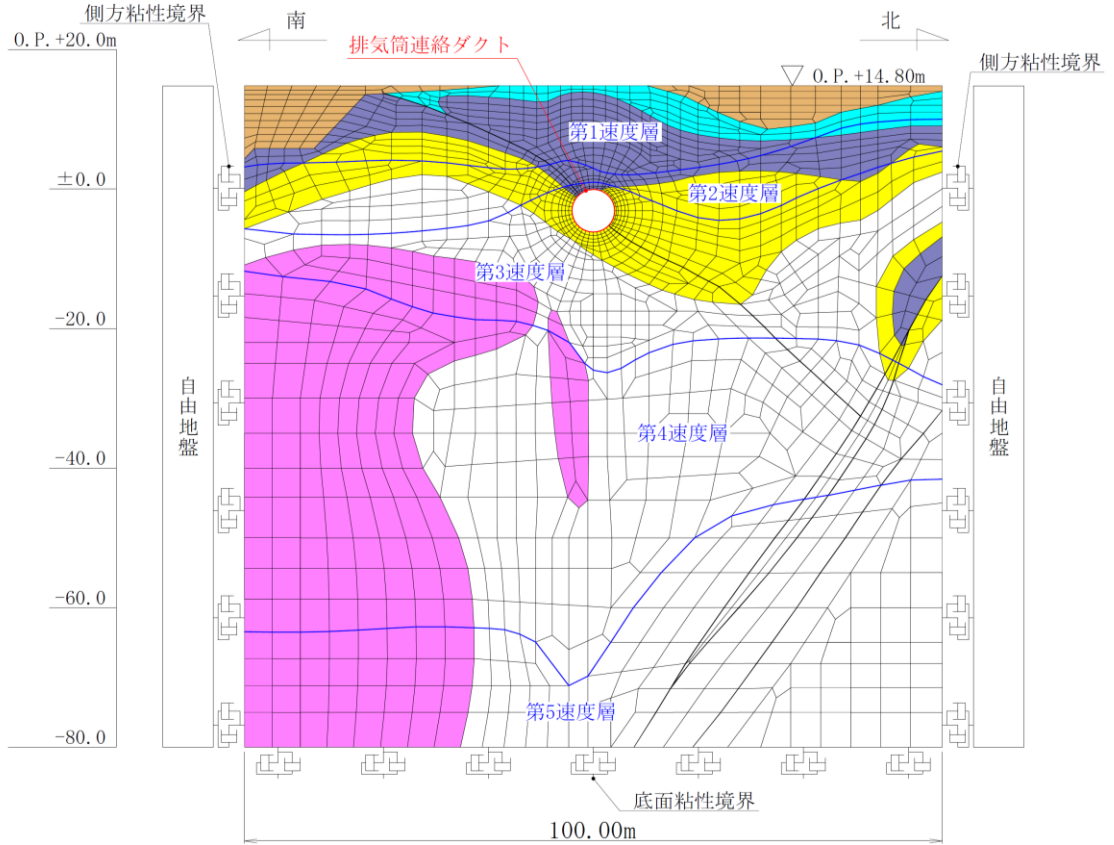


図 3-14 (7) 排気筒連絡ダクトの地震応答解析モデル (断面⑦)

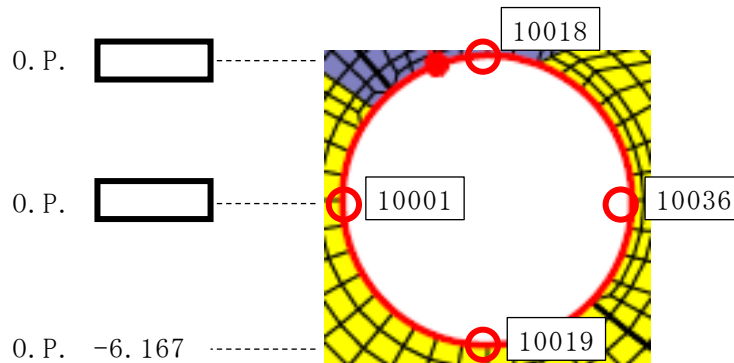


図 3-14 (8) 排気筒連絡ダクトの加速度応答算出位置  
(地震応答解析モデルの拡大図, 断面⑦)

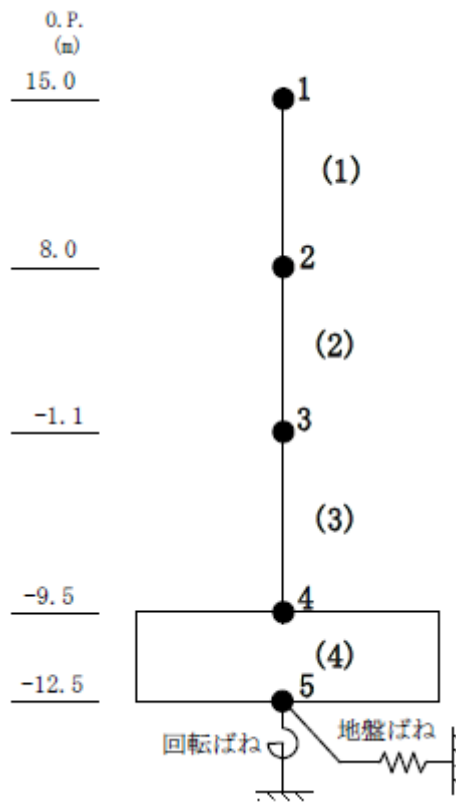


図 3-15 (1) 第 3 号機海水熱交換器建屋の地震応答解析モデル (水平方向)

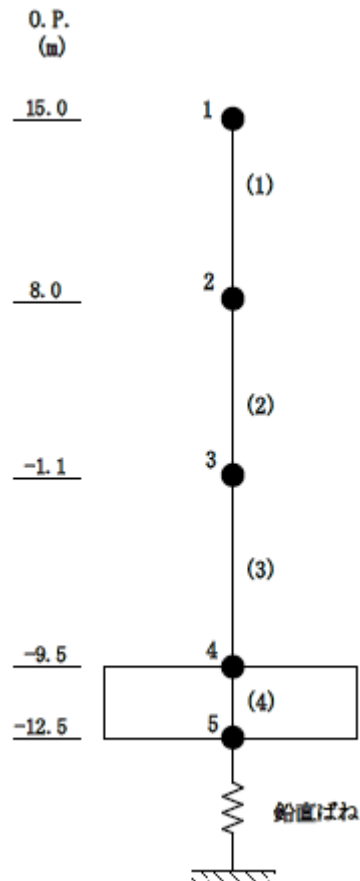


図 3-15 (2) 第 3 号機海水熱交換器建屋の地震応答解析モデル (鉛直方向)

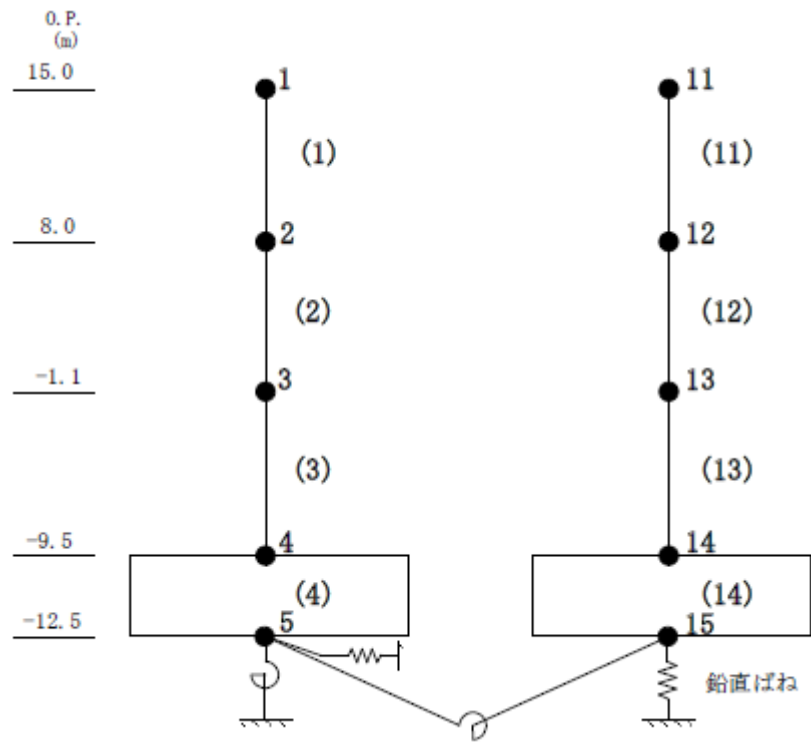


図 3-15 (3) 第 3 号機海水熱交換器建屋の地震応答解析モデル (誘発上下動考慮)

K <sub>1</sub>	原子炉格納容器シヤラグ
K <sub>2</sub>	原子炉格納容器スタビライザ
K <sub>3</sub>	原子炉圧力容器スタビライザ
K <sub>4</sub>	燃料交換ベローズ
K <sub>5</sub>	所員用エアロック
K <sub>6</sub>	ベント管

記号	内容
●	質点
	はり
— — —	水平ばね
⊙	回転ばね

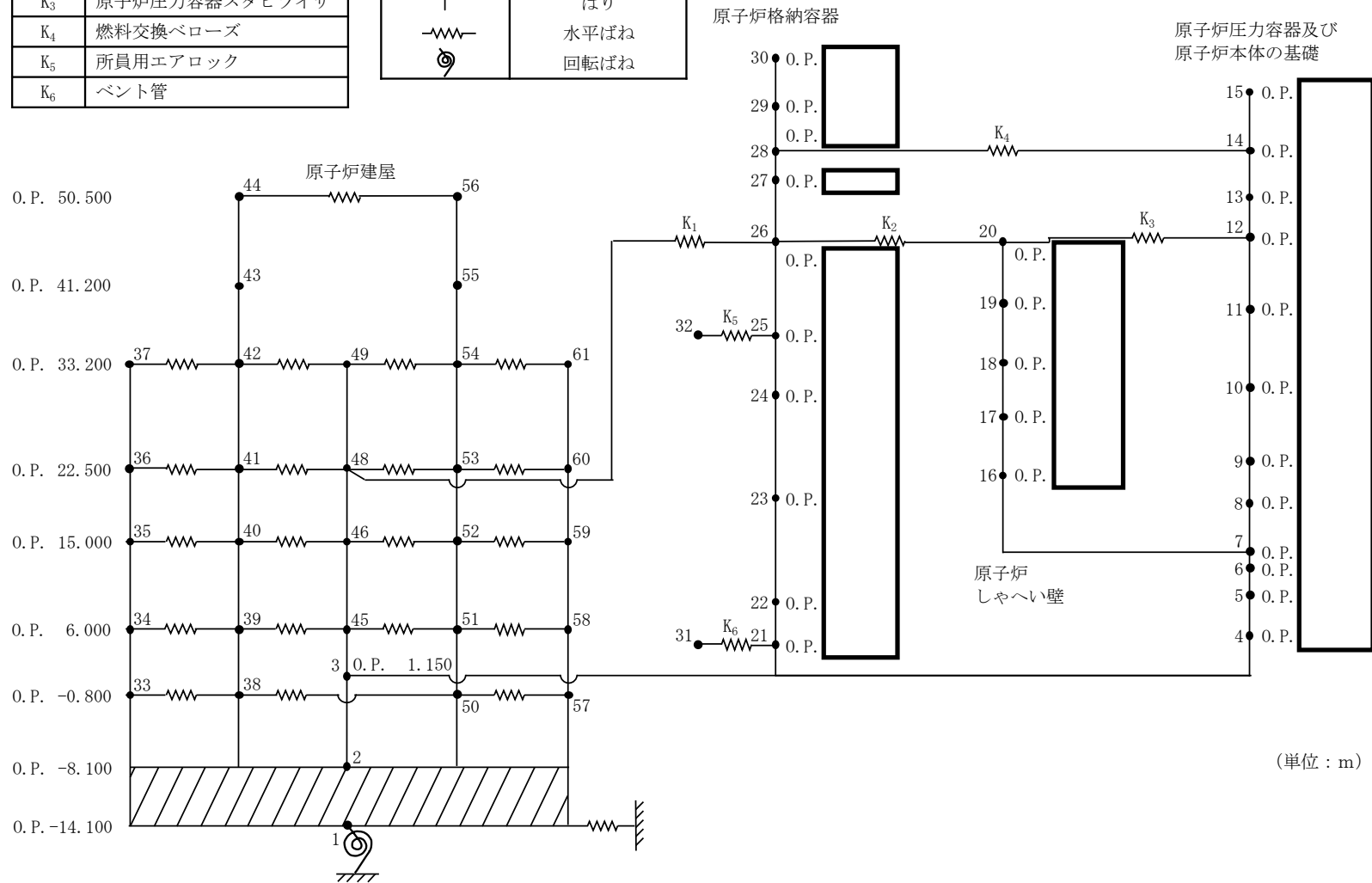


図 3-16 (1) 原子炉圧力容器，原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の地震応答解析モデル (NS 方向)

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



K <sub>1</sub>	原子炉格納容器シャラゲ
K <sub>2</sub>	原子炉格納容器スタビライザ
K <sub>3</sub>	原子炉圧力容器スタビライザ
K <sub>4</sub>	燃料交換ベローズ
K <sub>5</sub>	所員用エアロック
K <sub>6</sub>	ベント管

記号	内容
●	質点
	はり
— —	水平ばね
⊙ ⊚ ⊛	回転ばね

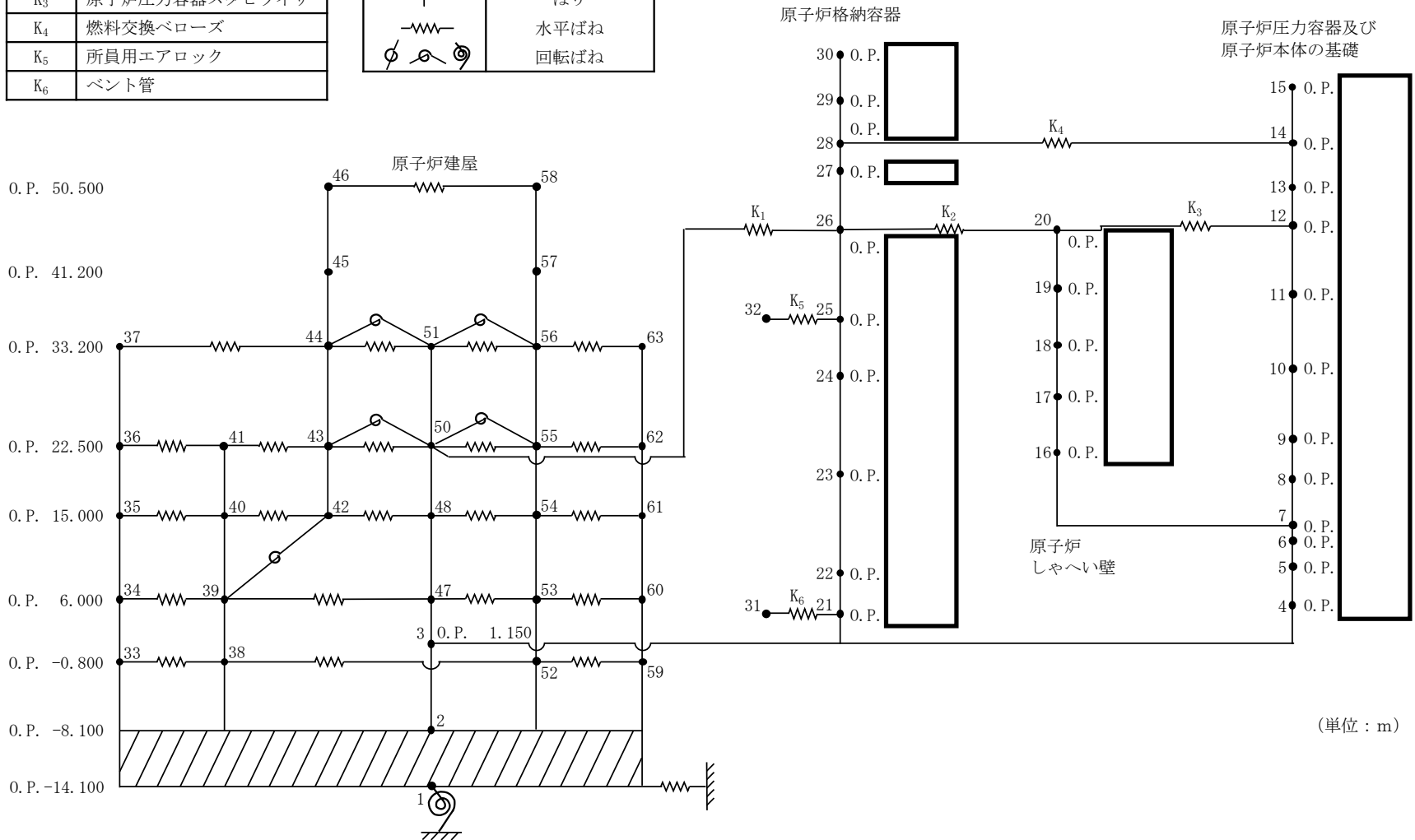


図 3-16 (2) 原子炉圧力容器，原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の地震応答解析モデル (EW 方向)

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

$K_{\theta}$	トラス端部回転拘束ばね
--------------	-------------

記号	内容
●	質点
—	軸ばね (構造物)
—	はり (屋根トラス部)
	回転ばね
	鉛直ばね (地盤)

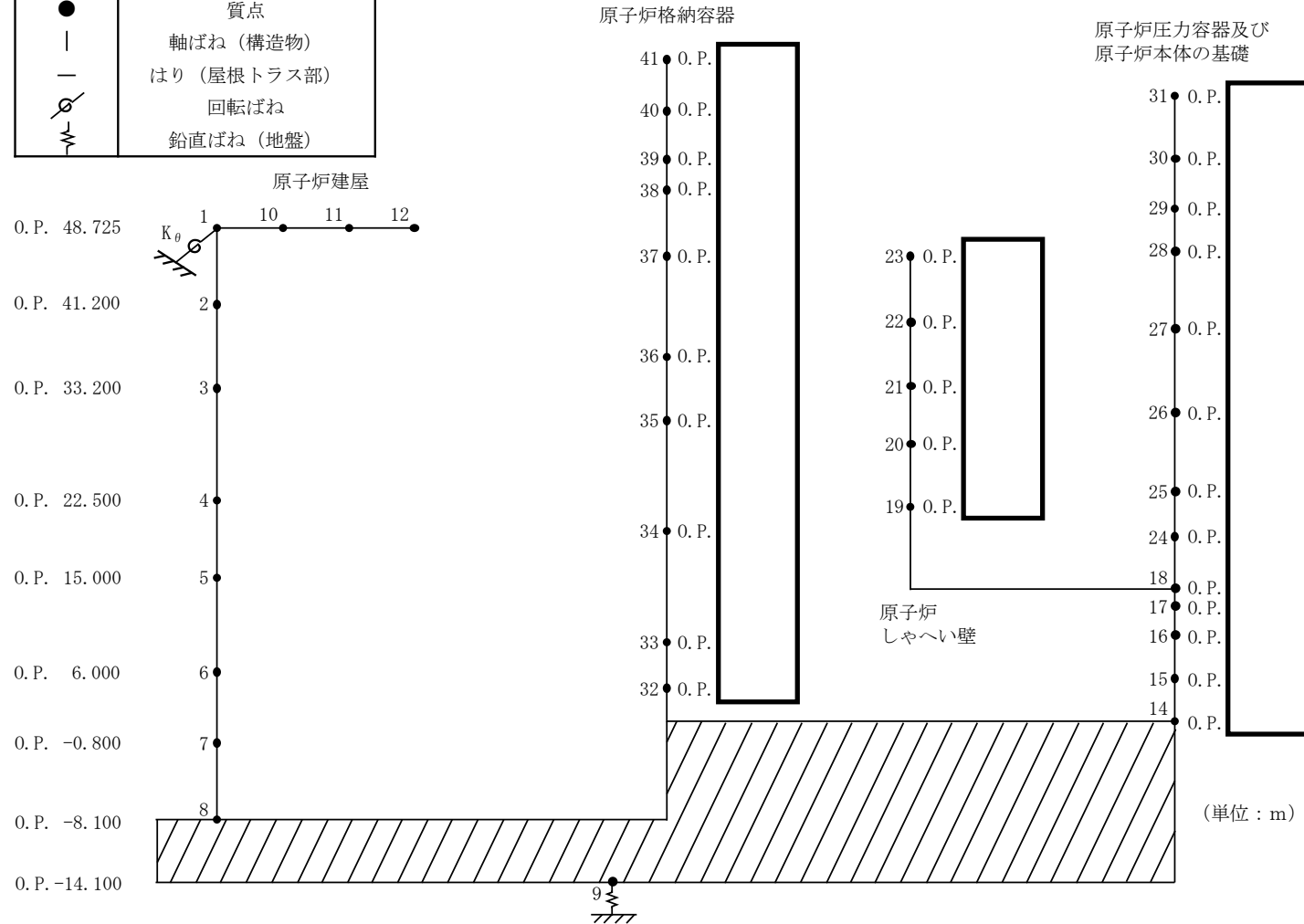


図 3-16 (3) 原子炉圧力容器，原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の地震応答解析モデル（鉛直方向）

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

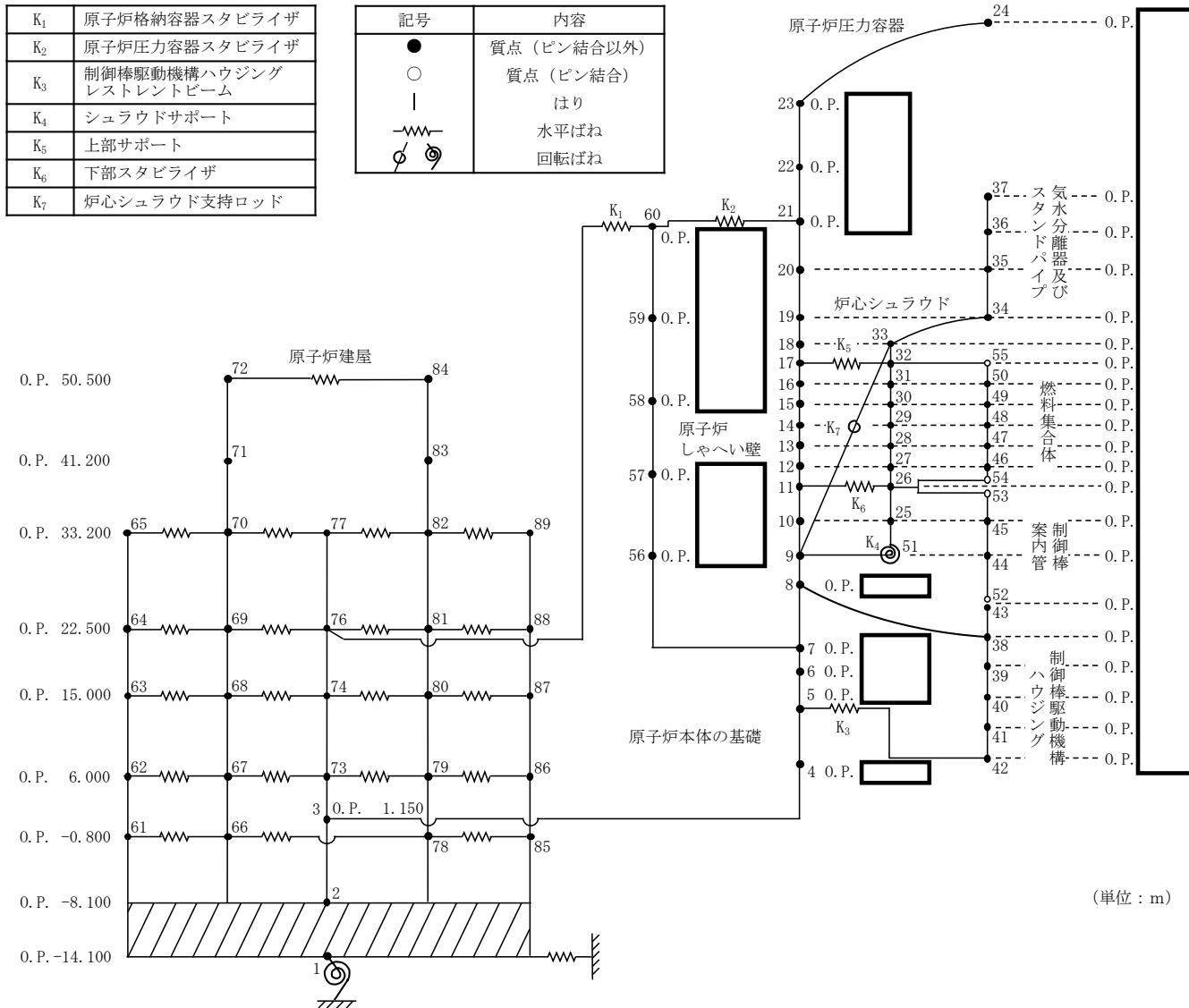


図 3-17 (1) 炉心及び原子炉内部構造物の地震応答解析モデル (NS 方向)

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

K <sub>1</sub>	原子炉格納容器スタビライザ
K <sub>2</sub>	原子炉圧力容器スタビライザ
K <sub>3</sub>	制御棒駆動機構ハウジングレストレイントビーム
K <sub>4</sub>	シュラウドサポート
K <sub>5</sub>	上部サポート
K <sub>6</sub>	下部スタビライザ
K <sub>7</sub>	炉心シュラウド支持ロッド

記号	内容
●	質点 (ピン結合以外)
○	質点 (ピン結合)
	はり
~w~w~	水平ばね
⊙	回転ばね

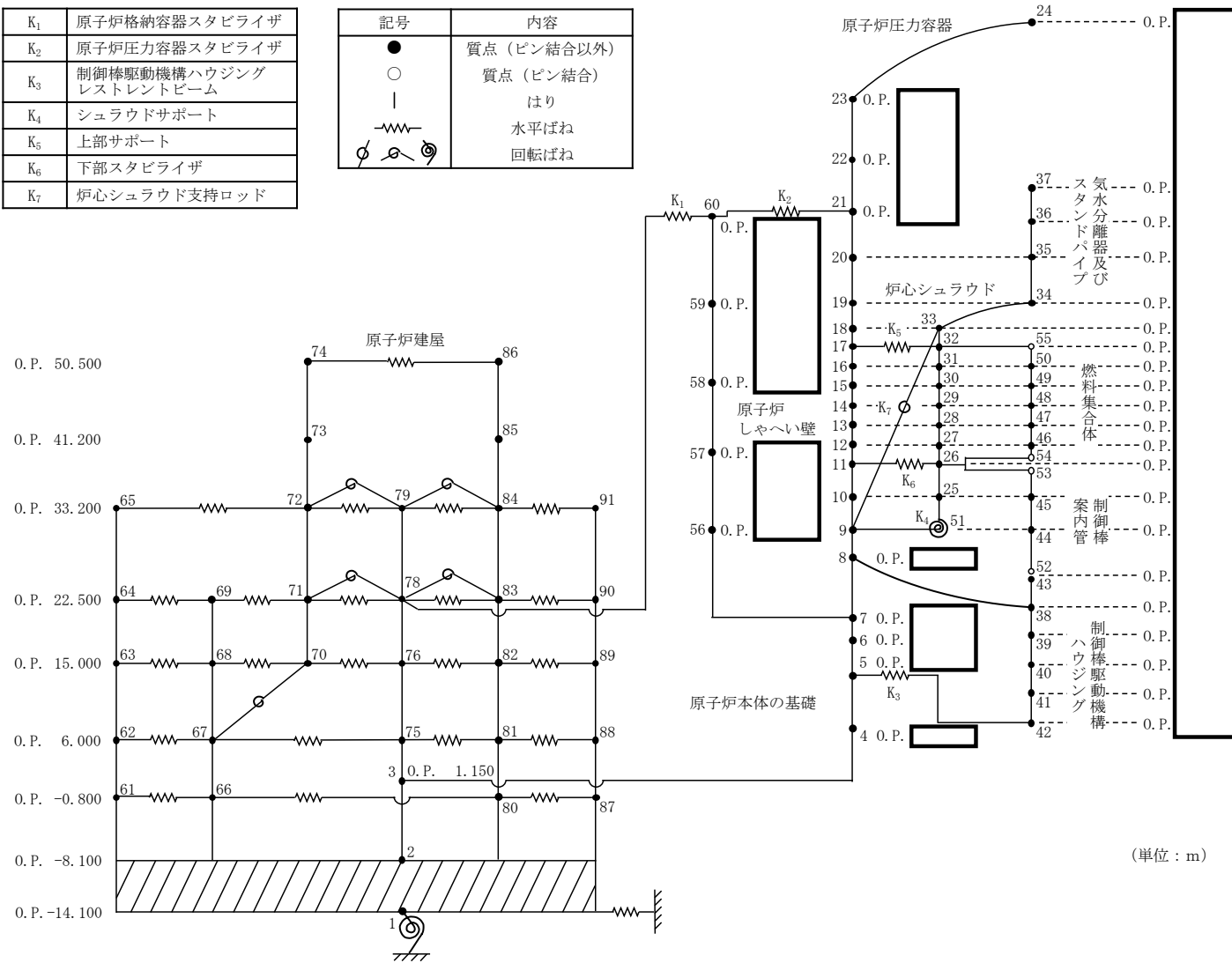


図 3-17 (2) 炉心及び原子炉内部構造物の地震応答解析モデル (EW 方向)

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

$K_{\theta}$	トラス端部回転拘束ばね
●	質点
—	軸ばね (構造物)
—	はり (屋根トラス部)
	回転ばね
	鉛直ばね (地盤)

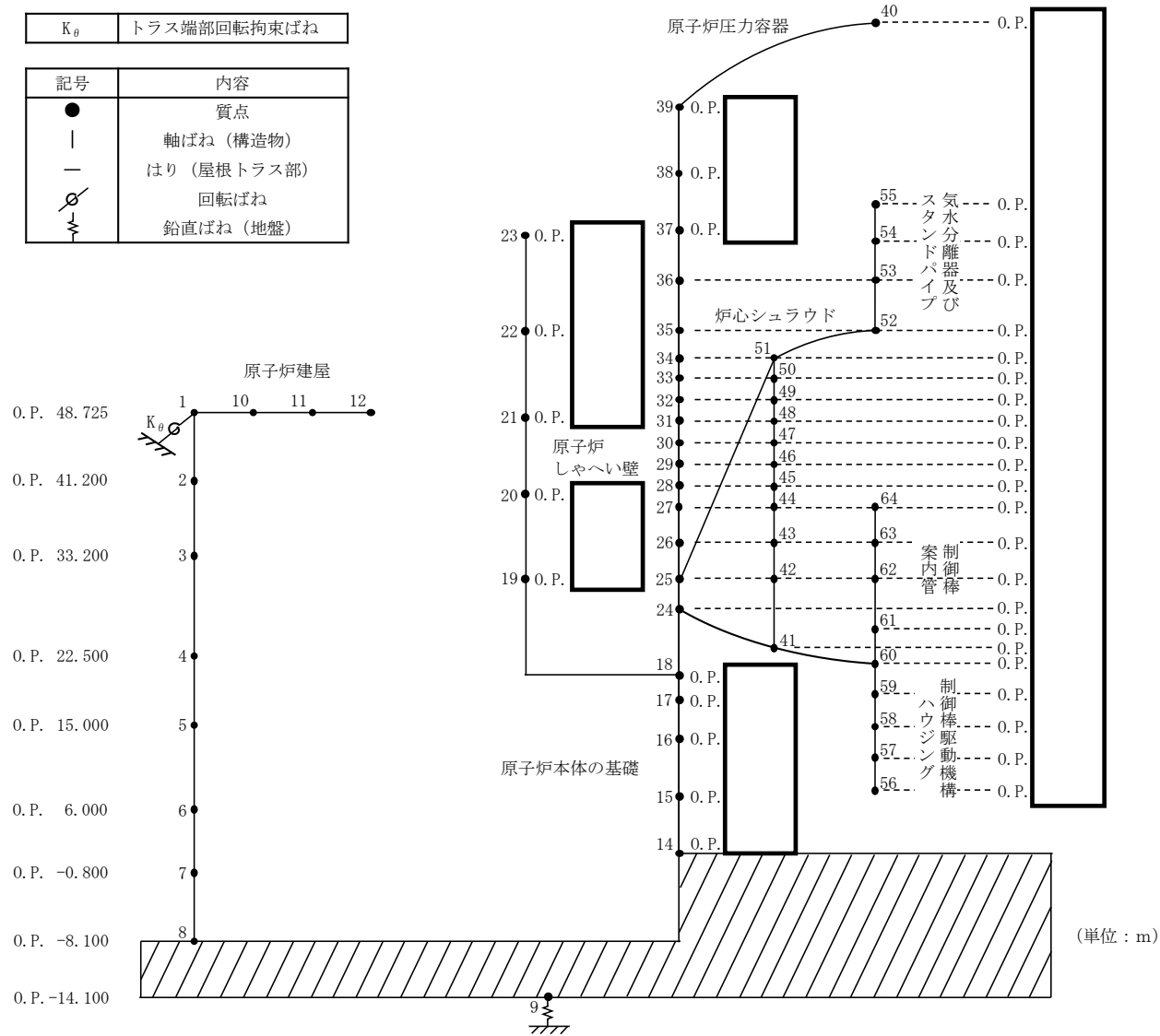


図 3-17 (3) 炉心及び原子炉内部構造物の地震応答解析モデル (鉛直方向)

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

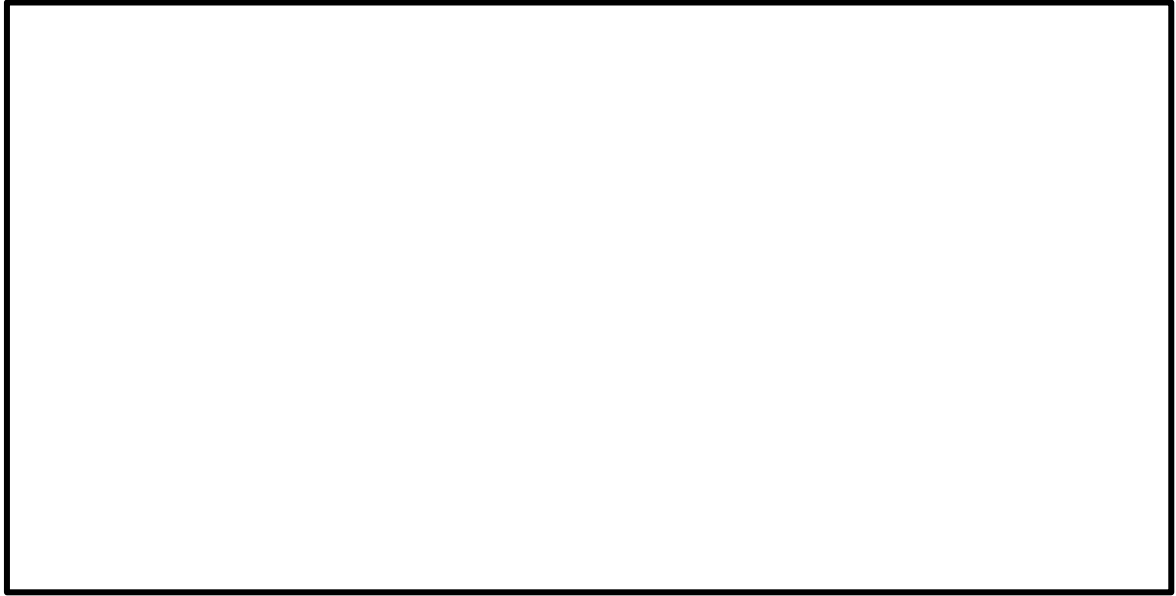


図 3-18 サプレッションチェンバの地震応答解析モデル

4. 設計用最大応答加速度及び設計用床応答曲線

本章では、施設ごとの各床面の設計用最大応答加速度及び静的震度並びに設計用床応答曲線を示す。また、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」の「4. 設計用地震力」に従って算出した値以上となるように作成した静的震度についても示す。

4.1 弾性設計用地震動 S d

建屋の各床面の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度を表 4-1-1～表 4-1-12 に、各床面の減衰定数に応じた弾性設計用地震動 S d に対する設計用床応答曲線の図番一覧表を表 4-2-1～表 4-2-12 に示す。また、建物・構築物等と表番号の関係を表 4-1 に示す。

なお、弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1 建物・構築物等と表番号の関係（弾性設計用地震動 S d）

No.	建物・構築物等	弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度	設計用床応答曲線 (S d)
1	原子炉建屋	表 4-1-1	表 4-2-1
2	制御建屋	表 4-1-2	表 4-2-2
3	海水ポンプ室	表 4-1-3	表 4-2-3
4	原子炉機器冷却海水配管ダクト (水平部)	表 4-1-4	表 4-2-4
5	軽油タンク室	表 4-1-5	表 4-2-5
6	軽油タンク室 (H)	表 4-1-6	表 4-2-6
7	軽油タンク連絡ダクト	表 4-1-7	表 4-2-7
8	排気筒基礎	表 4-1-8	表 4-2-8
9	排気筒連絡ダクト	表 4-1-9	表 4-2-9
10	原子炉圧力容器, 原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎	表 4-1-10	表 4-2-10
11	炉心及び原子炉内部構造物	表 4-1-11	表 4-2-11
12	サプレッションチェンバ	表 4-1-12	表 4-2-12

## 4.2 基準地震動 $S_s$

建屋の各床面の基準地震動  $S_s$  に対する設計用最大応答加速度を表 4-3-1～表 4-3-18 に、各床面の減衰定数に応じた基準地震動  $S_s$  に対する設計用床応答曲線の図番一覧表を表 4-4-1～表 4-4-16 に示す。また、建物・構築物等と表番号の関係を表 4-2 に示す。

表 4-2 建物構築物等と表番号の関係（基準地震動  $S_s$ ）

No.	建物・構築物等	基準地震動 $S_s$ に対する 設計用最大応答加速度	設計用床応答曲線 ( $S_s$ )
1	原子炉建屋	表 4-3-1	表 4-4-1
2	制御建屋	表 4-3-2	表 4-4-2
3	復水貯蔵タンク基礎	表 4-3-3	表 4-4-3
4	海水ポンプ室	表 4-3-4	表 4-4-4
5	第 3 号機海水ポンプ室	表 4-3-5	-*
6	原子炉機器冷却海水配管 ダクト（水平部）	表 4-3-6	表 4-4-5
7	軽油タンク室	表 4-3-7	表 4-4-6
8	軽油タンク室 (H)	表 4-3-8	表 4-4-7
9	ガスタービン発電設備 軽油タンク室	表 4-3-9	表 4-4-8
10	軽油タンク連絡ダクト	表 4-3-10	表 4-4-9
11	緊急用電気品建屋	表 4-3-11	表 4-4-10
12	緊急時対策建屋	表 4-3-12	表 4-4-11
13	排気筒基礎	表 4-3-13	表 4-4-12
14	排気筒連絡ダクト	表 4-3-14	表 4-4-13
15	第 3 号機海水熱交換器建屋	表 4-3-15	-*
16	原子炉圧力容器, 原子炉格納 容器及び原子炉本体の基礎	表 4-3-16	表 4-4-14
17	炉心及び原子炉内部構造物	表 4-3-17	表 4-4-15
18	サプレッションチェンバ	表 4-3-18	表 4-4-16

注記\*：今回工認においては、評価対象が剛である設備のみであり、床応答曲線を適用しないことから、設計用最大応答加速度のみ整理。



#### 4.3 余震荷重を算定するための地震動

津波荷重と重畳させる余震荷重を算定するための地震動（S d - D 2）における設計用最大応答加速度を示す。建物・構築物の各床面の設計用最大応答加速度を表 4-5-1～表 4-5-6 に示す。また，建物・構築物等と表番号の関連を表 4-3 に示す。

表 4-3 建物・構築物等と表番号の関係（弾性設計用地震動 S d - D 2）

No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度
1	原子炉建屋	表 4-5-1
2	制御建屋	表 4-5-2
3	海水ポンプ室	表 4-5-3
4	第 3 号機海水ポンプ室	表 4-5-4
5	軽油タンク室	表 4-5-5
6	第 3 号機海水熱交換器建屋	表 4-5-6

表 4-1-1 原子炉建屋の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

建屋	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	水平	鉛直		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
原子炉 建屋	NS:6, 18 EW:10, 20	4	水平 50.500 鉛直 48.725	3.12	1.01	3.74	1.21	2.21	2.65	0.24	0.29
	NS:7, 19 EW:11, 21	5	41.200	2.01	0.92	2.41	1.10	1.56	1.87		
	NS:1, 8, 13, 20, 25 EW:1, 12, 15, 22, 27	6	33.200	1.31	0.86	1.57	1.03	0.95	1.14		
	NS:2, 9, 14, 21, 26 EW:2, 6, 13, 16, 23, 28	7	22.500	0.95	0.76	1.13	0.91	0.76	0.92		
	NS:3, 10, 15, 22, 27 EW:3, 7, 14, 17, 24, 29	8	15.000	0.80	0.67	0.96	0.80	0.66	0.80		
	NS:4, 11, 16, 23, 28 EW:4, 8, 18, 25, 30	9	6.000	0.60	0.53	0.72	0.63	0.56	0.68		
	NS:5, 12, 24, 29 EW:5, 9, 26, 31	10	-0.800	0.53	0.43	0.63	0.51	0.48	0.58		
	NS:30 EW:32	11	-8.100	0.40	0.33	0.48	0.40	0.30	0.36		

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-2 制御建屋の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

建屋	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	水平	鉛直		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
制御 建屋	1, 9, 10	1	29.150	2.02	1.02	2.43	1.22	0.90	1.08	0.24	0.29
	2, 11	2	22.950	1.34	0.90	1.61	1.08	0.75	0.90		
	3, 12	3	19.500	1.23	0.78	1.48	0.93	0.67	0.81		
	4, 13	4	15.000	1.04	0.63	1.25	0.76	0.58	0.70		
	5, 14	5	8.000	0.76	0.46	0.91	0.55	0.48	0.58		
	6	6	1.500	0.64	0.35	0.77	0.42	0.30	0.36		

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-3 海水ポンプ室の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	NS	EW		水平	鉛直	水平	鉛直	水平 (3.6Ci)		鉛直 (1.2Cv)	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
海水 ポンプ室	1378, 1454, 1528, 1601, 1676	1708, 1989, 2196, 2406, 2701	14.800	2.52	1.07	3.02	1.29	0.48	0.58	0.24	0.29
	1381, 1457, 1531, 1604, 1679	1712, 1993, 2000, 2410, 2705	NS:11.650 EW:11.025	1.37	0.96	1.64	1.15				
	1385, 1461, 1535, 1608, 1683	1716, 1997, 2204, 2414, 2709	7.250	1.15	0.94	1.37	1.13				
	1390, 1466, 1540, 1613, 1688	1721, 1758, 2002, 2209, 2419, 2665, 2714	2.250	0.87	0.90	1.05	1.07				
	1469, 1616	1761, 2005, 2212, 2422, 2668	-0.550	0.79	0.79	0.95	0.95				
	1475, 1622	1768, 2012, 2219, 2429, 2675	NS:-6.400 EW:-7.025	0.68	0.73	0.82	0.87				
	1478, 1625	1772, 2016, 2223, 2433, 2679	-9.800	0.53	0.70	0.64	0.83				

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-4 原子炉機器冷却海水配管ダクト（水平部）の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物	質点番号	標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
			水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
							3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
原子炉機器 冷却海水 配管ダクト (水平部)	2324, 2514, 2698, 2893, 3086	-0.650	0.62	0.46	0.75	0.55	0.48	0.58	0.24	0.29
	2329, 2519, 2703, 2898, 3091	-4.750	0.50	0.42	0.60	0.50				
	2333, 2523, 2707, 2902, 3095	-8.850	0.49	0.40	0.59	0.48				

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-5 軽油タンク室の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物	質点番号		標高 O. P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	NS	EW		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
			3.0Ci					3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv	
軽油タンク室 (タンク室)	3497, 3646, 3822	3024, 3224, 3472 3818, 4014, 4228	14.800	0.83	0.53	0.99	0.64	0.48	0.58	0.24	0.29
	7101, 7201, 7301	7101, 7201, 7301 7401, 7501, 7601	9.500	0.66	0.50	0.79	0.60				
軽油タンク室 (ポンプ室)	3212	3043, 3177, 3472 3838, 3963	14.800	0.81	0.46	0.97	0.56				
	3203	3029, 3163, 3458 3824, 3949	9.500	0.64	0.45	0.77	0.54				

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-6 軽油タンク室 (H) の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	NS	EW		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
			3.0Ci					3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv	
軽油タンク室 (H)	1790, 1945 2118, 2270	2492	14.800	1.07	0.61	1.28	0.73	0.48	0.58	0.24	0.29
	7101, 7201 7301, 7401	7701	6.400	0.72	0.48	0.86	0.58				

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-7 軽油タンク連絡ダクトの弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物	質点番号	標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
			水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
							3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
軽油タンク 連絡ダクト	2377, 2460	12.100	0.76	0.56	0.92	0.68	0.48	0.58	0.24	0.29
	2336, 5004, 2510	10.500	0.68	0.56	0.82	0.67				
	2376, 2459	9.500	0.62	0.53	0.74	0.64				

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。



表 4-1-8 排気筒基礎の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	NS	EW		水平	鉛直	水平	鉛直	水平 (3.6Ci)		鉛直 (1.2Cv)	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
排気筒基礎	1	1	14.800	0.86	0.48	1.04	0.58	0.48	0.58	0.24	0.29
	6	6	10.410	0.82	0.47	0.99	0.56				
	10	10	6.600	0.74	0.46	0.89	0.55				
	17	17	1.000	0.60	0.43	0.72	0.52				

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-9 排気筒連絡ダクトの弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物	質点番号				標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	断面①	断面③	断面⑤	断面⑦		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
										3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
排気筒 連絡ダクト	1065	11637	10650	10018		0.60	0.53	0.72	0.64	0.48	0.58	0.24	0.29
	862	11410	10539	10000		0.47	0.39	0.57	0.47				
	1303	11897	10763	10036									
	1064	11636	10649	10019	-8.100~ 0.940	0.52	0.27	0.62	0.33				

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

6-1

表 4-1-10 原子炉压力容器, 原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度(1/2)

構造物	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	水平	鉛直		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
原子炉压力容器	15	31		2.54	0.70	3.05	0.84	1.14	1.37	0.24	0.29
	14	30		2.18	0.70	2.61	0.84	1.14	1.37		
	13	29		1.88	0.69	2.26	0.83	1.14	1.37		
	12	28		1.61	0.68	1.93	0.82	0.92	1.10		
	11	27		1.24	0.66	1.48	0.79	0.92	1.10		
	10	26		0.93	0.64	1.11	0.76	0.80	0.96		
	9	25		0.81	0.61	0.97	0.73	0.80	0.96		
	8	24		0.75	0.59	0.90	0.71	0.80	0.96		
原子炉本体の基礎	7	18		0.62	0.46	0.74	0.55	0.66	0.80		
	6	17		0.60	0.44	0.72	0.53	0.66	0.80		
	5	16		0.58	0.41	0.70	0.49	0.56	0.68		
	4	15		0.54	0.37	0.64	0.44	0.56	0.68		
	3	14		0.49	0.34	0.59	0.41	0.56	0.68		
原子炉しゃへい壁	20	23		1.22	0.93	1.46	1.12	0.76	0.92		
	19	22		1.04	0.92	1.24	1.10	0.76	0.92		
	18	21	1.04	0.86	1.25	1.04	0.76	0.92			
	17	20	0.99	0.77	1.18	0.92	0.66	0.80			
	16	19	0.84	0.65	1.01	0.77	0.66	0.80			

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-10 原子炉压力容器, 原子炉格納容器及び原子炉本体の基礎の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度 (2/2)

構造物名	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	水平	鉛直		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
原子炉格納容器	30	41		1.17	0.57	1.41	0.68	0.95	1.14	0.24	0.29
	29	40		1.11	0.56	1.34	0.68	0.95	1.14		
	28	39		1.06	0.56	1.27	0.67	0.95	1.14		
	27	38		1.02	0.55	1.22	0.66	0.95	1.14		
	26	37		0.93	0.53	1.12	0.63	0.76	0.92		
	25	36		0.77	0.50	0.92	0.60	0.76	0.92		
	24	35		0.68	0.47	0.82	0.56	0.66	0.80		
	23	34		0.54	0.43	0.65	0.52	0.66	0.80		
	22	33		0.47	0.39	0.56	0.47	0.56	0.68		
	21	32		0.49	0.37	0.58	0.44	0.56	0.68		

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

表 4-1-11 炉心及び原子炉内部構造物の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度 (1/3)

構造物	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	水平	鉛直		水平	鉛直	水平	鉛直	水平 (3.6Ci)		鉛直 (1.2Cv)	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
気水分離器及び スタンドパイプ	37	55		5.84	0.81	7.01	0.97	1.14	1.37	0.24	0.29
	36	54		3.25	0.81	3.90	0.97	0.92	1.10		
	35	53		2.20	0.81	2.64	0.97	0.92	1.10		
	34	52		1.83	0.80	2.19	0.96	0.92	1.10		
炉心シュラウド	33	51		1.69	0.73	2.02	0.87	0.92	1.10		
	32	50		1.58	0.72	1.90	0.86	0.92	1.10		
	31	49		1.48	0.71	1.77	0.85	0.92	1.10		
	30	48		1.37	0.70	1.64	0.83	0.92	1.10		
	29	47		1.25	0.68	1.50	0.82	0.80	0.96		
	28	46		1.13	0.67	1.35	0.81	0.80	0.96		
	27	45		1.00	0.66	1.20	0.79	0.80	0.96		
	26	44		0.87	0.65	1.04	0.78	0.80	0.96		
	25	43		0.80	0.62	0.96	0.75	0.80	0.96		
制御棒案内管	51	42		0.76	0.60	0.91	0.72	0.80	0.96		
	53	64		0.87	0.80	1.04	0.96	0.80	0.96		
	45	63		1.92	0.76	2.30	0.91	0.80	0.96		
	44	62	2.45	0.71	2.94	0.85	0.80	0.96			
	52	61	1.28	0.64	1.53	0.77	0.80	0.96			

1-12

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

表 4-1-11 炉心及び原子炉内部構造物の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度 (2/3)

構造物名	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	水平	鉛直		水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
								3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
制御棒駆動機構 ハウジング	43	61		1.28	0.64	1.53	0.77	0.80	0.96	0.24	0.29
	38	60		0.72	0.62	0.87	0.74	0.80	0.96		
	39	59		1.01	0.63	1.21	0.75	0.80	0.96		
	40	58		1.36	0.63	1.64	0.76	0.68	0.82		
	41	57		1.23	0.64	1.48	0.76	0.68	0.82		
	42	56		0.79	0.64	0.94	0.77	0.68	0.82		
燃料集合体*	55	-		1.58	-	1.90	-	0.92	1.10	-	
	50			2.05		2.46		0.92	1.10		
	49			2.75		3.30		0.92	1.10		
	48			2.89		3.47		0.80	0.96		
	47			2.55		3.05		0.80	0.96		
	46			1.77		2.12		0.80	0.96		
	54		0.87	1.04		0.80		0.96			

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

注記\*：燃料集合体は、鉛直方向に拘束していない構造であるため、質量のみ制御棒案内管上端に付加し、鉛直方向地震応答解析モデルでは質点としては考慮しない。

表 4-1-11 炉心及び原子炉内部構造物の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度 (3/3)

構造物名	質点番号		標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
	水平	鉛直		水平	鉛直	水平		鉛直	
						3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
原子炉压力容器	24	40		3.16	0.88	1.14	1.37	0.24	0.29
	23	39		2.68	0.87	1.14	1.37		
	22	38		2.31	0.86	1.14	1.37		
	21	37		1.94	0.84	0.92	1.10		
	20	36		1.70	0.82	0.92	1.10		
	19	35		1.46	0.79	0.92	1.10		
	18	34		1.35	0.78	0.92	1.10		
	17	33		1.28	0.77	0.92	1.10		
	16	32		1.18	0.76	0.92	1.10		
	15	31		1.14	0.74	0.92	1.10		
	14	30		1.10	0.73	0.80	0.96		
	13	29		1.07	0.72	0.80	0.96		
	12	28		1.03	0.71	0.80	0.96		
	11	27		0.99	0.71	0.80	0.96		
	10	26		0.94	0.69	0.80	0.96		
9	25	0.91	0.67	0.80	0.96				
8	24	0.88	0.66	0.80	0.96				

注 1 : 原子炉内部構造物の評価に当たり、機器反力等を算出する際に本表に記載の値を用いる。

2 : 弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

表 4-1-12 サプレッションチェンバの弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度

構造物名	質点番号	標高 O.P. (m)	最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.0$		最大応答加速度 ( $\times 9.80665 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$		静的震度			
			水平	鉛直	水平	鉛直	水平		鉛直	
							3.0Ci	3.6Ci	1.0Cv	1.2Cv
サプレッションチェンバ (DB 時水位)	1~32	-7.400 ~ 2.000	1.94	2.15	2.33	2.58	0.56	0.68	0.24	0.29
サプレッションチェンバ (SA 時水位)	1~32	-7.400 ~ 2.000	2.02	3.15	2.42	3.78	0.56	0.68	0.24	0.29

注：弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度と静的震度のうちいずれか大きい方を S d \* として評価に用いる。



表 4-2-1 (1) 設計用床応答曲線一覽表 (S d, 原子炉建屋 : 水平方向) (1/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉建屋	水平 方向	NS 方向 6, 18 EW 方向 10, 20	50. 500	0. 5	RB-SdH-RB5-005
					1. 0	RB-SdH-RB5-010
					1. 5	RB-SdH-RB5-015
					2. 0	RB-SdH-RB5-020
					2. 5	RB-SdH-RB5-025
					3. 0	RB-SdH-RB5-030
					4. 0	RB-SdH-RB5-040
					5. 0	RB-SdH-RB5-050
			NS 方向 7, 19 EW 方向 11, 21	41. 200	0. 5	RB-SdH-RB4-005
					1. 0	RB-SdH-RB4-010
					1. 5	RB-SdH-RB4-015
					2. 0	RB-SdH-RB4-020
					2. 5	RB-SdH-RB4-025
					3. 0	RB-SdH-RB4-030
					4. 0	RB-SdH-RB4-040
					5. 0	RB-SdH-RB4-050
			NS 方向 1, 8, 13 20, 25 EW 方向 1, 12, 15 22, 27	33. 200	0. 5	RB-SdH-RB3-005
					1. 0	RB-SdH-RB3-010
					1. 5	RB-SdH-RB3-015
					2. 0	RB-SdH-RB3-020
					2. 5	RB-SdH-RB3-025
					3. 0	RB-SdH-RB3-030
					4. 0	RB-SdH-RB3-040
					5. 0	RB-SdH-RB3-050
			NS 方向 2, 9, 14 21, 26 EW 方向 2, 6, 13 16, 23, 28	22. 500	0. 5	RB-SdH-RB2-005
					1. 0	RB-SdH-RB2-010
					1. 5	RB-SdH-RB2-015
					2. 0	RB-SdH-RB2-020
					2. 5	RB-SdH-RB2-025
					3. 0	RB-SdH-RB2-030
					4. 0	RB-SdH-RB2-040
					5. 0	RB-SdH-RB2-050
7. 0	RB-SdH-RB2-070					

表 4-2-1 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 原子炉建屋 : 水平方向) (2/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉建屋	水平 方向	NS 方向 3, 10, 15 22, 27 EW 方向 3, 7, 14 17, 24, 29	15.000	0.5	RB-SdH-RB1-005
					1.0	RB-SdH-RB1-010
					1.5	RB-SdH-RB1-015
					2.0	RB-SdH-RB1-020
					2.5	RB-SdH-RB1-025
					3.0	RB-SdH-RB1-030
					4.0	RB-SdH-RB1-040
					5.0	RB-SdH-RB1-050
			7.0	RB-SdH-RB1-070		
			NS 方向 4, 11, 16 23, 28 EW 方向 4, 8, 18 25, 30	6.000	0.5	RB-SdH-RBB1-005
					1.0	RB-SdH-RBB1-010
					1.5	RB-SdH-RBB1-015
					2.0	RB-SdH-RBB1-020
					2.5	RB-SdH-RBB1-025
					3.0	RB-SdH-RBB1-030
					4.0	RB-SdH-RBB1-040
			5.0	RB-SdH-RBB1-050		
			NS 方向 5, 12, 24 29 EW 方向 5, 9, 26 31	-0.800	0.5	RB-SdH-RBB2-005
					1.0	RB-SdH-RBB2-010
					1.5	RB-SdH-RBB2-015
					2.0	RB-SdH-RBB2-020
					2.5	RB-SdH-RBB2-025
					3.0	RB-SdH-RBB2-030
					4.0	RB-SdH-RBB2-040
			5.0	RB-SdH-RBB2-050		
			NS 方向 30 EW 方向 32	-8.100	0.5	RB-SdH-RBB3-005
					1.0	RB-SdH-RBB3-010
					1.5	RB-SdH-RBB3-015
					2.0	RB-SdH-RBB3-020
					2.5	RB-SdH-RBB3-025
					3.0	RB-SdH-RBB3-030
					4.0	RB-SdH-RBB3-040
5.0	RB-SdH-RBB3-050					

表 4-2-1 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 原子炉建屋 : 鉛直方向) (1/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉建屋	鉛直 方向	4	48.725	0.5	RB-SdV-RB5-005
					1.0	RB-SdV-RB5-010
					1.5	RB-SdV-RB5-015
					2.0	RB-SdV-RB5-020
					2.5	RB-SdV-RB5-025
					3.0	RB-SdV-RB5-030
					5.0	RB-SdV-RB5-050
			5	41.200	0.5	RB-SdV-RB4-005
					1.0	RB-SdV-RB4-010
					1.5	RB-SdV-RB4-015
					2.0	RB-SdV-RB4-020
					2.5	RB-SdV-RB4-025
					3.0	RB-SdV-RB4-030
					5.0	RB-SdV-RB4-050
			6	33.200	0.5	RB-SdV-RB3-005
					1.0	RB-SdV-RB3-010
					1.5	RB-SdV-RB3-015
					2.0	RB-SdV-RB3-020
					2.5	RB-SdV-RB3-025
					3.0	RB-SdV-RB3-030
					5.0	RB-SdV-RB3-050
			7	22.500	0.5	RB-SdV-RB2-005
					1.0	RB-SdV-RB2-010
					1.5	RB-SdV-RB2-015
					2.0	RB-SdV-RB2-020
					2.5	RB-SdV-RB2-025
					3.0	RB-SdV-RB2-030
					5.0	RB-SdV-RB2-050

表 4-2-1 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 原子炉建屋 : 鉛直方向) (2/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉建屋	鉛直 方向	8	15.000	0.5	RB-SdV-RB1-005
					1.0	RB-SdV-RB1-010
					1.5	RB-SdV-RB1-015
					2.0	RB-SdV-RB1-020
					2.5	RB-SdV-RB1-025
					3.0	RB-SdV-RB1-030
					5.0	RB-SdV-RB1-050
			9	6.000	0.5	RB-SdV-RBB1-005
					1.0	RB-SdV-RBB1-010
					1.5	RB-SdV-RBB1-015
					2.0	RB-SdV-RBB1-020
					2.5	RB-SdV-RBB1-025
					3.0	RB-SdV-RBB1-030
					5.0	RB-SdV-RBB1-050
			10	-0.800	0.5	RB-SdV-RBB2-005
					1.0	RB-SdV-RBB2-010
					1.5	RB-SdV-RBB2-015
					2.0	RB-SdV-RBB2-020
					2.5	RB-SdV-RBB2-025
					3.0	RB-SdV-RBB2-030
					5.0	RB-SdV-RBB2-050
			11	-8.100	0.5	RB-SdV-RBB3-005
					1.0	RB-SdV-RBB3-010
					1.5	RB-SdV-RBB3-015
					2.0	RB-SdV-RBB3-020
					2.5	RB-SdV-RBB3-025
					3.0	RB-SdV-RBB3-030
5.0	RB-SdV-RBB3-050					

【RB-SdH-RB5-005】

構造物名：原子炉建屋

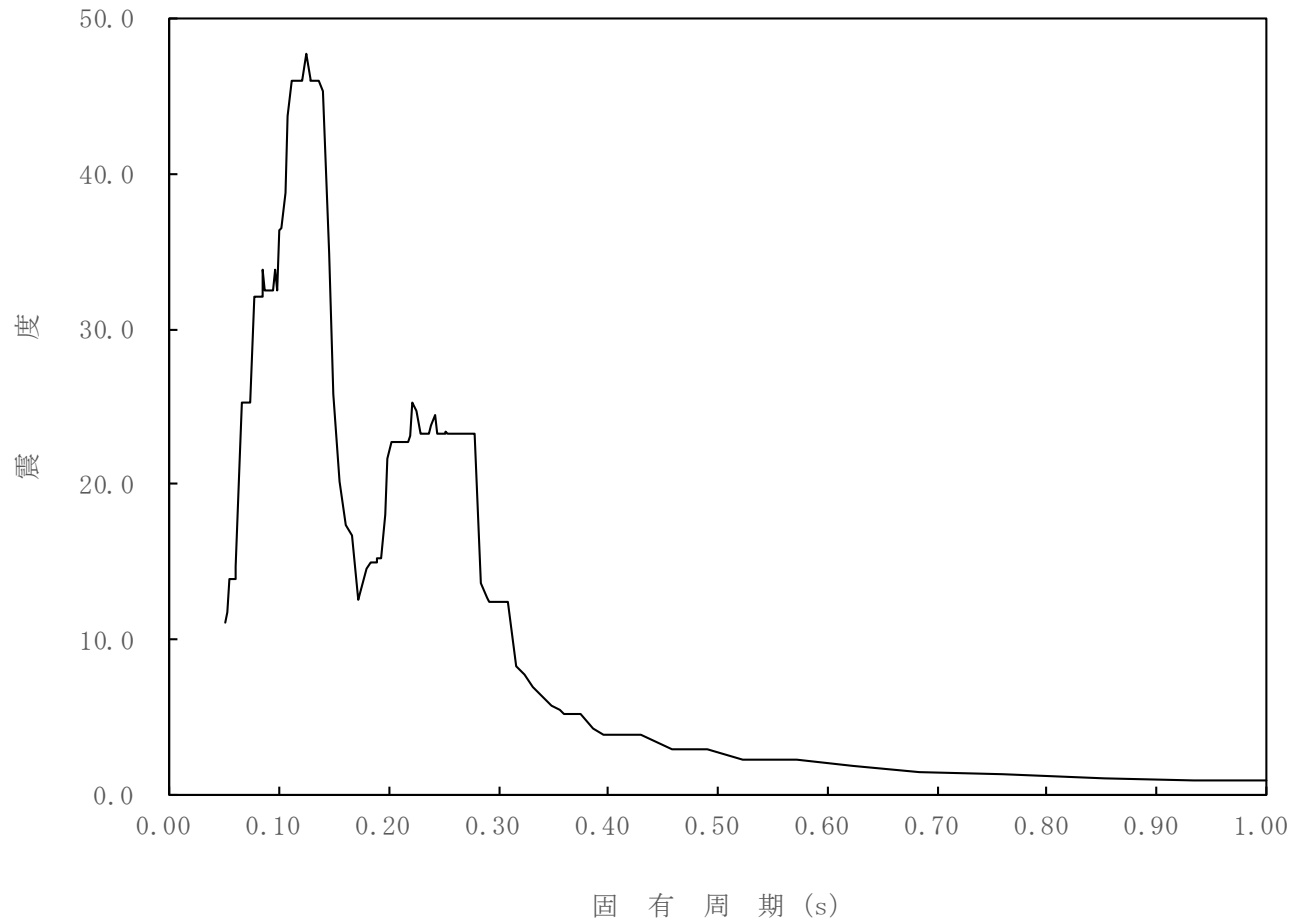
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-5



【RB-SdH-RB5-010】

構造物名：原子炉建屋

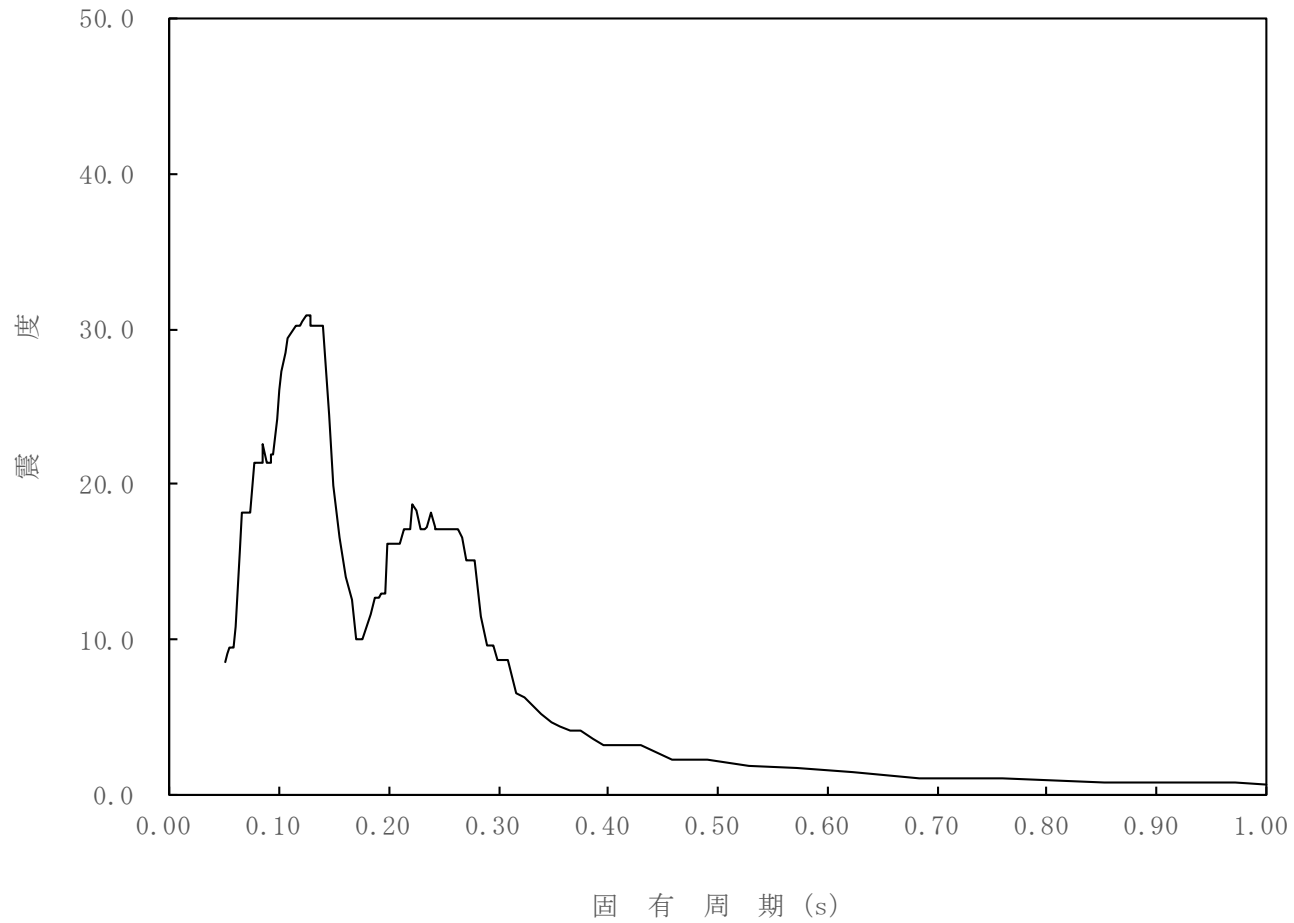
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-6



【RB-SdH-RB5-015】

構造物名：原子炉建屋

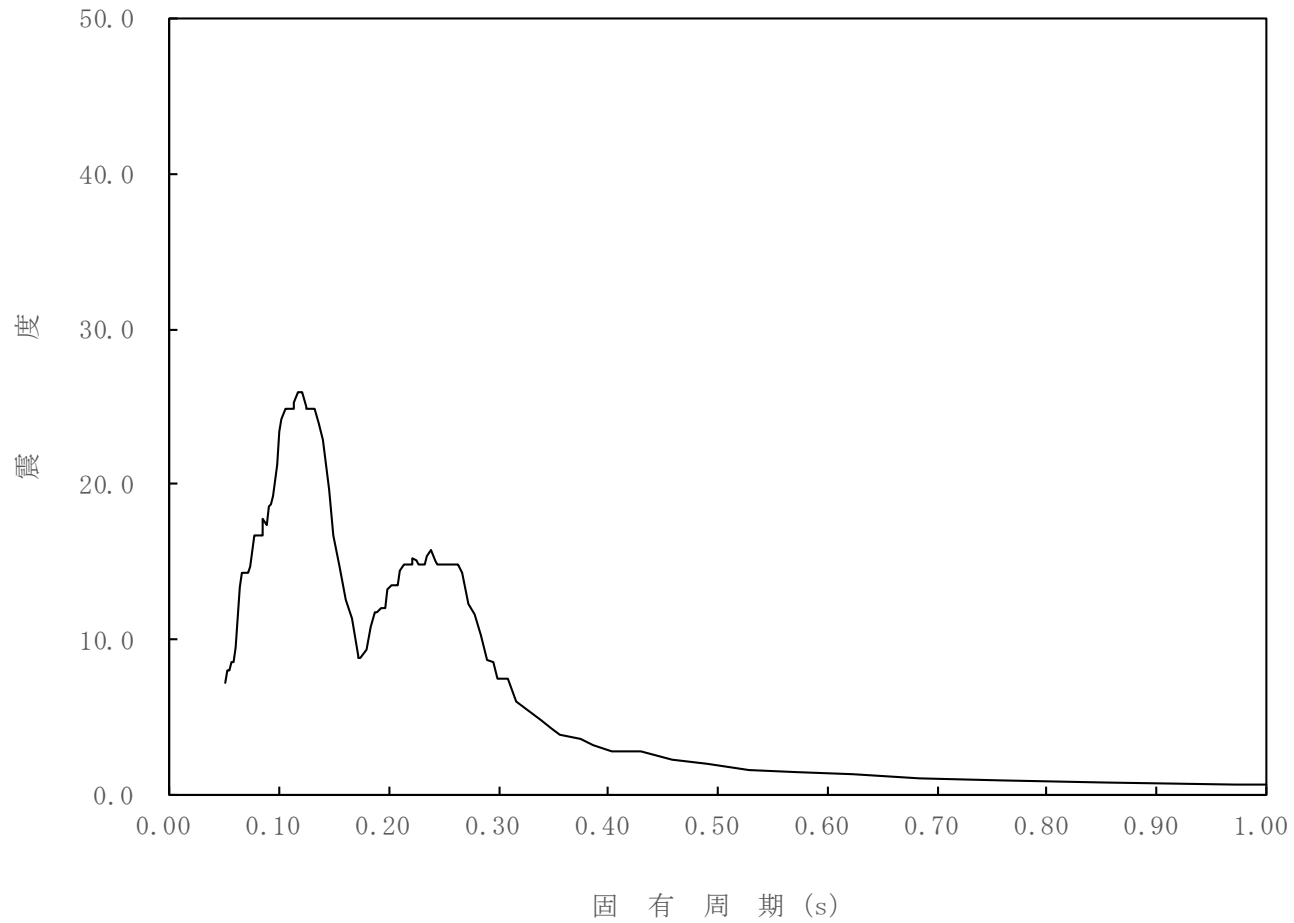
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-7



【RB-SdH-RB5-020】

構造物名：原子炉建屋

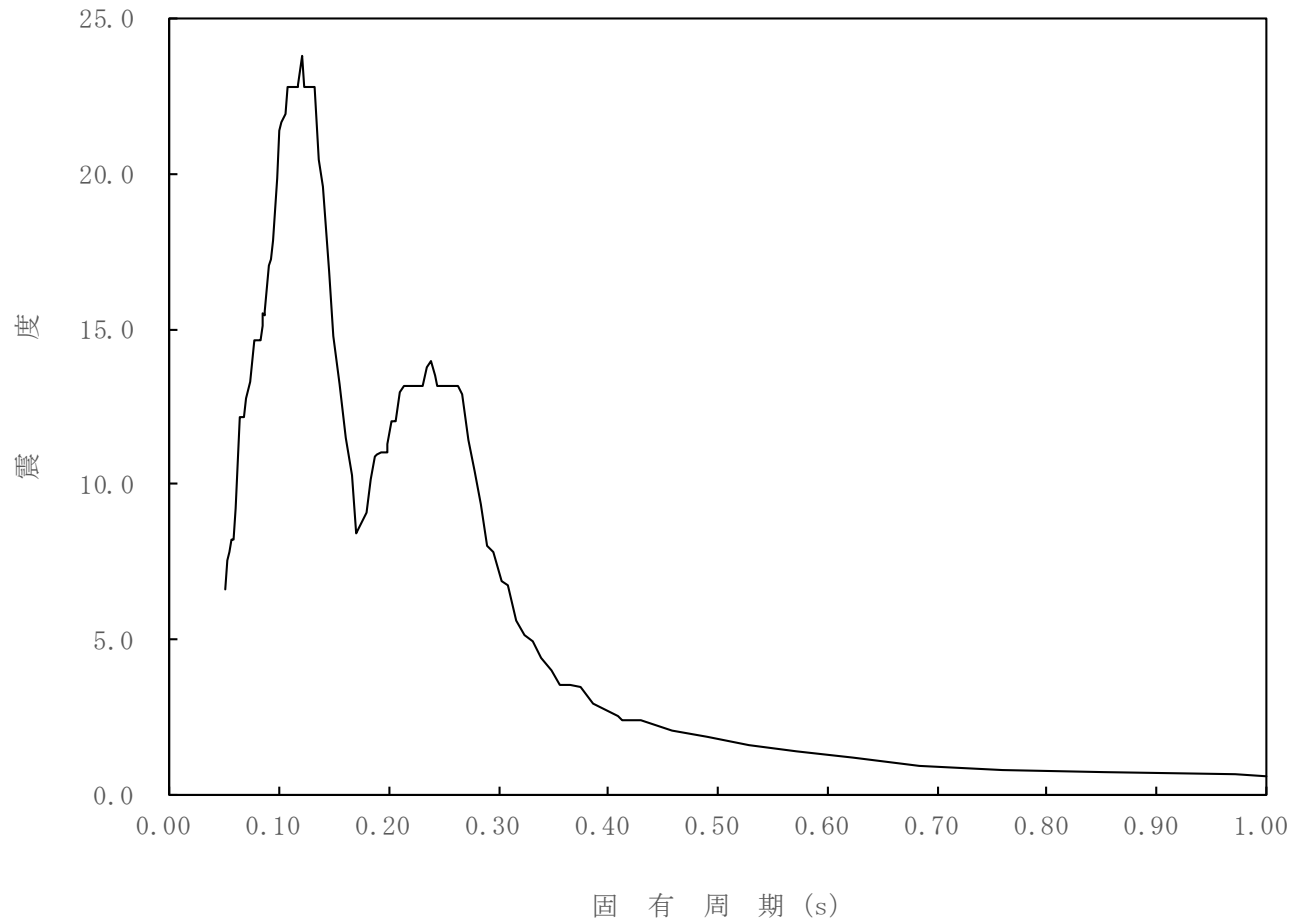
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-8





【RB-SdH-RB5-025】

構造物名：原子炉建屋

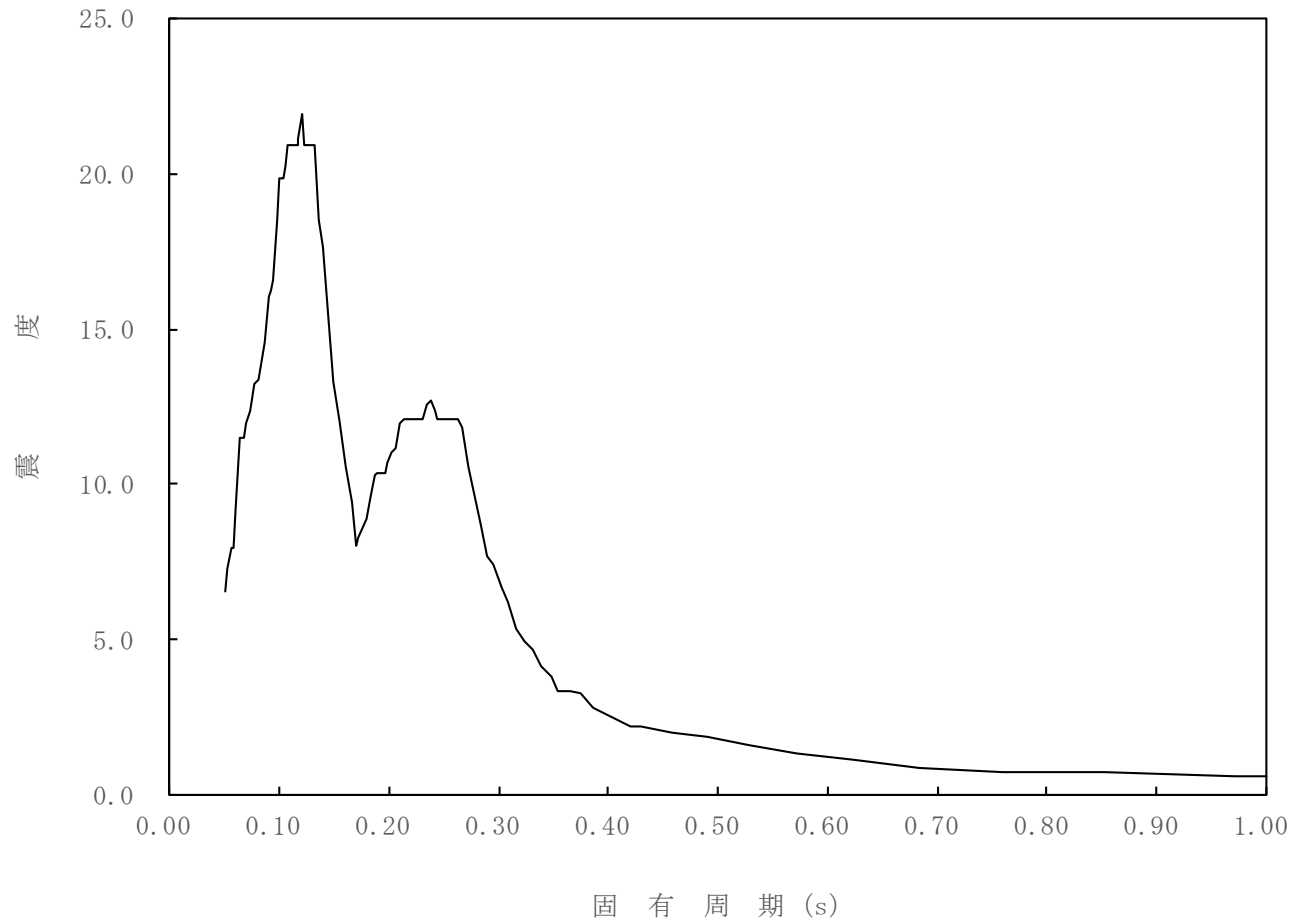
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-9



【RB-SdH-RB5-030】

構造物名：原子炉建屋

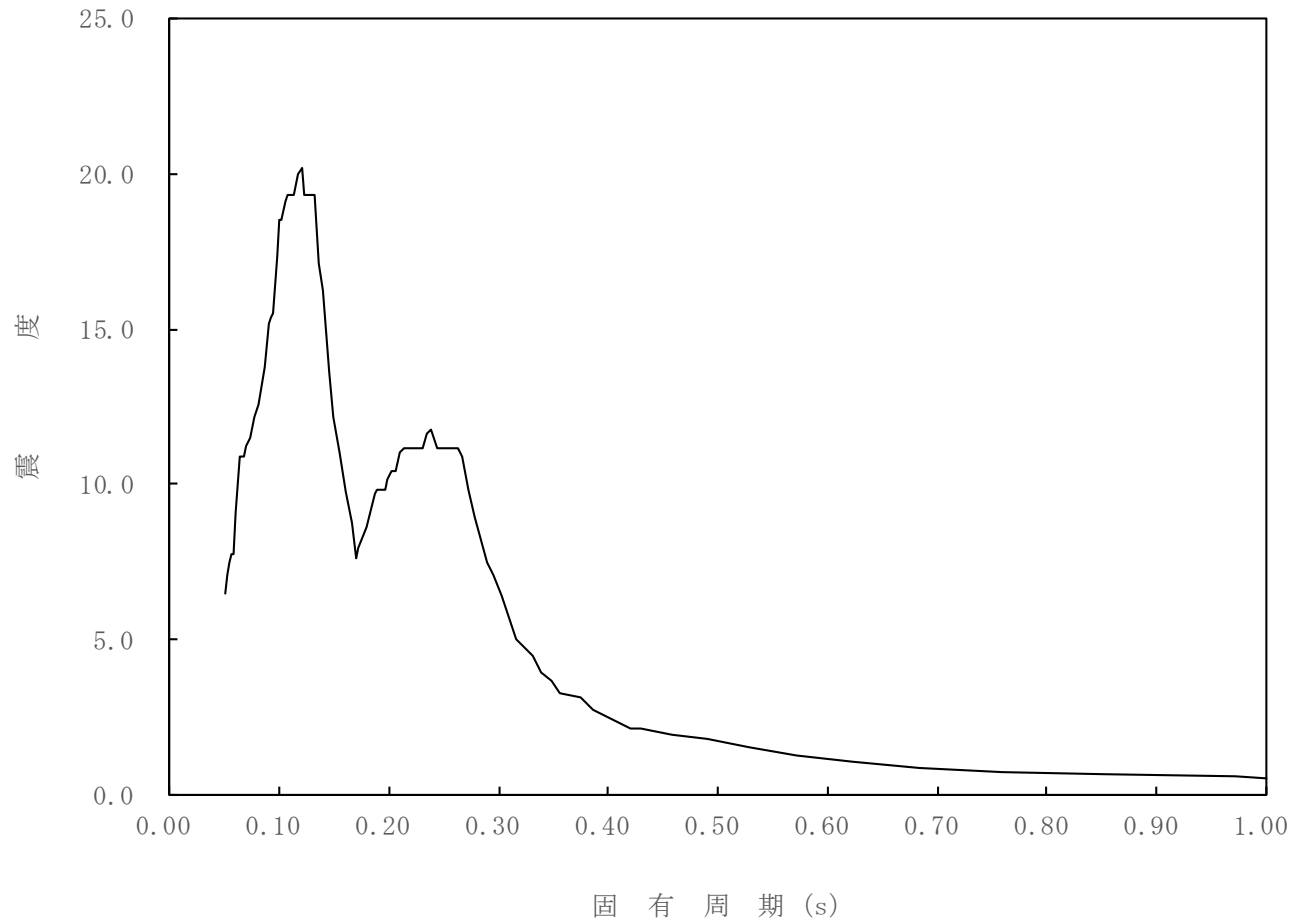
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-10



【RB-SdH-RB5-040】

構造物名：原子炉建屋

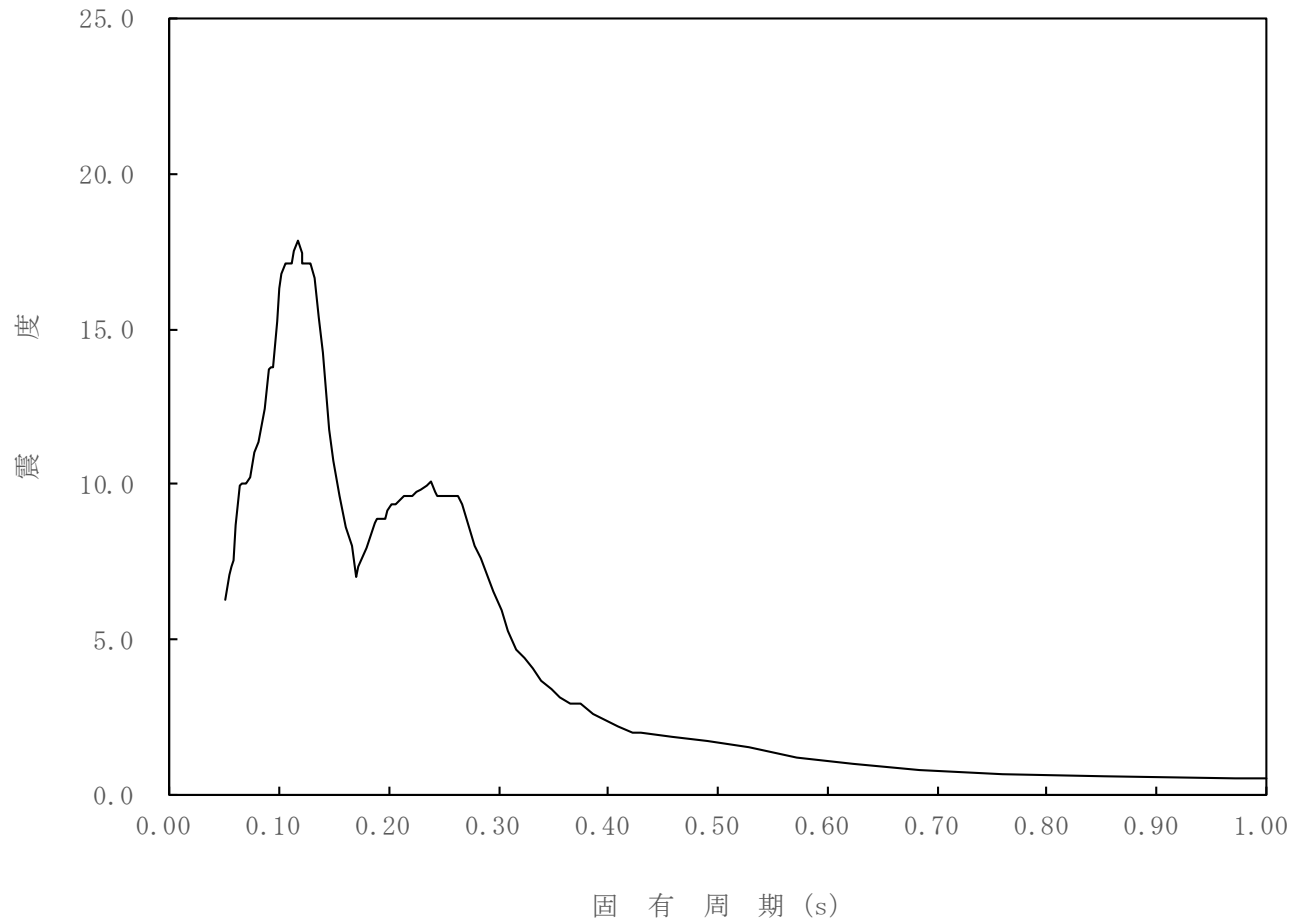
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-11



【RB-SdH-RB5-050】

構造物名：原子炉建屋

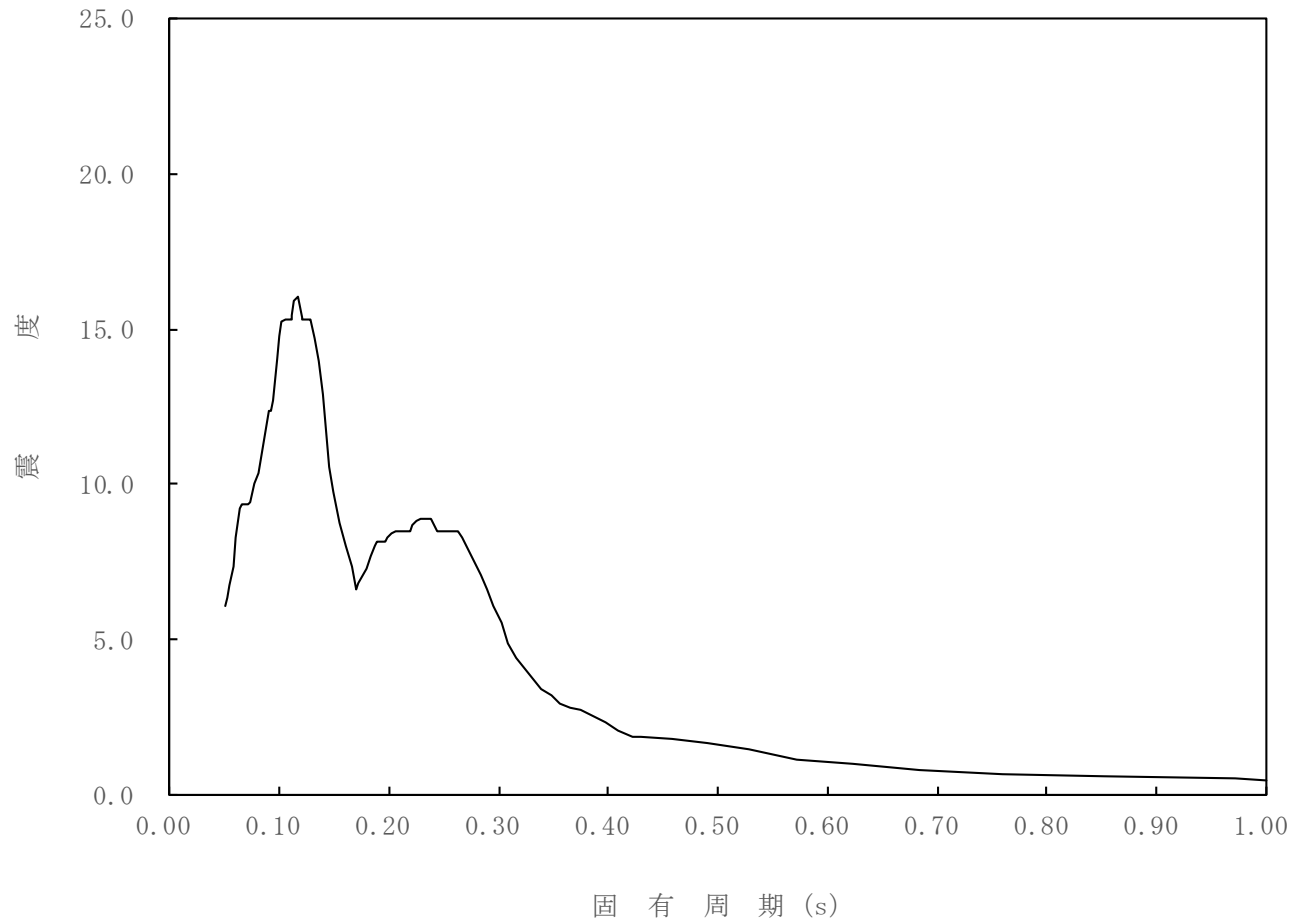
標高：0. P. 50.500m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-12



【RB-SdH-RB4-005】

構造物名：原子炉建屋

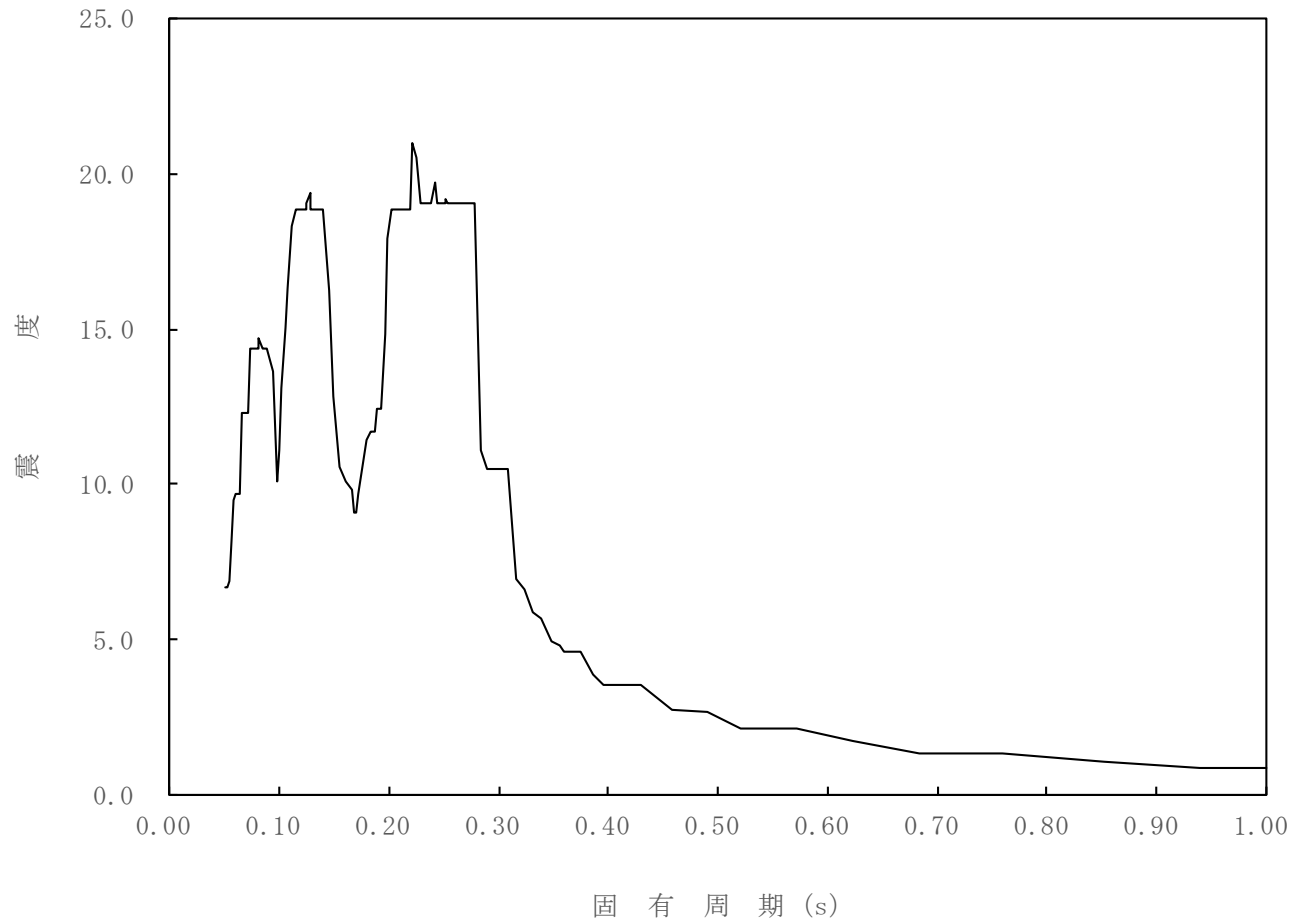
標高：0. P. 41. 200m

—— 水平方向

減衰定数：0. 5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-13



【RB-SdH-RB4-010】

構造物名：原子炉建屋

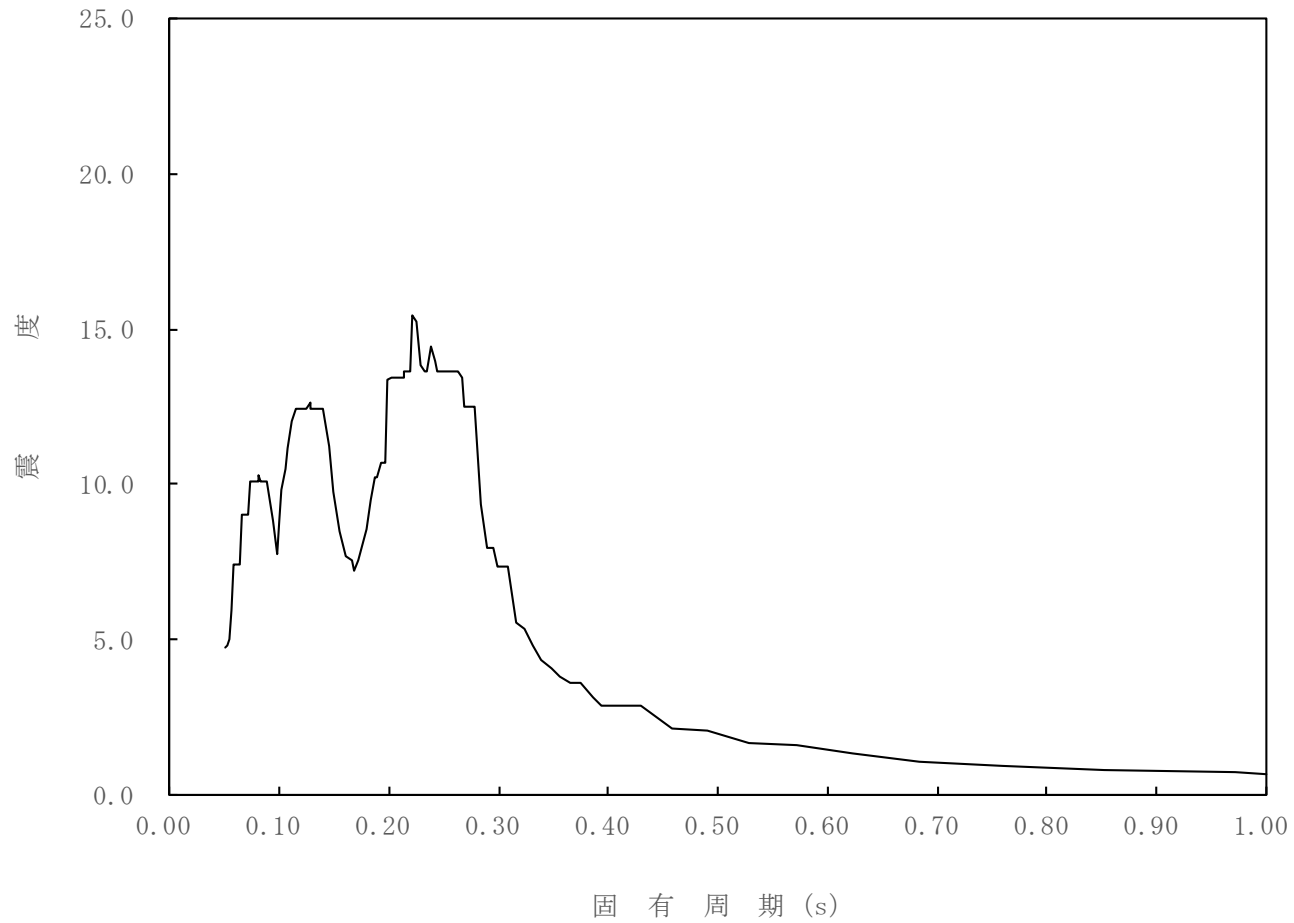
標高：0.P. 41.200m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-14



【RB-SdH-RB4-015】

構造物名：原子炉建屋

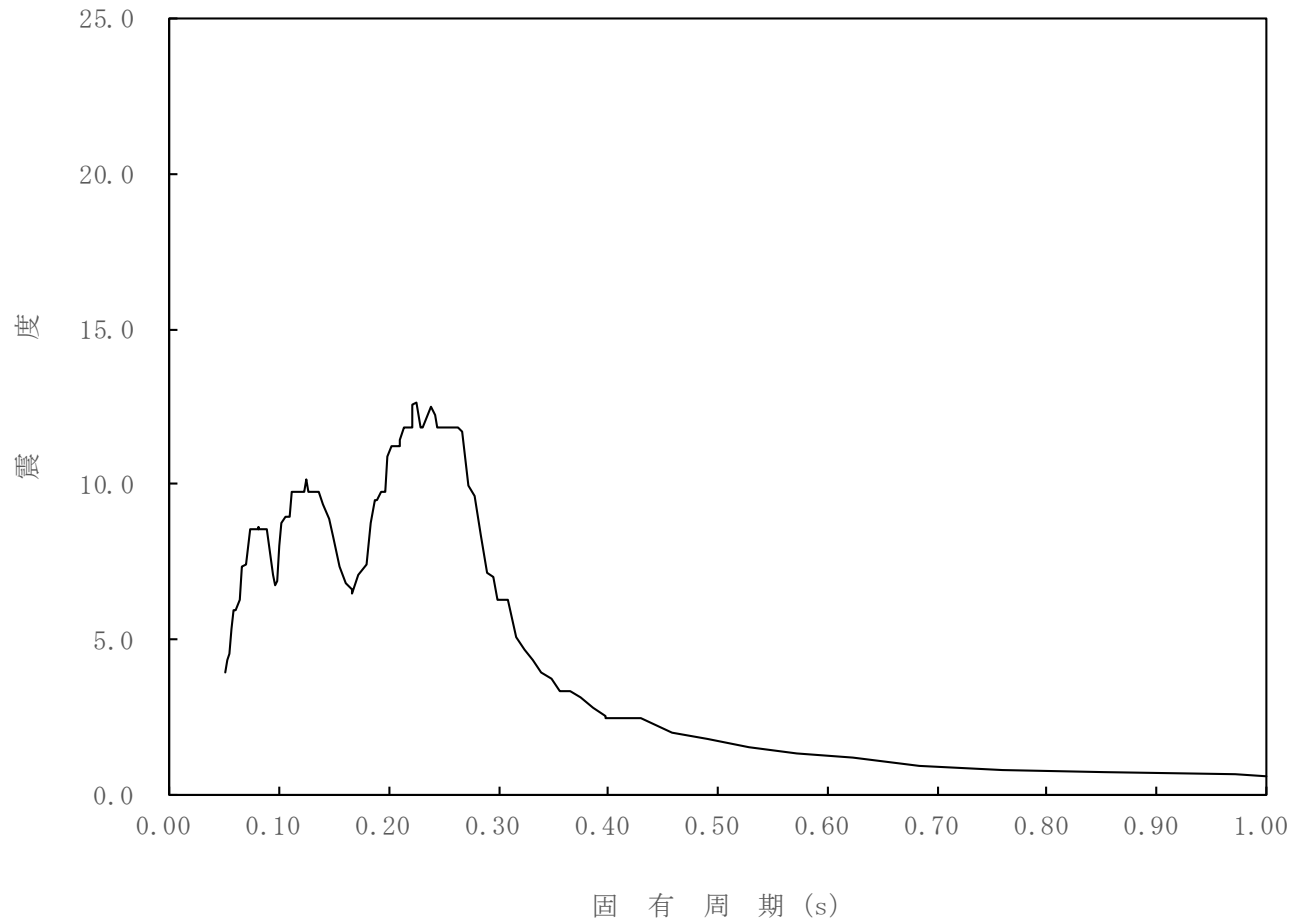
標高：0. P. 41. 200m

—— 水平方向

減衰定数：1. 5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-15



【RB-SdH-RB4-020】

構造物名：原子炉建屋

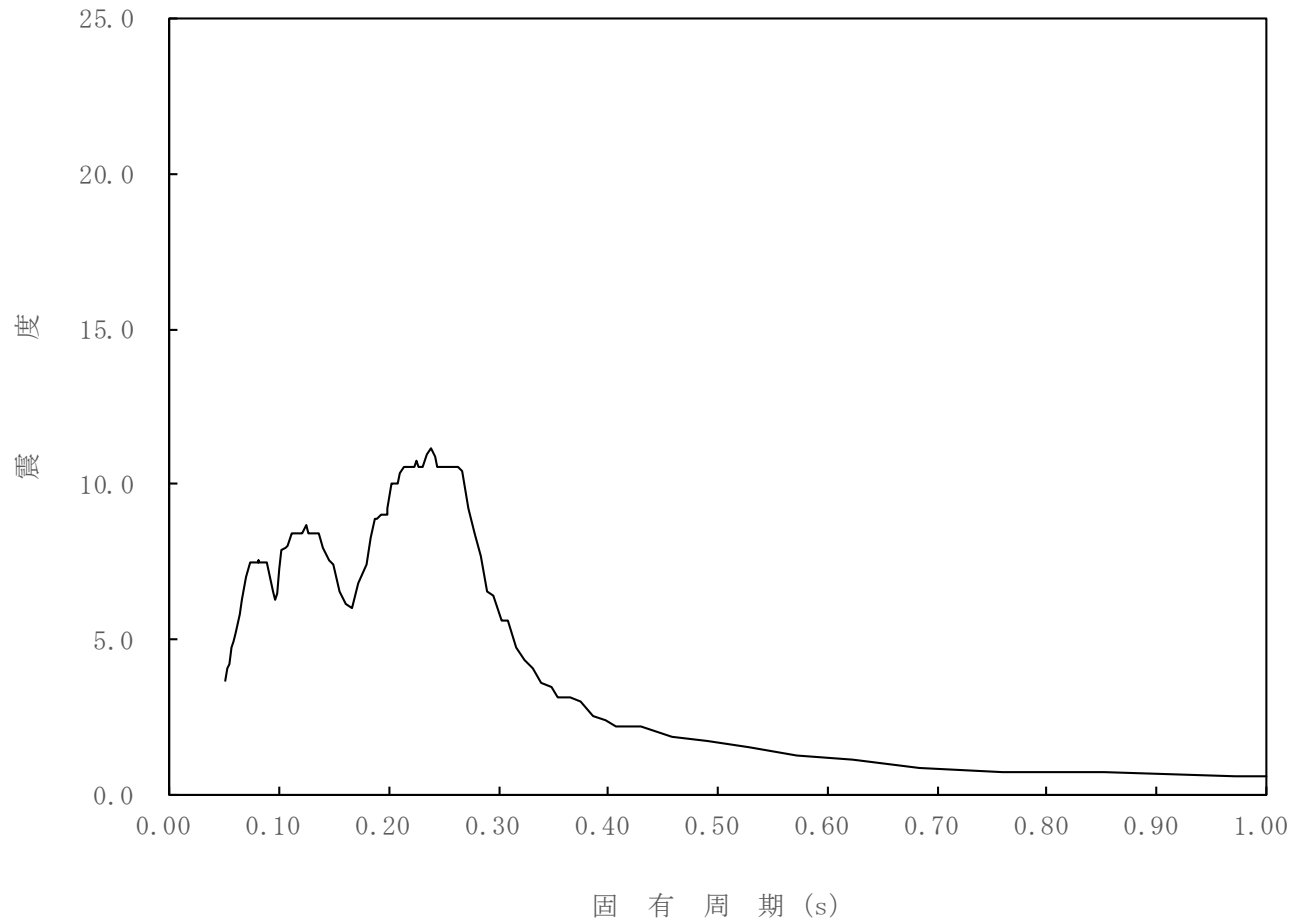
標高：0. P. 41. 200m

—— 水平方向

減衰定数：2. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-16





【RB-SdH-RB4-025】

構造物名：原子炉建屋

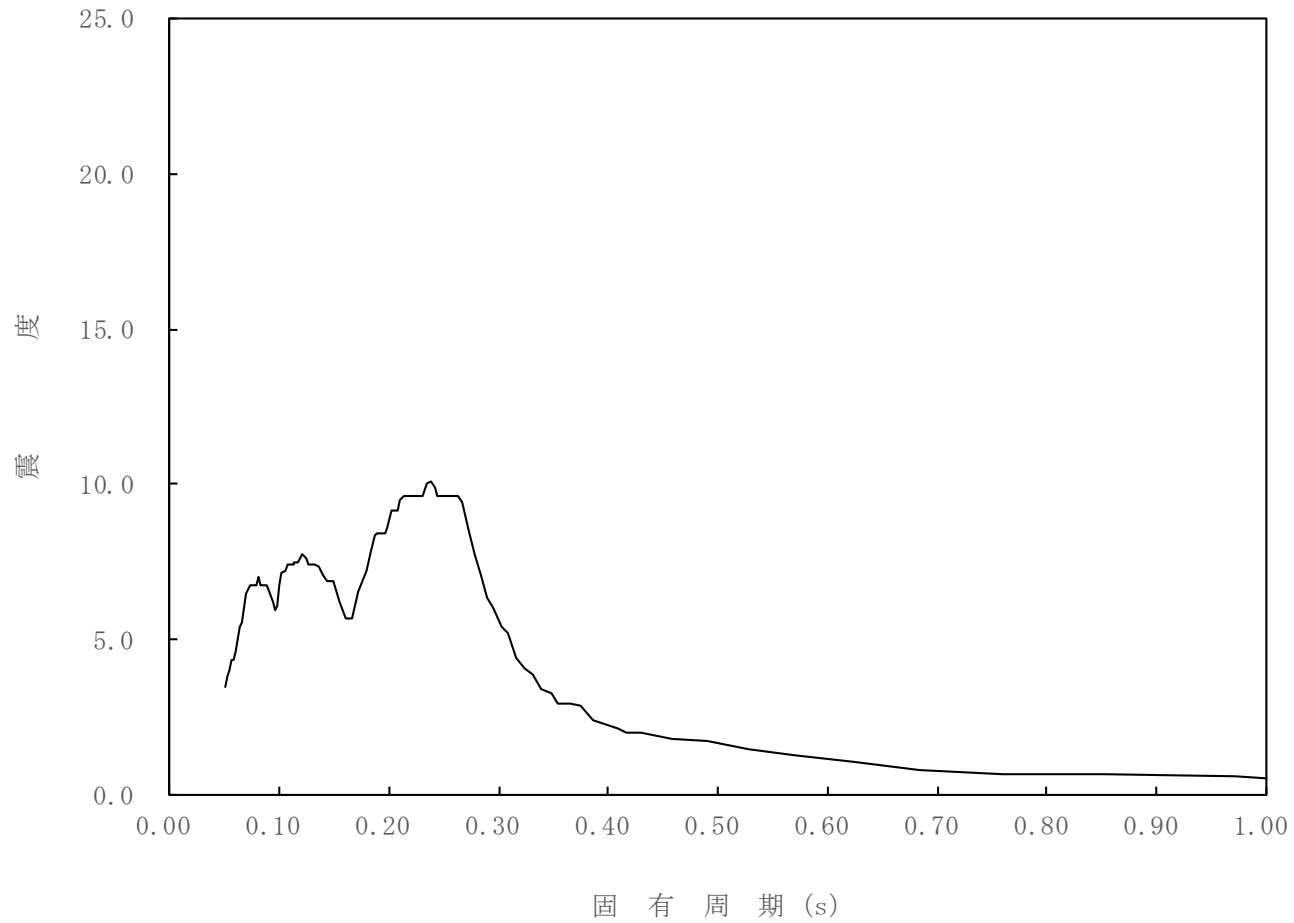
標高：0. P. 41. 200m

—— 水平方向

減衰定数：2. 5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-17



【RB-SdH-RB4-030】

構造物名：原子炉建屋

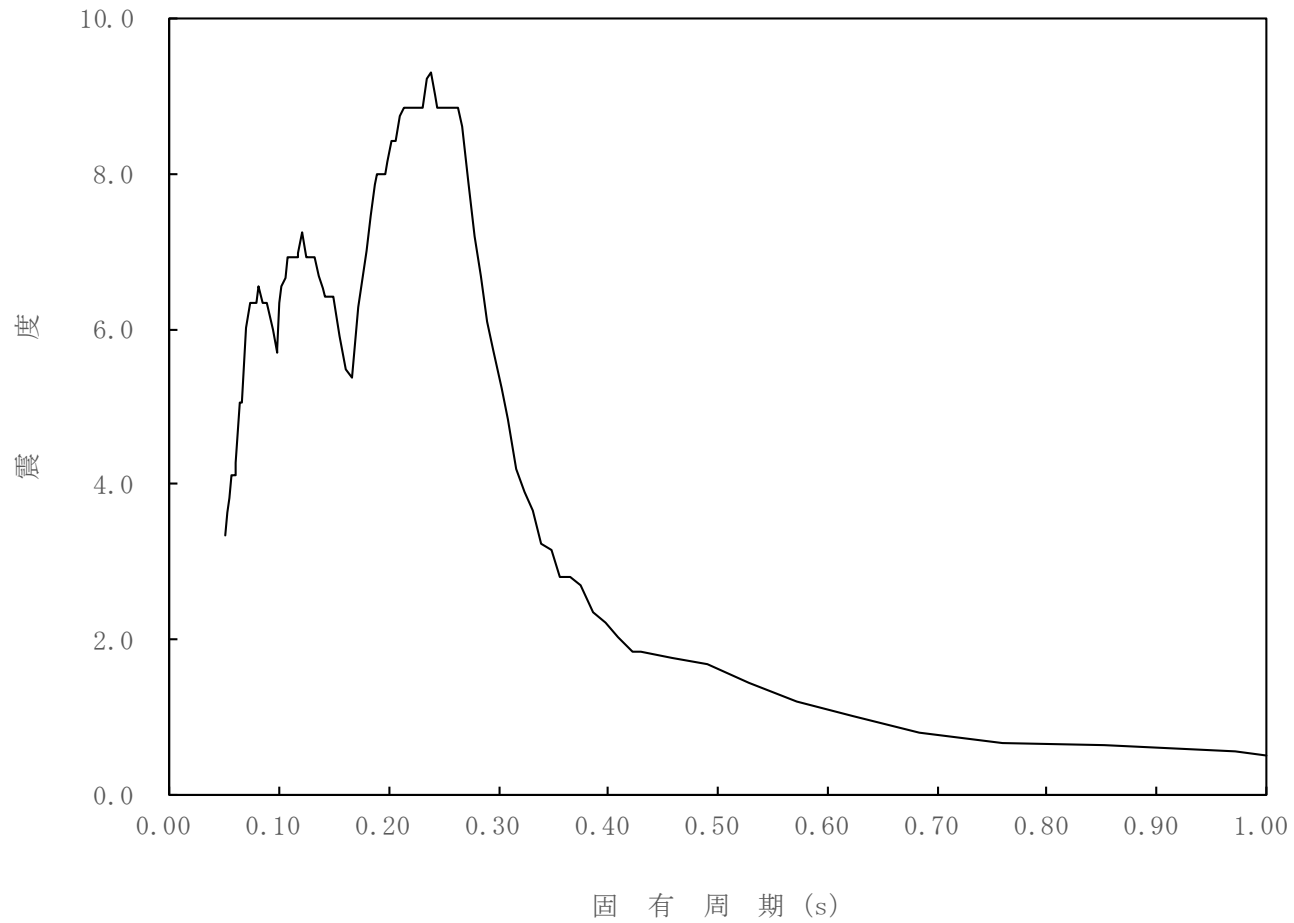
標高：0.P. 41.200m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-18



【RB-SdH-RB4-040】

構造物名：原子炉建屋

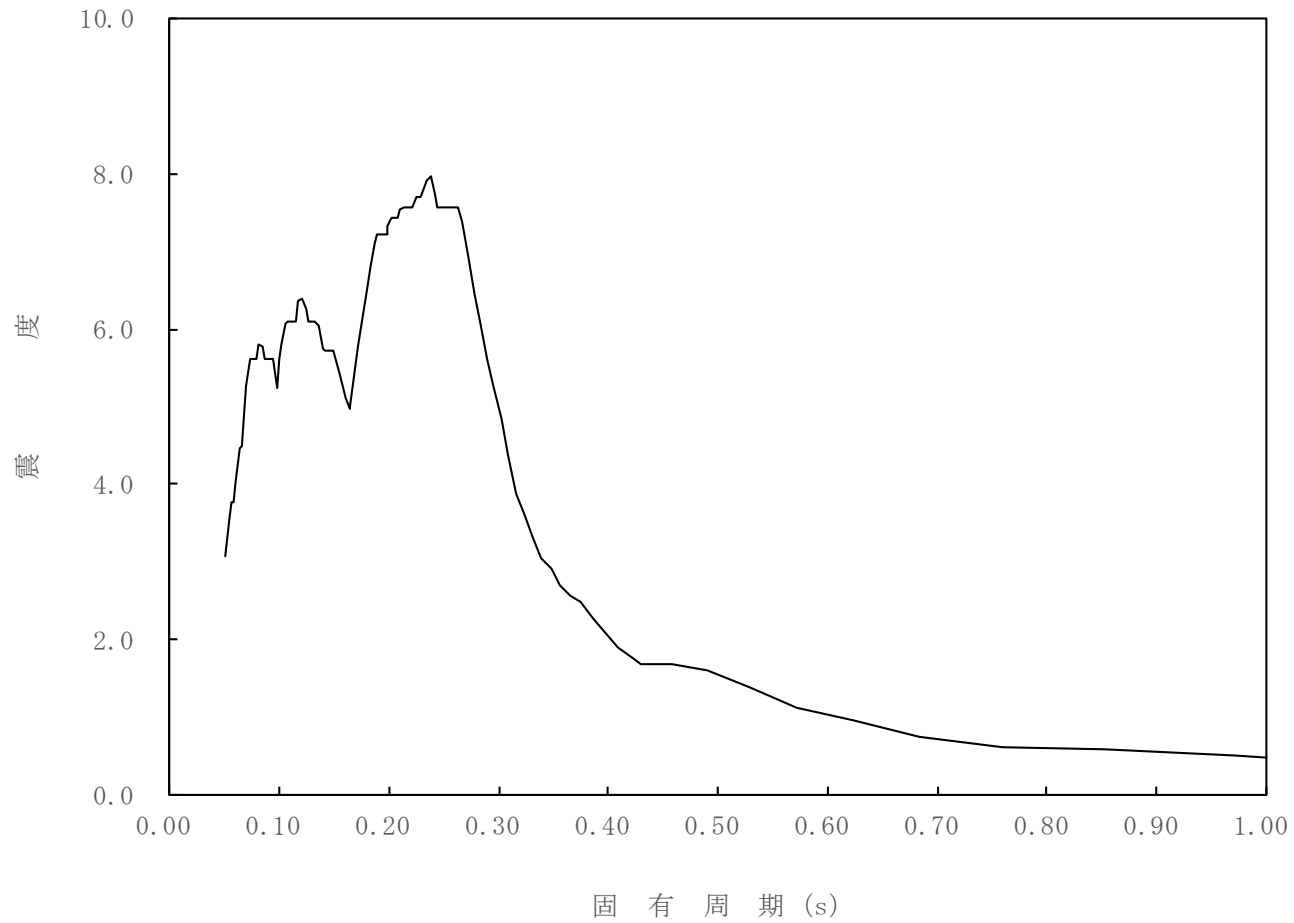
標高：0. P. 41. 200m

—— 水平方向

減衰定数：4. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-19



【RB-SdH-RB4-050】

構造物名：原子炉建屋

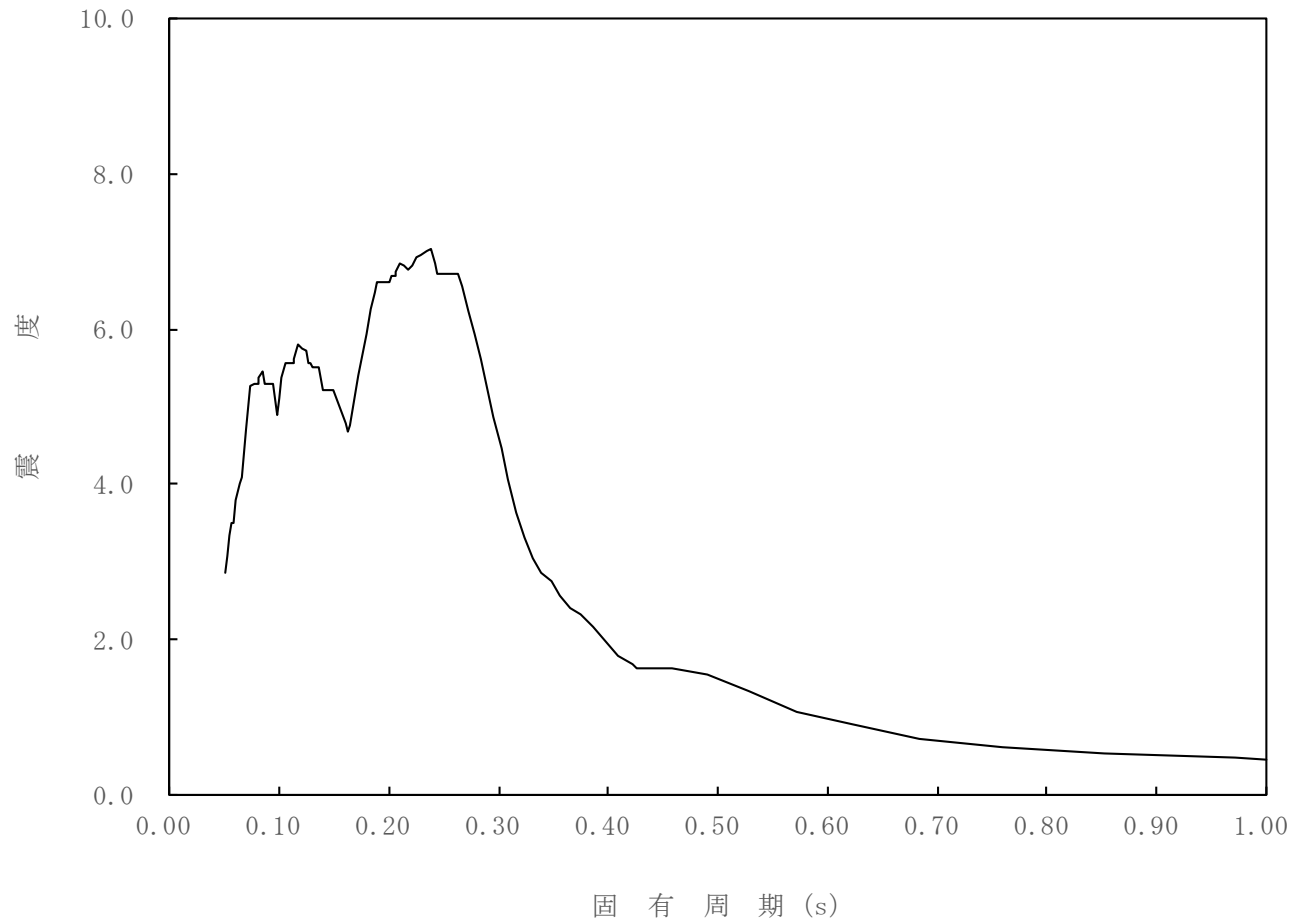
標高：0. P. 41. 200m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-20



【RB-SdH-RB3-005】

構造物名：原子炉建屋

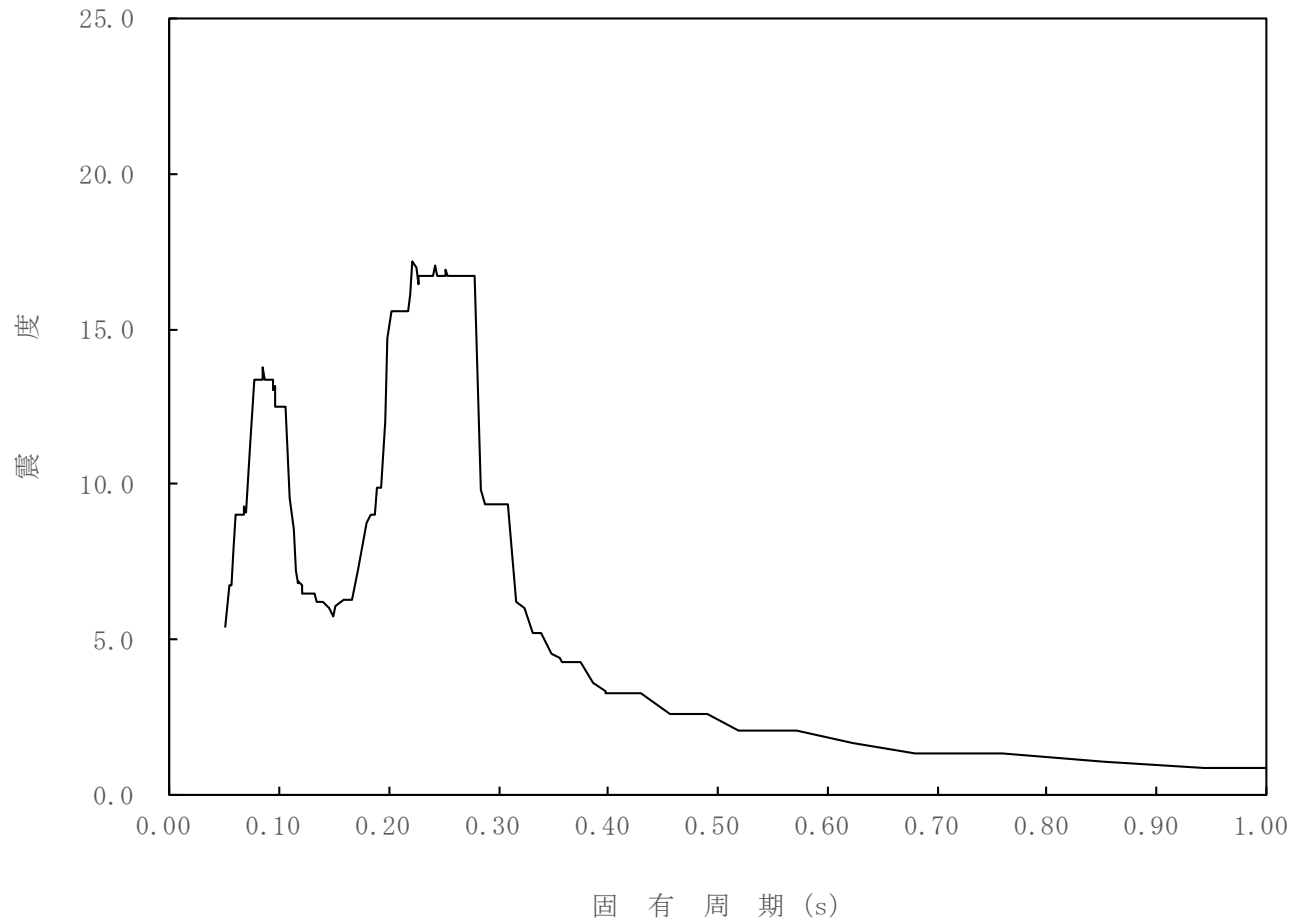
標高：0. P. 33.200m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-21



【RB-SdH-RB3-010】

構造物名：原子炉建屋

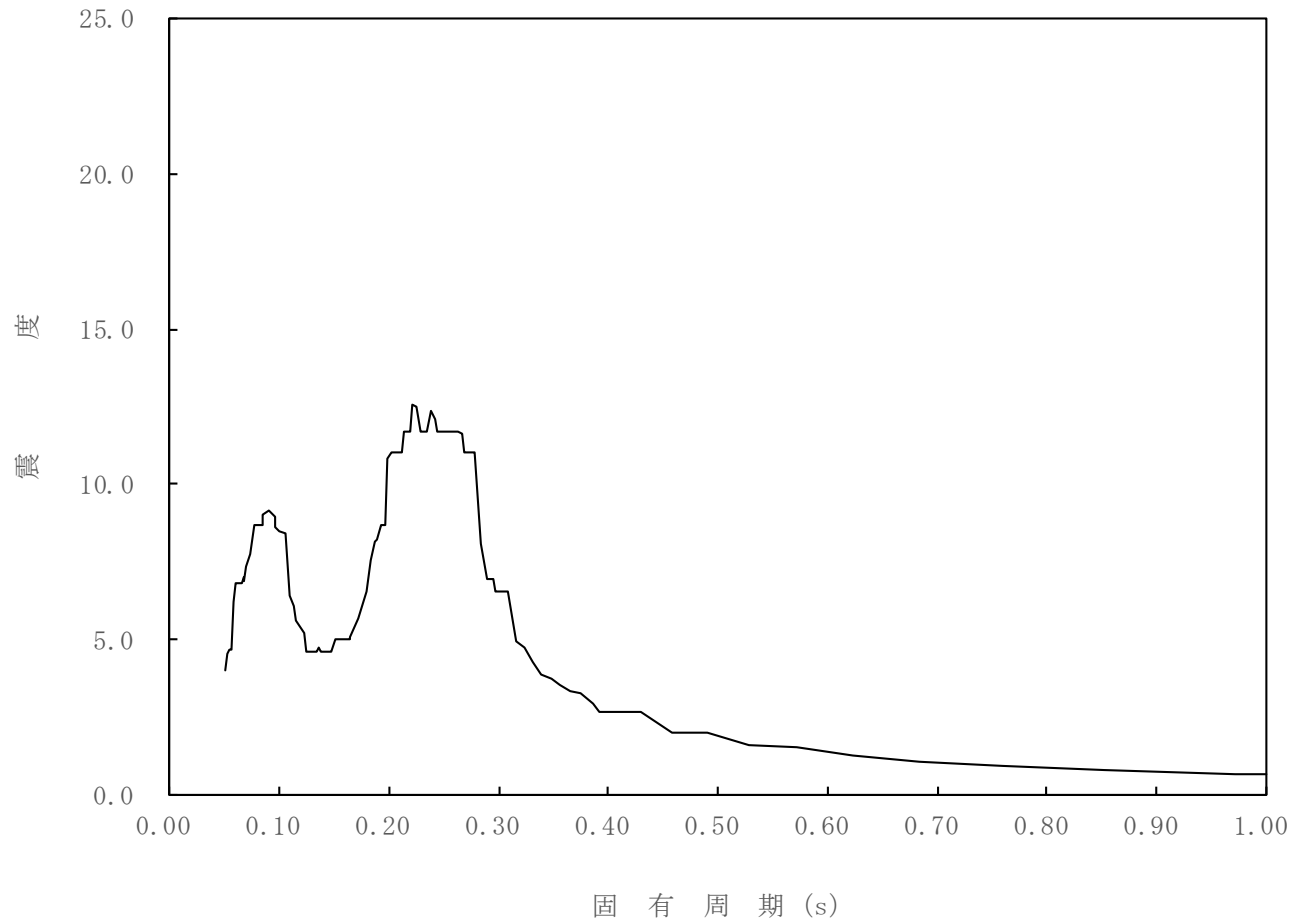
標高：0. P. 33. 200m

—— 水平方向

減衰定数：1. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-22



【RB-SdH-RB3-015】

構造物名：原子炉建屋

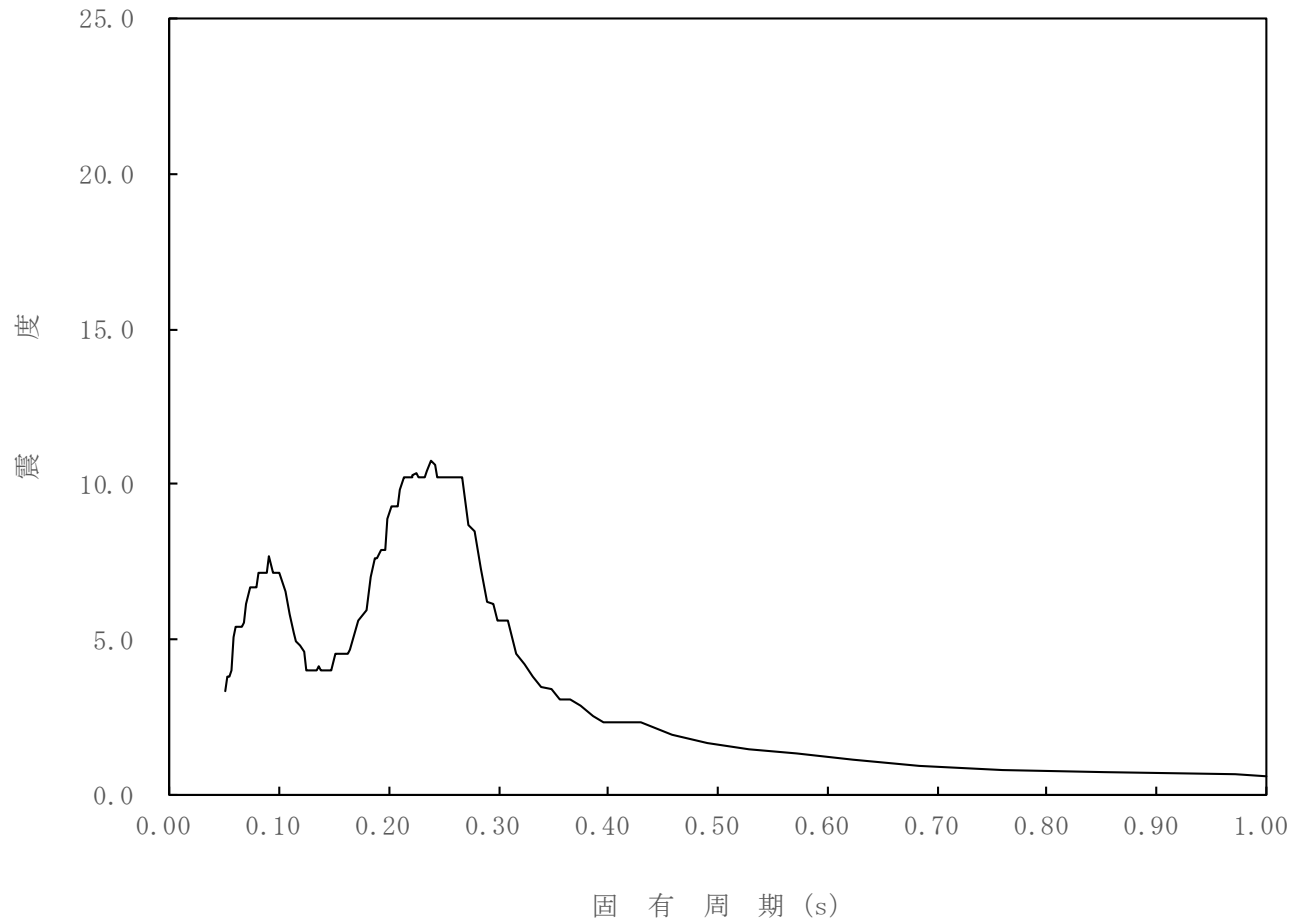
標高：0. P. 33. 200m

—— 水平方向

減衰定数：1. 5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-23



【RB-SdH-RB3-020】

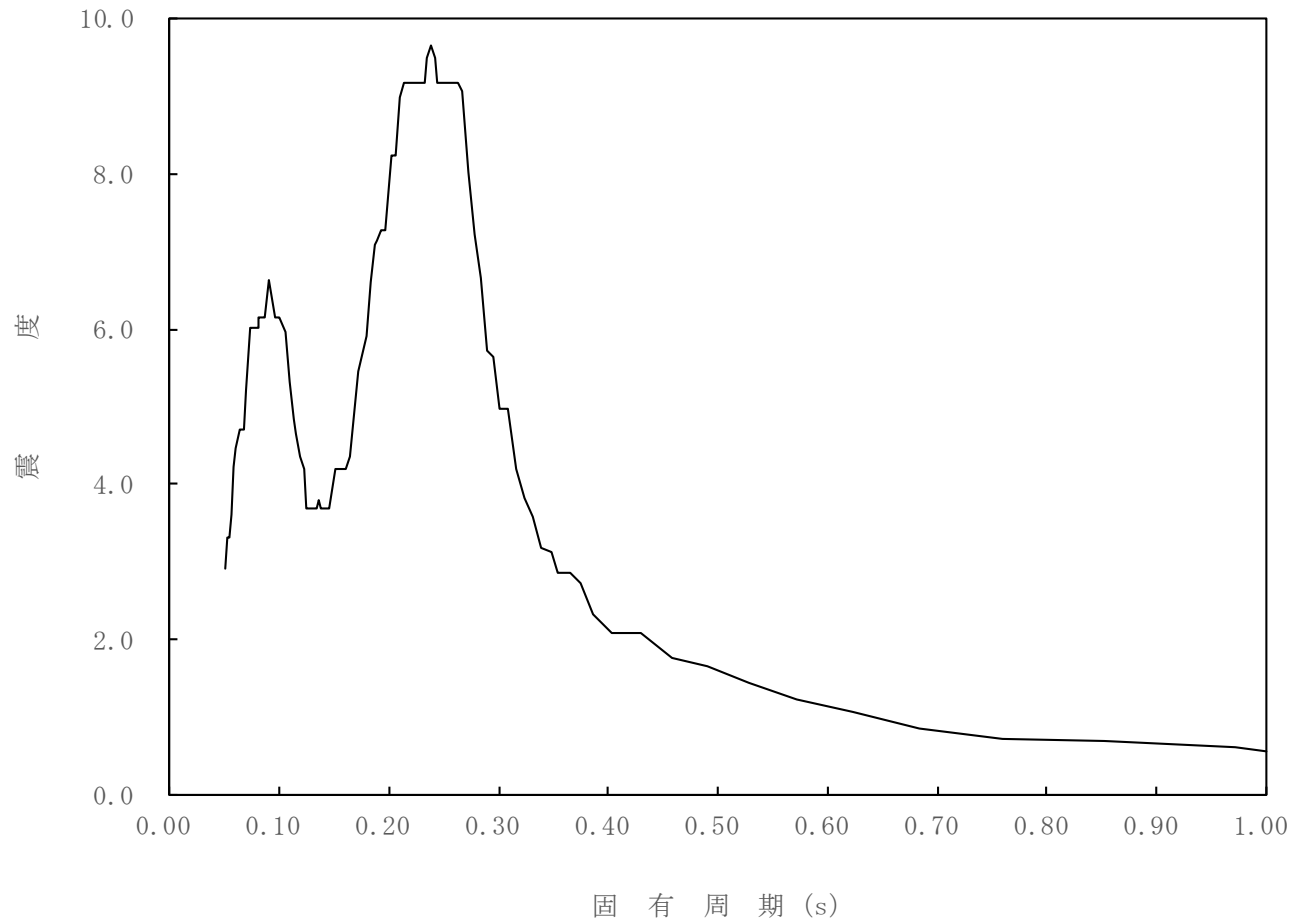
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 33. 200m

—— 水平方向

減衰定数：2. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-24



【RB-SdH-RB3-025】

構造物名：原子炉建屋

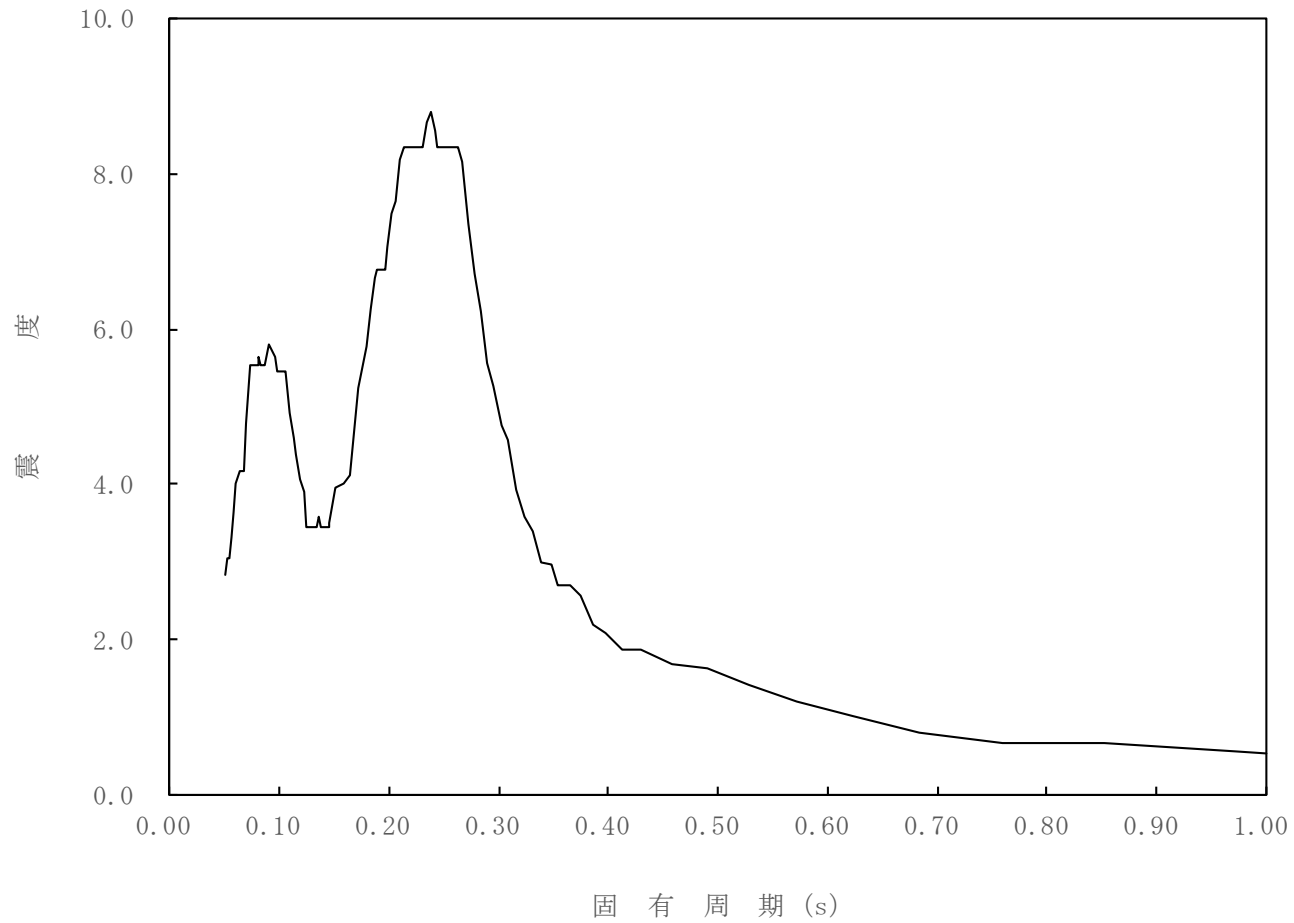
標高：0.P. 33.200m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-25



【RB-SdH-RB3-030】

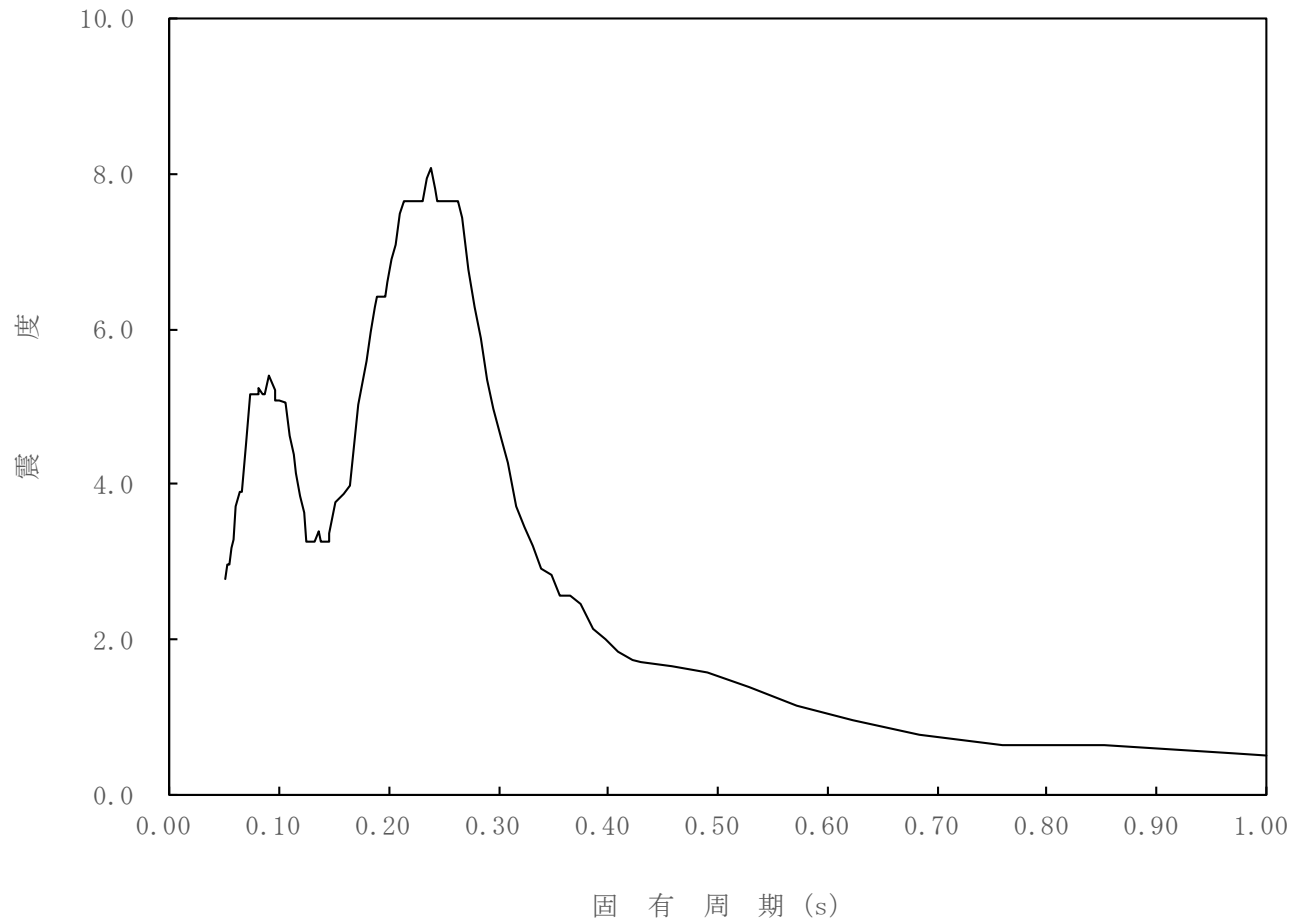
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 33. 200m

—— 水平方向

減衰定数：3. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdH-RB3-040】

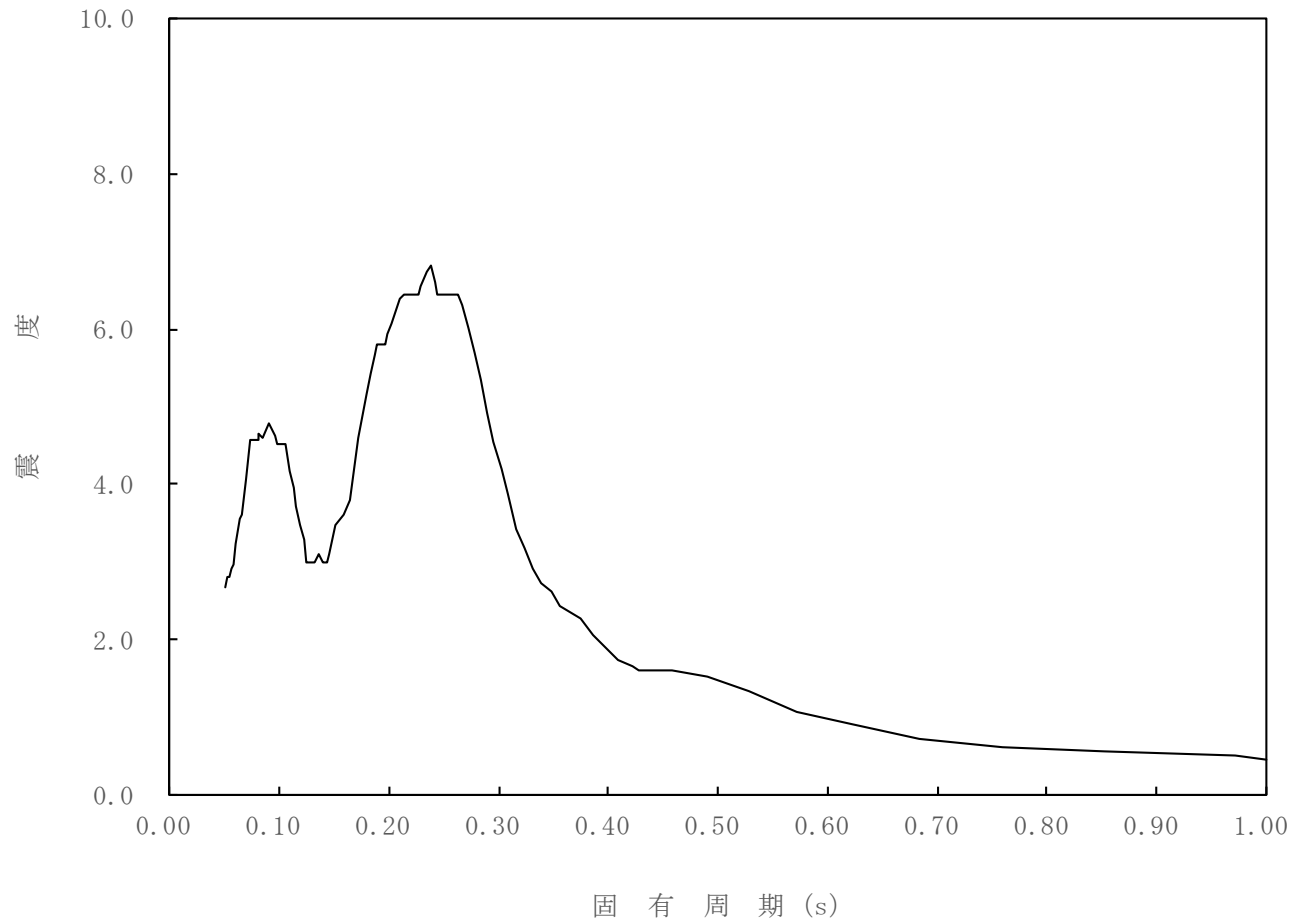
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 33. 200m

—— 水平方向

減衰定数：4. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-27

【RB-SdH-RB3-050】

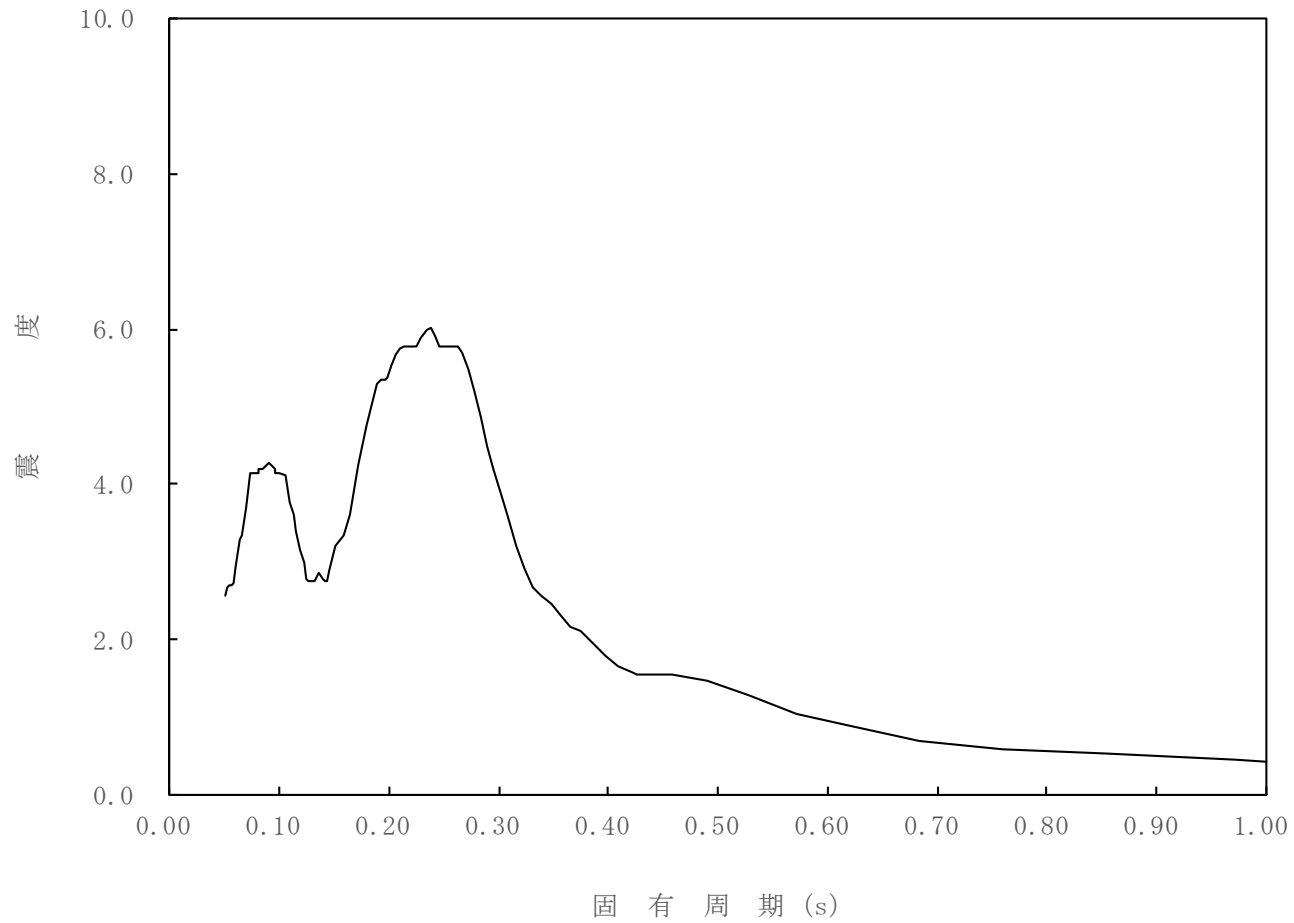
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 33. 200m

—— 水平方向

減衰定数：5. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdH-RB2-005】

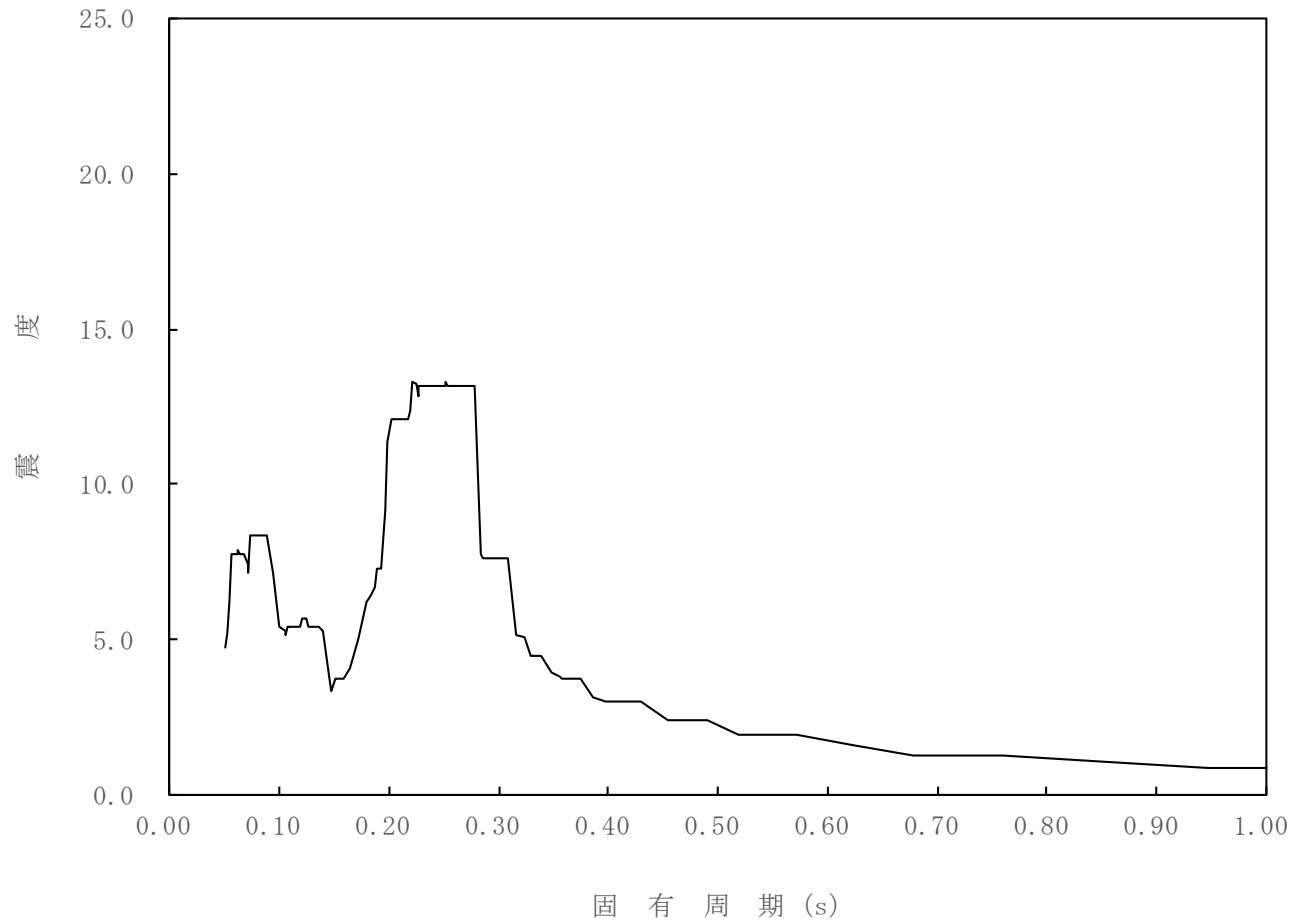
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB2-010】

構造物名：原子炉建屋

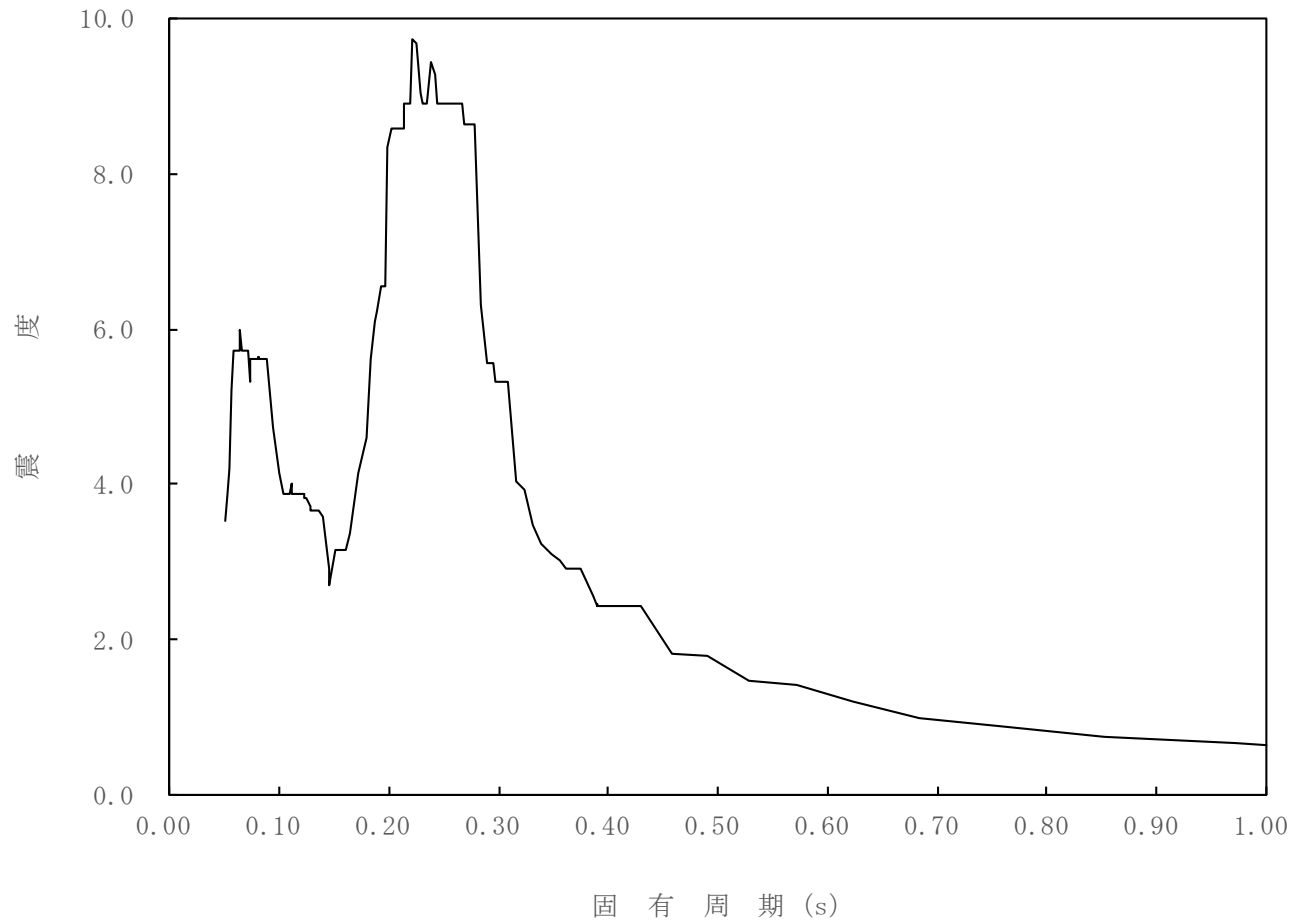
標高：0.P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-30



【RB-SdH-RB2-015】

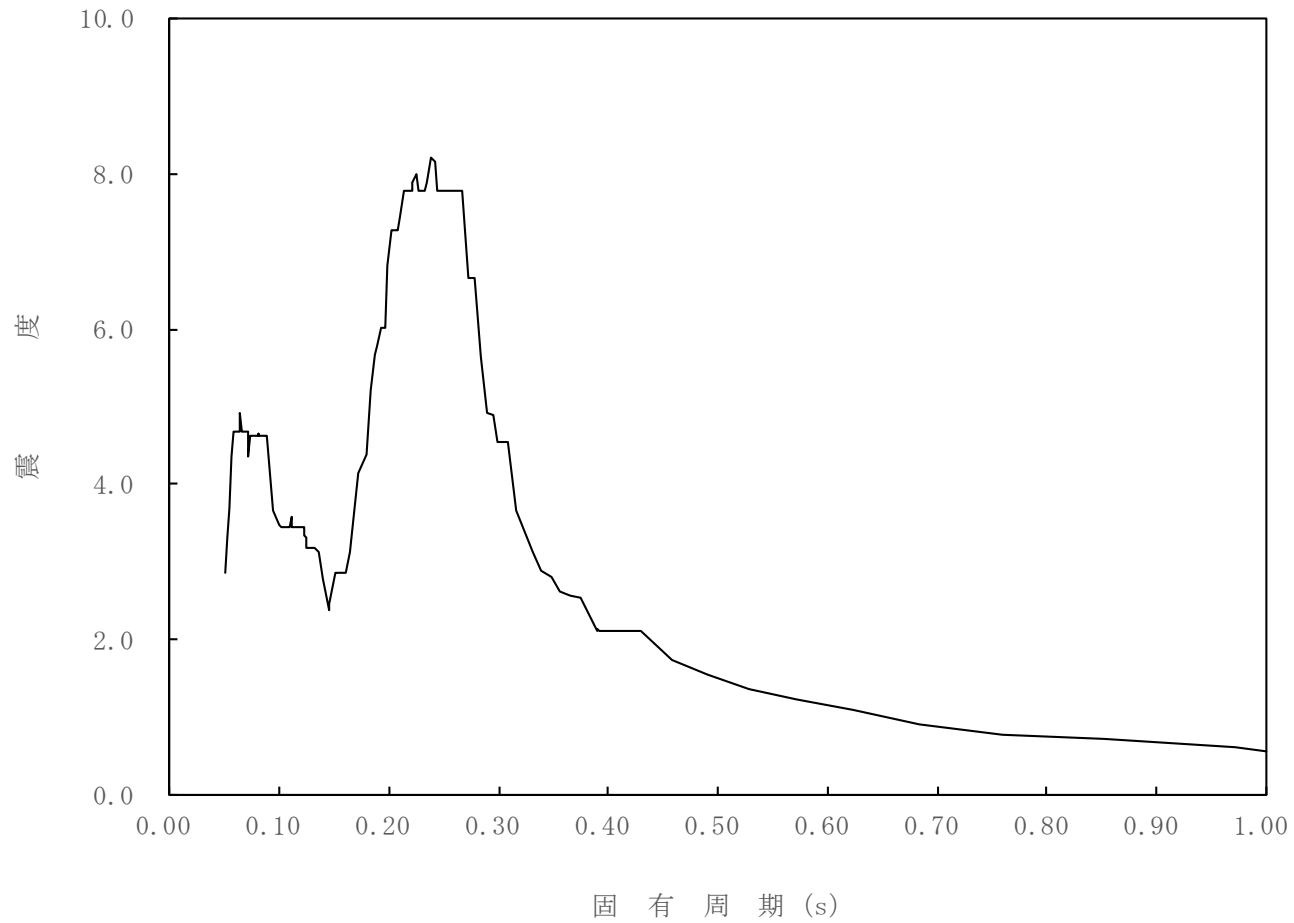
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB2-020】

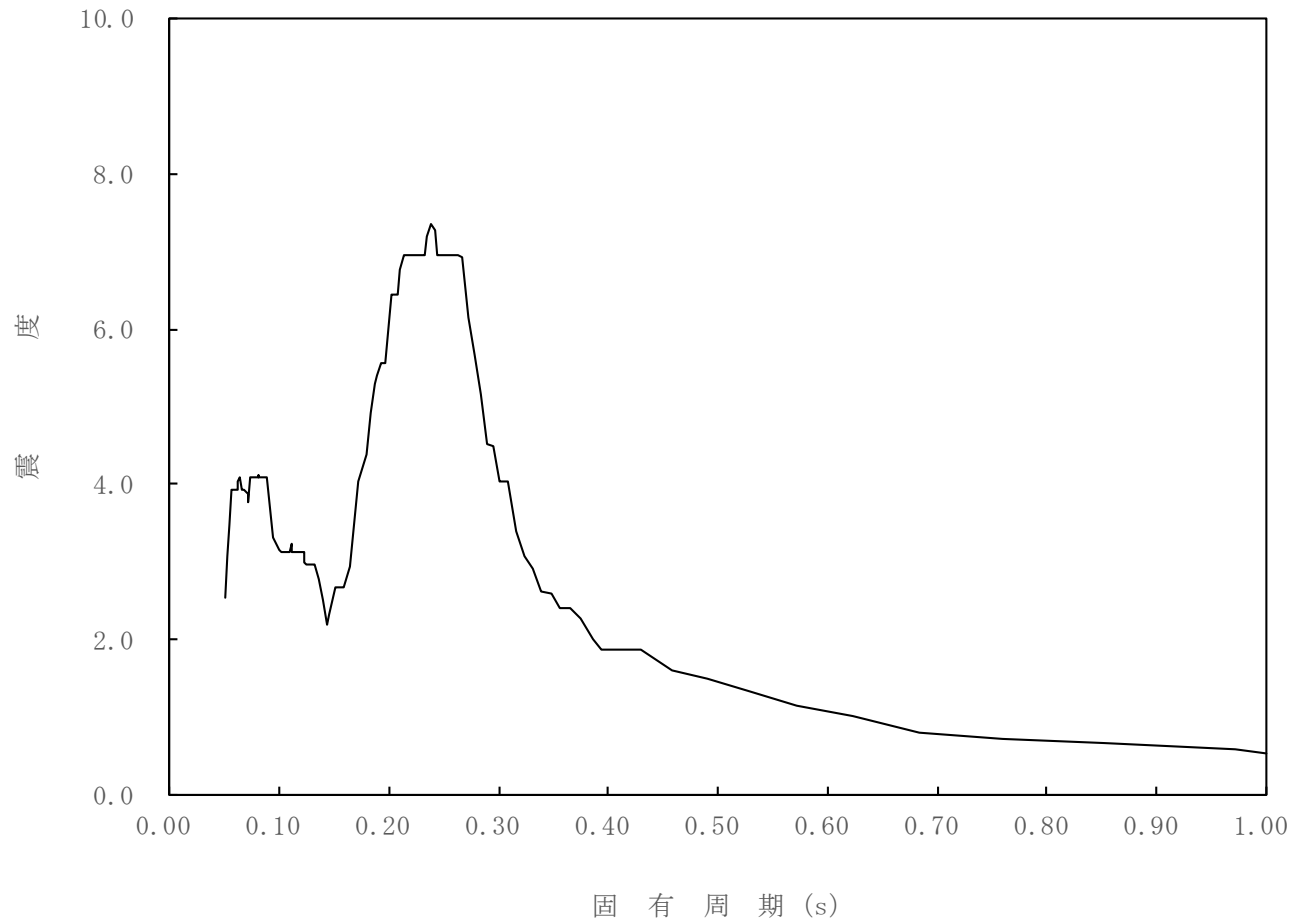
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-32



【RB-SdH-RB2-025】

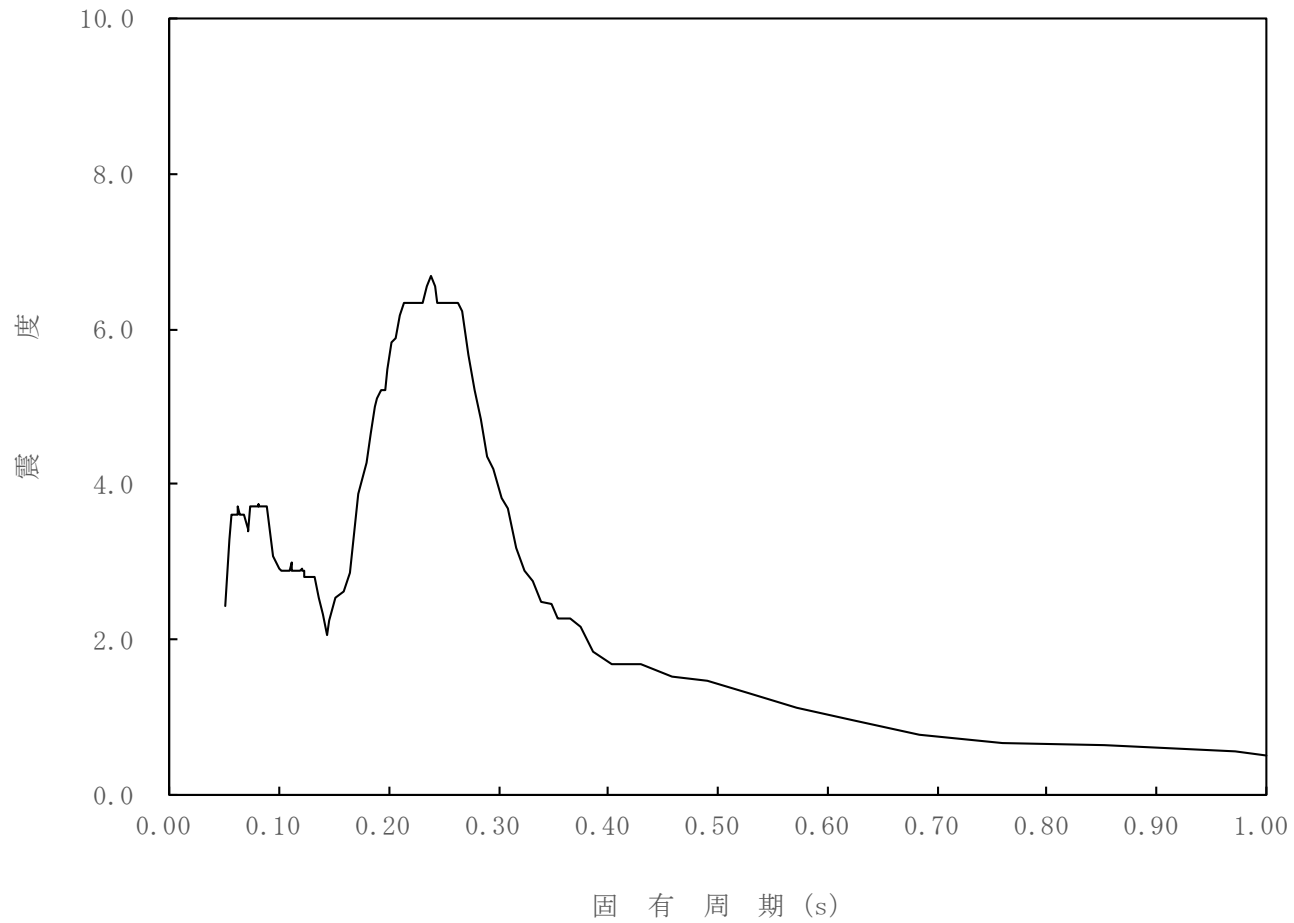
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB2-030】

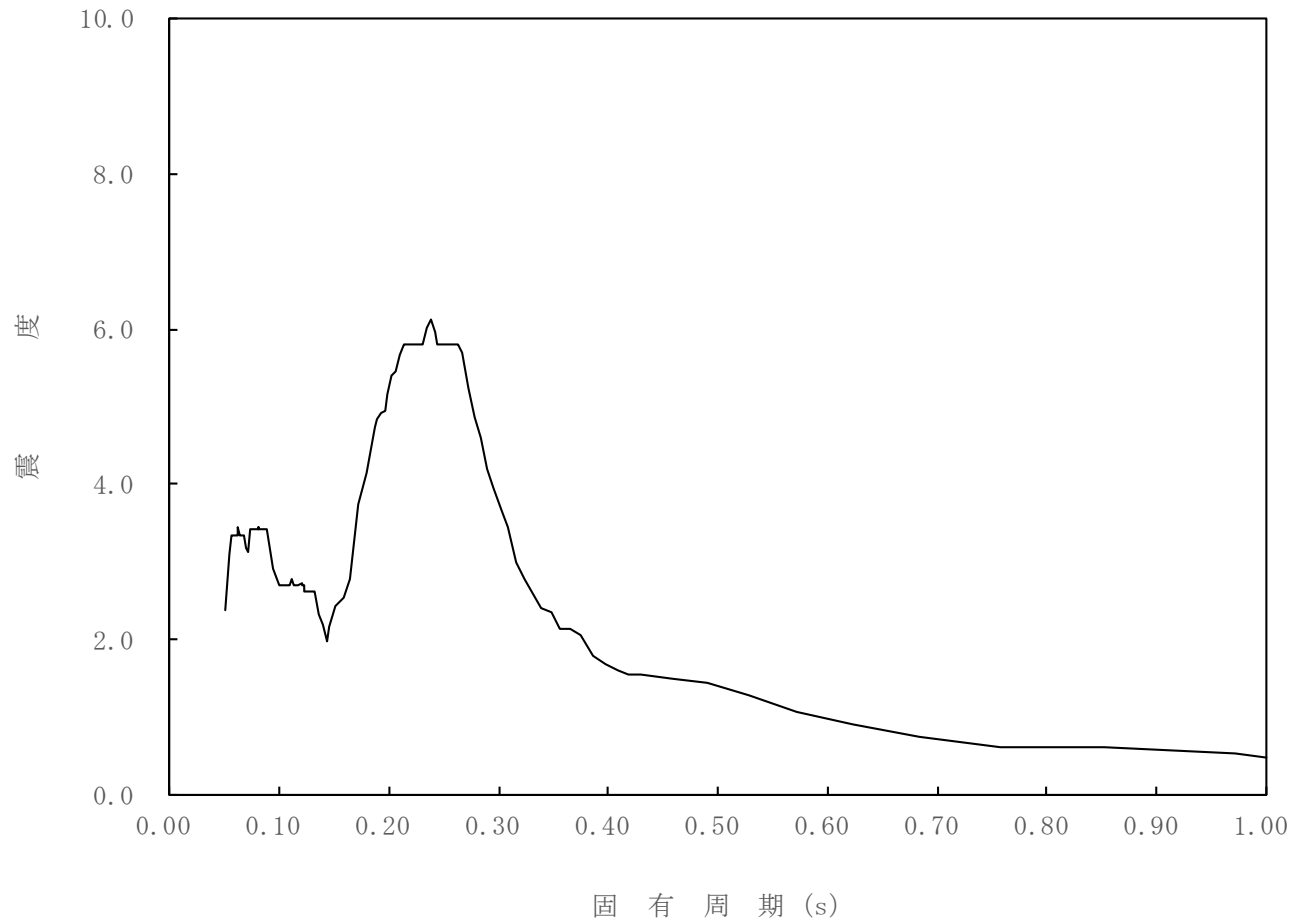
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB2-040】

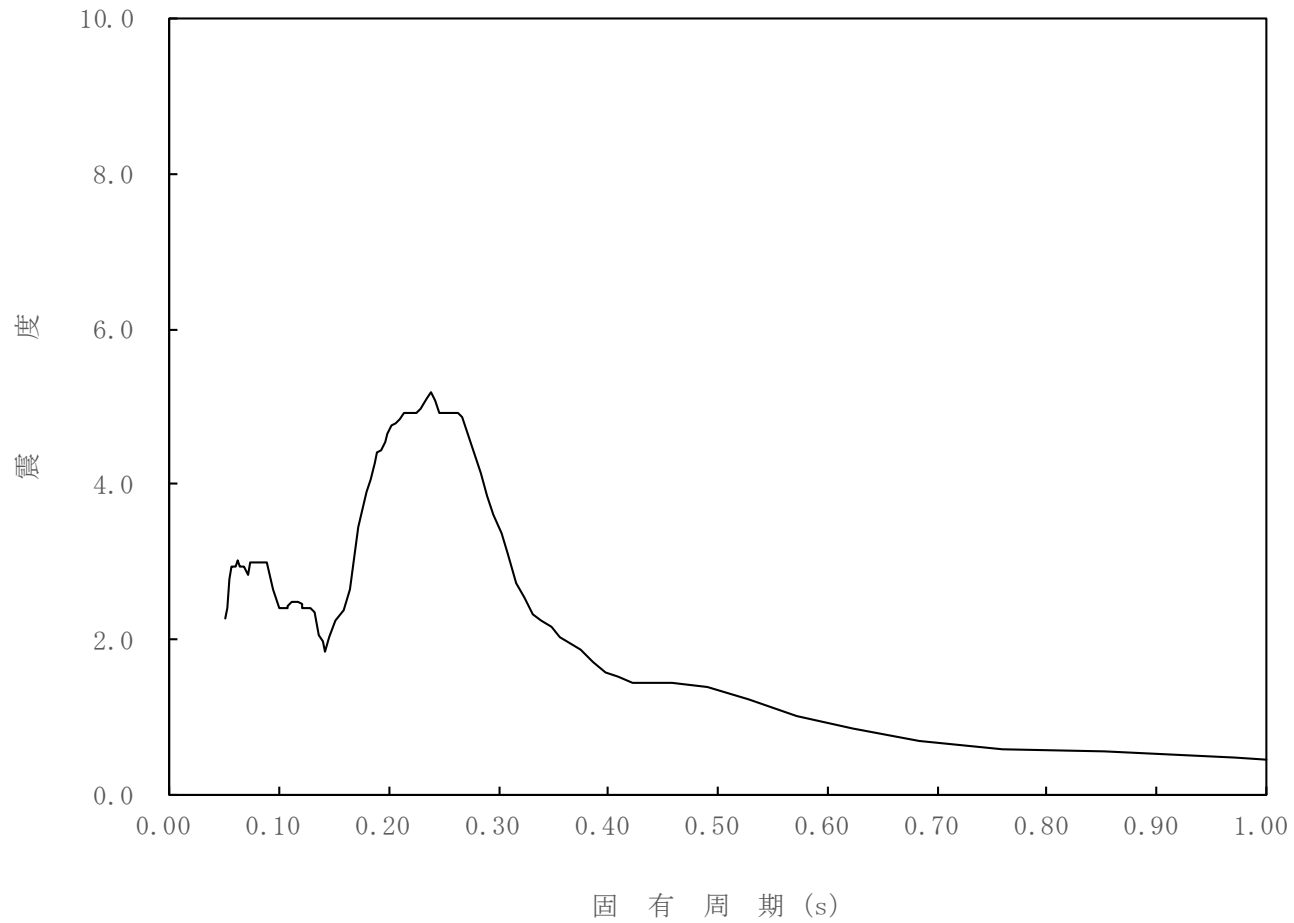
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB2-050】

構造物名：原子炉建屋

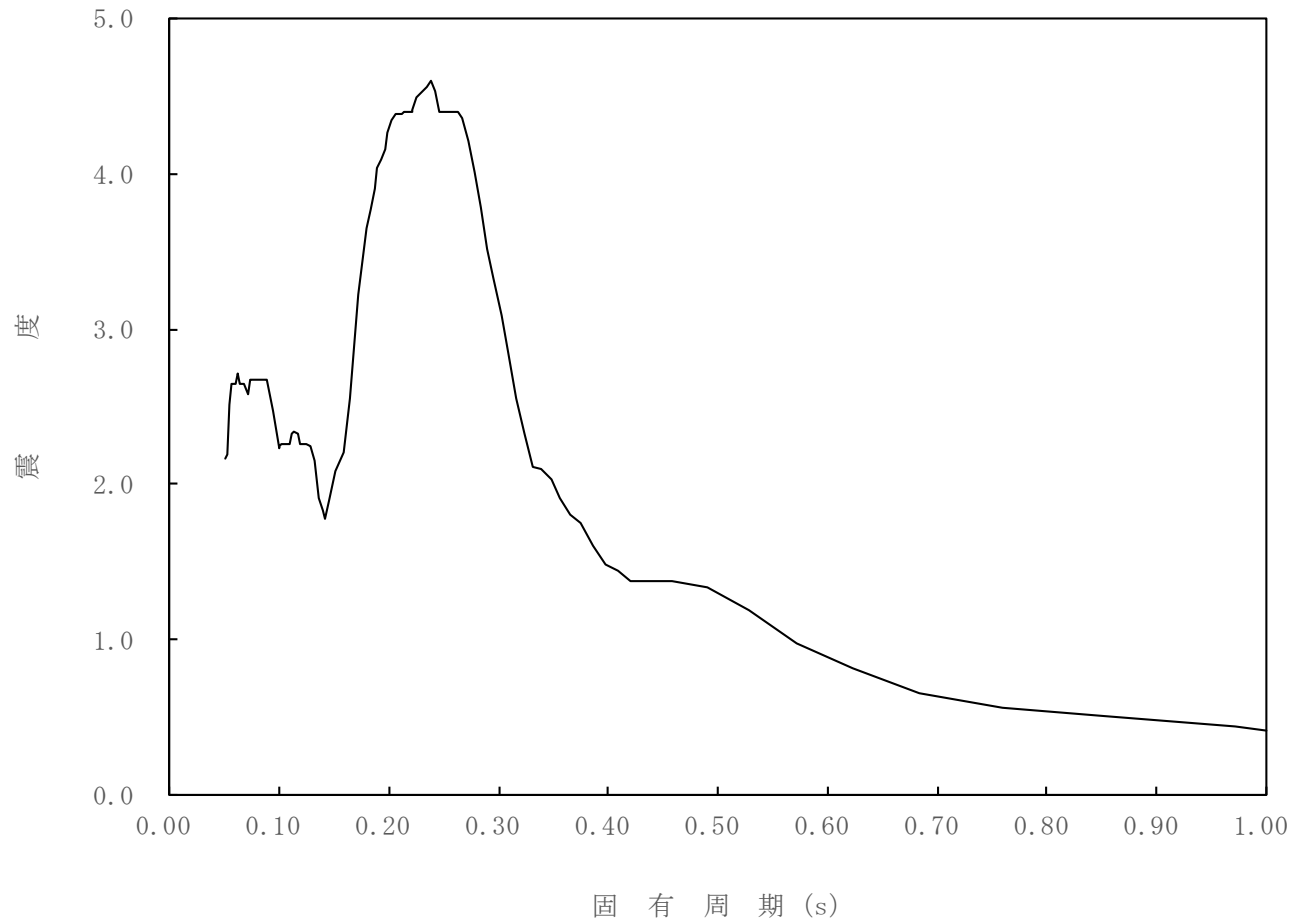
標高：0. P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-36



【RB-SdH-RB2-070】

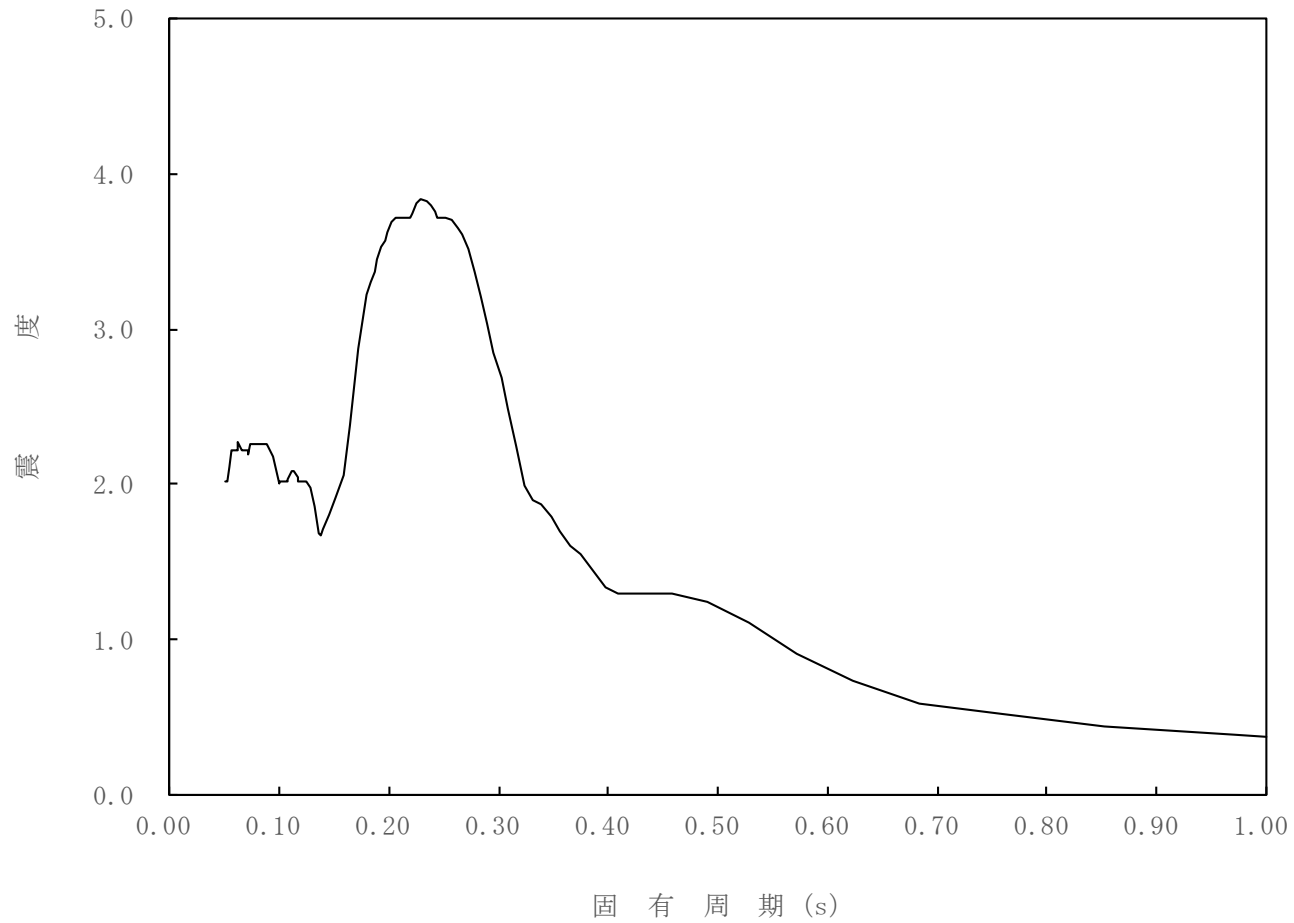
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 22.500m

—— 水平方向

減衰定数：7.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB1-005】

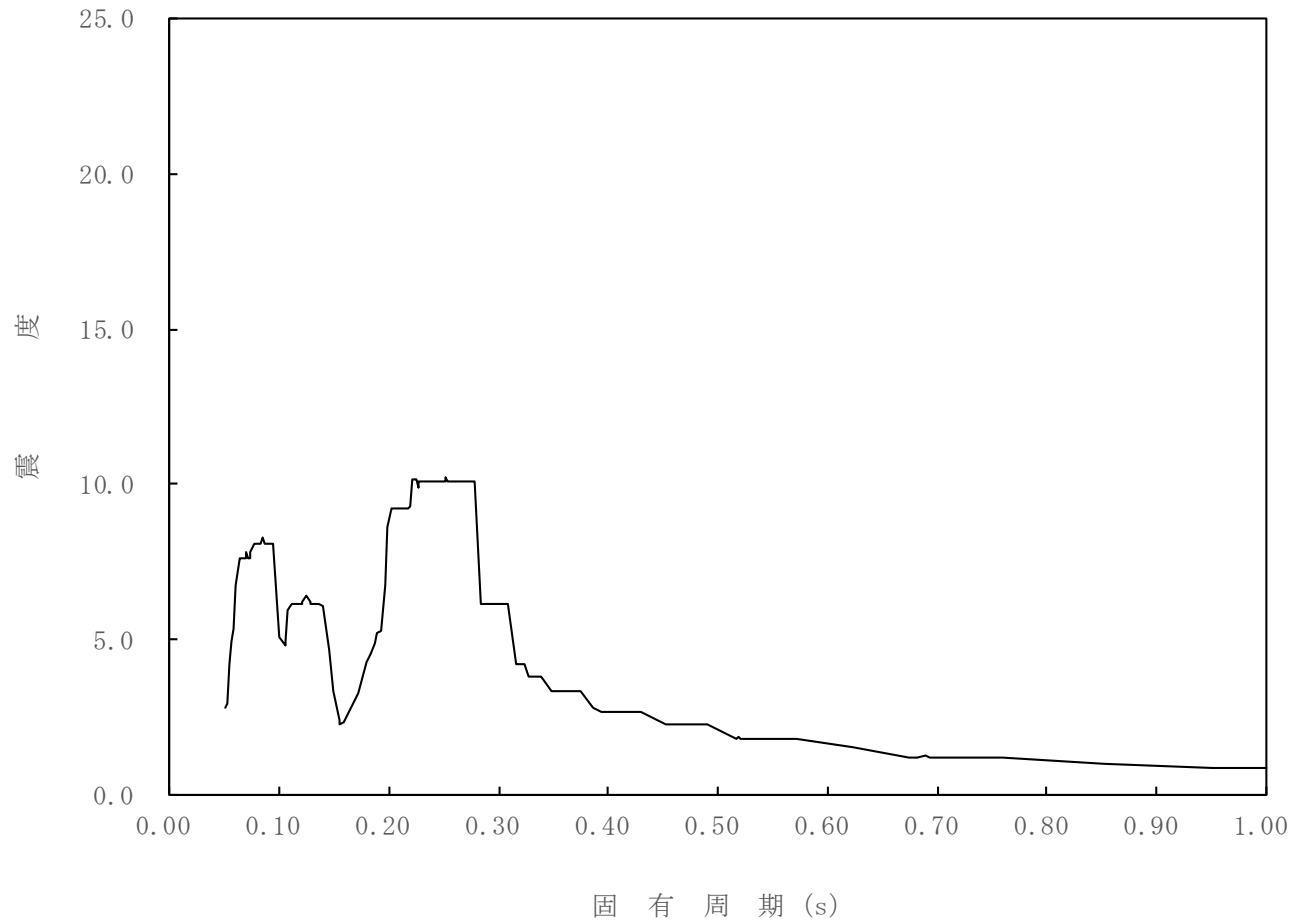
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB1-010】

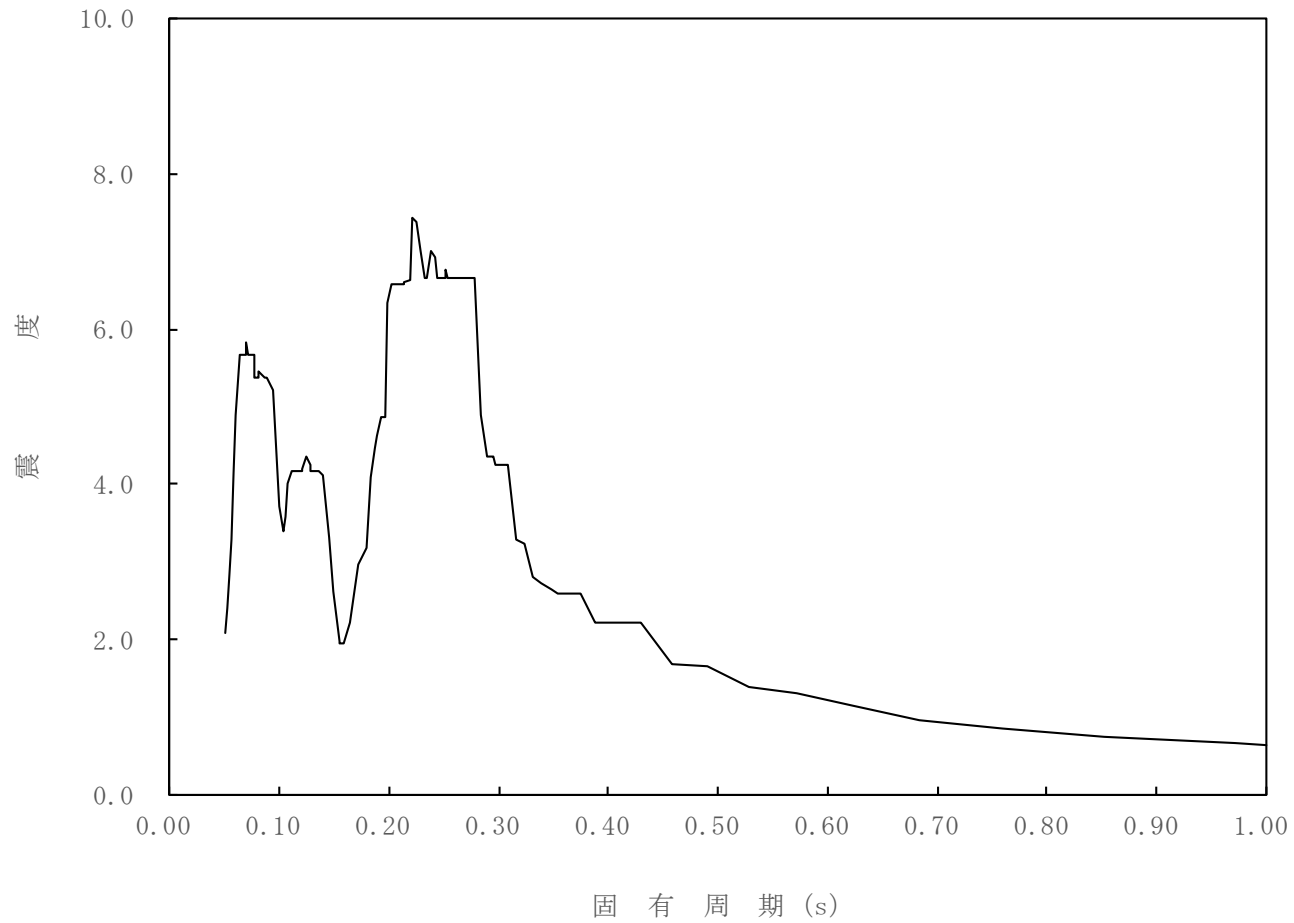
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB1-015】

構造物名：原子炉建屋

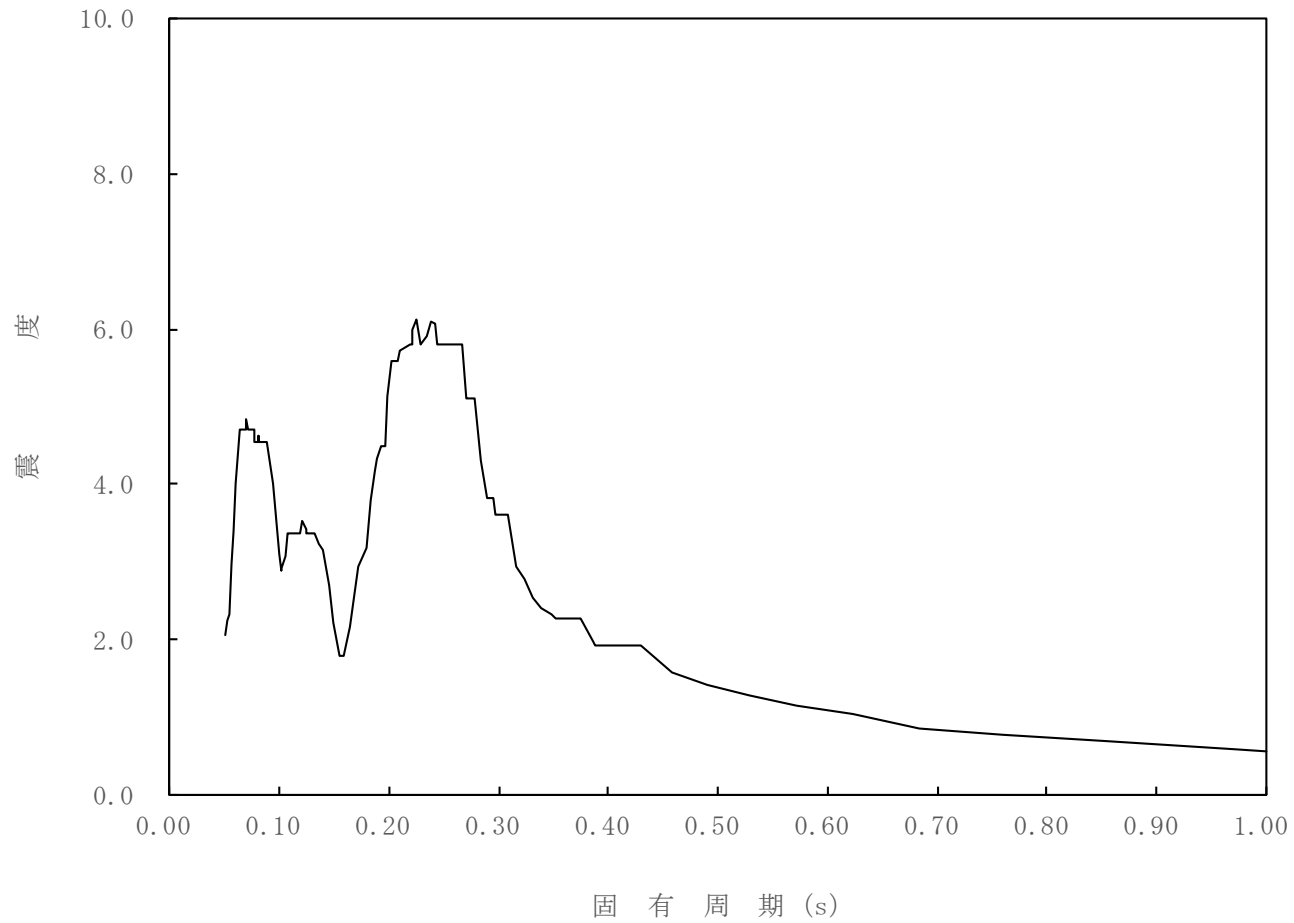
標高：0. P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-40





【RB-SdH-RB1-020】

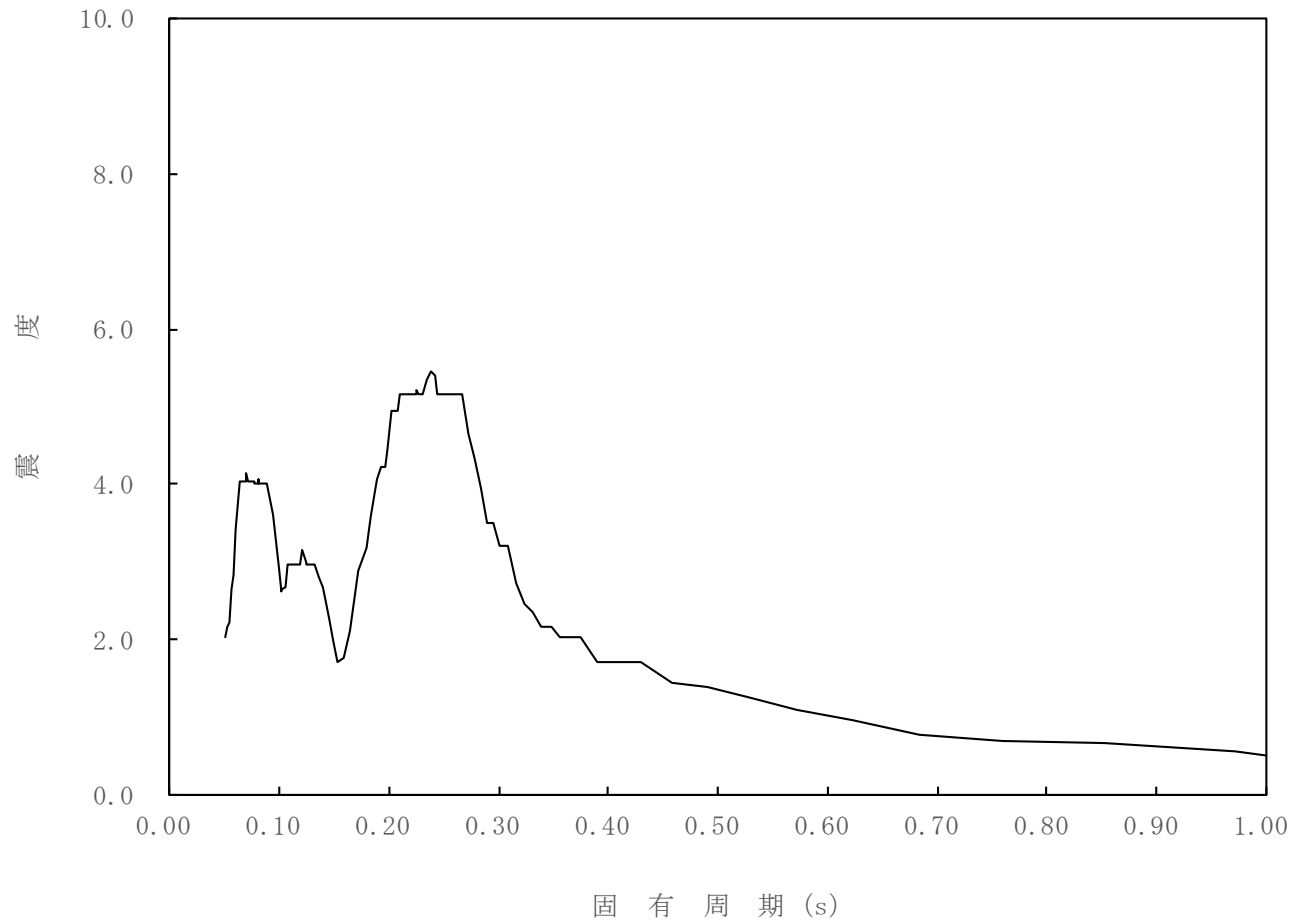
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB1-025】

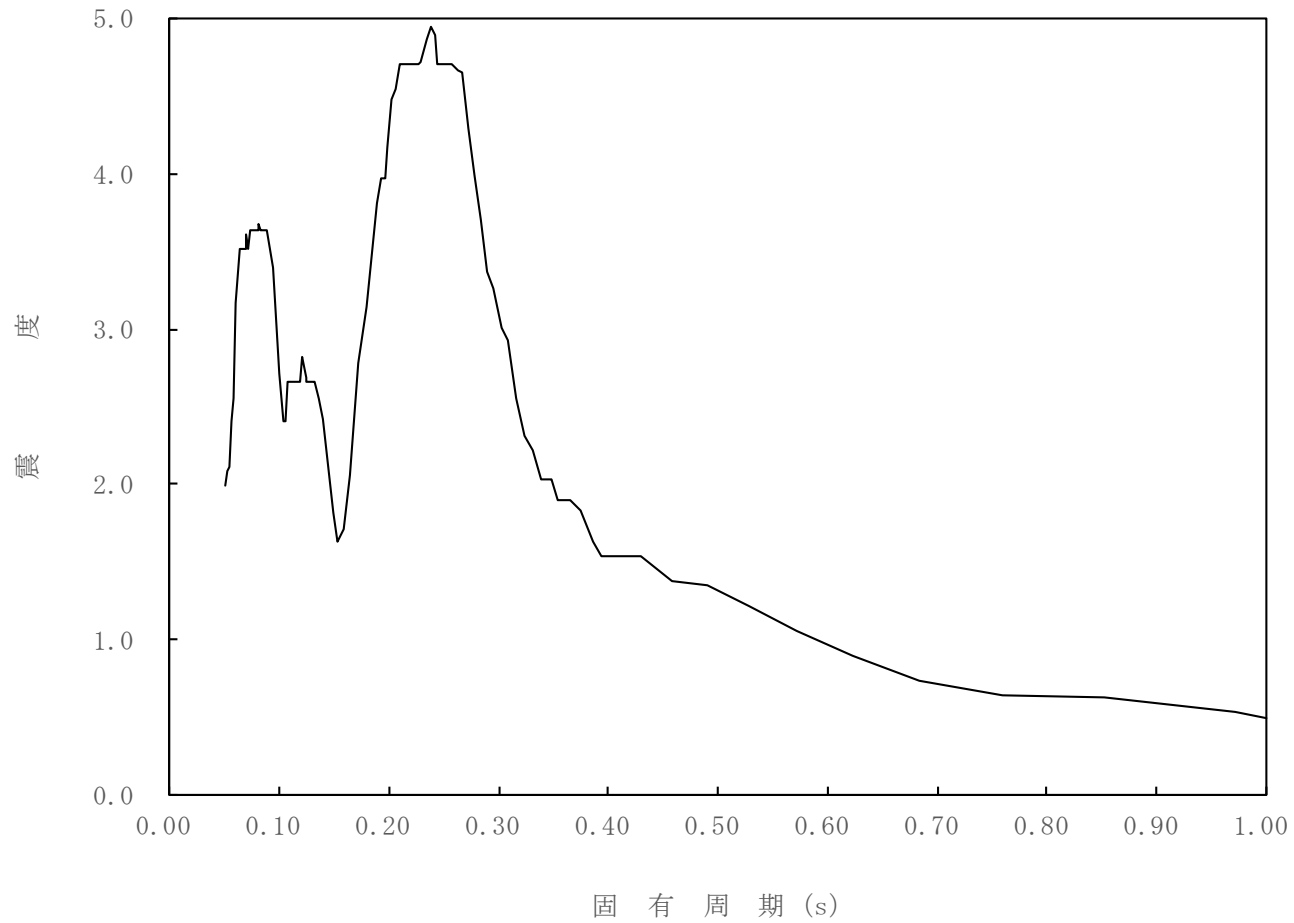
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-42

【RB-SdH-RB1-030】

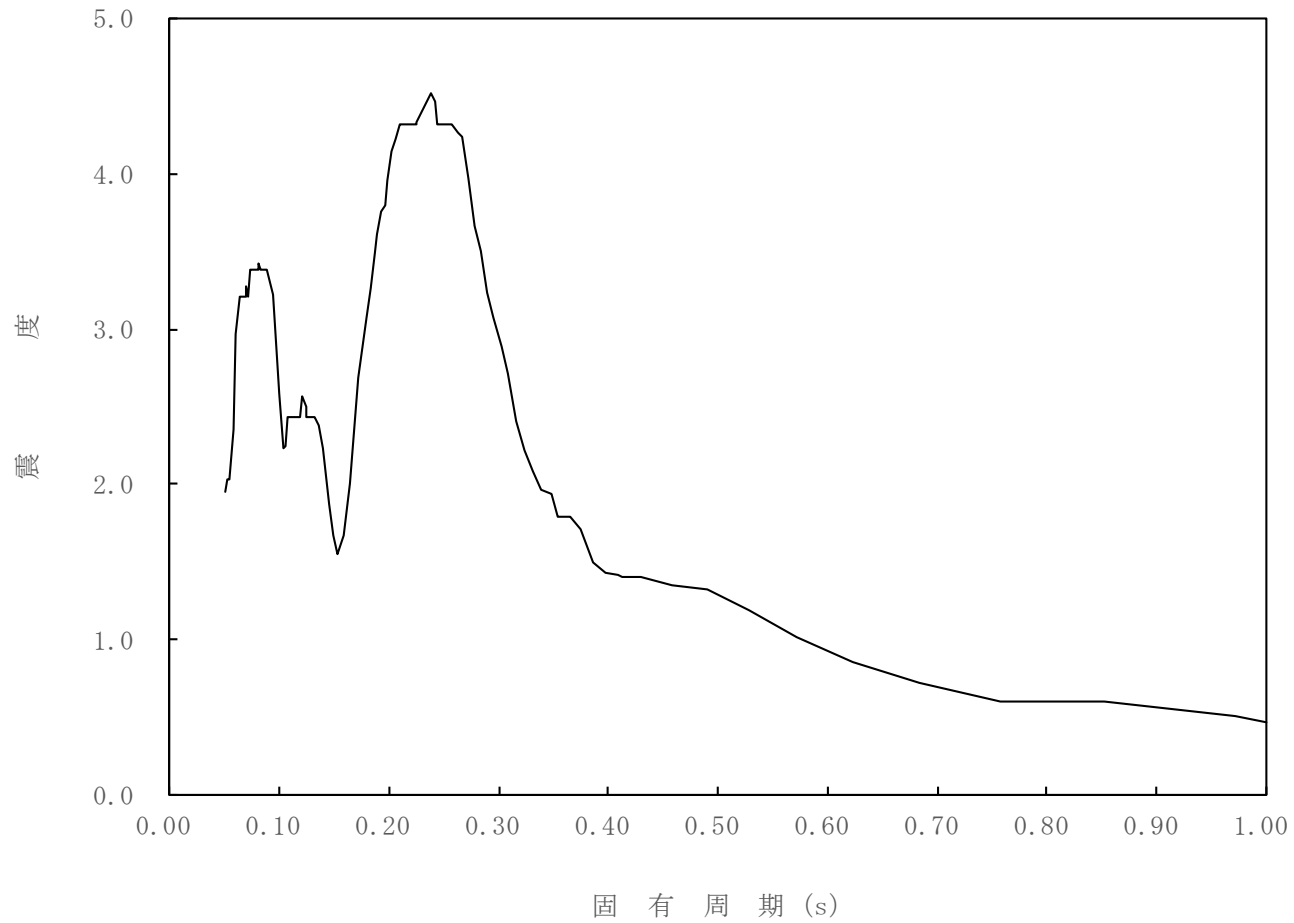
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RB1-040】

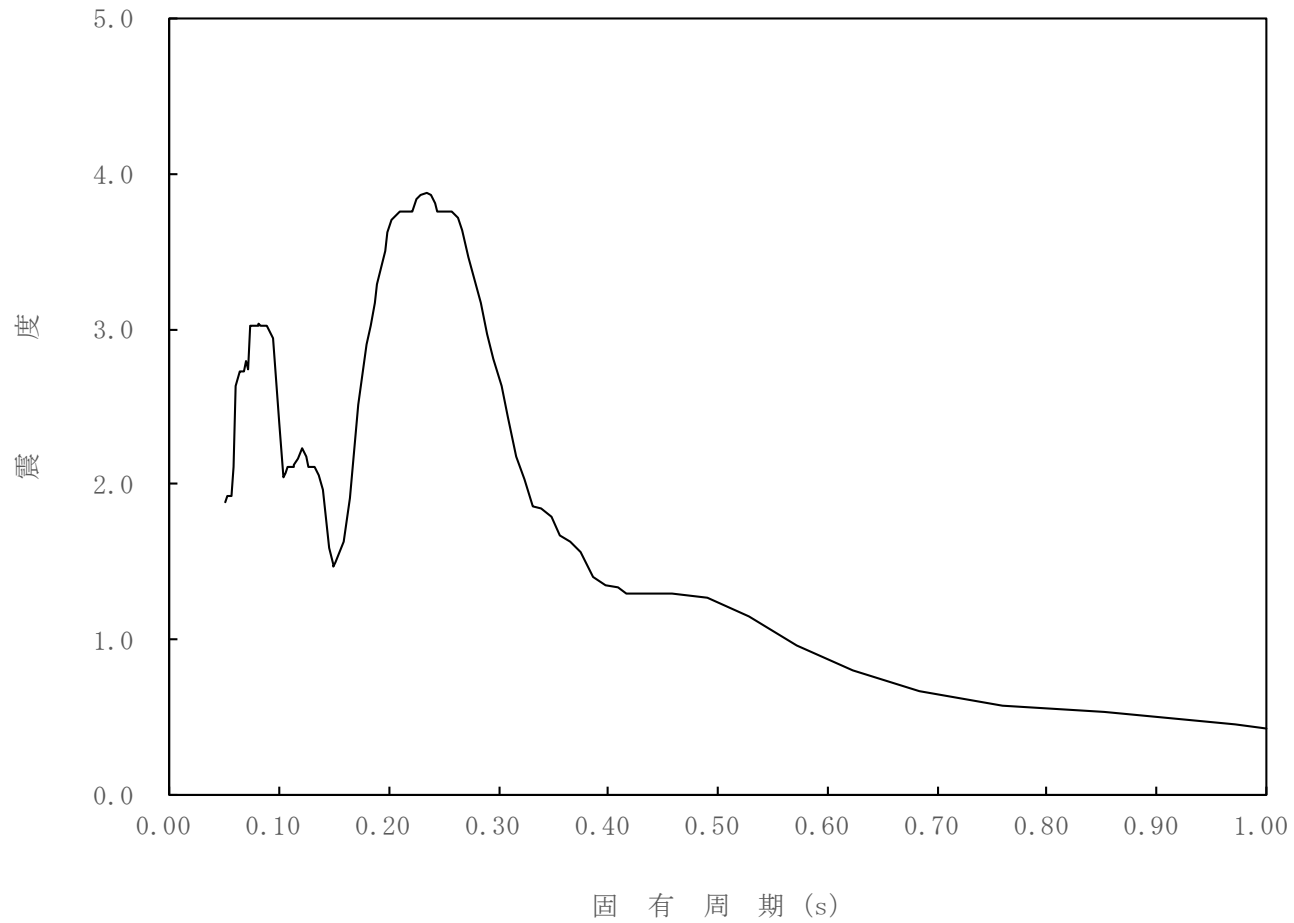
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdH-RB1-050】

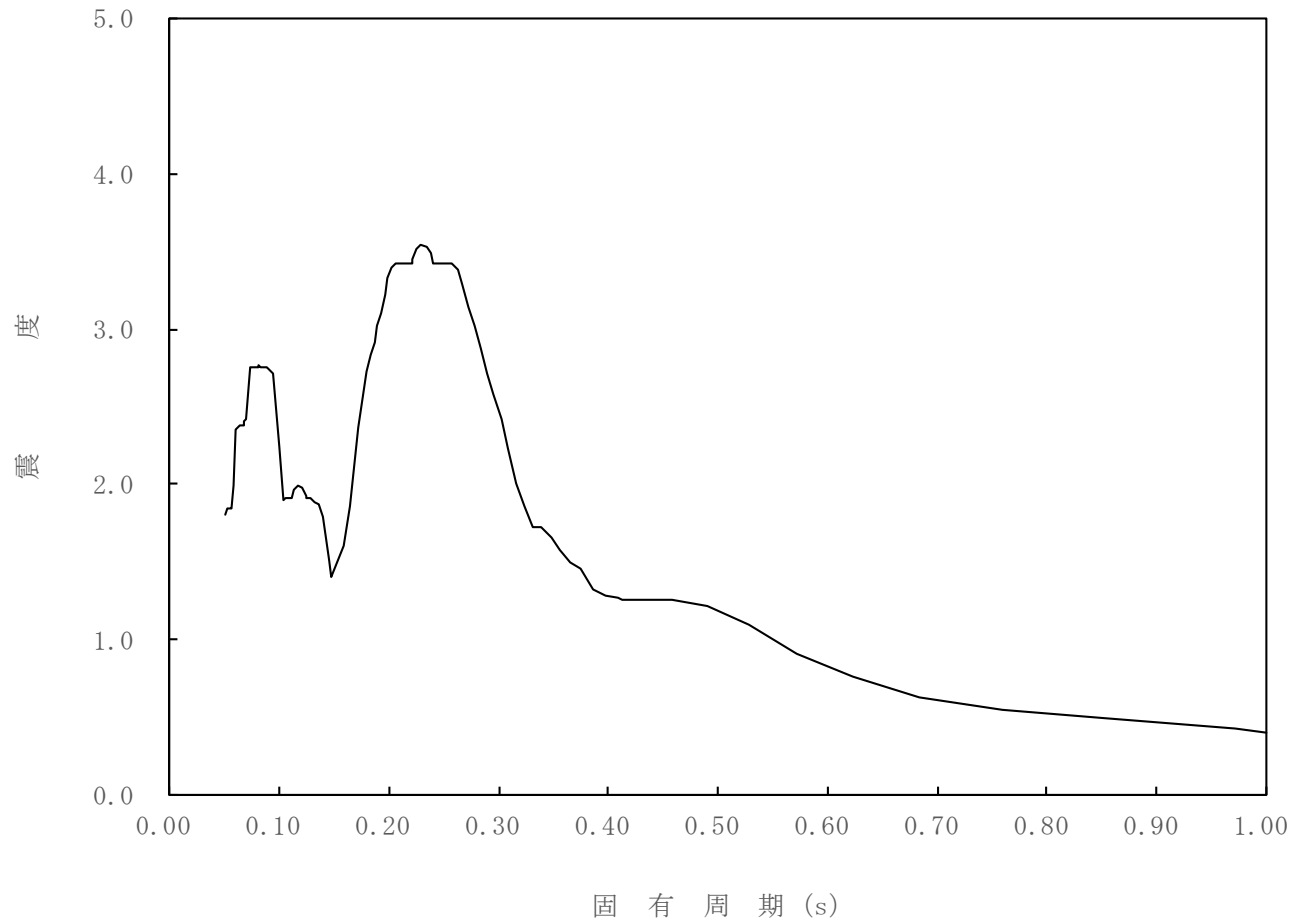
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-45

【RB-SdH-RB1-070】

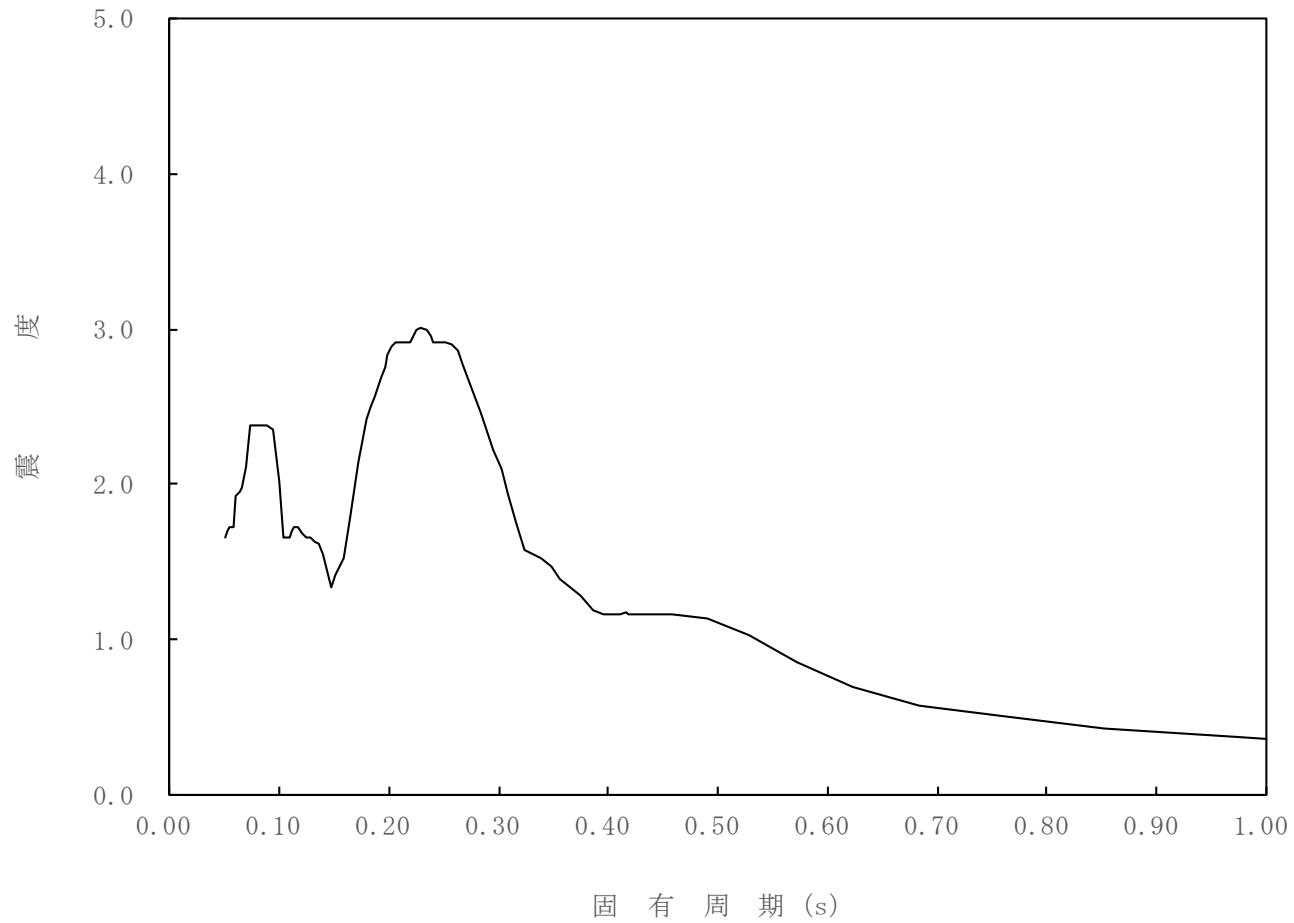
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：7.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RBB1-005】

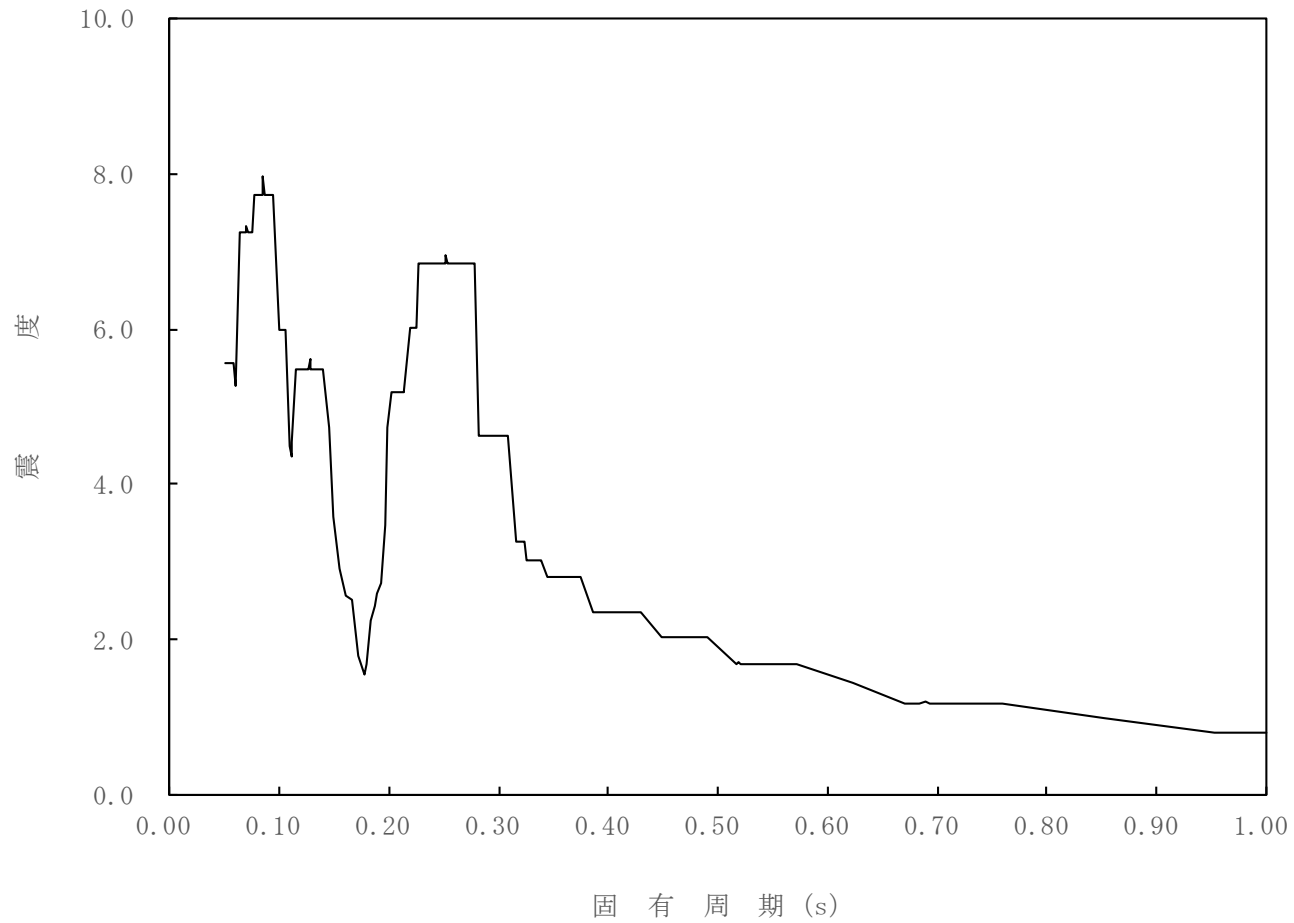
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-47

【RB-SdH-RBB1-010】

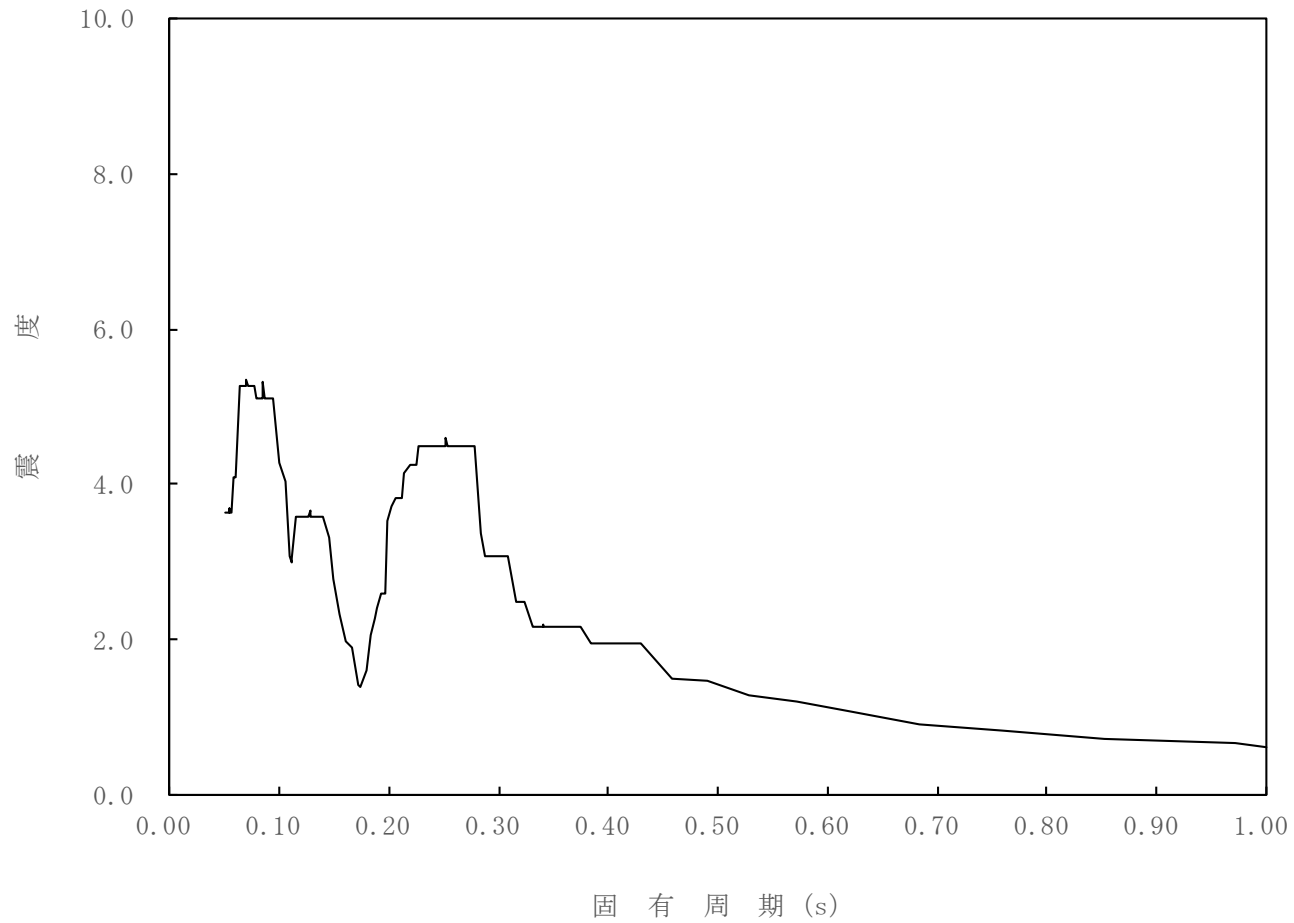
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-48



【RB-SdH-RBB1-015】

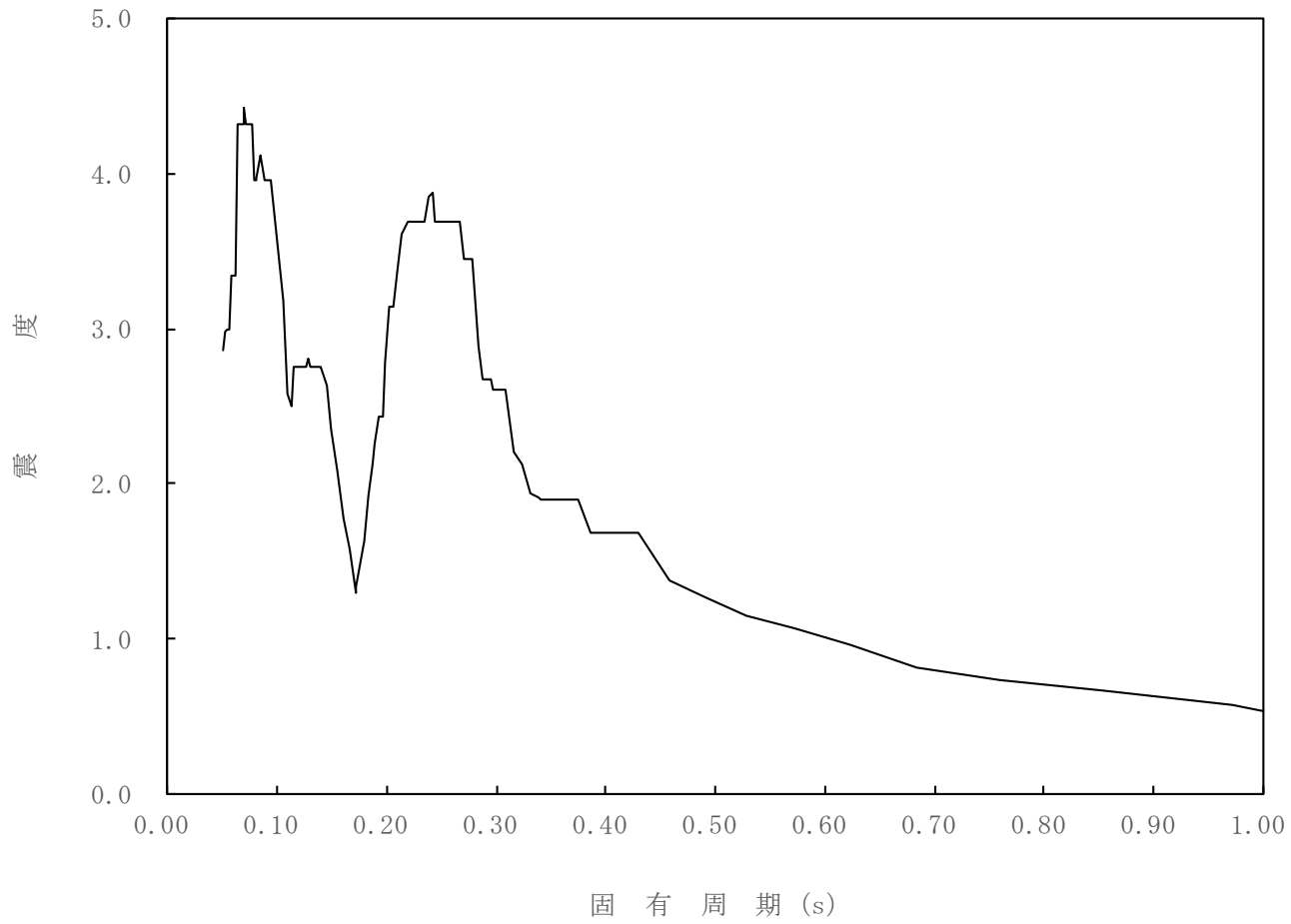
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdH-RBB1-020】

構造物名：原子炉建屋

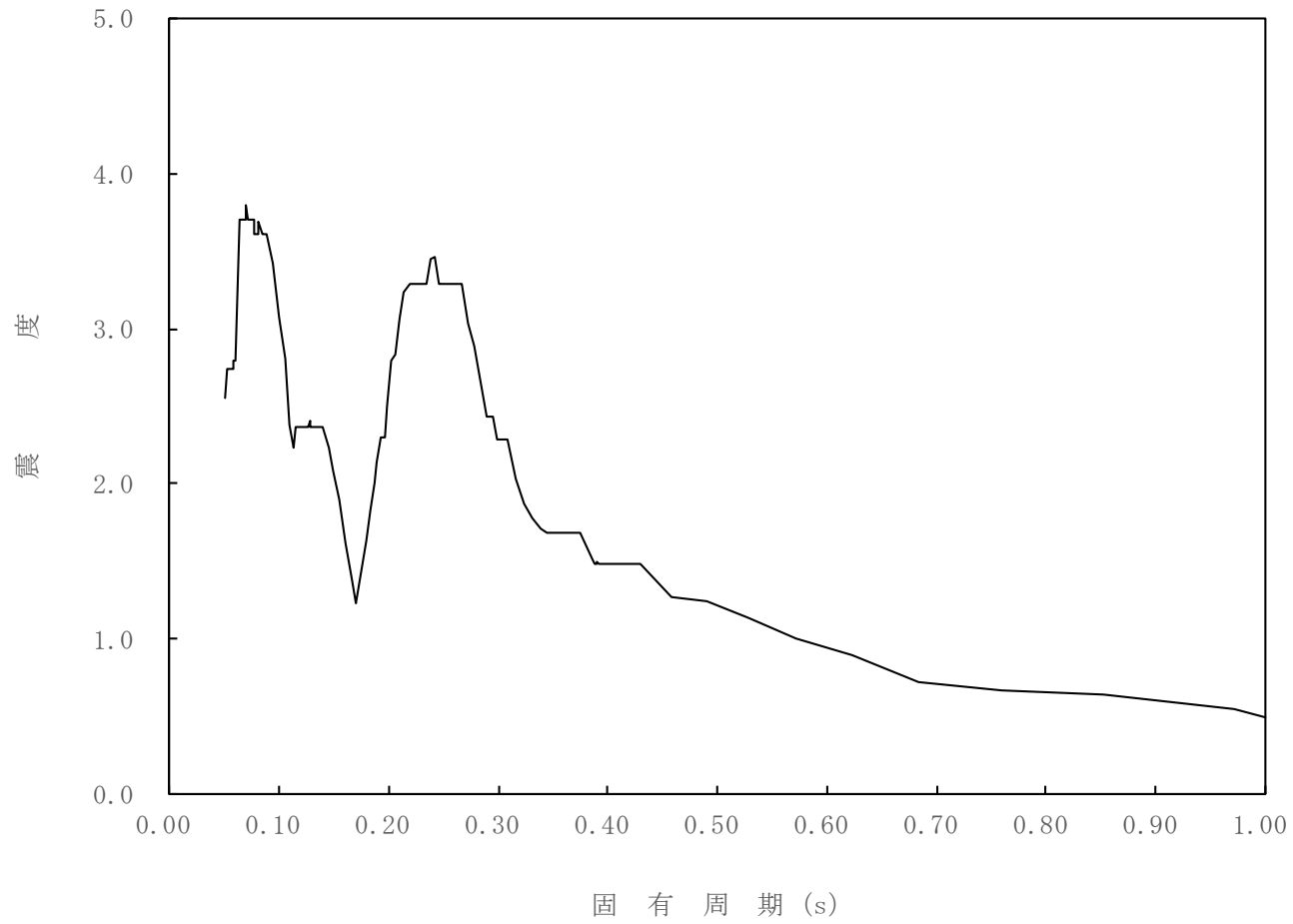
標高：0. P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-50



【RB-SdH-RBB1-025】

構造物名：原子炉建屋

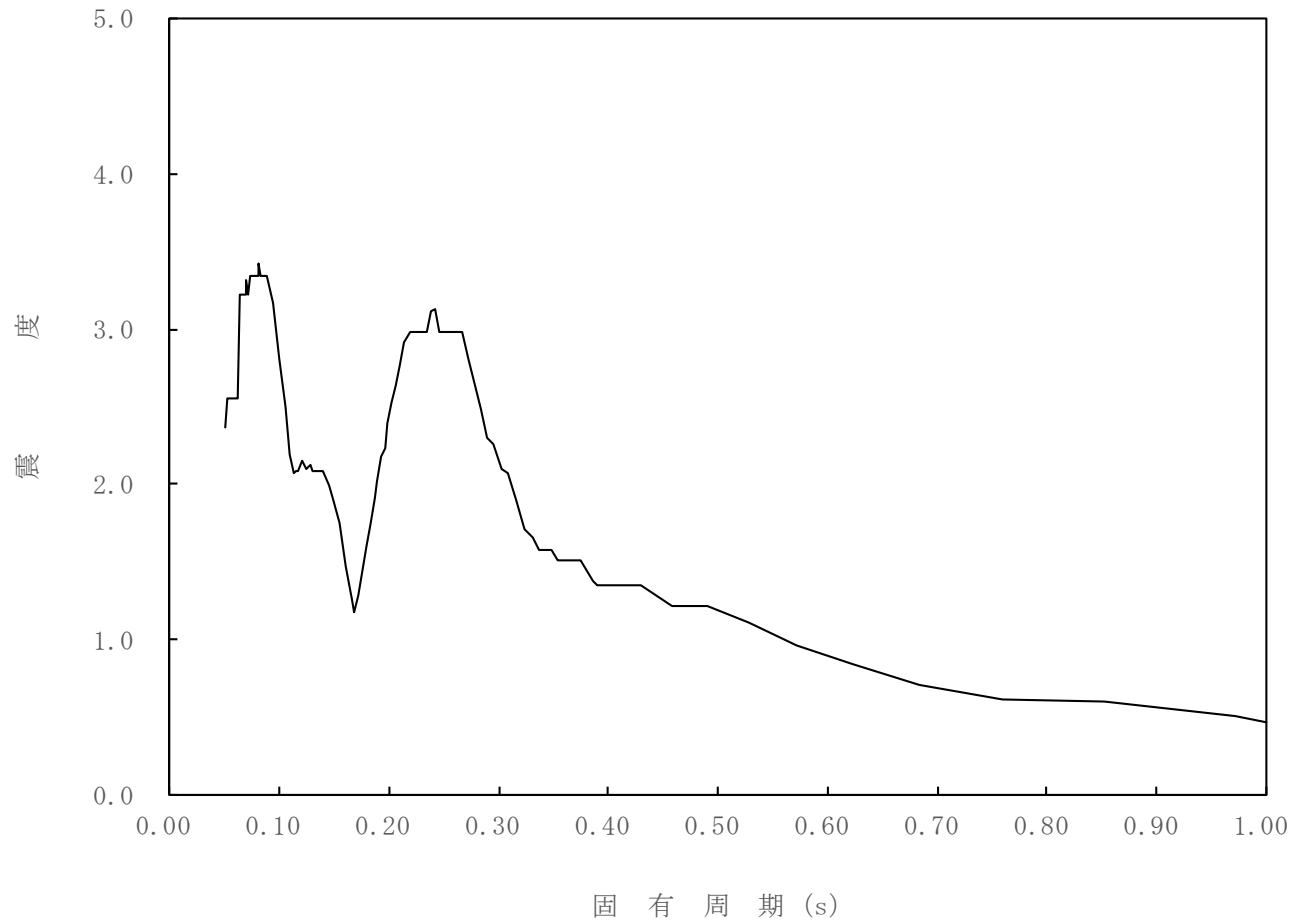
標高：0. P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-51



【RB-SdH-RBB1-030】

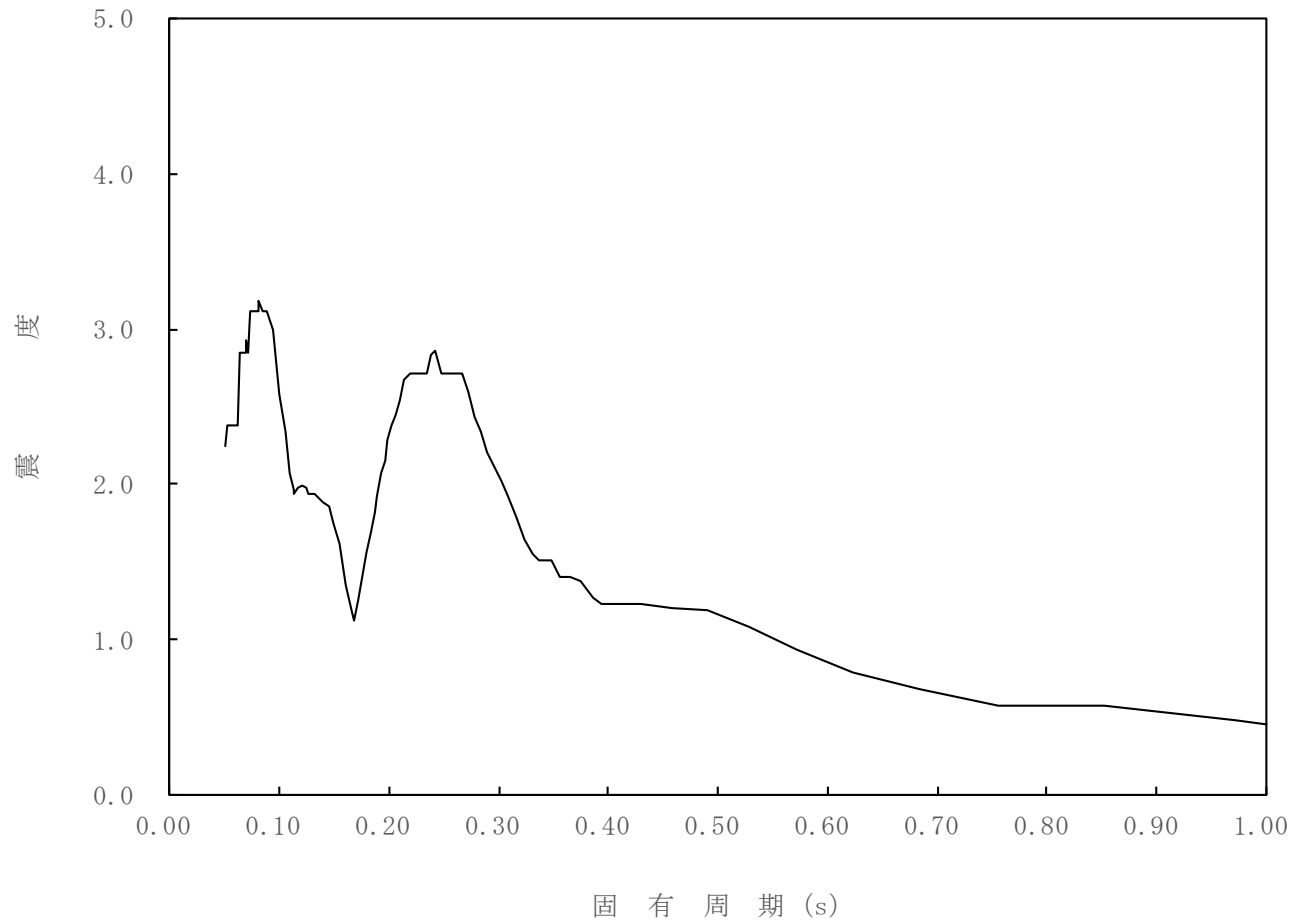
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-52

【RB-SdH-RBB1-040】

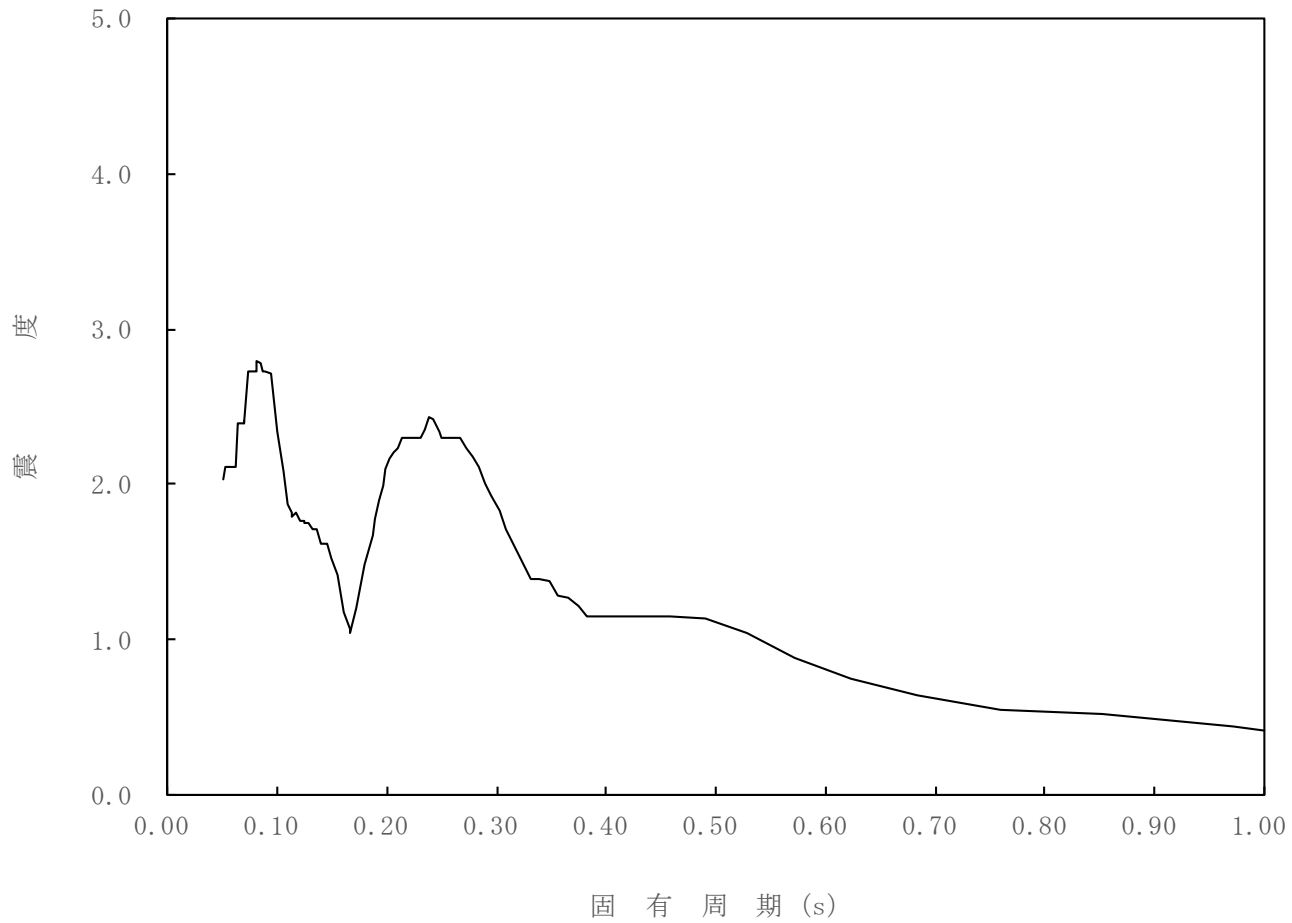
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RBB1-050】

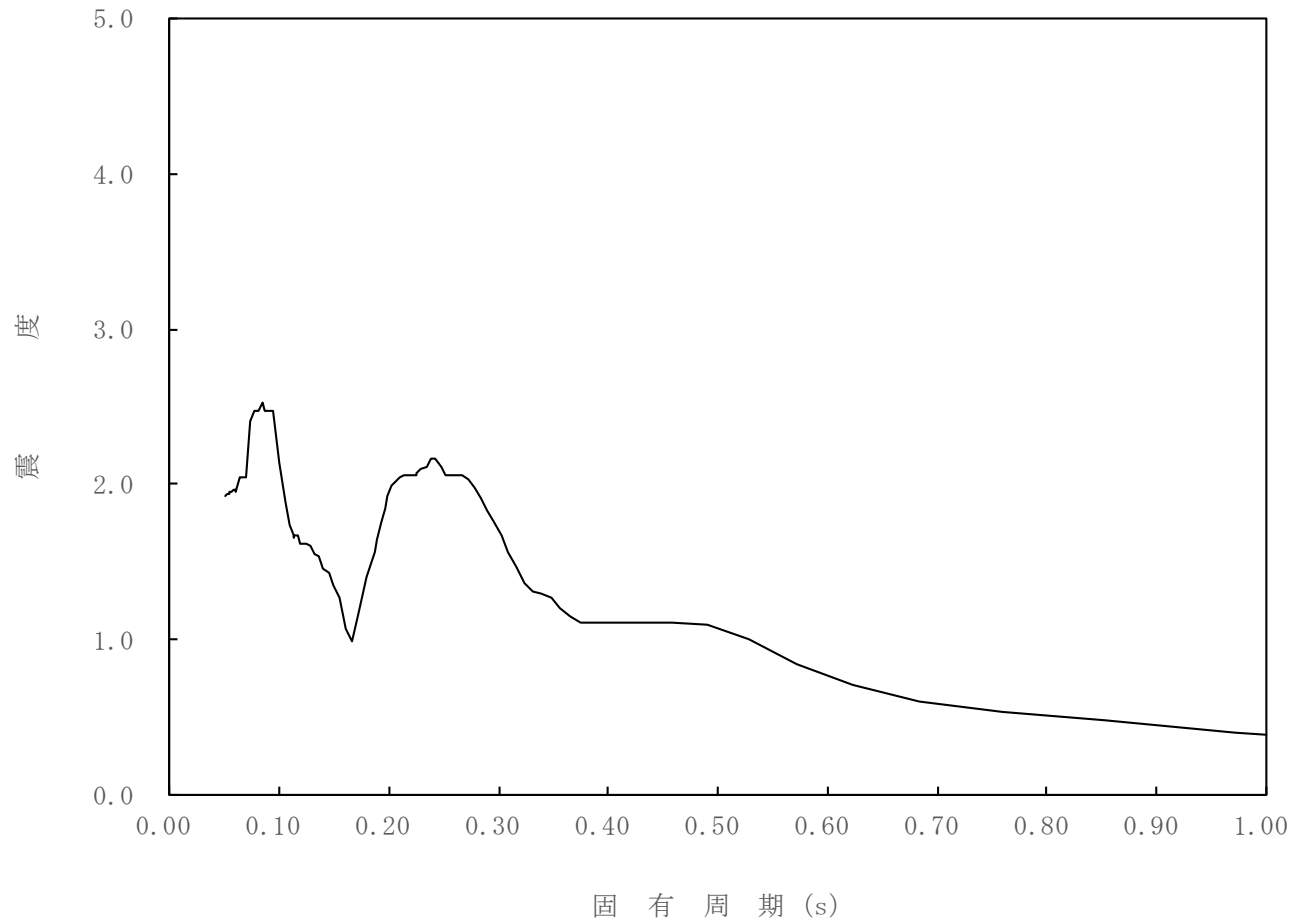
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 6.000m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdH-RBB2-005】

構造物名：原子炉建屋

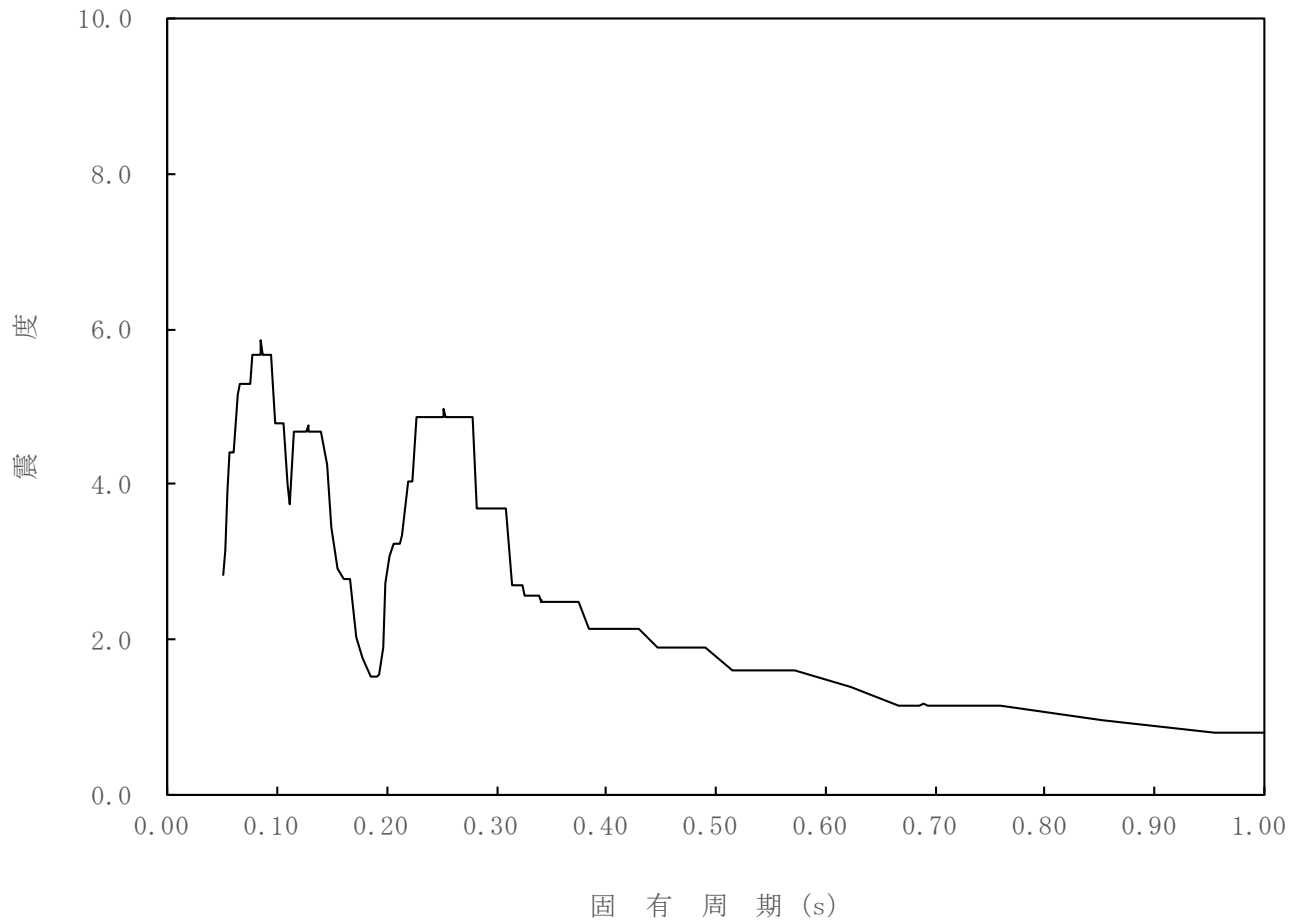
標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-55



【RB-SdH-RBB2-010】

構造物名：原子炉建屋

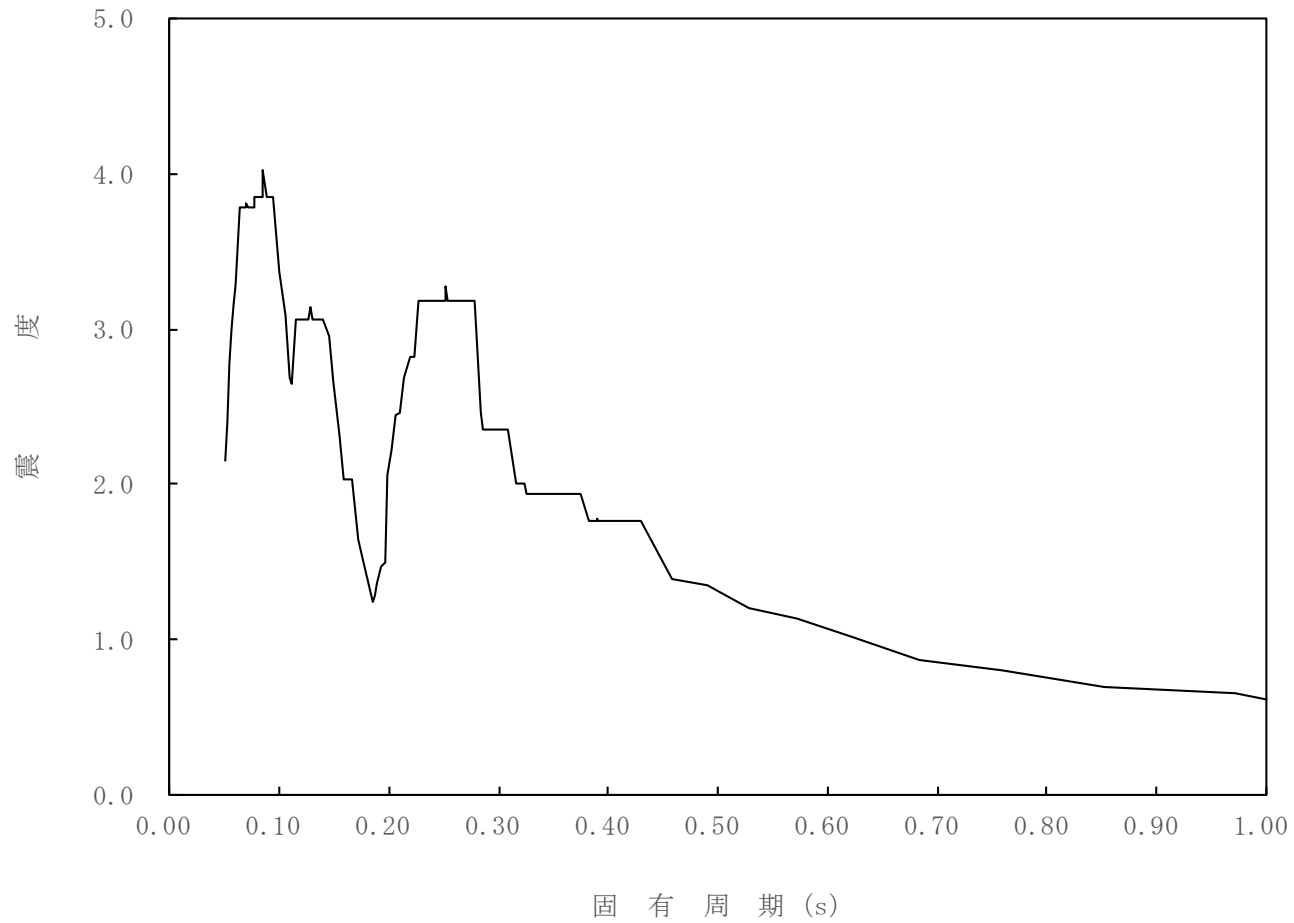
標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-56





【RB-SdH-RBB2-015】

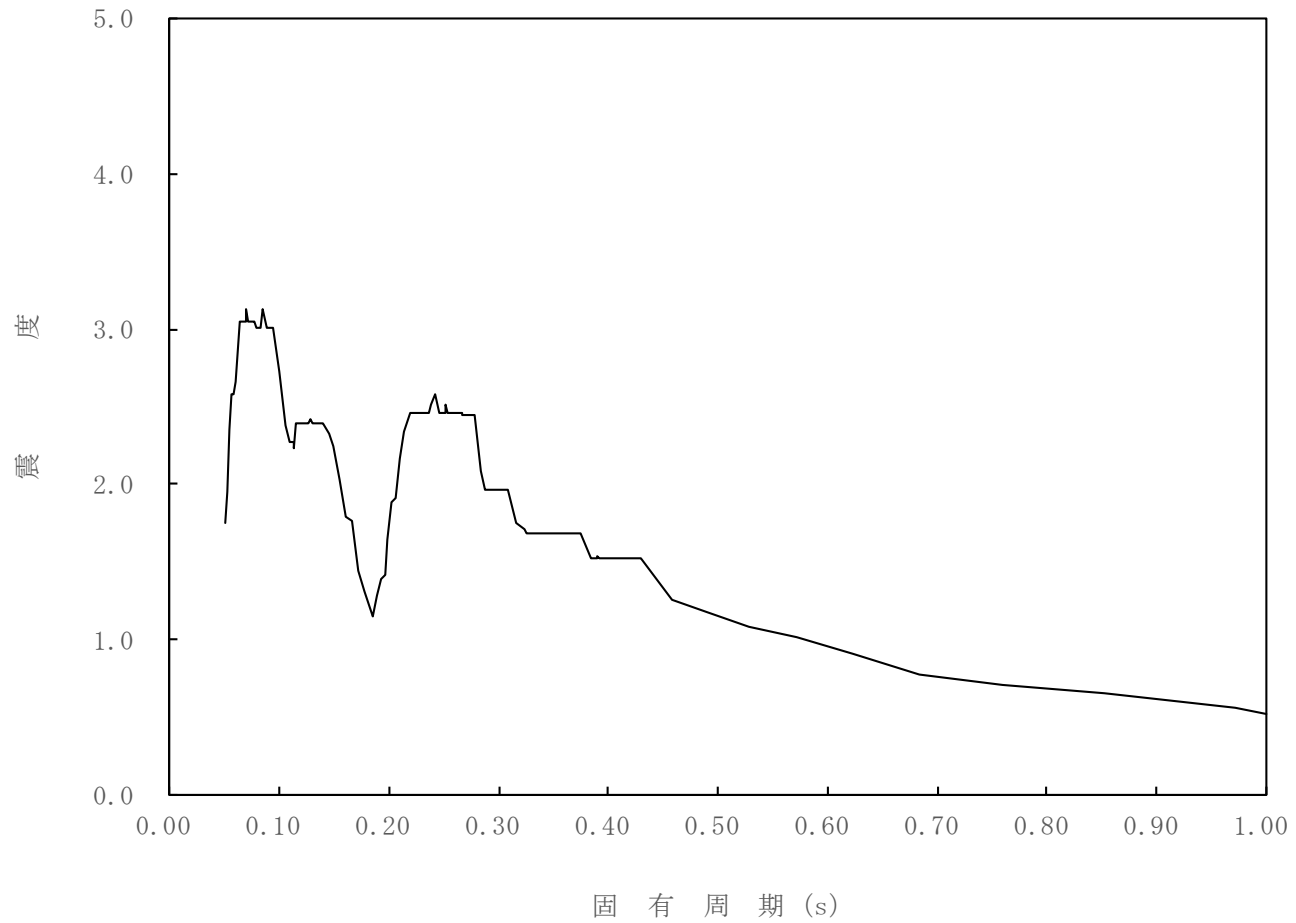
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-57

【RB-SdH-RBB2-020】

構造物名：原子炉建屋

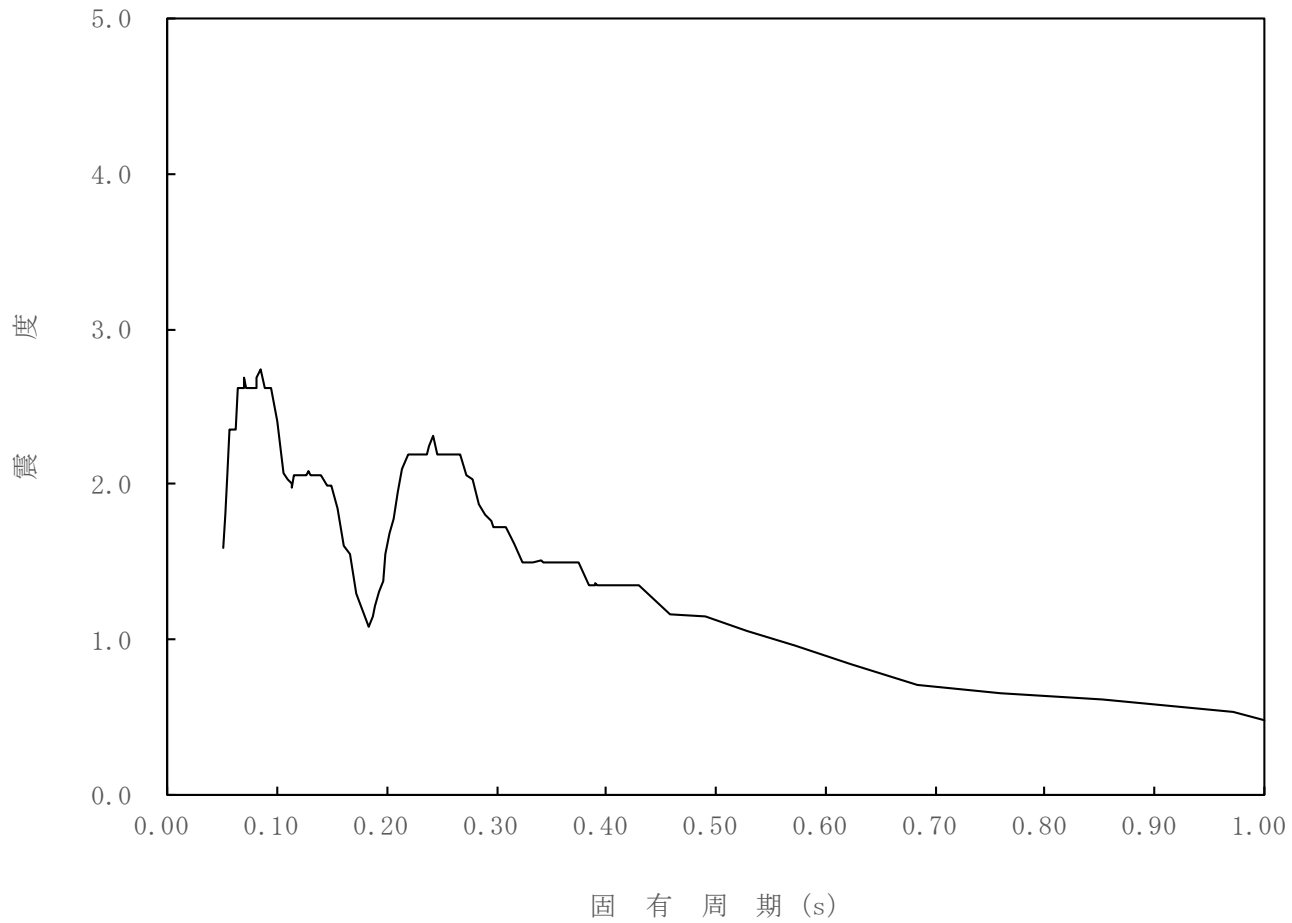
標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-58



【RB-SdH-RBB2-025】

構造物名：原子炉建屋

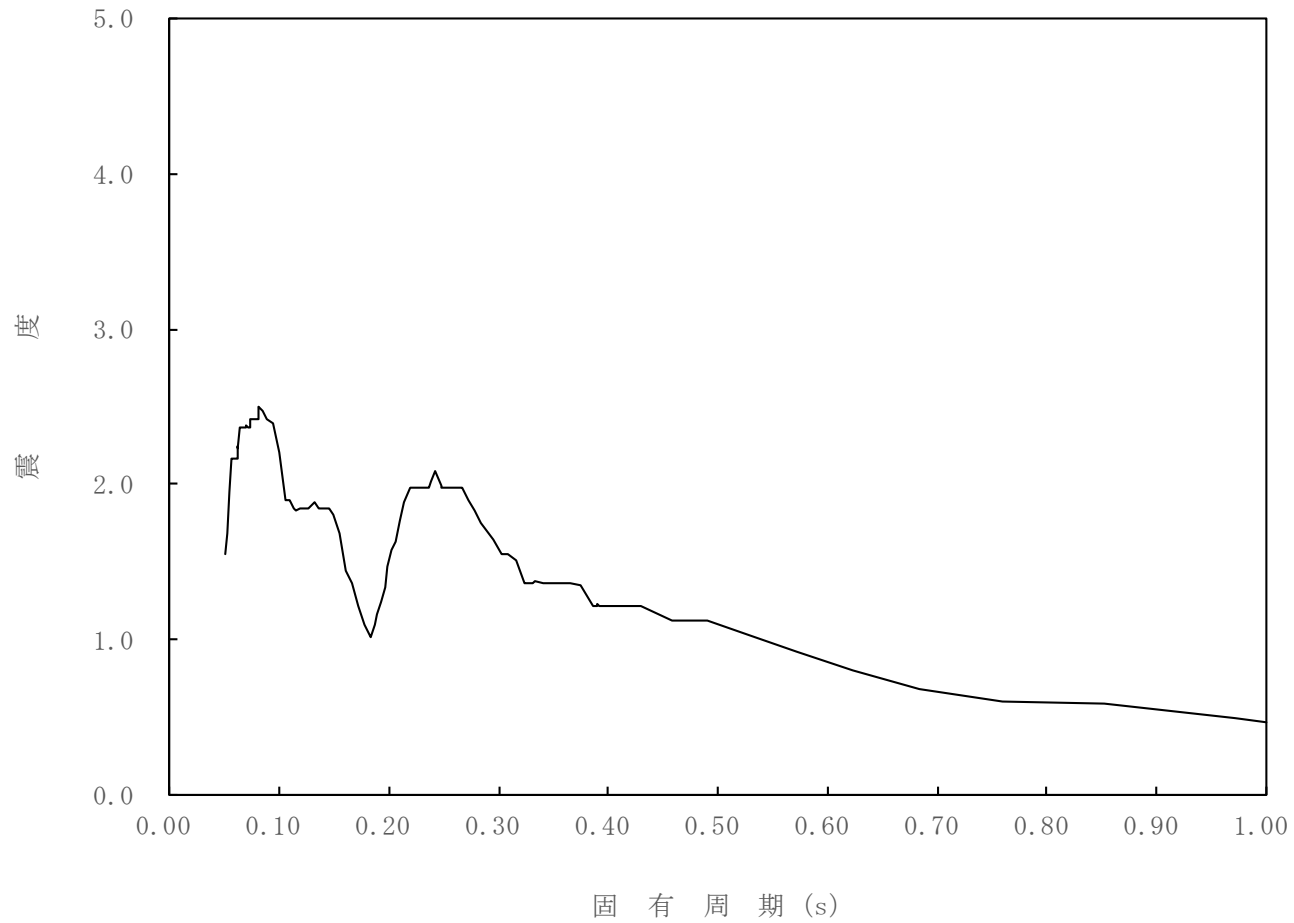
標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-59



【RB-SdH-RBB2-030】

構造物名：原子炉建屋

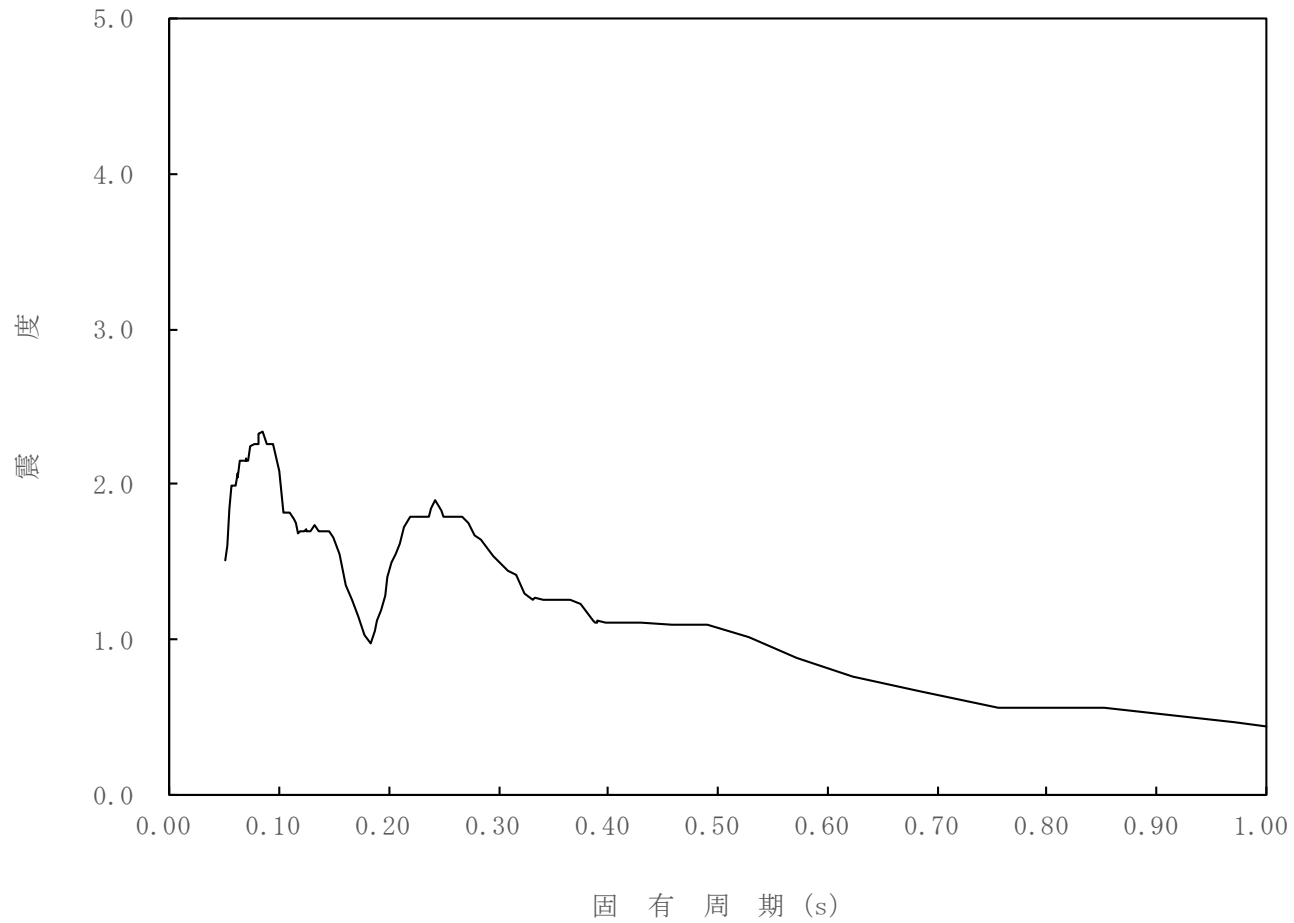
標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-60



【RB-SdH-RBB2-040】

構造物名：原子炉建屋

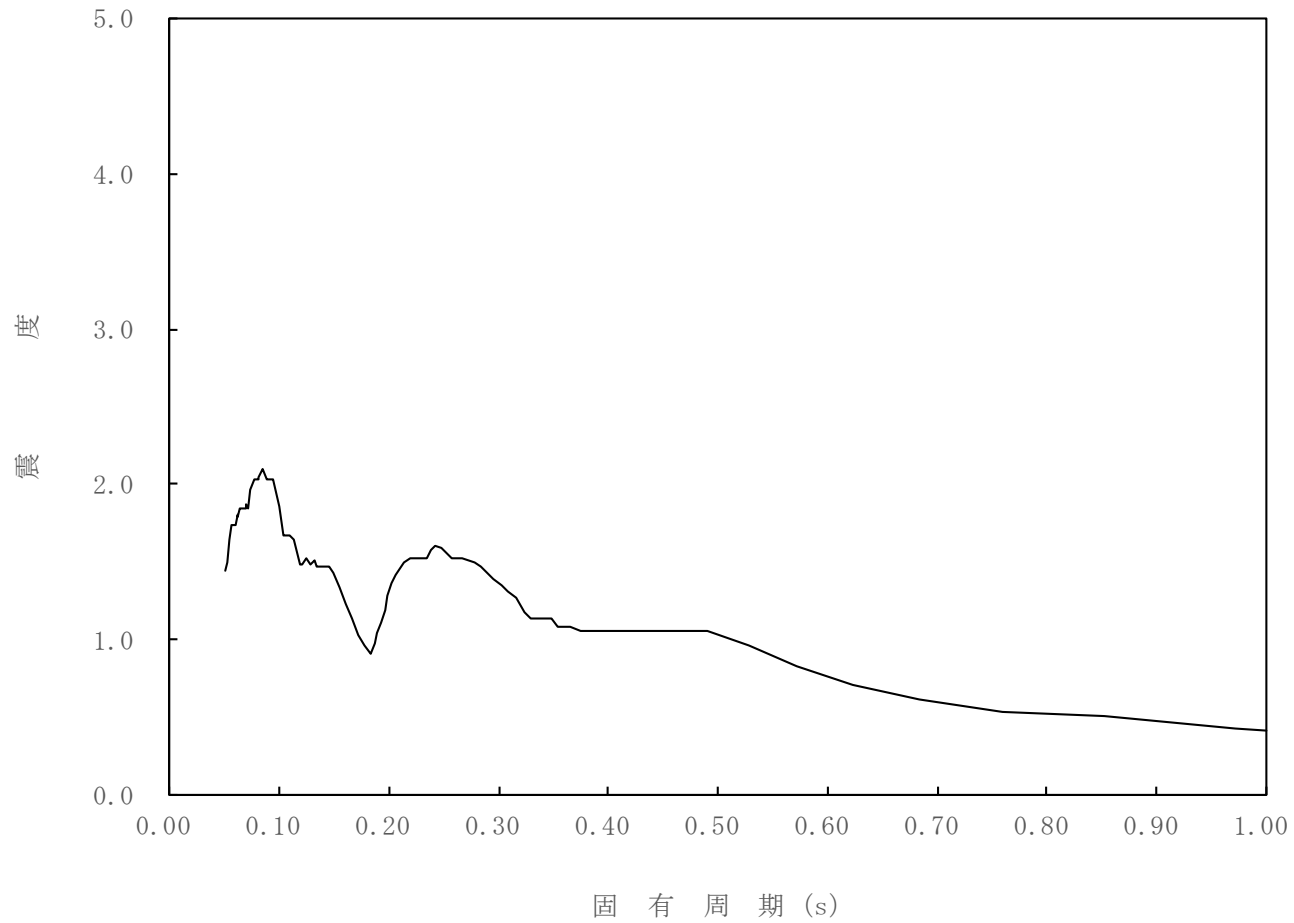
標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-61



【RB-SdH-RBB2-050】

構造物名：原子炉建屋

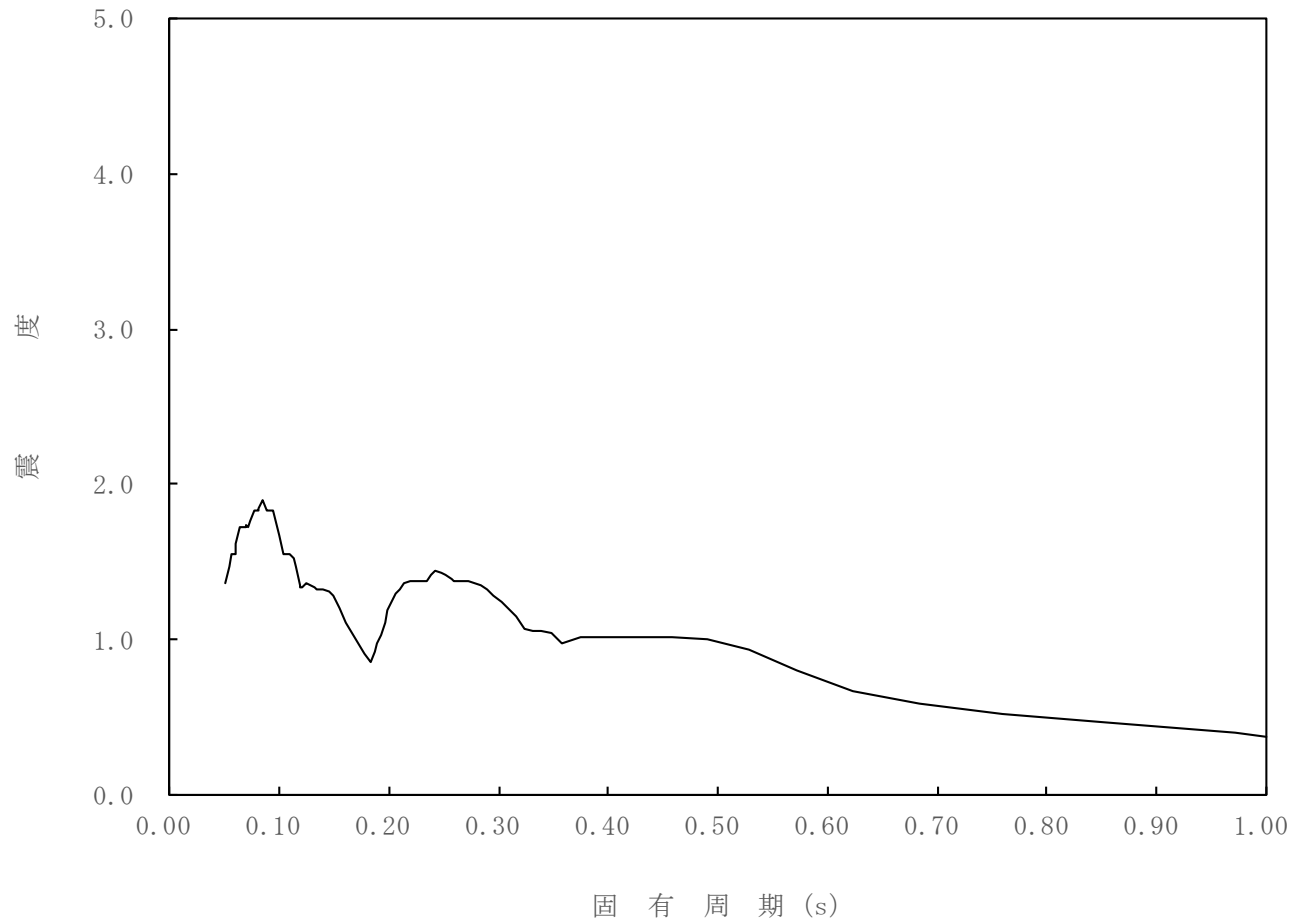
標高：0. P. -0.800m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-62



【RB-SdH-RBB3-005】

構造物名：原子炉建屋

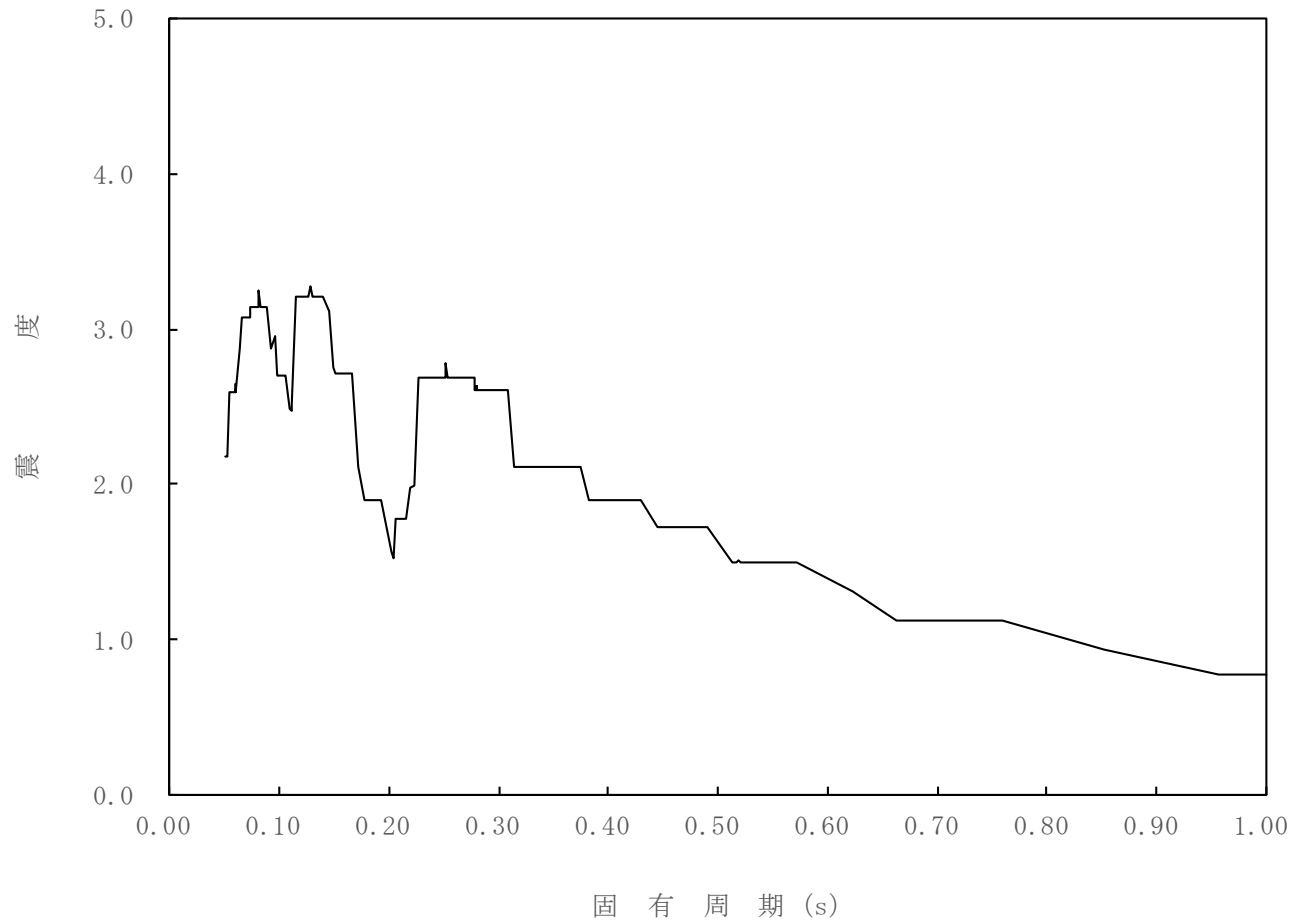
標高：0. P. -8.100m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-63



【RB-SdH-RBB3-010】

構造物名：原子炉建屋

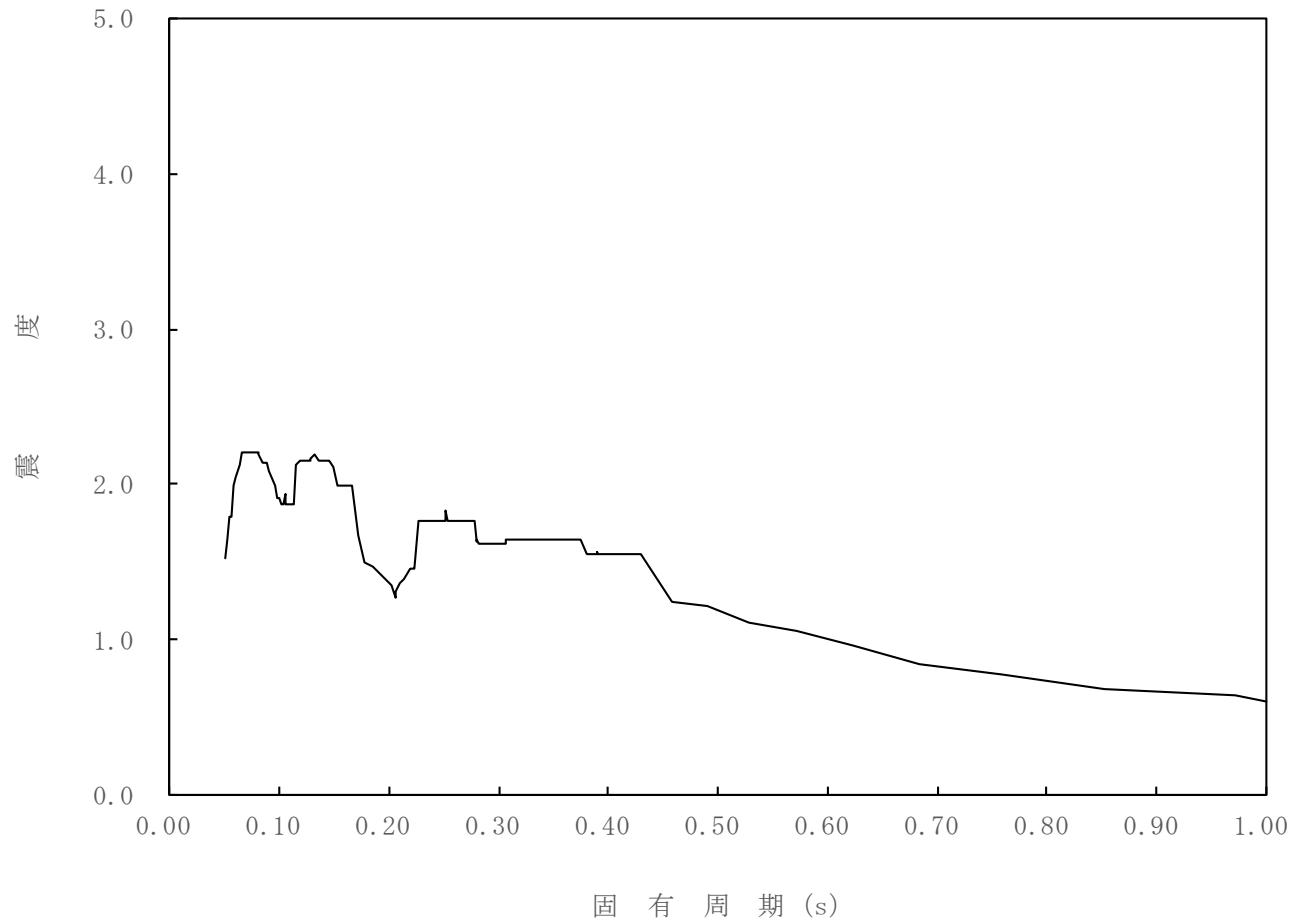
標高：0.P.-8.100m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-64





【RB-SdH-RBB3-015】

構造物名：原子炉建屋

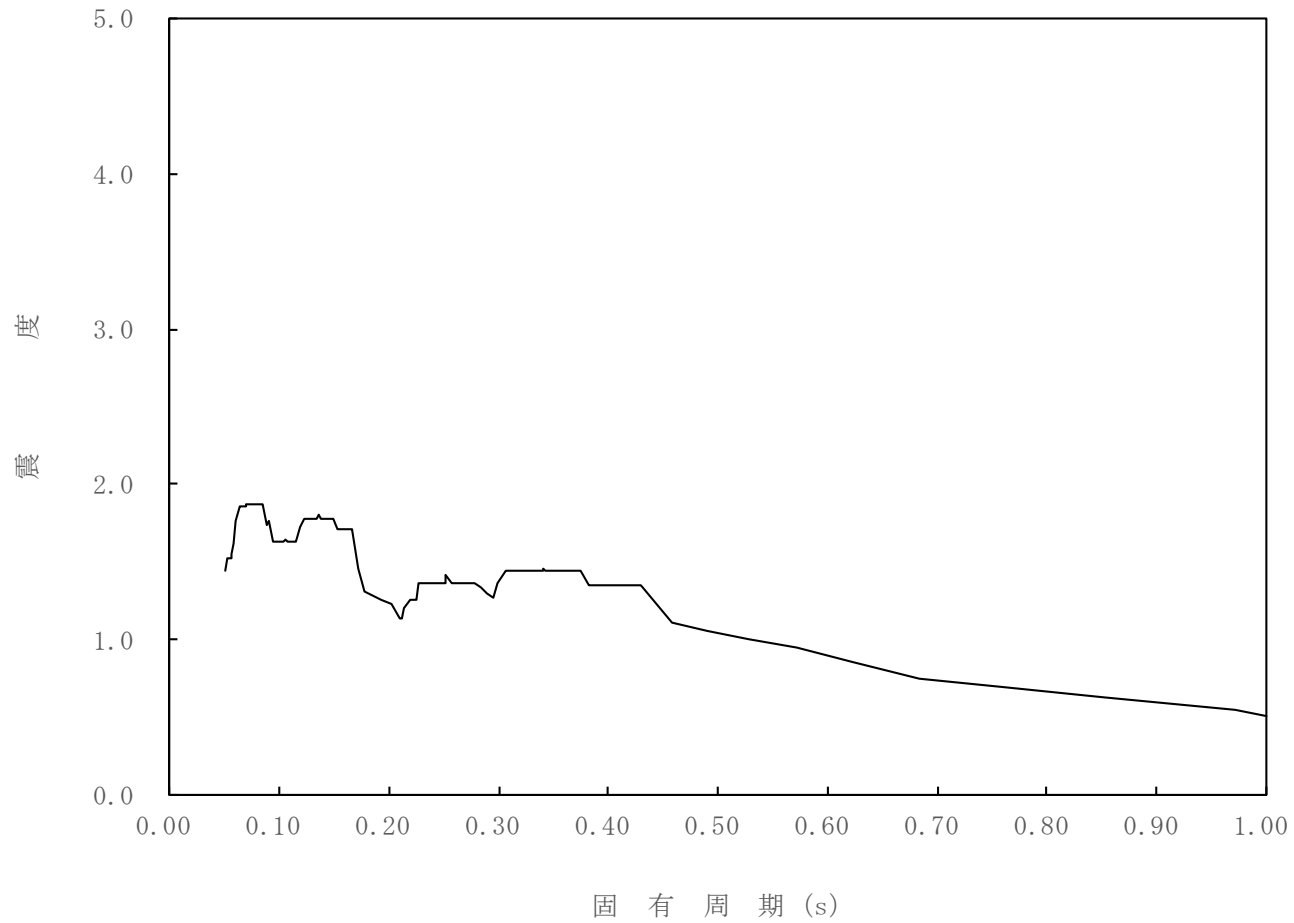
標高：0.P.-8.100m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-65



【RB-SdH-RBB3-020】

構造物名：原子炉建屋

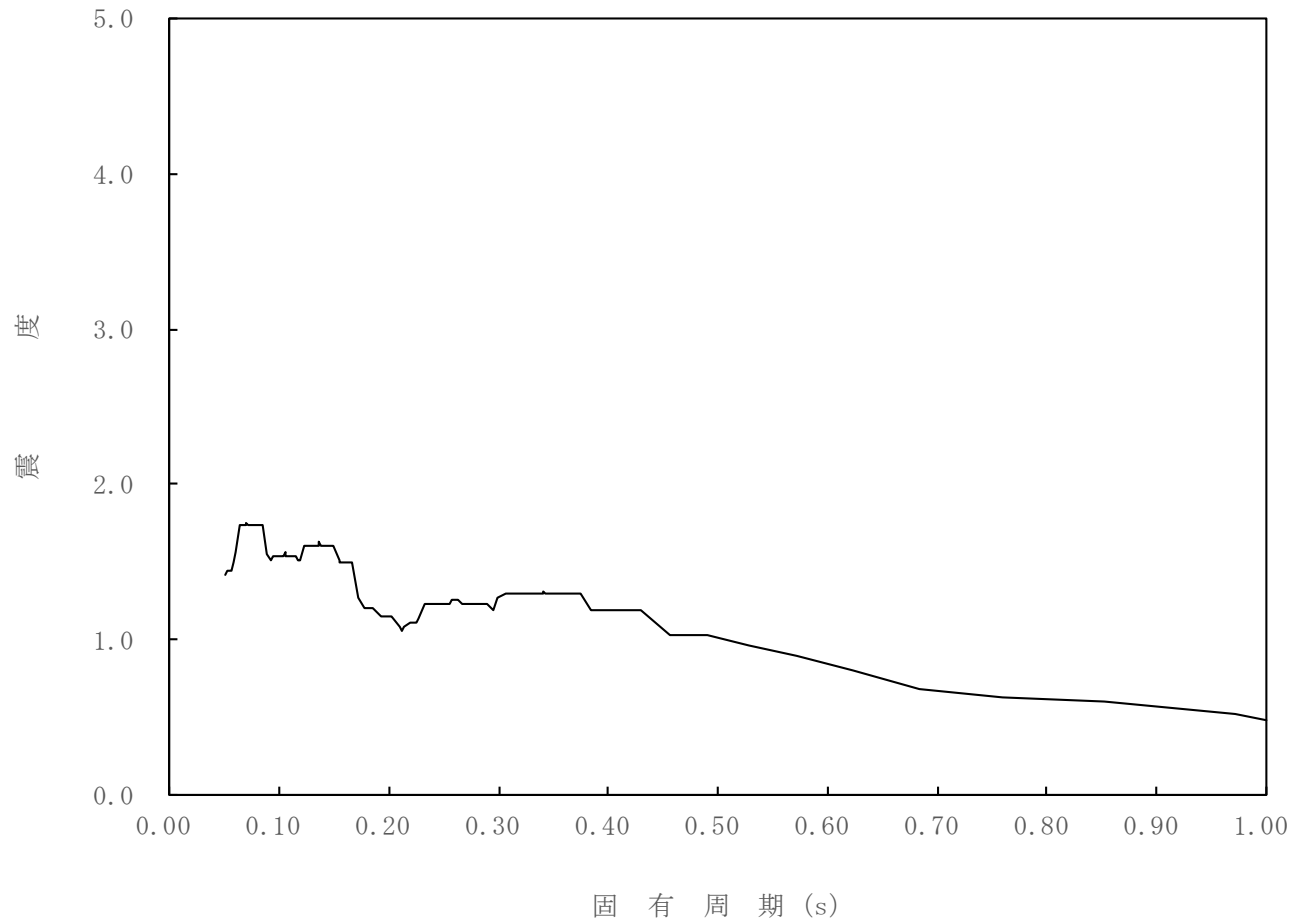
標高：0.P.-8.100m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-66



【RB-SdH-RBB3-025】

構造物名：原子炉建屋

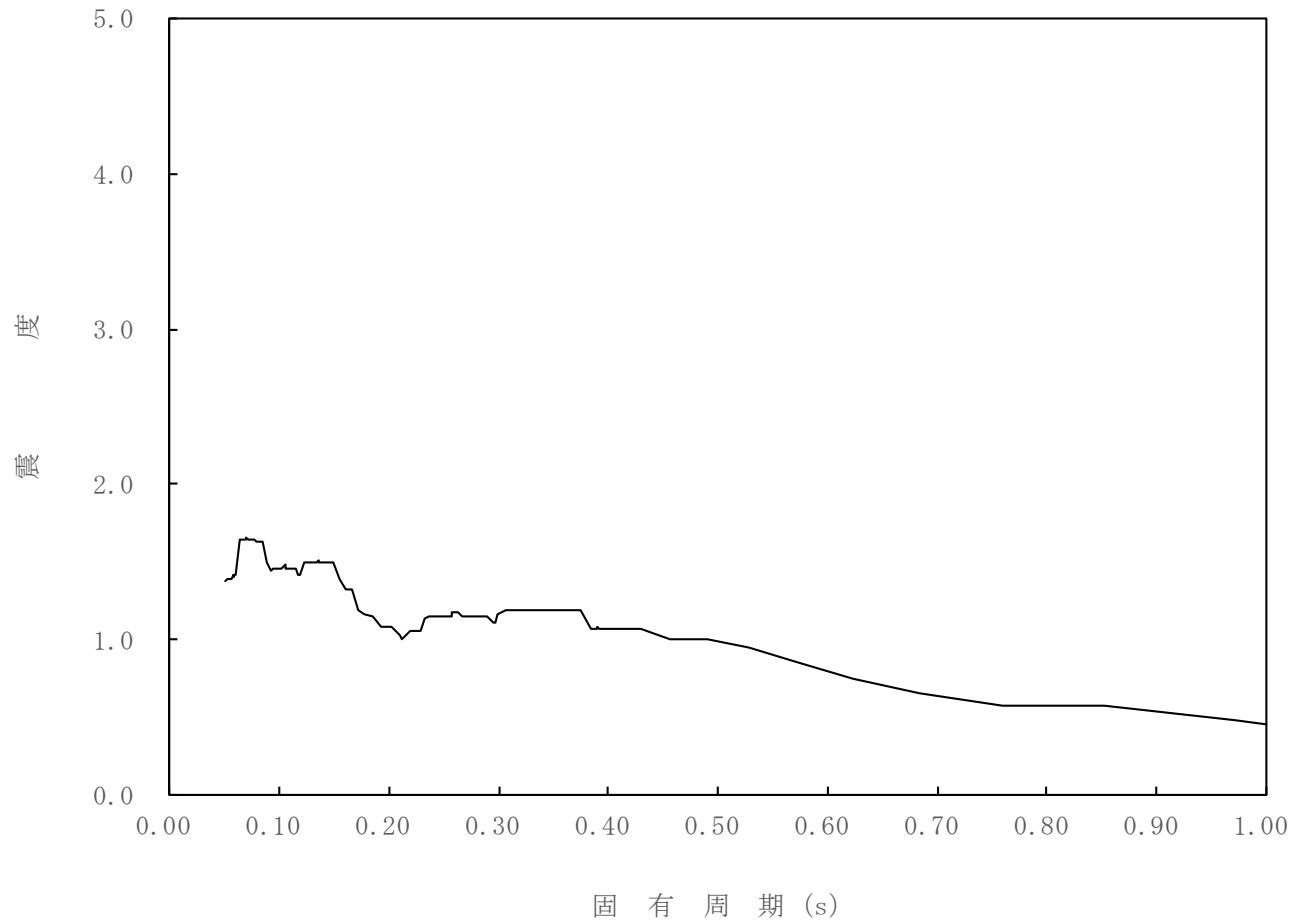
標高：0.P.-8.100m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-67



【RB-SdH-RBB3-030】

構造物名：原子炉建屋

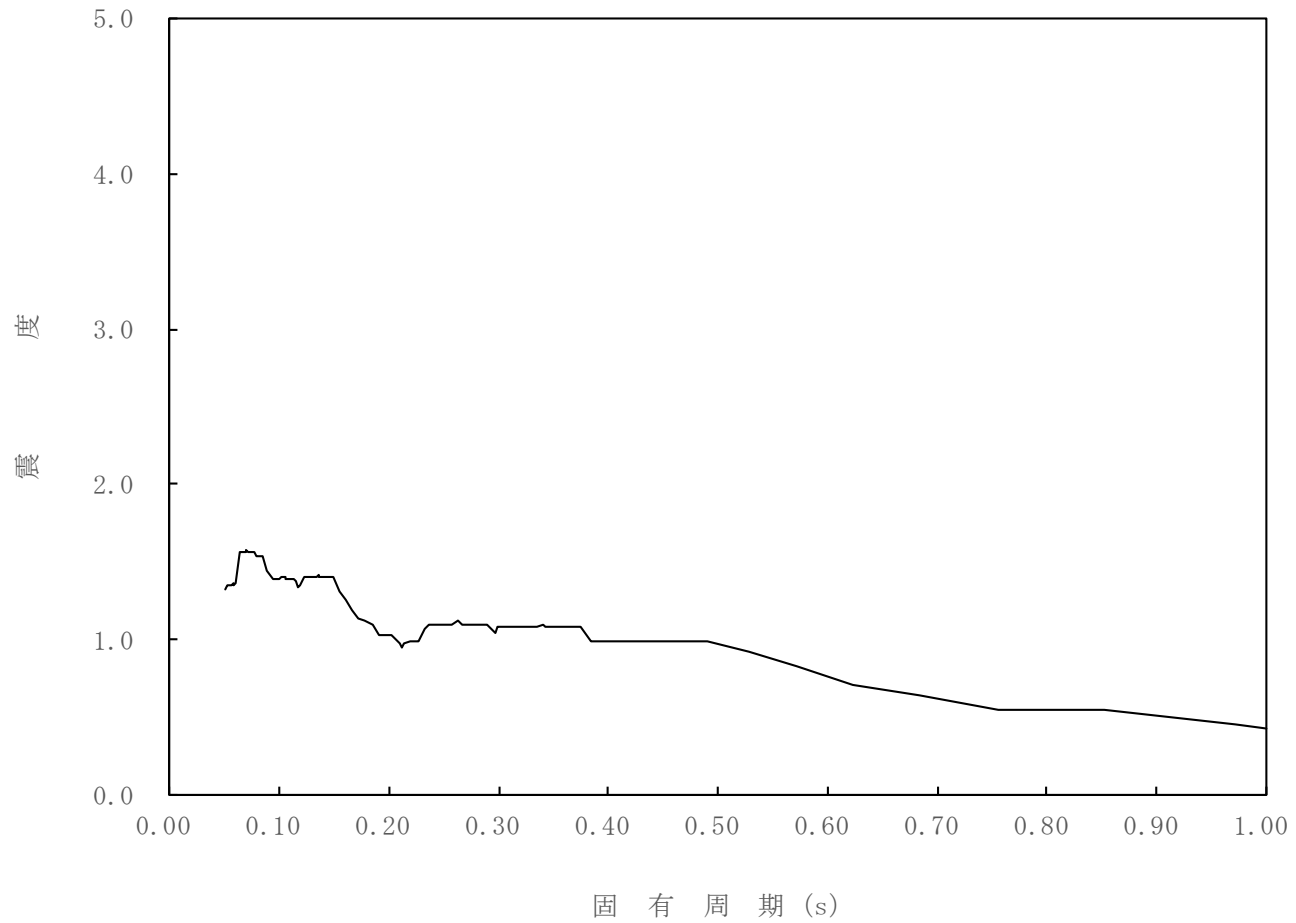
標高：0.P.-8.100m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-68



【RB-SdH-RBB3-040】

構造物名：原子炉建屋

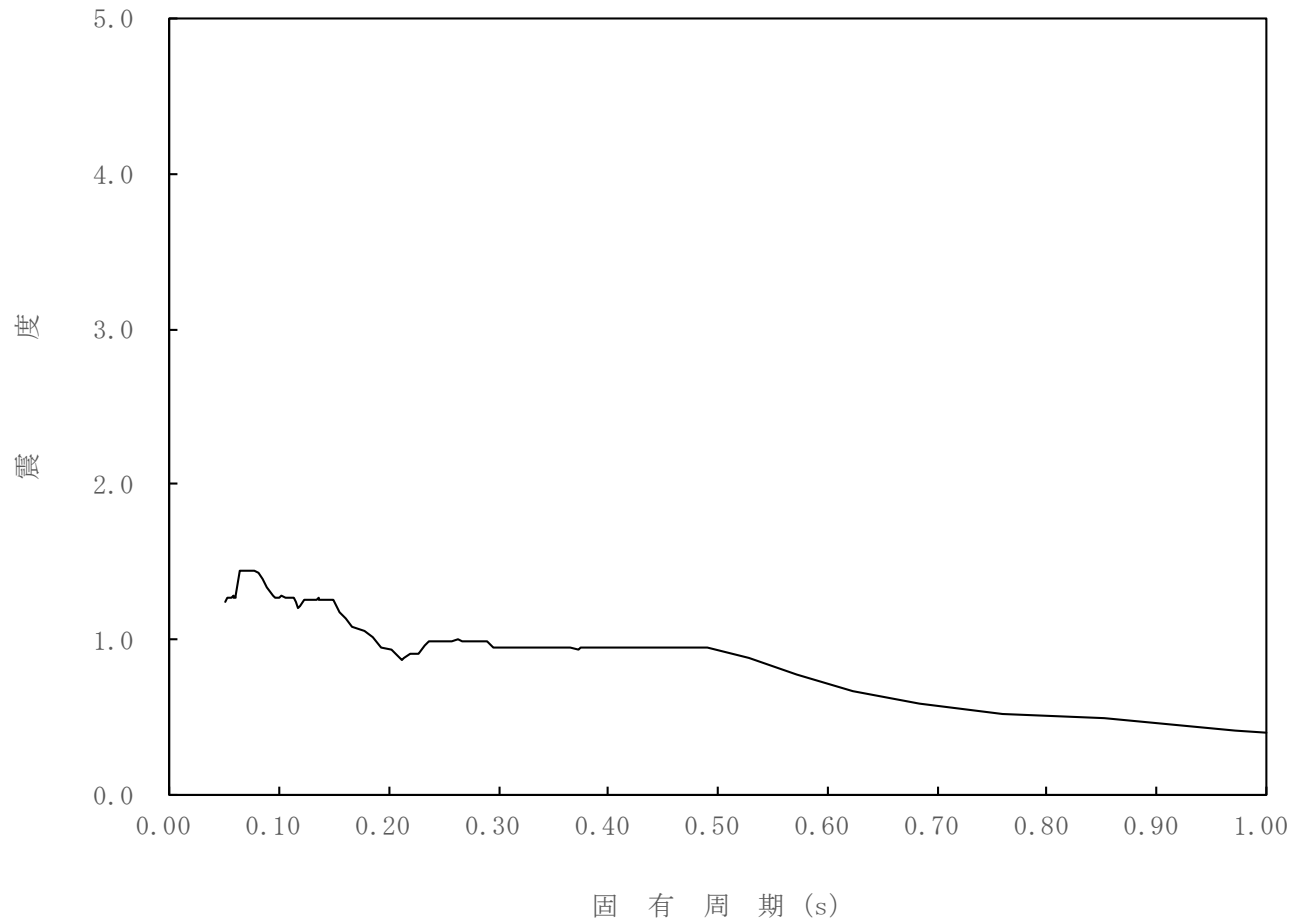
標高：0.P.-8.100m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-69



【RB-SdH-RBB3-050】

構造物名：原子炉建屋

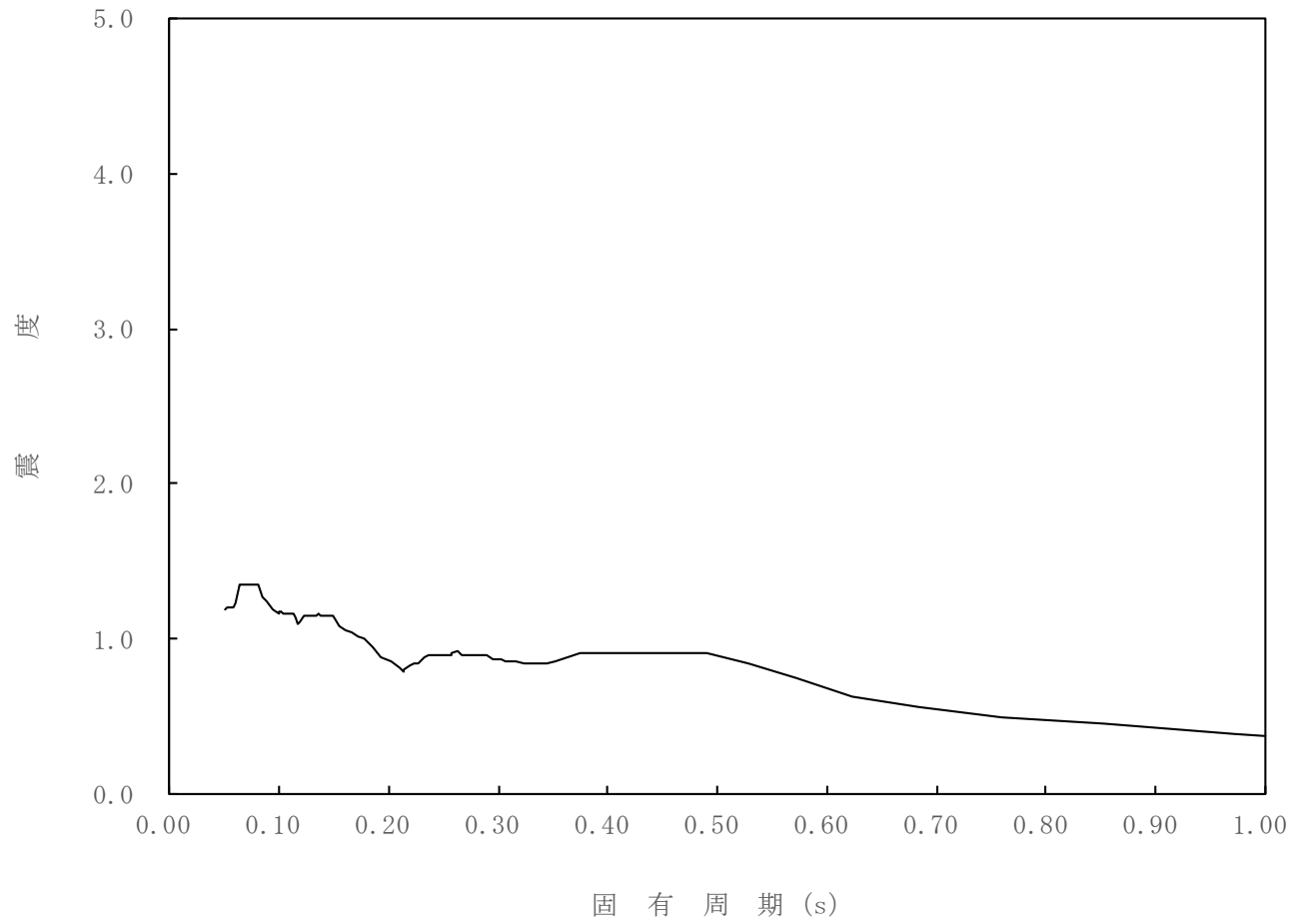
標高：0.P.-8.100m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-70



【RB-SdV-RB5-005】

構造物名：原子炉建屋

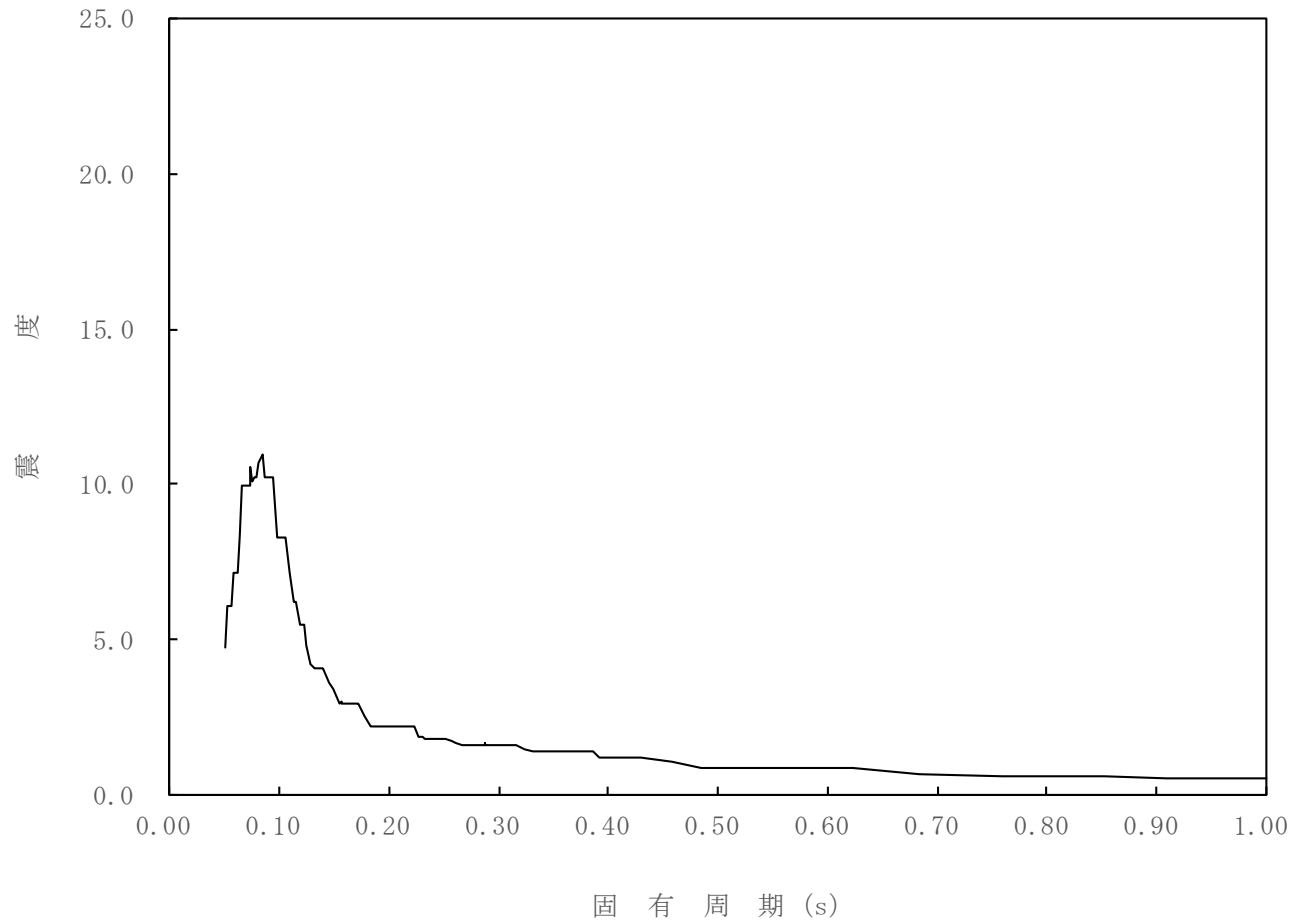
標高：0. P. 48.725m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-71



【RB-SdV-RB5-010】

構造物名：原子炉建屋

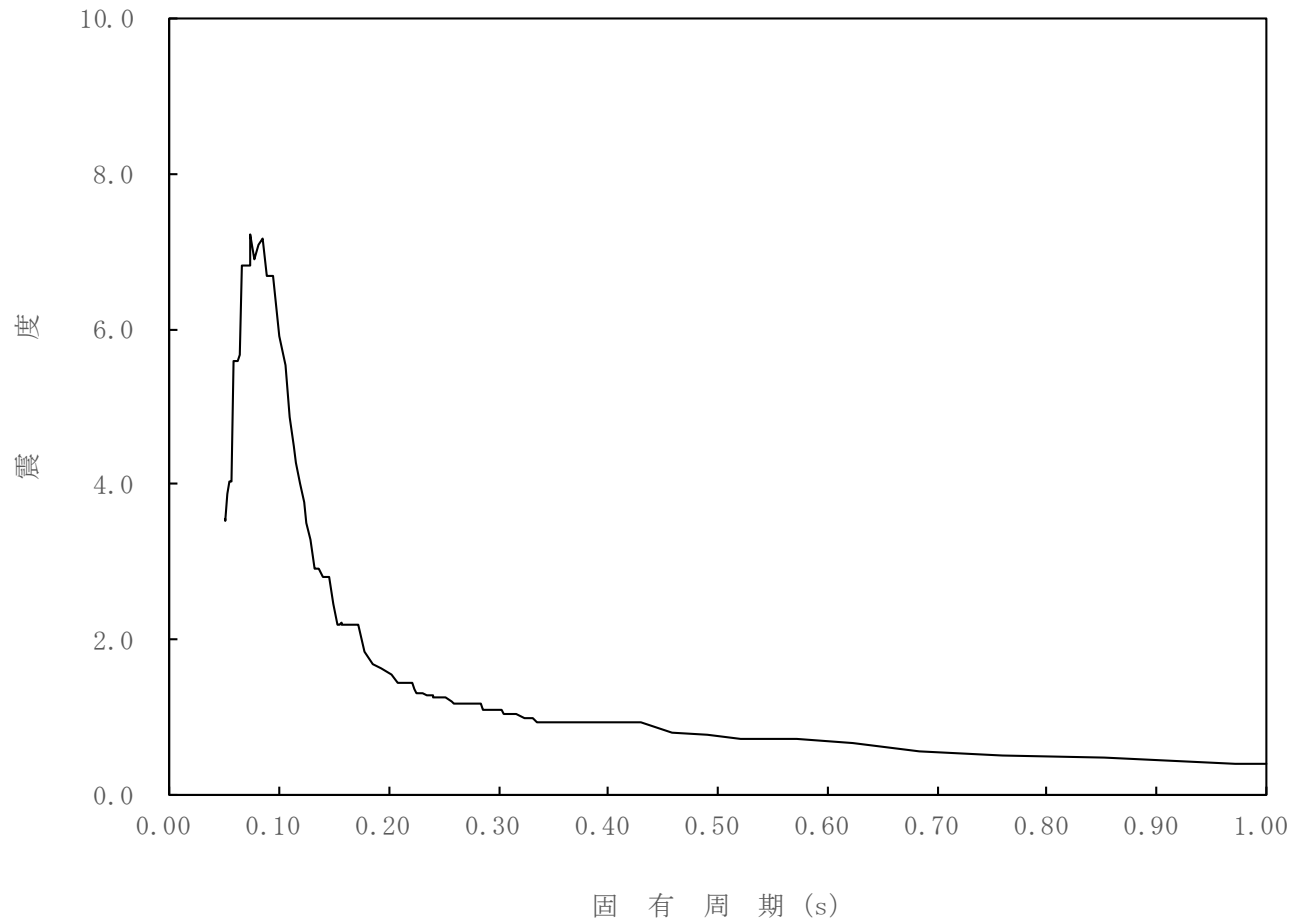
標高：0.P. 48.725m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-72





【RB-SdV-RB5-015】

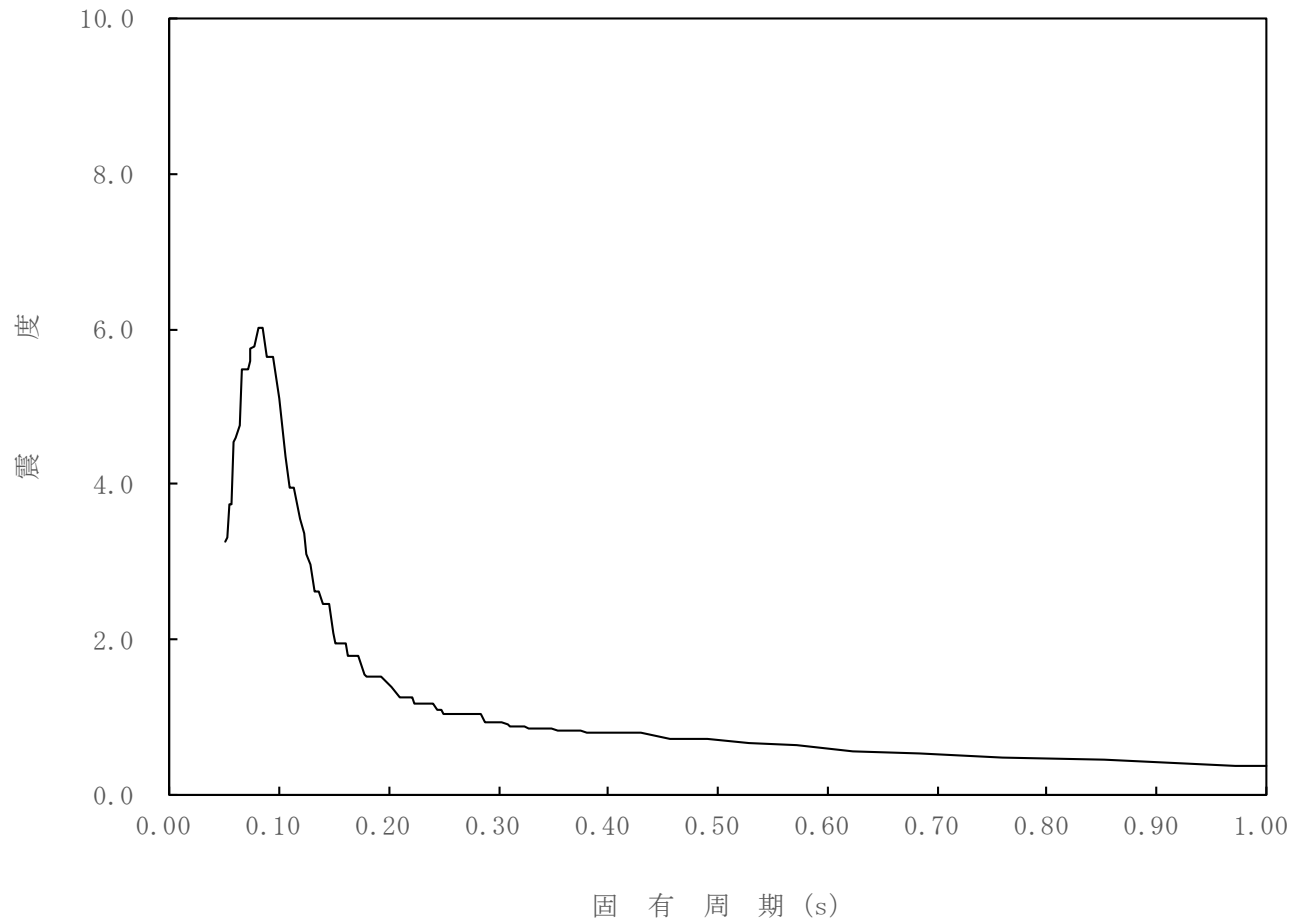
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 48.725m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-73

【RB-SdV-RB5-020】

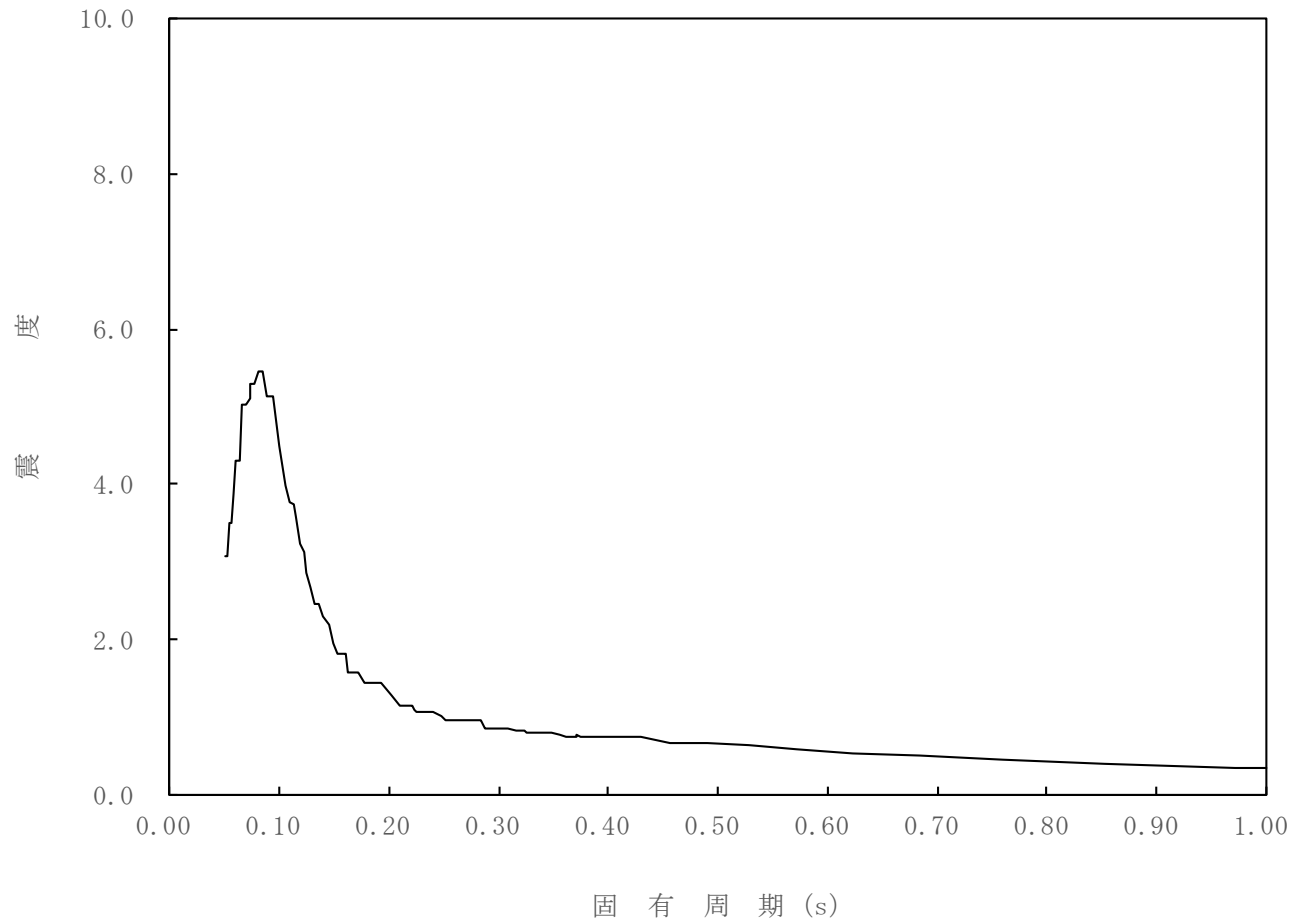
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 48.725m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-74

【RB-SdV-RB5-025】

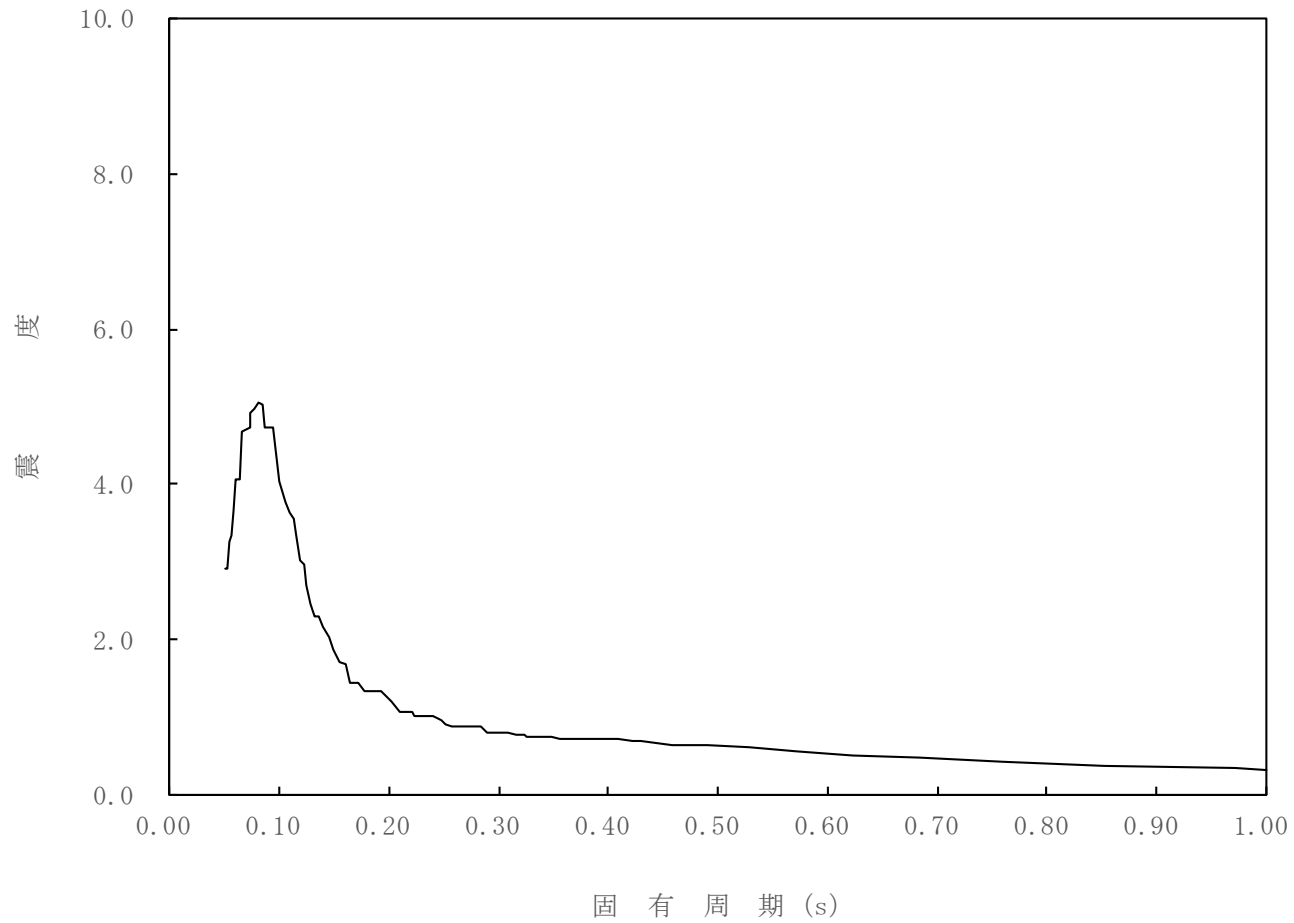
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 48.725m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-75

【RB-SdV-RB5-030】

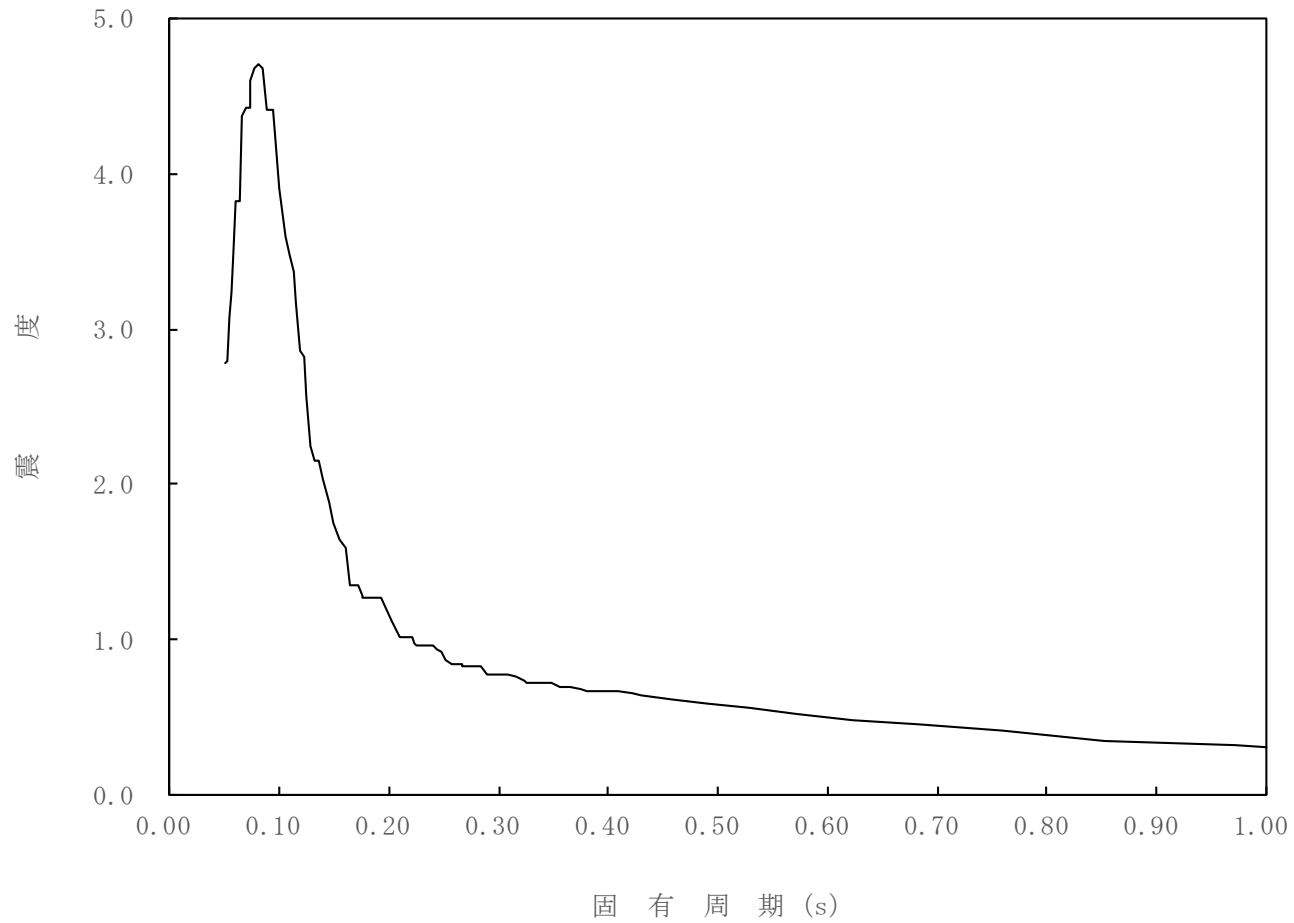
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 48.725m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-76

【RB-SdV-RB5-050】

構造物名：原子炉建屋

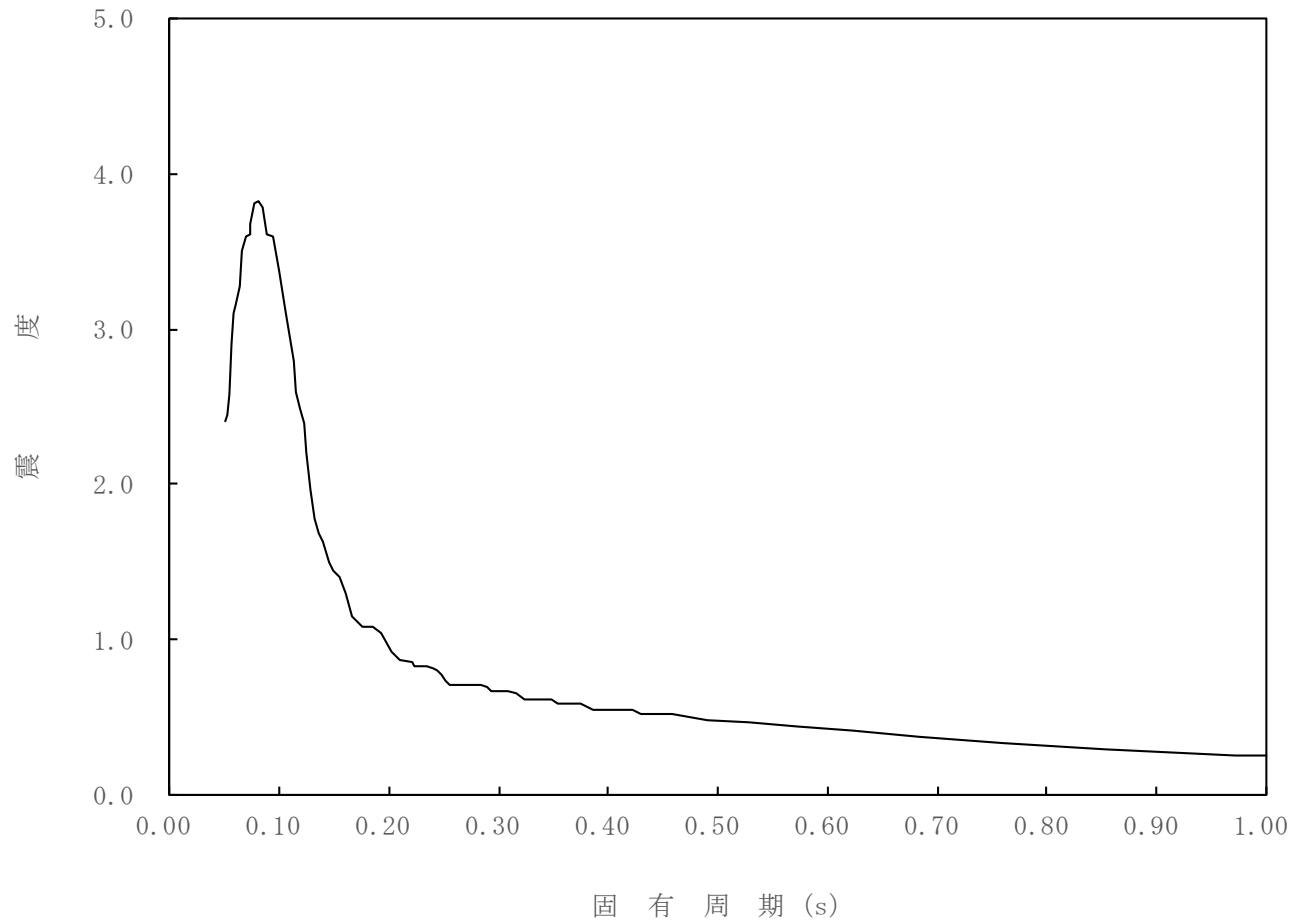
標高：0. P. 48.725m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-77



【RB-SdV-RB4-005】

構造物名：原子炉建屋

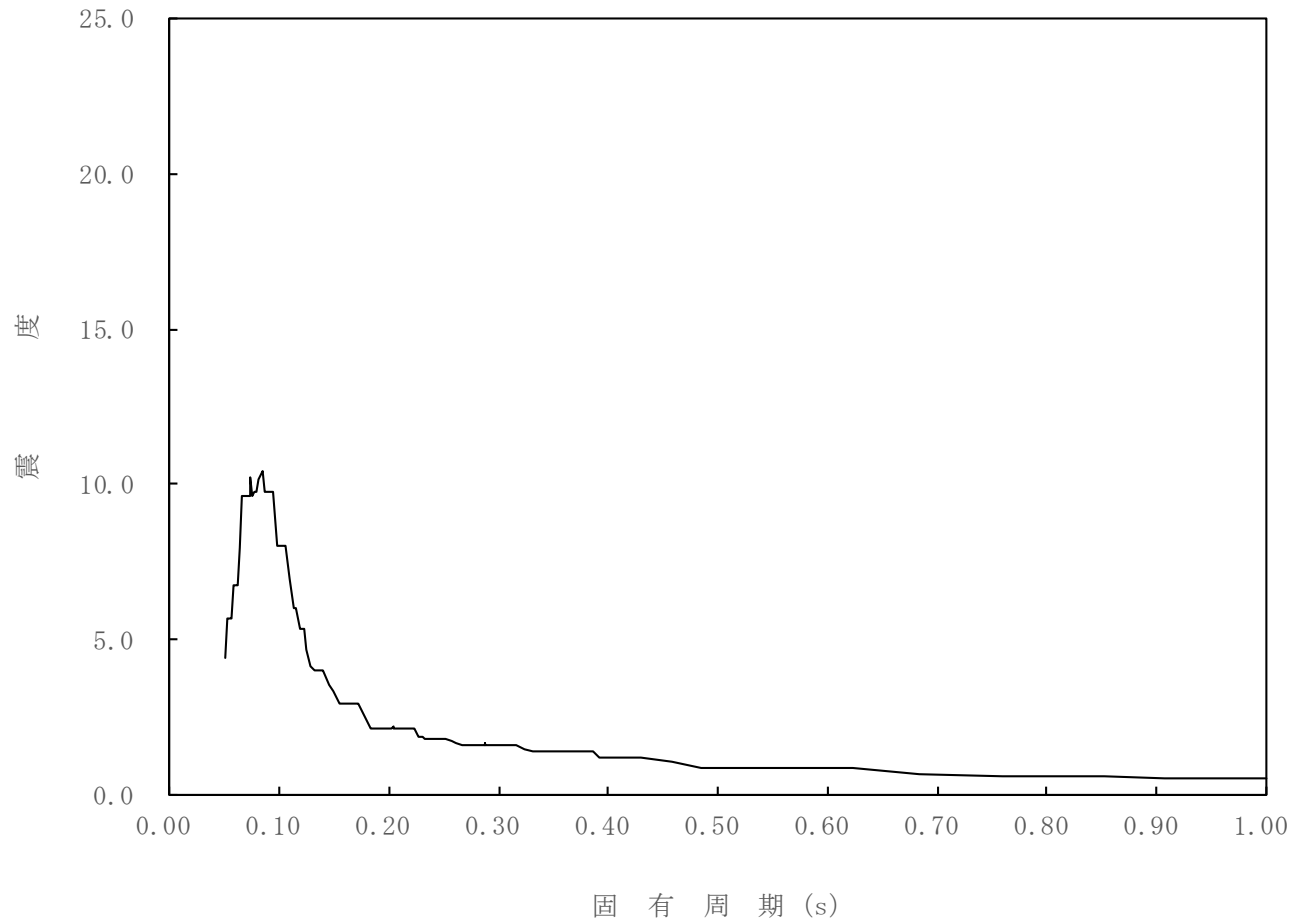
標高：0. P. 41.200m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-78



【RB-SdV-RB4-010】

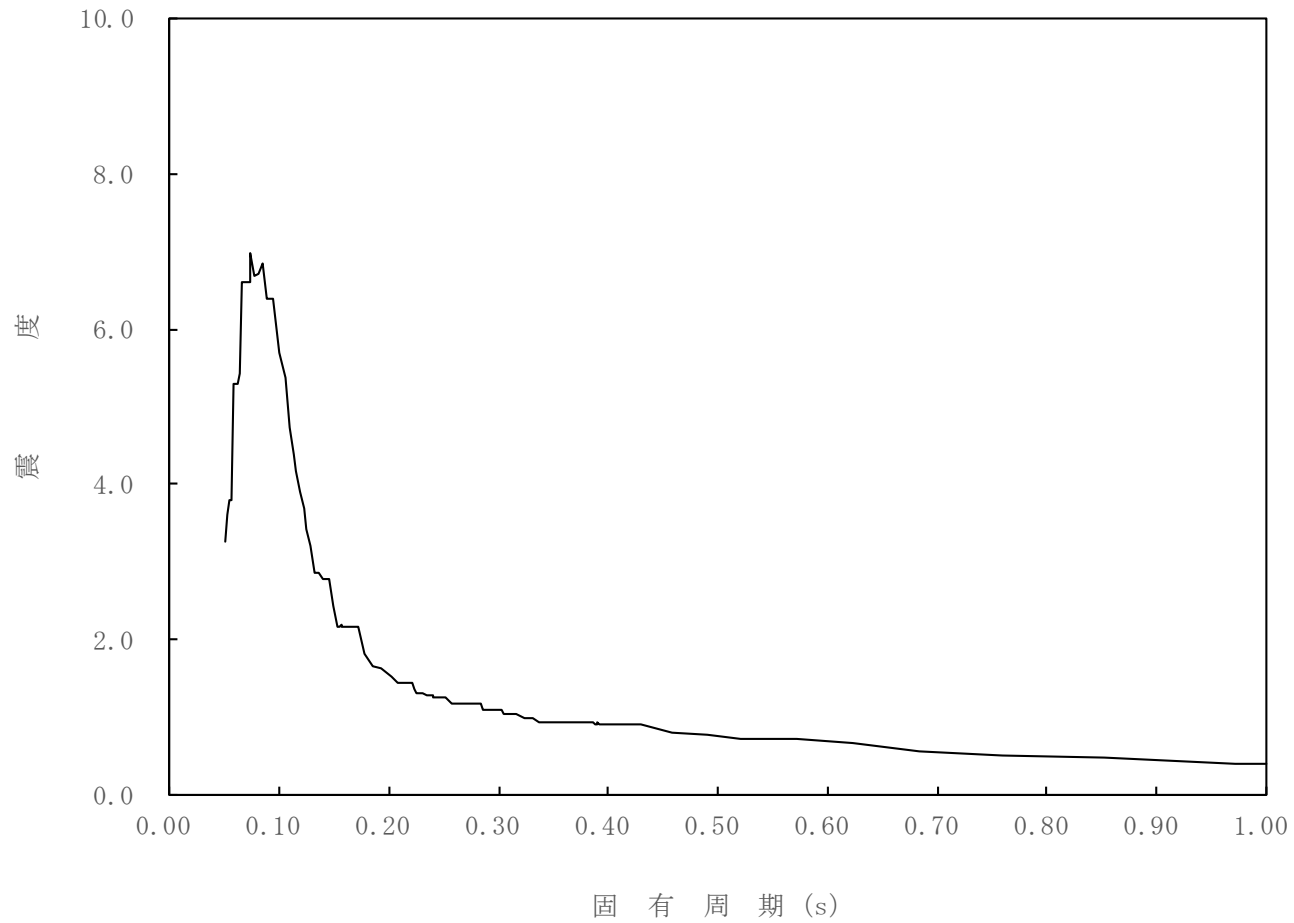
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 41.200m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-79

【RB-SdV-RB4-015】

構造物名：原子炉建屋

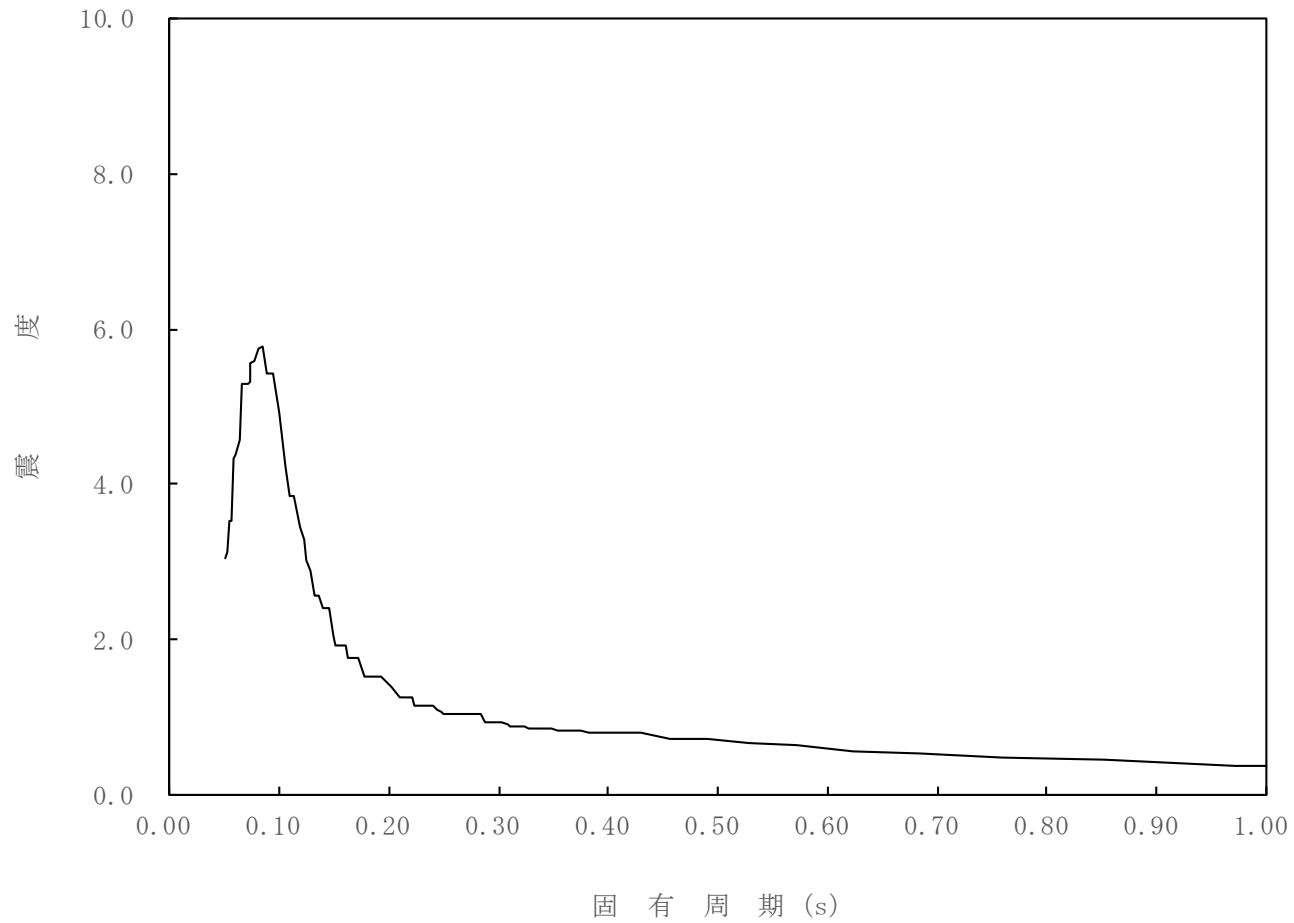
標高：0. P. 41.200m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-80





【RB-SdV-RB4-020】

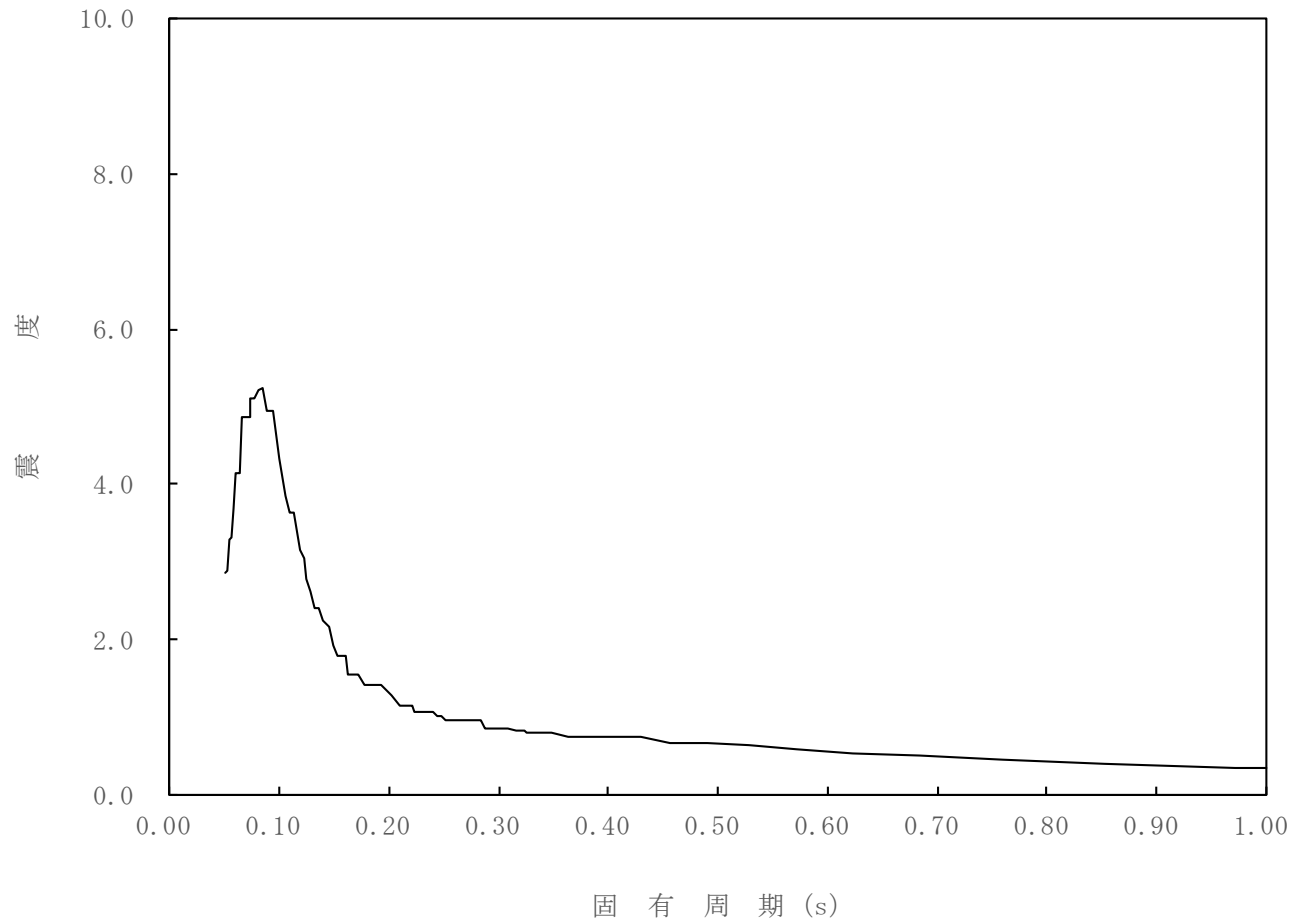
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 41.200m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RB4-025】

構造物名：原子炉建屋

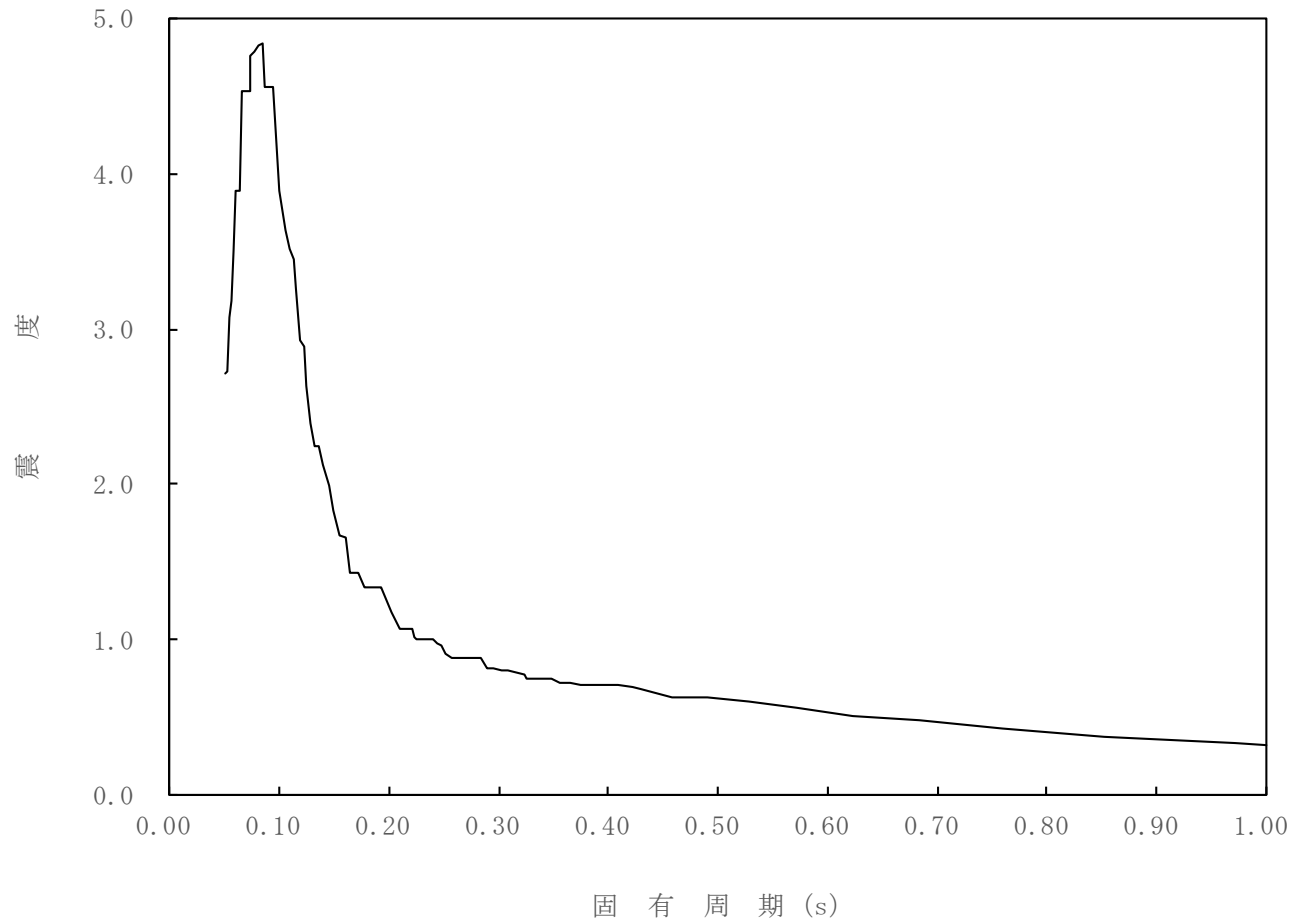
標高：0. P. 41. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：2. 5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-82



【RB-SdV-RB4-030】

構造物名：原子炉建屋

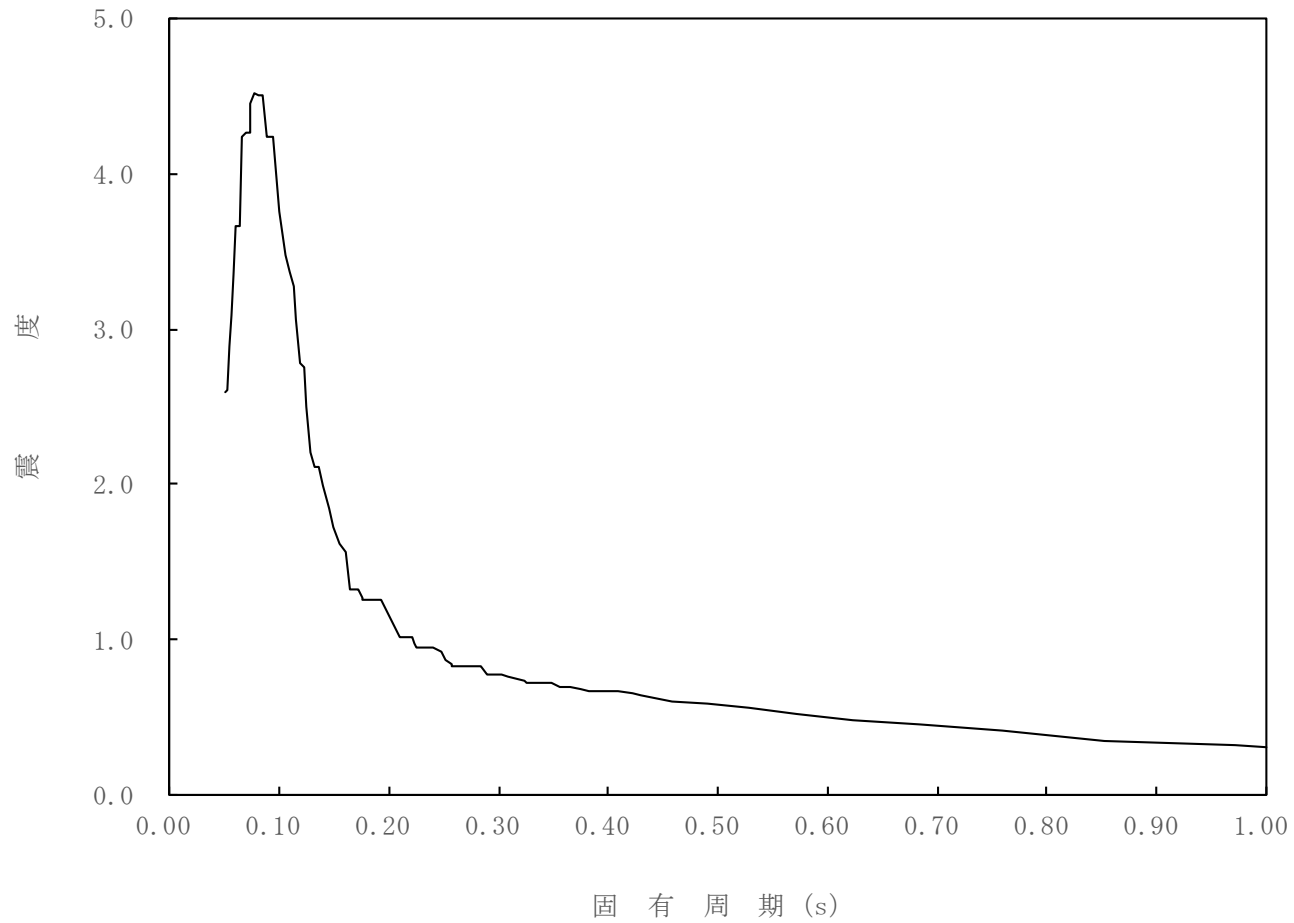
標高：0.P. 41.200m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-83



【RB-SdV-RB4-050】

構造物名：原子炉建屋

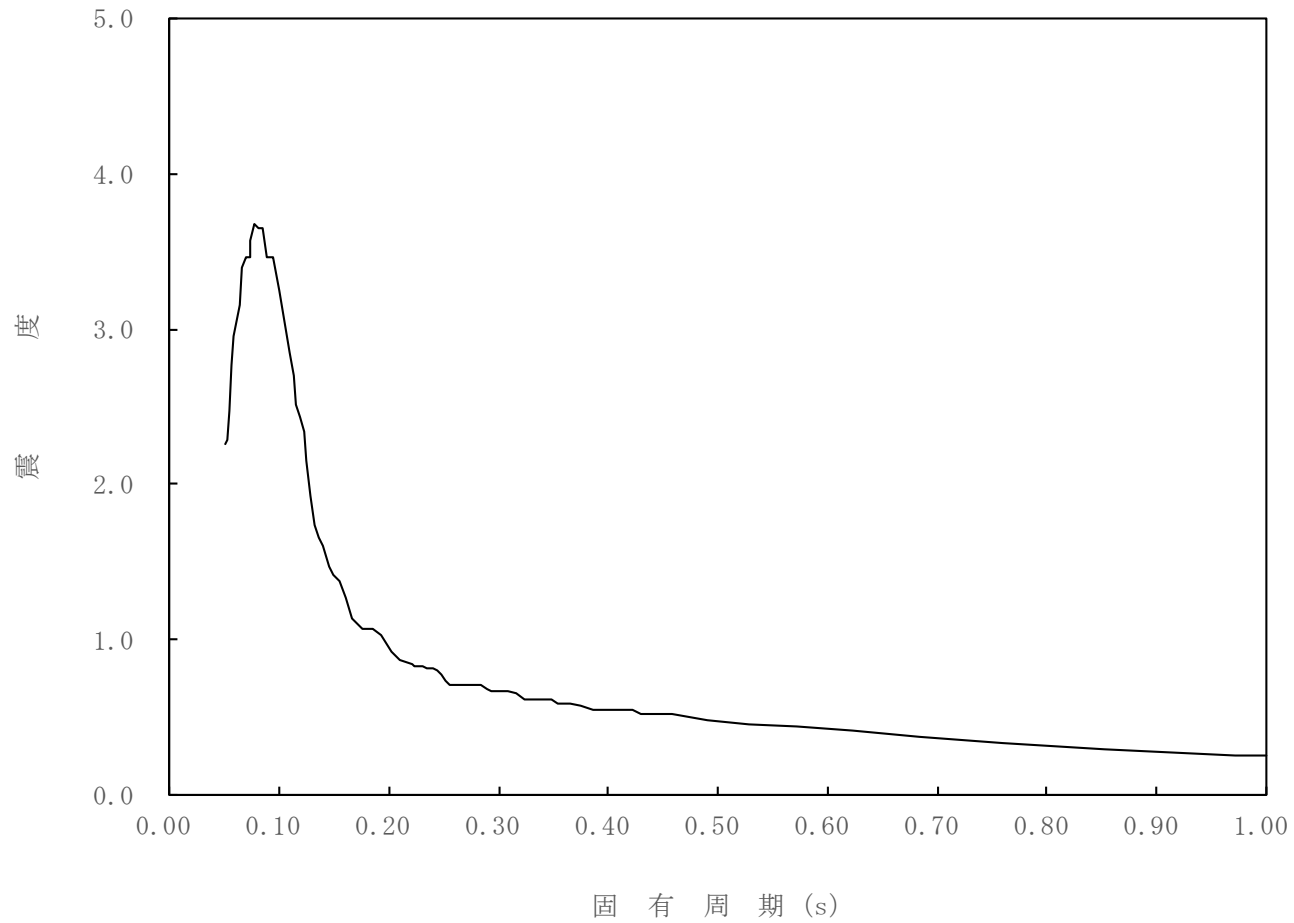
標高：0. P. 41. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：5. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-84



【RB-SdV-RB3-005】

構造物名：原子炉建屋

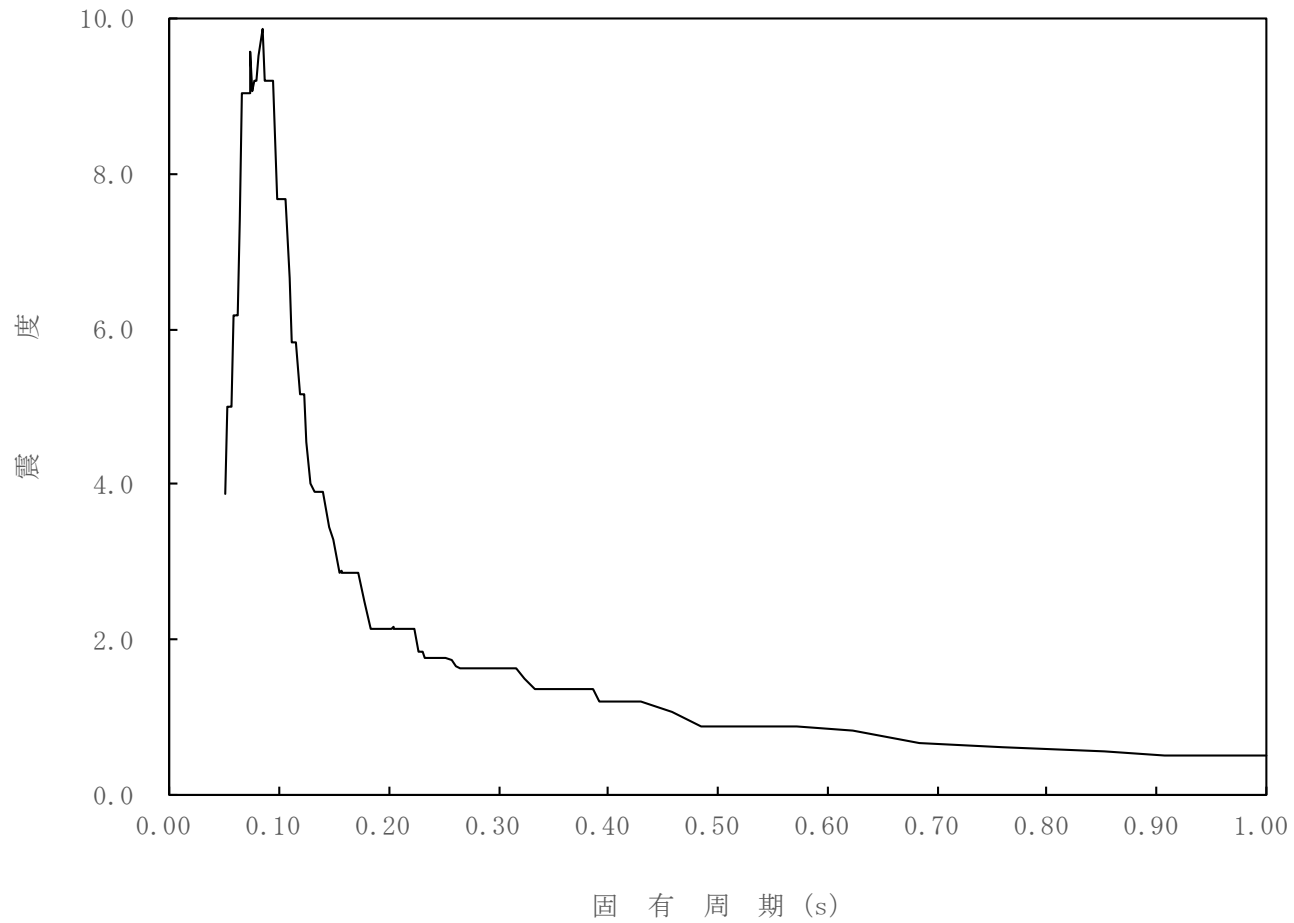
標高：0. P. 33. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：0. 5%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-85



【RB-SdV-RB3-010】

構造物名：原子炉建屋

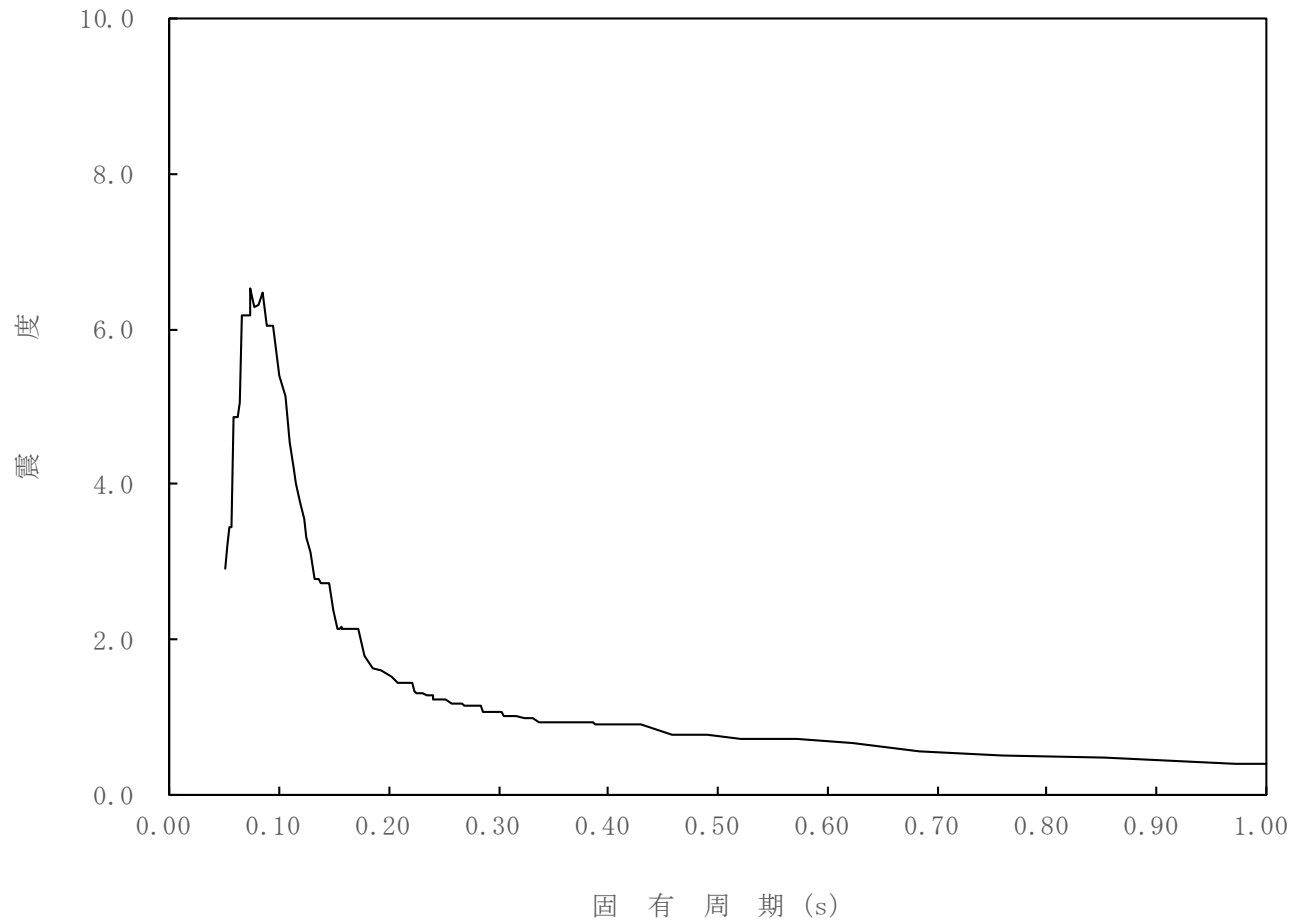
標高：0. P. 33. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：1. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-86



【RB-SdV-RB3-015】

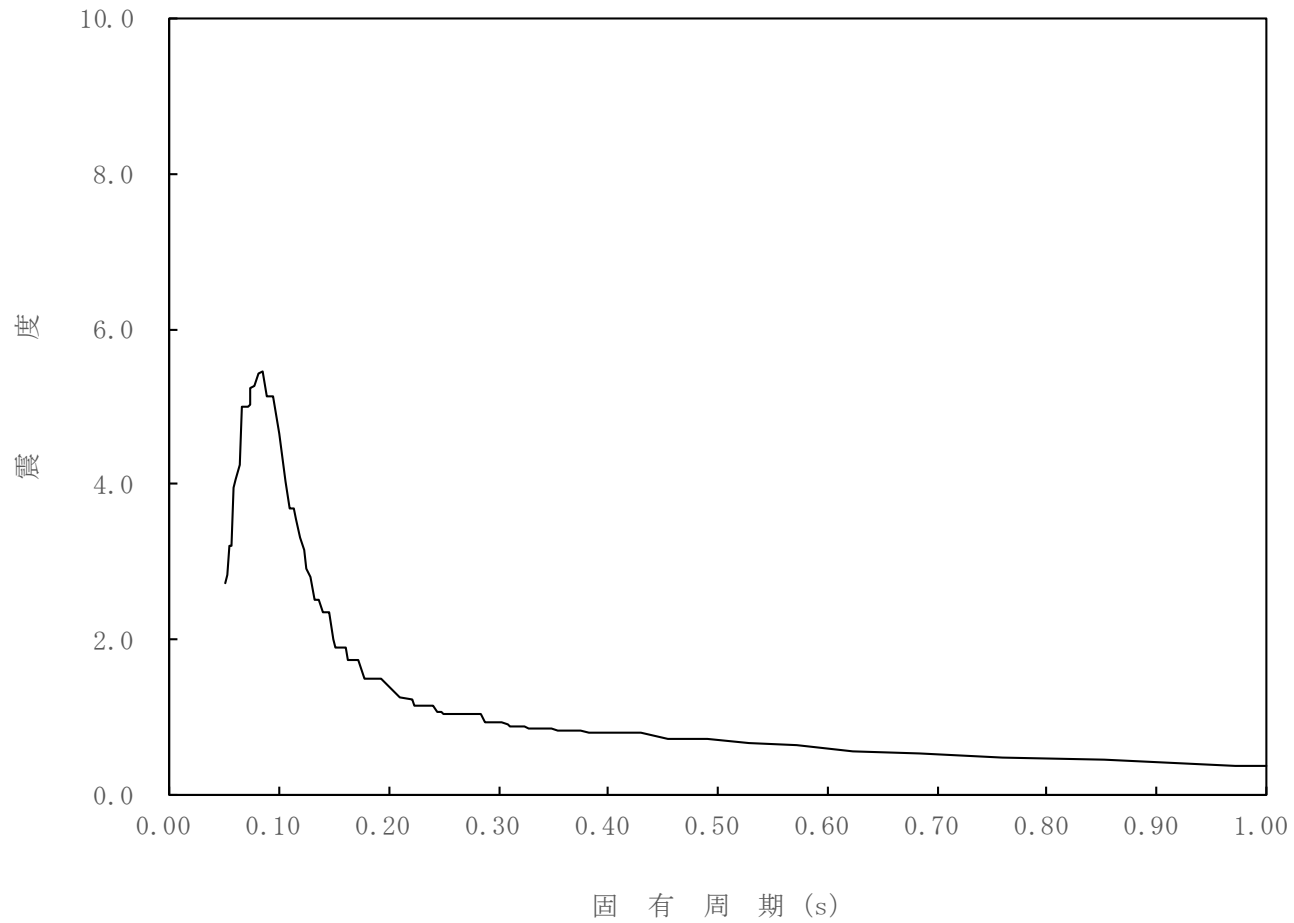
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 33. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：1. 5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-87

【RB-SdV-RB3-020】

構造物名：原子炉建屋

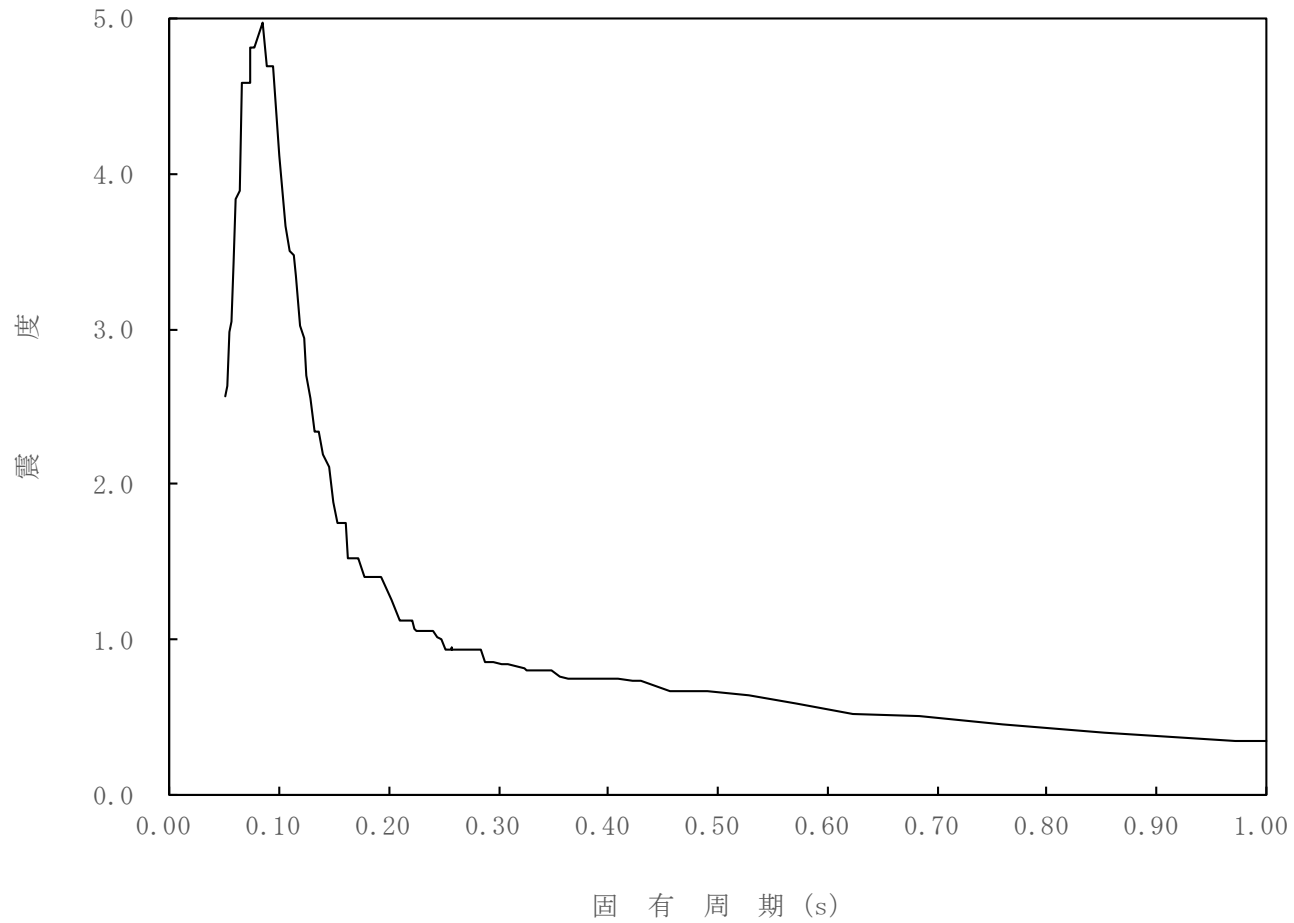
標高：0. P. 33. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：2. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-88





【RB-SdV-RB3-025】

構造物名：原子炉建屋

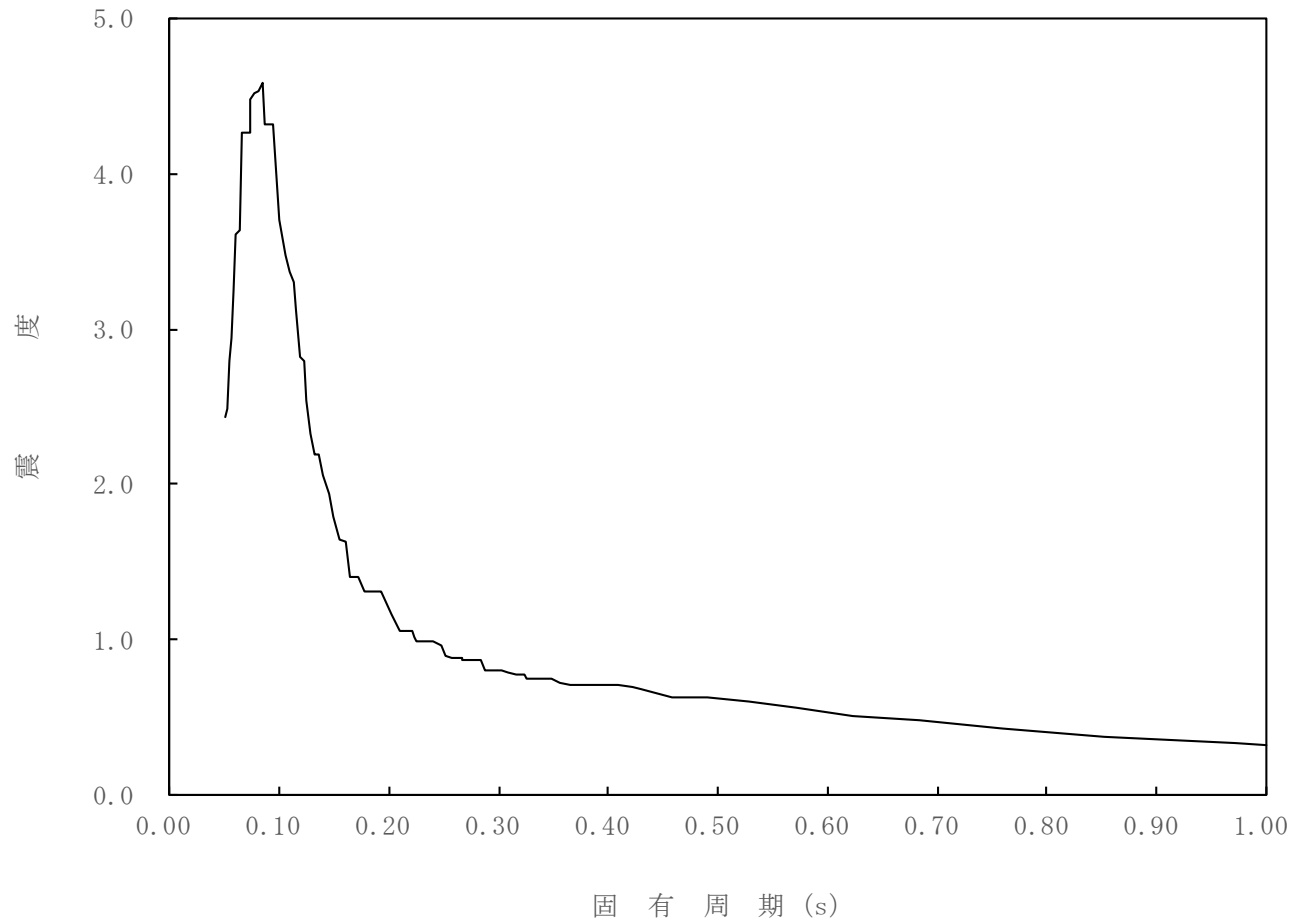
標高：0.P. 33.200m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-89



【RB-SdV-RB3-030】

構造物名：原子炉建屋

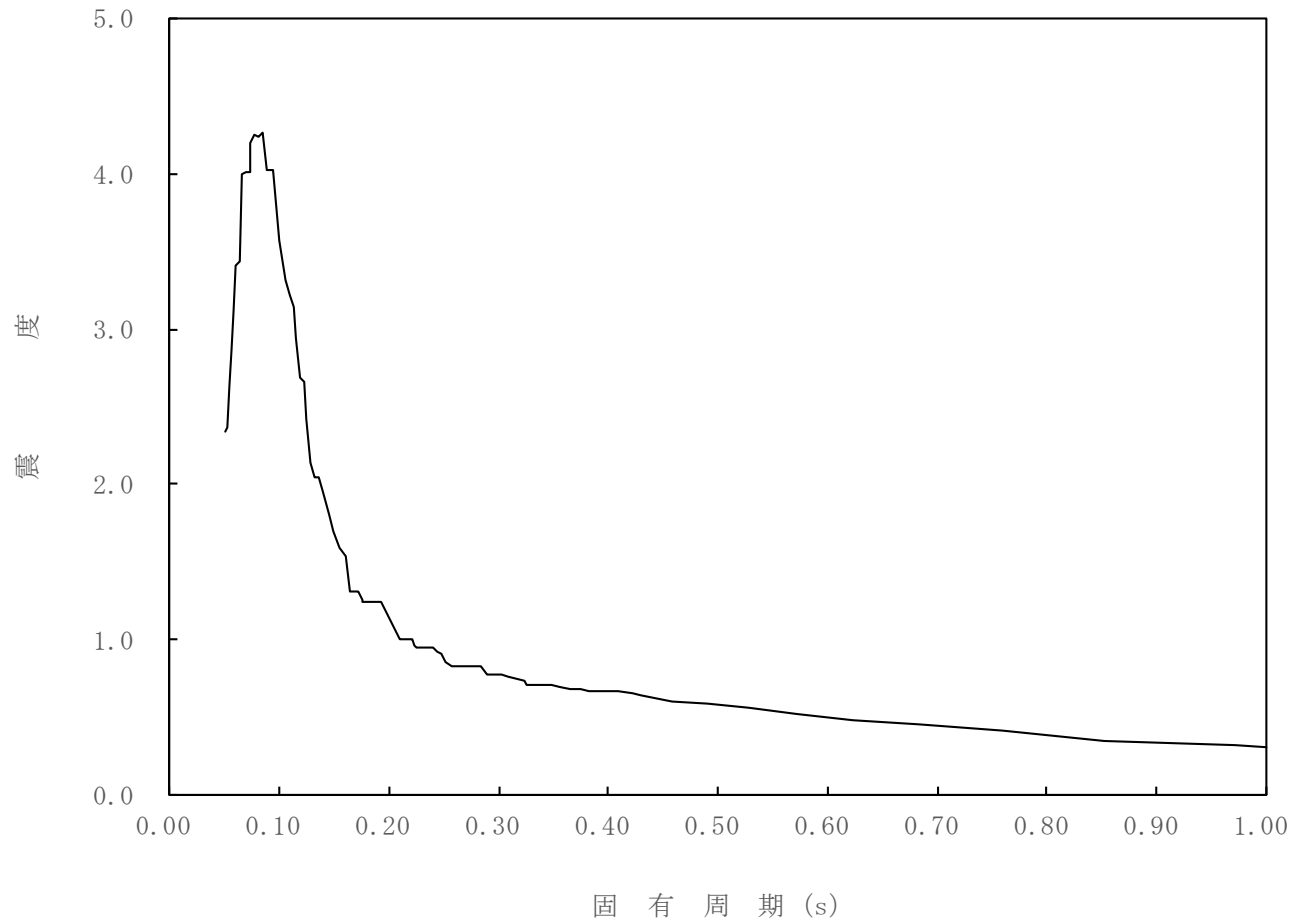
標高：0. P. 33. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：3. 0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-90



【RB-SdV-RB3-050】

構造物名：原子炉建屋

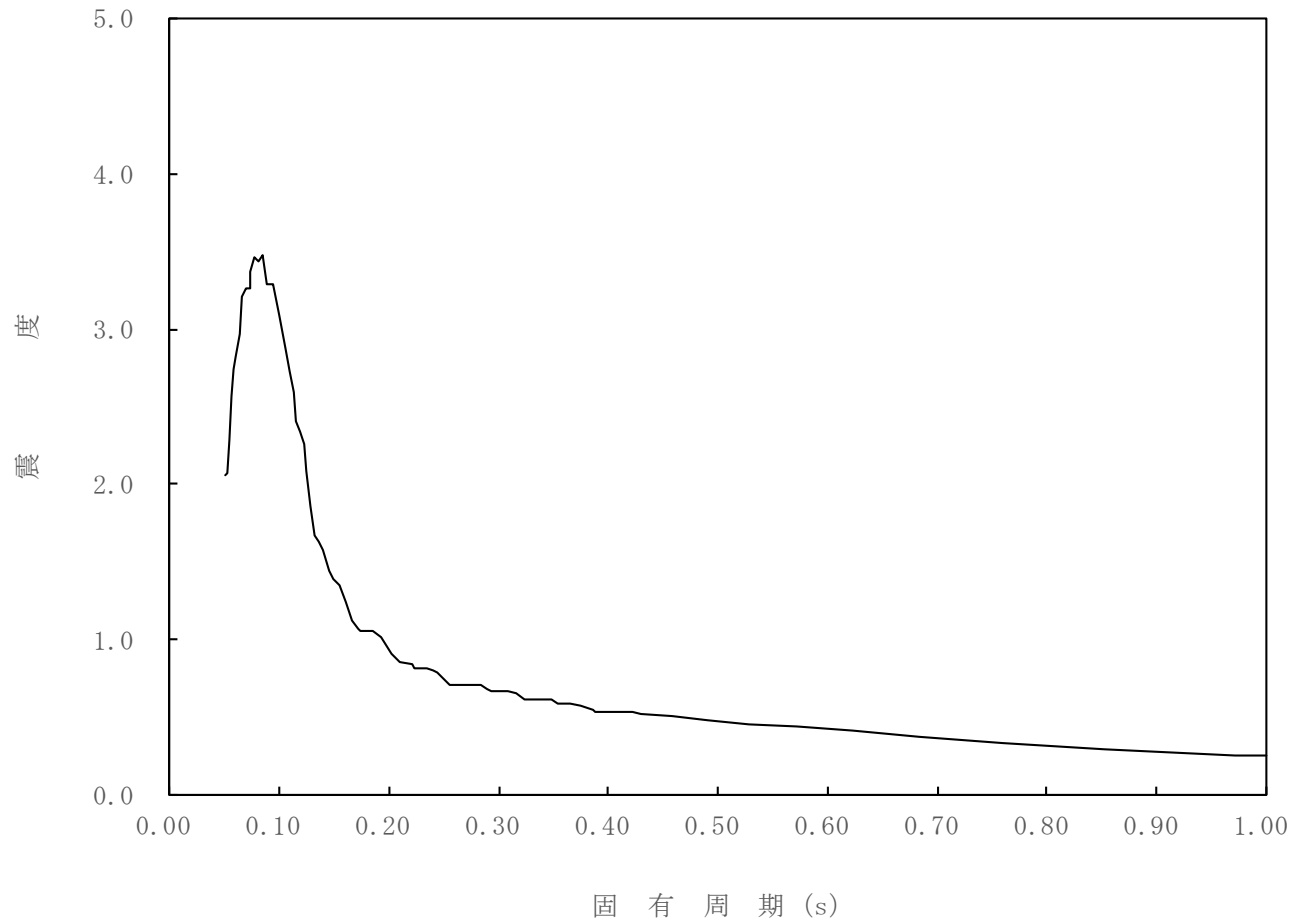
標高：0. P. 33. 200m

—— 鉛直方向

減衰定数：5. 0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-91



【RB-SdV-RB2-005】

構造物名：原子炉建屋

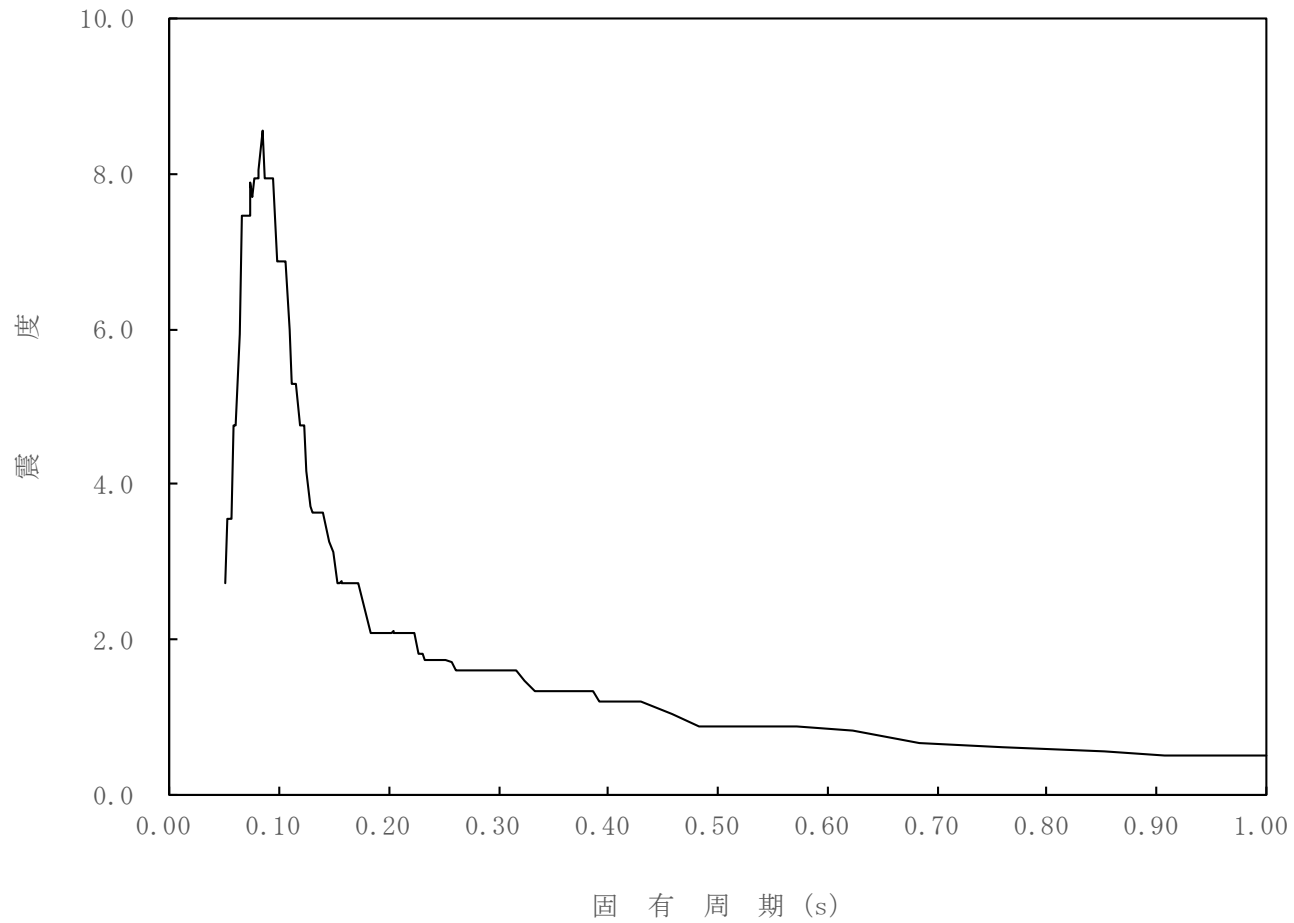
標高：0.P. 22.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-92



【RB-SdV-RB2-010】

構造物名：原子炉建屋

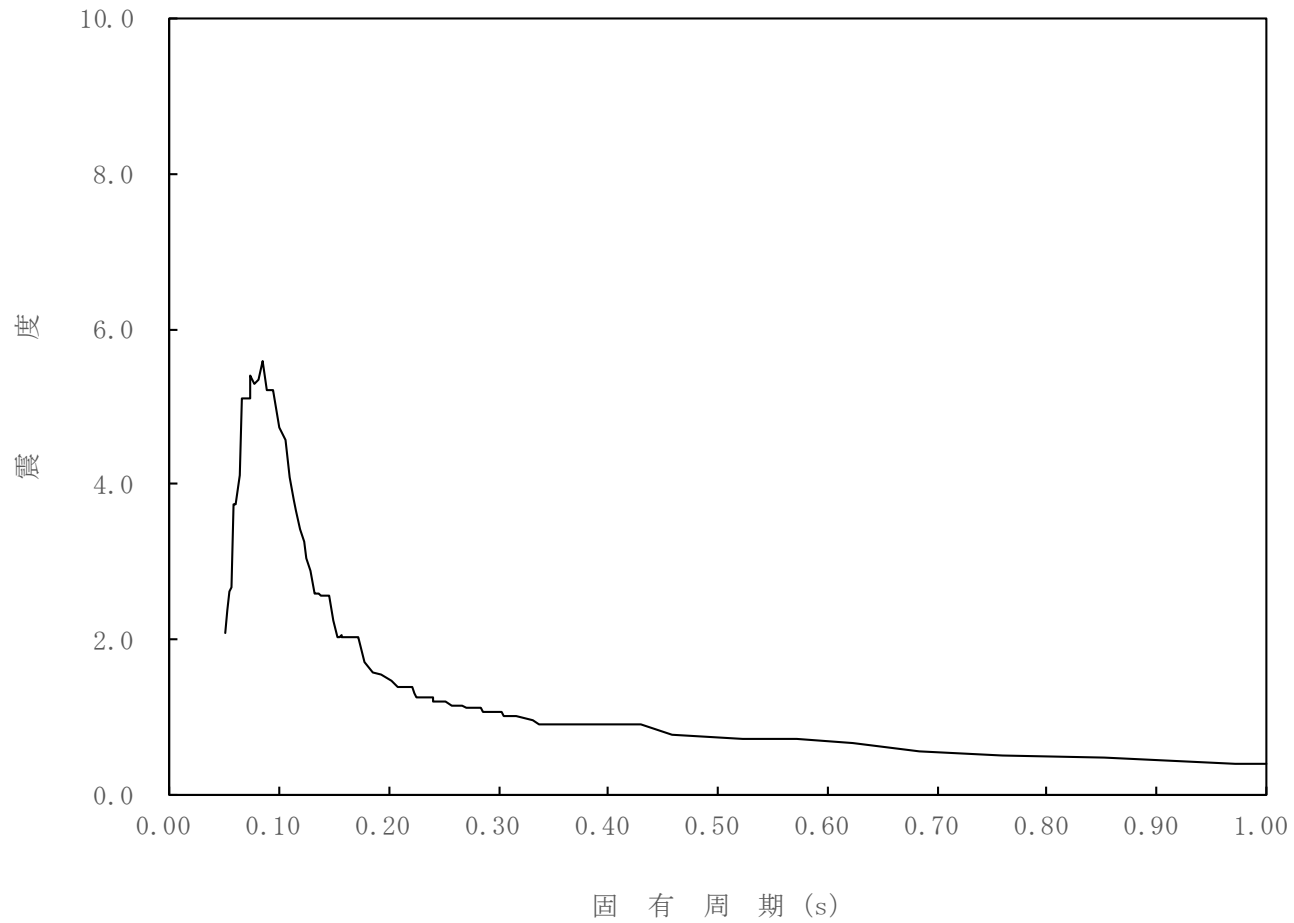
標高：0.P. 22.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-93



【RB-SdV-RB2-015】

構造物名：原子炉建屋

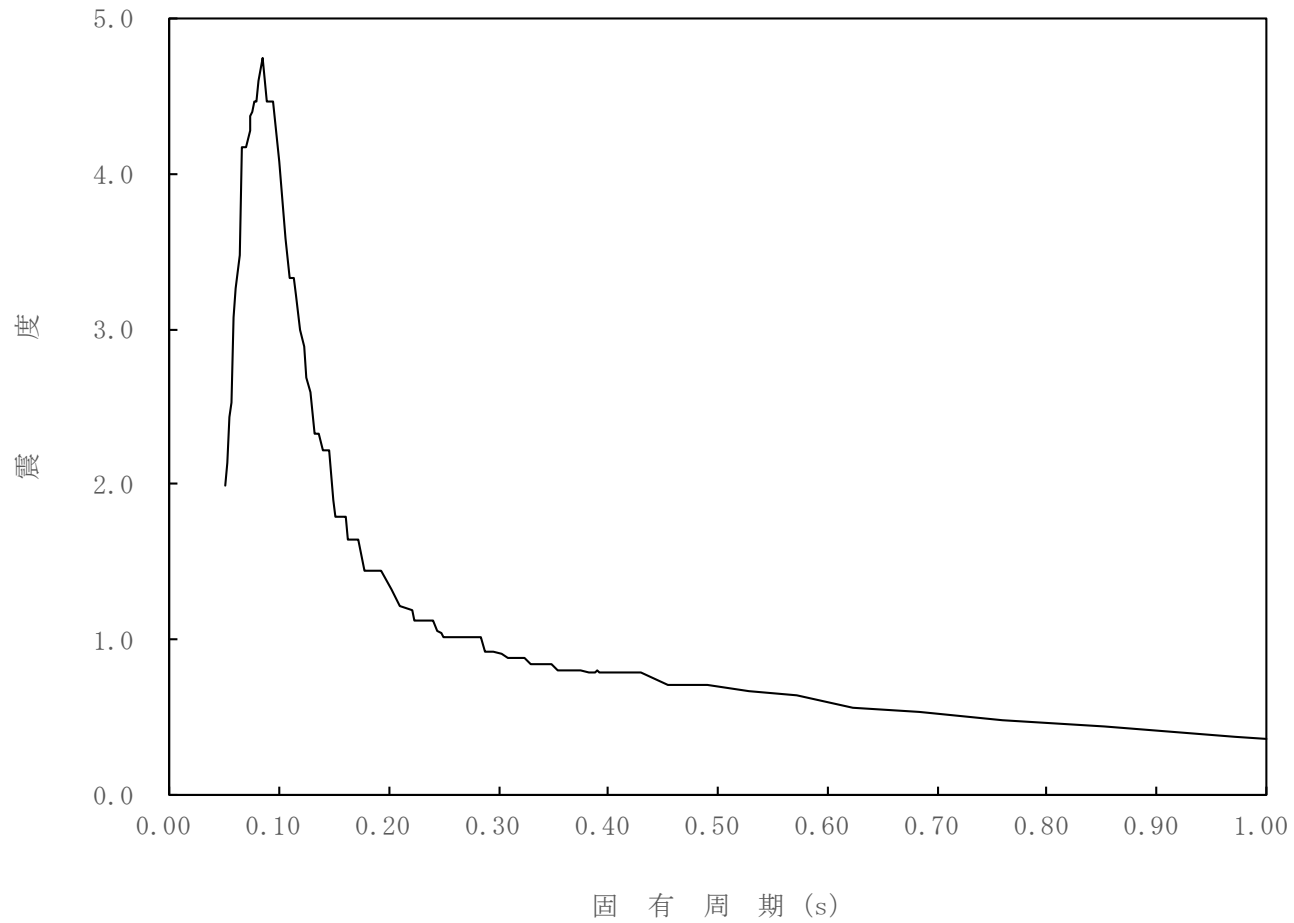
標高：0.P. 22.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-94



【RB-SdV-RB2-020】

構造物名：原子炉建屋

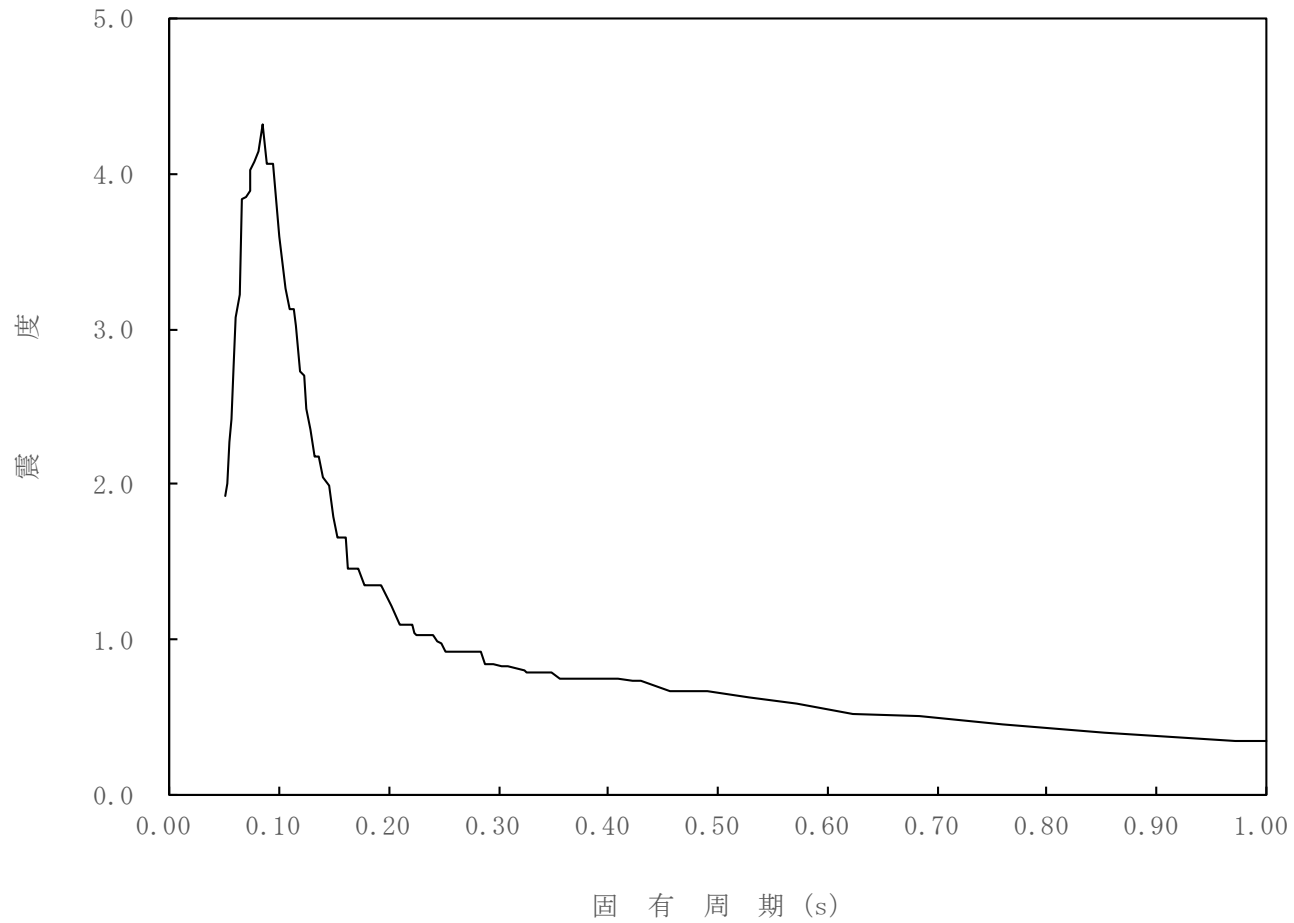
標高：0.P. 22.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-95



【RB-SdV-RB2-025】

構造物名：原子炉建屋

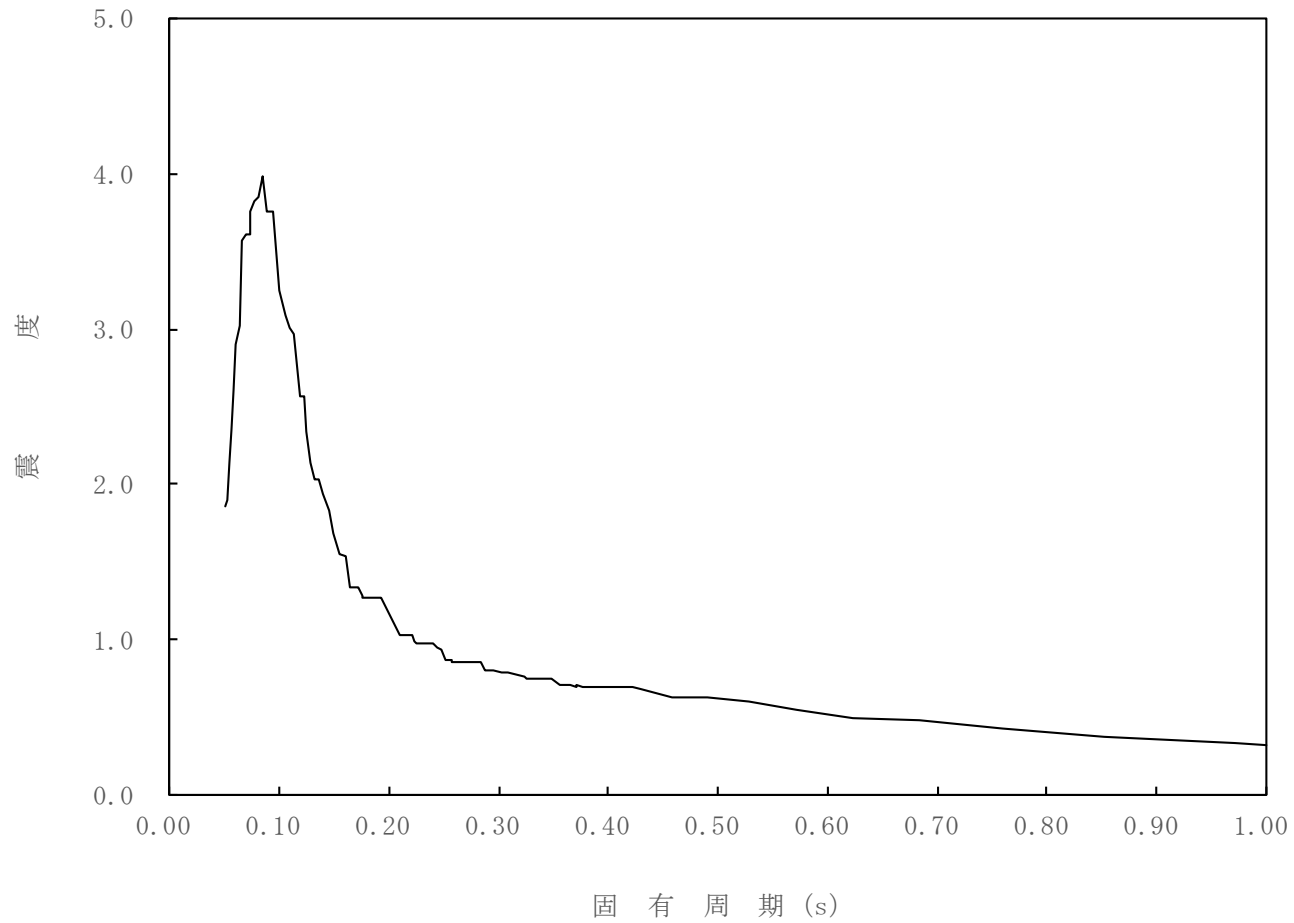
標高：0. P. 22.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-96





【RB-SdV-RB2-030】

構造物名：原子炉建屋

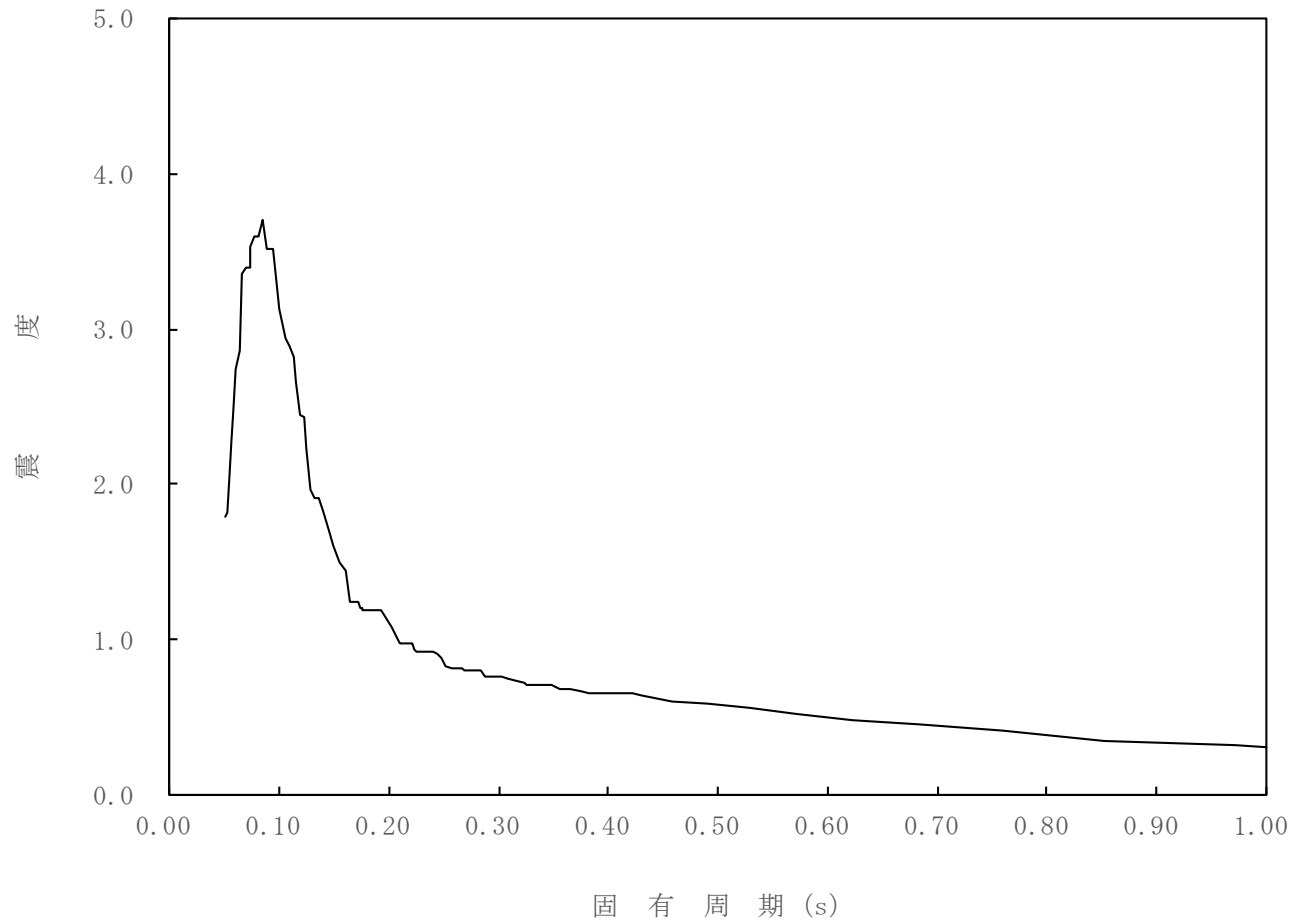
標高：0. P. 22.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-97



【RB-SdV-RB2-050】

構造物名：原子炉建屋

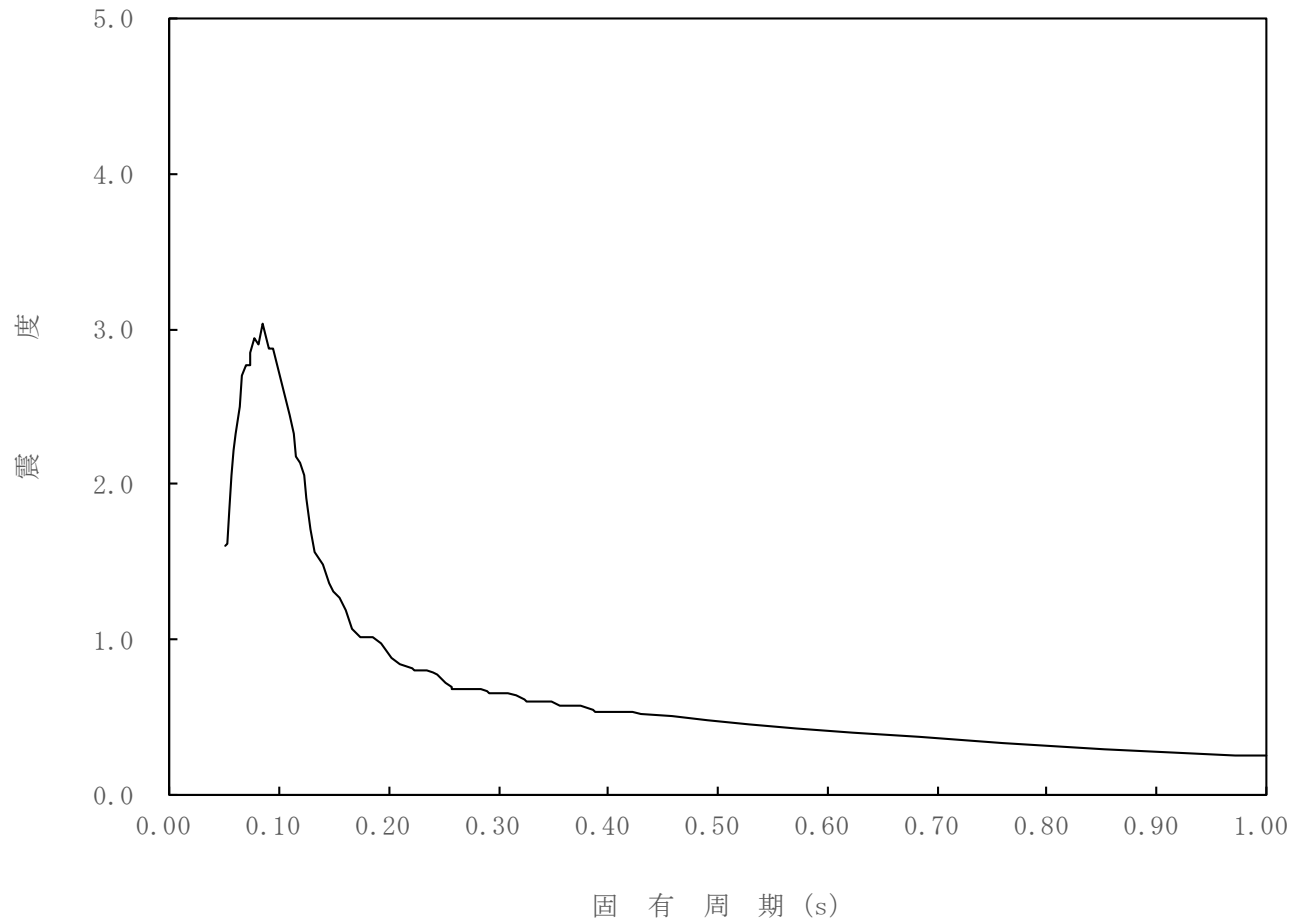
標高：0. P. 22.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-98



【RB-SdV-RB1-005】

構造物名：原子炉建屋

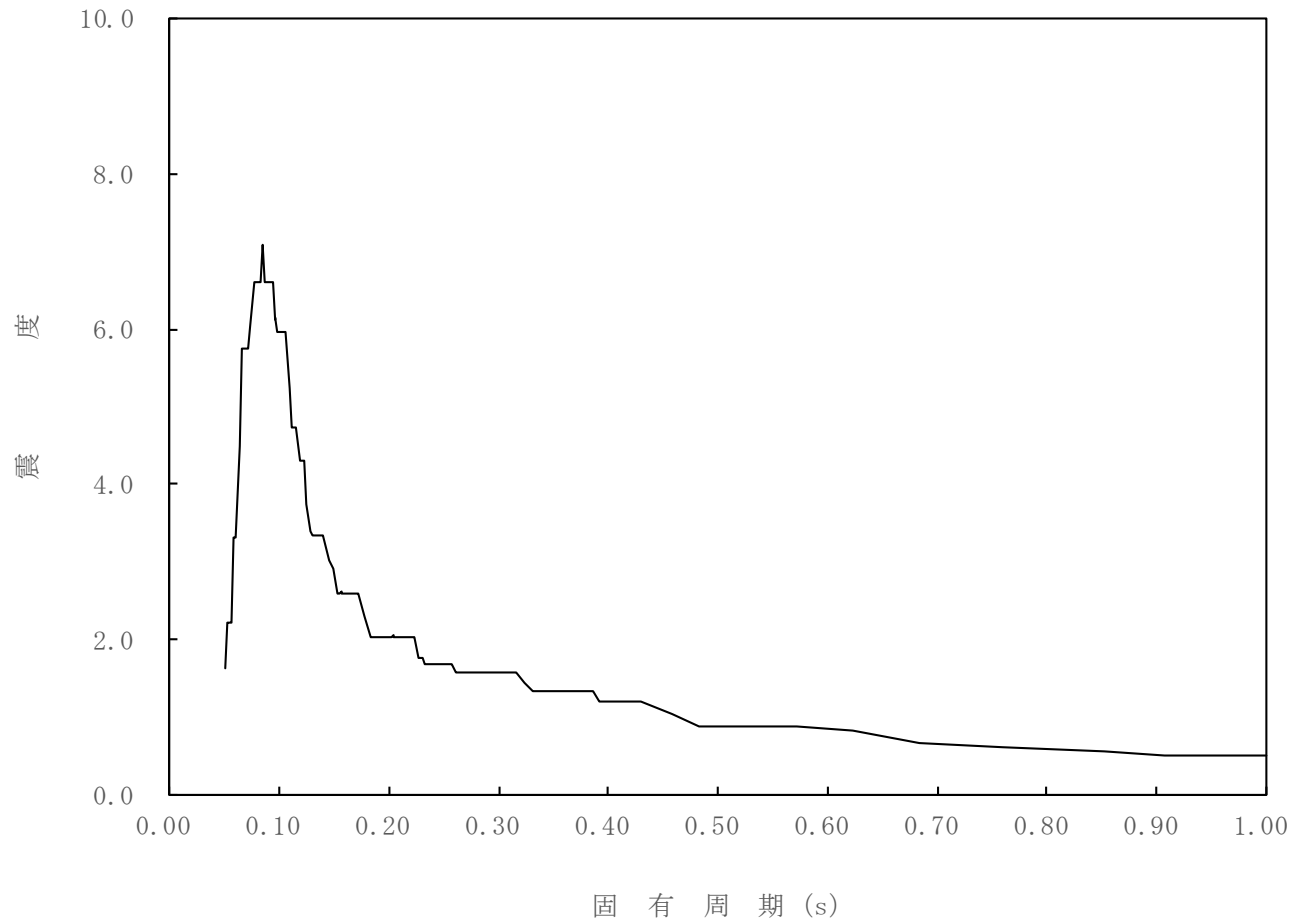
標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d

2-1-99



【RB-SdV-RB1-010】

構造物名：原子炉建屋

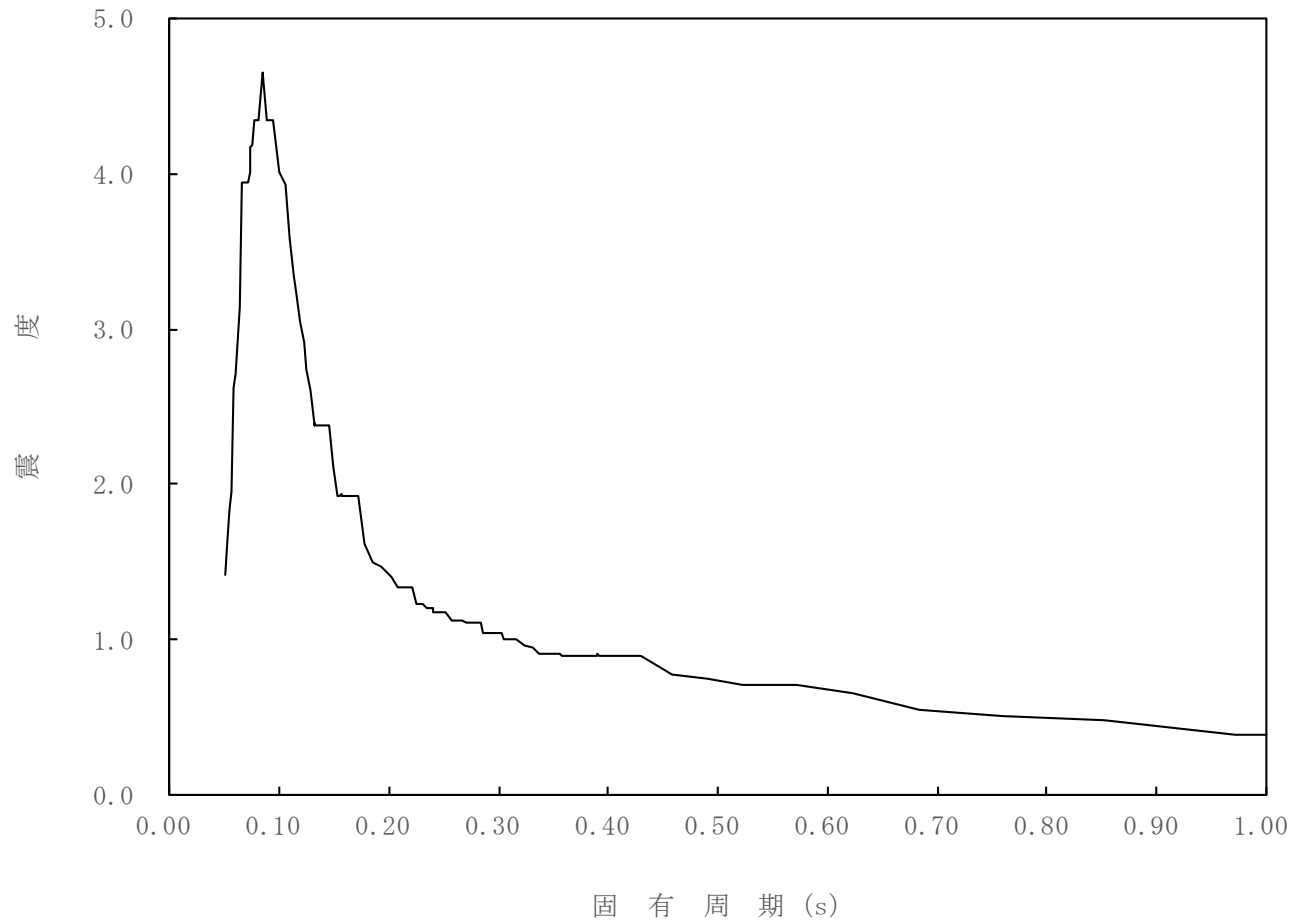
標高：0. P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-1-100



【RB-SdV-RB1-015】

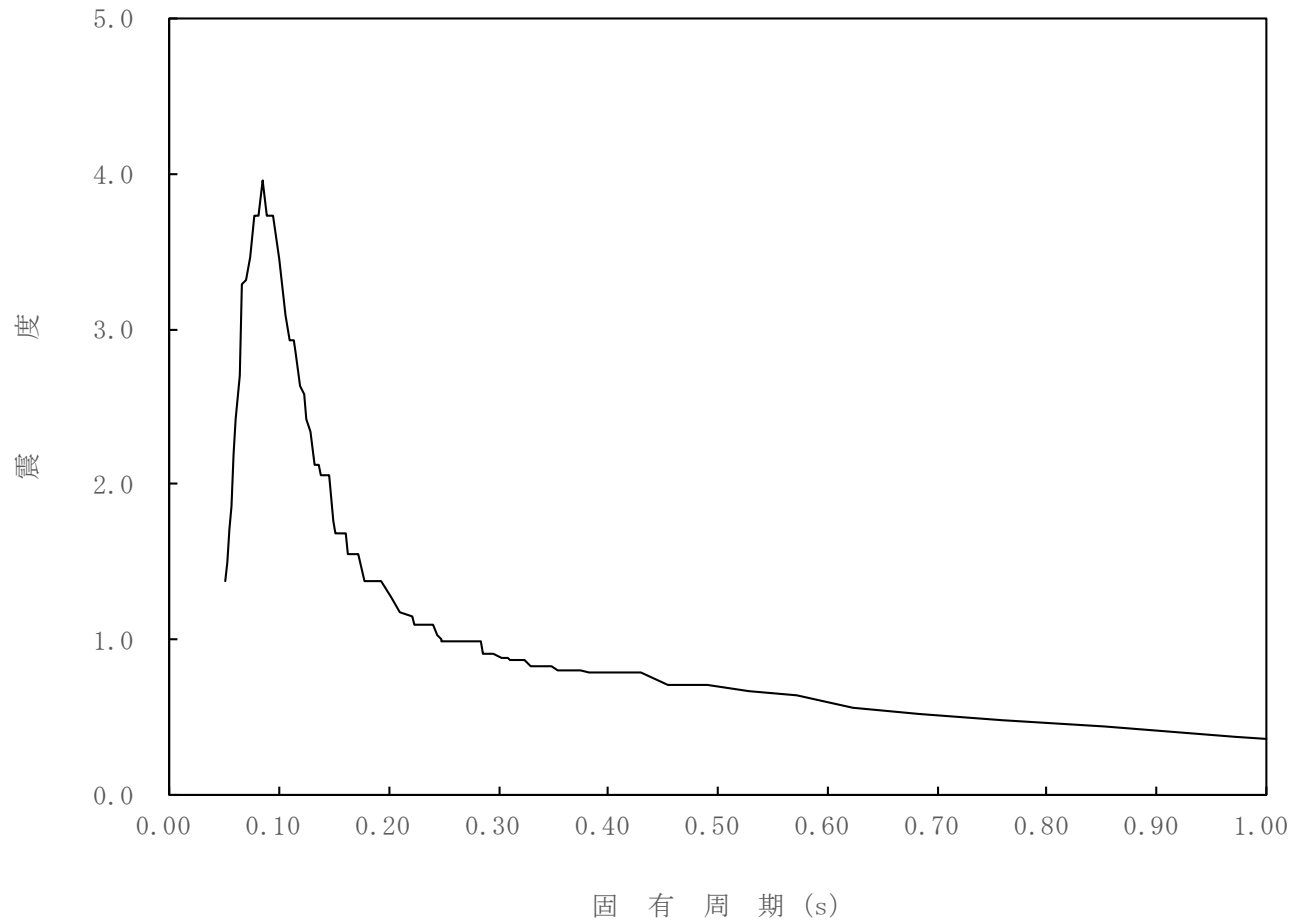
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-101

【RB-SdV-RB1-020】

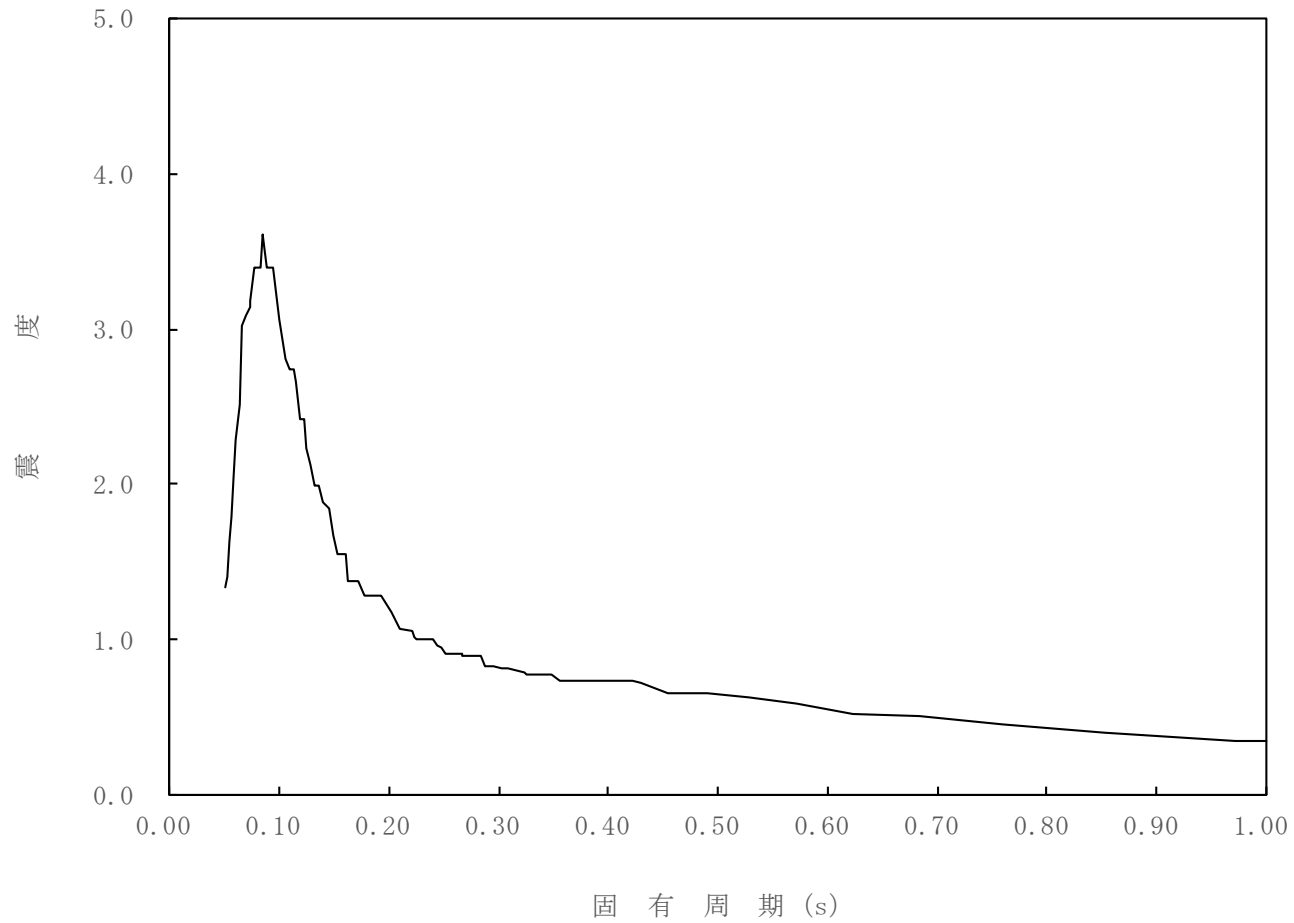
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-102

【RB-SdV-RB1-025】

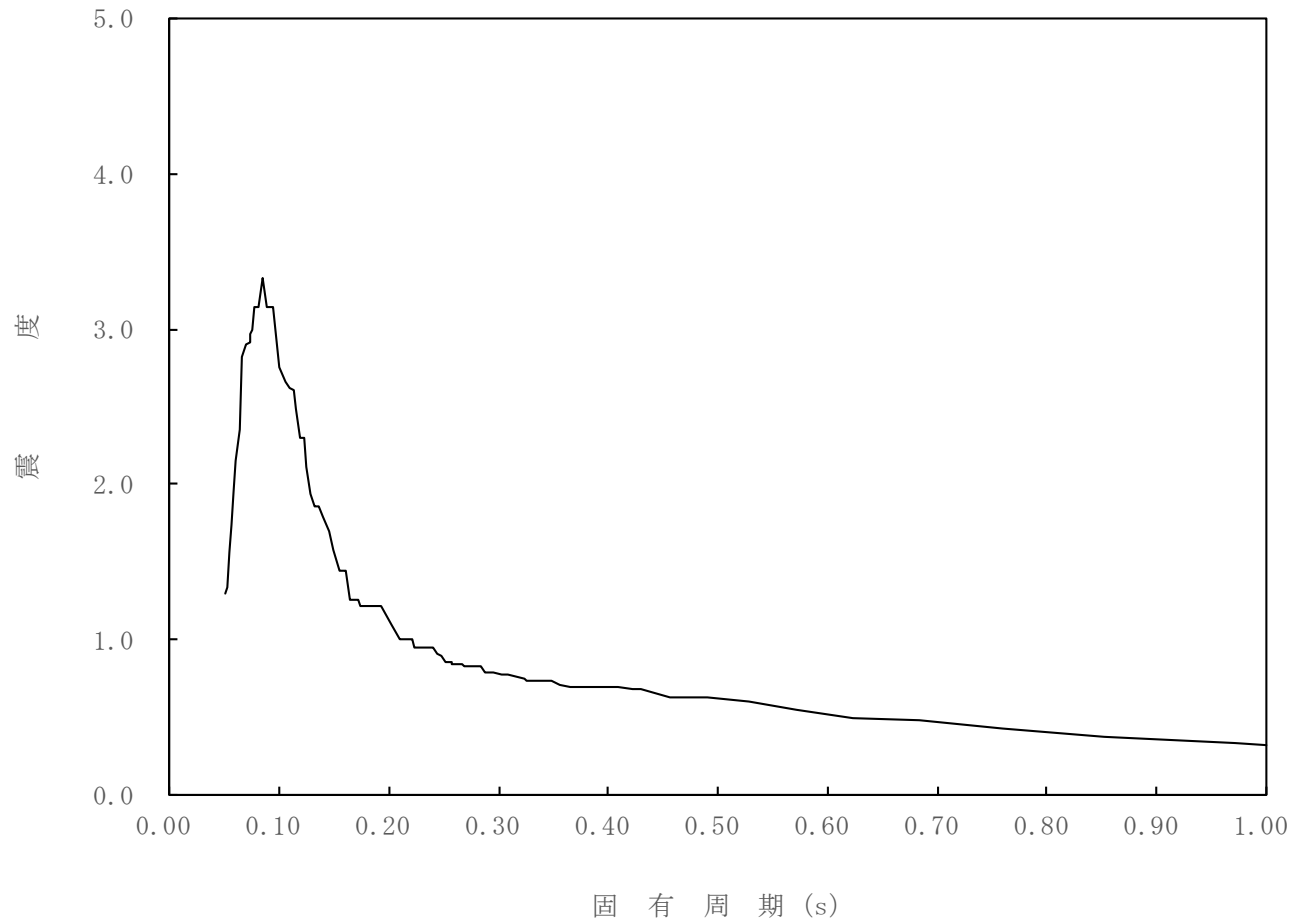
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RB1-030】

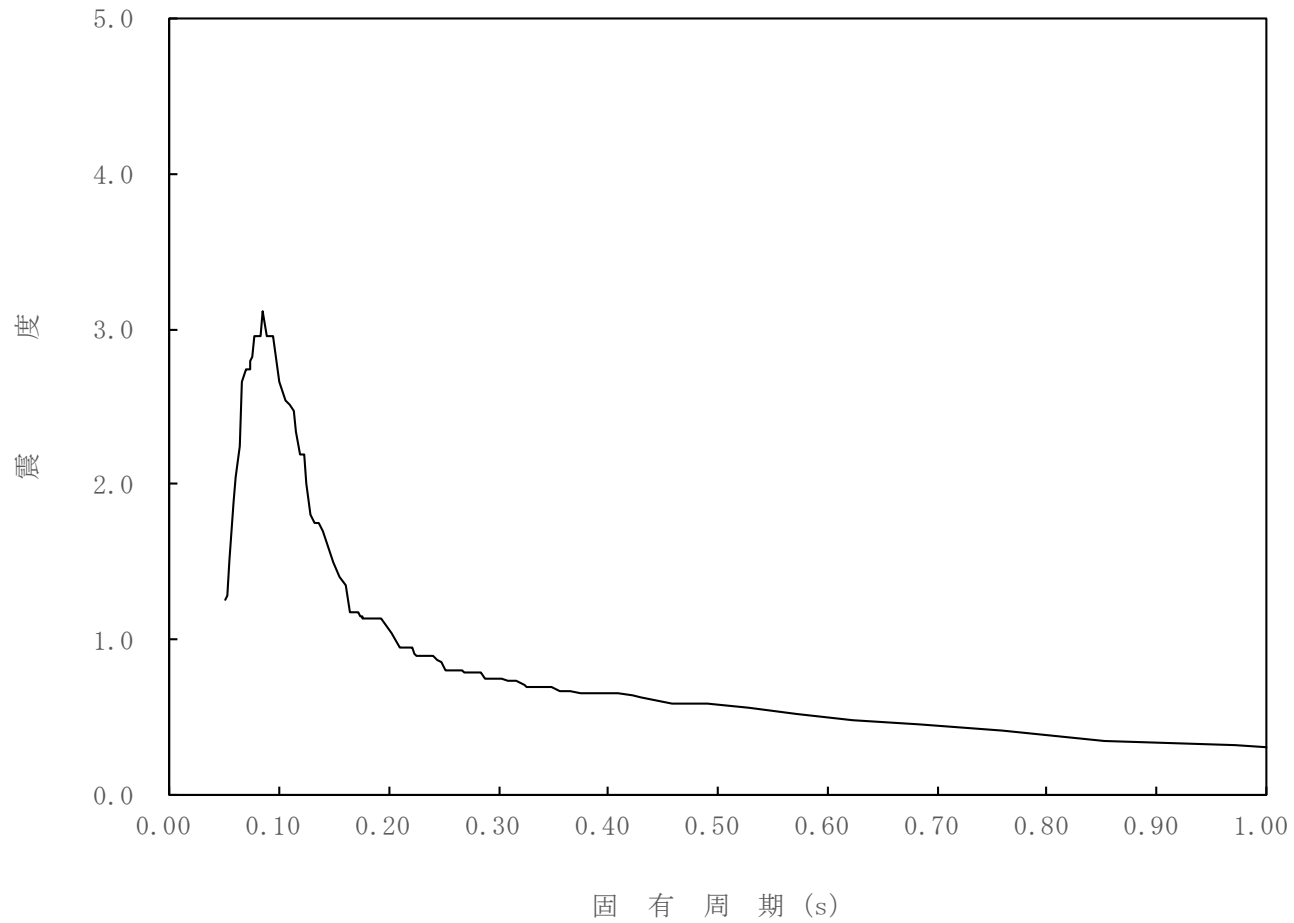
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-104



【RB-SdV-RB1-050】

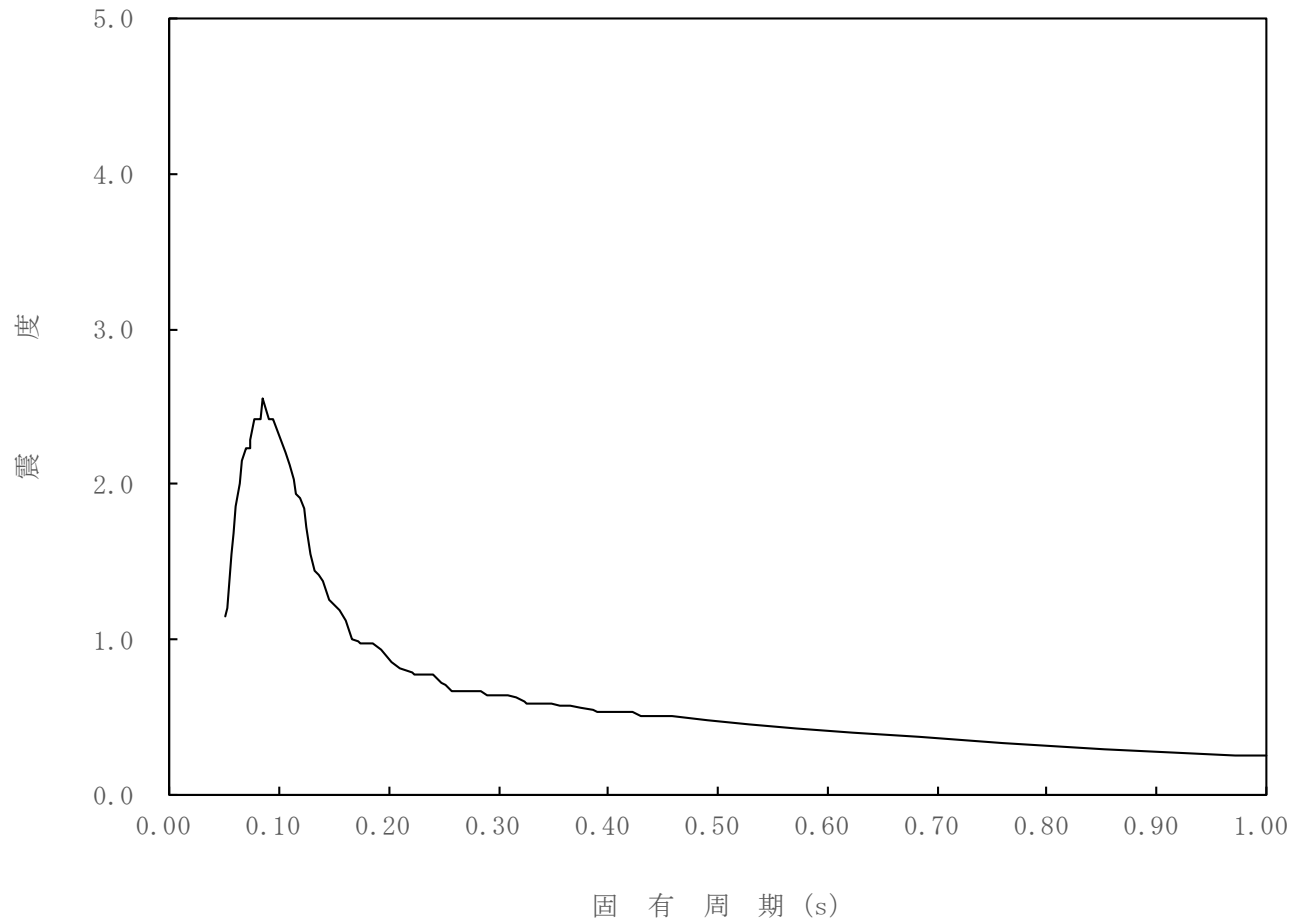
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RBB1-005】

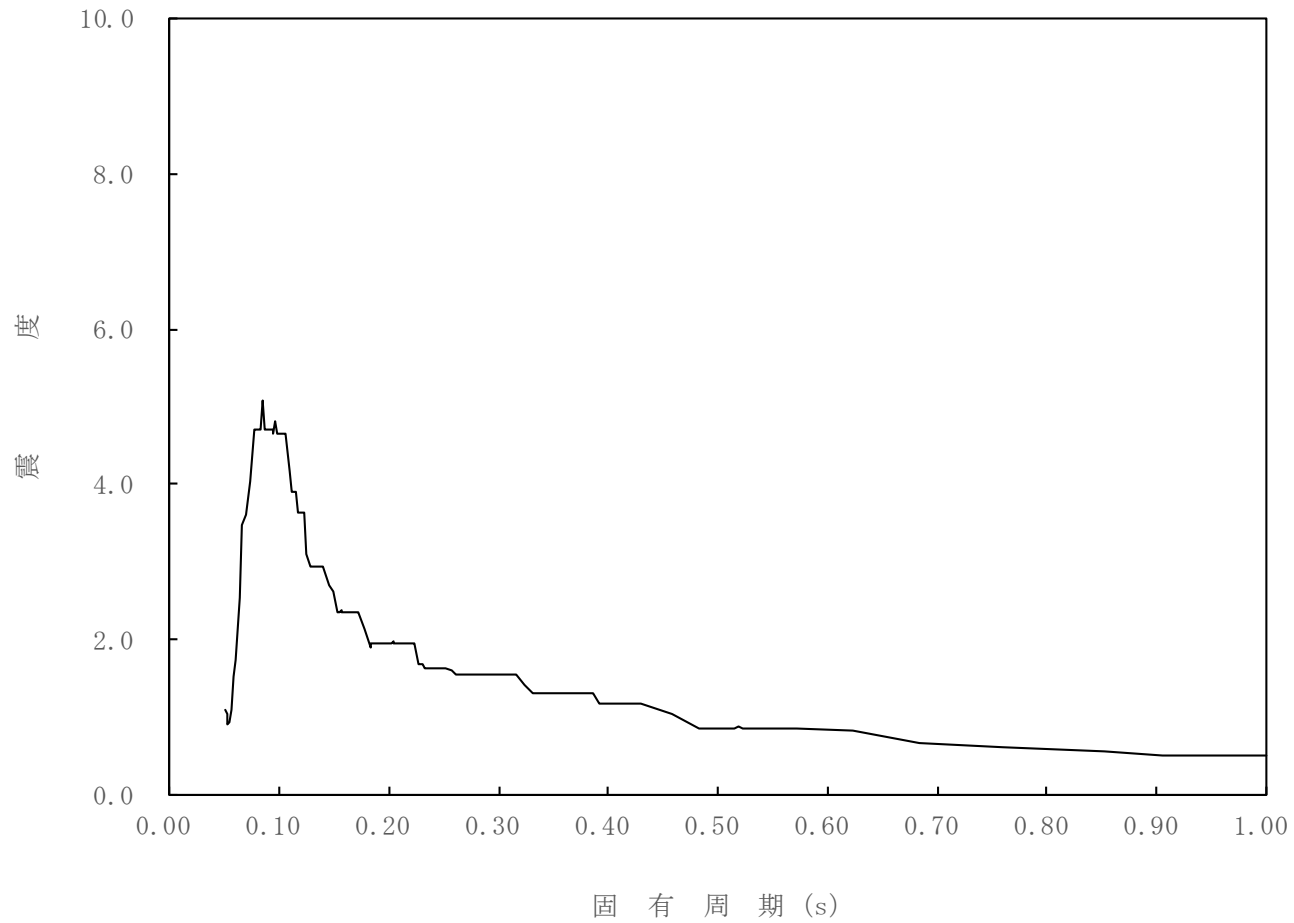
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 6.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB1-010】

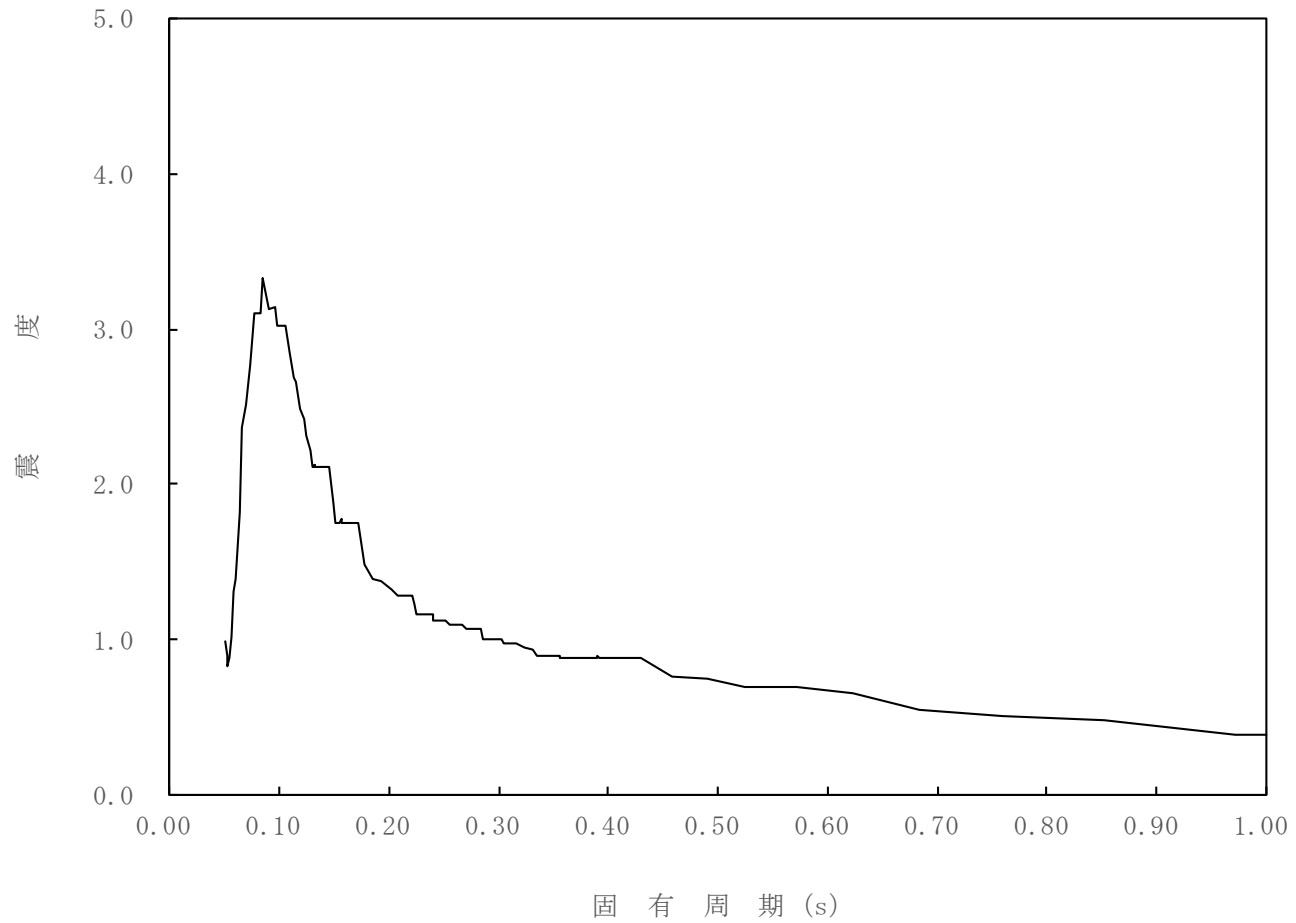
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 6.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RBB1-015】

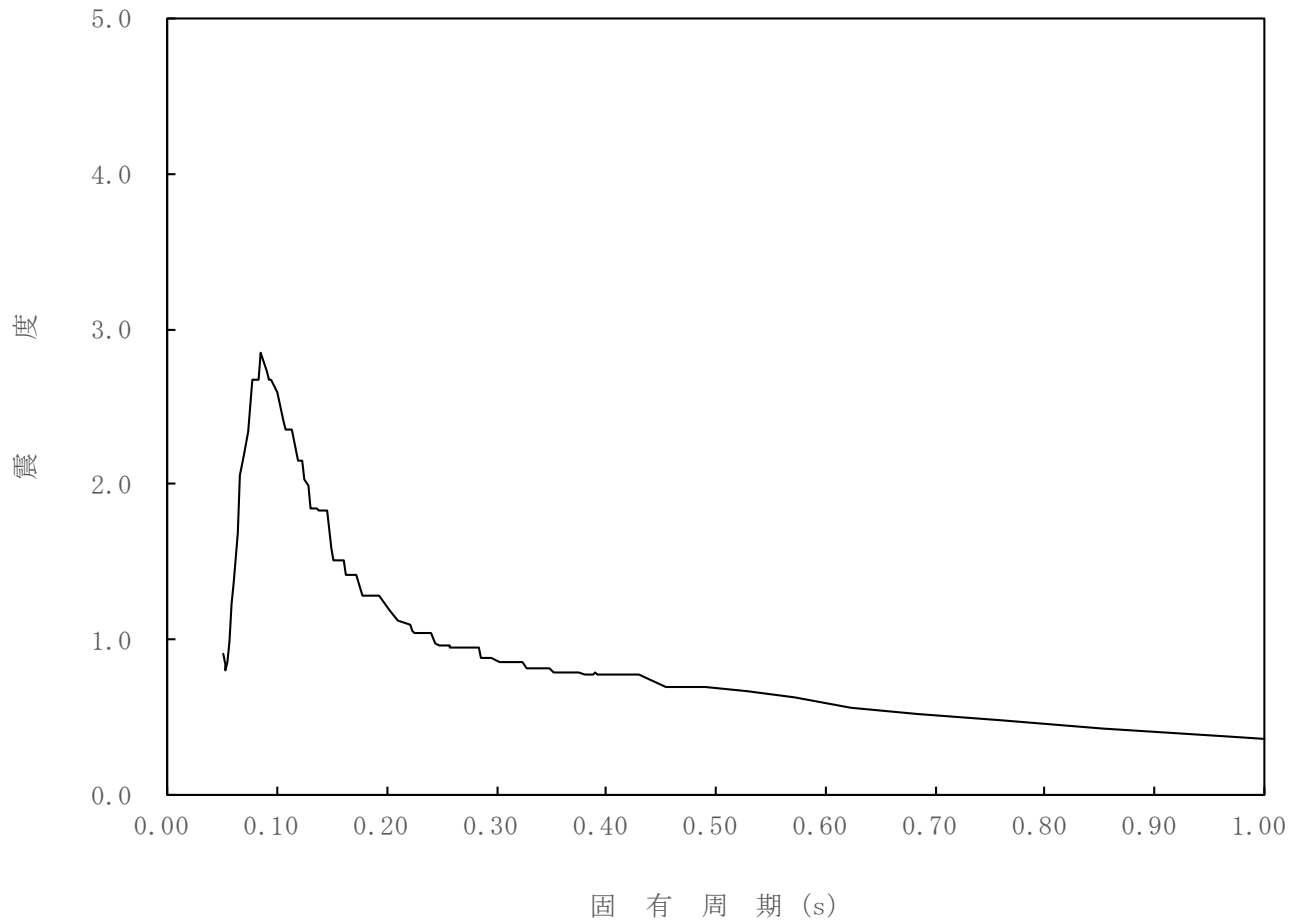
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 6.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RBB1-020】

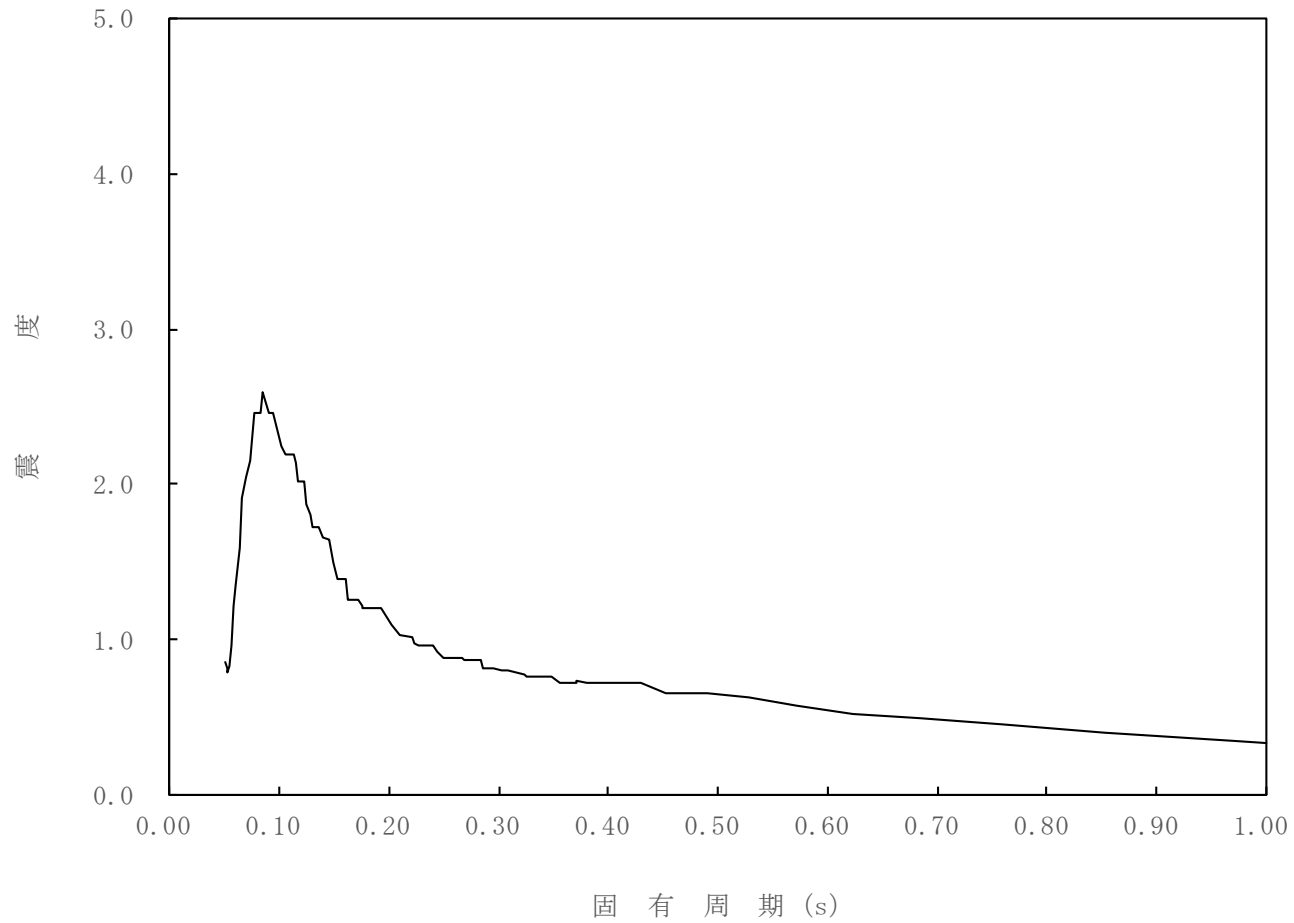
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 6.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB1-025】

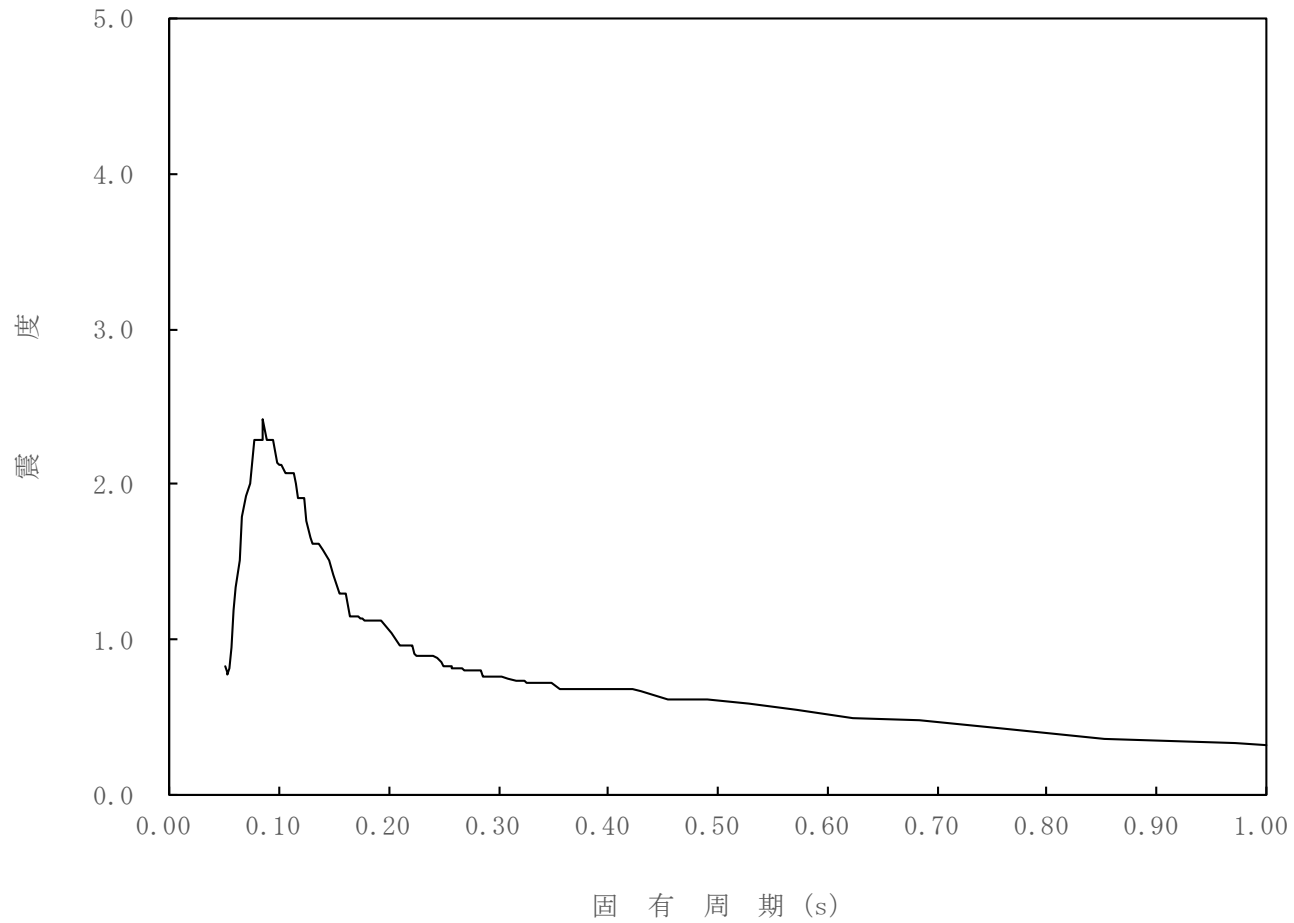
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 6.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-110

【RB-SdV-RBB1-030】

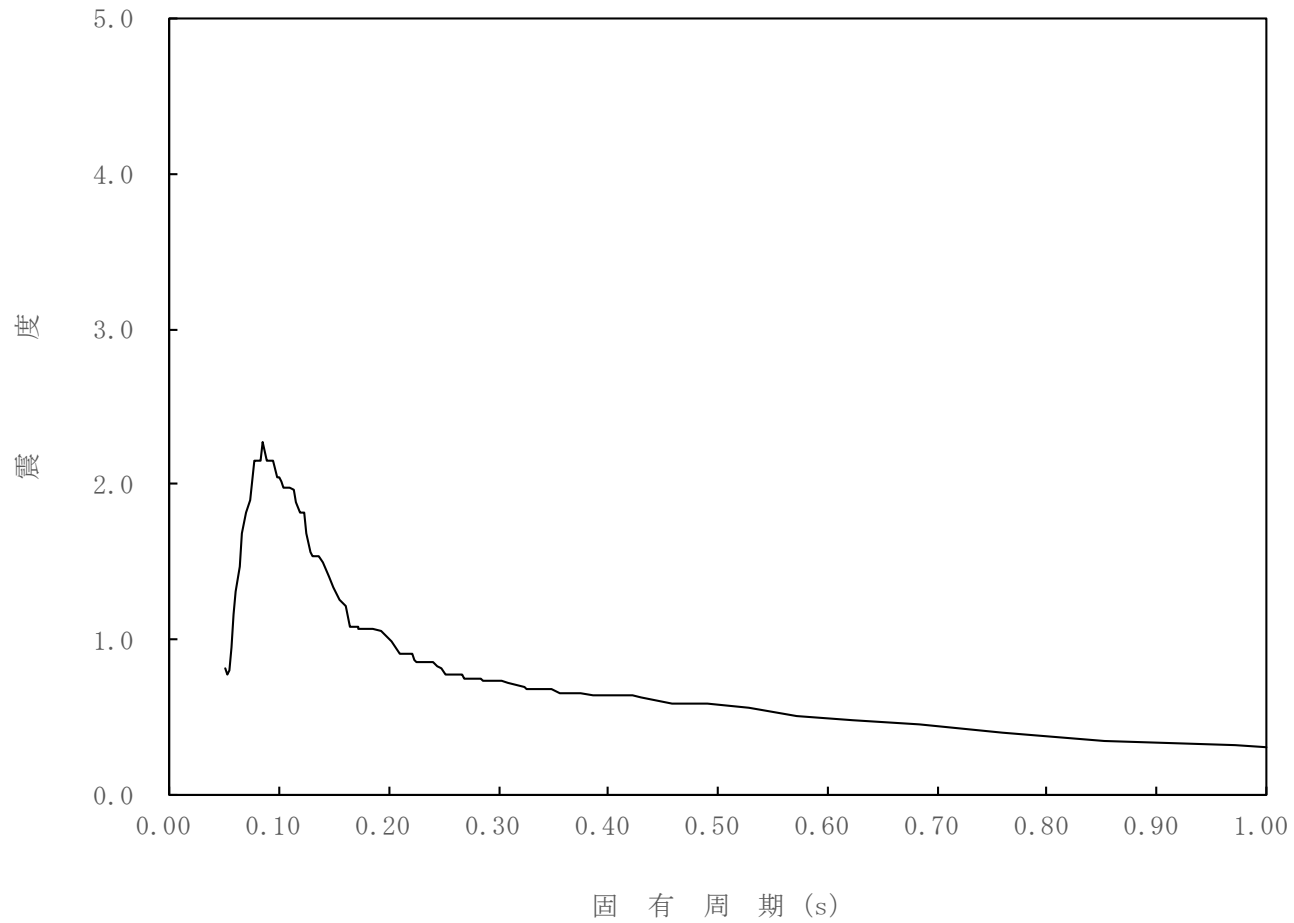
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. 6.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-111

【RB-SdV-RBB1-050】

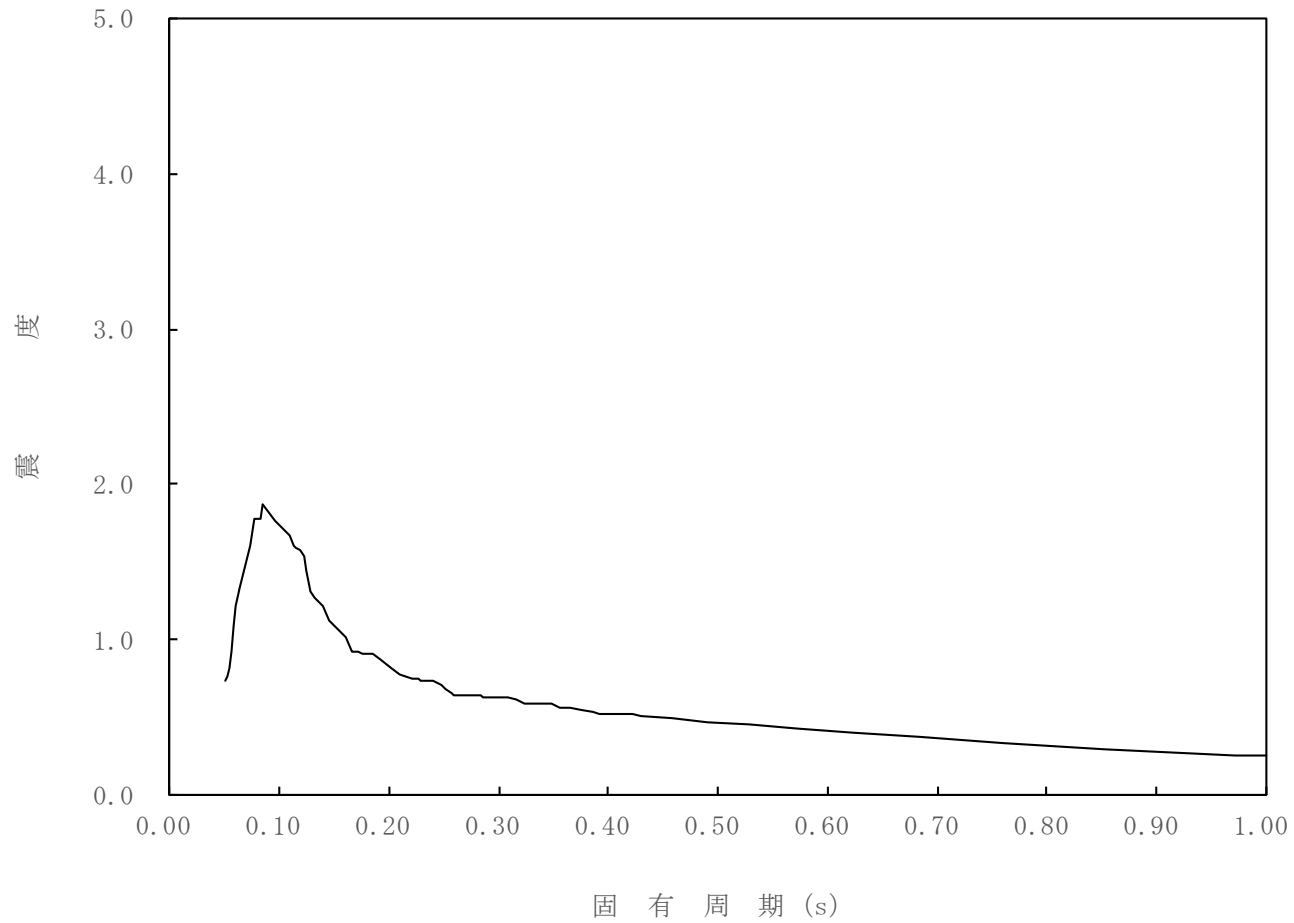
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P. 6.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d





【RB-SdV-RBB2-005】

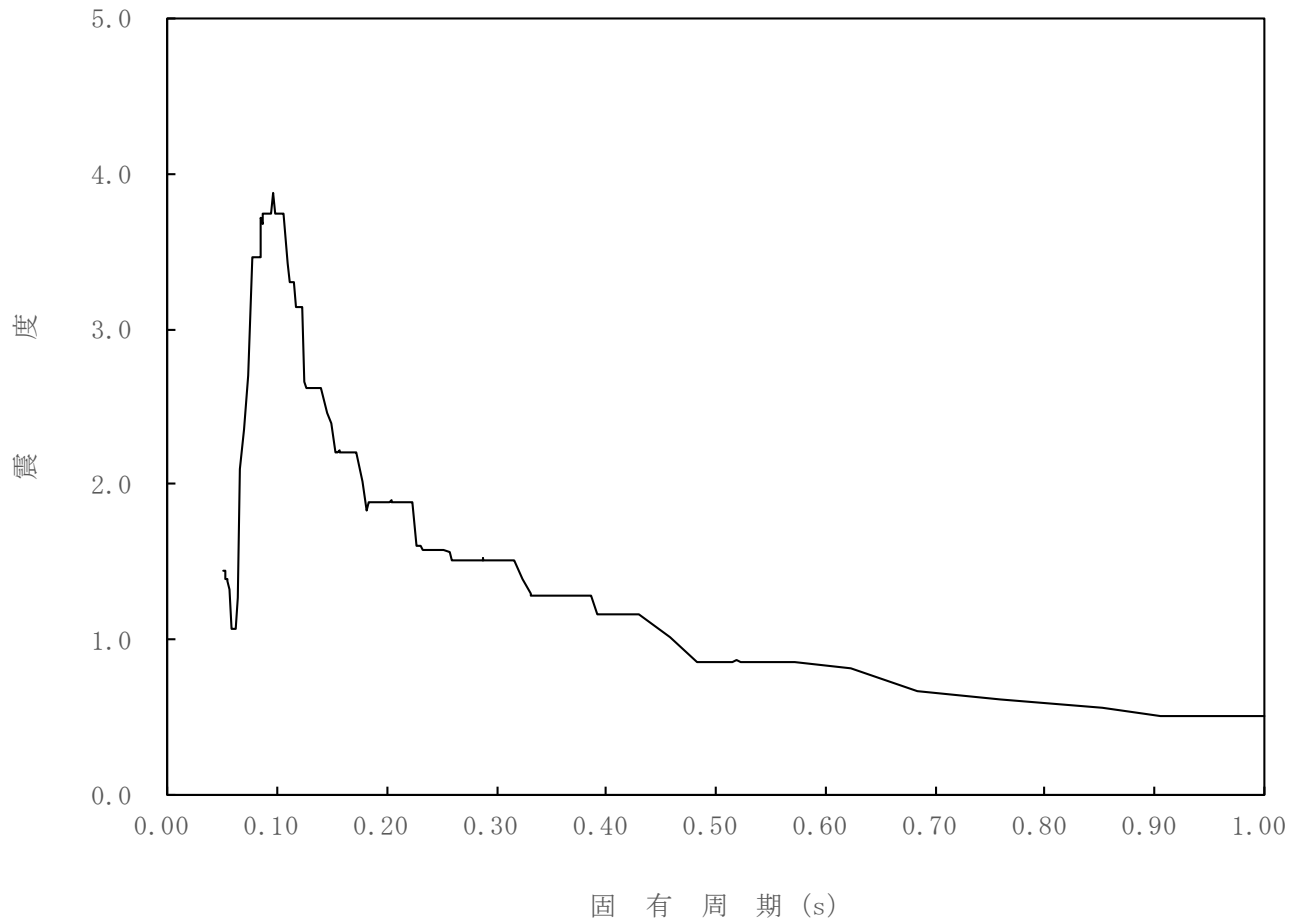
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RBB2-010】

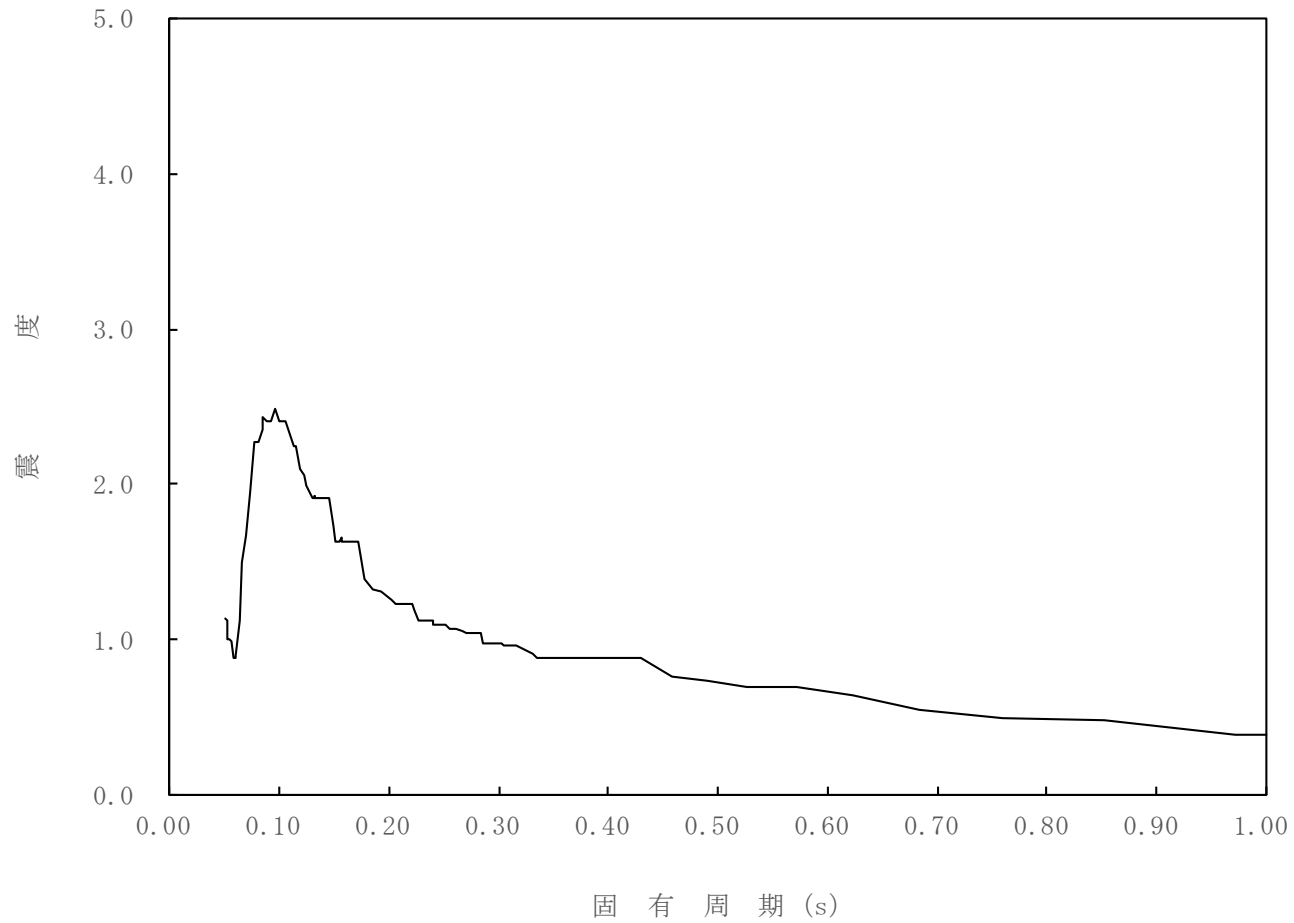
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB2-015】

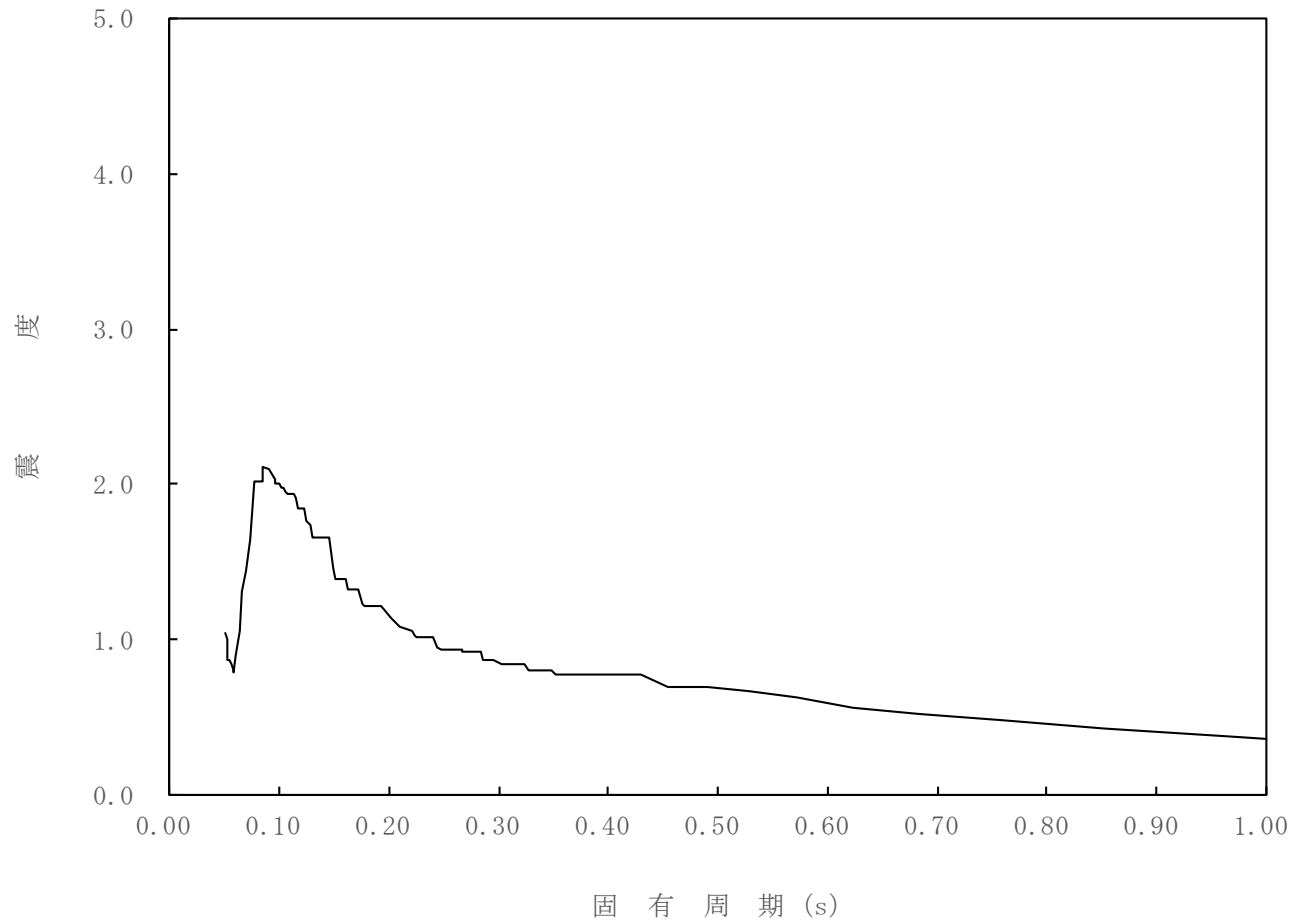
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-1-115

【RB-SdV-RBB2-020】

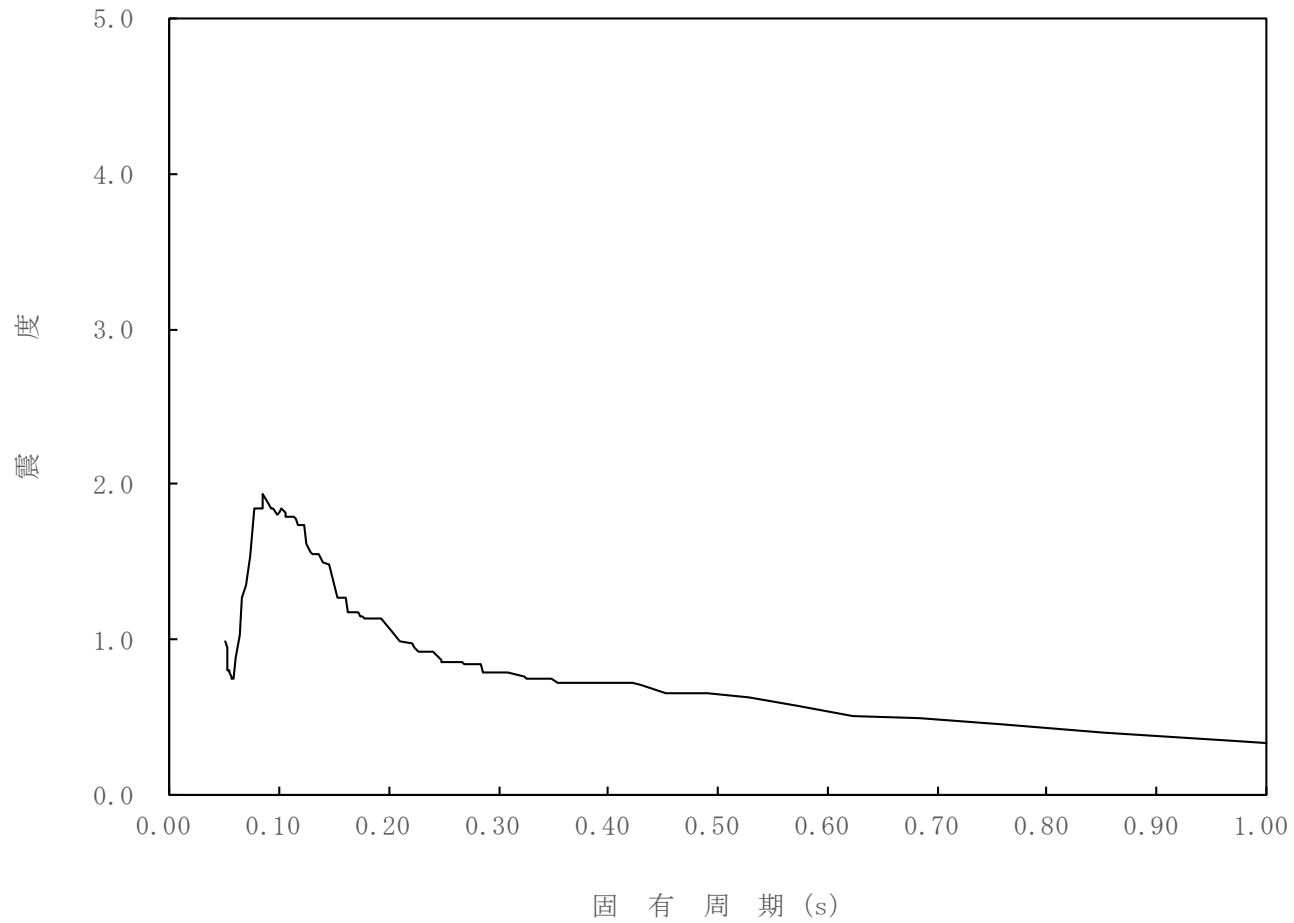
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB2-025】

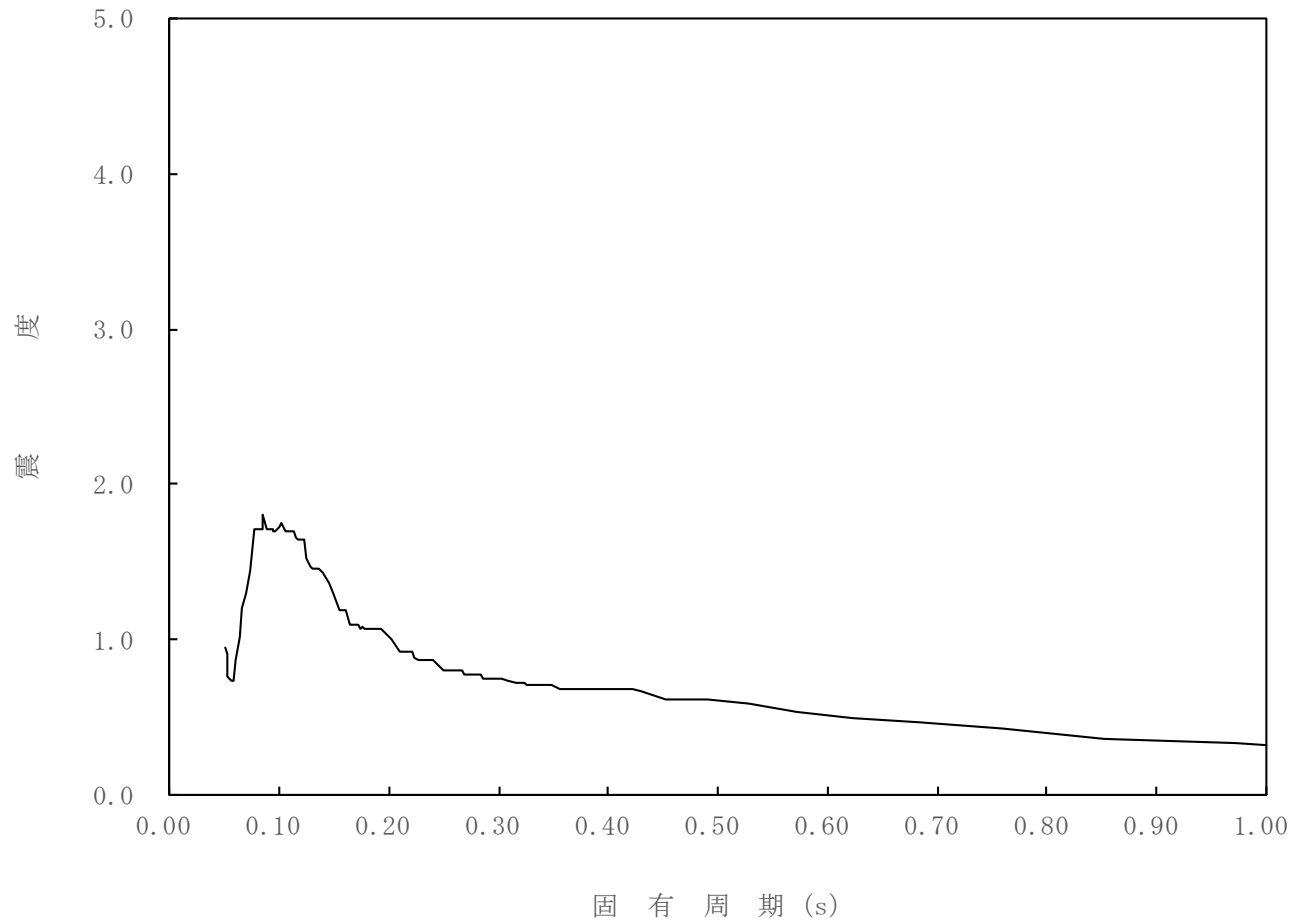
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB2-030】

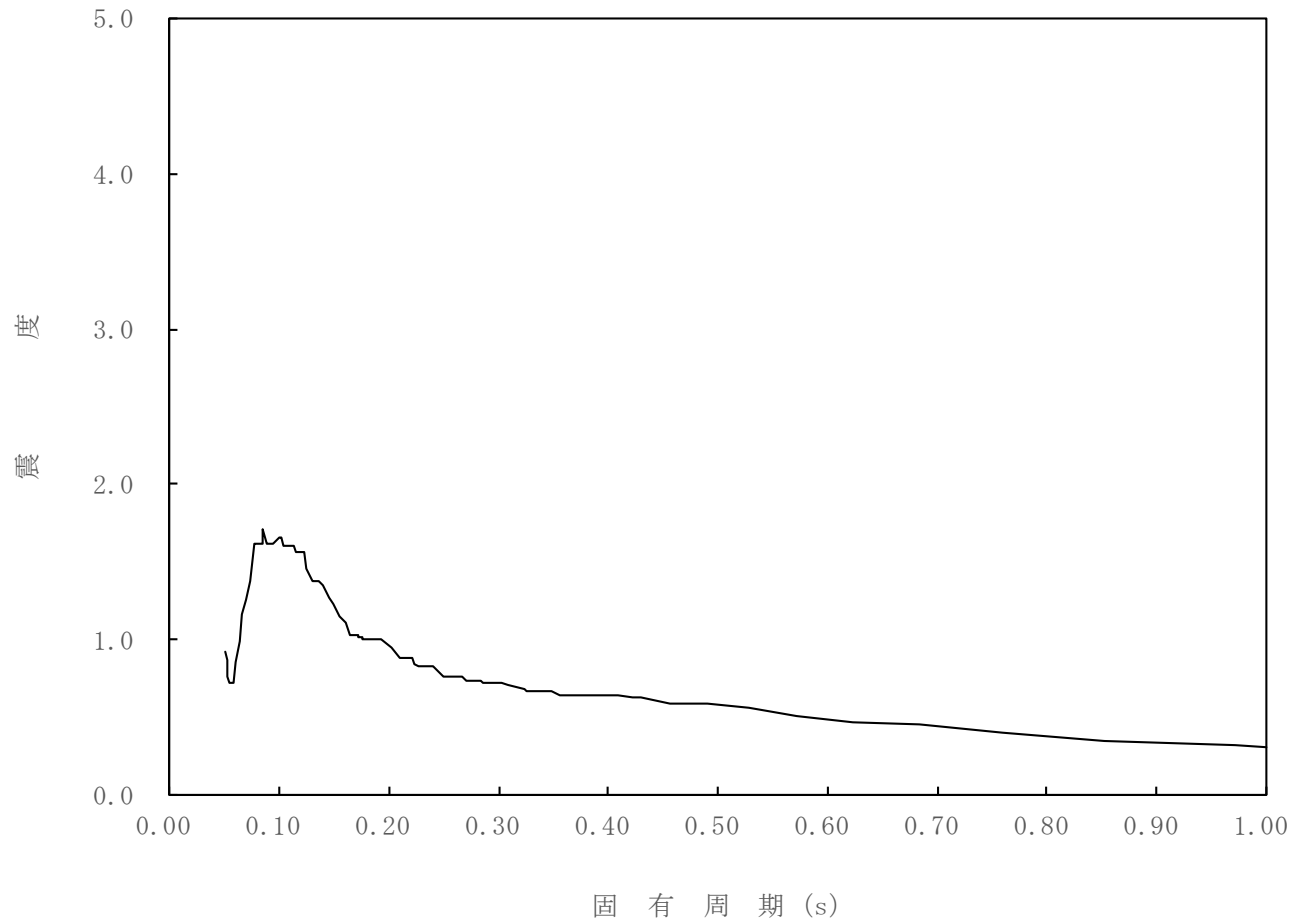
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB2-050】

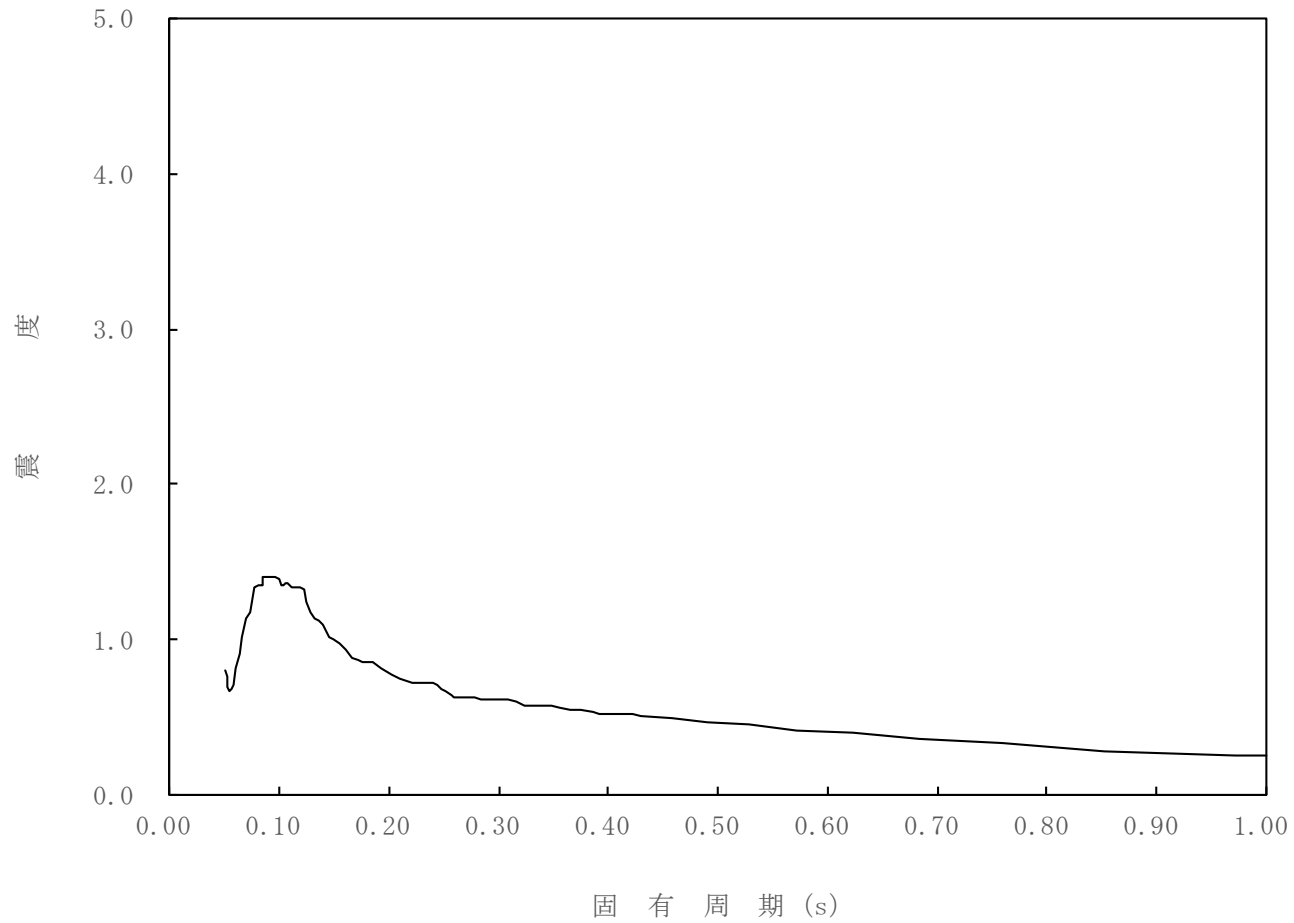
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -0.800m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB3-005】

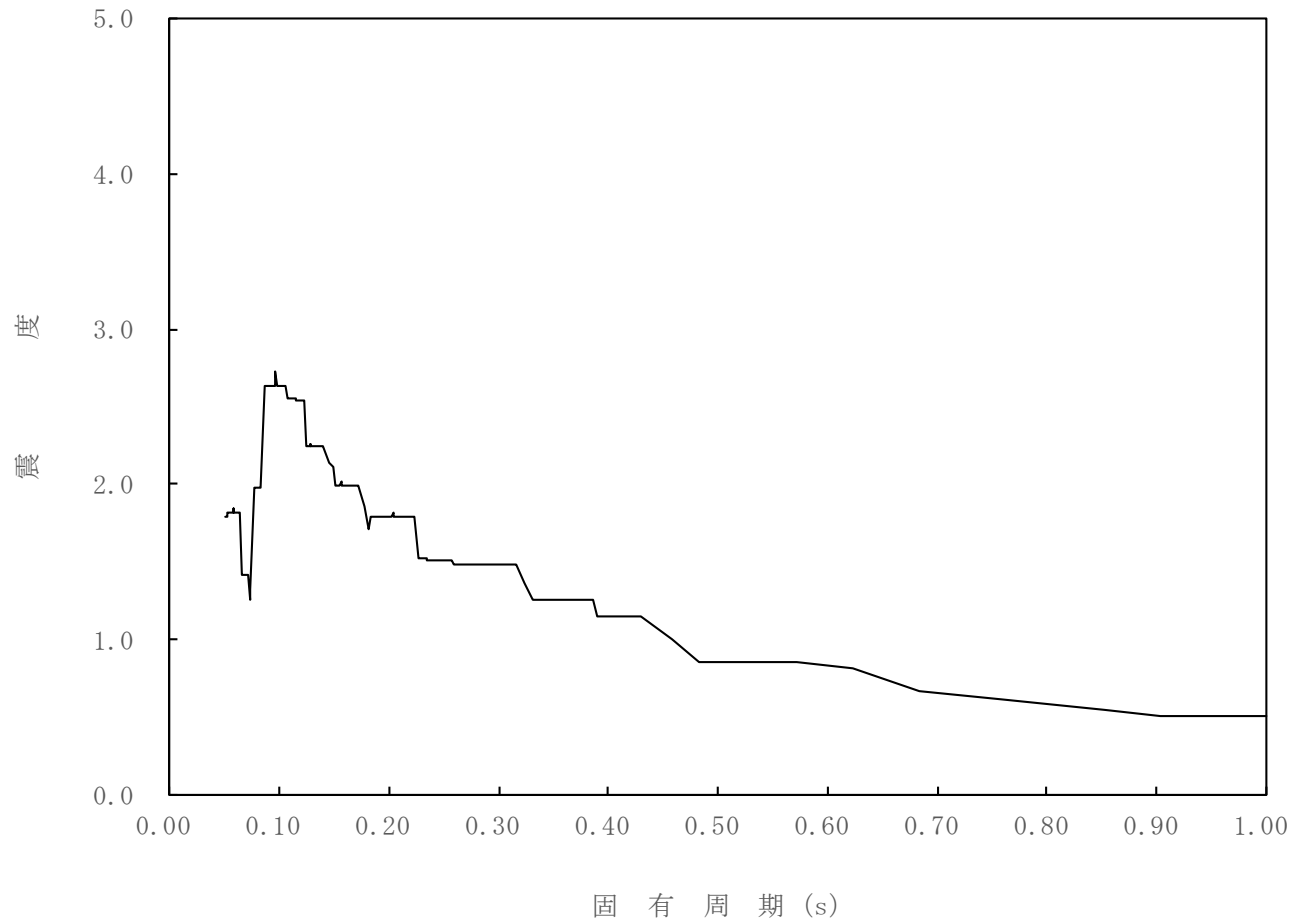
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -8.100m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-1-120



【RB-SdV-RBB3-010】

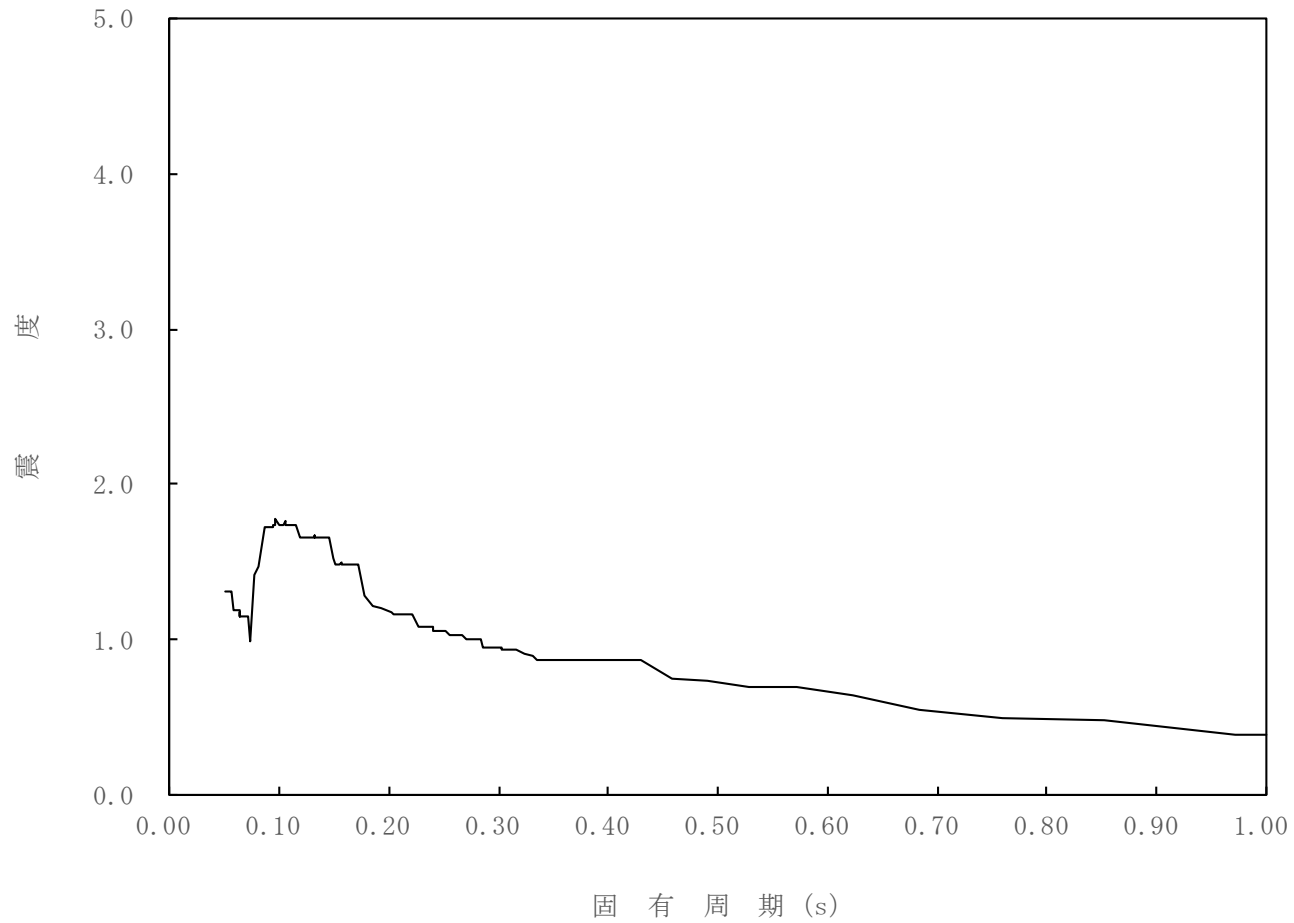
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P.-8.100m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RBB3-015】

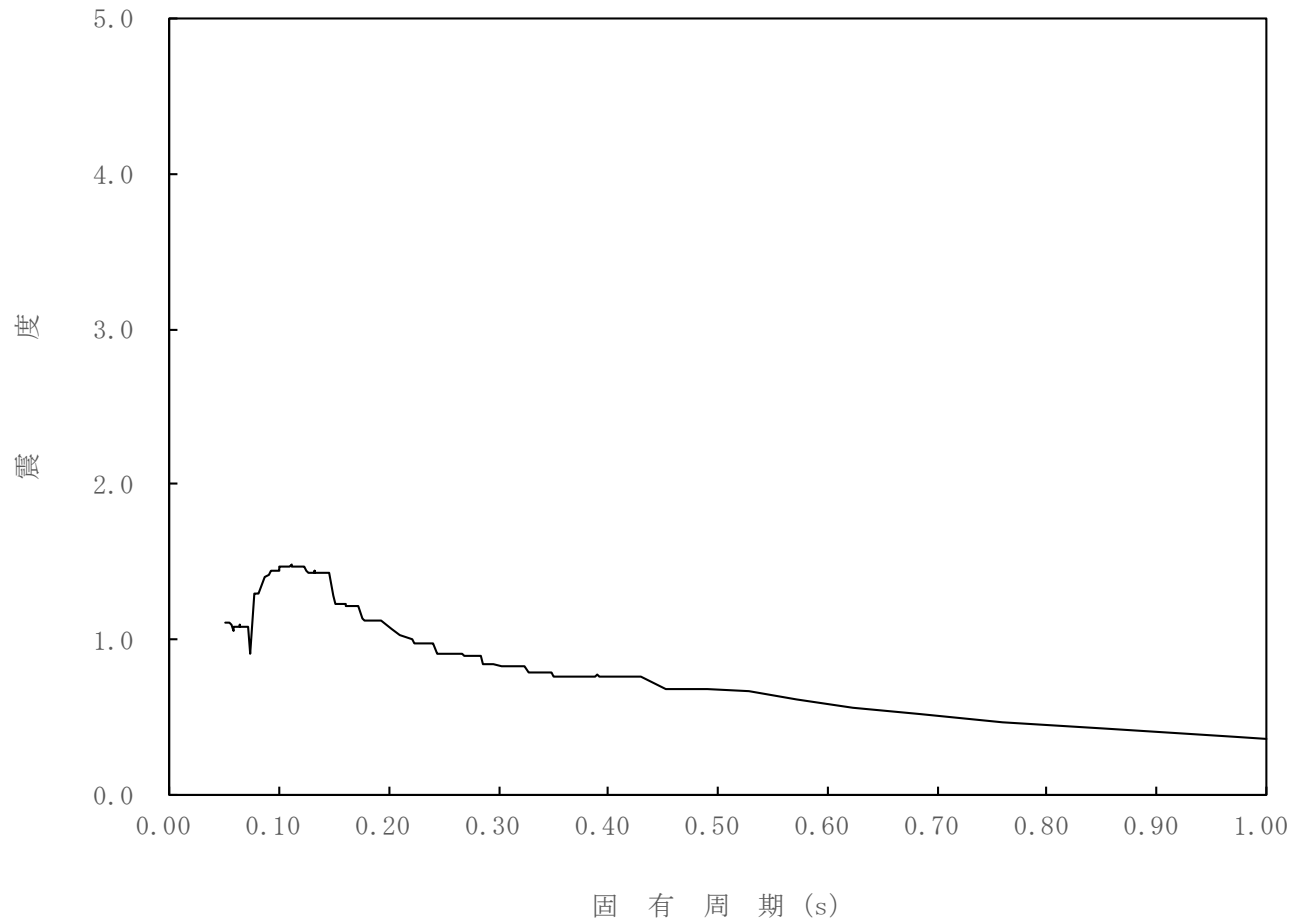
構造物名：原子炉建屋

標高：0.P.-8.100m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RBB3-020】

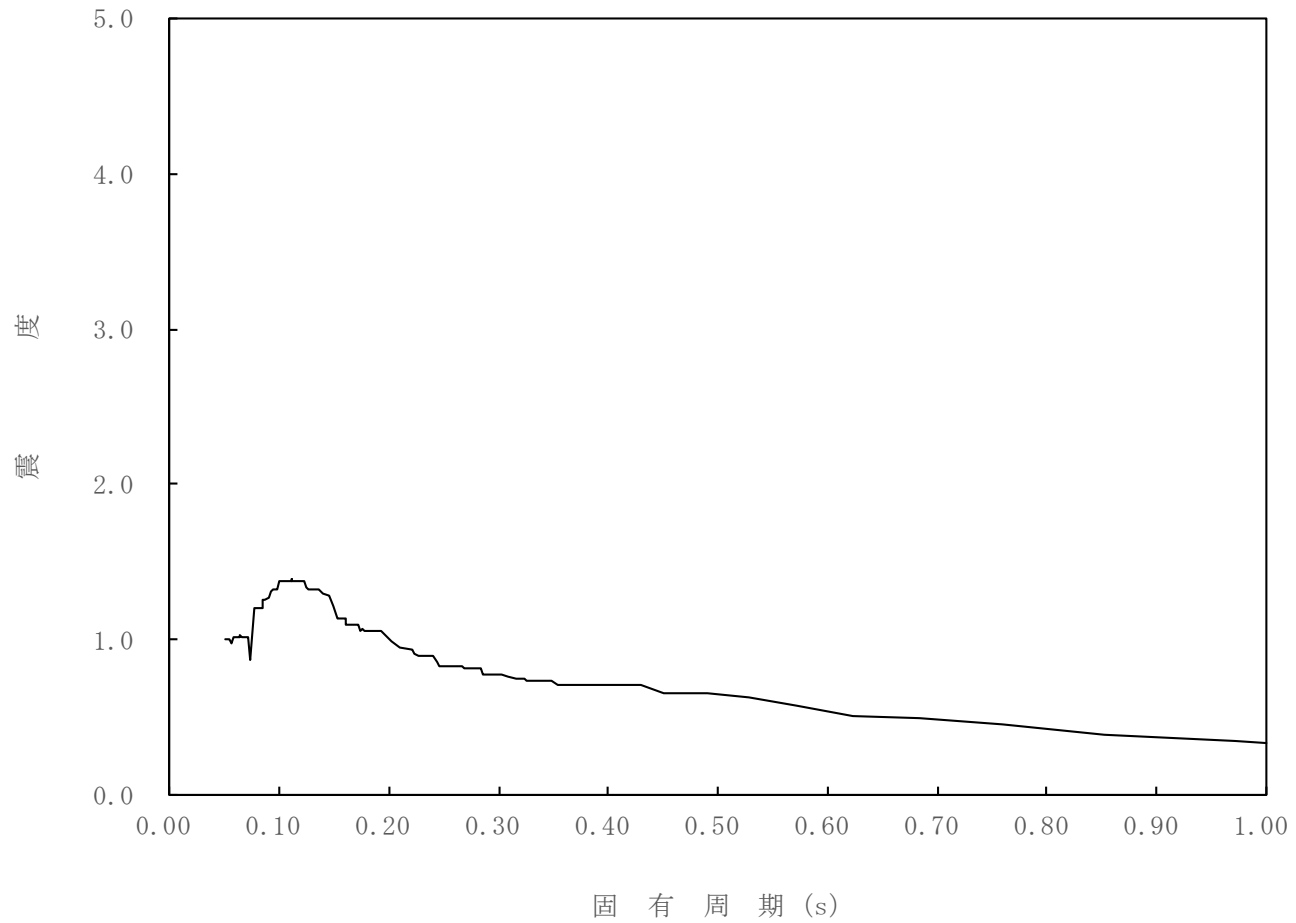
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -8.100m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB3-025】

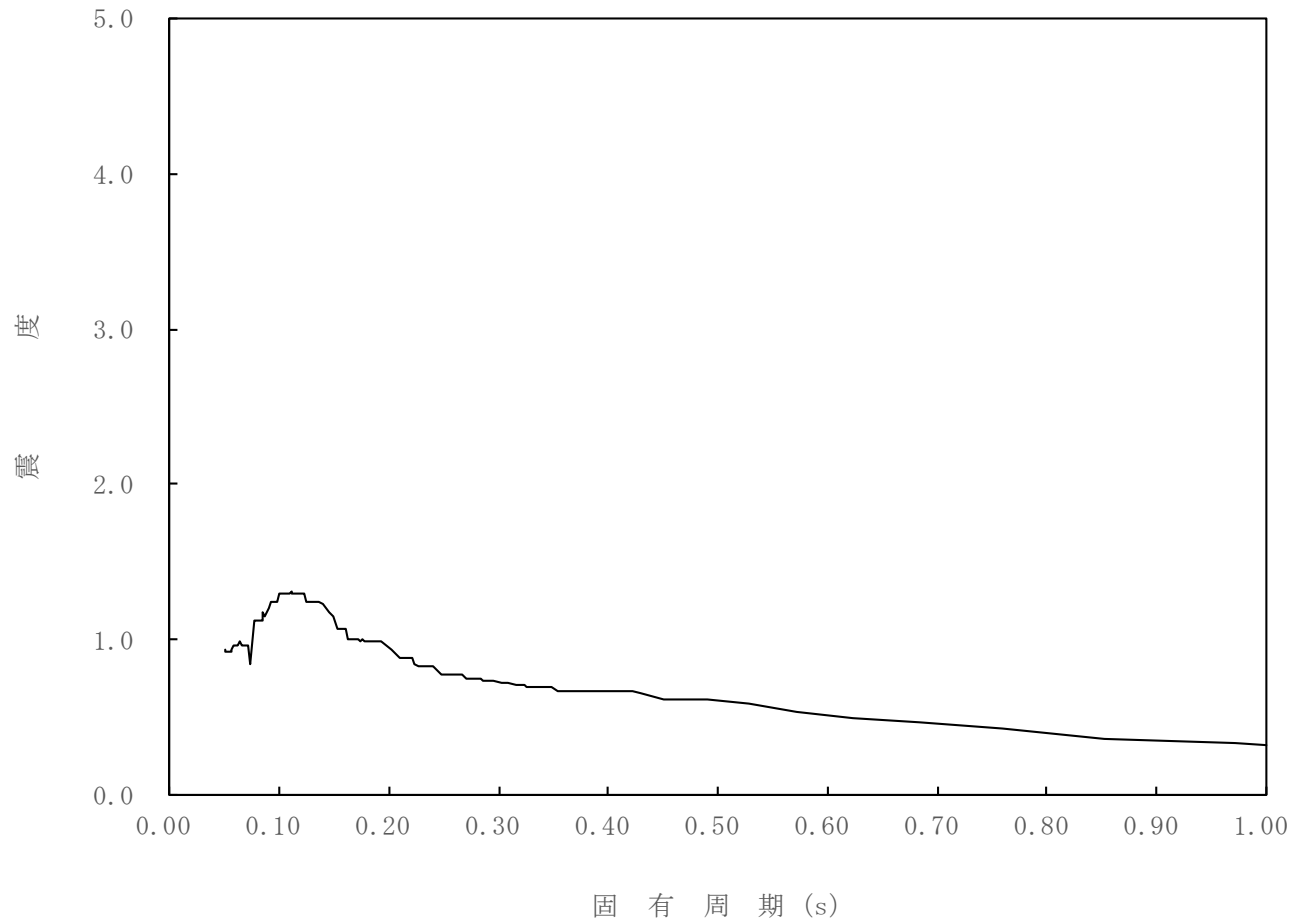
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -8.100m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【RB-SdV-RBB3-030】

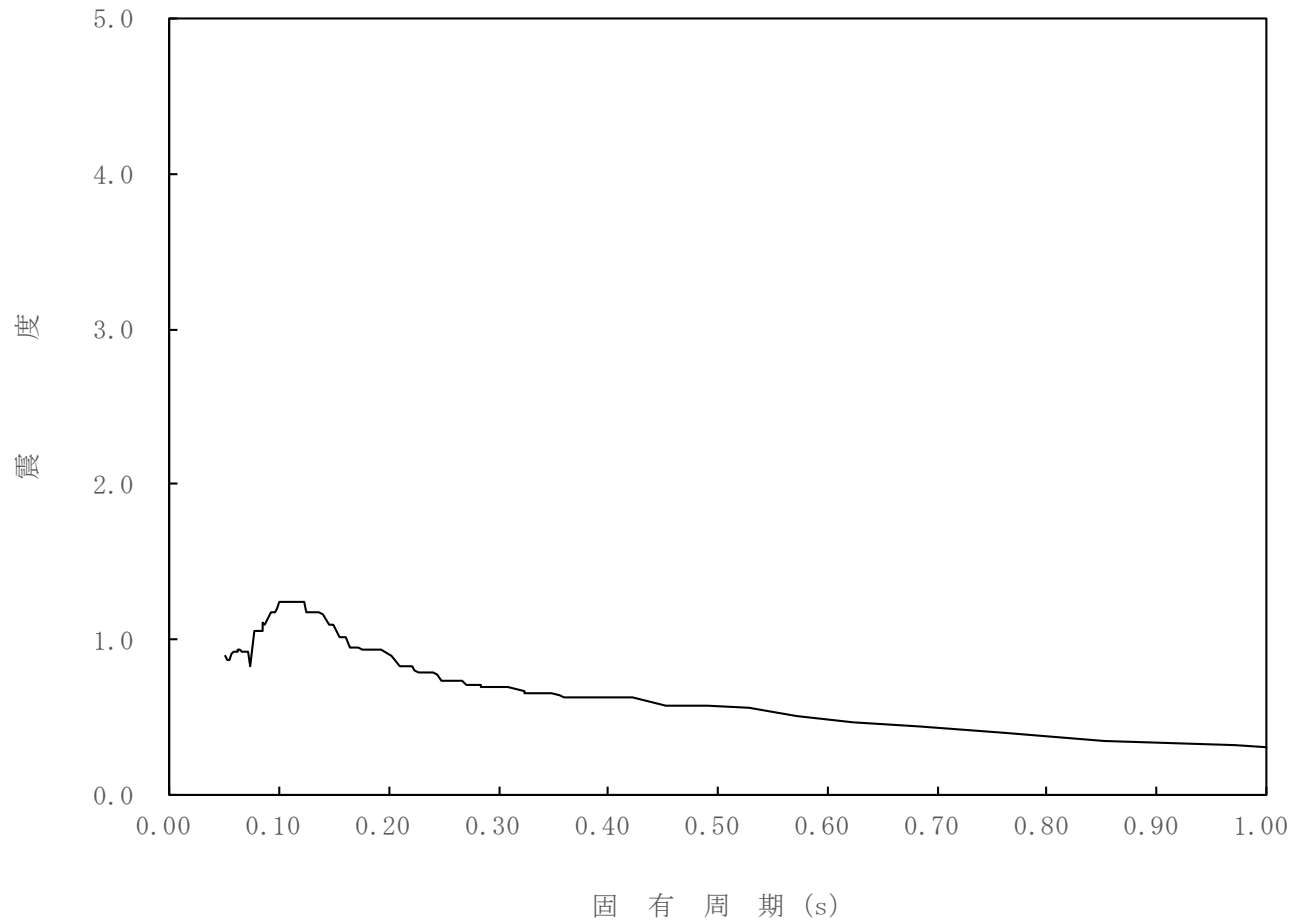
構造物名：原子炉建屋

標高：0. P. -8.100m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【RB-SdV-RBB3-050】

構造物名：原子炉建屋

標高：0.P.-8.100m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

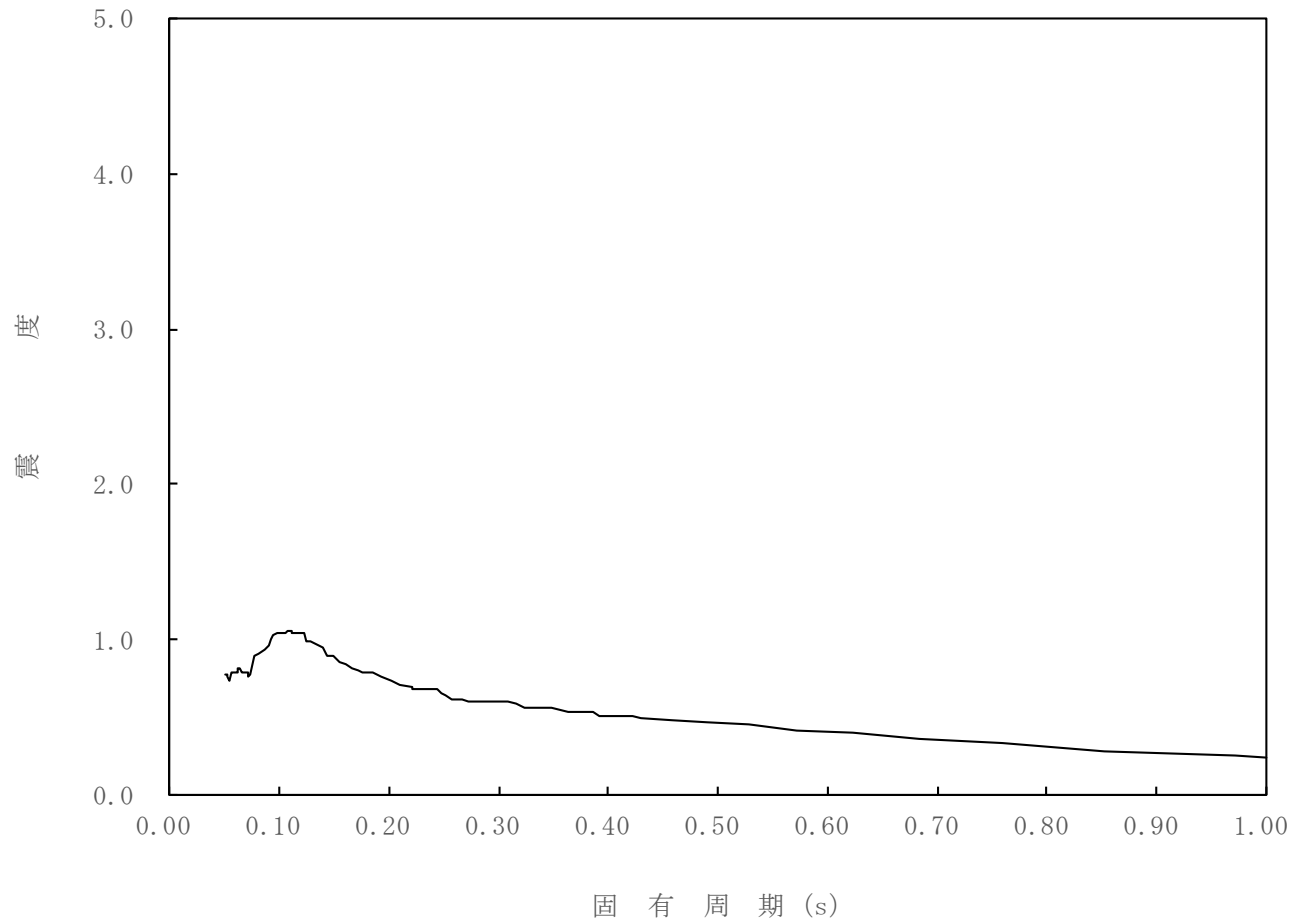


表 4-2-2 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 制御建屋 : 水平方向) (1/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	制御建屋	水平 方向	NS 方向 1, 9, 10 EW 方向 1, 9, 10	29. 150	0. 5	CB-SdH-CB4-005
					1. 0	CB-SdH-CB4-010
					1. 5	CB-SdH-CB4-015
					2. 0	CB-SdH-CB4-020
					2. 5	CB-SdH-CB4-025
					3. 0	CB-SdH-CB4-030
					4. 0	CB-SdH-CB4-040
					5. 0	CB-SdH-CB4-050
			NS 方向 2, 11 EW 方向 2, 11	22. 950	0. 5	CB-SdH-CB3-005
					1. 0	CB-SdH-CB3-010
					1. 5	CB-SdH-CB3-015
					2. 0	CB-SdH-CB3-020
					2. 5	CB-SdH-CB3-025
					3. 0	CB-SdH-CB3-030
					4. 0	CB-SdH-CB3-040
					5. 0	CB-SdH-CB3-050
			NS 方向 3, 12 EW 方向 3, 12	19. 500	0. 5	CB-SdH-CB2-005
					1. 0	CB-SdH-CB2-010
					1. 5	CB-SdH-CB2-015
					2. 0	CB-SdH-CB2-020
					2. 5	CB-SdH-CB2-025
					3. 0	CB-SdH-CB2-030
					4. 0	CB-SdH-CB2-040
					5. 0	CB-SdH-CB2-050
			NS 方向 4, 13 EW 方向 4, 13	15. 000	0. 5	CB-SdH-CB1-005
					1. 0	CB-SdH-CB1-010
					1. 5	CB-SdH-CB1-015
					2. 0	CB-SdH-CB1-020
					2. 5	CB-SdH-CB1-025
					3. 0	CB-SdH-CB1-030
					4. 0	CB-SdH-CB1-040
					5. 0	CB-SdH-CB1-050

表 4-2-2 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 制御建屋 : 水平方向) (2/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	制御建屋	水平 方向	NS 方向 5, 14 EW 方向 5, 14	8. 000	0. 5	CB-SdH-CBB1-005
					1. 0	CB-SdH-CBB1-010
					1. 5	CB-SdH-CBB1-015
					2. 0	CB-SdH-CBB1-020
					2. 5	CB-SdH-CBB1-025
					3. 0	CB-SdH-CBB1-030
					4. 0	CB-SdH-CBB1-040
					5. 0	CB-SdH-CBB1-050
			NS 方向 6 EW 方向 6	1. 500	0. 5	CB-SdH-CBB2-005
					1. 0	CB-SdH-CBB2-010
					1. 5	CB-SdH-CBB2-015
					2. 0	CB-SdH-CBB2-020
					2. 5	CB-SdH-CBB2-025
					3. 0	CB-SdH-CBB2-030
					4. 0	CB-SdH-CBB2-040
					5. 0	CB-SdH-CBB2-050

VI-2-1-7 R 2  
O 2 ⑥



表 4-2-2 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 制御建屋 : 鉛直方向) (1/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	制御建屋	鉛直 方向	1	29.150	0.5	CB-SdV-CB4-005
					1.0	CB-SdV-CB4-010
					1.5	CB-SdV-CB4-015
					2.0	CB-SdV-CB4-020
					2.5	CB-SdV-CB4-025
					3.0	CB-SdV-CB4-030
					5.0	CB-SdV-CB4-050
			2	22.950	0.5	CB-SdV-CB3-005
					1.0	CB-SdV-CB3-010
					1.5	CB-SdV-CB3-015
					2.0	CB-SdV-CB3-020
					2.5	CB-SdV-CB3-025
					3.0	CB-SdV-CB3-030
					5.0	CB-SdV-CB3-050
			3	19.500	0.5	CB-SdV-CB2-005
					1.0	CB-SdV-CB2-010
					1.5	CB-SdV-CB2-015
					2.0	CB-SdV-CB2-020
					2.5	CB-SdV-CB2-025
					3.0	CB-SdV-CB2-030
					5.0	CB-SdV-CB2-050
			4	15.000	0.5	CB-SdV-CB1-005
					1.0	CB-SdV-CB1-010
					1.5	CB-SdV-CB1-015
					2.0	CB-SdV-CB1-020
					2.5	CB-SdV-CB1-025
					3.0	CB-SdV-CB1-030
					5.0	CB-SdV-CB1-050

表 4-2-2 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 制御建屋 : 鉛直方向) (2/2)

地震波	建屋	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	制御建屋	鉛直 方向	5	8.000	0.5	CB-SdV-CBB1-005
					1.0	CB-SdV-CBB1-010
					1.5	CB-SdV-CBB1-015
					2.0	CB-SdV-CBB1-020
					2.5	CB-SdV-CBB1-025
					3.0	CB-SdV-CBB1-030
					5.0	CB-SdV-CBB1-050
			6	1.500	0.5	CB-SdV-CBB2-005
					1.0	CB-SdV-CBB2-010
					1.5	CB-SdV-CBB2-015
					2.0	CB-SdV-CBB2-020
					2.5	CB-SdV-CBB2-025
					3.0	CB-SdV-CBB2-030
					5.0	CB-SdV-CBB2-050

VI-2-1-7 R 2  
⑥  
O 2

【CB-SdH-CB4-005】

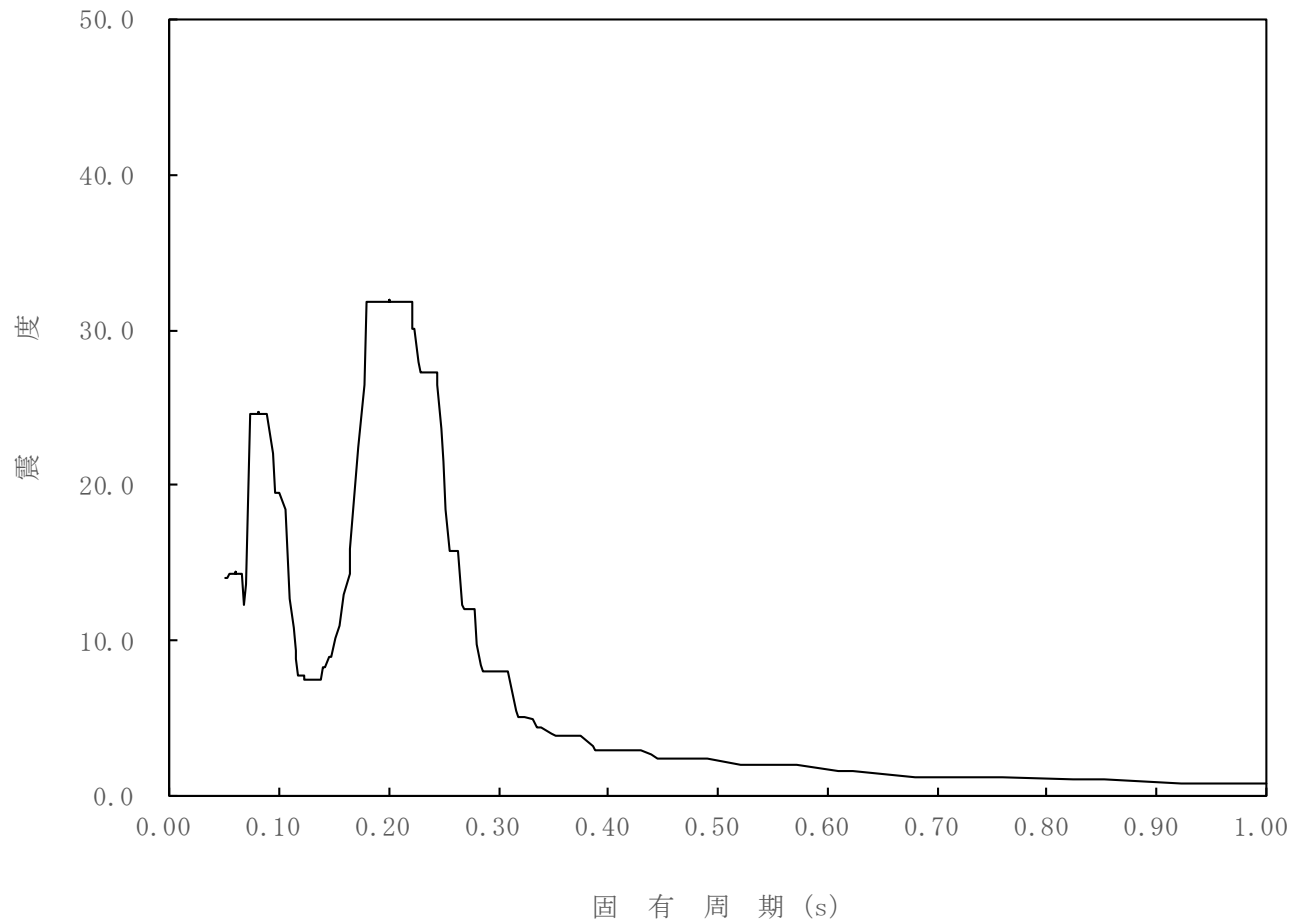
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB4-010】

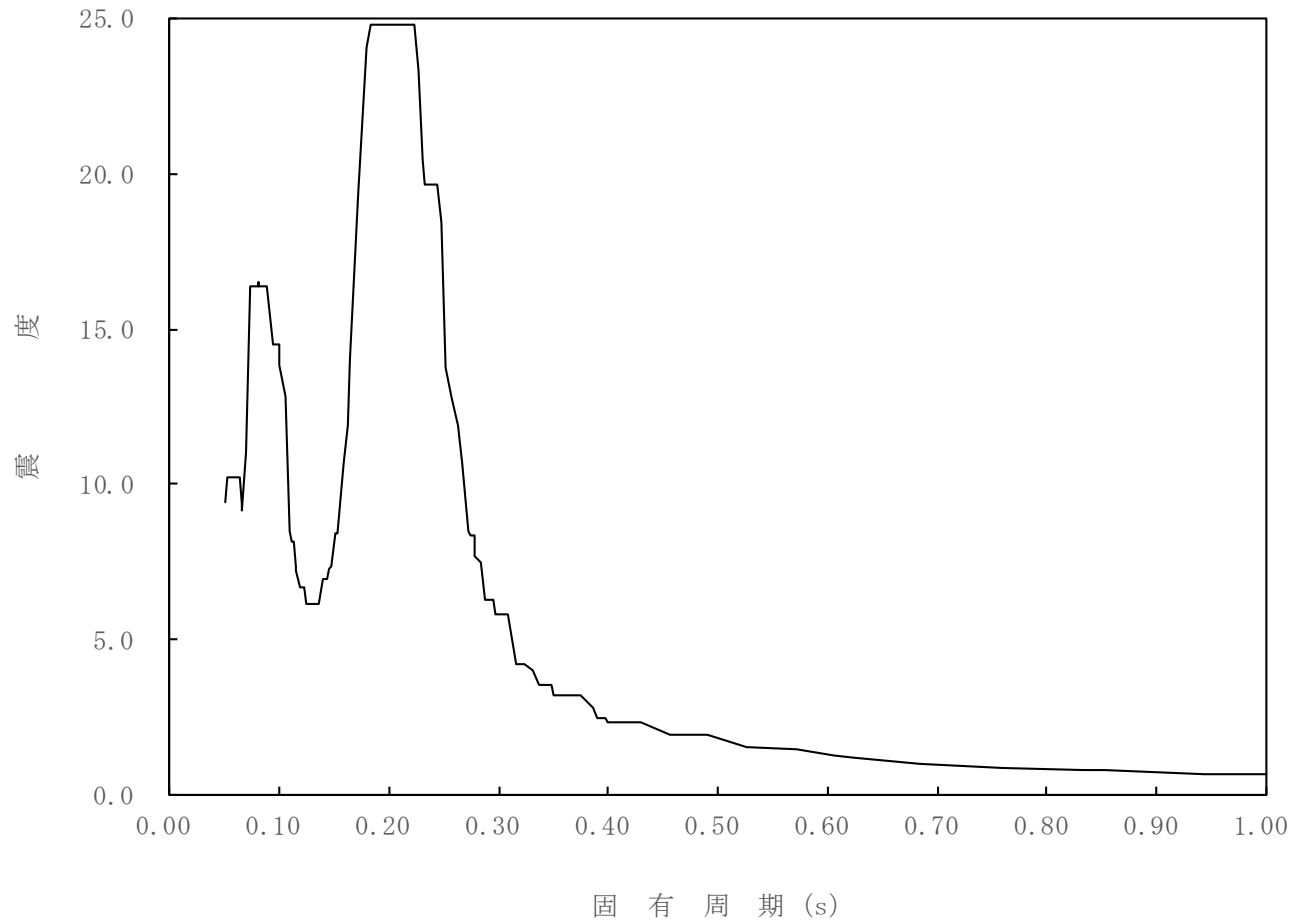
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-6

【CB-SdH-CB4-015】

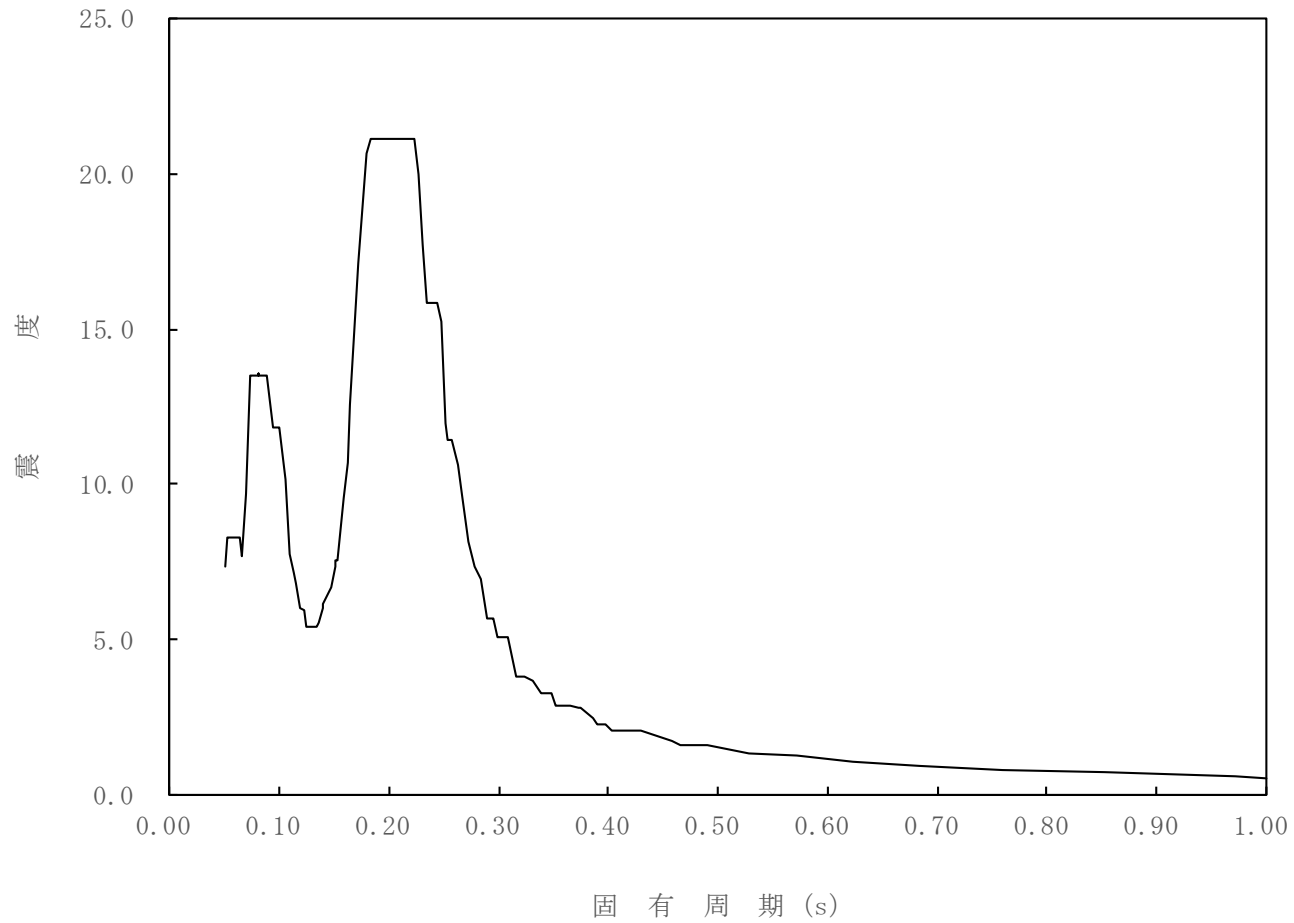
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-7

【CB-SdH-CB4-020】

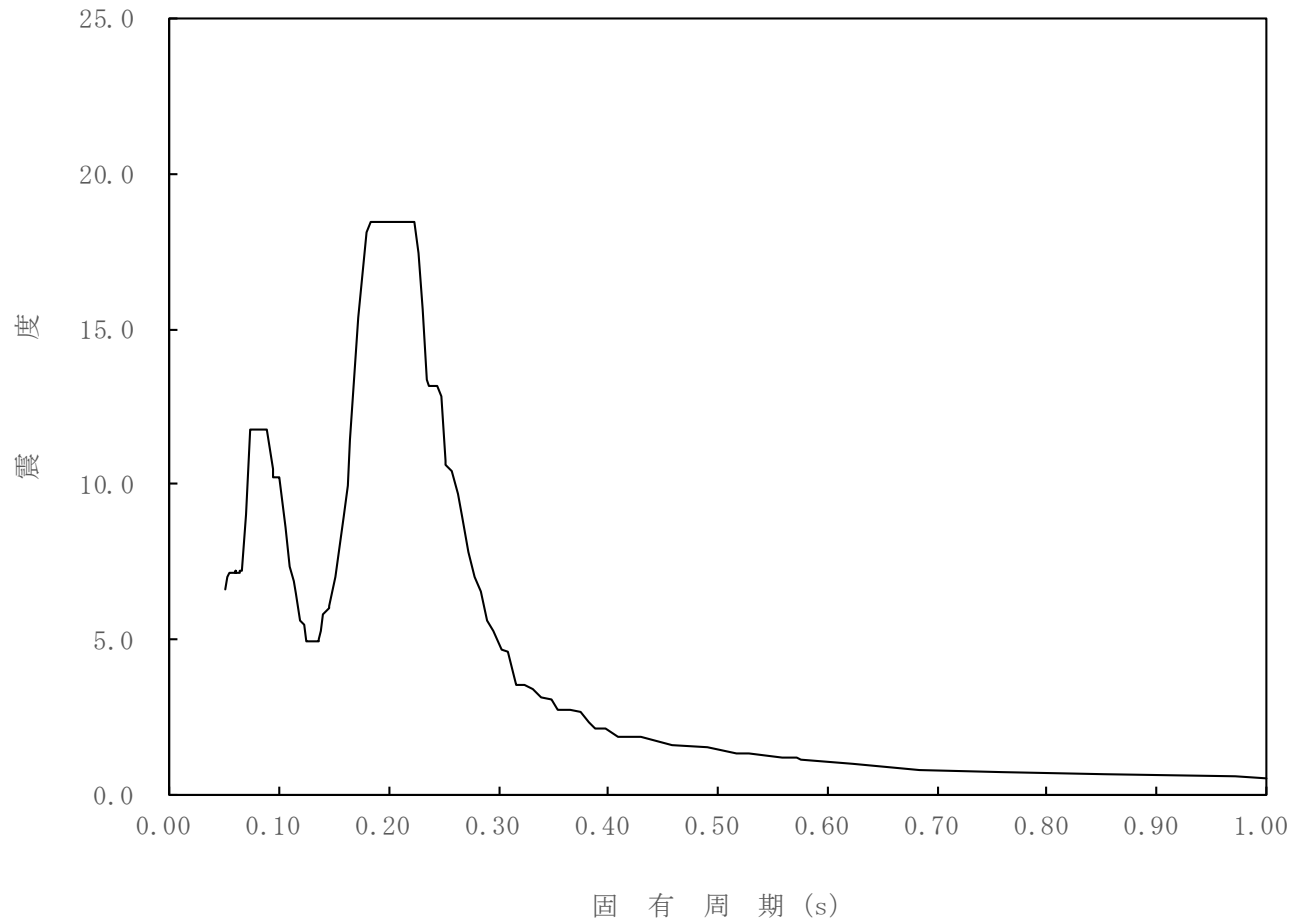
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdH-CB4-025】

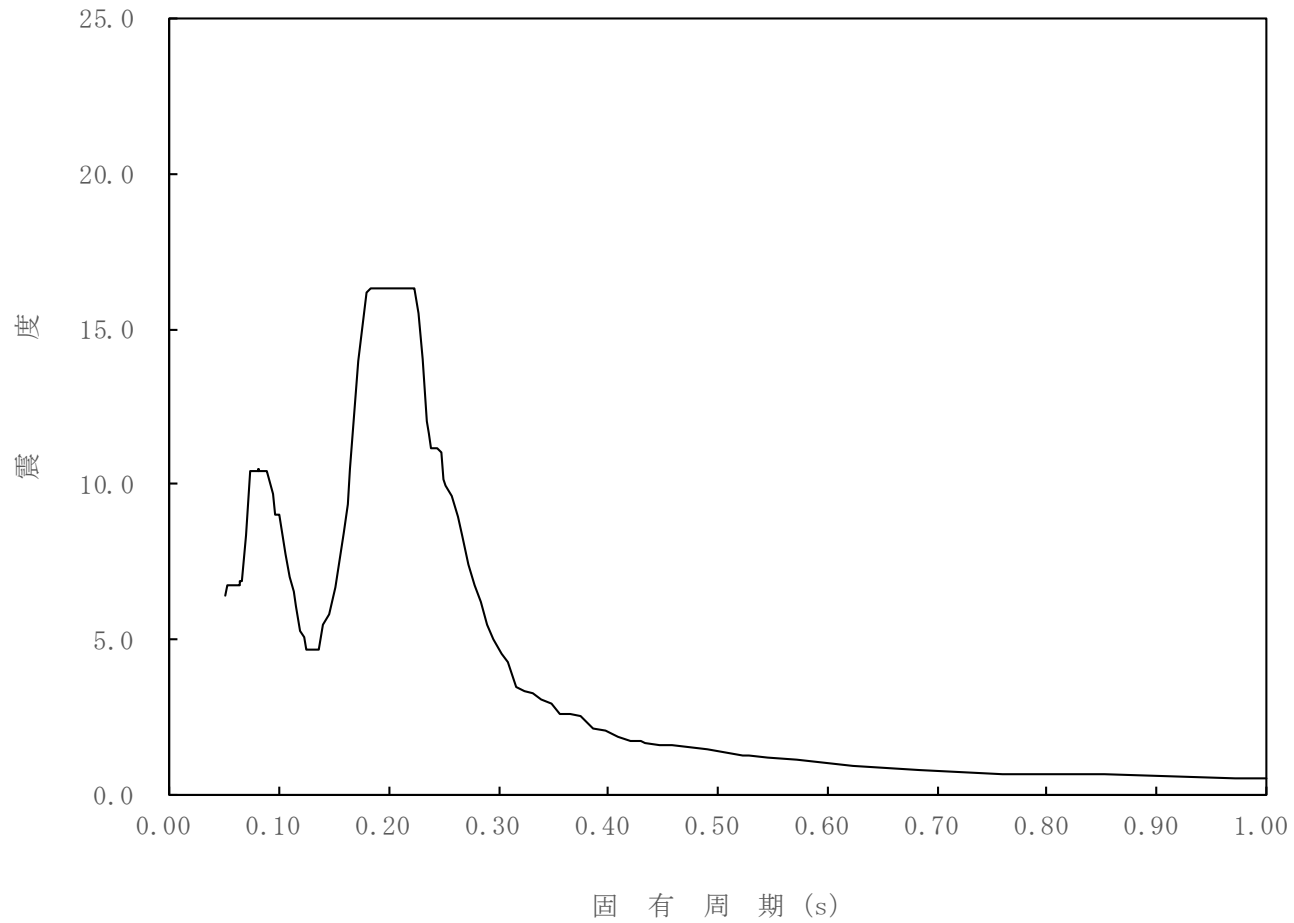
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB4-030】

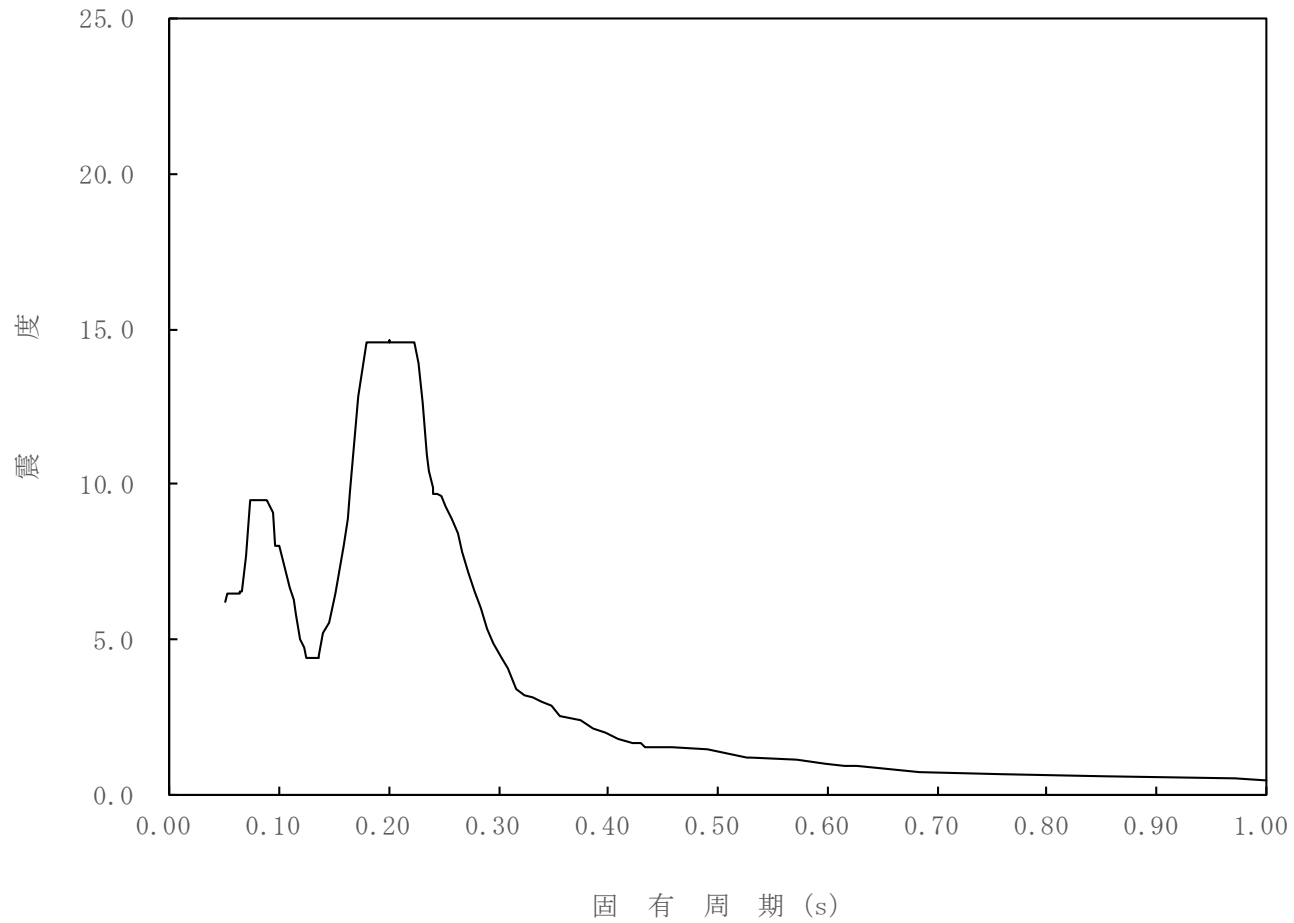
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-10



【CB-SdH-CB4-040】

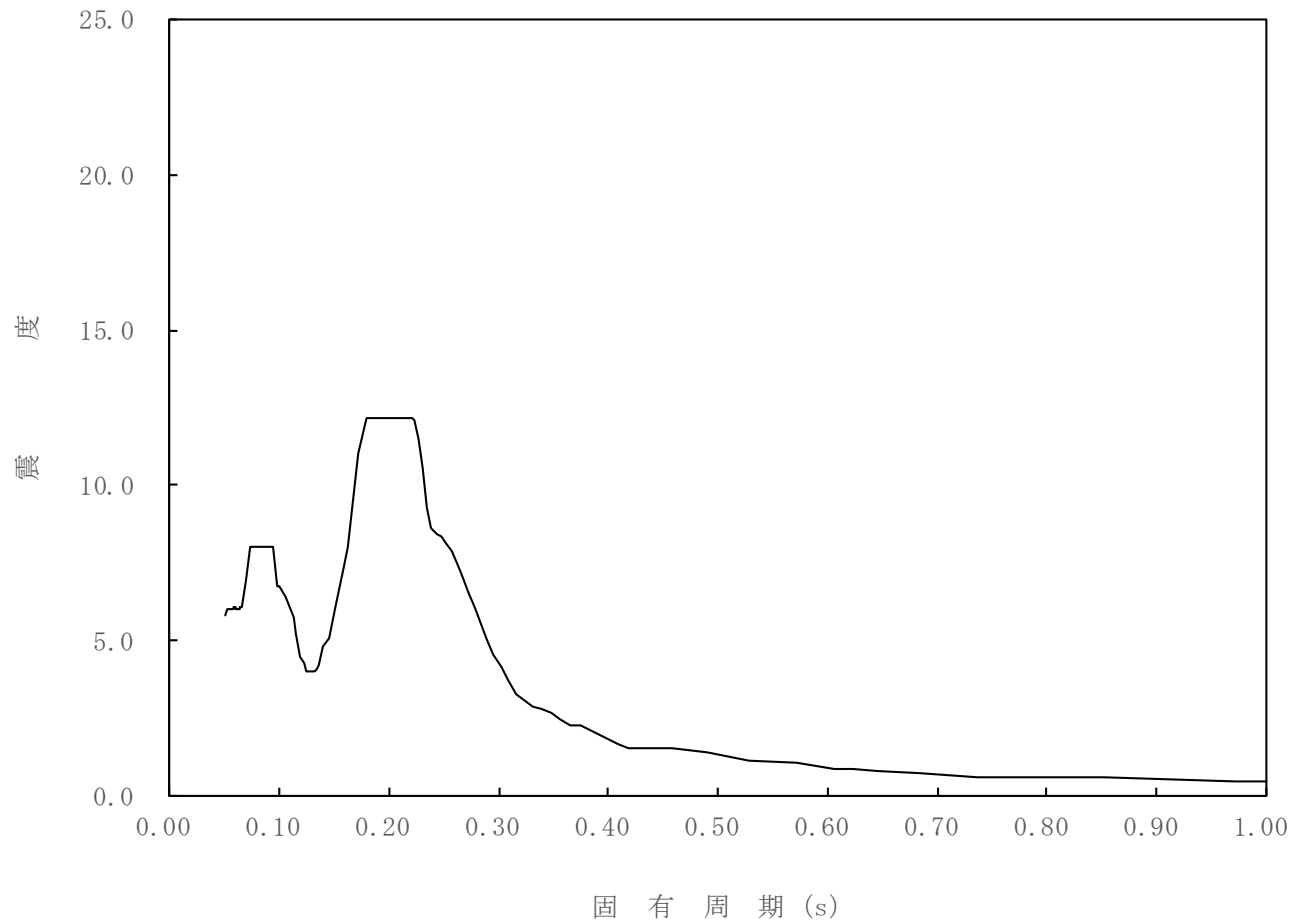
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB4-050】

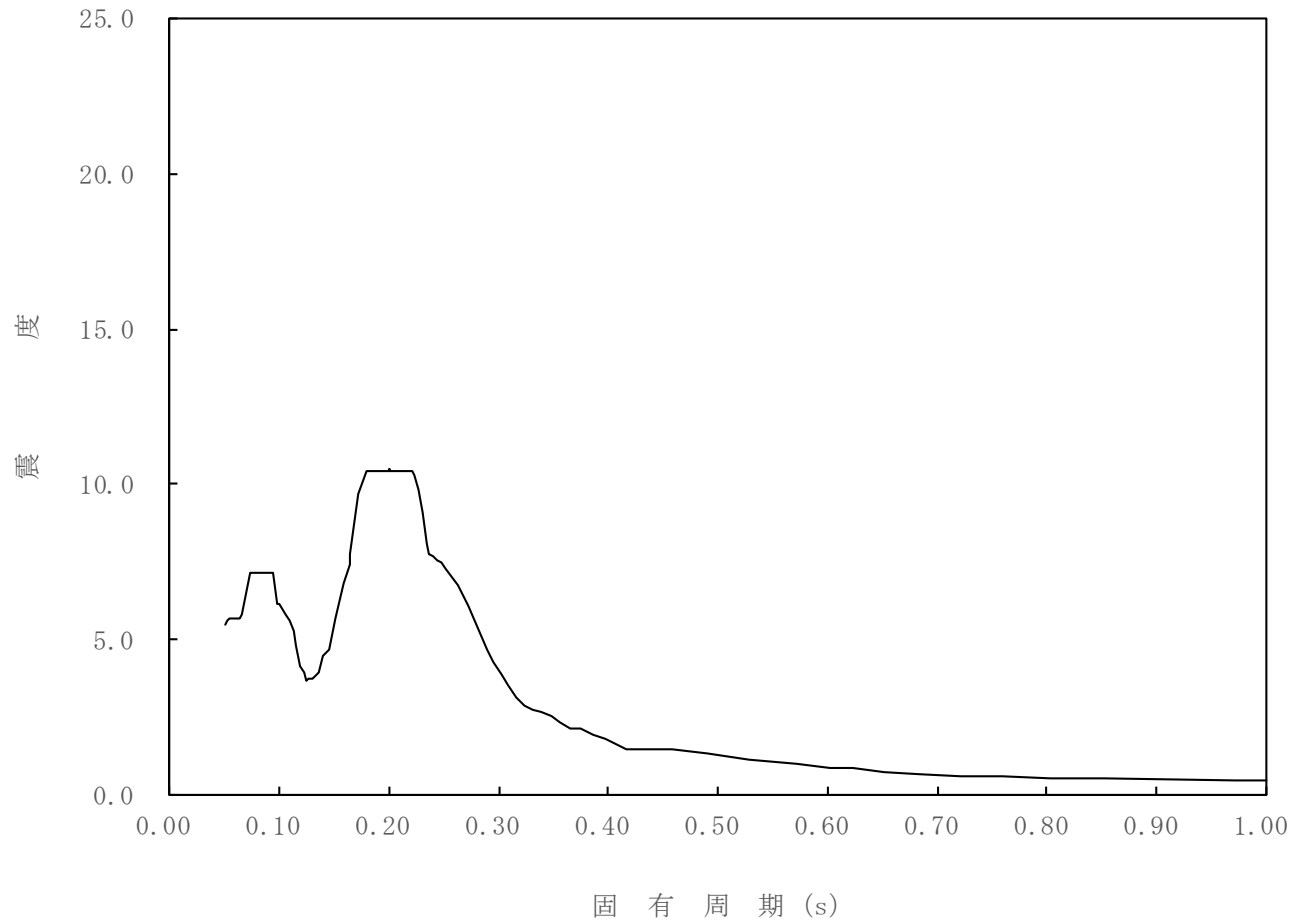
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 29.150m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-12

【CB-SdH-CB3-005】

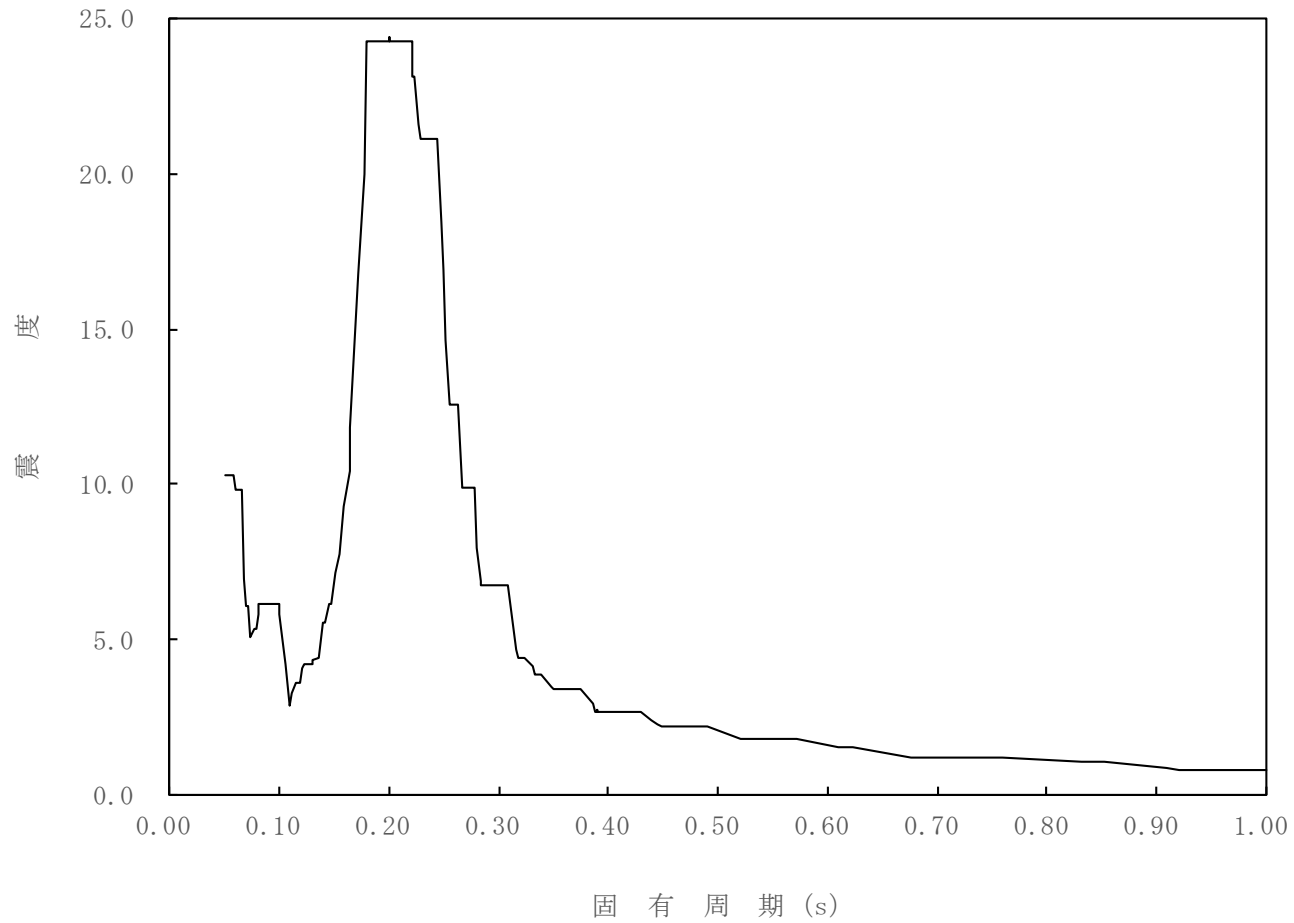
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB3-010】

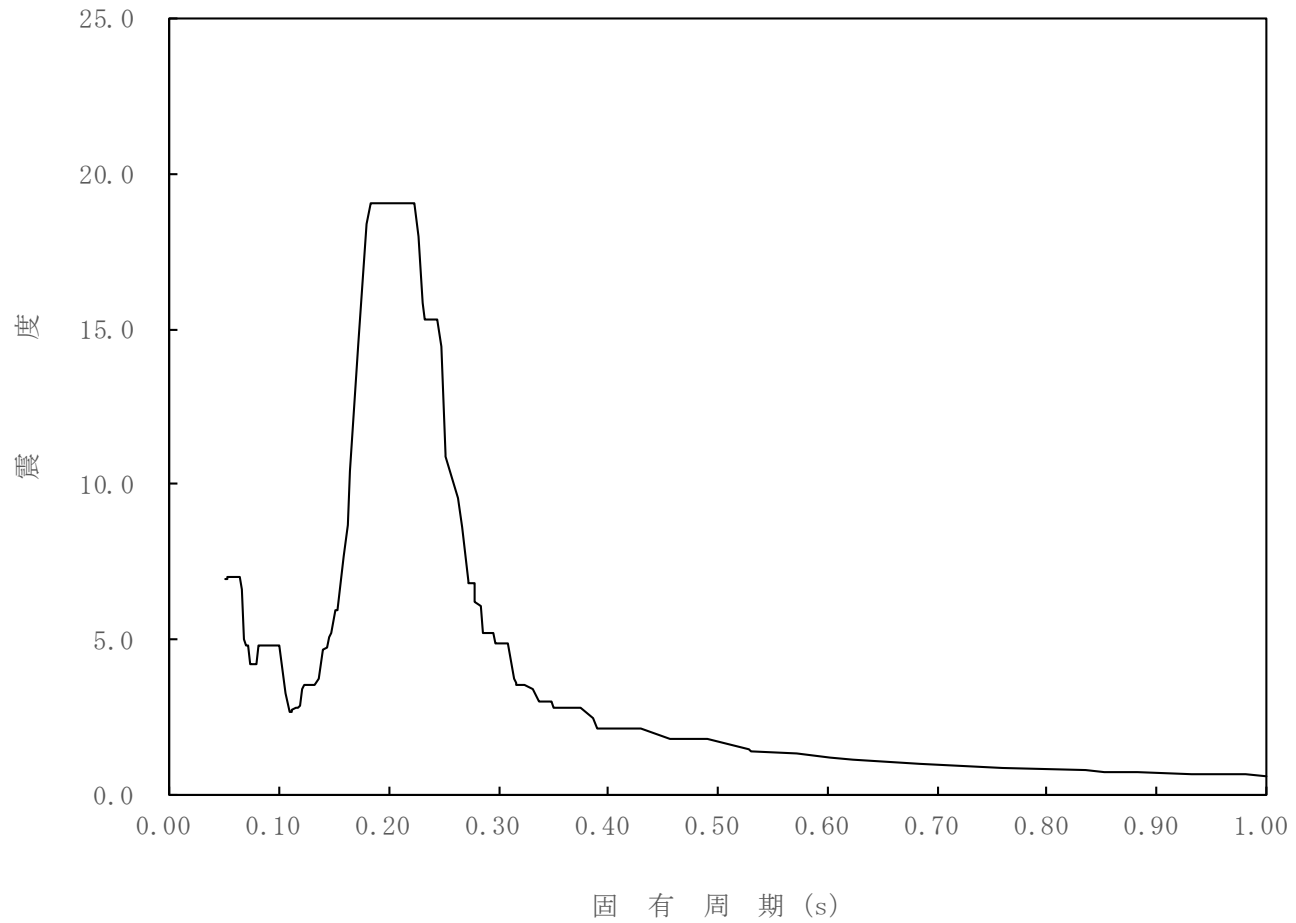
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-2-14

【CB-SdH-CB3-015】

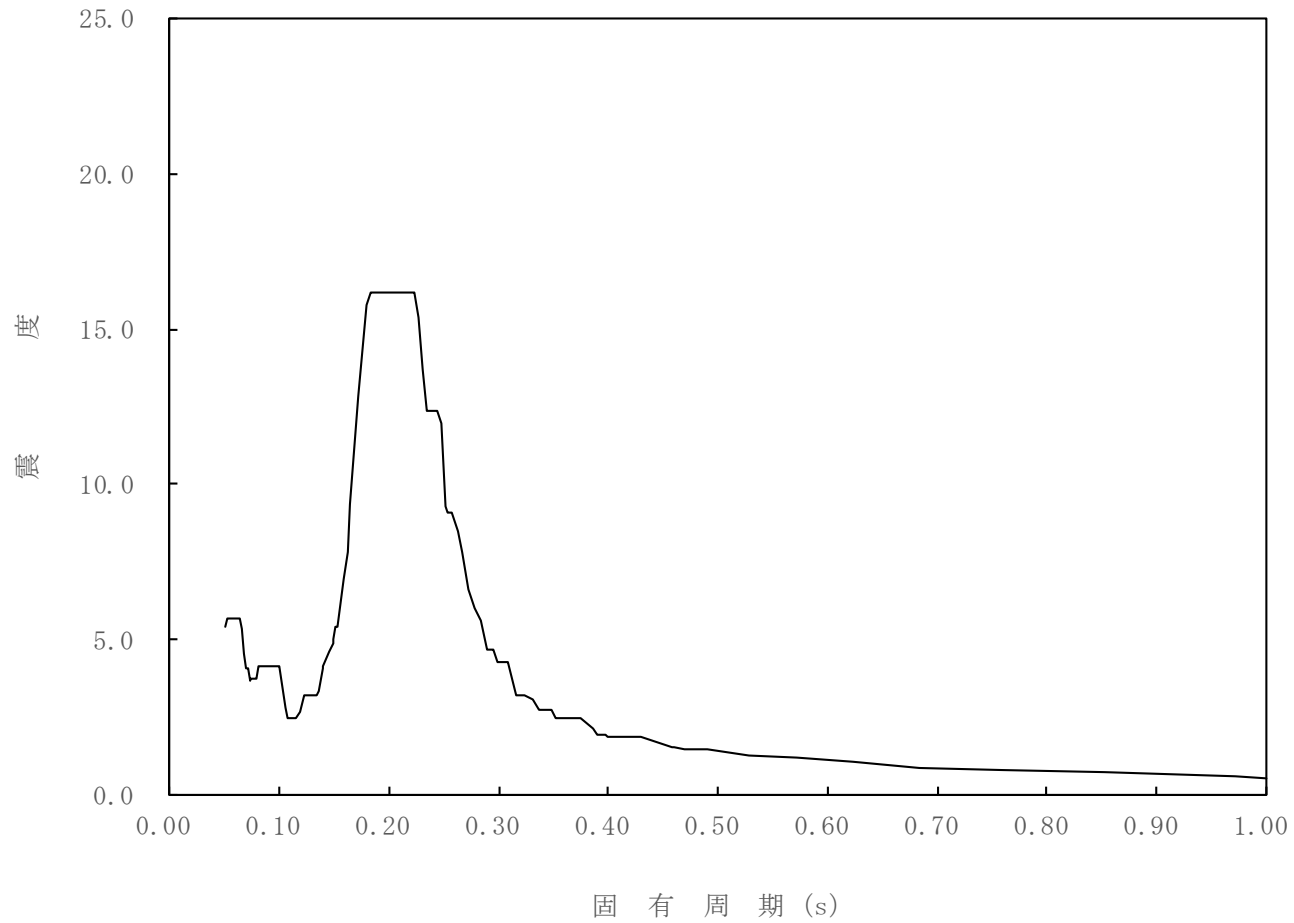
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-15

【CB-SdH-CB3-020】

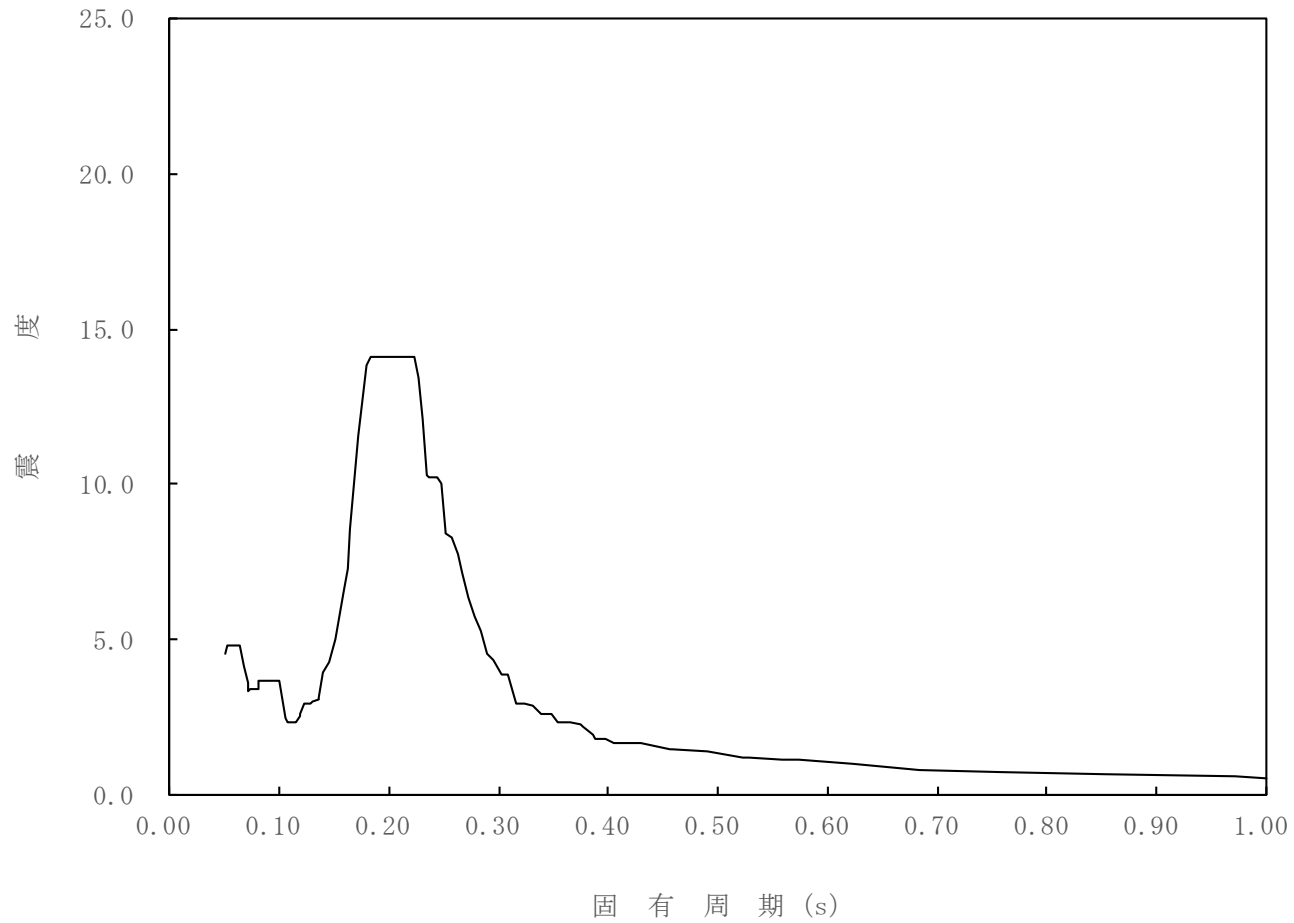
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-16

【CB-SdH-CB3-025】

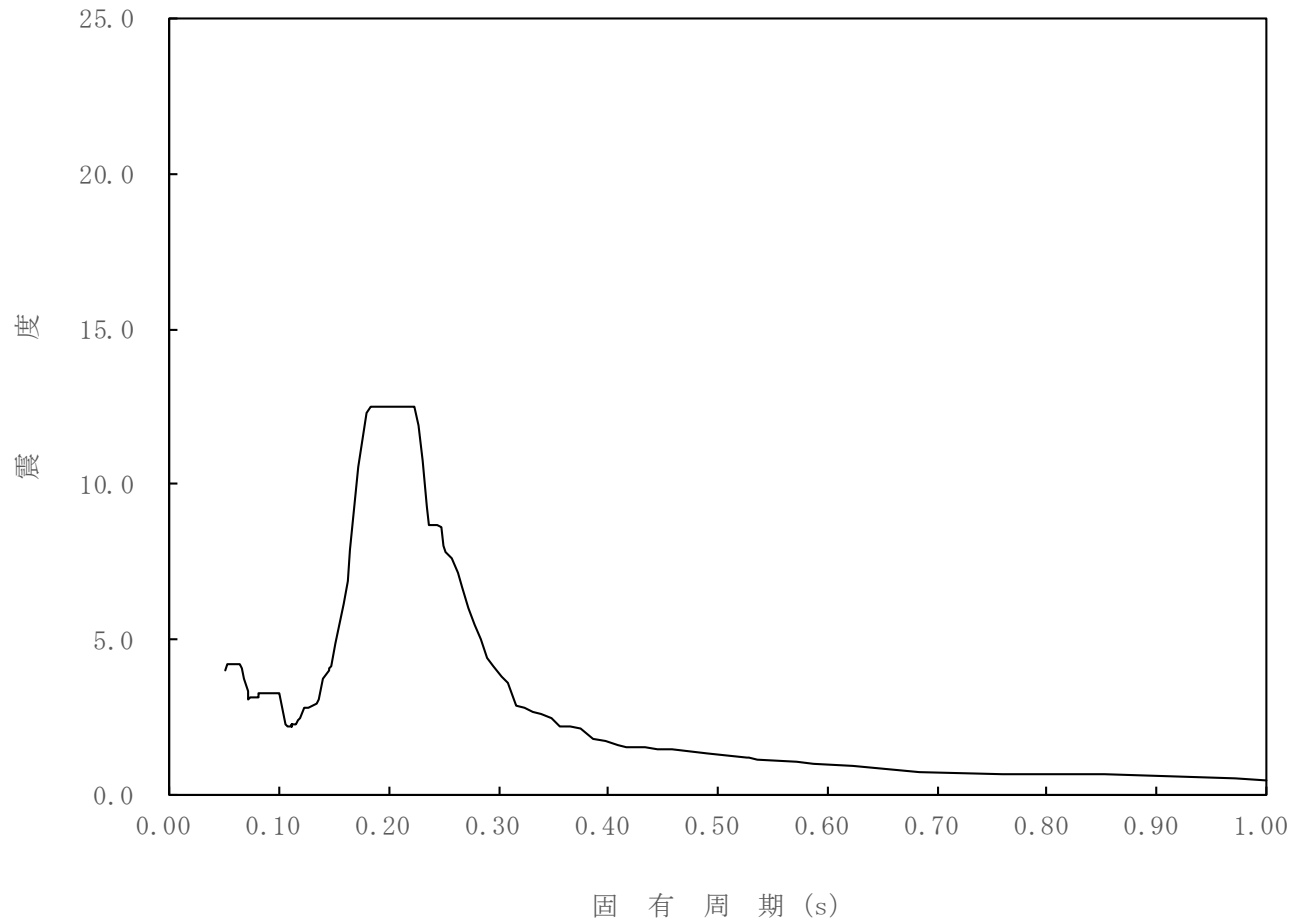
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB3-030】

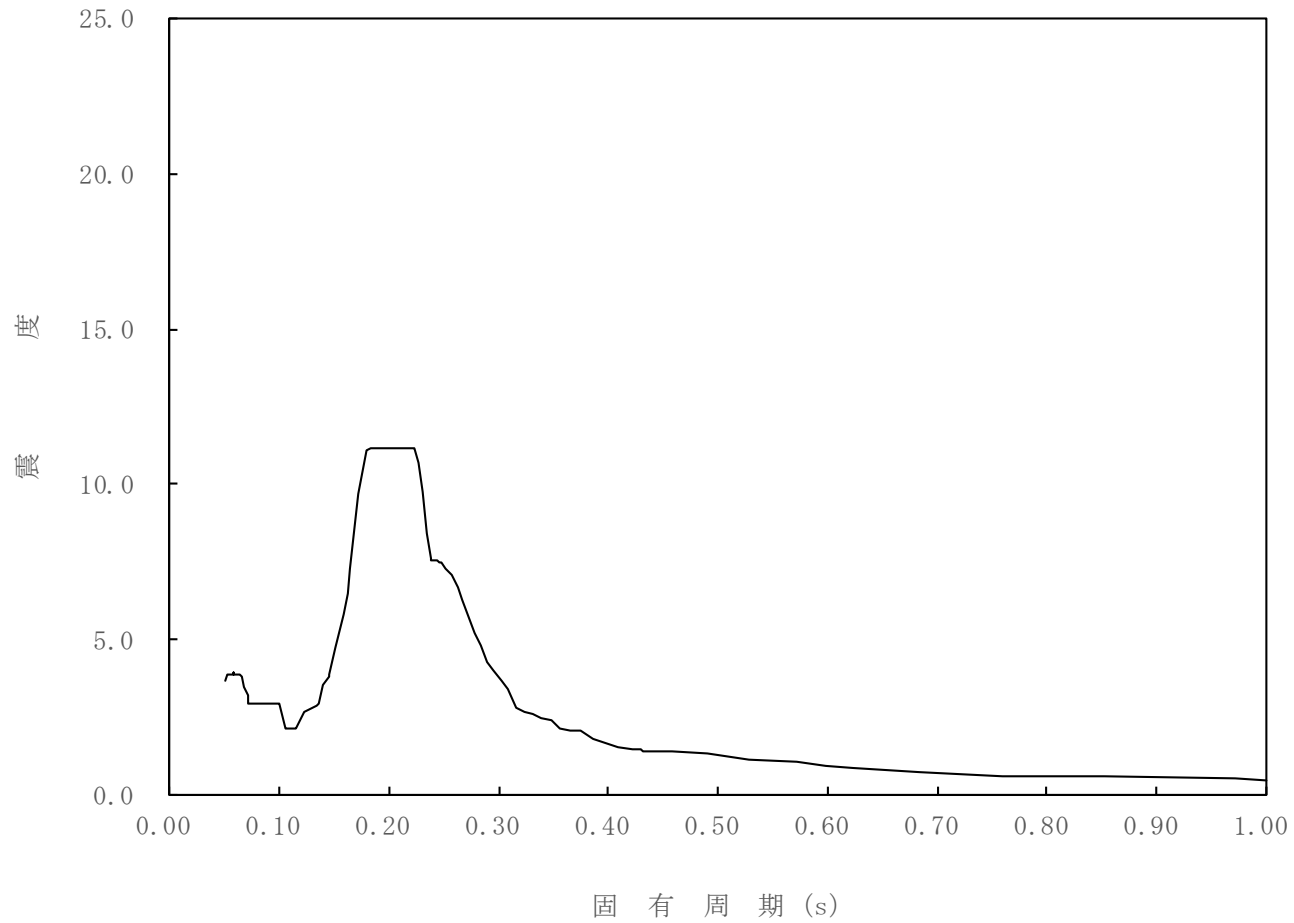
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【CB-SdH-CB3-040】

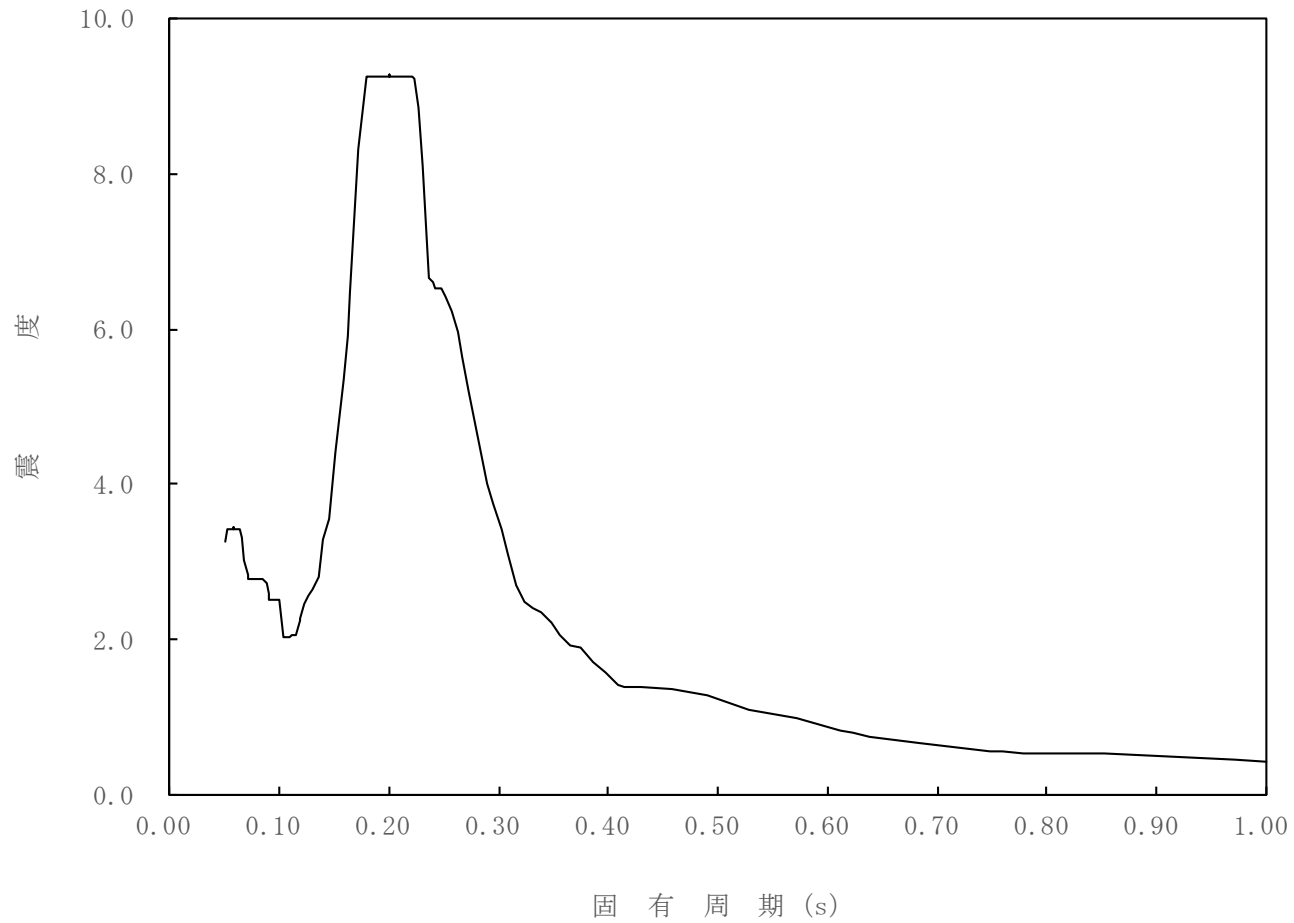
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-19

【CB-SdH-CB3-050】

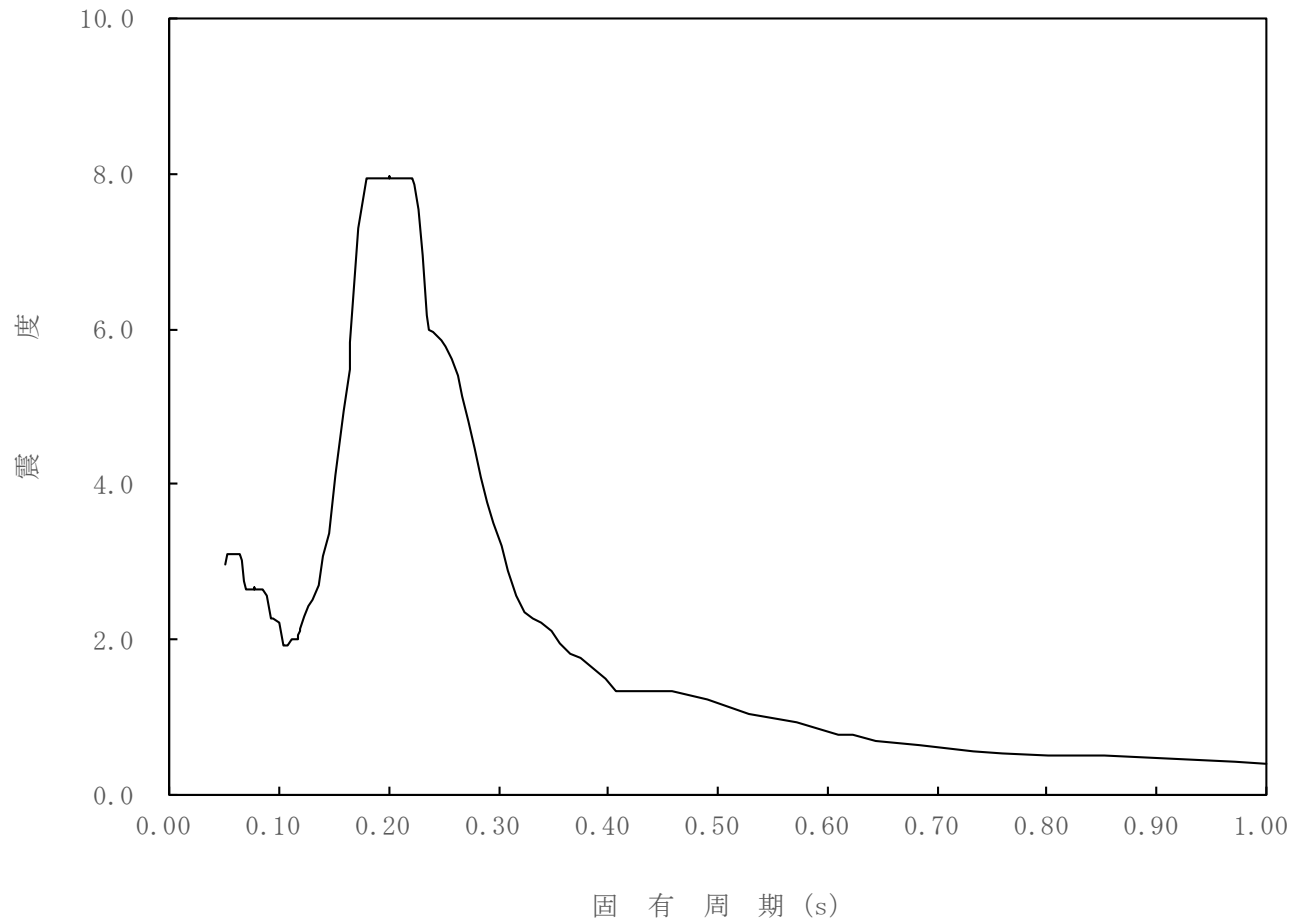
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 22.950m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-20

【CB-SdH-CB2-005】

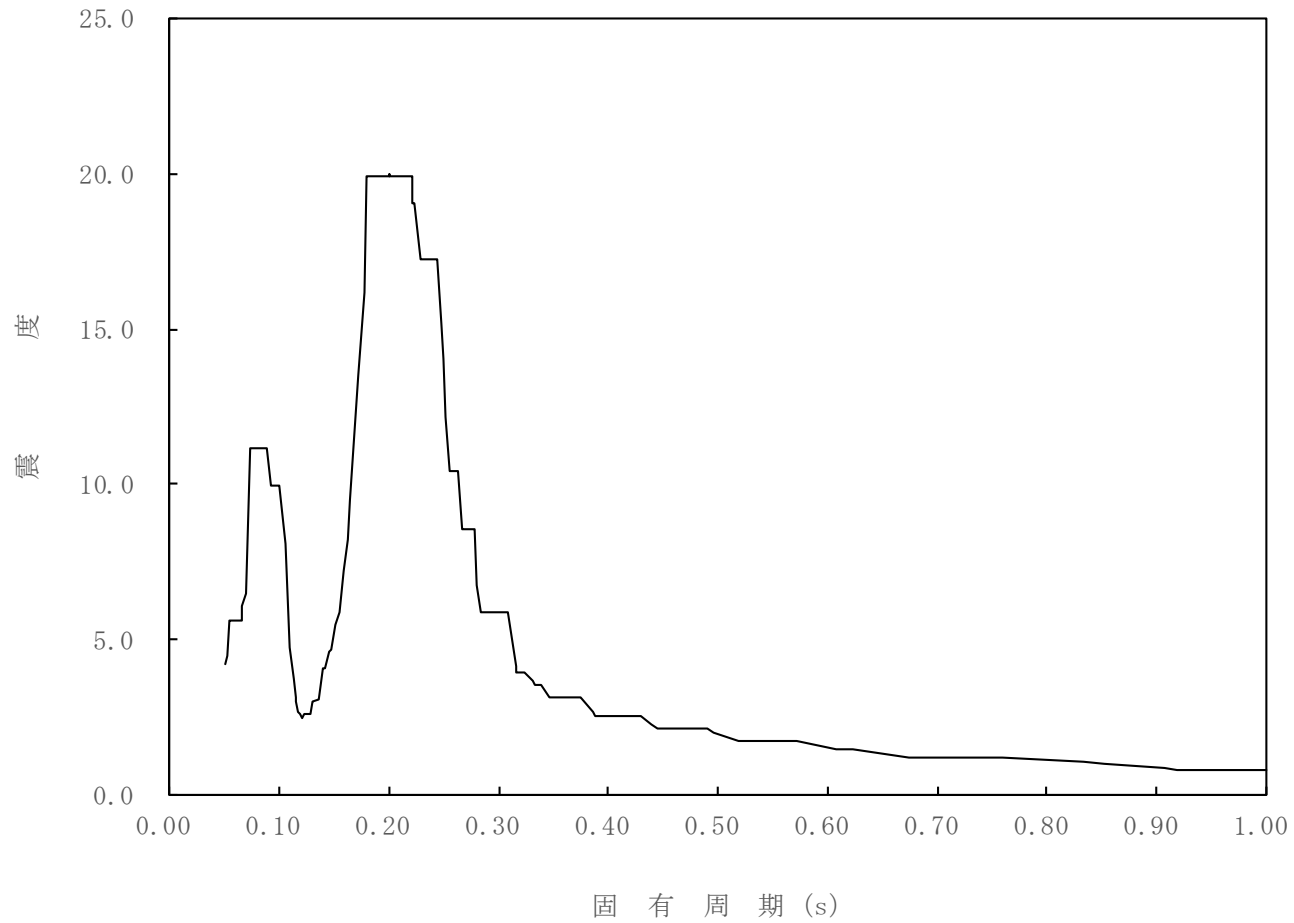
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-21

【CB-SdH-CB2-010】

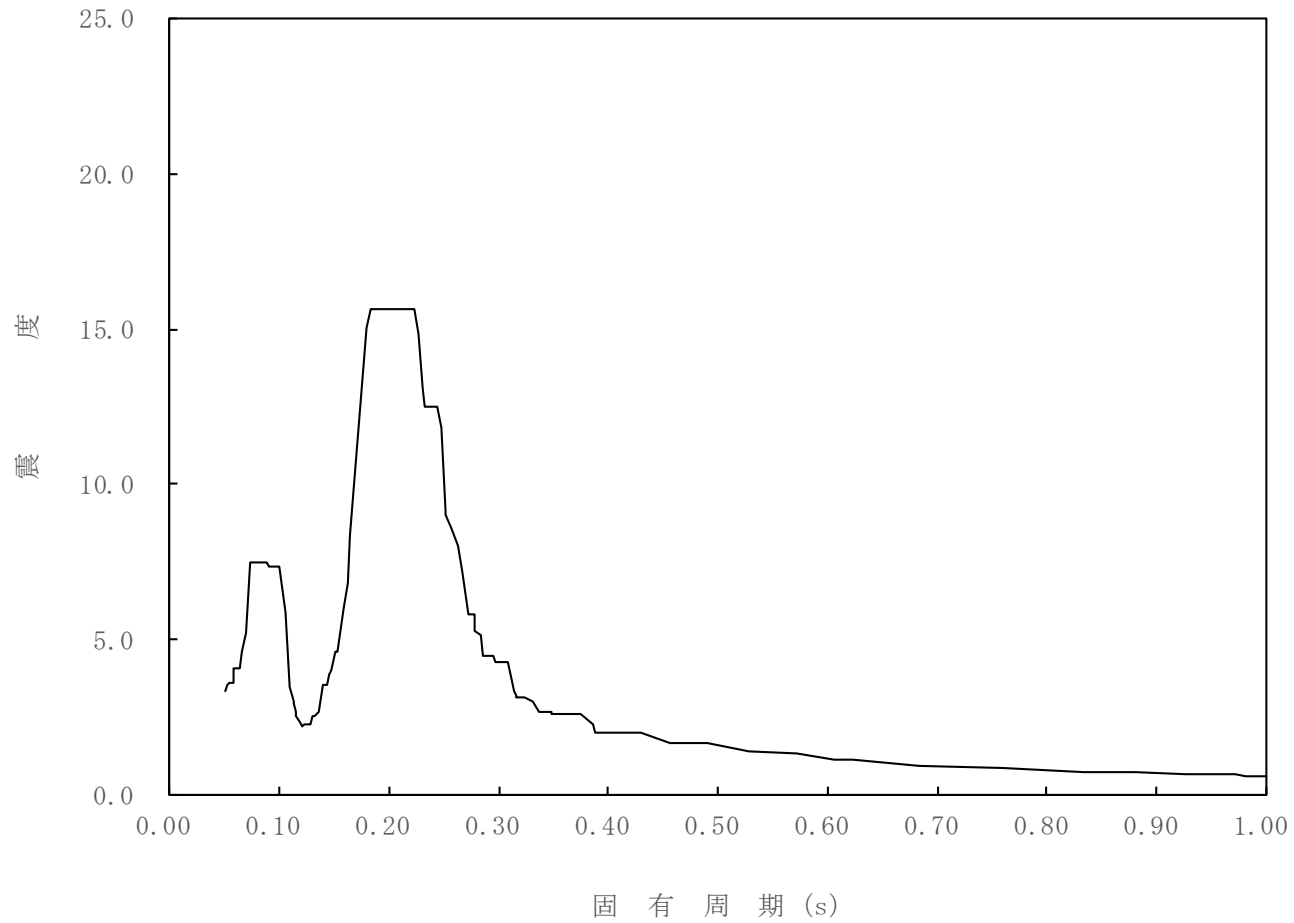
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-22

【CB-SdH-CB2-015】

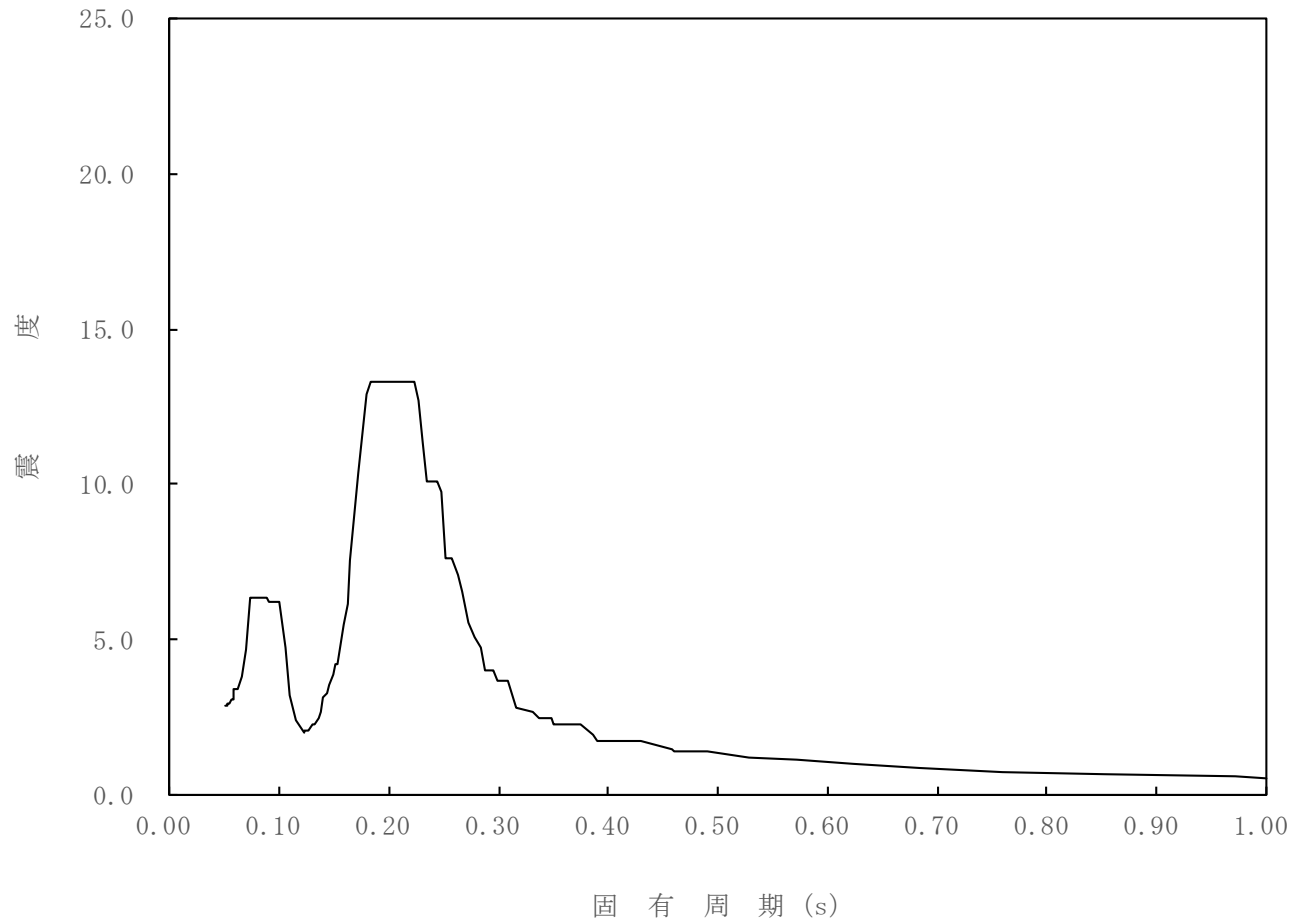
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB2-020】

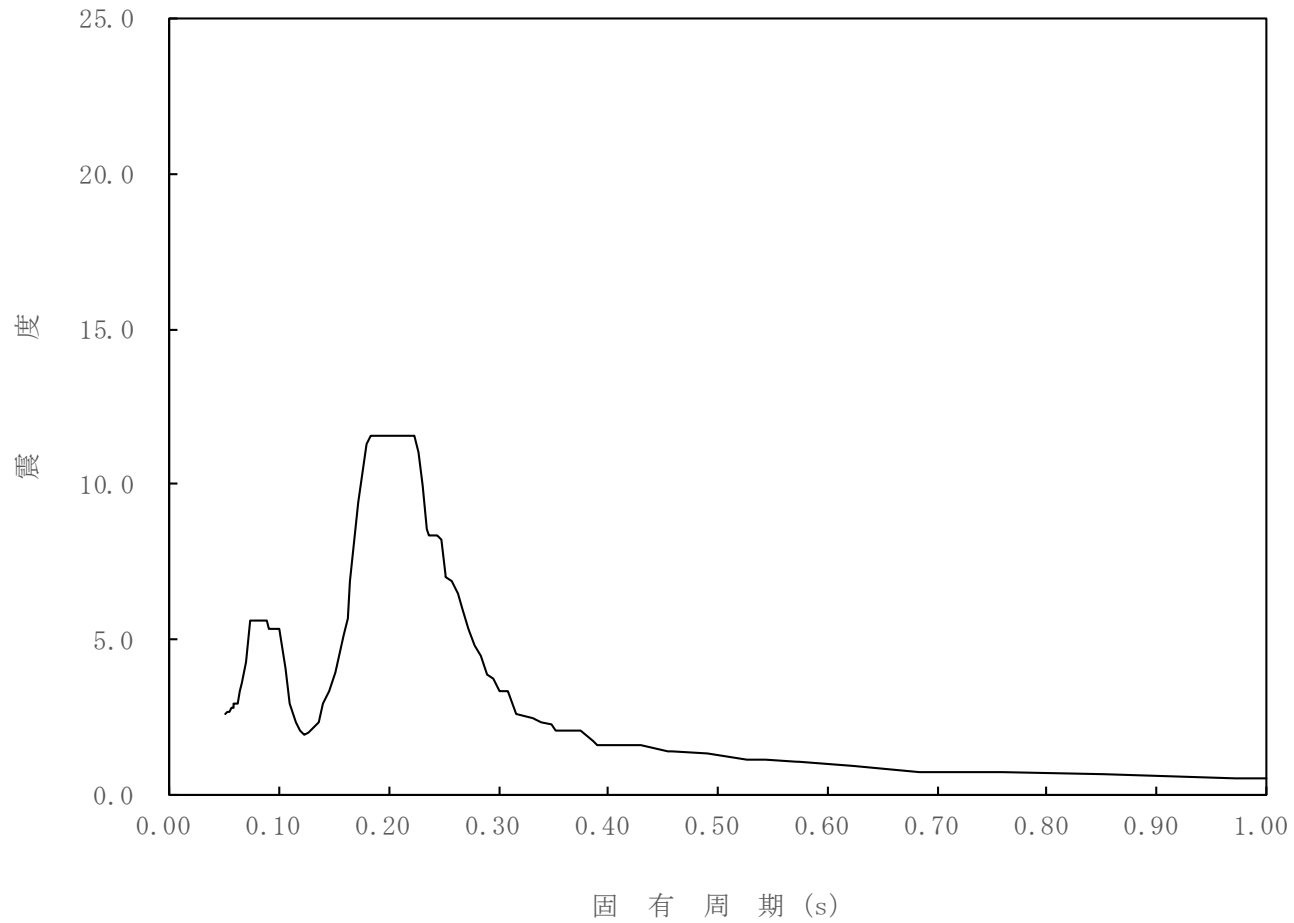
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-24

【CB-SdH-CB2-025】

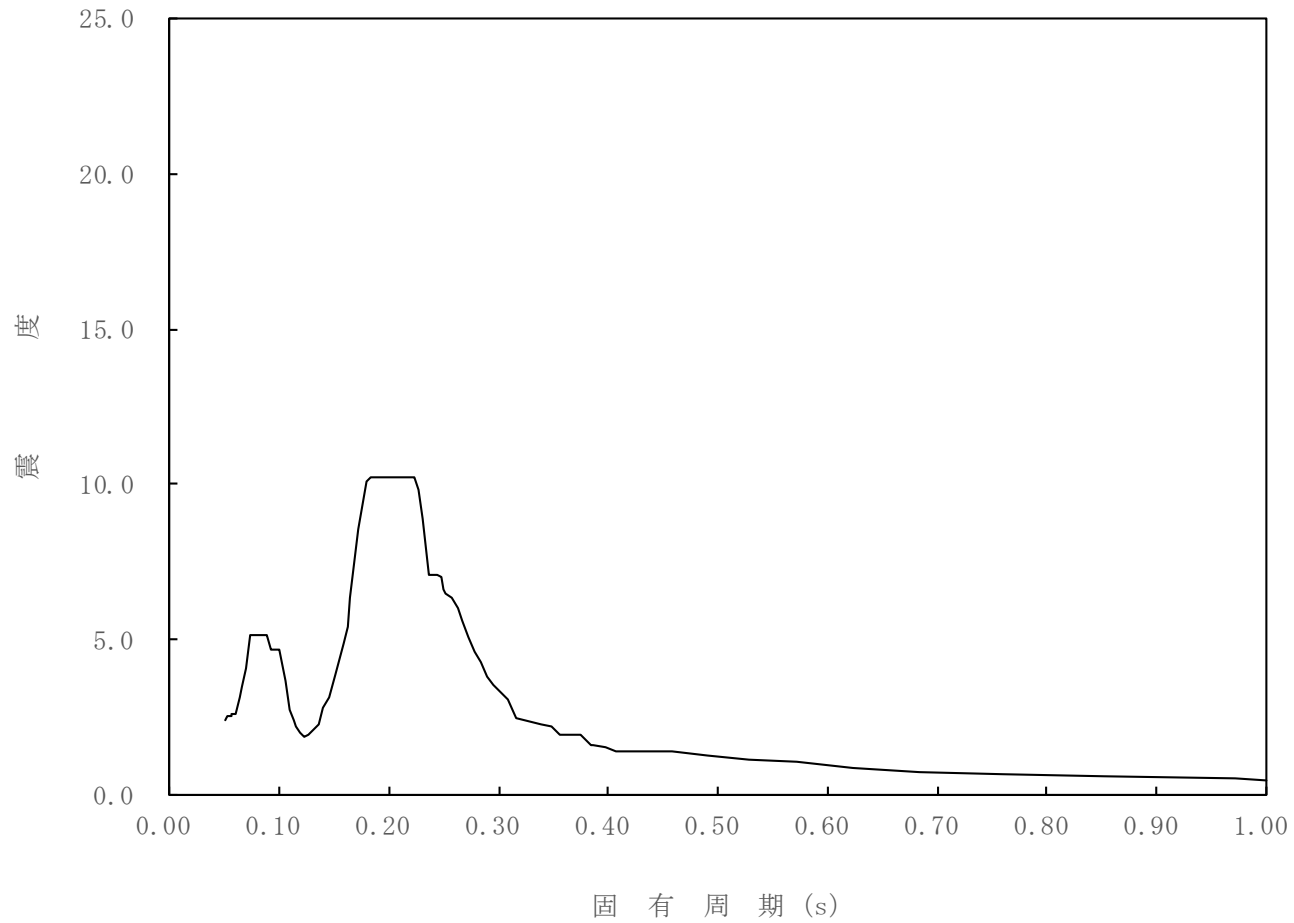
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-25

【CB-SdH-CB2-030】

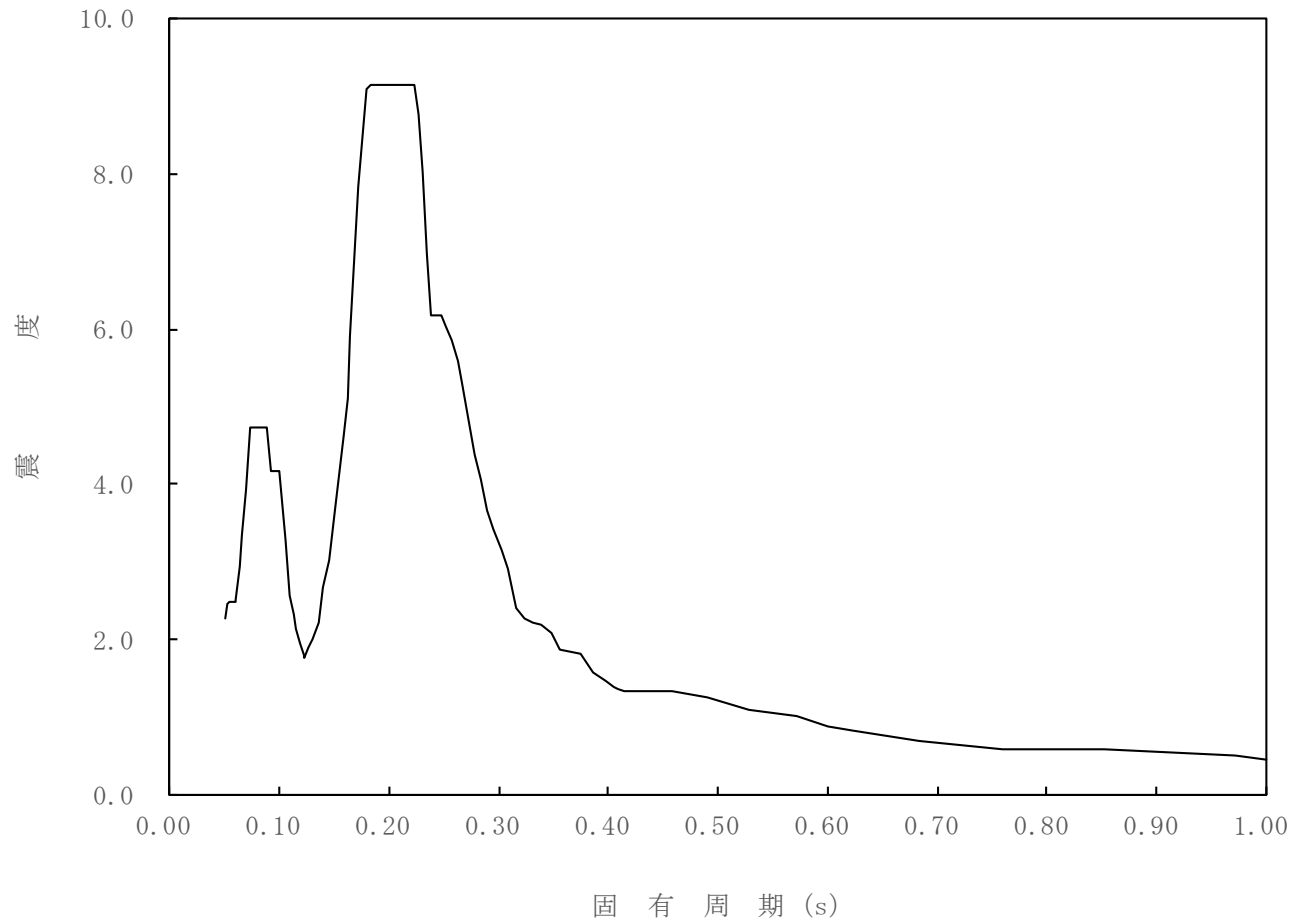
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-26



【CB-SdH-CB2-040】

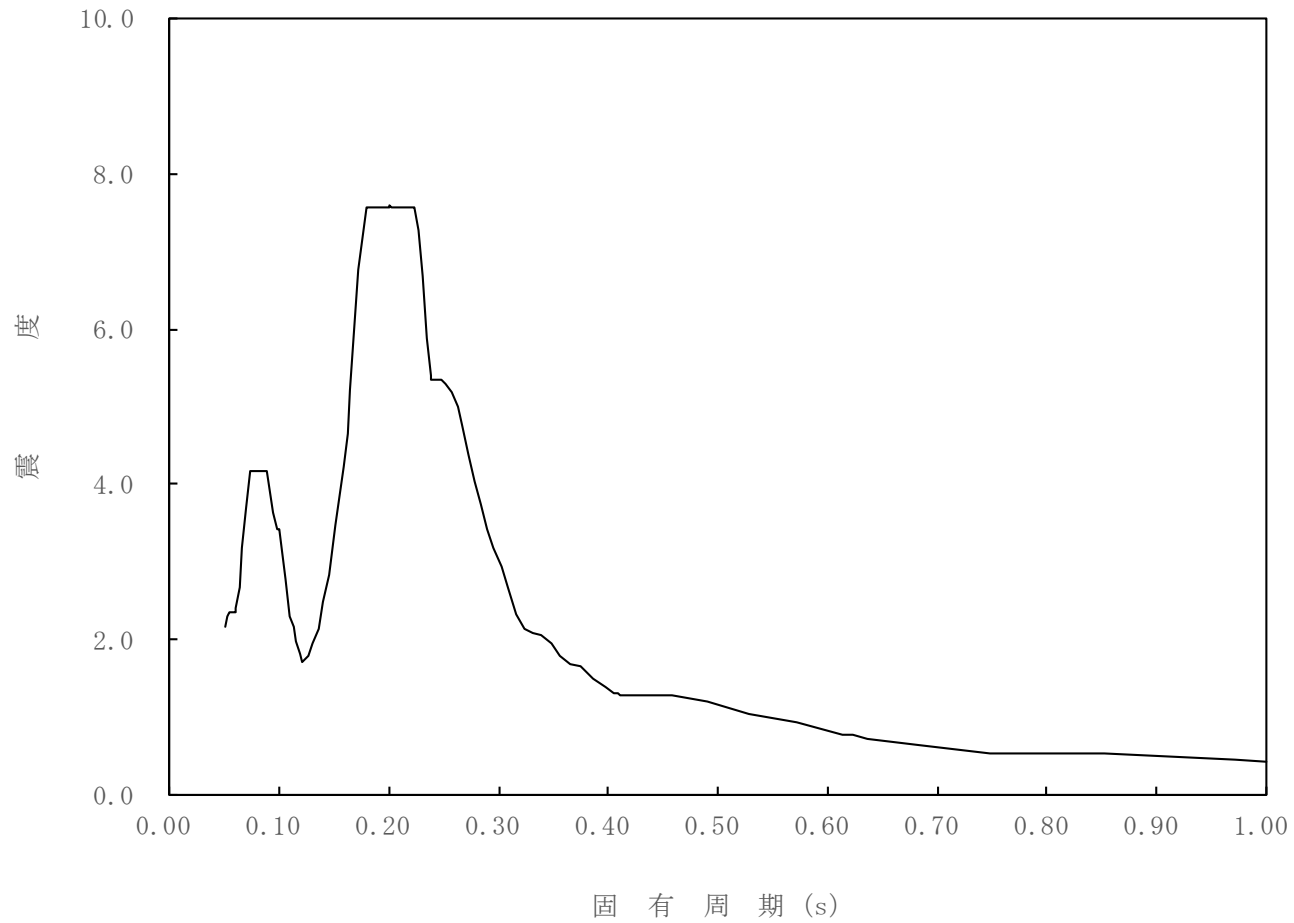
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-27

【CB-SdH-CB2-050】

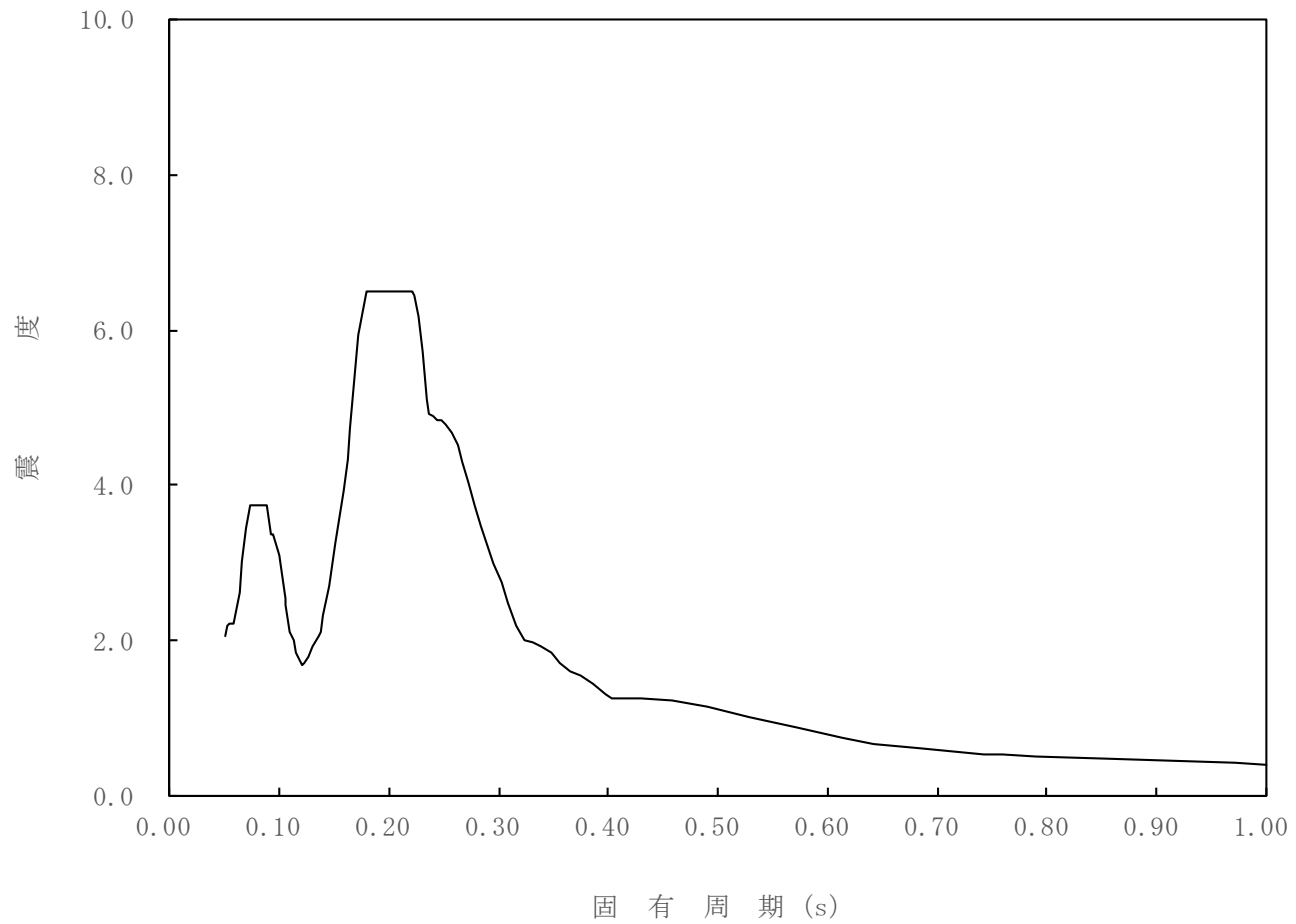
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB1-005】

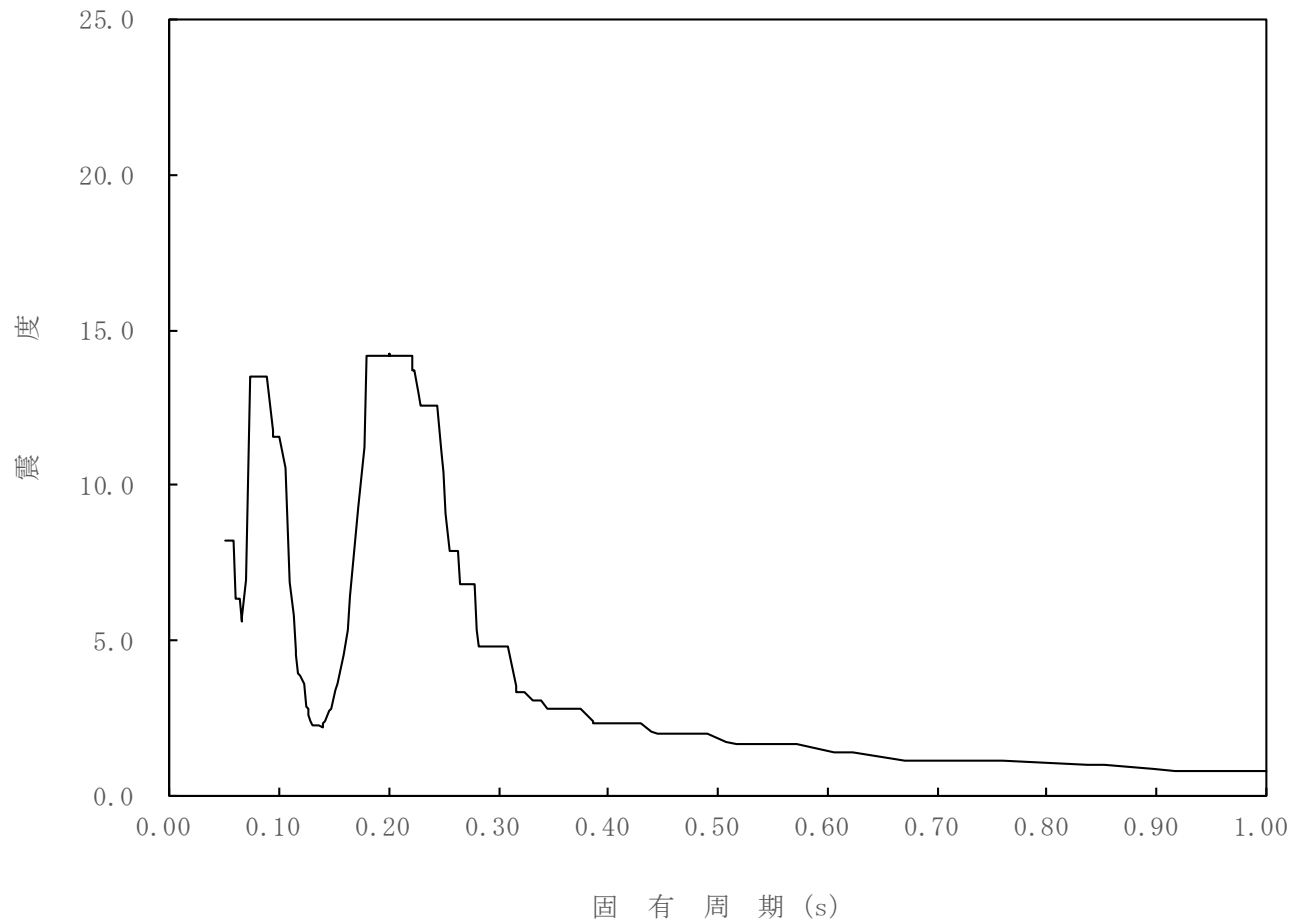
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB1-010】

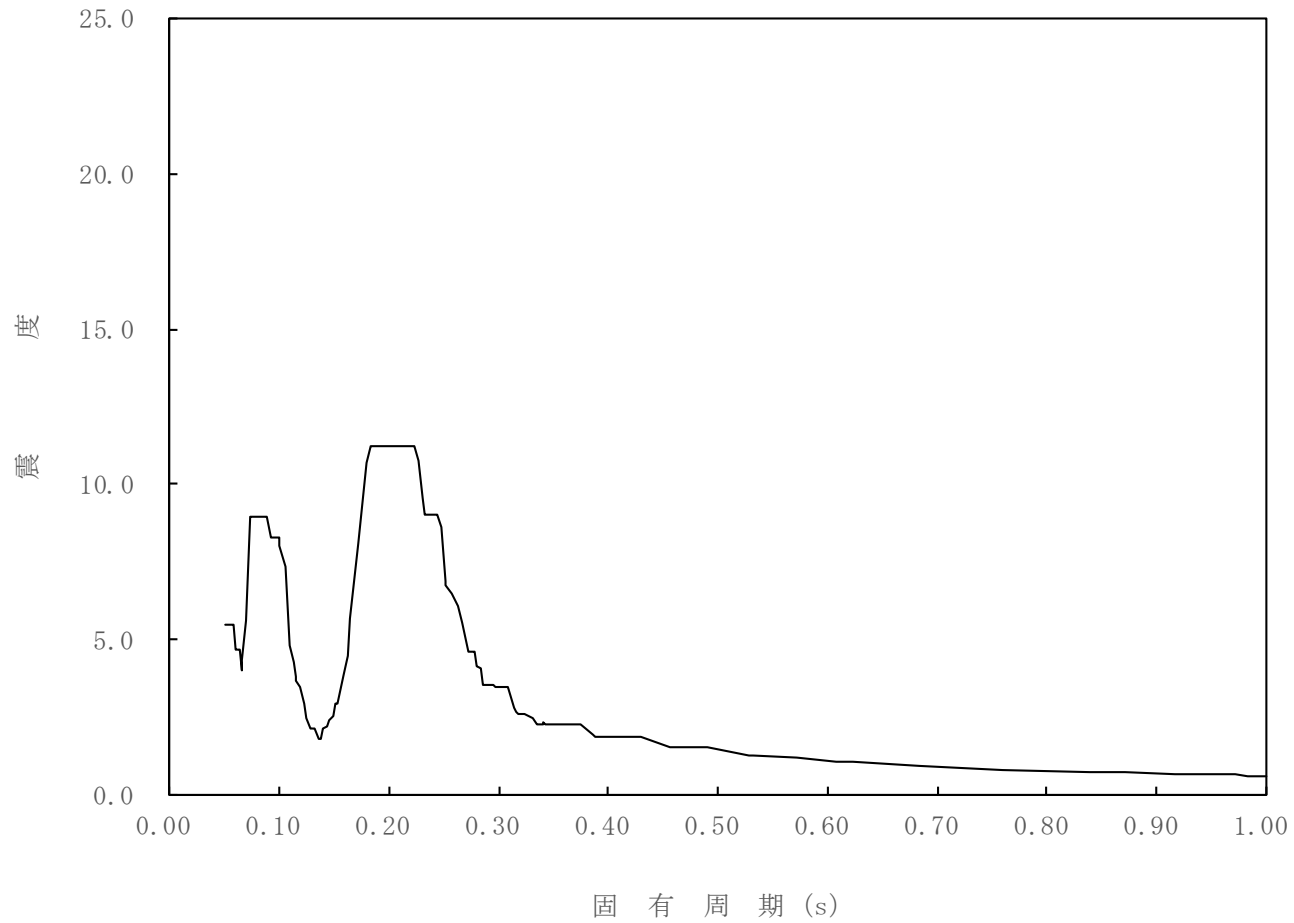
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-30

【CB-SdH-CB1-015】

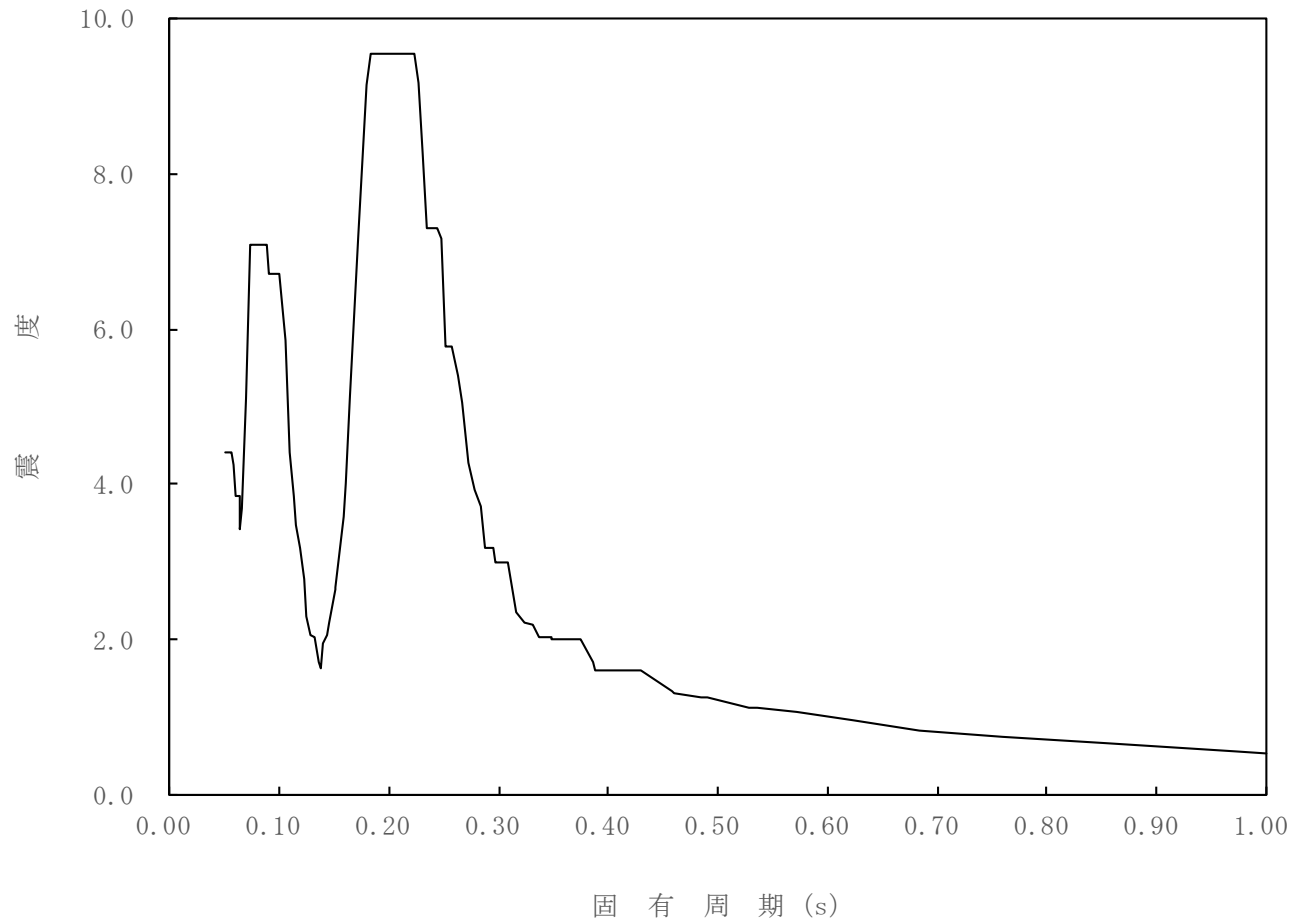
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB1-020】

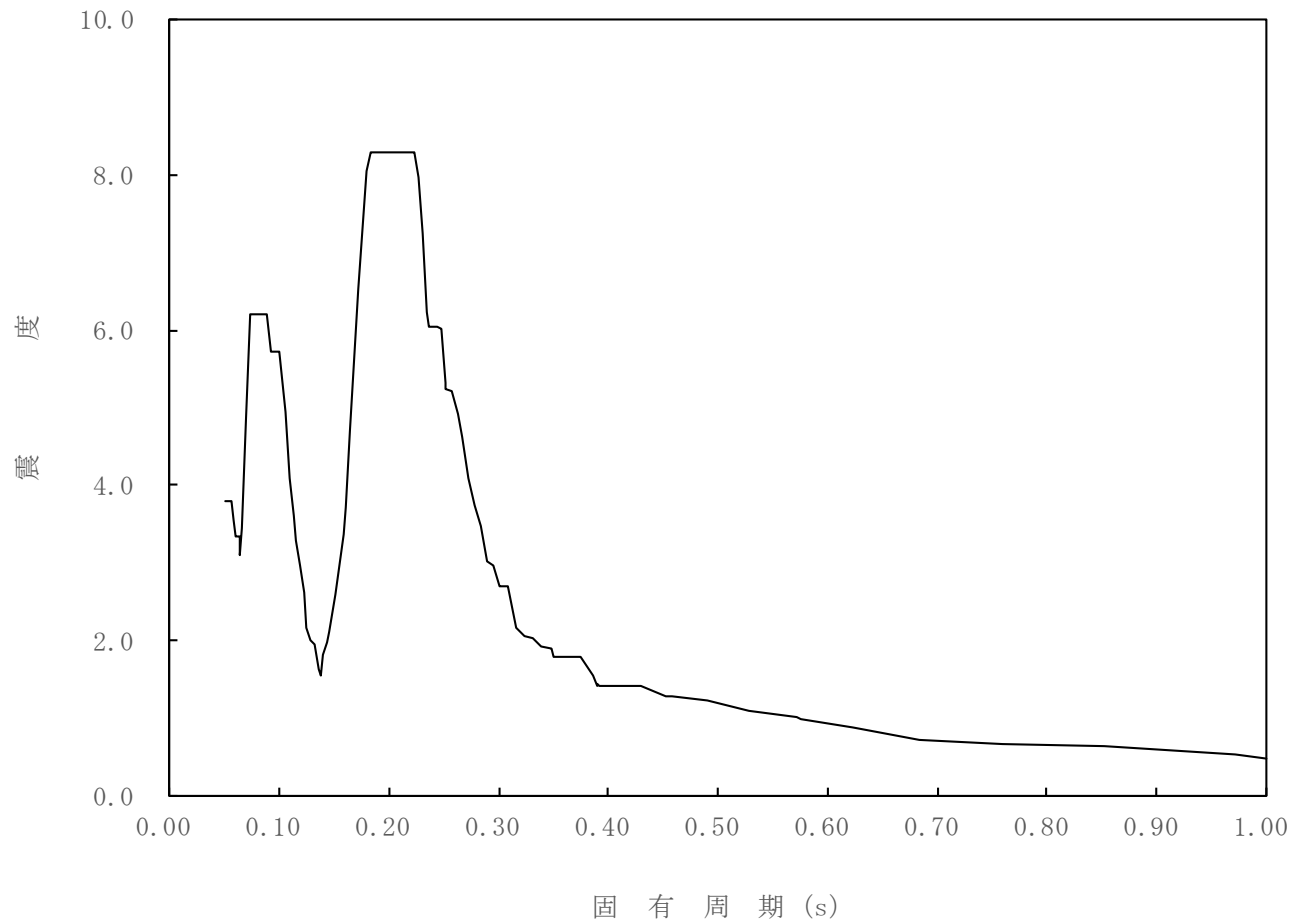
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB1-025】

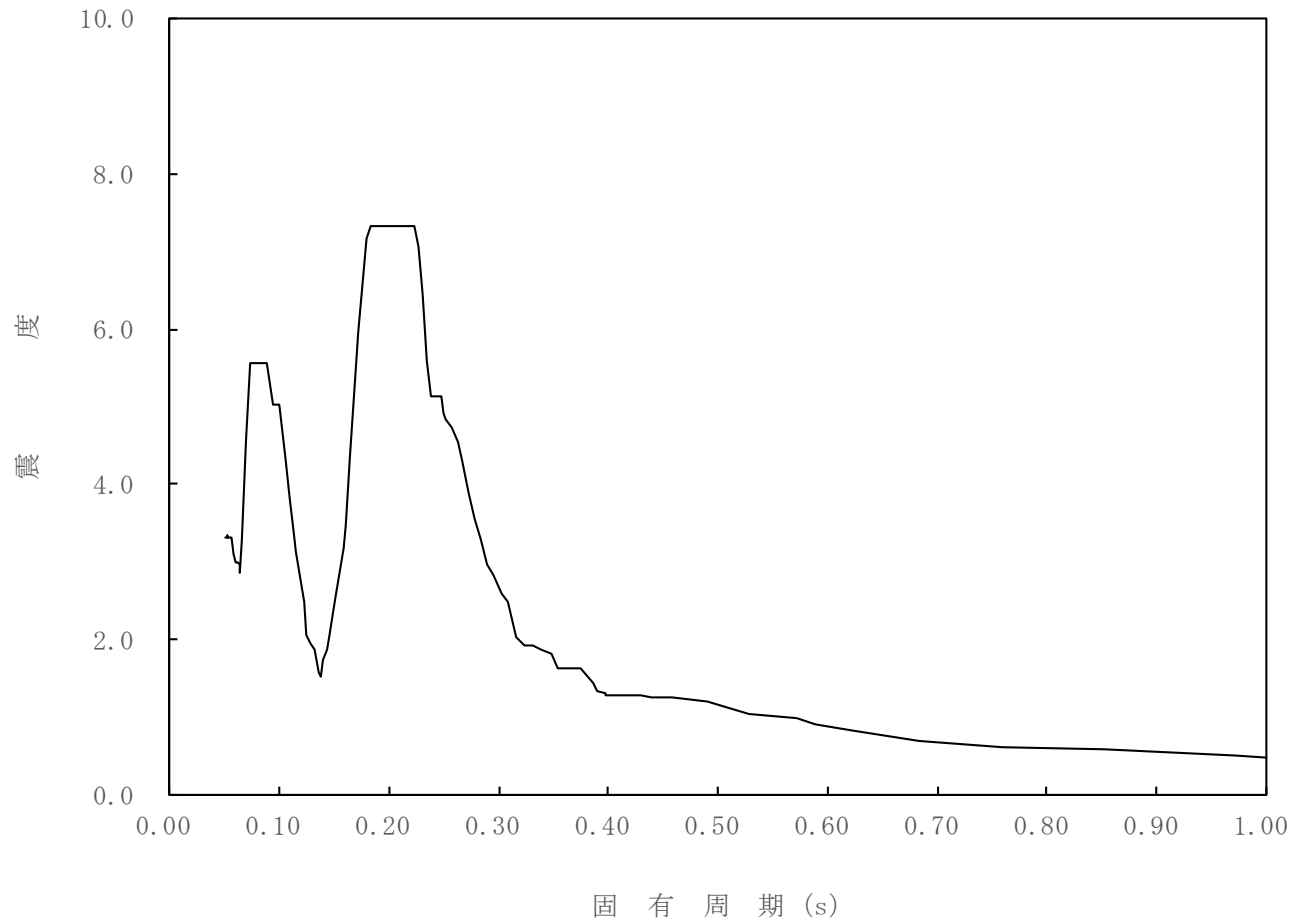
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB1-030】

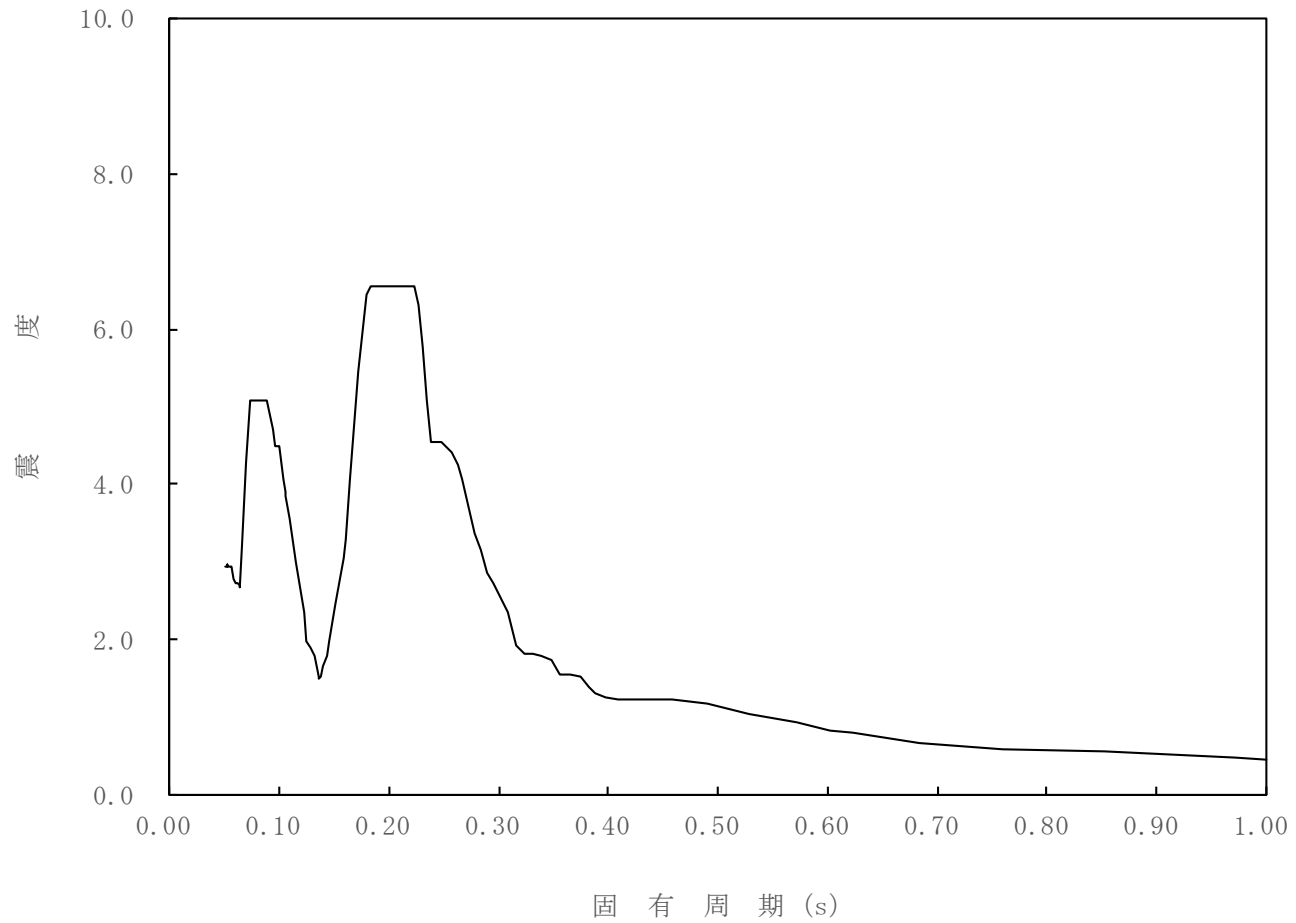
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d





【CB-SdH-CB1-040】

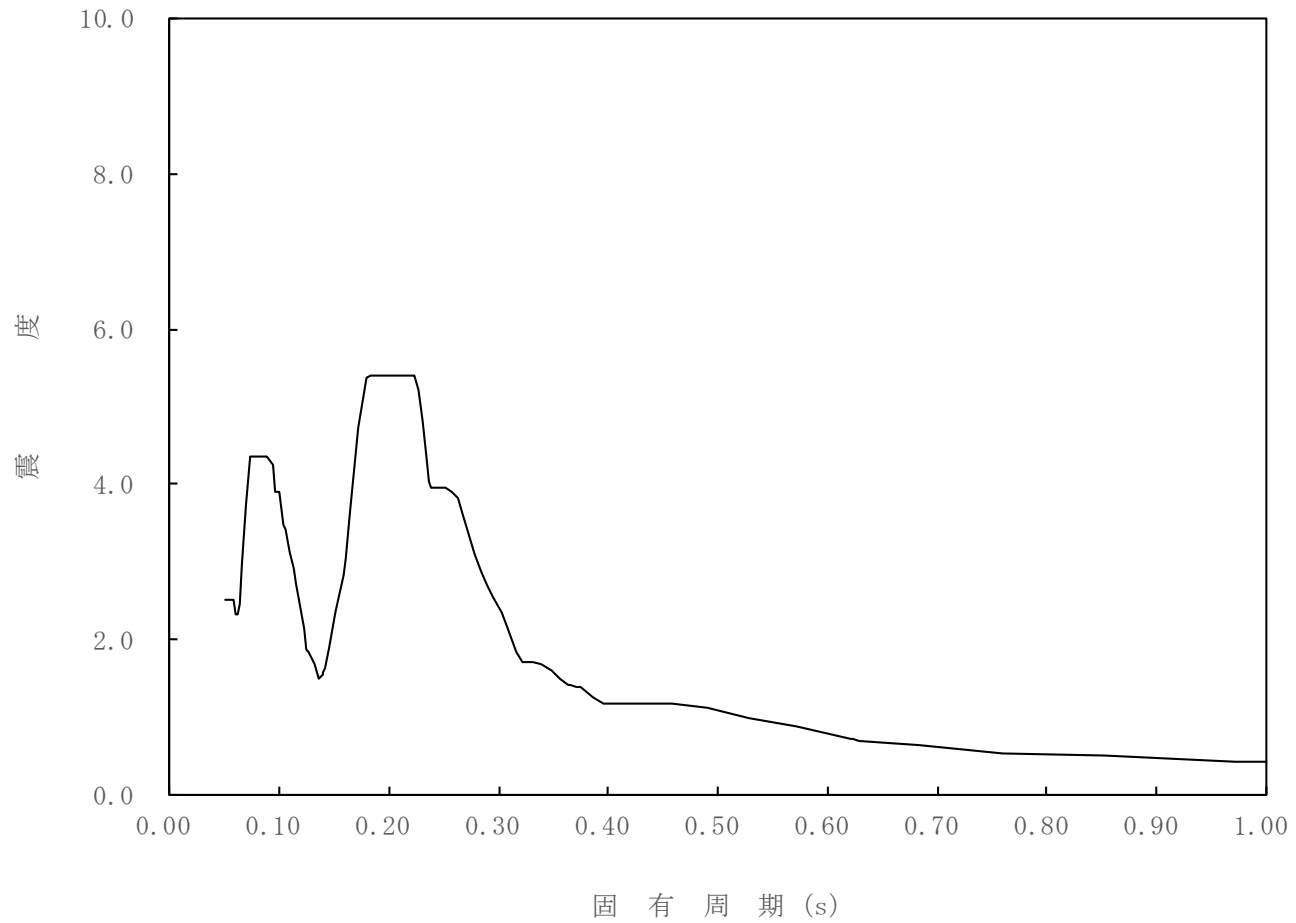
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CB1-050】

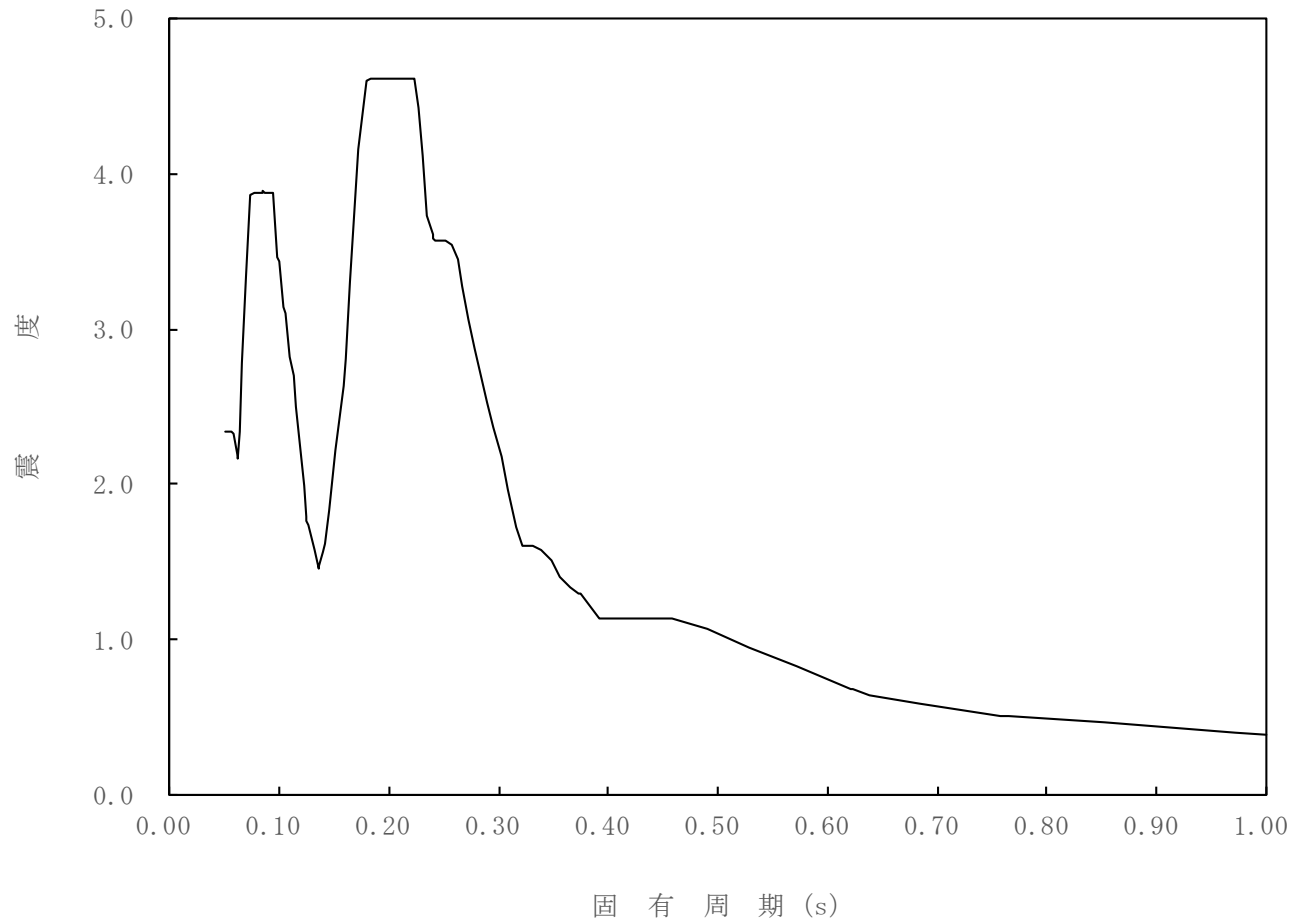
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB1-005】

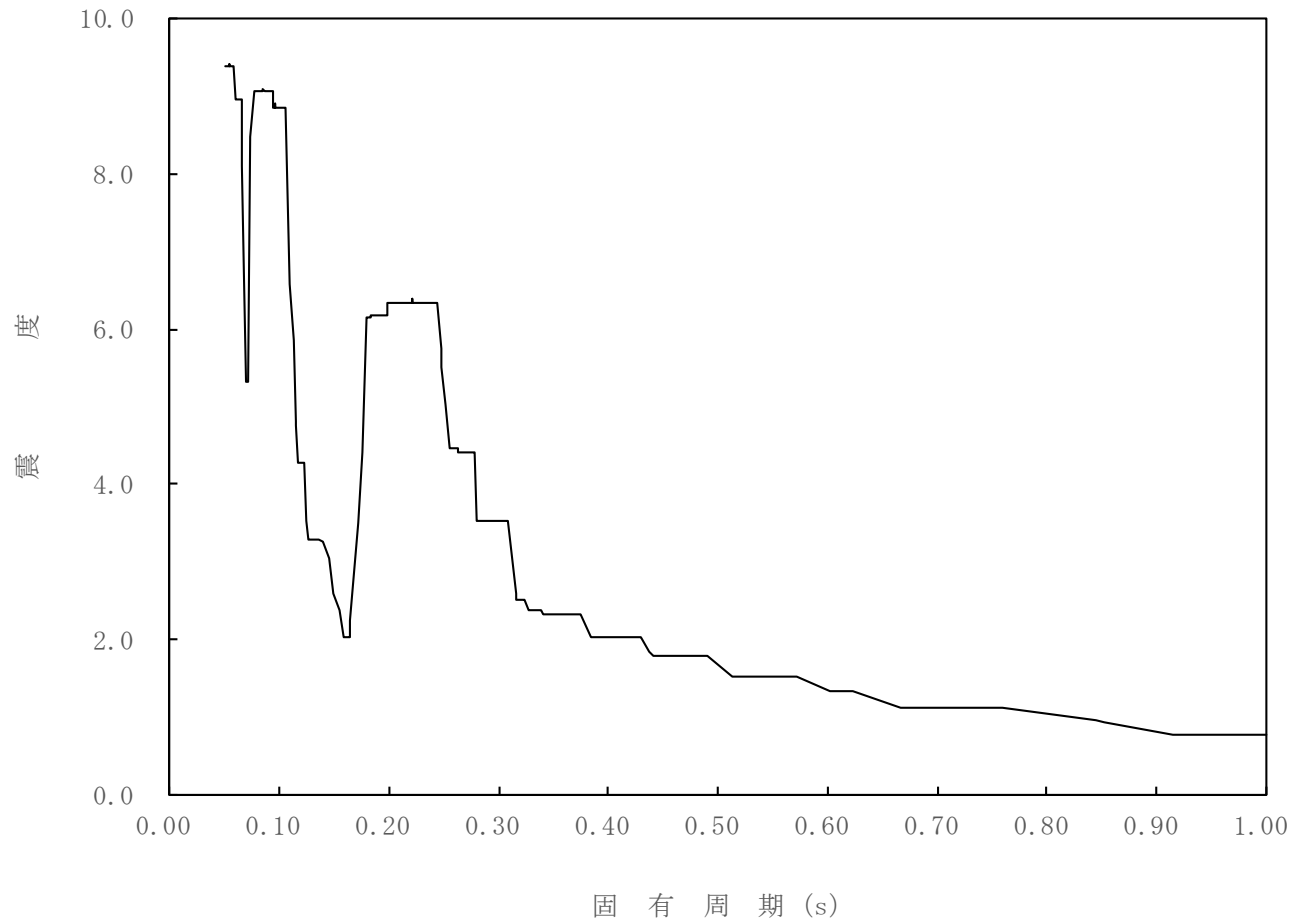
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-37

【CB-SdH-CBB1-010】

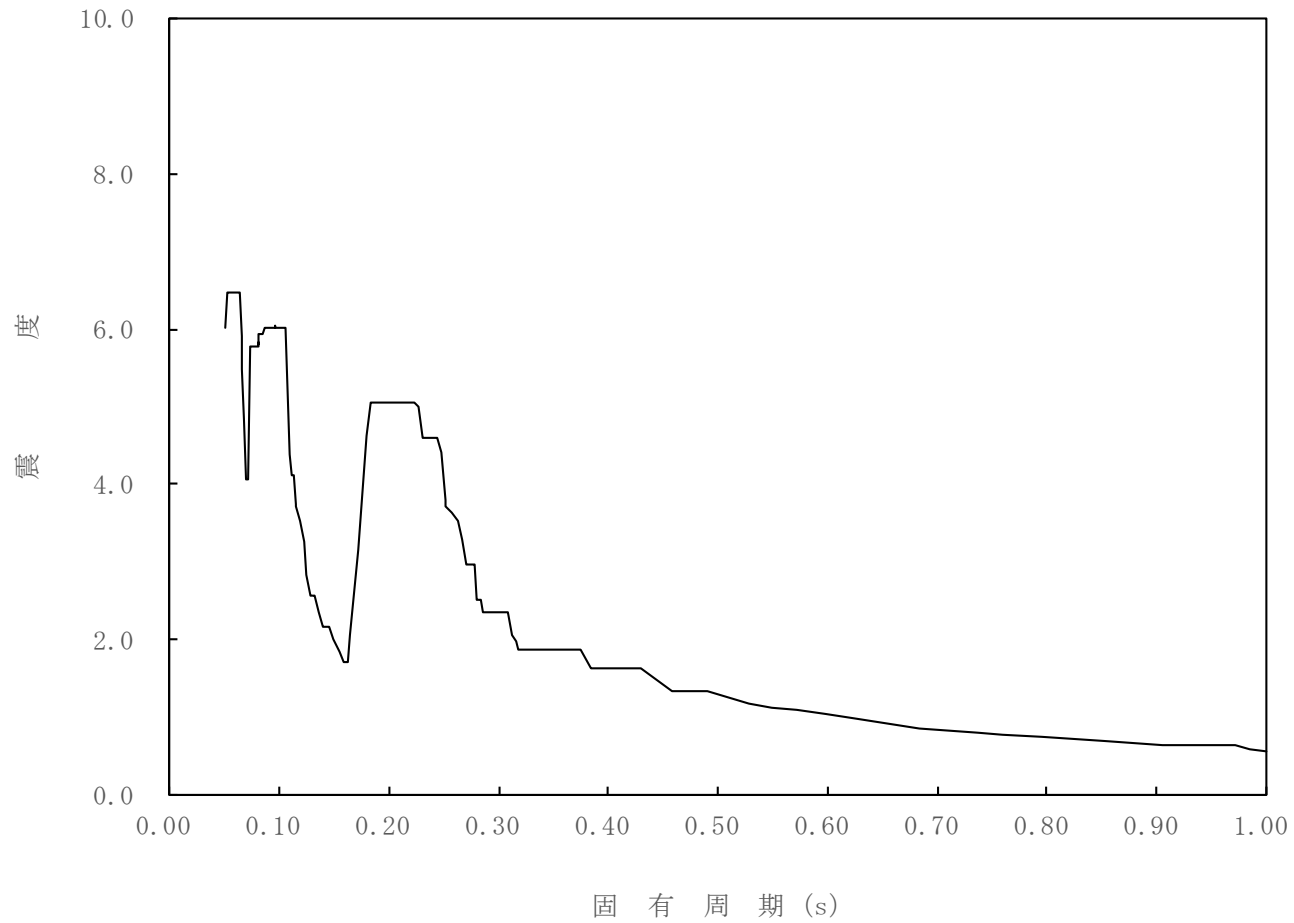
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB1-015】

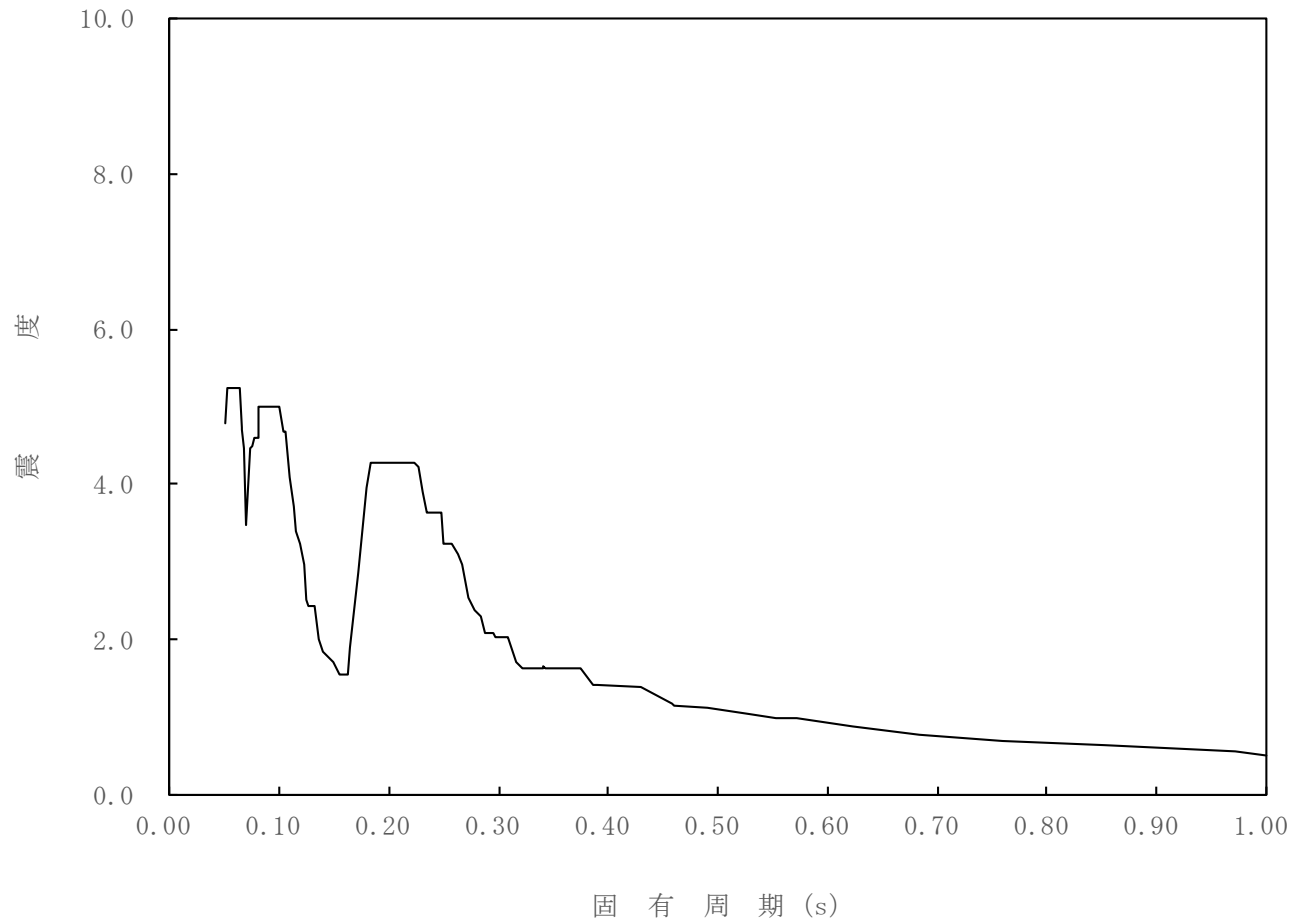
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB1-020】

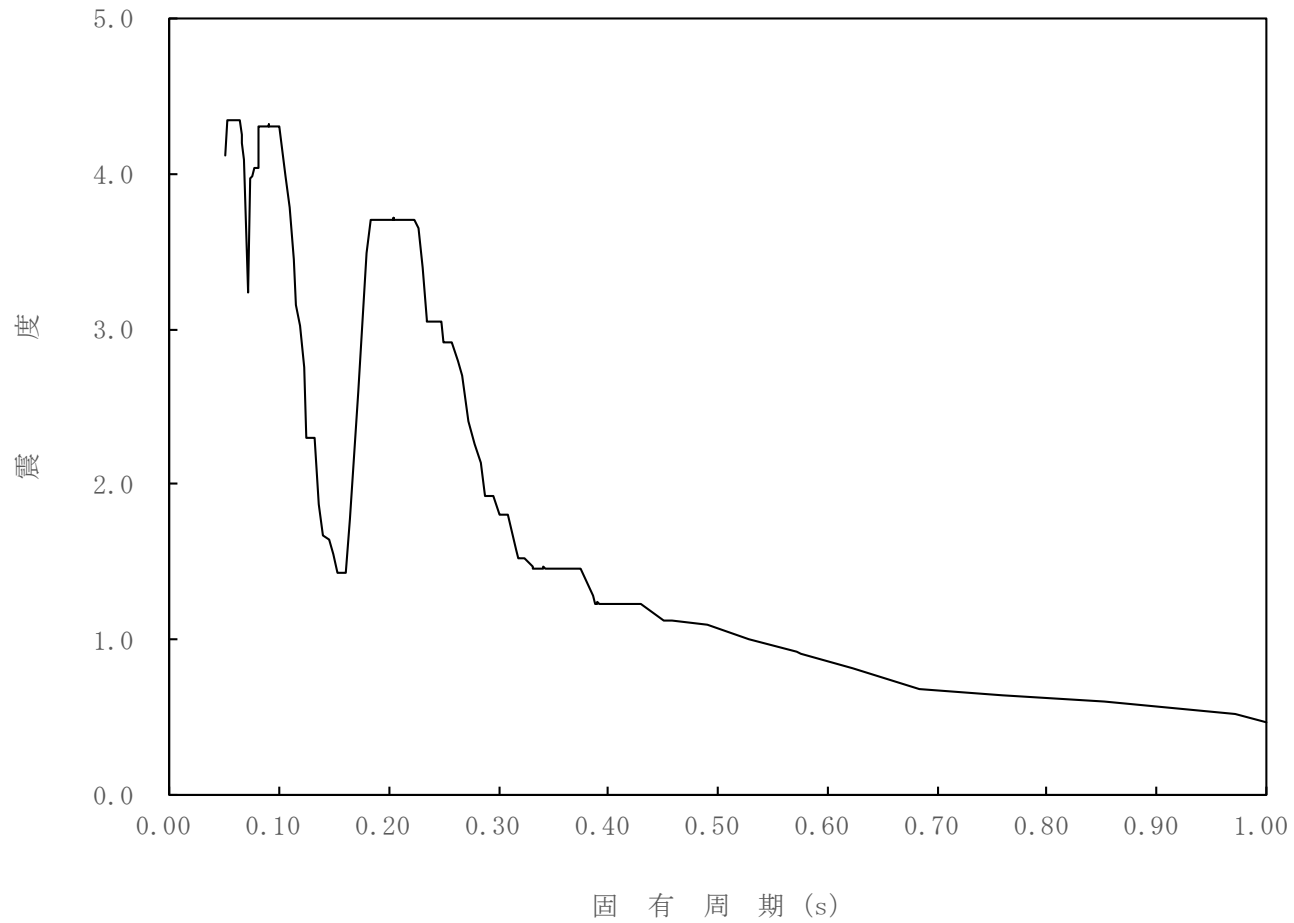
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-40

【CB-SdH-CBB1-025】

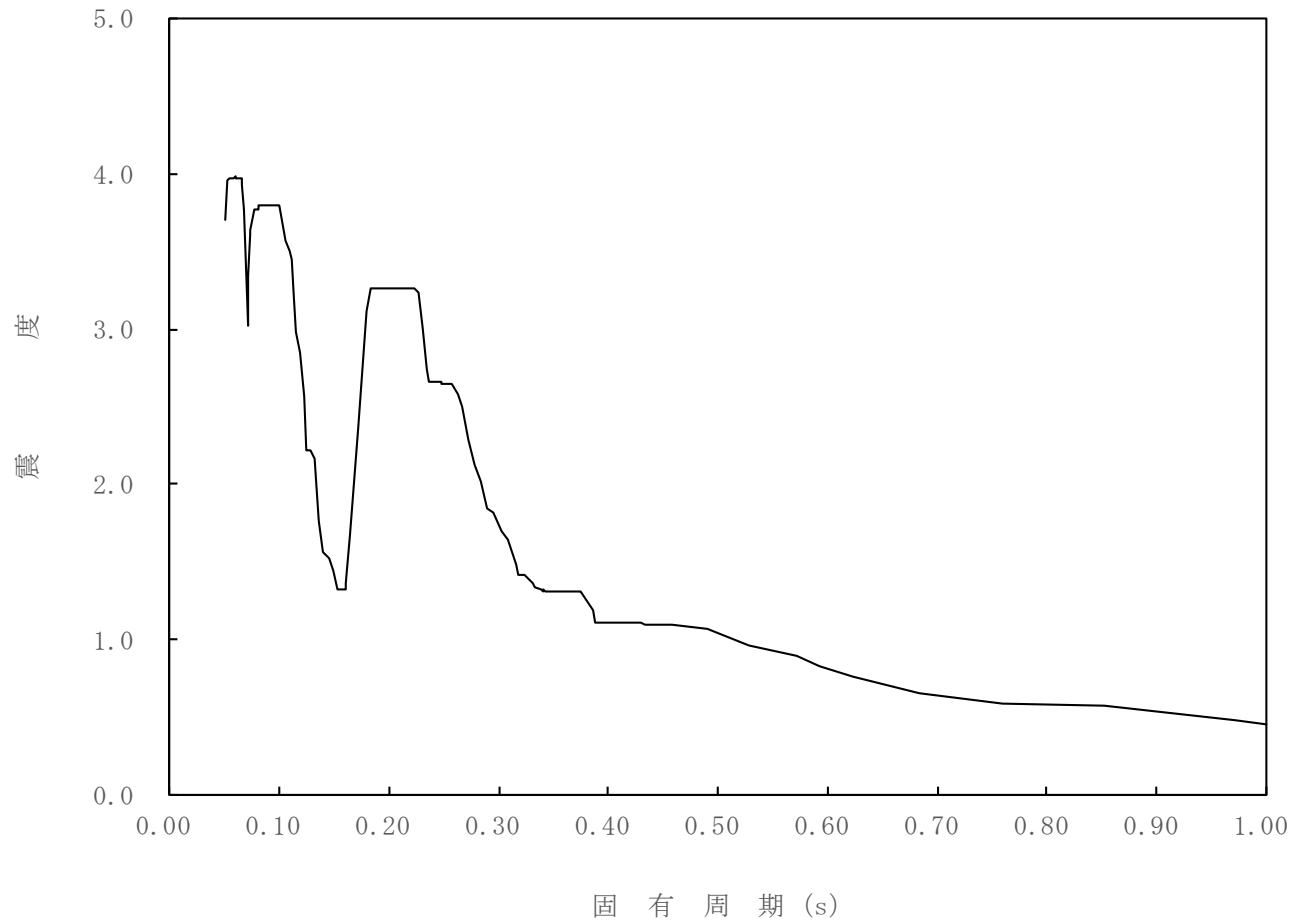
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB1-030】

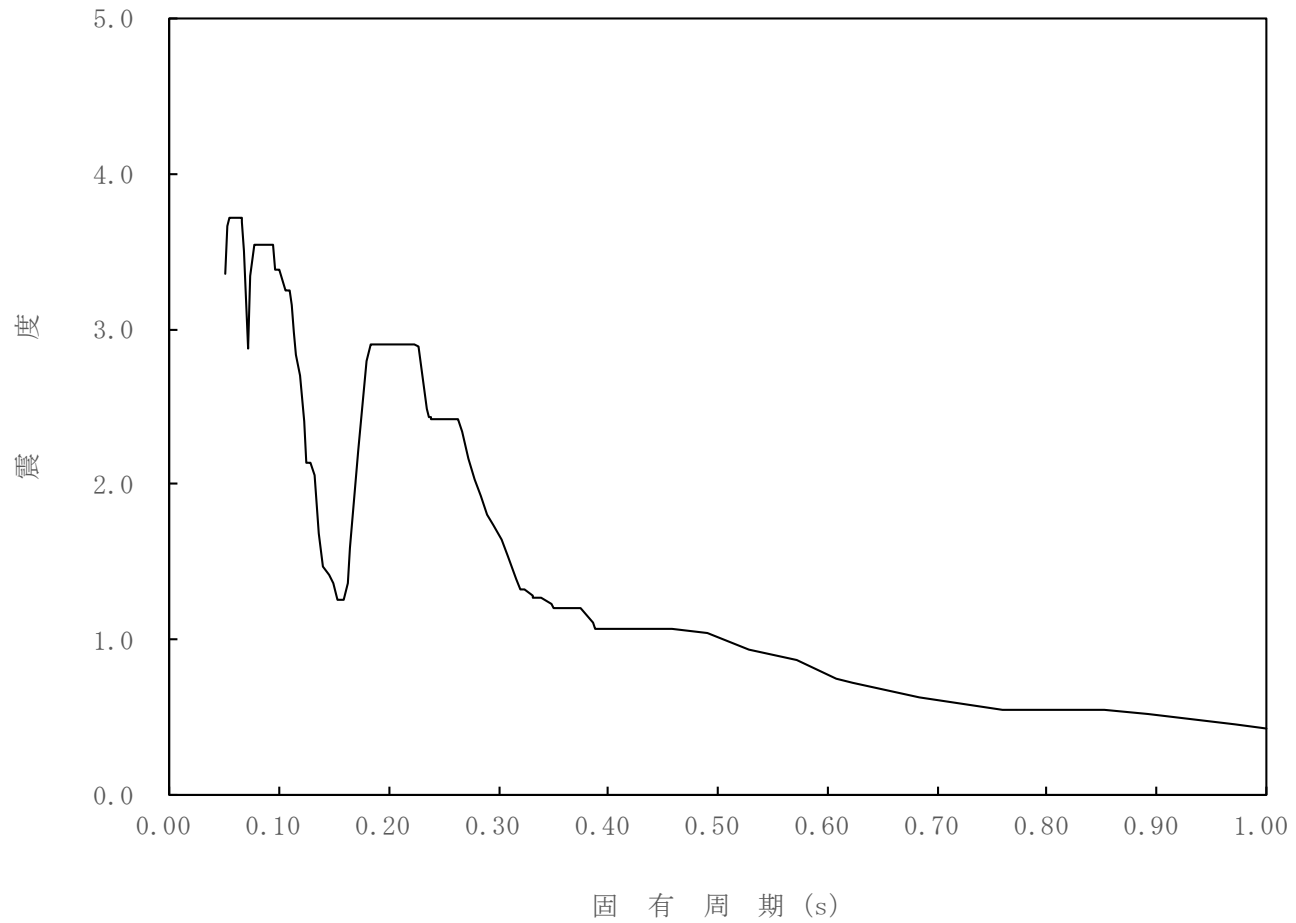
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-42



【CB-SdH-CBB1-040】

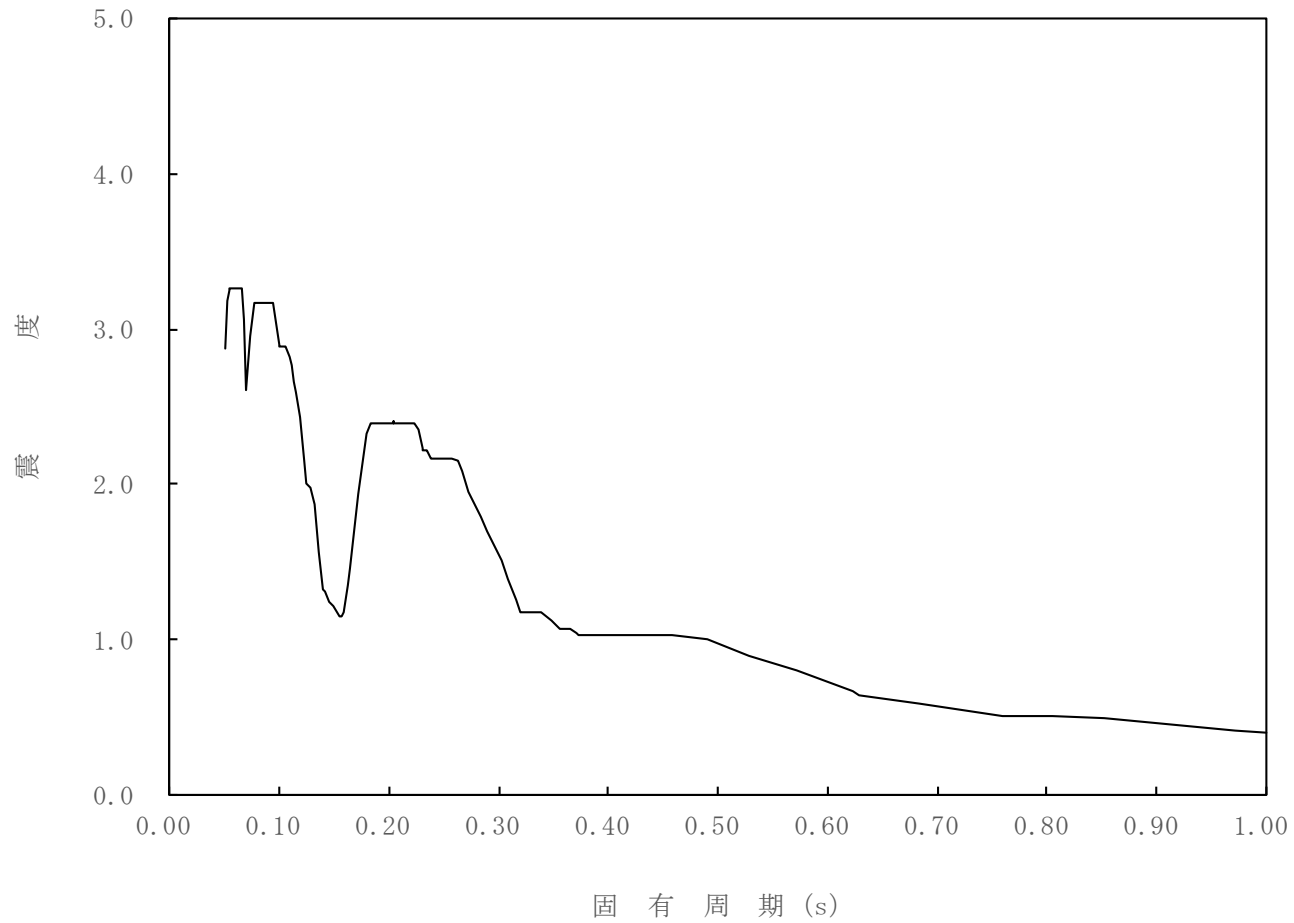
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB1-050】

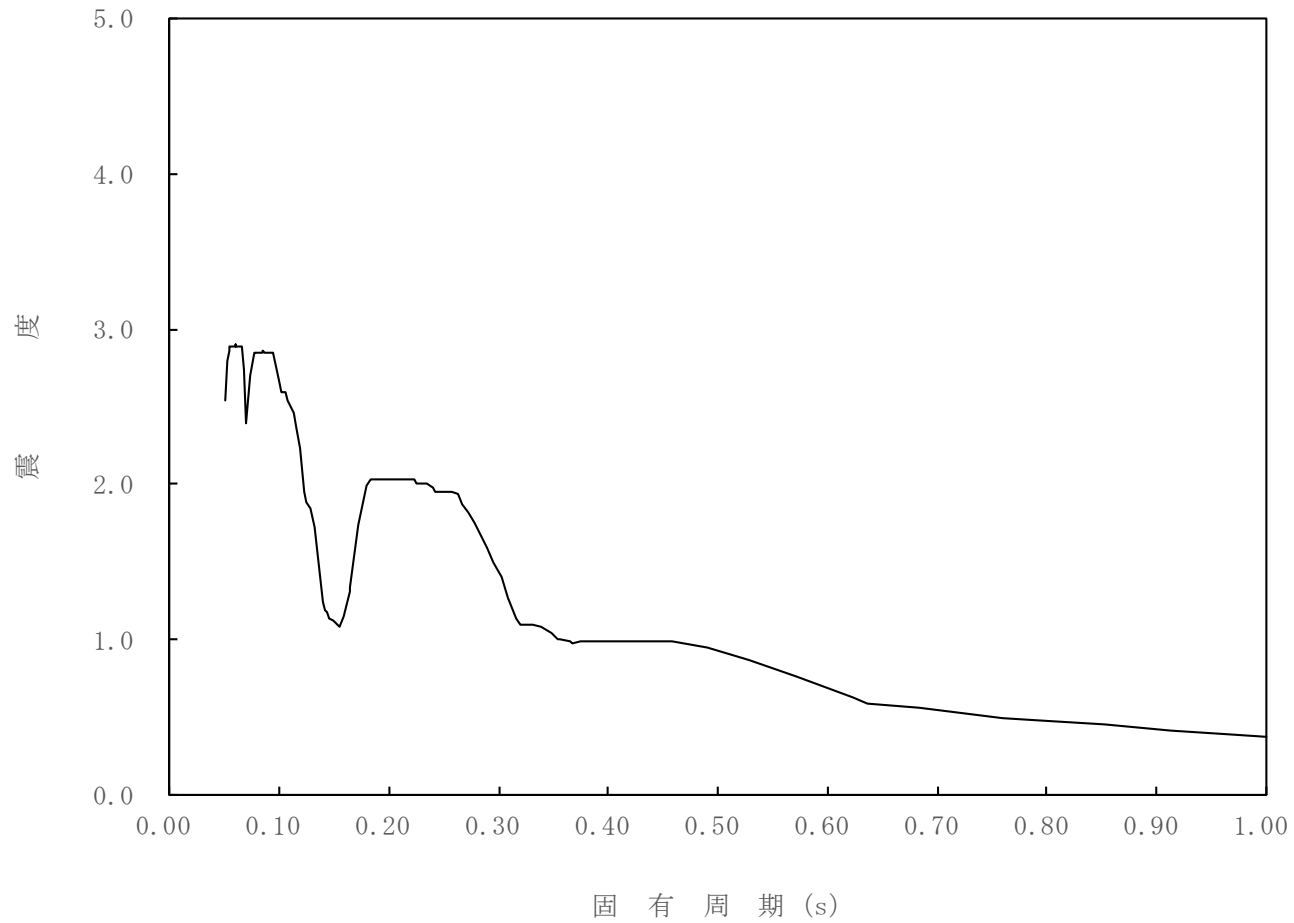
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB2-005】

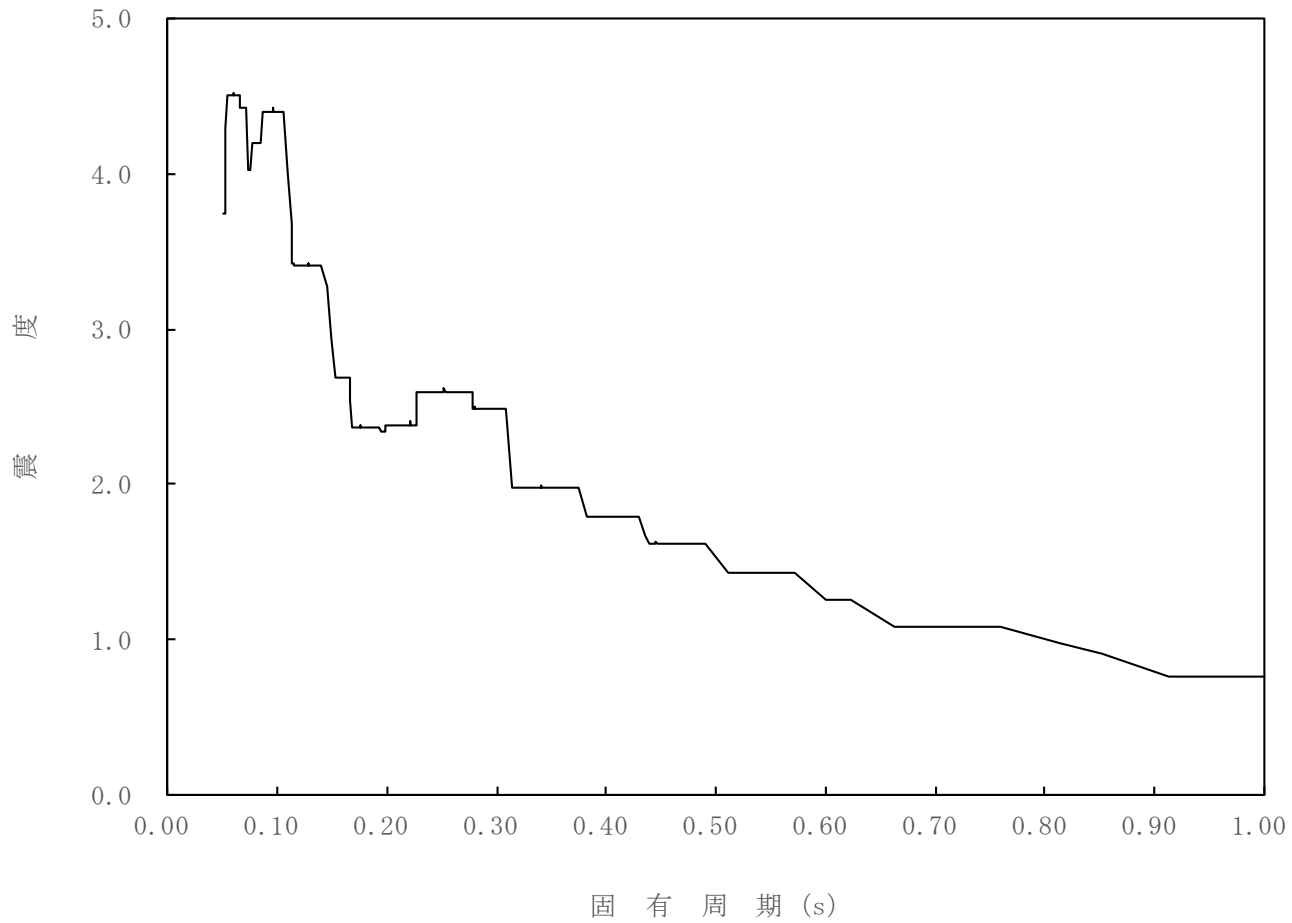
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-45

【CB-SdH-CBB2-010】

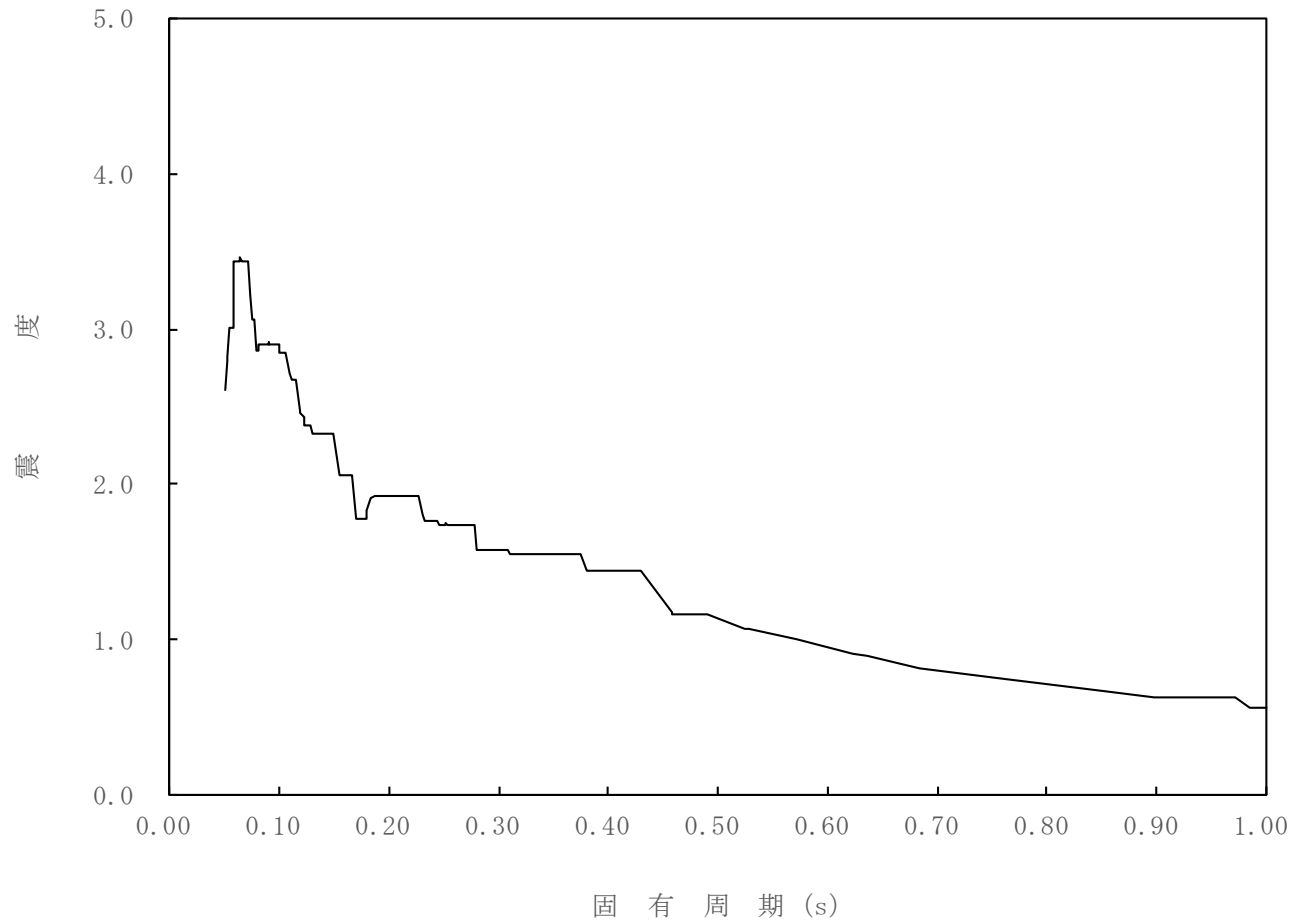
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB2-015】

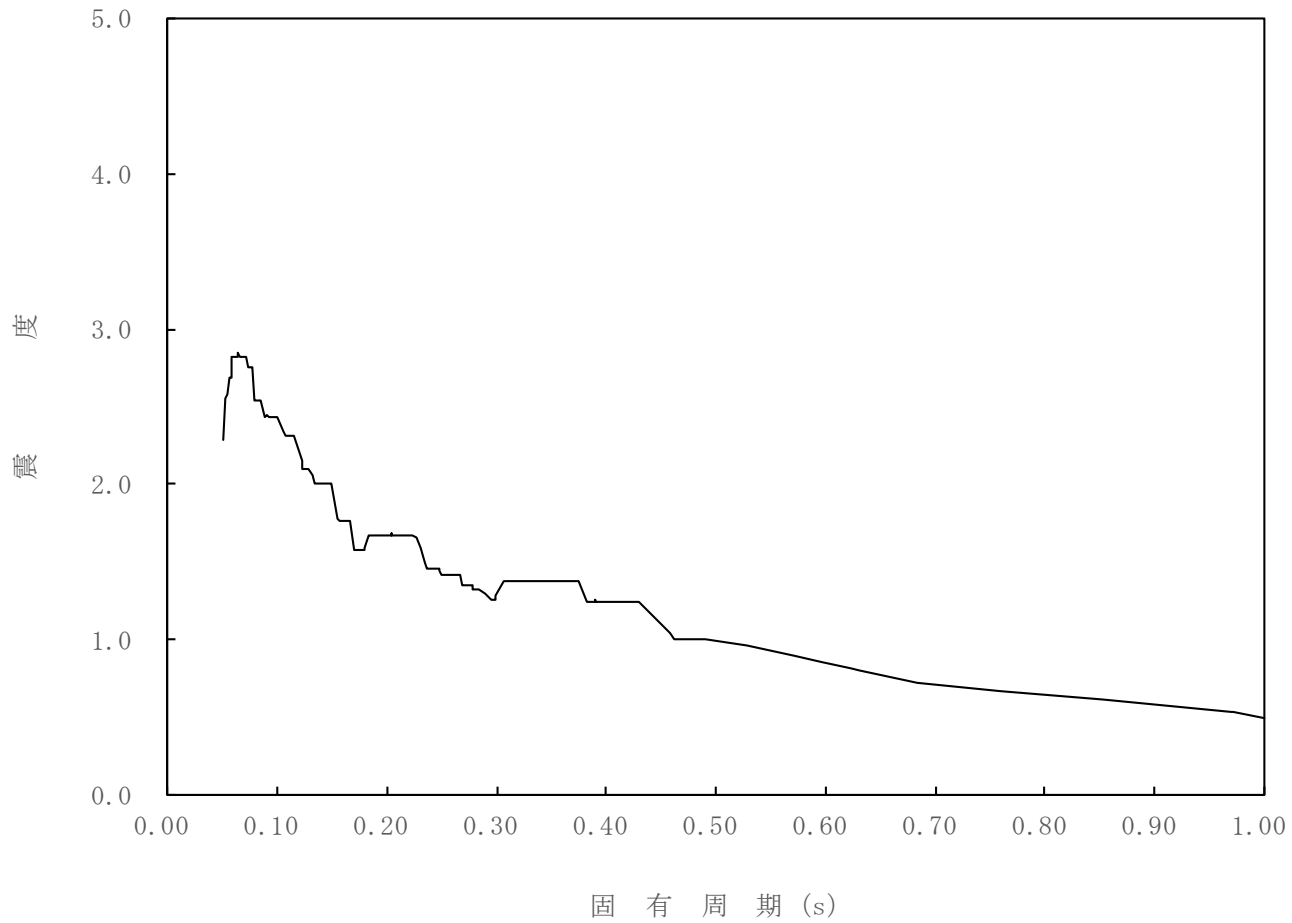
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB2-020】

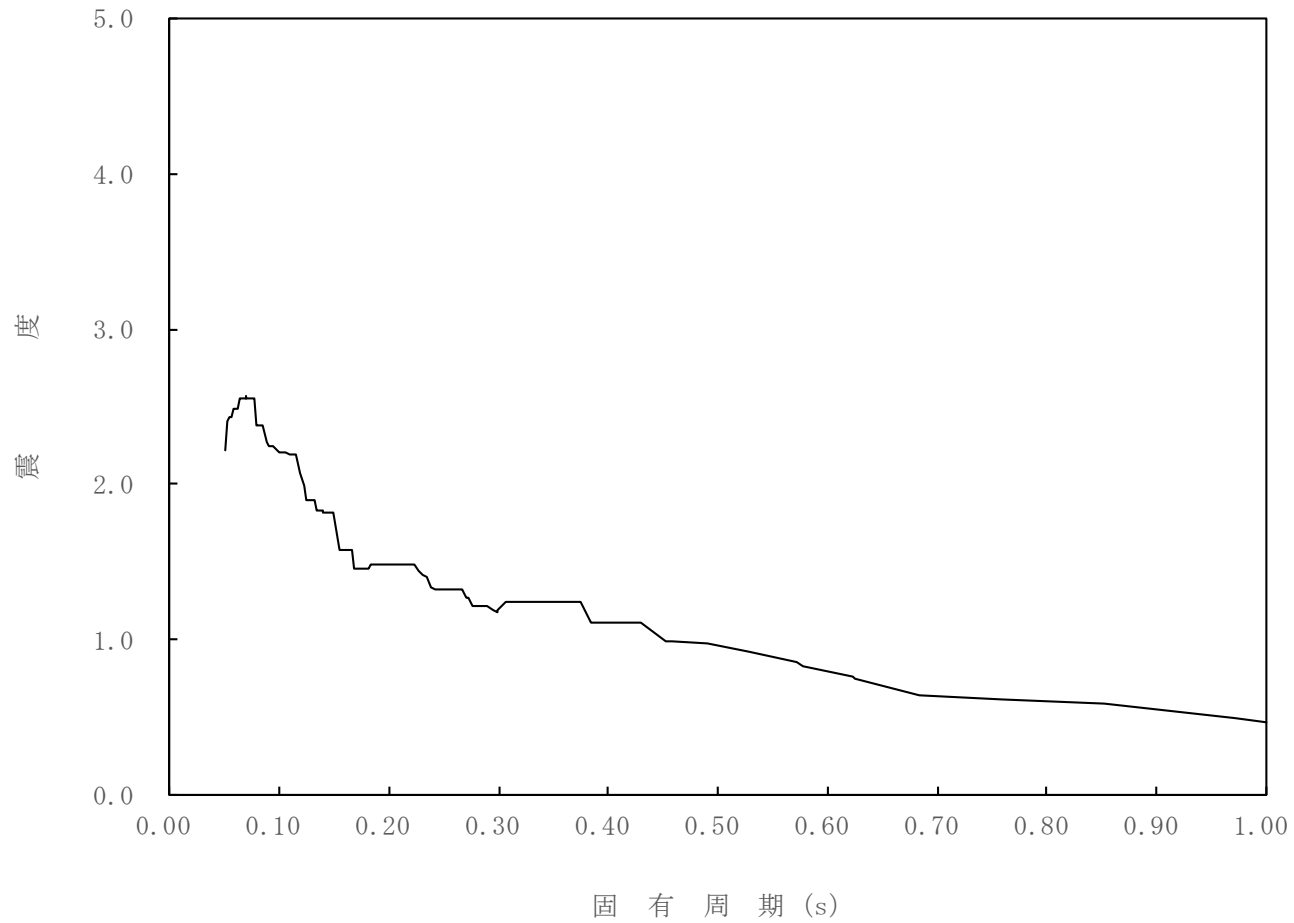
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB2-025】

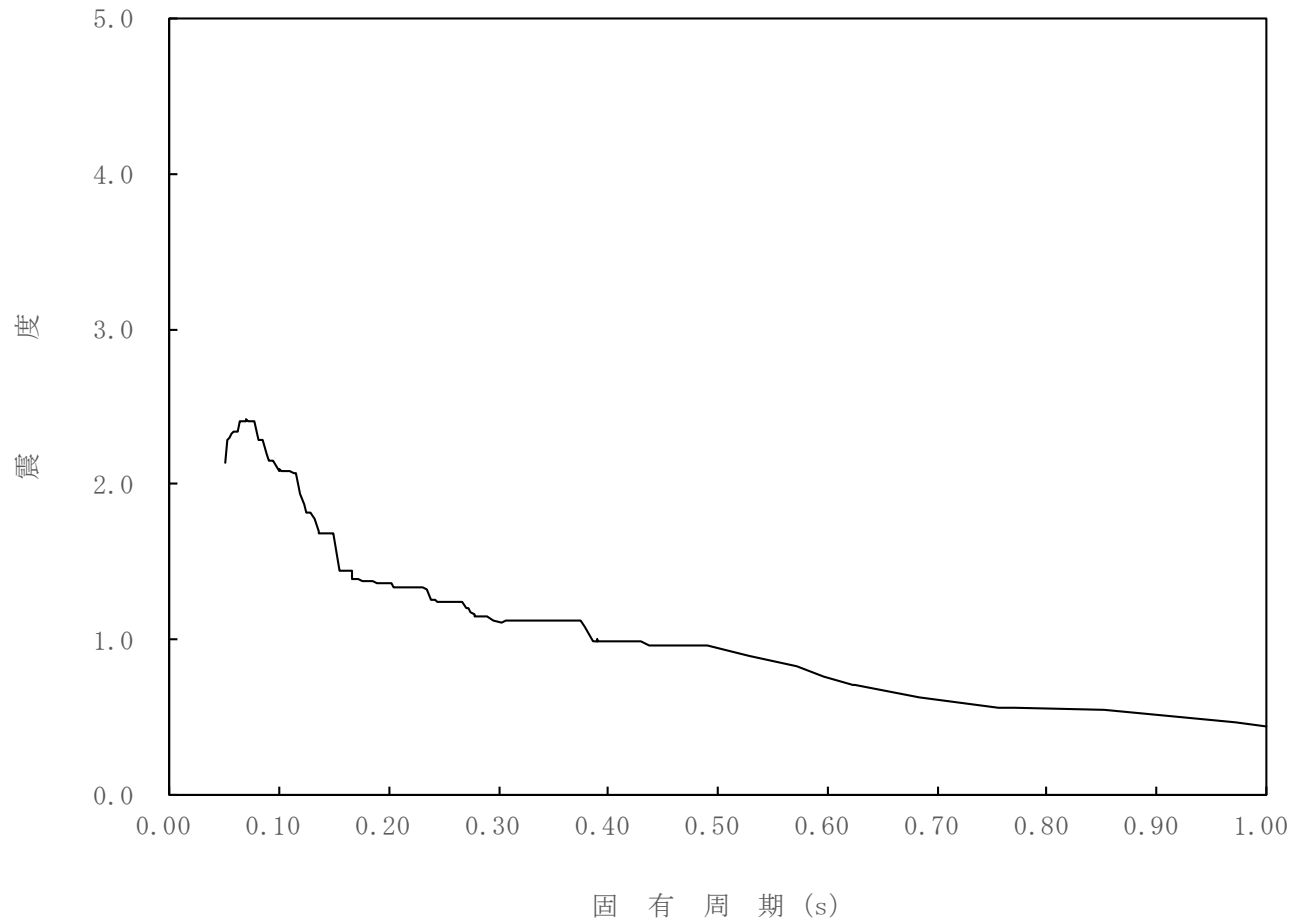
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB2-030】

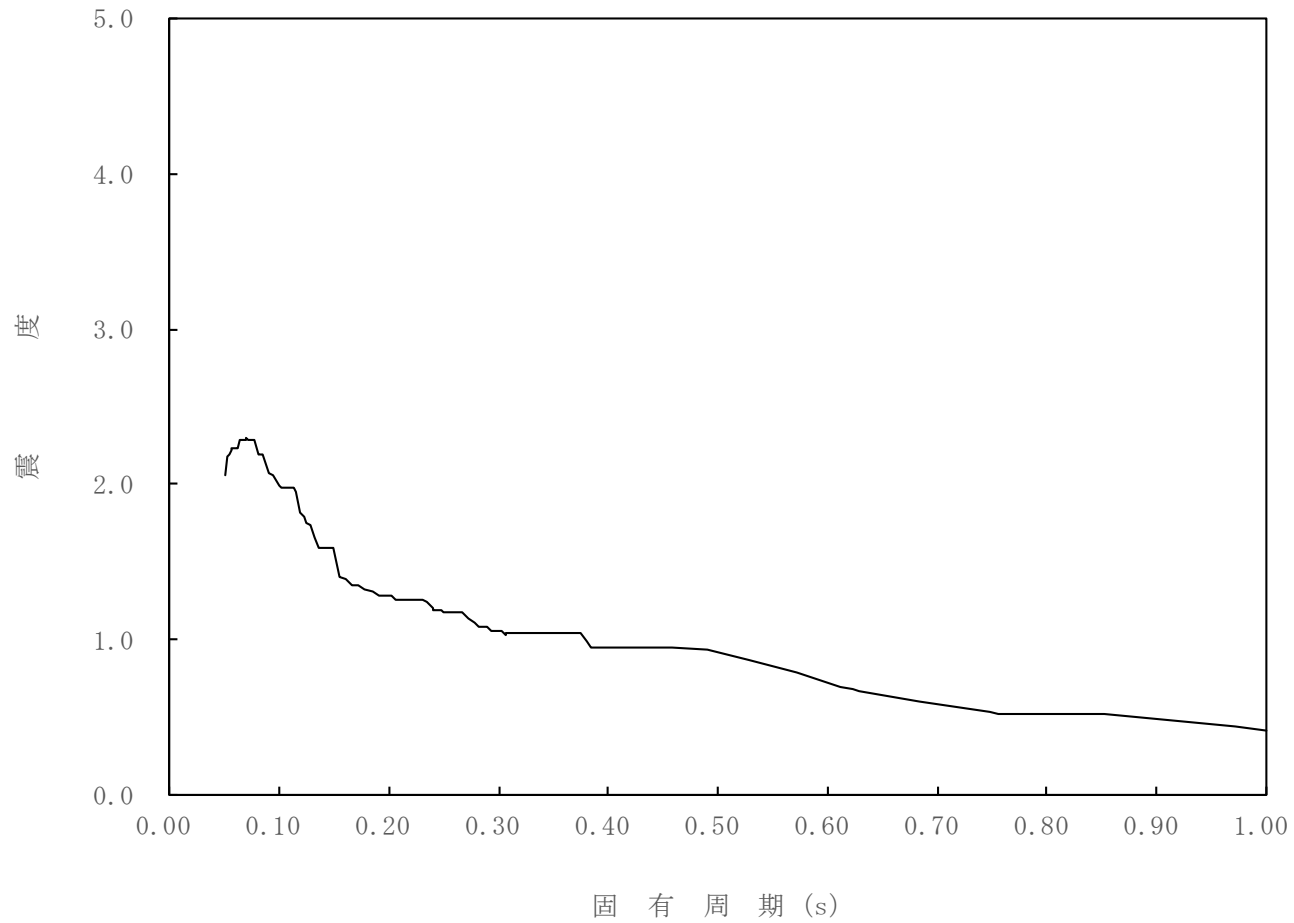
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-50



【CB-SdH-CBB2-040】

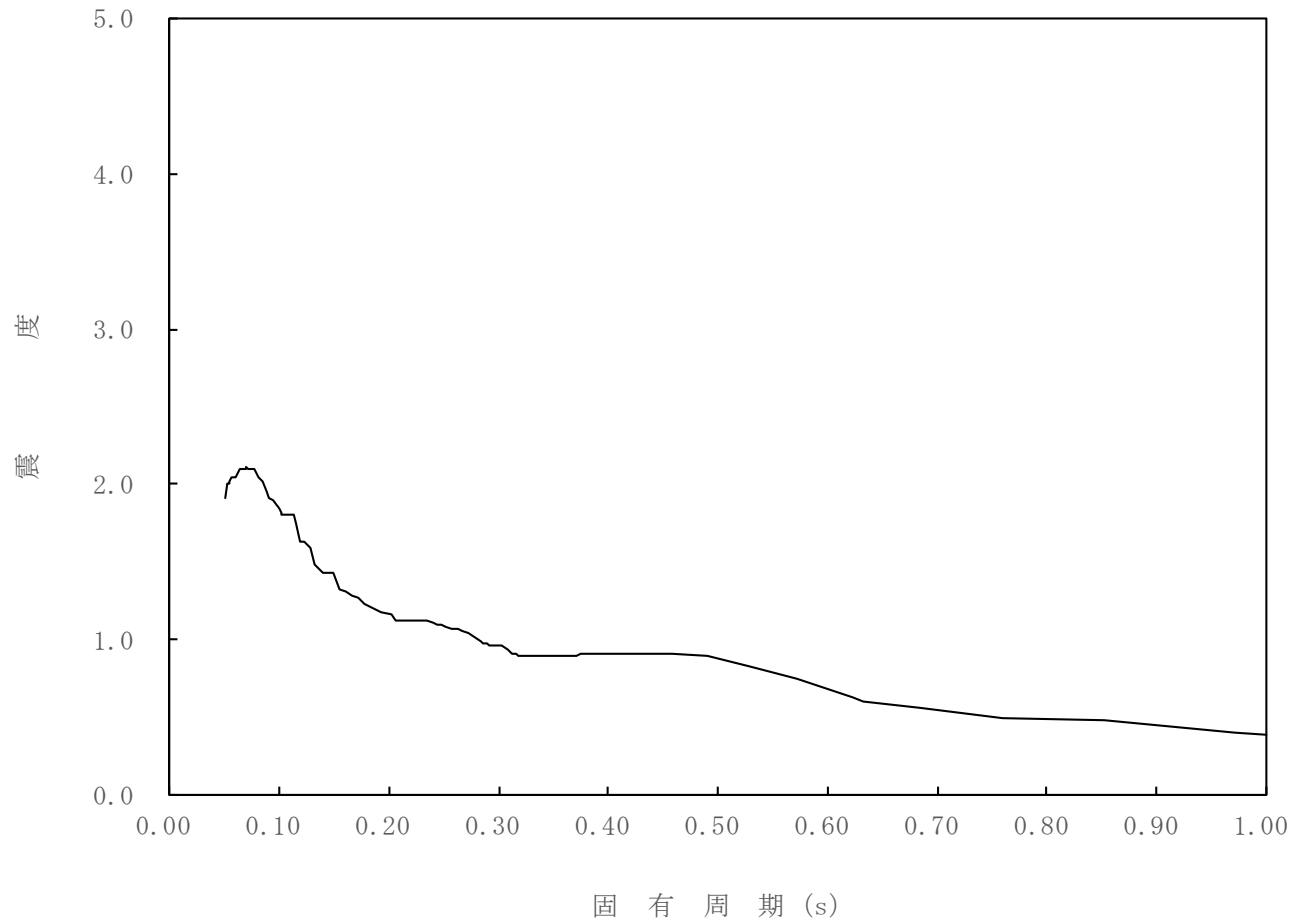
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdH-CBB2-050】

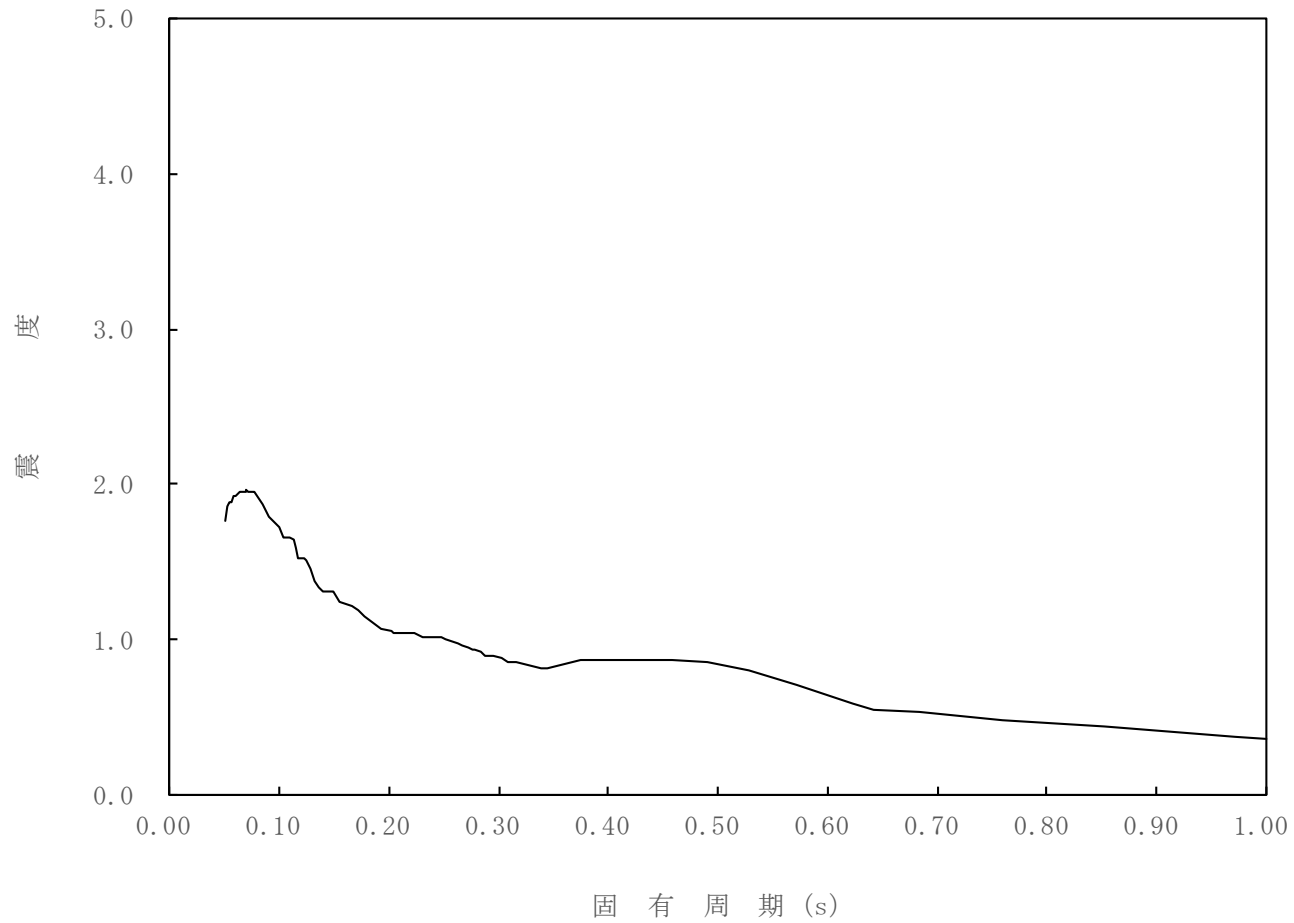
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-52

【CB-SdV-CB4-005】

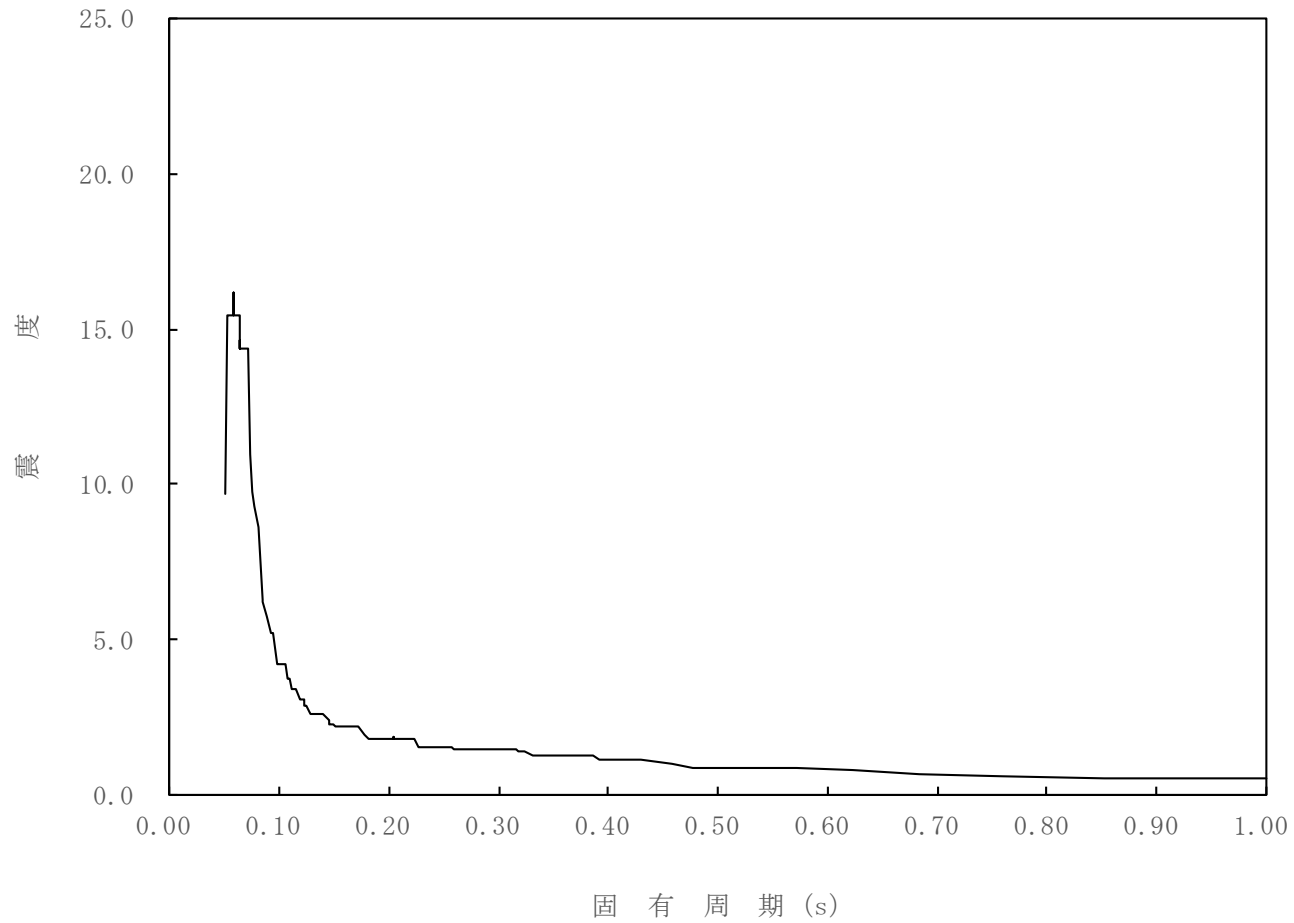
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CB4-010】

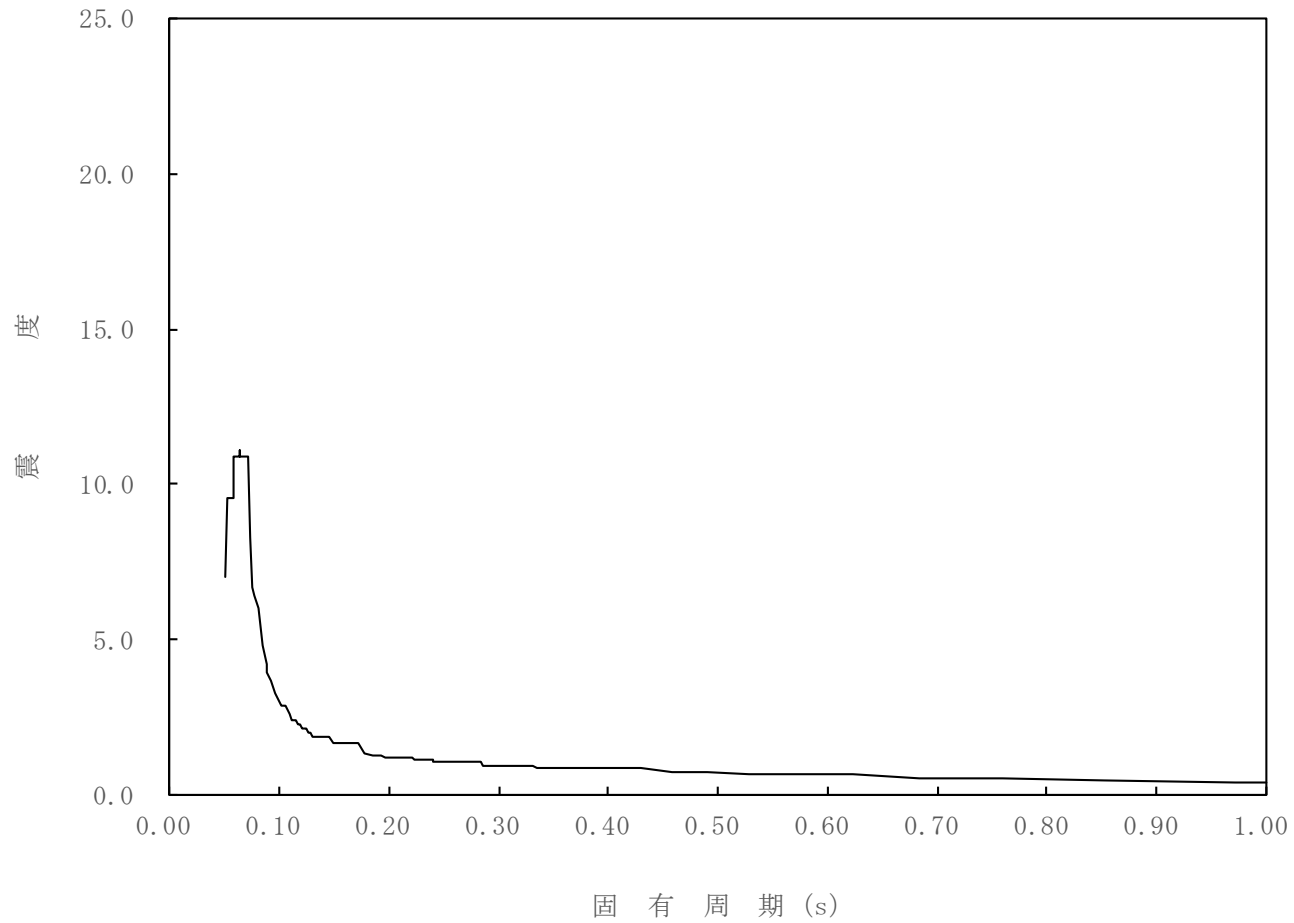
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB4-015】

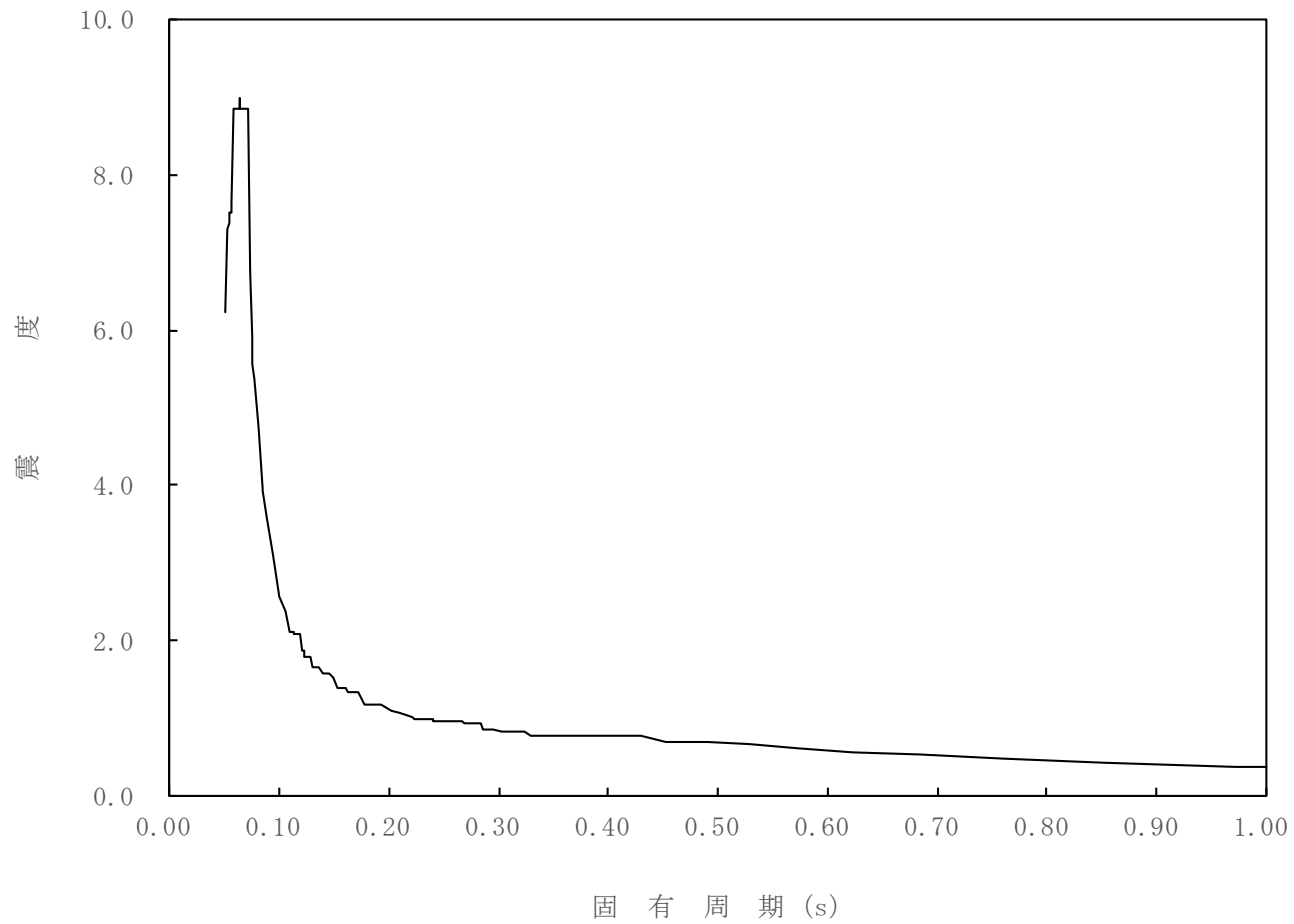
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-2-55

【CB-SdV-CB4-020】

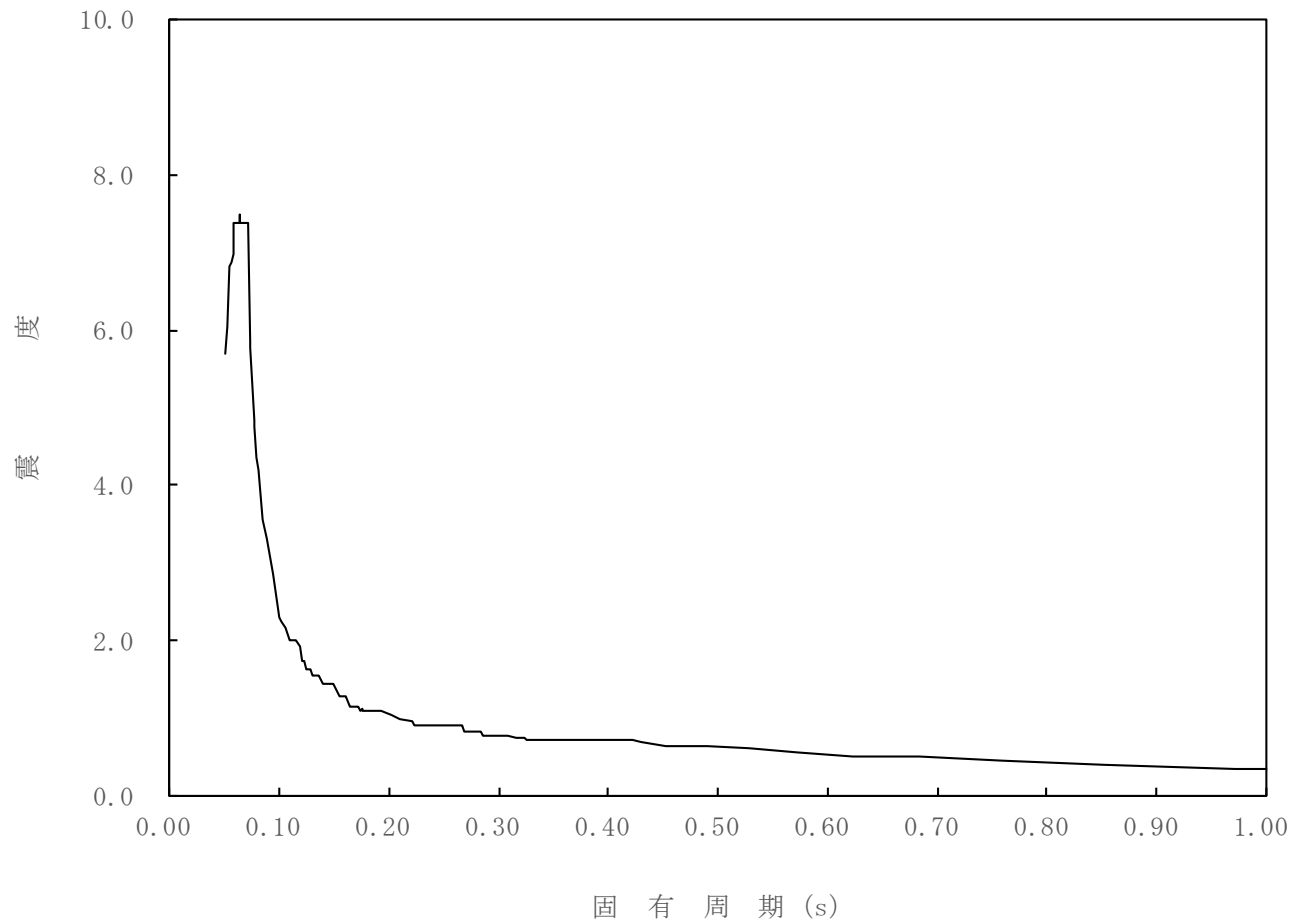
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 29.150m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB4-025】

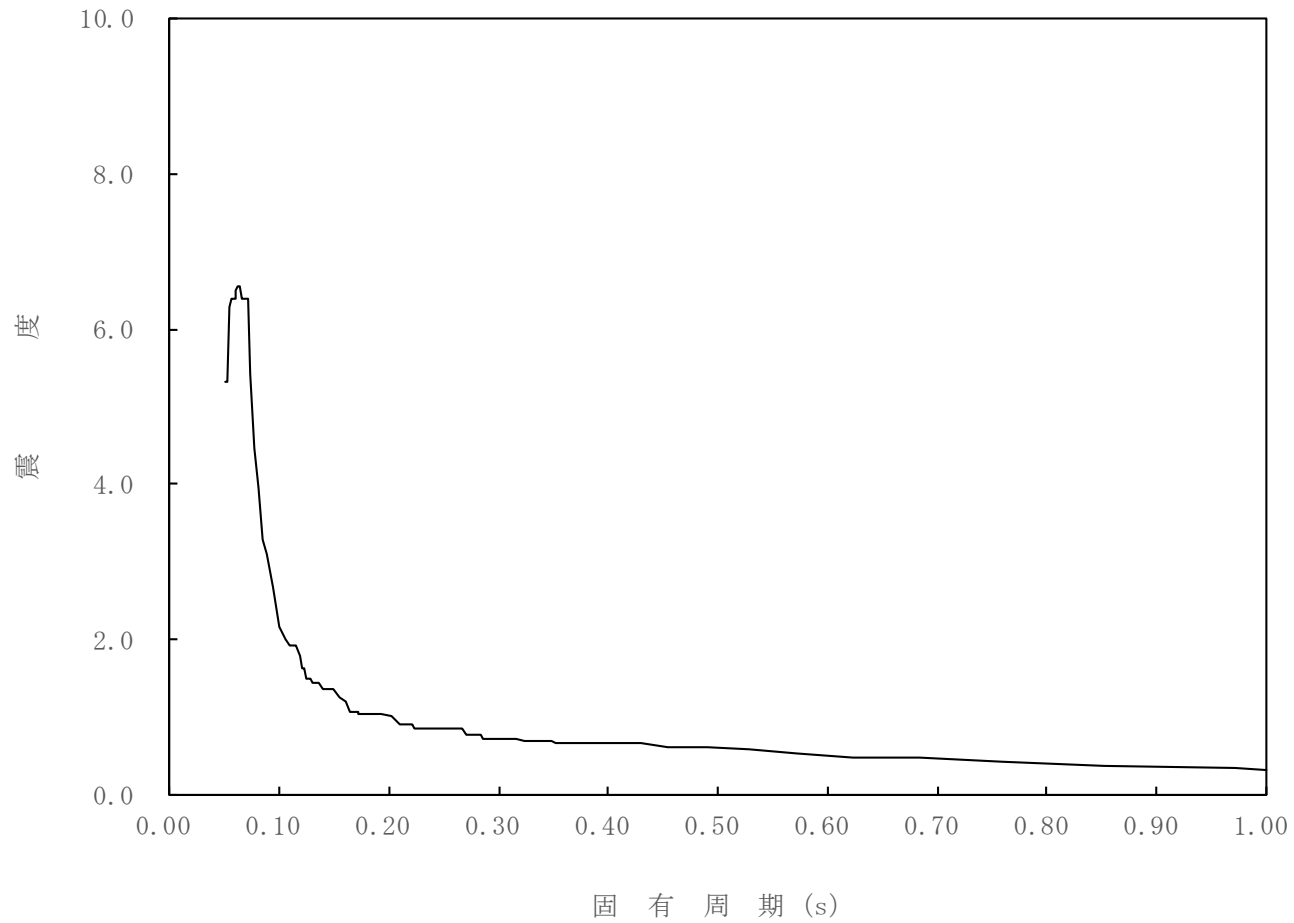
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-2-57

【CB-SdV-CB4-030】

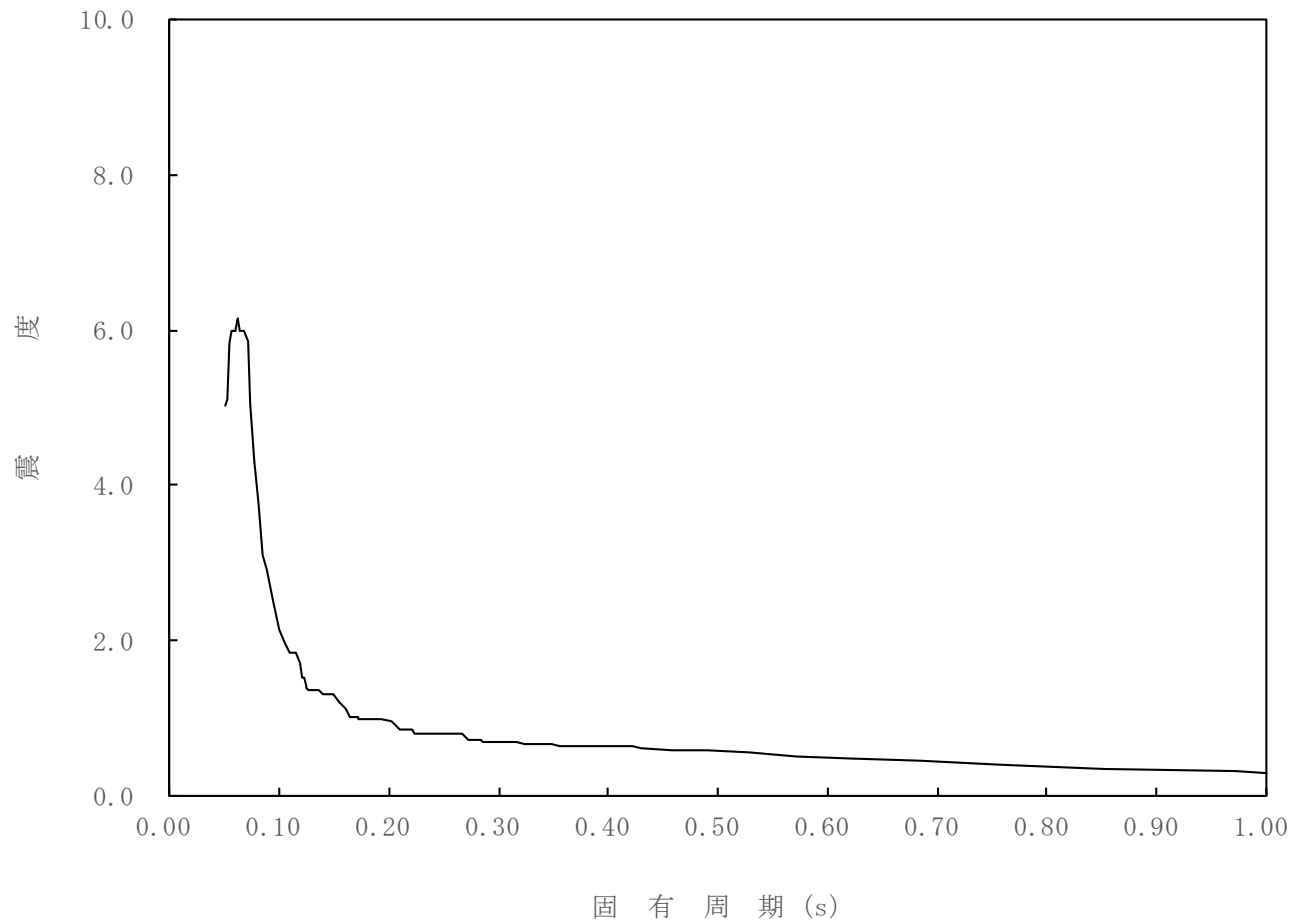
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 29.150m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【CB-SdV-CB4-050】

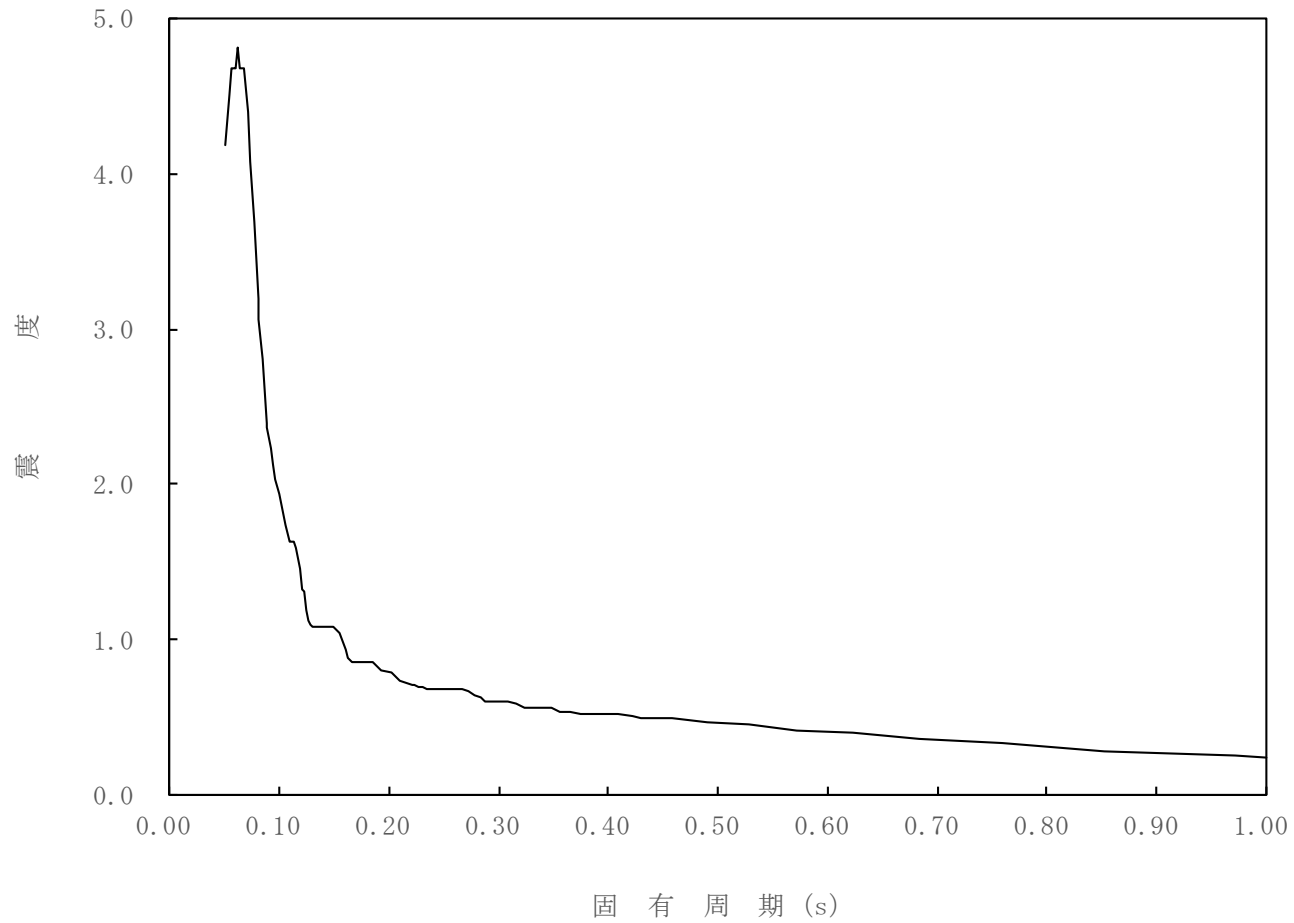
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 29.150m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB3-005】

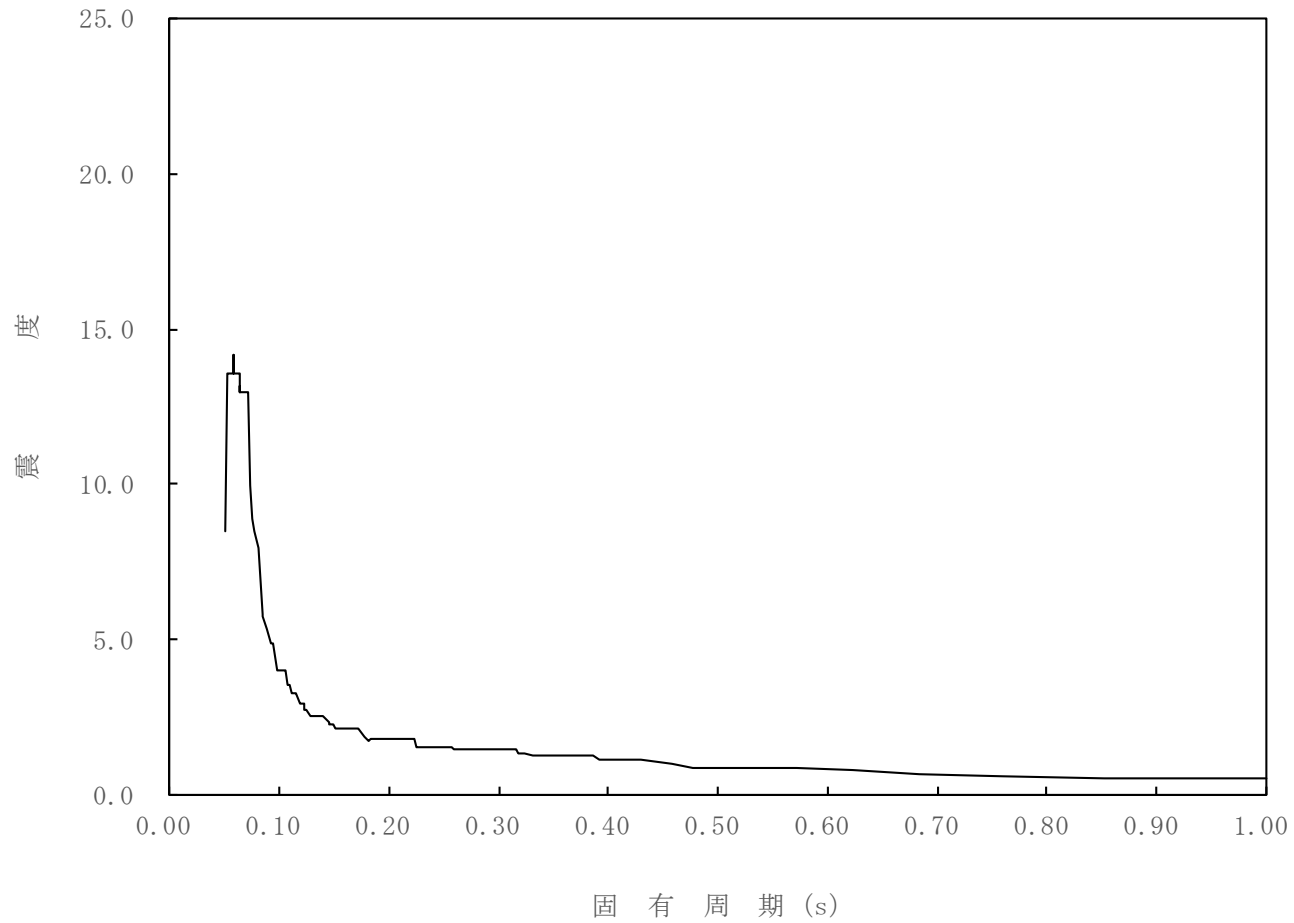
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-60

【CB-SdV-CB3-010】

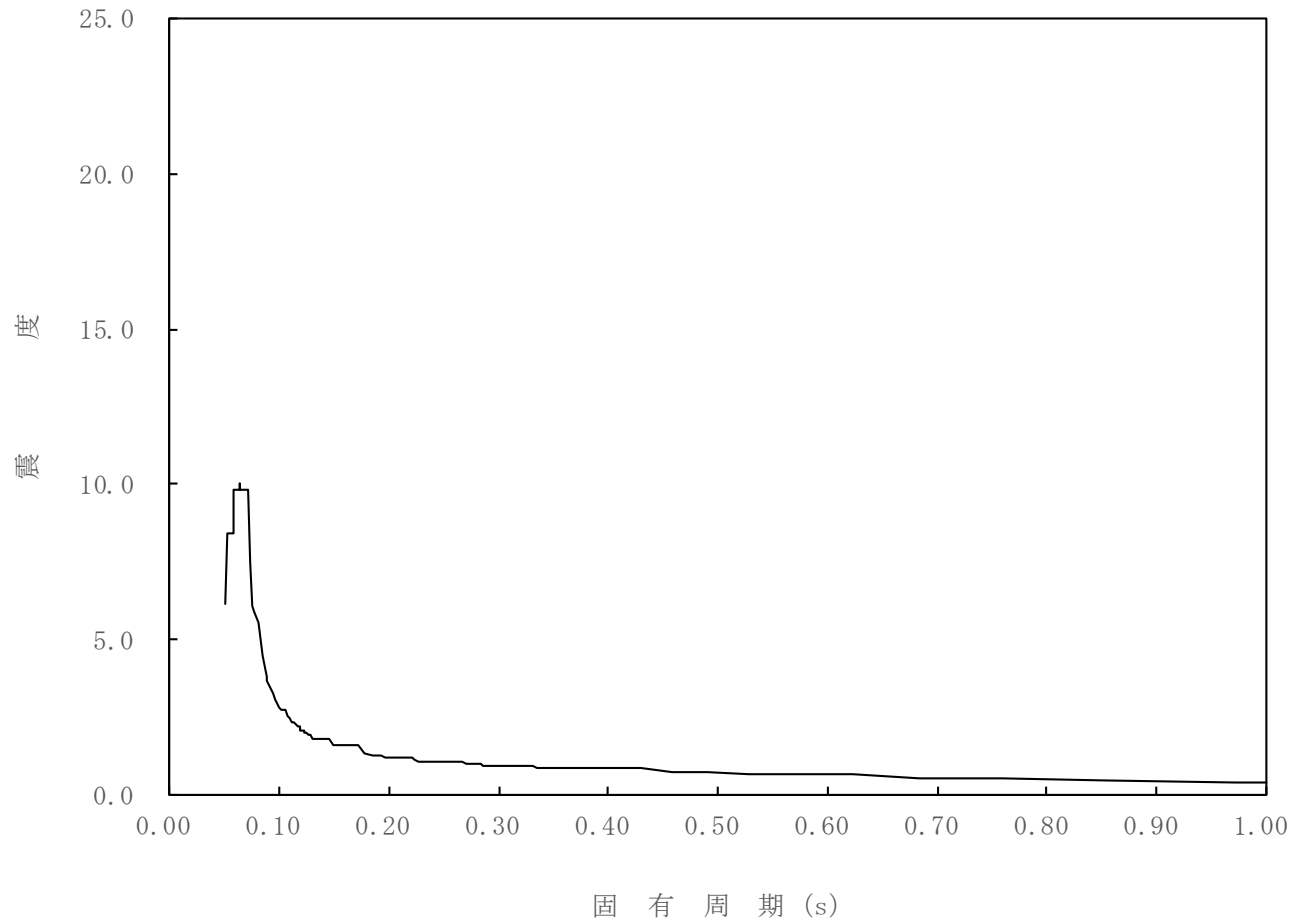
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 22.950m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB3-015】

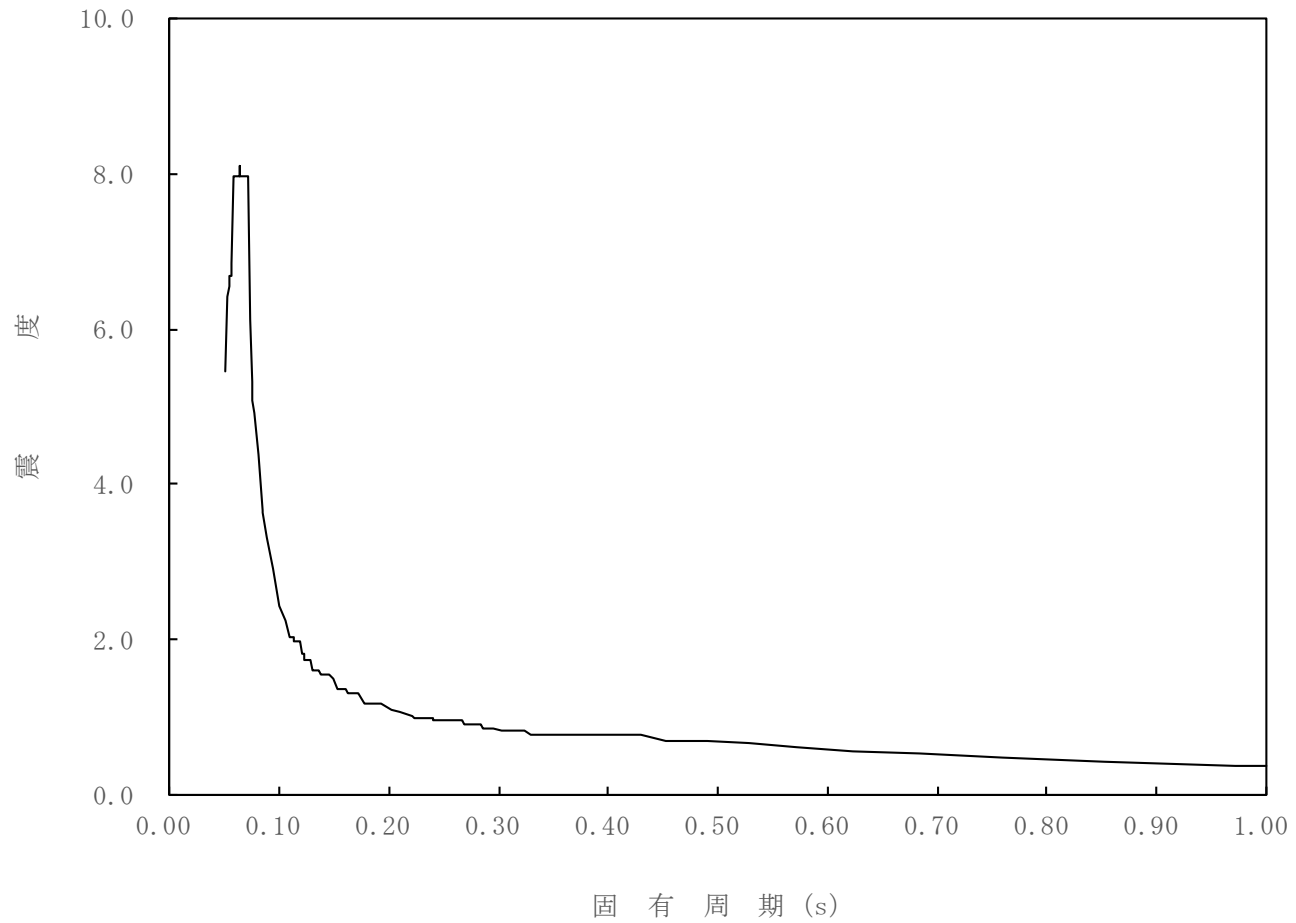
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-2-62

【CB-SdV-CB3-020】

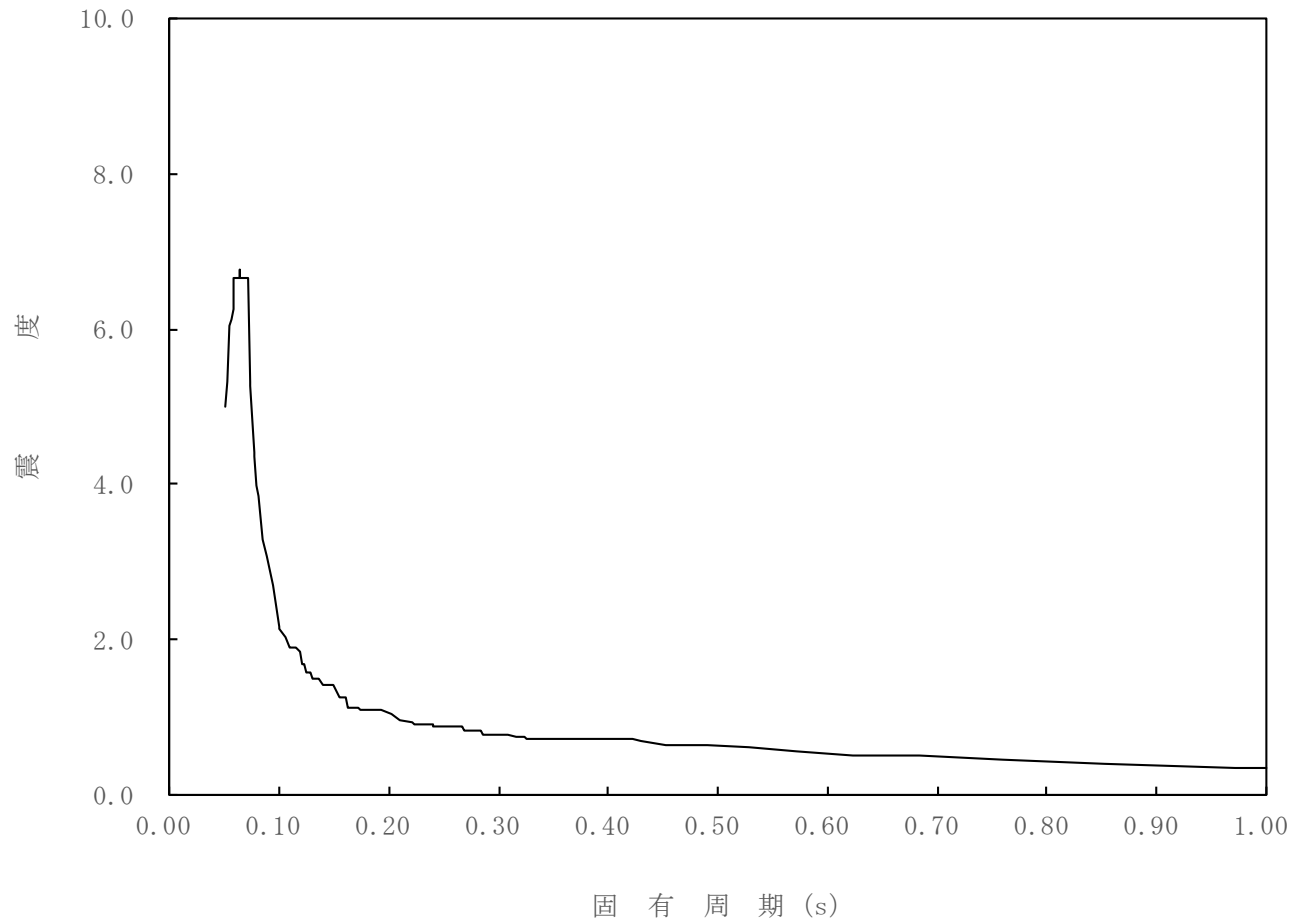
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CB3-025】

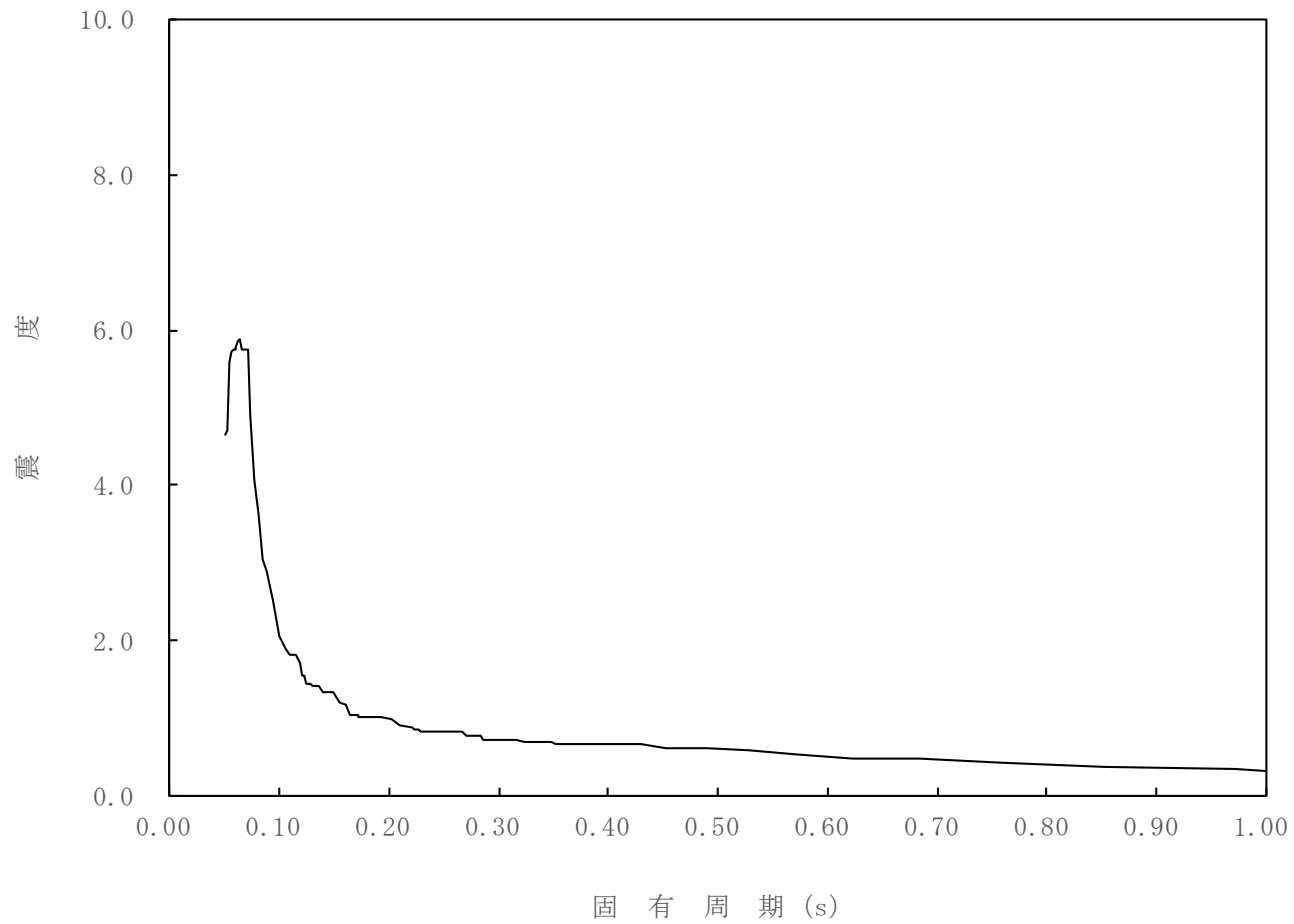
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CB3-030】

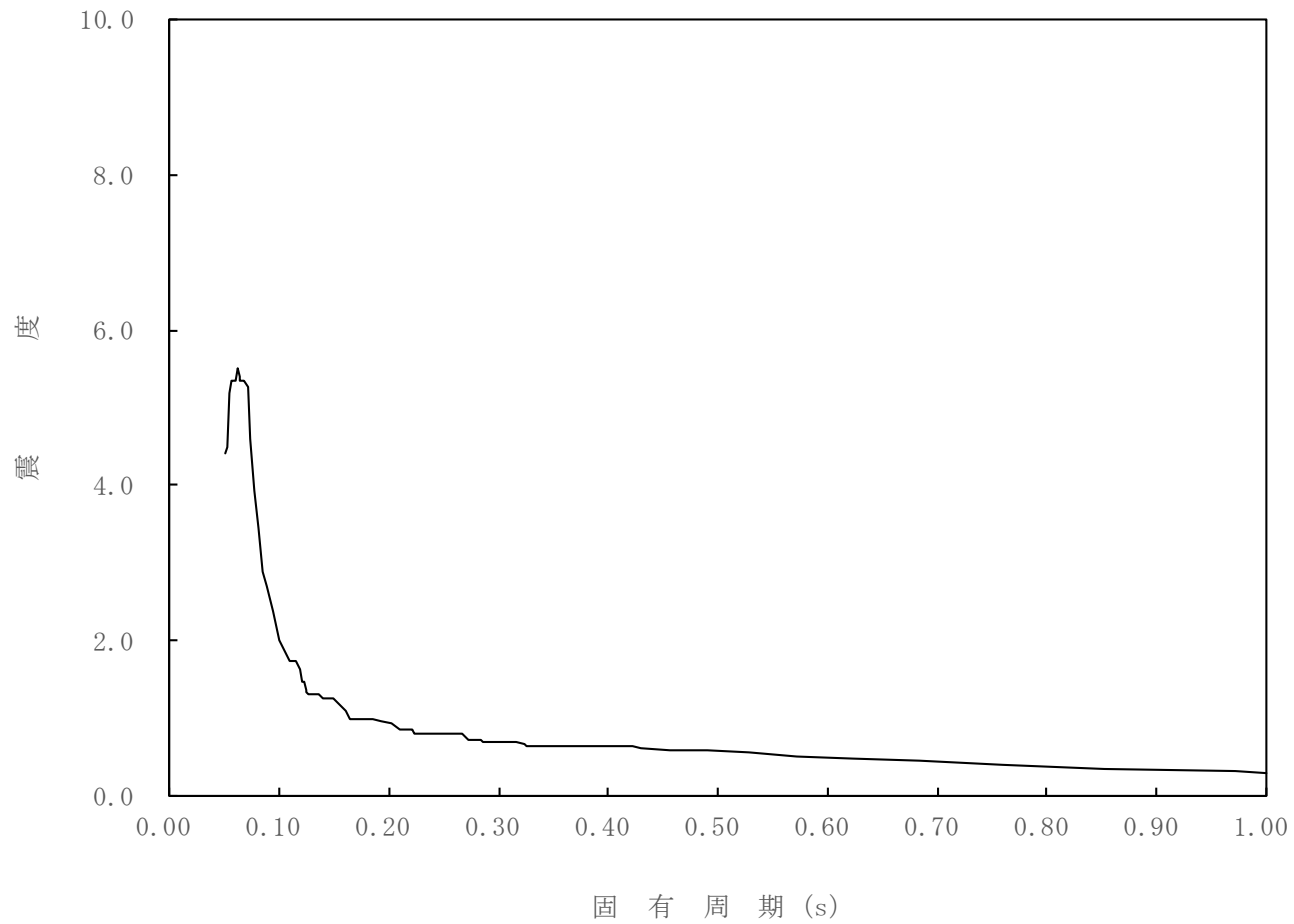
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CB3-050】

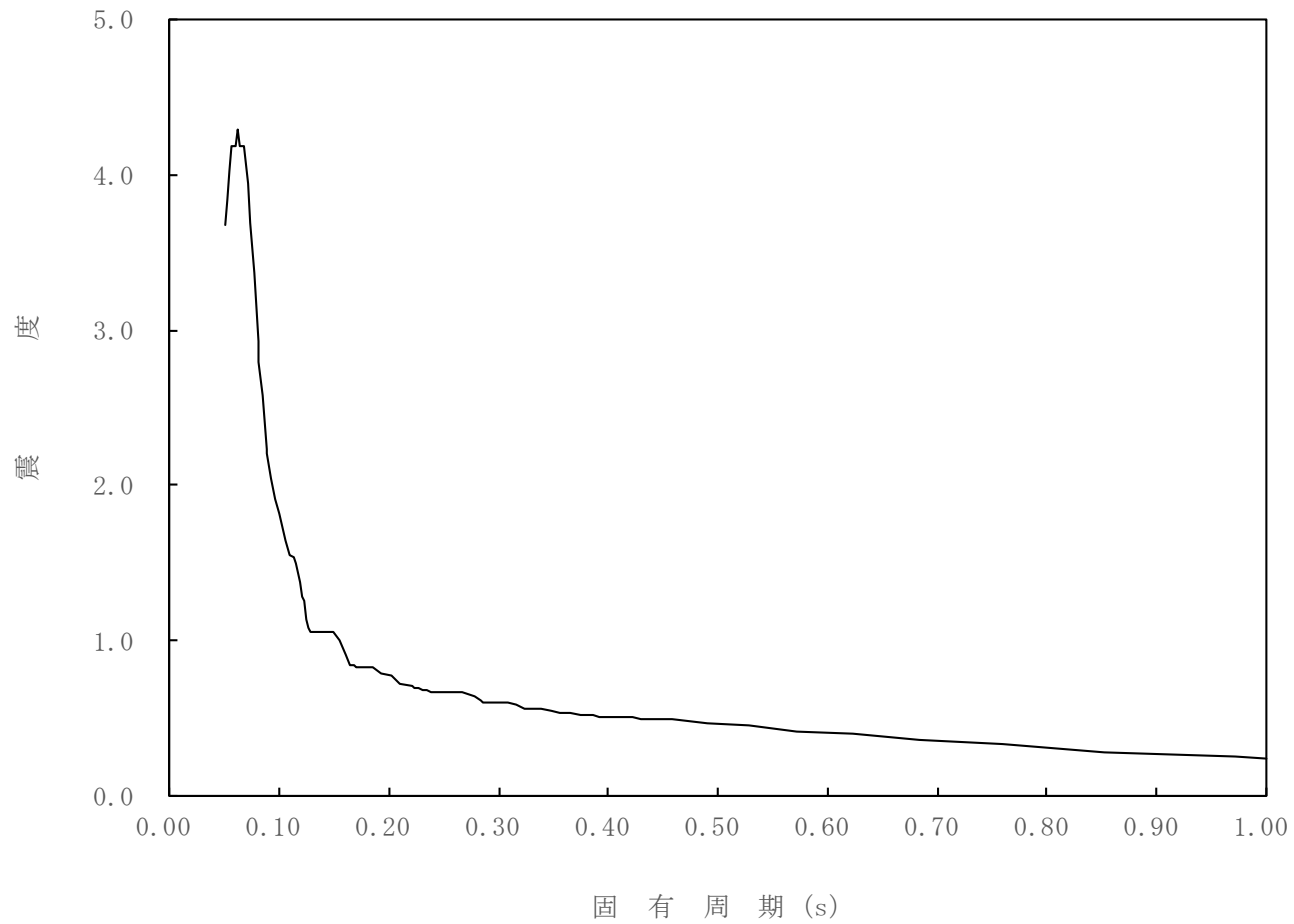
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 22.950m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-66



【CB-SdV-CB2-005】

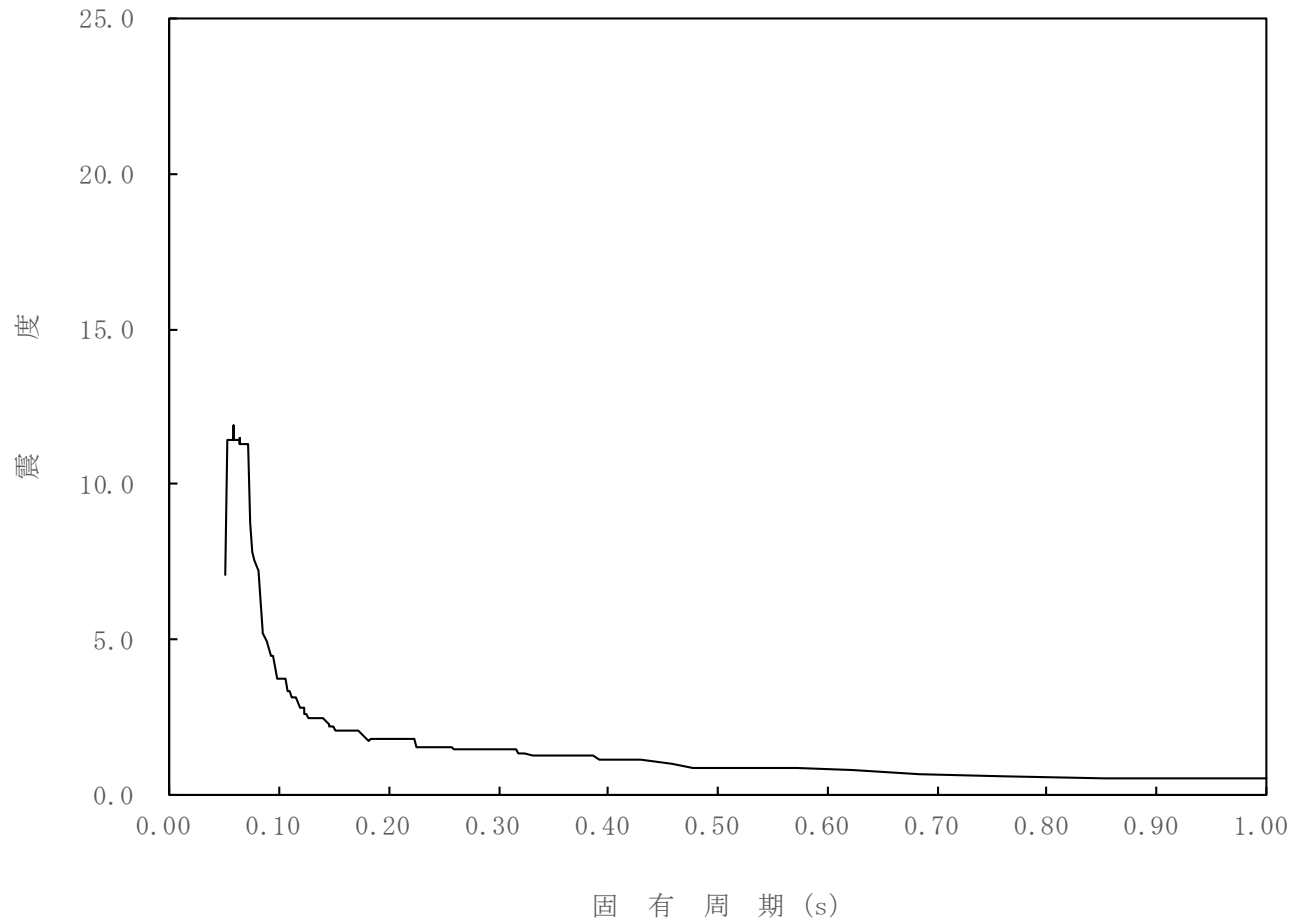
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB2-010】

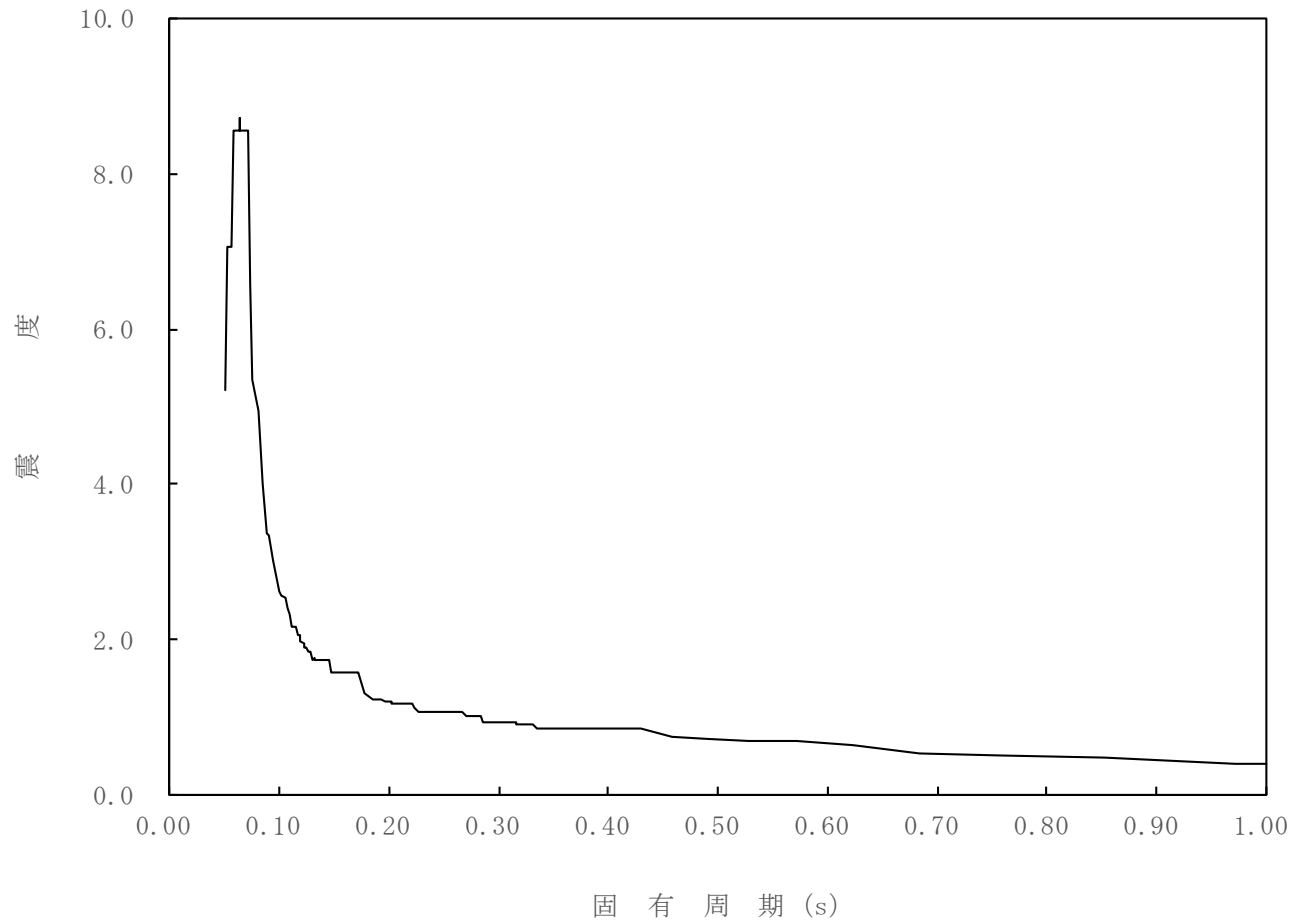
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB2-015】

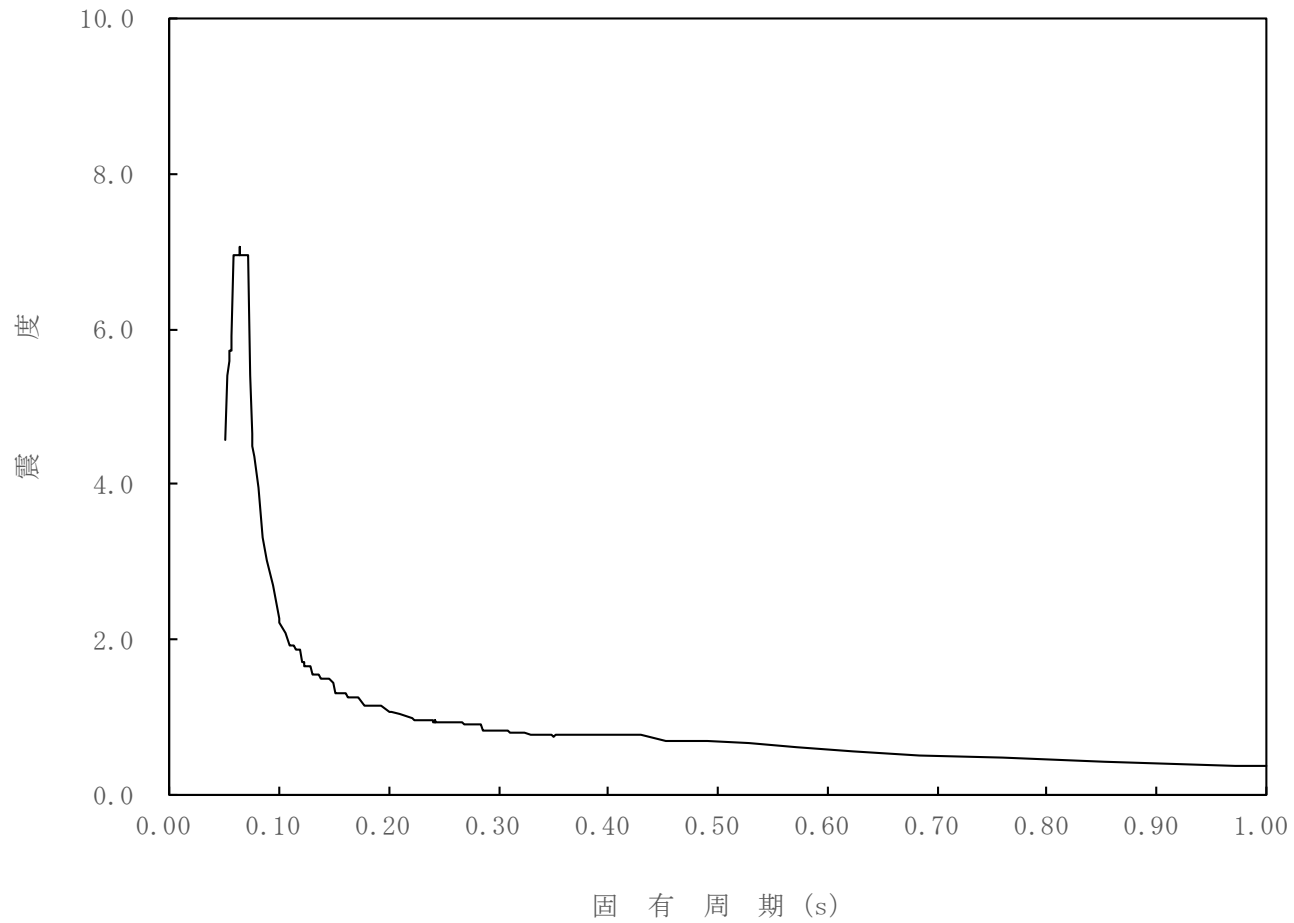
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB2-020】

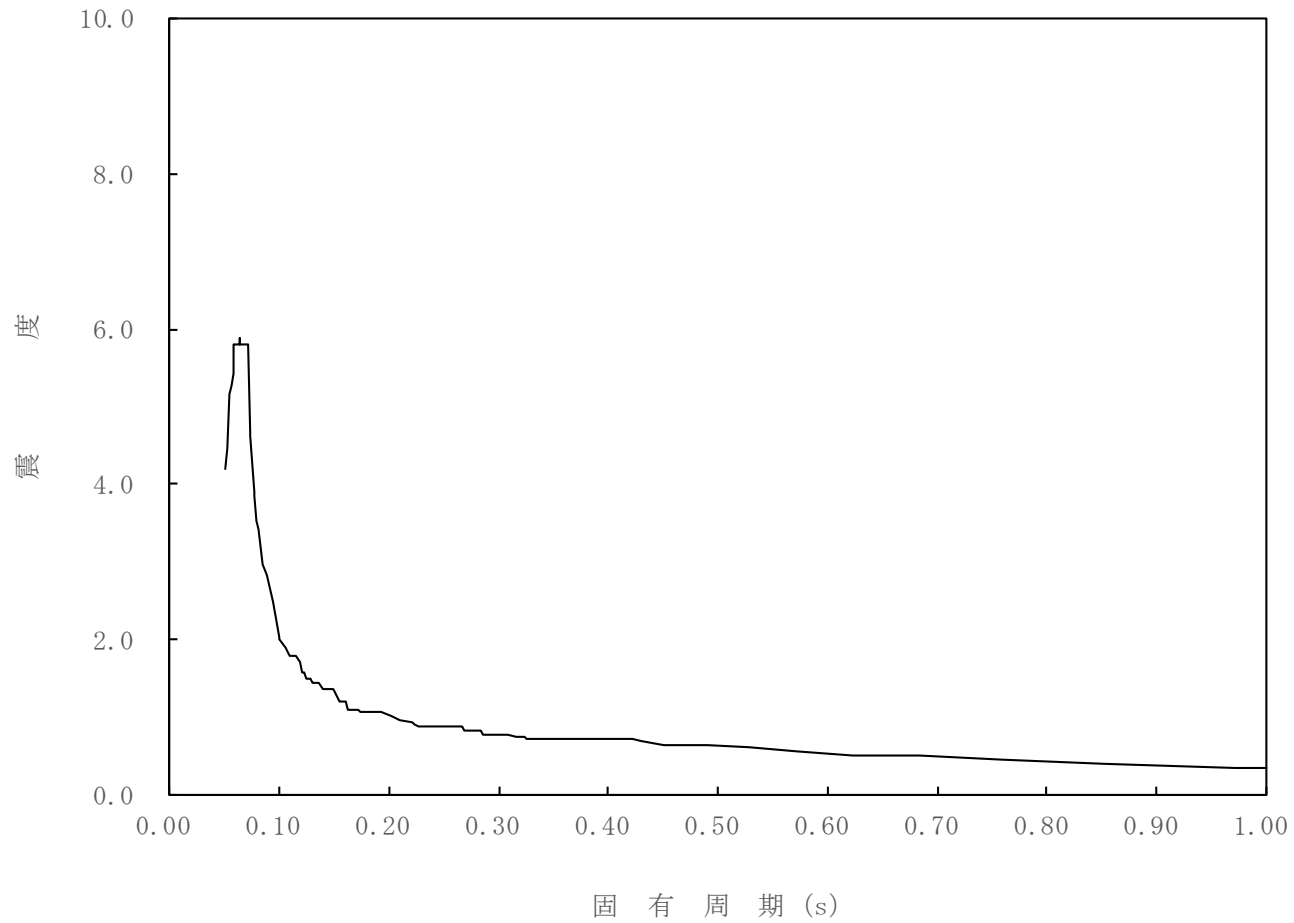
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-70

【CB-SdV-CB2-025】

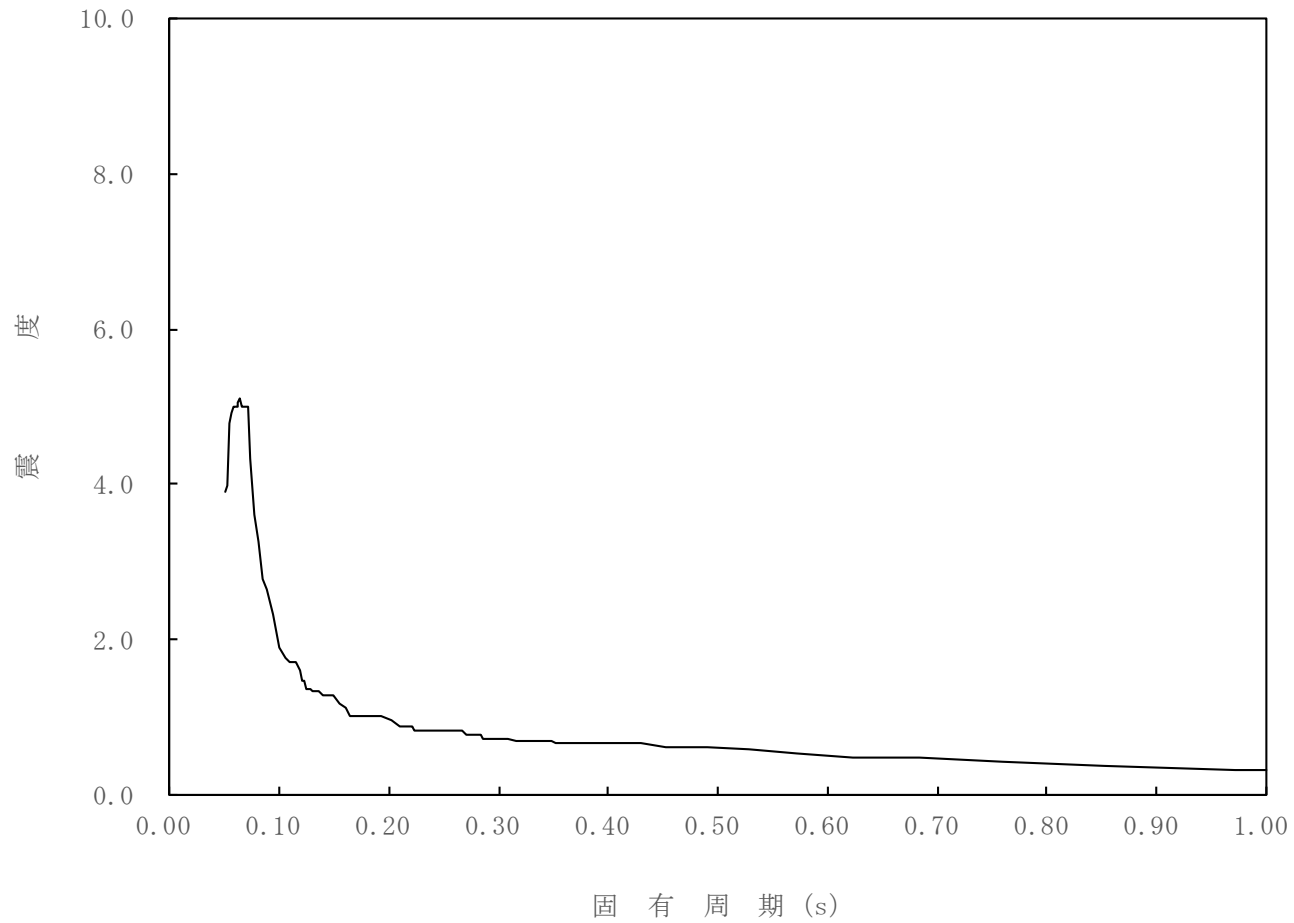
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB2-030】

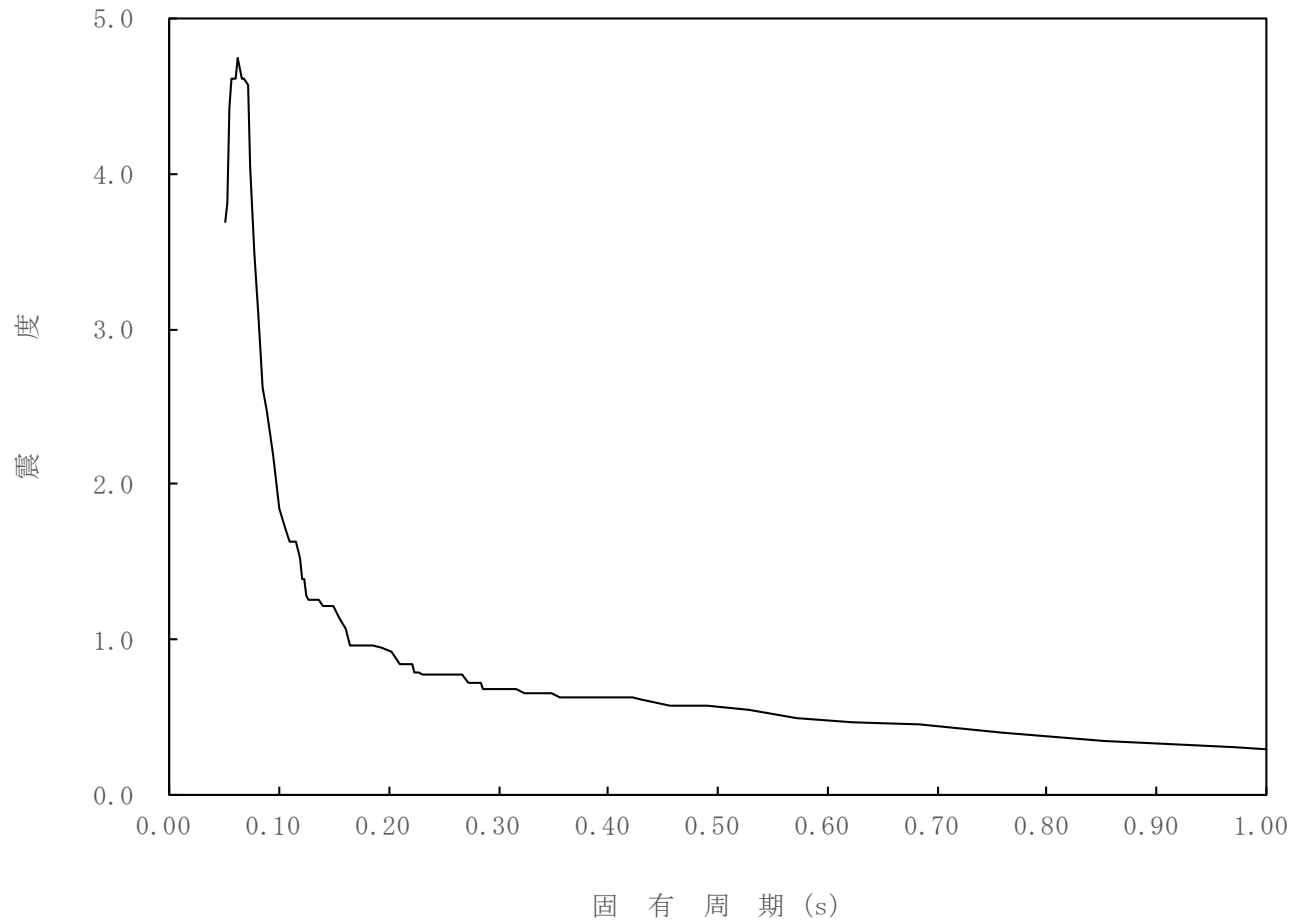
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-72

【CB-SdV-CB2-050】

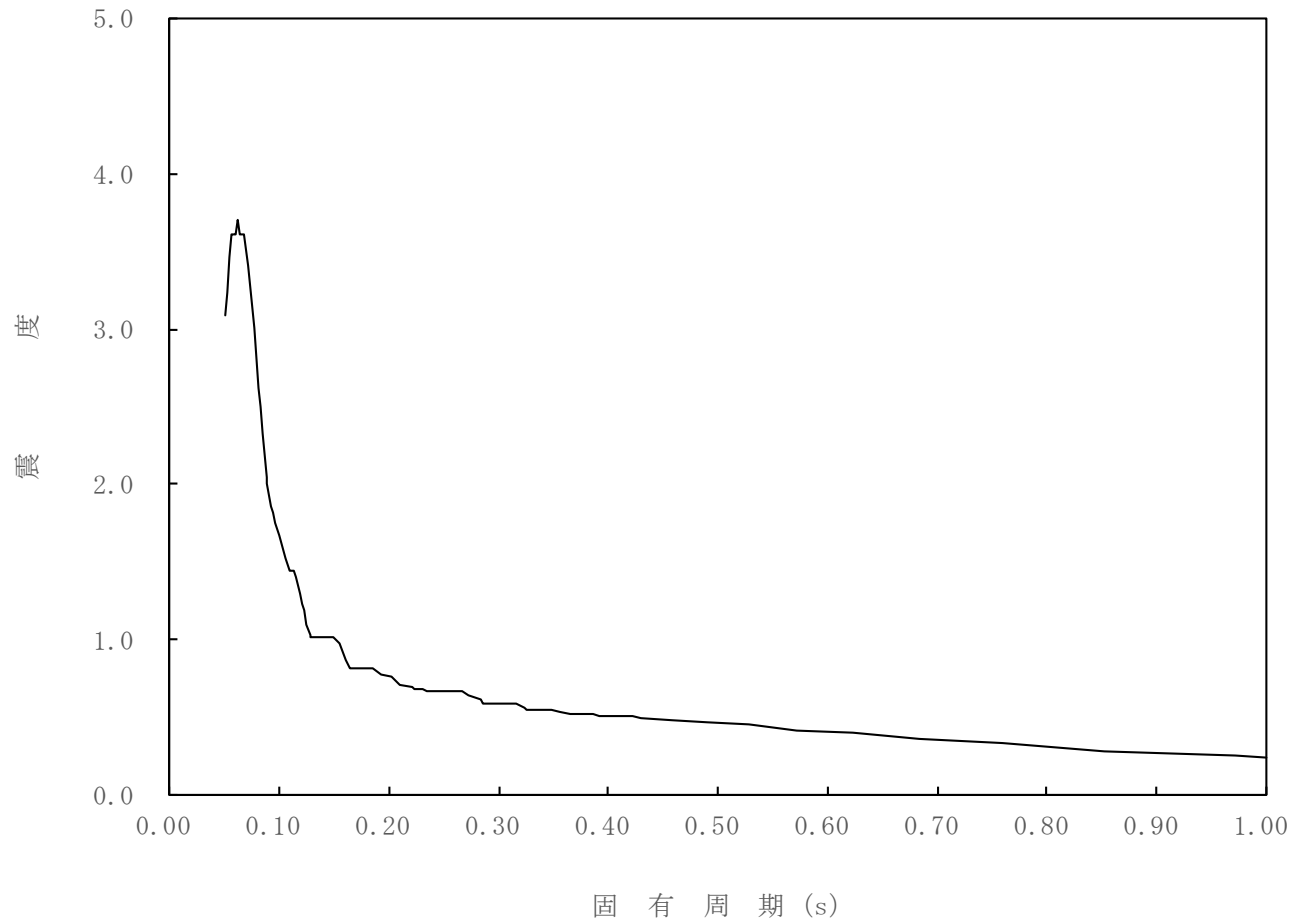
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 19.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB1-005】

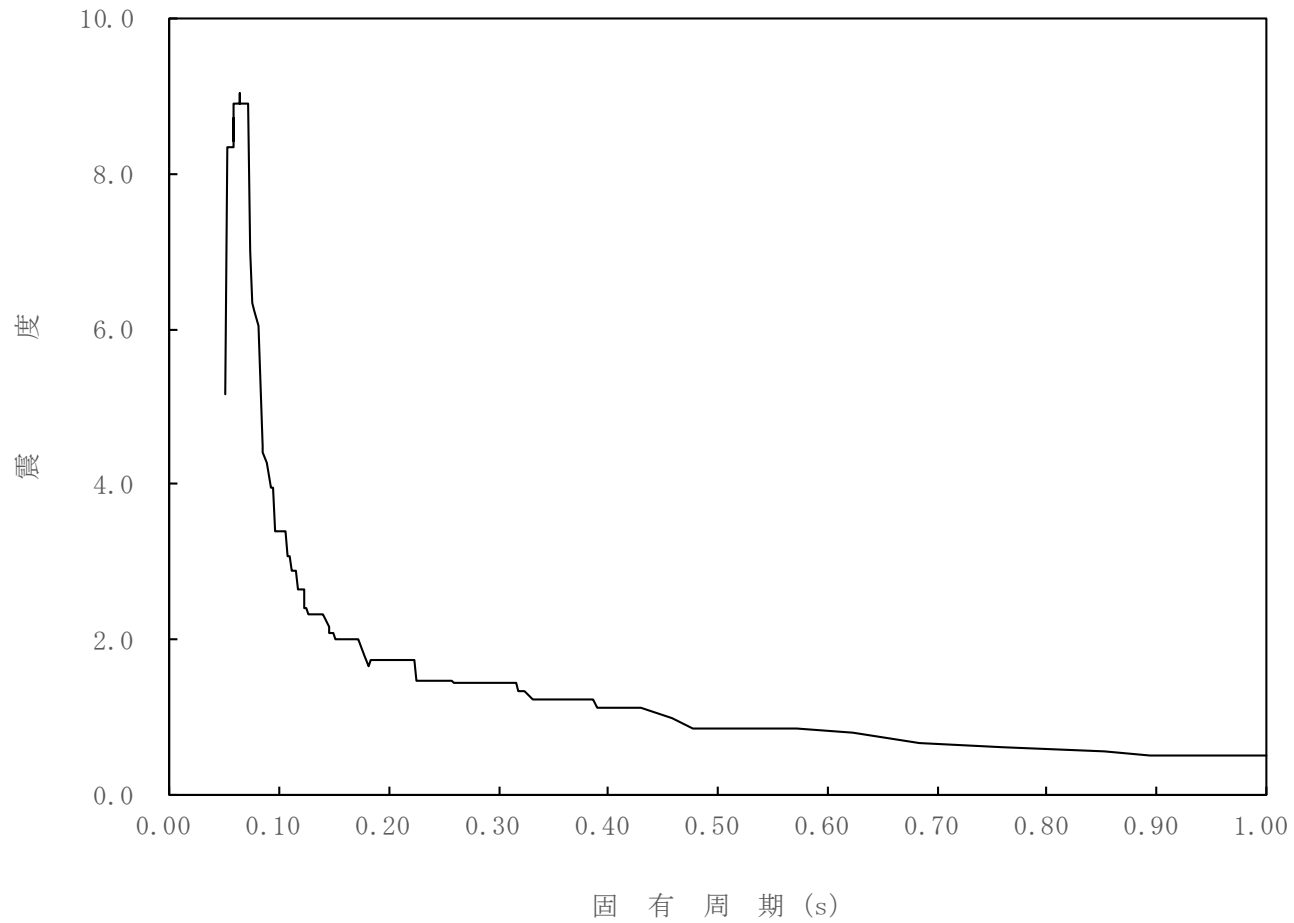
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-74



【CB-SdV-CB1-010】

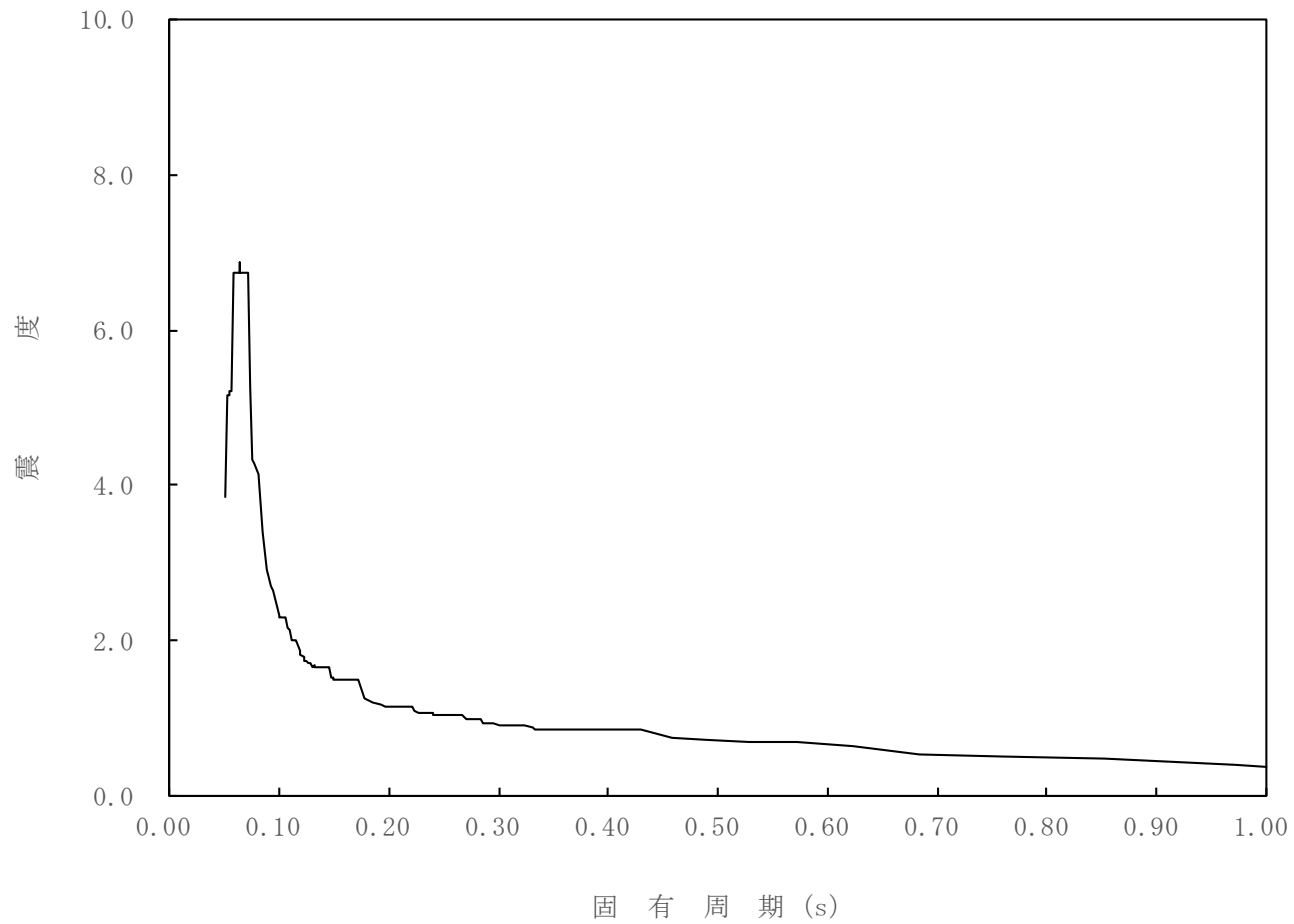
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CB1-015】

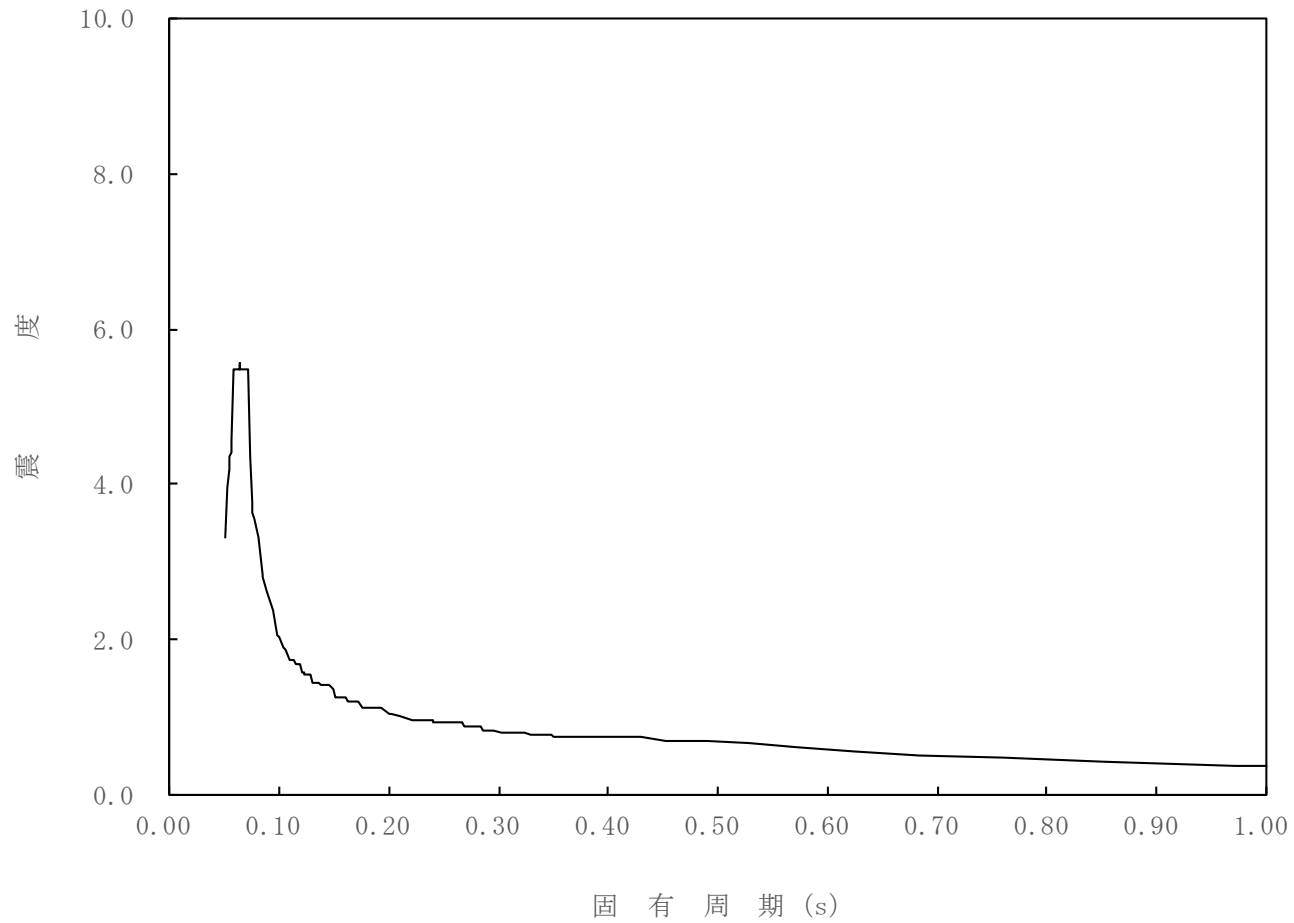
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-76

【CB-SdV-CB1-020】

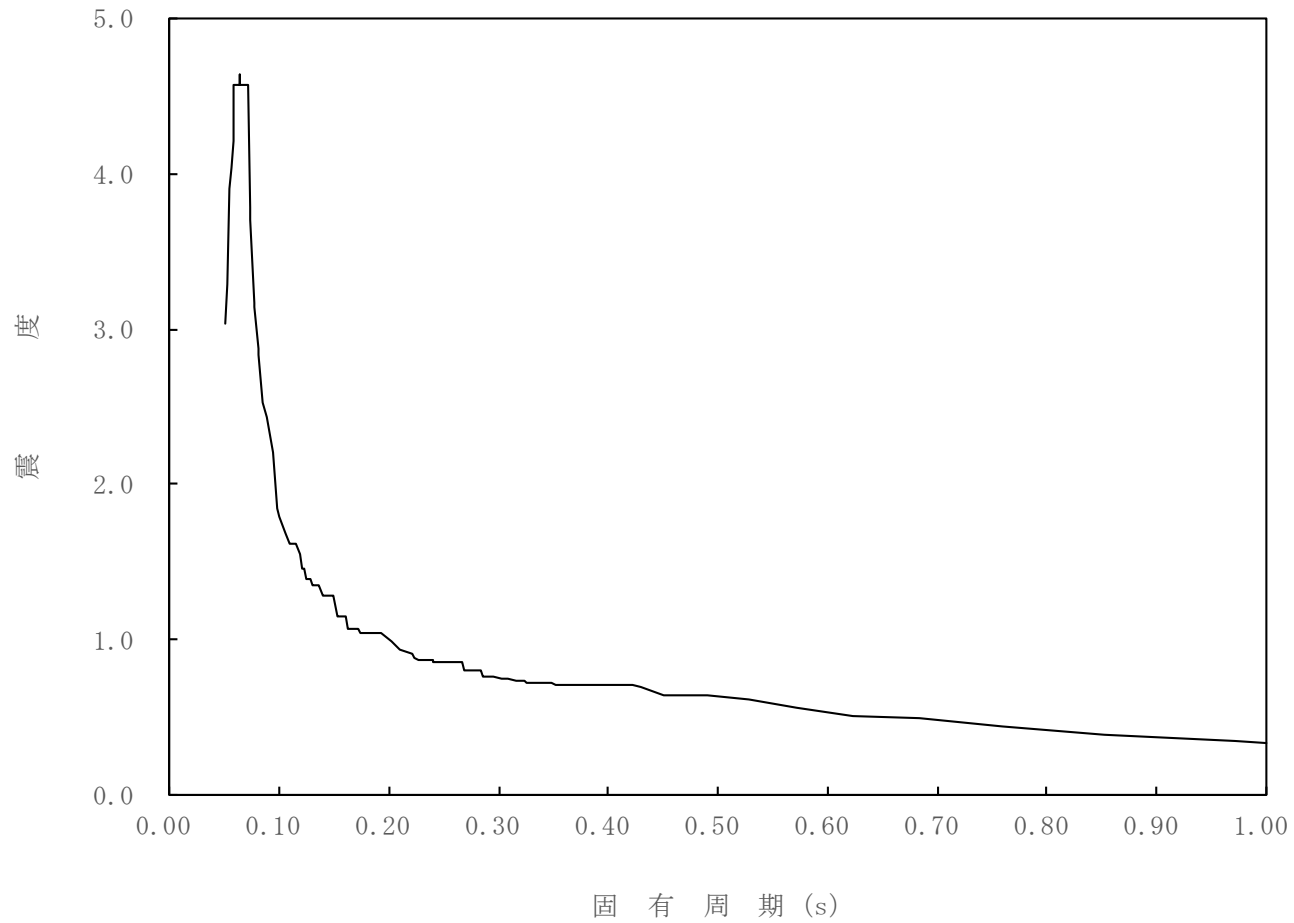
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-77

【CB-SdV-CB1-025】

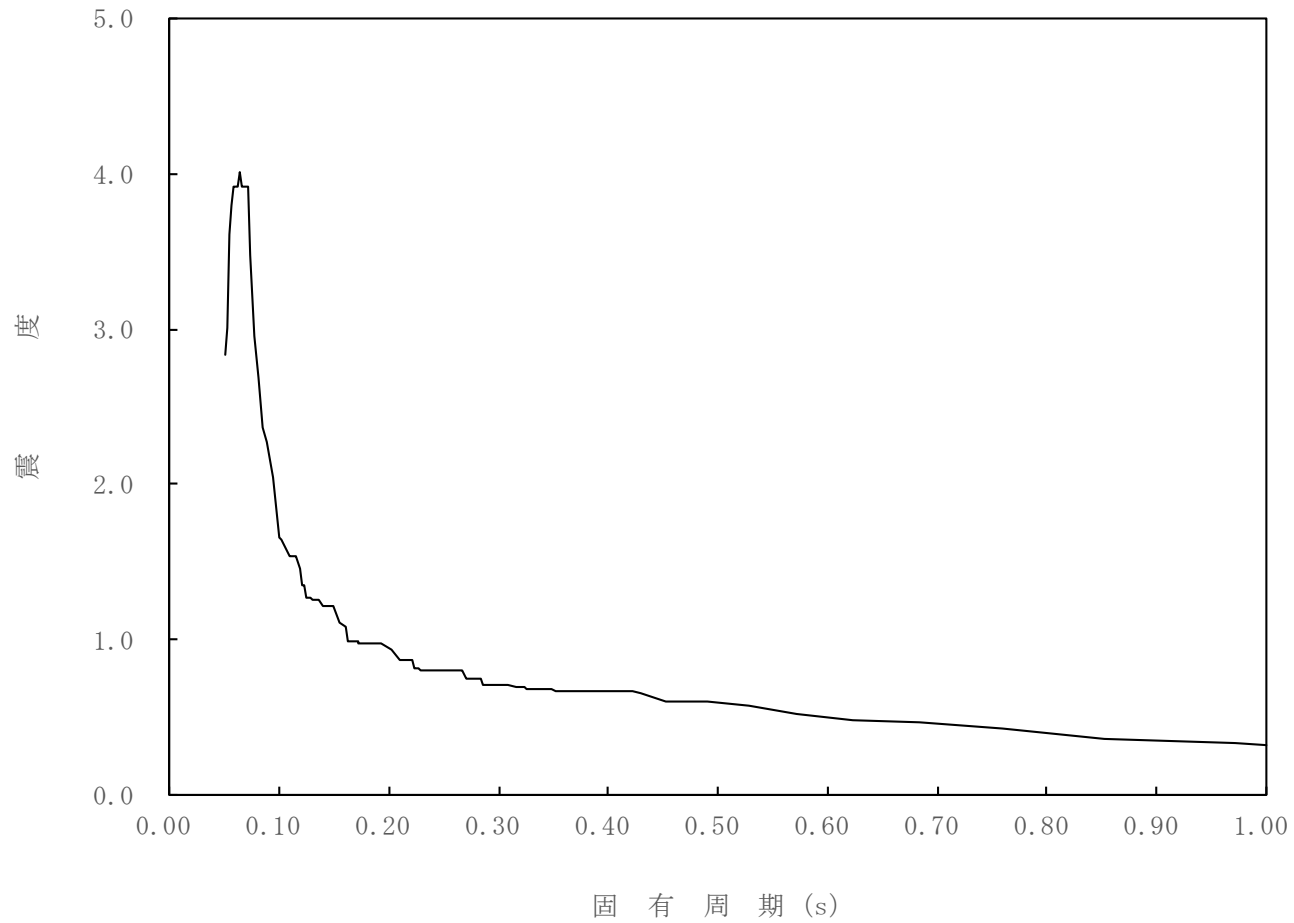
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CB1-030】

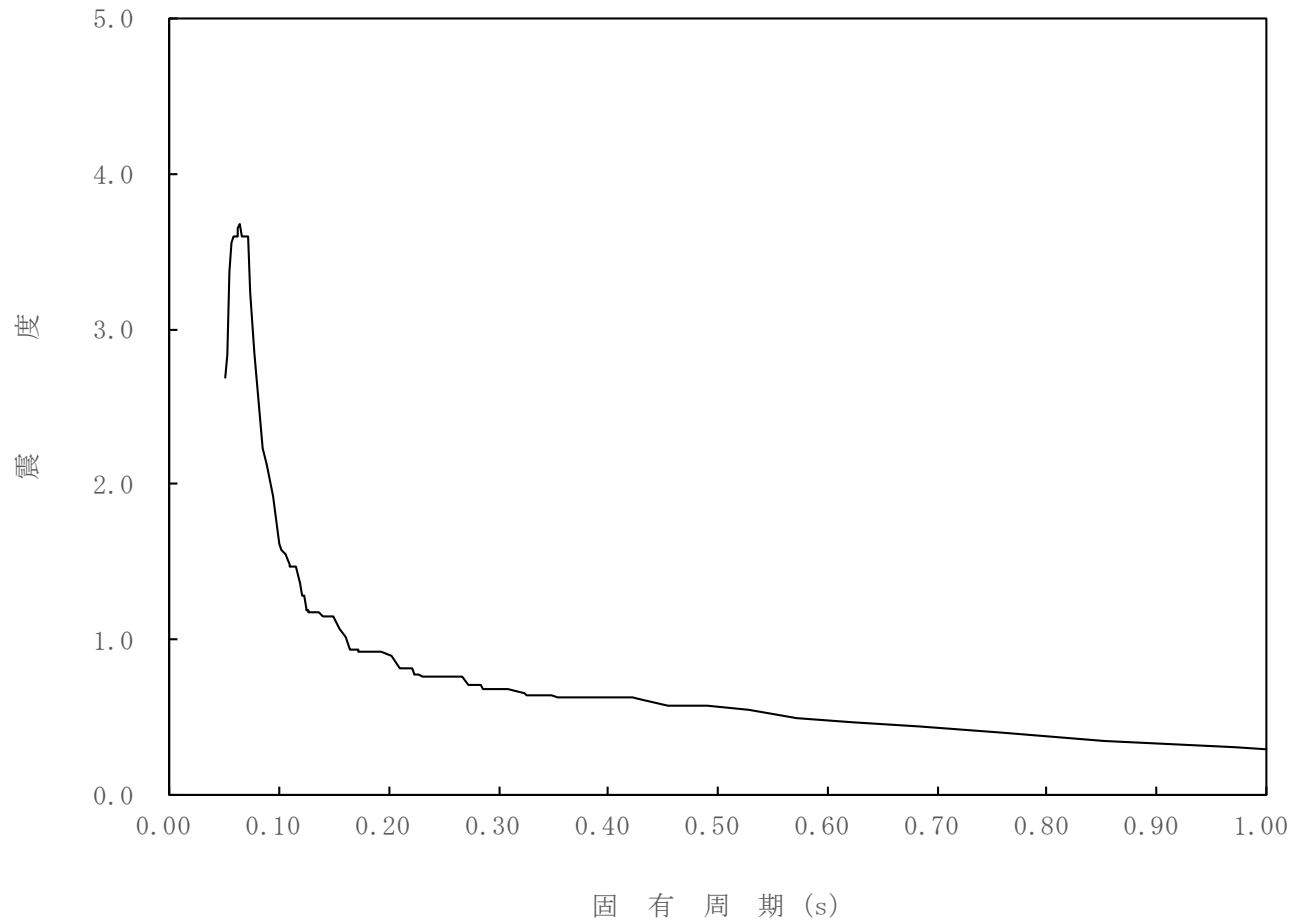
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-79

【CB-SdV-CB1-050】

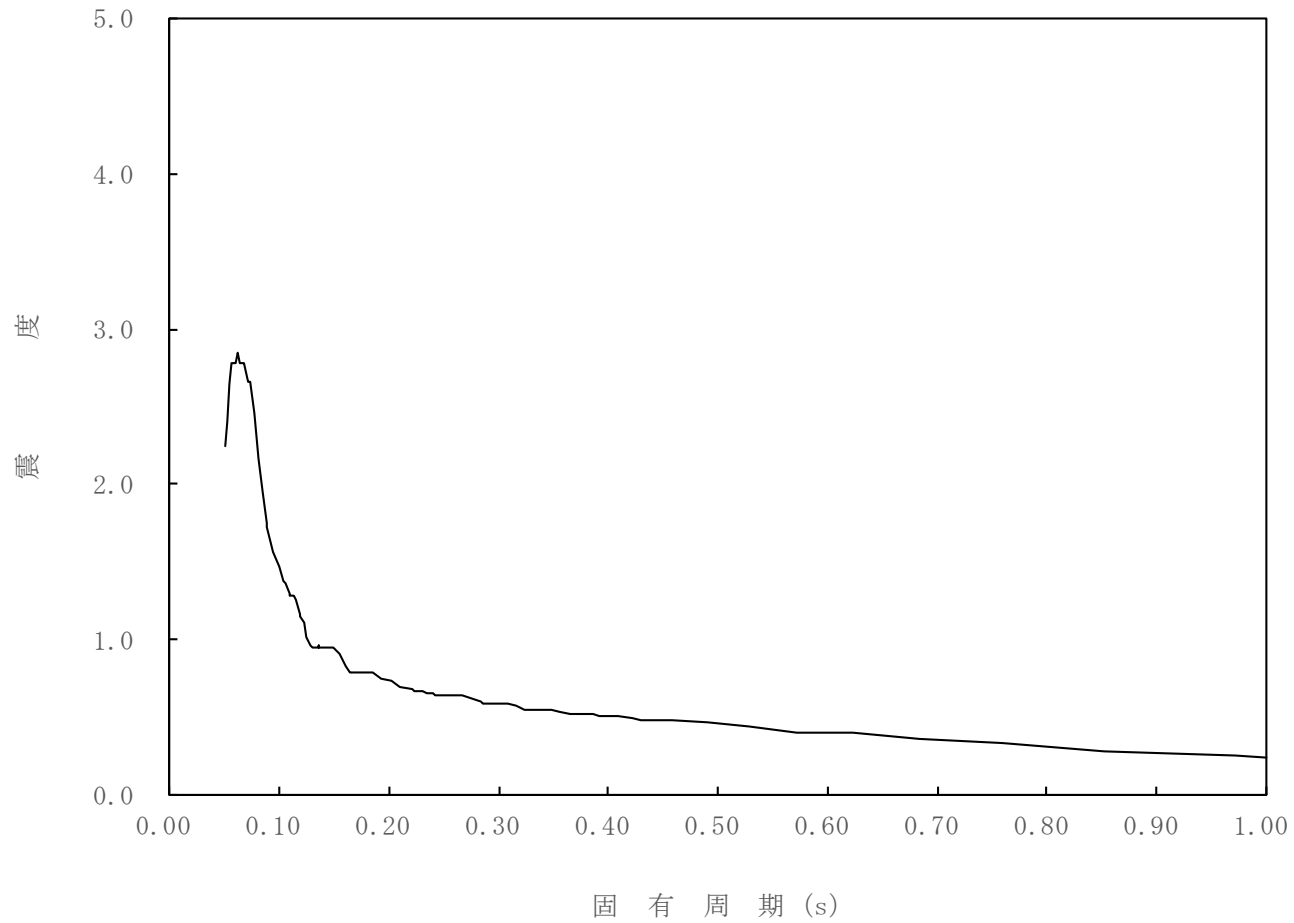
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 15.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-80

【CB-SdV-CBB1-005】

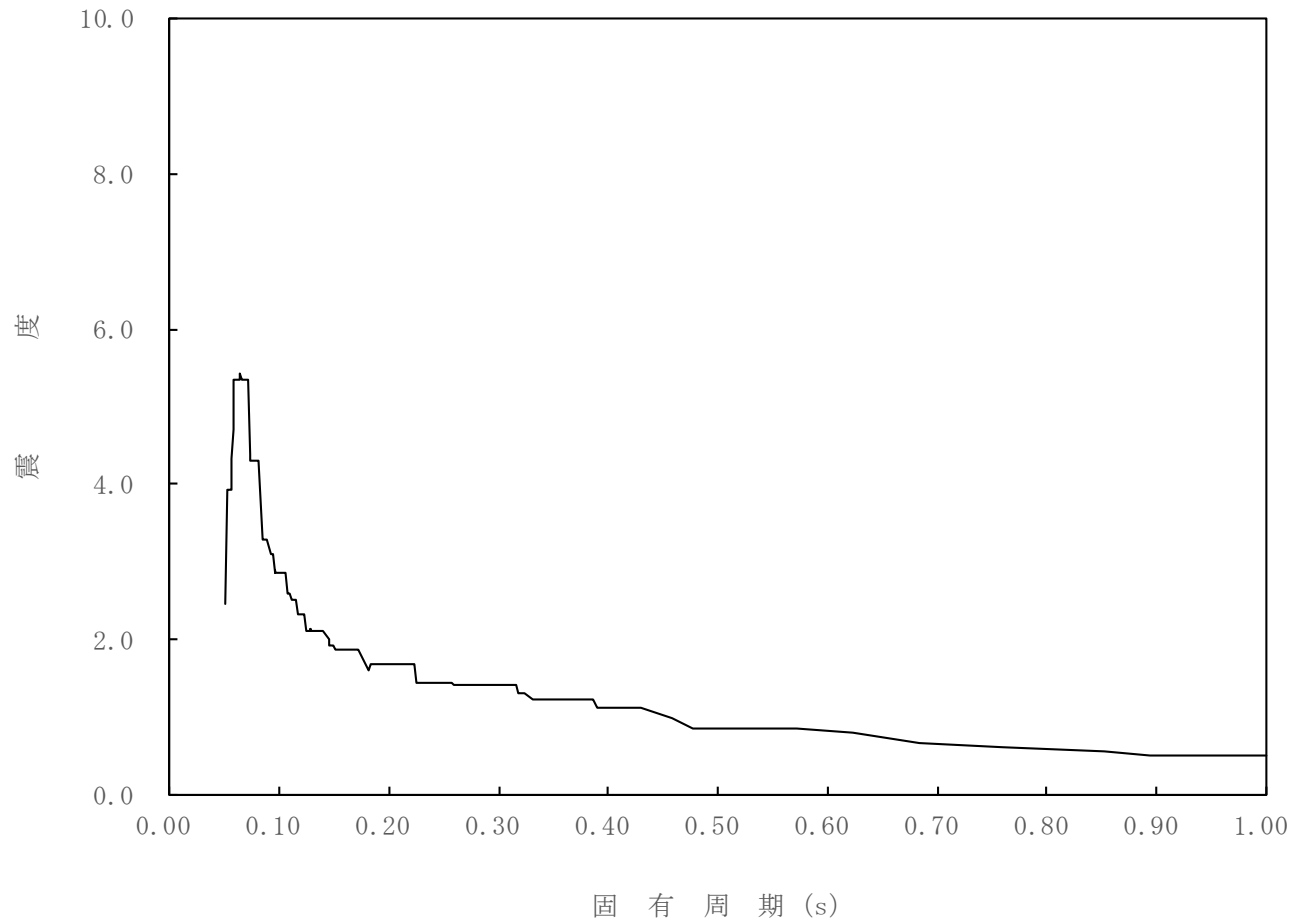
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CBB1-010】

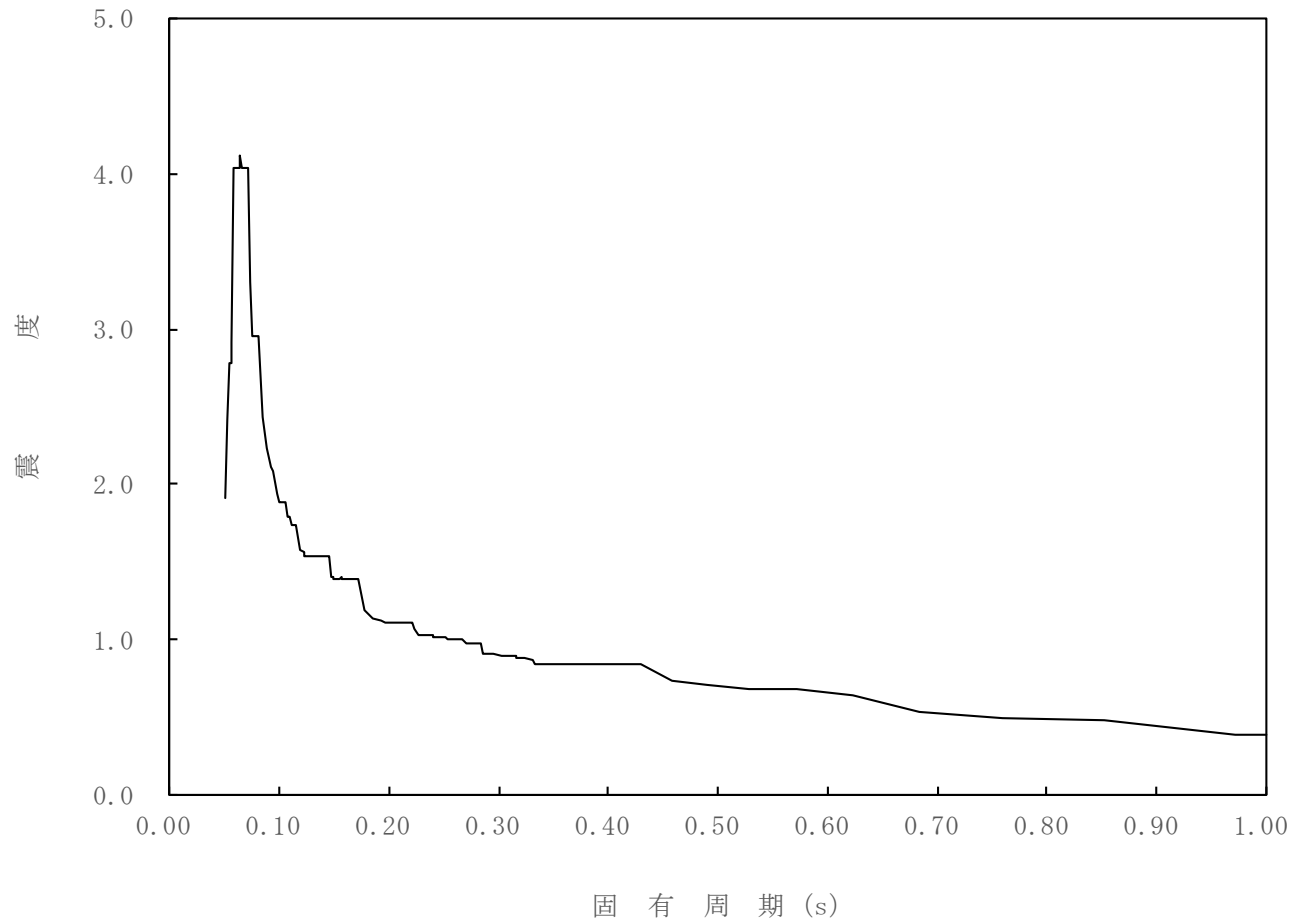
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-2-82



【CB-SdV-CBB1-015】

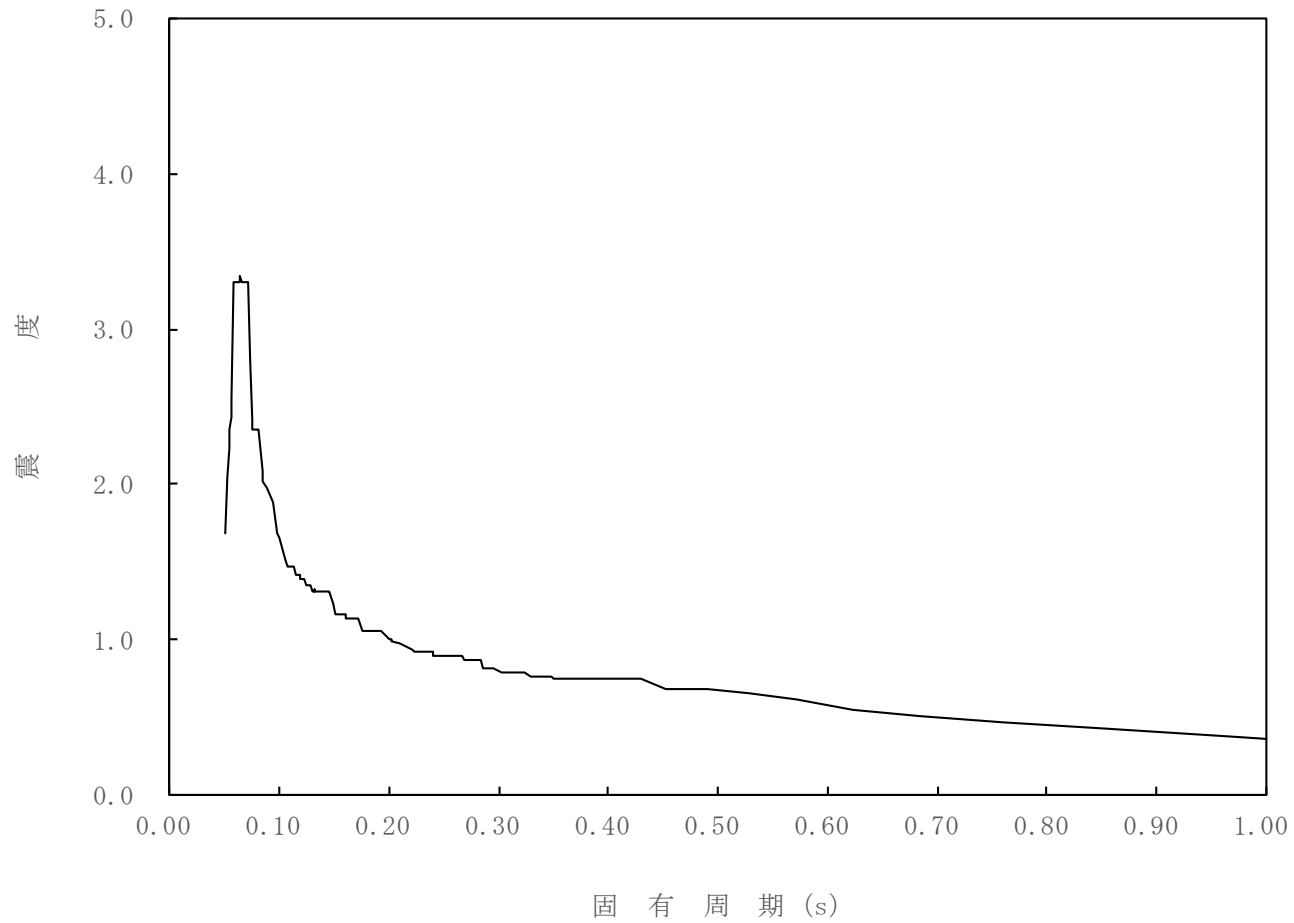
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CBB1-020】

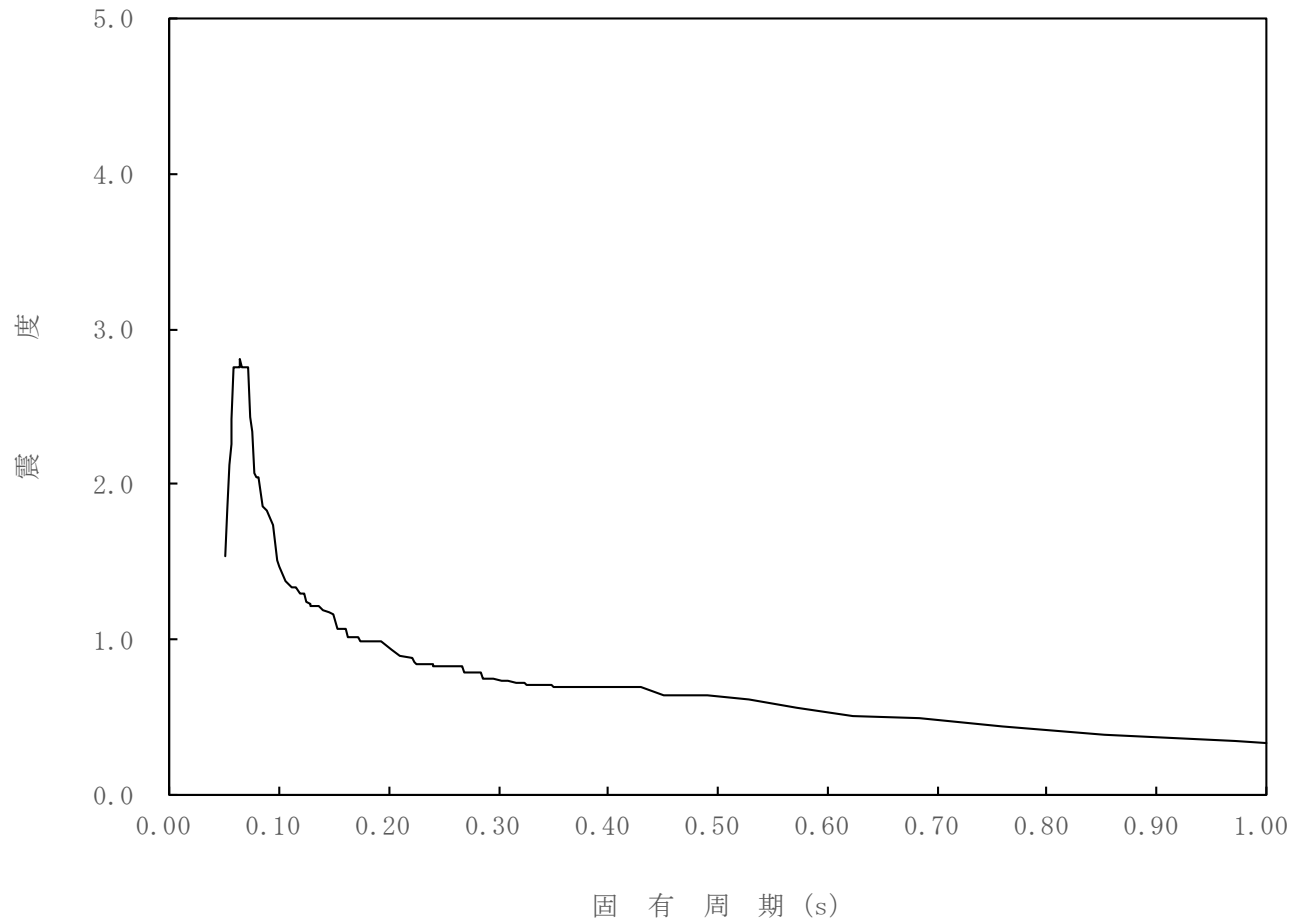
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CBB1-025】

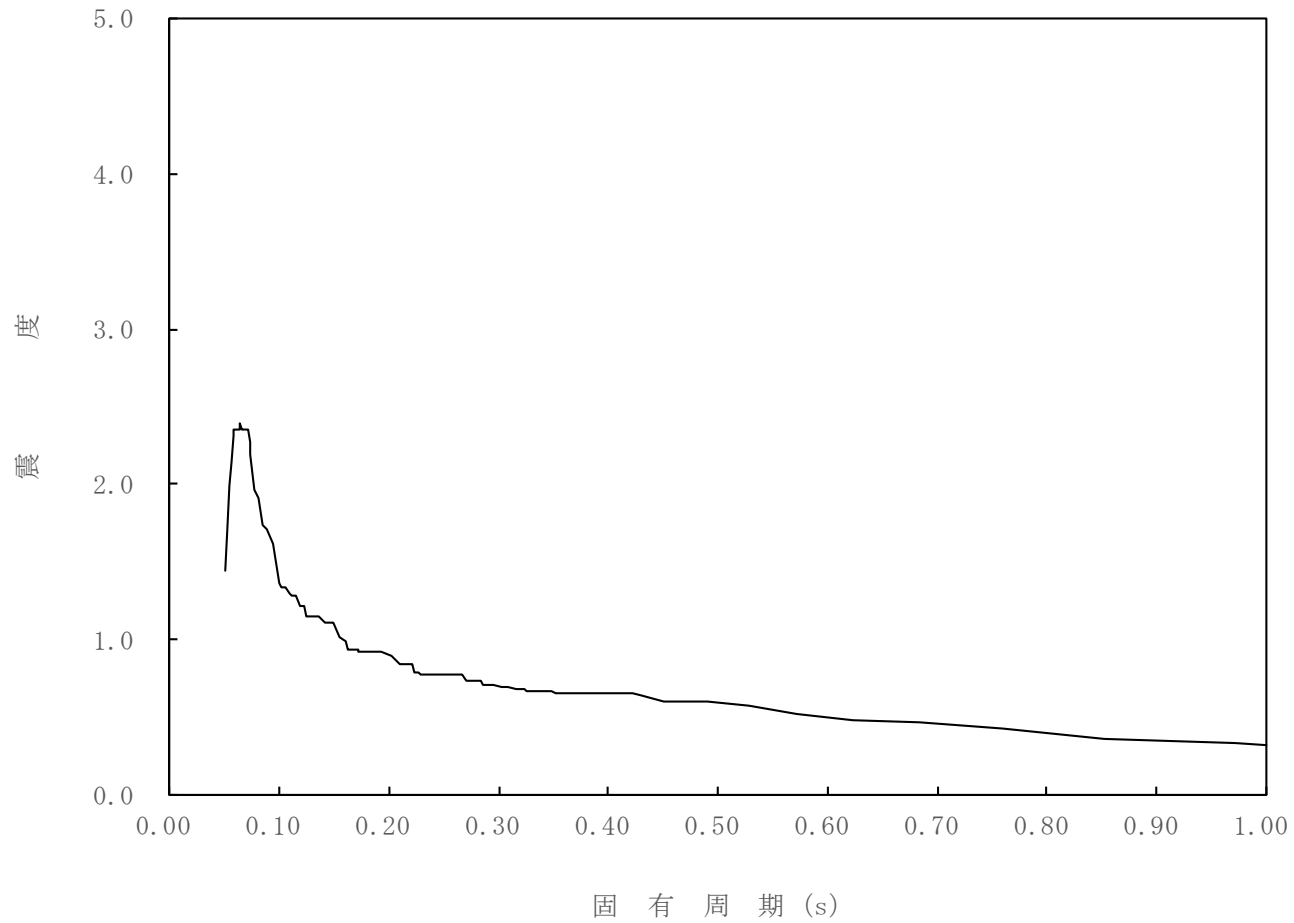
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CBB1-030】

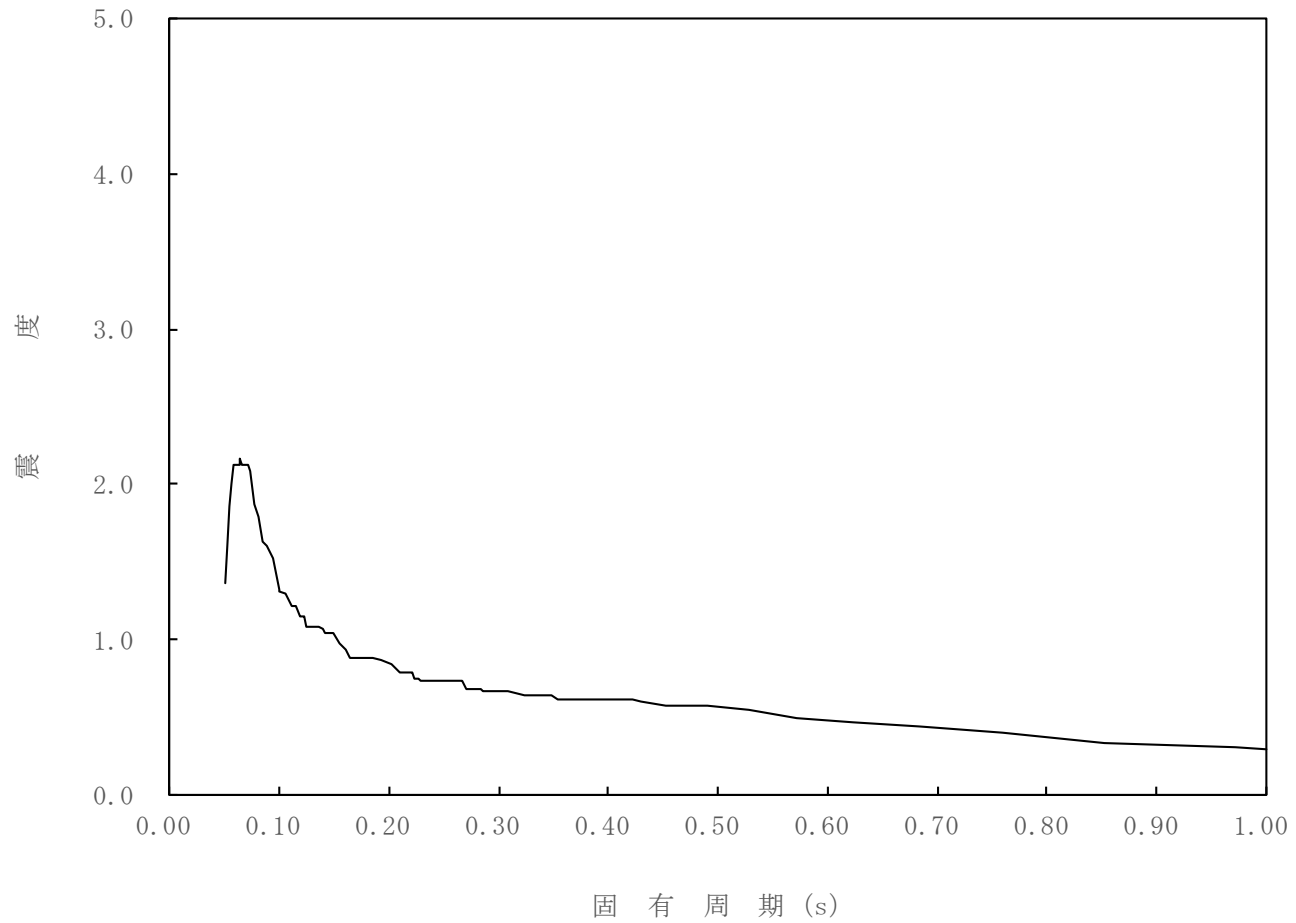
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CBB1-050】

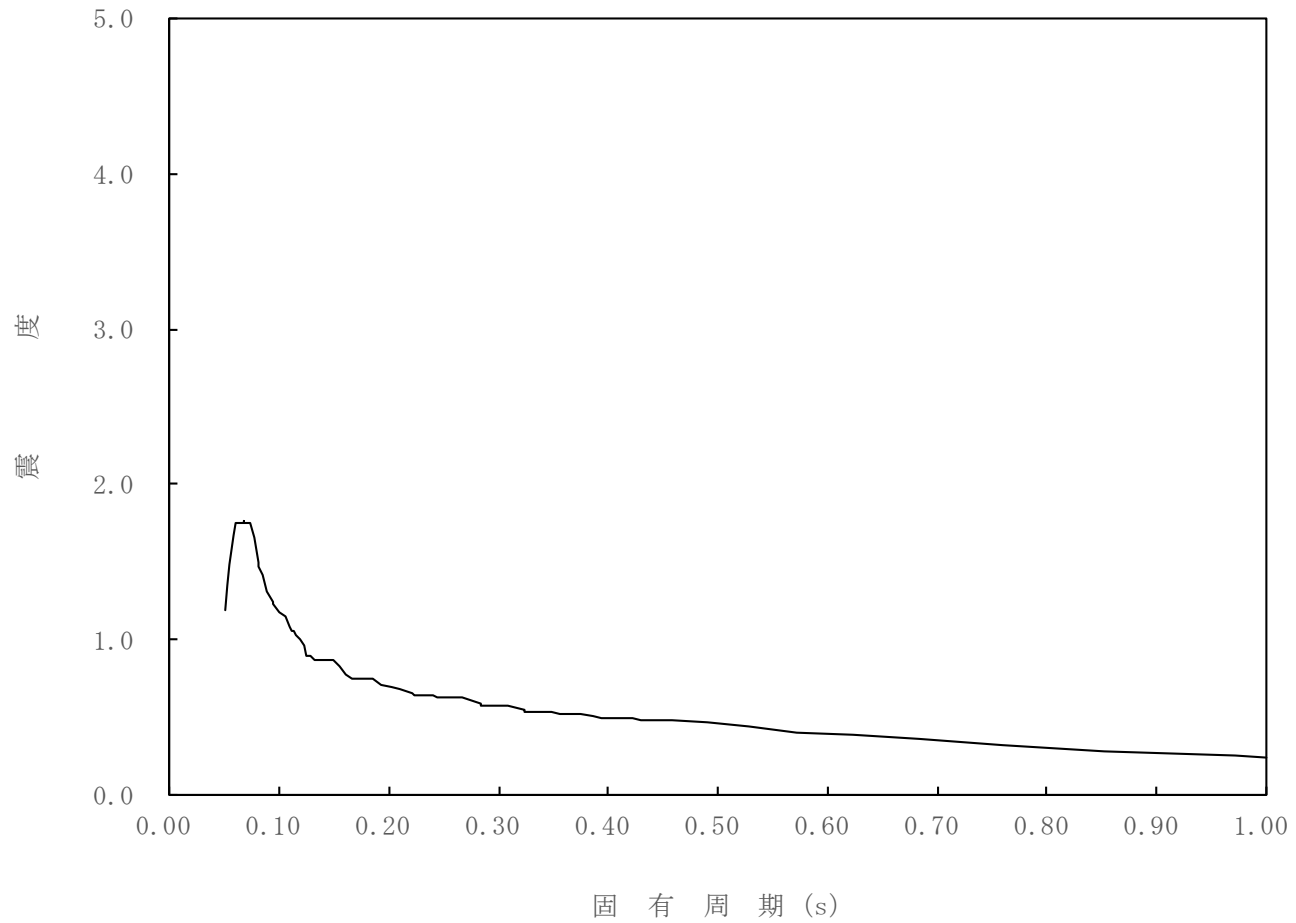
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 8.000m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CBB2-005】

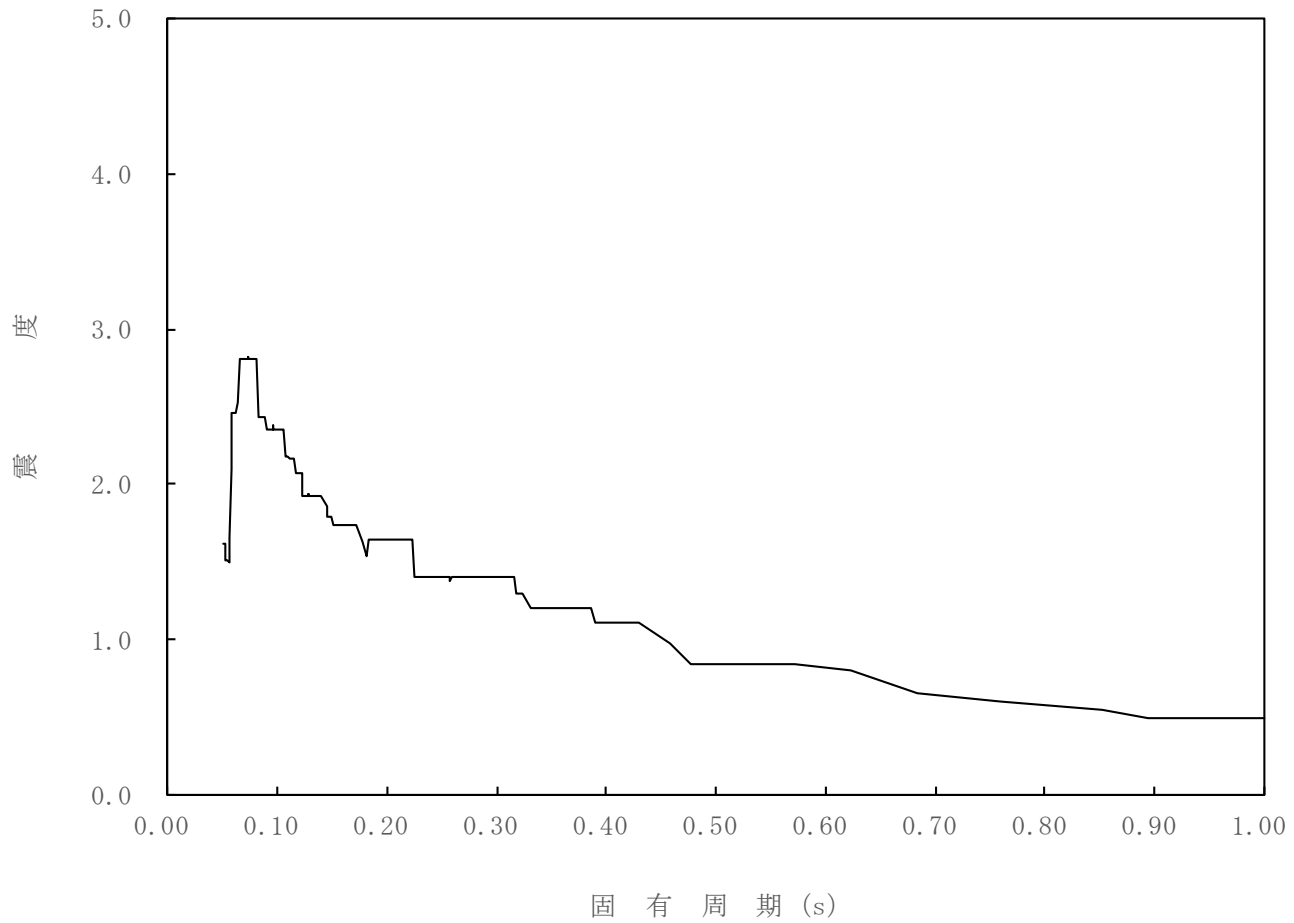
構造物名：制御建屋

標高：0. P. 1.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CBB2-010】

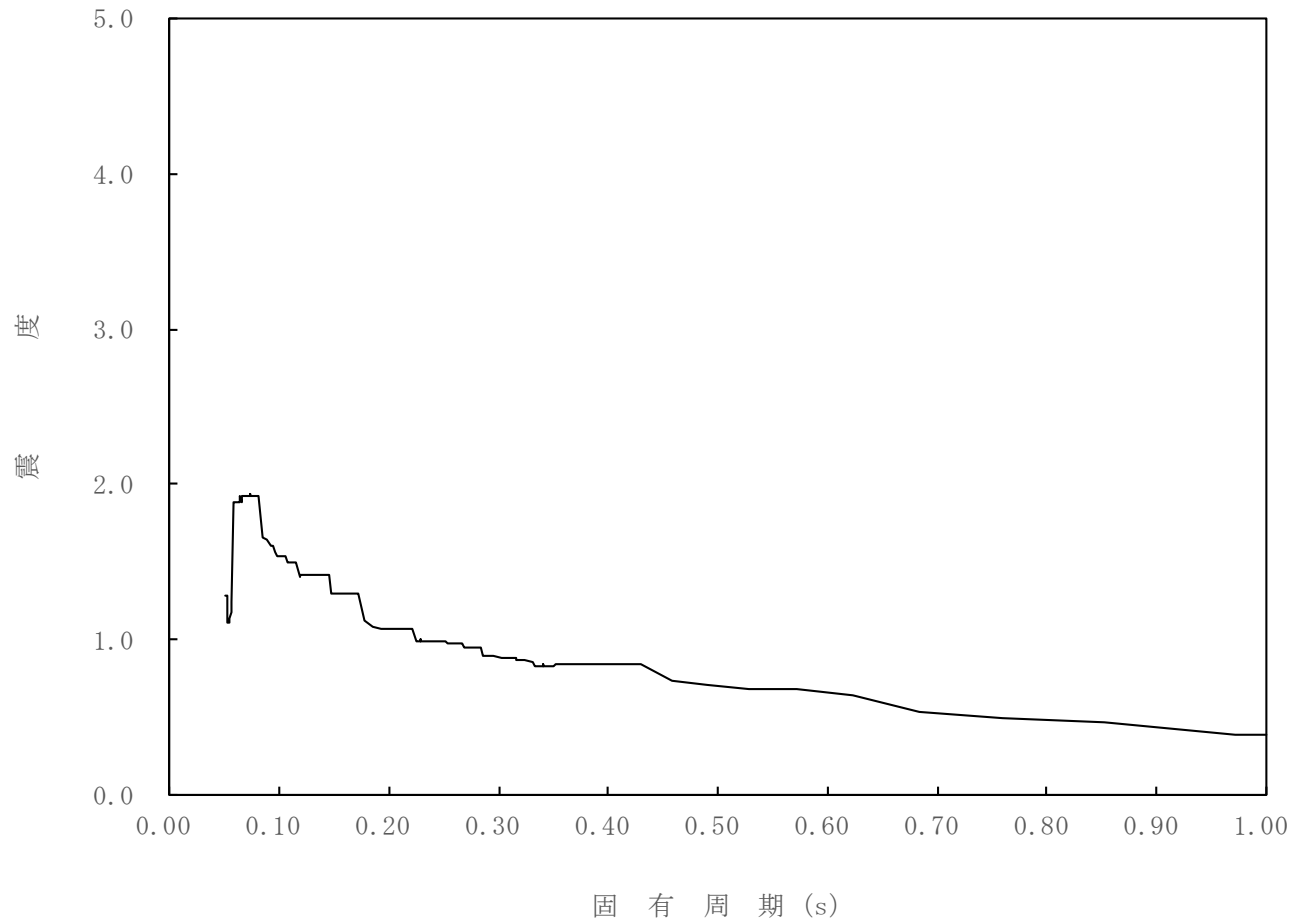
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CBB2-015】

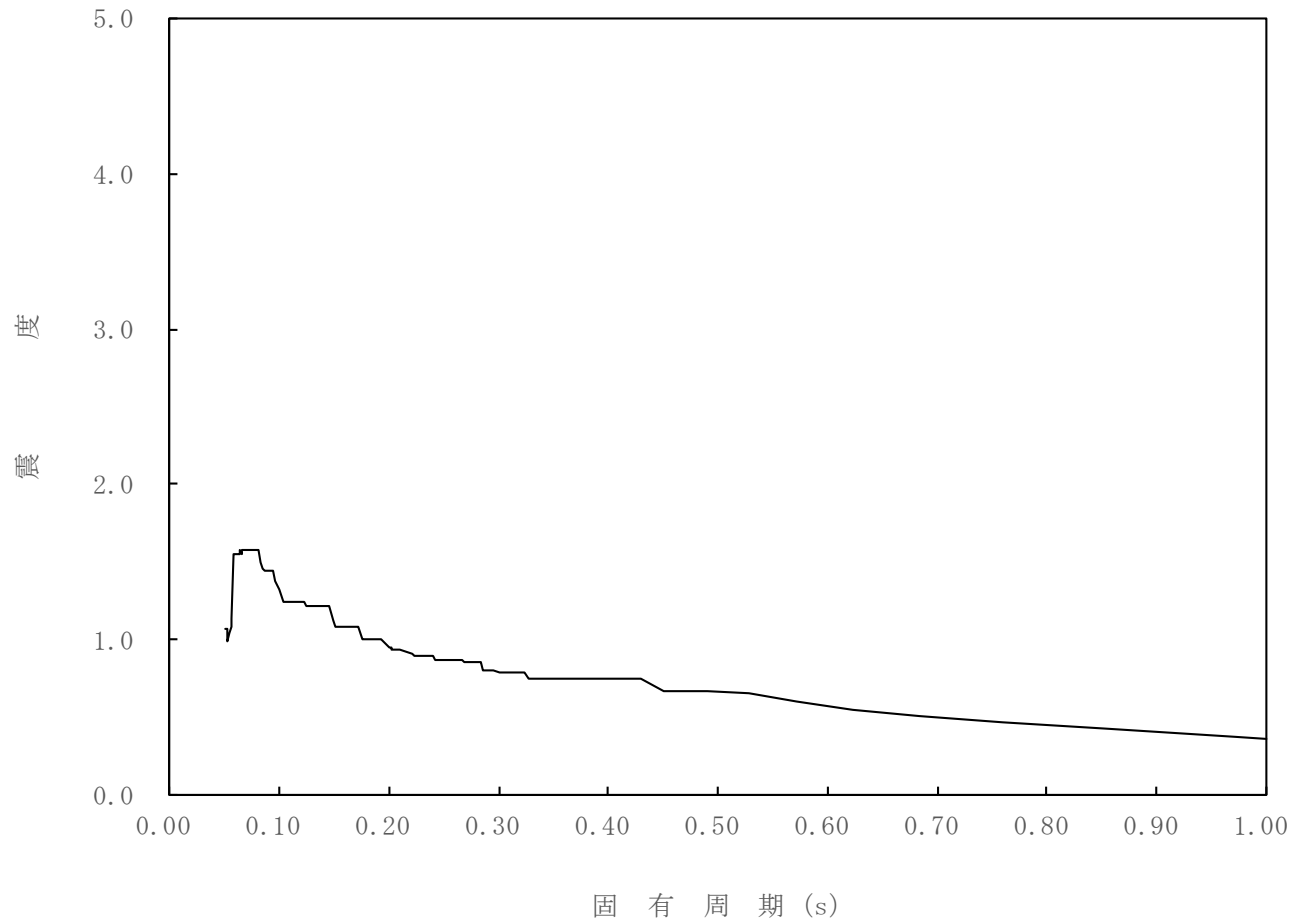
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-2-90



【CB-SdV-CBB2-020】

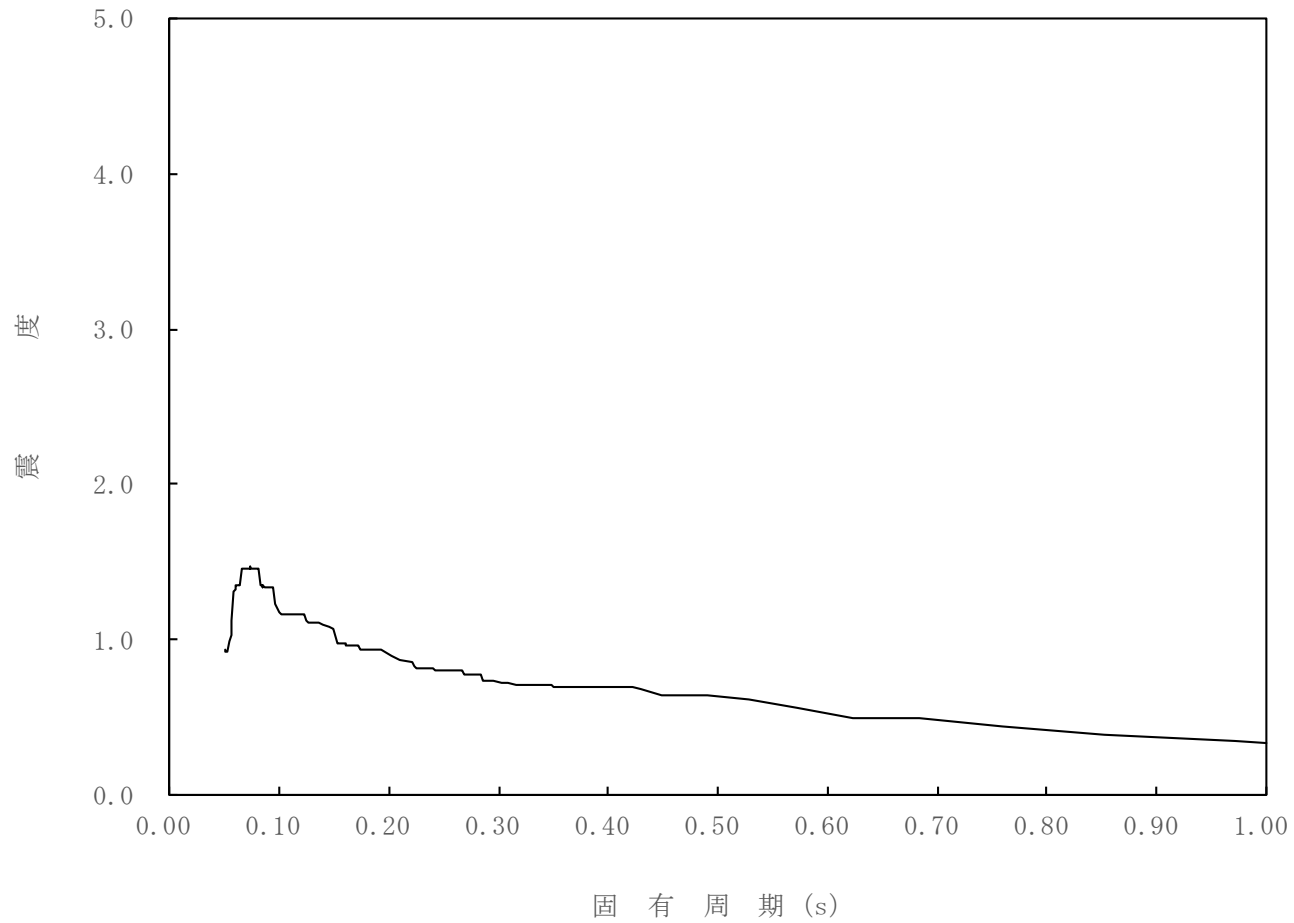
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【CB-SdV-CBB2-025】

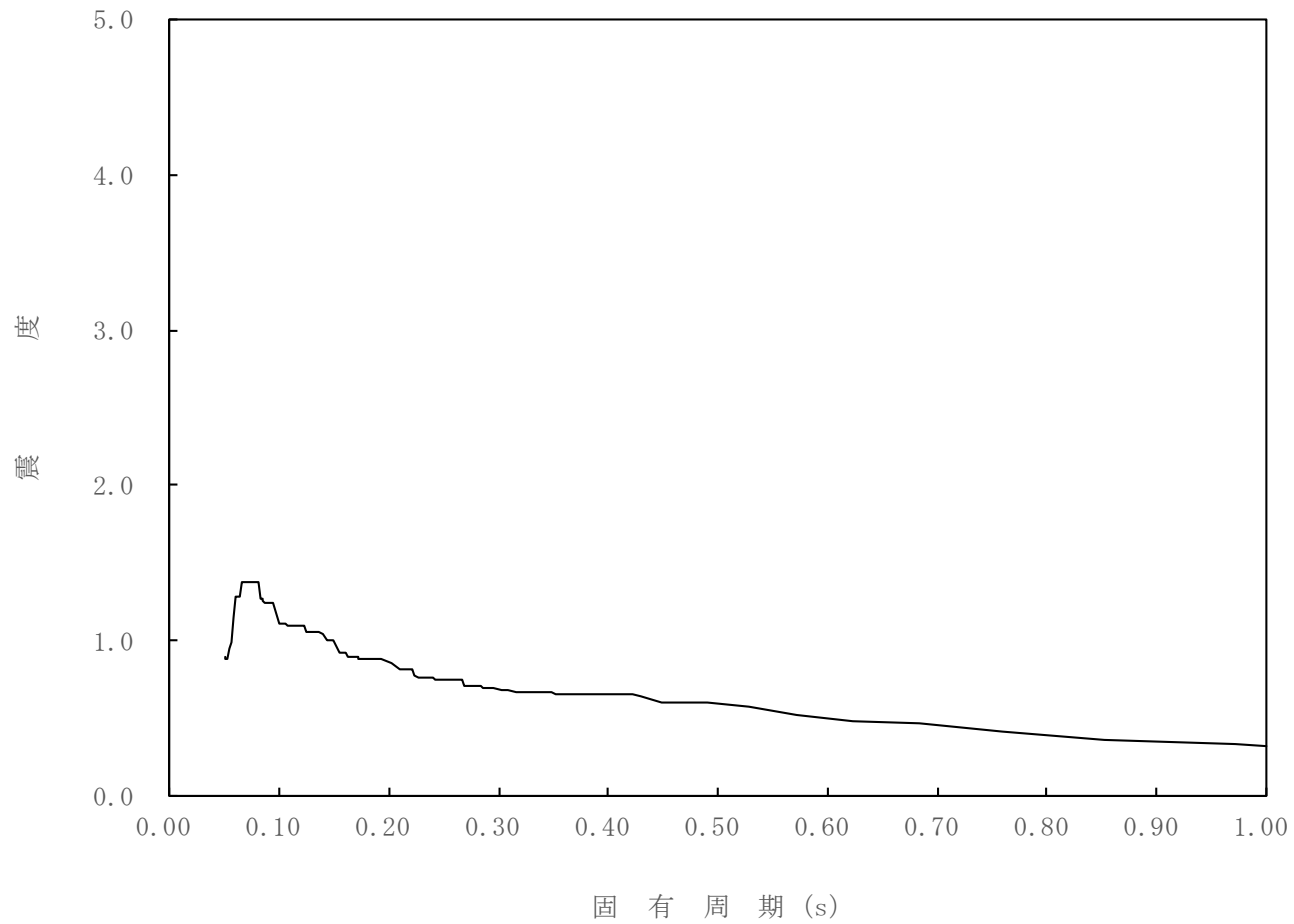
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CBB2-030】

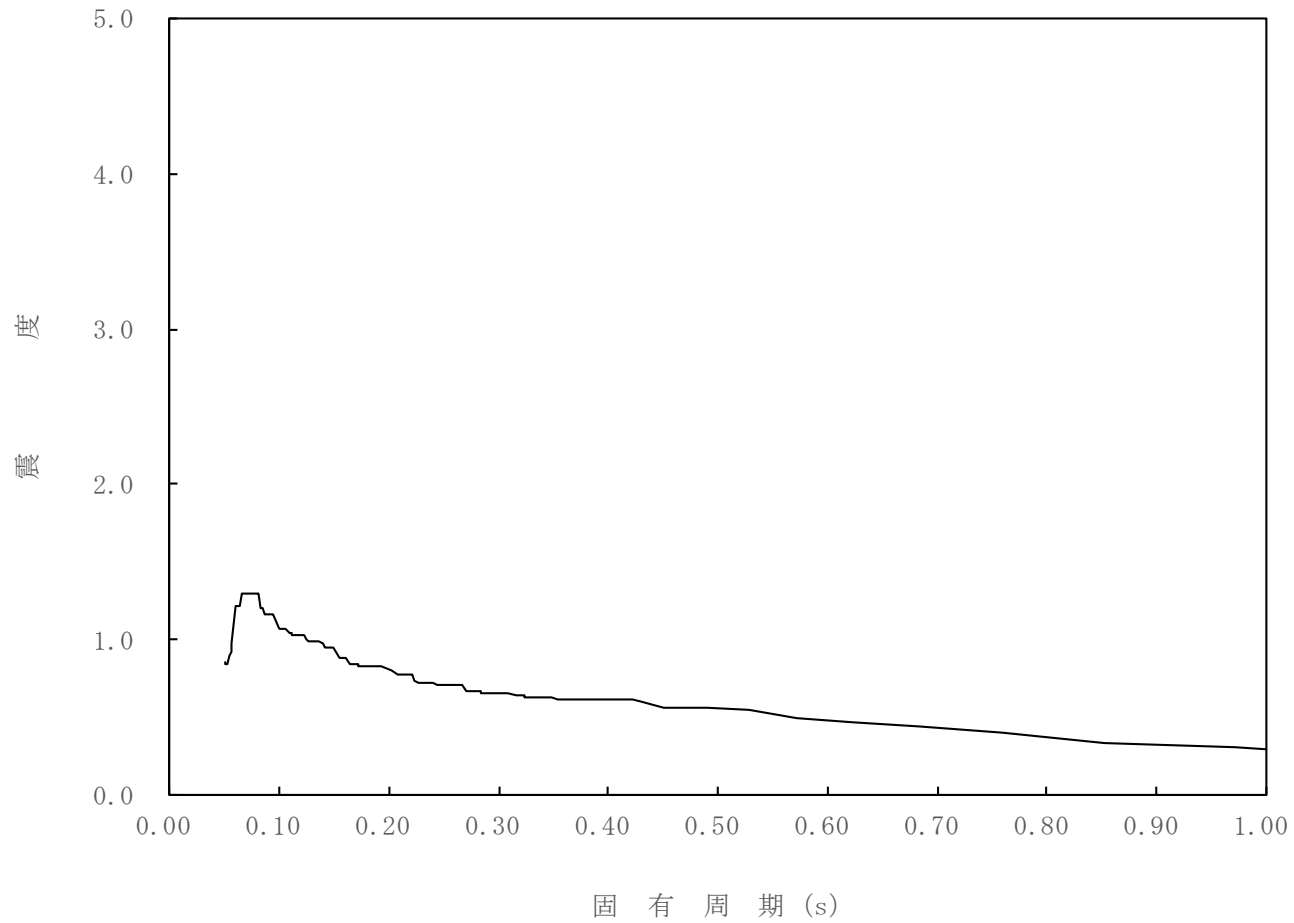
構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



【CB-SdV-CBB2-050】

構造物名：制御建屋

標高：0.P. 1.500m

—— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d

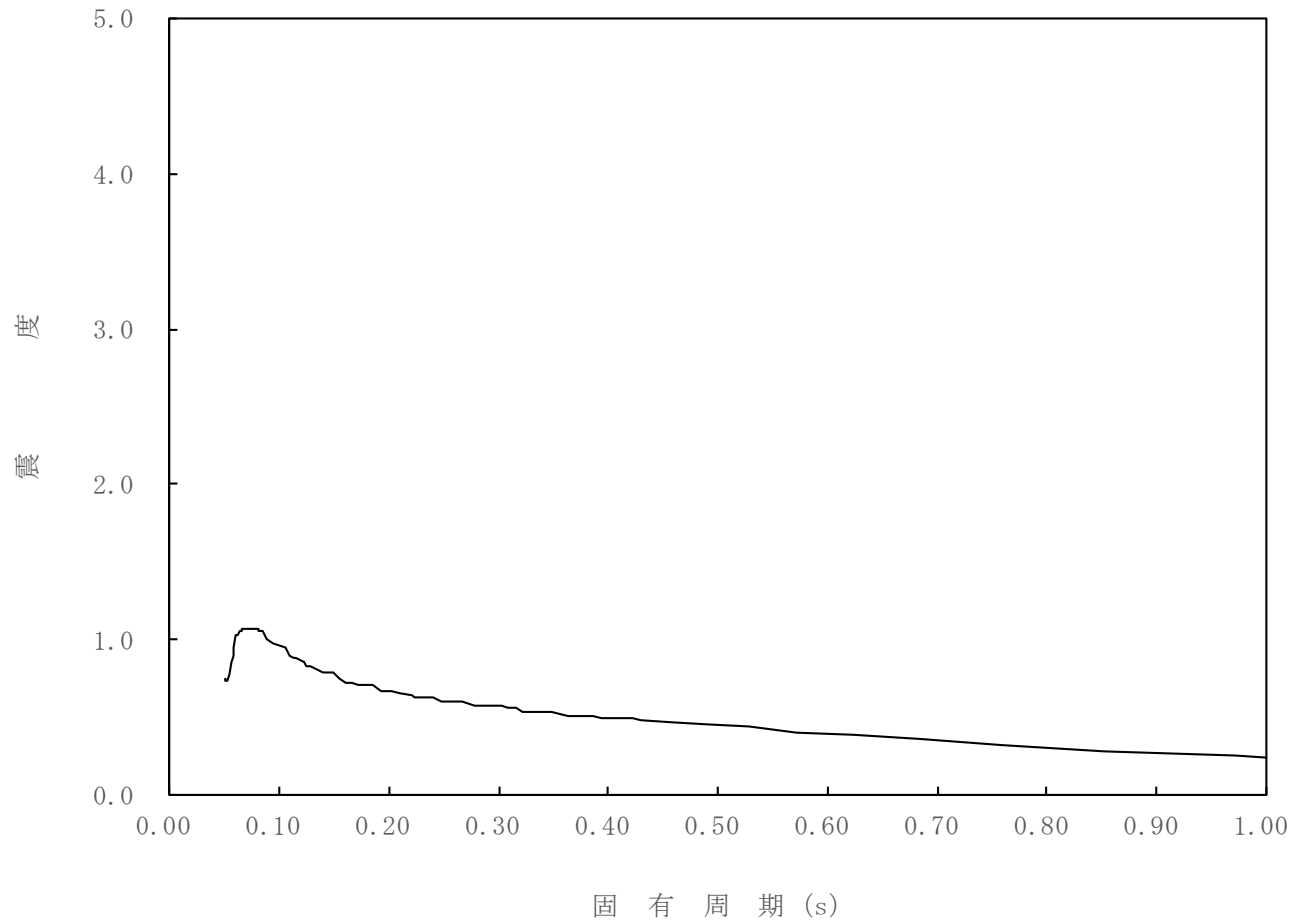


表 4-2-3 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 海水ポンプ室 : 水平方向) (1/2)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	海水ポンプ室	水平 方向	NS 方向 1378, 1454 1528, 1601 1676 EW 方向 1708, 1989 2196, 2406 2701	14. 800	0. 5	02-SW-SdH-SW14800-005
					1. 0	02-SW-SdH-SW14800-010
					1. 5	02-SW-SdH-SW14800-015
					2. 0	02-SW-SdH-SW14800-020
					2. 5	02-SW-SdH-SW14800-025
					3. 0	02-SW-SdH-SW14800-030
					4. 0	02-SW-SdH-SW14800-040
					5. 0	02-SW-SdH-SW14800-050
			NS 方向 1381, 1457 1531, 1604 1679 EW 方向 1712, 1993 2200, 2410 2705	11. 025	0. 5	02-SW-SdH-SW11025-005
					1. 0	02-SW-SdH-SW11025-010
					1. 5	02-SW-SdH-SW11025-015
					2. 0	02-SW-SdH-SW11025-020
					2. 5	02-SW-SdH-SW11025-025
					3. 0	02-SW-SdH-SW11025-030
					4. 0	02-SW-SdH-SW11025-040
					5. 0	02-SW-SdH-SW11025-050
			NS 方向 1385, 1461 1535, 1608 1683 EW 方向 1716, 1997 2204, 2414 2709	7. 250	0. 5	02-SW-SdH-SW7250-005
					1. 0	02-SW-SdH-SW7250-010
					1. 5	02-SW-SdH-SW7250-015
					2. 0	02-SW-SdH-SW7250-020
					2. 5	02-SW-SdH-SW7250-025
					3. 0	02-SW-SdH-SW7250-030
					4. 0	02-SW-SdH-SW7250-040
					5. 0	02-SW-SdH-SW7250-050
			NS 方向 1390, 1466 1540, 1613 1688 EW 方向 1721, 1758 2002, 2209 2419, 2665 2714	2. 250	0. 5	02-SW-SdH-SW2250-005
					1. 0	02-SW-SdH-SW2250-010
					1. 5	02-SW-SdH-SW2250-015
					2. 0	02-SW-SdH-SW2250-020
					2. 5	02-SW-SdH-SW2250-025
					3. 0	02-SW-SdH-SW2250-030
					4. 0	02-SW-SdH-SW2250-040
					5. 0	02-SW-SdH-SW2250-050

表 4-2-3 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 海水ポンプ室 : 水平方向) (2/2)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	海水ポンプ室	水平 方向	NS 方向 1469, 1616 EW 方向 1761, 2005 2212, 2422 2668	-0.550	0.5	02-SW-SdH-SW-550-005
					1.0	02-SW-SdH-SW-550-010
					1.5	02-SW-SdH-SW-550-015
					2.0	02-SW-SdH-SW-550-020
					2.5	02-SW-SdH-SW-550-025
					3.0	02-SW-SdH-SW-550-030
					4.0	02-SW-SdH-SW-550-040
					5.0	02-SW-SdH-SW-550-050
			NS 方向 1475, 1622 EW 方向 1768, 2012 2219, 2429 2675	-7.025	0.5	02-SW-SdH-SW-7025-005
					1.0	02-SW-SdH-SW-7025-010
					1.5	02-SW-SdH-SW-7025-015
					2.0	02-SW-SdH-SW-7025-020
					2.5	02-SW-SdH-SW-7025-025
					3.0	02-SW-SdH-SW-7025-030
			NS 方向 1478, 1625 EW 方向 1772, 2016 2223, 2433 2679	-9.800	0.5	02-SW-SdH-SW-9800-005
					1.0	02-SW-SdH-SW-9800-010
					1.5	02-SW-SdH-SW-9800-015
					2.0	02-SW-SdH-SW-9800-020
					2.5	02-SW-SdH-SW-9800-025
					3.0	02-SW-SdH-SW-9800-030
					4.0	02-SW-SdH-SW-9800-040
					5.0	02-SW-SdH-SW-9800-050

表 4-2-3 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 海水ポンプ室：鉛直方向) (1/2)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	海水ポンプ室	鉛直 方向	NS 方向 1378, 1454 1528, 1601 1676 EW 方向 1708, 1989 2196, 2406 2701	14. 800	0. 5	02-SW-SdV-SW14800-005
					1. 0	02-SW-SdV-SW14800-010
					1. 5	02-SW-SdV-SW14800-015
					2. 0	02-SW-SdV-SW14800-020
					2. 5	02-SW-SdV-SW14800-025
					3. 0	02-SW-SdV-SW14800-030
					5. 0	02-SW-SdV-SW14800-050
			NS 方向 1381, 1457 1531, 1604 1679 EW 方向 1712, 1993 2200, 2410 2705	11. 025	0. 5	02-SW-SdV-SW11025-005
					1. 0	02-SW-SdV-SW11025-010
					1. 5	02-SW-SdV-SW11025-015
					2. 0	02-SW-SdV-SW11025-020
					2. 5	02-SW-SdV-SW11025-025
					3. 0	02-SW-SdV-SW11025-030
					5. 0	02-SW-SdV-SW11025-050
			NS 方向 1385, 1461 1535, 1608 1683 EW 方向 1716, 1997 2204, 2414 2709	7. 250	0. 5	02-SW-SdV-SW7250-005
					1. 0	02-SW-SdV-SW7250-010
					1. 5	02-SW-SdV-SW7250-015
					2. 0	02-SW-SdV-SW7250-020
					2. 5	02-SW-SdV-SW7250-025
					3. 0	02-SW-SdV-SW7250-030
					5. 0	02-SW-SdV-SW7250-050
			NS 方向 1390, 1466 1540, 1613 1688 EW 方向 1721, 1758 2002, 2209 2419, 2665 2714	2. 250	0. 5	02-SW-SdV-SW2250-005
					1. 0	02-SW-SdV-SW2250-010
					1. 5	02-SW-SdV-SW2250-015
					2. 0	02-SW-SdV-SW2250-020
					2. 5	02-SW-SdV-SW2250-025
					3. 0	02-SW-SdV-SW2250-030
					5. 0	02-SW-SdV-SW2250-050

表 4-2-3 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 海水ポンプ室 : 鉛直方向) (2/2)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	海水ポンプ室	鉛直 方向	NS 方向 1469, 1616 EW 方向 1761, 2005 2212, 2422 2668	-0.550	0.5	02-SW-SdV-SW-550-005
					1.0	02-SW-SdV-SW-550-010
					1.5	02-SW-SdV-SW-550-015
					2.0	02-SW-SdV-SW-550-020
					2.5	02-SW-SdV-SW-550-025
					3.0	02-SW-SdV-SW-550-030
					5.0	02-SW-SdV-SW-550-050
			NS 方向 1475, 1622 EW 方向 1768, 2012 2219, 2429 2675	-7.025	0.5	02-SW-SdV-SW-7025-005
					1.0	02-SW-SdV-SW-7025-010
					1.5	02-SW-SdV-SW-7025-015
					2.0	02-SW-SdV-SW-7025-020
					2.5	02-SW-SdV-SW-7025-025
					3.0	02-SW-SdV-SW-7025-030
			NS 方向 1478, 1625 EW 方向 1772, 2016 2223, 2433 2679	-9.800	0.5	02-SW-SdV-SW-9800-005
					1.0	02-SW-SdV-SW-9800-010
					1.5	02-SW-SdV-SW-9800-015
					2.0	02-SW-SdV-SW-9800-020
					2.5	02-SW-SdV-SW-9800-025
			NS 方向 1469, 1616 EW 方向 1761, 2005 2212, 2422 2668	-0.550	3.0	02-SW-SdV-SW-9800-030
					5.0	02-SW-SdV-SW-9800-050
					0.5	02-SW-SdV-SW-550-005
					1.0	02-SW-SdV-SW-550-010
					1.5	02-SW-SdV-SW-550-015
					2.0	02-SW-SdV-SW-550-020
2.5	02-SW-SdV-SW-550-025					
3.0	02-SW-SdV-SW-550-030					
5.0	02-SW-SdV-SW-550-050					



【02-SW-SdH-SW14800-005】

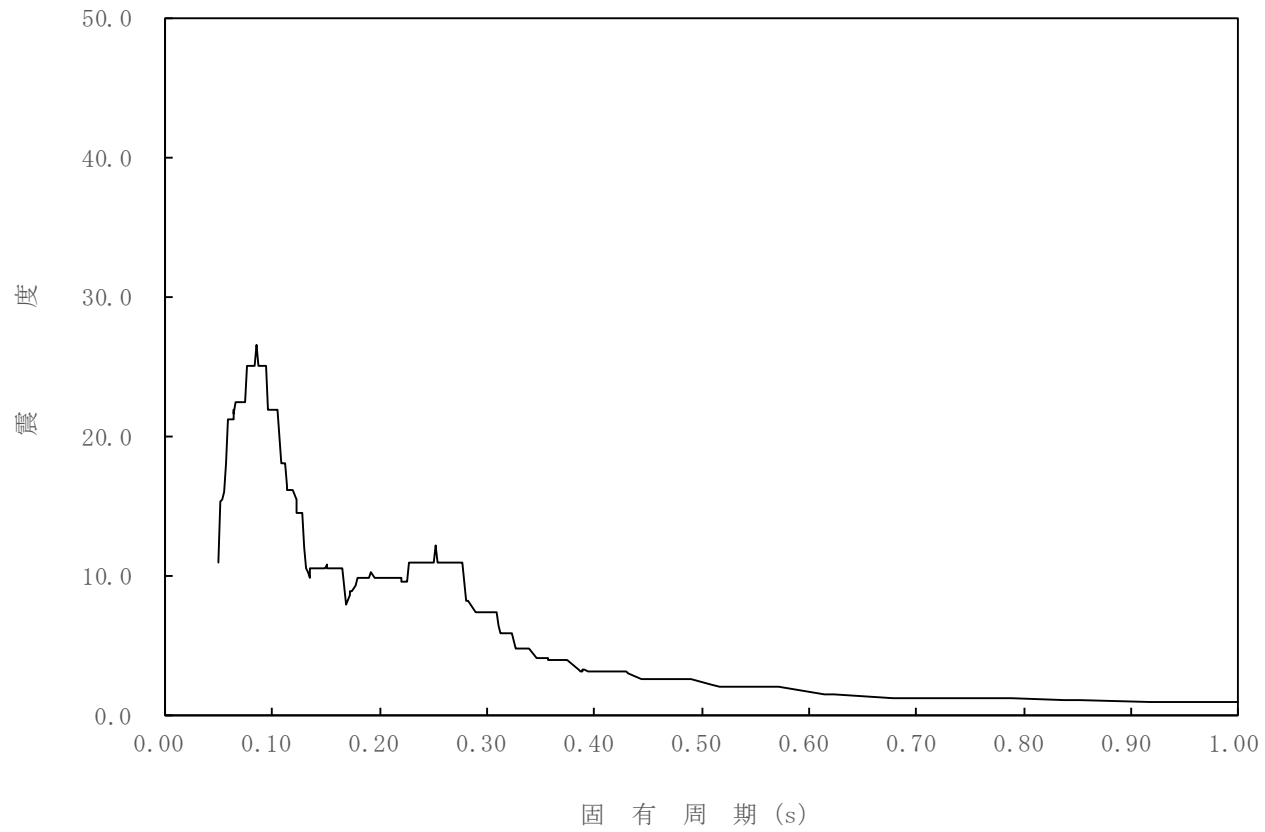
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0. P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW14800-010】

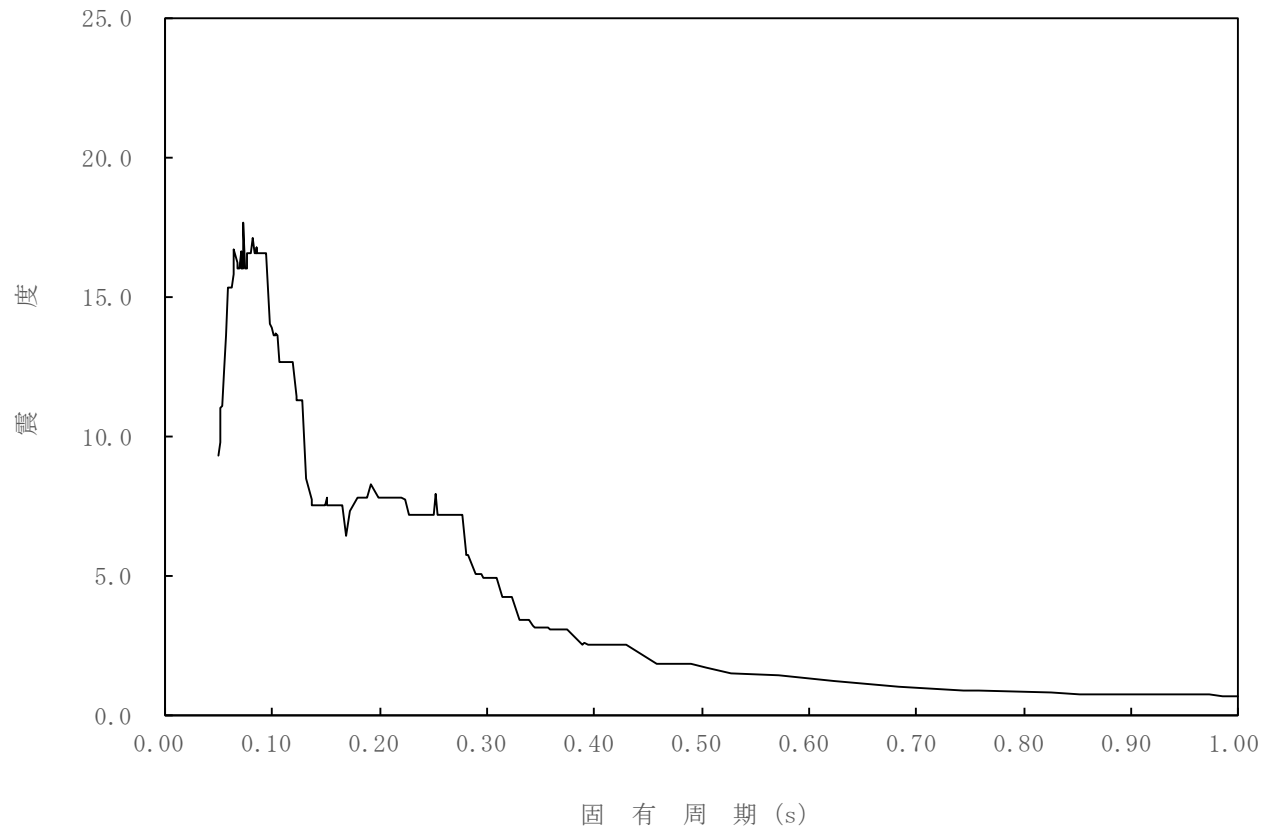
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW14800-015】

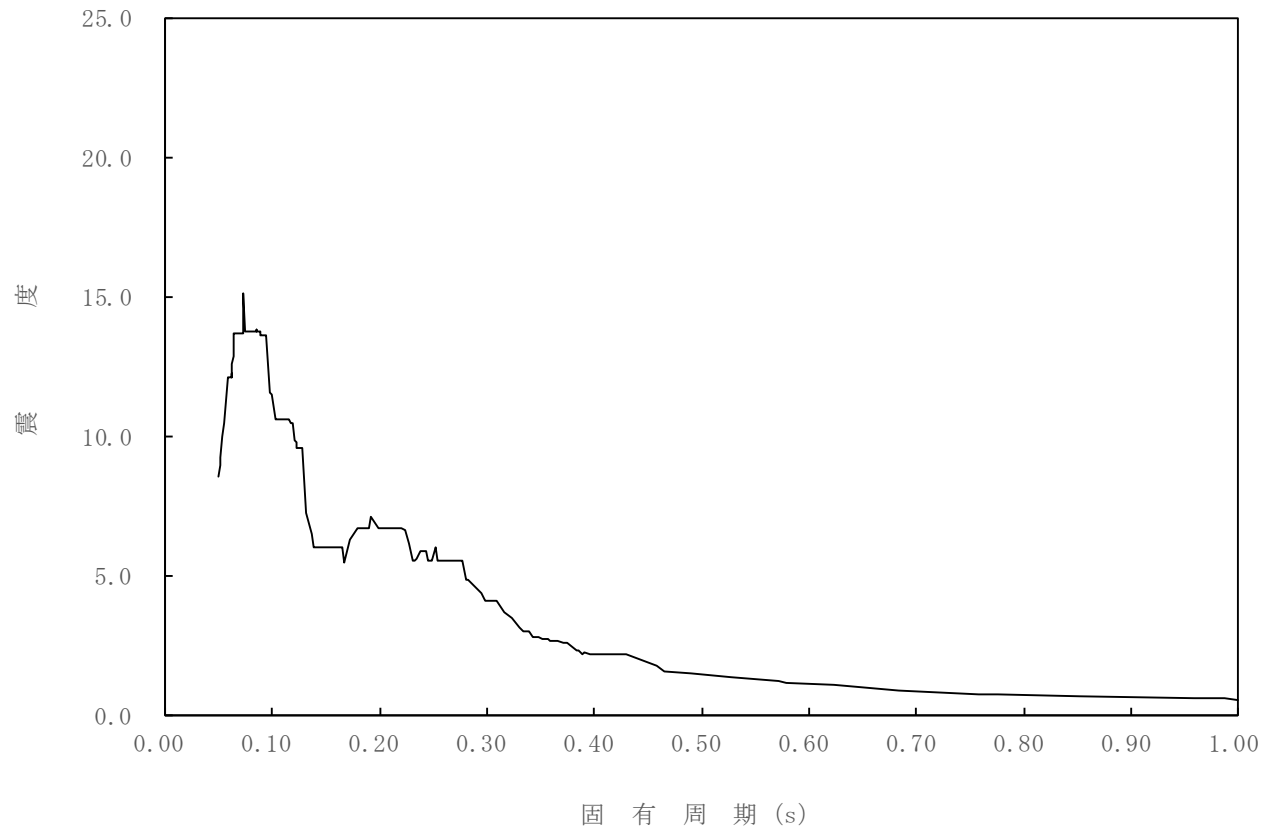
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW14800-020】

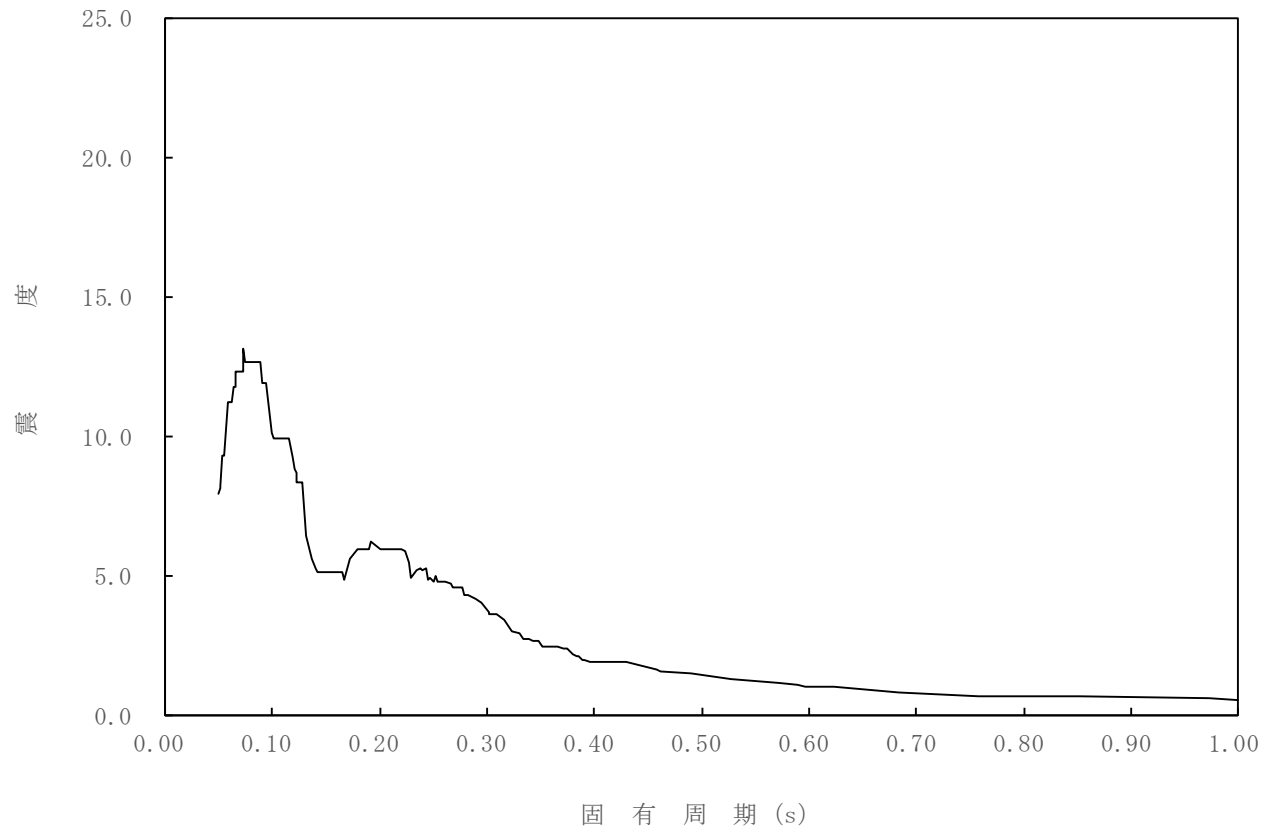
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW14800-025】

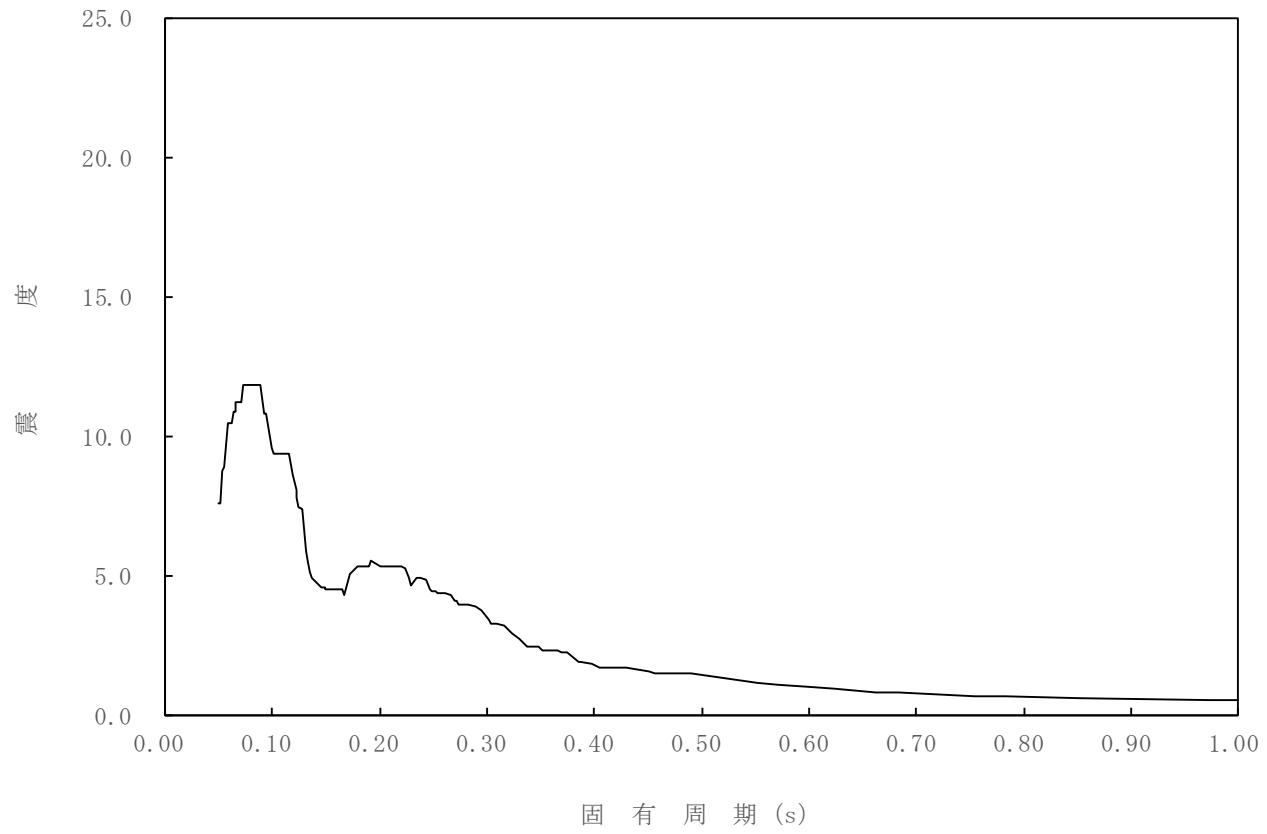
構造物名： 海水ポンプ室

標高： O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW14800-030】

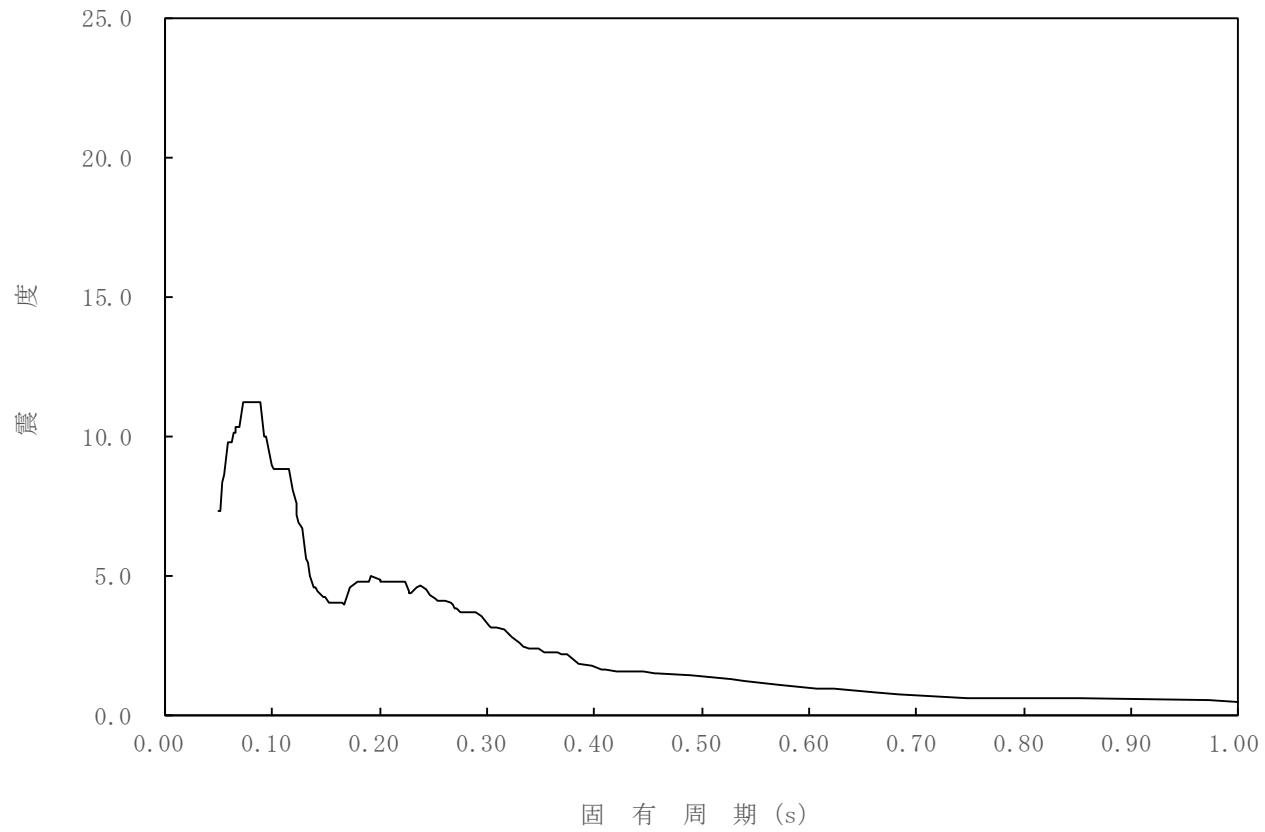
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-3-10

【02-SW-SdH-SW14800-040】

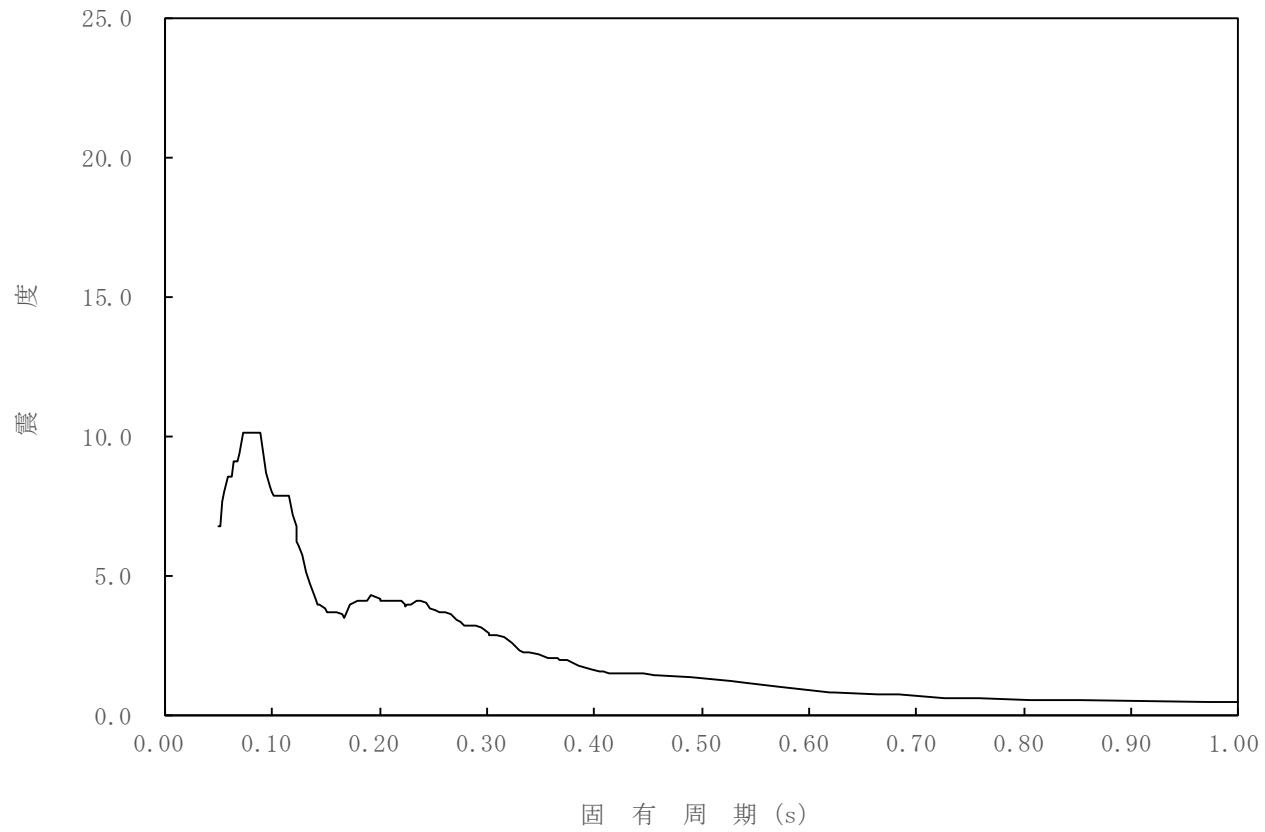
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW14800-050】

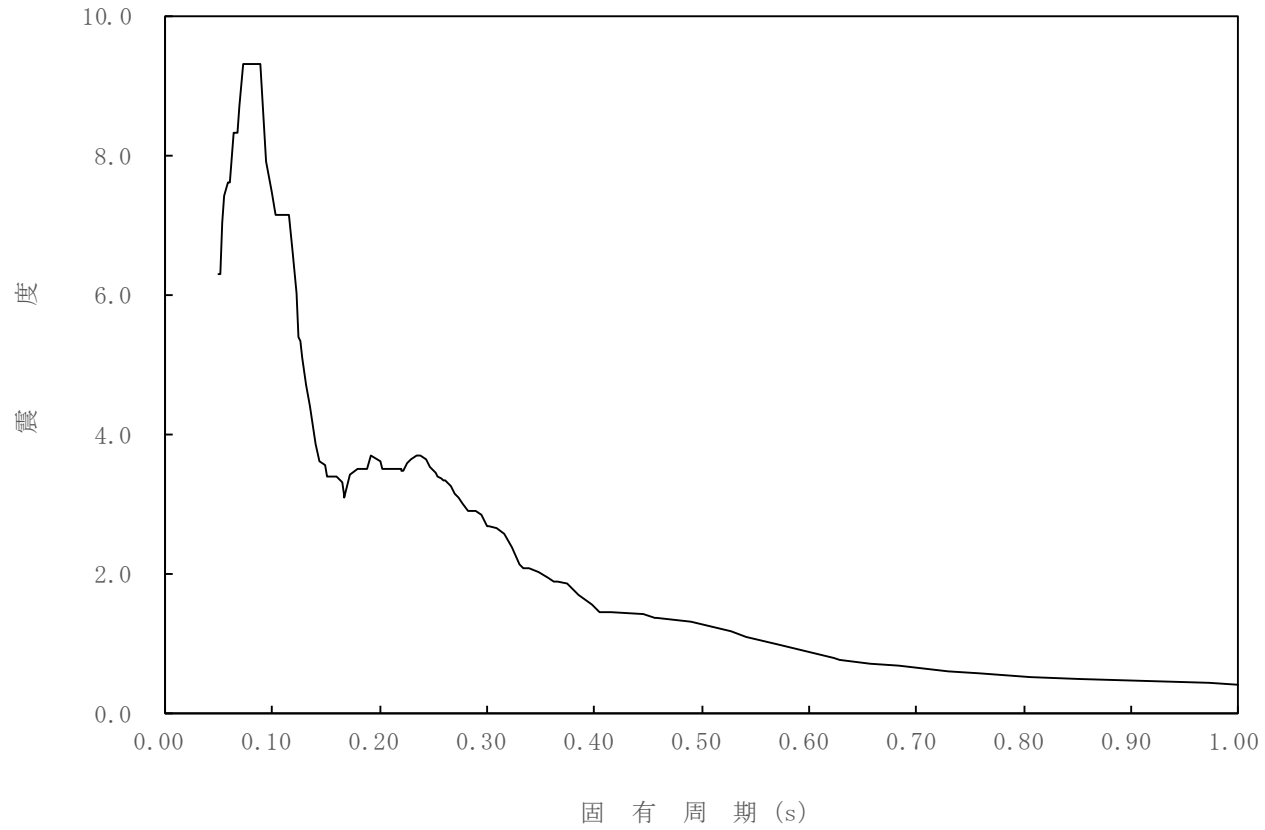
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdH-SW11025-005】

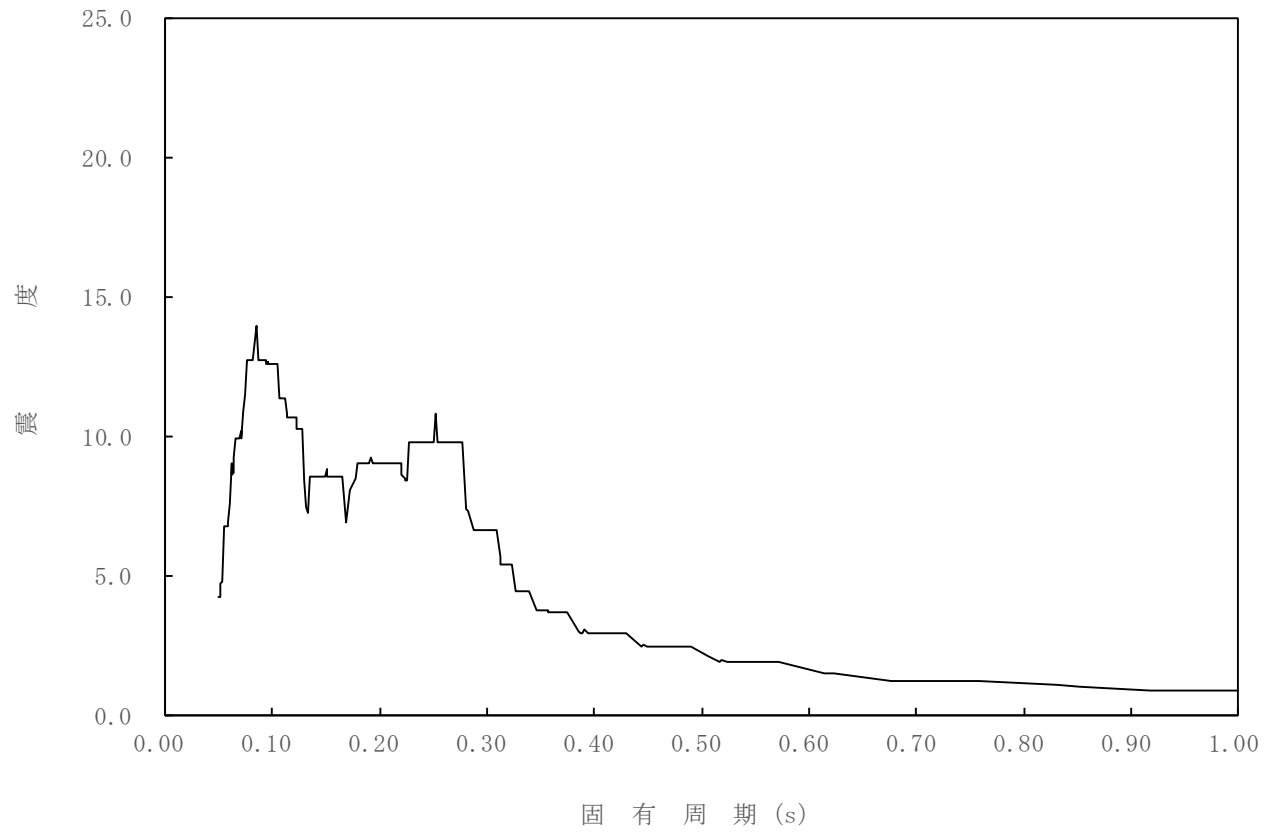
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW11025-010】

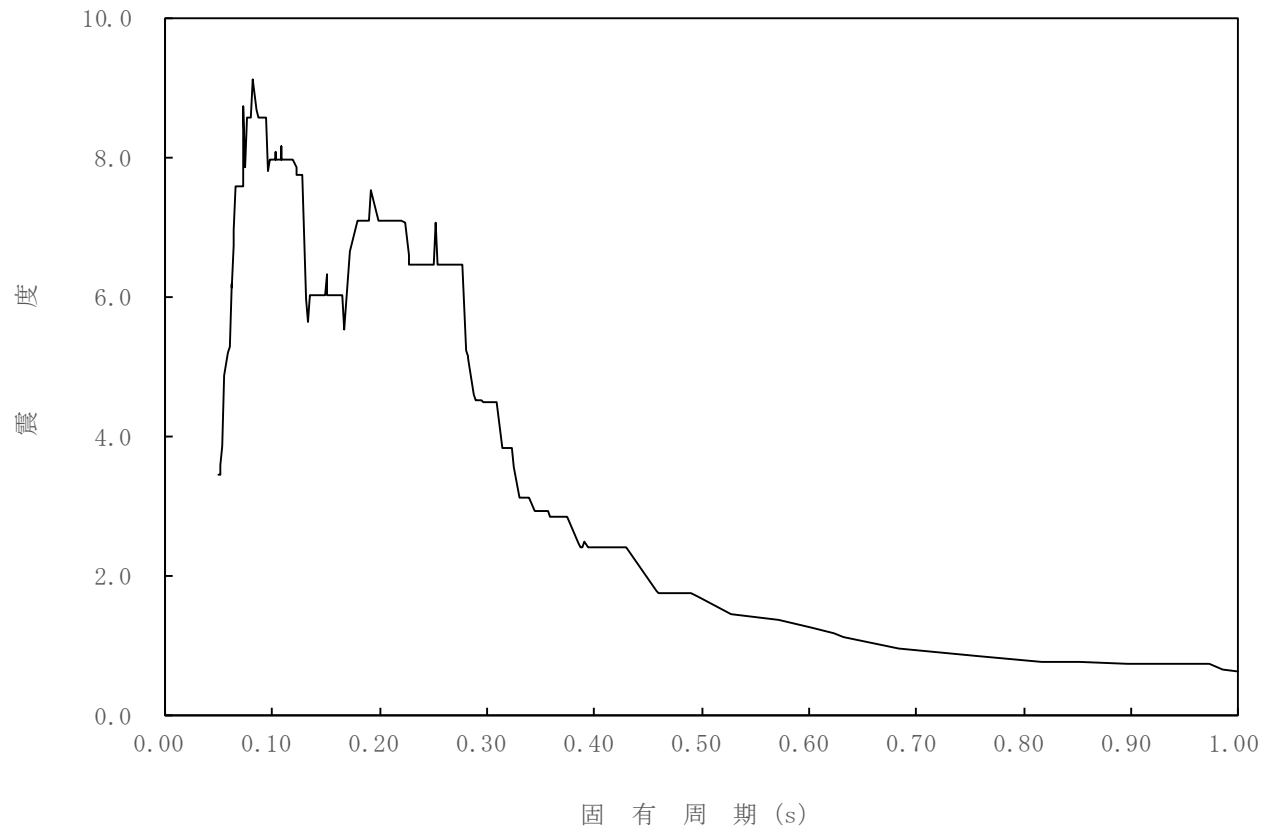
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW11025-015】

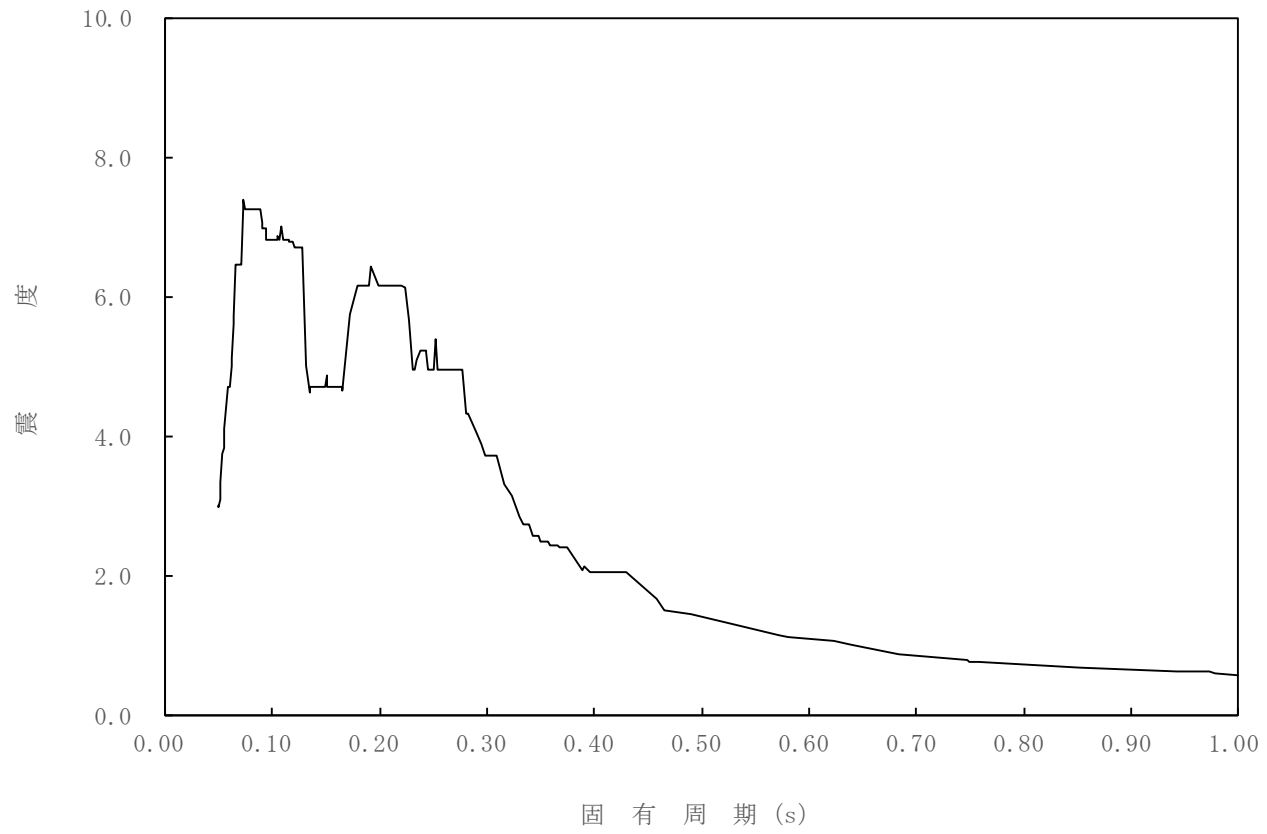
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW11025-020】

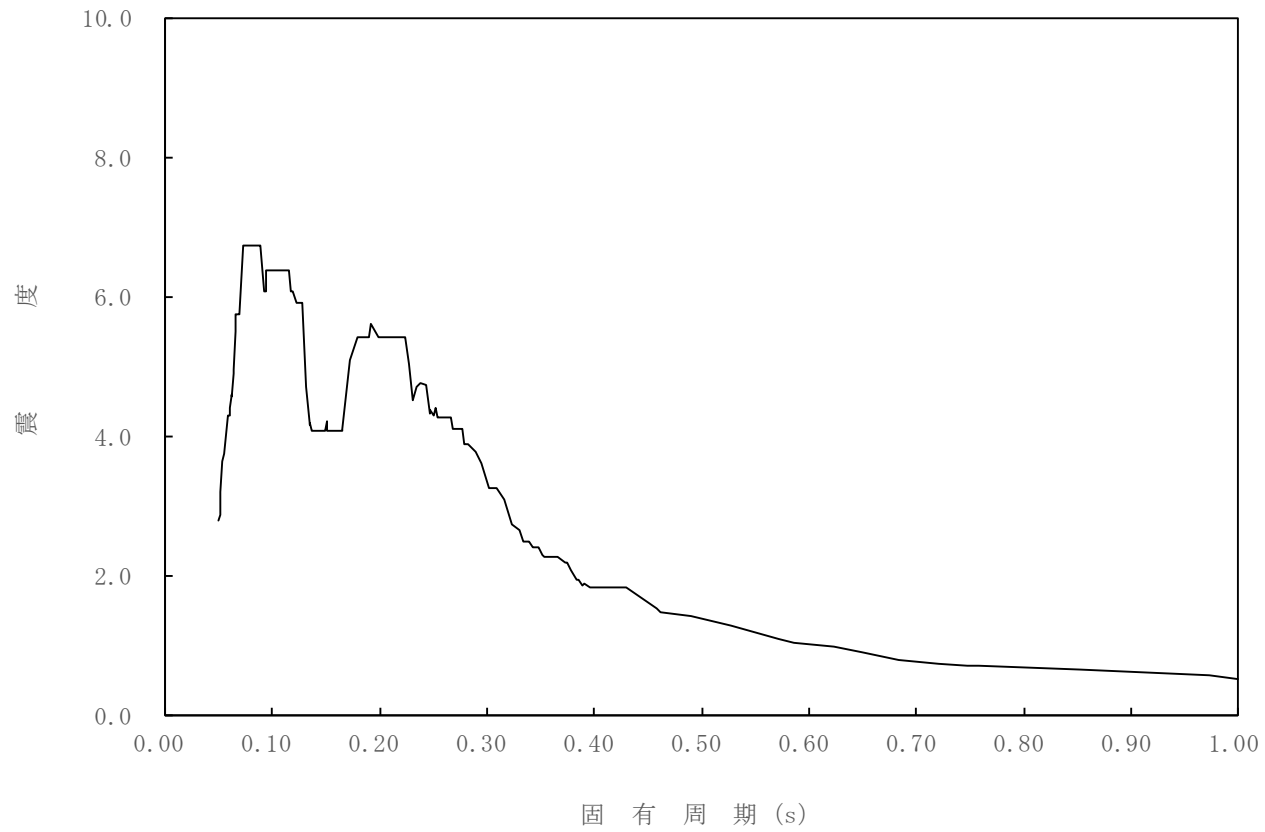
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW11025-025】

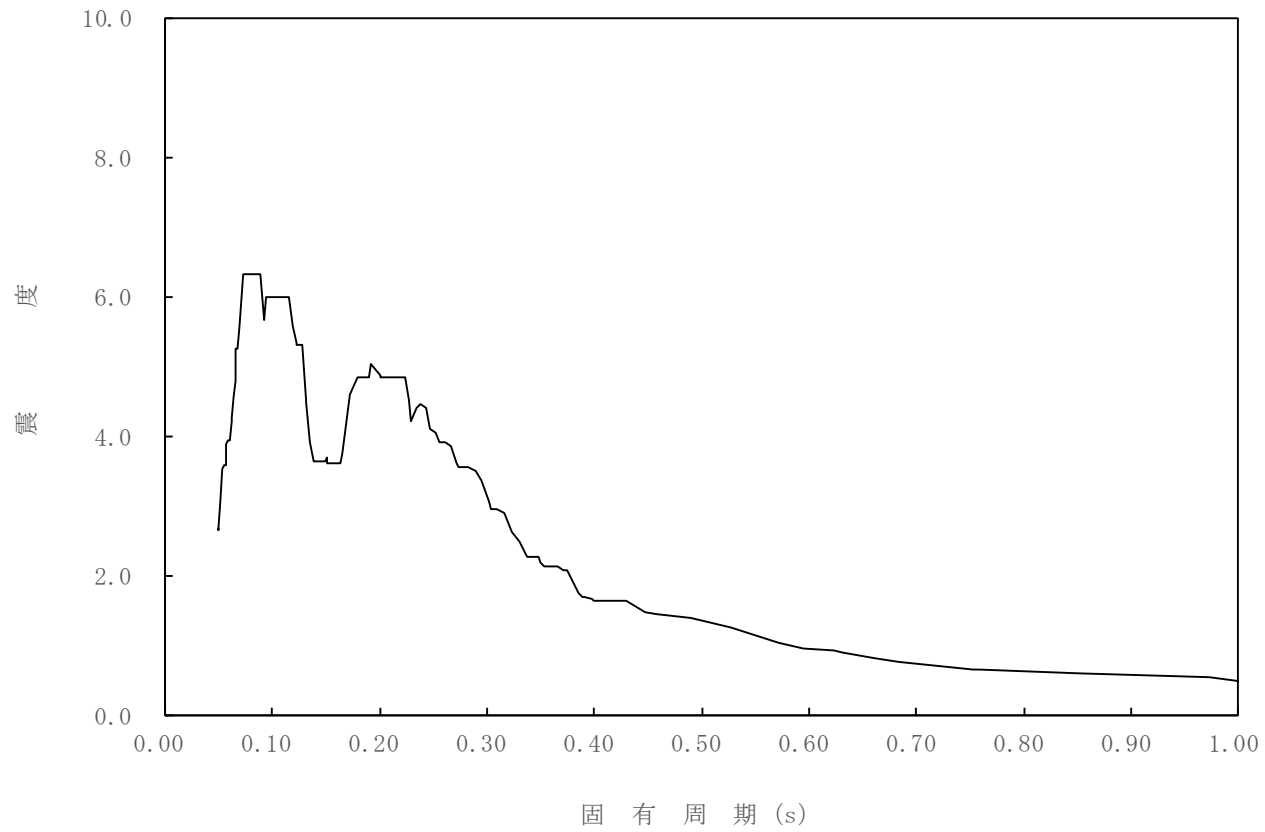
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW11025-030】

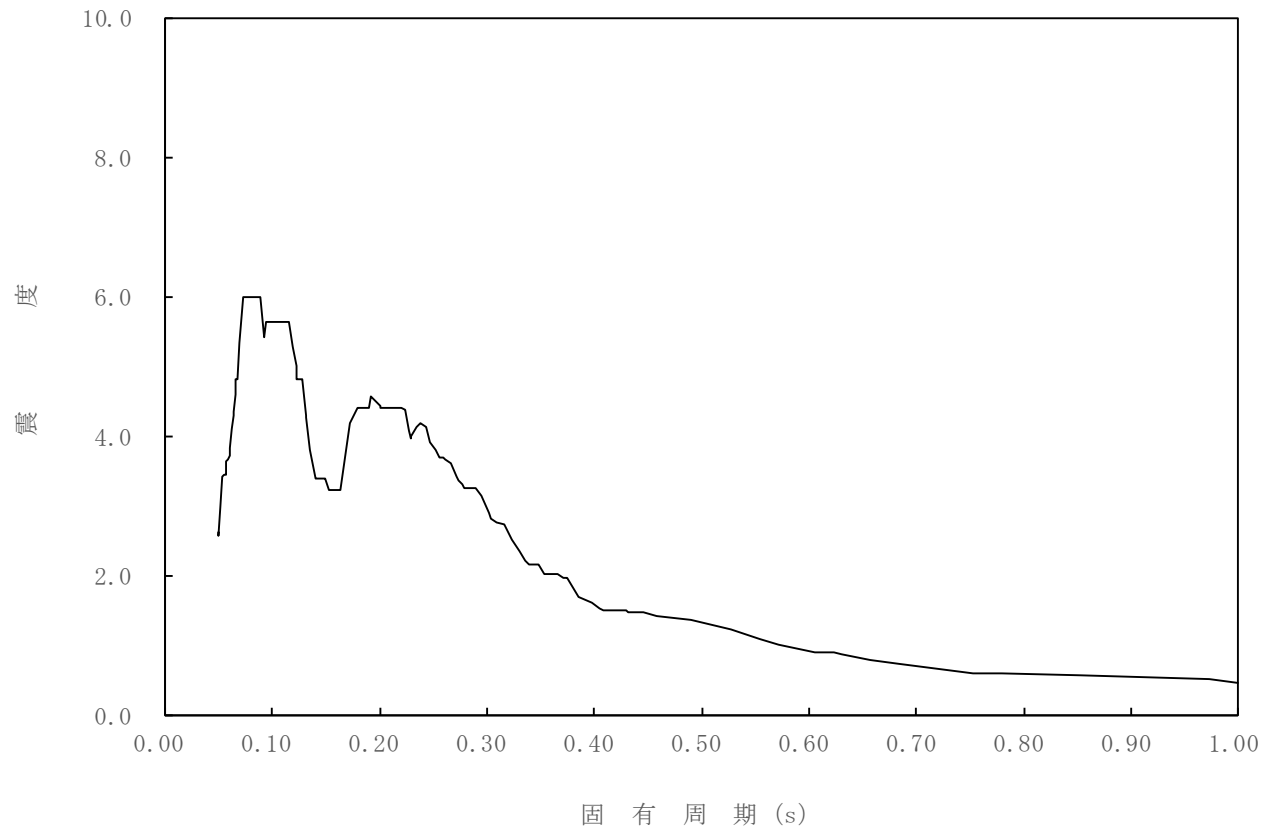
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW11025-040】

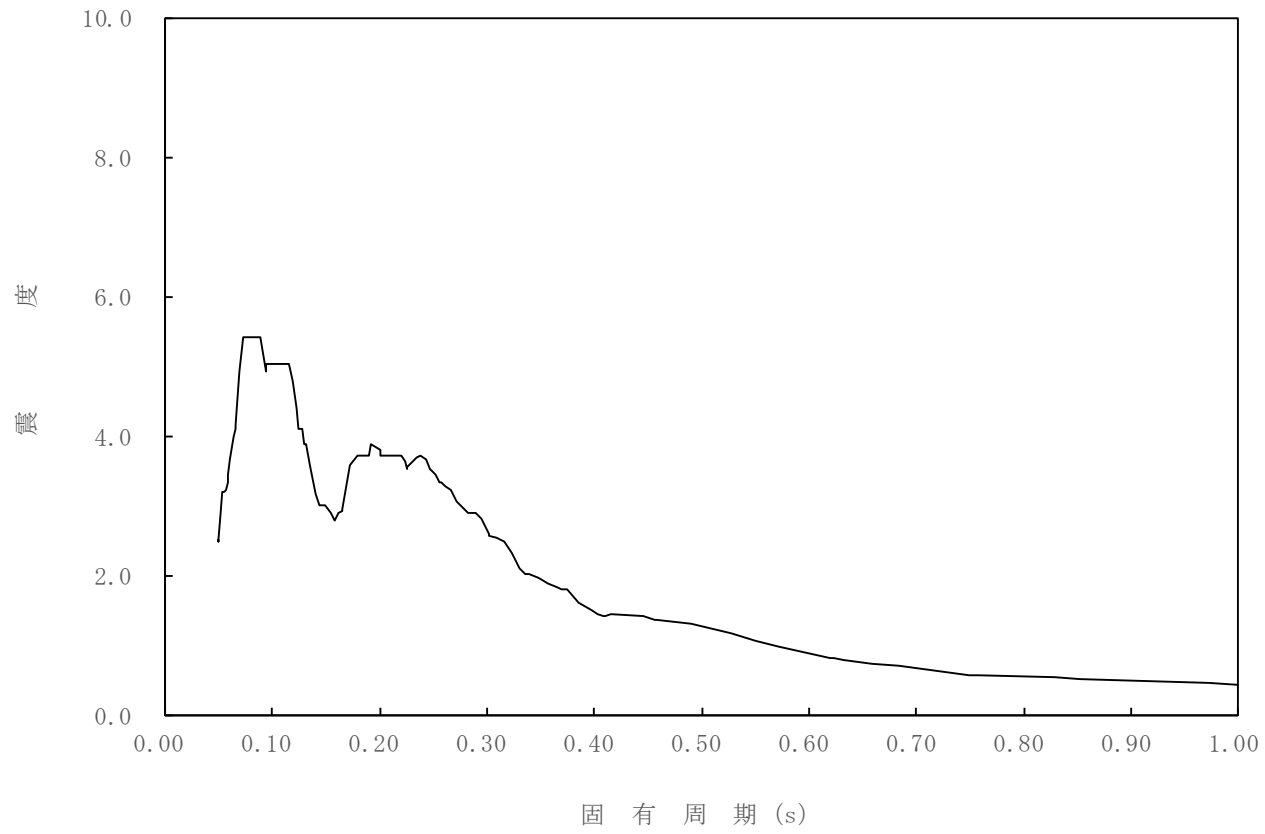
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW11025-050】

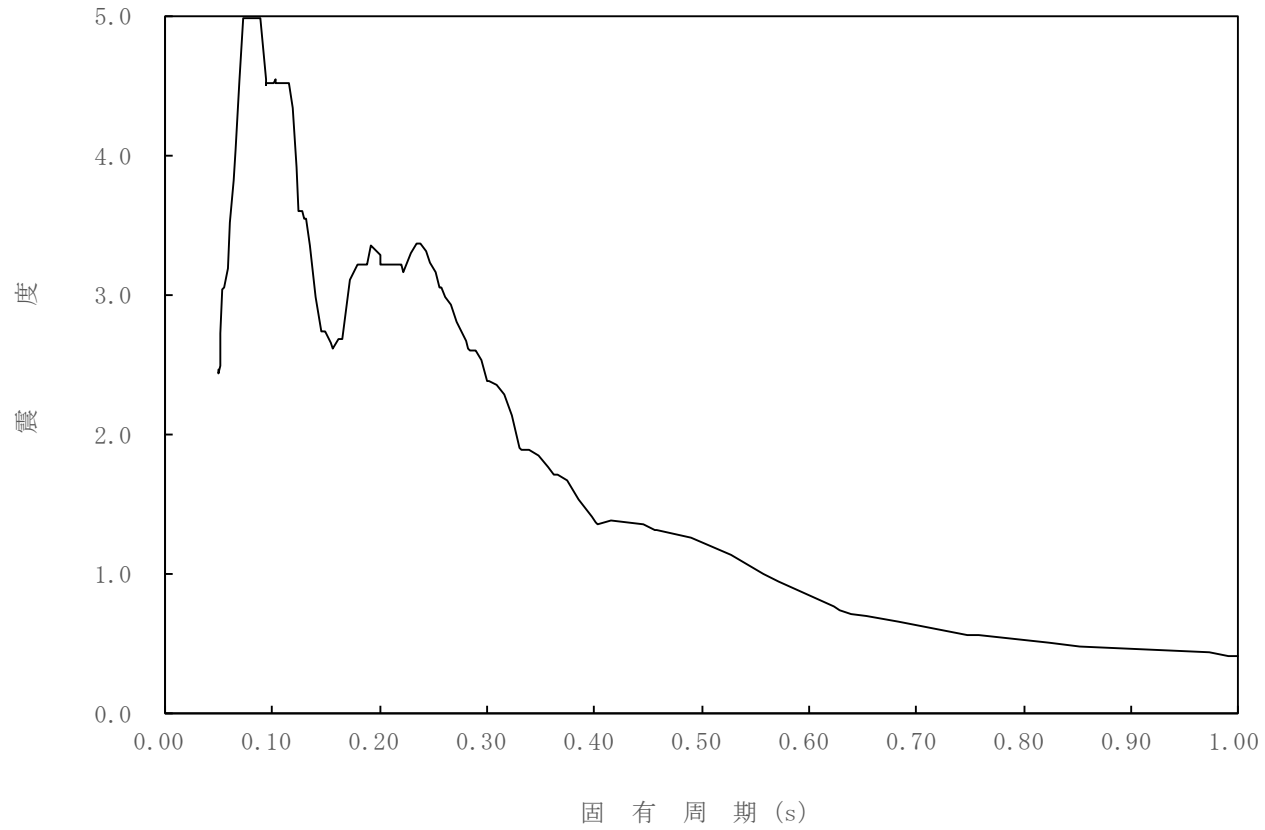
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 11.025m

— 水平方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdH-SW7250-005】

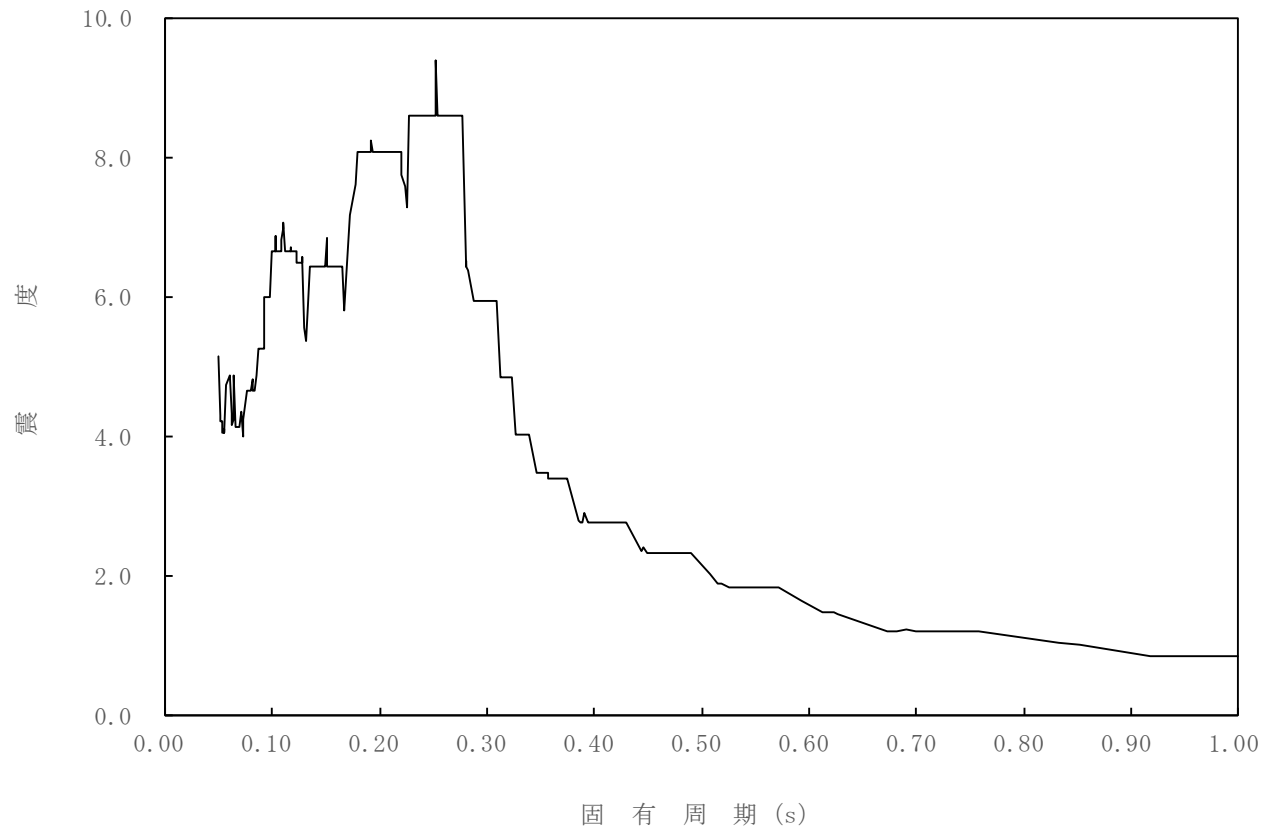
構造物名： 海水ポンプ室

標高： O.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW7250-010】

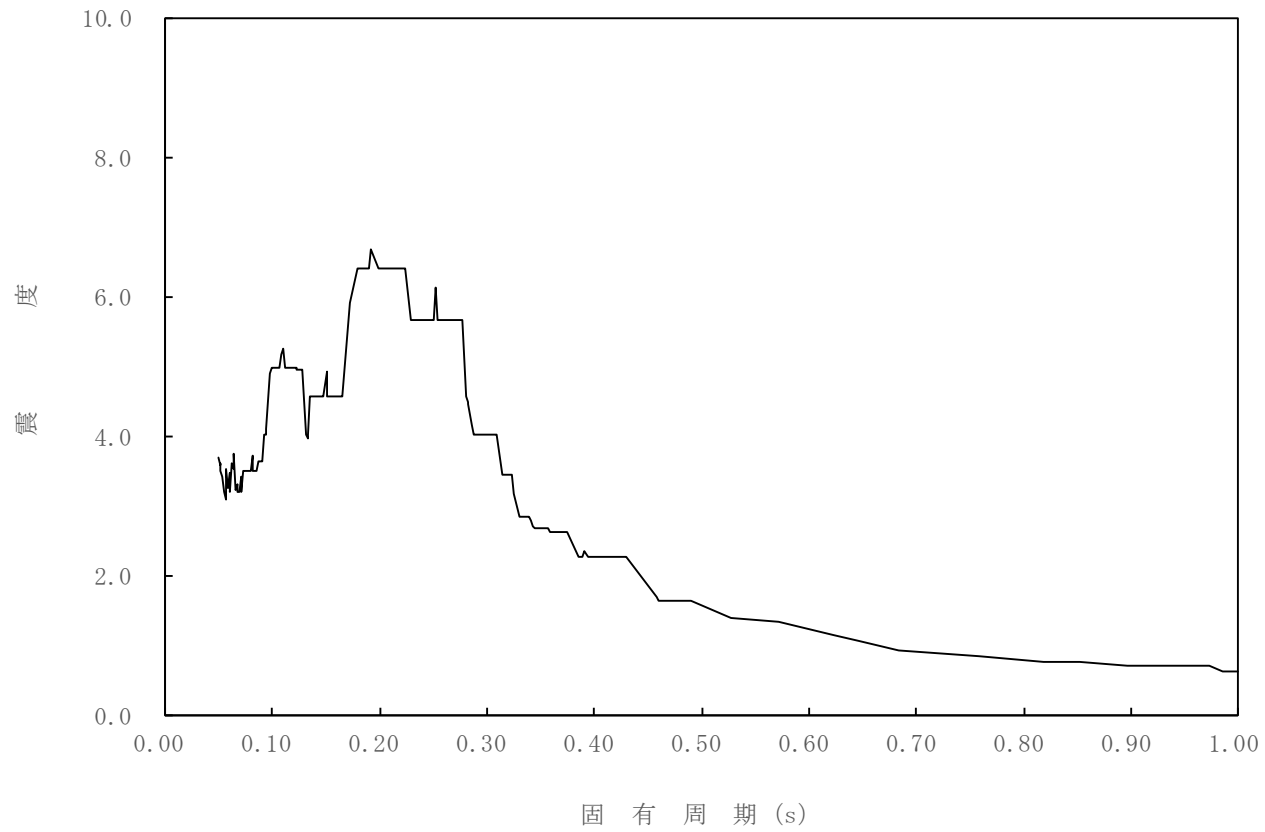
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW7250-015】

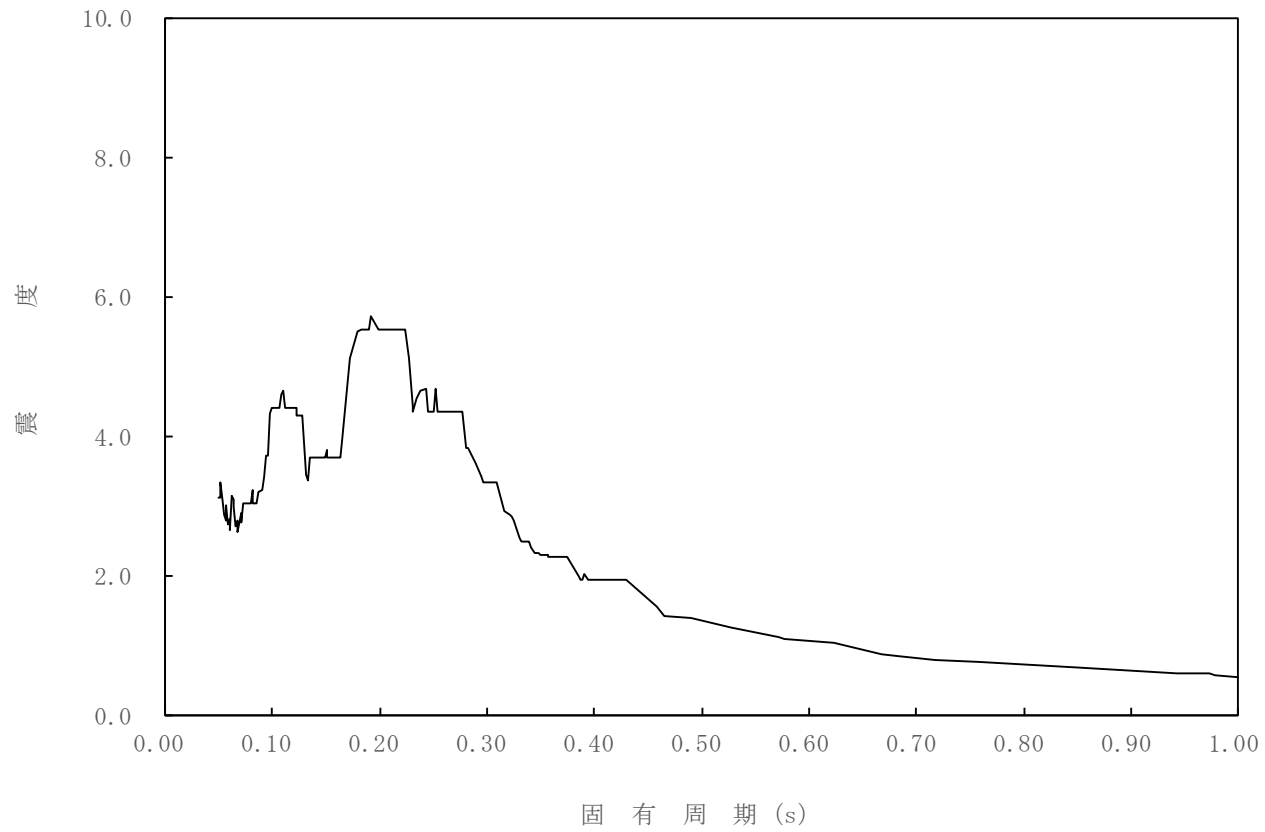
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW7250-020】

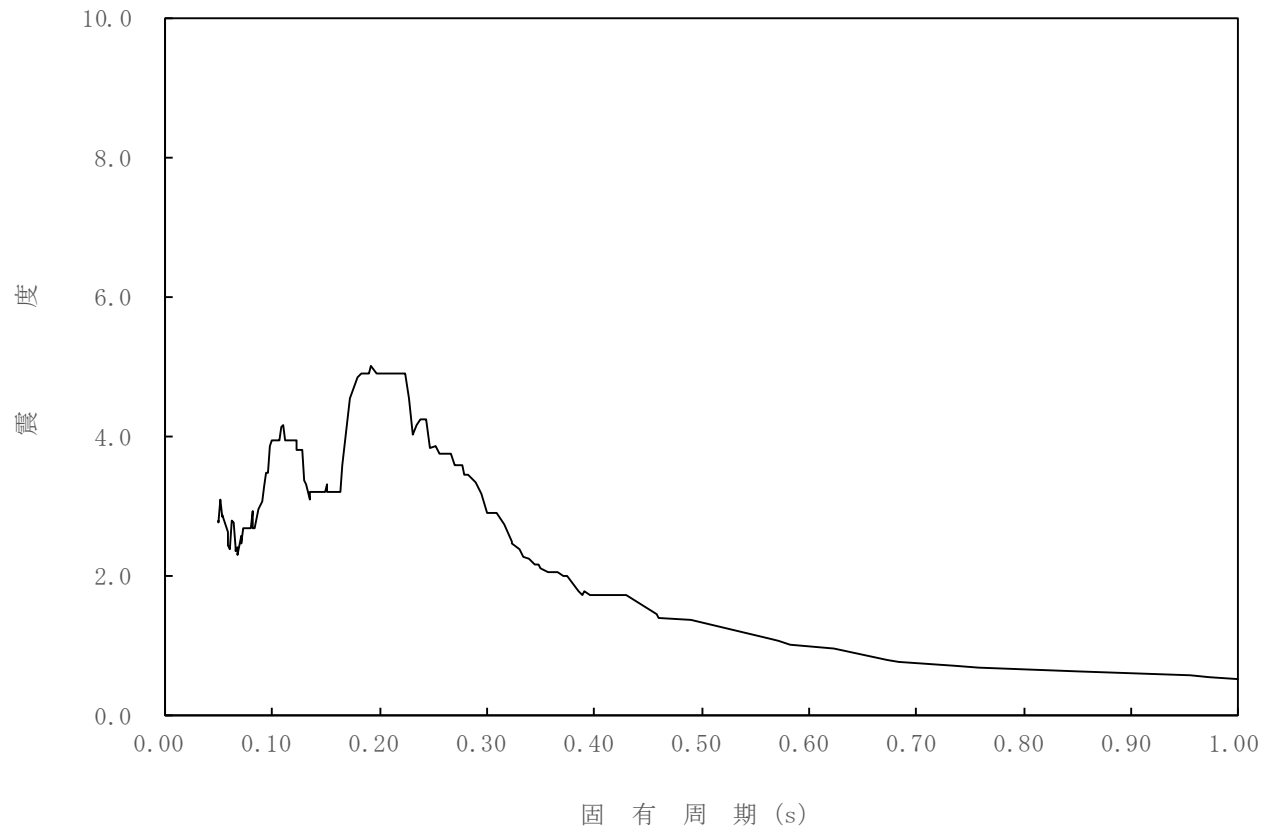
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW7250-025】

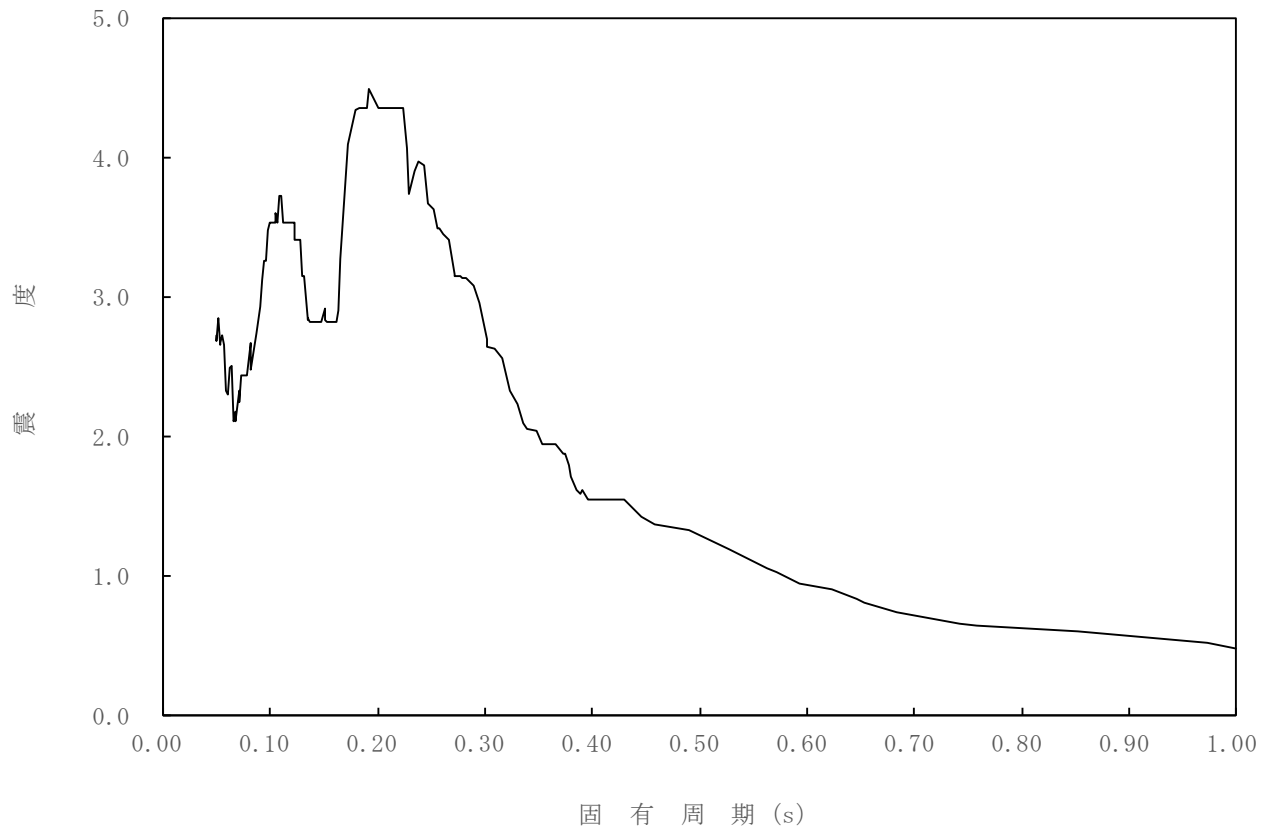
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW7250-030】

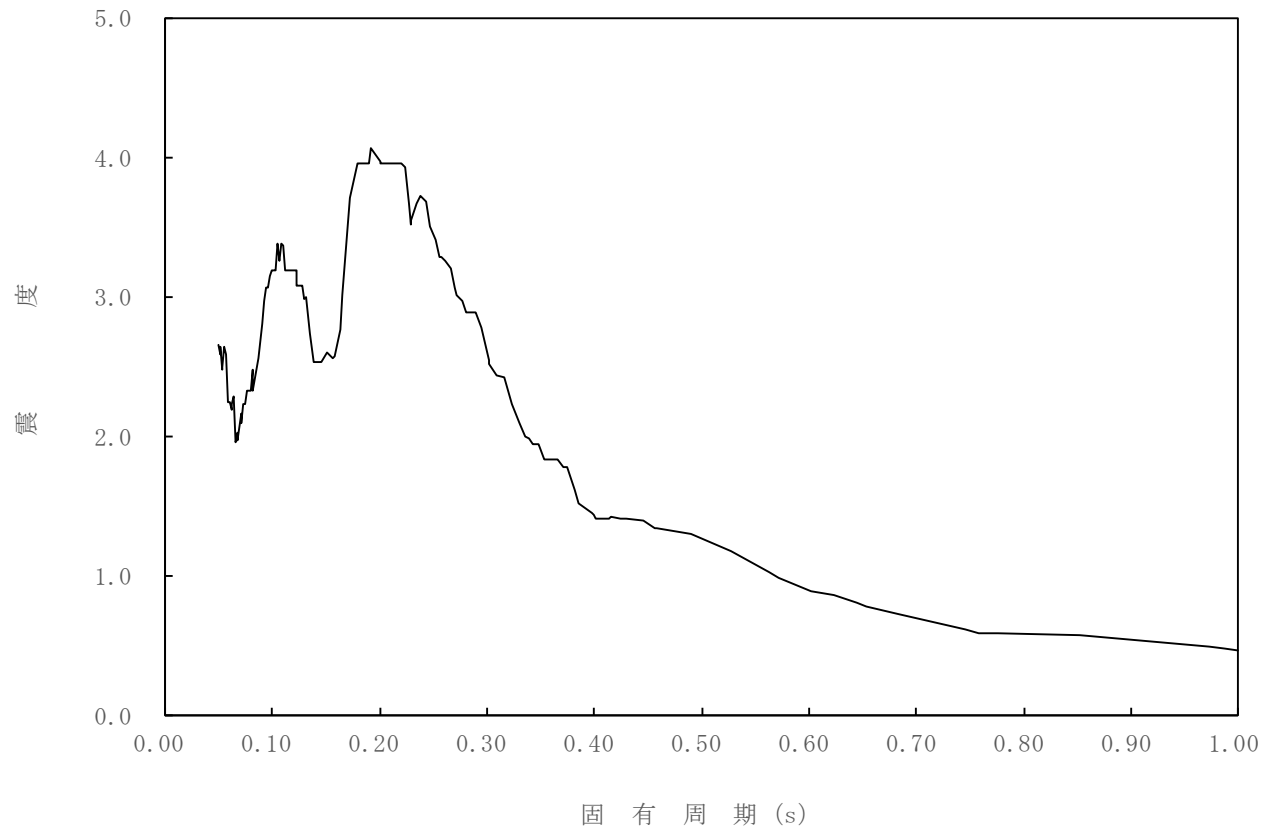
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW7250-040】

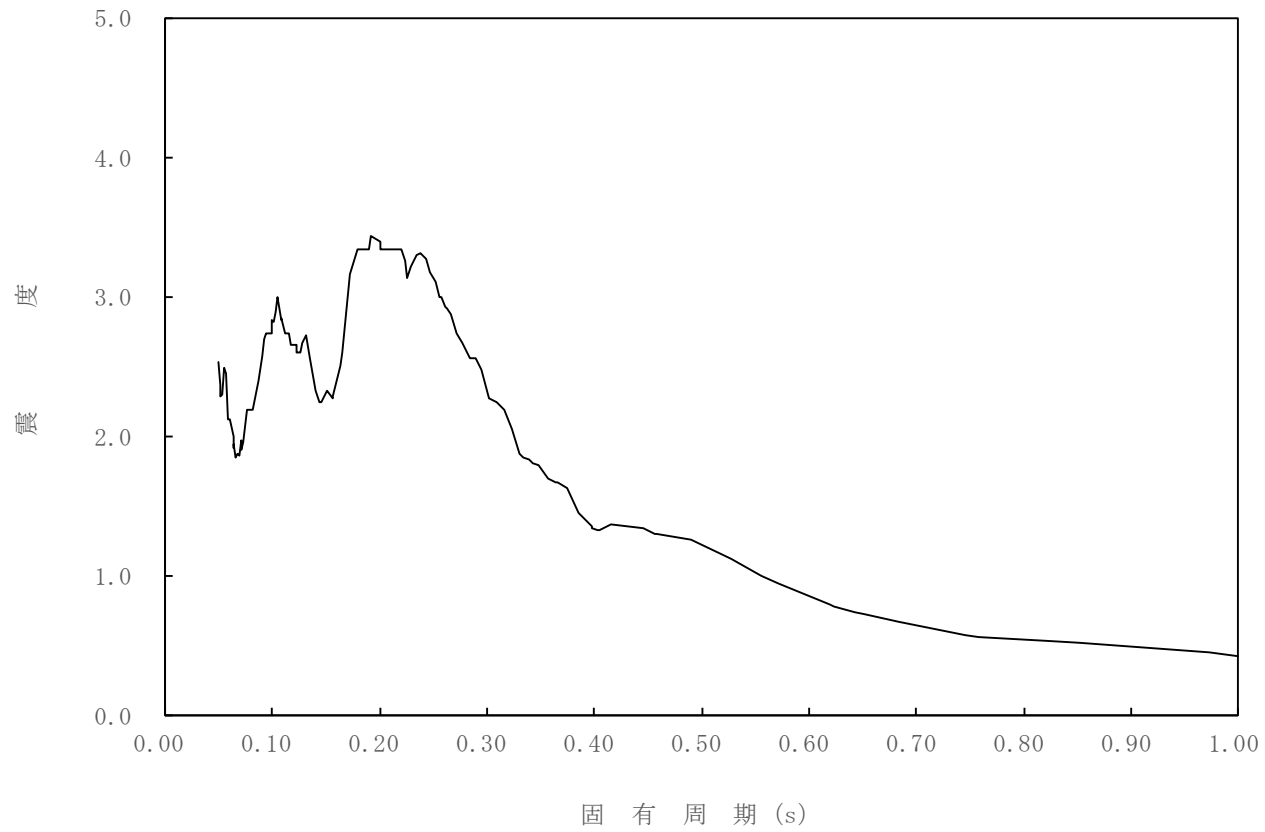
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW7250-050】

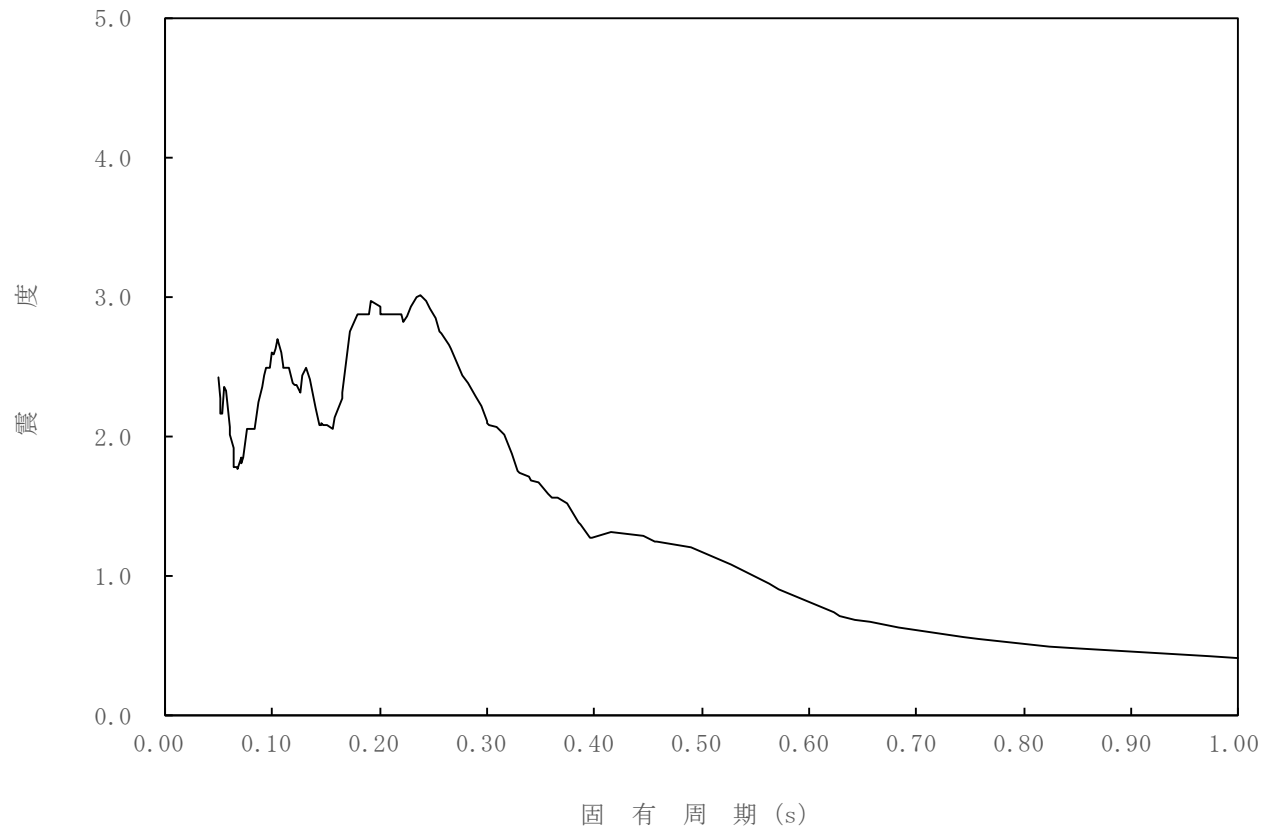
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdH-SW2250-005】

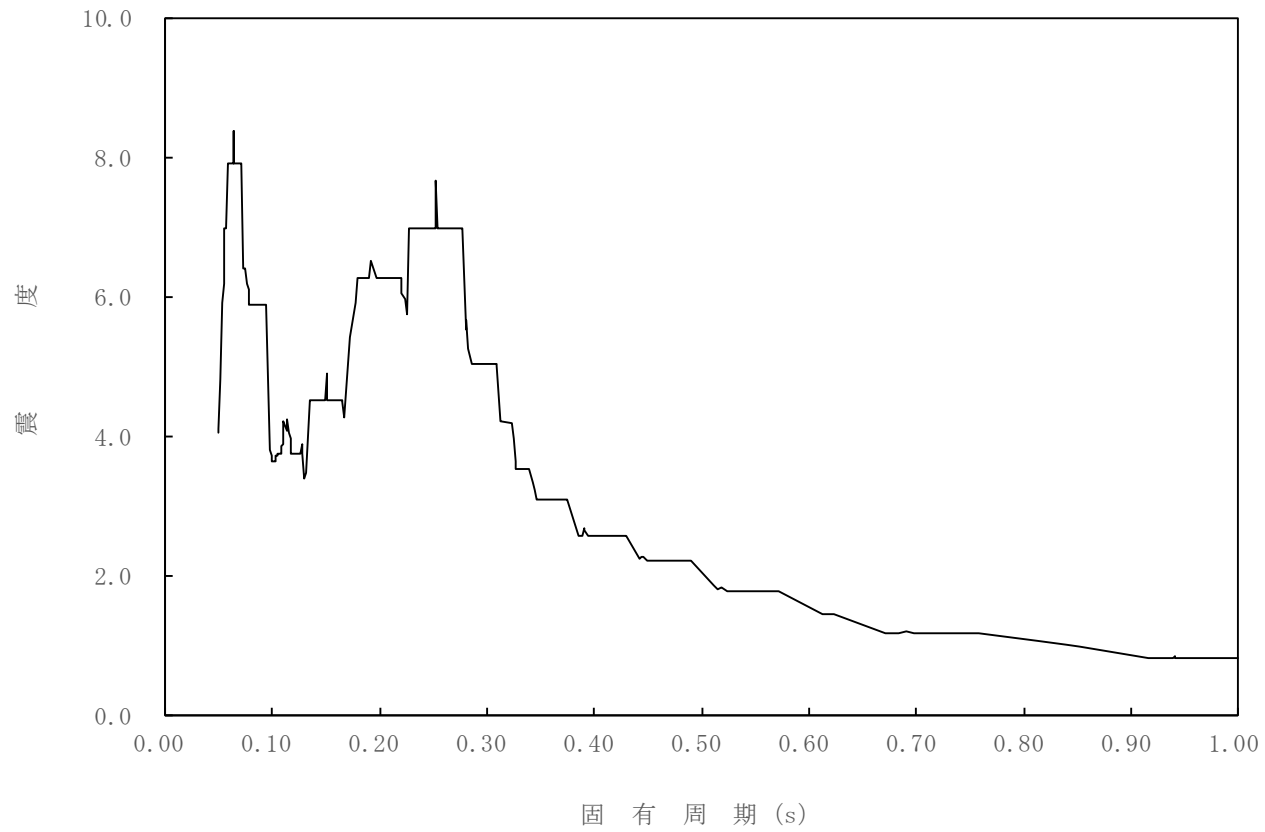
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW2250-010】

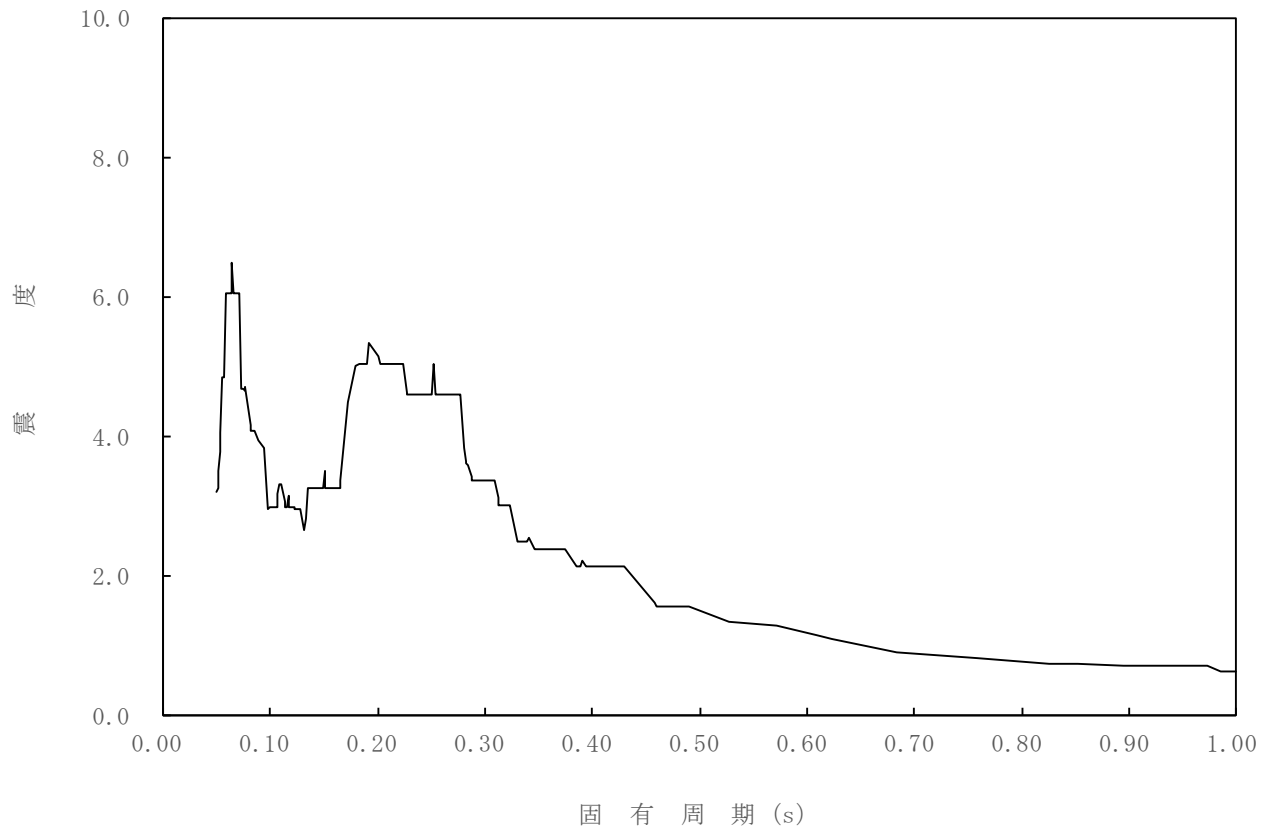
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW2250-015】

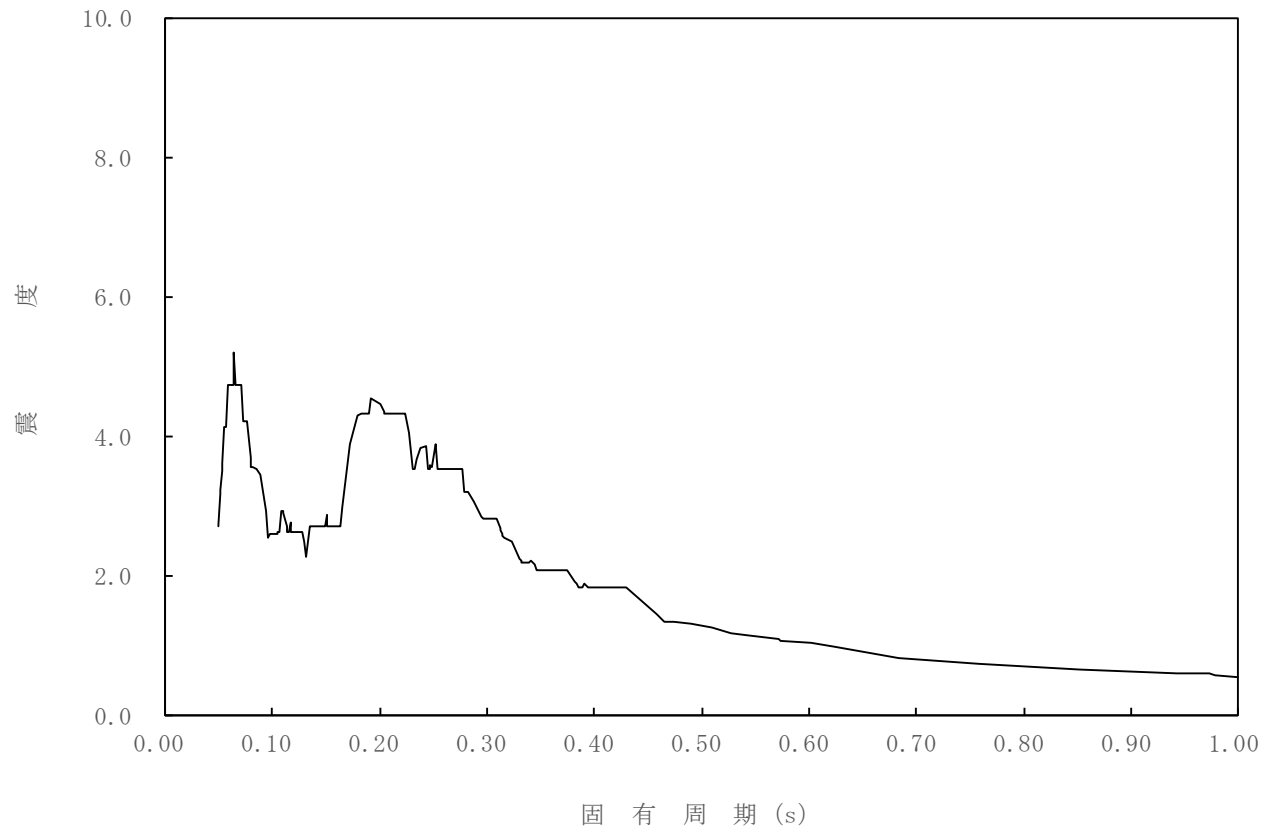
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW2250-020】

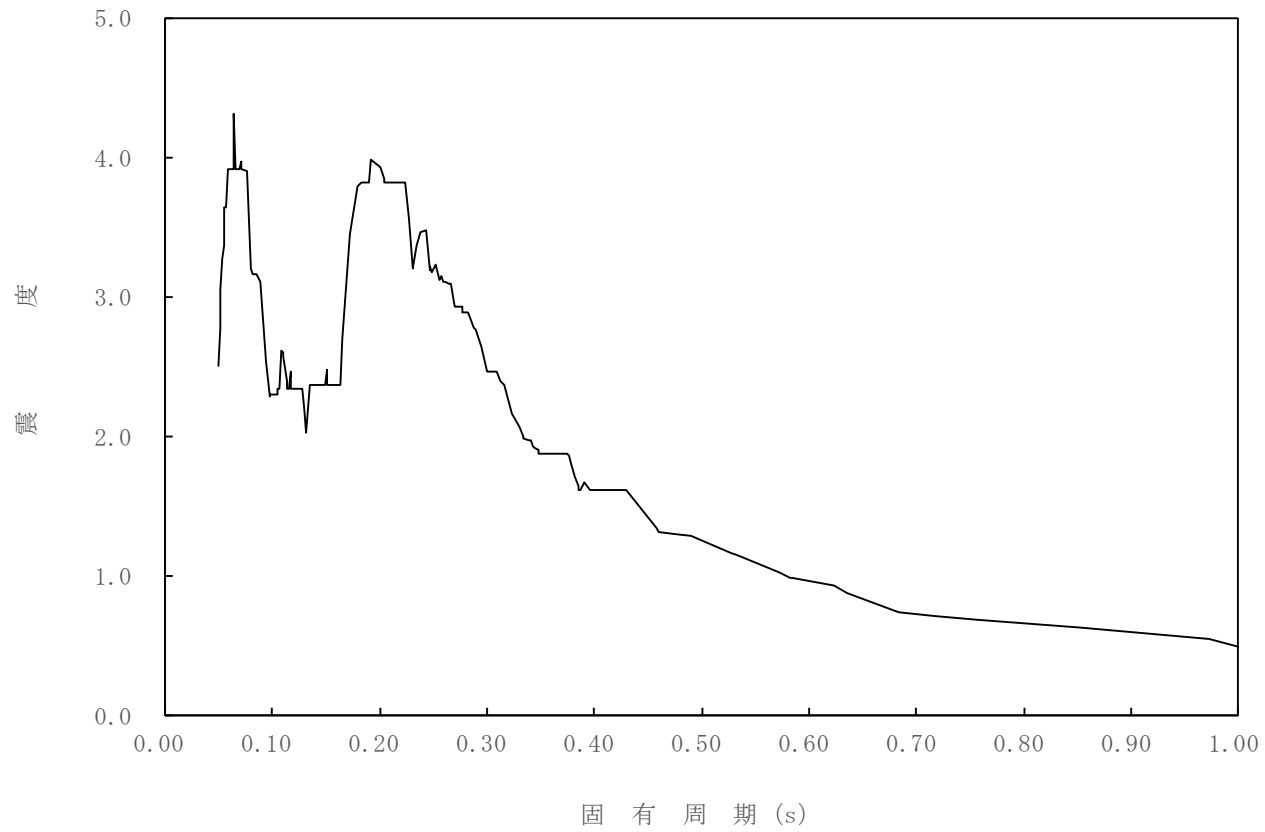
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW2250-025】

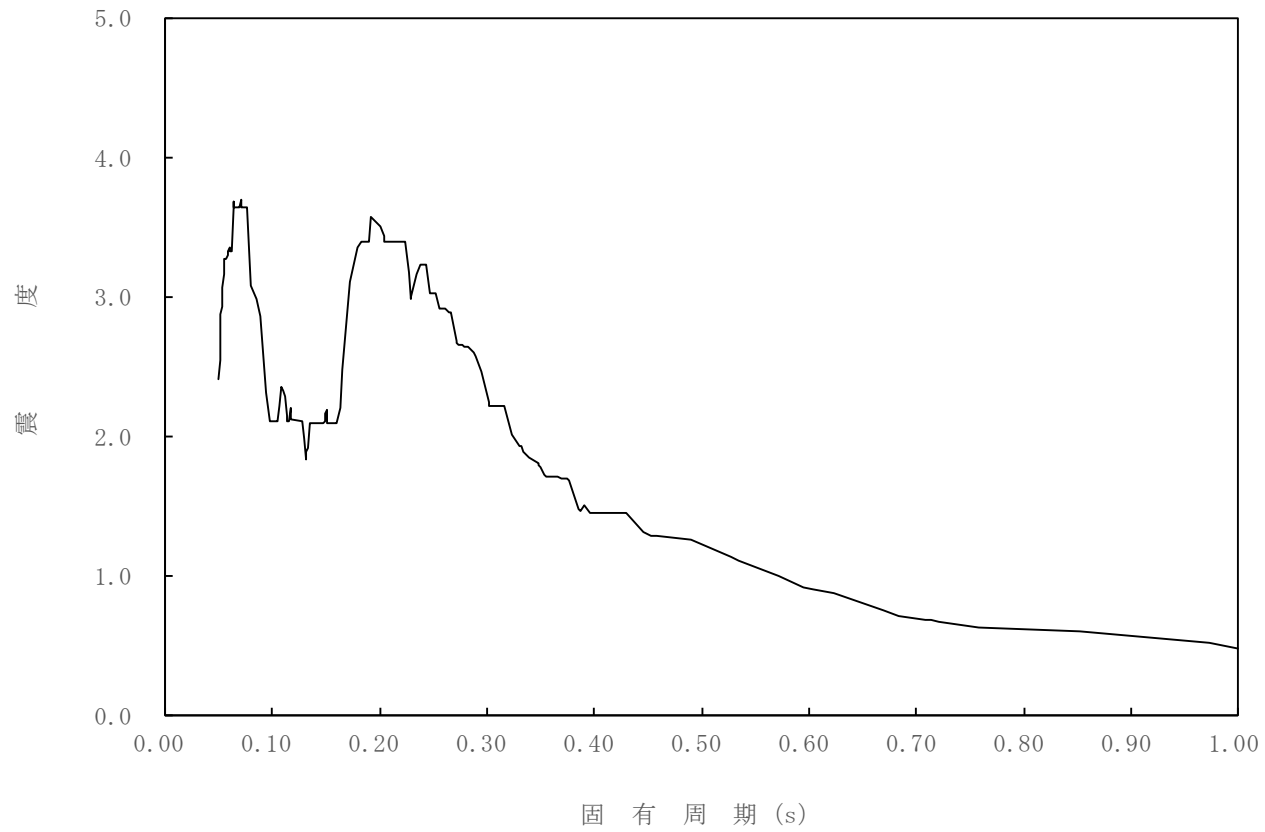
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW2250-030】

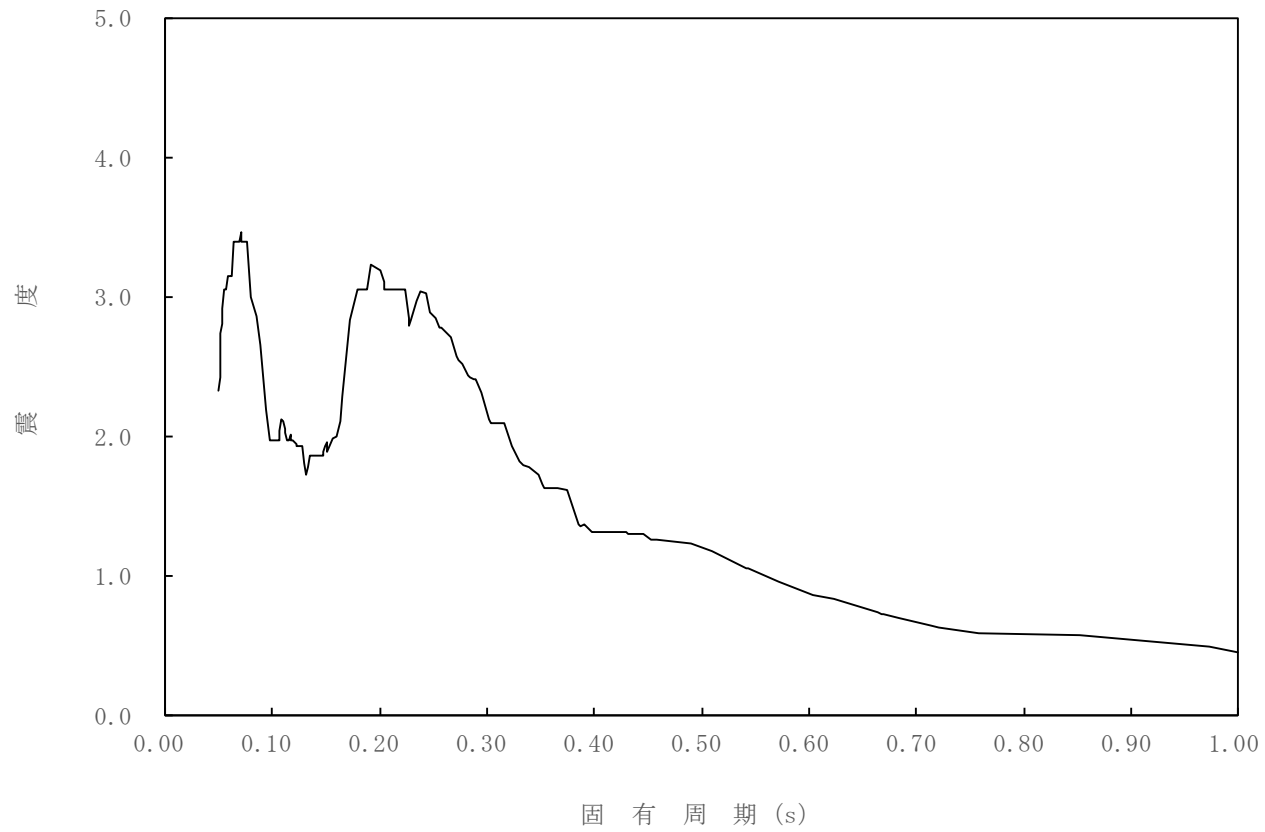
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW2250-040】

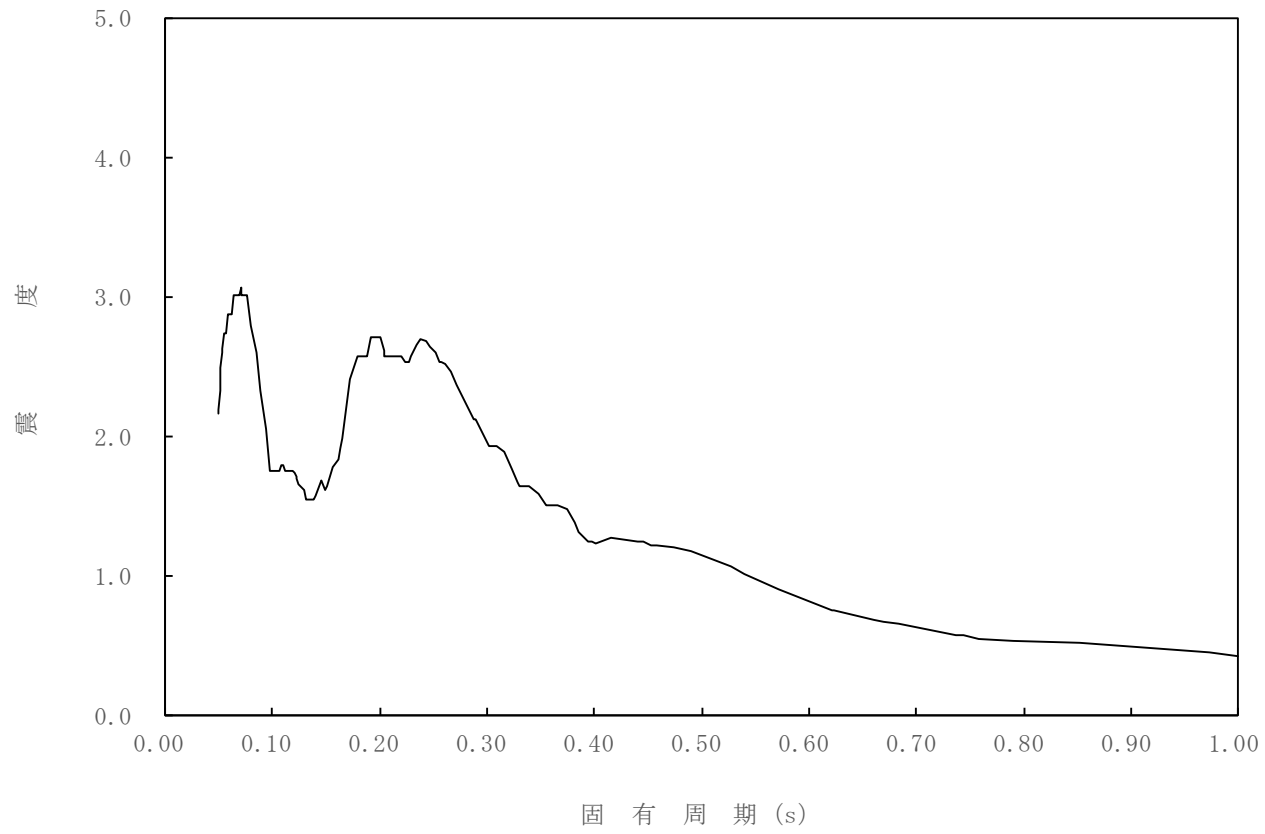
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW2250-050】

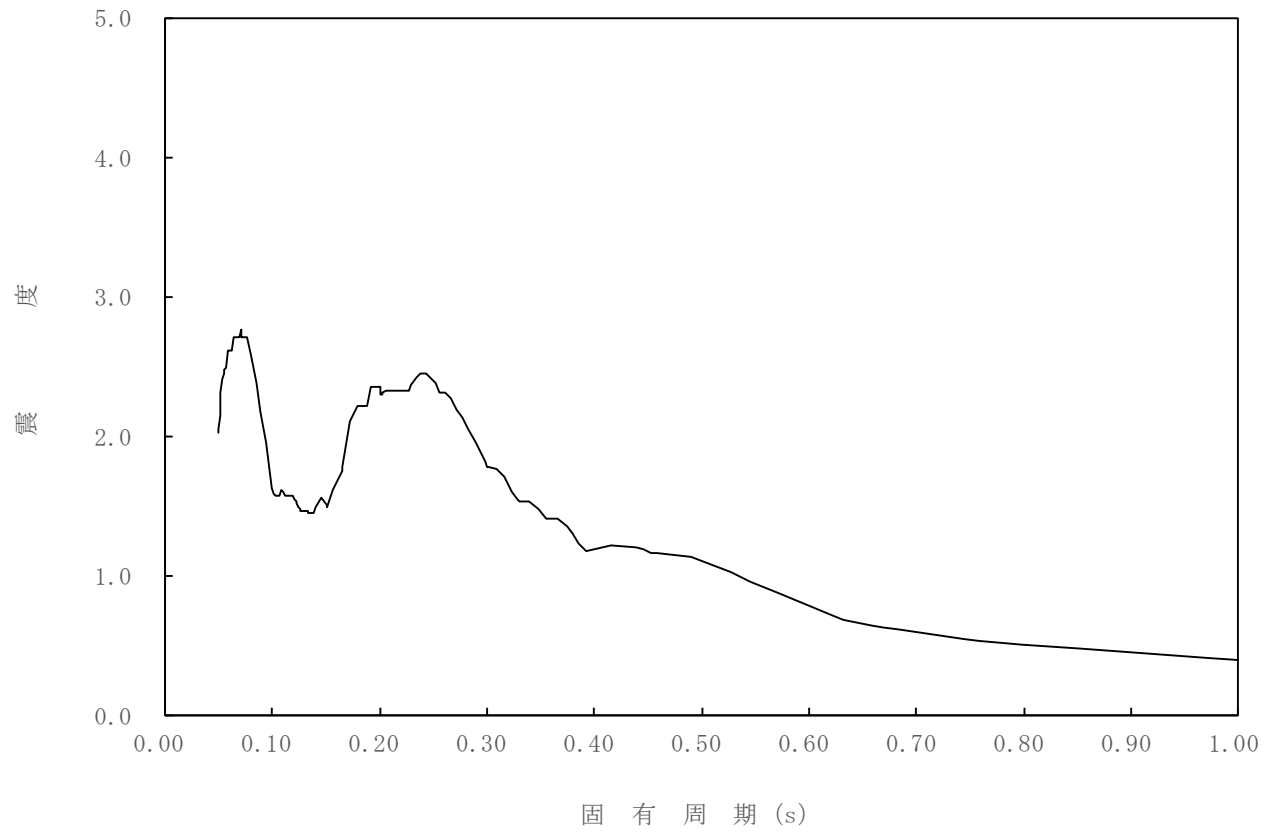
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdH-SW-550-005】

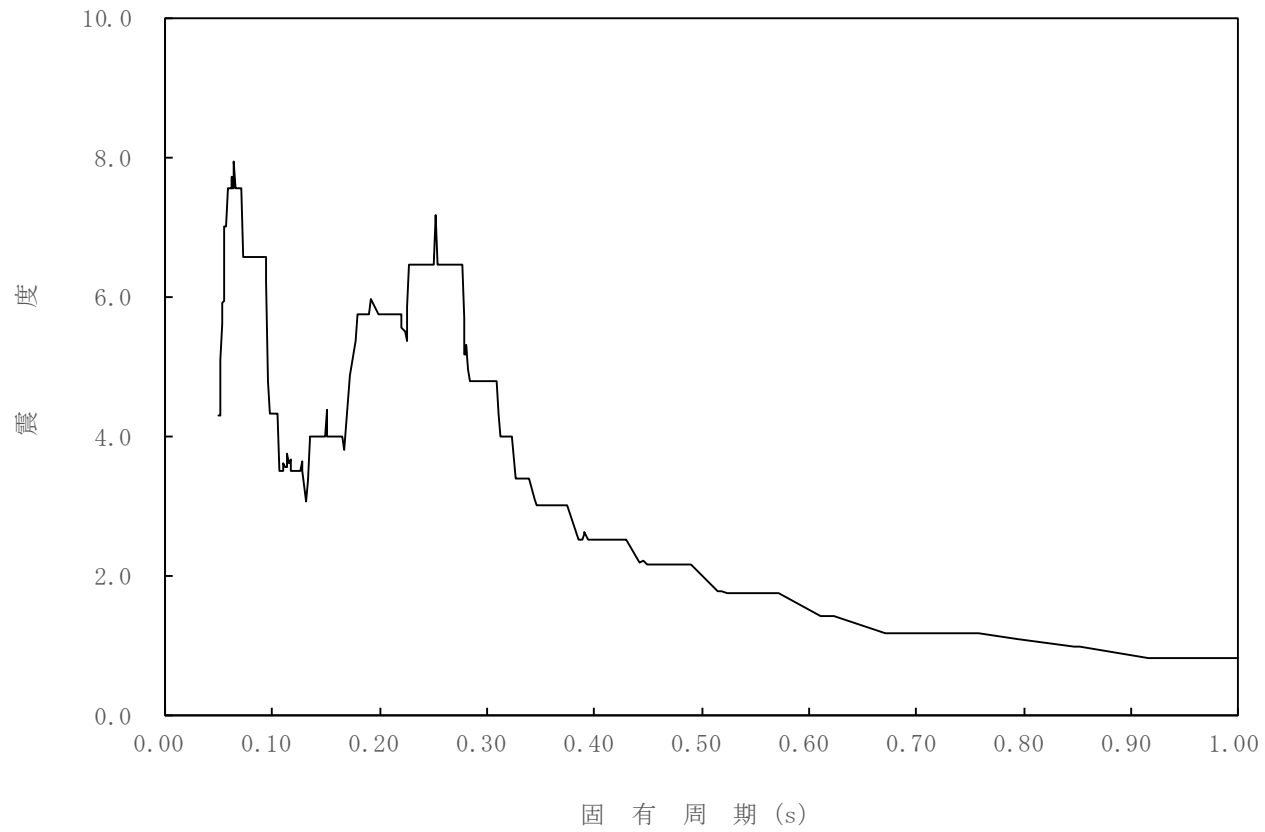
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-550-010】

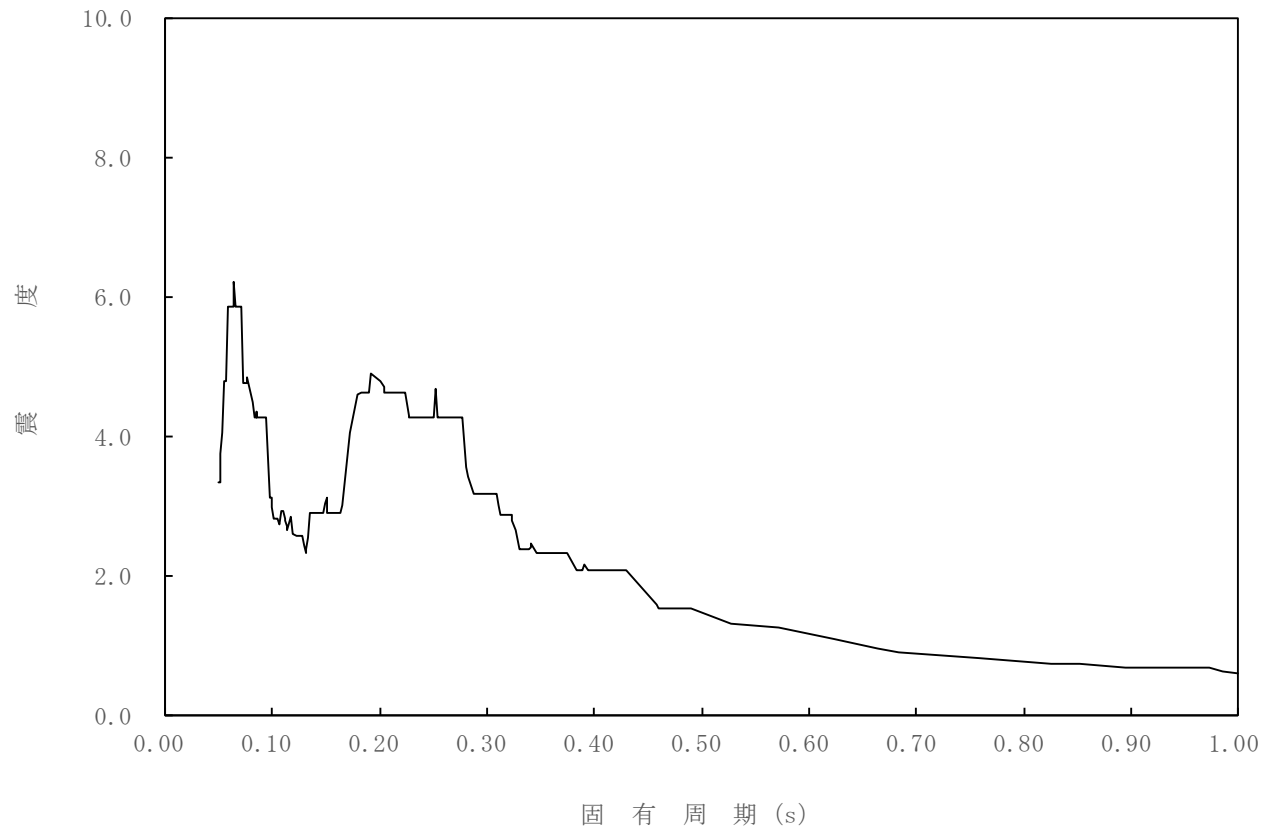
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-550-015】

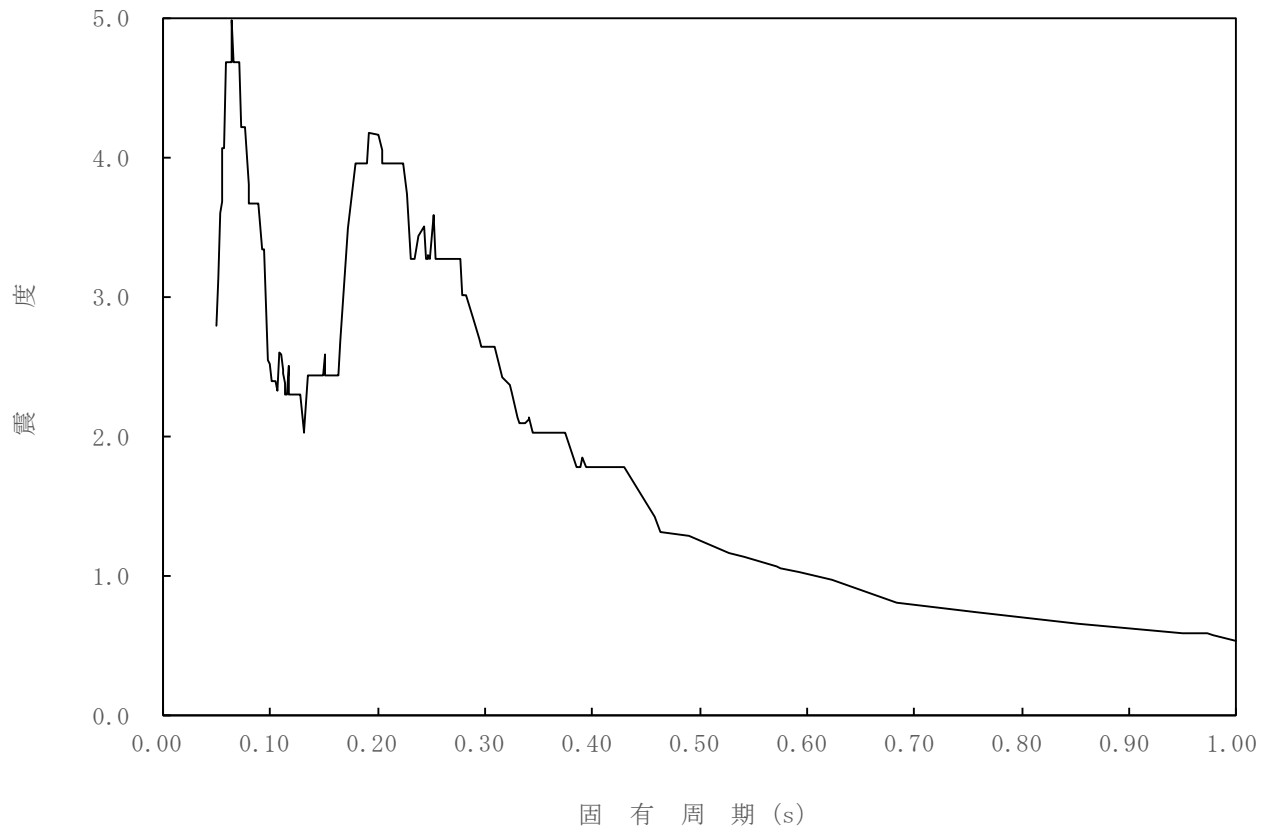
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0. P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-550-020】

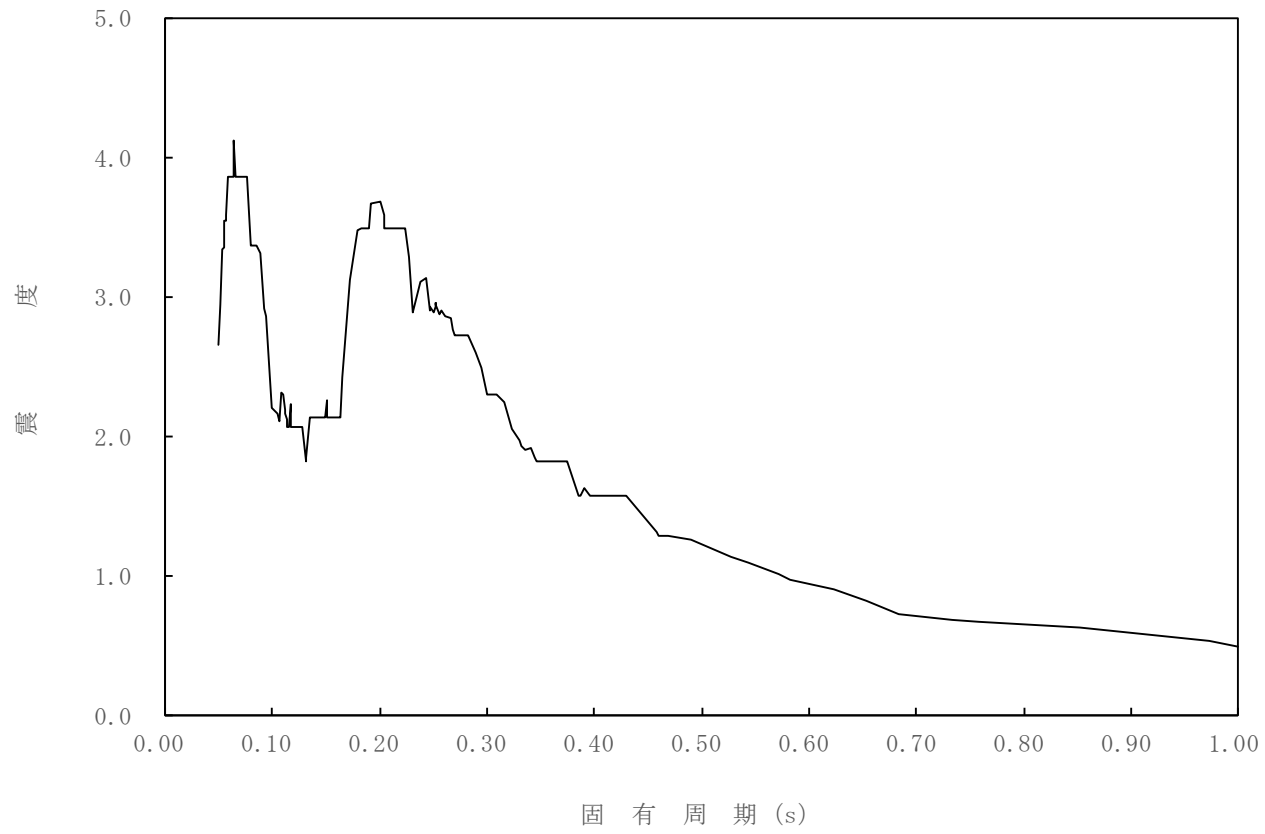
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-550-025】

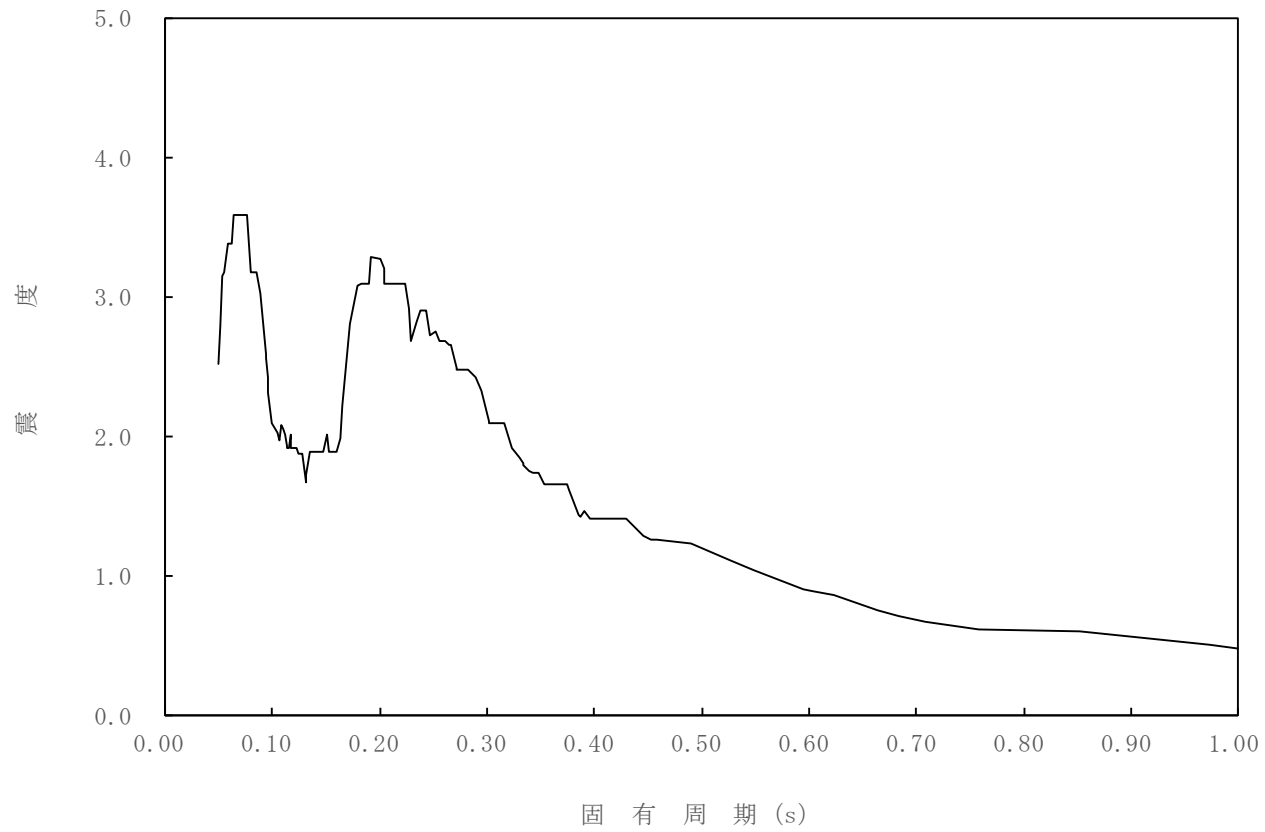
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-550-030】

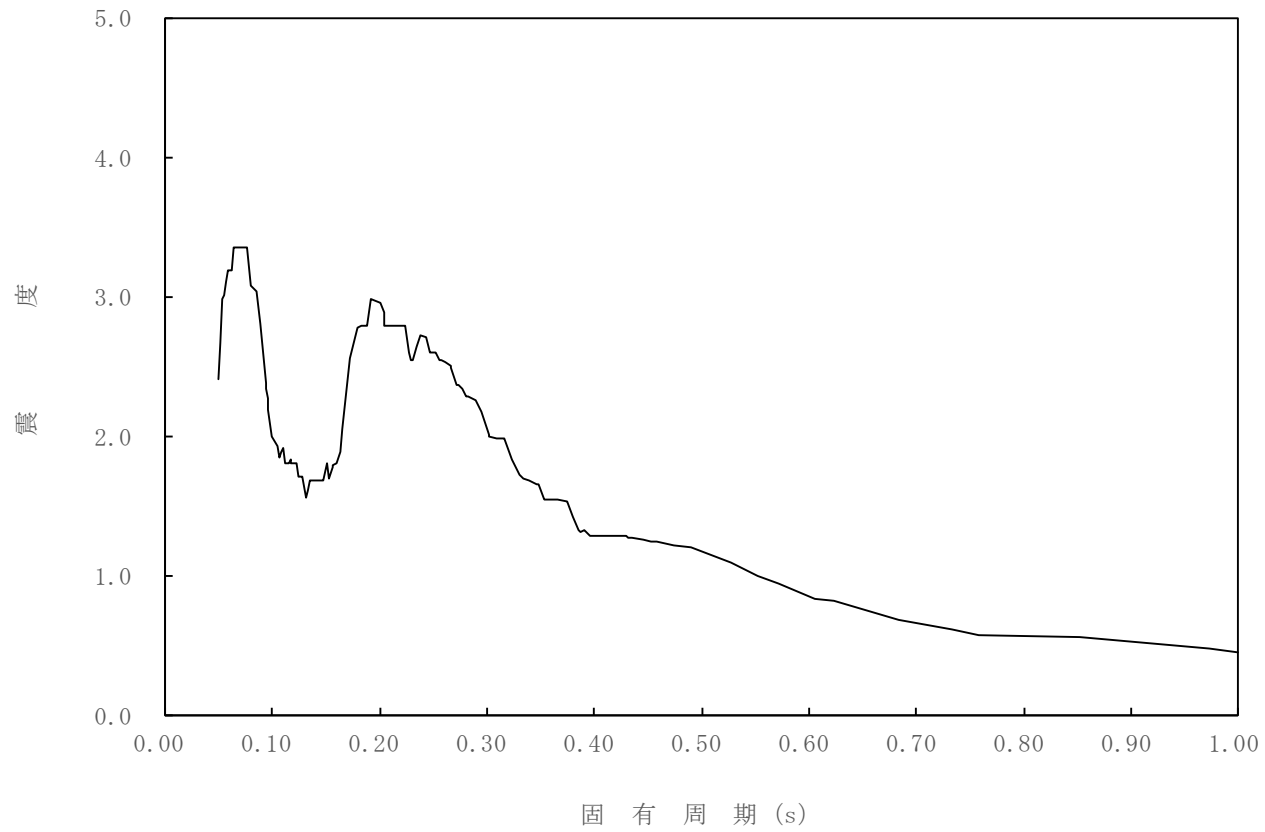
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-550-040】

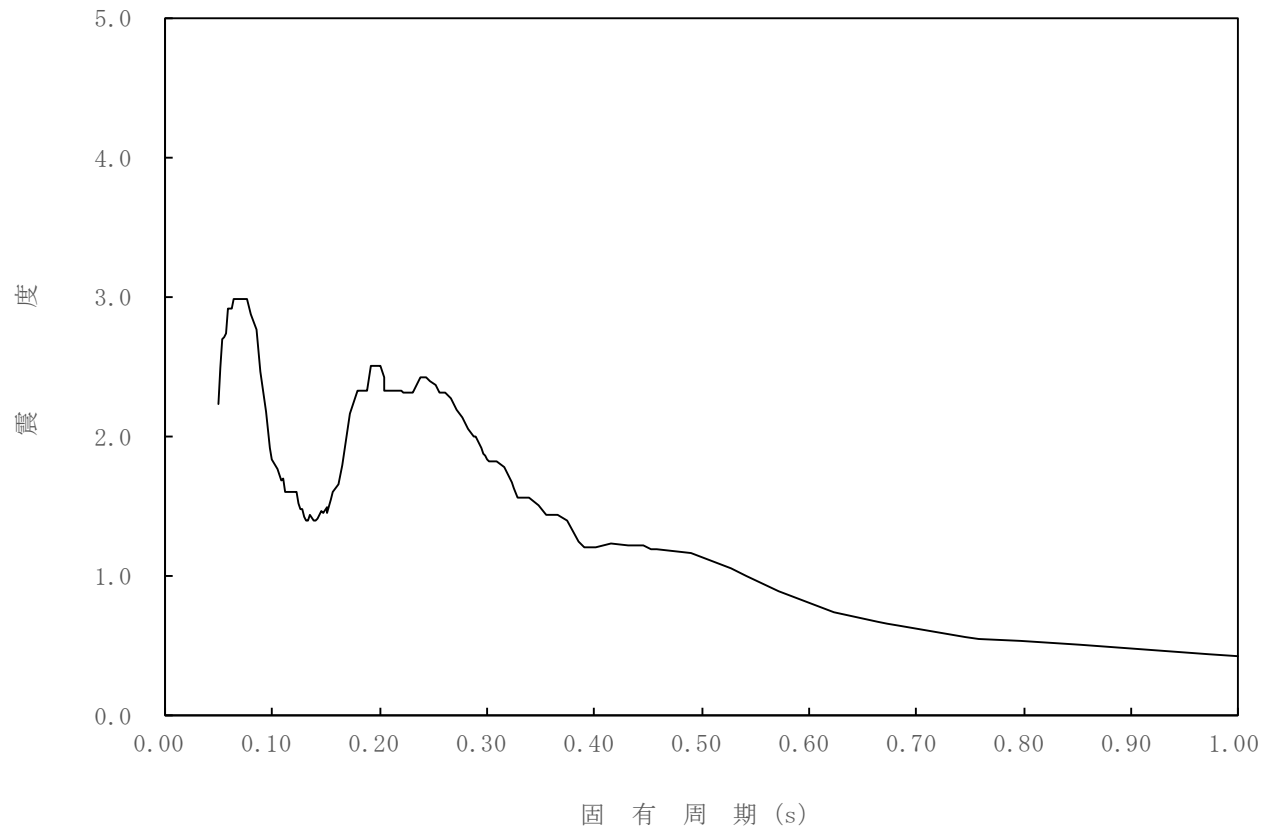
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-550-050】

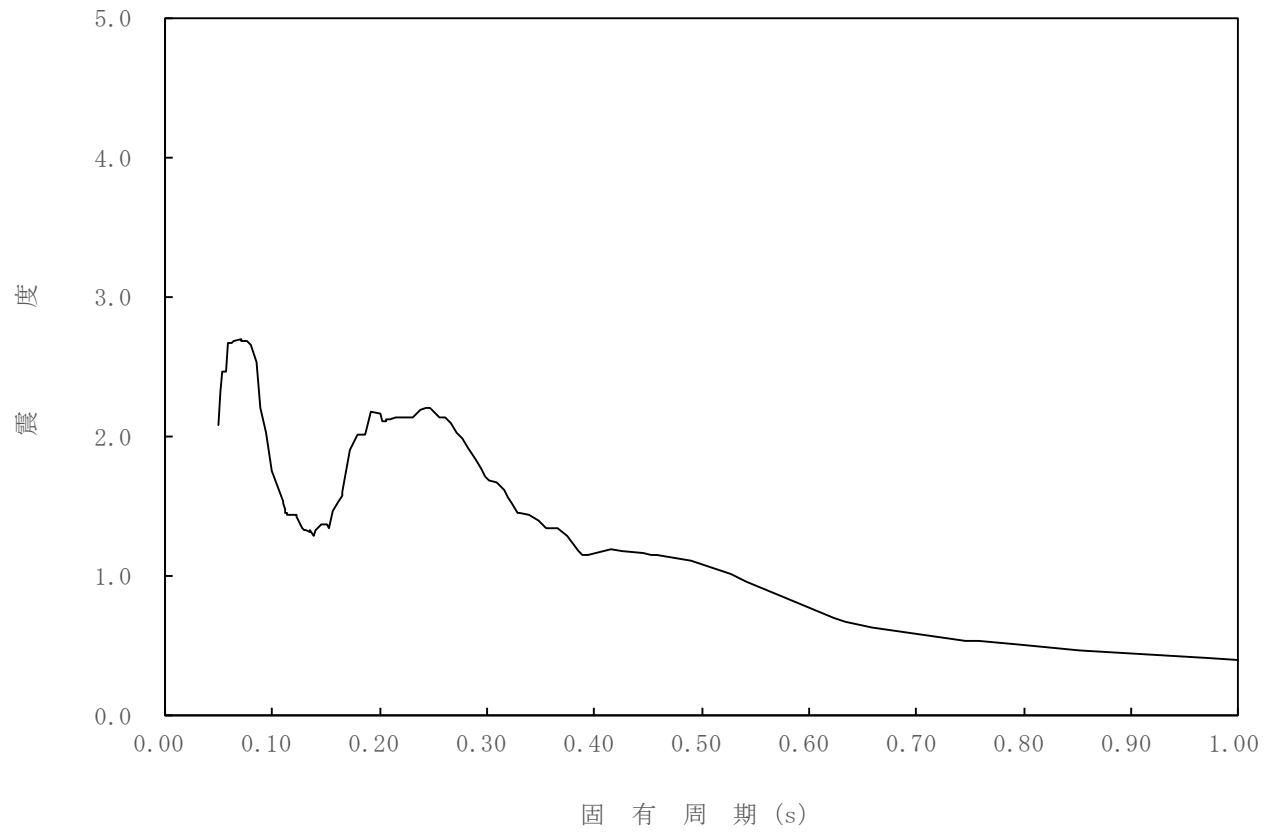
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdH-SW-7025-005】

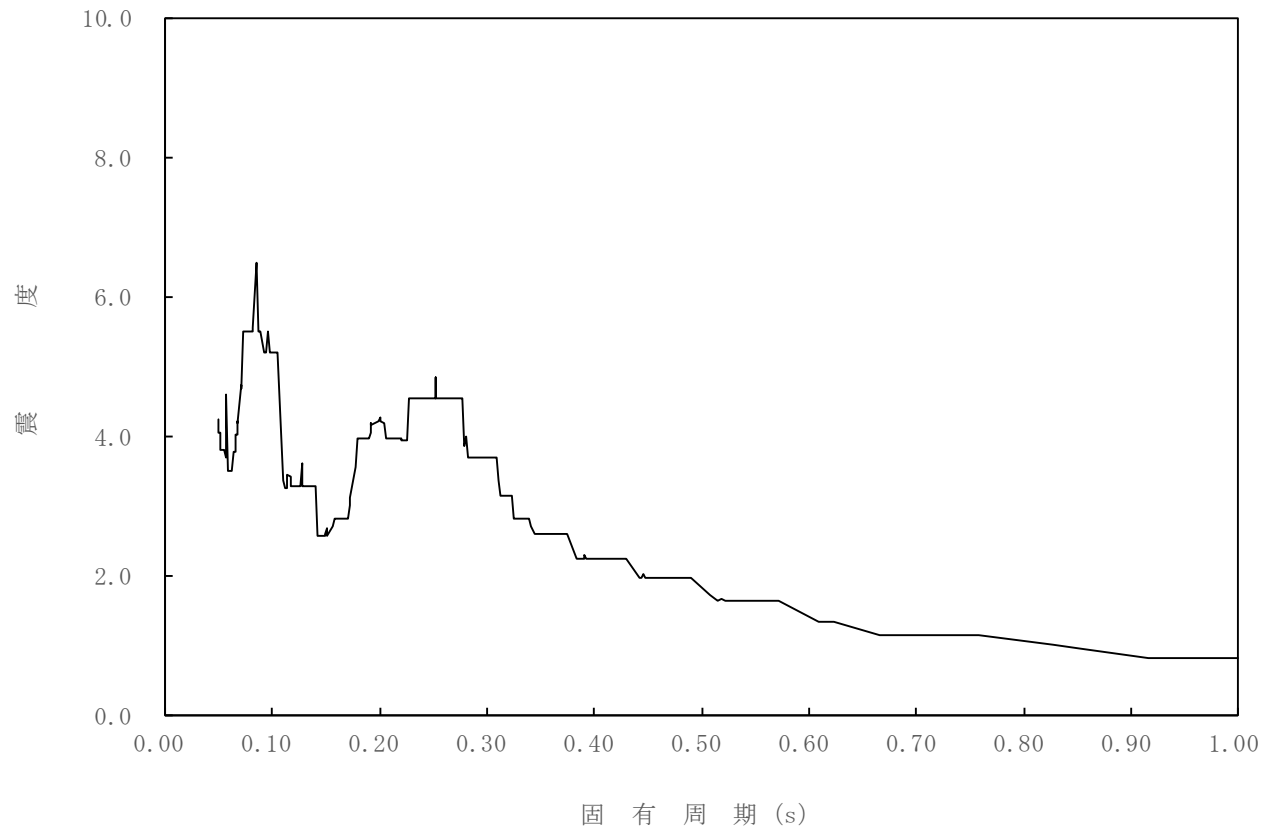
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-7025-010】

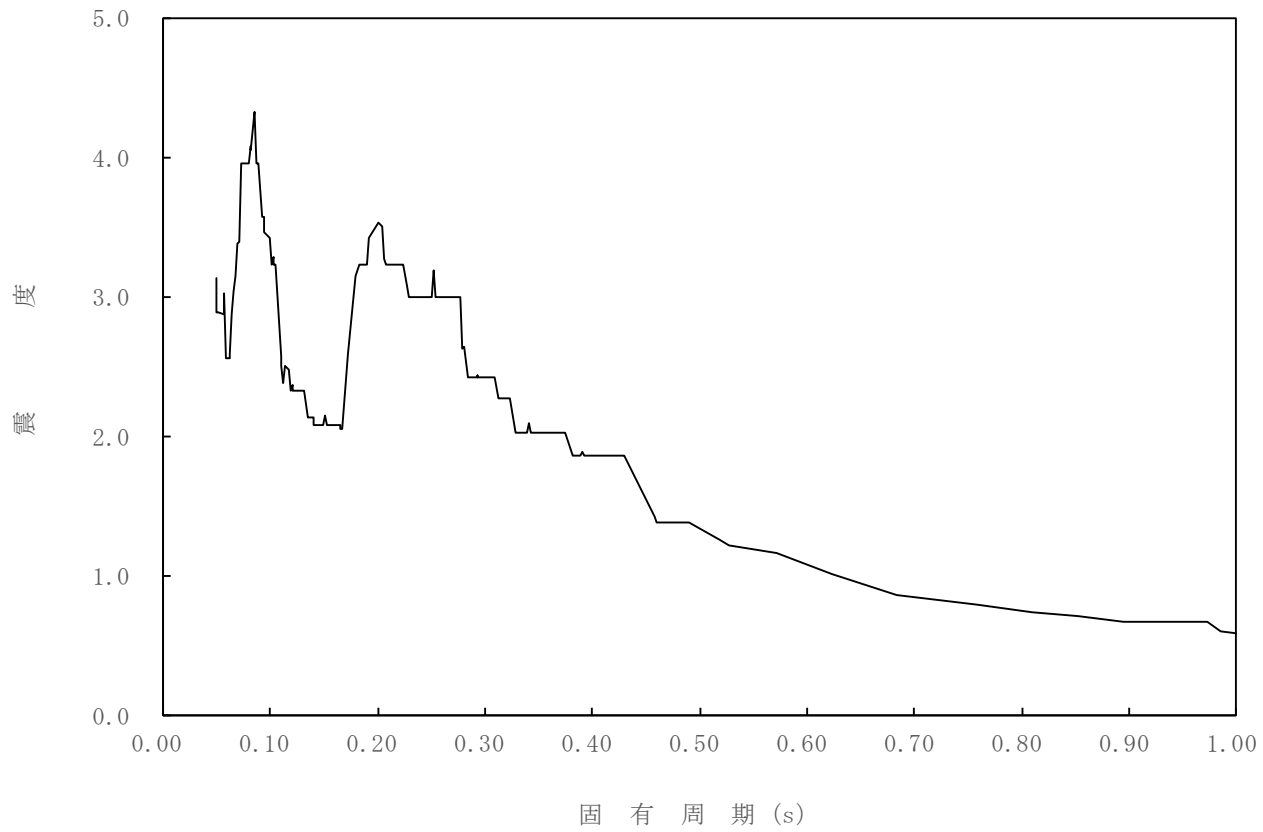
構造物名： 海水ポンプ室

標高： O.P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-7025-015】

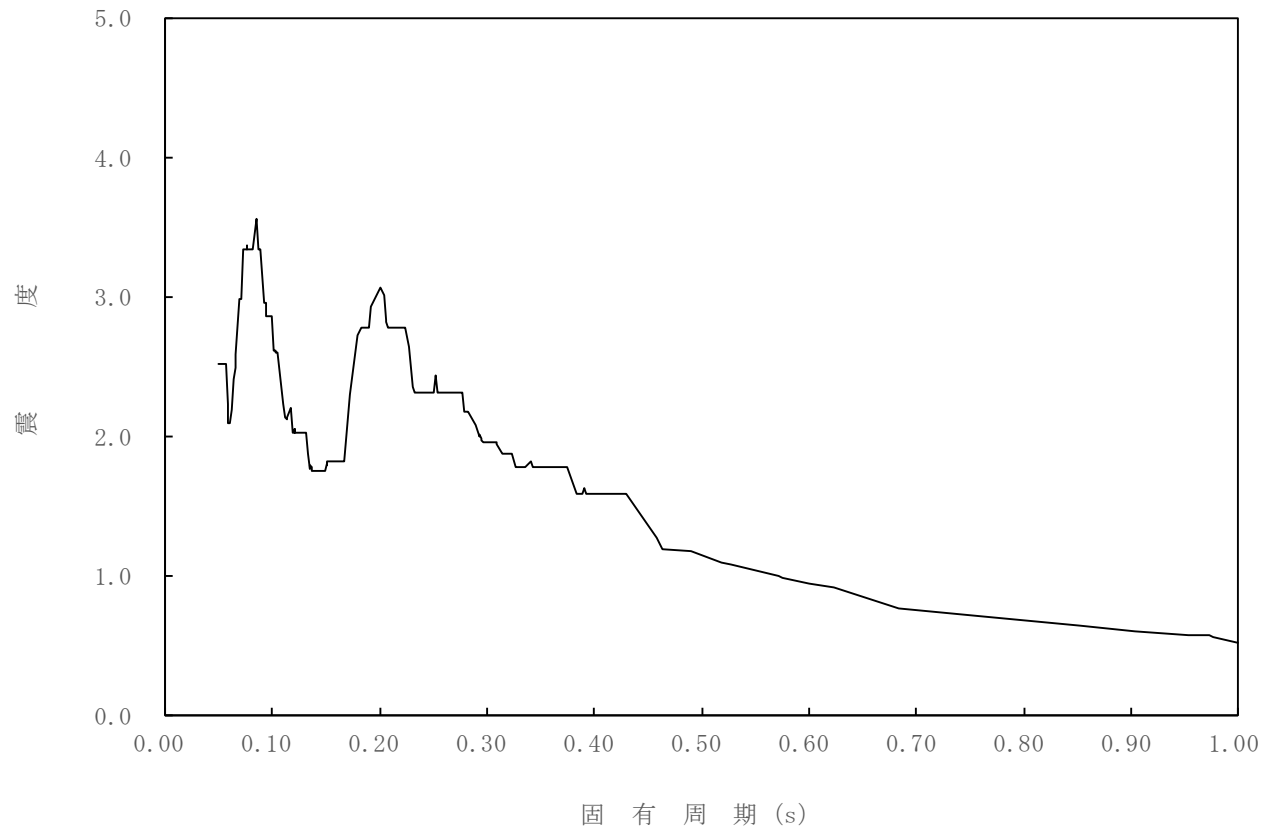
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0. P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-7025-020】

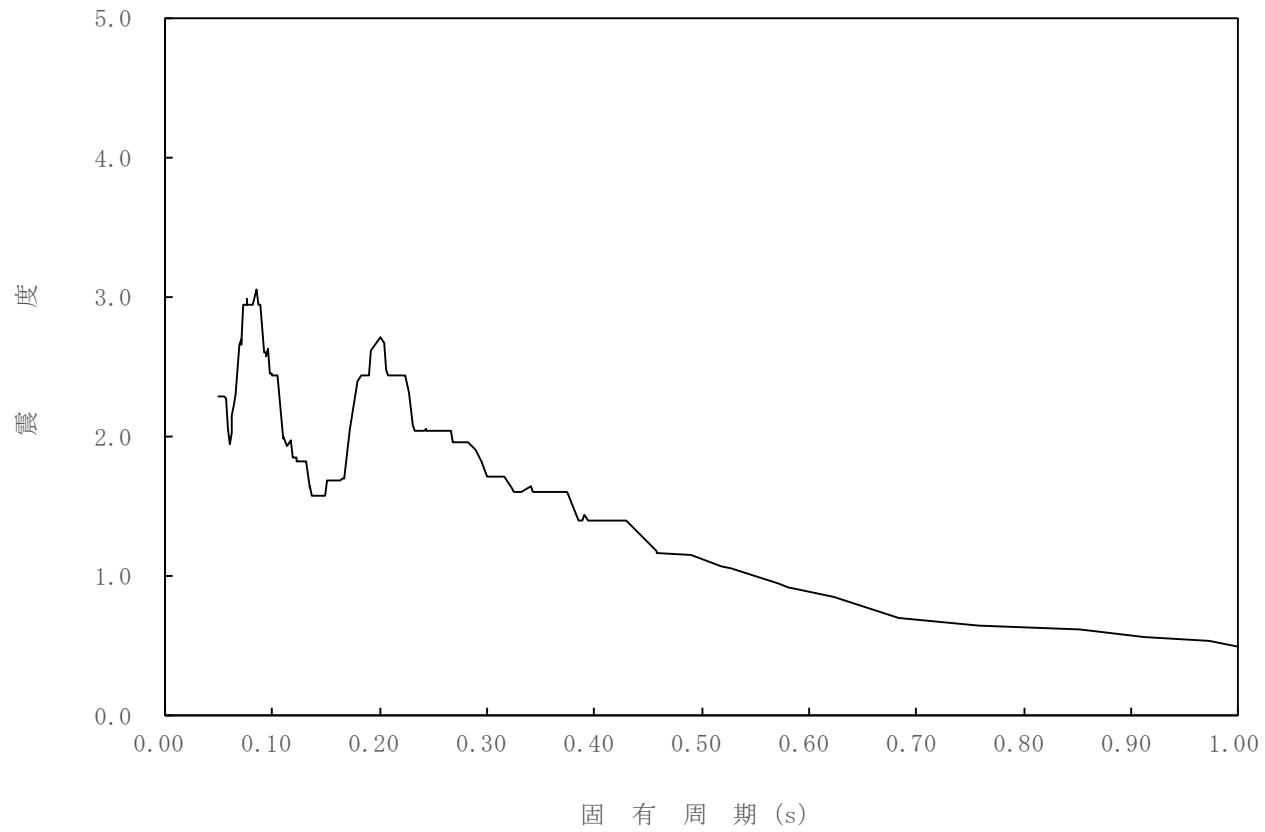
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-7025-025】

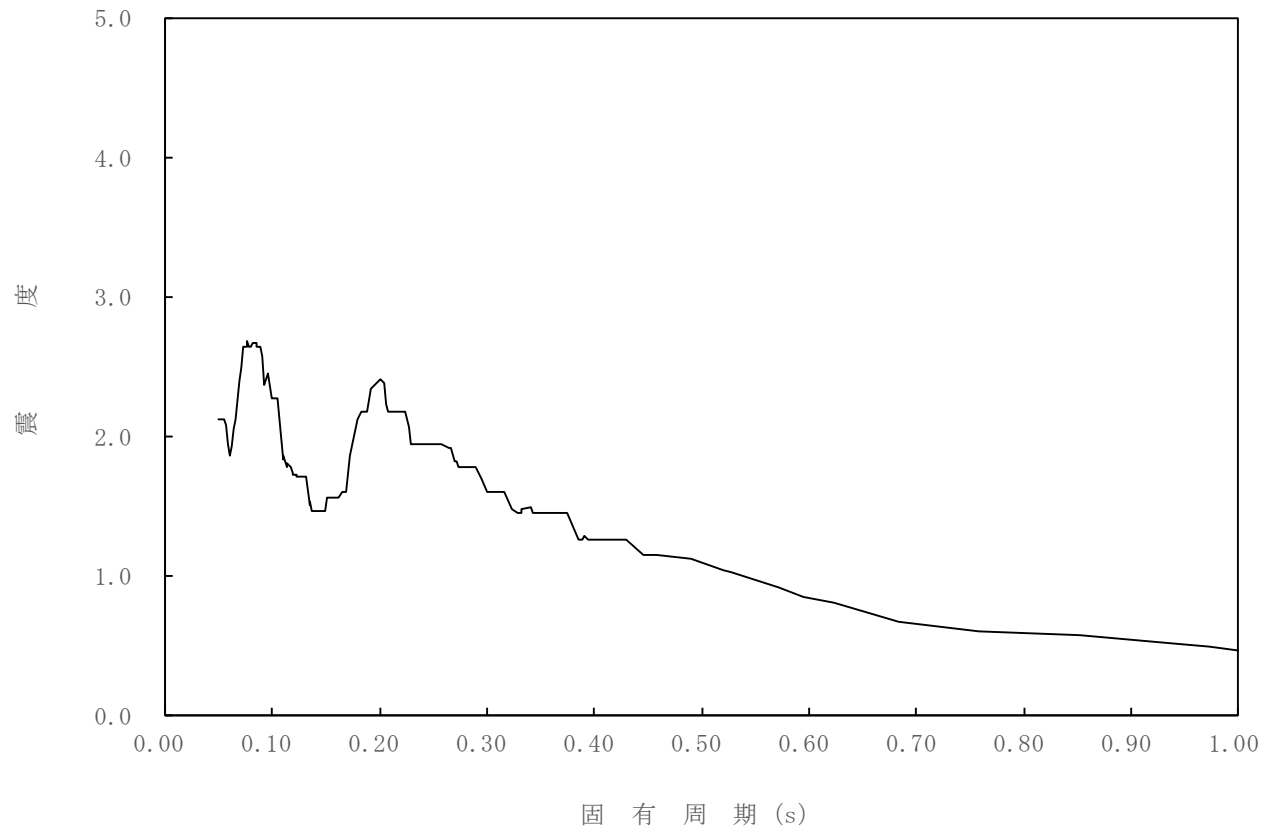
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-7025-030】

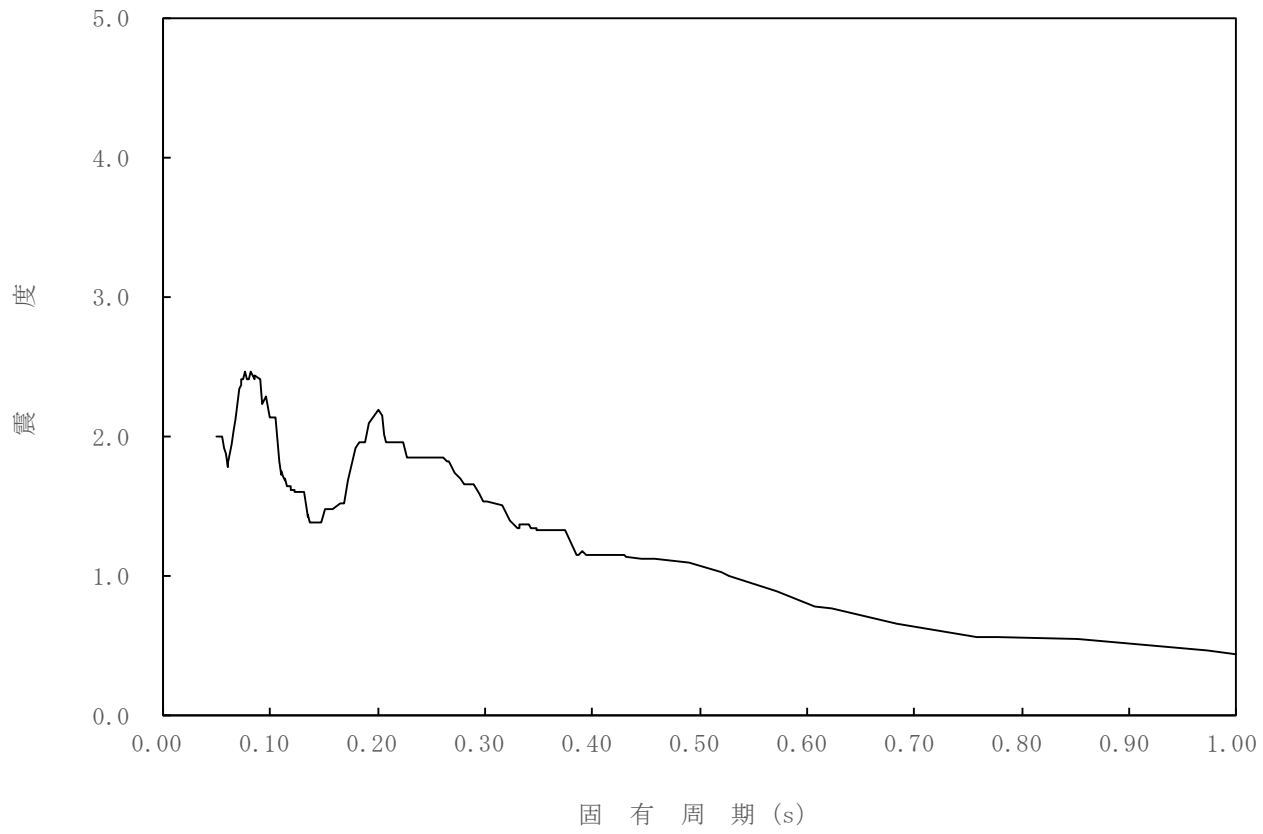
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-7025-040】

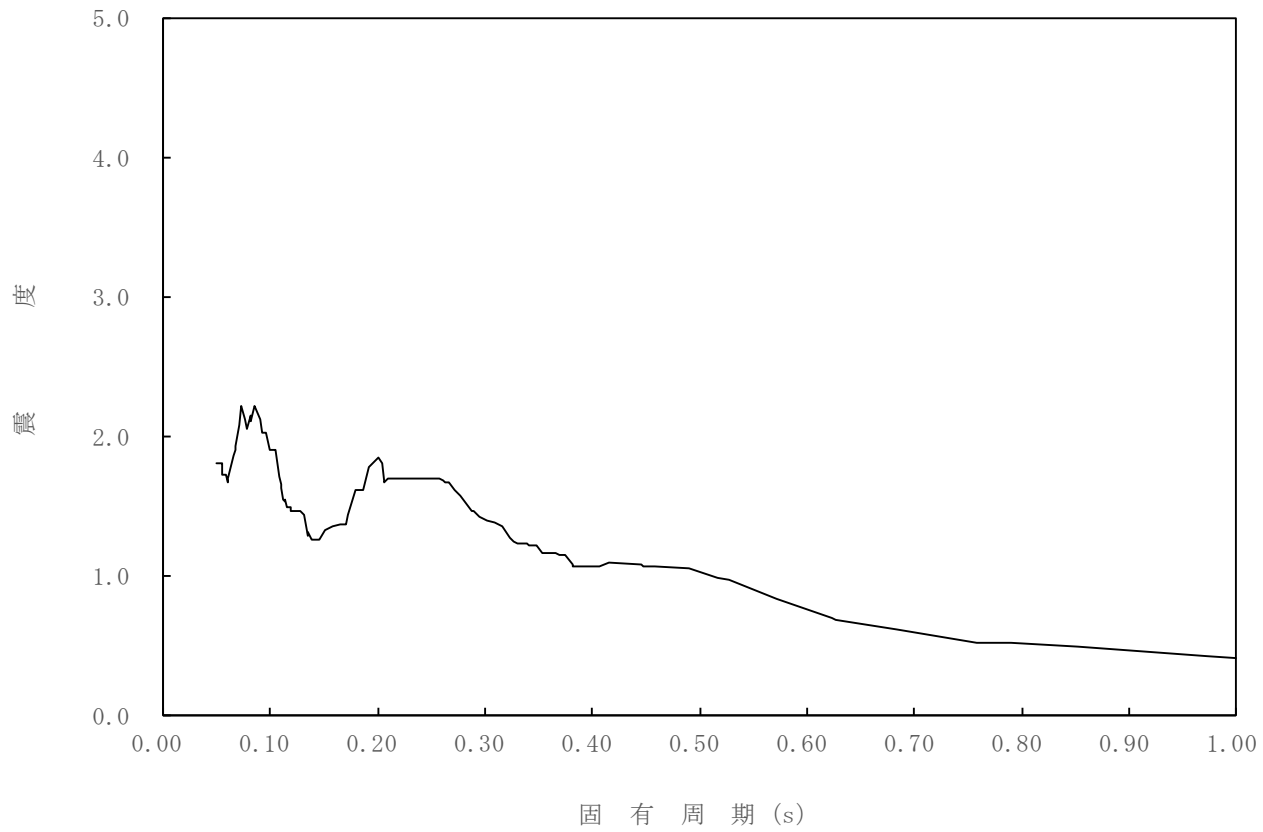
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-7025-050】

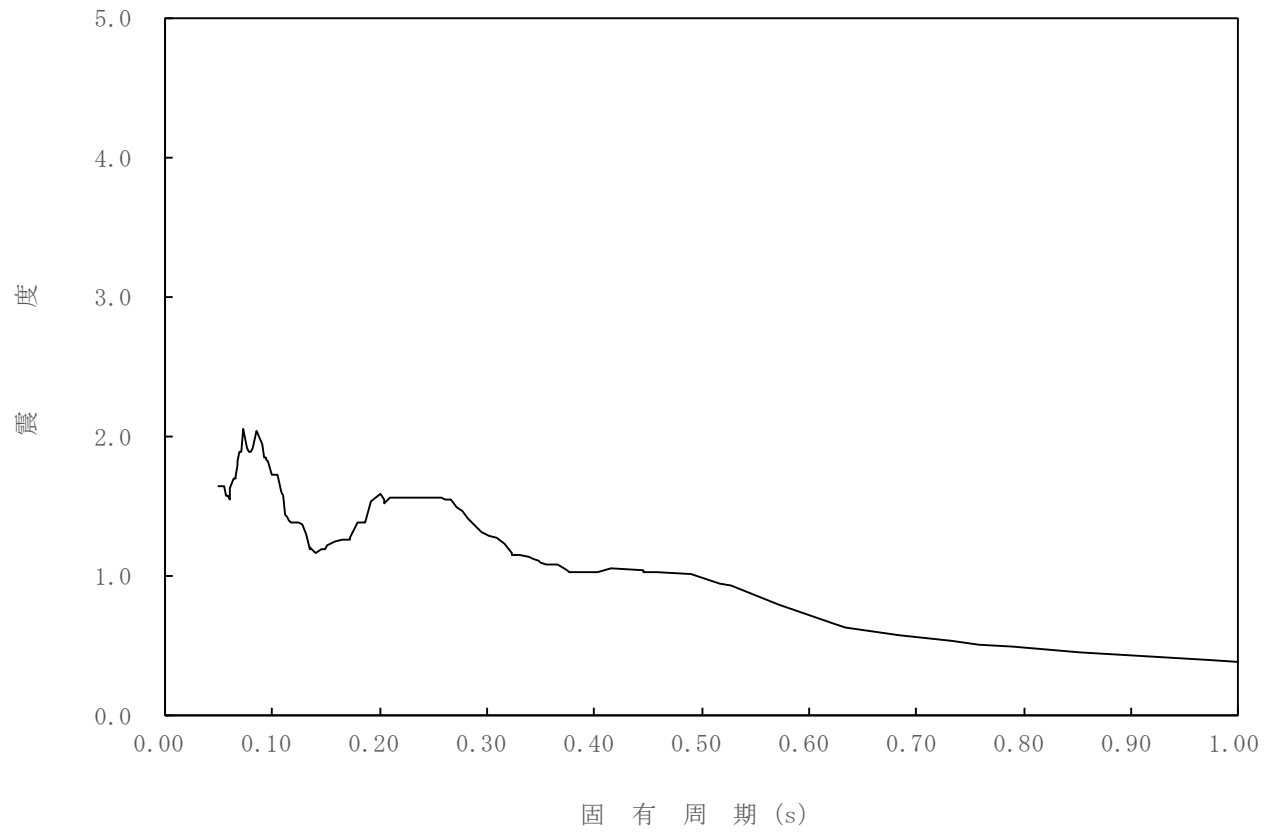
構造物名： 海水ポンプ室

標高： 0.P. -7.025m

— 水平方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdH-SW-9800-005】

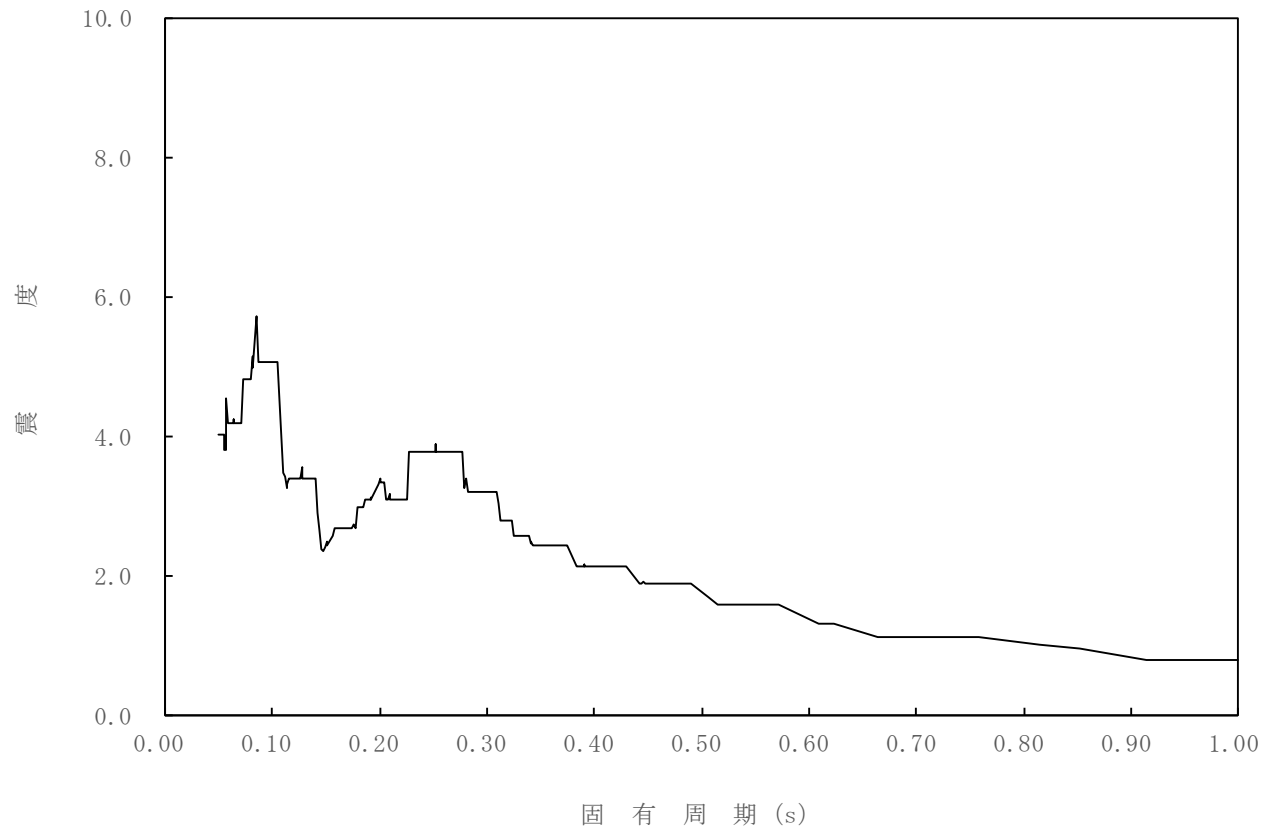
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-9800-010】

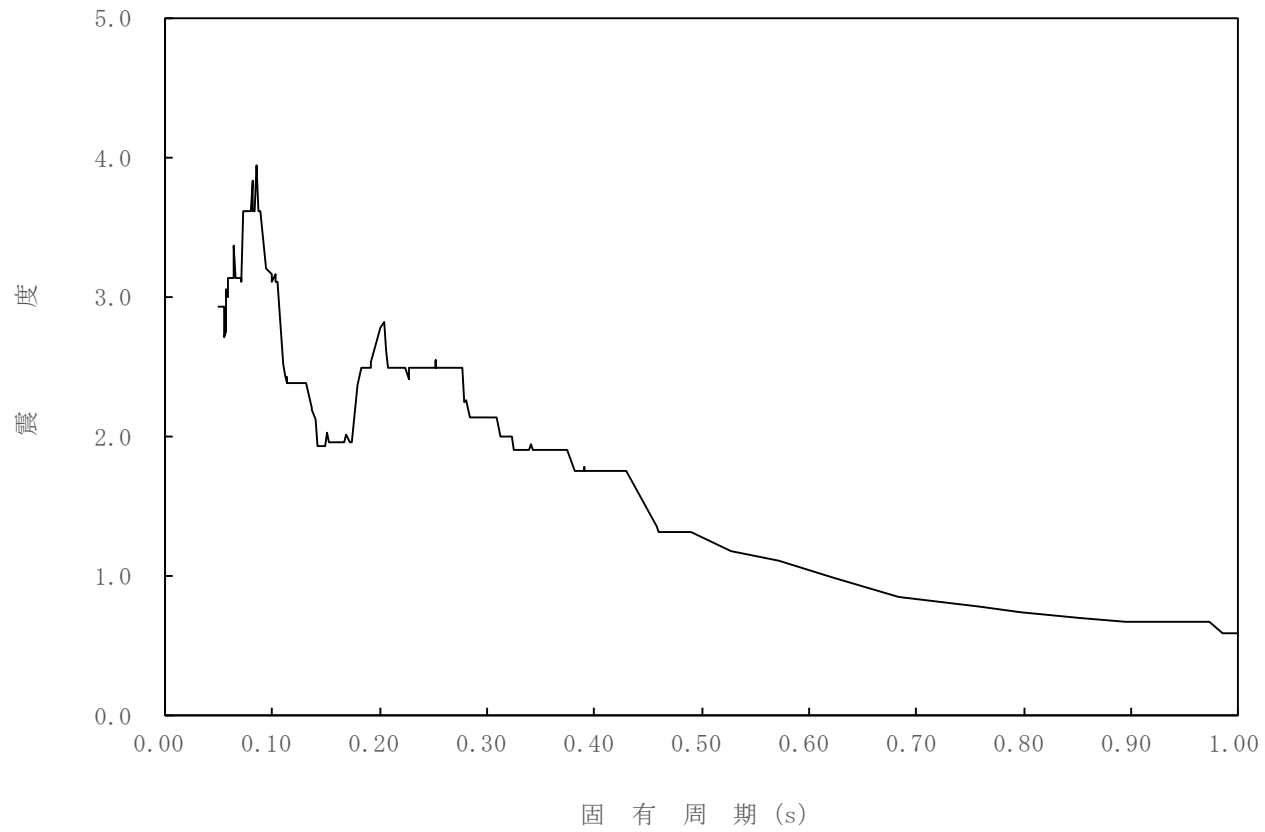
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-9800-015】

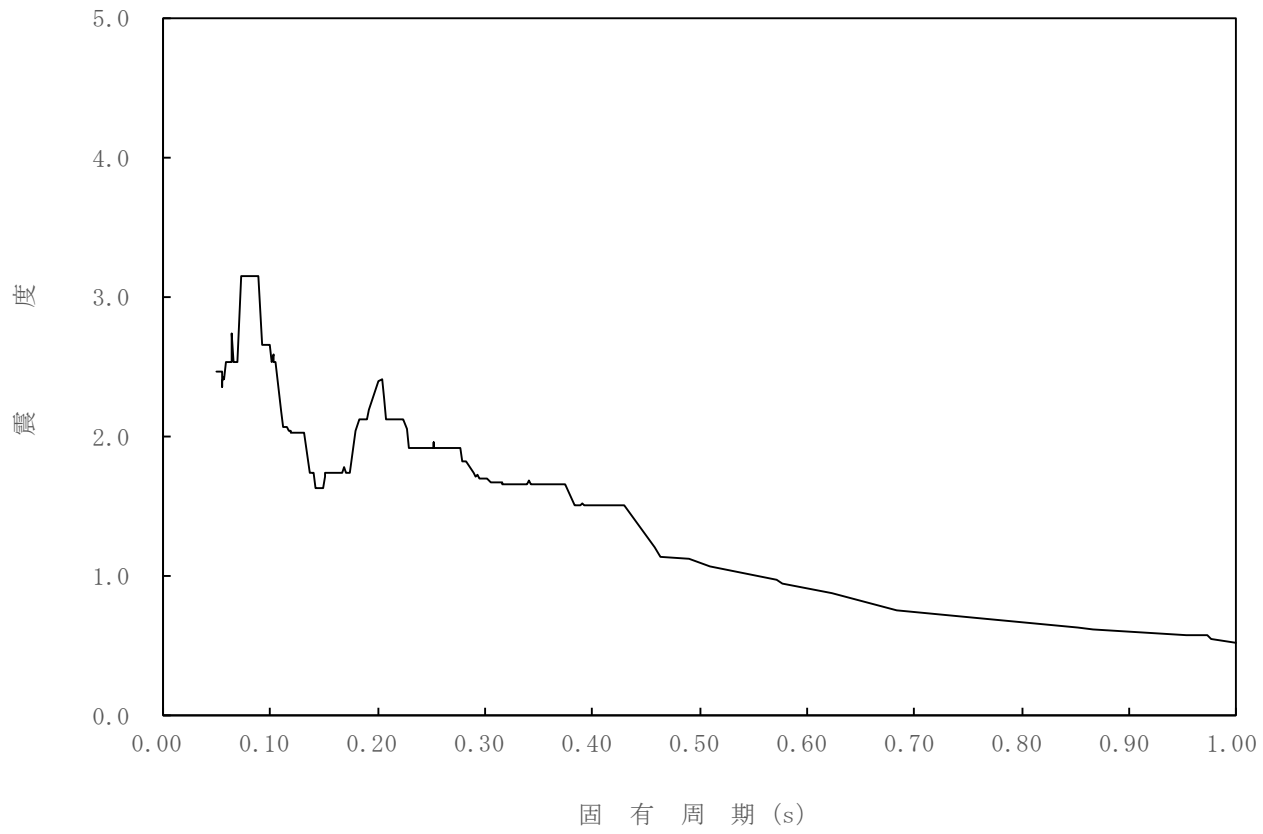
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-9800-020】

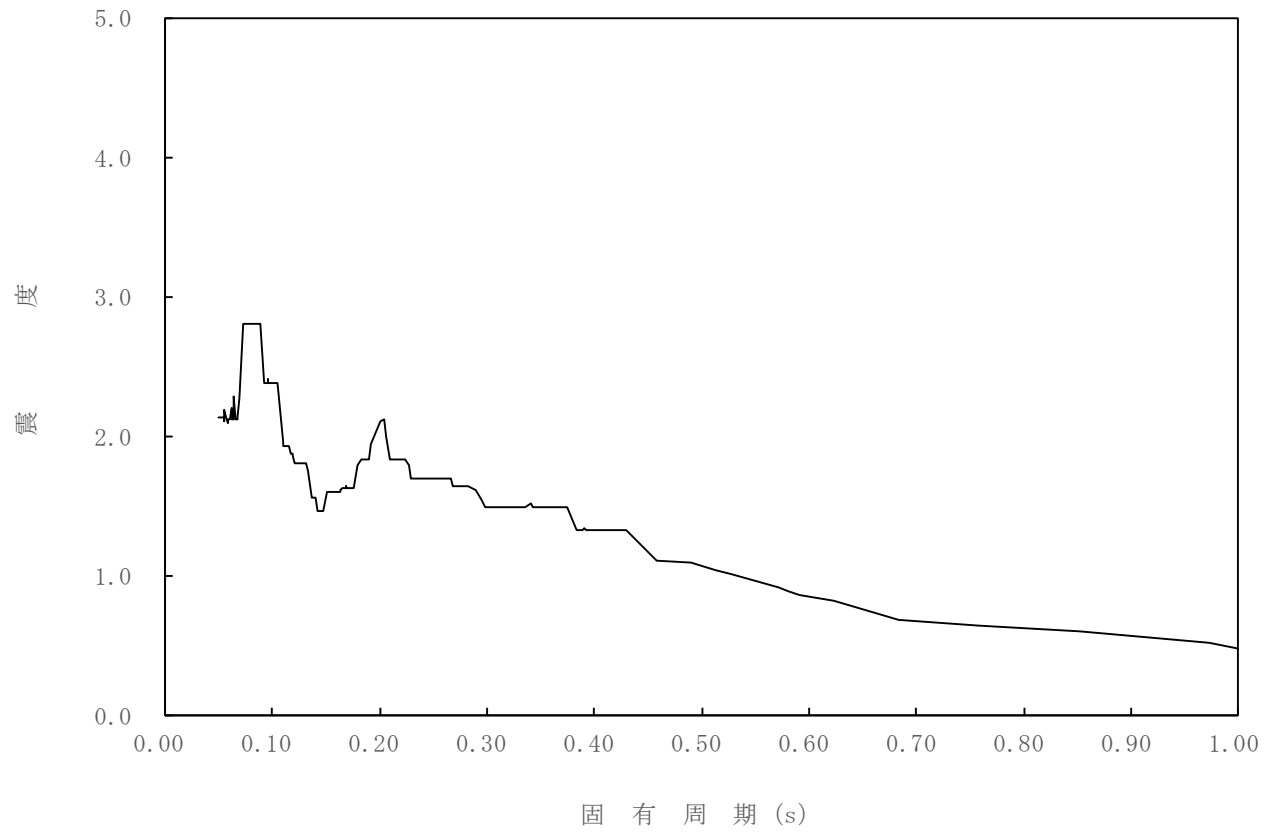
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-9800-025】

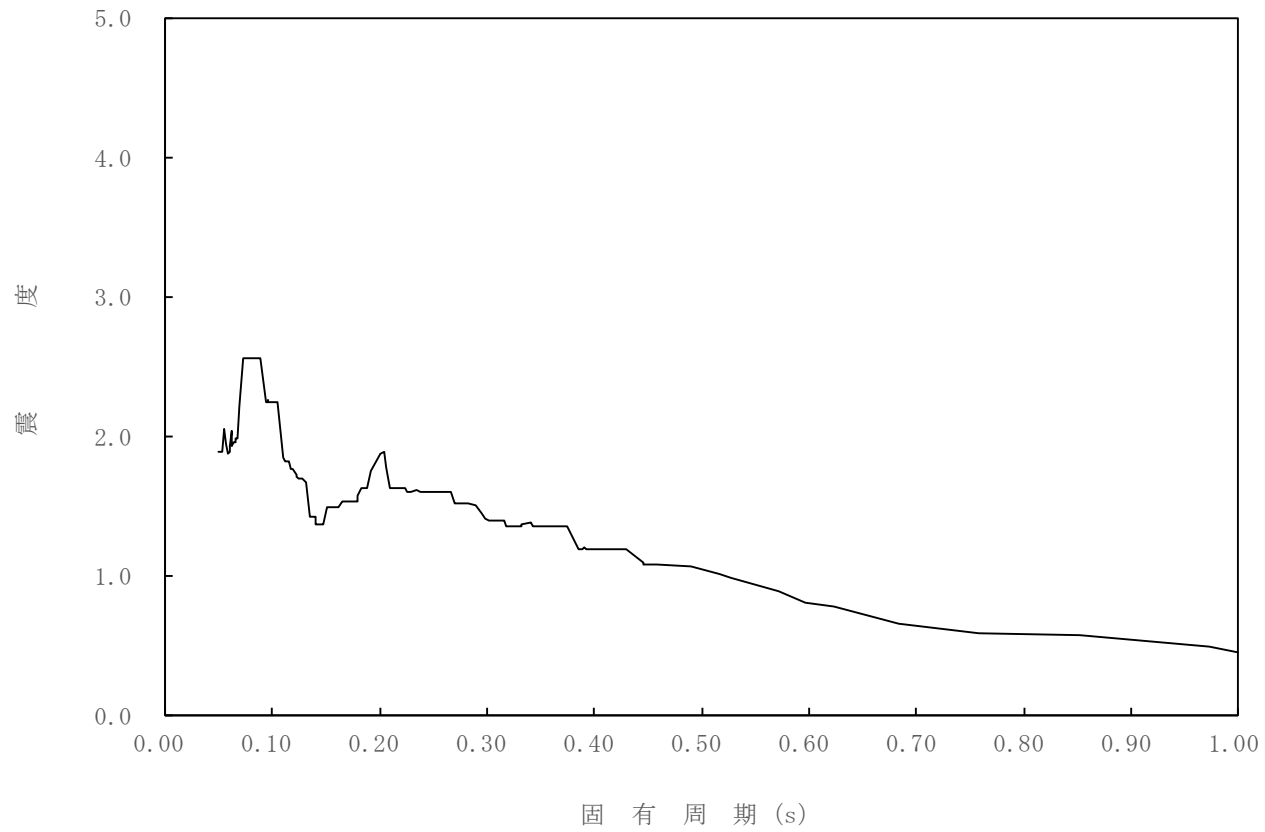
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-9800-030】

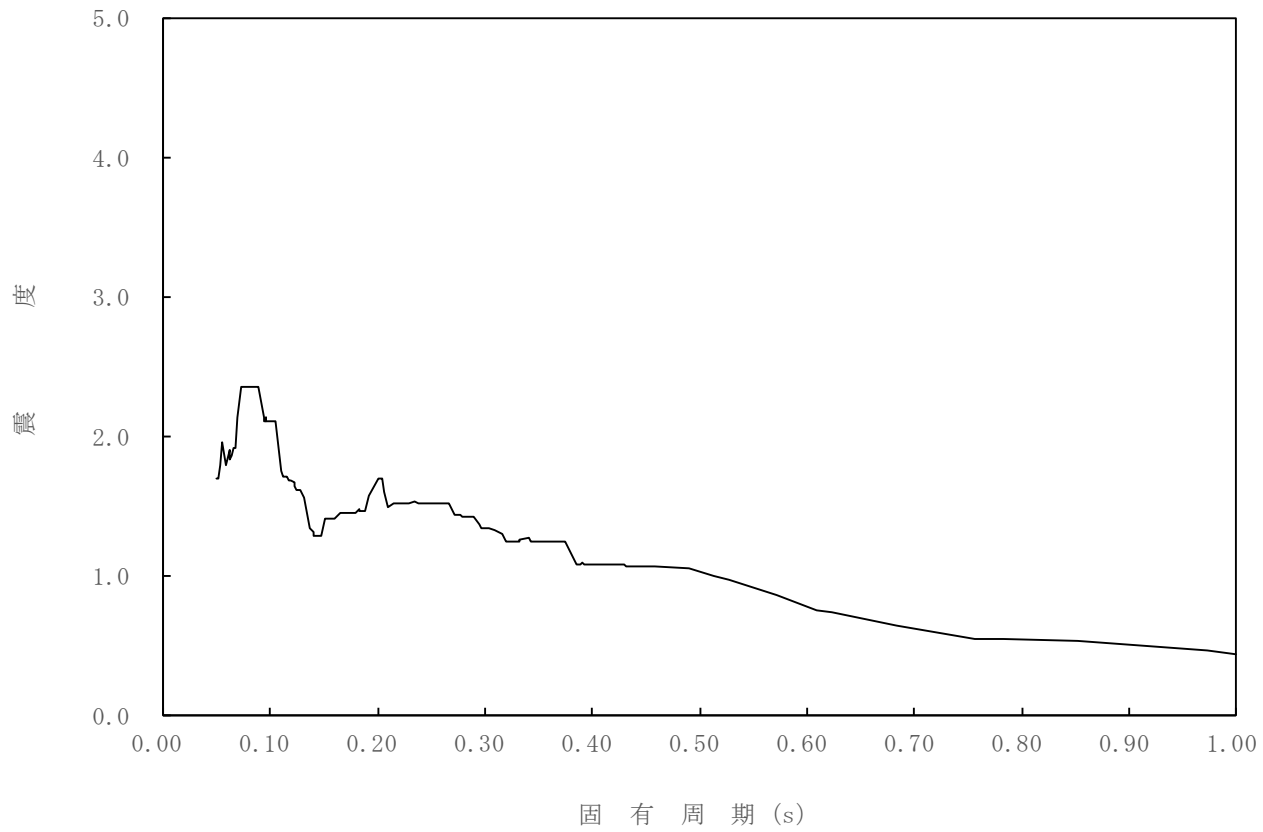
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-9800-040】

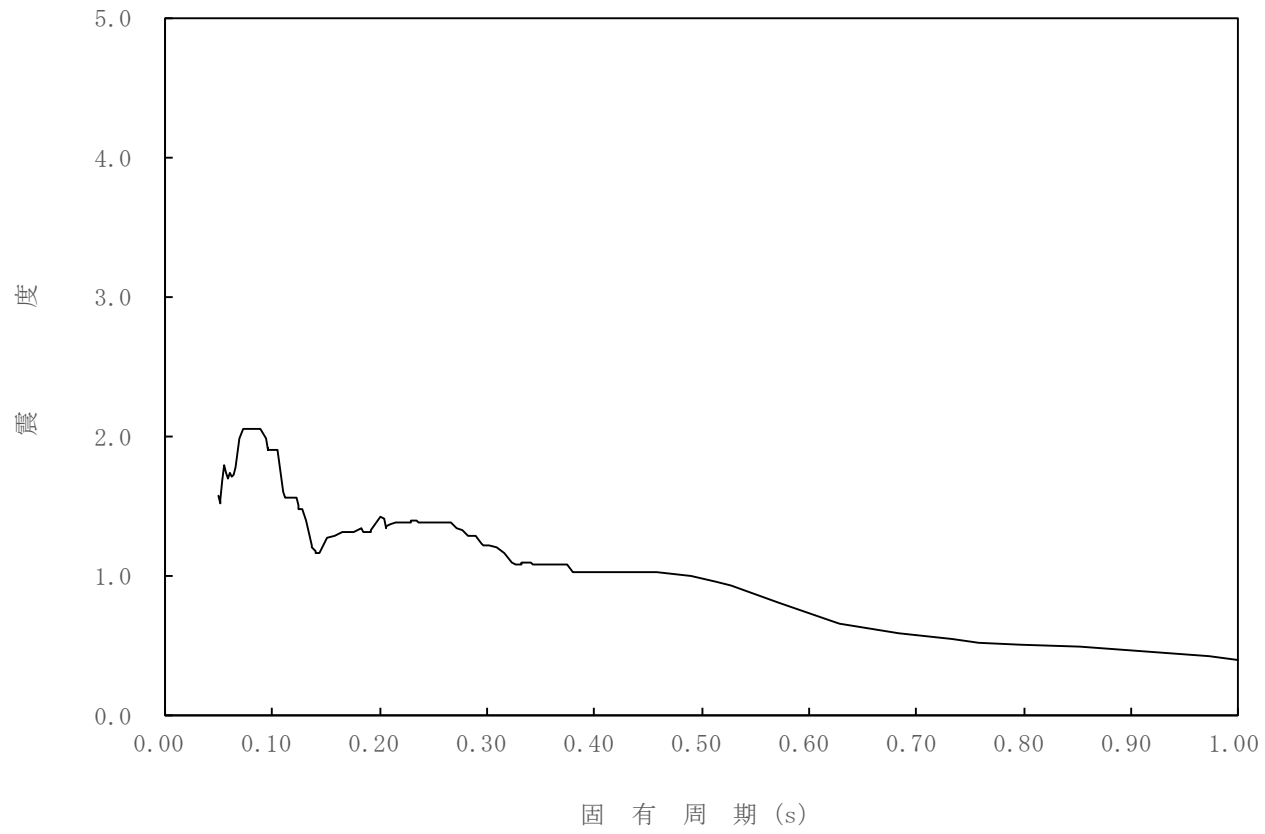
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdH-SW-9800-050】

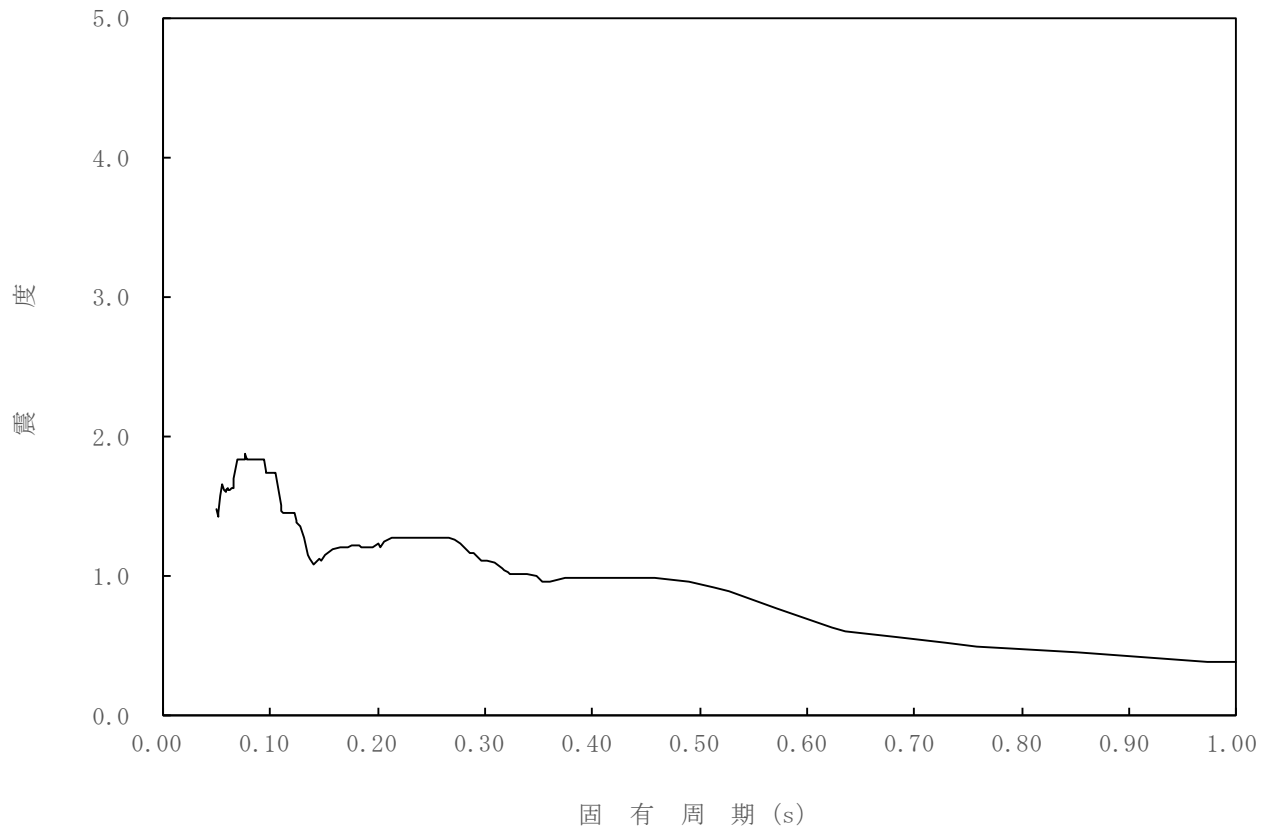
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdV-SW14800-005】

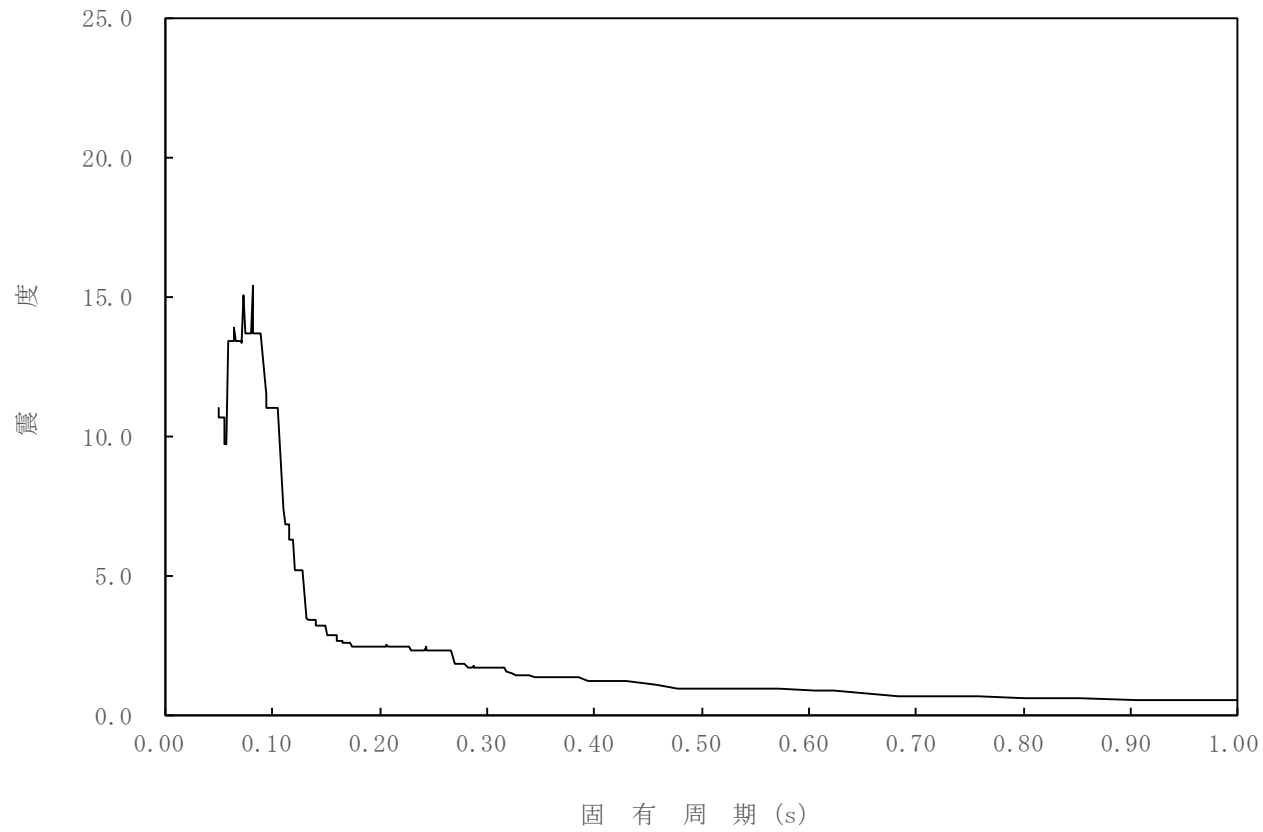
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW14800-010】

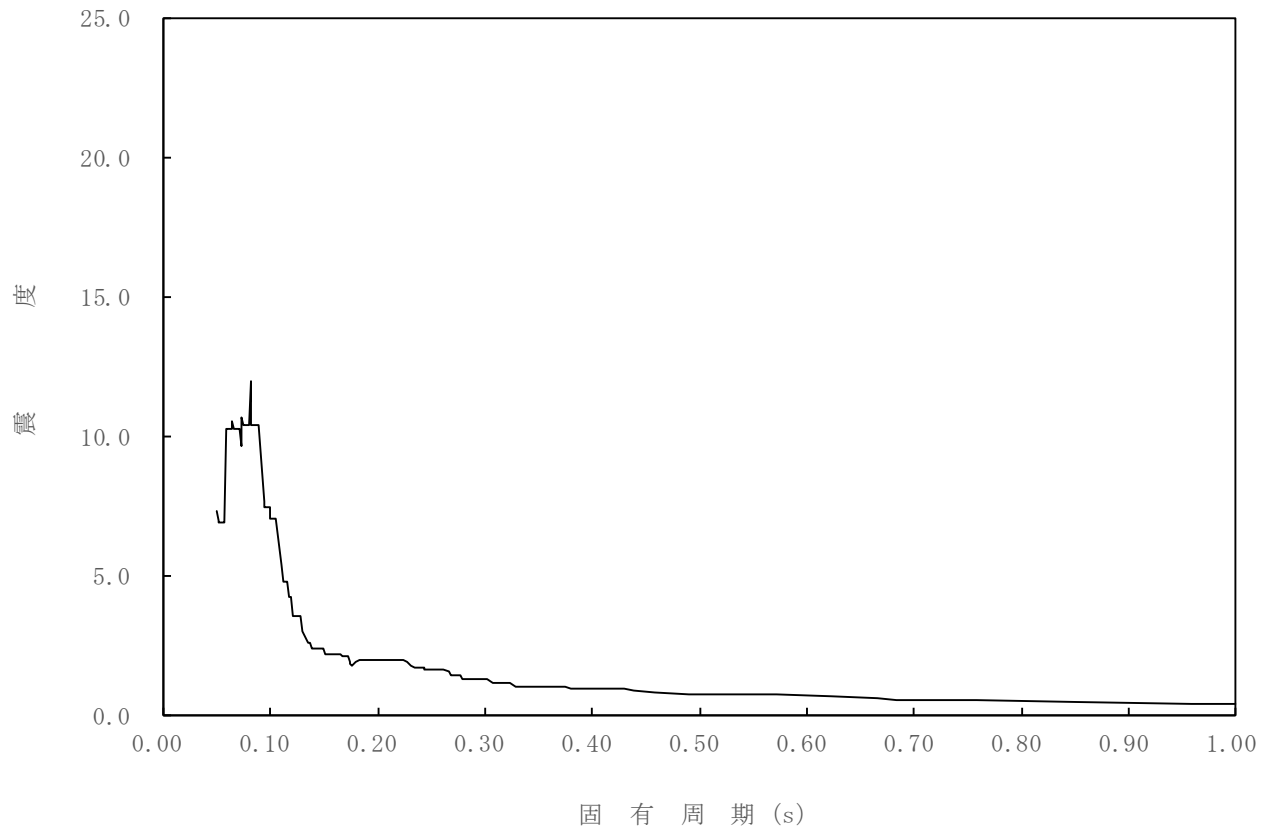
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW14800-015】

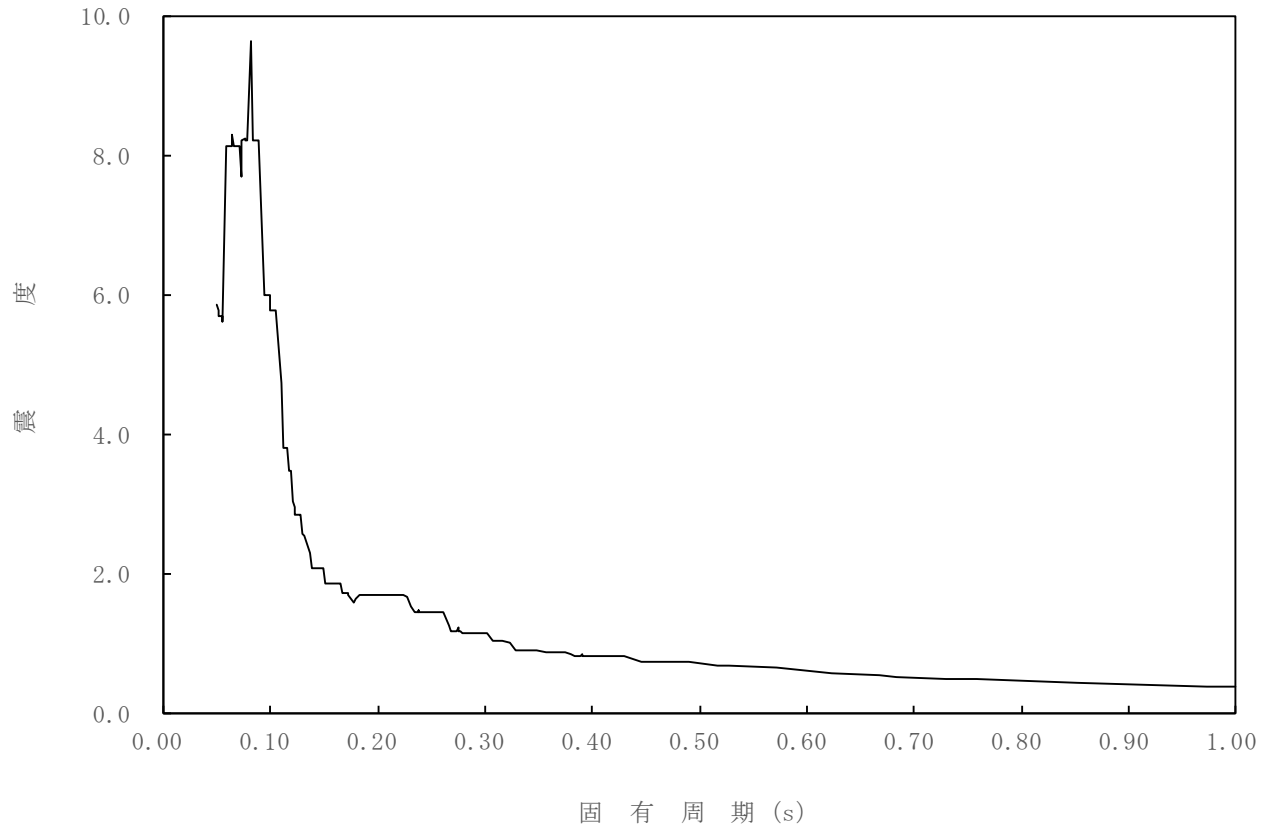
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW14800-020】

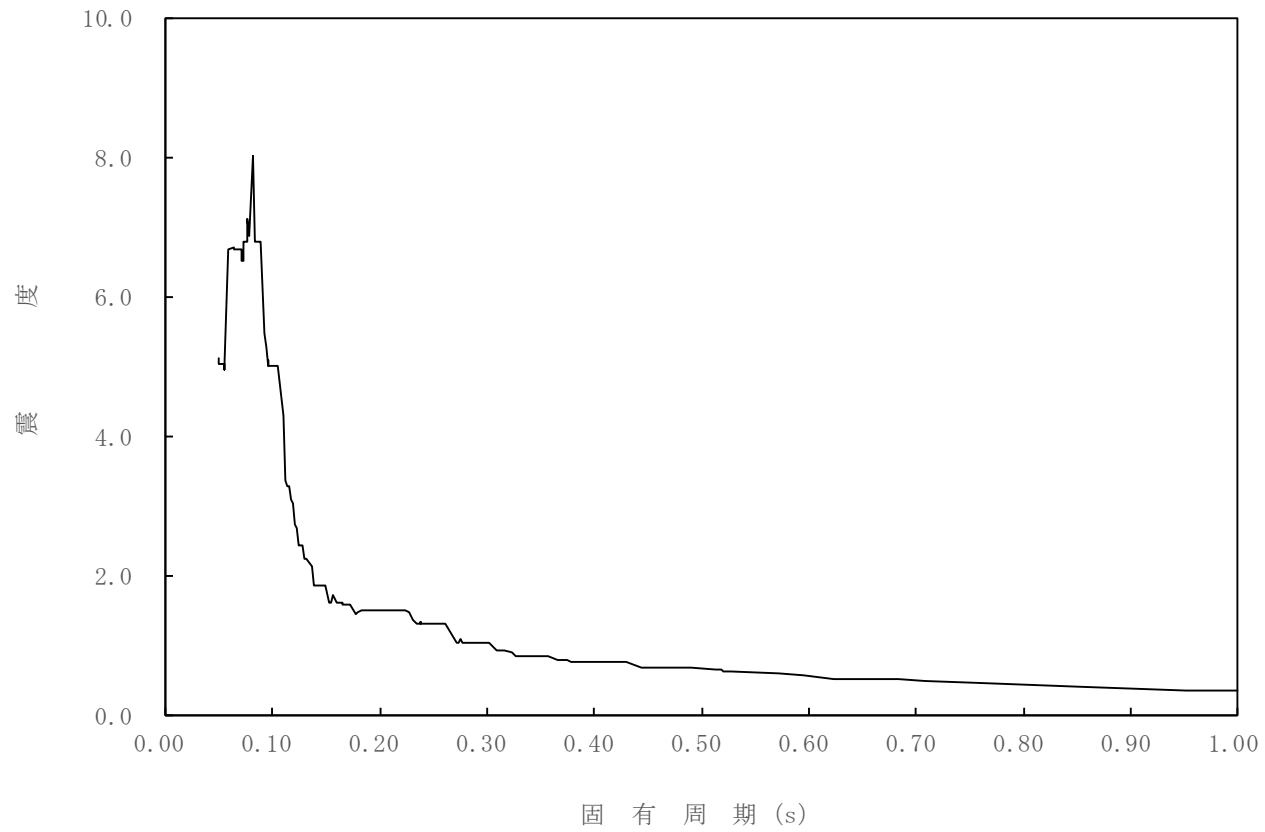
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW14800-025】

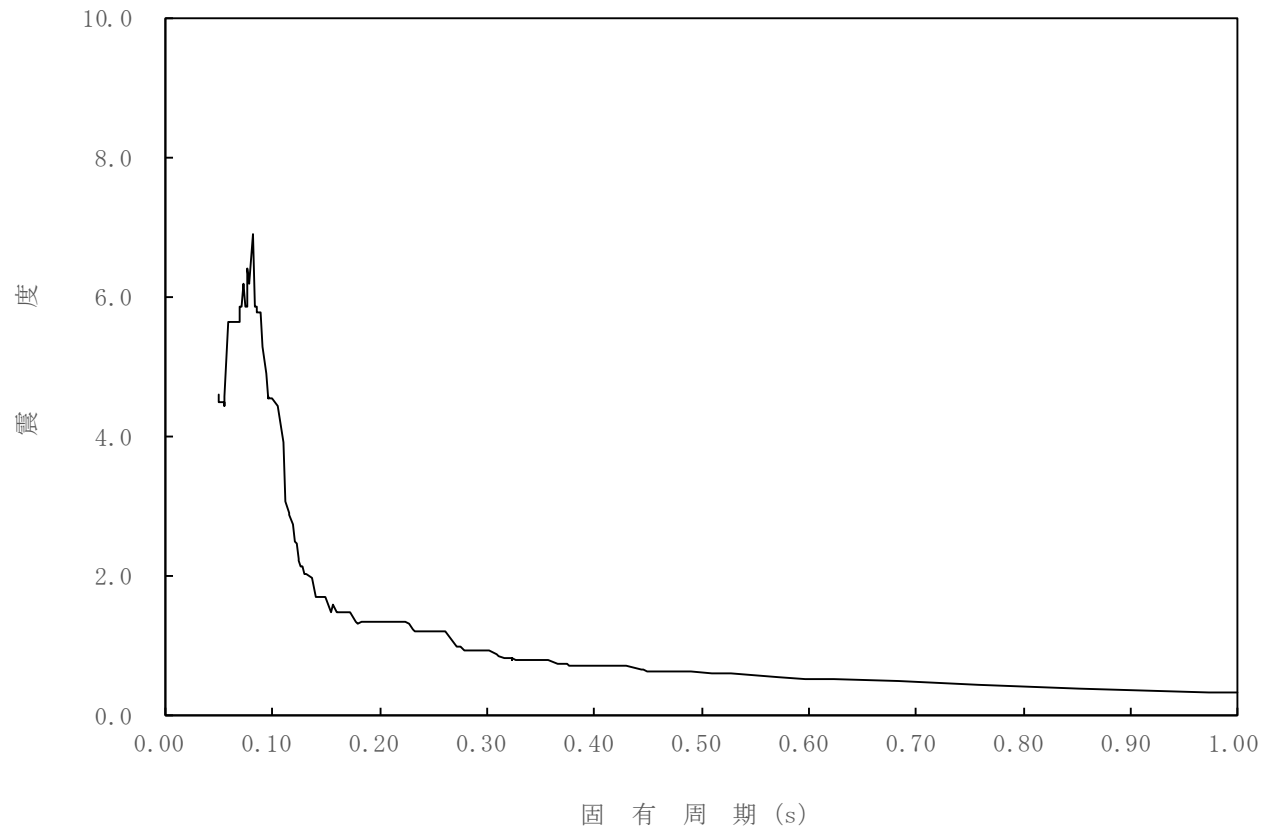
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW14800-030】

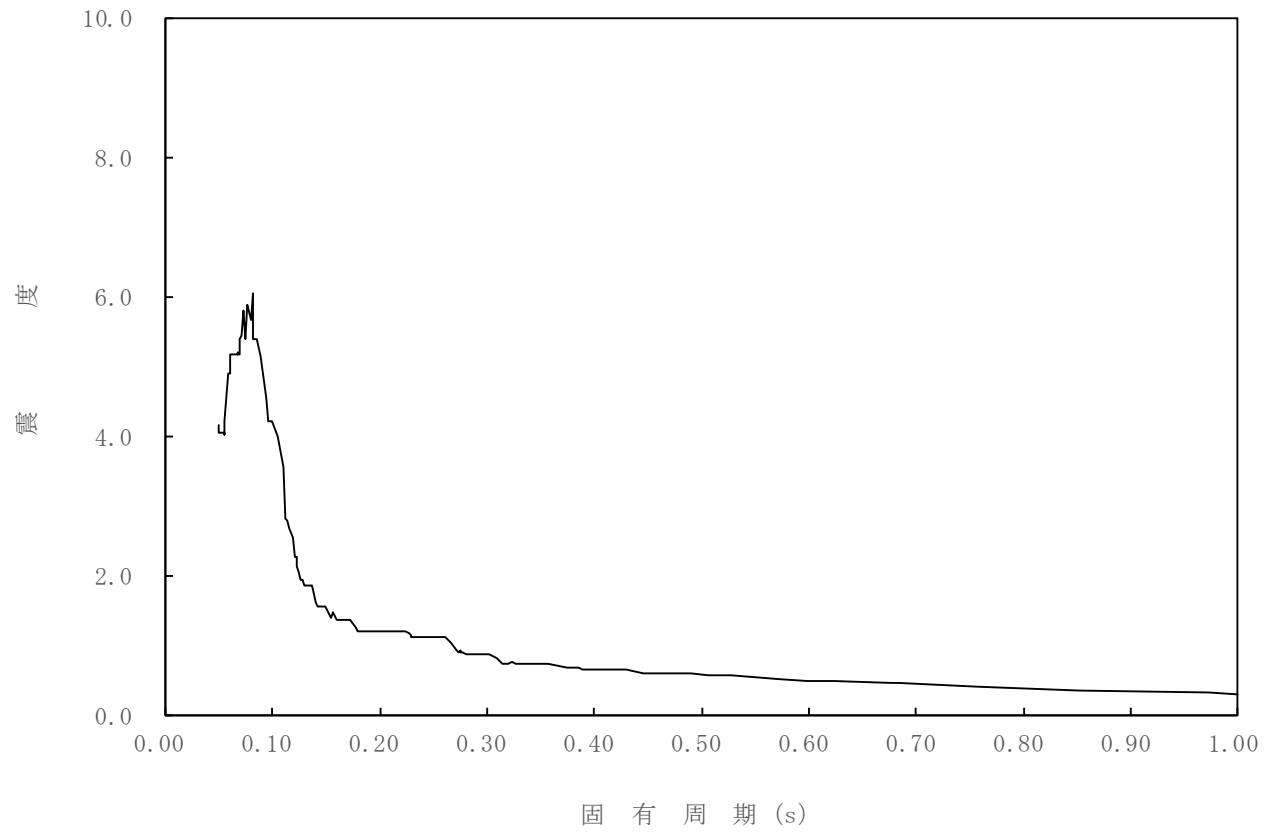
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW14800-050】

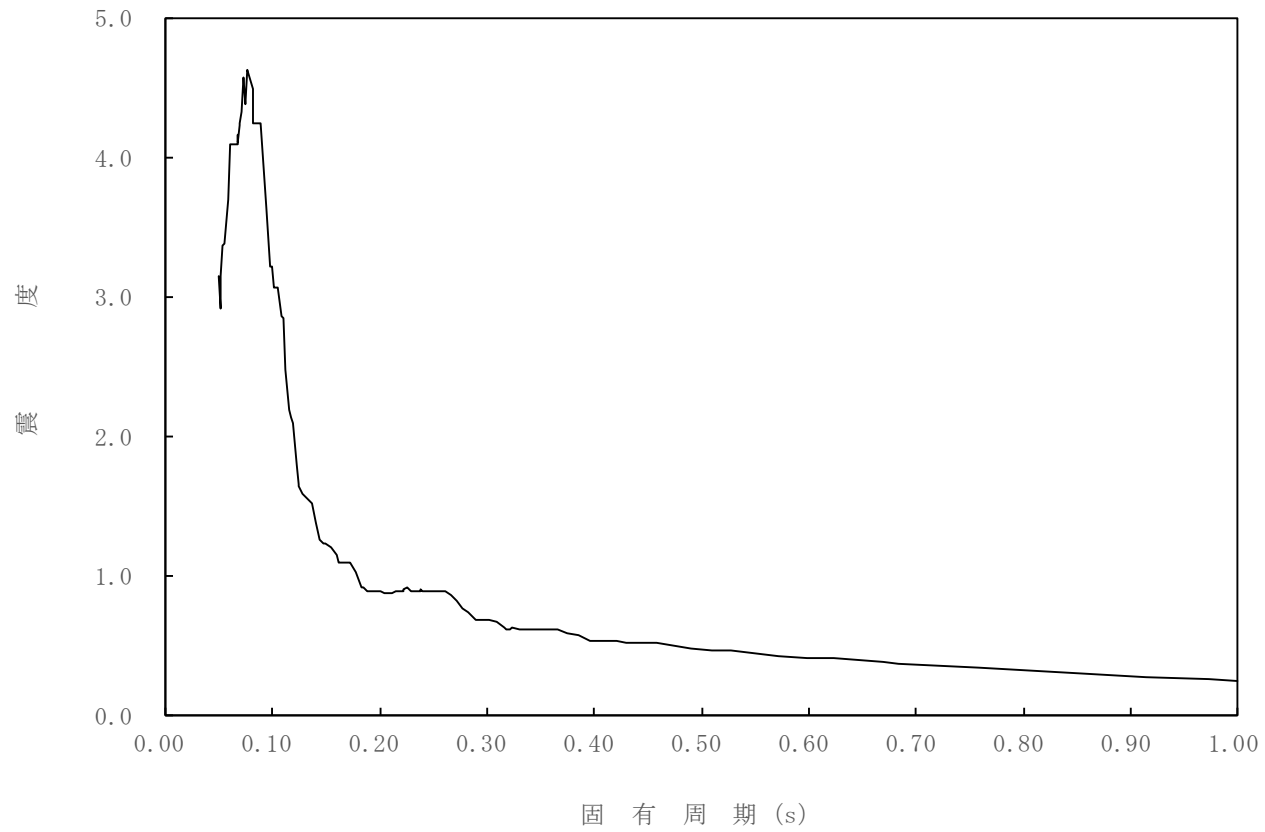
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW11025-005】

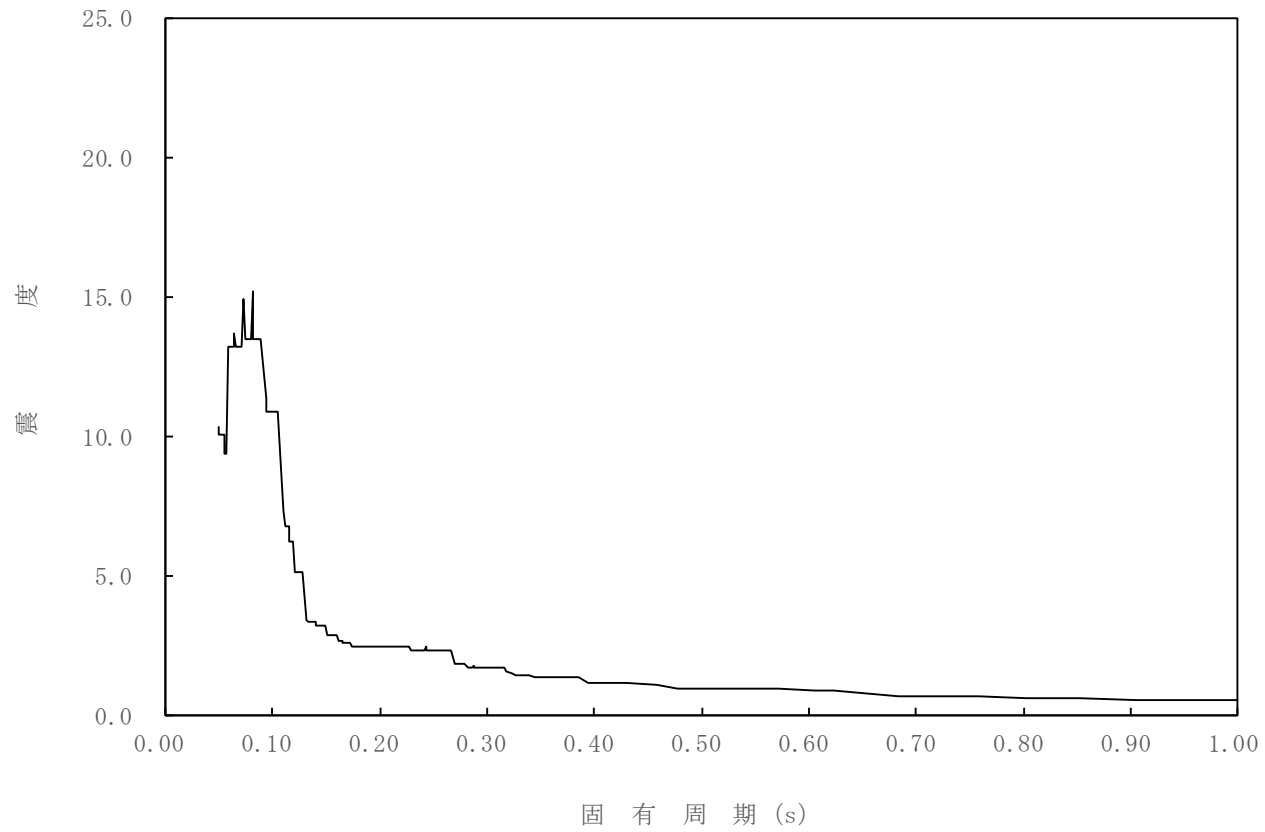
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 11.025m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdV-SW11025-010】

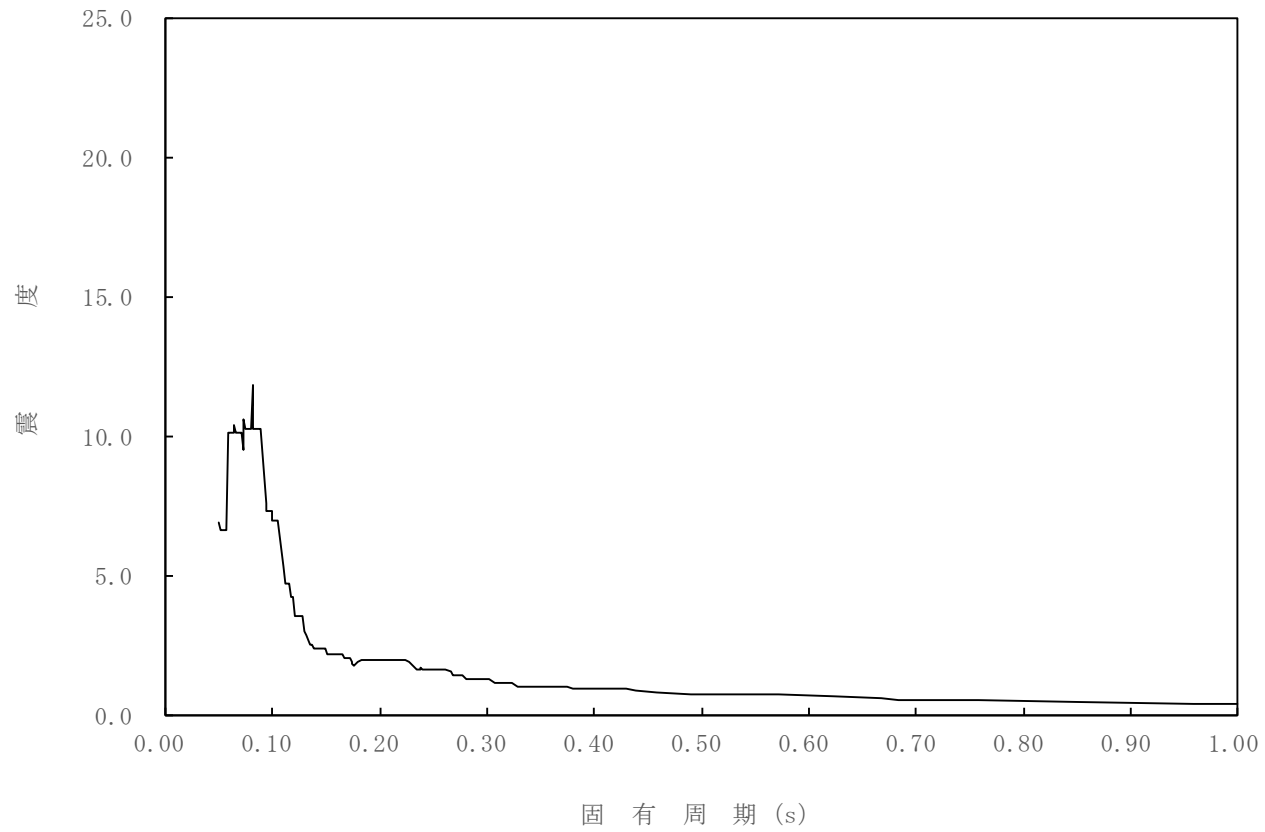
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW11025-015】

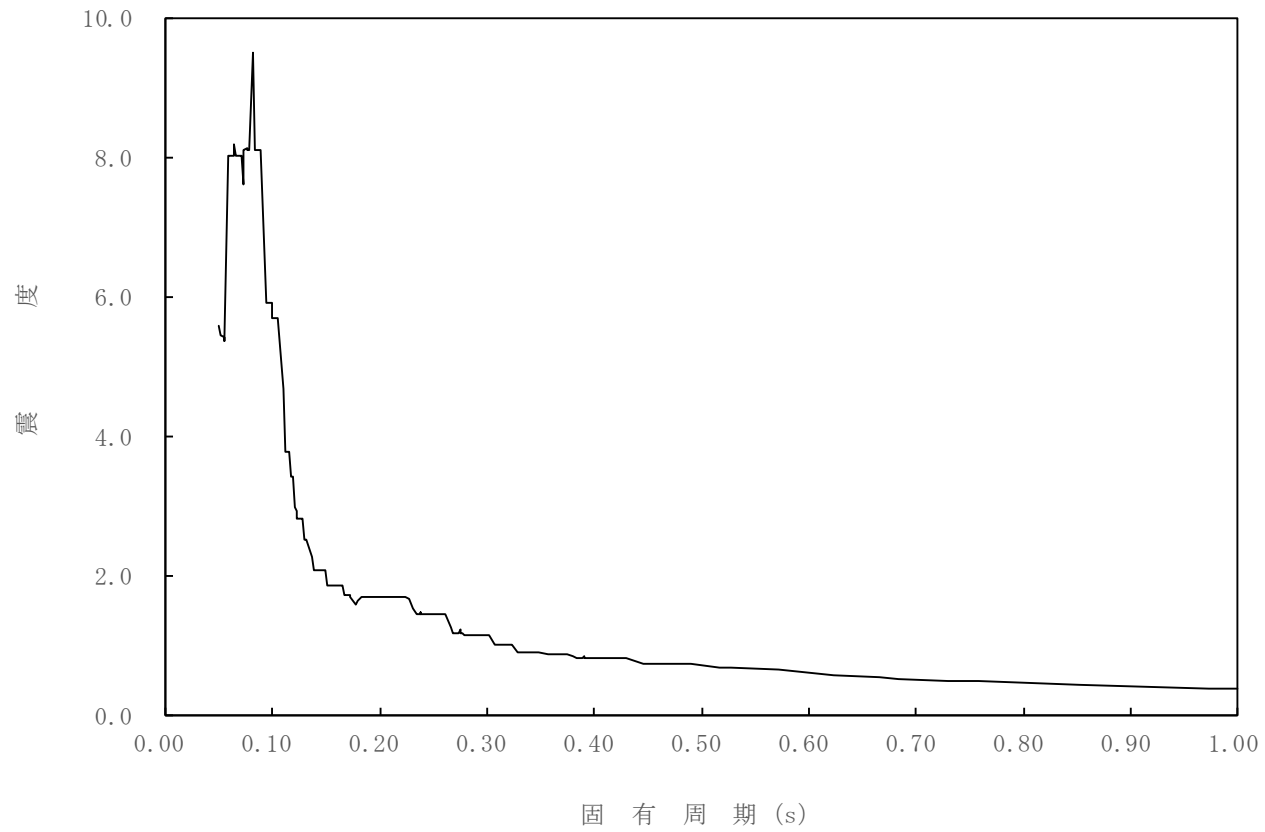
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW11025-020】

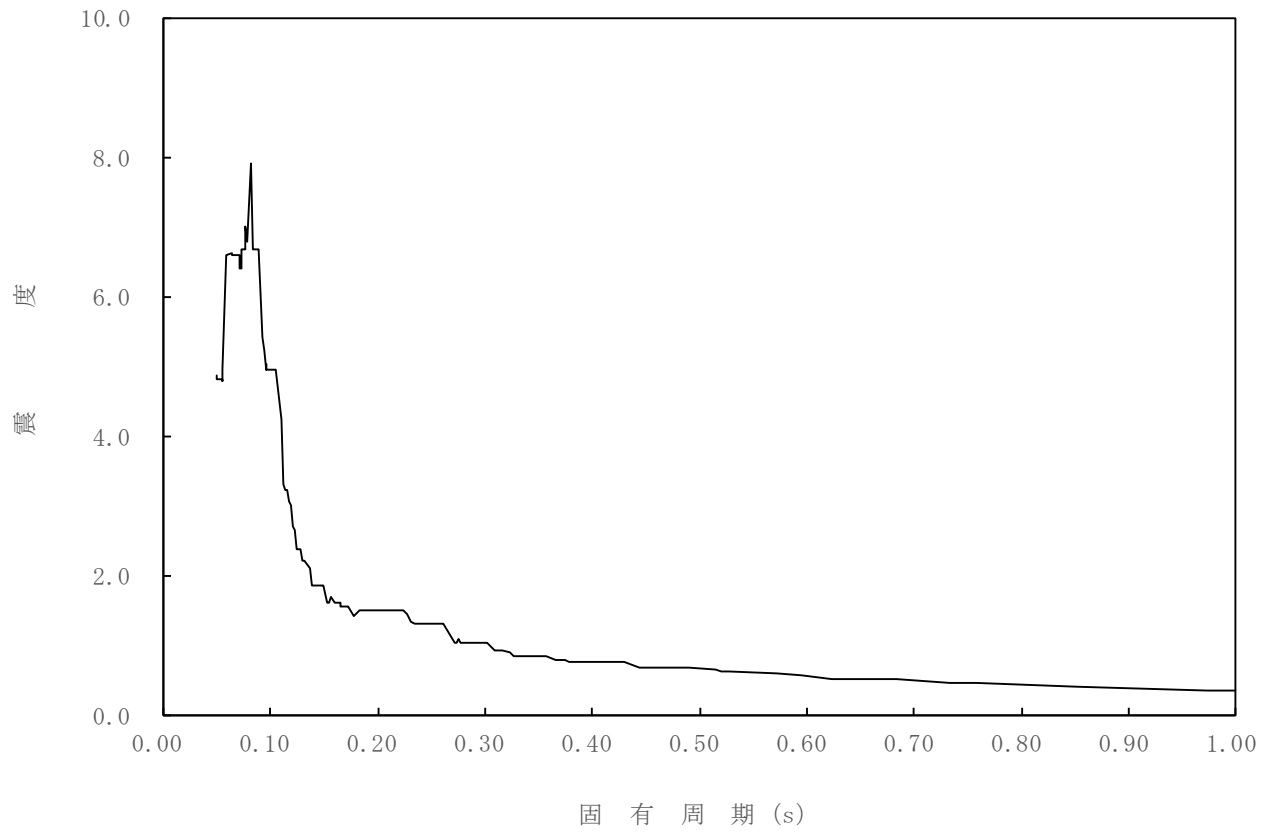
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW11025-025】

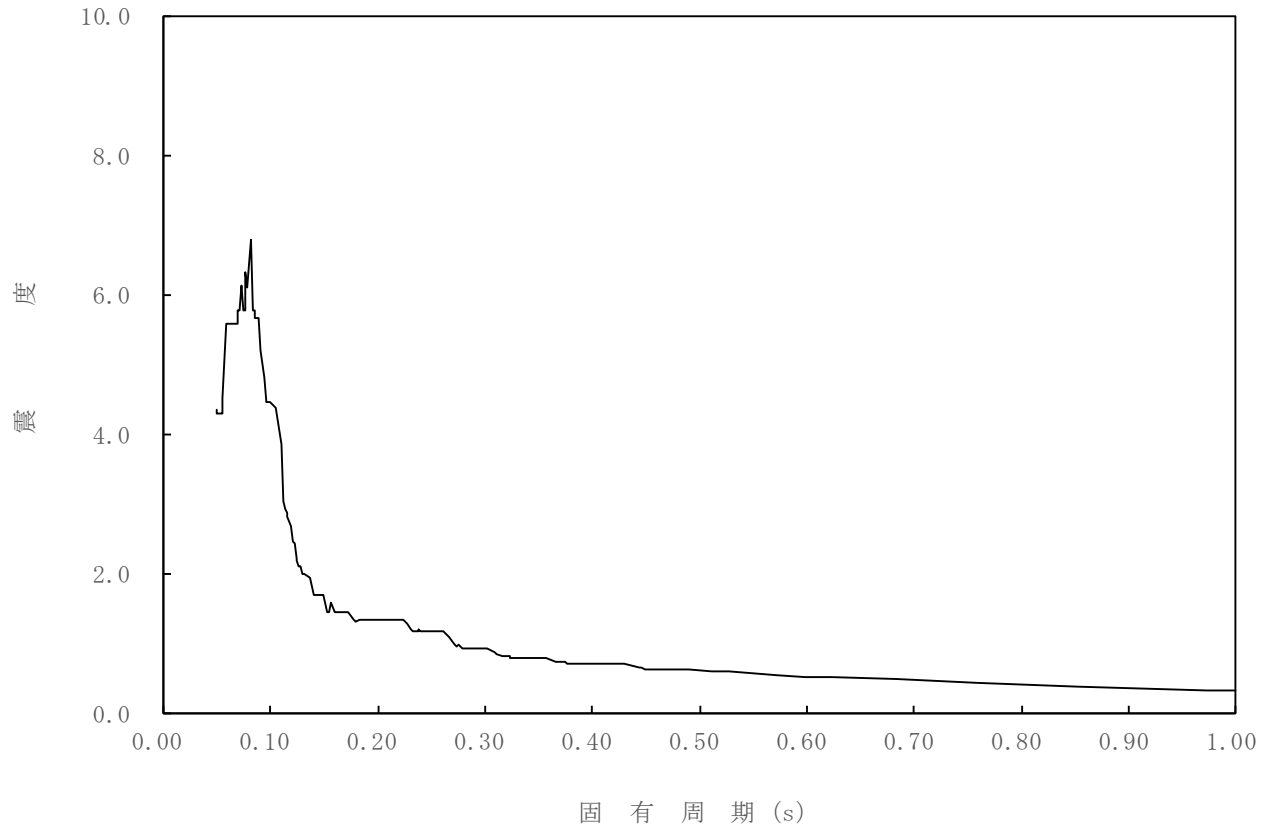
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW11025-030】

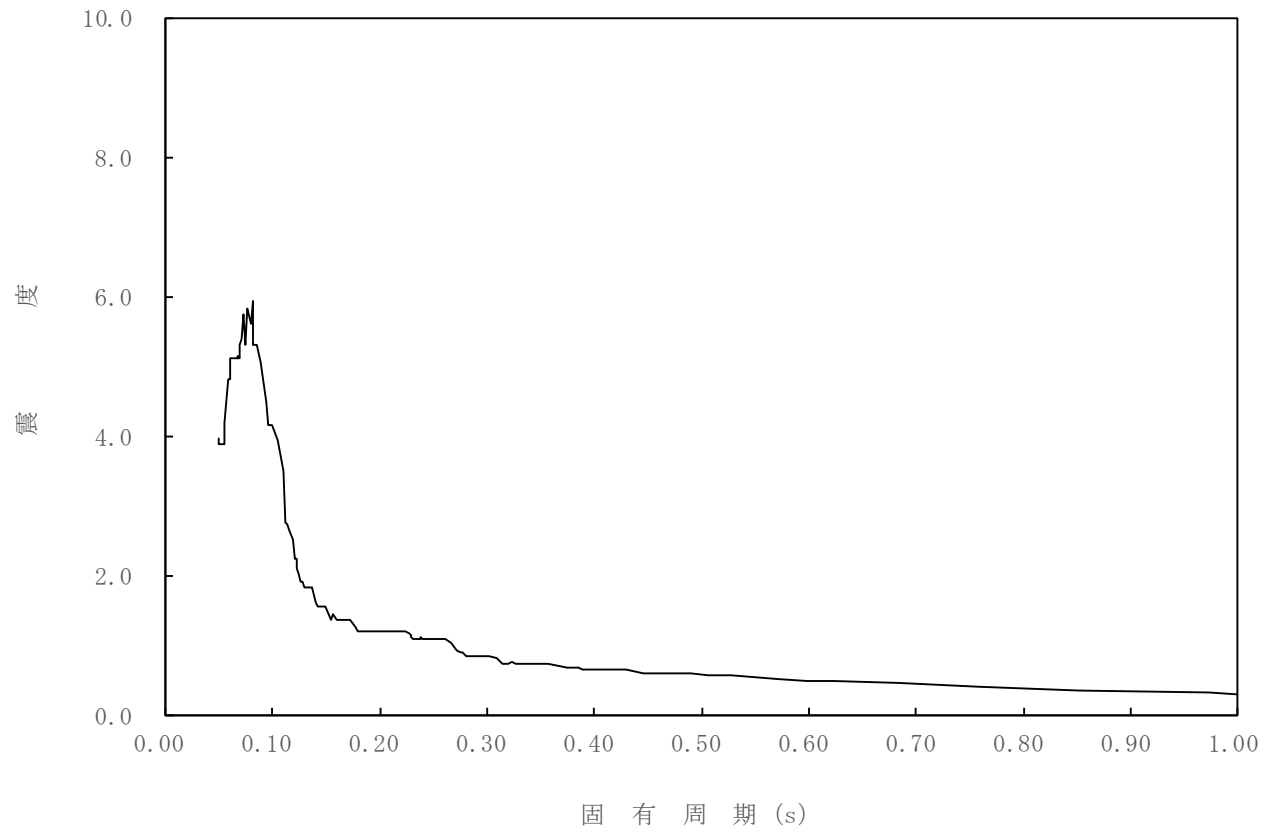
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW11025-050】

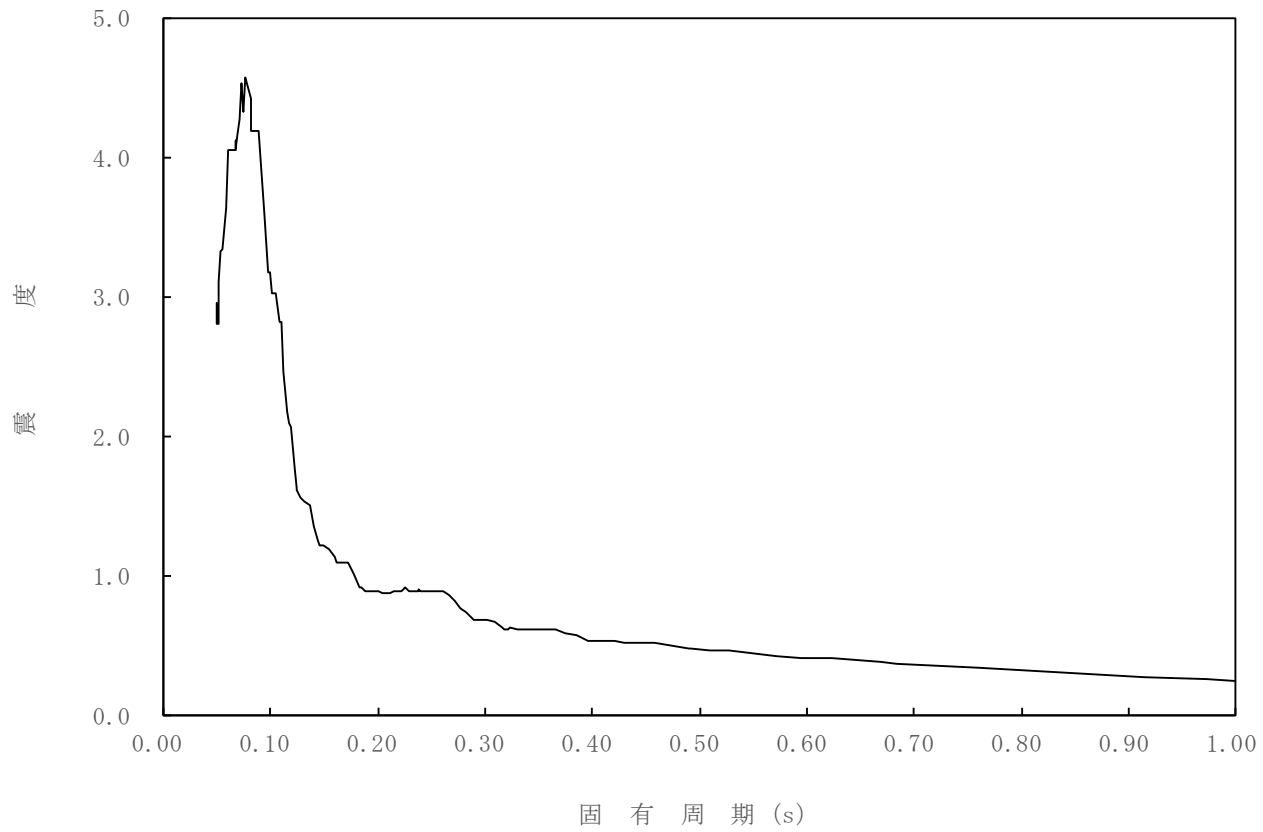
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 11.025m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW7250-005】

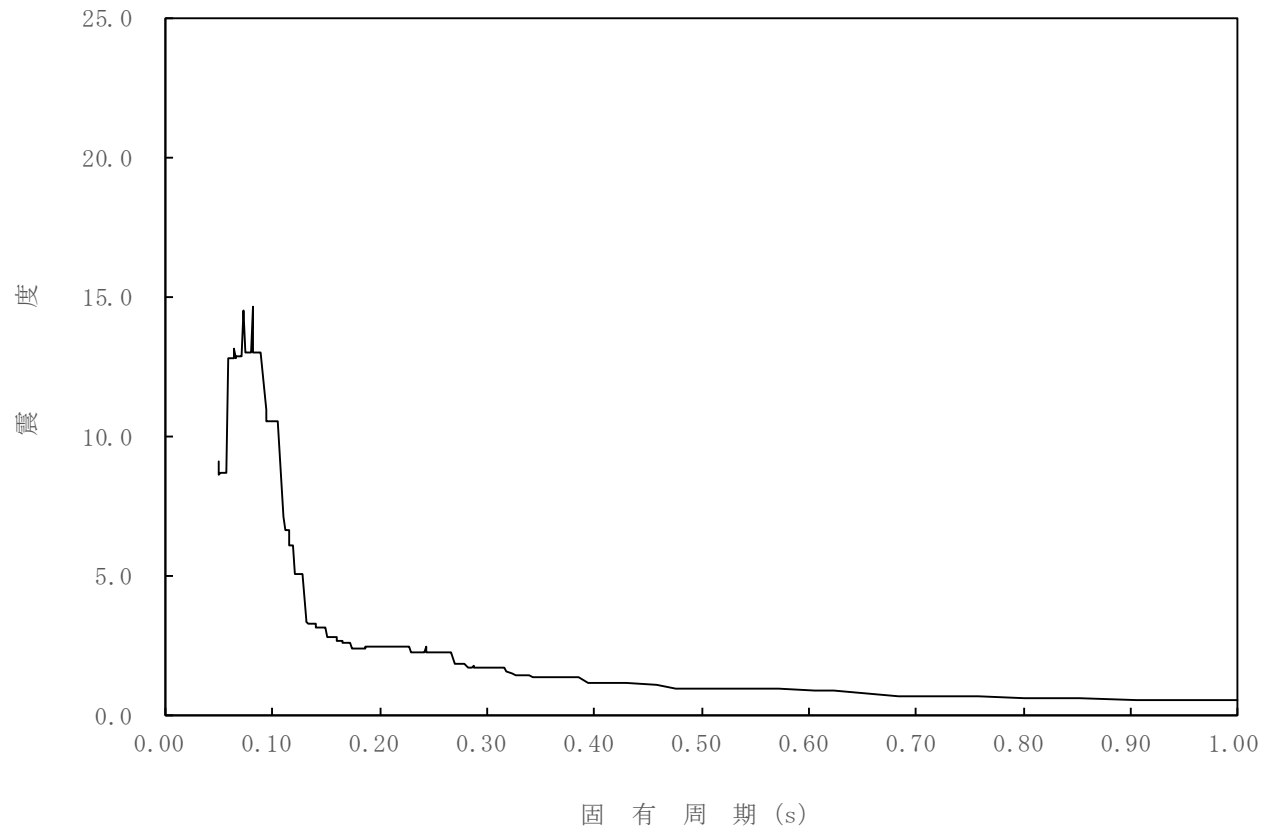
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW7250-010】

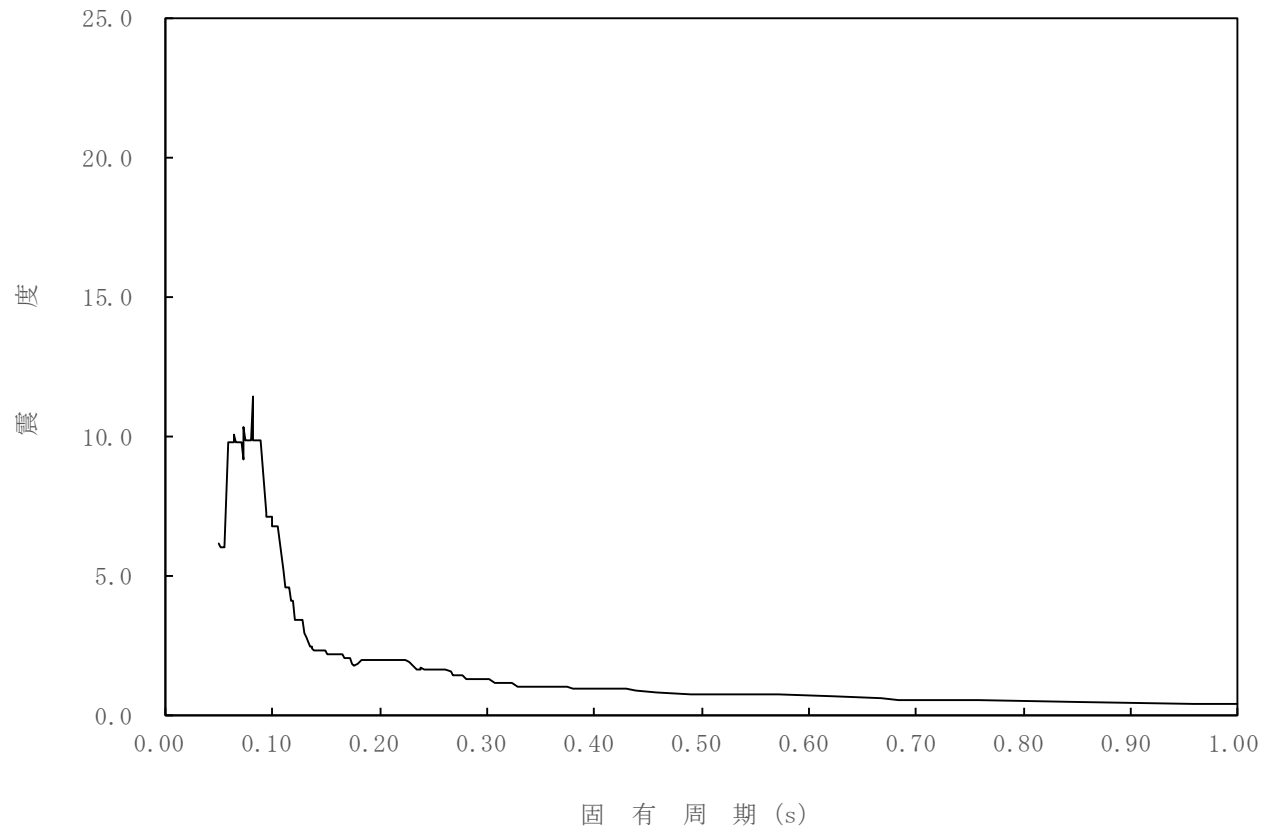
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdV-SW7250-015】

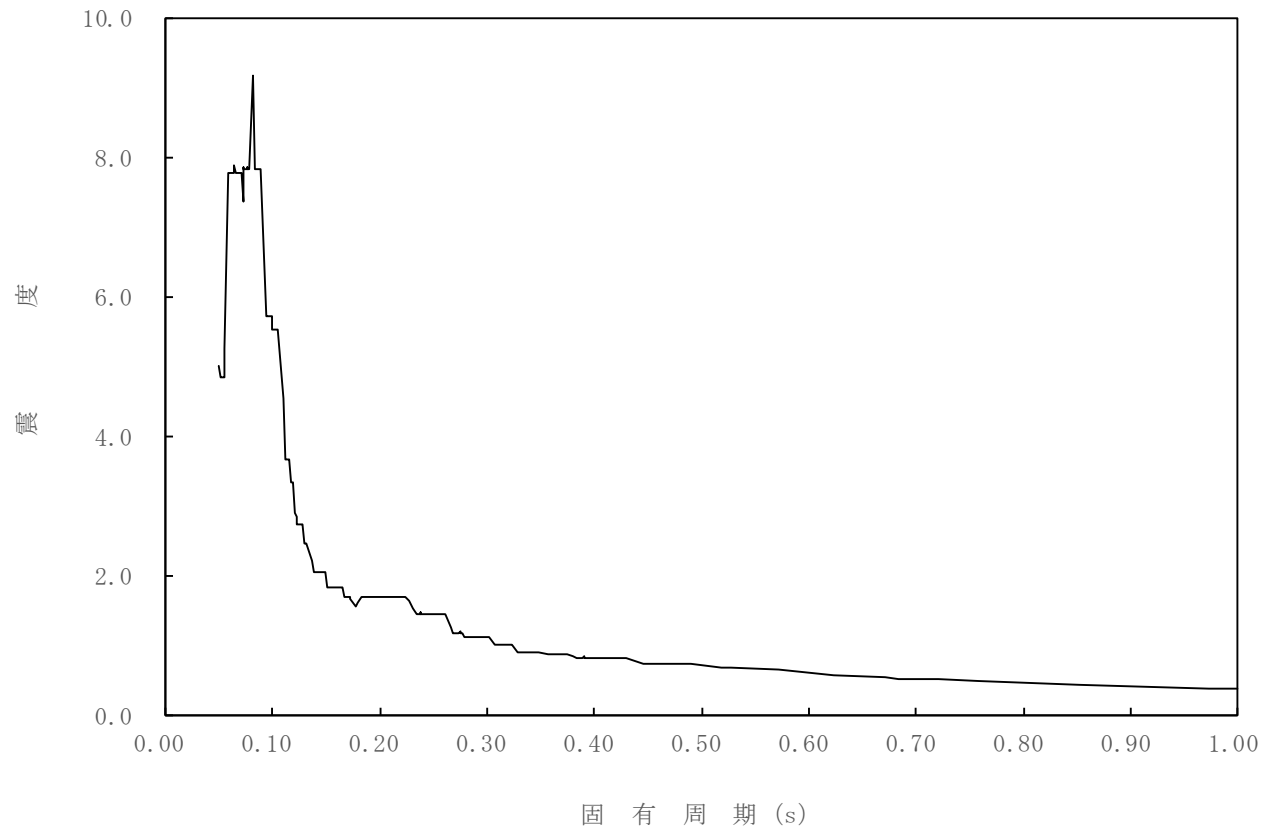
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW7250-020】

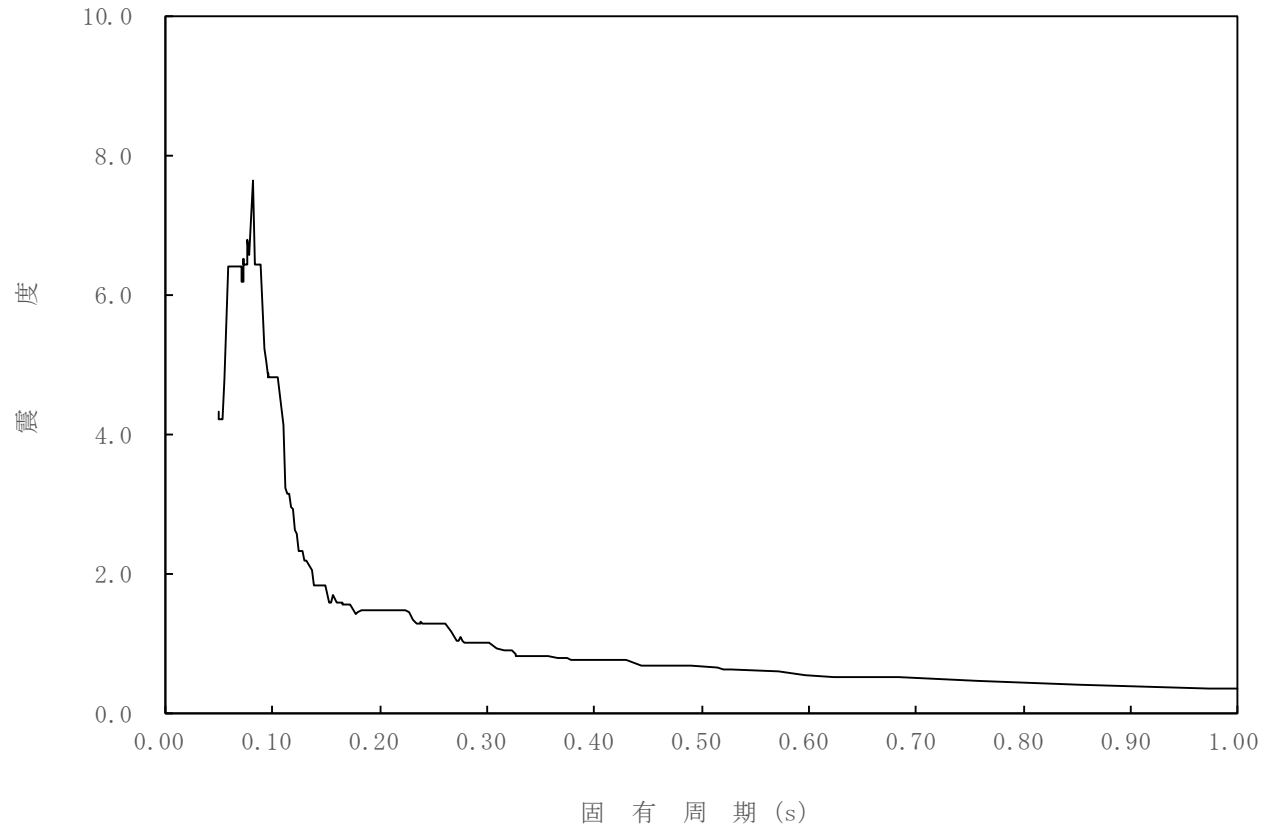
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW7250-025】

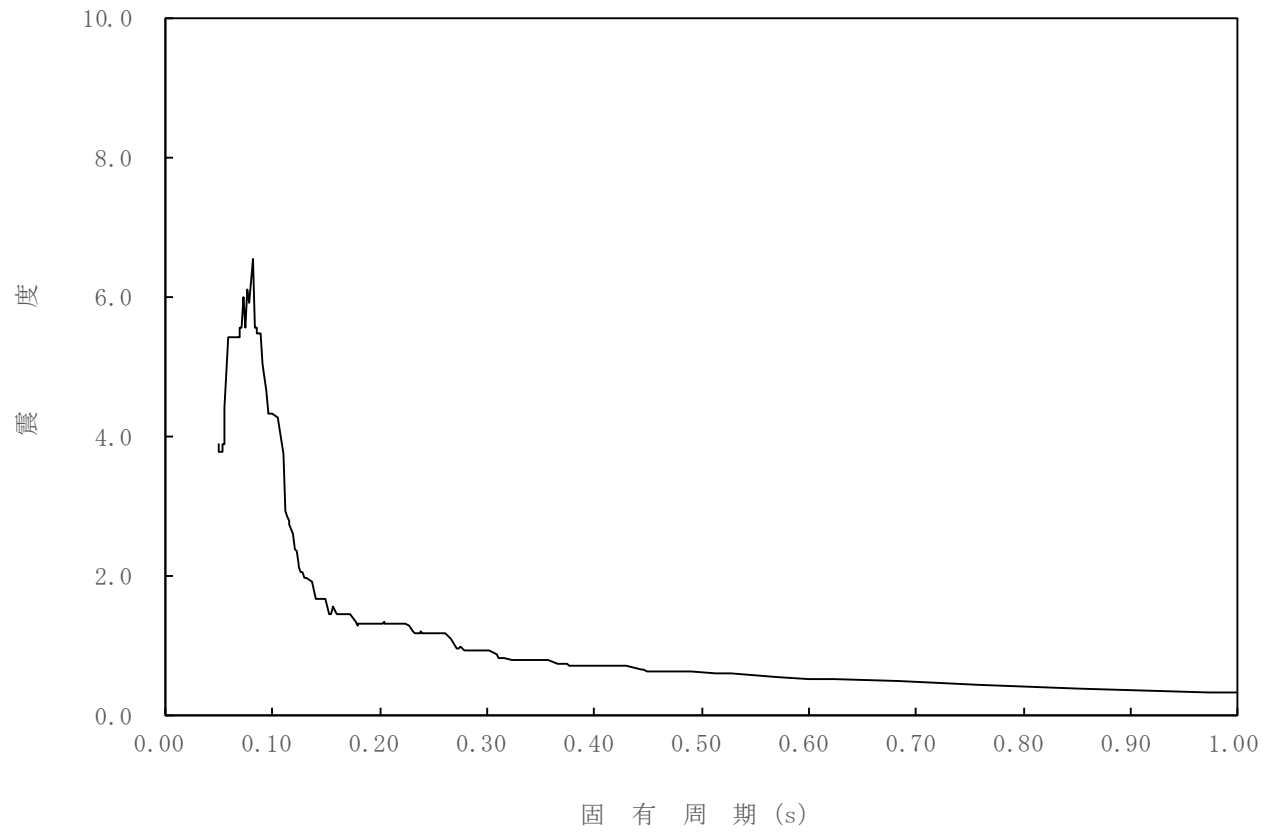
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW7250-030】

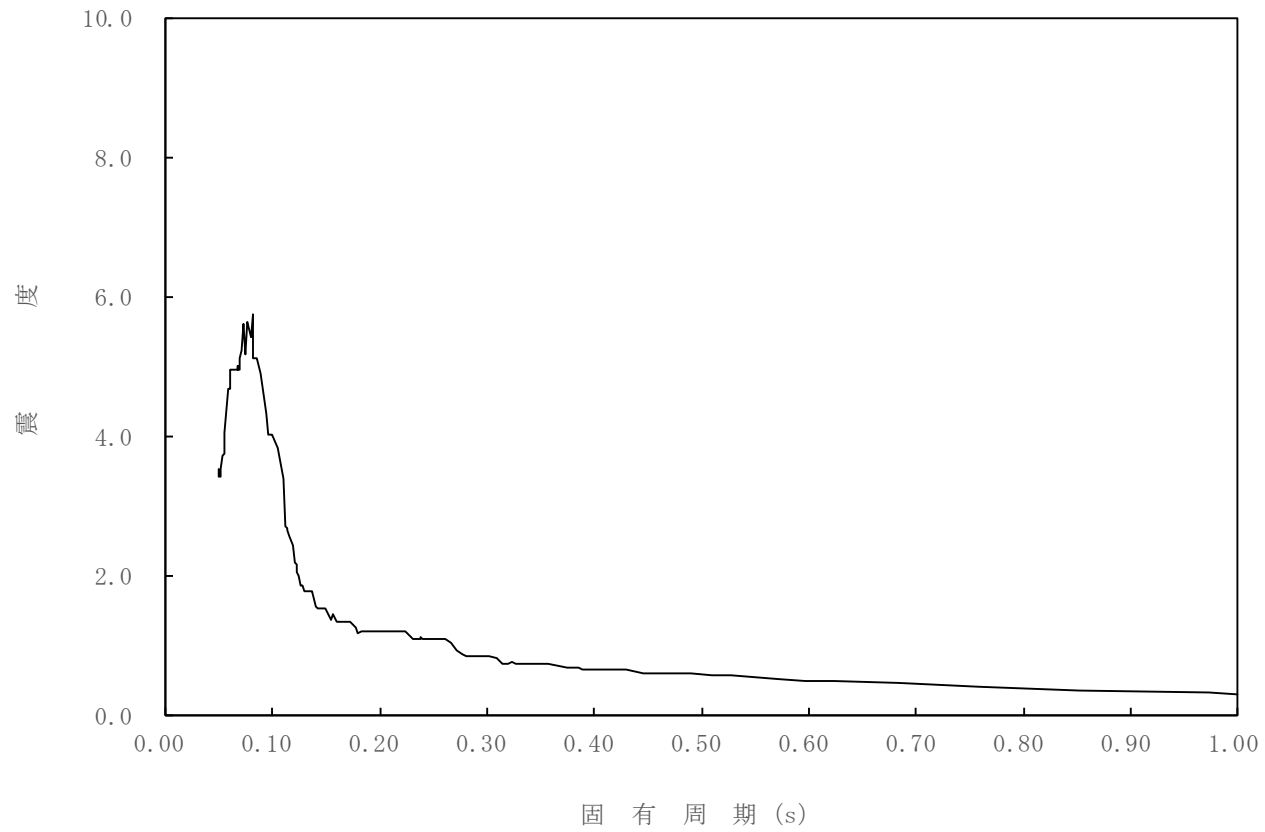
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 7.250m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW7250-050】

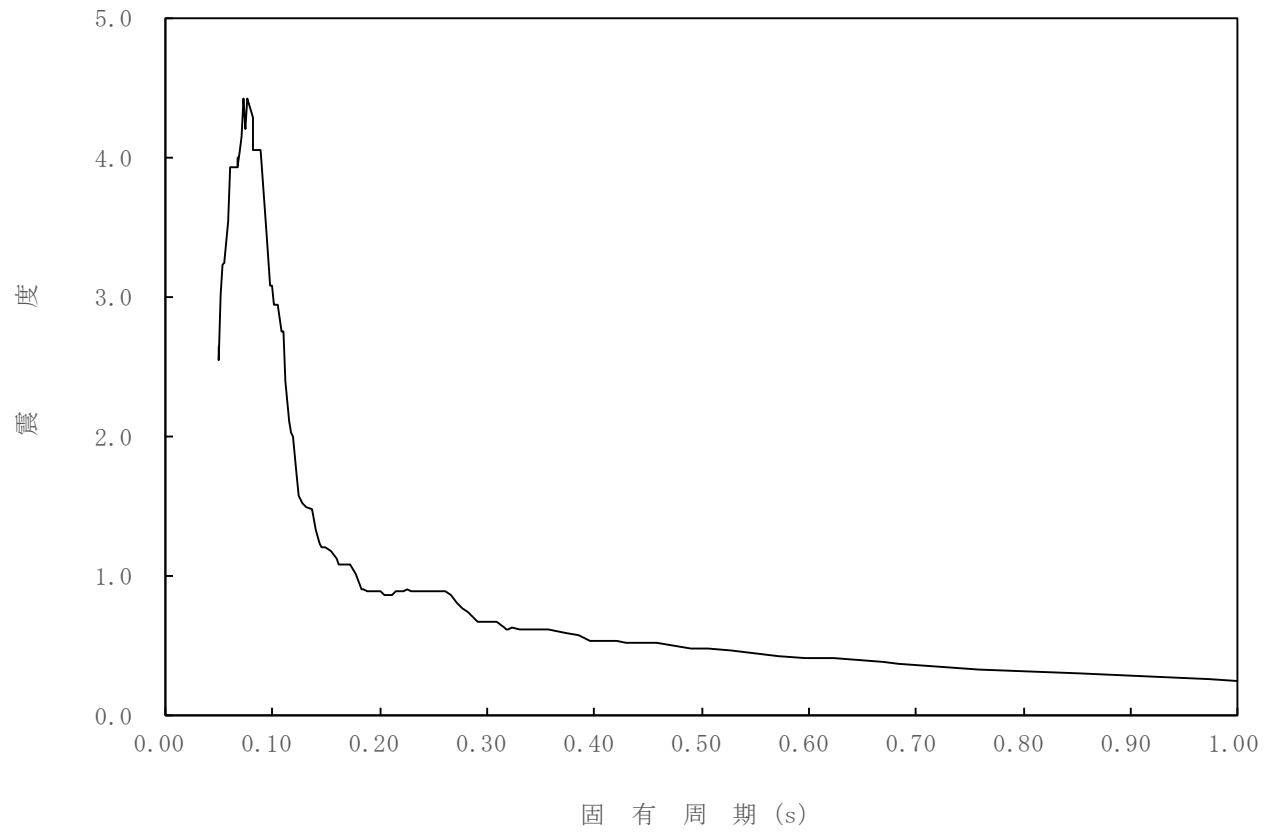
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 7.250m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW2250-005】

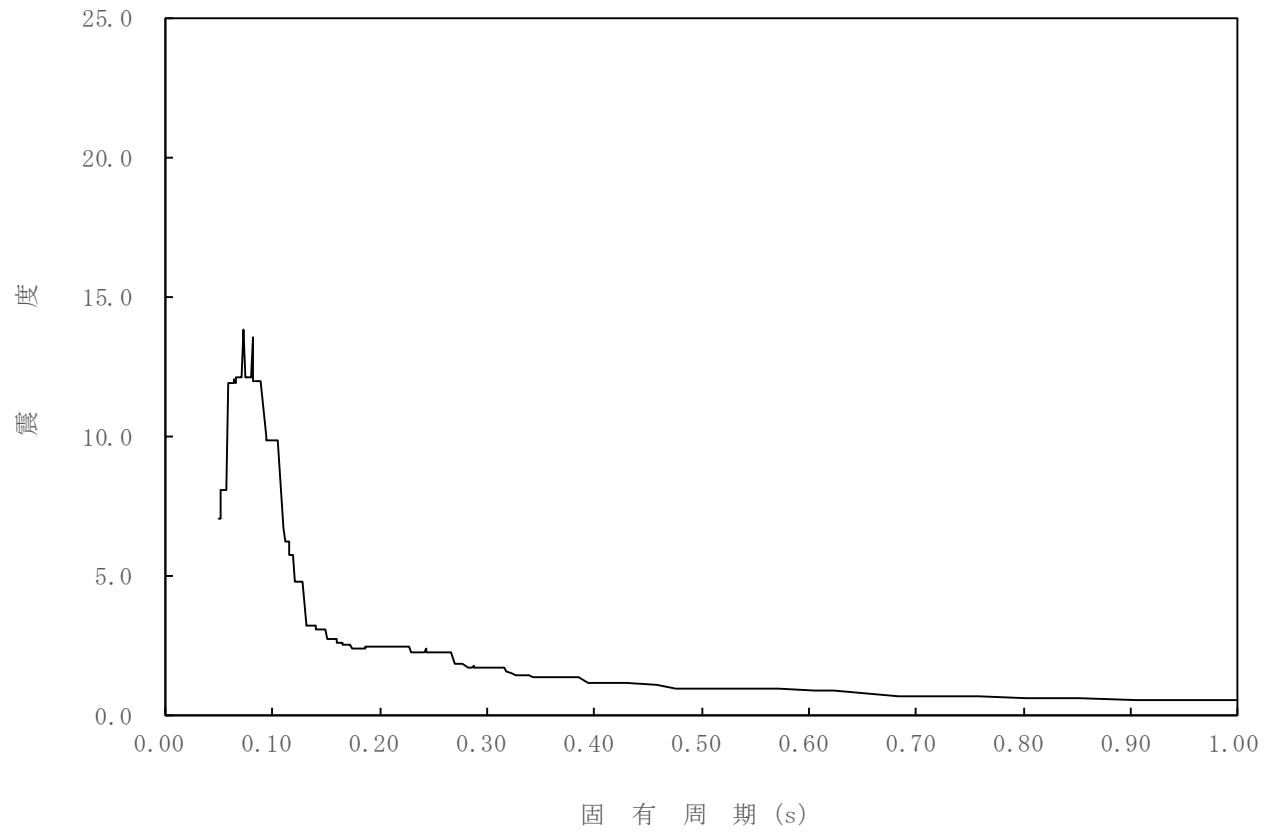
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW2250-010】

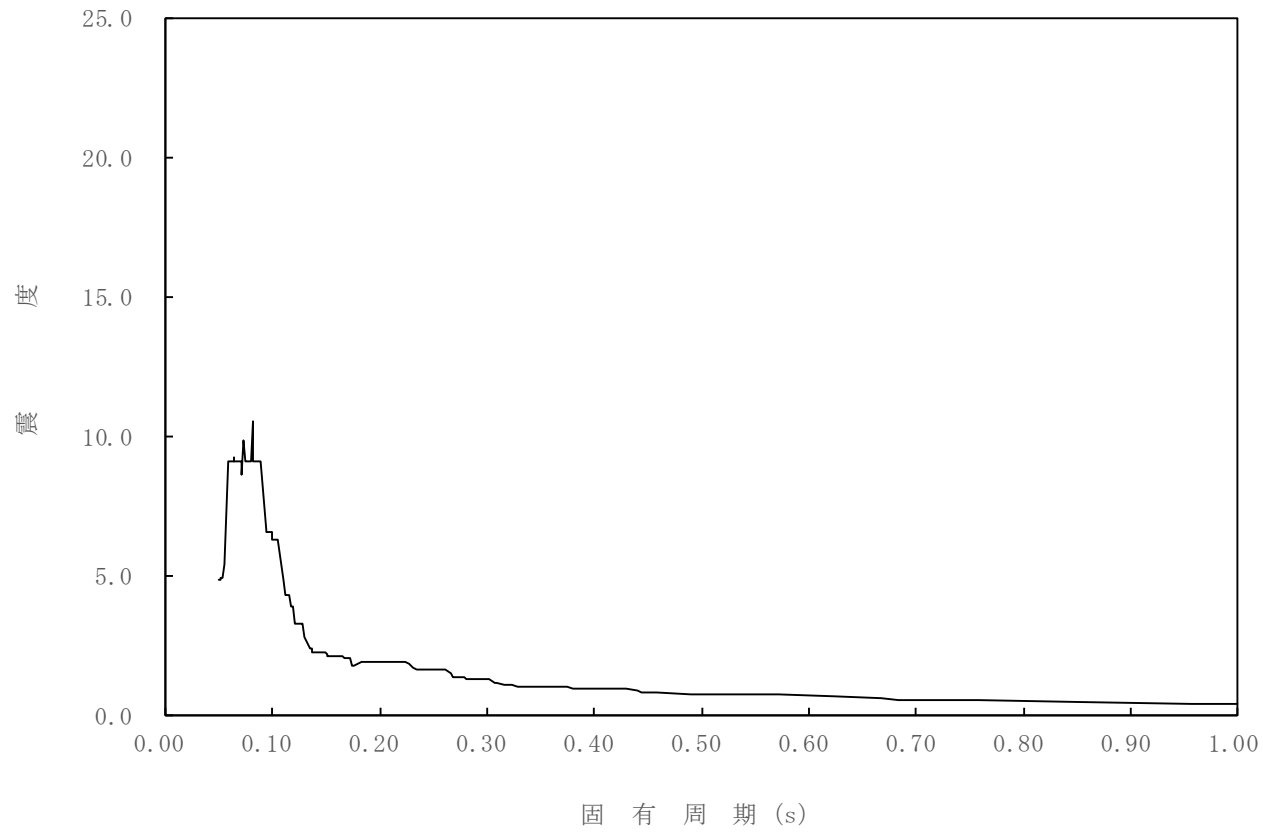
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 2.250m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW2250-015】

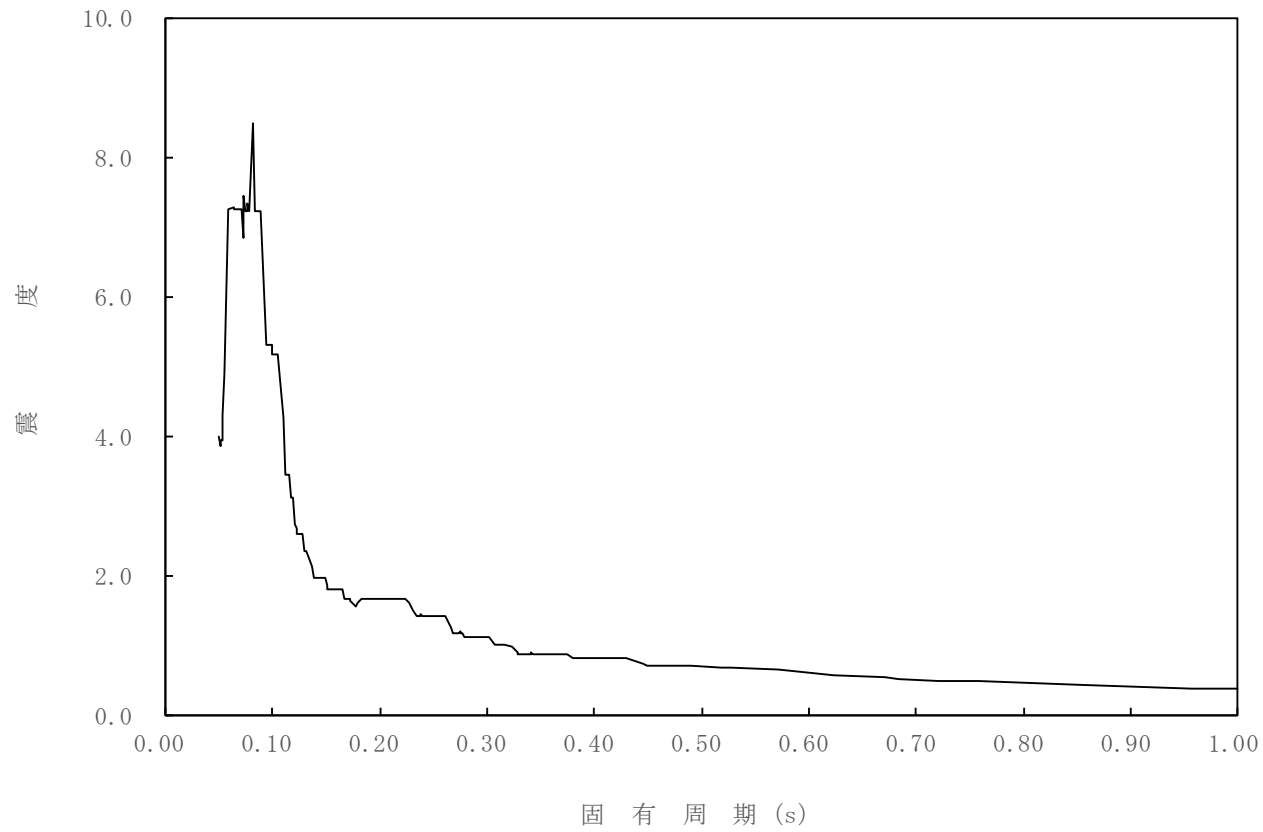
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdV-SW2250-020】

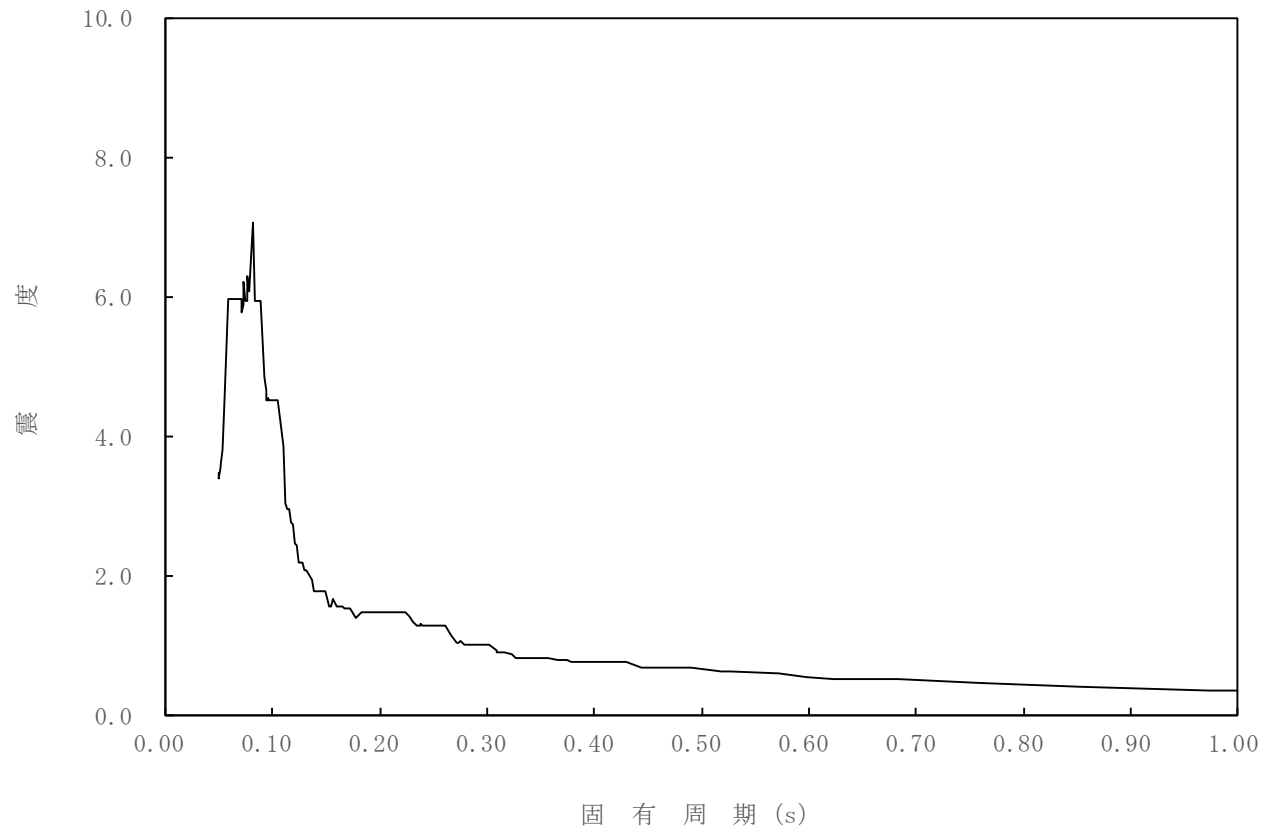
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 2.250m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW2250-025】

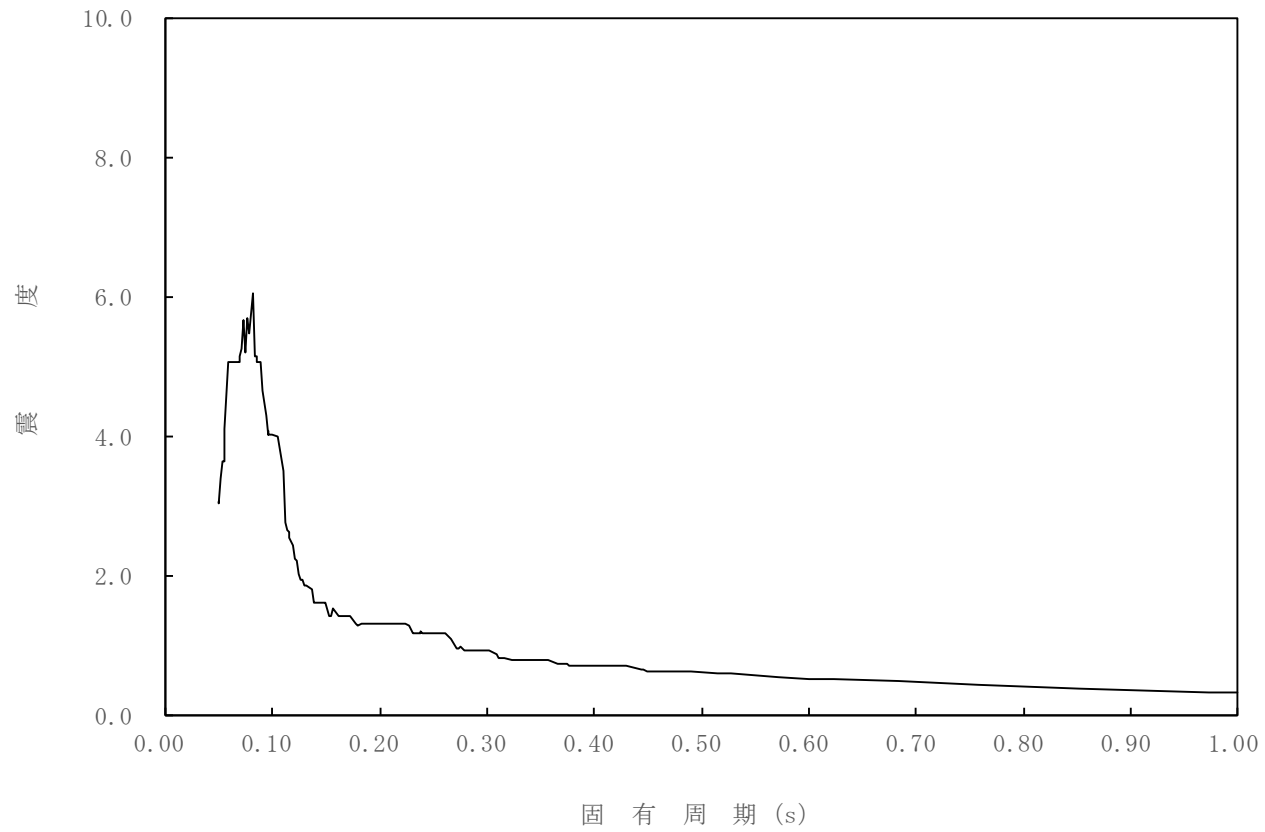
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW2250-030】

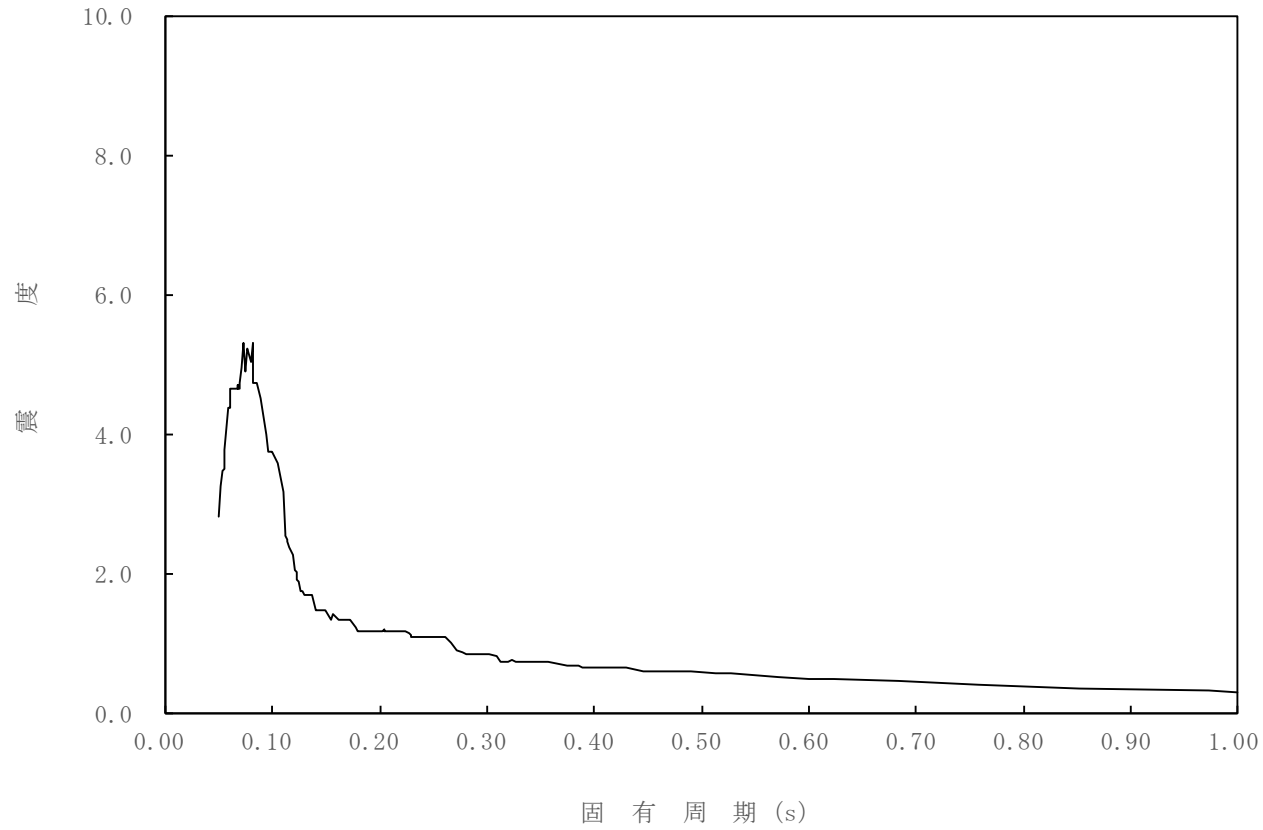
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. 2.250m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW2250-050】

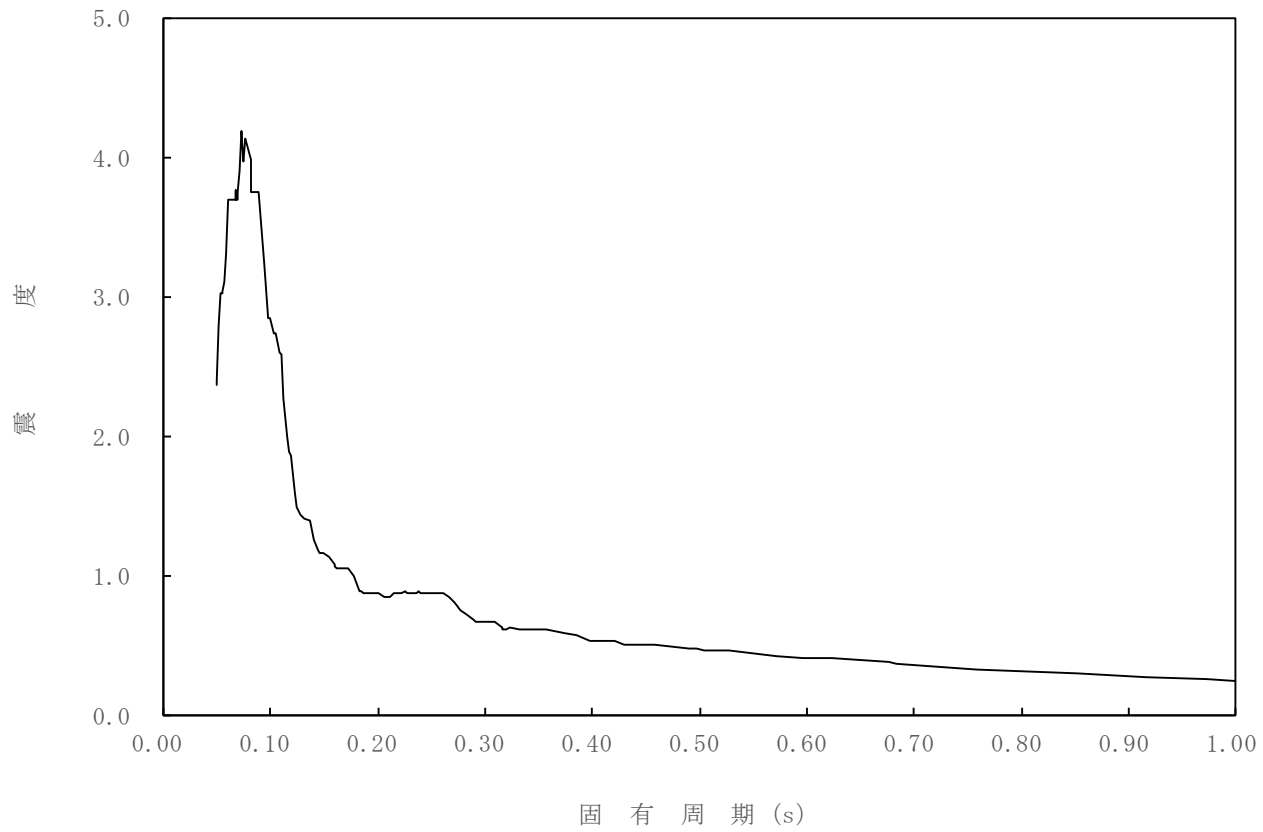
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. 2.250m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-550-005】

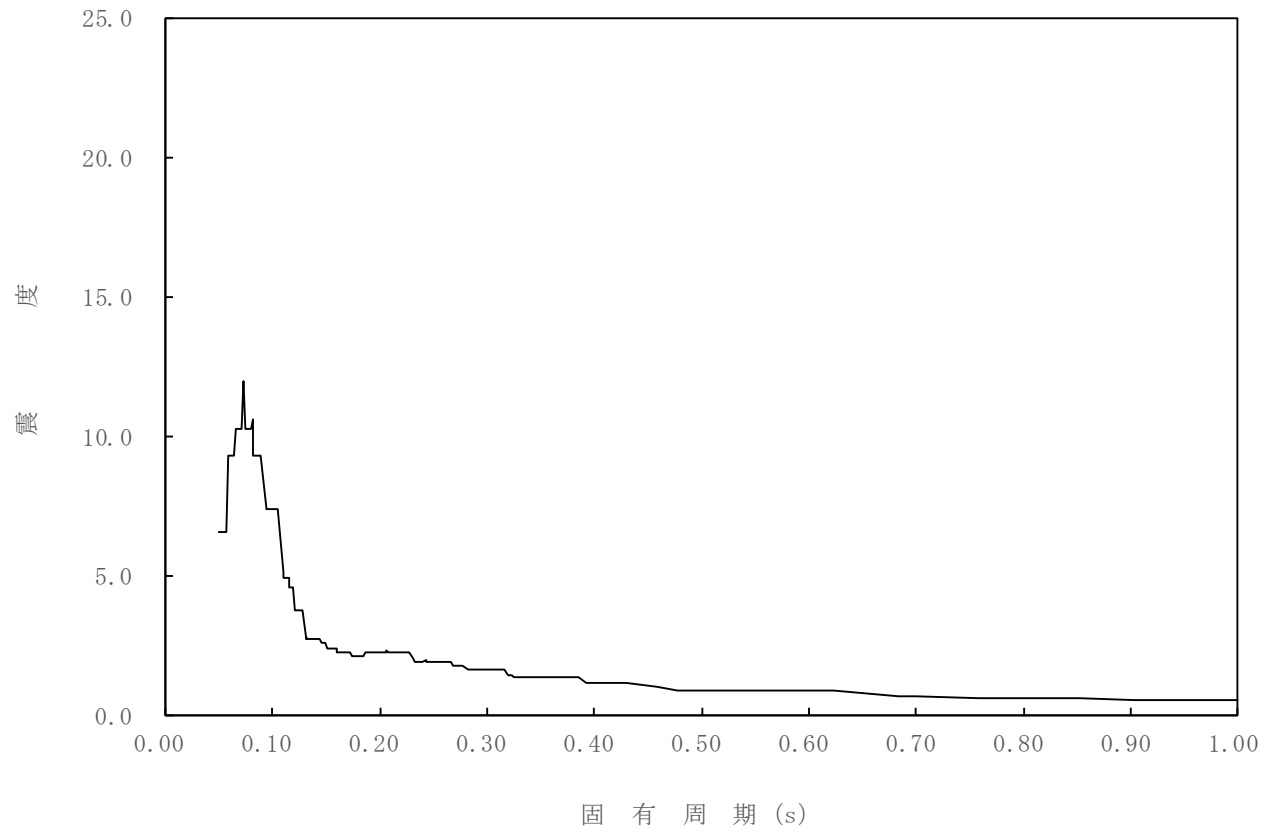
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-550-010】

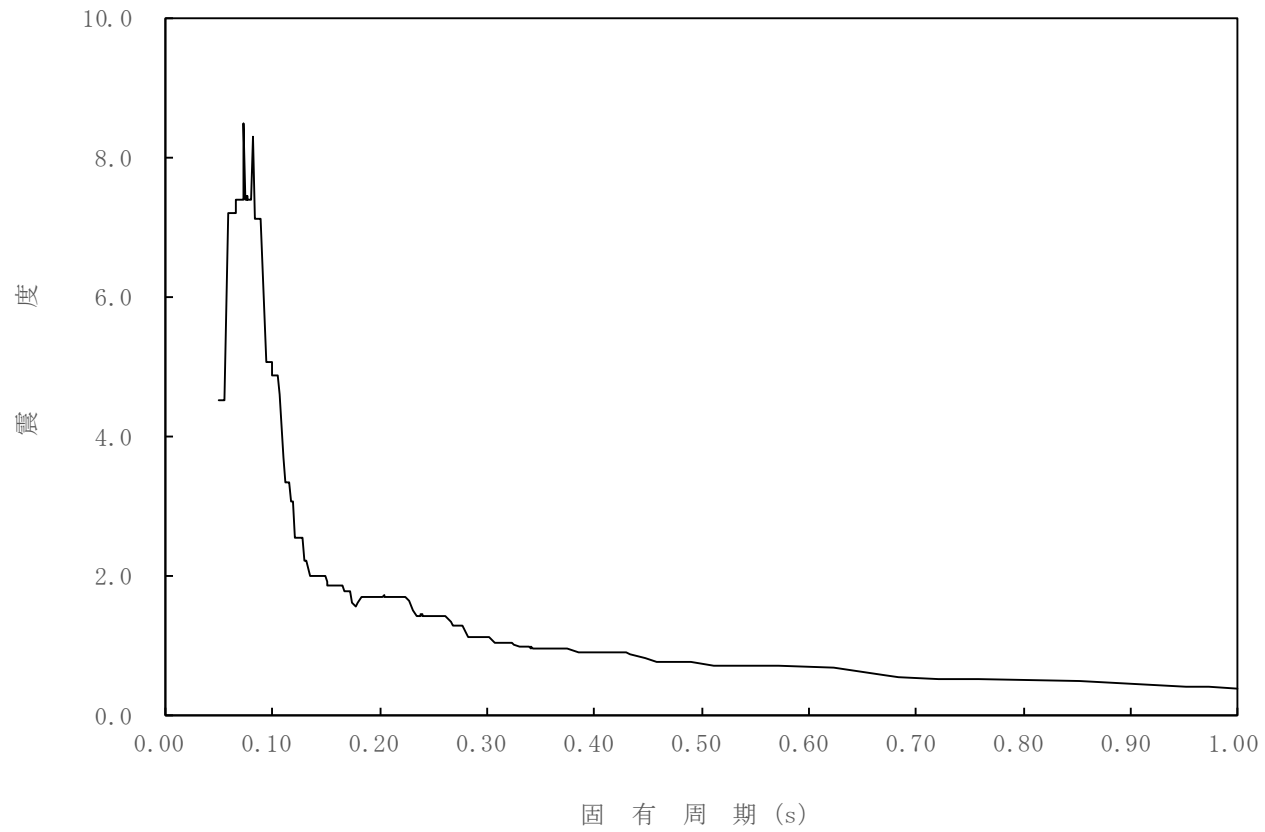
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-550-015】

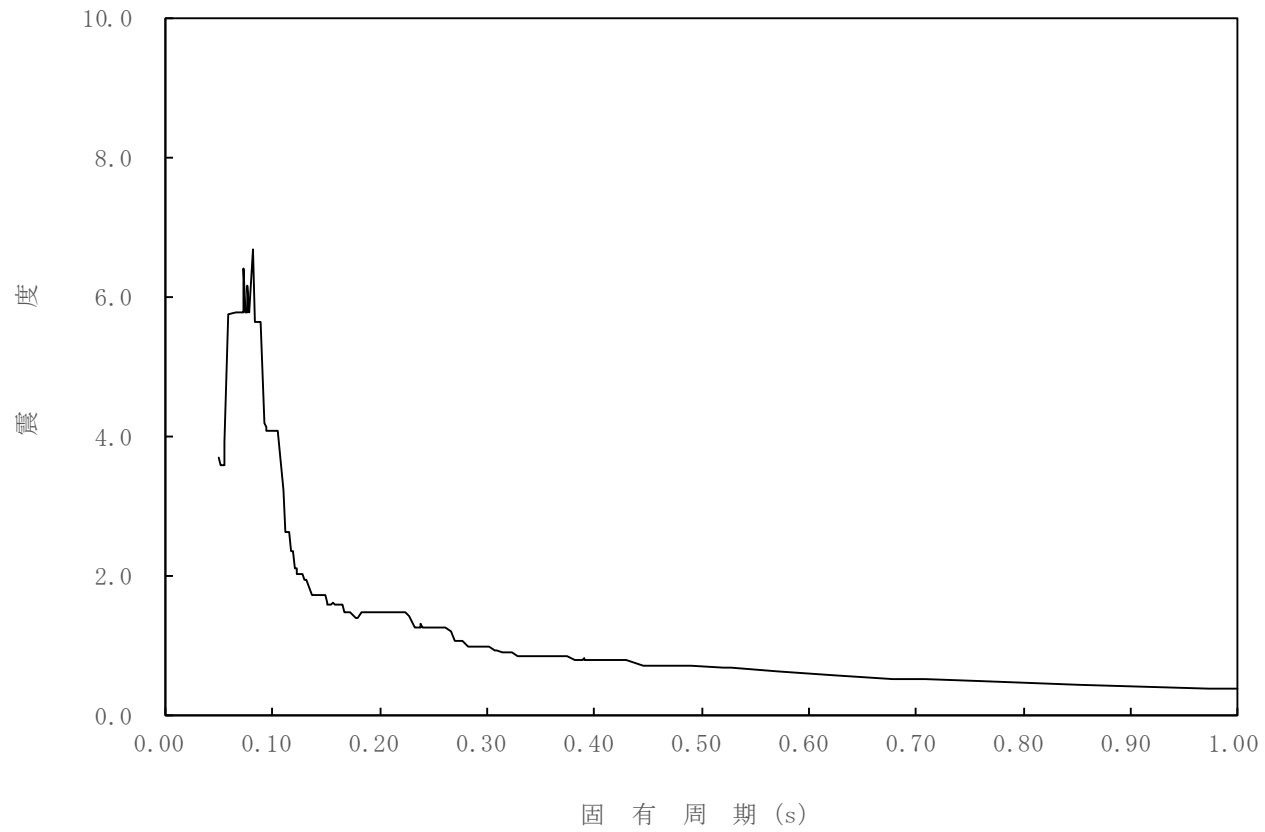
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-550-020】

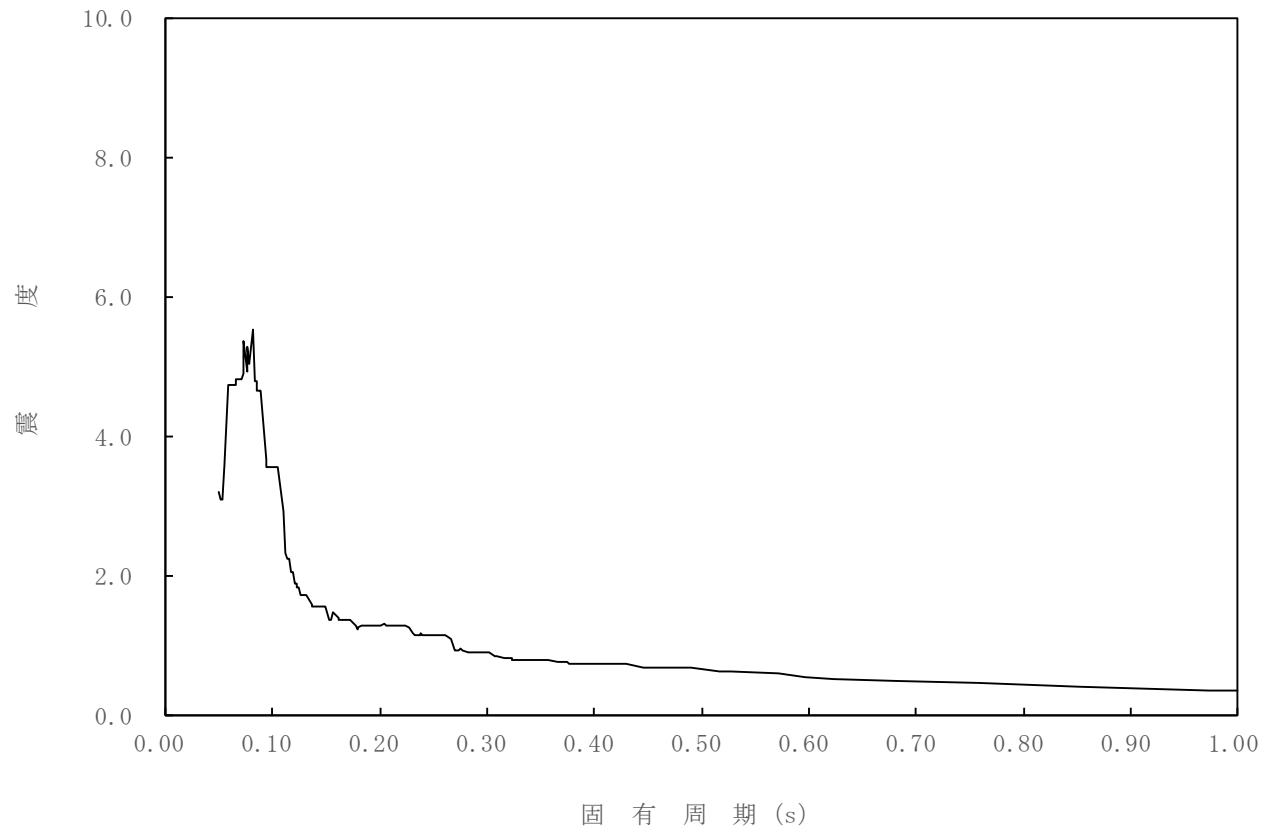
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdV-SW-550-025】

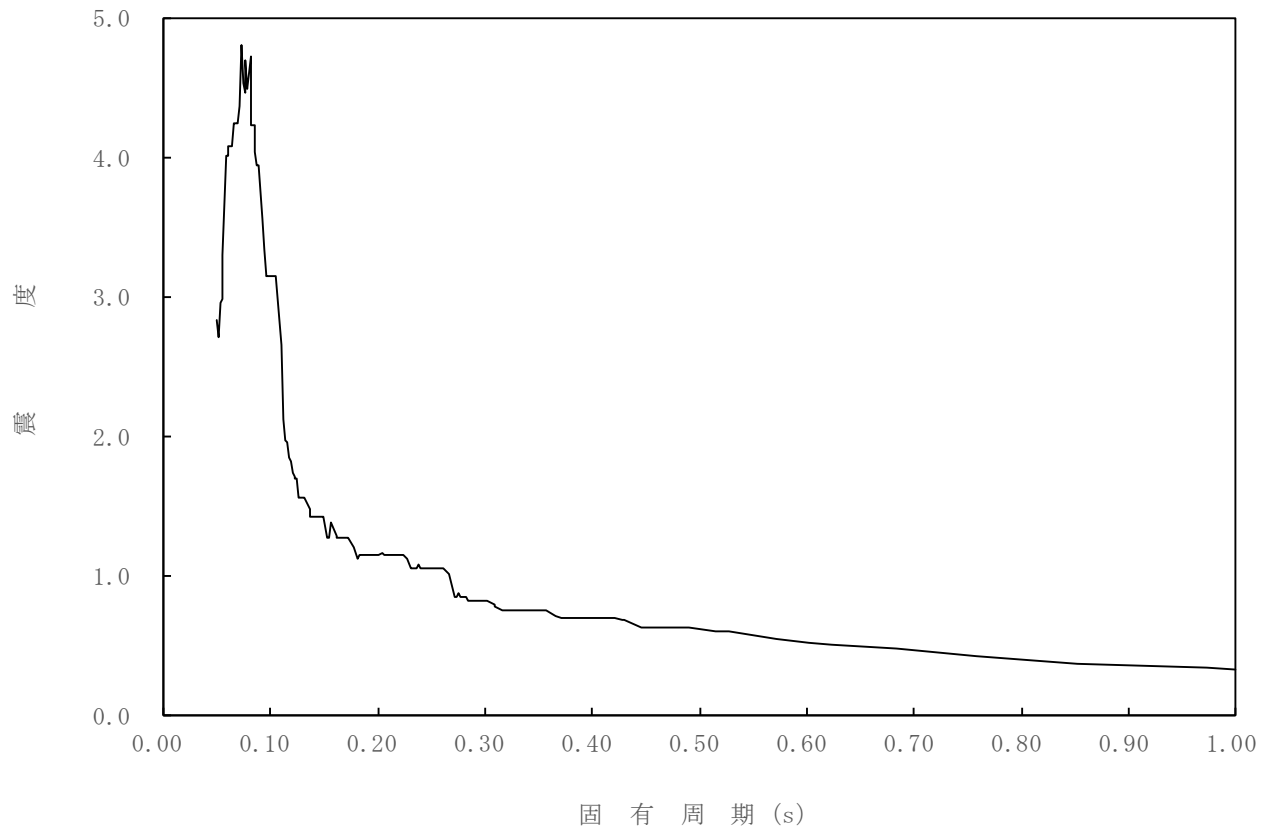
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-550-030】

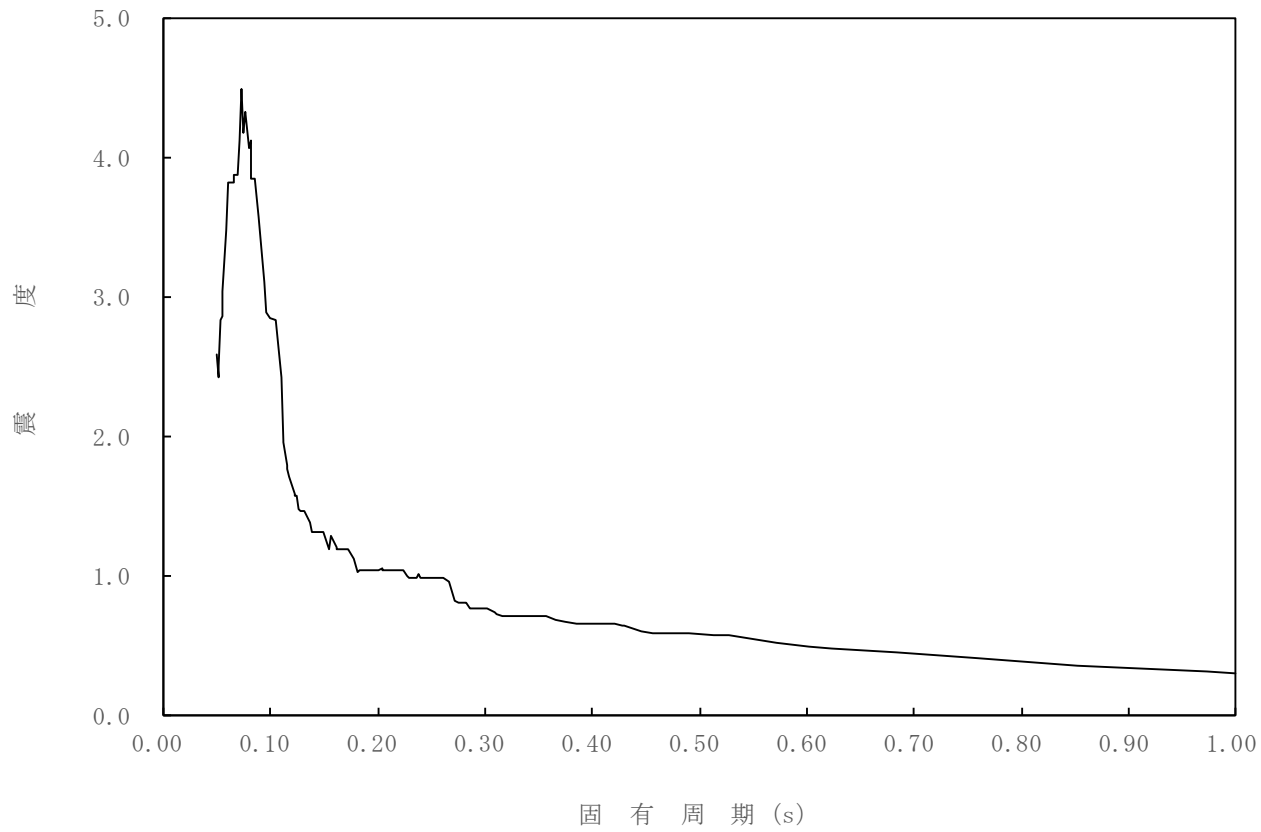
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-550-050】

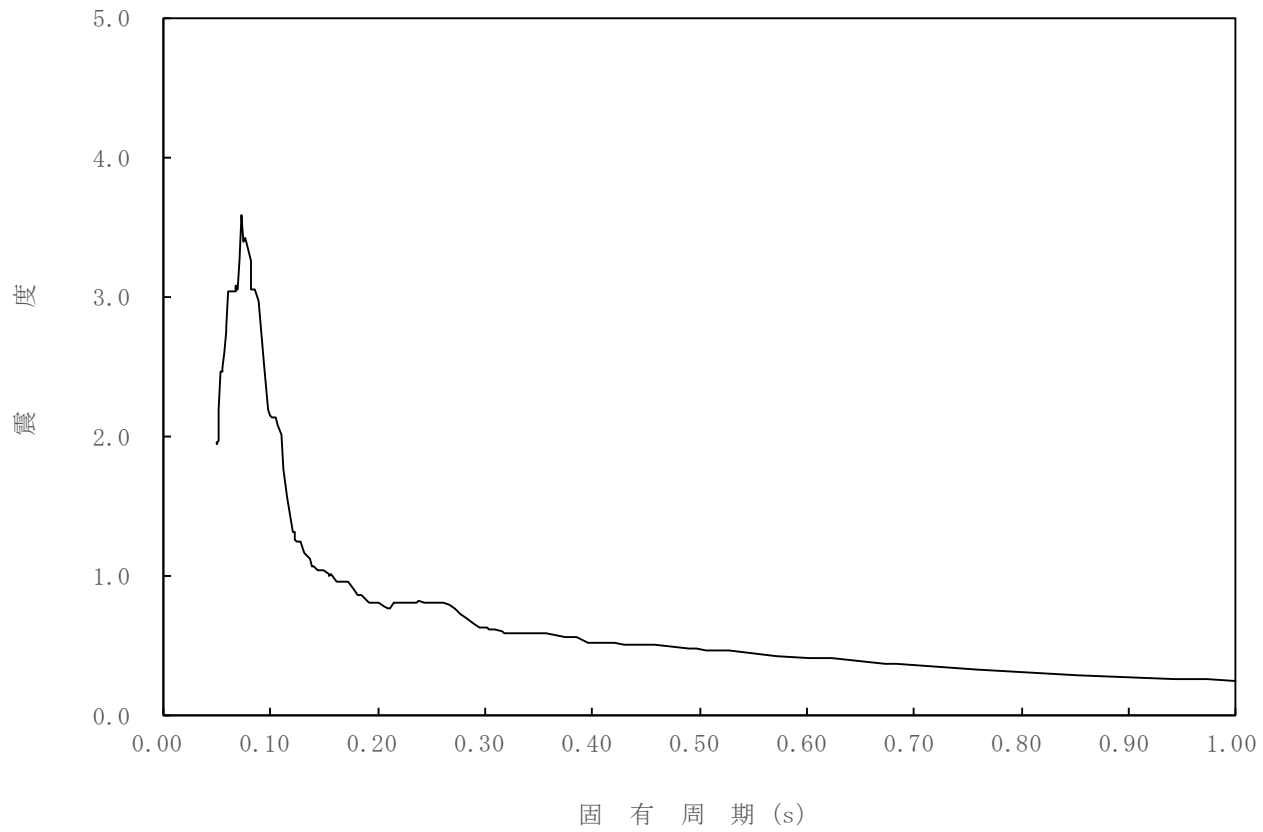
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -0.550m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-7025-005】

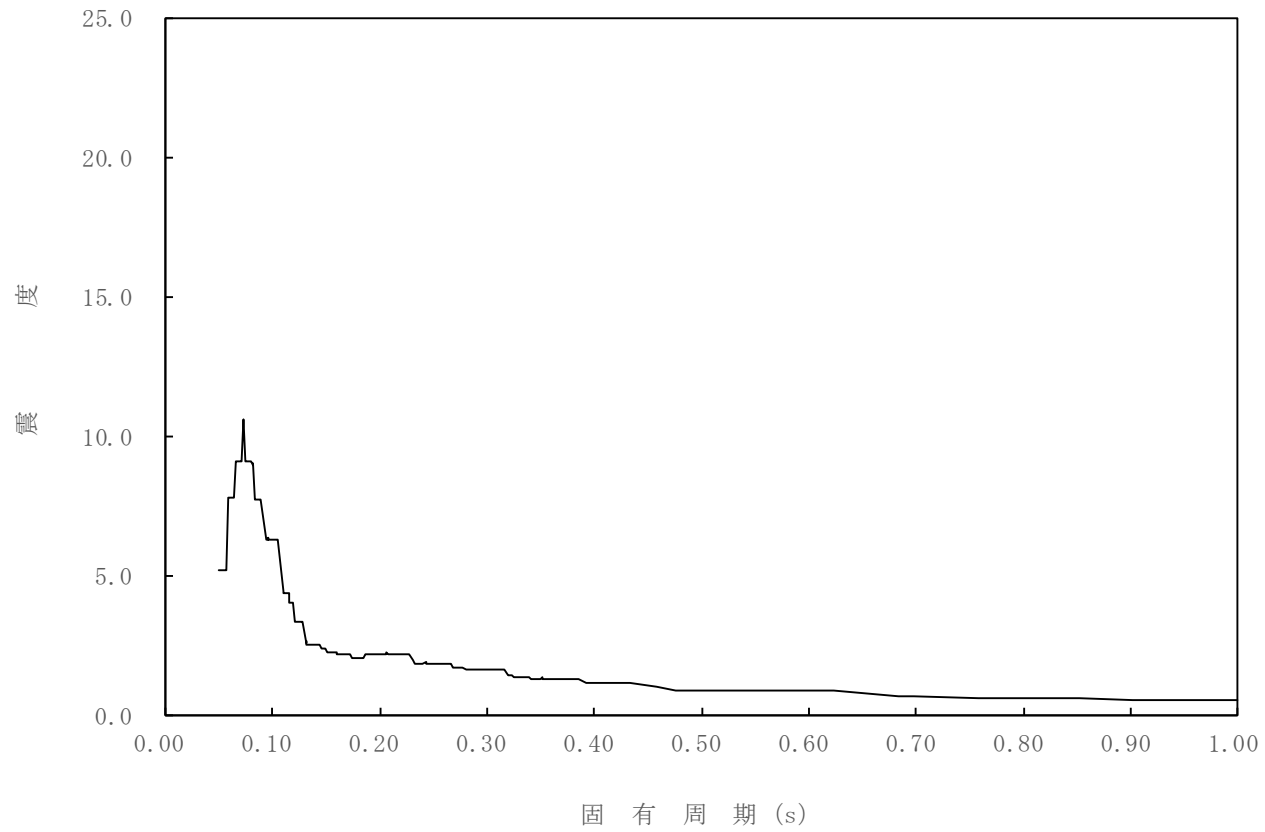
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-7025-010】

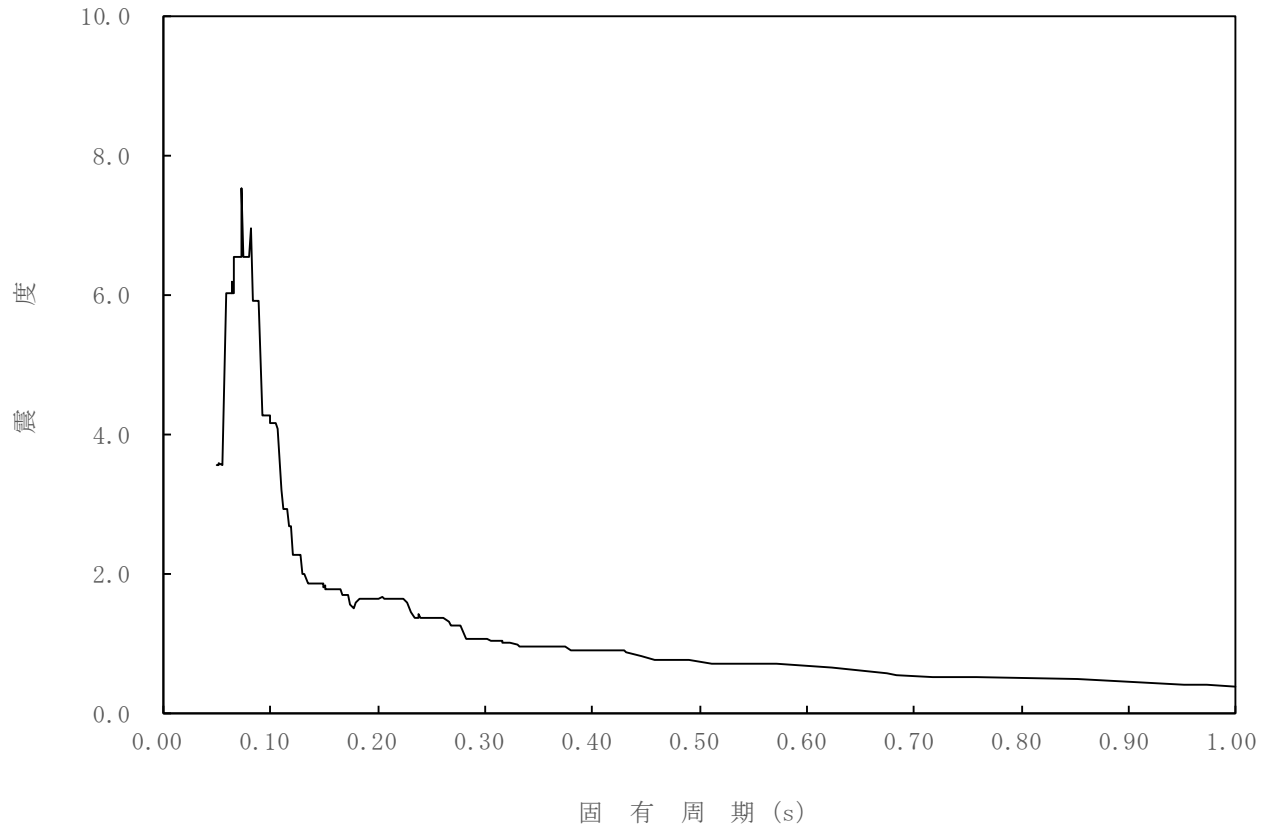
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-7025-015】

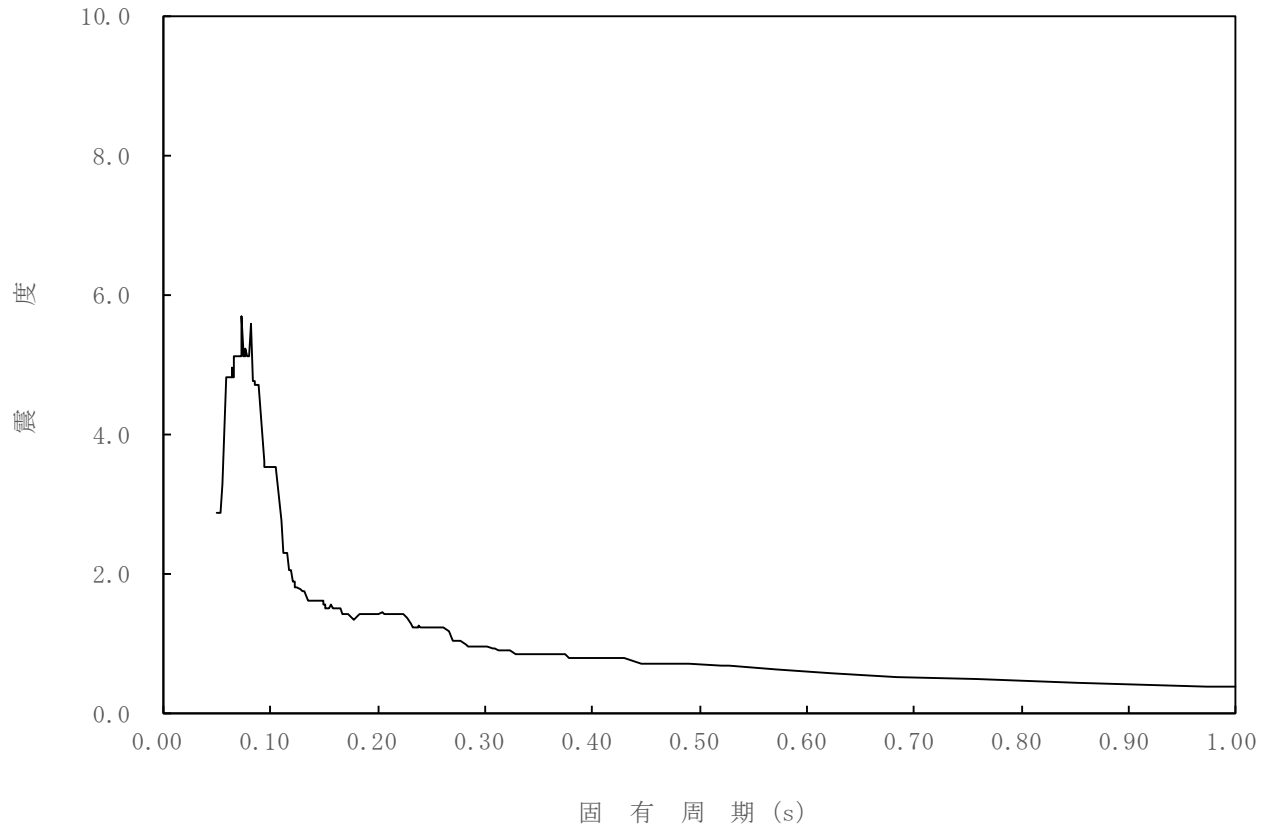
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-7025-020】

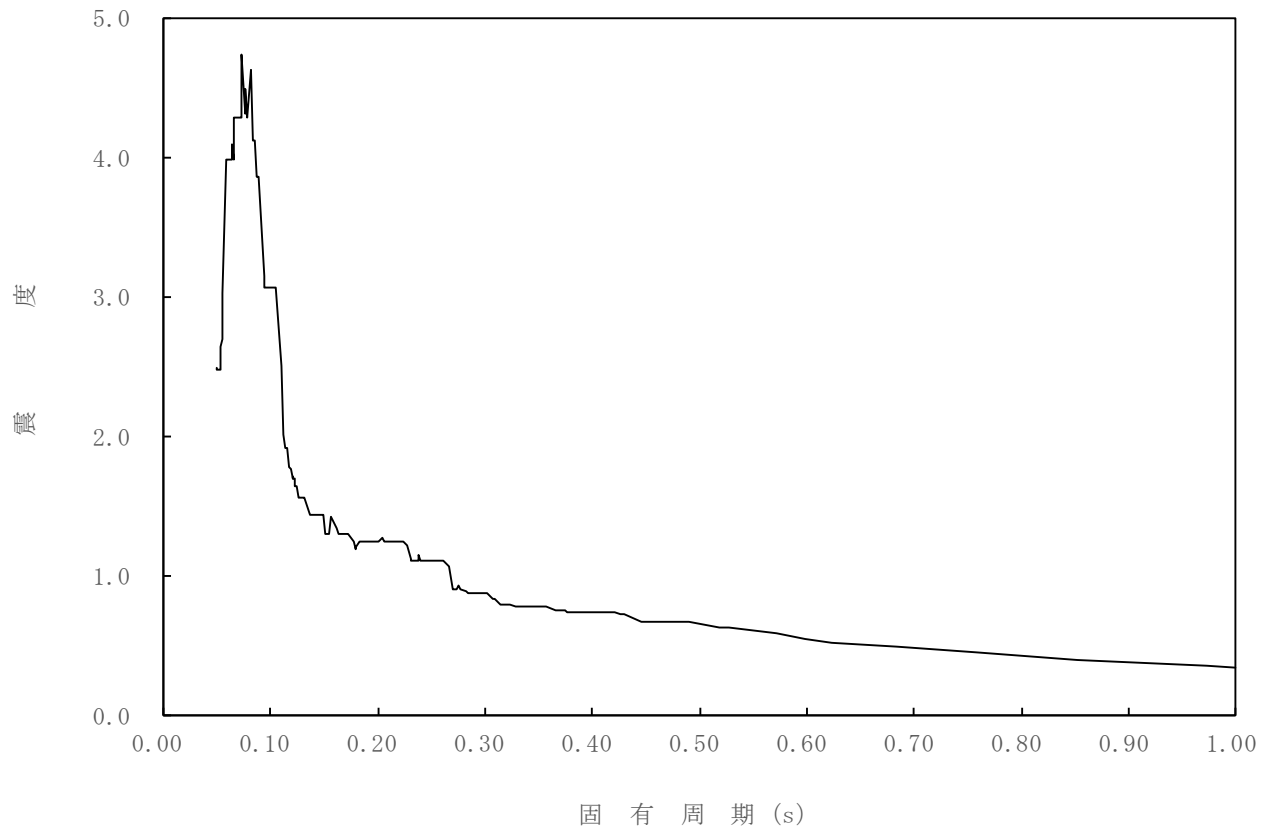
構造物名：海水ポンプ室

標高：0.P. -7.025m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-7025-025】

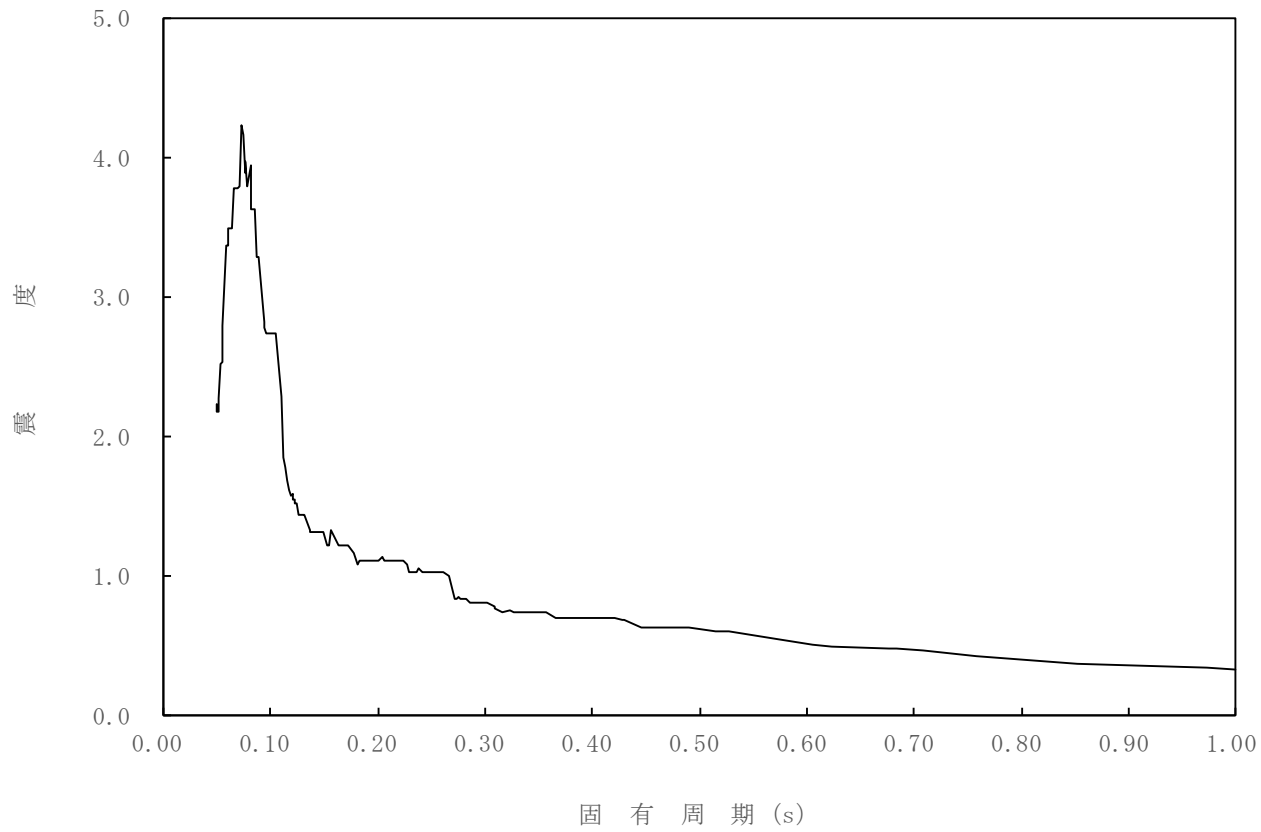
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdV-SW-7025-030】

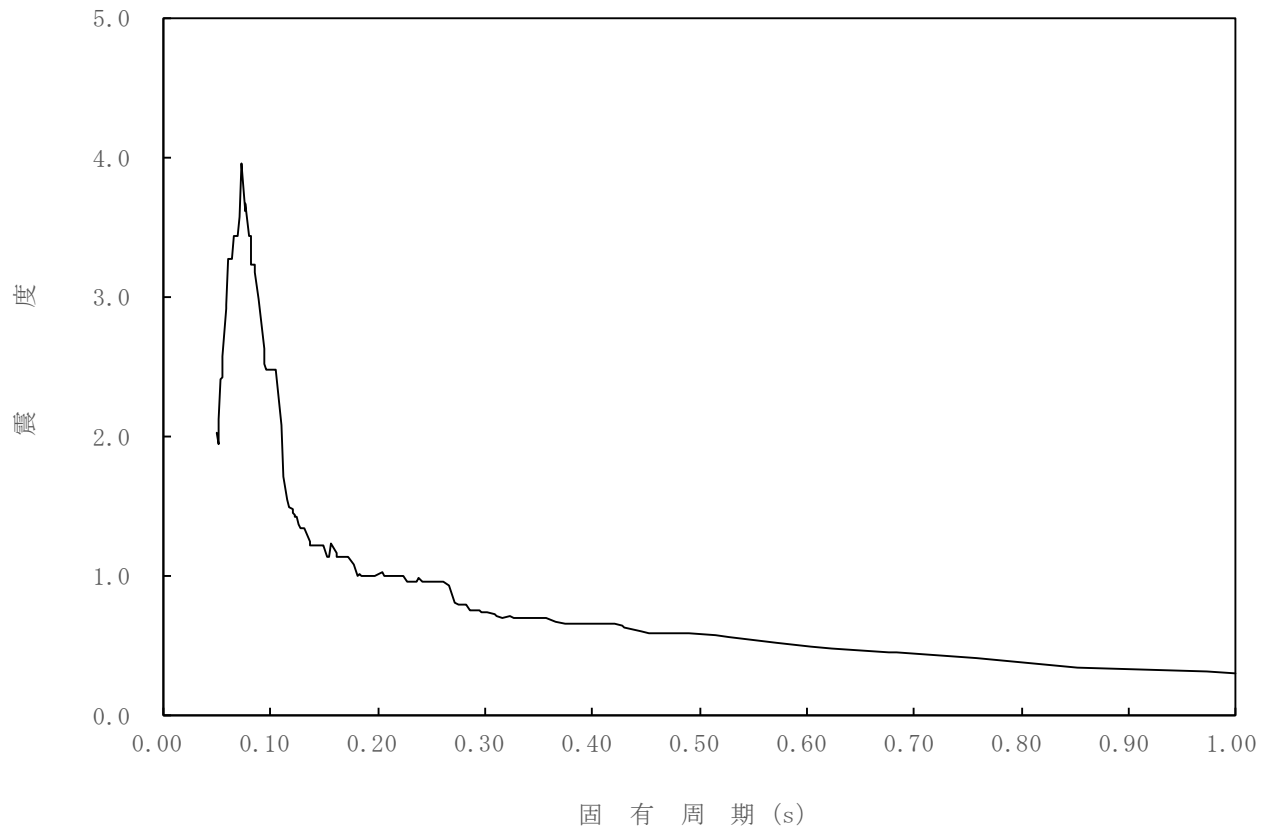
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-7025-050】

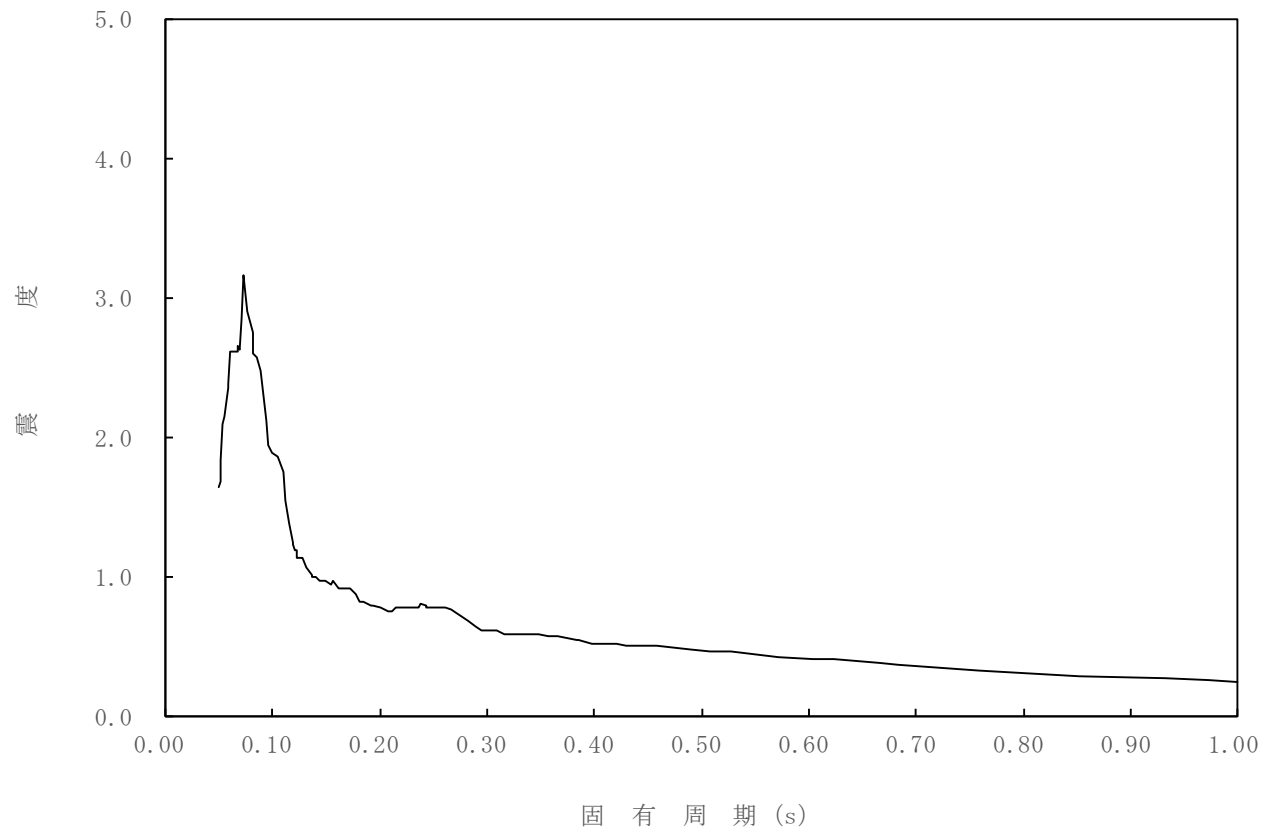
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -7.025m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-9800-005】

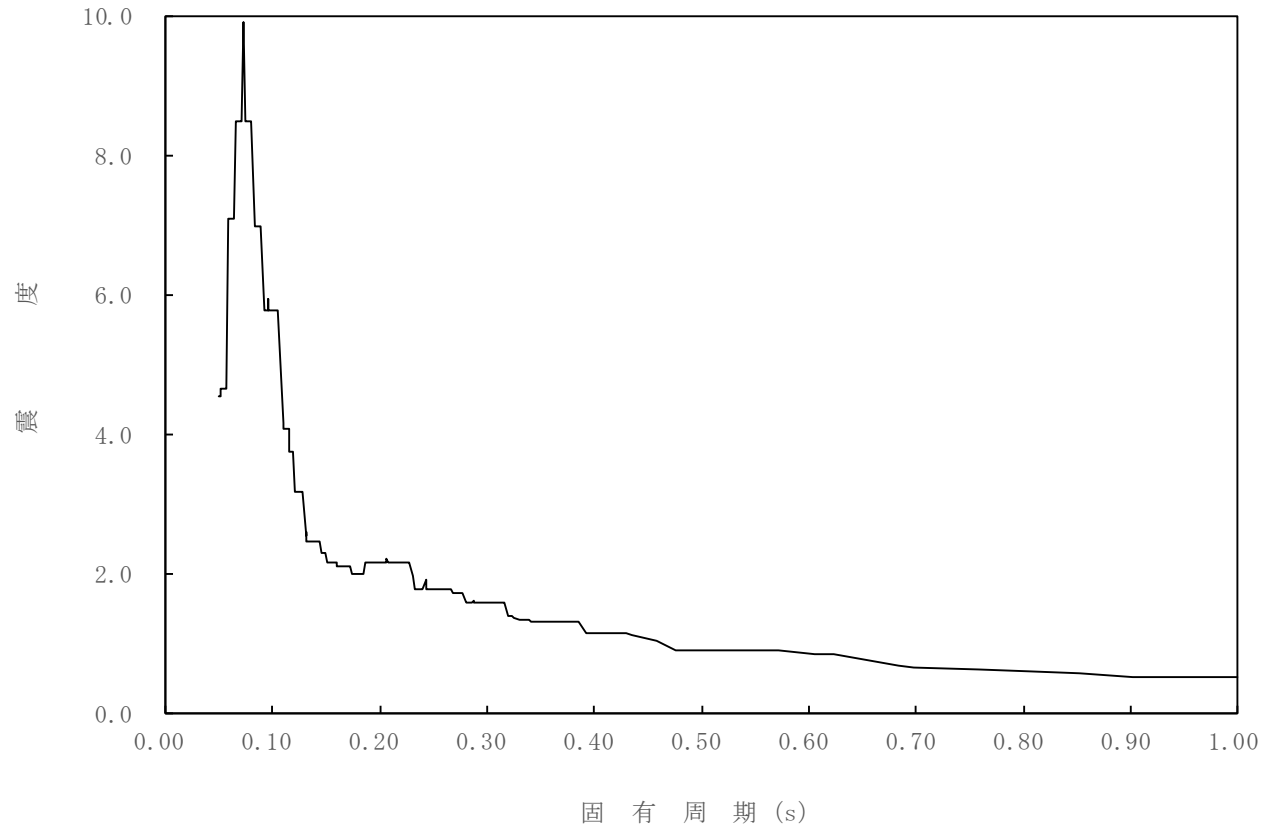
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-9800-010】

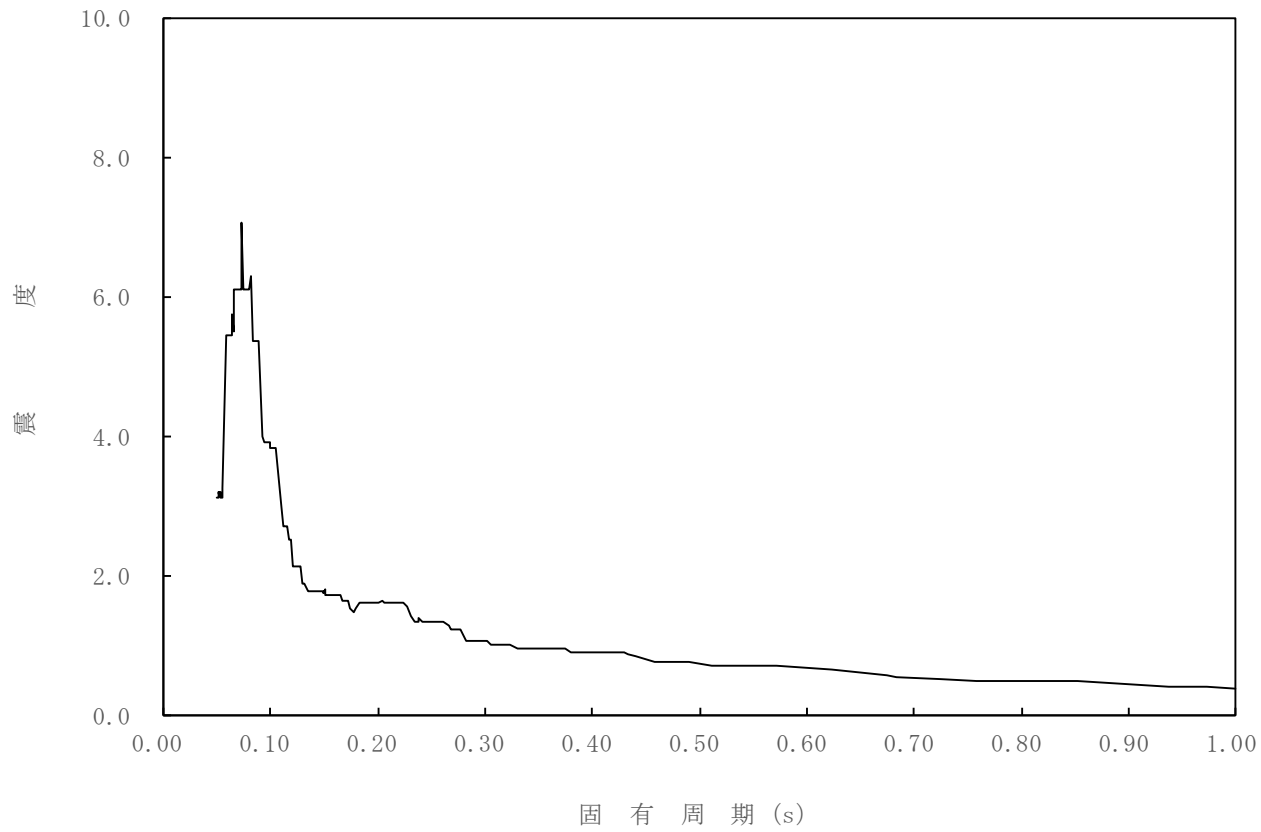
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-9800-015】

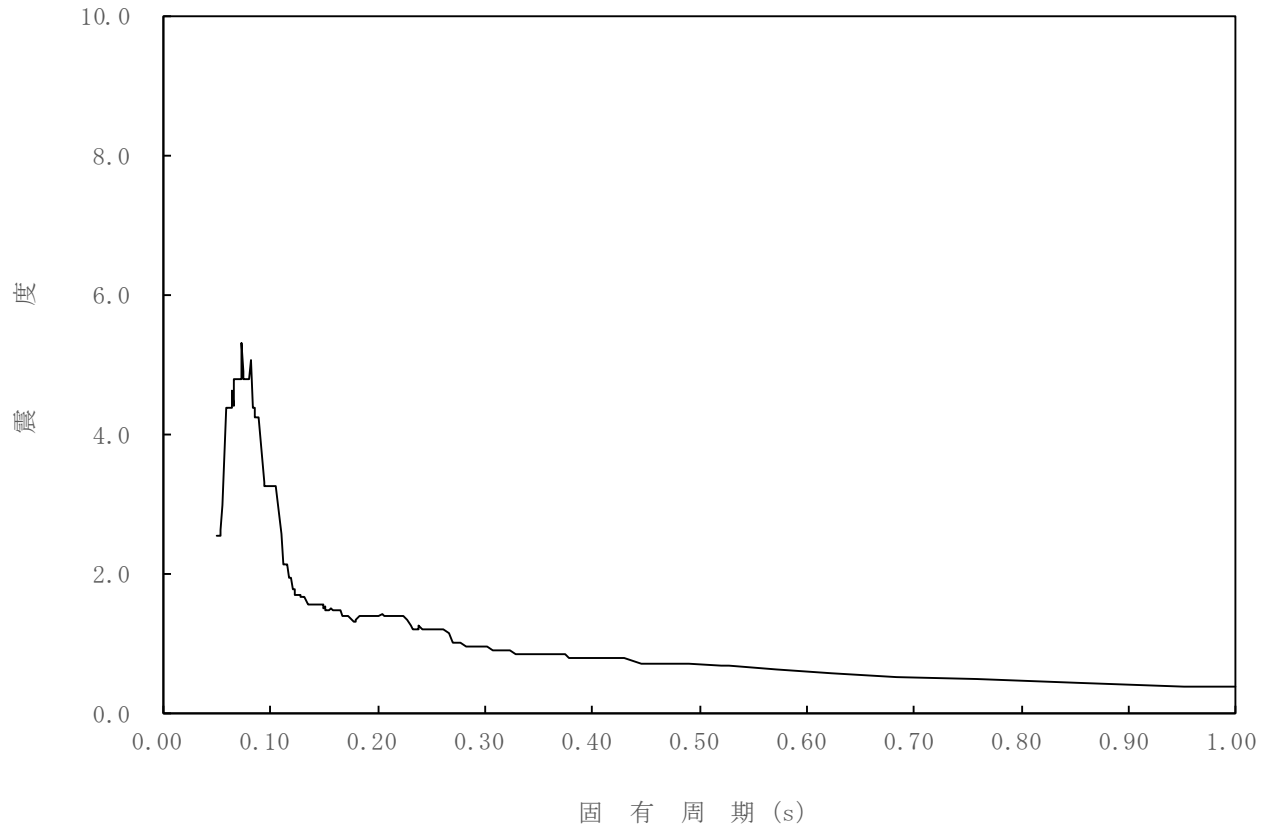
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-9800-020】

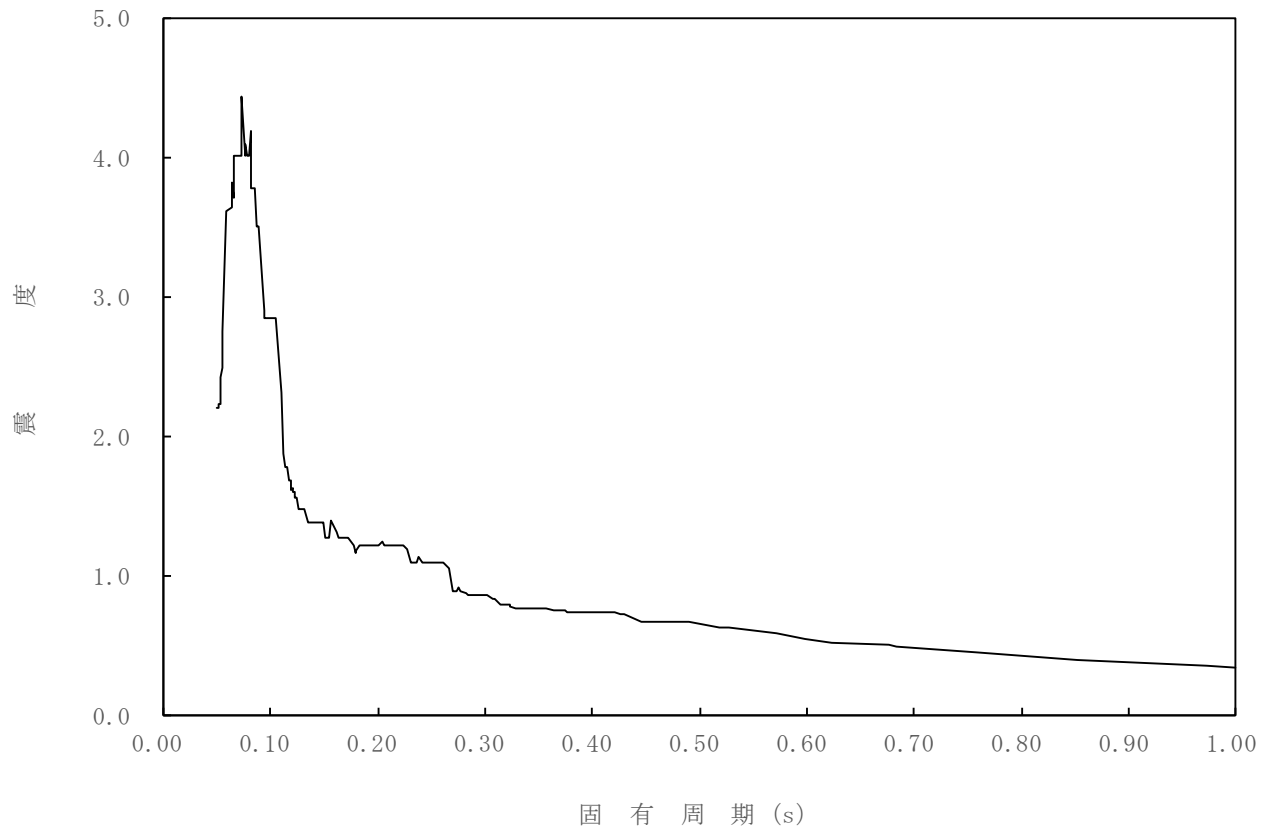
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-9800-025】

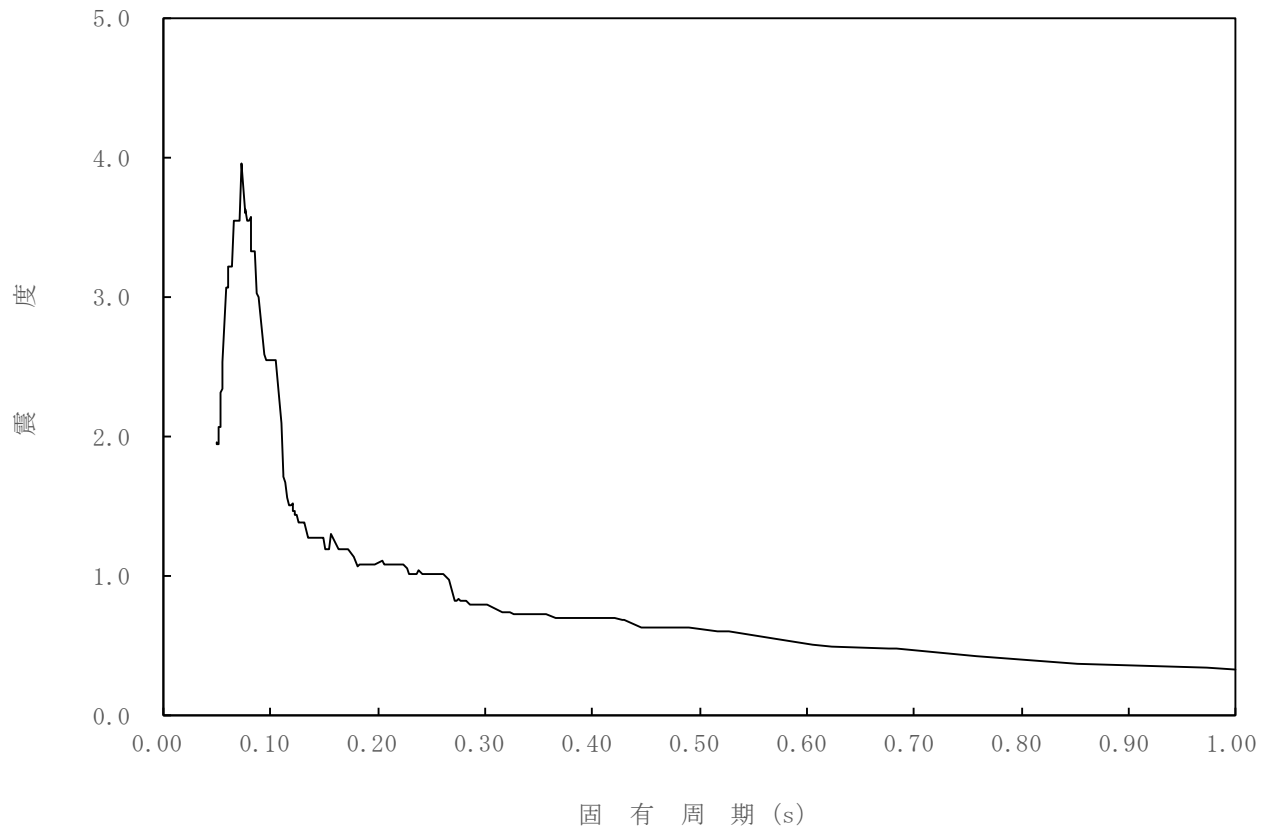
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SW-SdV-SW-9800-030】

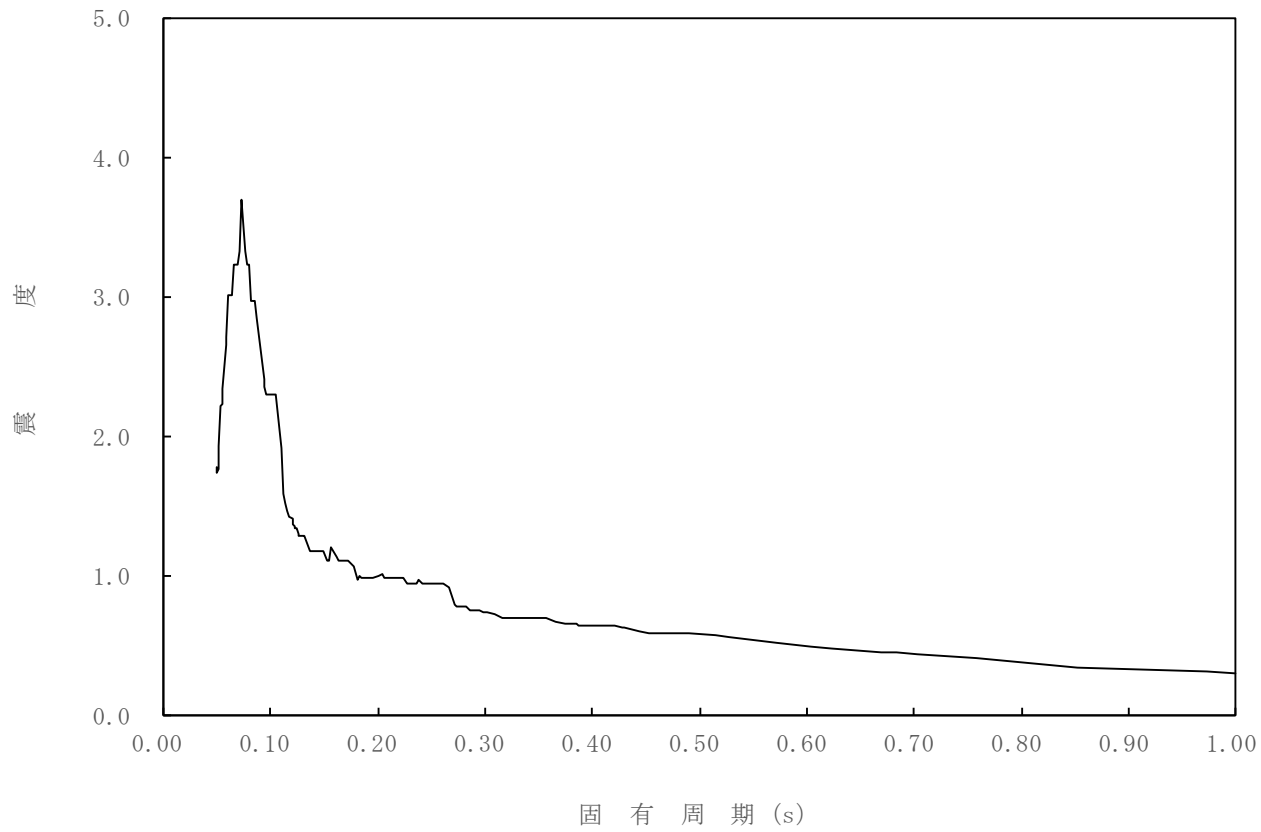
構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SW-SdV-SW-9800-050】

構造物名：海水ポンプ室

標高：O.P. -9.800m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

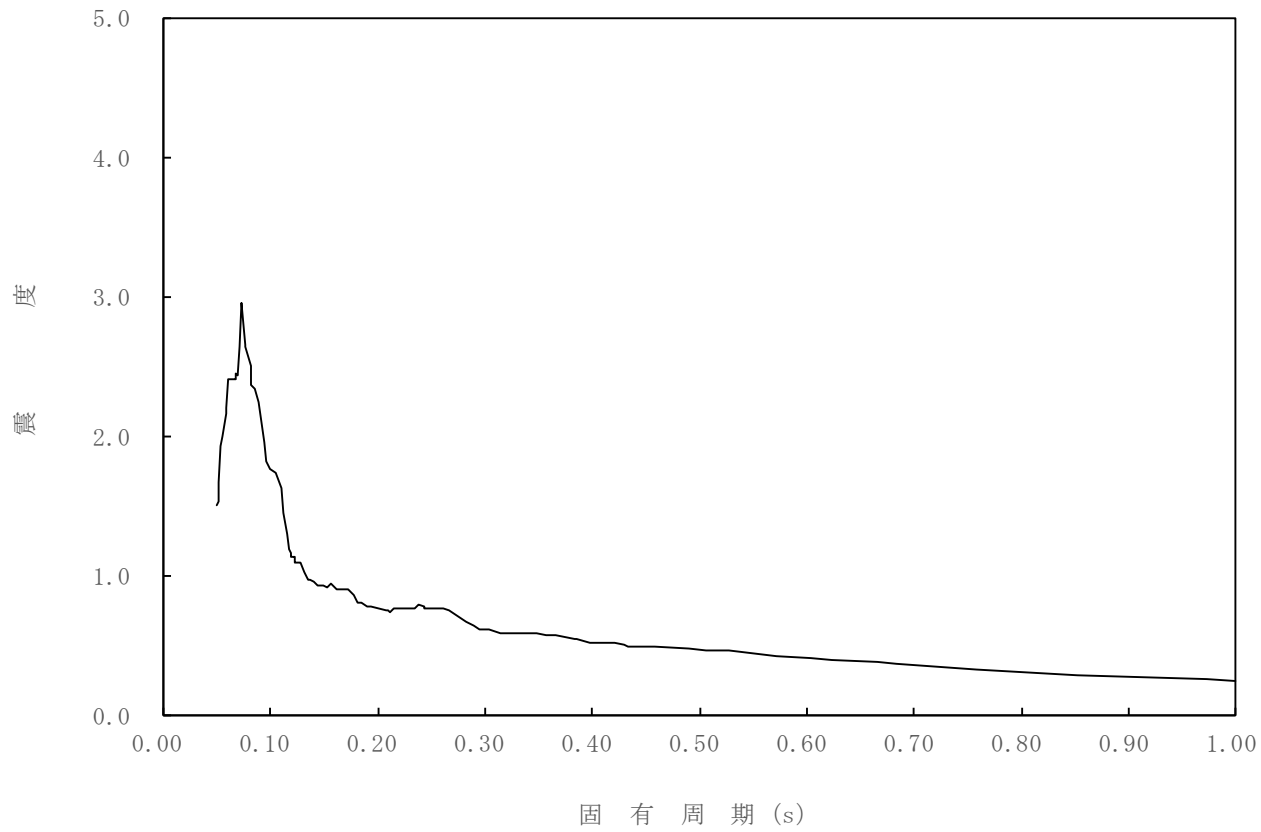


表 4-2-4 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 原子炉機器冷却海水配管ダクト: 水平方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉機器 冷却海水 配管ダクト	水平 方向	2324 2514 2698 2893 3086	-0.650	0.5	02-SWD-SdH-SWD-650-005
					1.0	02-SWD-SdH-SWD-650-010
					1.5	02-SWD-SdH-SWD-650-015
					2.0	02-SWD-SdH-SWD-650-020
					2.5	02-SWD-SdH-SWD-650-025
					3.0	02-SWD-SdH-SWD-650-030
					5.0	02-SWD-SdH-SWD-650-050
			2329 2519 2703 2898 3091	-4.750	0.5	02-SWD-SdH-SWD-4750-005
					1.0	02-SWD-SdH-SWD-4750-010
					1.5	02-SWD-SdH-SWD-4750-015
					2.0	02-SWD-SdH-SWD-4750-020
					2.5	02-SWD-SdH-SWD-4750-025
					3.0	02-SWD-SdH-SWD-4750-030
					5.0	02-SWD-SdH-SWD-4750-050
			2333 2523 2707 2902 3095	-8.850	0.5	02-SWD-SdH-SWD-8850-005
					1.0	02-SWD-SdH-SWD-8850-010
					1.5	02-SWD-SdH-SWD-8850-015
					2.0	02-SWD-SdH-SWD-8850-020
					2.5	02-SWD-SdH-SWD-8850-025
					3.0	02-SWD-SdH-SWD-8850-030
					5.0	02-SWD-SdH-SWD-8850-050

表 4-2-4 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 原子炉機器冷却海水配管ダクト: 鉛直方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉機器 冷却海水 配管ダクト	鉛直 方向	2324 2514 2698 2893 3086	-0.650	0.5	02-SWD-SdV-SWD-650-005
					1.0	02-SWD-SdV-SWD-650-010
					1.5	02-SWD-SdV-SWD-650-015
					2.0	02-SWD-SdV-SWD-650-020
					2.5	02-SWD-SdV-SWD-650-025
					3.0	02-SWD-SdV-SWD-650-030
					5.0	02-SWD-SdV-SWD-650-050
			2329 2519 2703 2898 3091	-4.750	0.5	02-SWD-SdV-SWD-4750-005
					1.0	02-SWD-SdV-SWD-4750-010
					1.5	02-SWD-SdV-SWD-4750-015
					2.0	02-SWD-SdV-SWD-4750-020
					2.5	02-SWD-SdV-SWD-4750-025
					3.0	02-SWD-SdV-SWD-4750-030
					5.0	02-SWD-SdV-SWD-4750-050
			2333 2523 2707 2902 3095	-8.850	0.5	02-SWD-SdV-SWD-8850-005
					1.0	02-SWD-SdV-SWD-8850-010
					1.5	02-SWD-SdV-SWD-8850-015
					2.0	02-SWD-SdV-SWD-8850-020
					2.5	02-SWD-SdV-SWD-8850-025
					3.0	02-SWD-SdV-SWD-8850-030
					5.0	02-SWD-SdV-SWD-8850-050

【02-SWD-SdH-SWD-650-005】

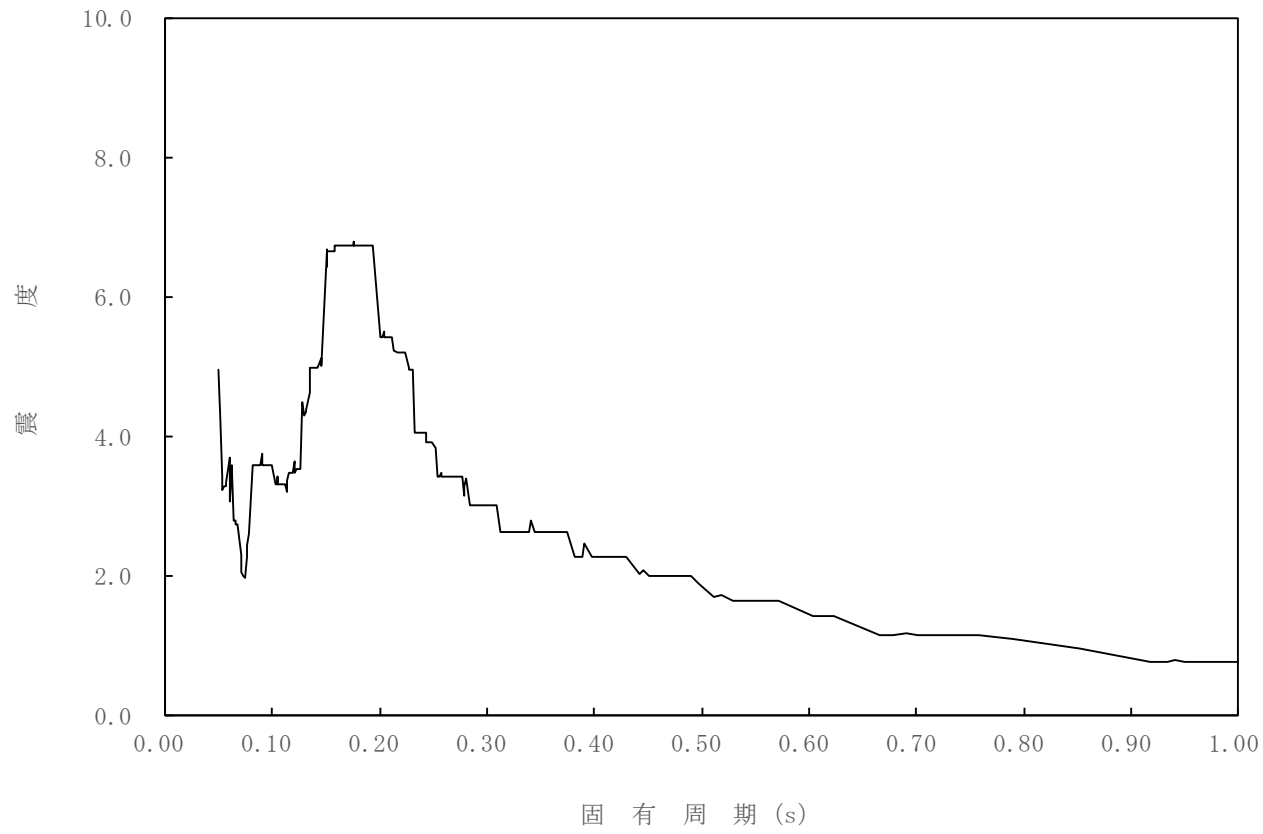
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -0.650m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-650-010】

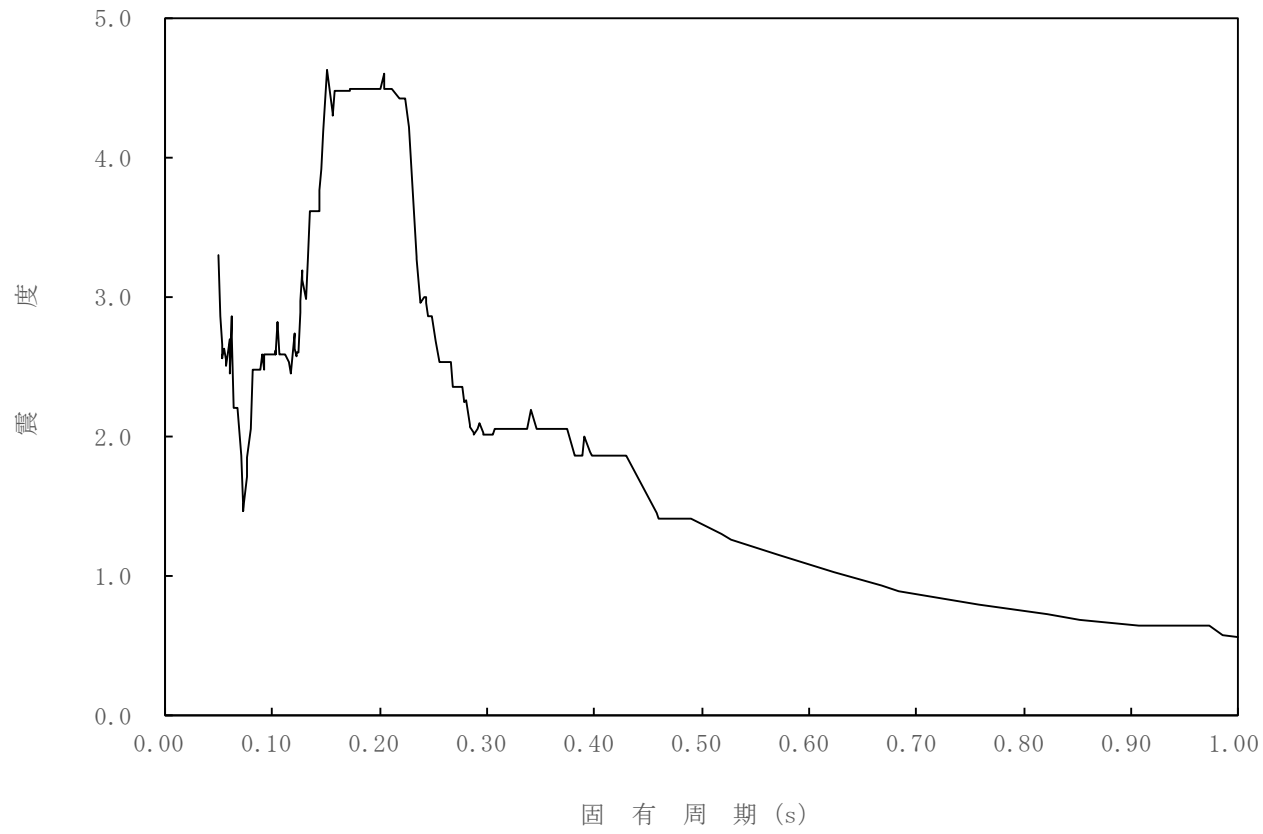
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -0.650m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-650-015】

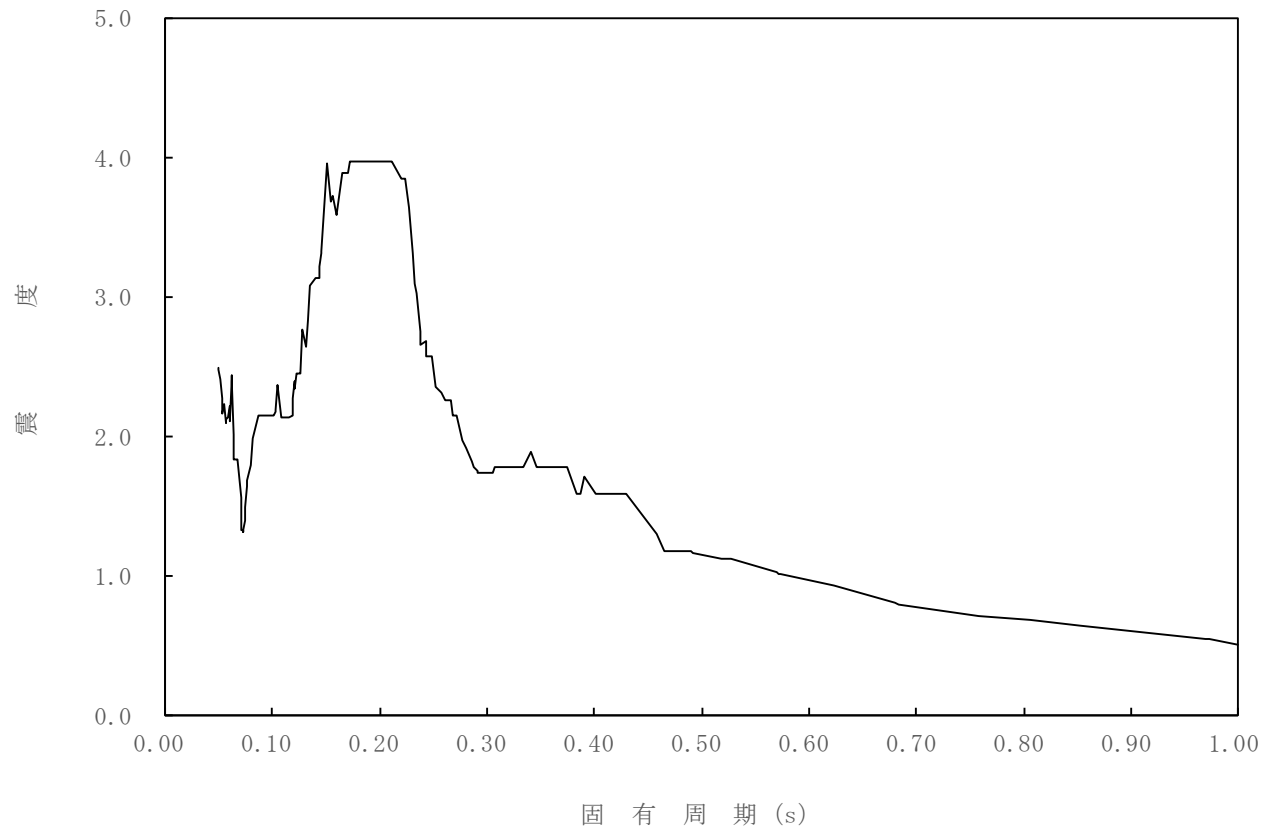
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -0.650m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



【02-SWD-SdH-SWD-650-020】

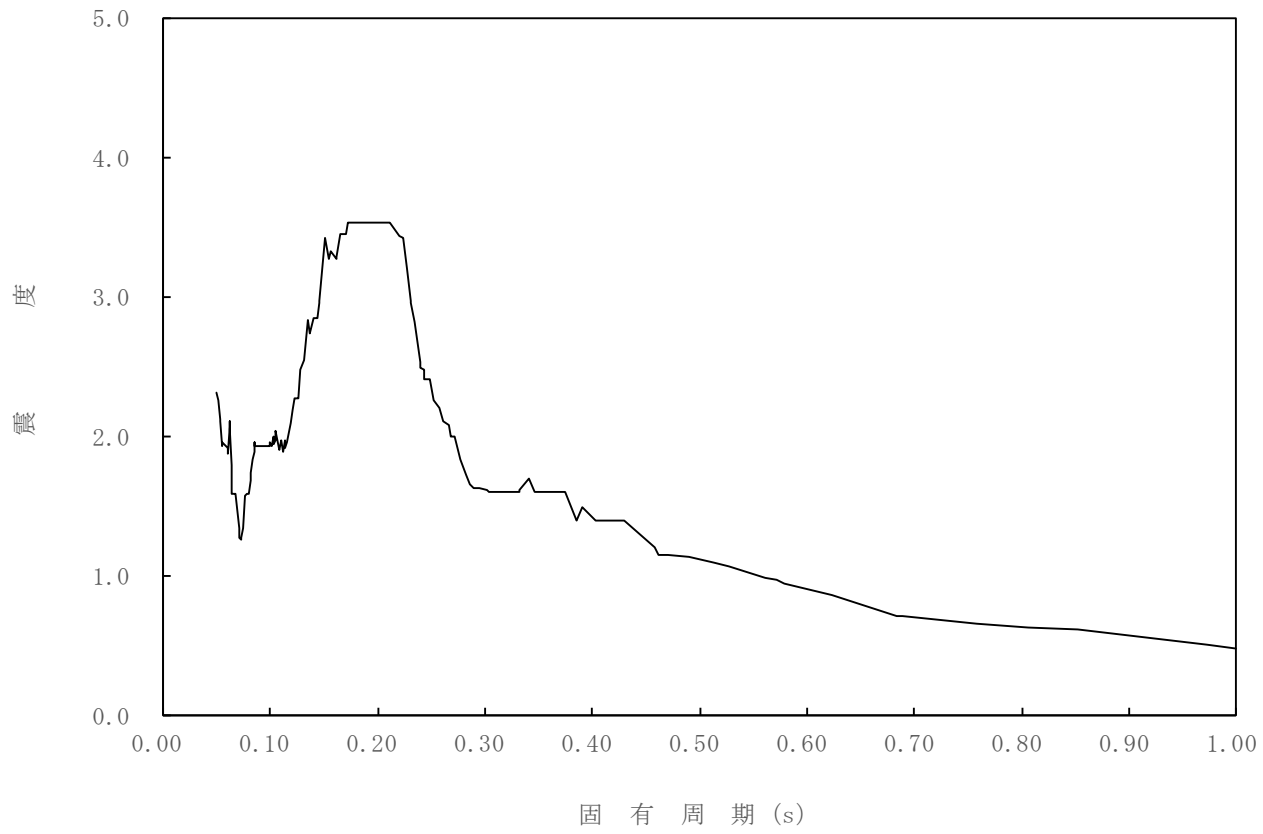
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -0.650m

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-650-025】

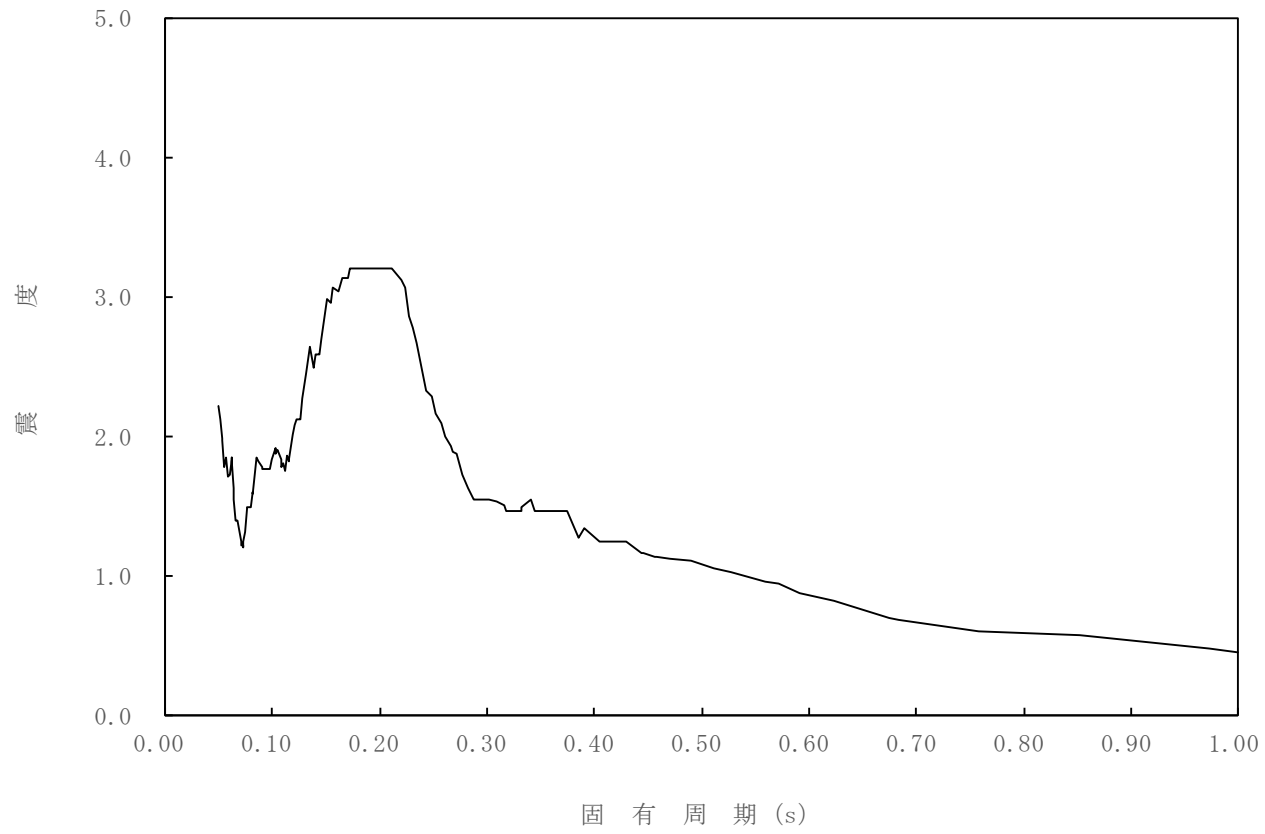
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -0.650m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-4-7



【02-SWD-SdH-SWD-650-030】

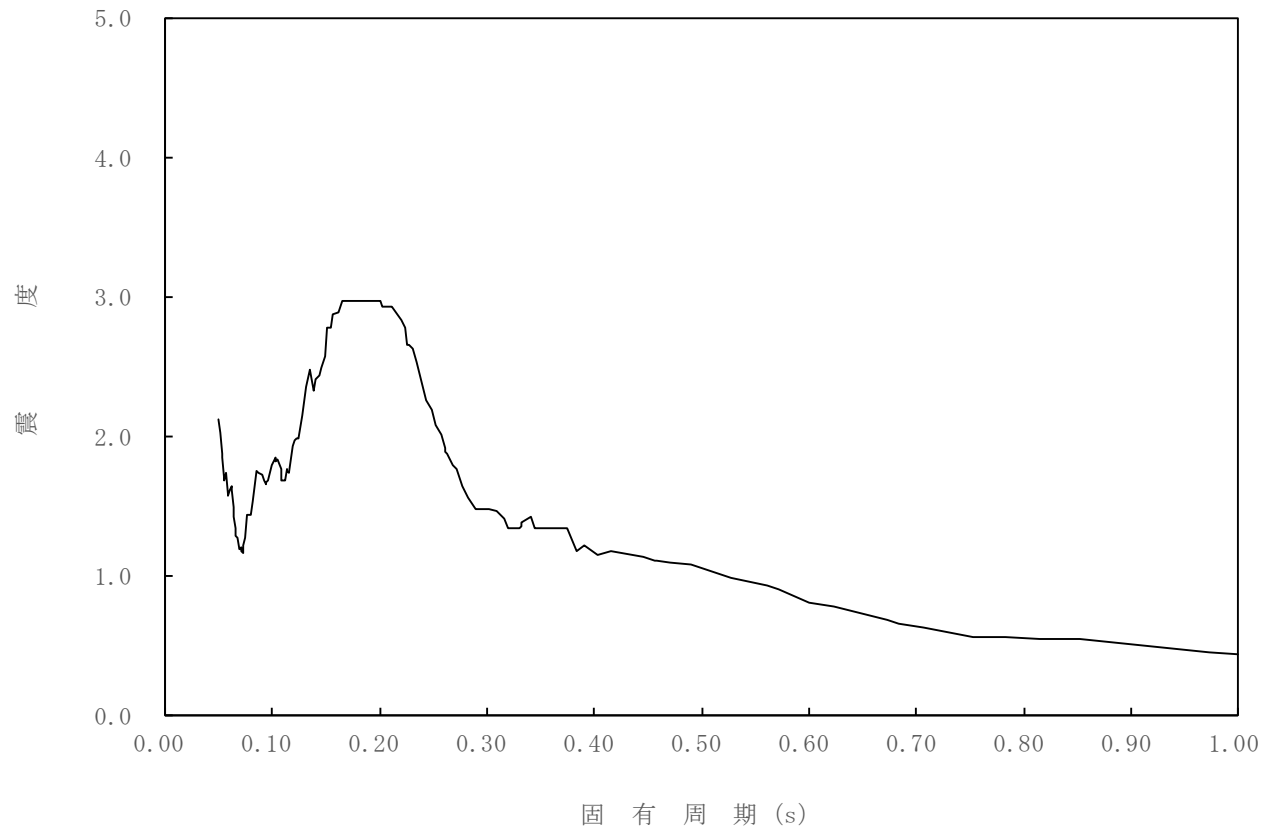
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -0.650m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-650-050】

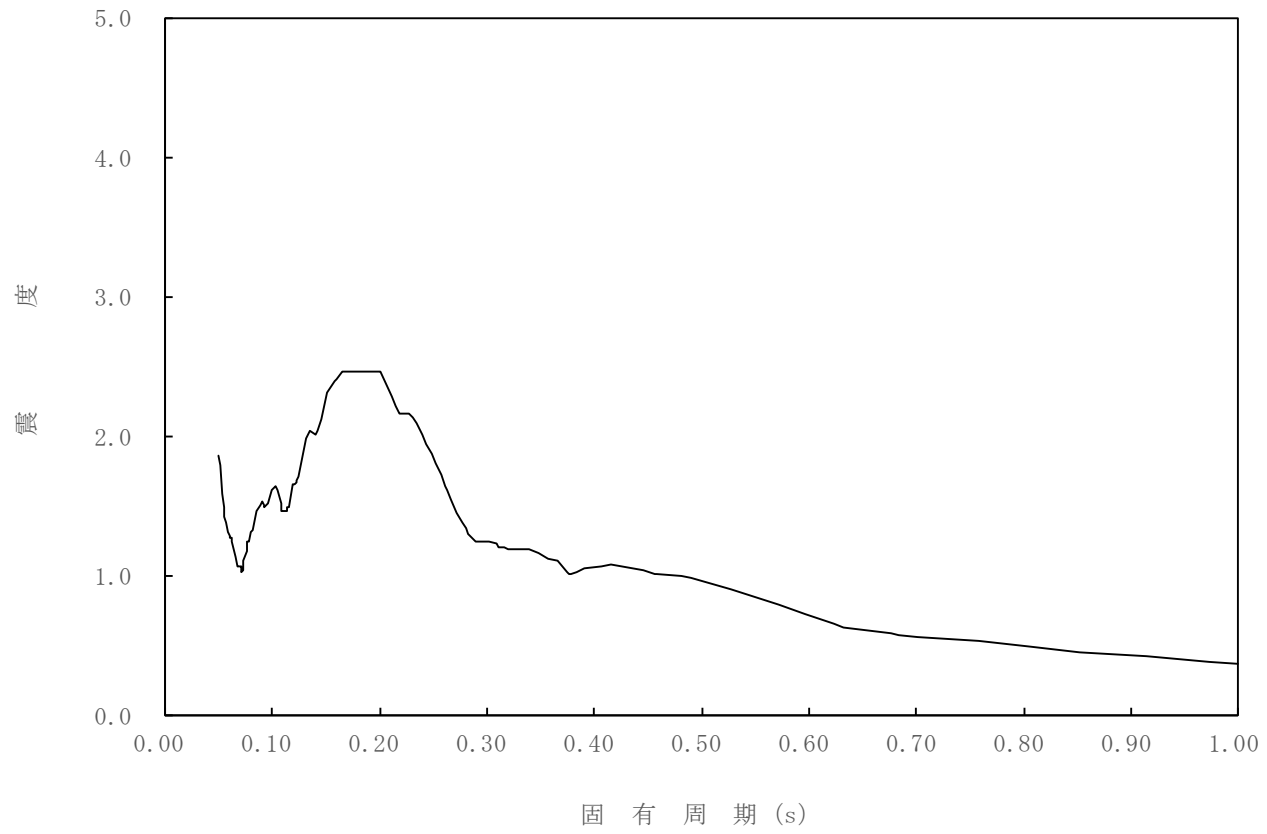
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -0.650m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-4750-005】

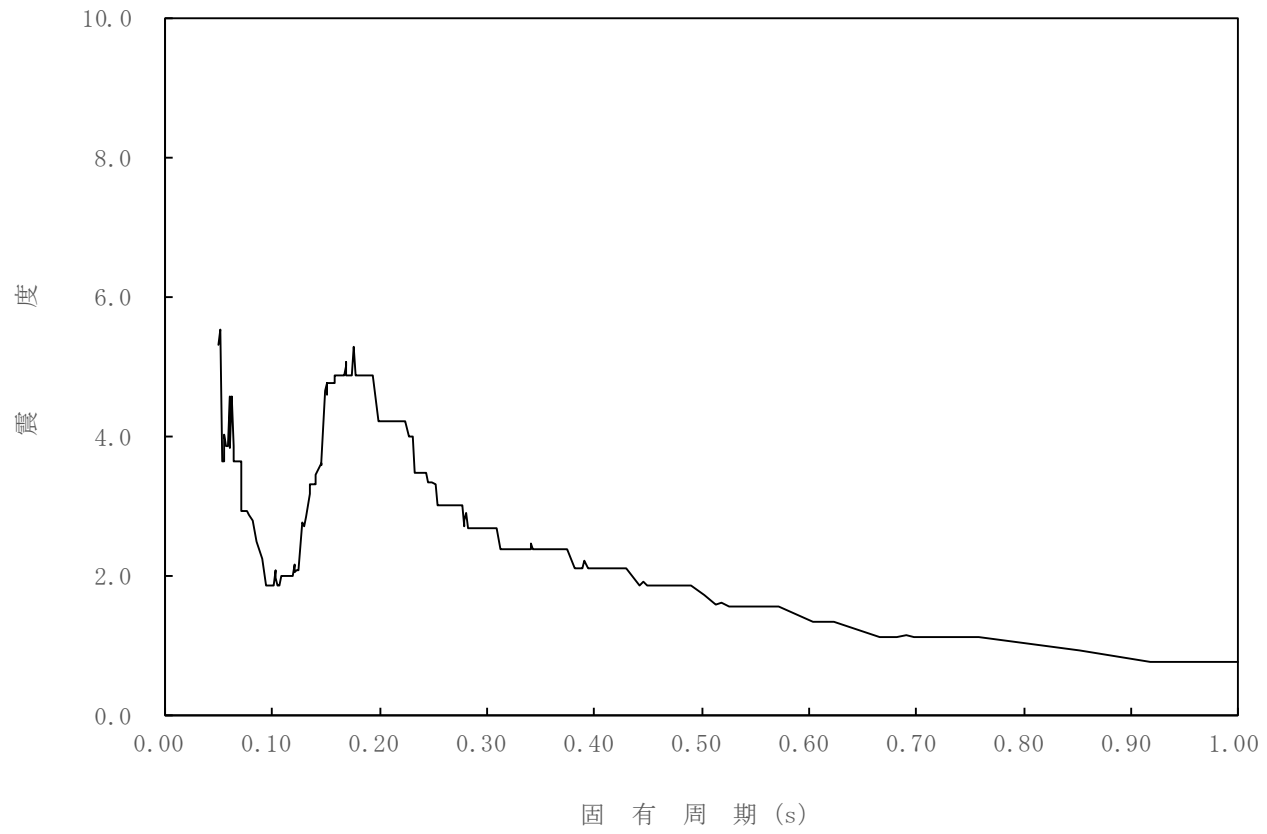
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-4-10

【02-SWD-SdH-SWD-4750-010】

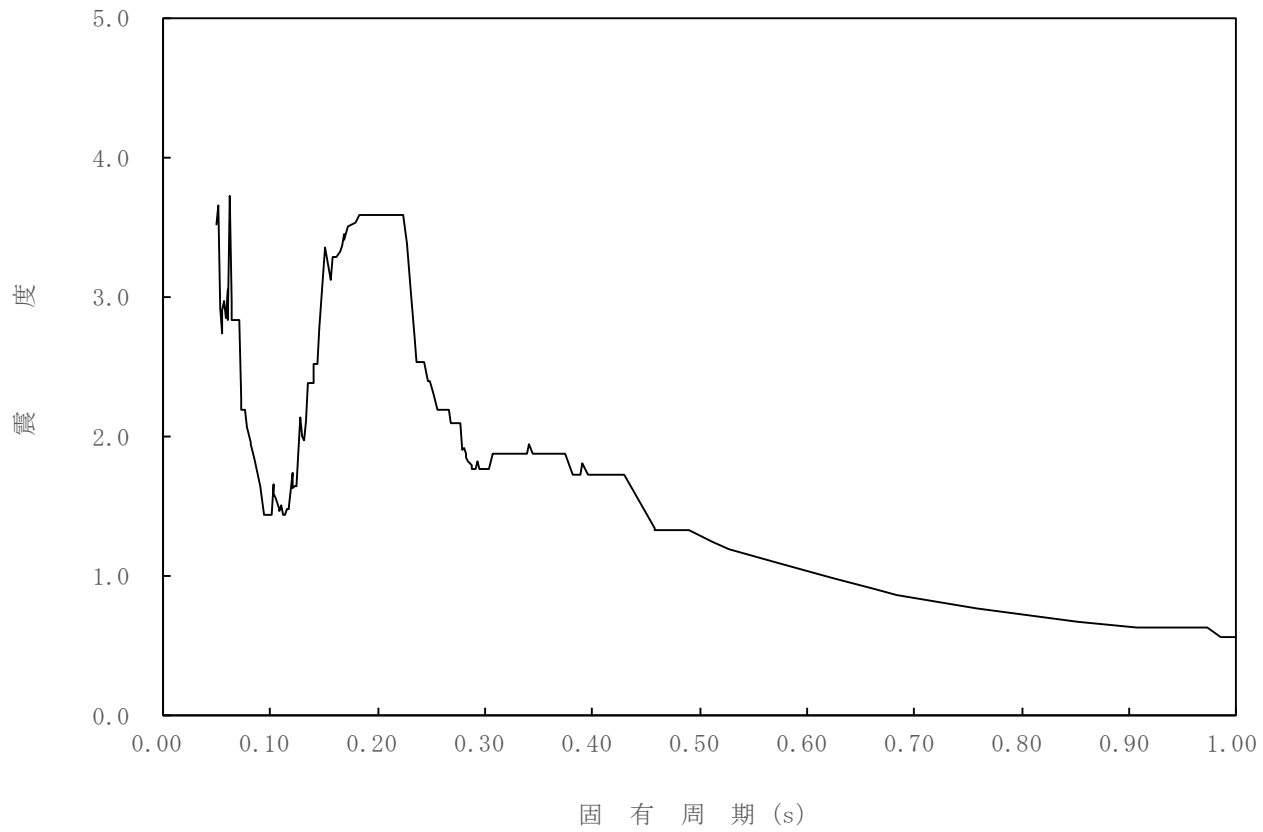
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-4750-015】

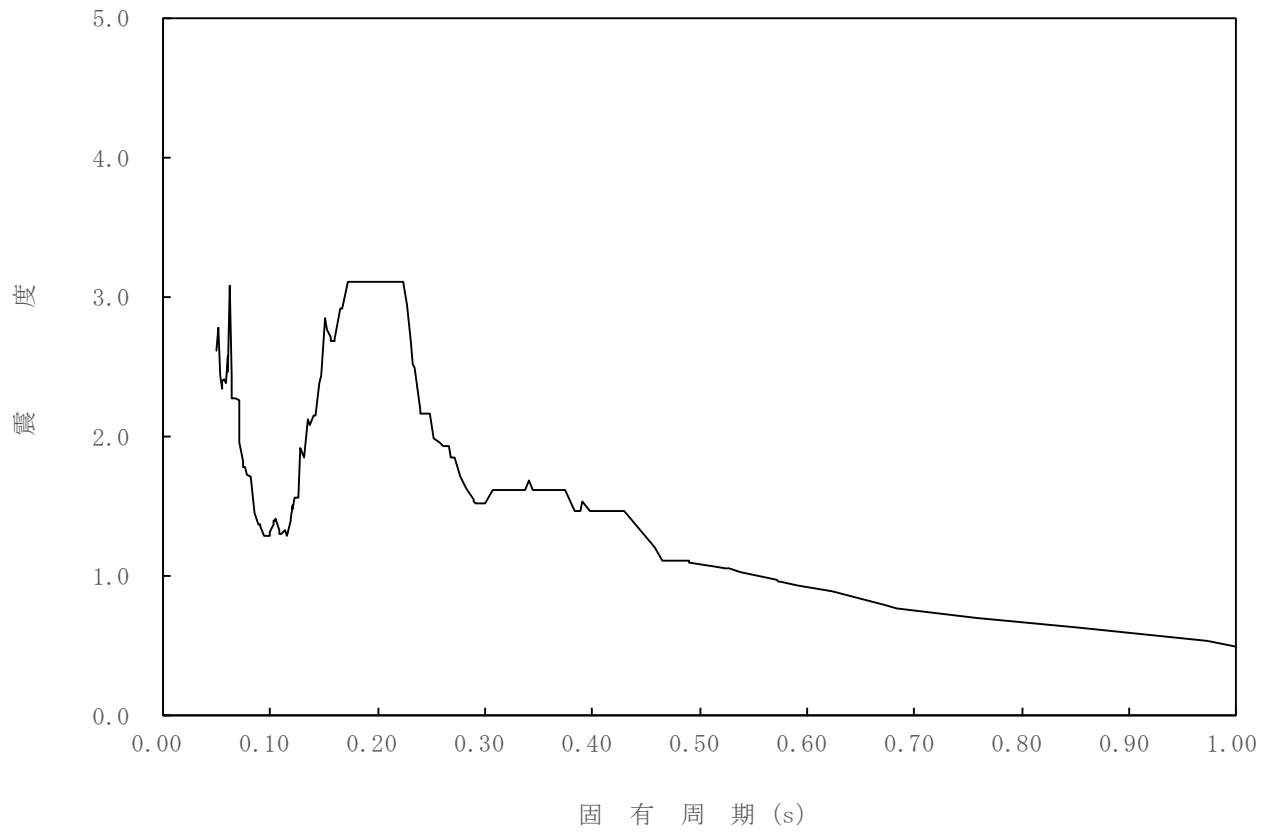
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-4750-020】

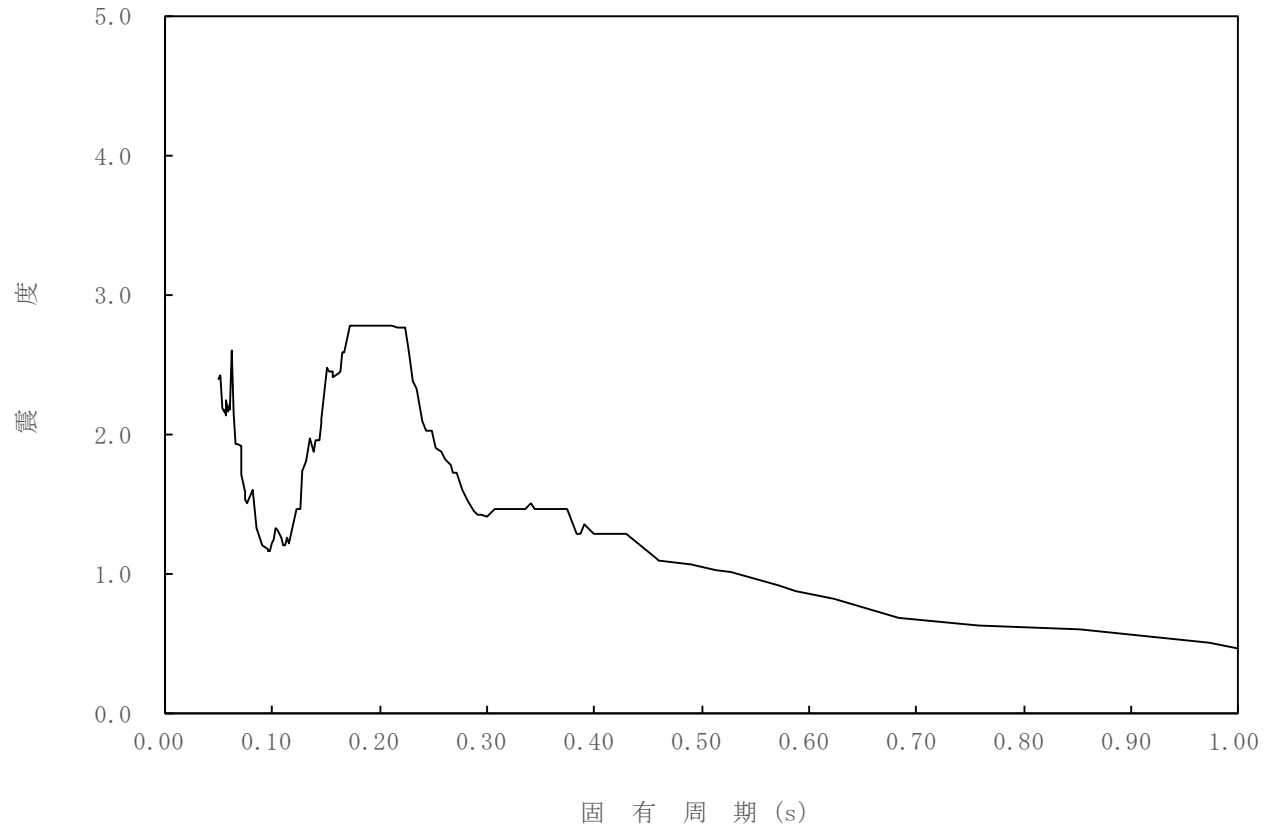
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -4.750m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-4750-025】

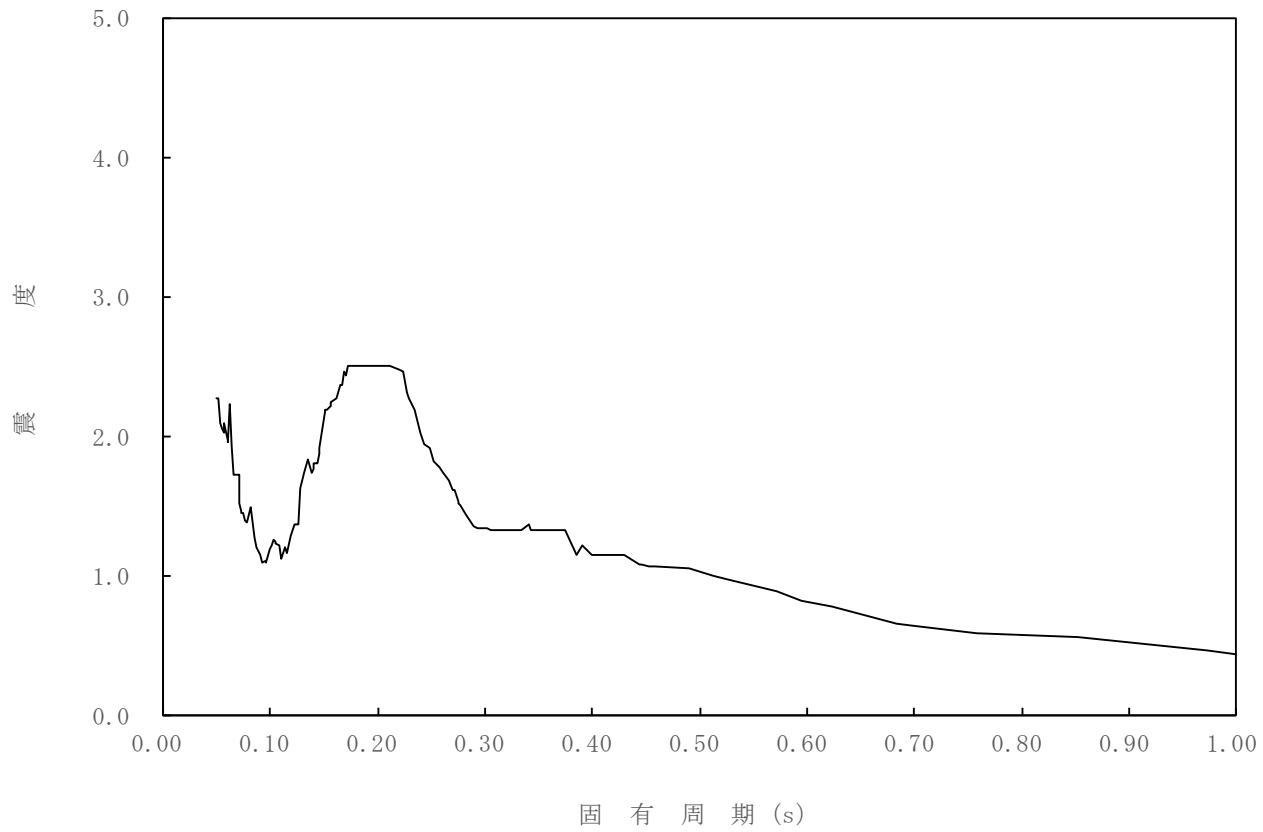
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -4.750m

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-4750-030】

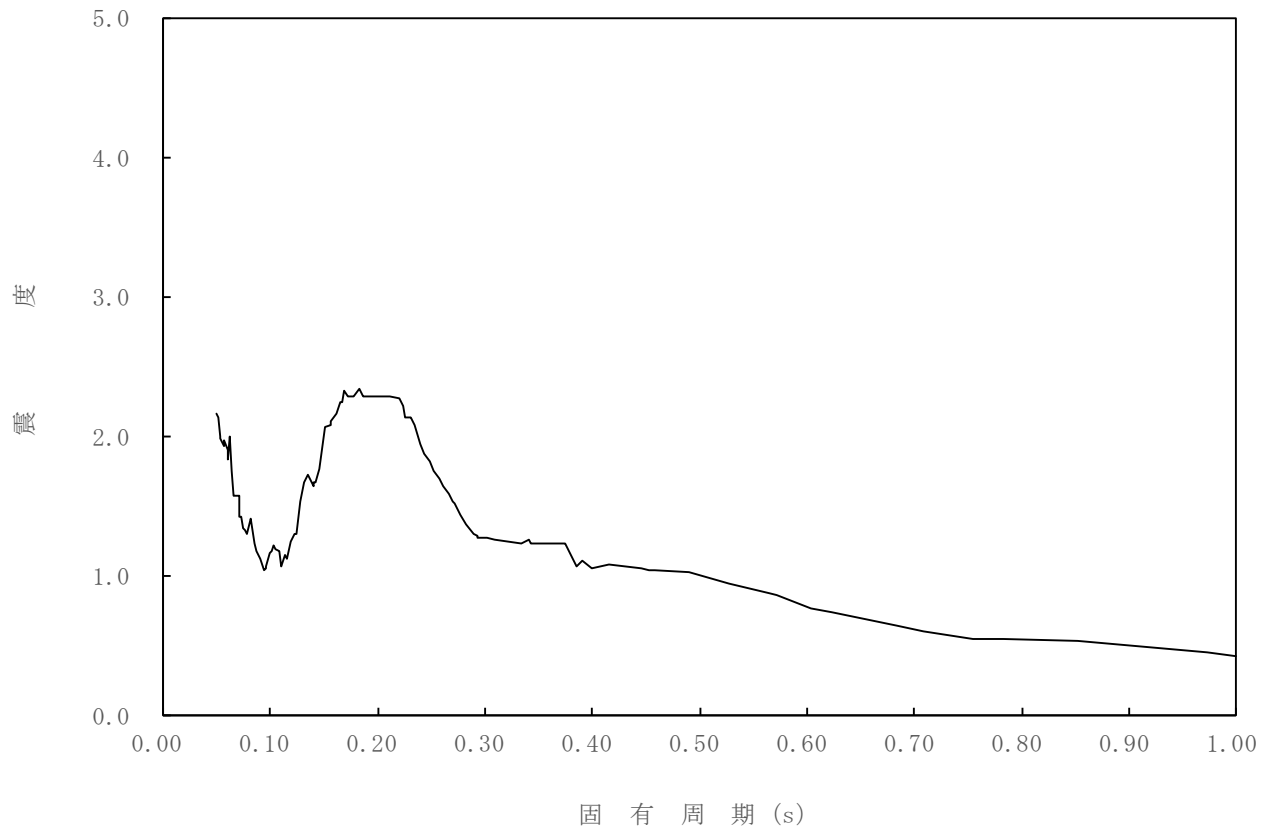
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-SWD-SdH-SWD-4750-050】

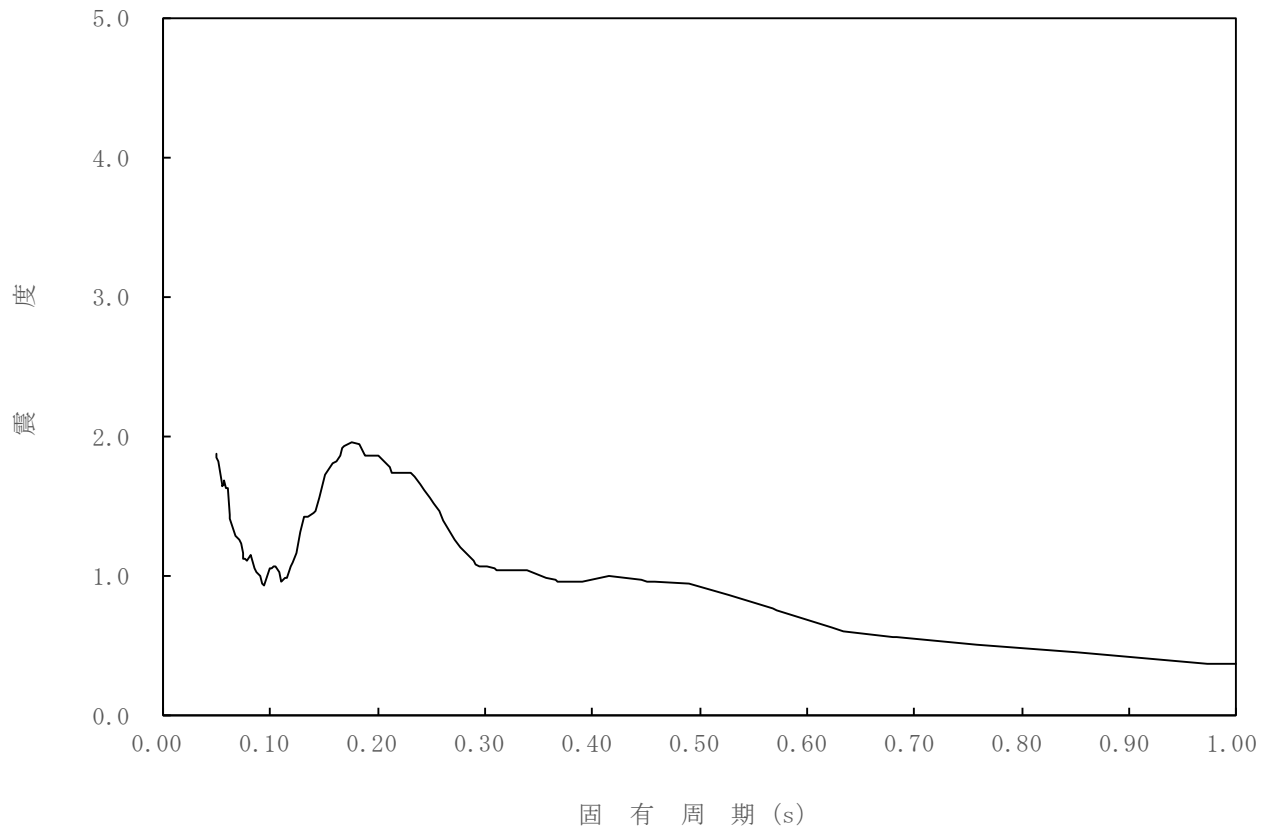
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 水平方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-8850-005】

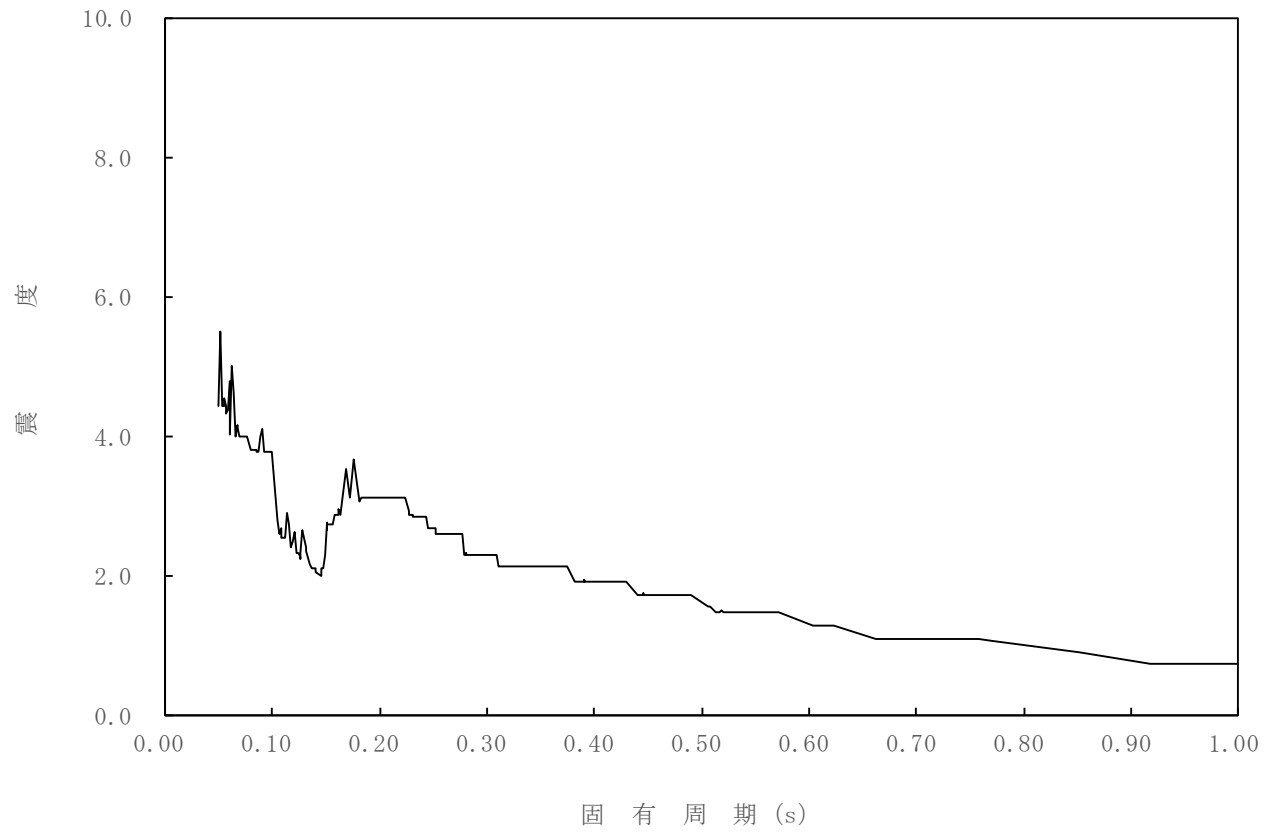
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-8850-010】

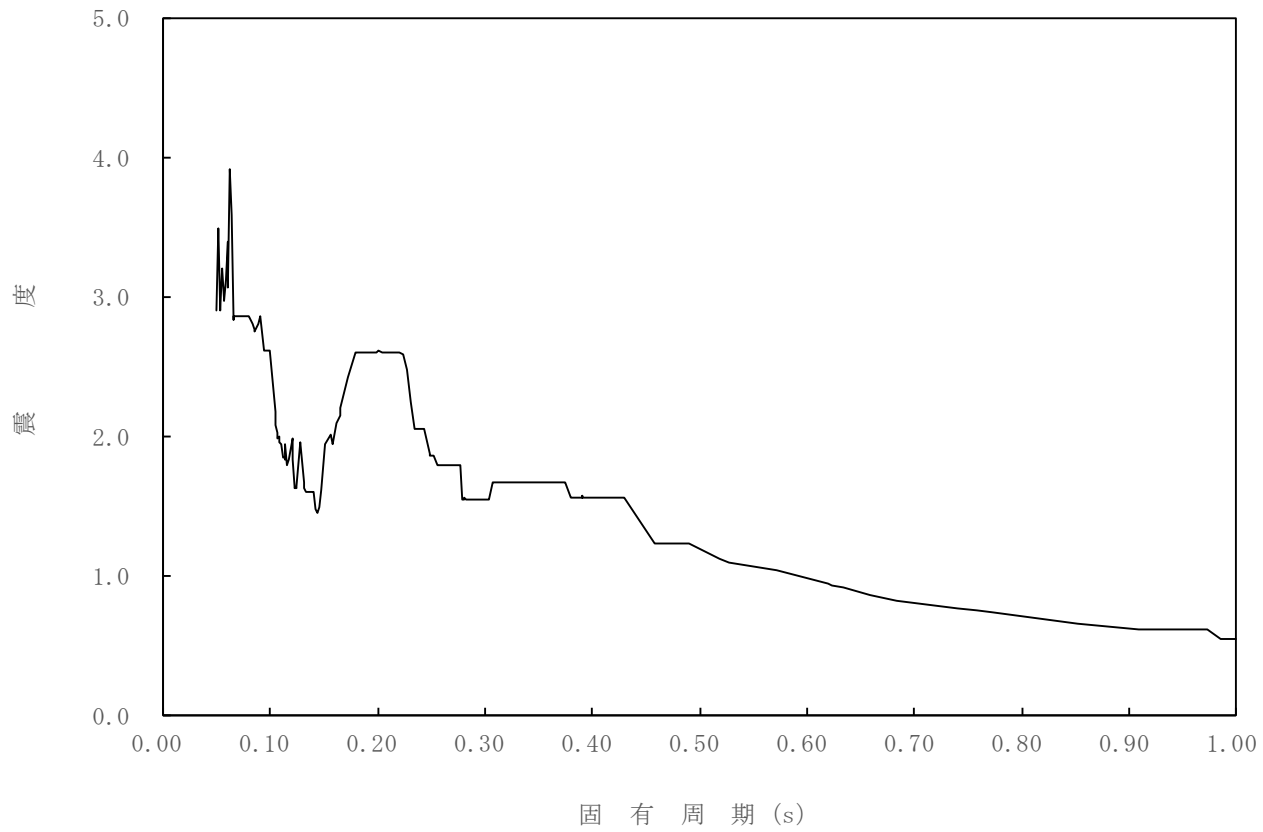
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-8850-015】

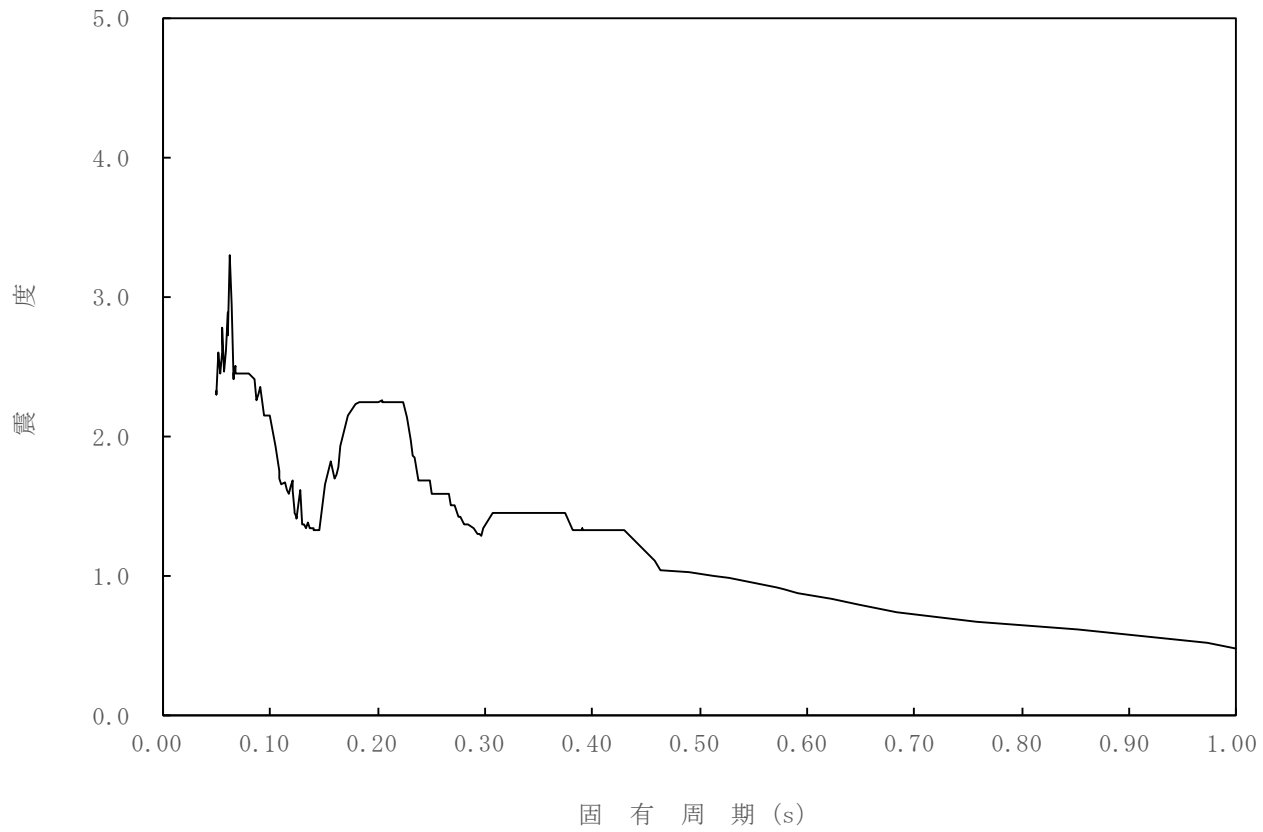
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-8850-020】

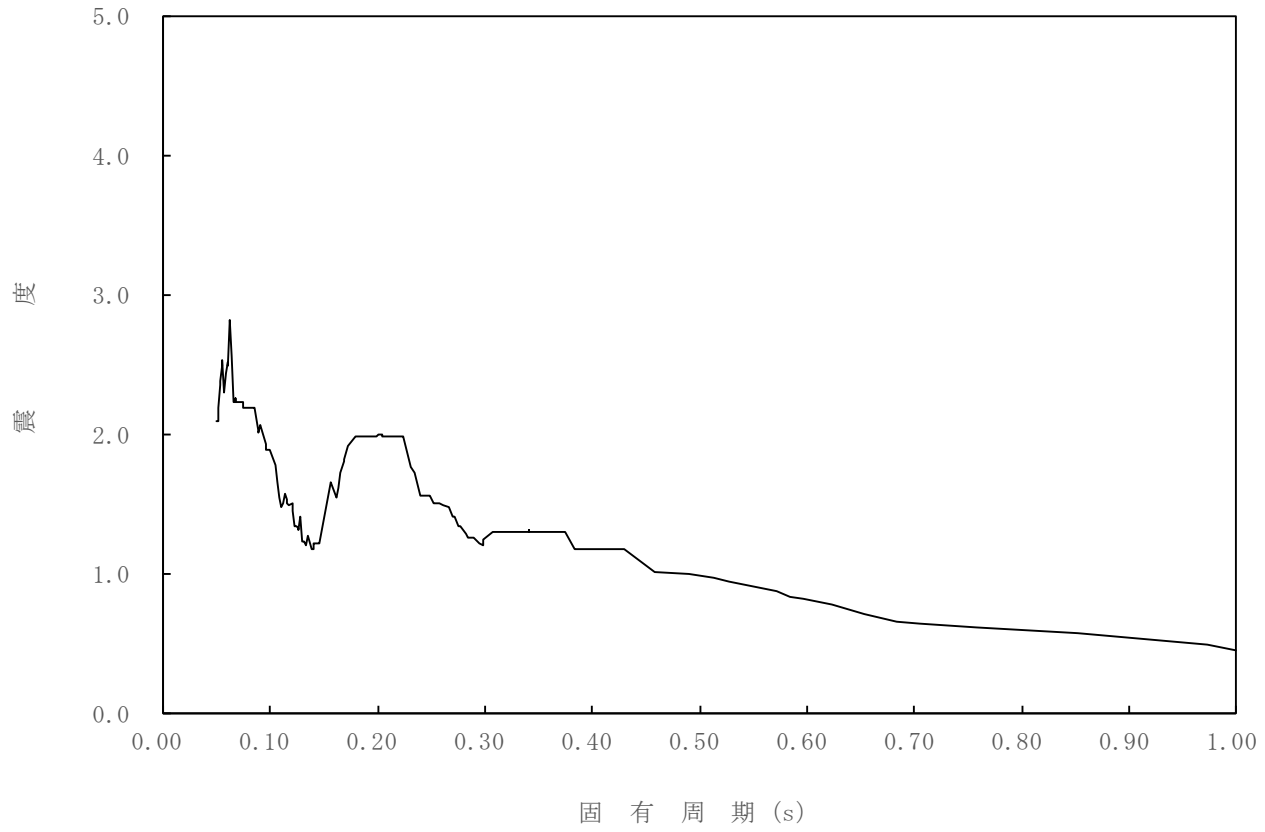
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-4-20

【02-SWD-SdH-SWD-8850-025】

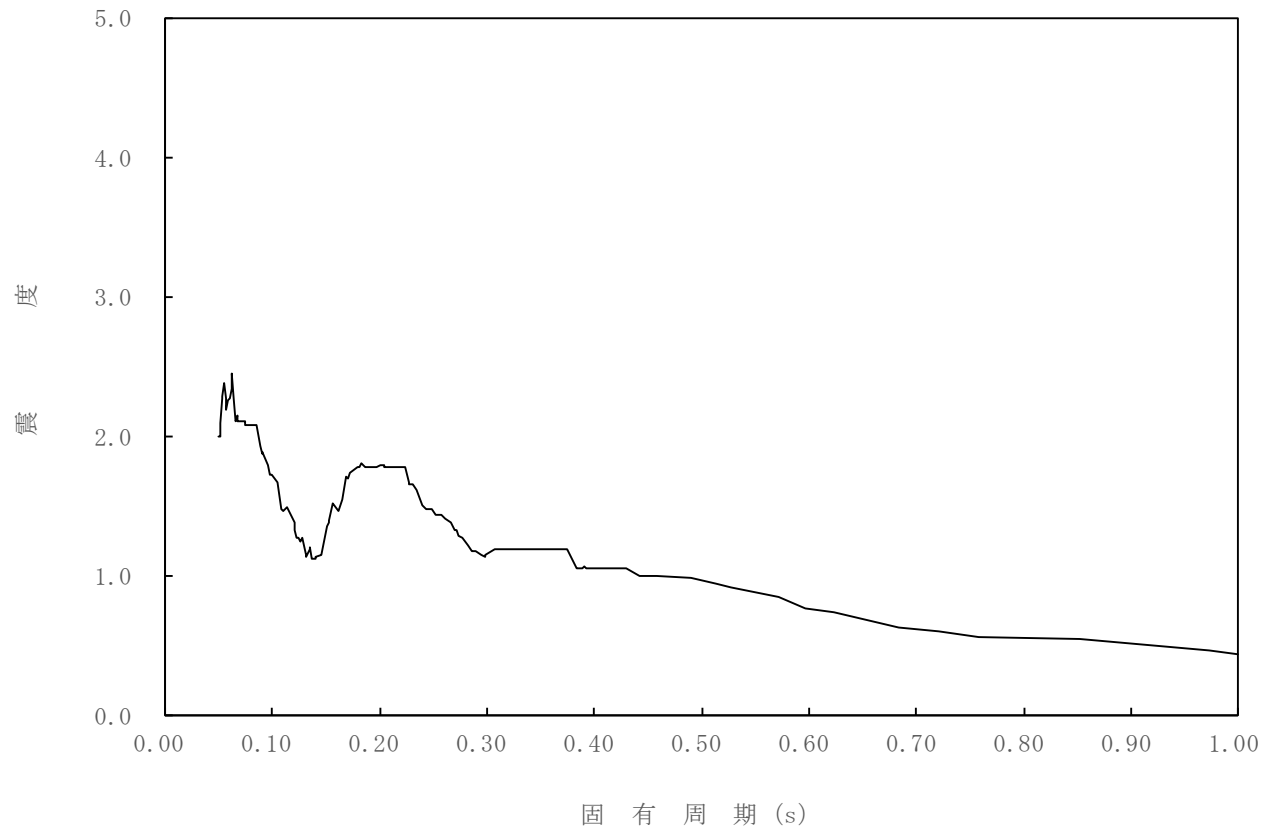
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdH-SWD-8850-030】

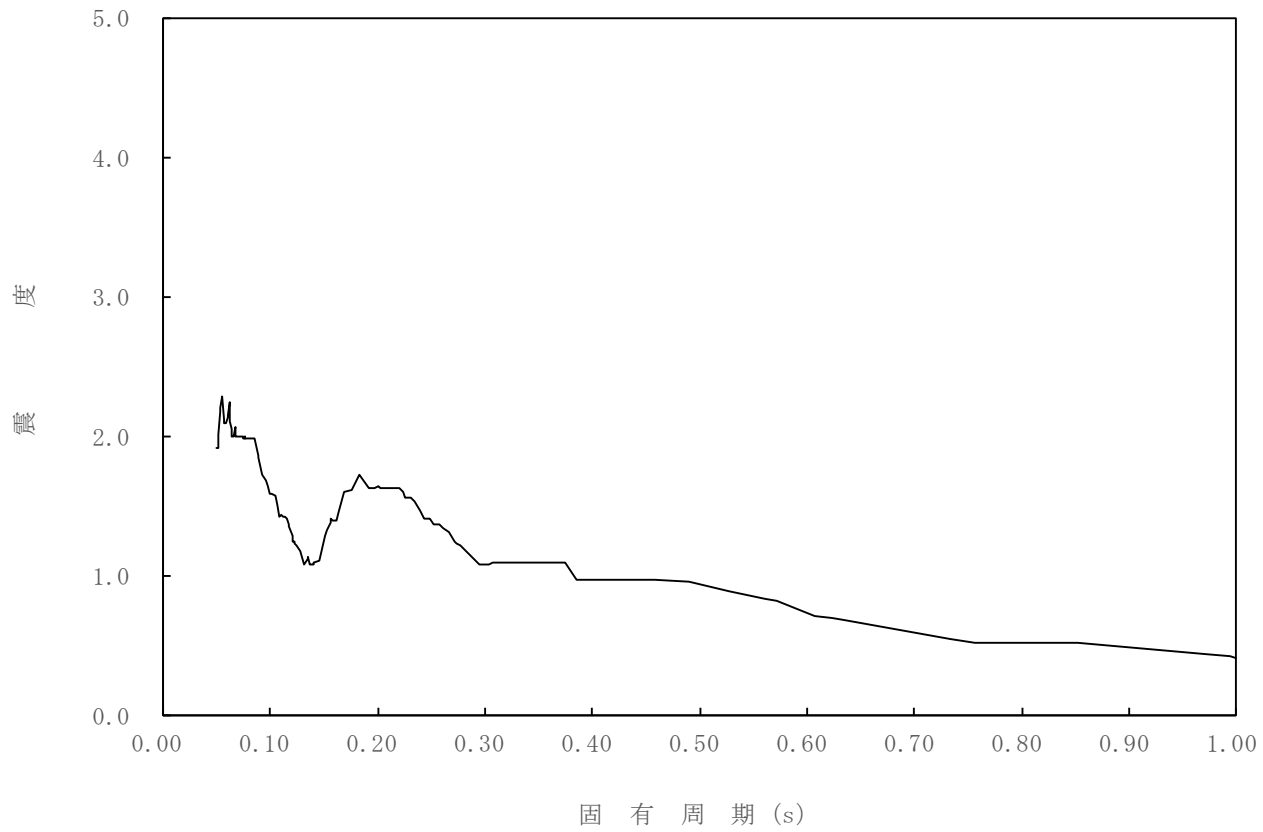
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-4-22

【02-SWD-SdH-SWD-8850-050】

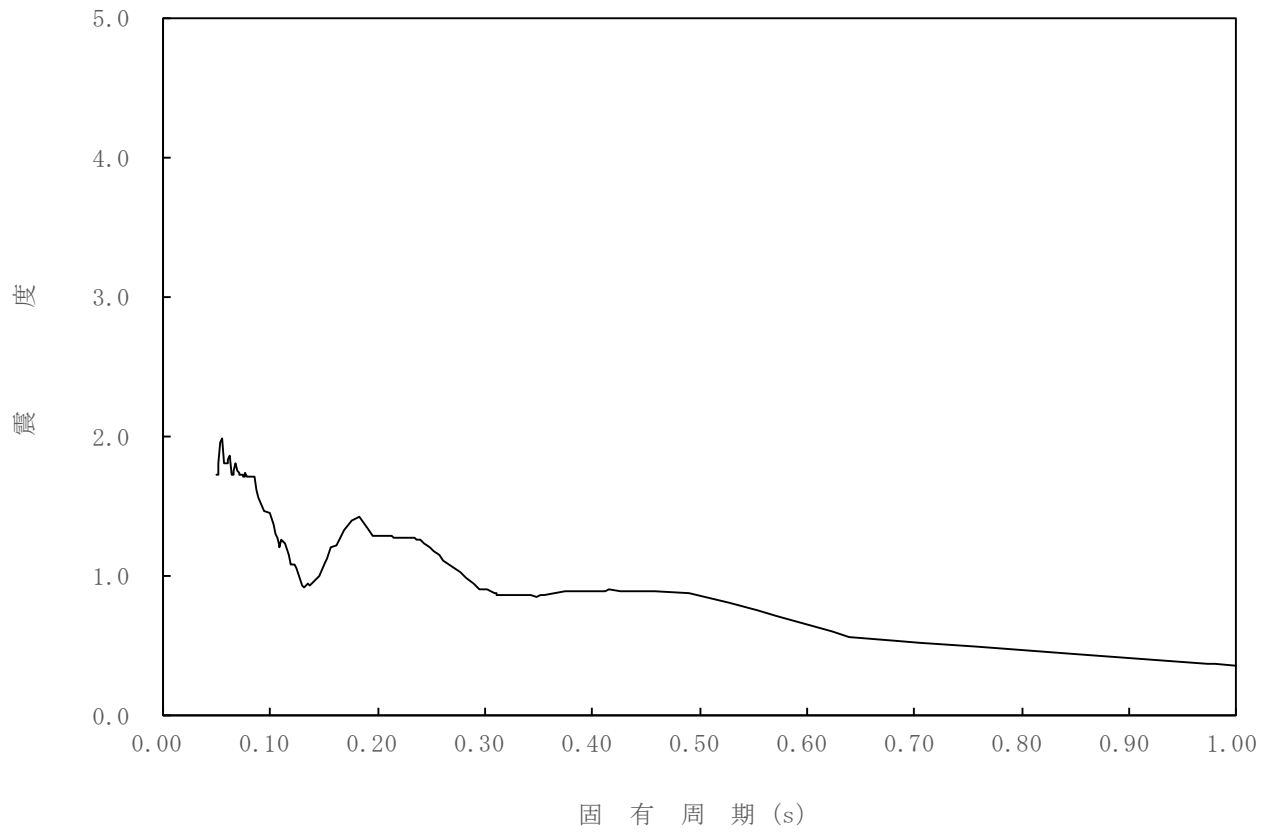
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 水平方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-SWD-SdV-SWD-650-005】

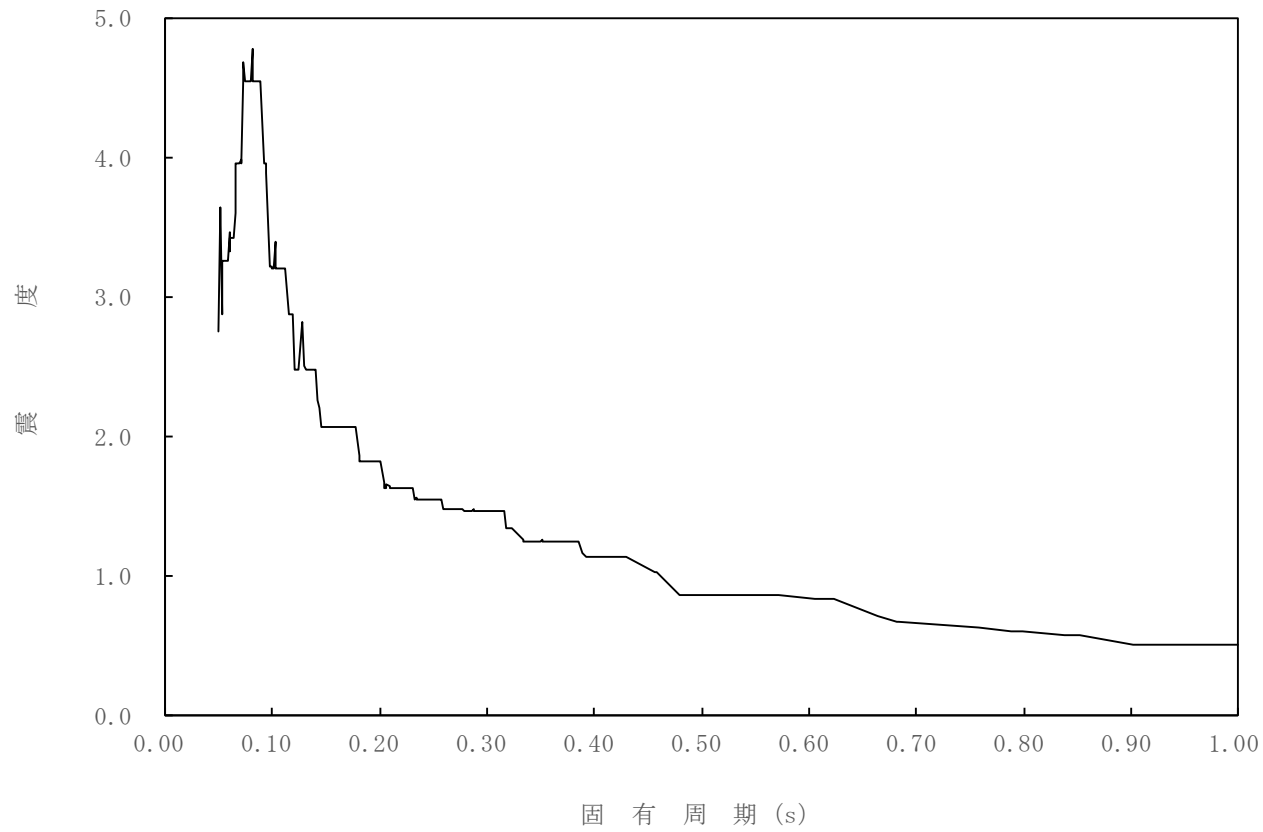
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -0.650m

— 鉛直方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-650-010】

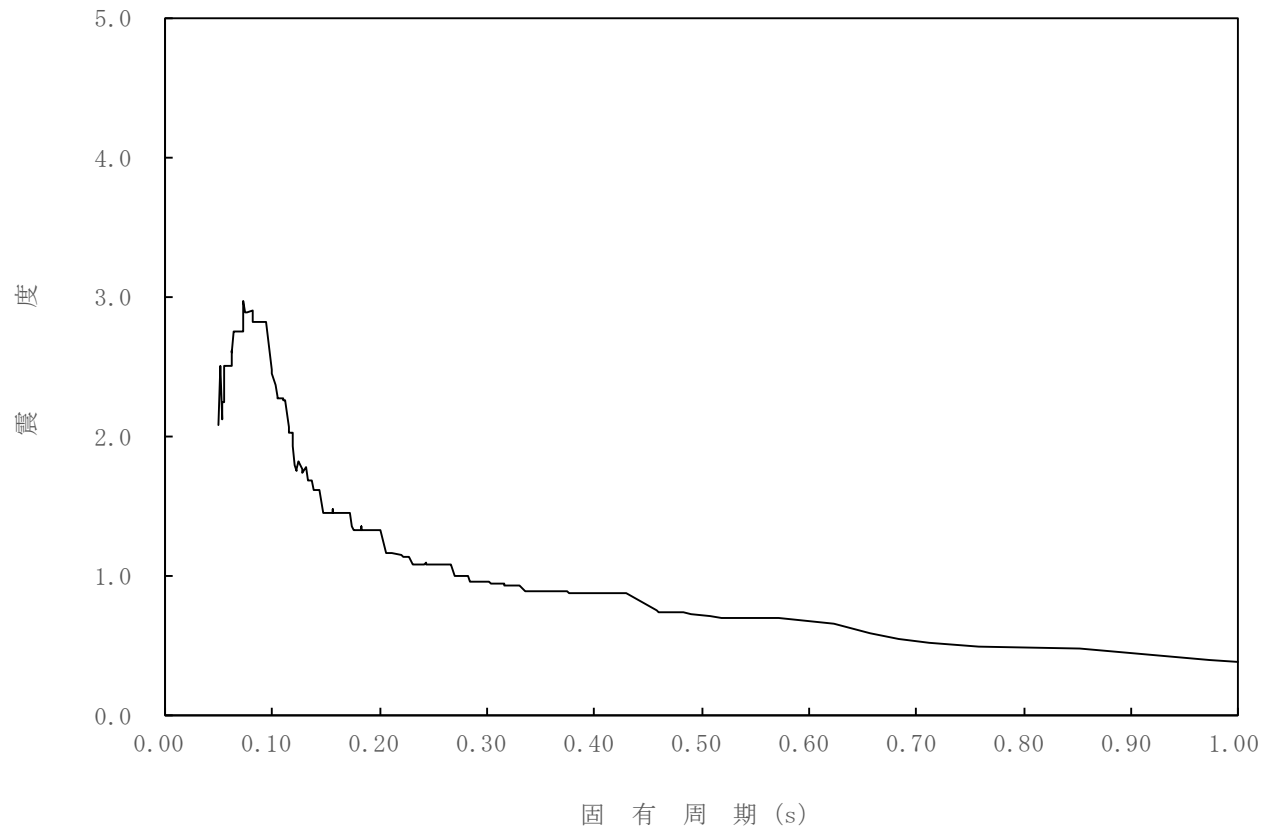
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -0.650m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-650-015】

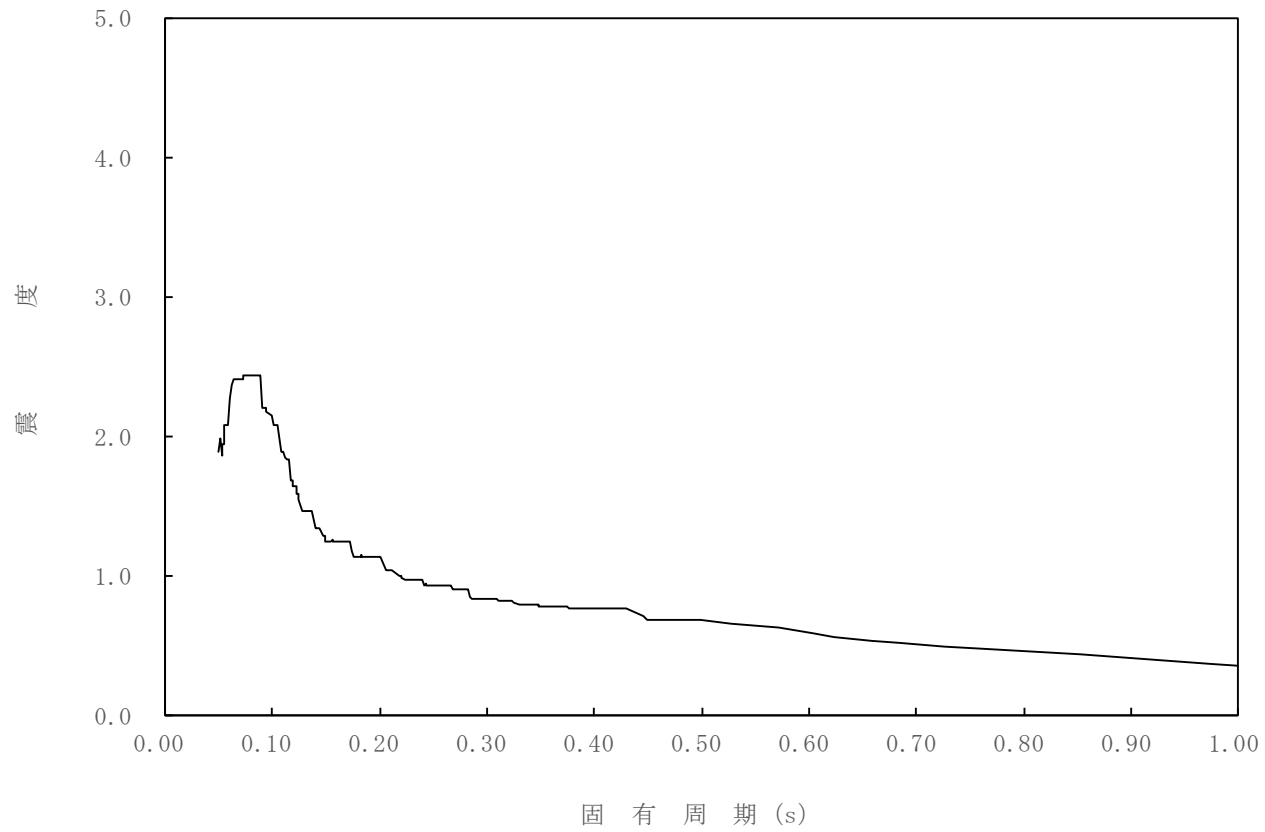
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -0.650m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-650-020】

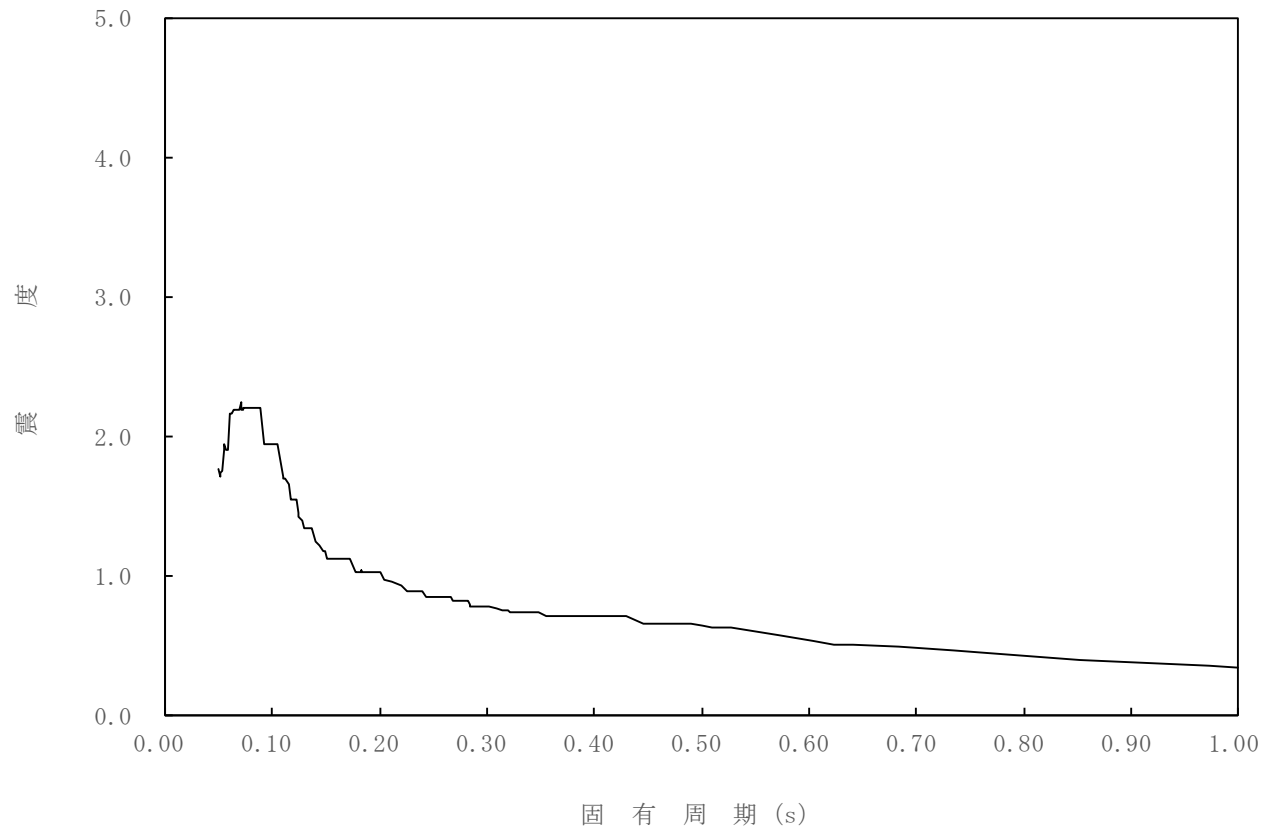
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -0.650m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-650-025】

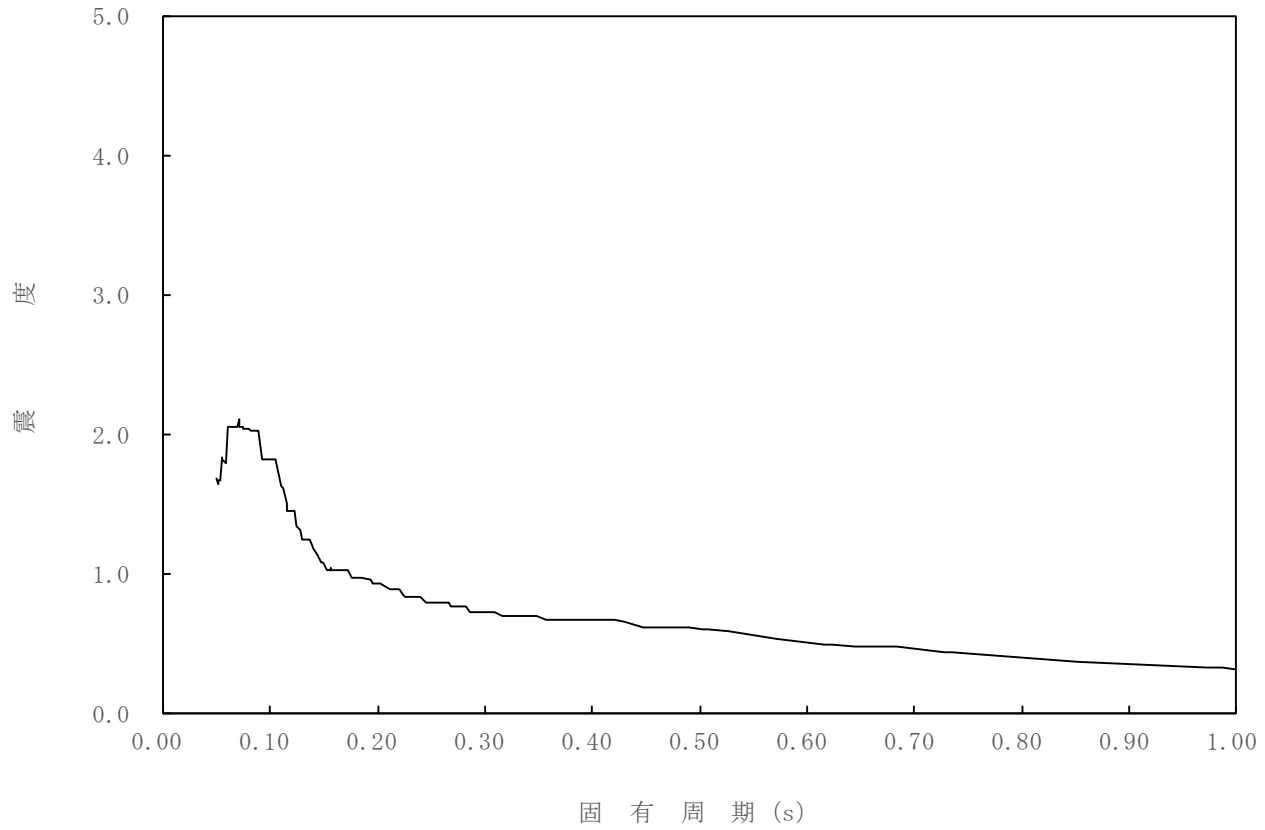
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -0.650m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-650-030】

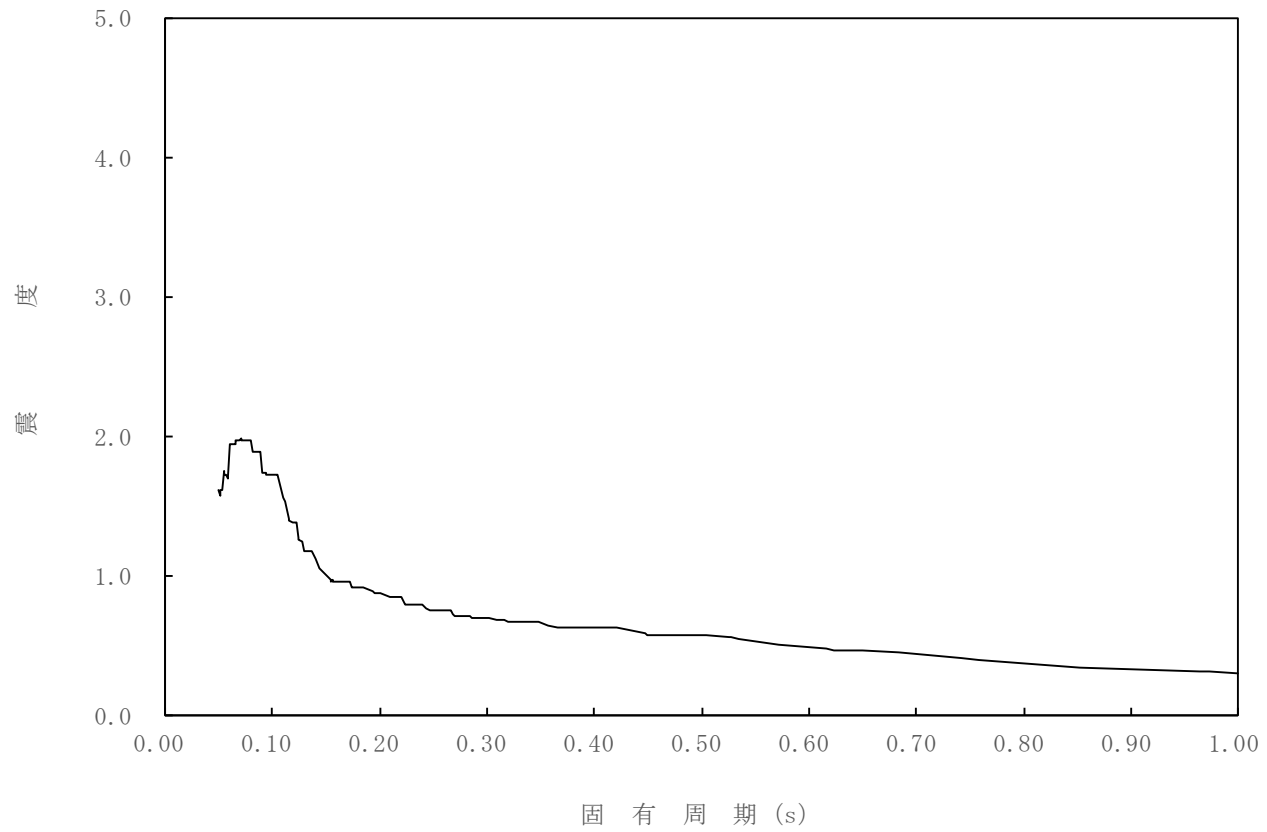
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -0.650m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-650-050】

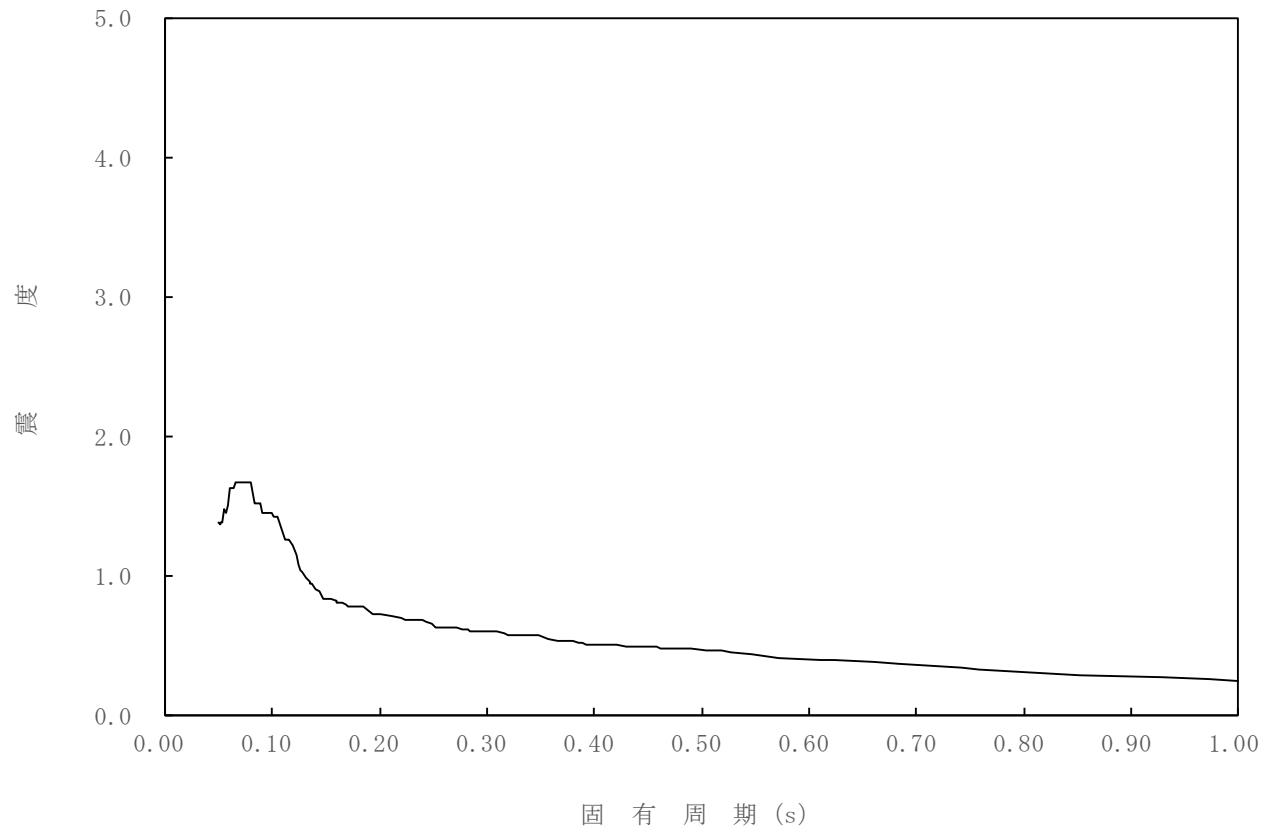
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -0.650m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-4-30

【02-SWD-SdV-SWD-4750-005】

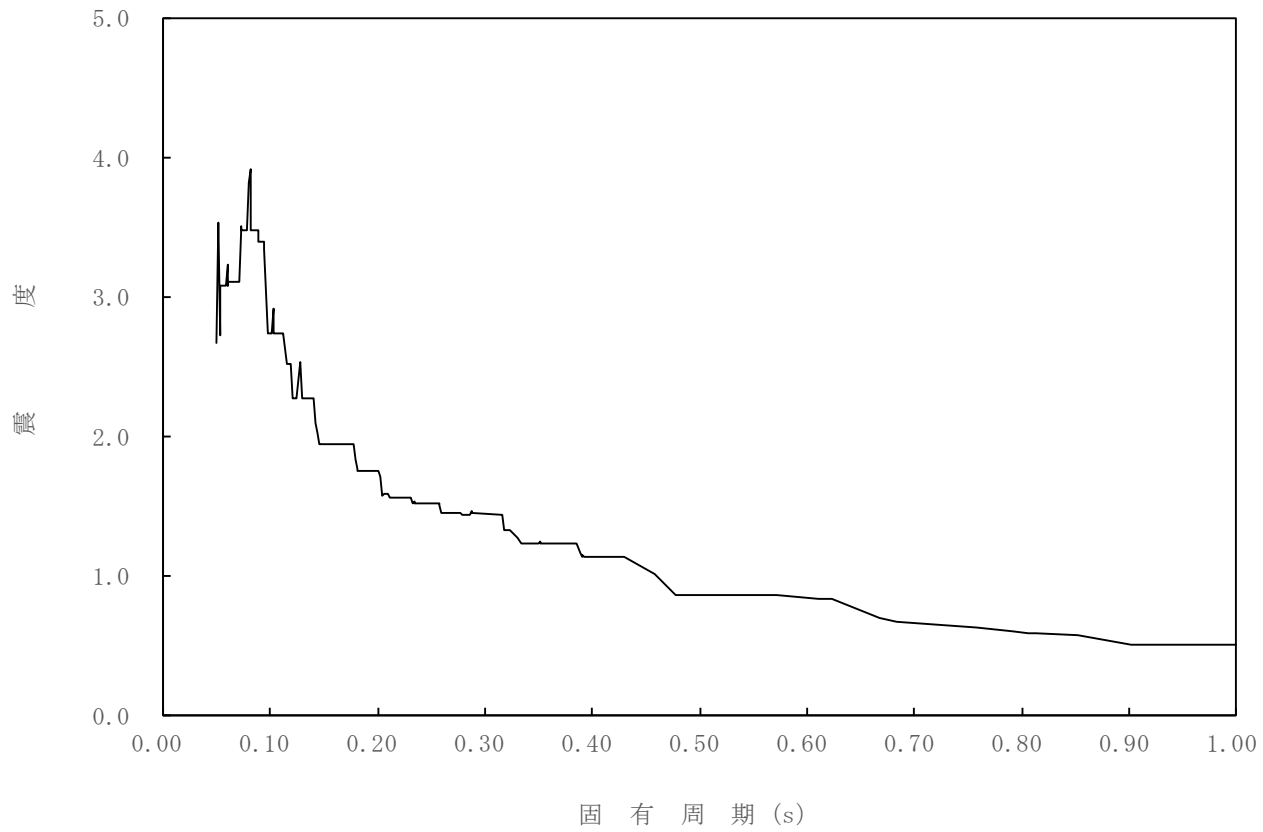
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 鉛直方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-SWD-SdV-SWD-4750-010】

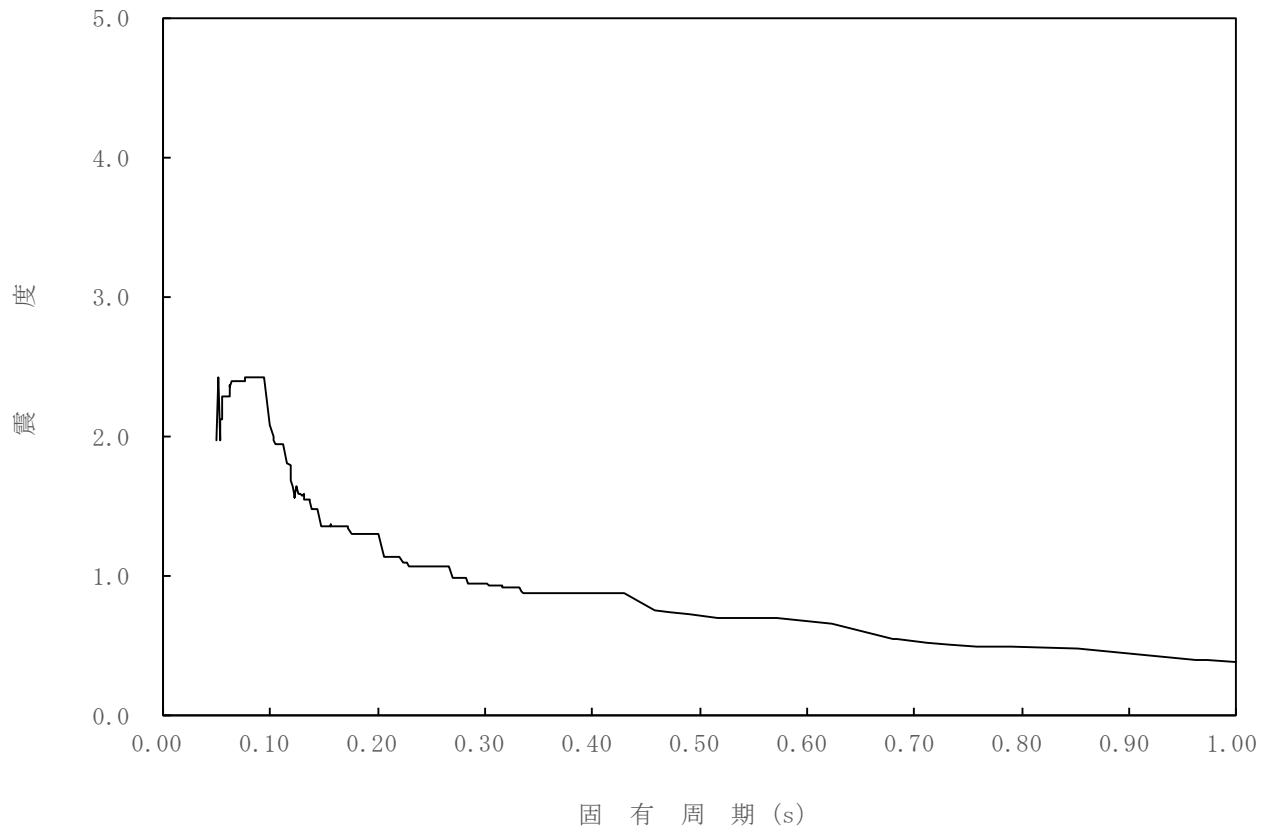
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-4750-015】

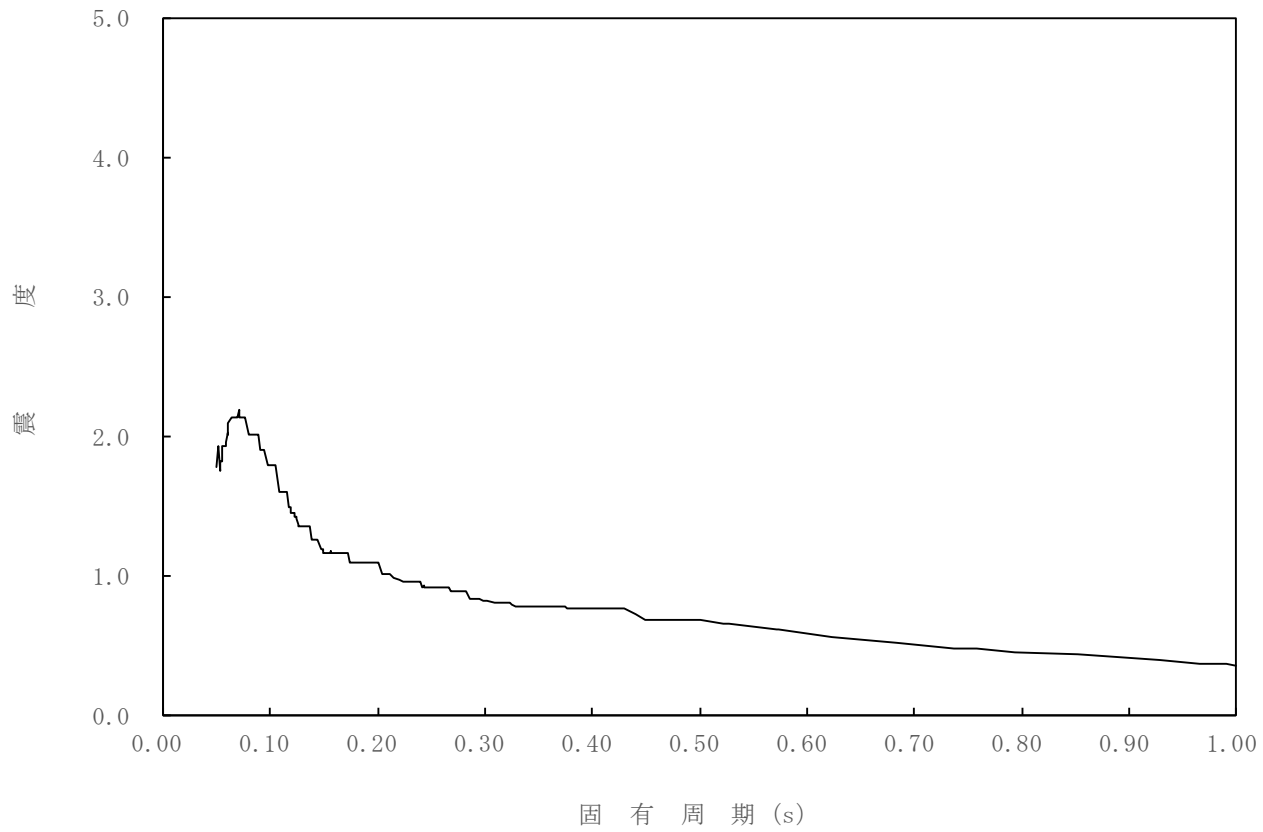
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-4750-020】

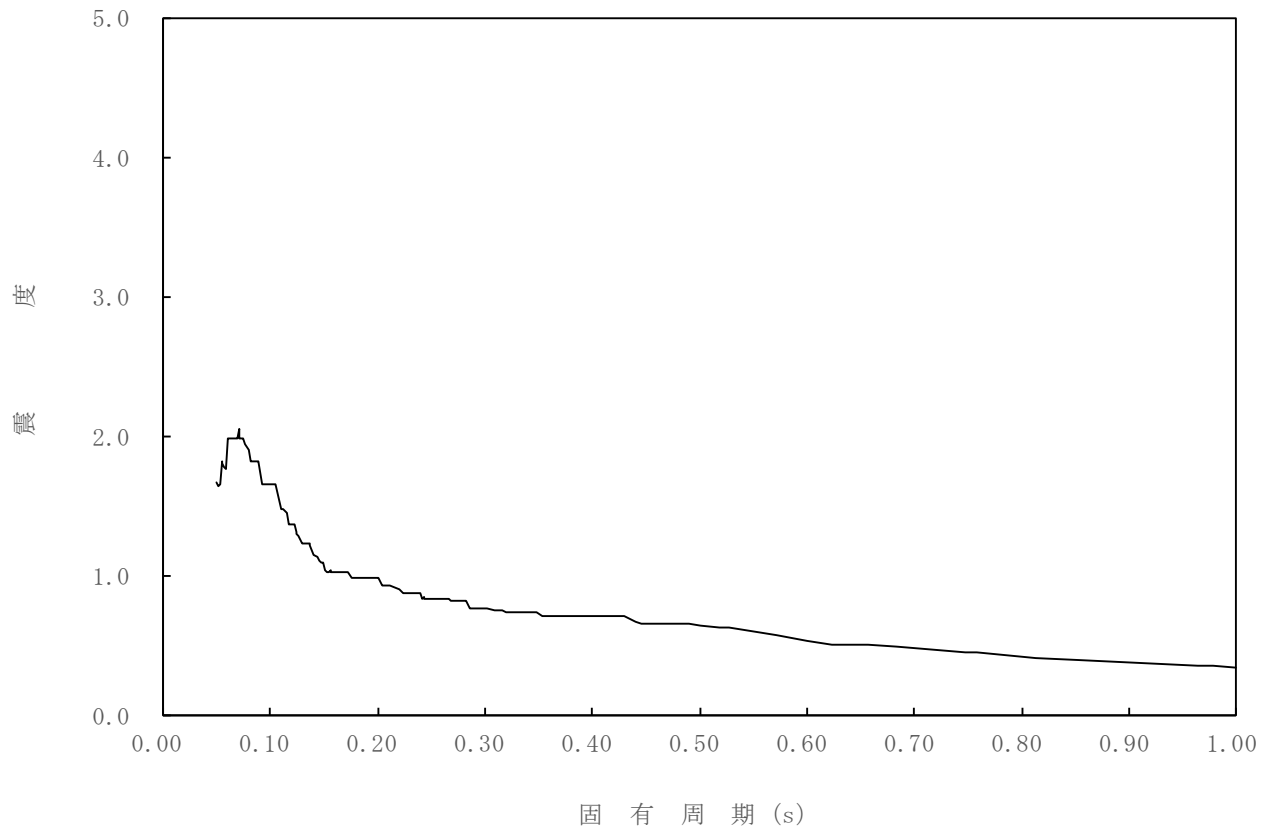
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -4.750m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-4750-025】

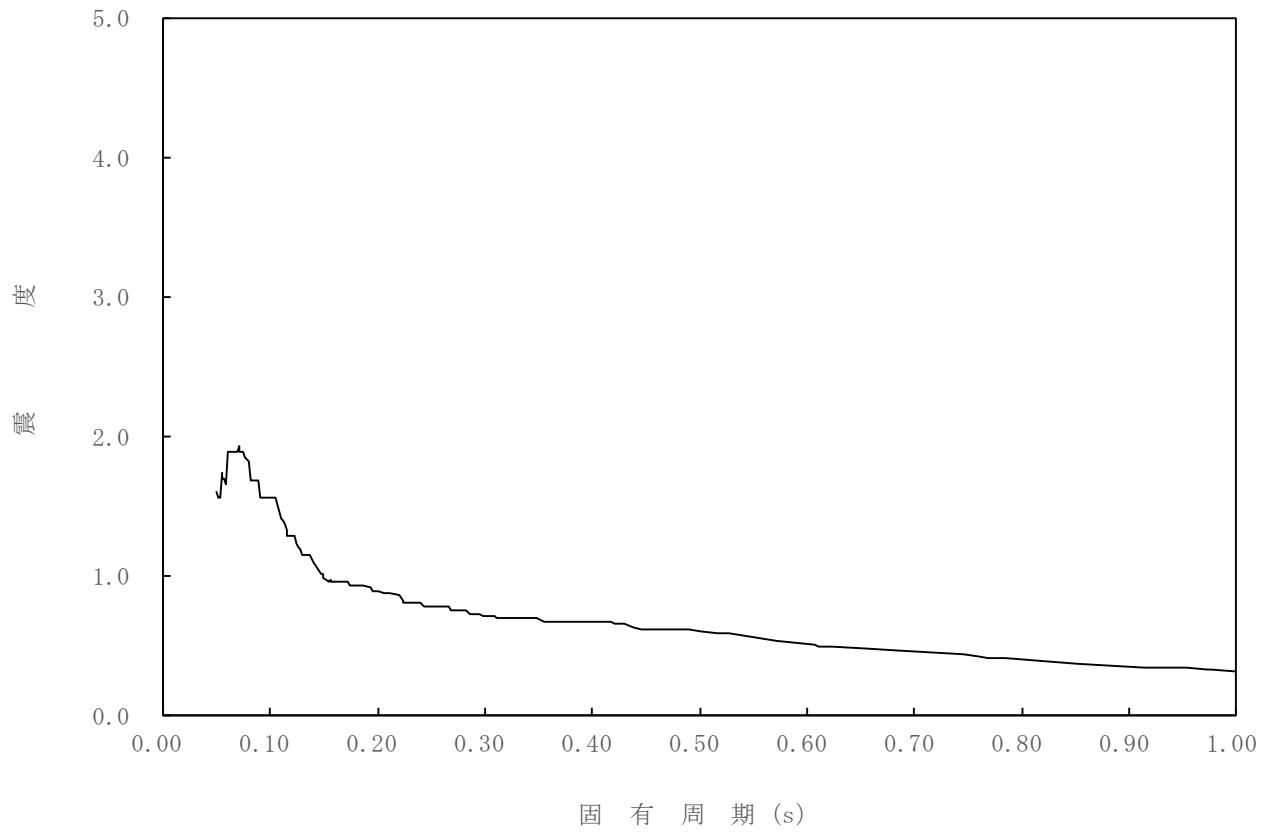
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-4750-030】

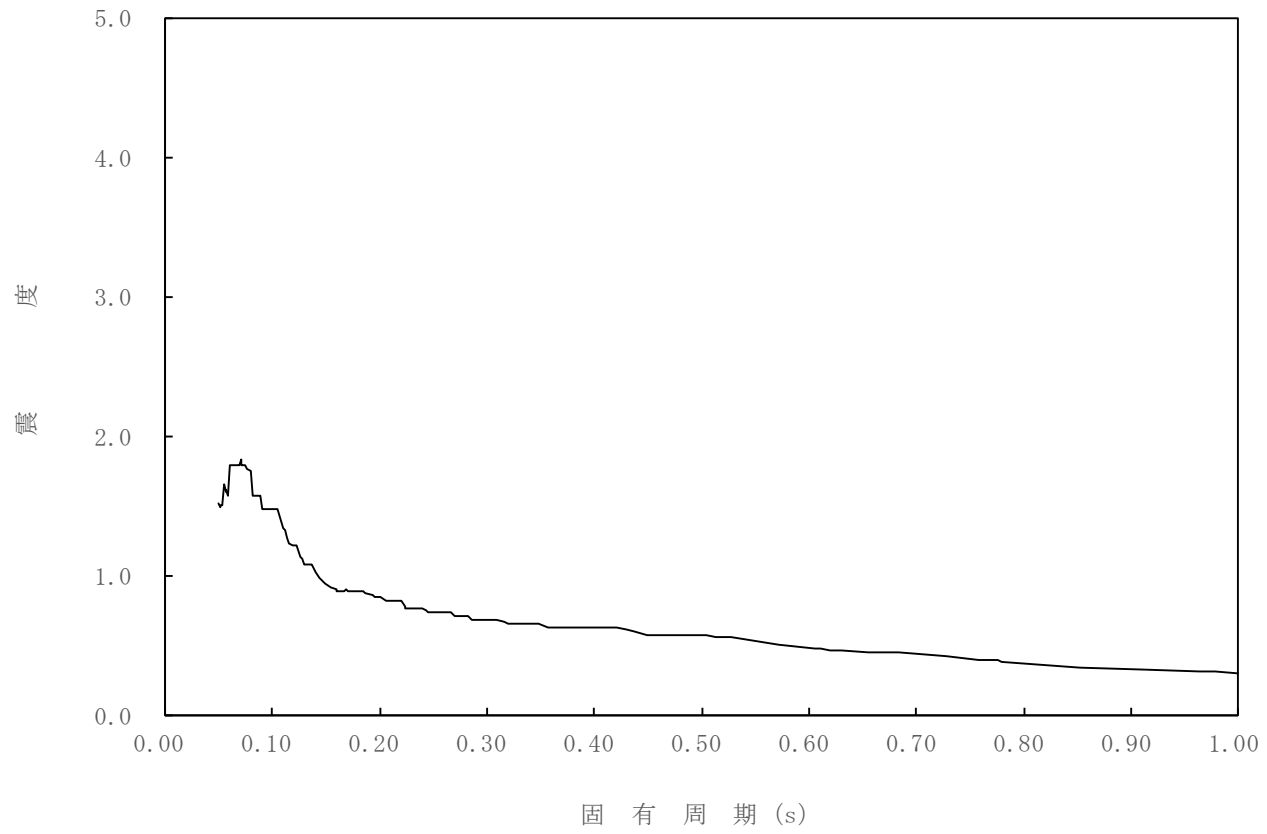
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -4.750m

— 鉛直方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-4750-050】

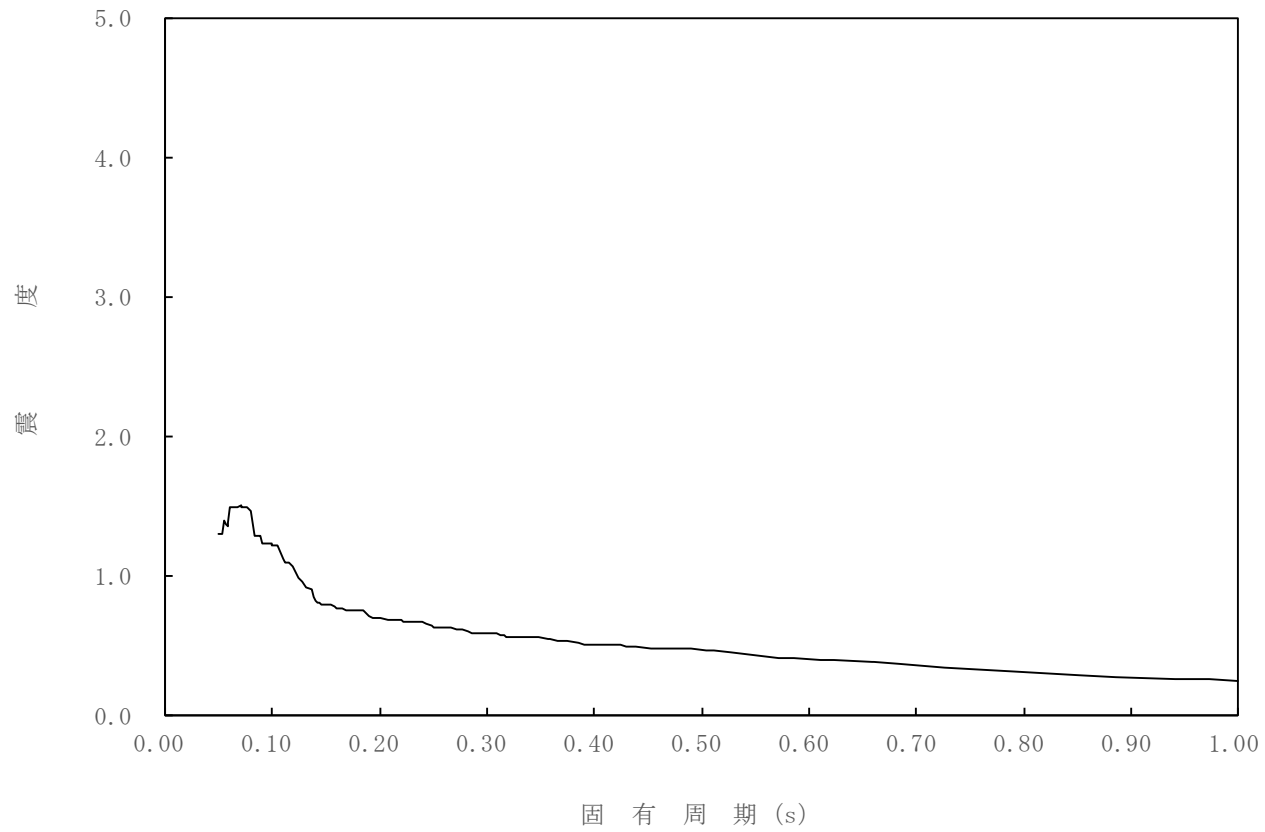
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -4.750m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-8850-005】

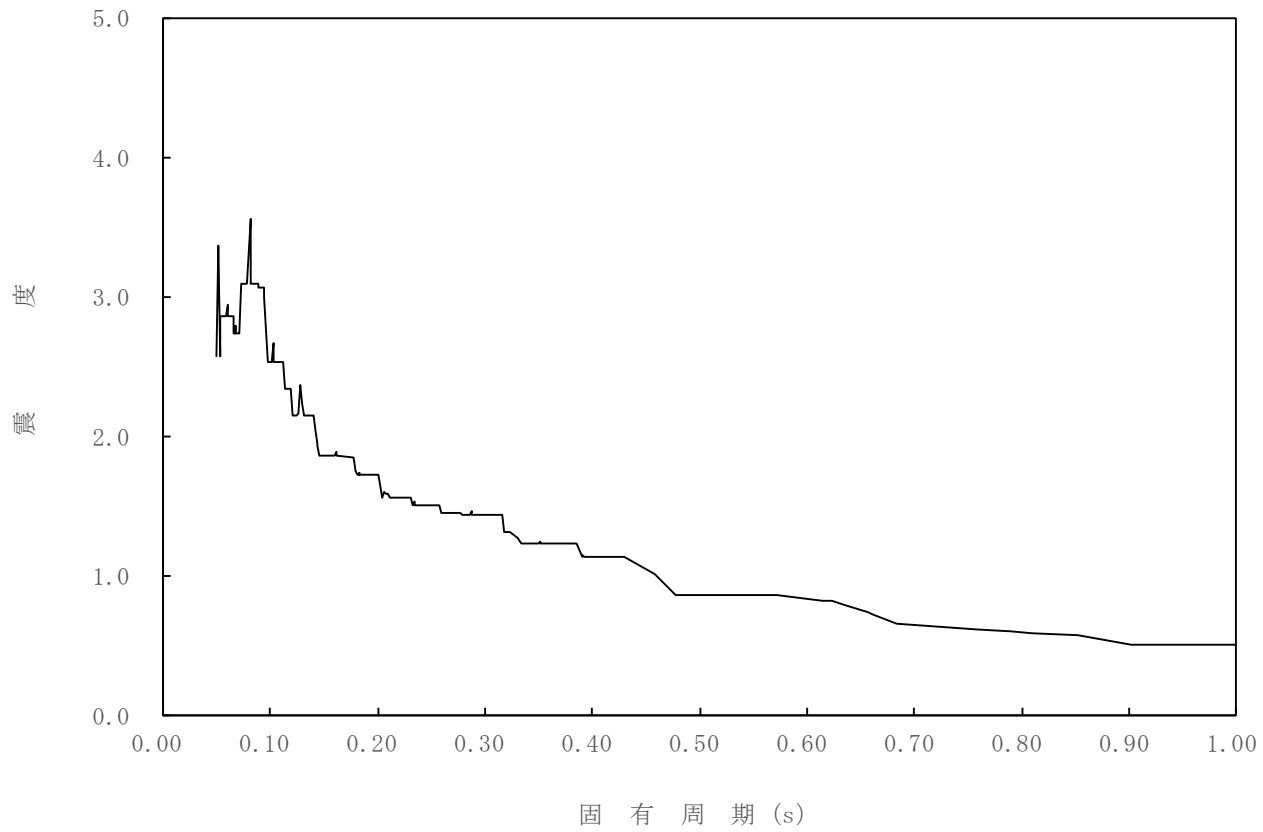
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -8.850m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-8850-010】

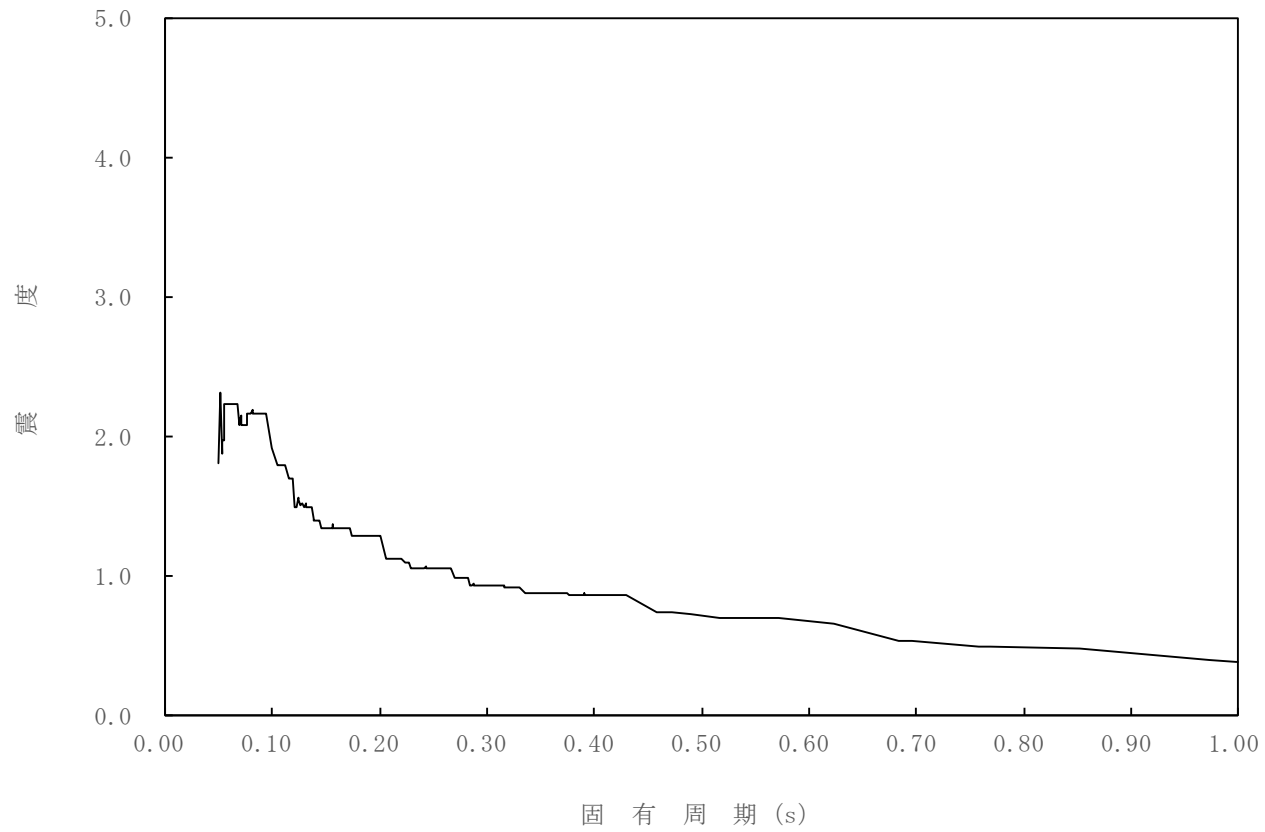
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-SWD-SdV-SWD-8850-015】

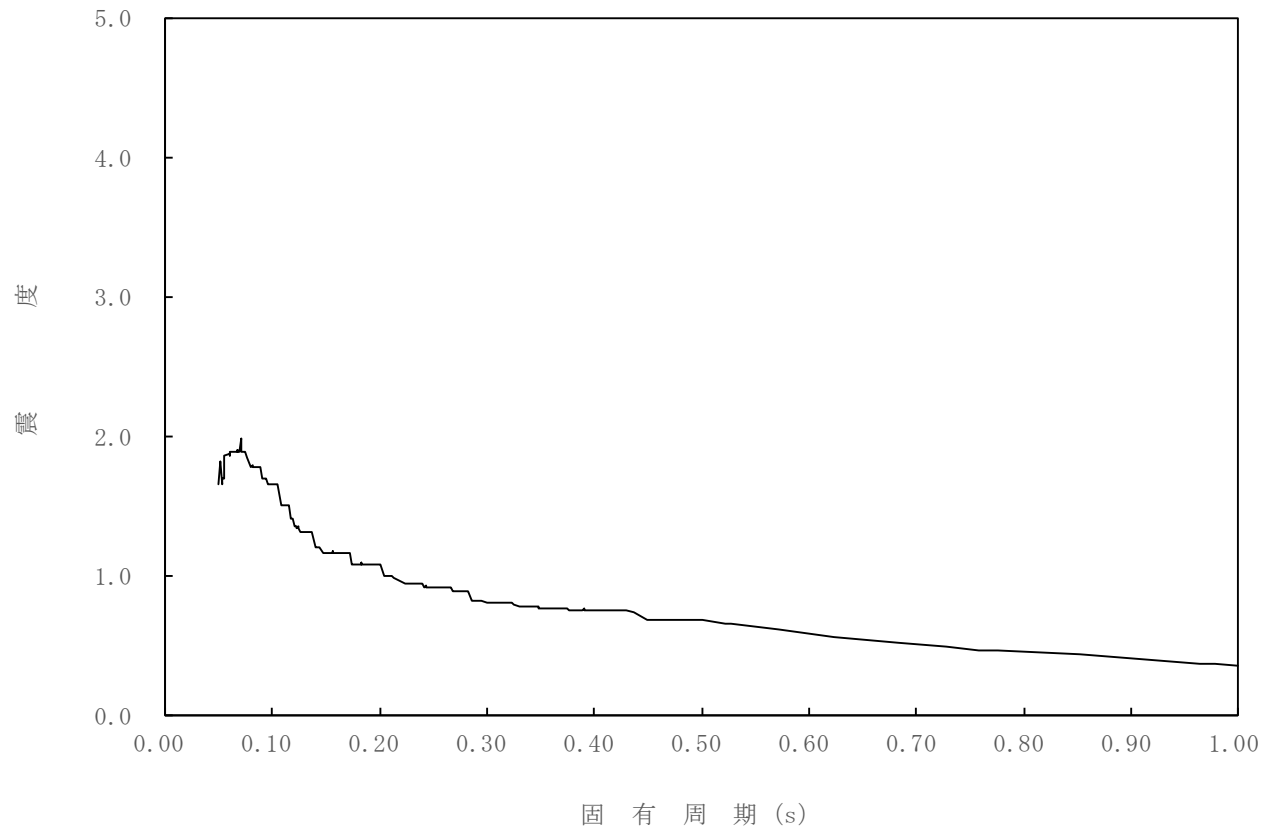
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -8.850m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-4-40

【02-SWD-SdV-SWD-8850-020】

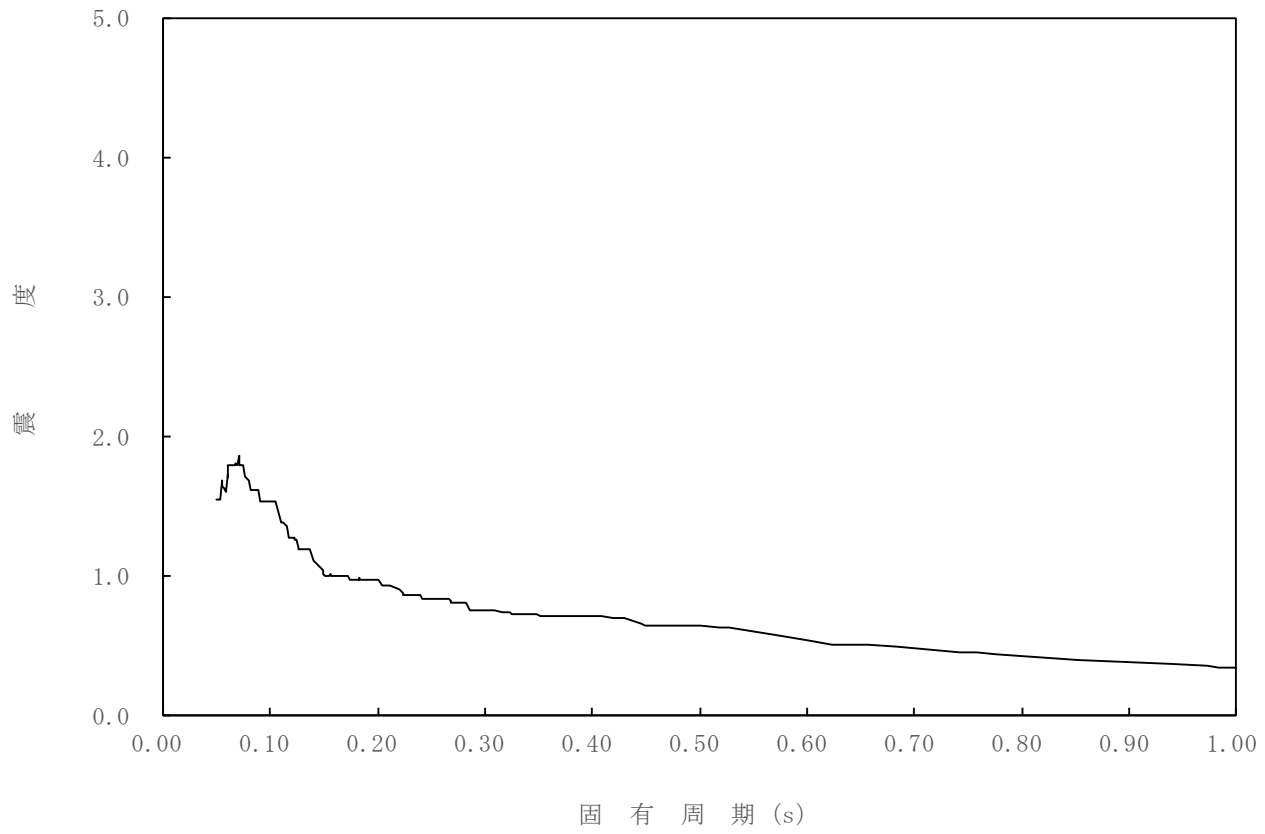
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-8850-025】

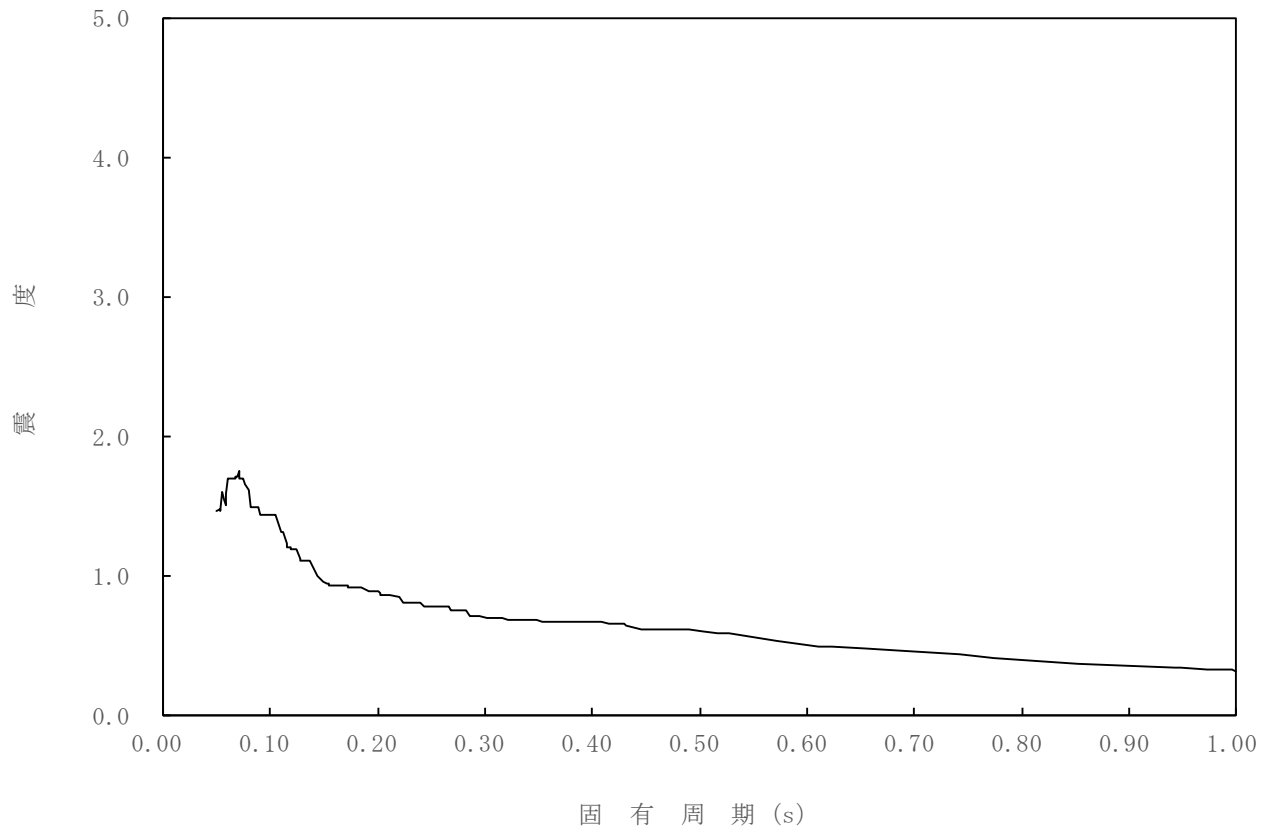
構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-8850-030】

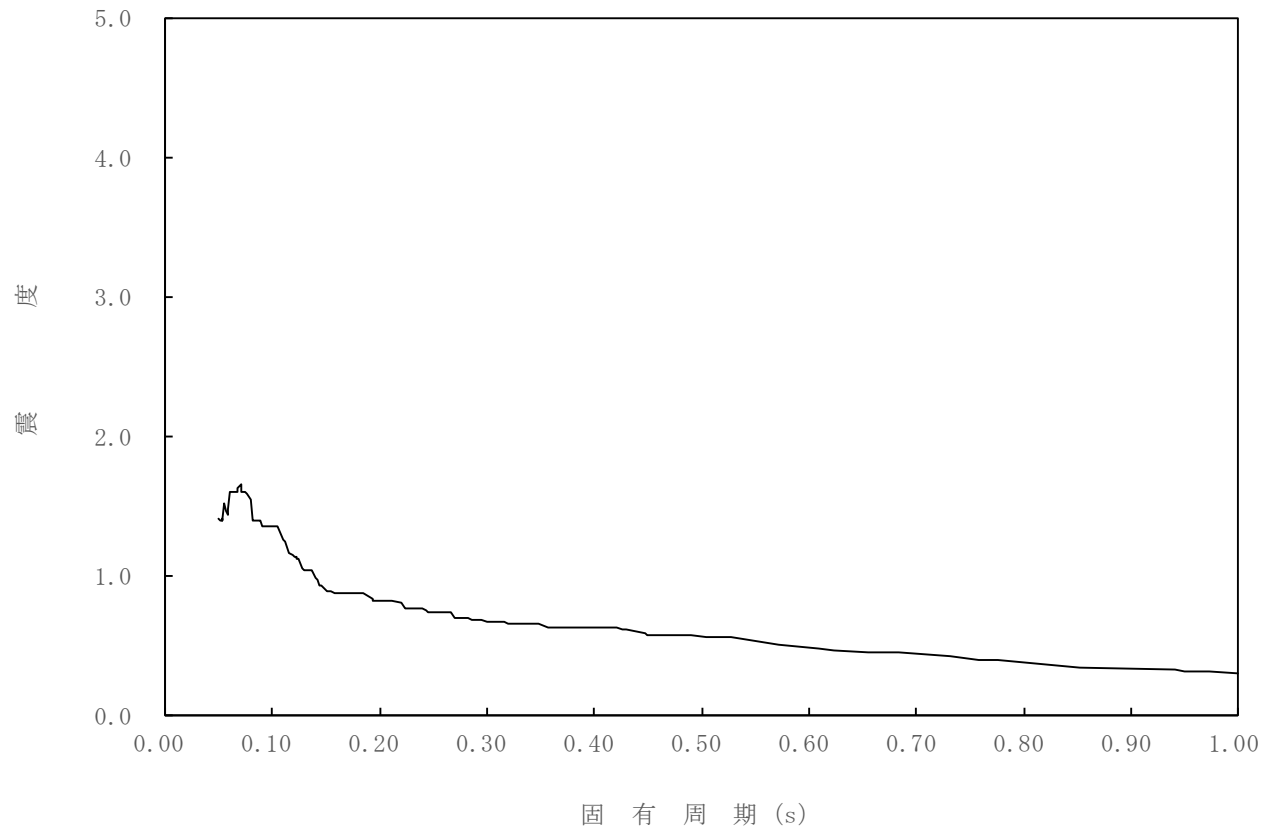
構造物名：原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高：O.P. -8.850m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SWD-SdV-SWD-8850-050】

構造物名： 原子炉機器冷却海水配管ダクト

標高： O.P. -8.850m

— 鉛直方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d

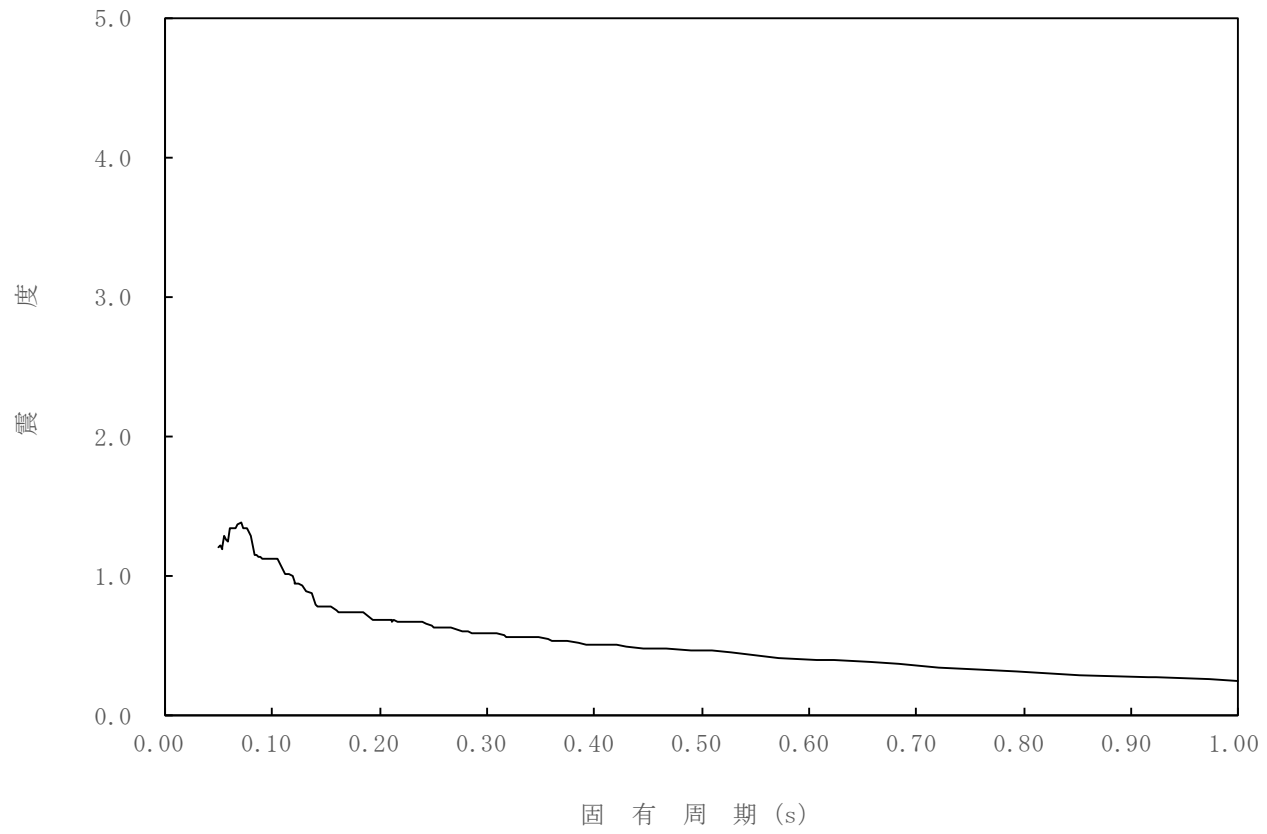


表 4-2-5 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 軽油タンク室 : 水平方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	軽油タンク室 (タンク側)	水平 方向	NS 方向 3212, 3497 3646, 3822 EW 方向 3024, 3224 3472, 3818 4014, 4228	14. 800	0. 5	02-D0-SdH-PIT14800-005
					1. 0	02-D0-SdH-PIT14800-010
					1. 5	02-D0-SdH-PIT14800-015
					2. 0	02-D0-SdH-PIT14800-020
					2. 5	02-D0-SdH-PIT14800-025
					3. 0	02-D0-SdH-PIT14800-030
					4. 0	02-D0-SdH-PIT14800-040
					5. 0	02-D0-SdH-PIT14800-050
			NS 方向 3203, 7101 7201, 7301 EW 方向 7101, 7201 7301, 7401 7501, 7601	9. 500	0. 5	02-D0-SdH-PIT9500-005
					1. 0	02-D0-SdH-PIT9500-010
					1. 5	02-D0-SdH-PIT9500-015
					2. 0	02-D0-SdH-PIT9500-020
	2. 5	02-D0-SdH-PIT9500-025				
	3. 0	02-D0-SdH-PIT9500-030				
	4. 0	02-D0-SdH-PIT9500-040				
	5. 0	02-D0-SdH-PIT9500-050				
	軽油タンク室 (ポンプ側)	水平 方向	NS 方向 3212, 3497 3646, 3822 EW 方向 3043, 3177 3472, 3838 3963	14. 800	0. 5	02-D0-SdH-PR14800-005
					1. 0	02-D0-SdH-PR14800-010
					1. 5	02-D0-SdH-PR14800-015
					2. 0	02-D0-SdH-PR14800-020
					2. 5	02-D0-SdH-PR14800-025
					3. 0	02-D0-SdH-PR14800-030
					4. 0	02-D0-SdH-PR14800-040
					5. 0	02-D0-SdH-PR14800-050
NS 方向 3203, 7101 7201, 7301 EW 方向 3029, 3163 3458, 3824 3949			9. 500	0. 5	02-D0-SdH-PR9500-005	
				1. 0	02-D0-SdH-PR9500-010	
				1. 5	02-D0-SdH-PR9500-015	
				2. 0	02-D0-SdH-PR9500-020	
	2. 5	02-D0-SdH-PR9500-025				
	3. 0	02-D0-SdH-PR9500-030				
	4. 0	02-D0-SdH-PR9500-040				
	5. 0	02-D0-SdH-PR9500-050				

表 4-2-5 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 軽油タンク室：鉛直方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番		
S d	軽油タンク室 (タンク側)	鉛直 方向	NS 方向 3212, 3497 3646, 3822	14. 800	0. 5	02-D0-SdV-PIT14800-005		
					1. 0	02-D0-SdV-PIT14800-010		
					1. 5	02-D0-SdV-PIT14800-015		
					2. 0	02-D0-SdV-PIT14800-020		
					2. 5	02-D0-SdV-PIT14800-025		
					3. 0	02-D0-SdV-PIT14800-030		
			EW 方向 3024, 3224 3472, 3818 4014, 4228	14. 800	5. 0	02-D0-SdV-PIT14800-050		
					0. 5	02-D0-SdV-PIT9500-005		
					1. 0	02-D0-SdV-PIT9500-010		
					1. 5	02-D0-SdV-PIT9500-015		
					2. 0	02-D0-SdV-PIT9500-020		
					2. 5	02-D0-SdV-PIT9500-025		
	軽油タンク室 (ポンプ側)	鉛直 方向	NS 方向 3212, 3497 3646, 3822	14. 800	2. 0	02-D0-SdV-PR14800-020		
					2. 5	02-D0-SdV-PR14800-025		
					3. 0	02-D0-SdV-PR14800-030		
					5. 0	02-D0-SdV-PR14800-050		
					EW 方向 3043, 3177 3472, 3838 3963	14. 800	0. 5	02-D0-SdV-PR9500-005
							1. 0	02-D0-SdV-PR9500-010
			1. 5	02-D0-SdV-PR9500-015				
			2. 0	02-D0-SdV-PR9500-020				
			2. 5	02-D0-SdV-PR9500-025				
			3. 0	02-D0-SdV-PR9500-030				
			NS 方向 3203, 7101 7201, 7301	9. 500	9. 500	5. 0	02-D0-SdV-PR9500-050	
						0. 5	02-D0-SdV-PR9500-005	
1. 0	02-D0-SdV-PR9500-010							
1. 5	02-D0-SdV-PR9500-015							
2. 0	02-D0-SdV-PR9500-020							
2. 5	02-D0-SdV-PR9500-025							
EW 方向 7101, 7201 7301, 7401 7501, 7601	9. 500	9. 500	3. 0	02-D0-SdV-PR9500-030				
			5. 0	02-D0-SdV-PR9500-050				

【02-D0-SdH-PIT14800-005】

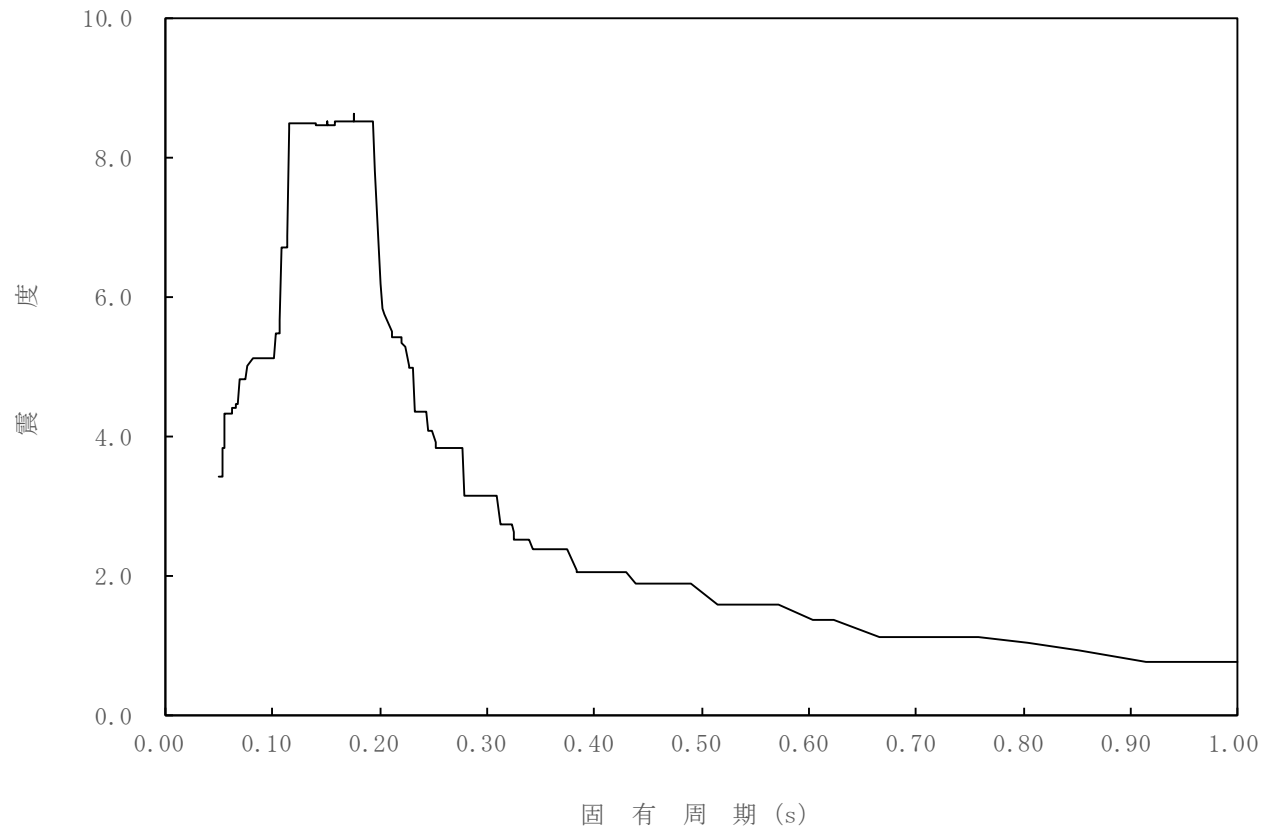
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdH-PIT14800-010】

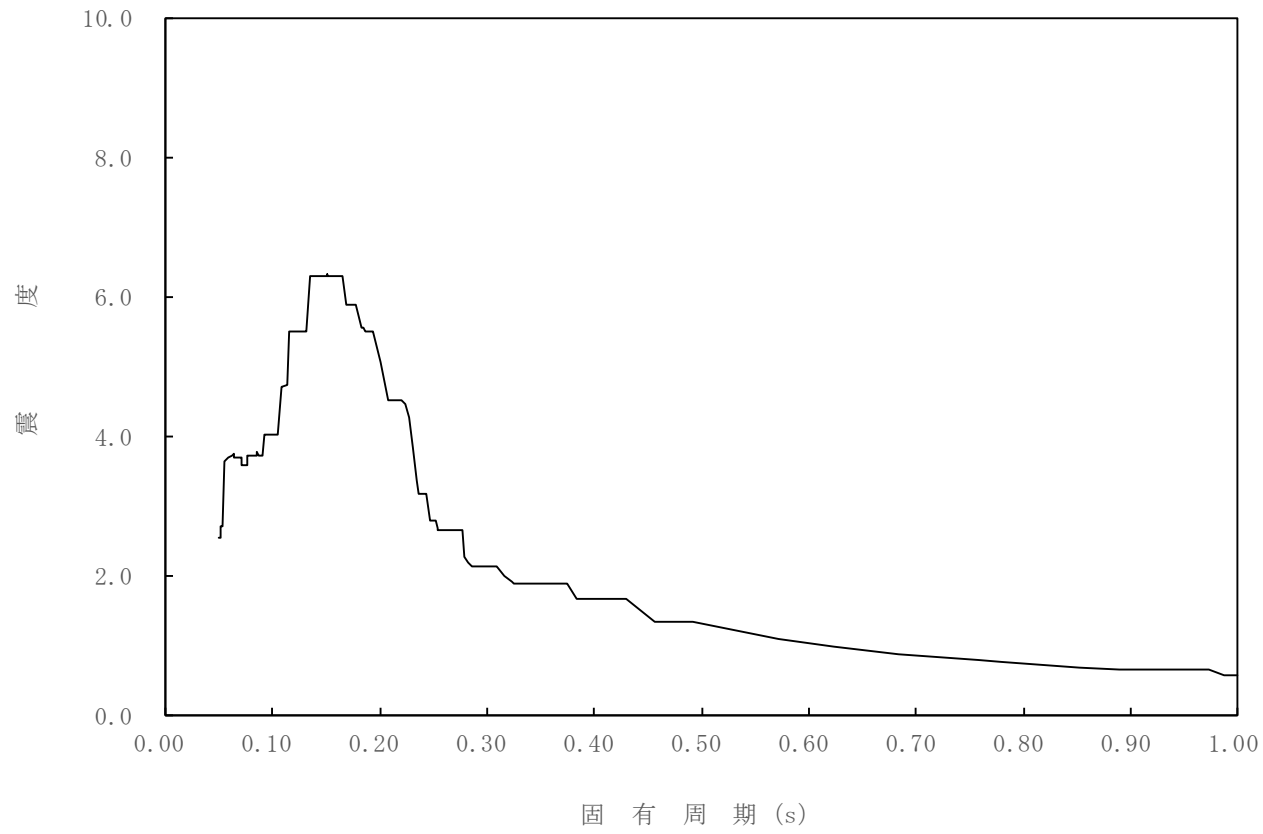
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT14800-015】

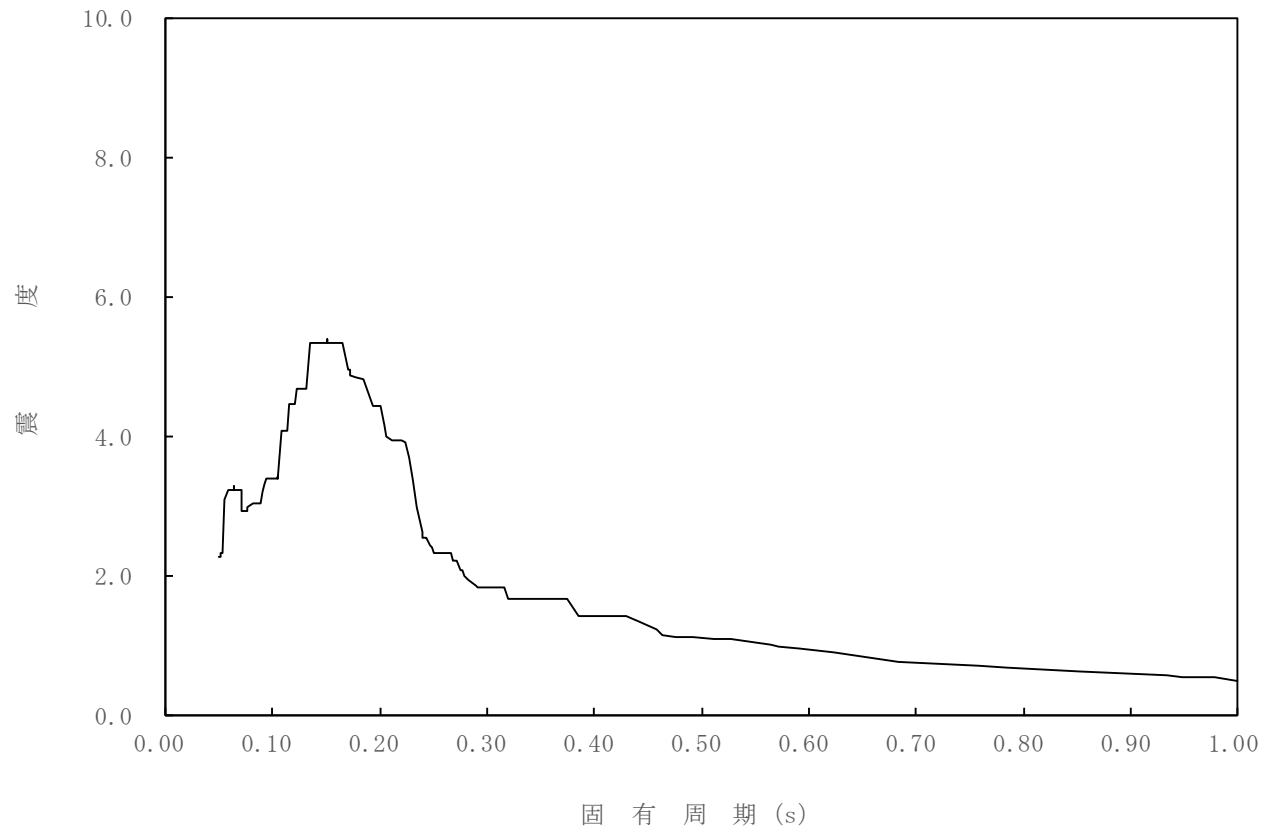
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT14800-020】

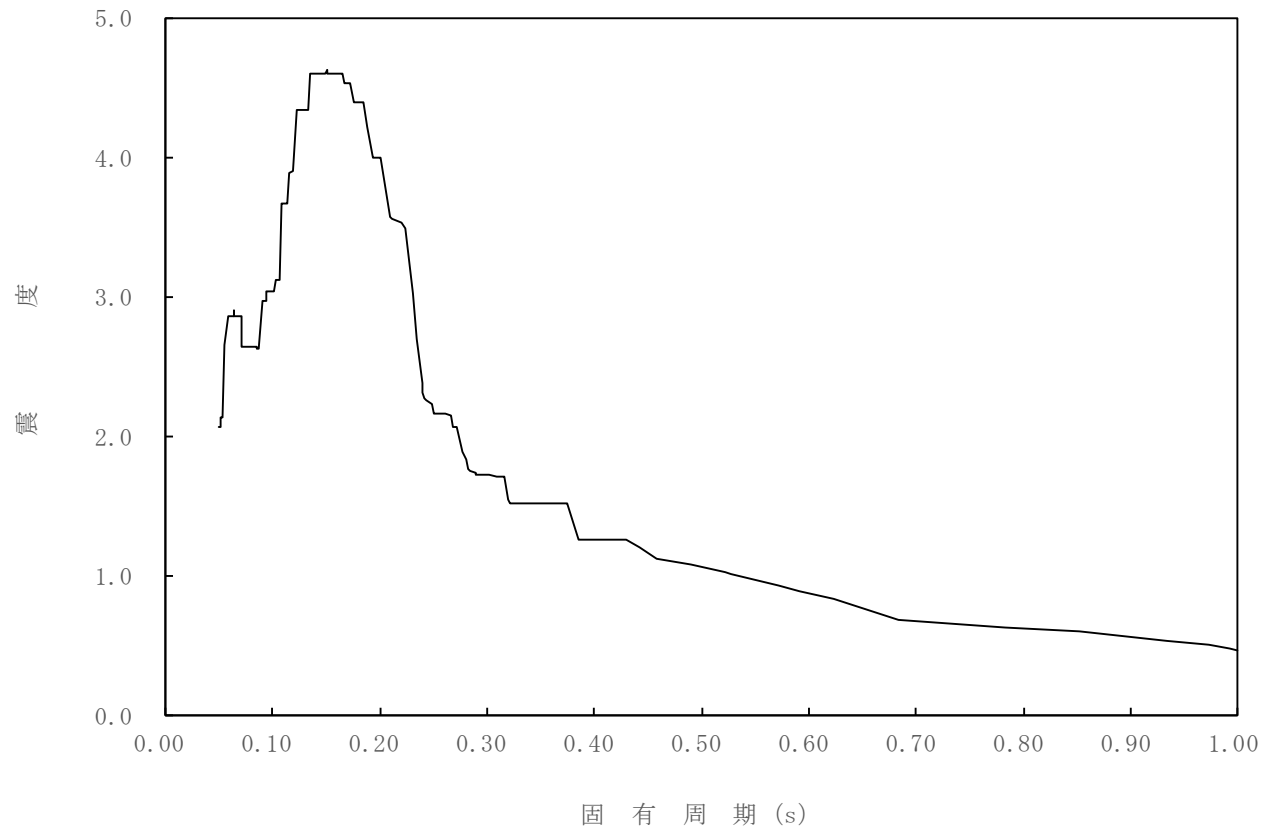
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT14800-025】

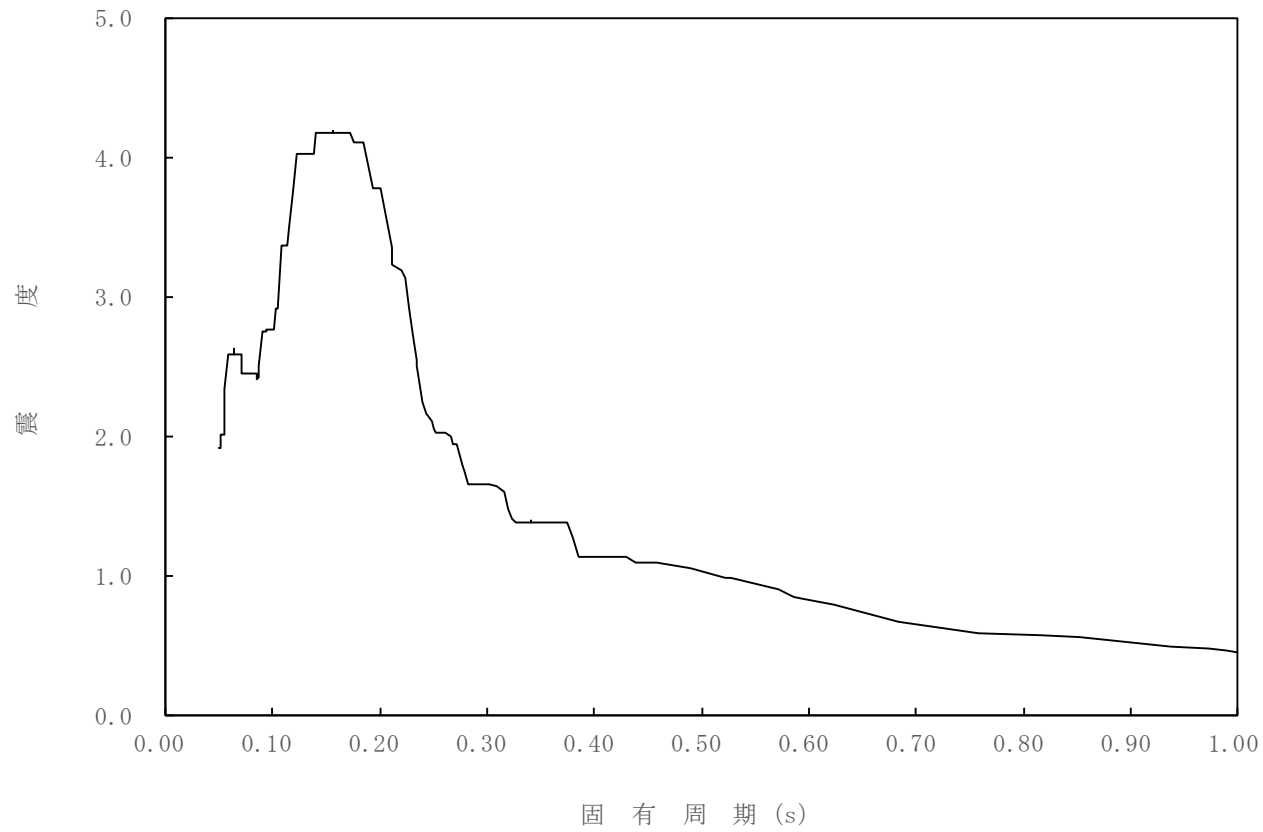
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-5-7

【02-D0-SdH-PIT14800-030】

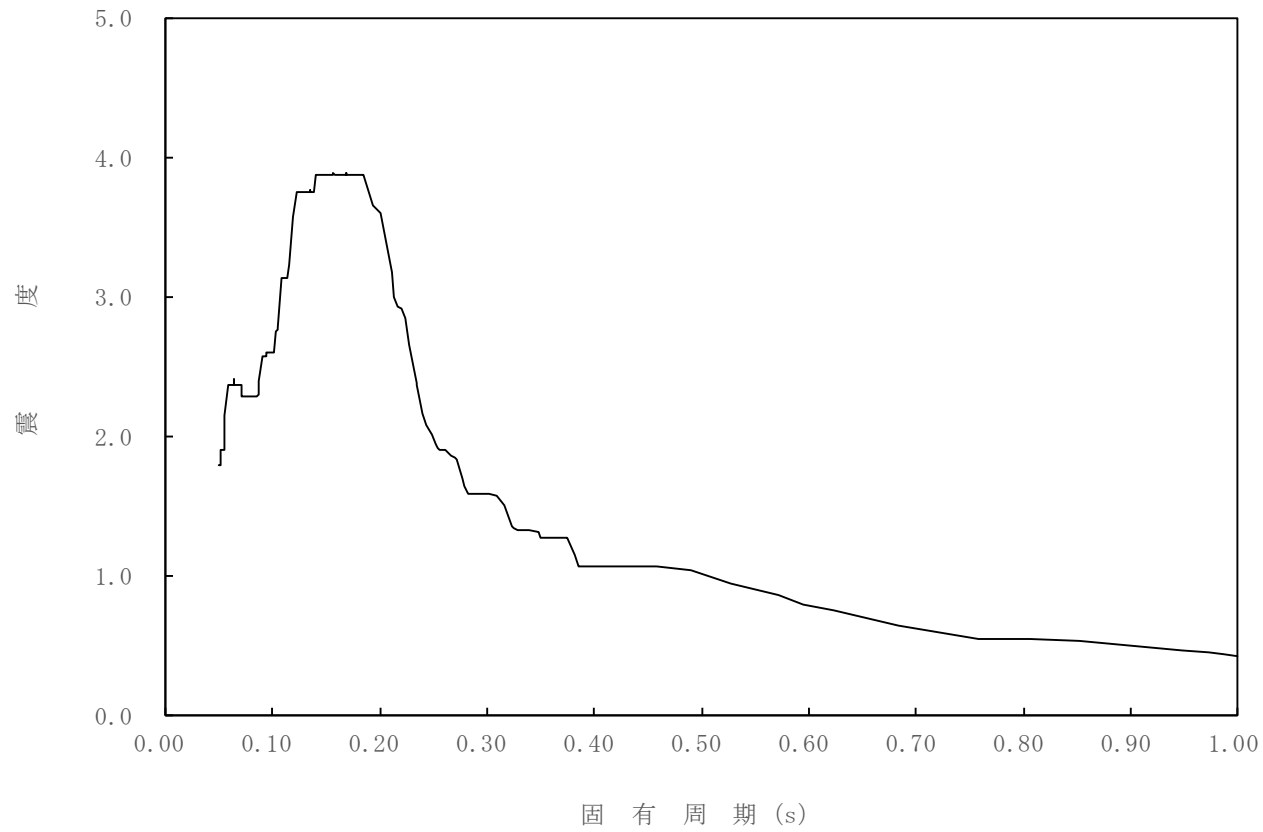
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-5-8

【02-D0-SdH-PIT14800-040】

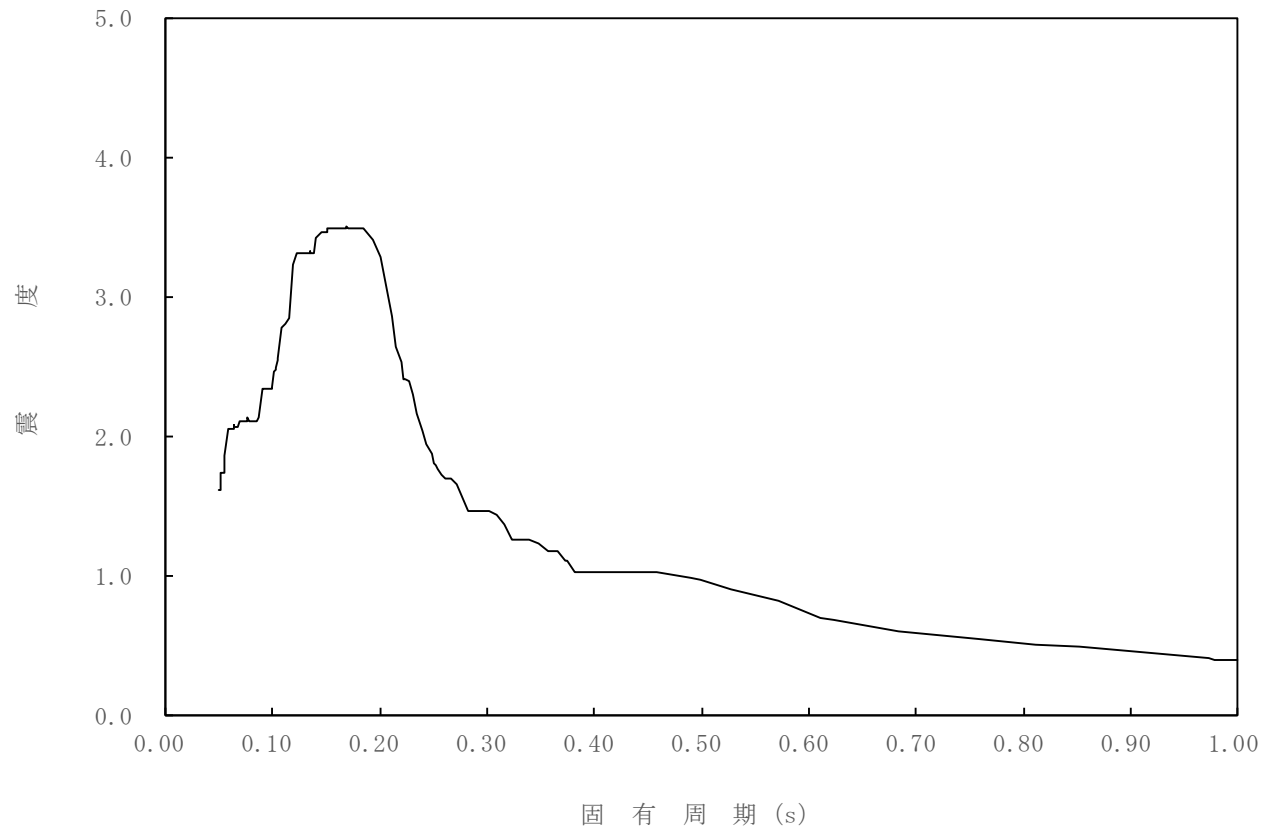
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT14800-050】

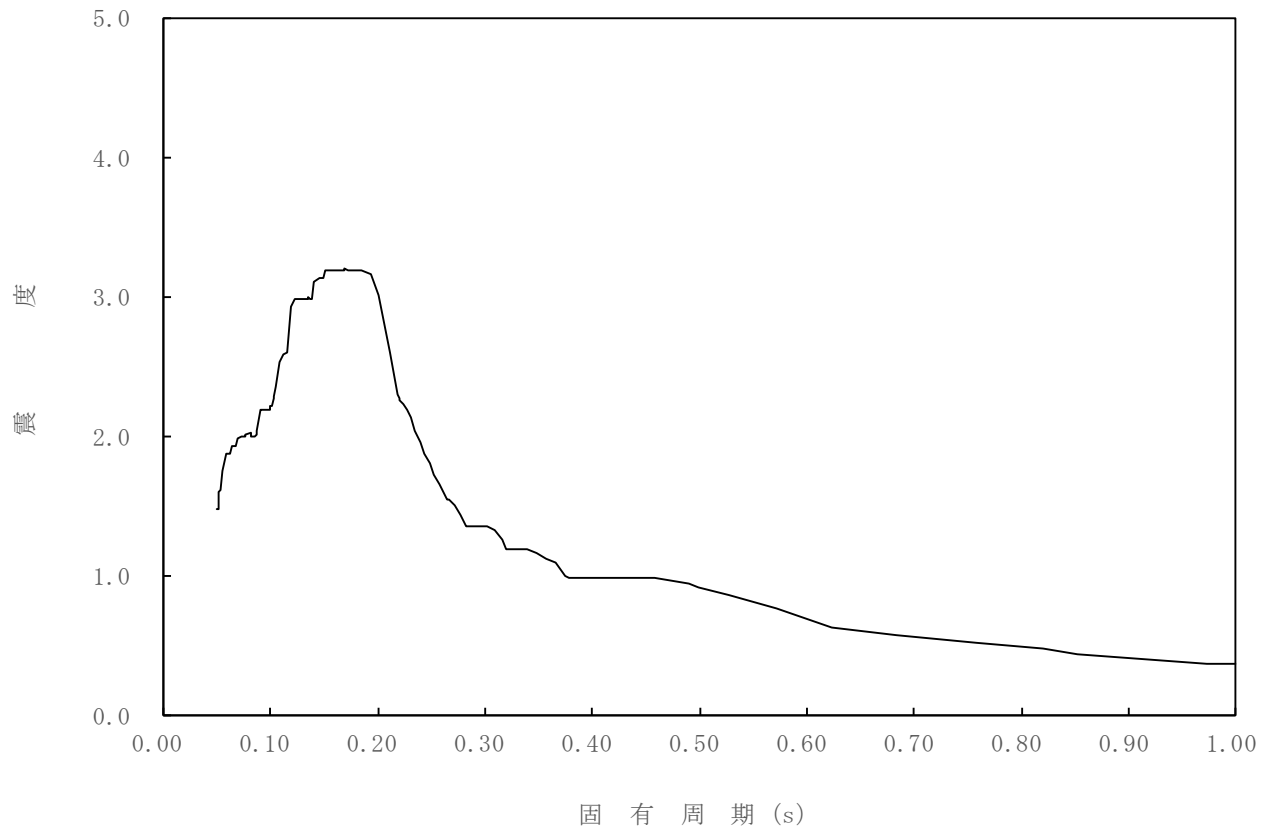
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-5-10

【02-D0-SdH-PIT9500-005】

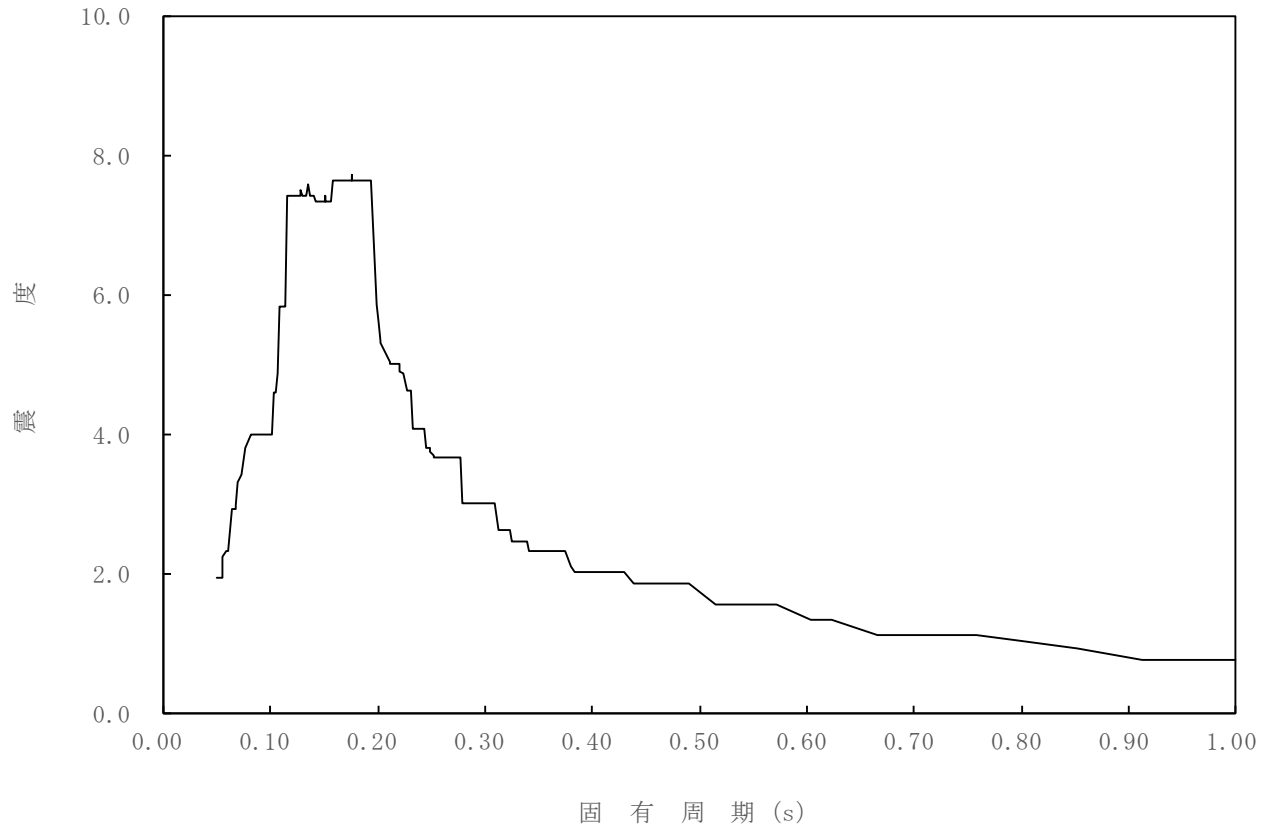
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdH-PIT9500-010】

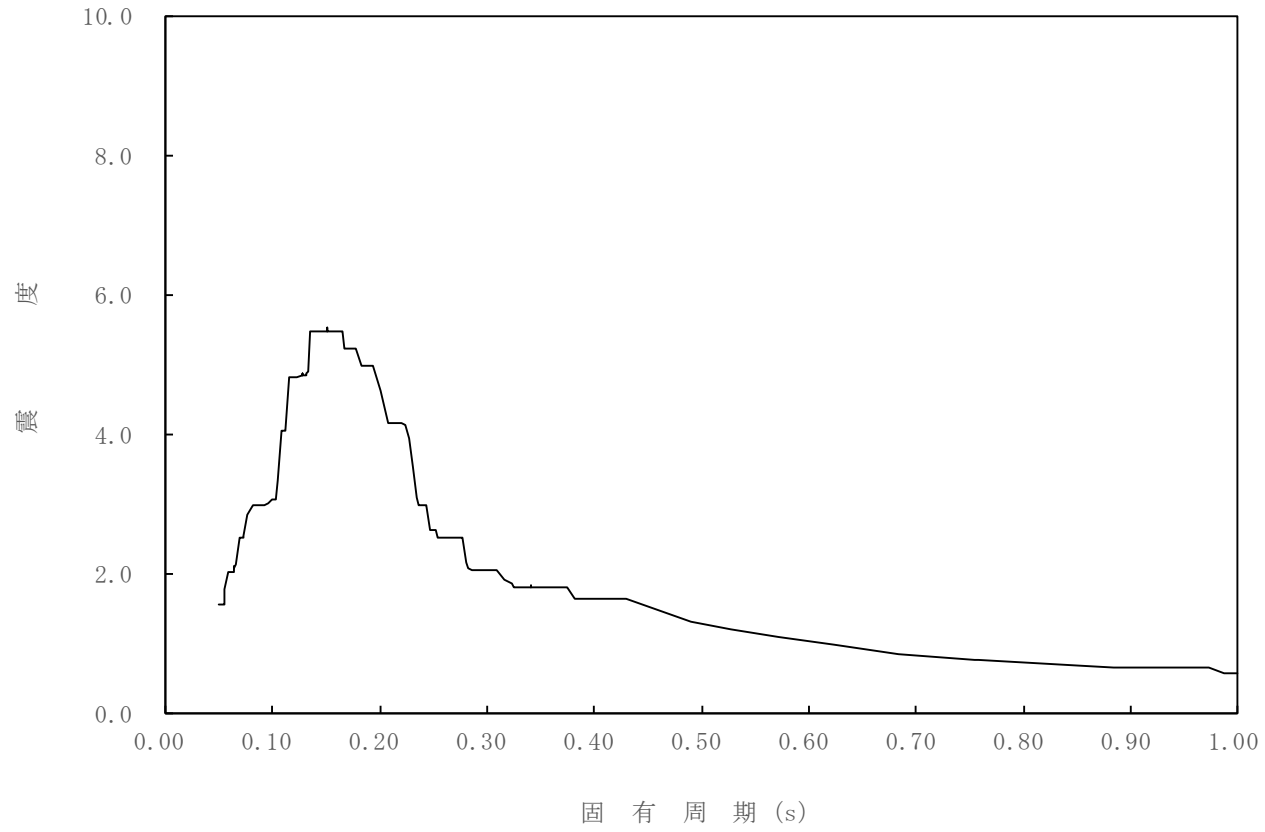
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT9500-015】

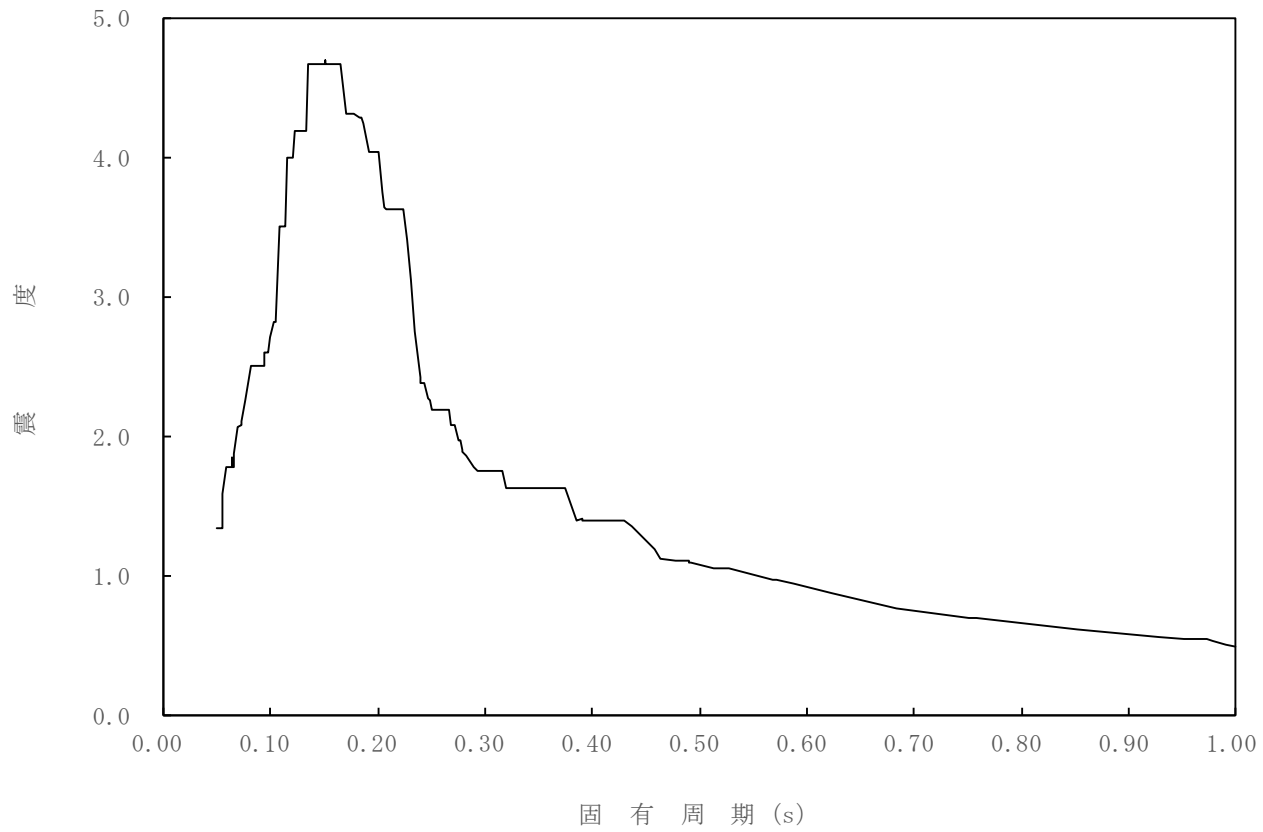
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0. P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT9500-020】

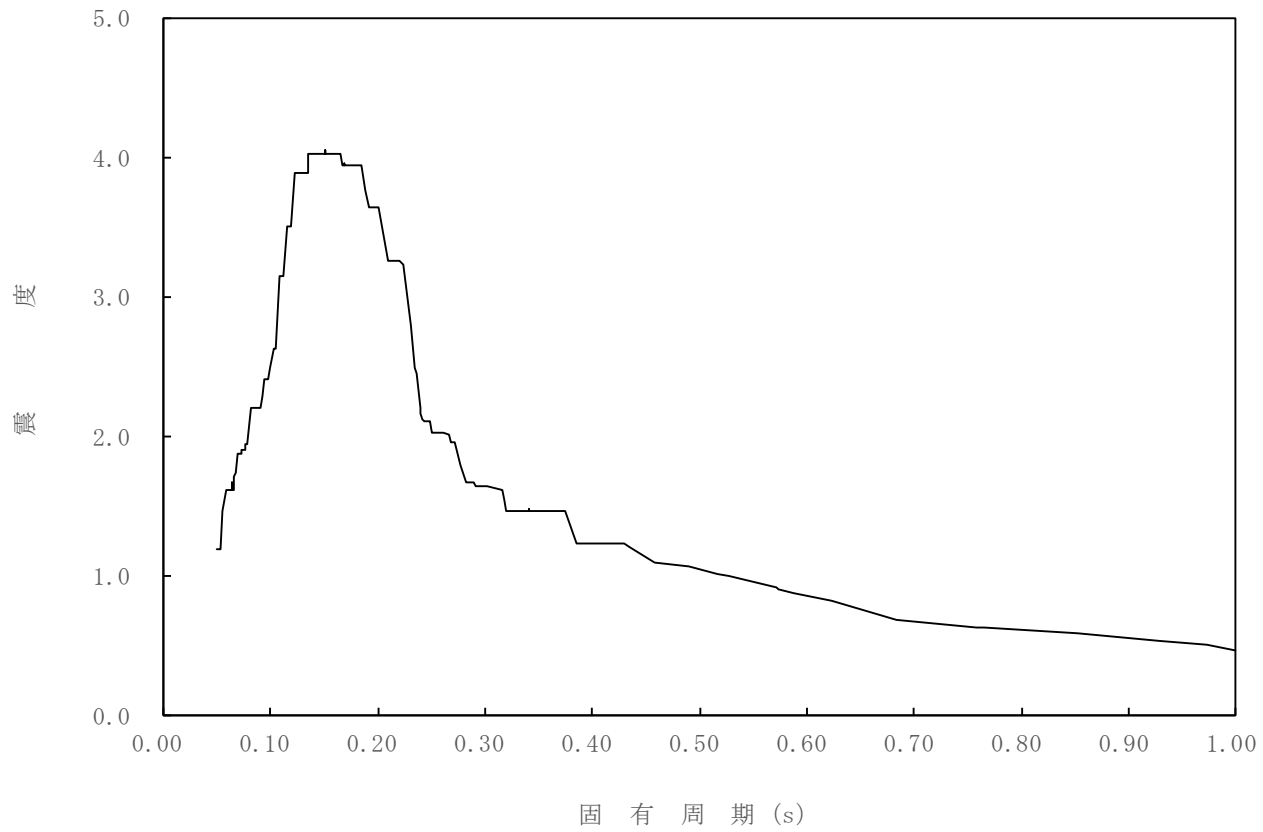
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0. P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT9500-025】

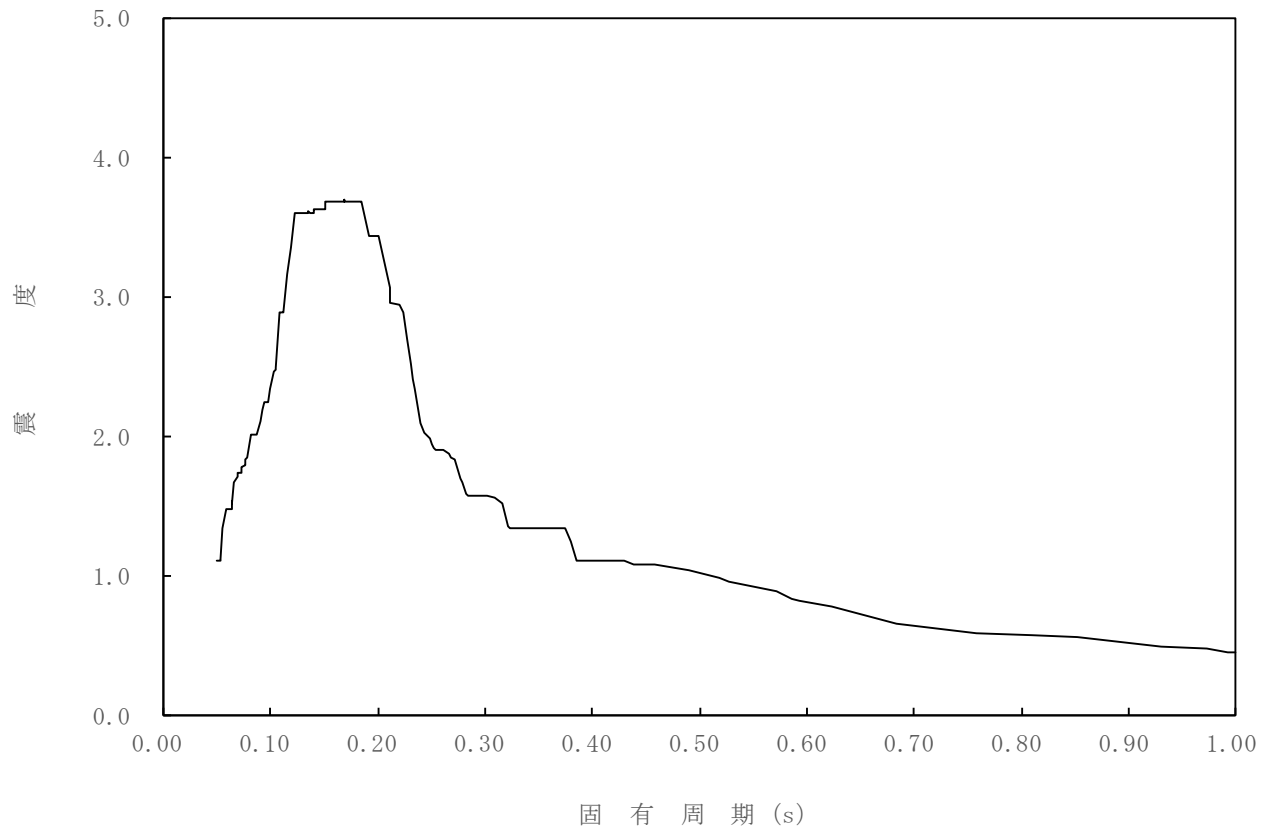
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-5-15

【02-D0-SdH-PIT9500-030】

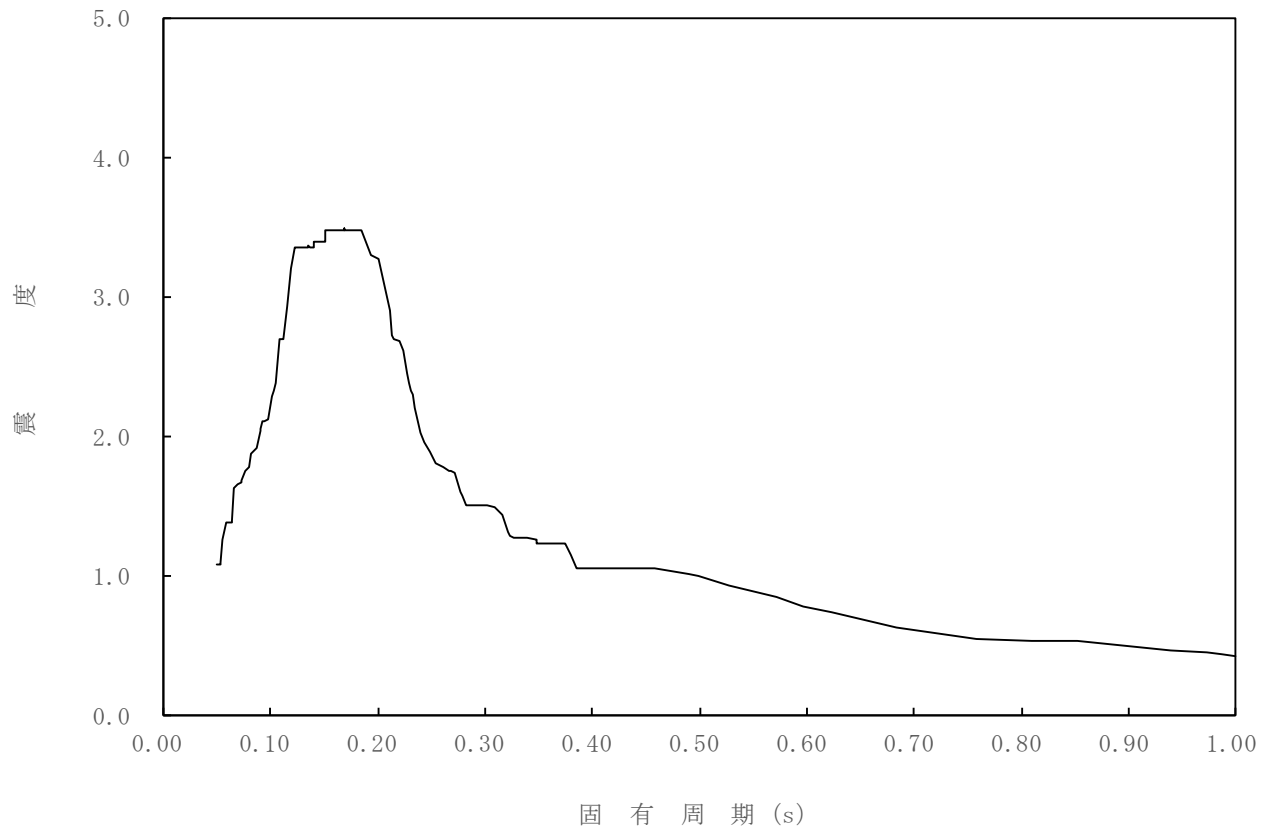
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT9500-040】

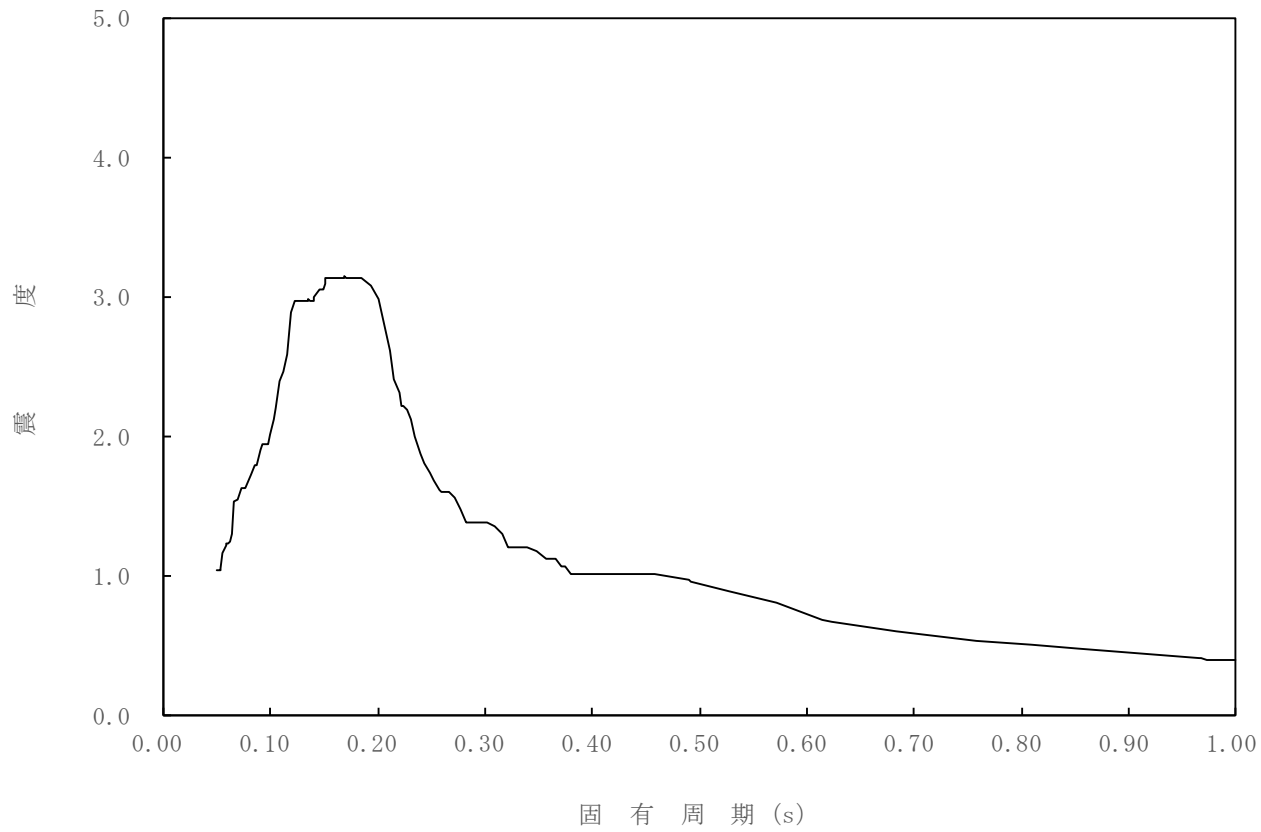
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PIT9500-050】

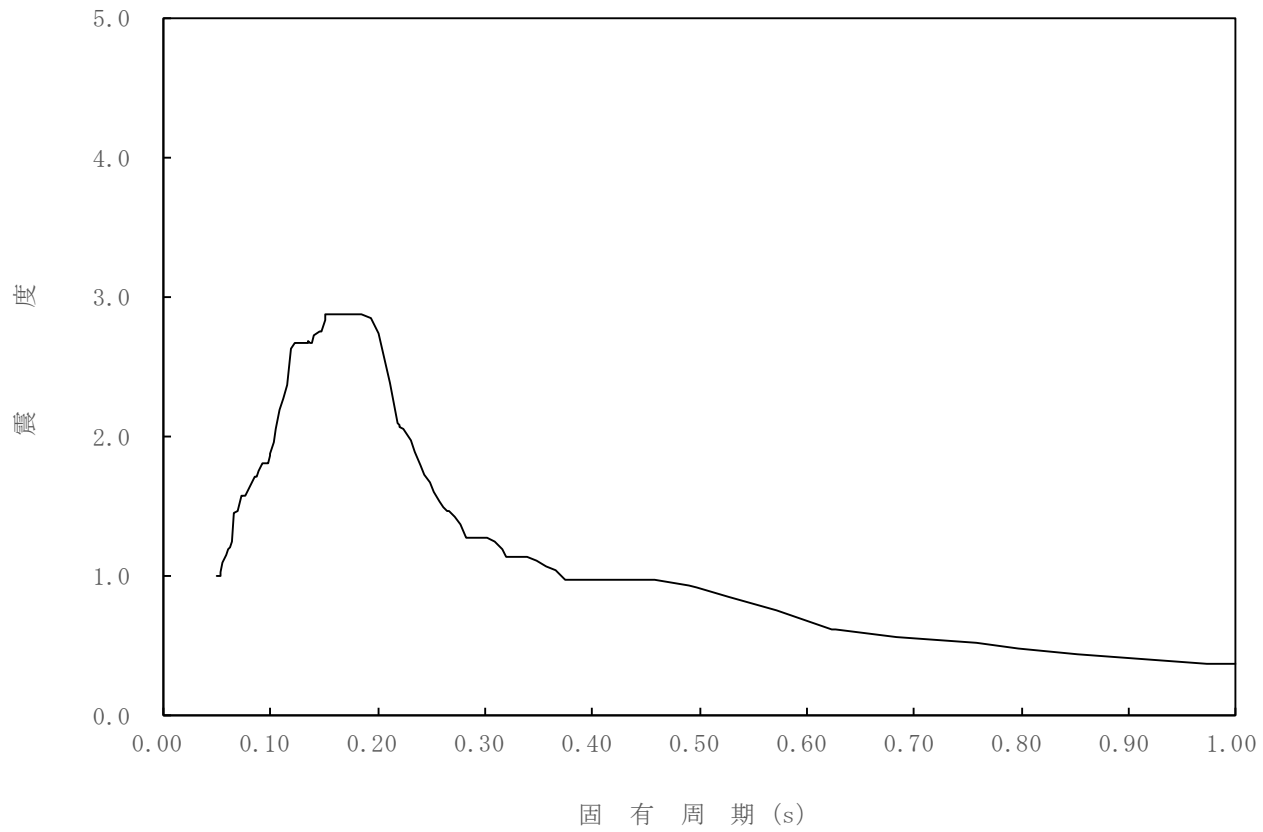
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR14800-005】

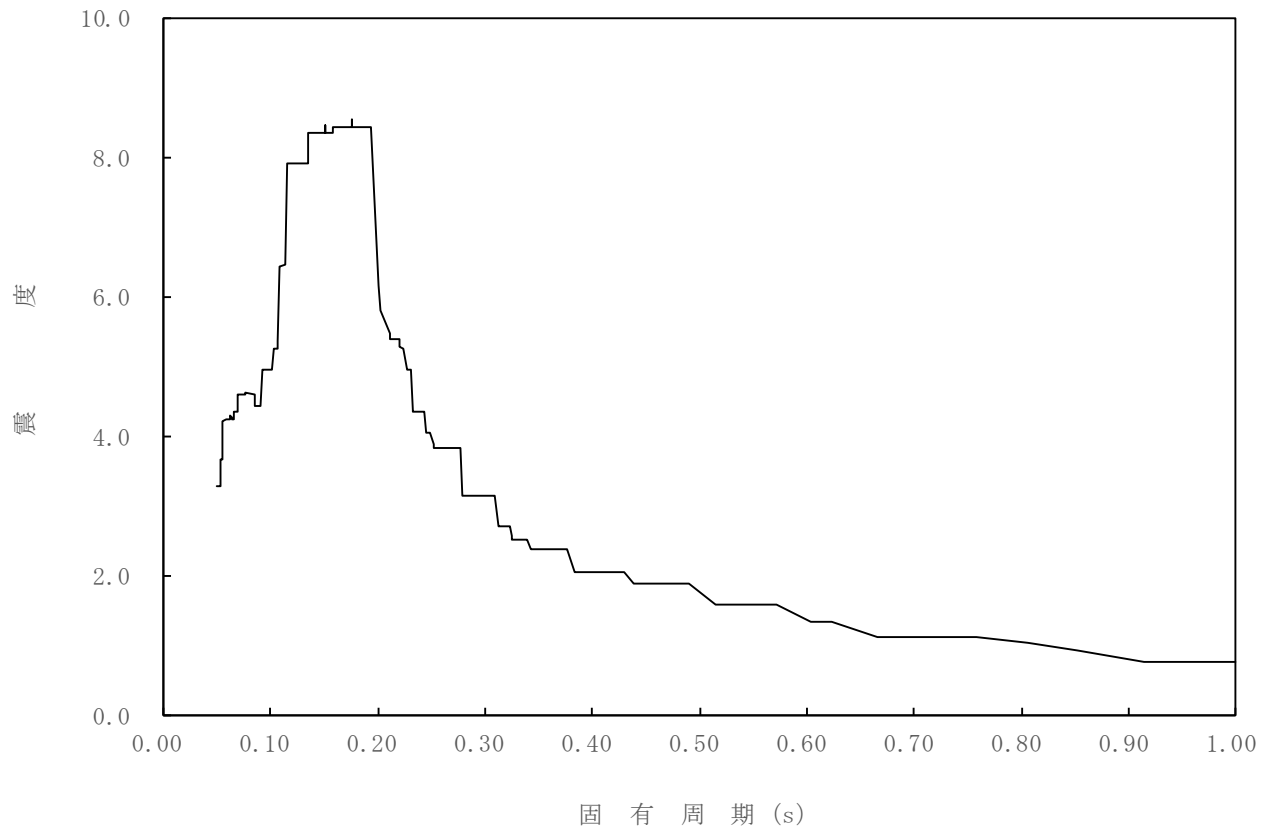
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdH-PR14800-010】

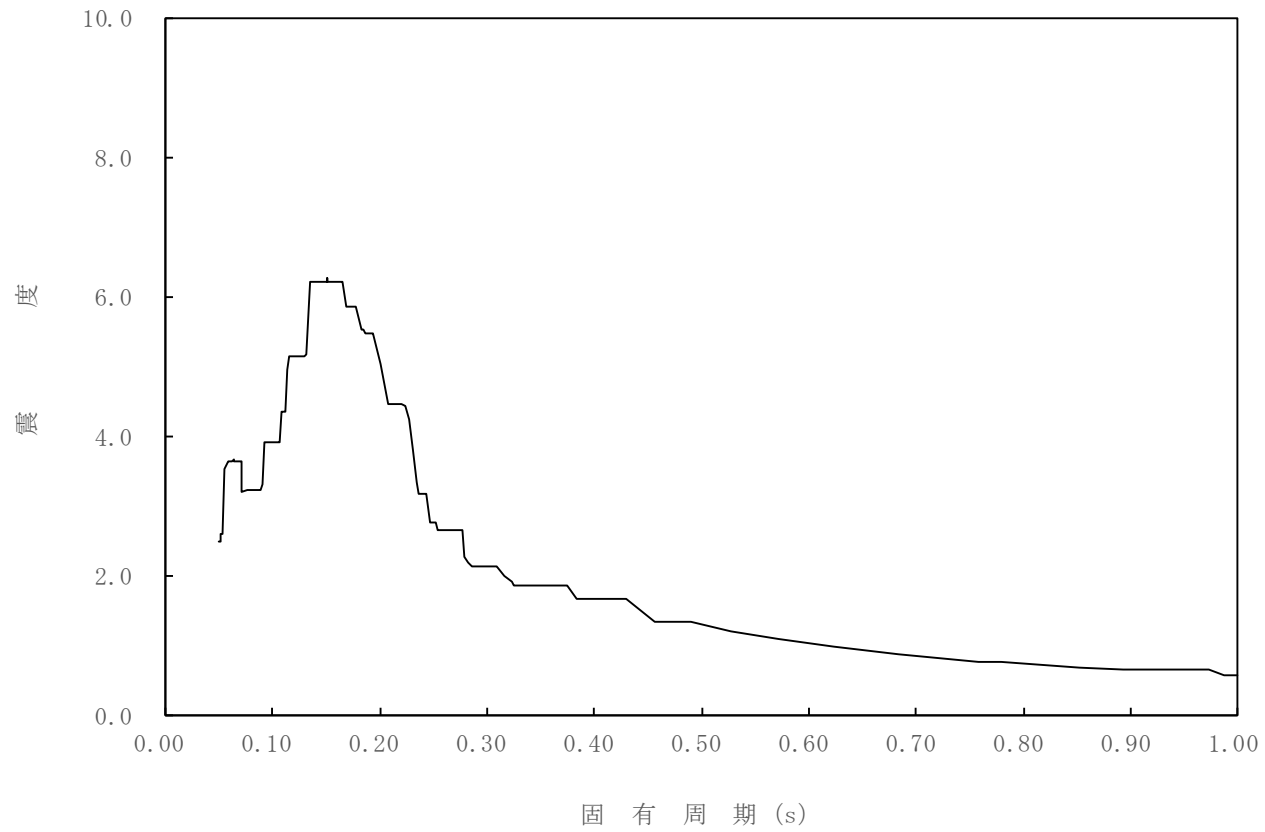
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-5-20

【02-D0-SdH-PR14800-015】

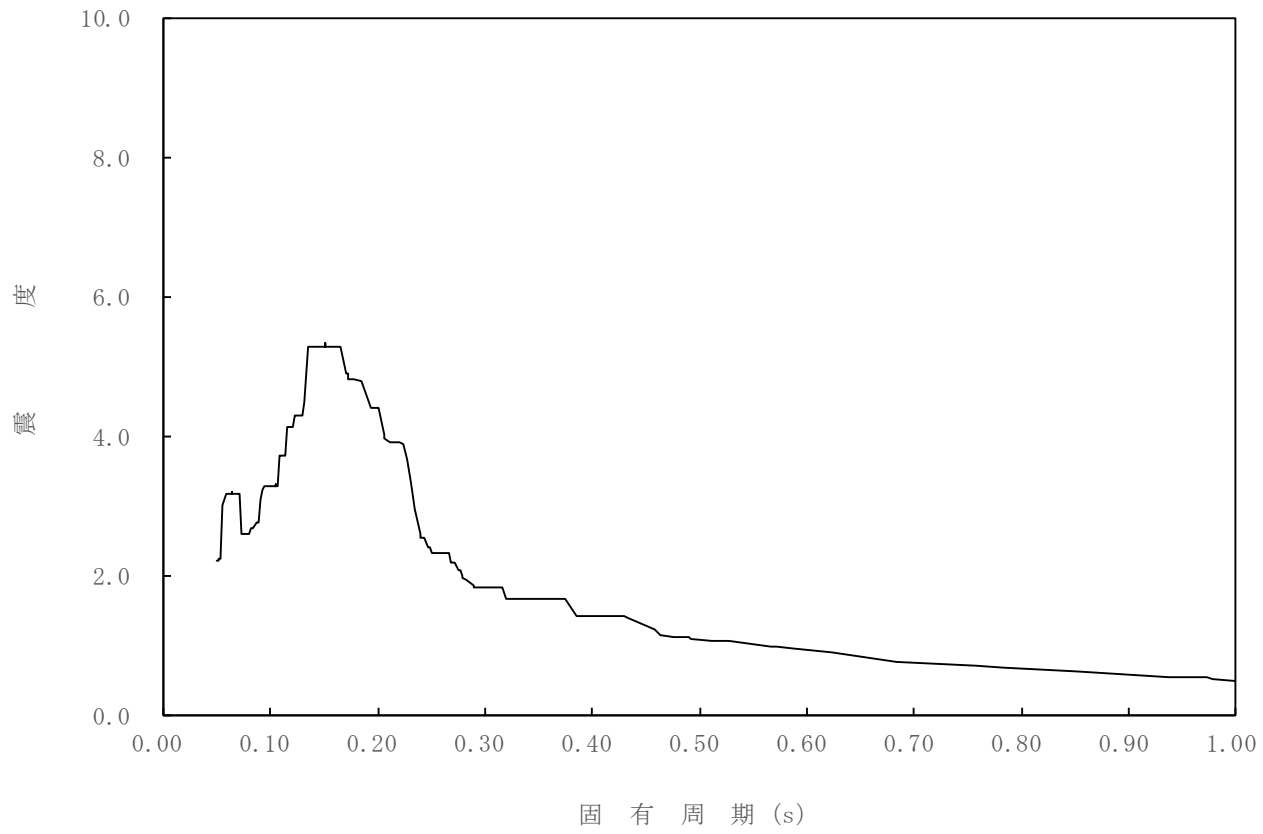
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR14800-020】

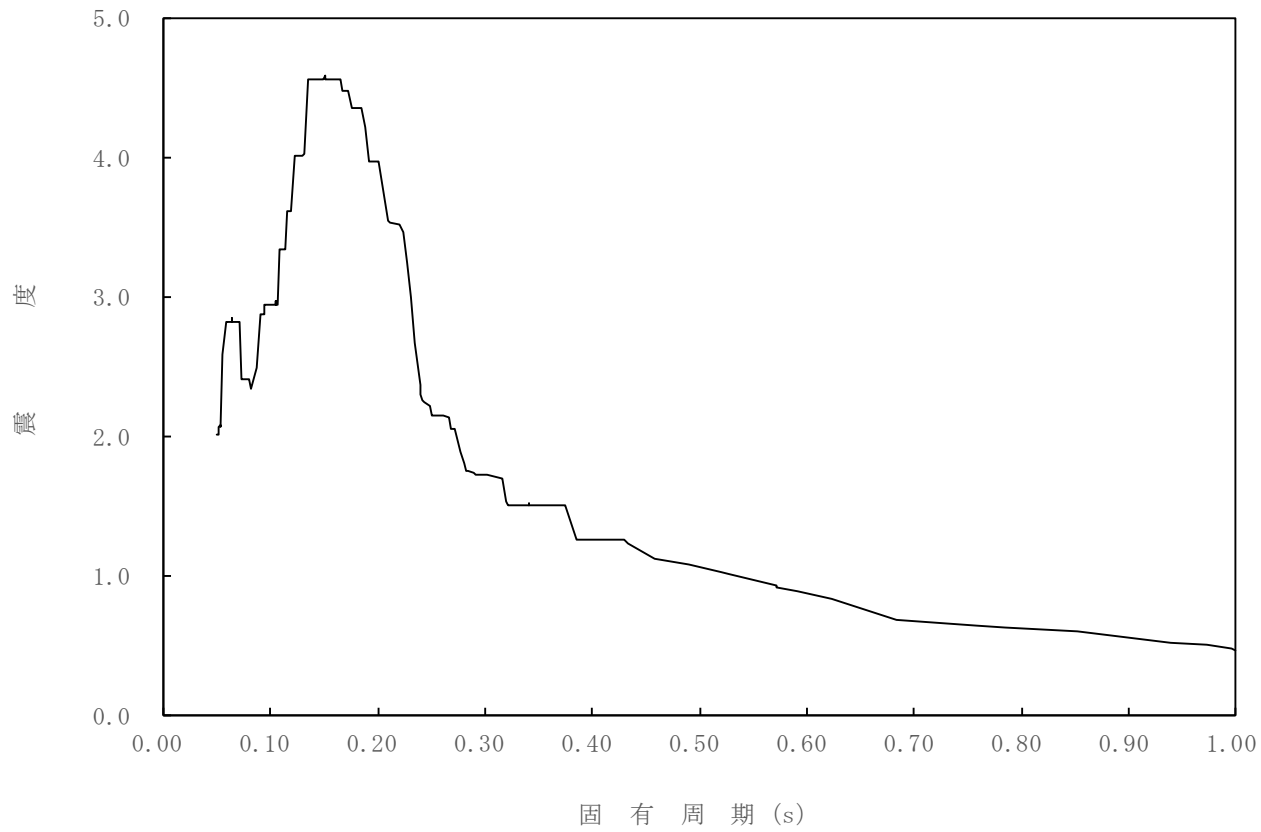
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR14800-025】

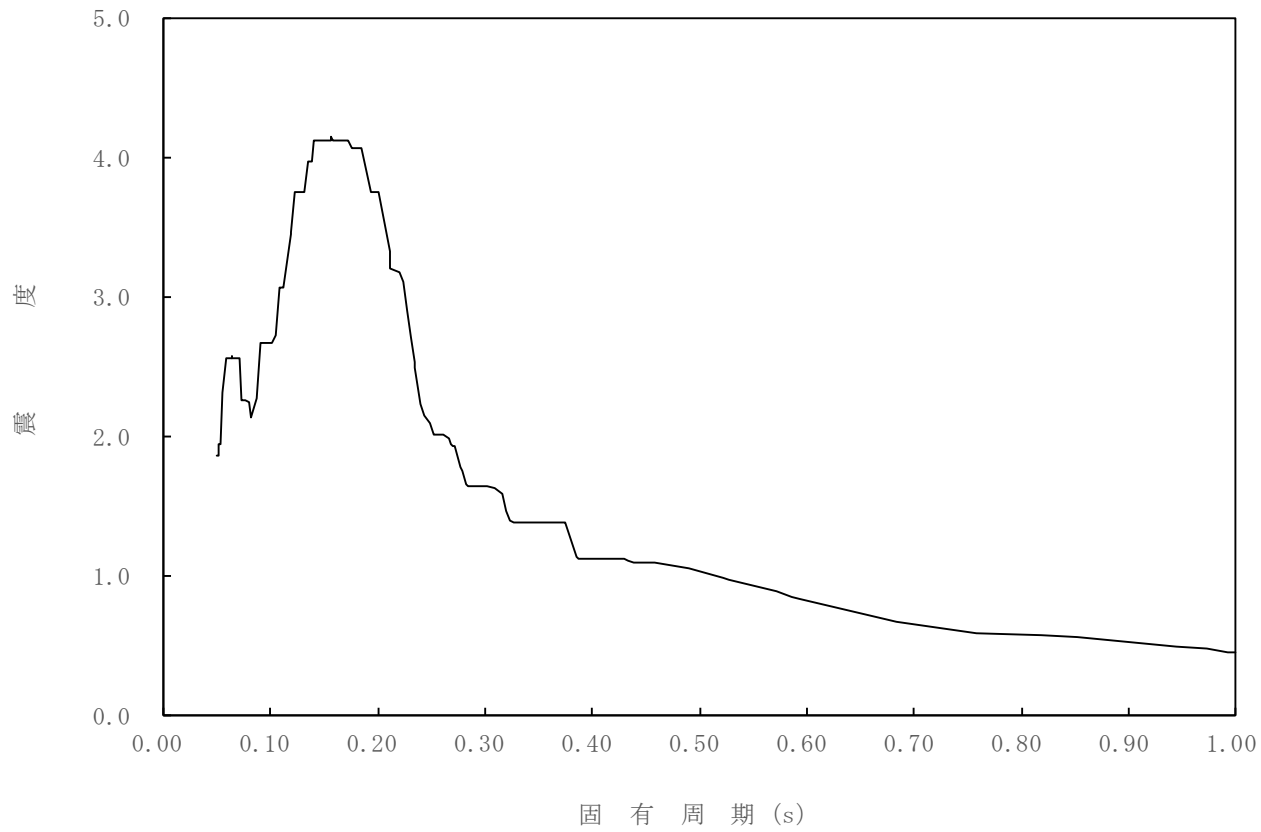
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR14800-030】

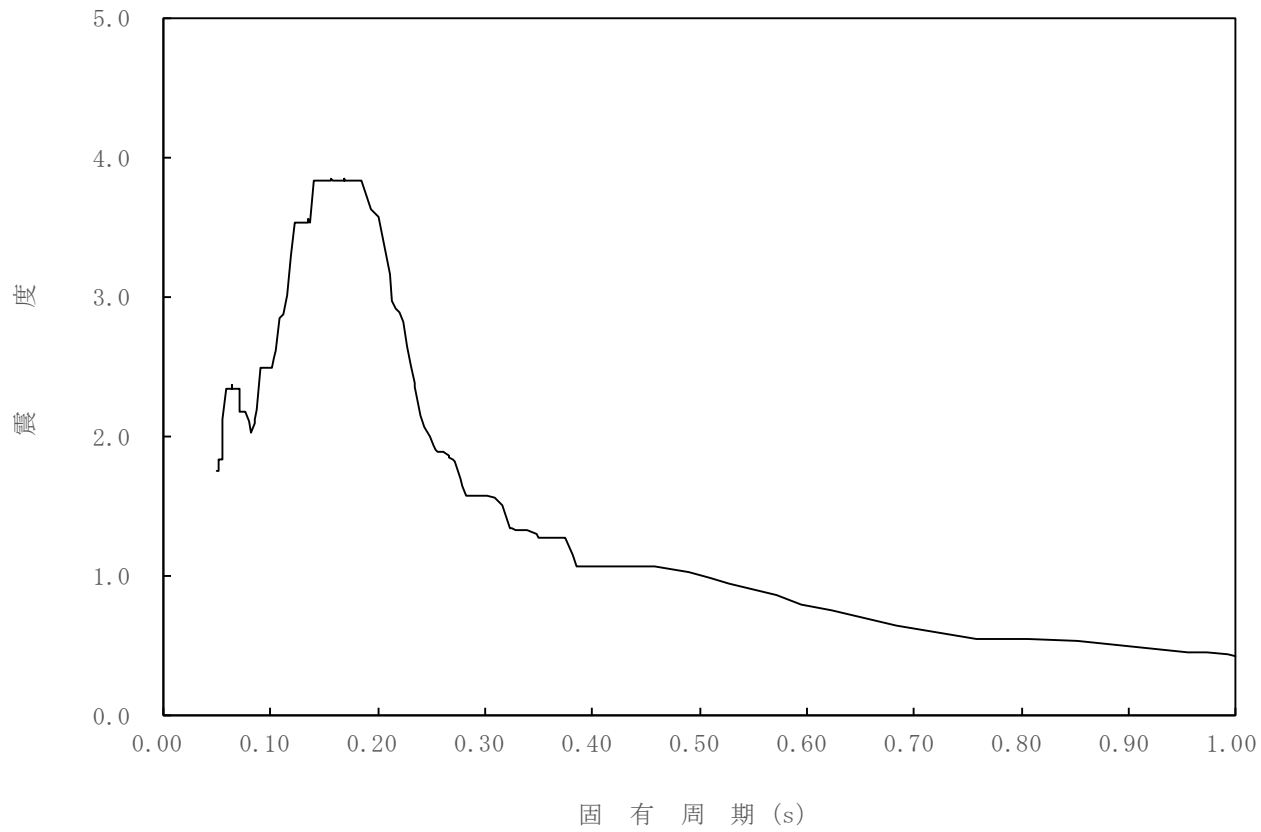
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR14800-040】

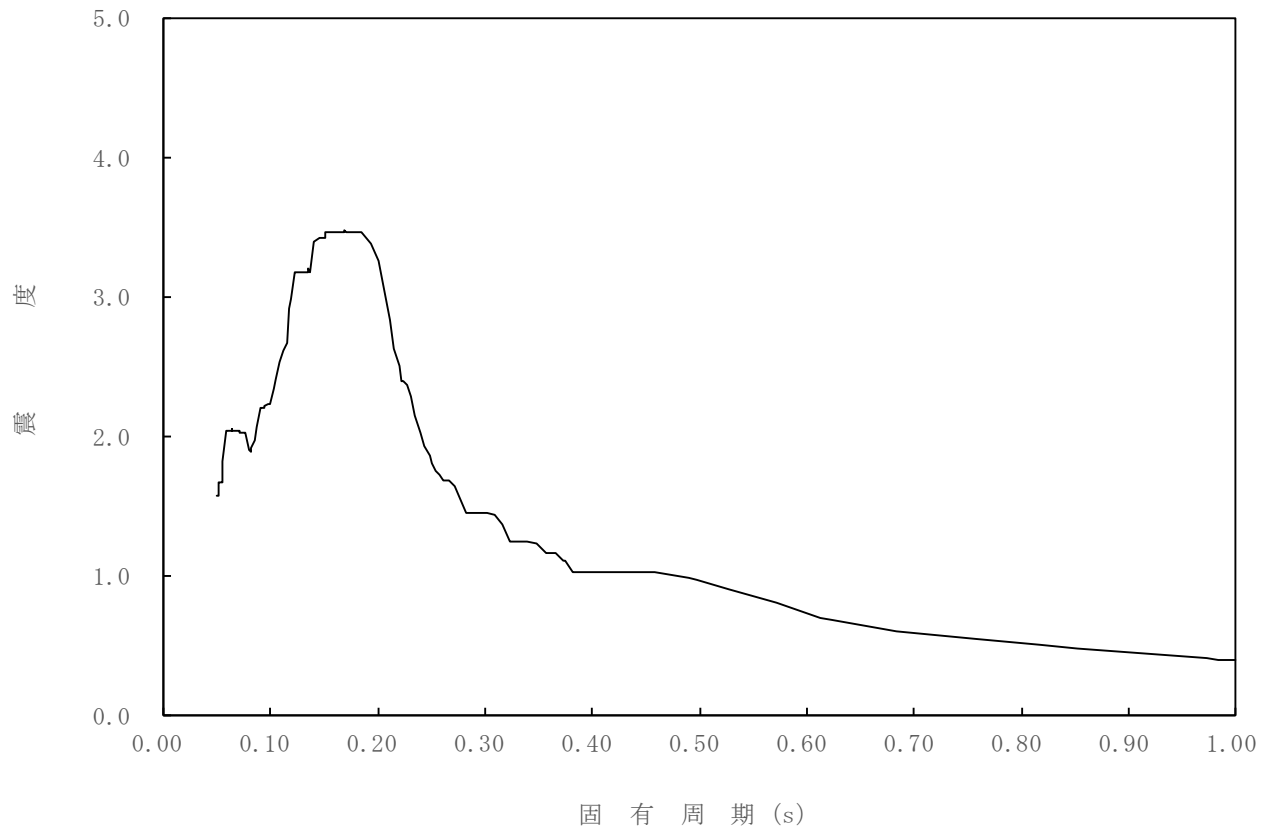
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR14800-050】

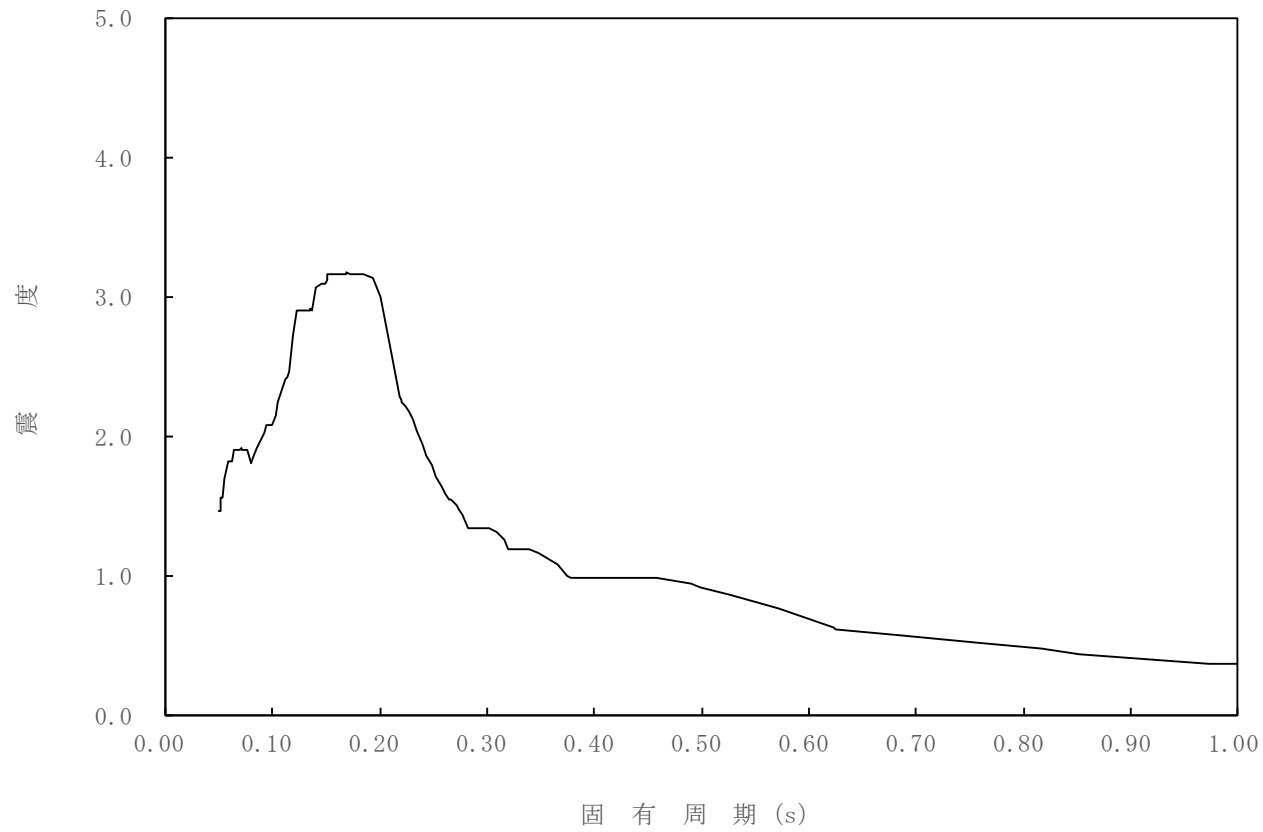
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR9500-005】

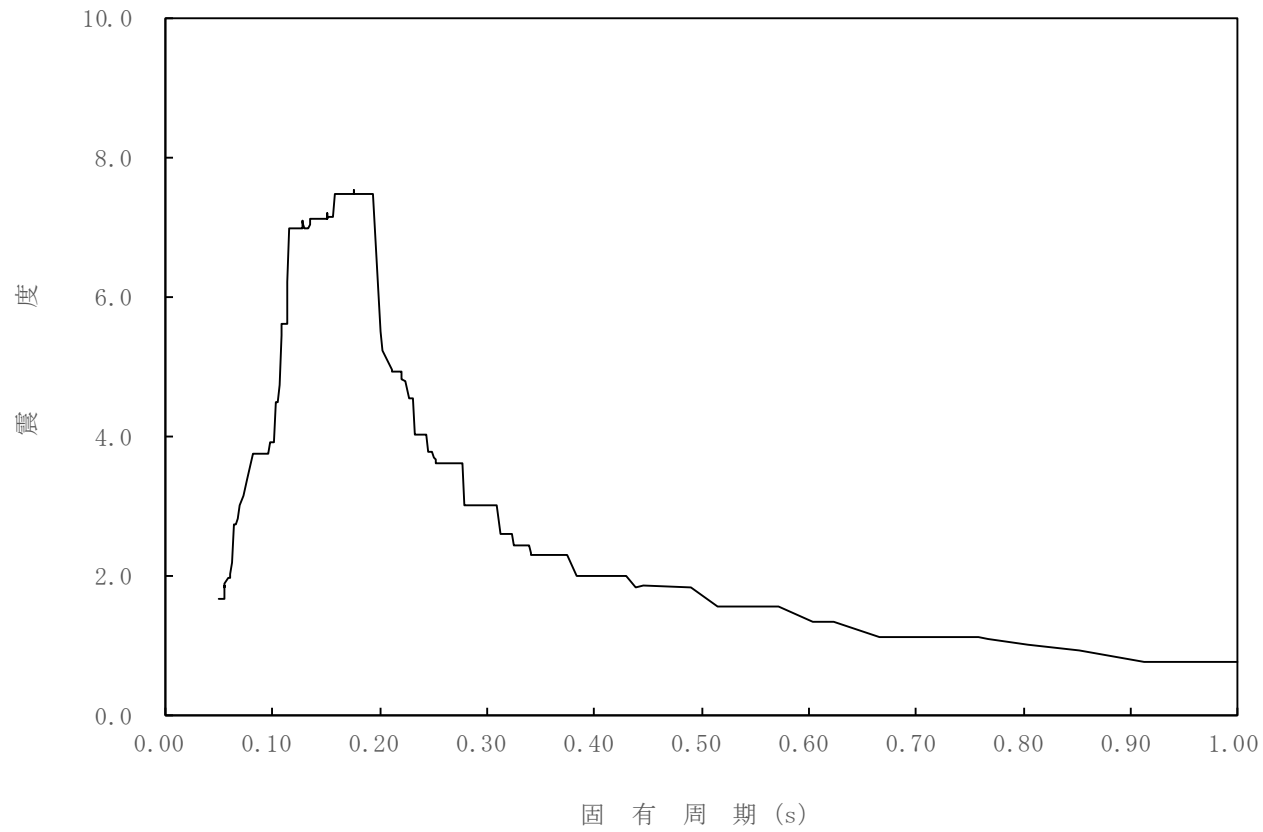
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdH-PR9500-010】

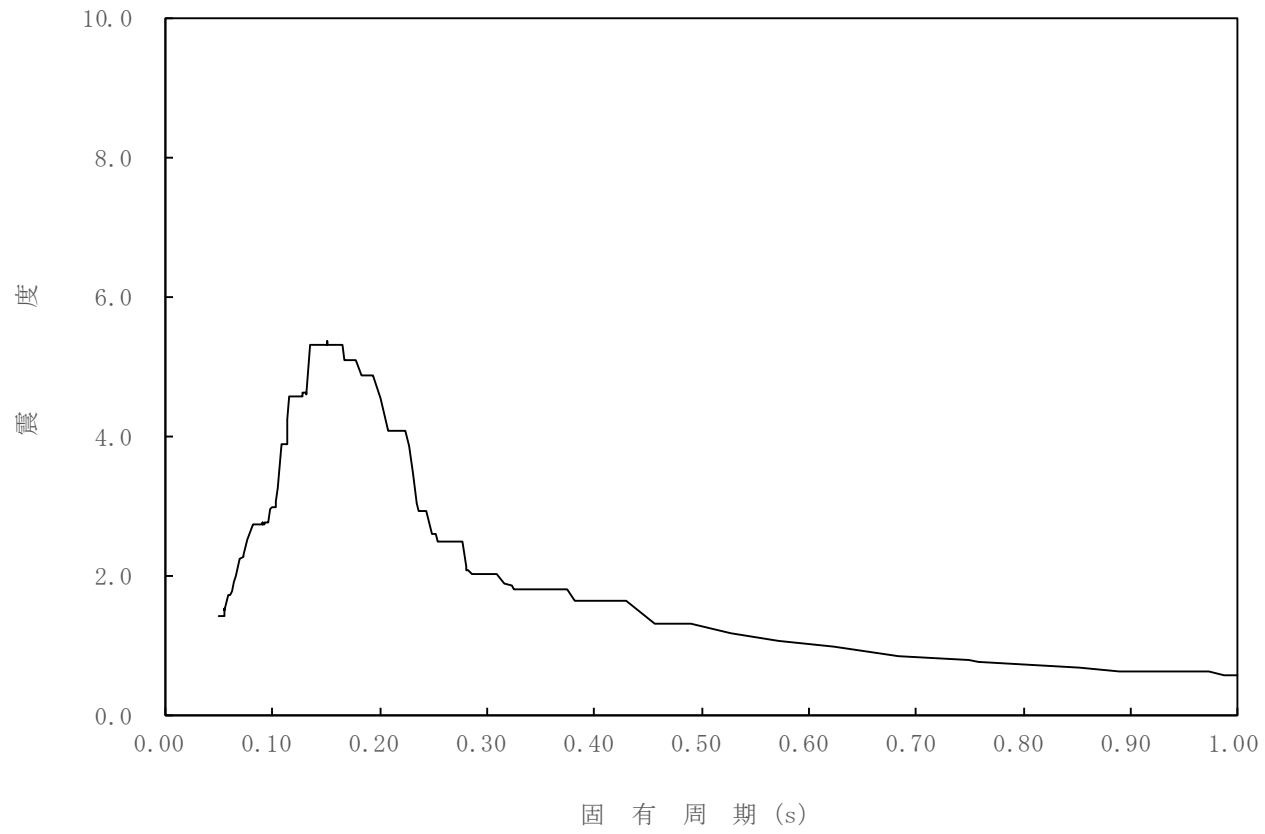
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR9500-015】

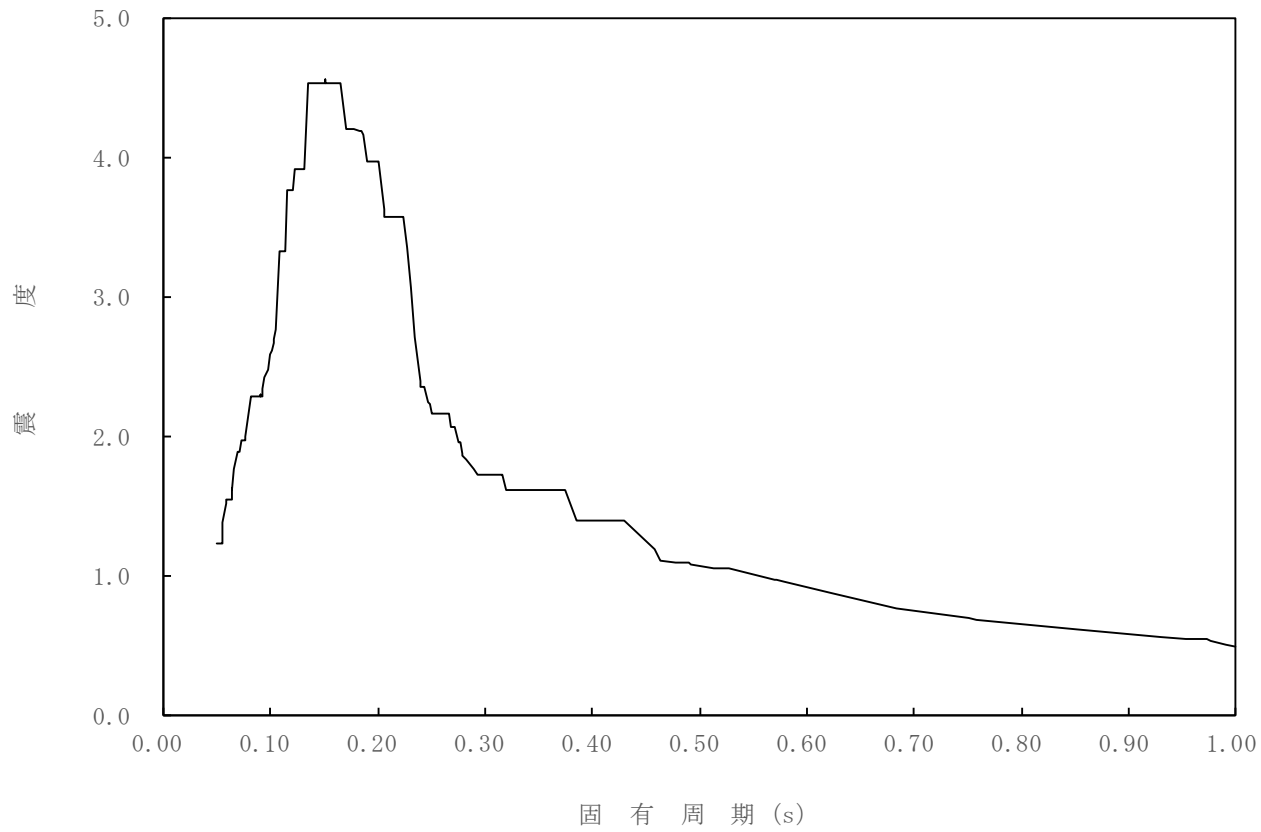
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0. P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR9500-020】

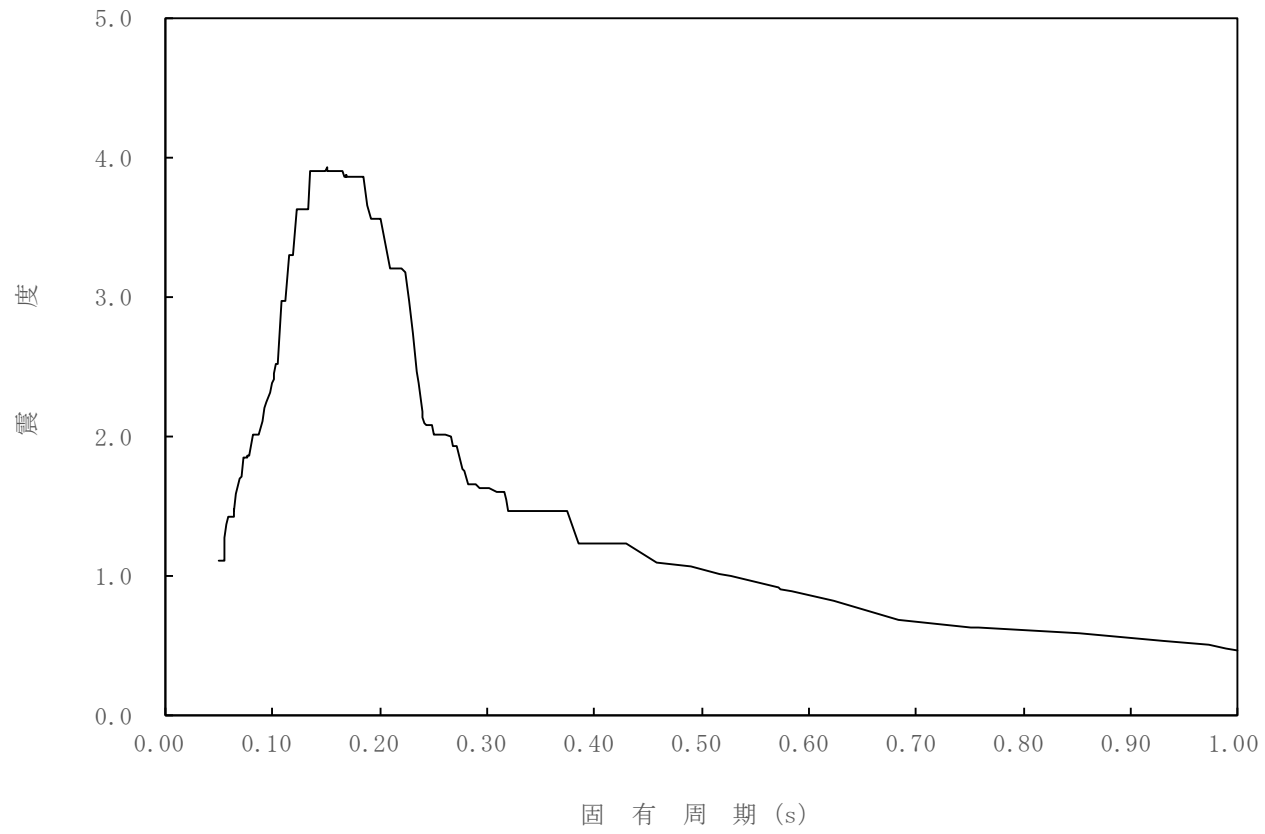
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-5-30

【02-D0-SdH-PR9500-025】

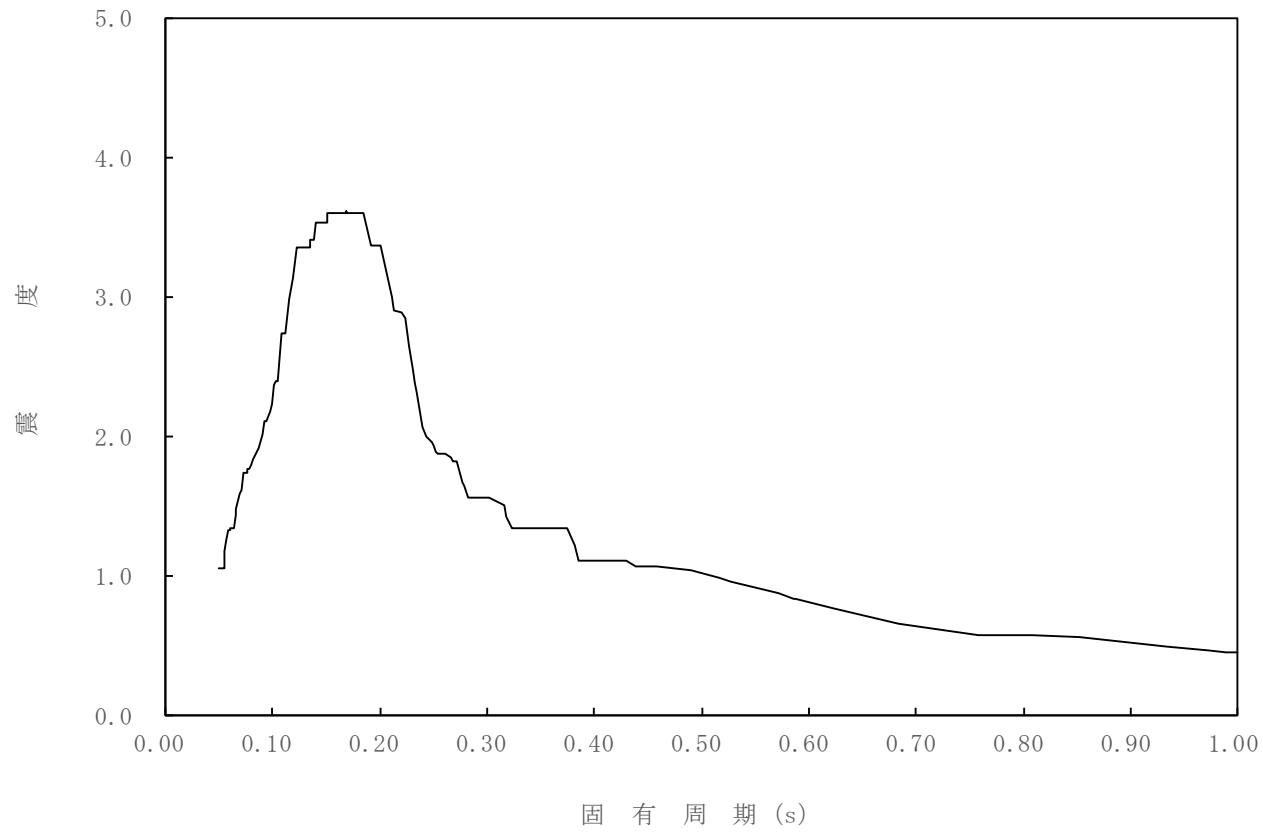
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR9500-030】

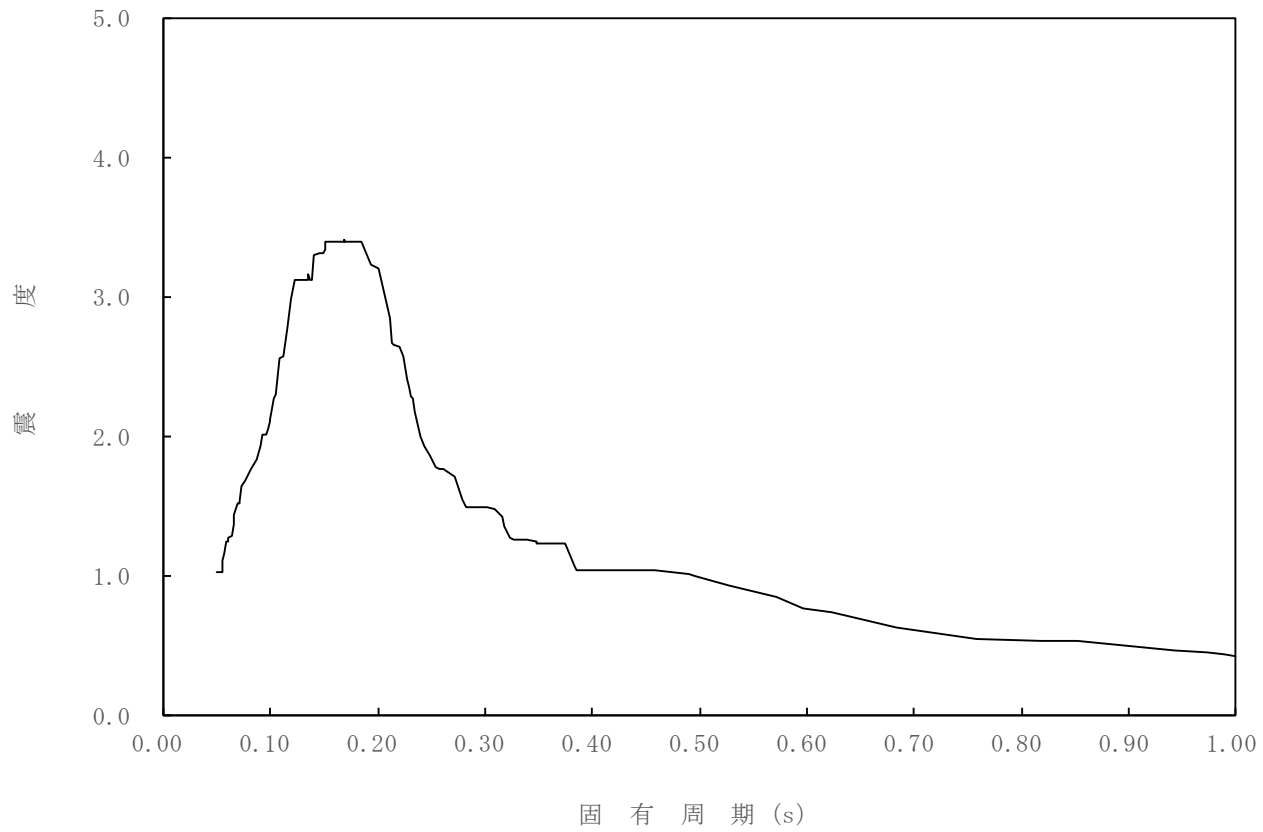
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR9500-040】

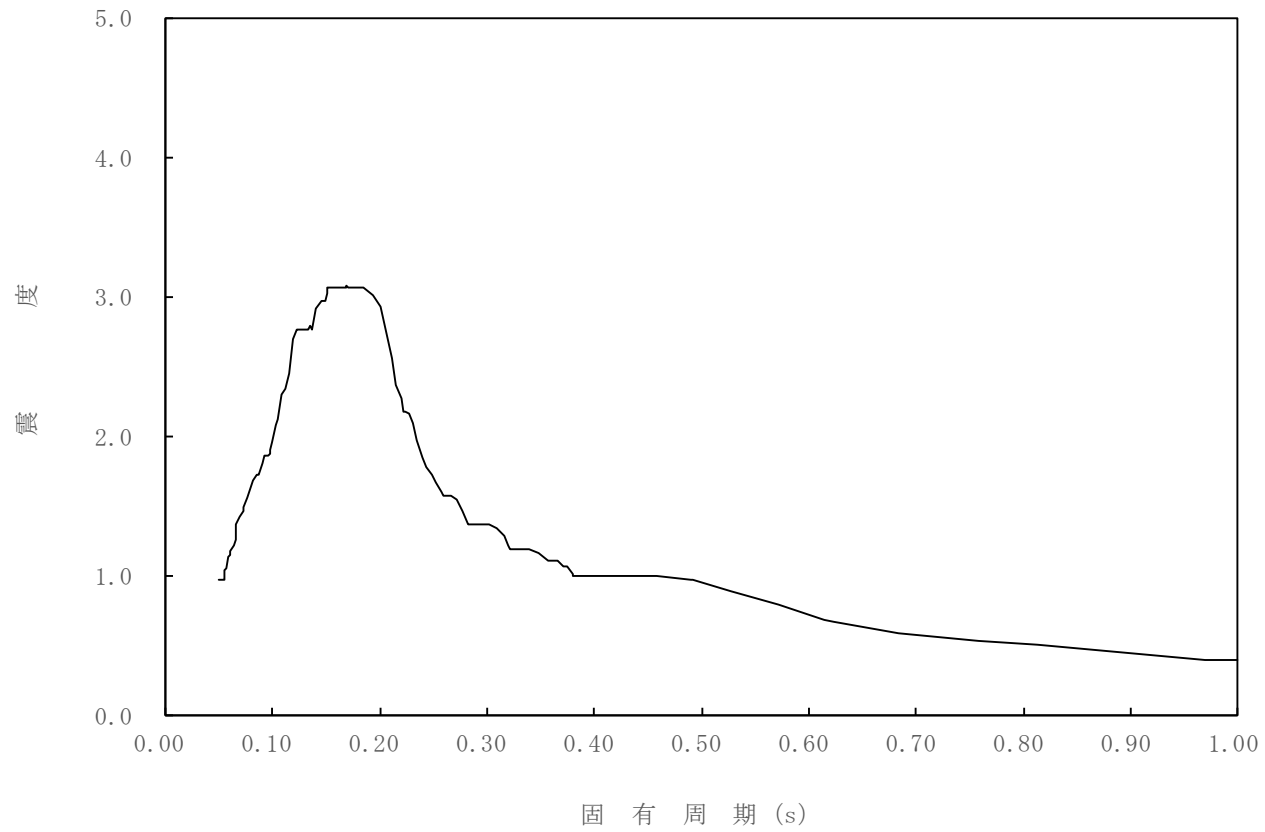
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdH-PR9500-050】

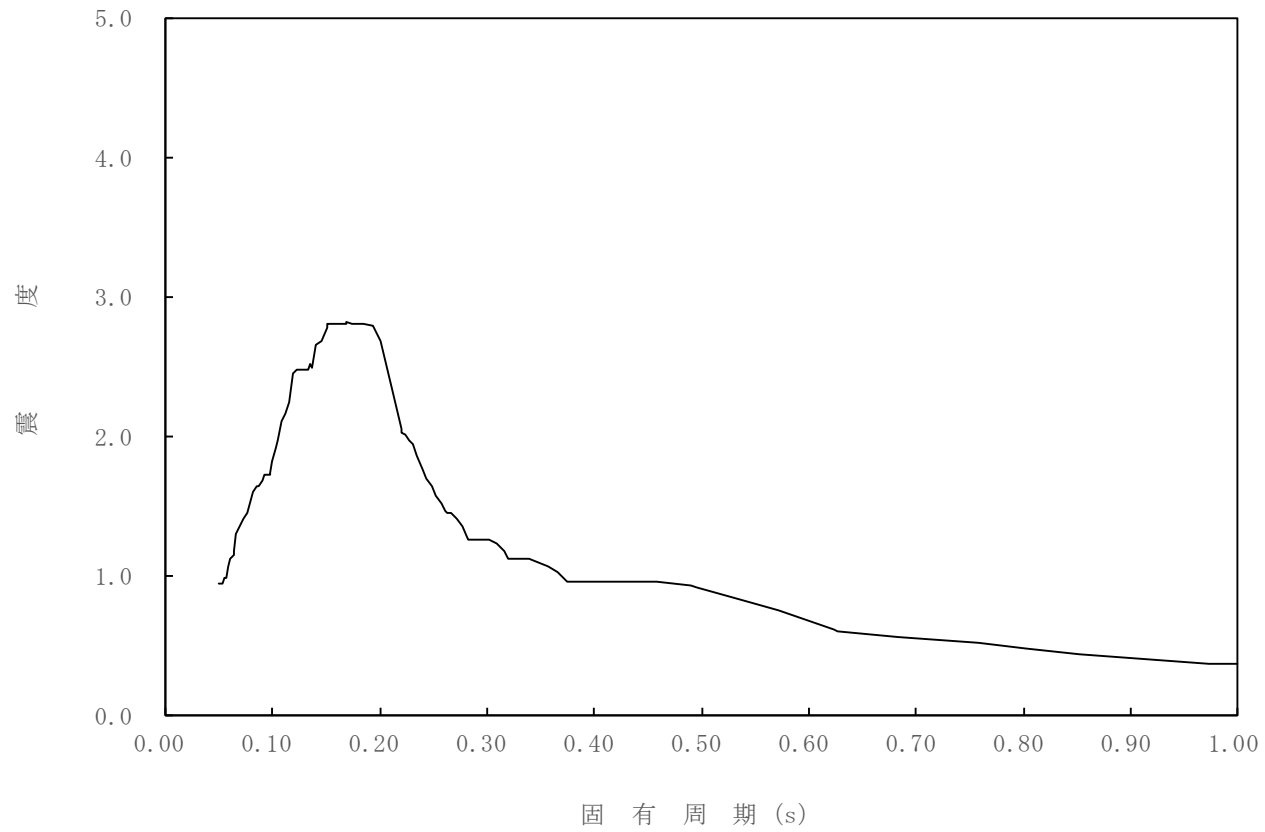
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT14800-005】

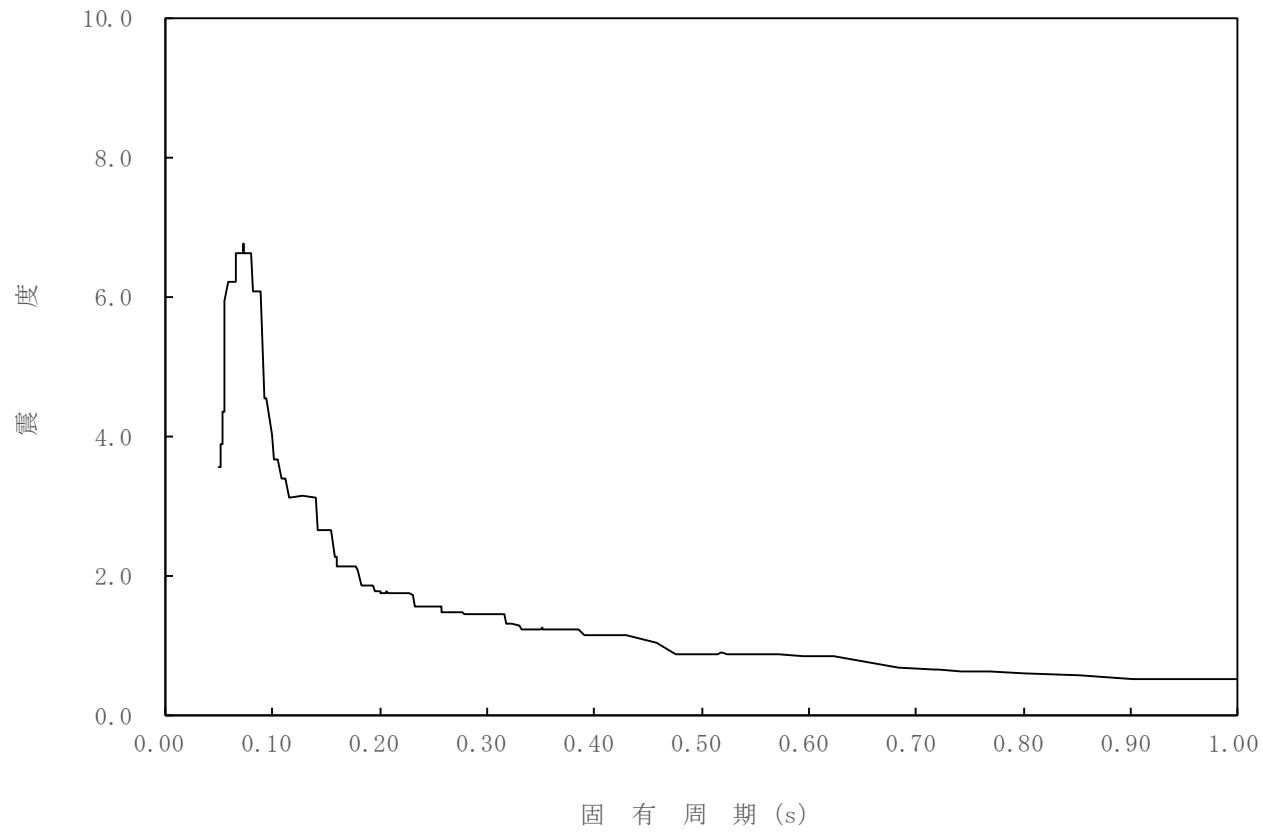
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdV-PIT14800-010】

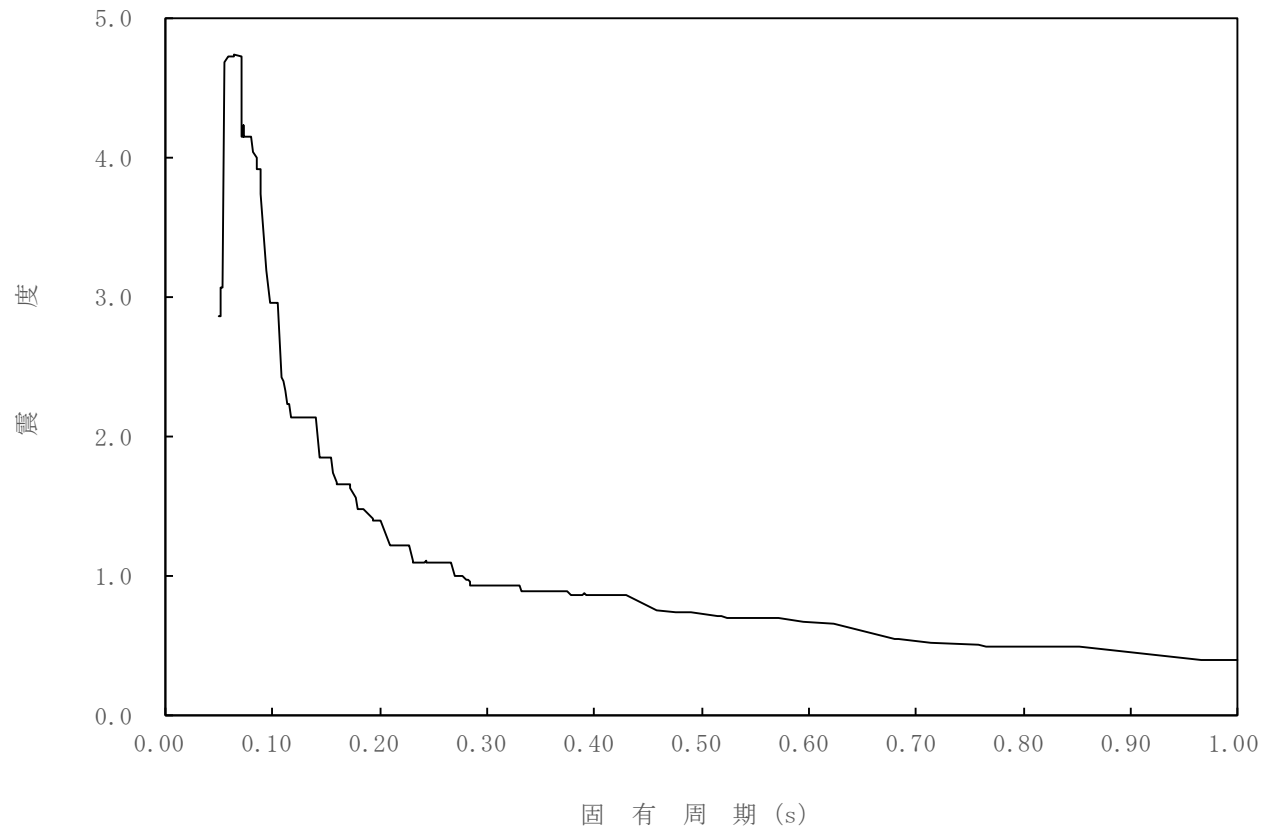
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT14800-015】

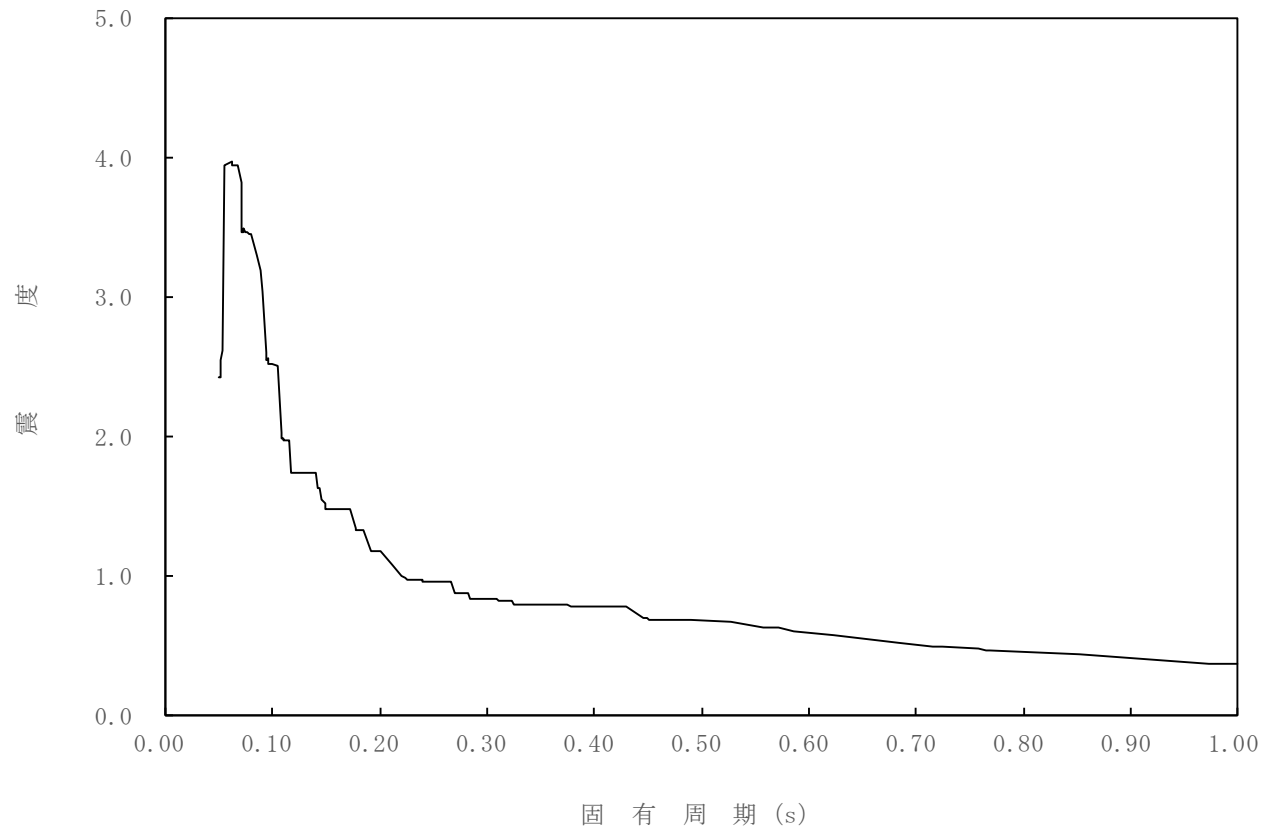
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT14800-020】

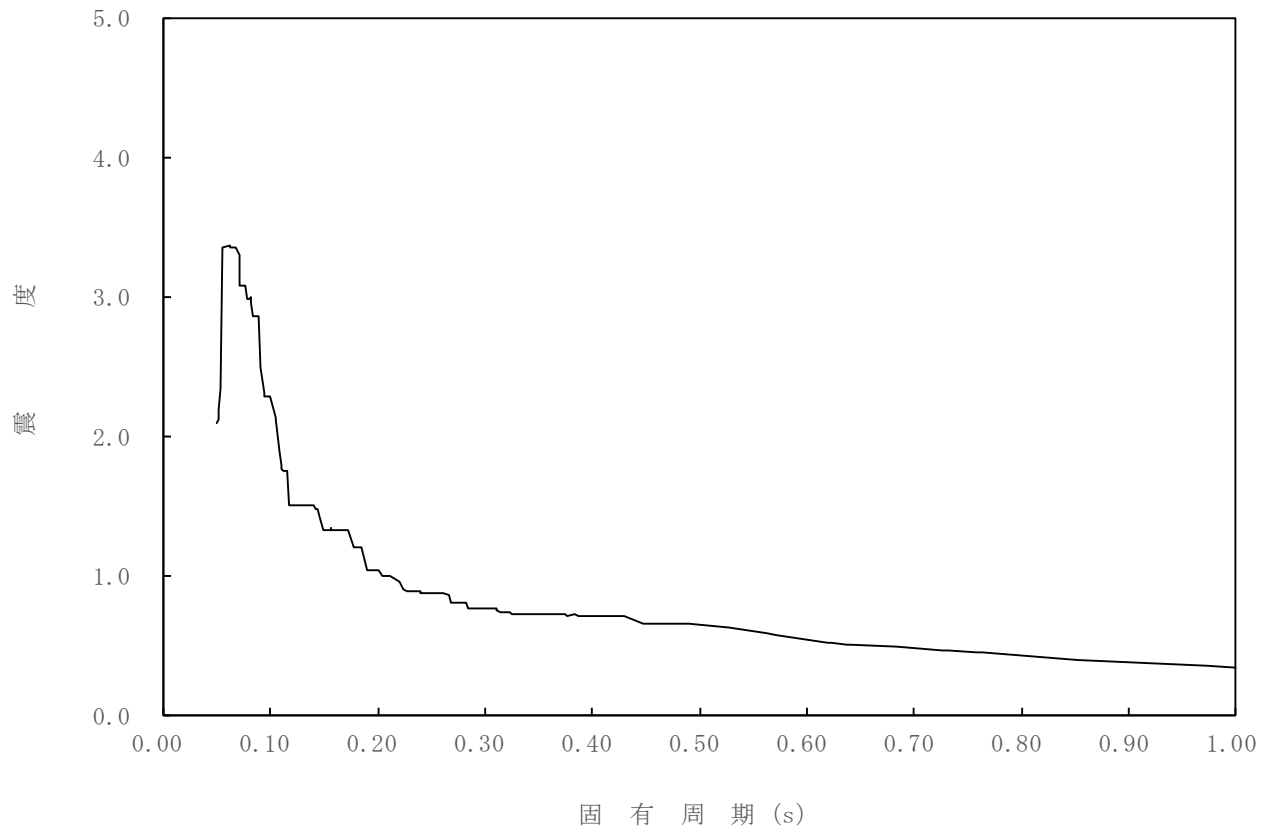
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT14800-025】

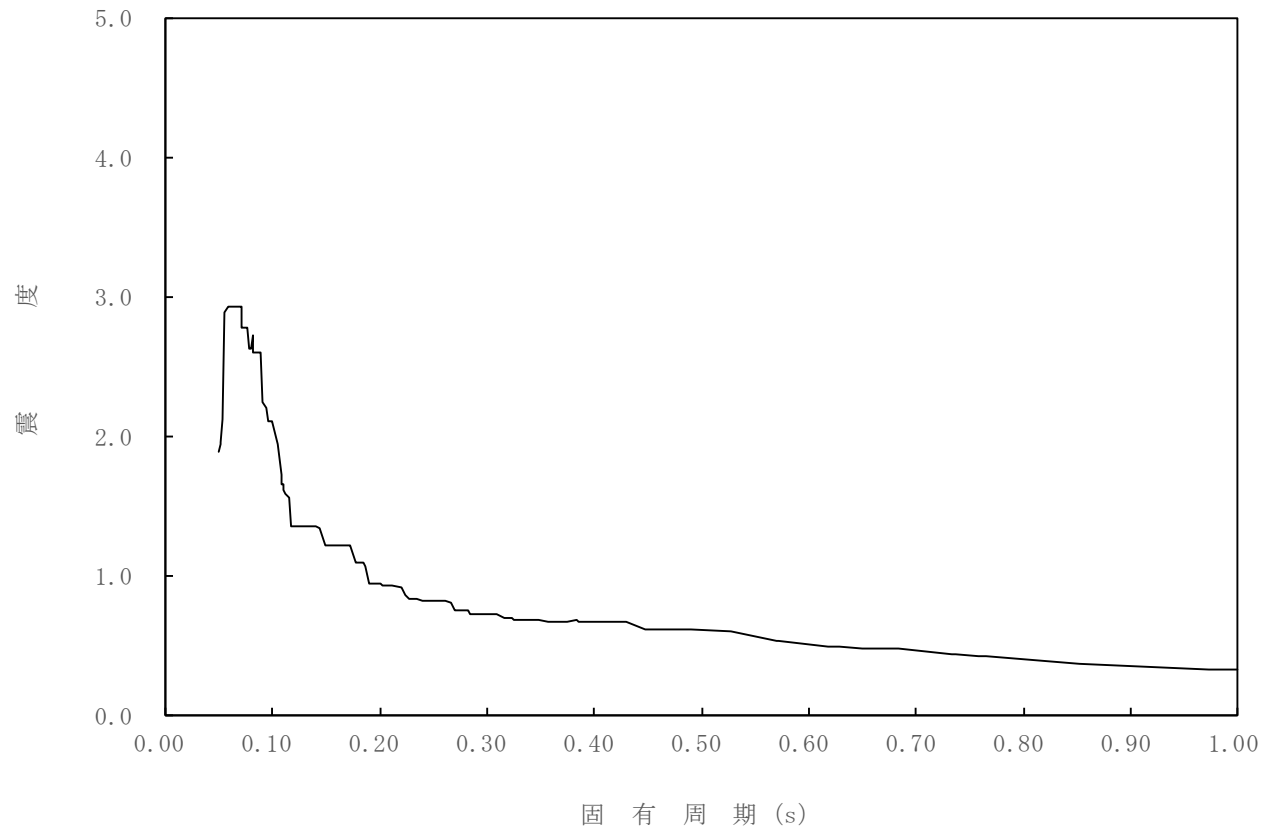
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT14800-030】

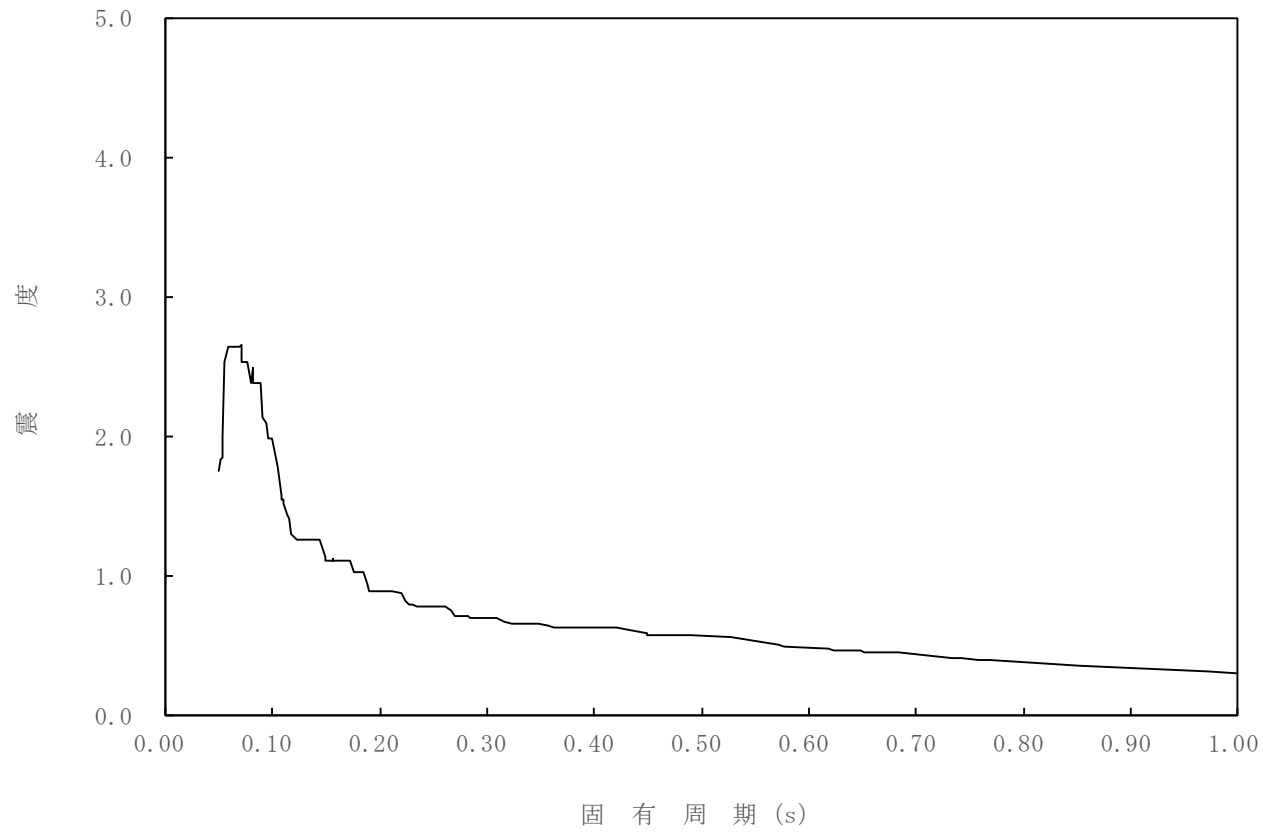
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-5-40

【02-D0-SdV-PIT14800-050】

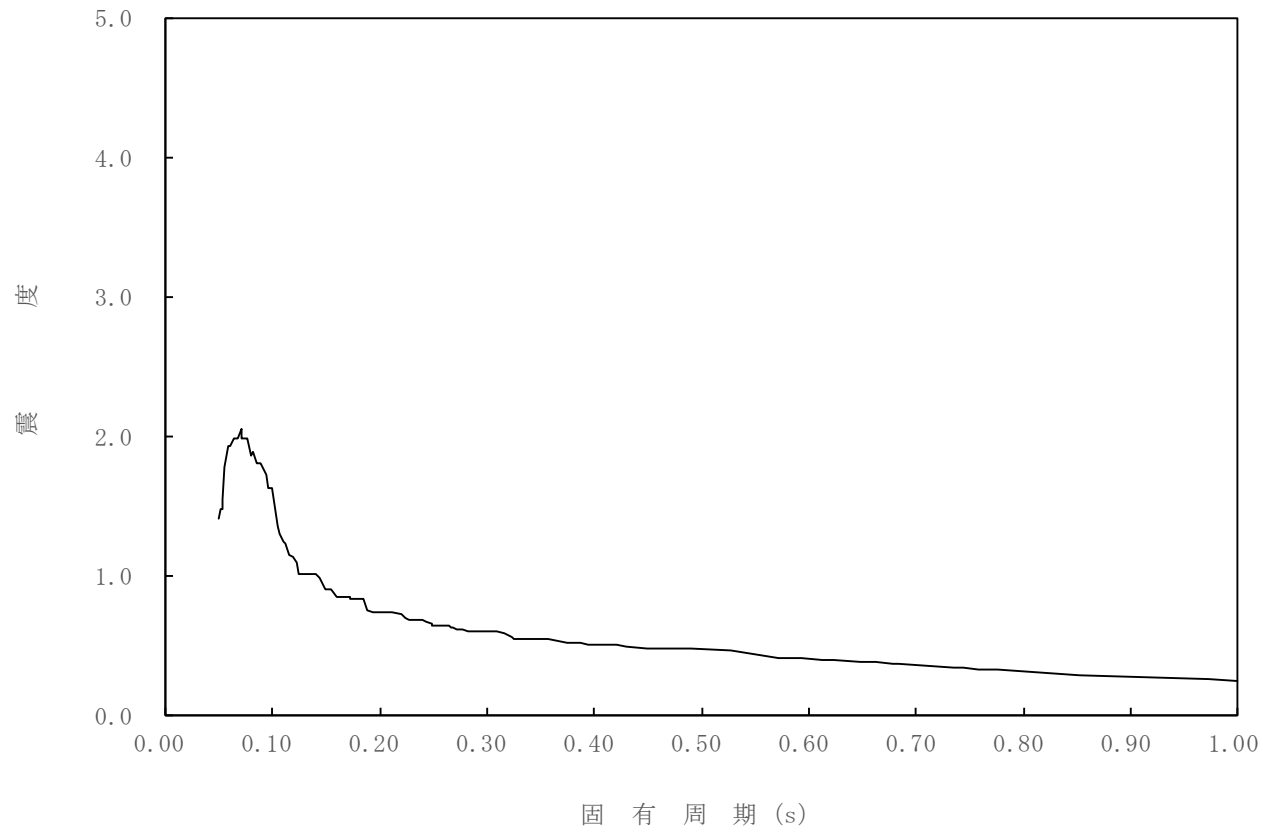
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT9500-005】

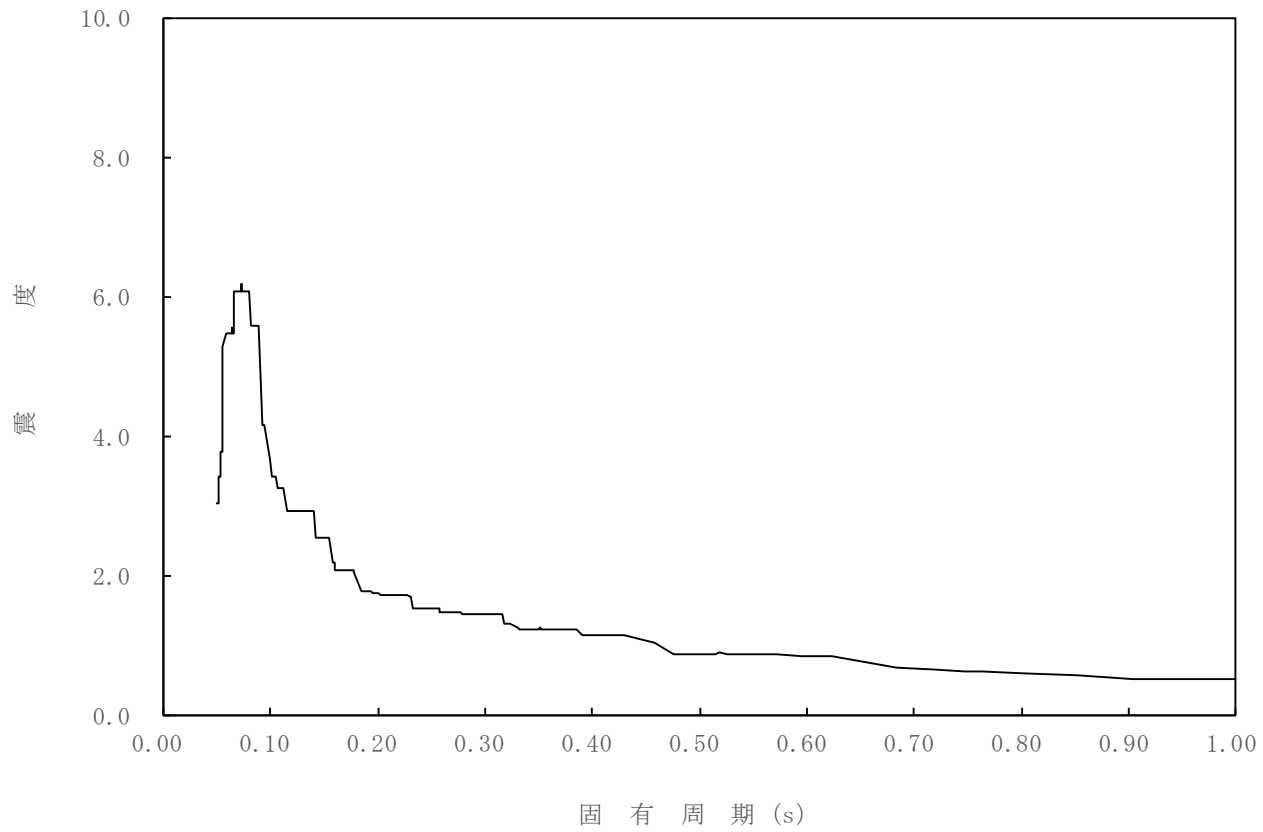
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0. P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT9500-010】

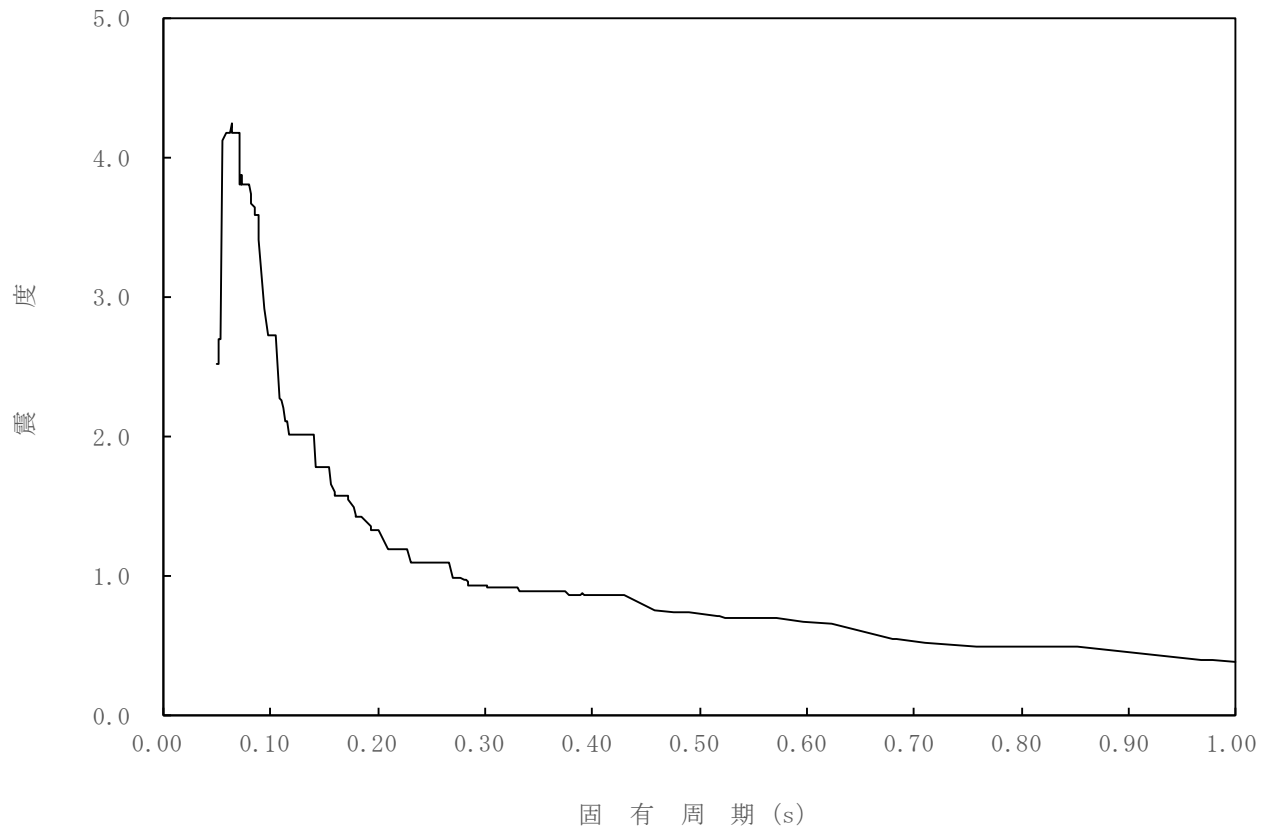
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdV-PIT9500-015】

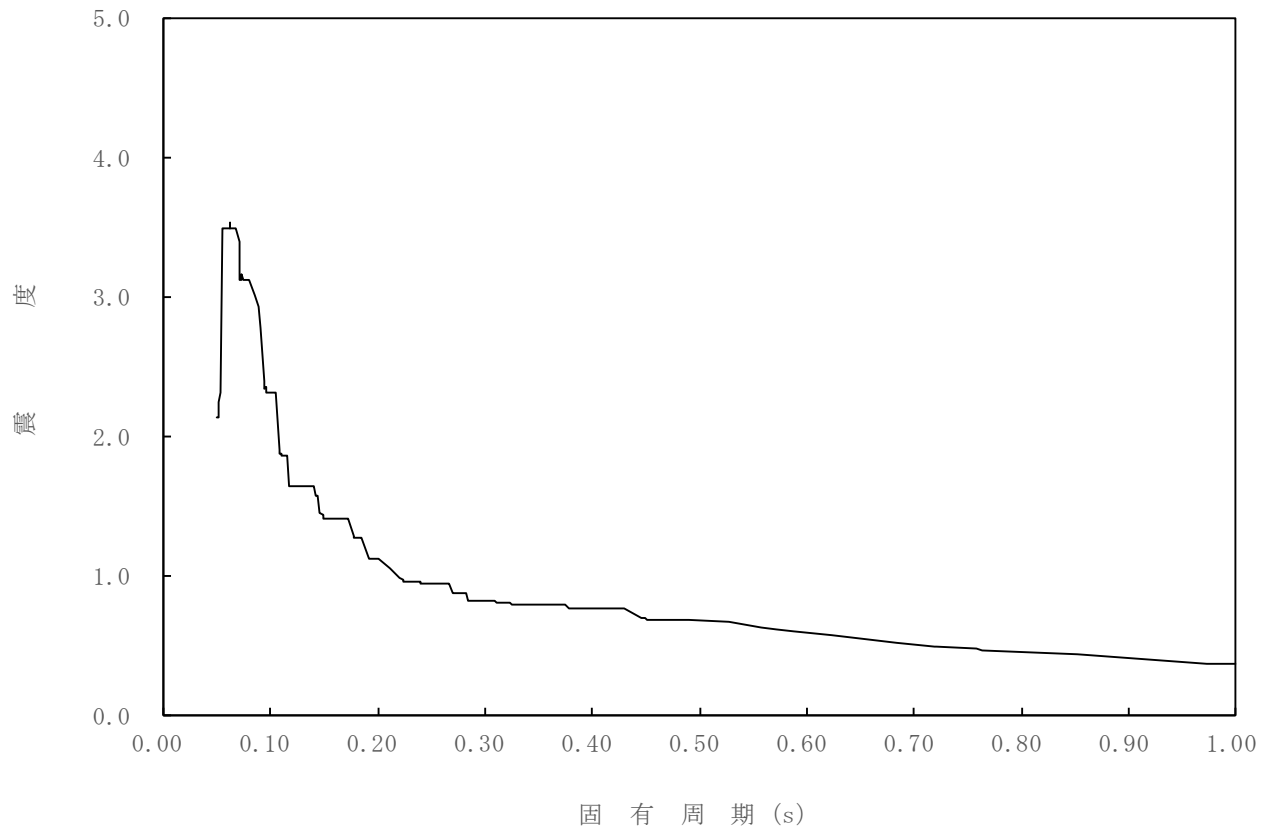
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT9500-020】

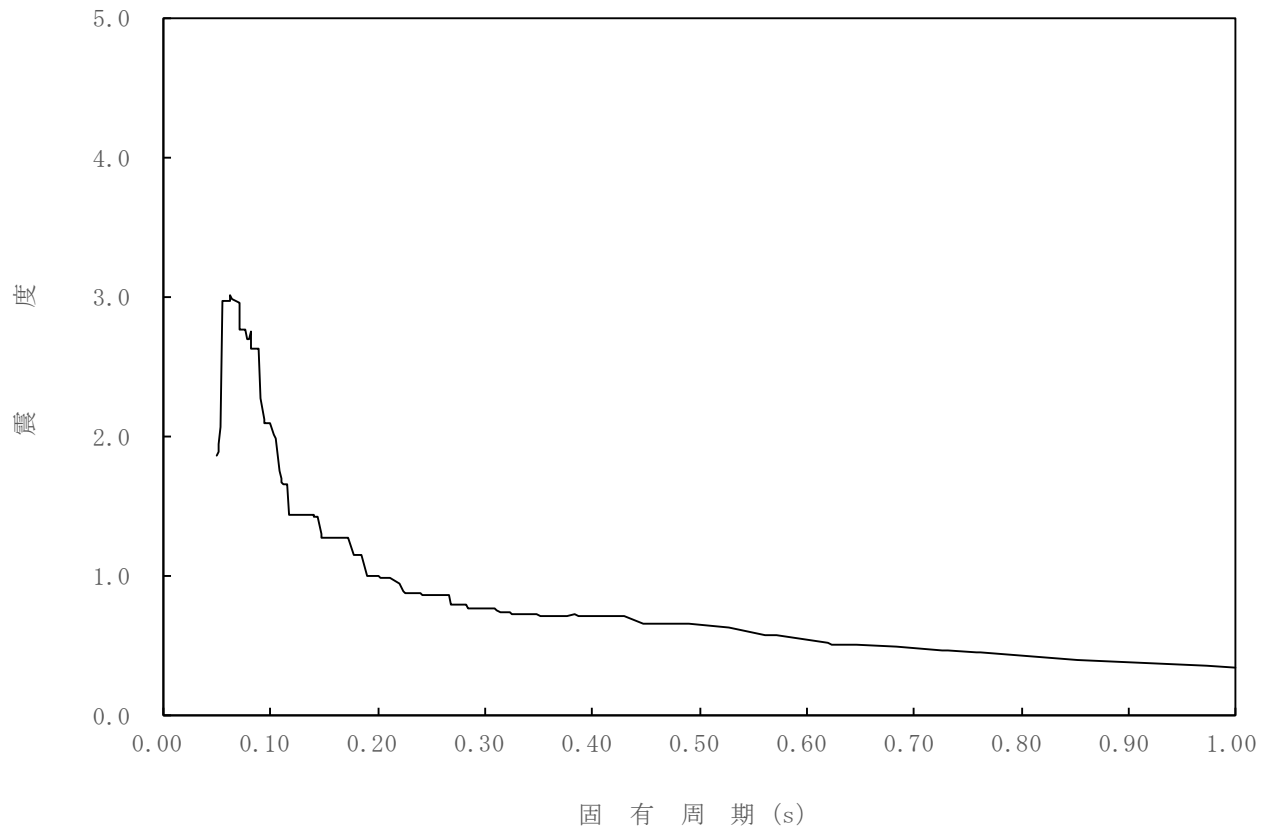
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT9500-025】

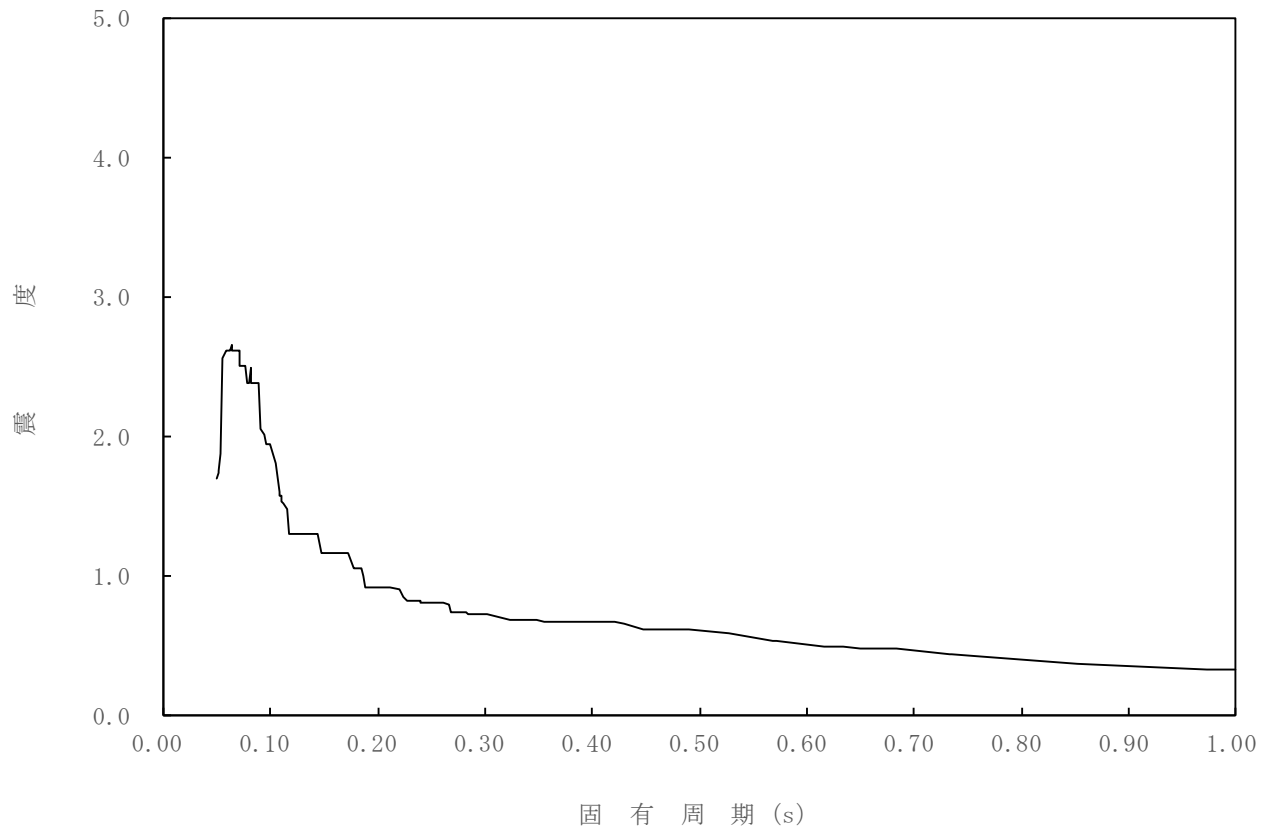
構造物名： 軽油タンク室(タンク側)

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT9500-030】

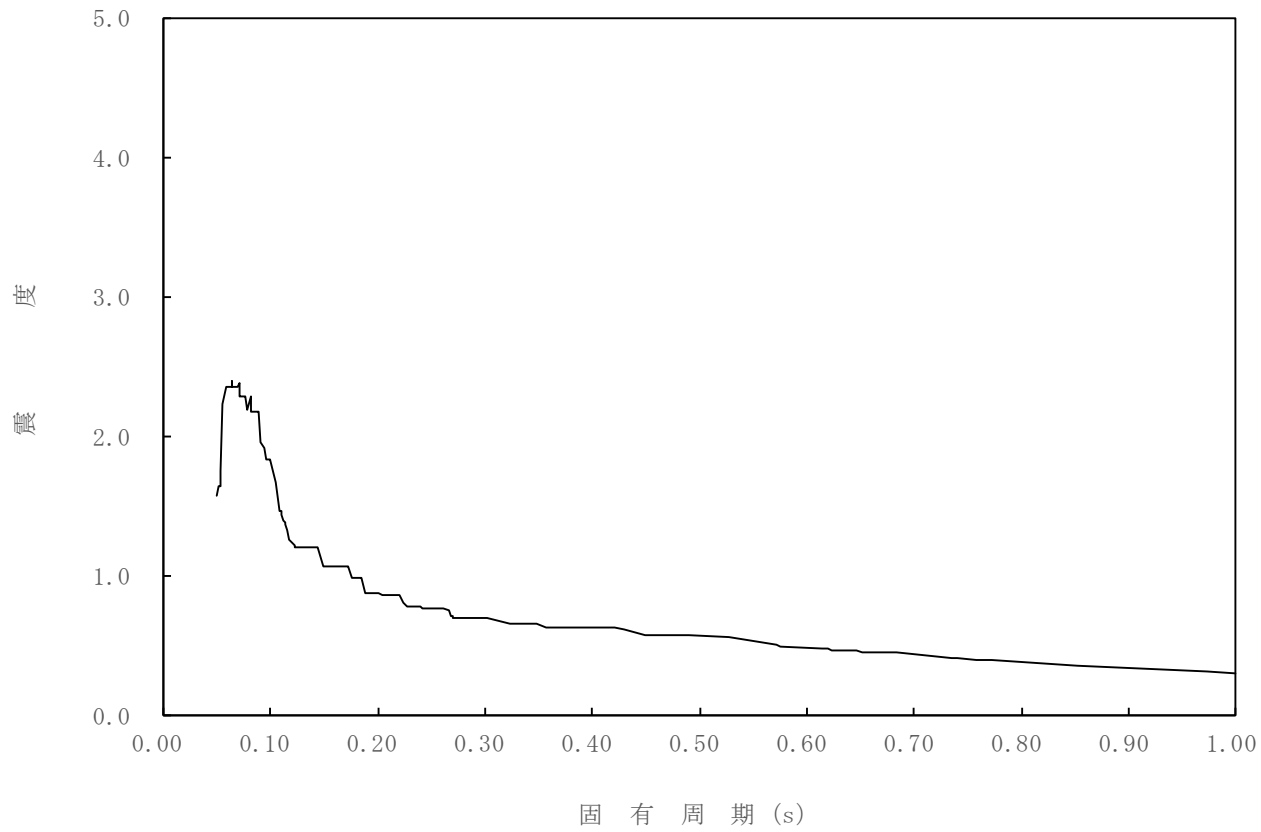
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：O.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PIT9500-050】

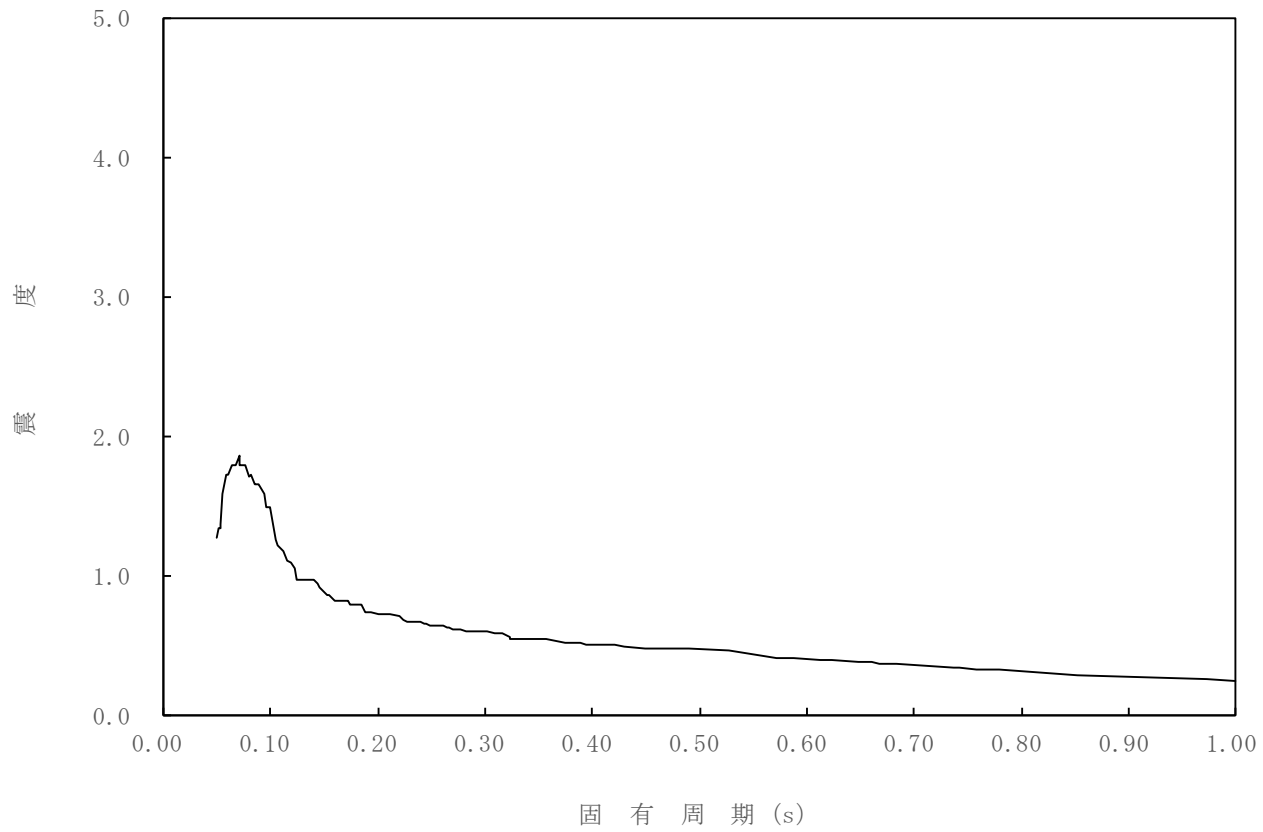
構造物名：軽油タンク室(タンク側)

標高：0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR14800-005】

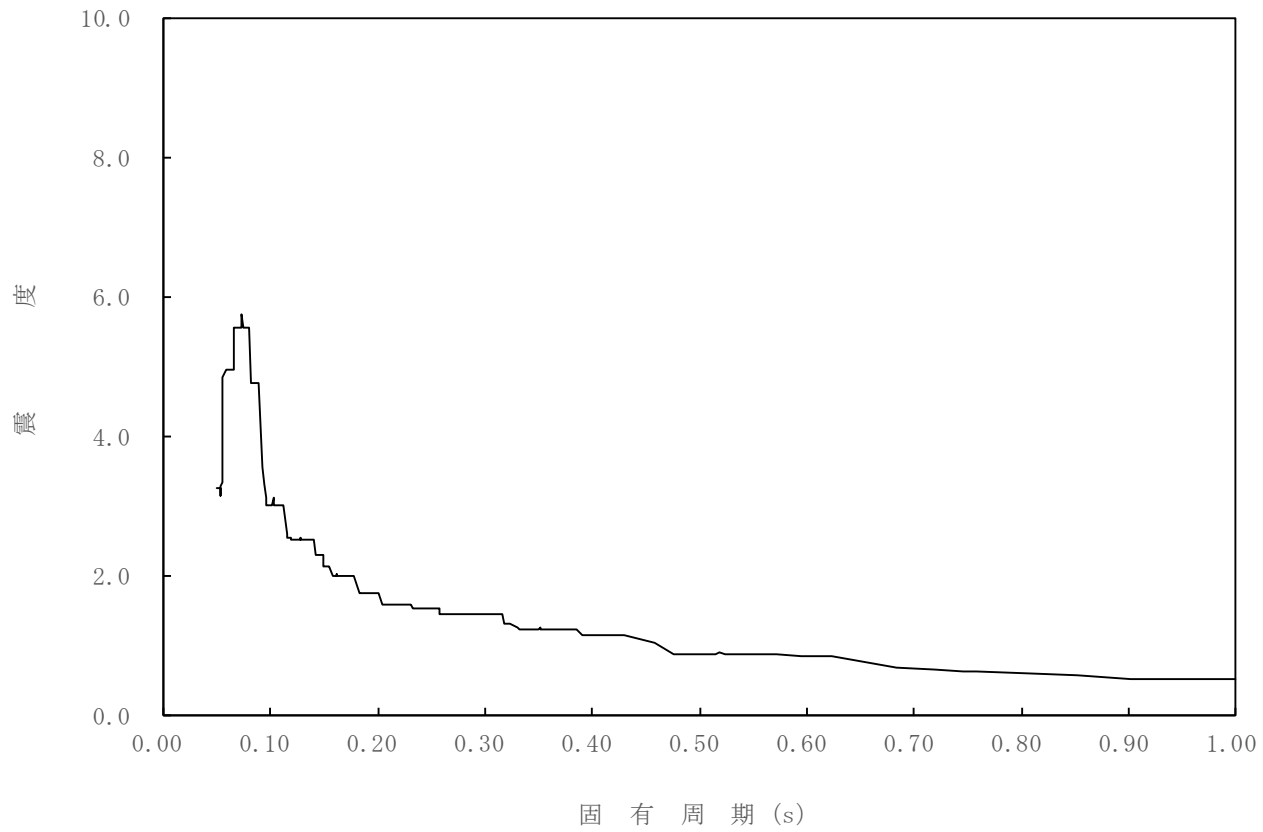
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR14800-010】

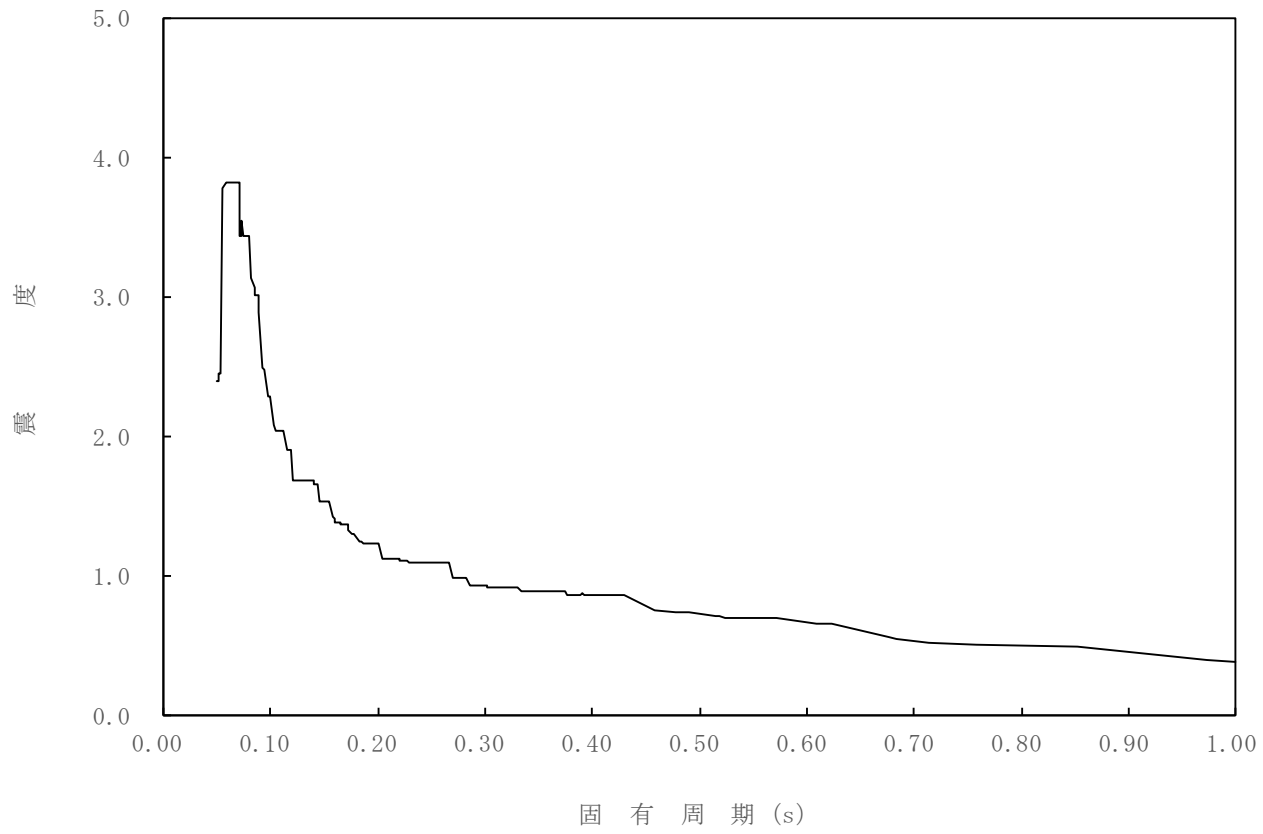
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-5-50

【02-D0-SdV-PR14800-015】

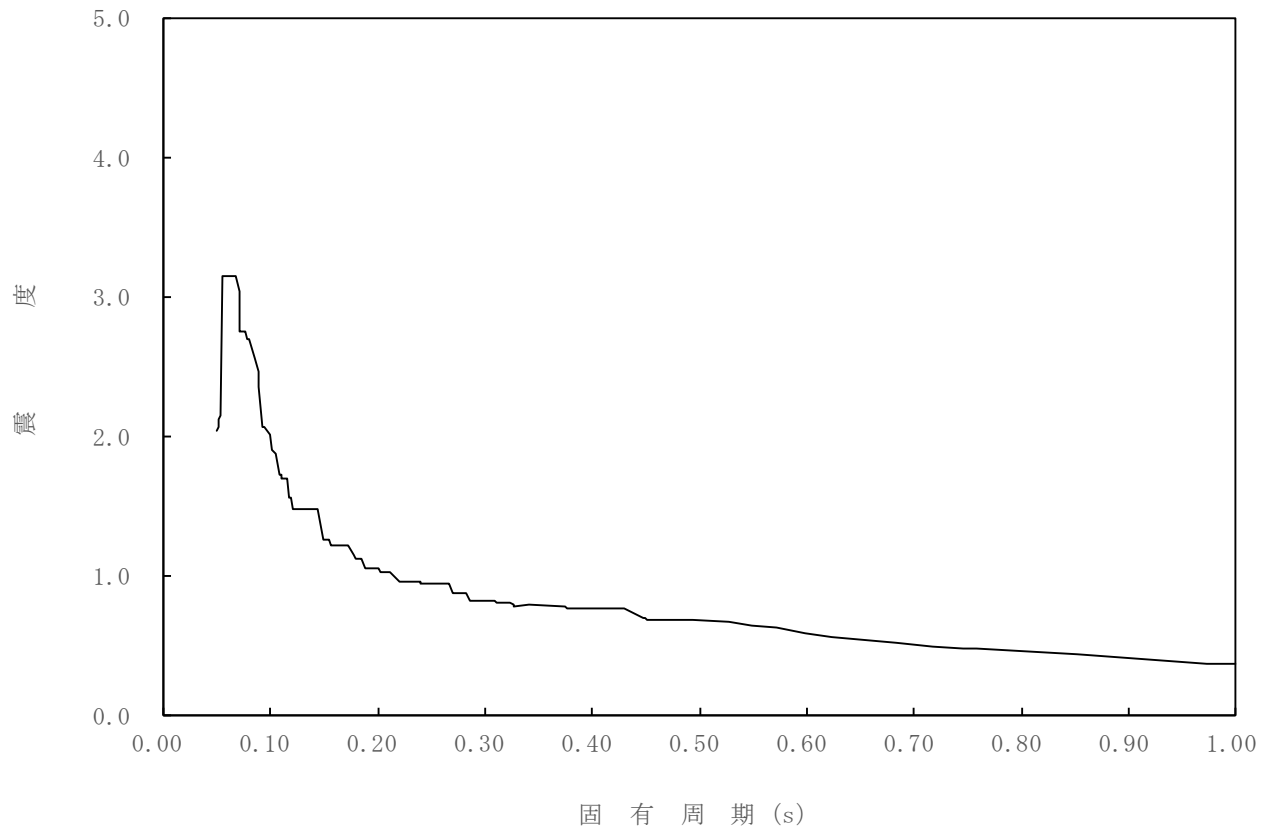
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdV-PR14800-020】

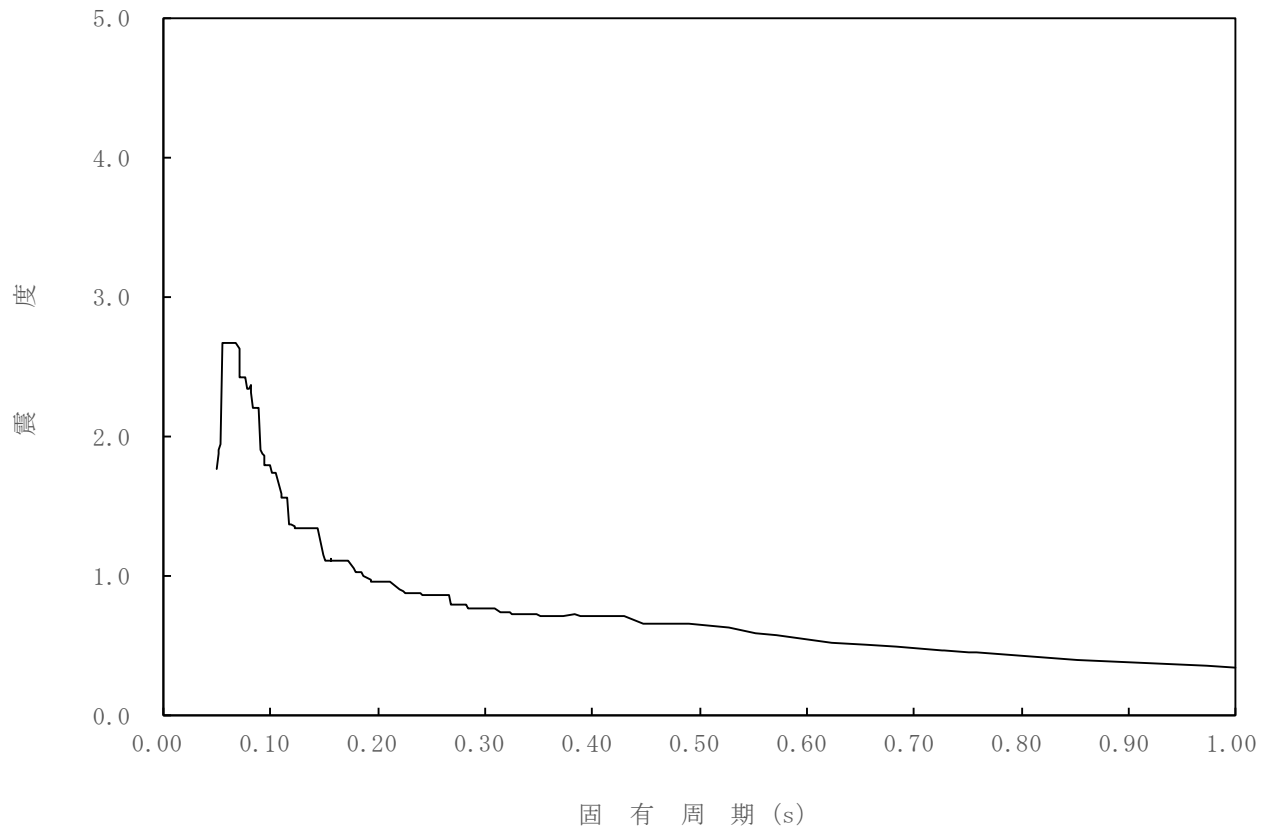
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR14800-025】

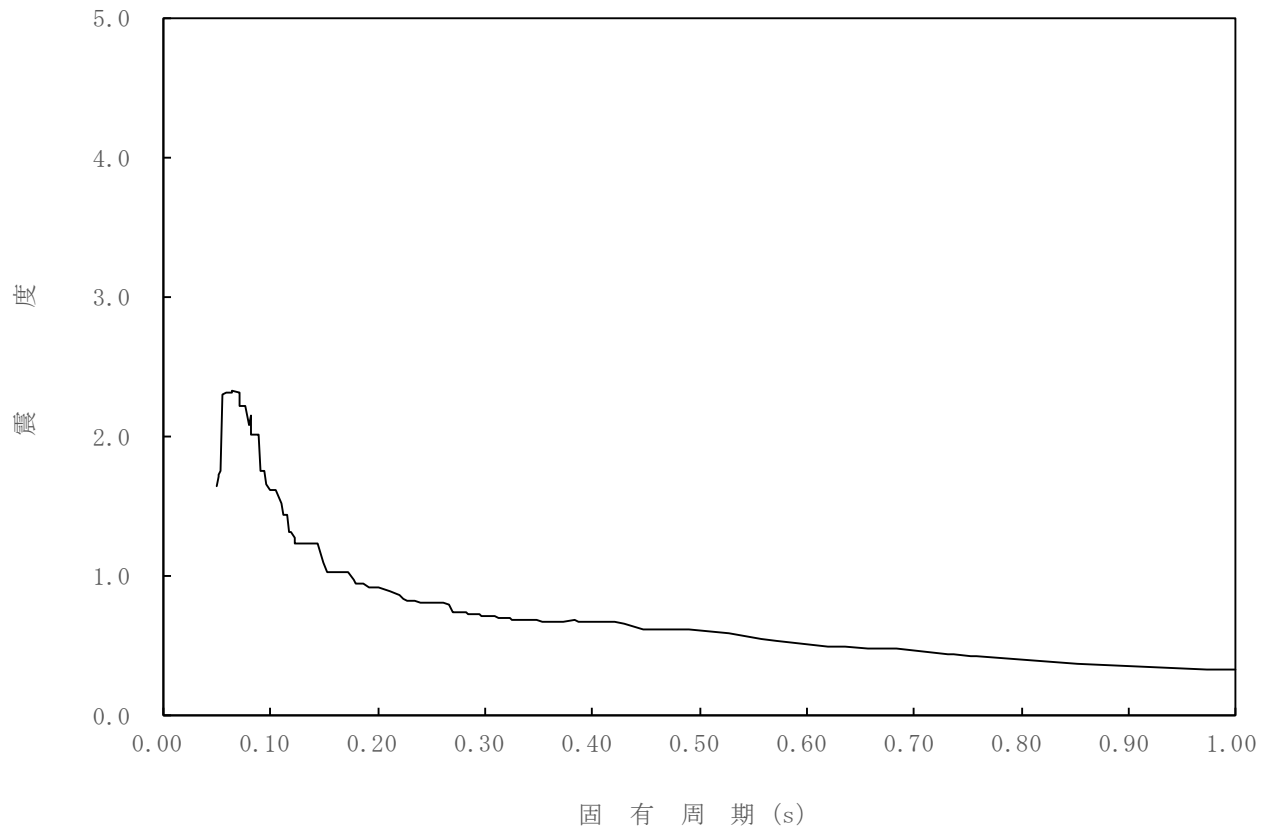
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR14800-030】

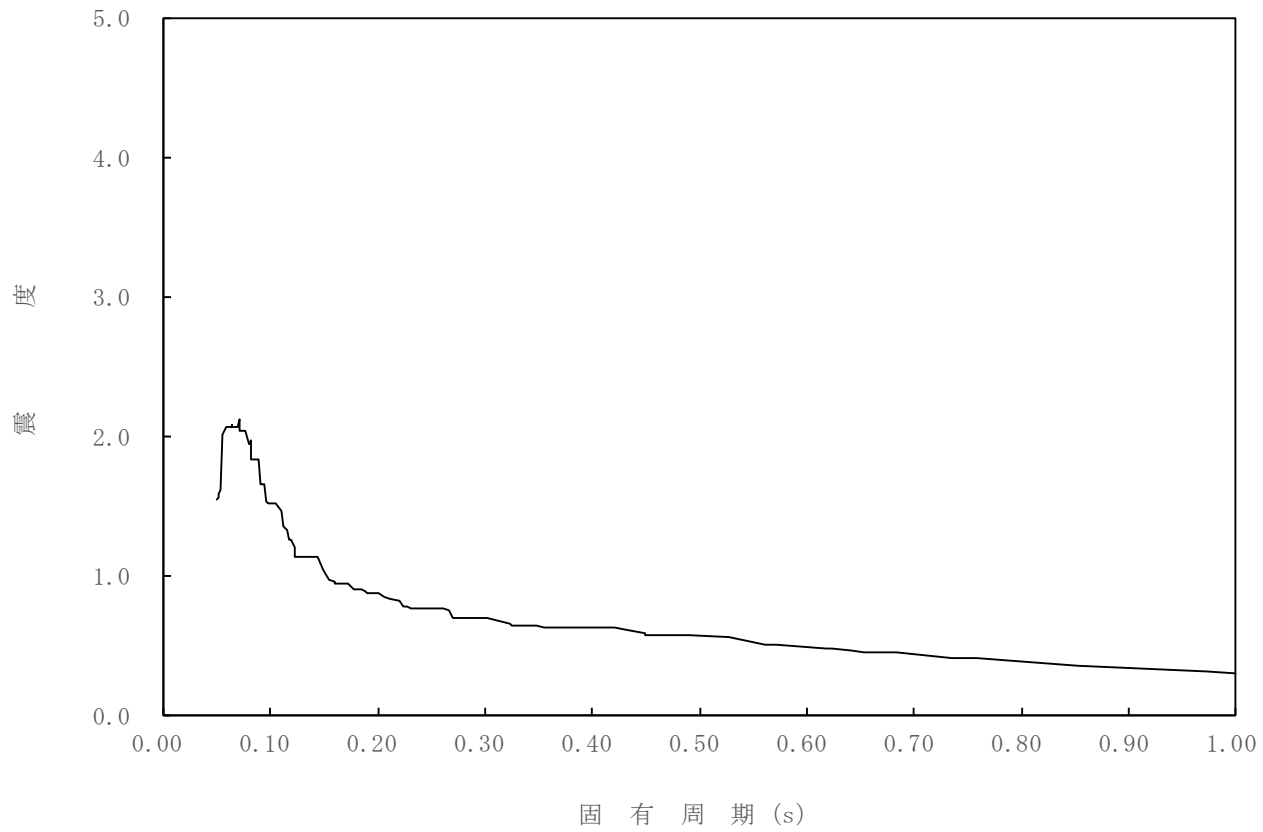
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR14800-050】

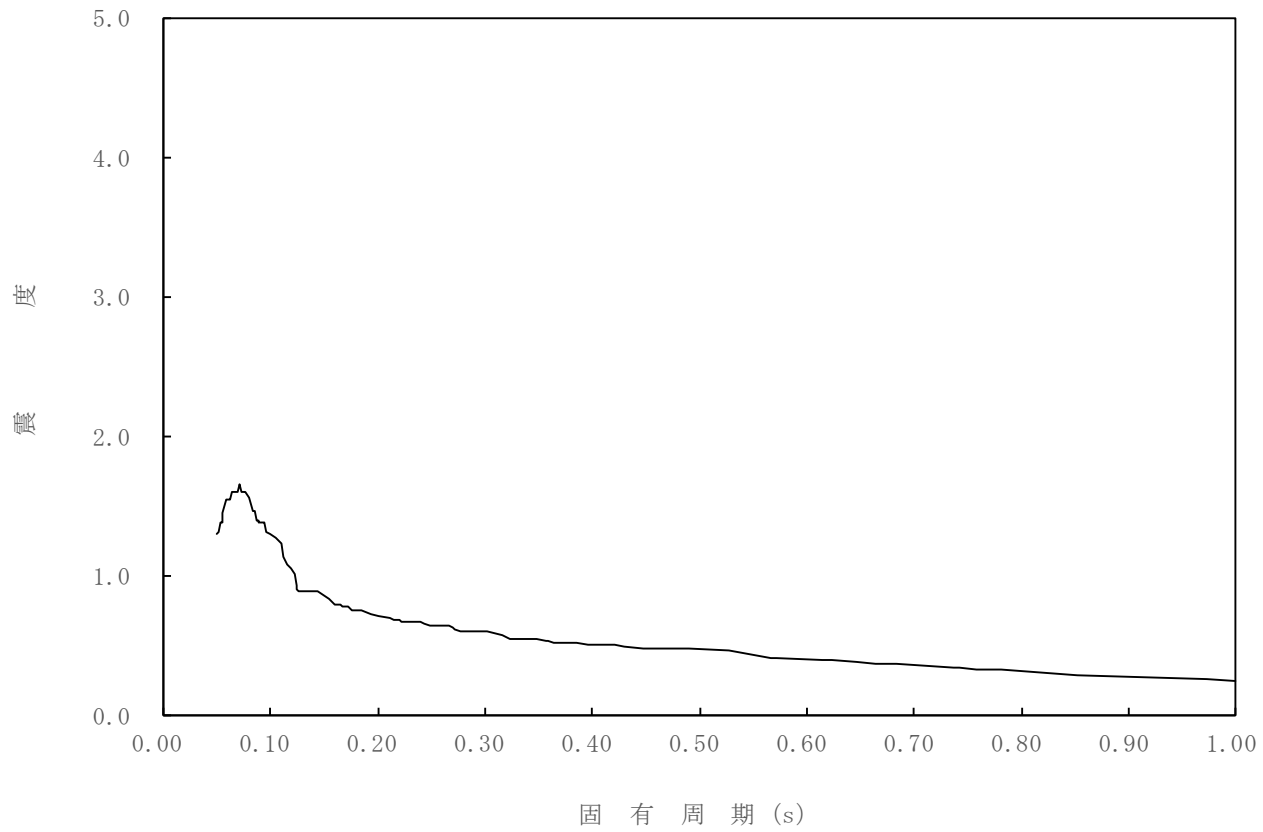
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR9500-005】

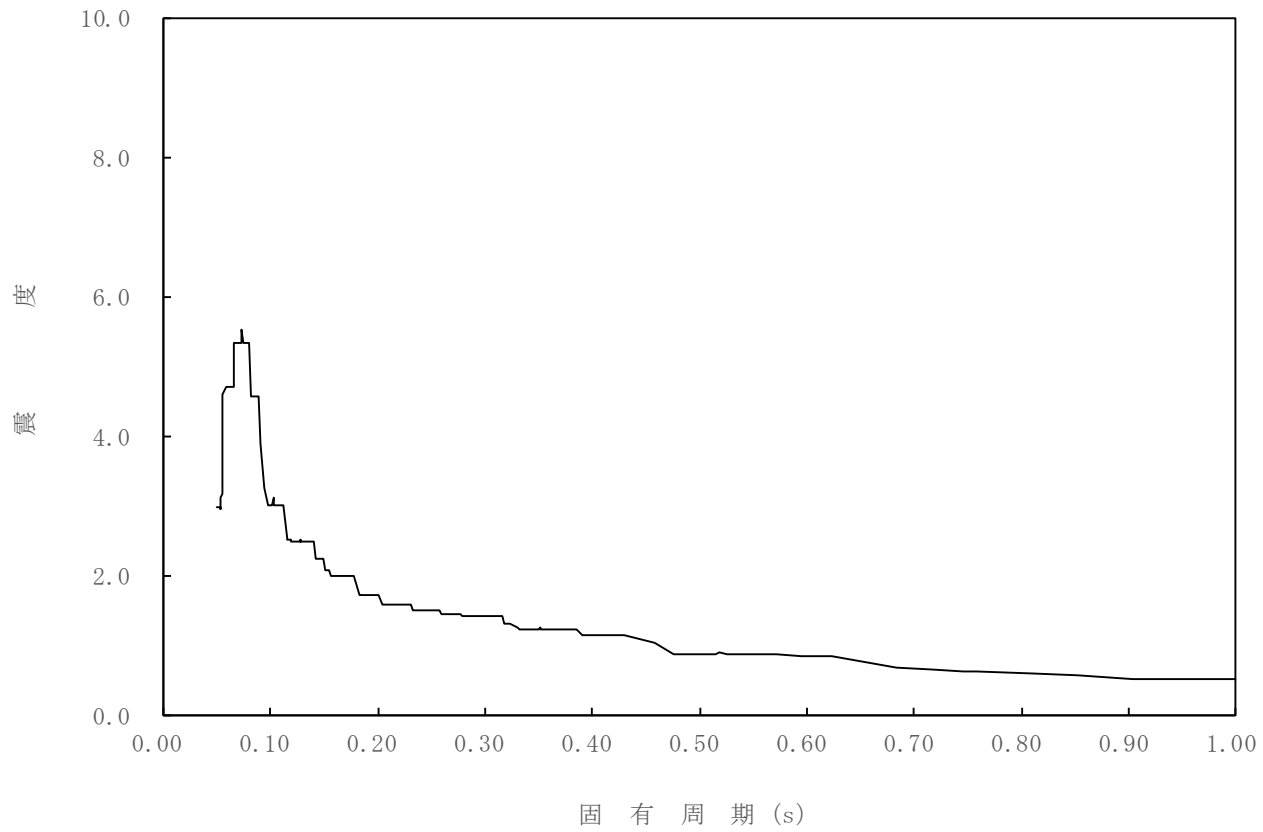
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR9500-010】

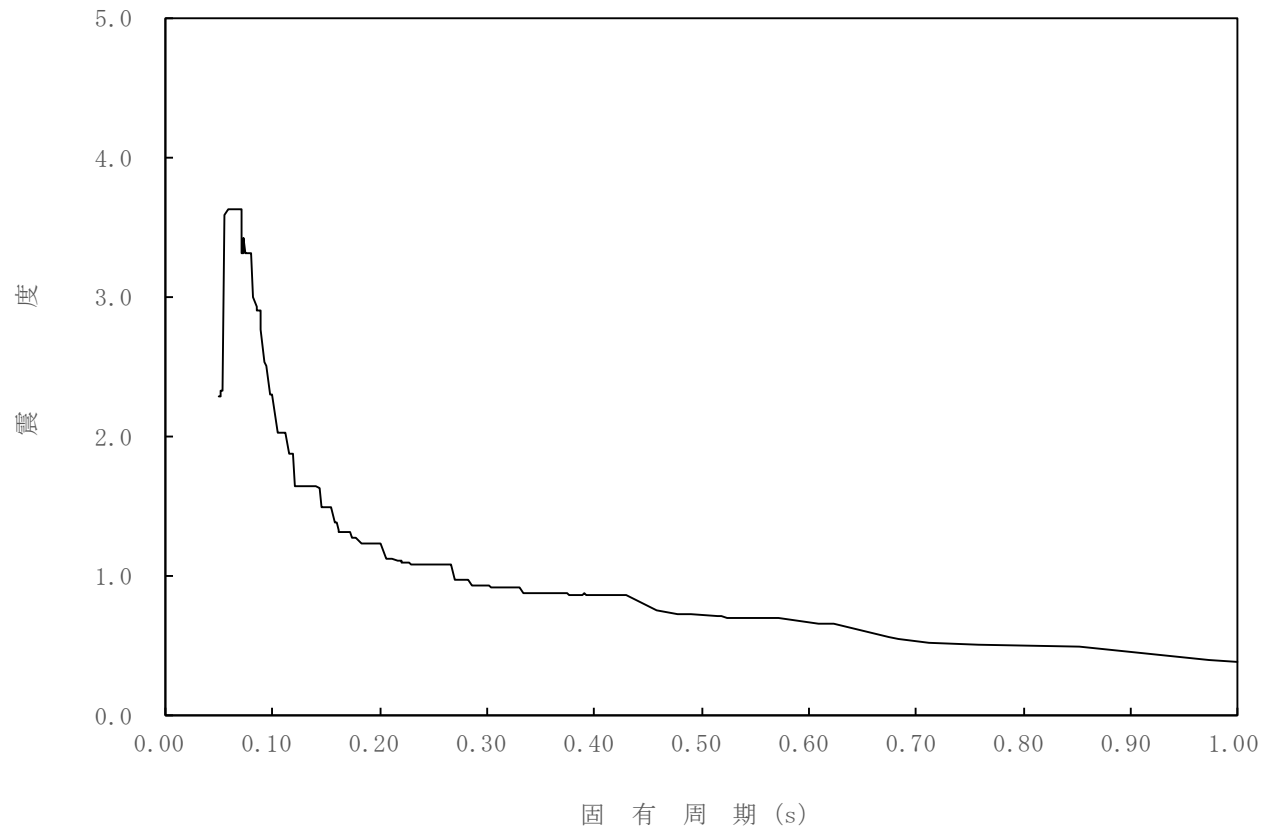
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR9500-015】

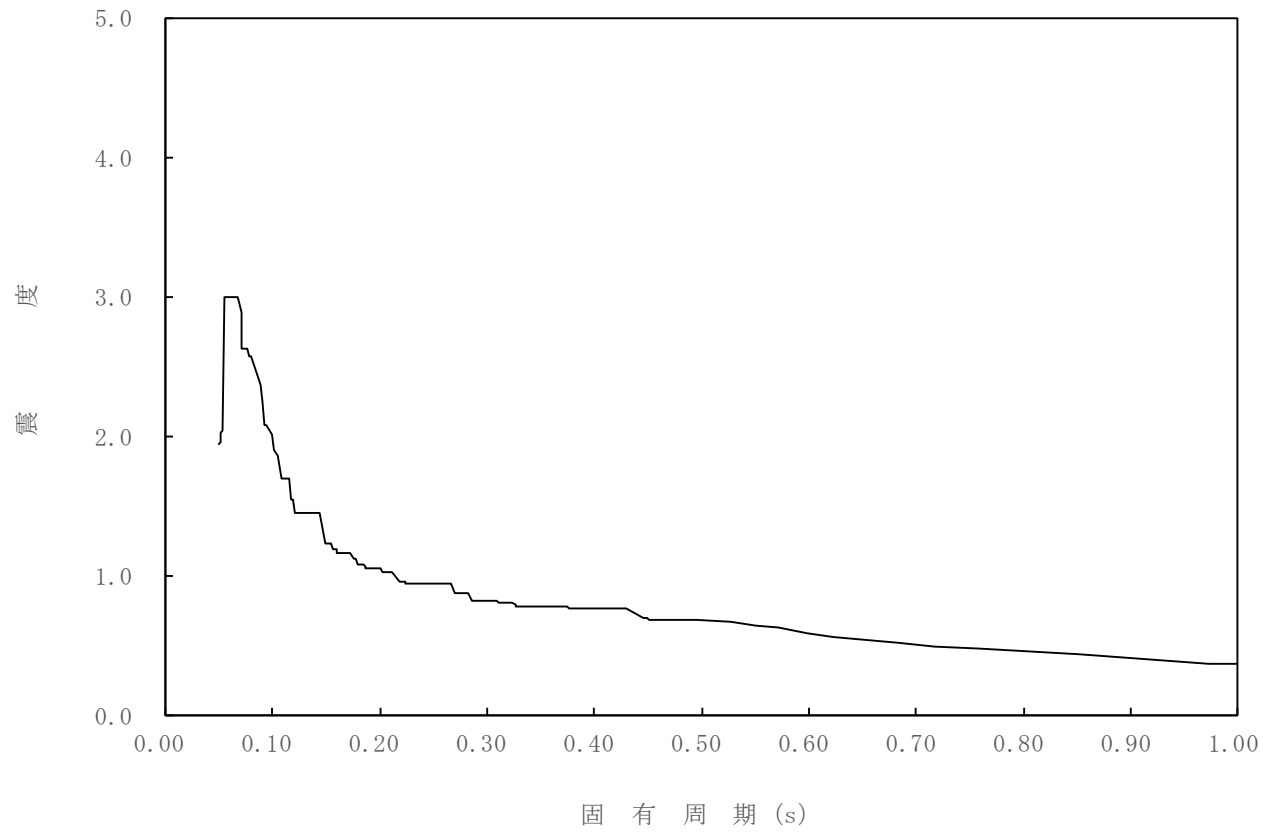
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR9500-020】

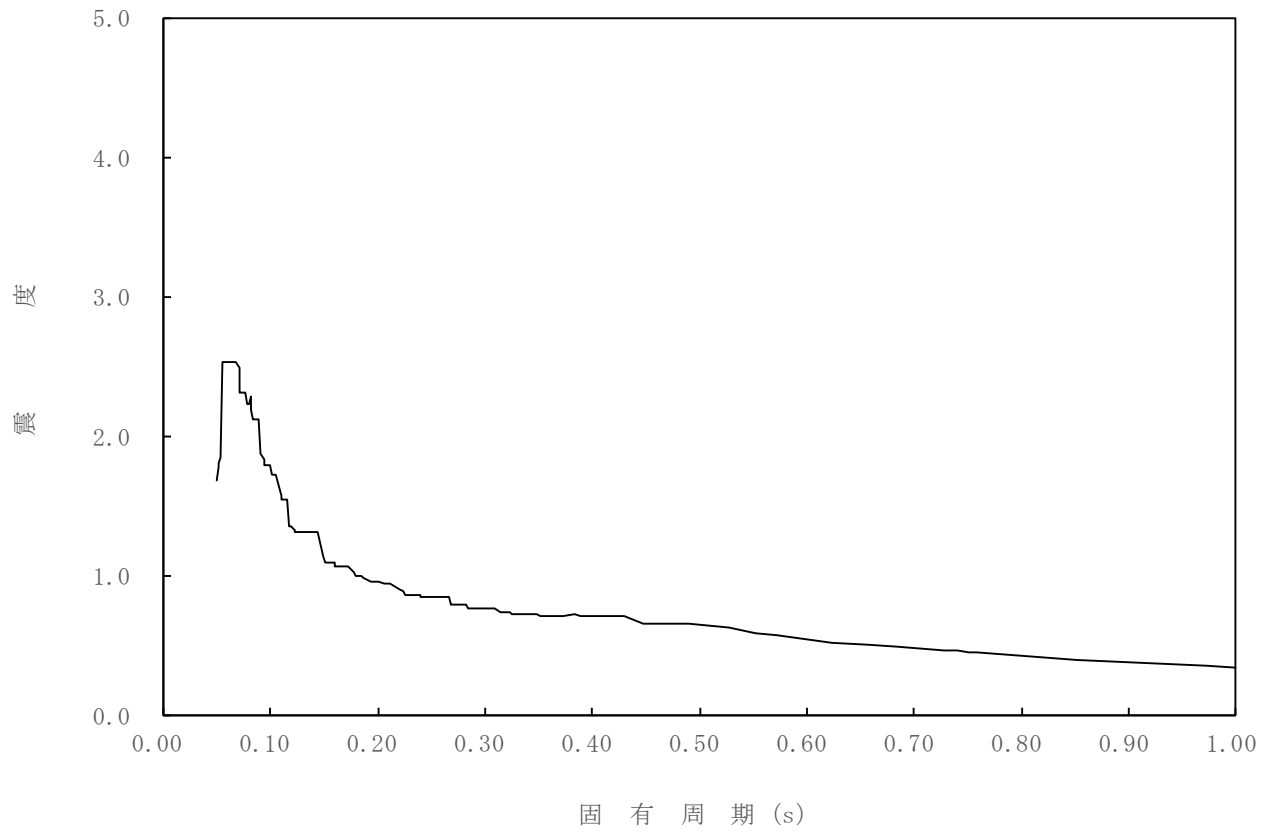
構造物名： 軽油タンク室(ポンプ側)

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0-SdV-PR9500-025】

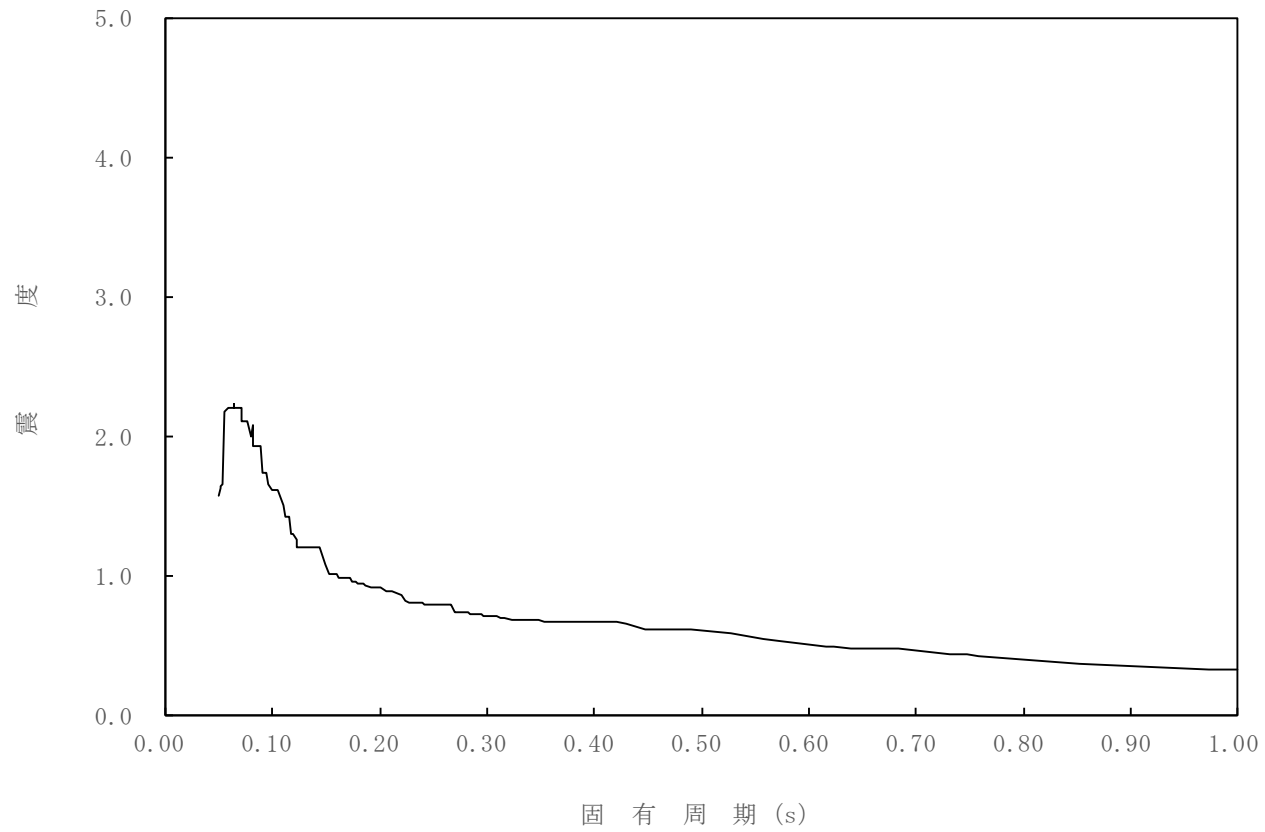
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR9500-030】

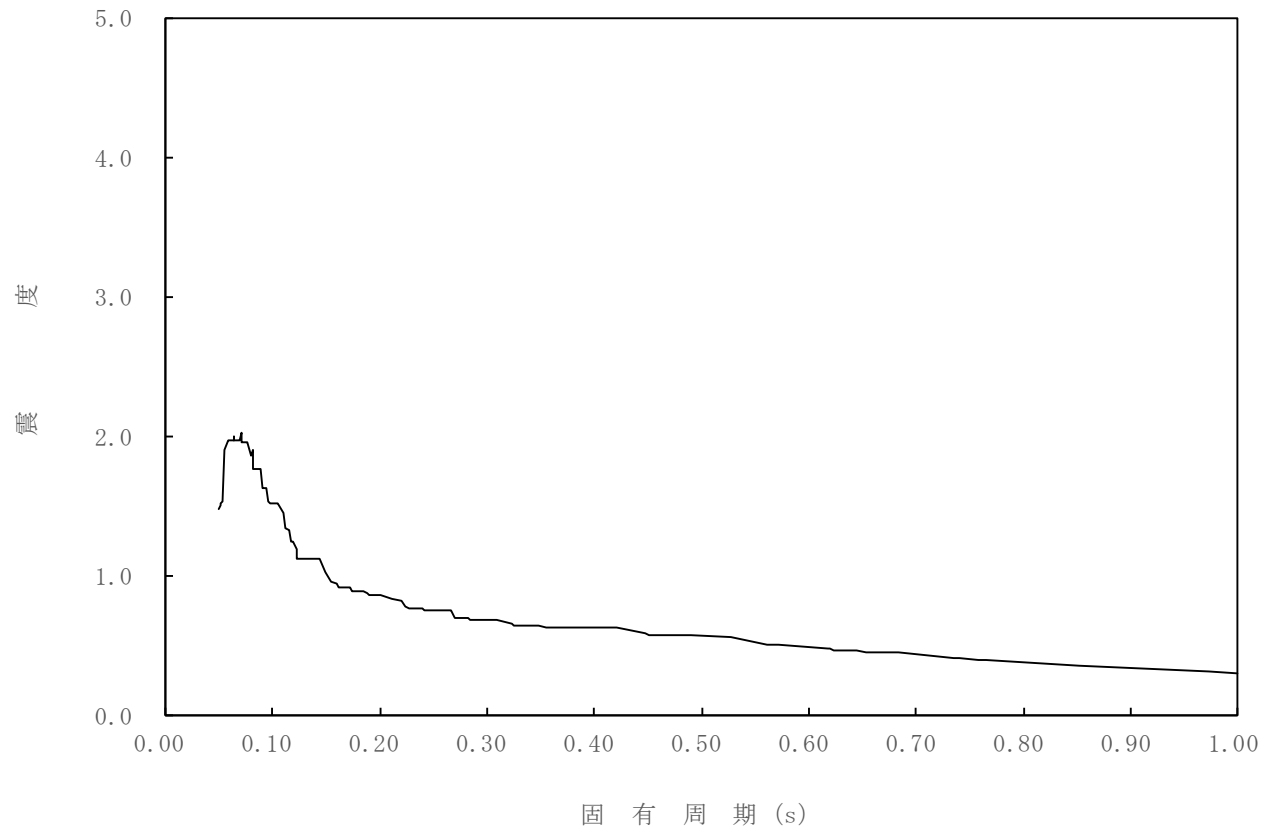
構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0-SdV-PR9500-050】

構造物名：軽油タンク室(ポンプ側)

標高：O.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

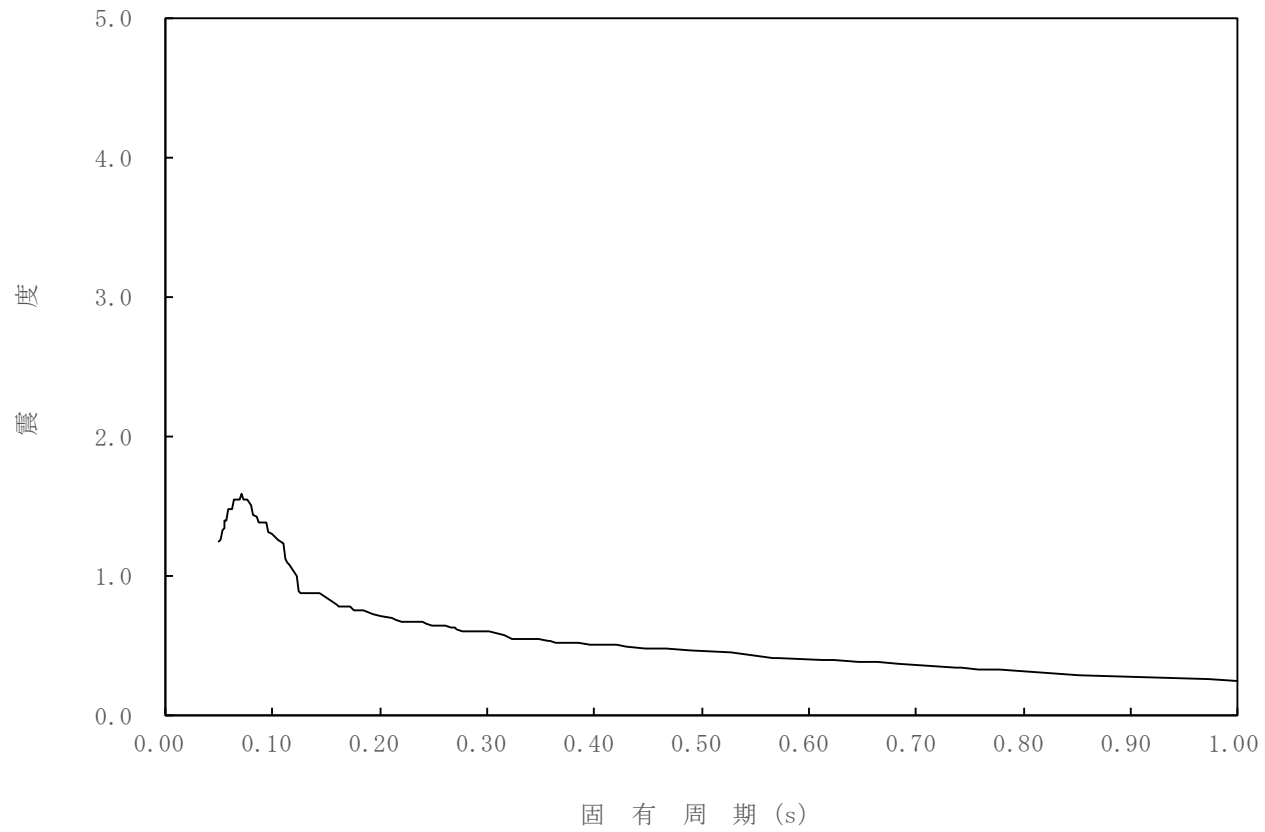


表 4-2-6 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 軽油タンク室 (H) : 水平方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	軽油 タンク室 (H)	水平 方向	NS 方向 1790 1945 2118 2270 EW 方向 2492	14. 800	0. 5	02-DOH-SdH-PIT14800-005
					1. 0	02-DOH-SdH-PIT14800-010
					1. 5	02-DOH-SdH-PIT14800-015
					2. 0	02-DOH-SdH-PIT14800-020
					2. 5	02-DOH-SdH-PIT14800-025
					3. 0	02-DOH-SdH-PIT14800-030
					4. 0	02-DOH-SdH-PIT14800-040
					5. 0	02-DOH-SdH-PIT14800-050
			NS 方向 7101 7201 7301 7401 EW 方向 7701	6. 400	0. 5	02-DOH-SdH-PIT6400-005
					1. 0	02-DOH-SdH-PIT6400-010
					1. 5	02-DOH-SdH-PIT6400-015
					2. 0	02-DOH-SdH-PIT6400-020
					2. 5	02-DOH-SdH-PIT6400-025
					3. 0	02-DOH-SdH-PIT6400-030
					4. 0	02-DOH-SdH-PIT6400-040
					5. 0	02-DOH-SdH-PIT6400-050

表 4-2-6 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 軽油タンク室 (H) : 鉛直方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	軽油 タンク室 (H)	鉛直 方向	NS 方向 1790, 1945 2118, 2270 EW 方向 2492	14. 800	0. 5	02-DOH-SdV-PIT14800-005
					1. 0	02-DOH-SdV-PIT14800-010
					1. 5	02-DOH-SdV-PIT14800-015
					2. 0	02-DOH-SdV-PIT14800-020
					2. 5	02-DOH-SdV-PIT14800-025
					3. 0	02-DOH-SdV-PIT14800-030
					5. 0	02-DOH-SdV-PIT14800-050
			NS 方向 7101, 7201 7301, 7401 EW 方向 7701	6. 400	0. 5	02-DOH-SdV-PIT6400-005
					1. 0	02-DOH-SdV-PIT6400-010
					1. 5	02-DOH-SdV-PIT6400-015
					2. 0	02-DOH-SdV-PIT6400-020
					2. 5	02-DOH-SdV-PIT6400-025
					3. 0	02-DOH-SdV-PIT6400-030
					5. 0	02-DOH-SdV-PIT6400-050

【02-DOH-SdH-PIT14800-005】

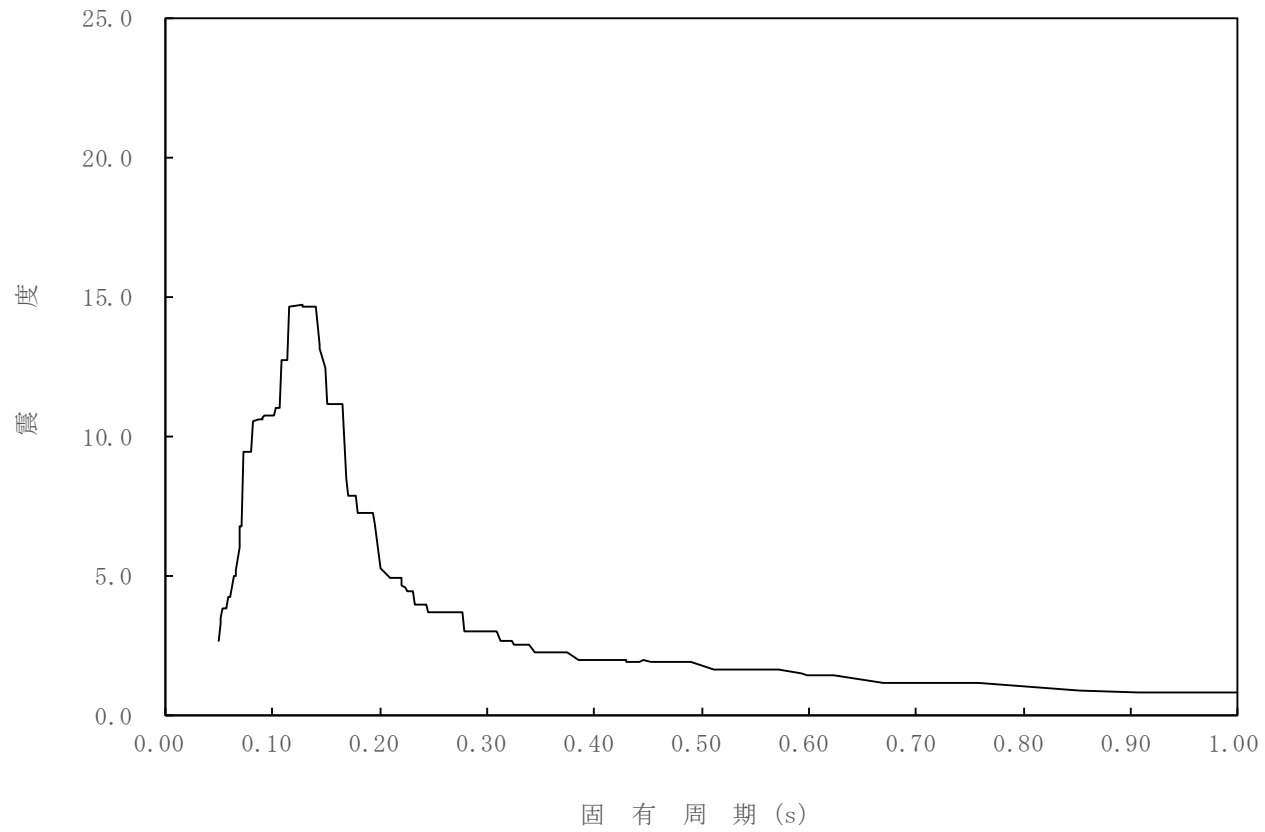
構造物名： 軽油タンク室 (H)

標高： 0. P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdH-PIT14800-010】

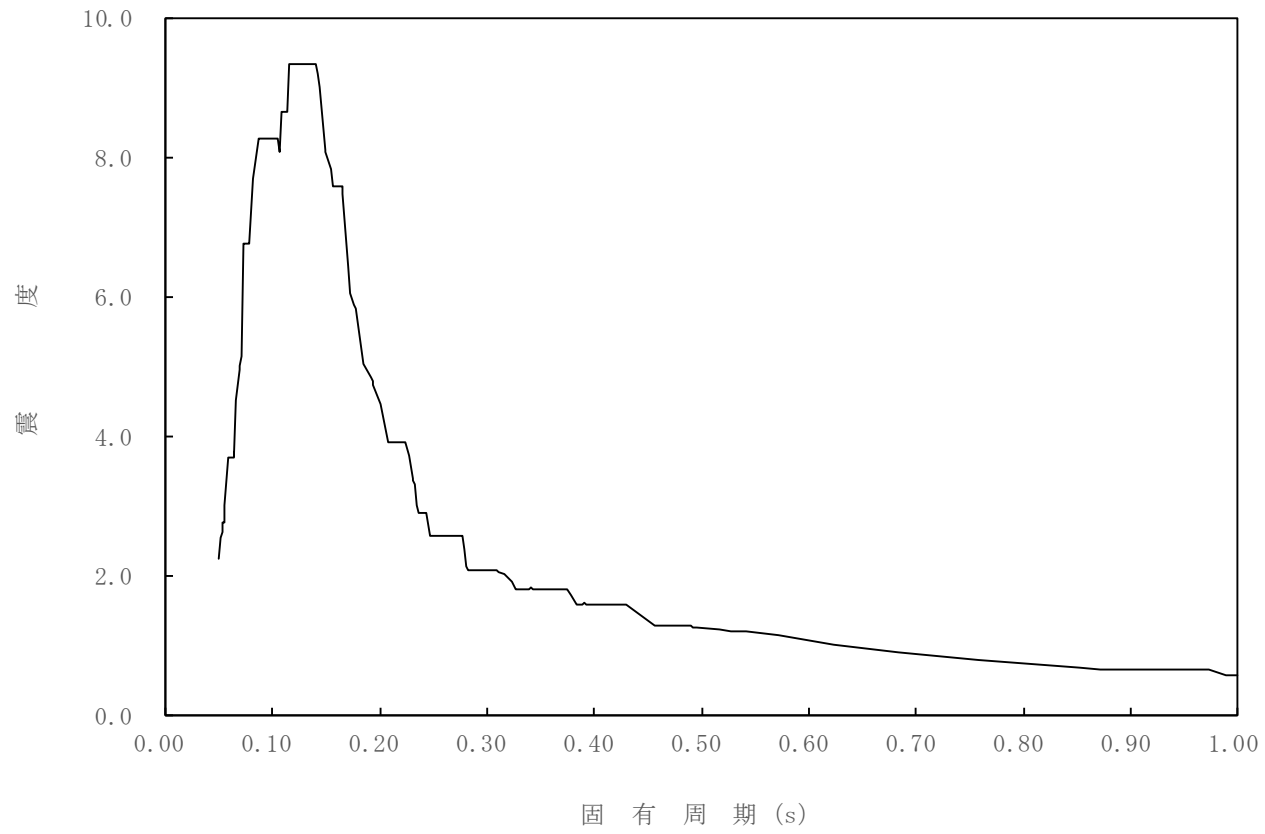
構造物名： 軽油タンク室(H)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdH-PIT14800-015】

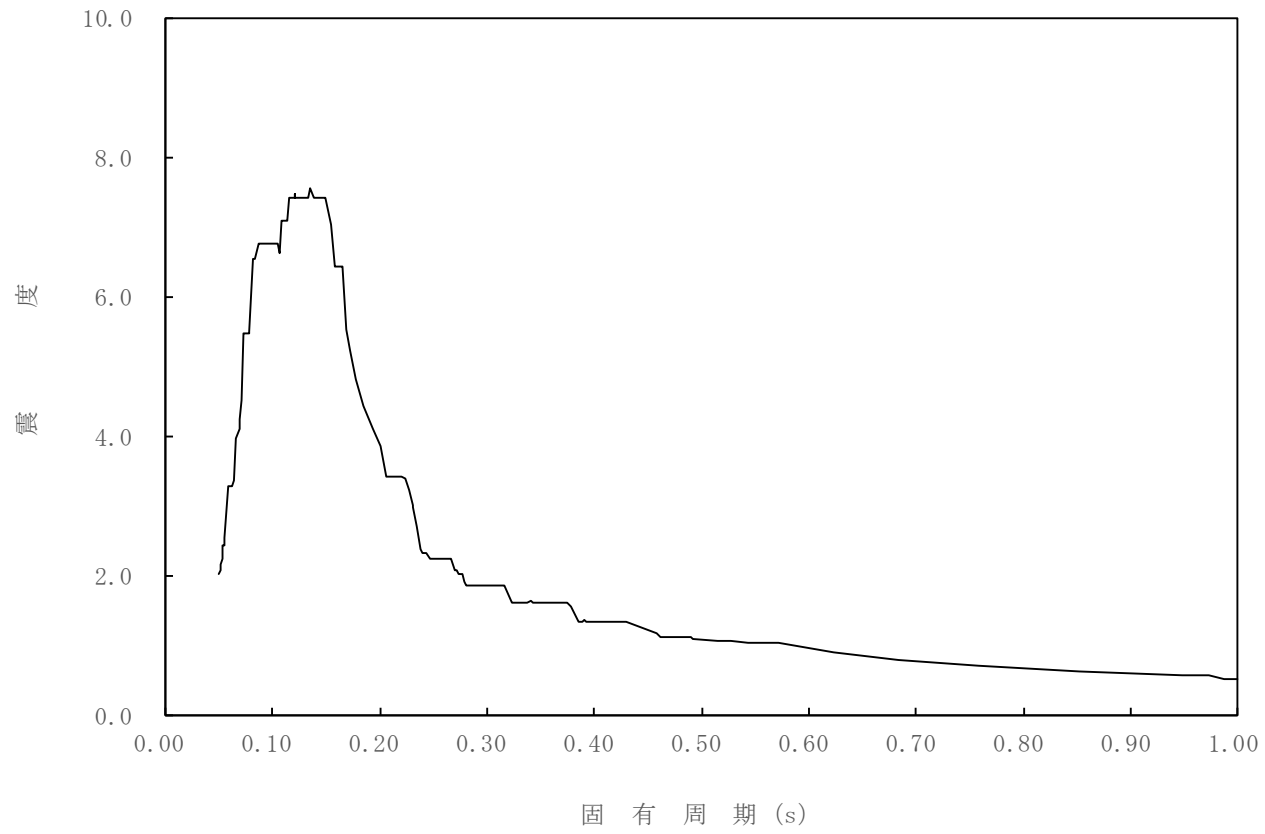
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-DOH-SdH-PIT14800-020】

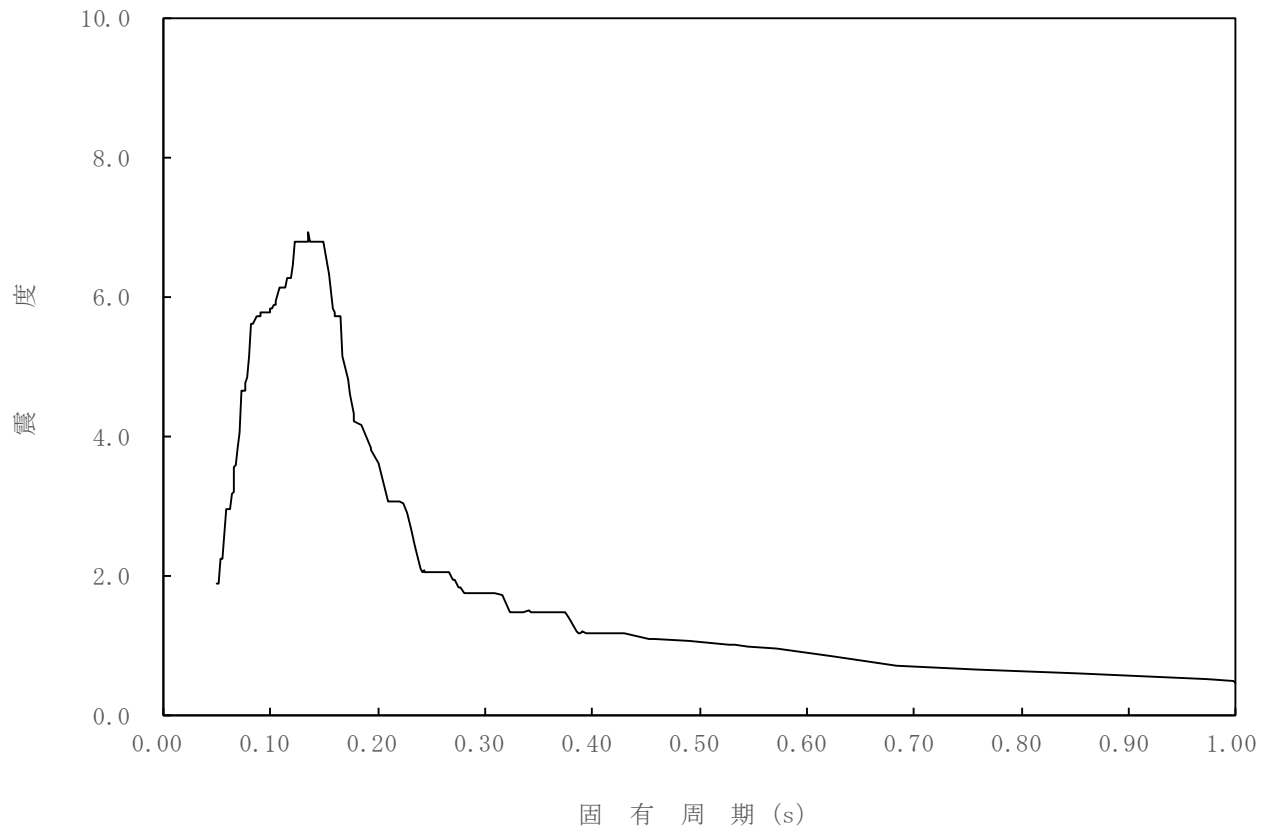
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdH-PIT14800-025】

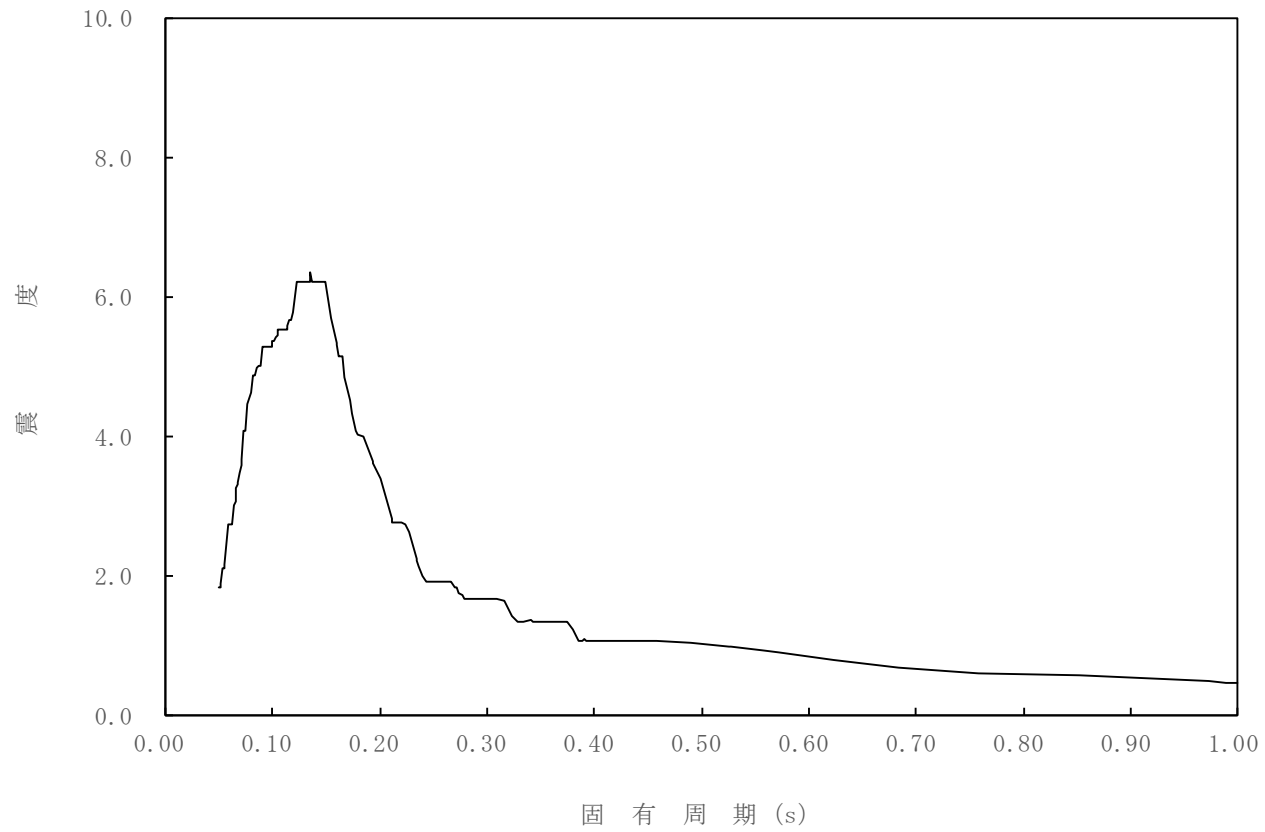
構造物名： 軽油タンク室 (H)

標高： 0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-6-7

【02-DOH-SdH-PIT14800-030】

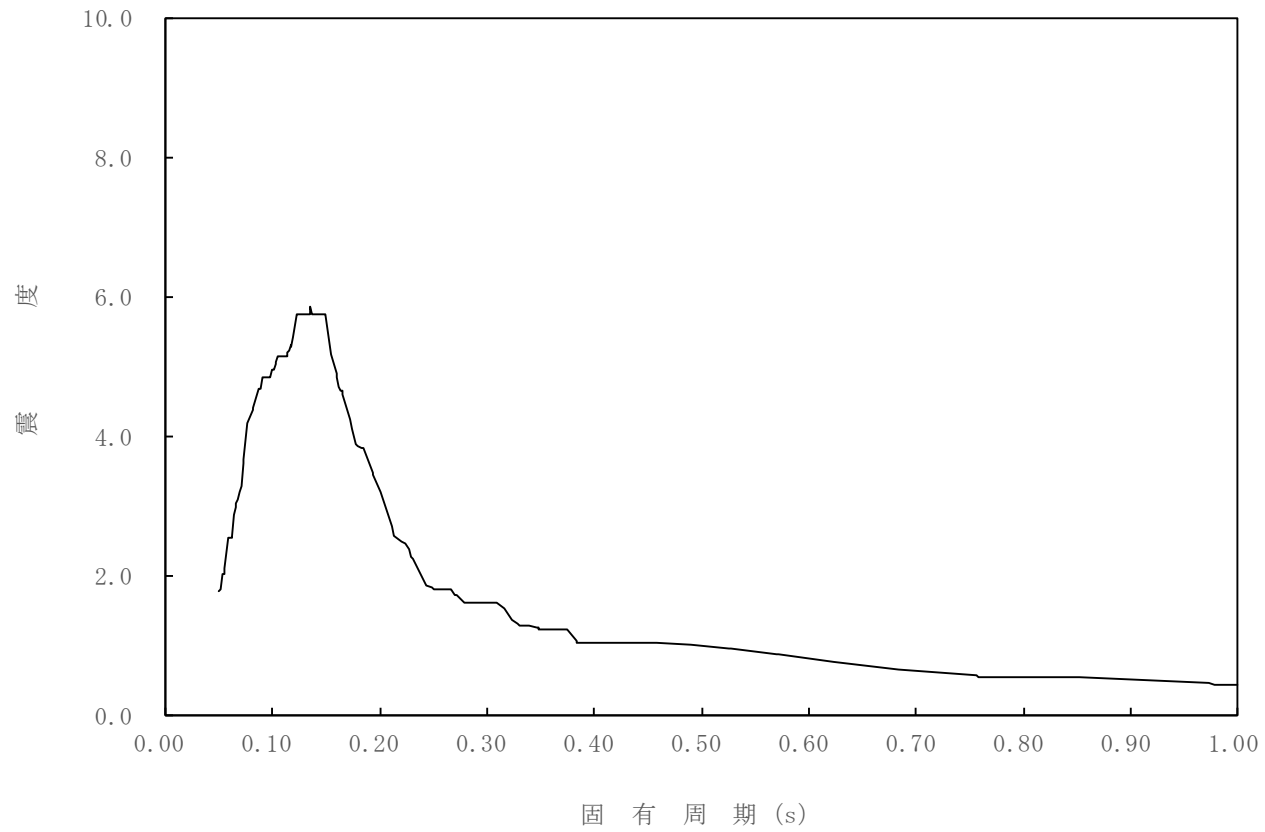
構造物名： 軽油タンク室 (H)

標高： 0. P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdH-PIT14800-040】

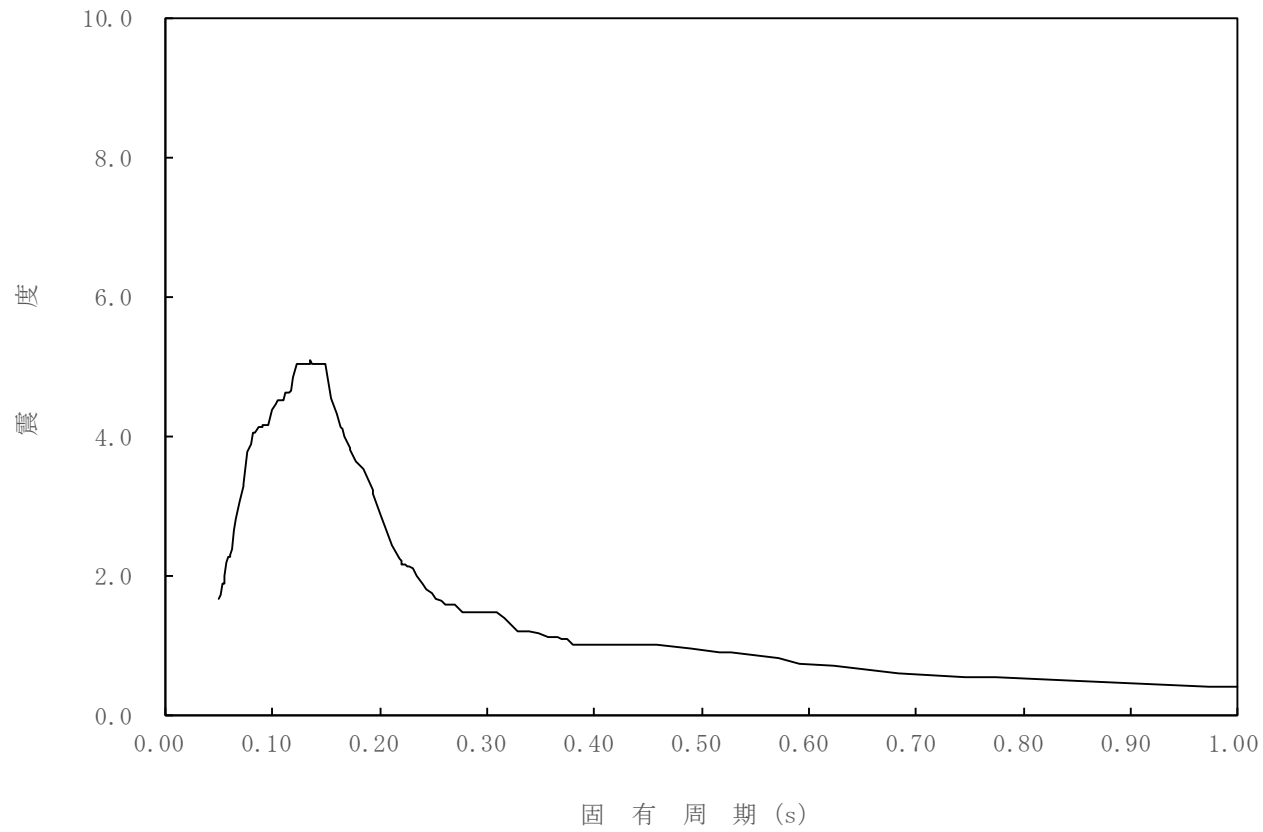
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdH-PIT14800-050】

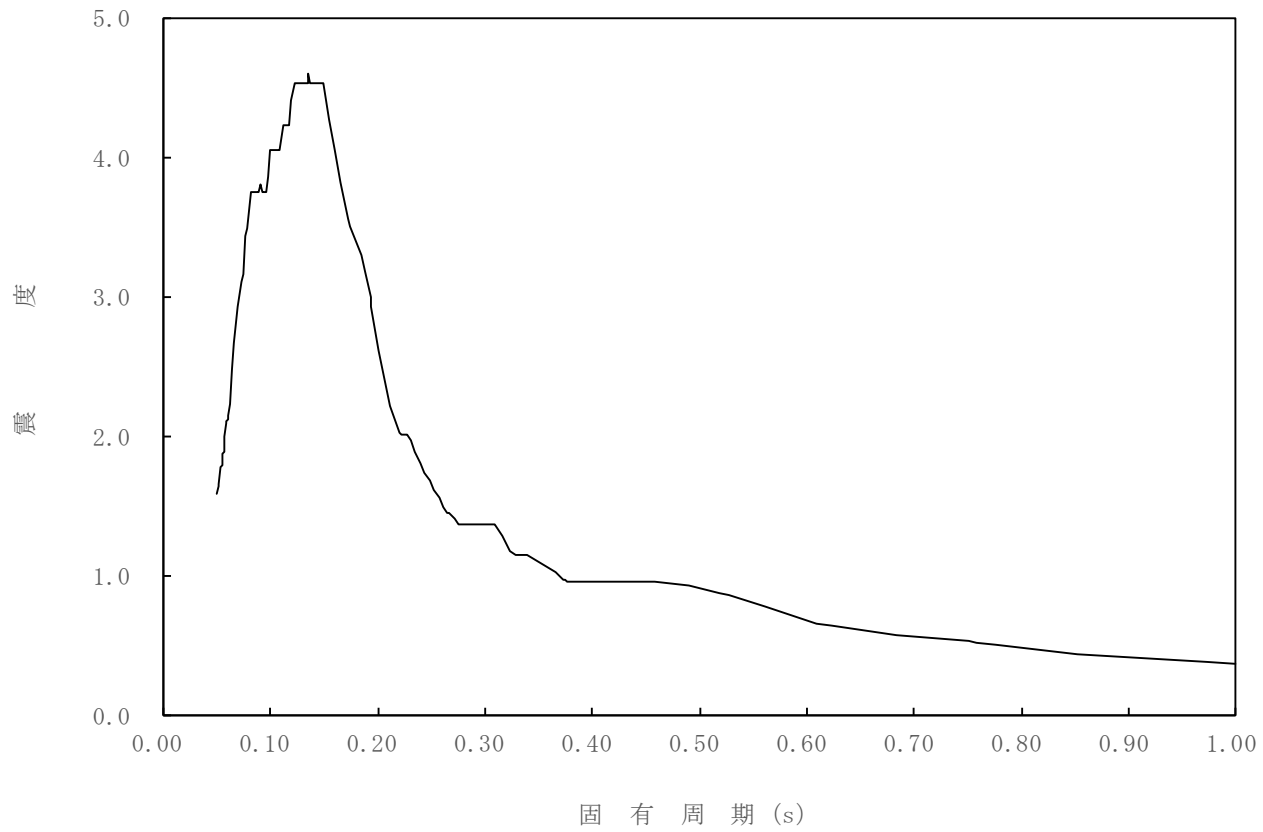
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdH-PIT6400-005】

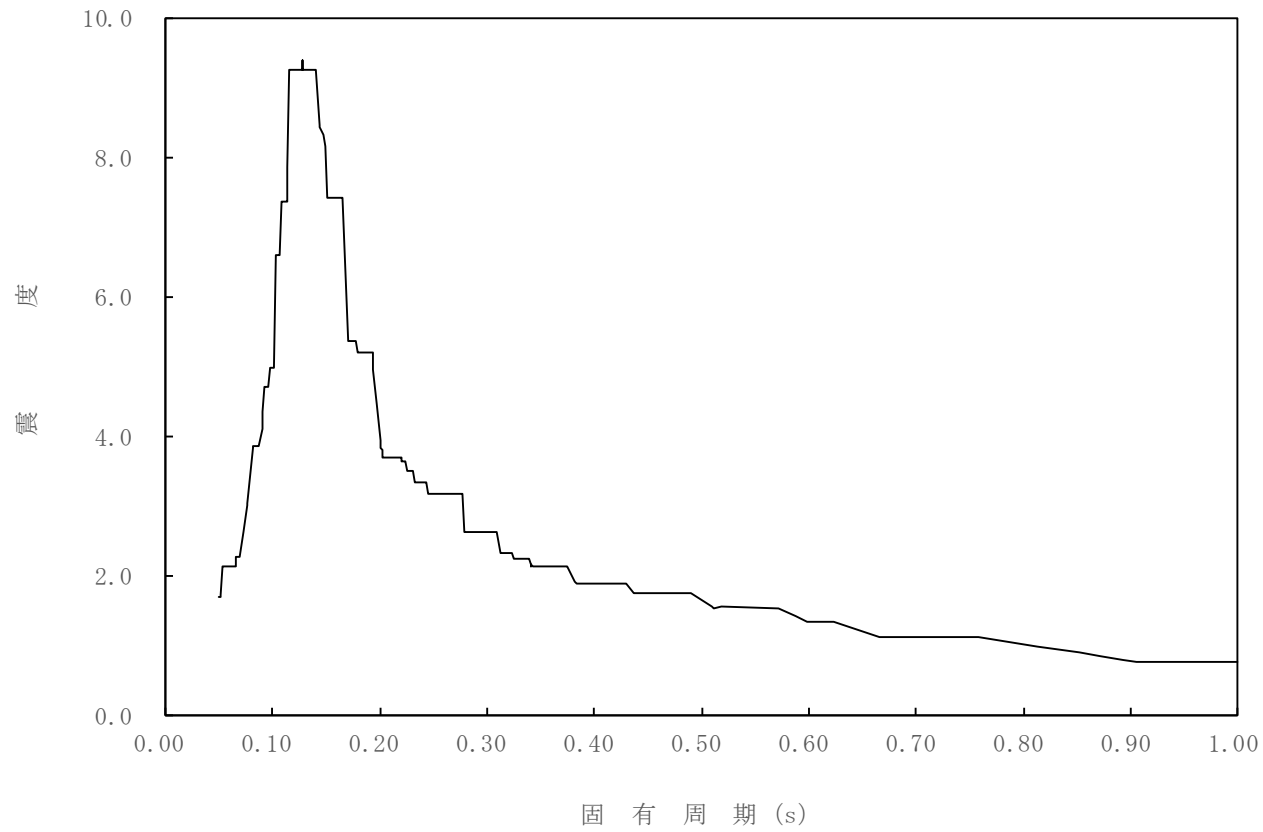
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdH-PIT6400-010】

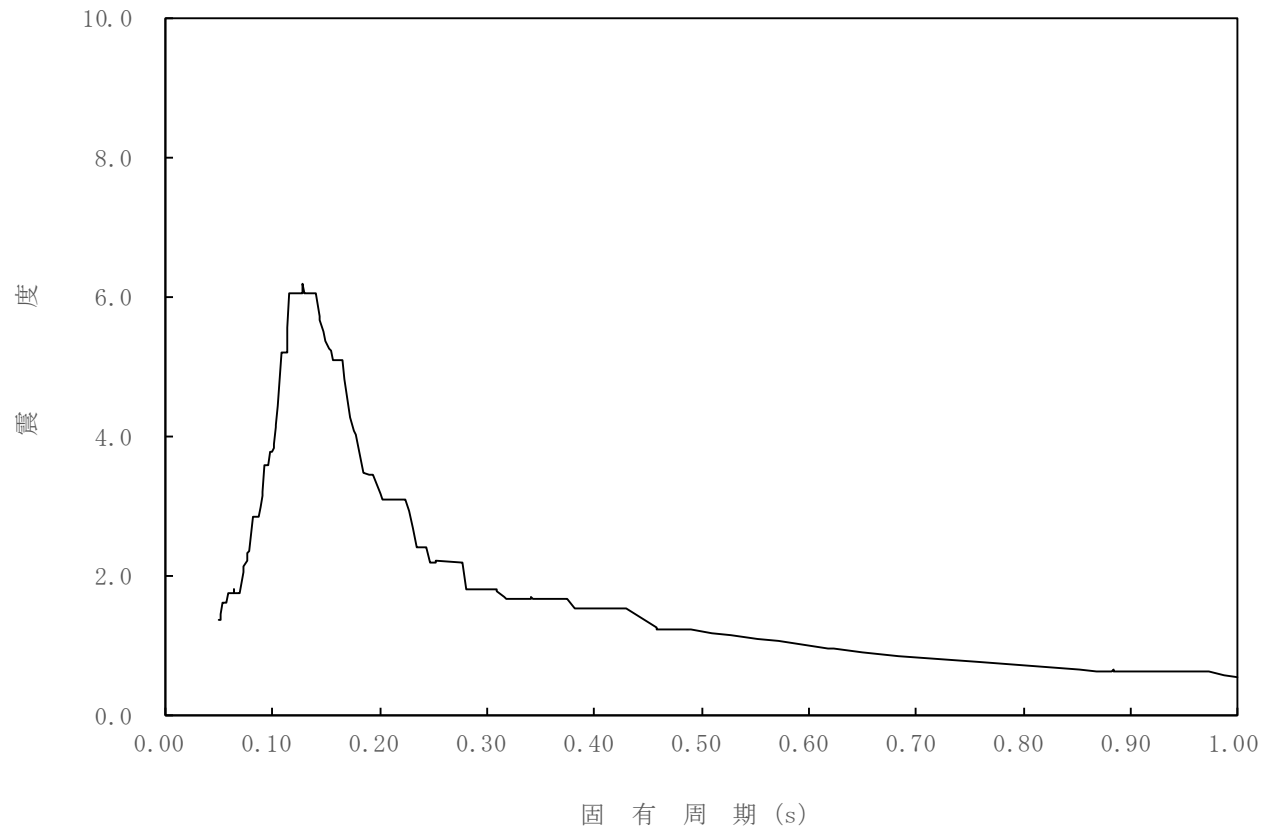
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdH-PIT6400-015】

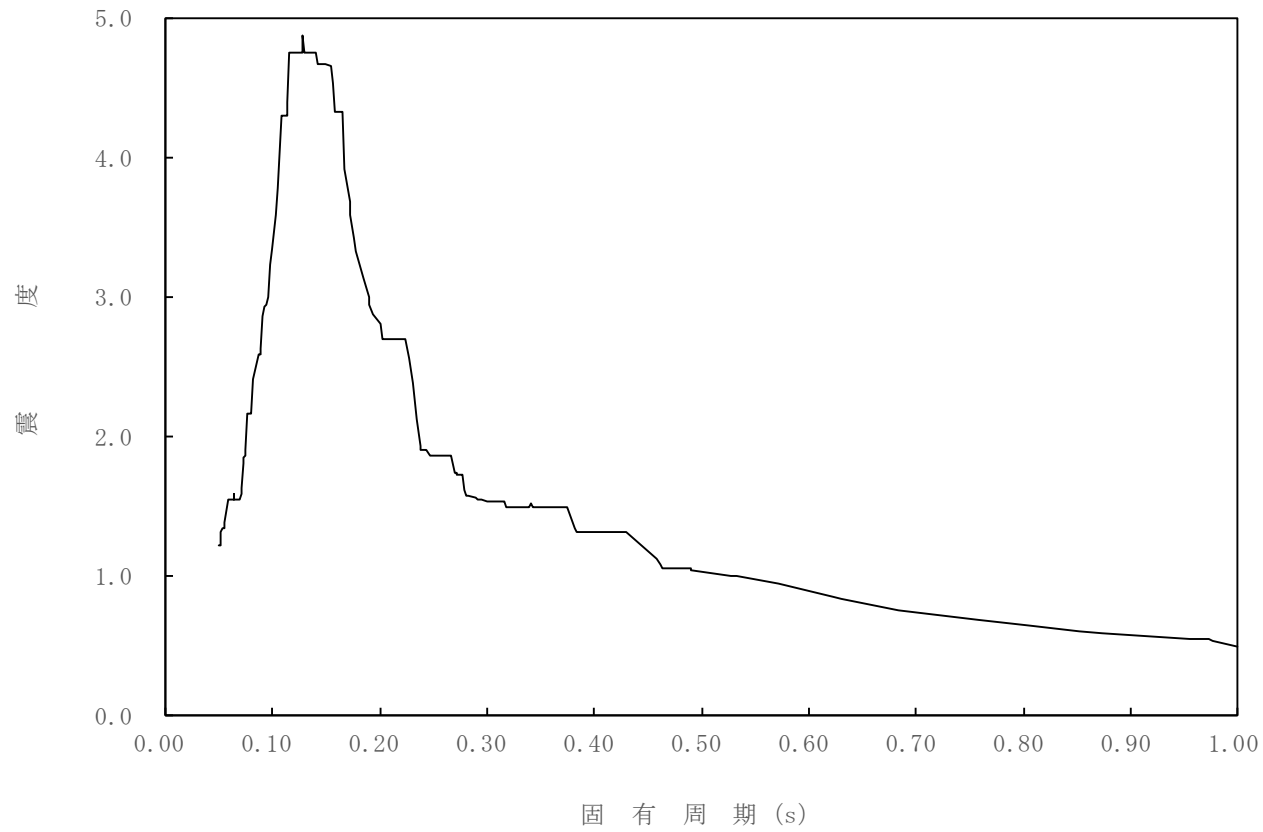
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-D0H-SdH-PIT6400-020】

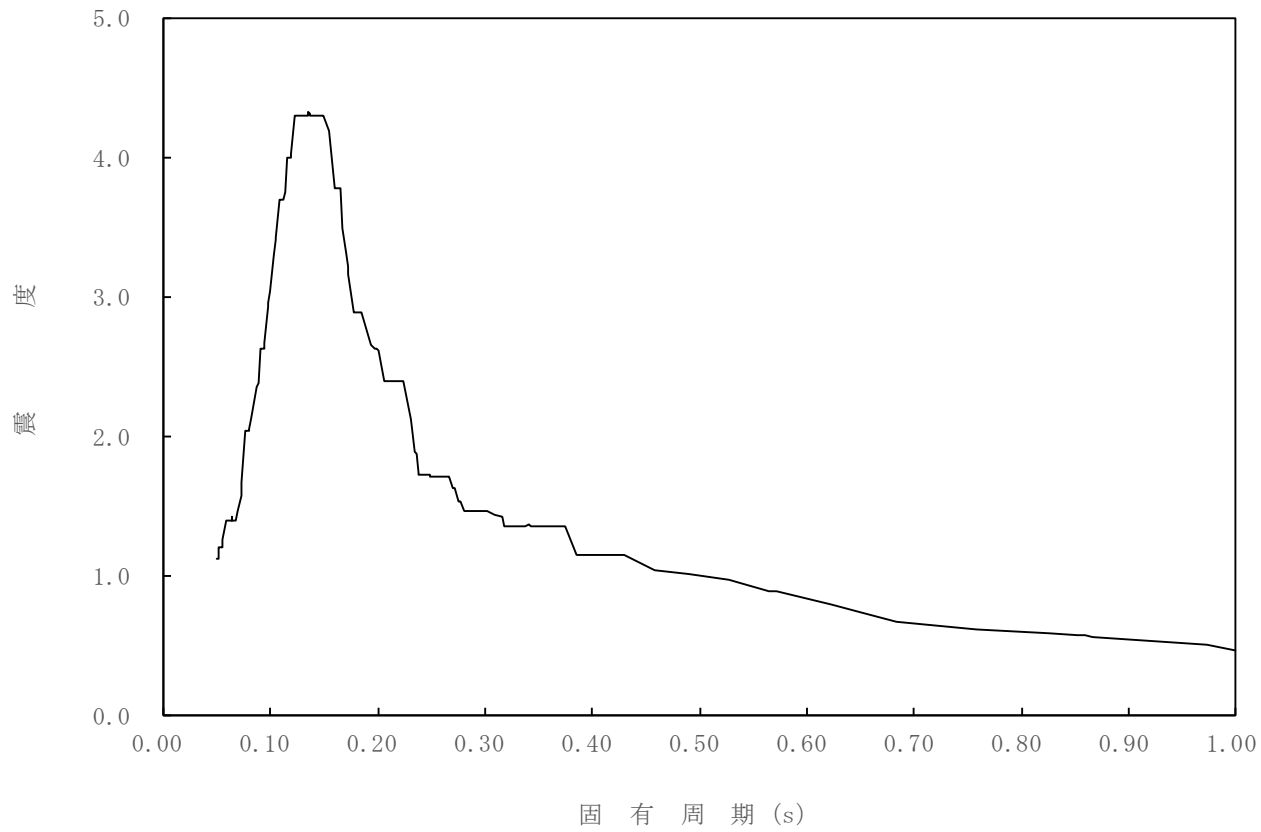
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdH-PIT6400-025】

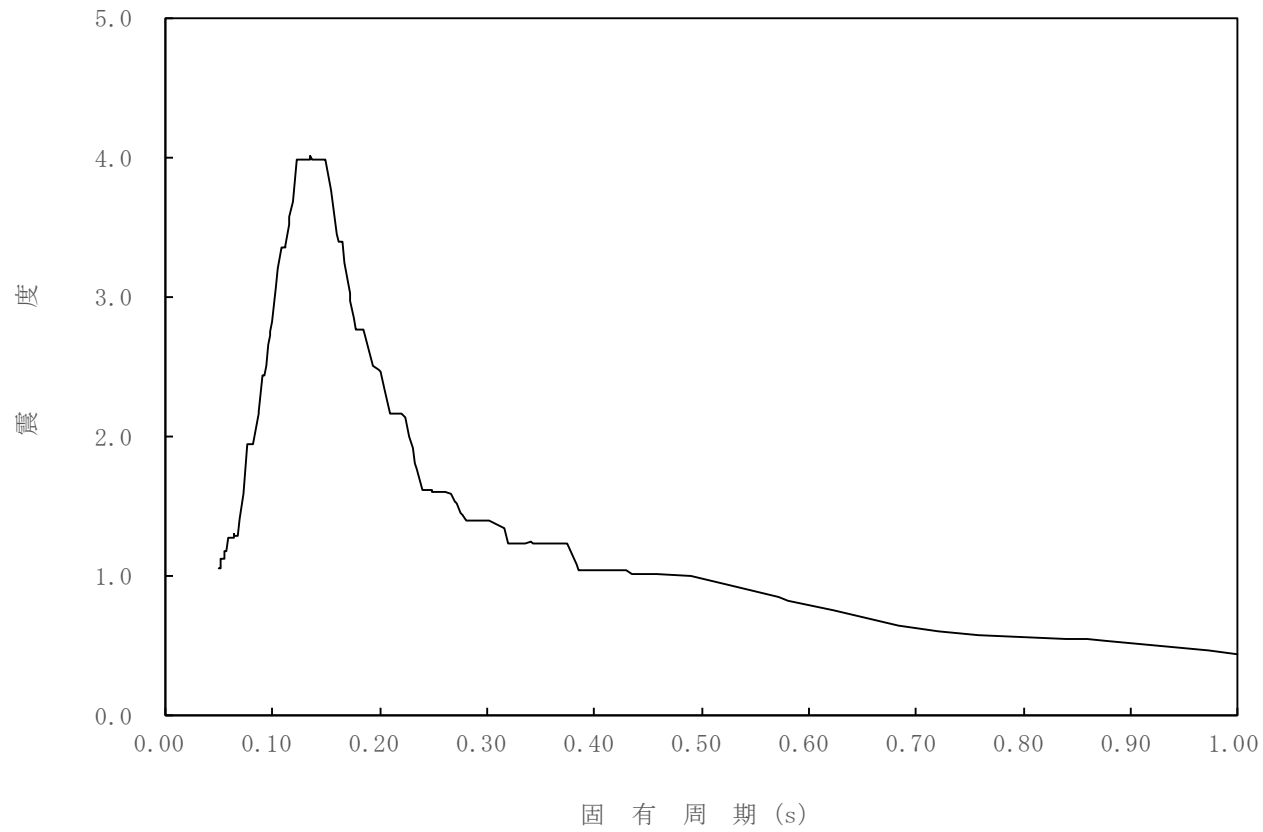
構造物名： 軽油タンク室(H)

標高： 0. P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdH-PIT6400-030】

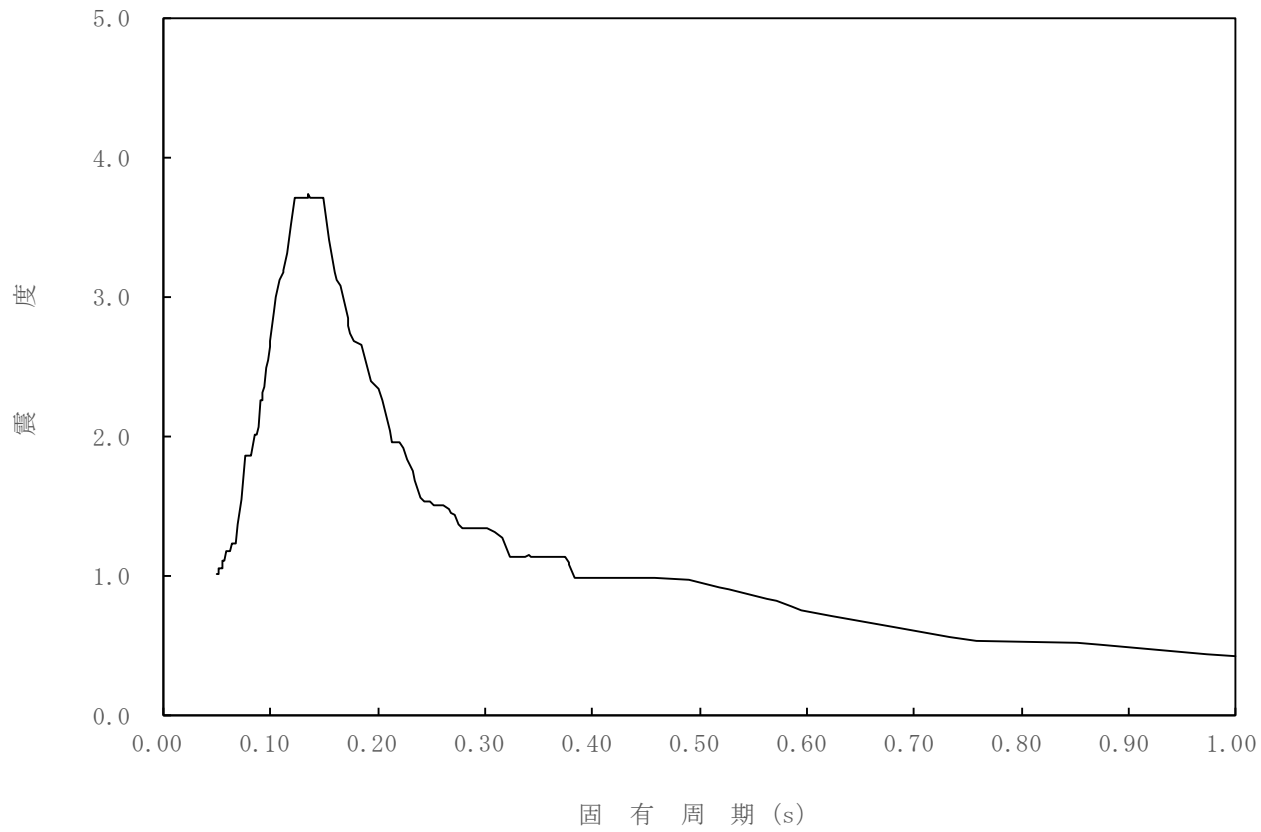
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdH-PIT6400-040】

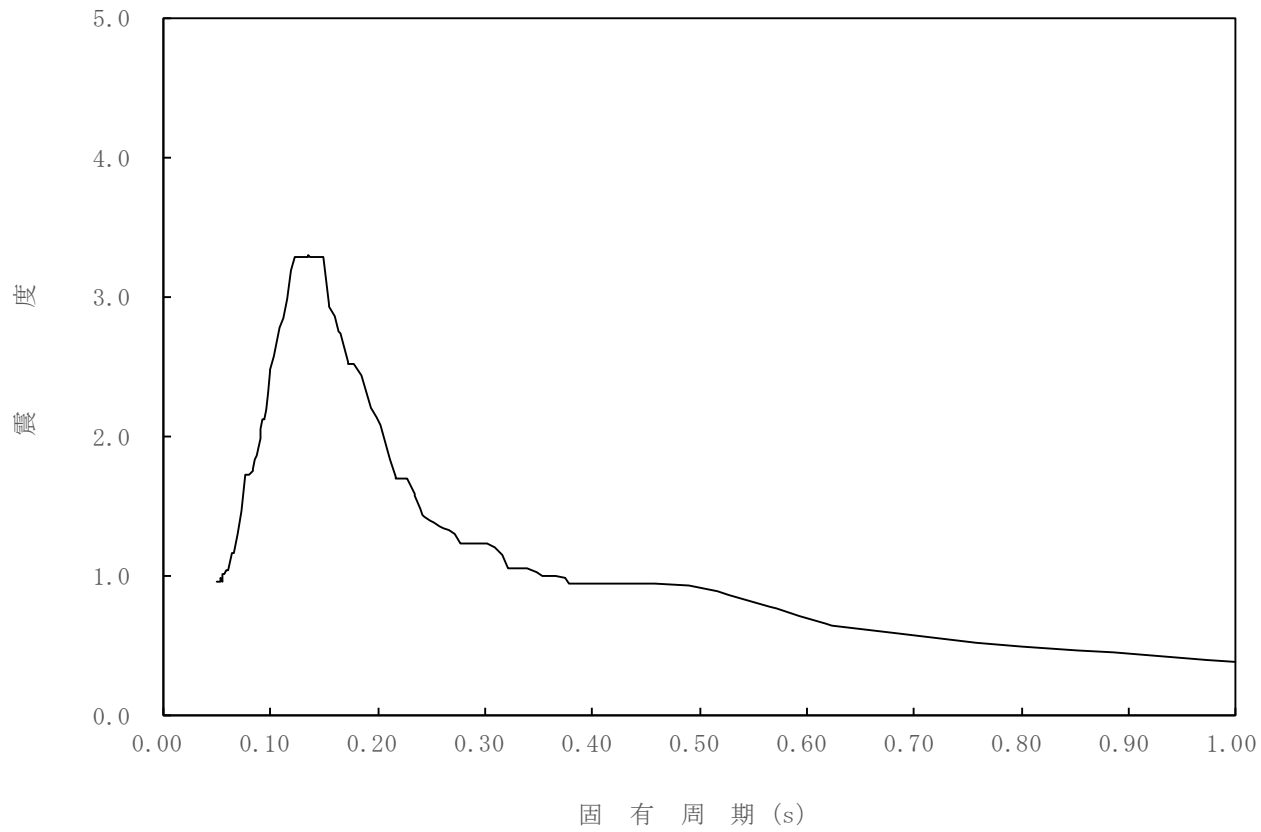
構造物名： 軽油タンク室(H)

標高： 0.P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数： 4.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdH-PIT6400-050】

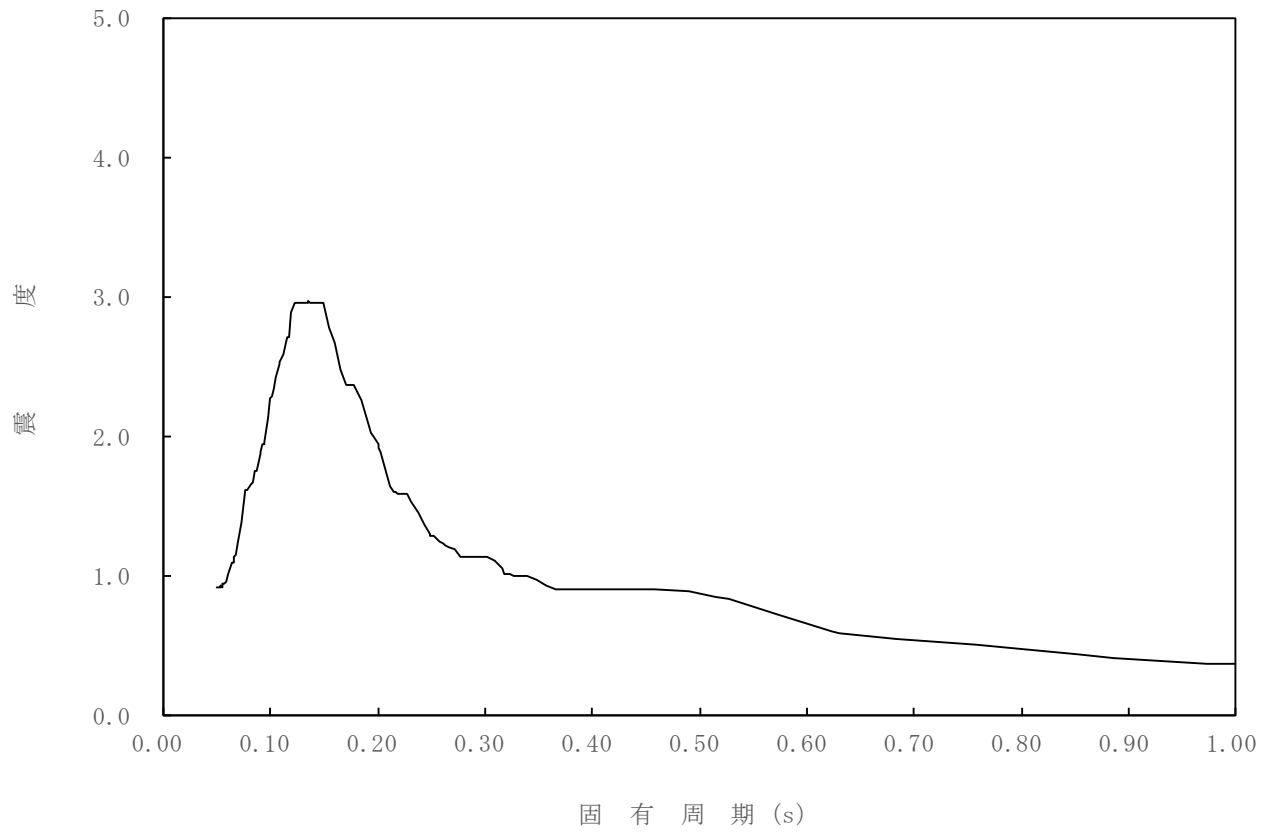
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdV-PIT14800-005】

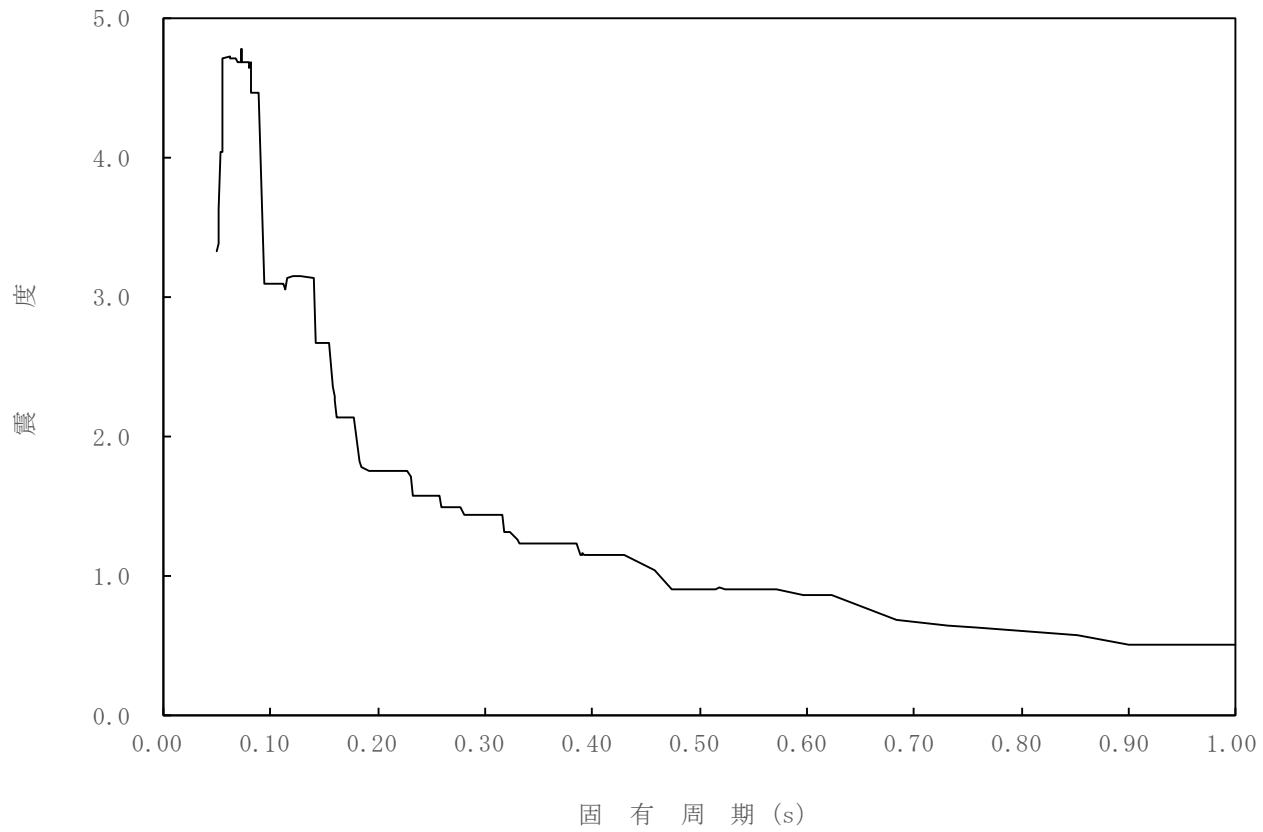
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdV-PIT14800-010】

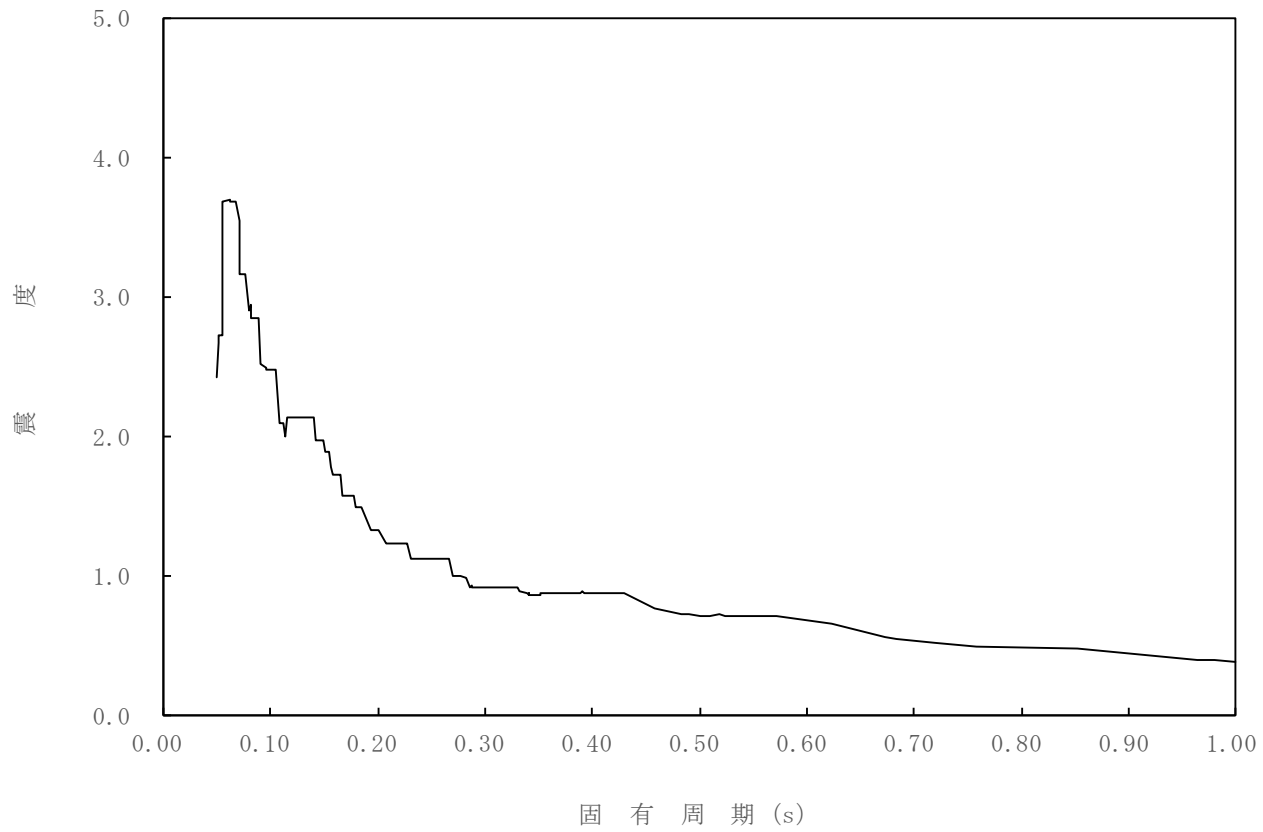
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdV-PIT14800-015】

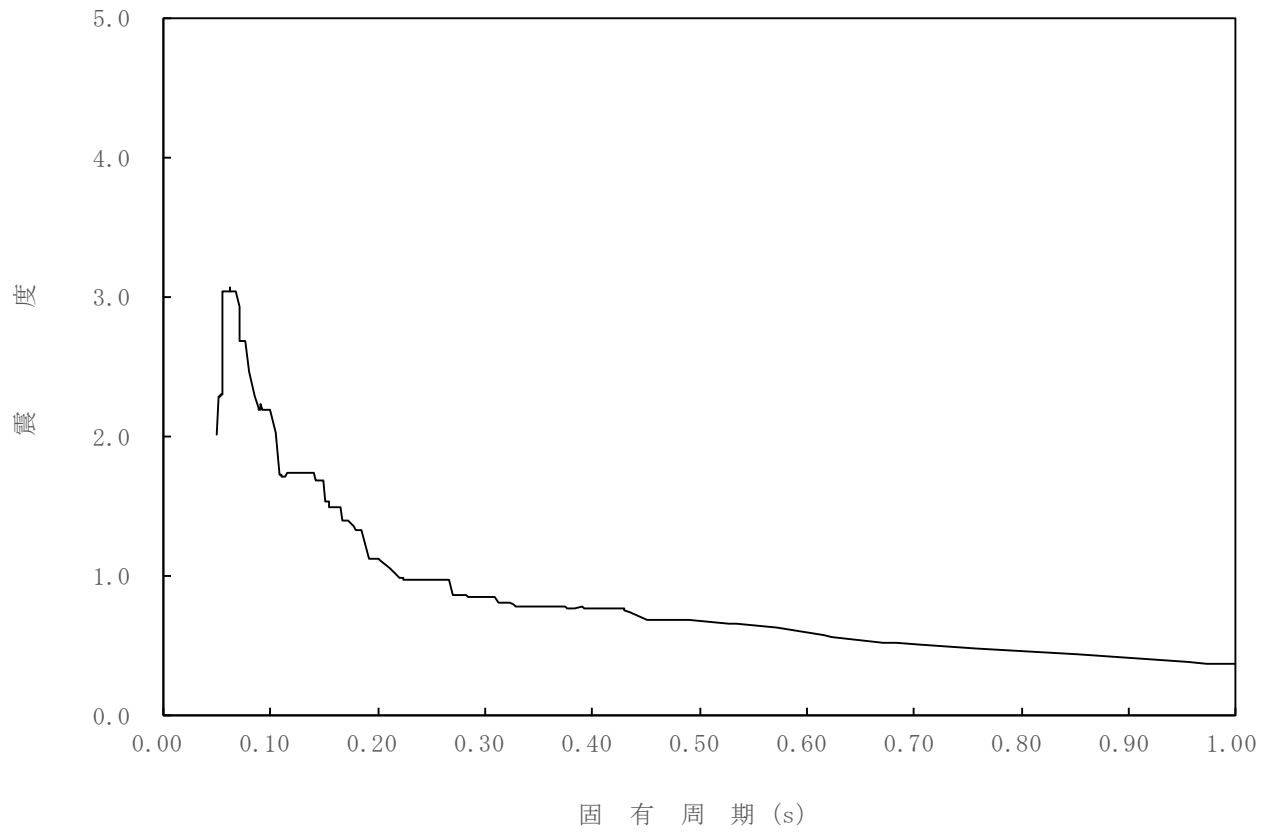
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-DOH-SdV-PIT14800-020】

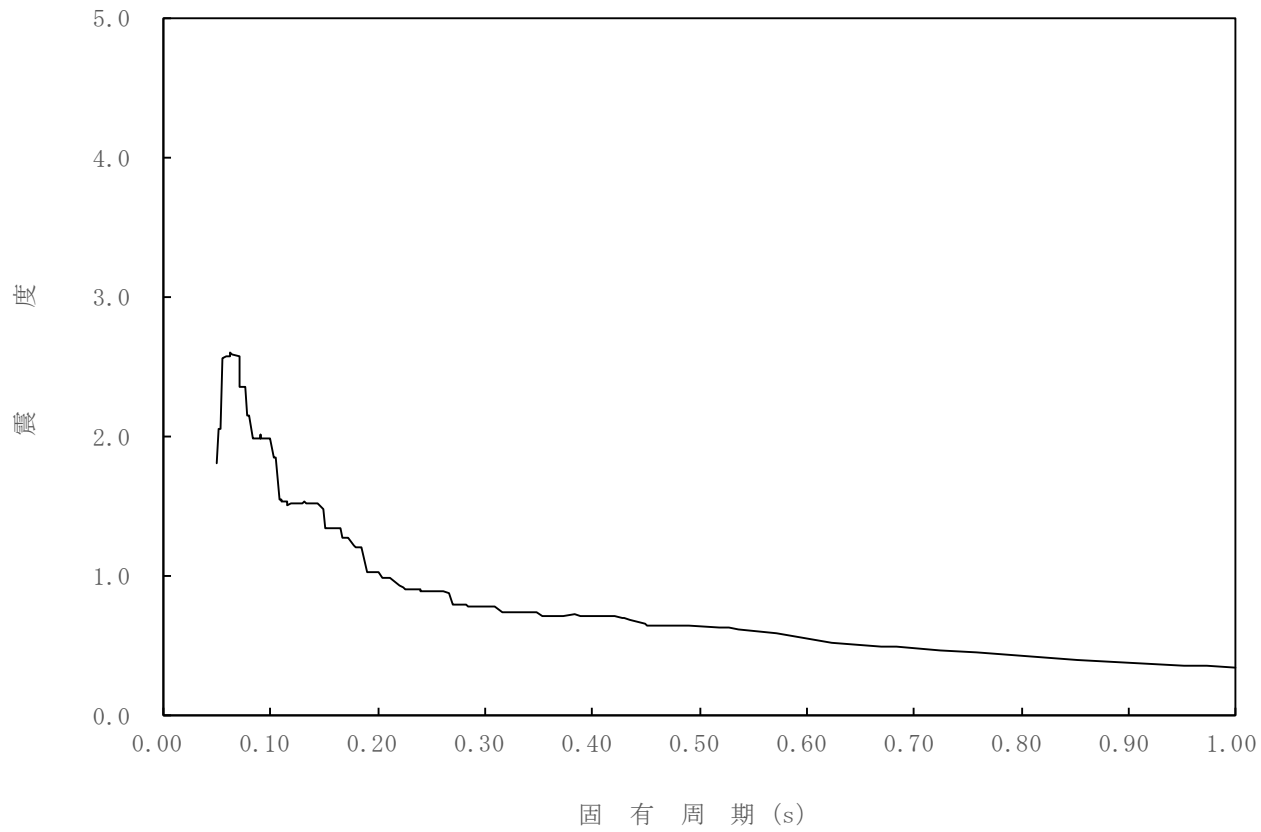
構造物名： 軽油タンク室(H)

標高： 0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdV-PIT14800-025】

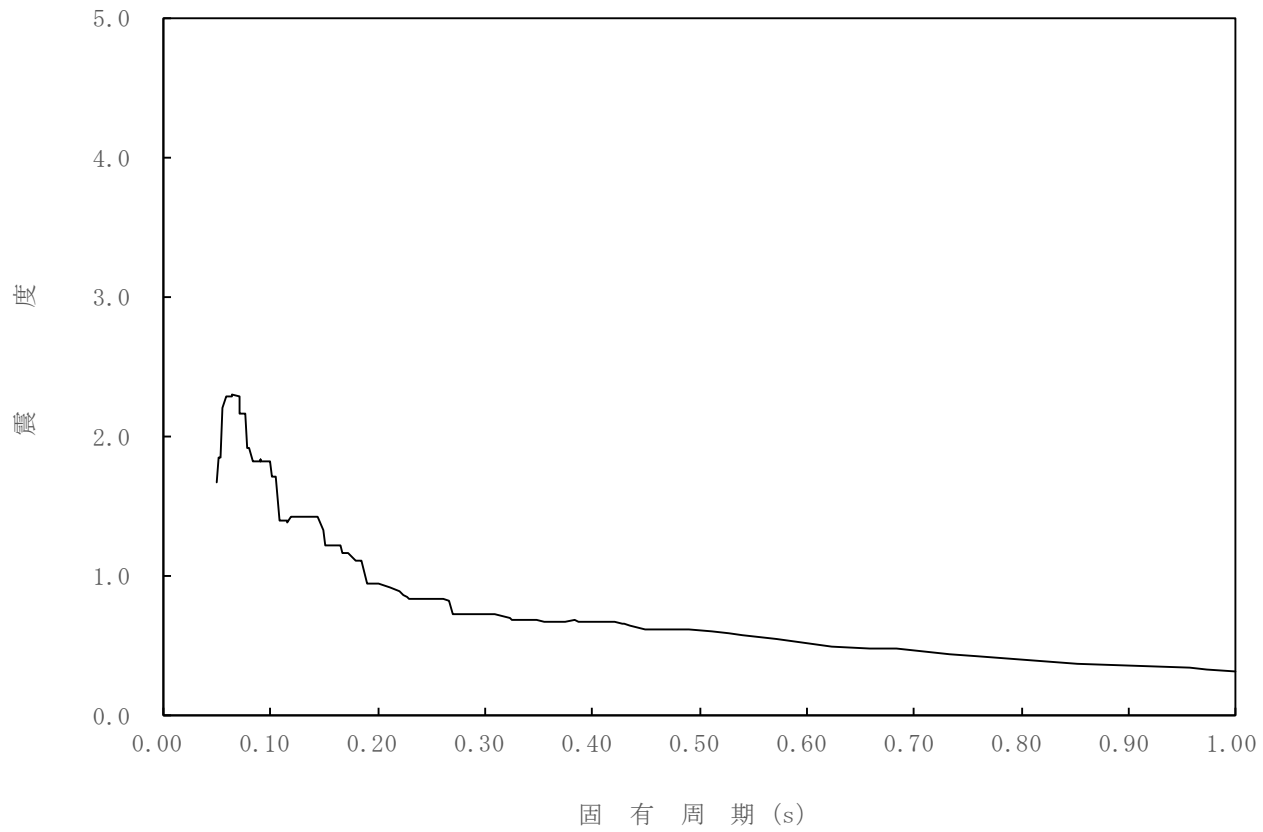
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdV-PIT14800-030】

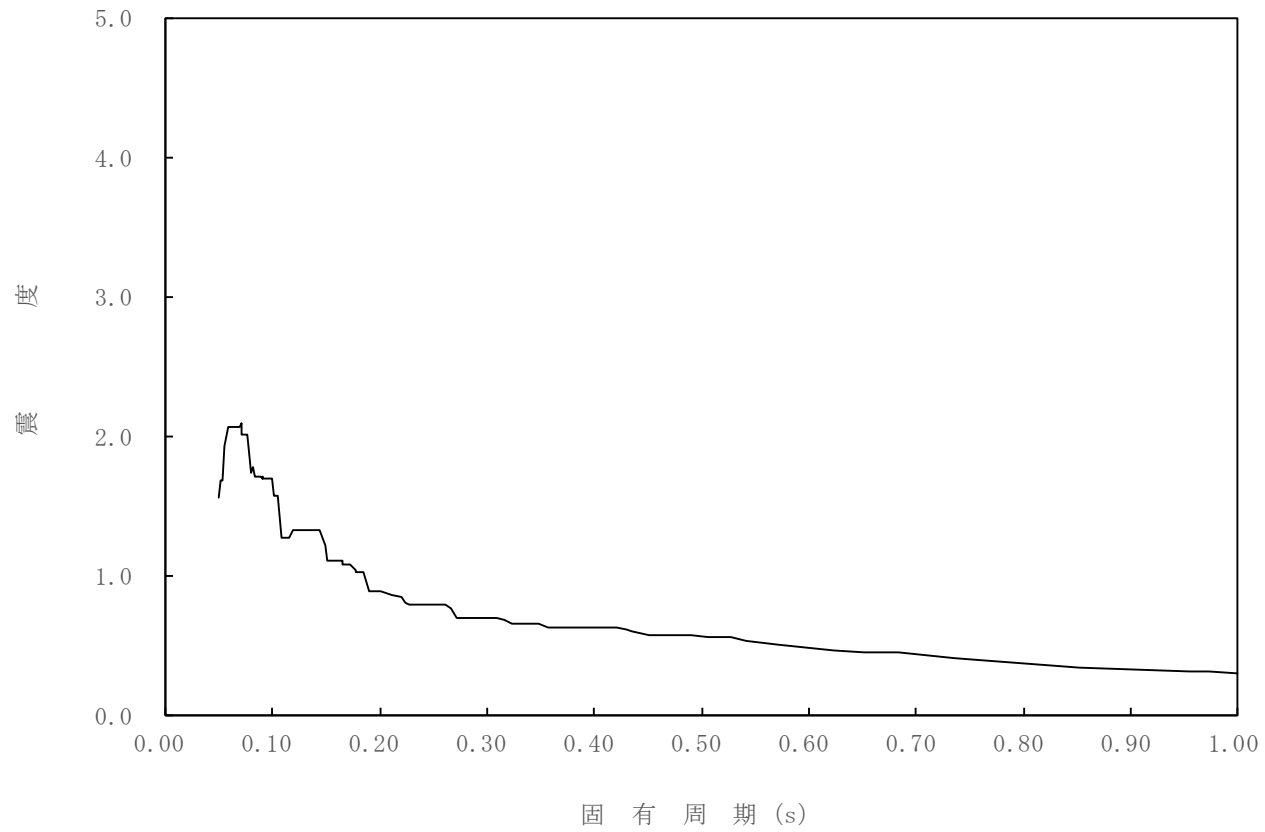
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-DOH-SdV-PIT14800-050】

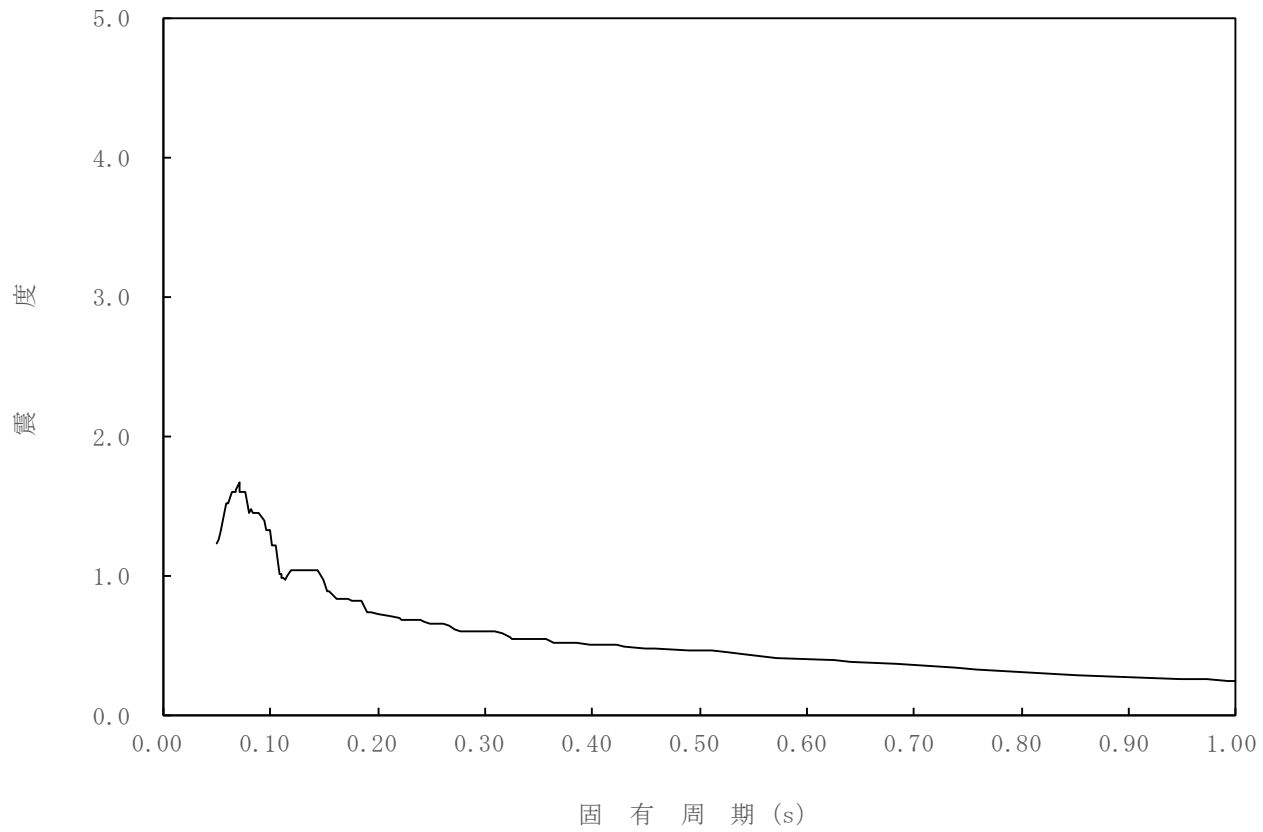
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdV-PIT6400-005】

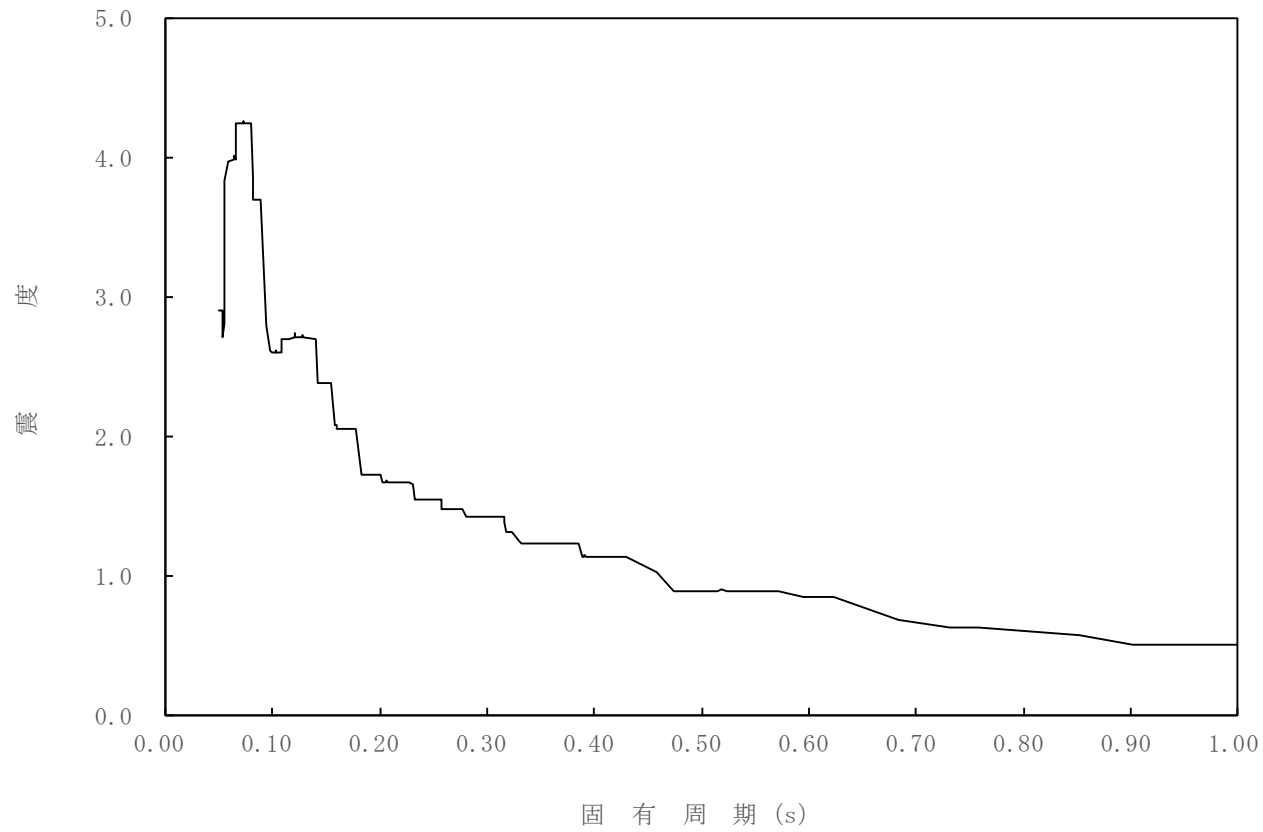
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdV-PIT6400-010】

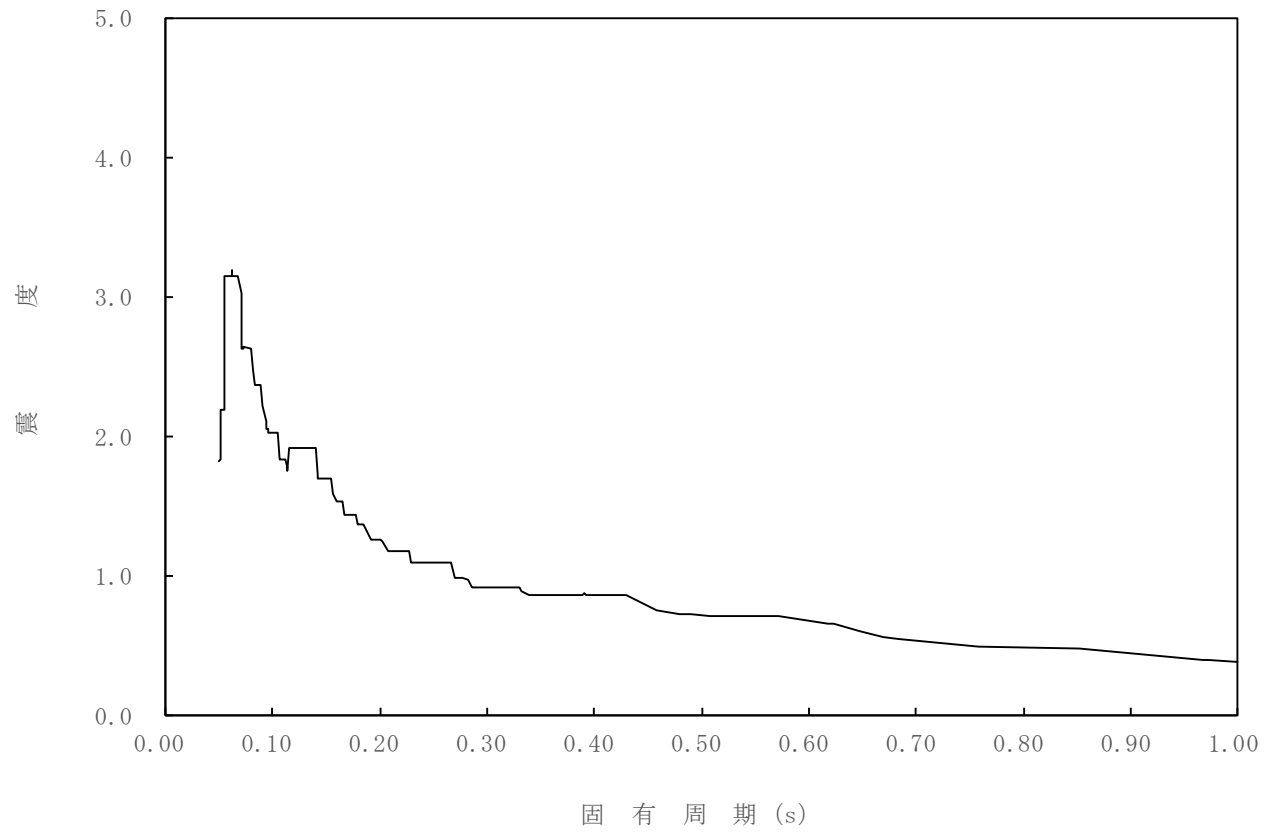
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdV-PIT6400-015】

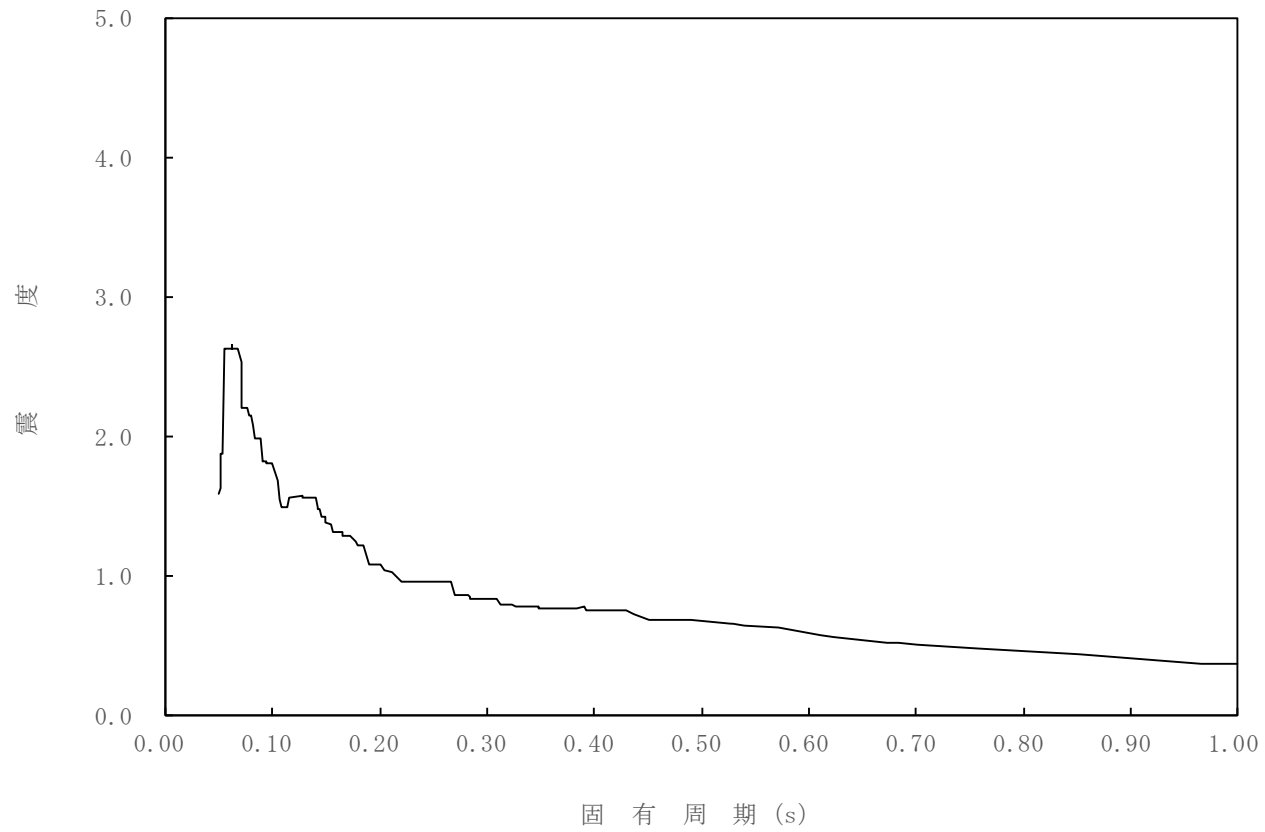
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdV-PIT6400-020】

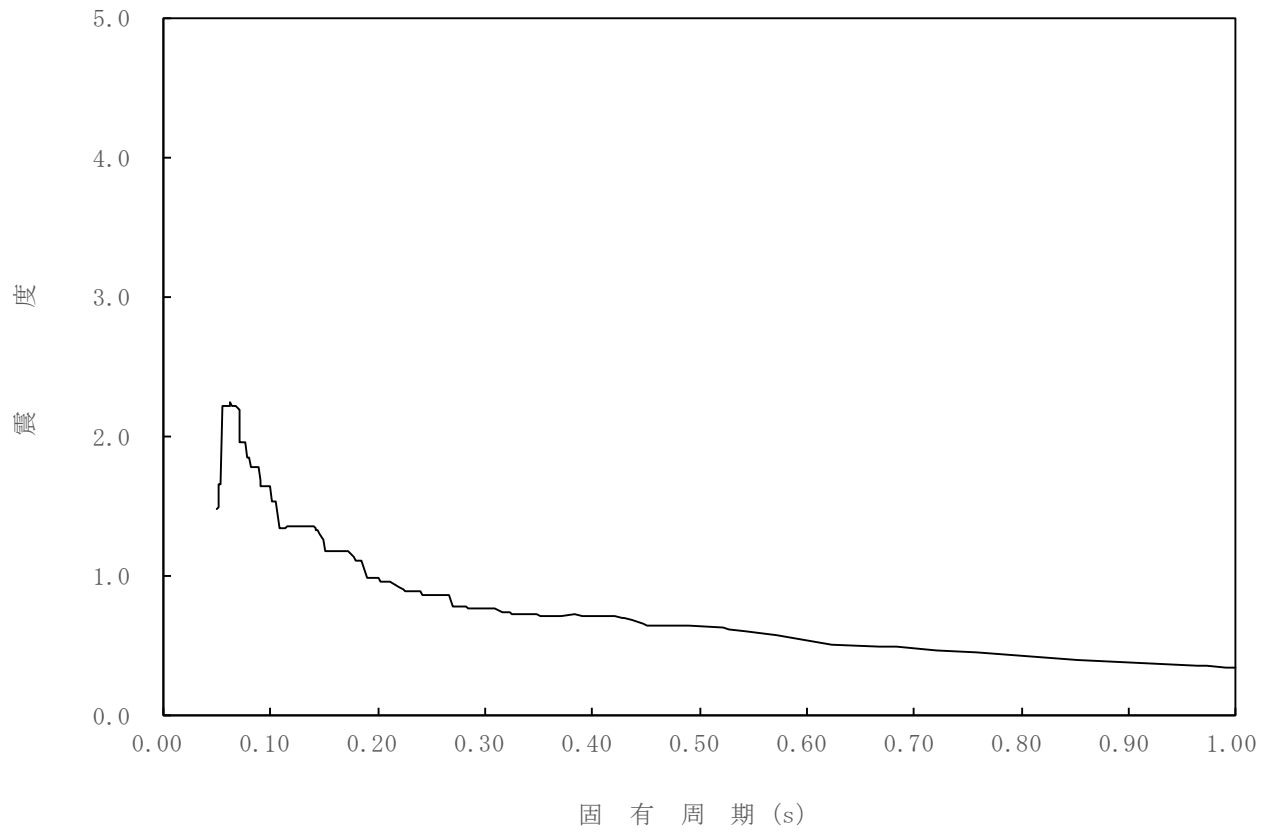
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-D0H-SdV-PIT6400-025】

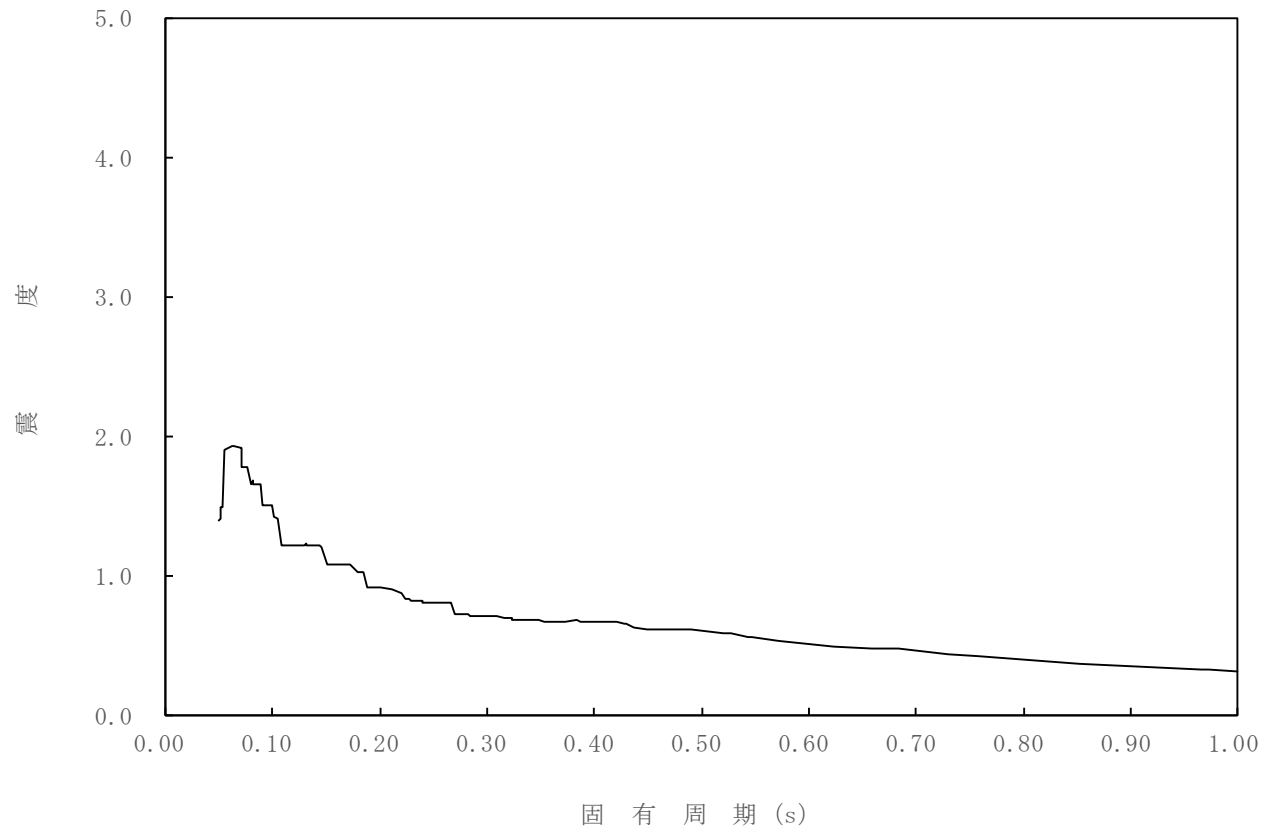
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdV-PIT6400-030】

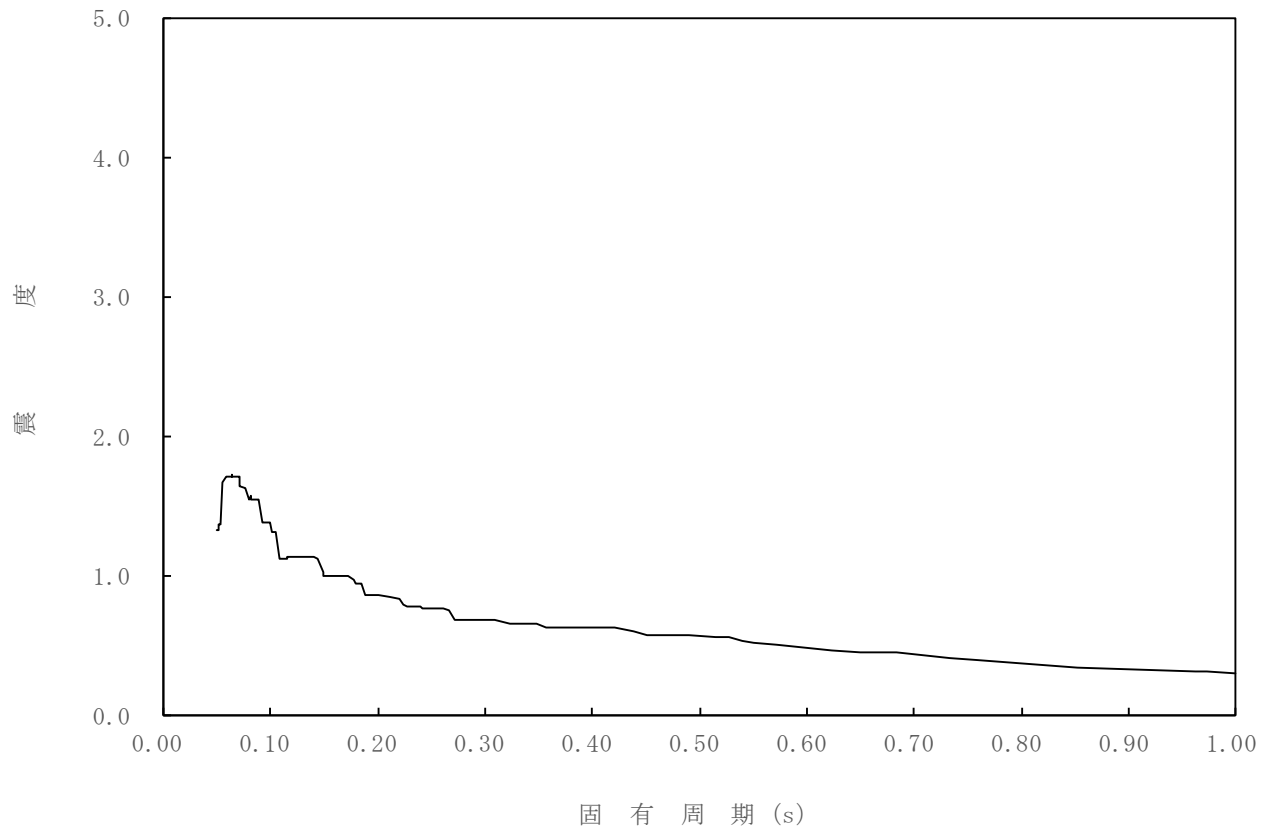
構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0H-SdV-PIT6400-050】

構造物名：軽油タンク室(H)

標高：0.P. 6.400m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

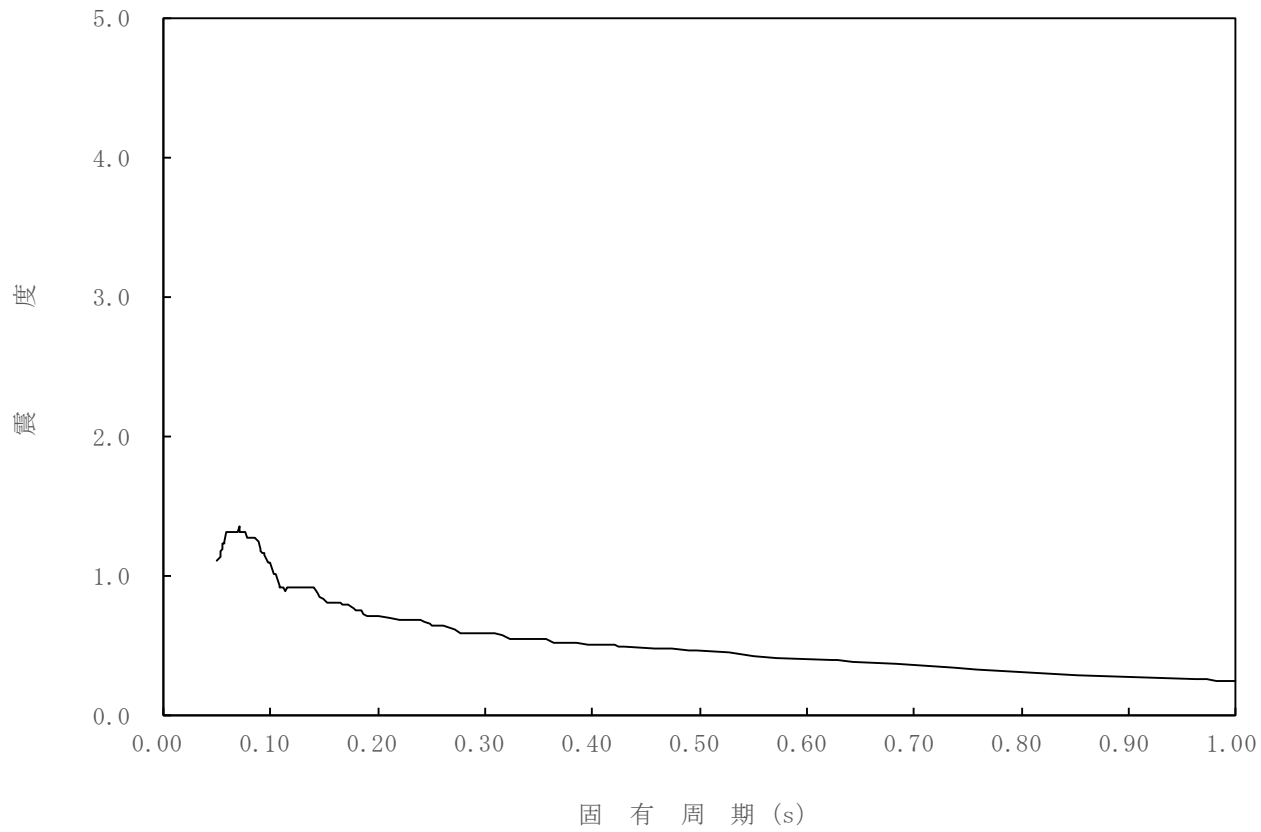


表 4-2-7 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 軽油タンク連絡ダクト : 水平方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	軽油タンク 連絡ダクト	水平 方向	2377 2460	12.100	0.5	02-DOD-SdH-DOD12100-005
					1.0	02-DOD-SdH-DOD12100-010
					1.5	02-DOD-SdH-DOD12100-015
					2.0	02-DOD-SdH-DOD12100-020
					2.5	02-DOD-SdH-DOD12100-025
					3.0	02-DOD-SdH-DOD12100-030
			2336 5004 2510	10.500	0.5	02-DOD-SdH-DOD10500-005
					1.0	02-DOD-SdH-DOD10500-010
					1.5	02-DOD-SdH-DOD10500-015
					2.0	02-DOD-SdH-DOD10500-020
					2.5	02-DOD-SdH-DOD10500-025
					3.0	02-DOD-SdH-DOD10500-030
			2376 2459	9.500	0.5	02-DOD-SdH-DOD9500-005
					1.0	02-DOD-SdH-DOD9500-010
					1.5	02-DOD-SdH-DOD9500-015
					2.0	02-DOD-SdH-DOD9500-020
					2.5	02-DOD-SdH-DOD9500-025
					3.0	02-DOD-SdH-DOD9500-030
					5.0	02-DOD-SdH-DOD9500-050

表 4-2-7 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 軽油タンク連絡ダクト : 鉛直方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	軽油タンク 連絡ダクト	鉛直 方向	2377 2460	12.100	0.5	02-DOD-SdV-DOD12100-005
					1.0	02-DOD-SdV-DOD12100-010
					1.5	02-DOD-SdV-DOD12100-015
					2.0	02-DOD-SdV-DOD12100-020
					2.5	02-DOD-SdV-DOD12100-025
					3.0	02-DOD-SdV-DOD12100-030
			2336 5004 2510	10.500	0.5	02-DOD-SdV-DOD10500-005
					1.0	02-DOD-SdV-DOD10500-010
					1.5	02-DOD-SdV-DOD10500-015
					2.0	02-DOD-SdV-DOD10500-020
					2.5	02-DOD-SdV-DOD10500-025
					3.0	02-DOD-SdV-DOD10500-030
			2376 2459	9.500	0.5	02-DOD-SdV-DOD9500-005
					1.0	02-DOD-SdV-DOD9500-010
					1.5	02-DOD-SdV-DOD9500-015
					2.0	02-DOD-SdV-DOD9500-020
					2.5	02-DOD-SdV-DOD9500-025
					3.0	02-DOD-SdV-DOD9500-030
					5.0	02-DOD-SdV-DOD9500-050

【02-D0D-SdH-D0D12100-005】

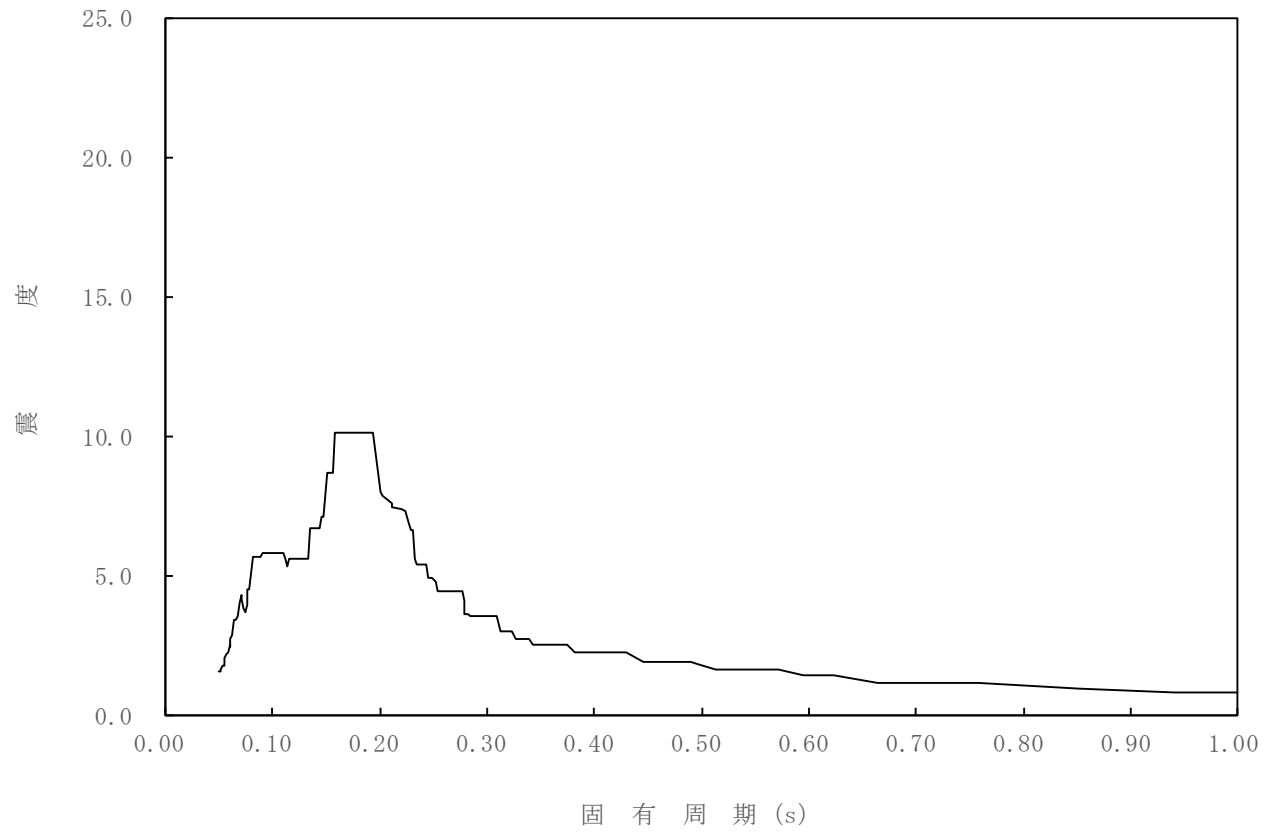
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-DOD-SdH-DOD12100-010】

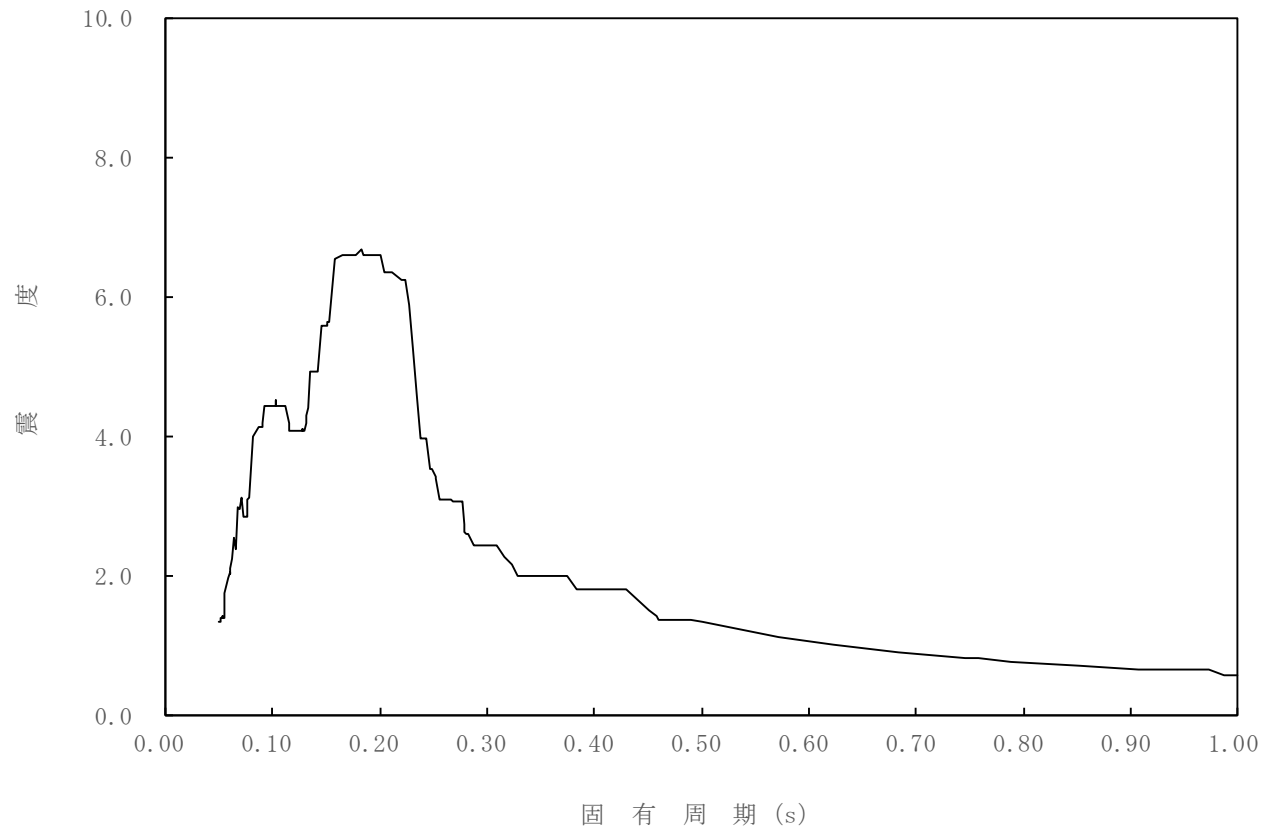
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-7-4

【02-D0D-SdH-D0D12100-015】

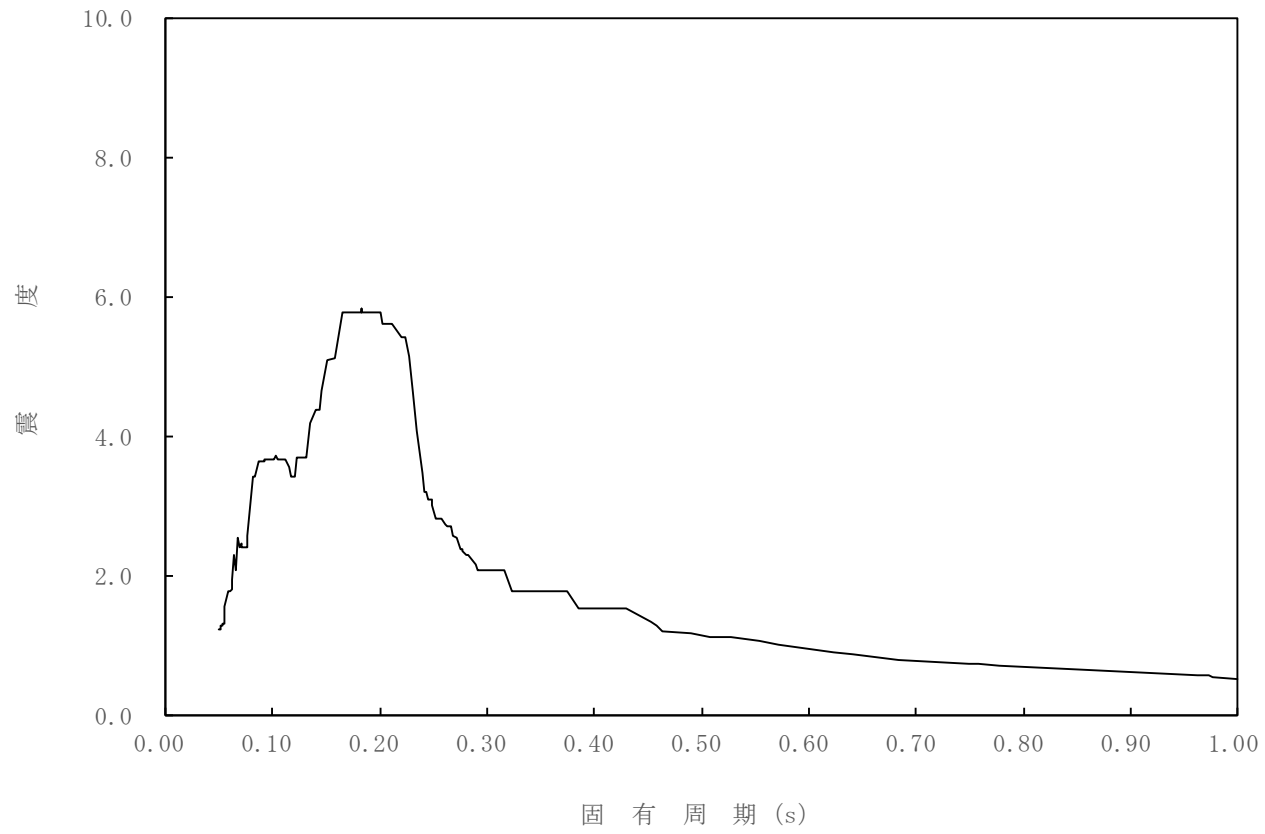
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0D-SdH-D0D12100-020】

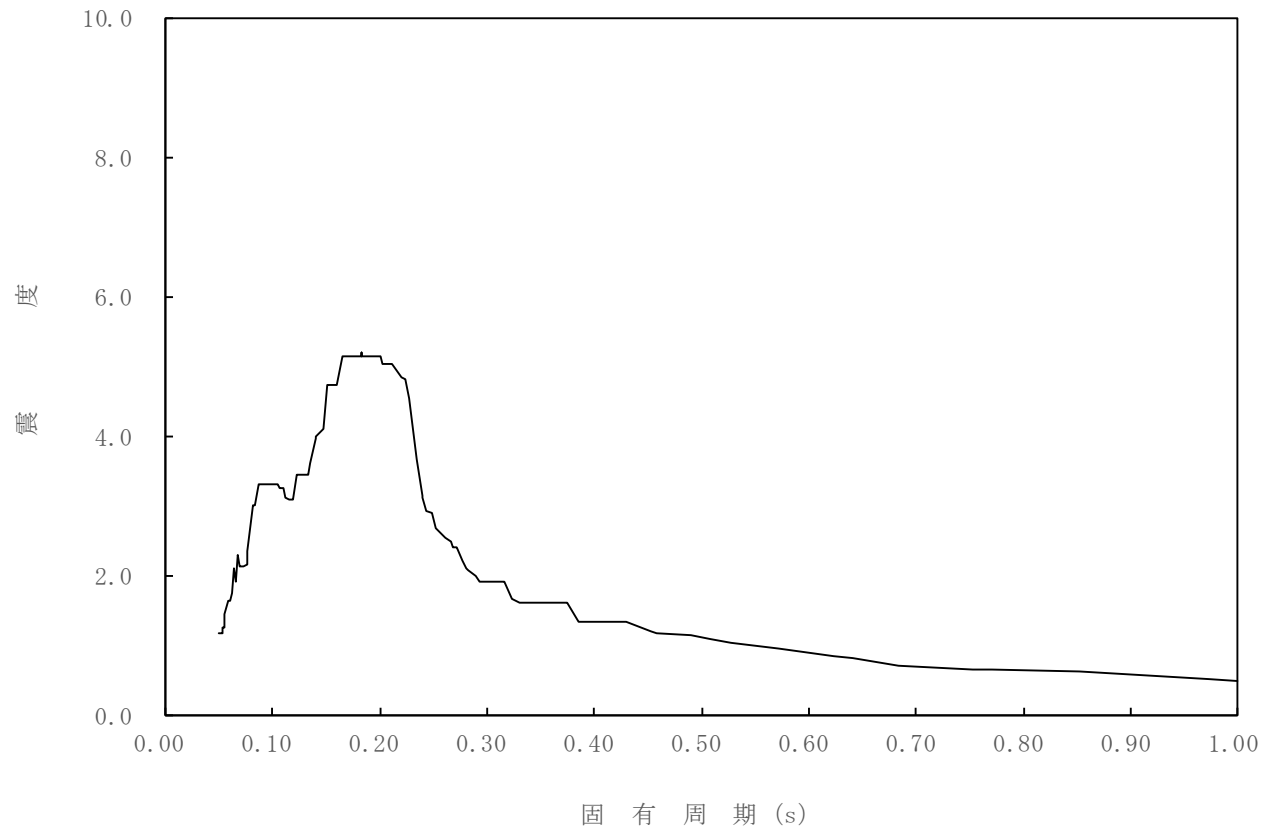
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D12100-025】

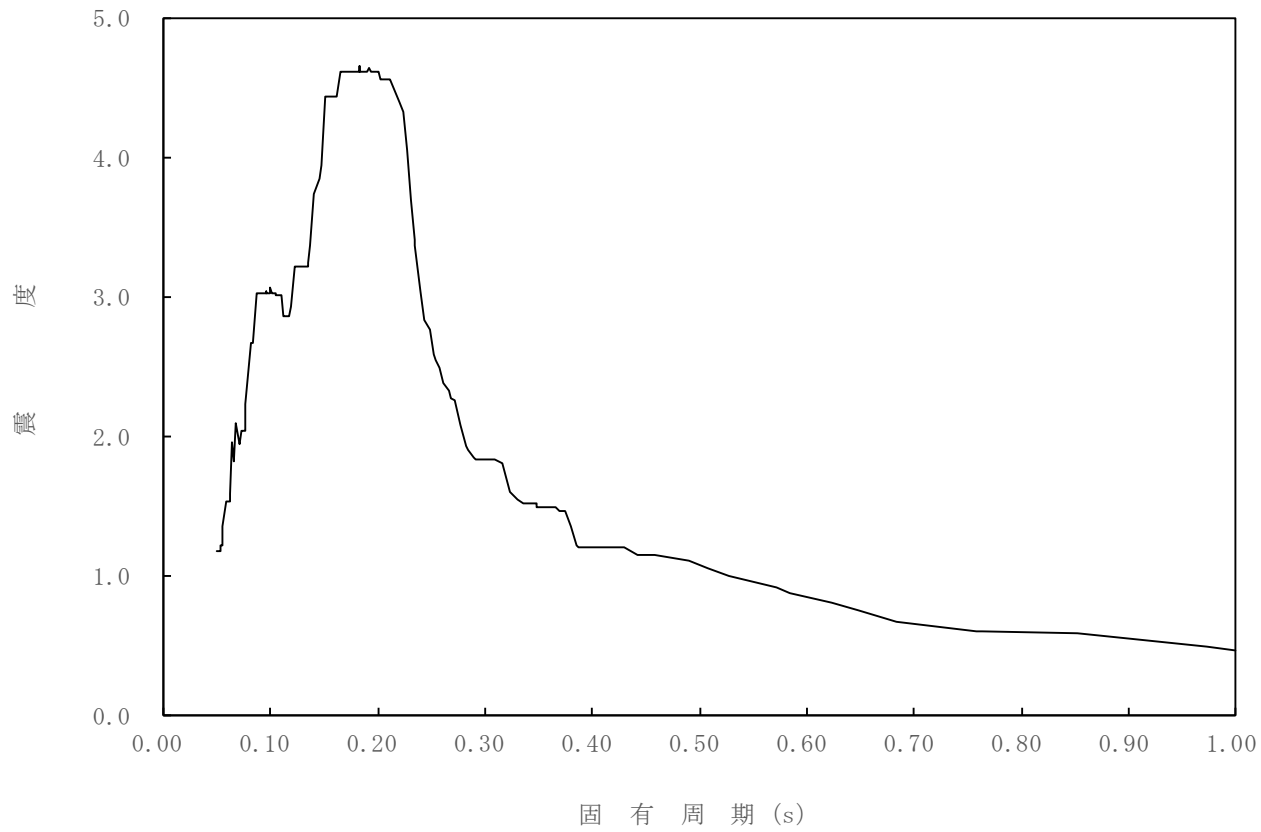
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-7-7

【02-D0D-SdH-D0D12100-030】

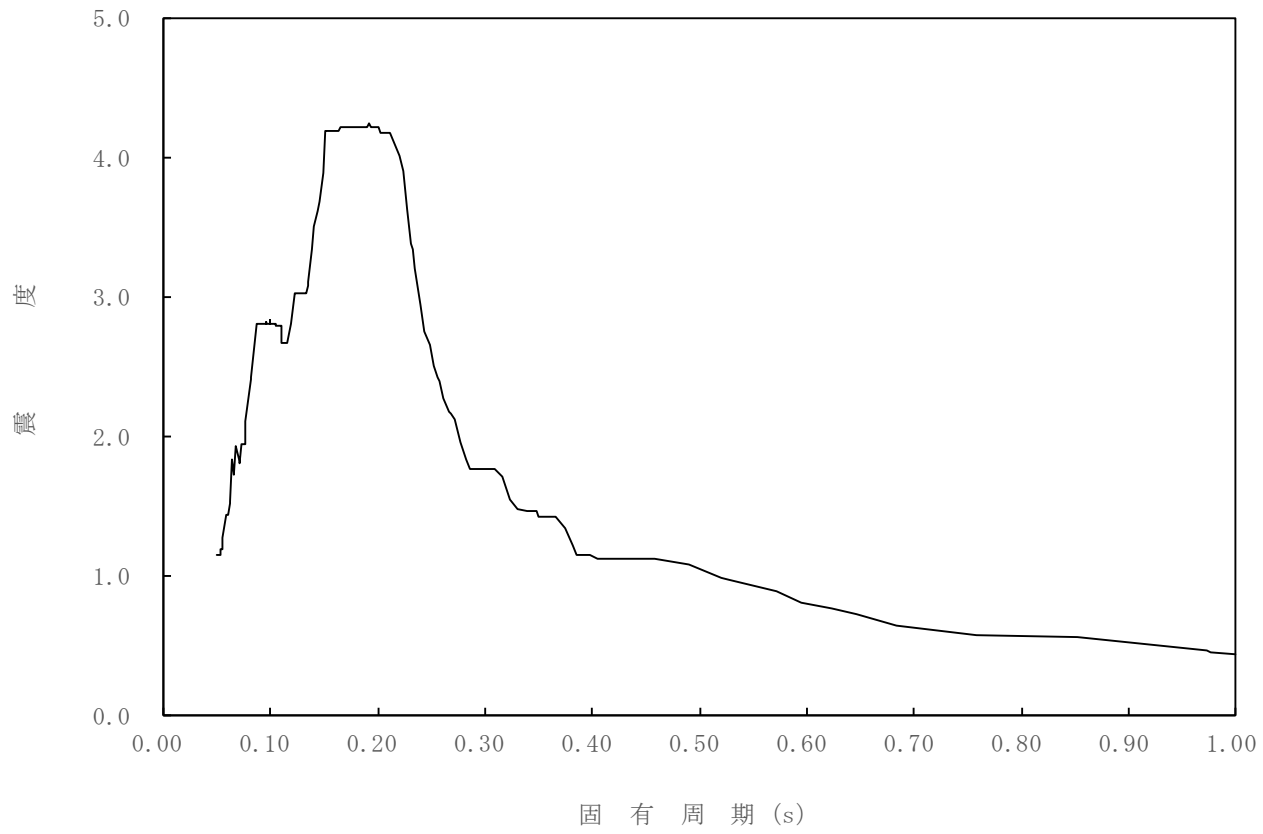
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D12100-050】

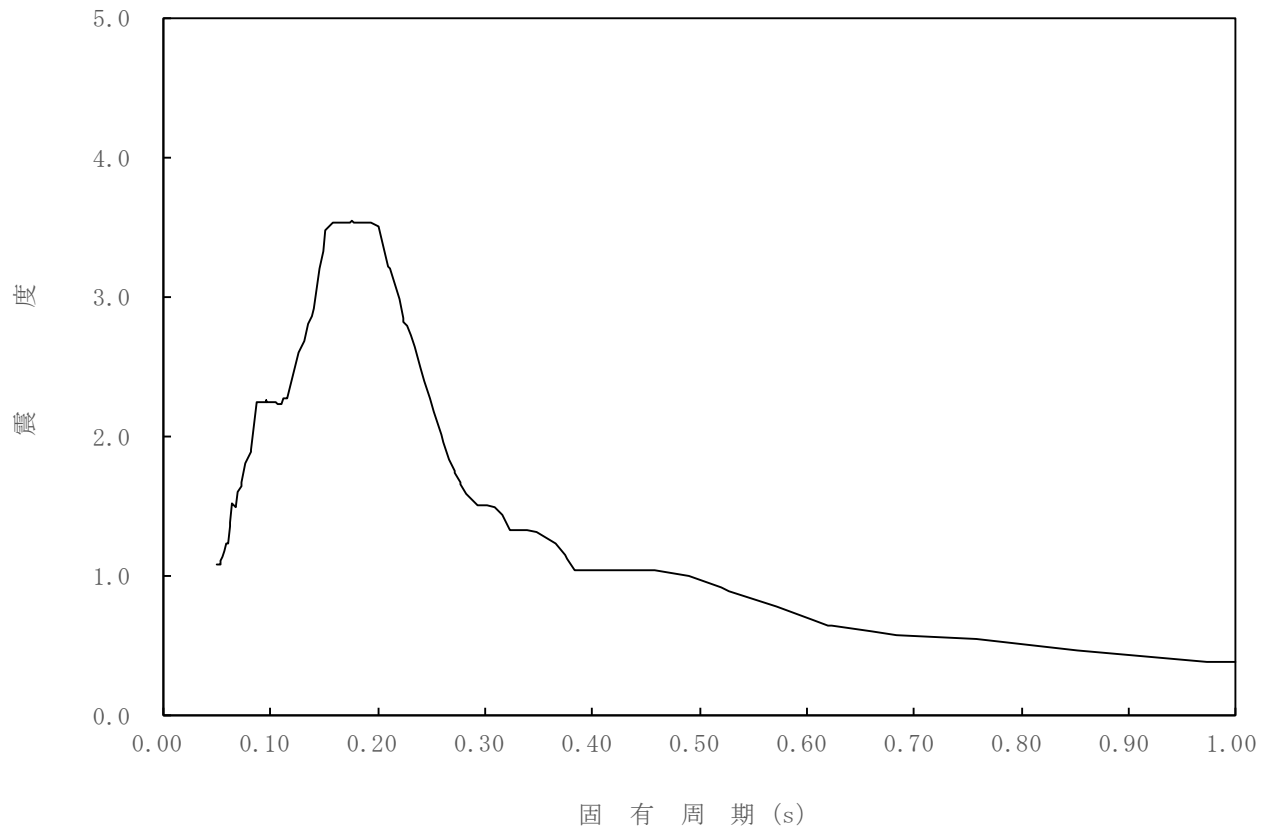
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 水平方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D10500-005】

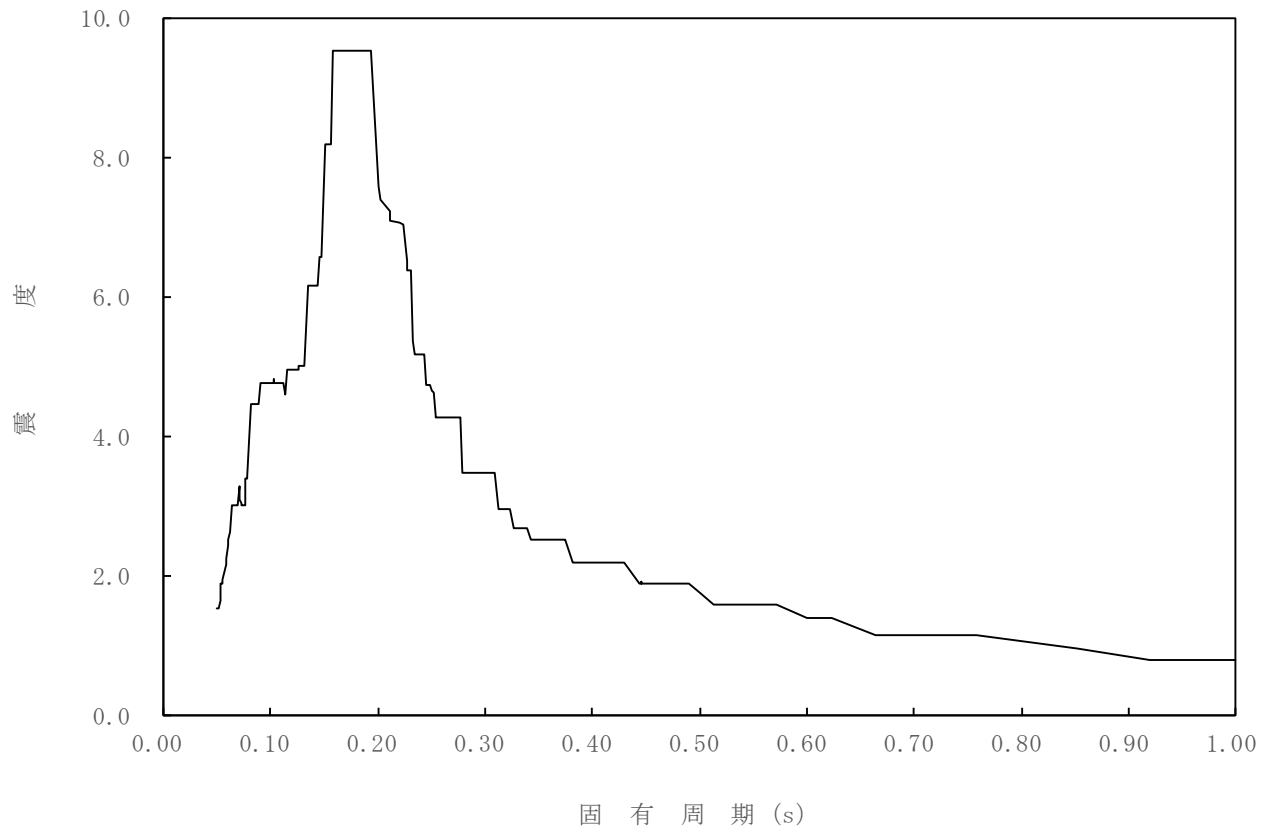
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 10.500m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-7-10

【02-DOD-SdH-DOD10500-010】

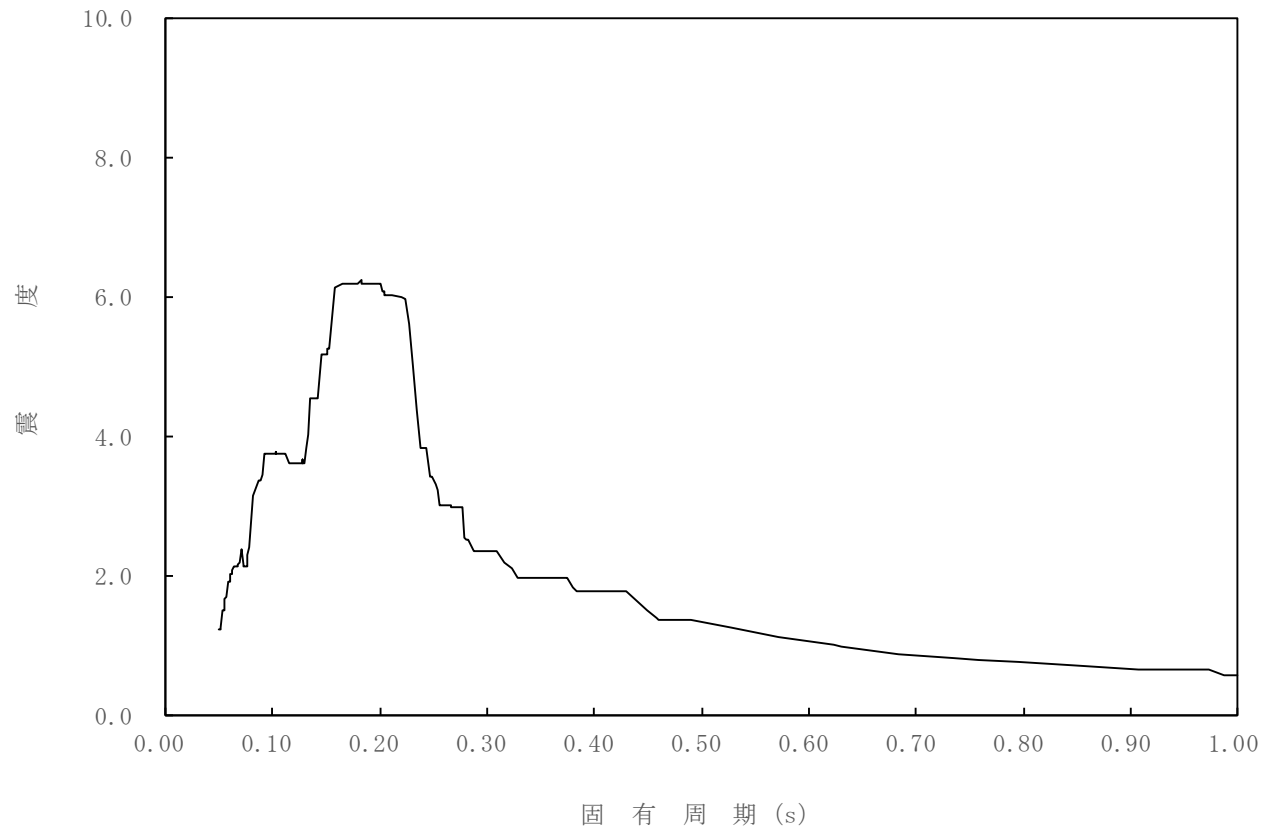
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 10.500m

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-7-11

【02-DOD-SdH-DOD10500-015】

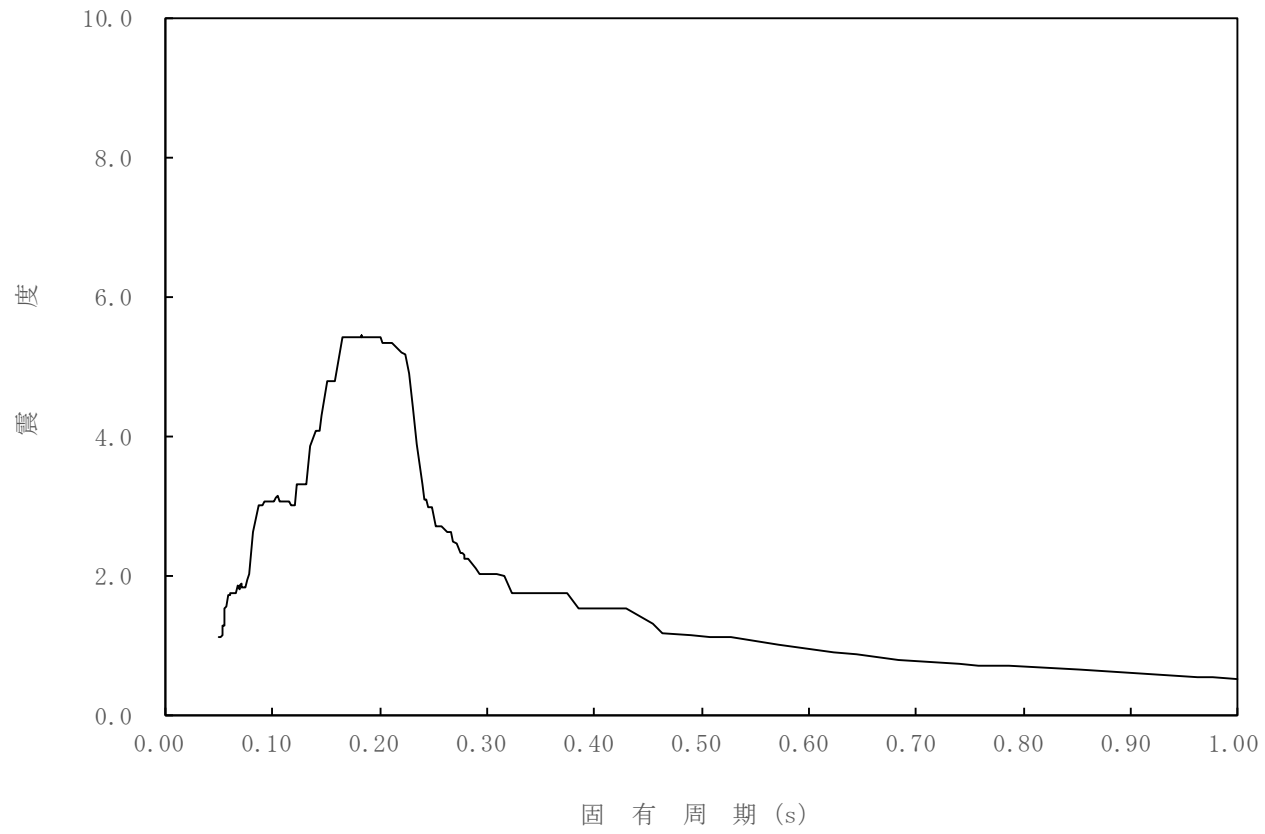
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 10.500m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-7-12

【02-D0D-SdH-D0D10500-020】

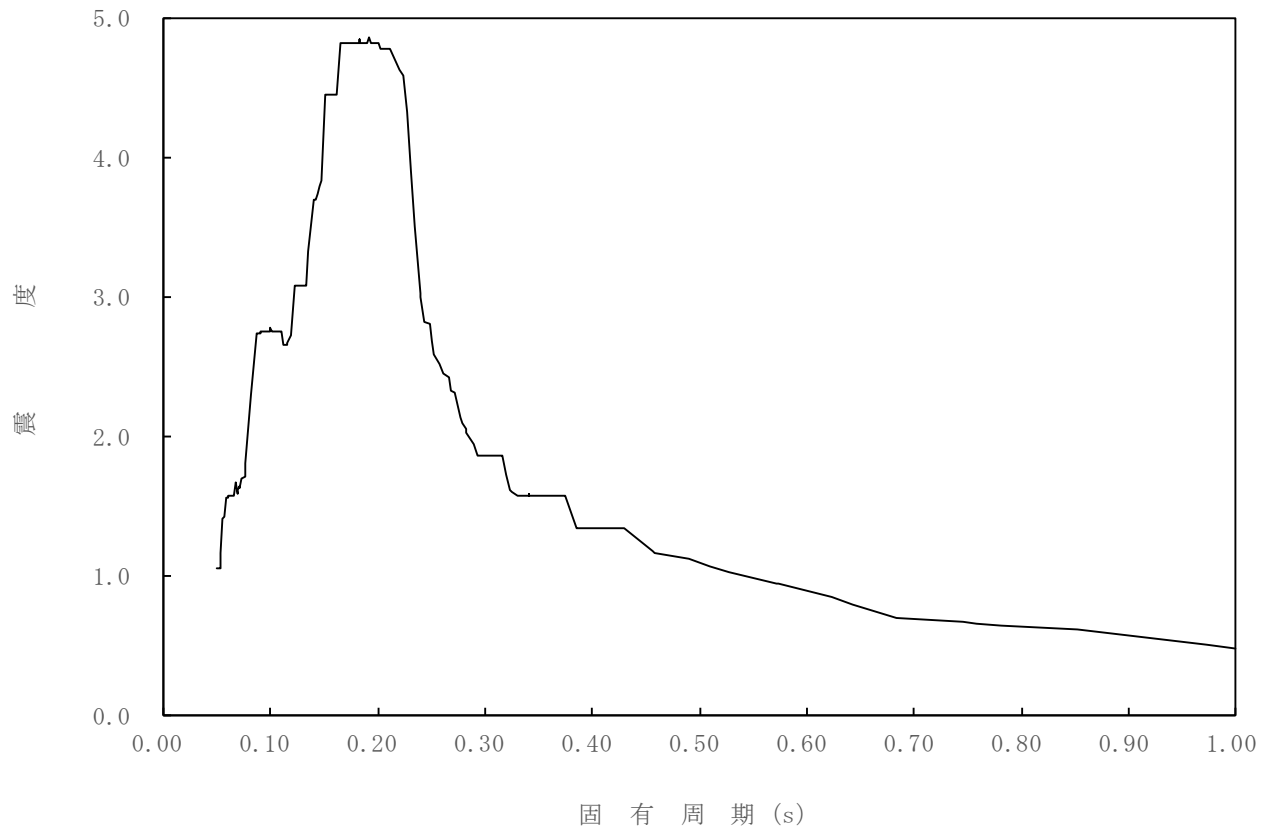
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 10.500m

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0D-SdH-D0D10500-025】

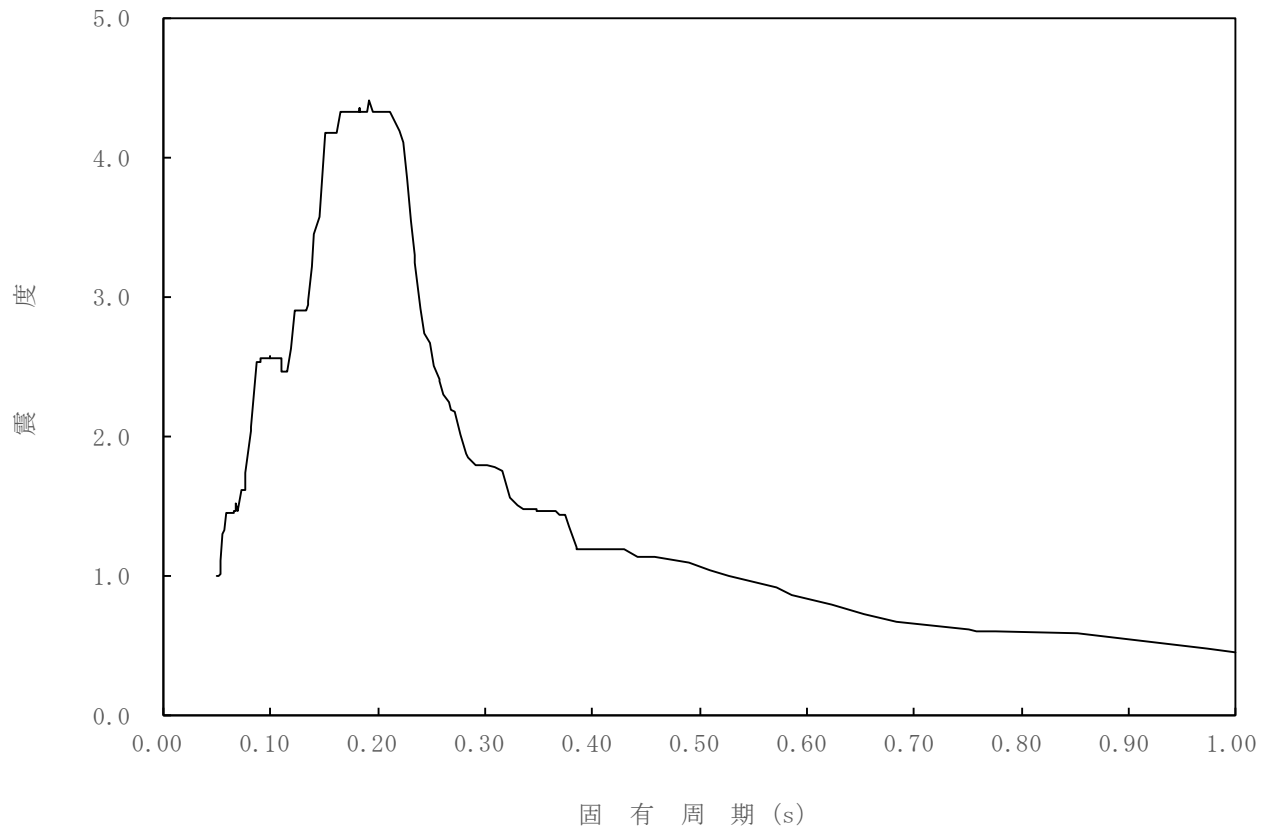
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 10.500m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D10500-030】

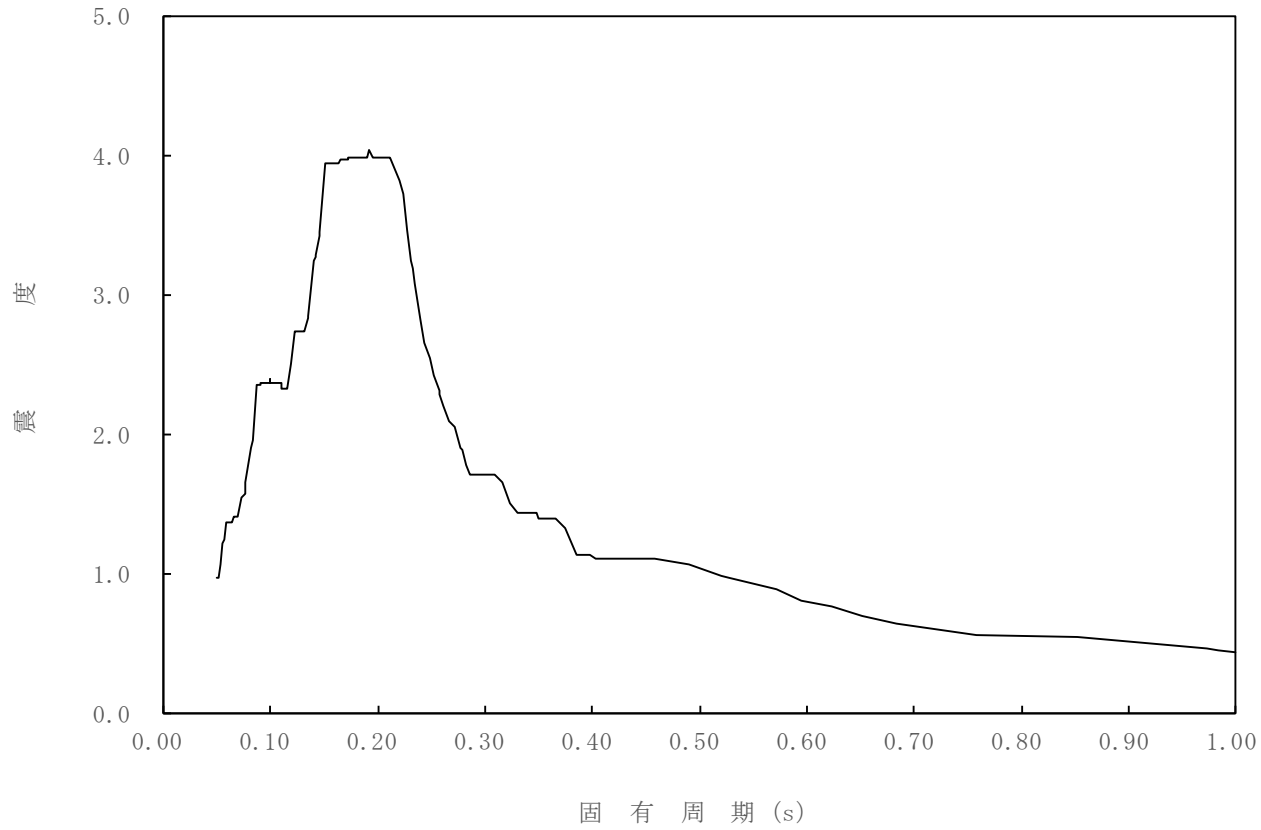
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 10.500m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-7-15

【02-D0D-SdH-D0D10500-050】

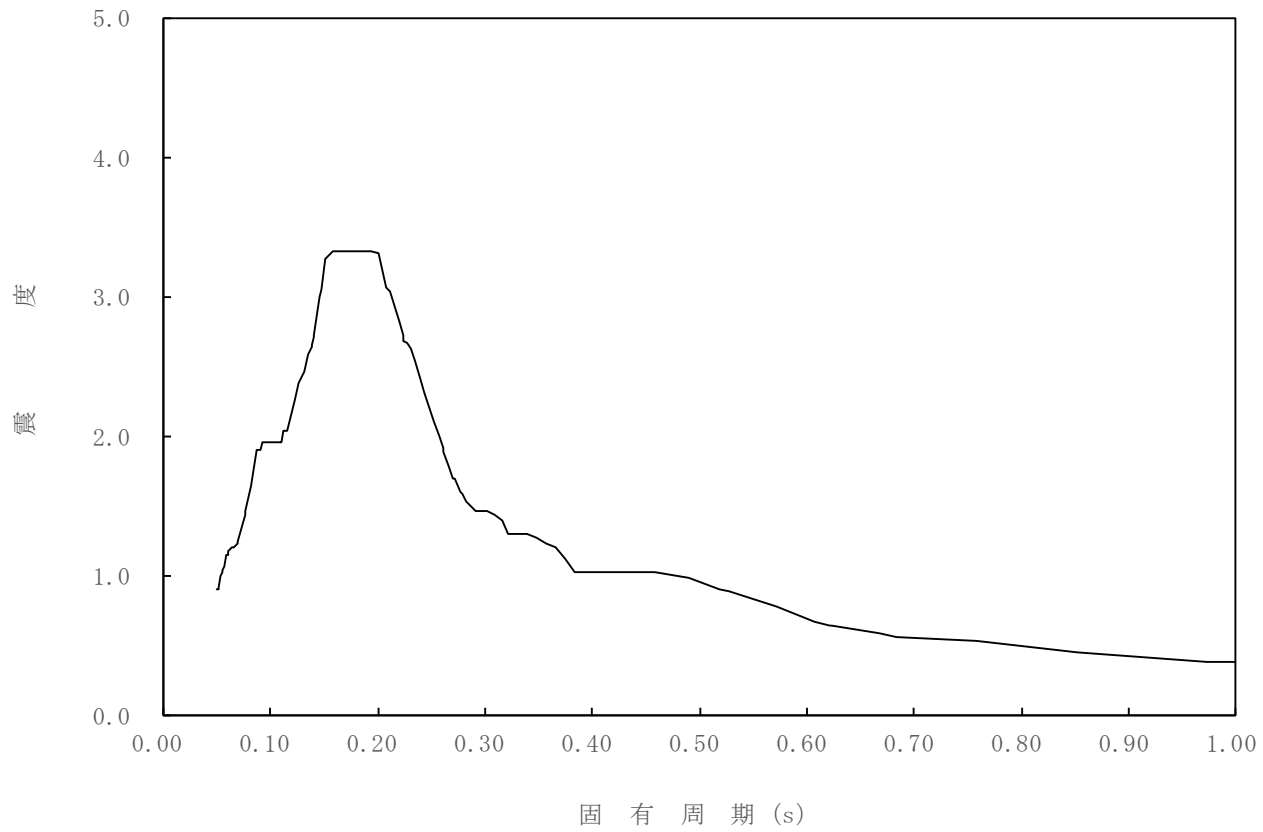
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：O.P. 10.500m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D9500-005】

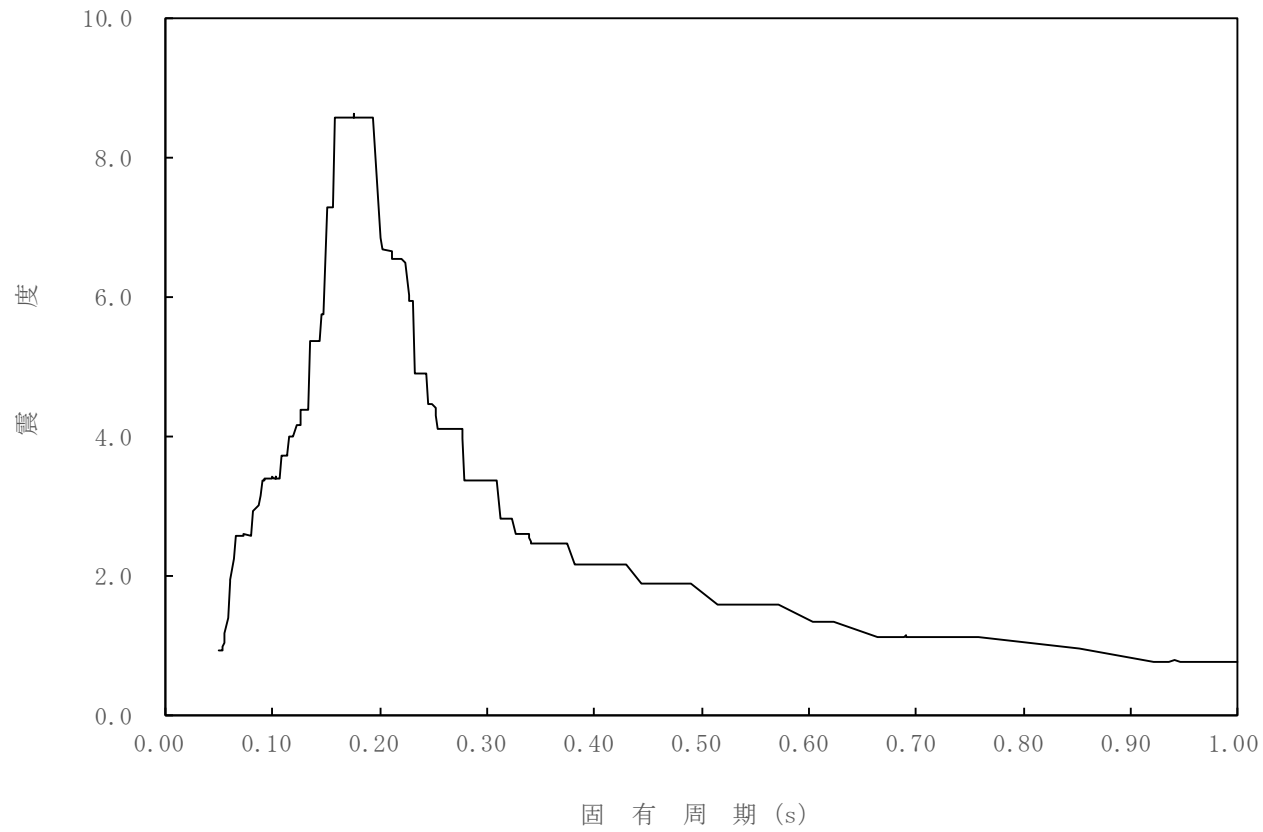
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D9500-010】

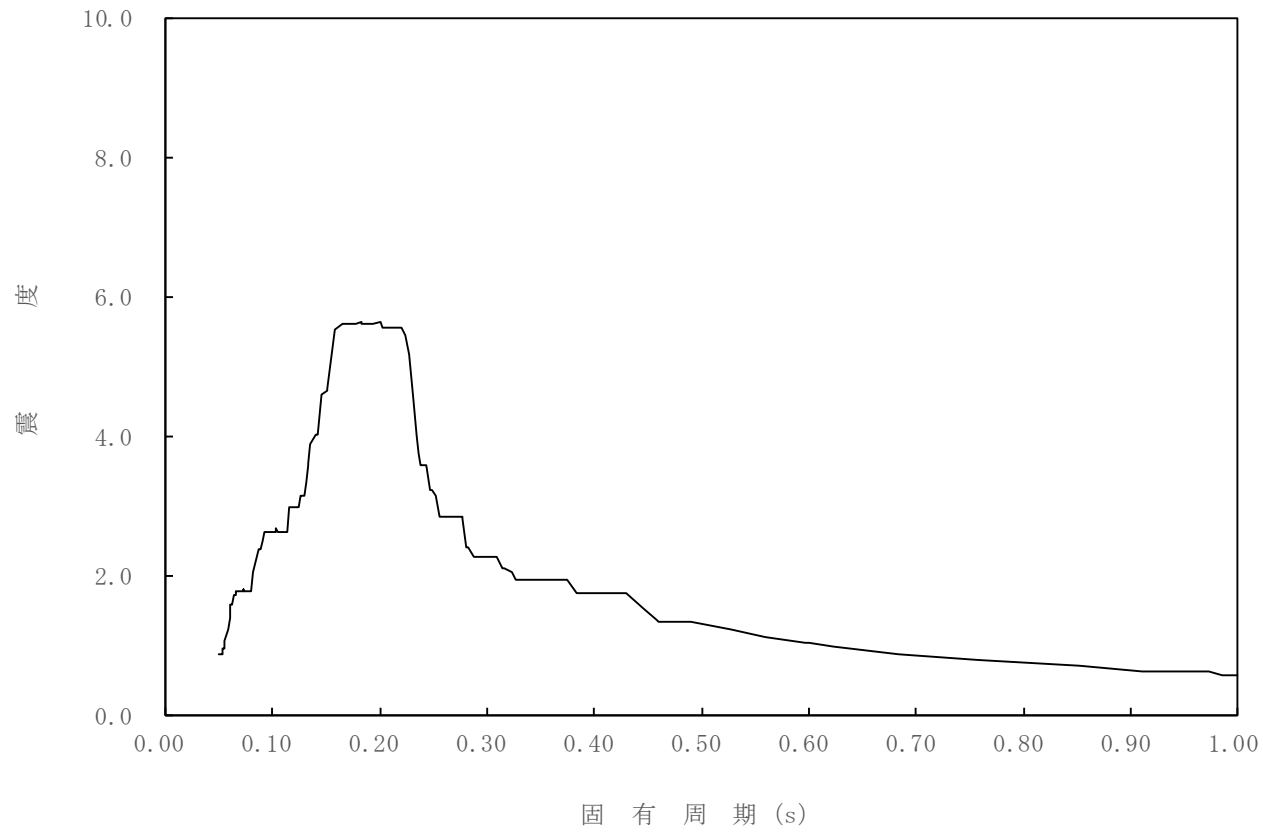
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：O.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D9500-015】

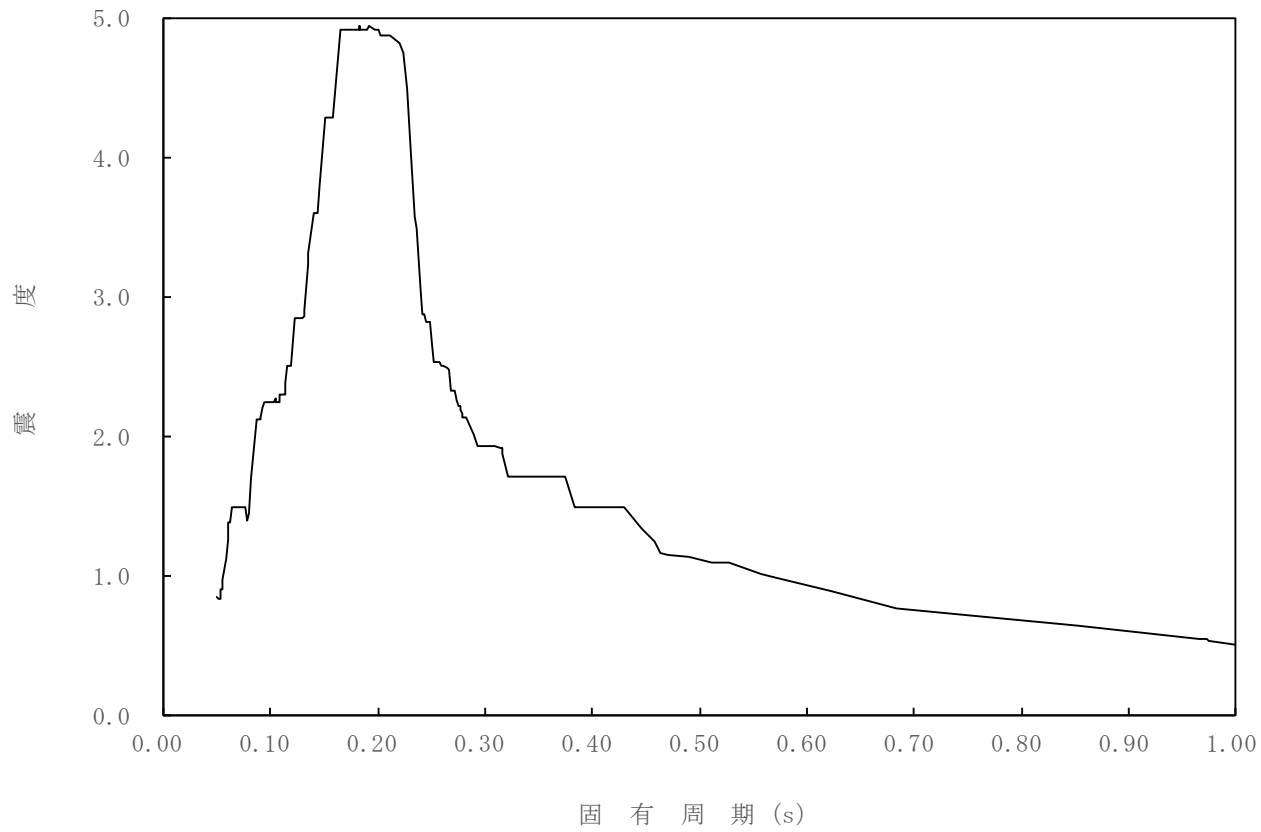
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D9500-020】

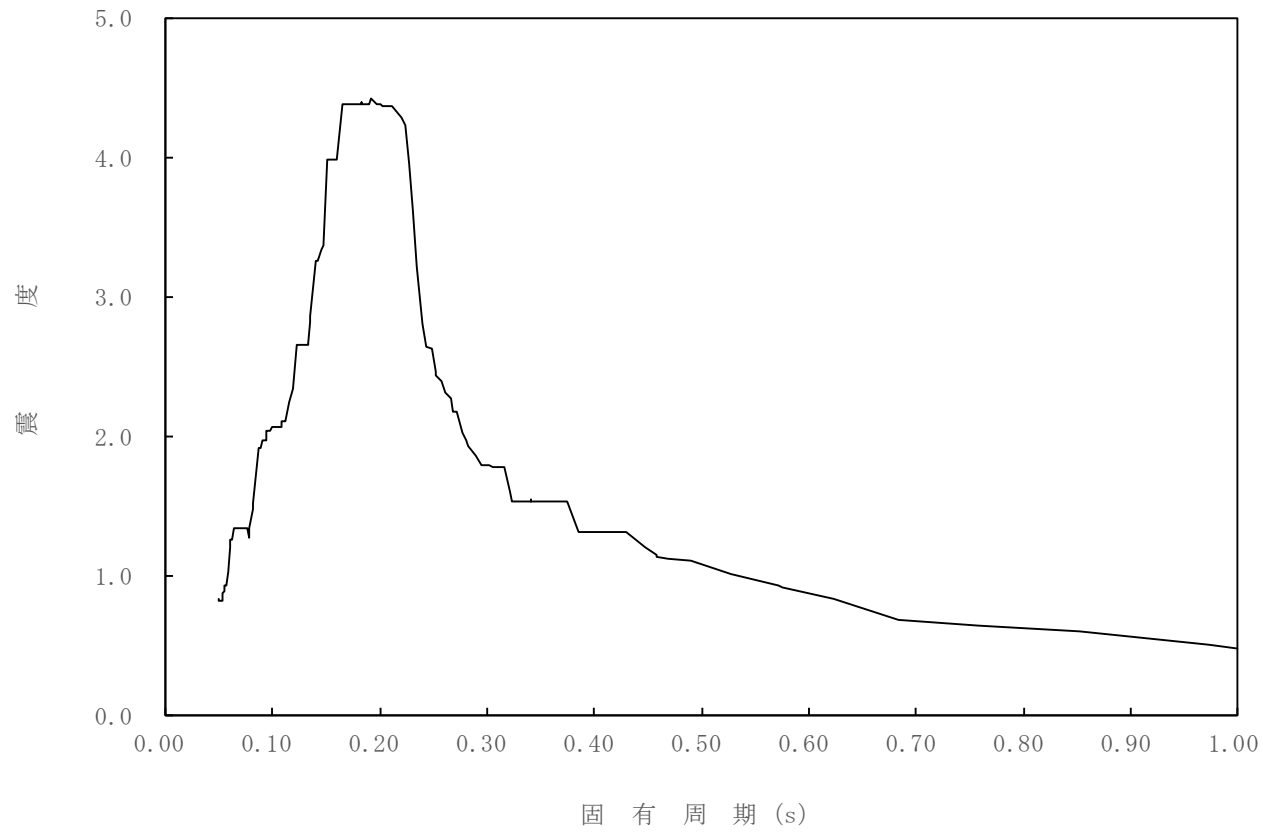
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0. P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D9500-025】

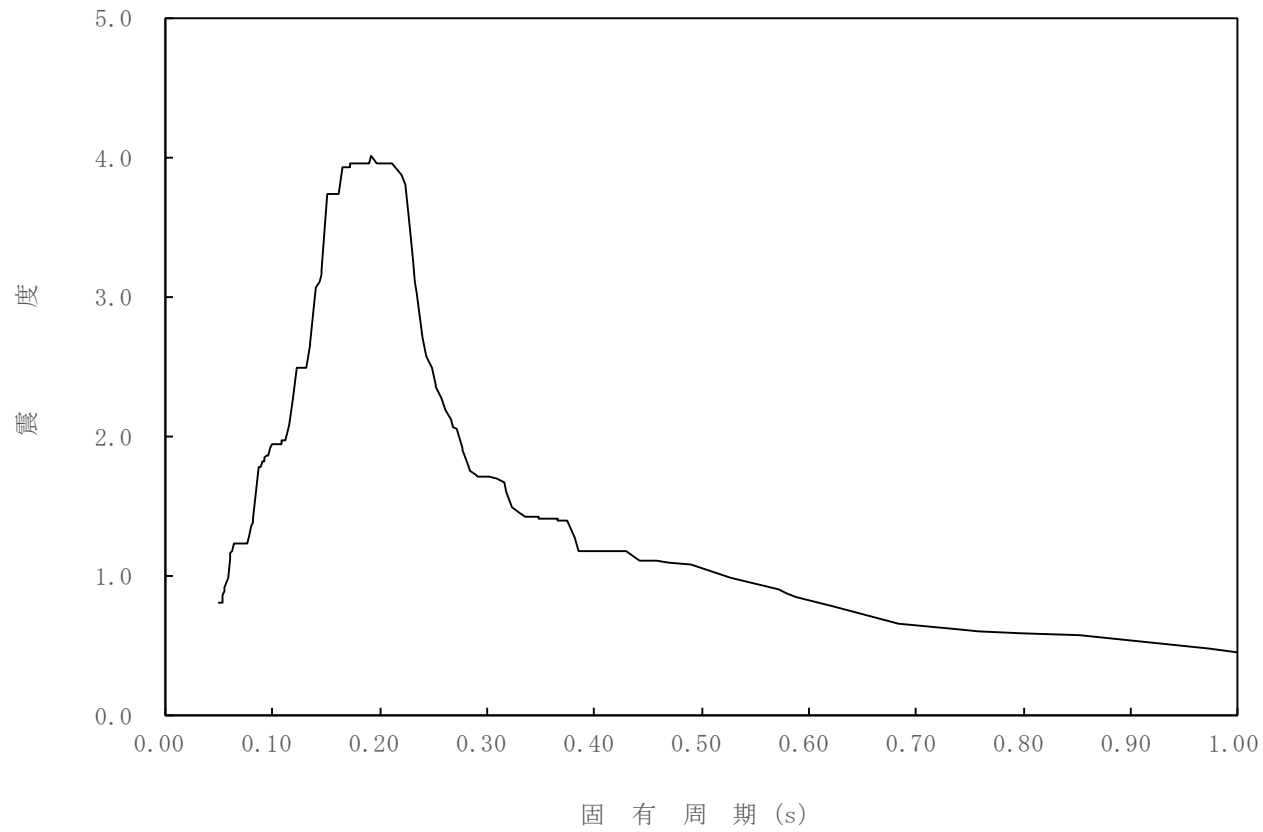
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d





【02-D0D-SdH-D0D9500-030】

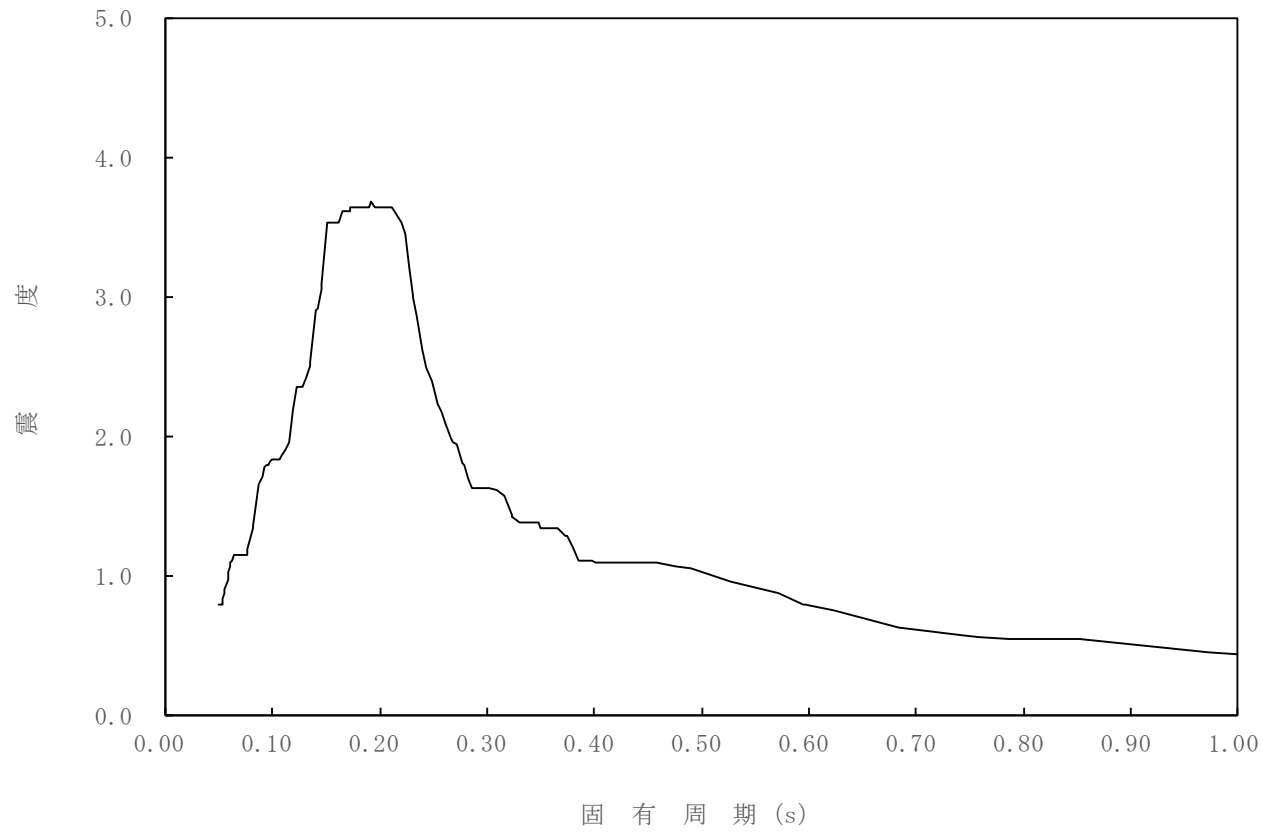
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdH-D0D9500-050】

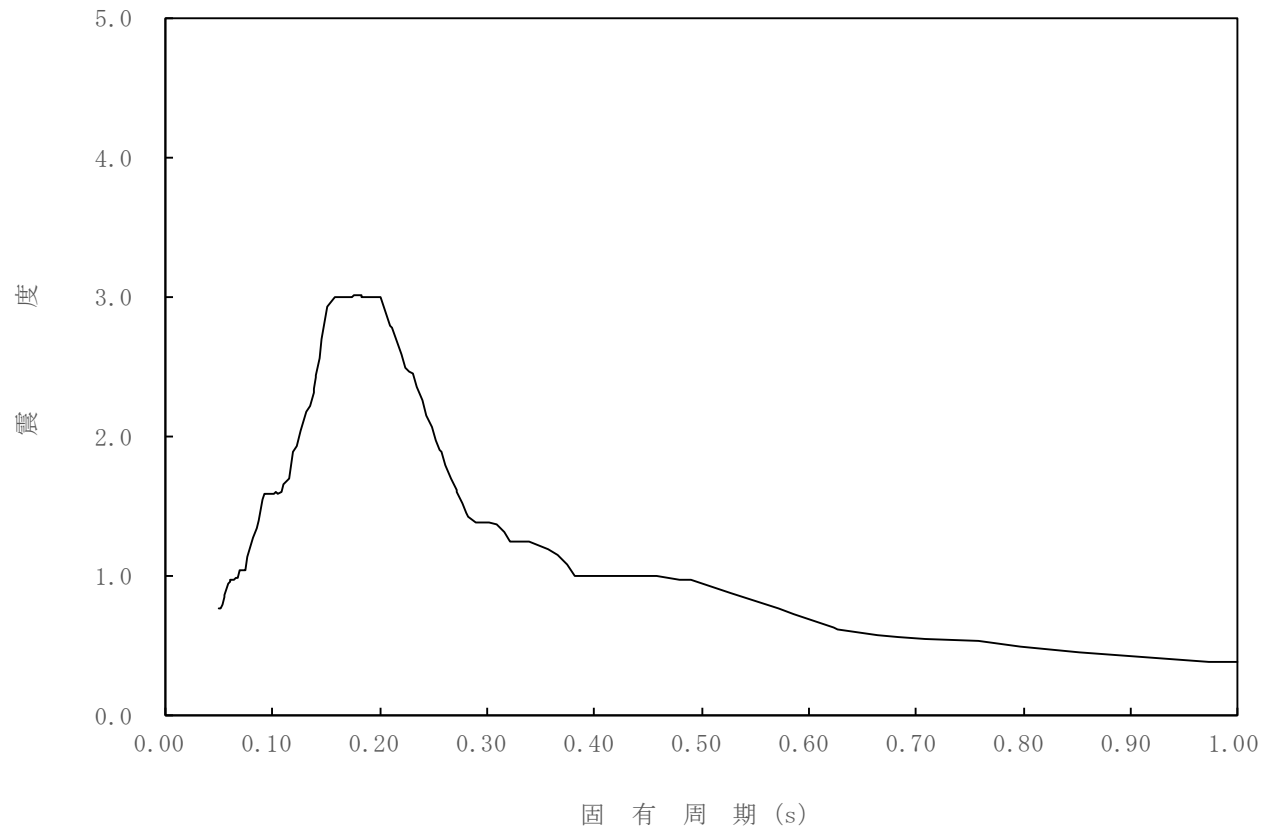
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：O.P. 9.500m

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D12100-005】

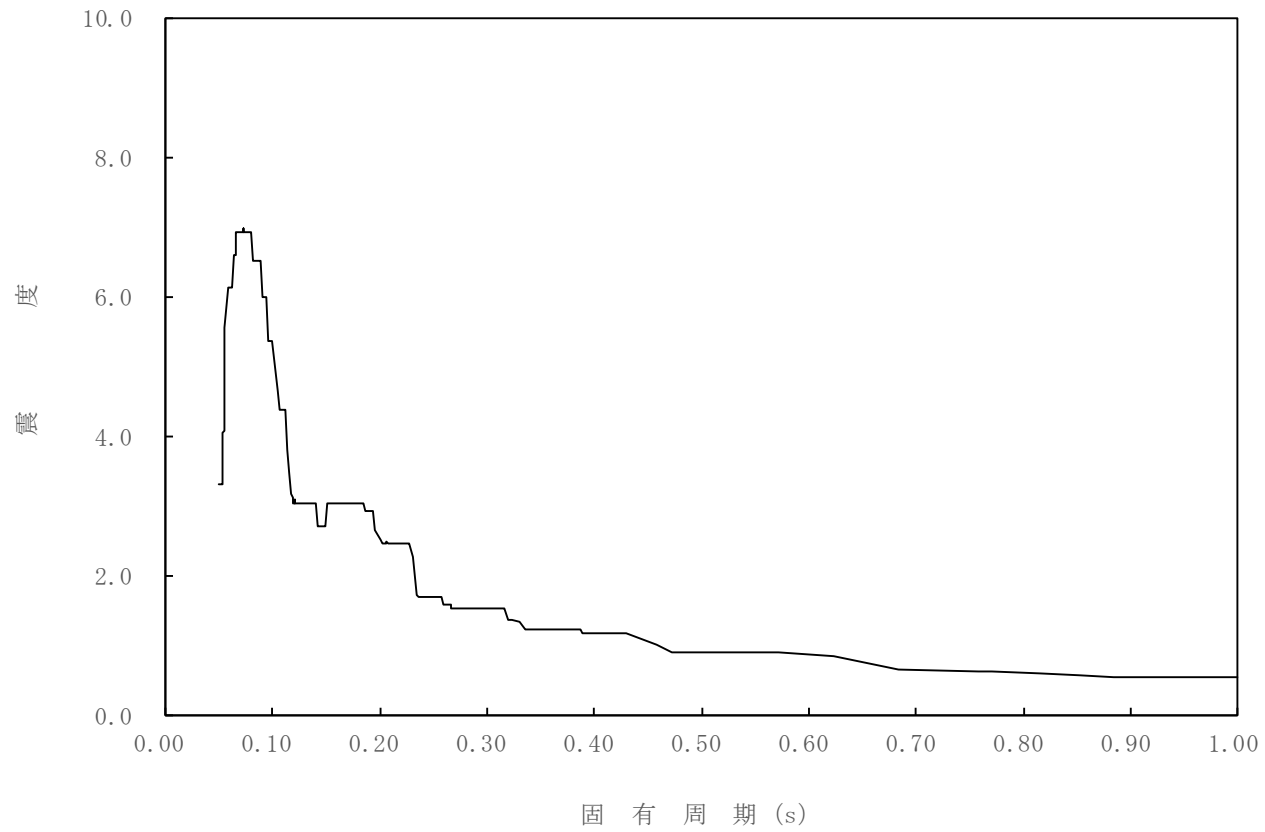
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：0.P. 12.100m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D12100-010】

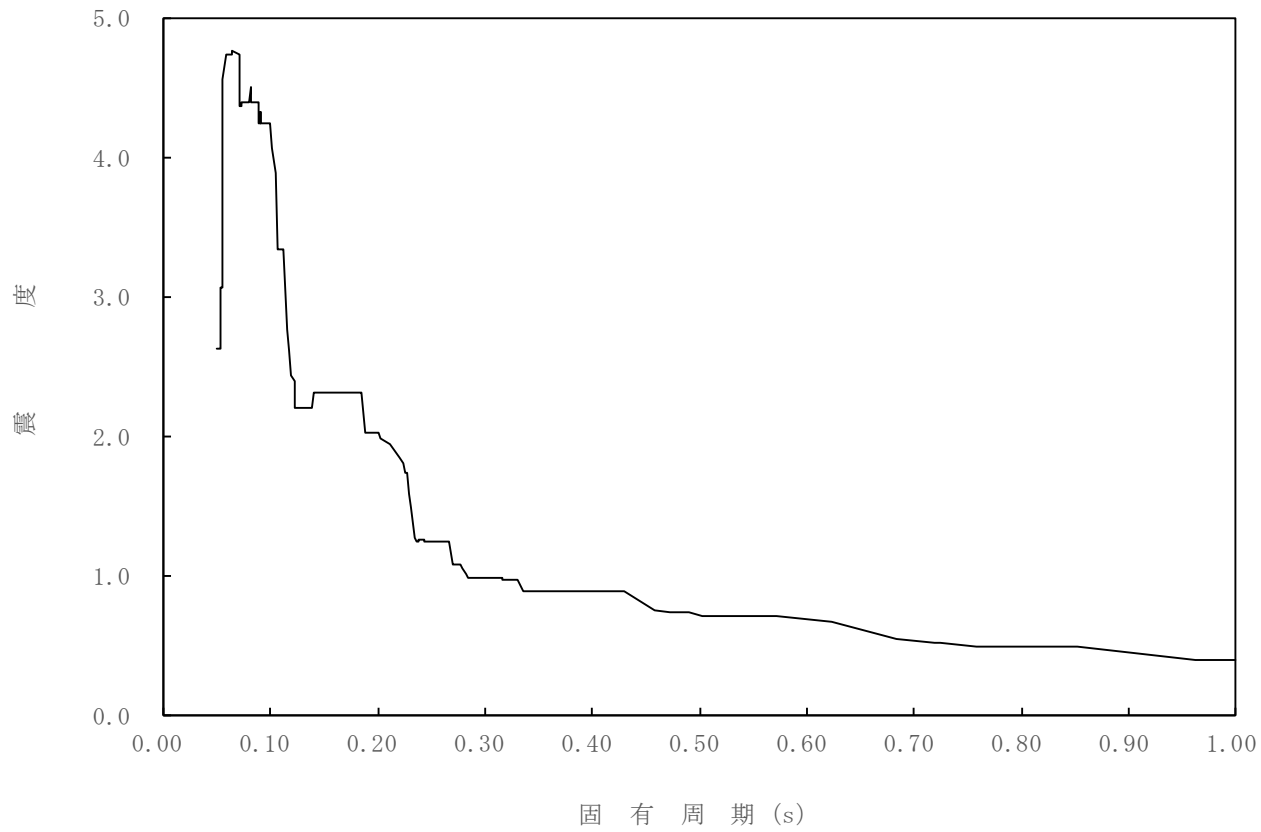
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D12100-015】

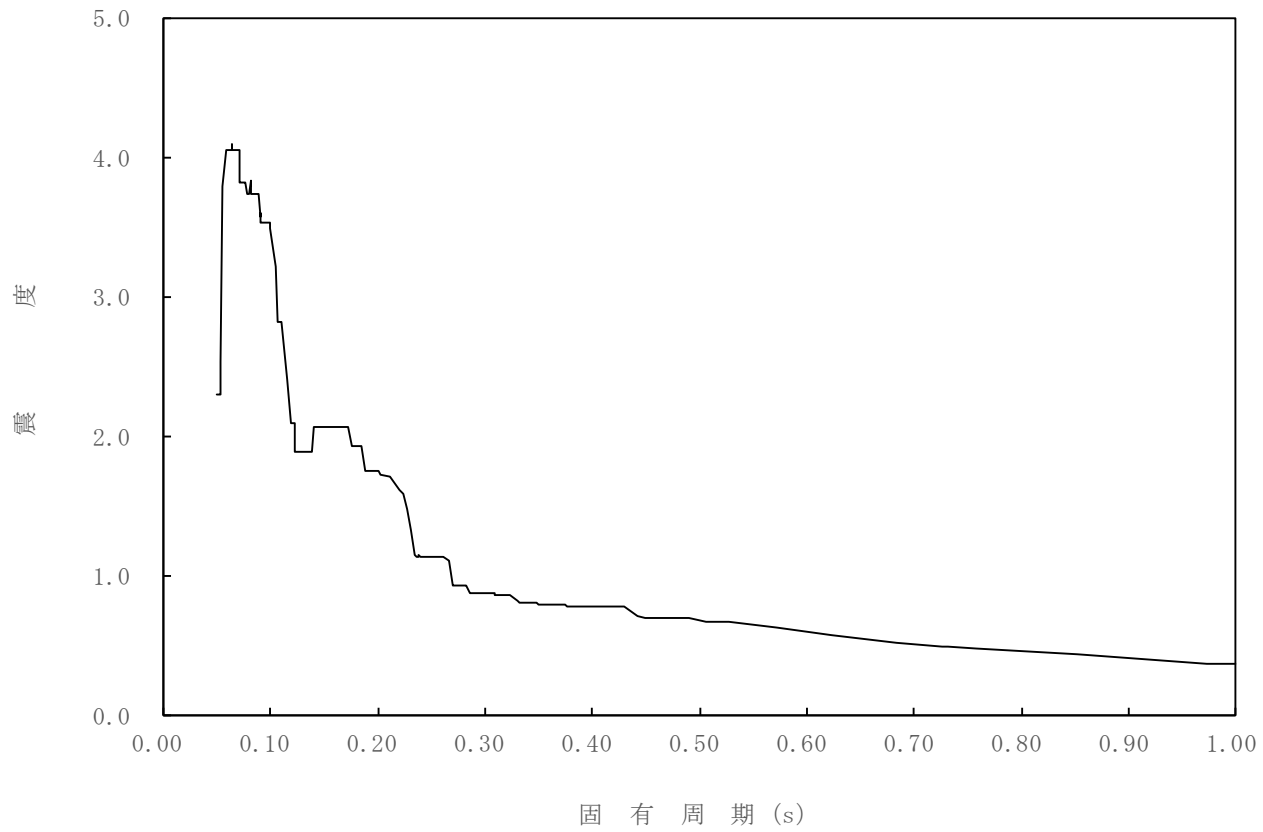
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D12100-020】

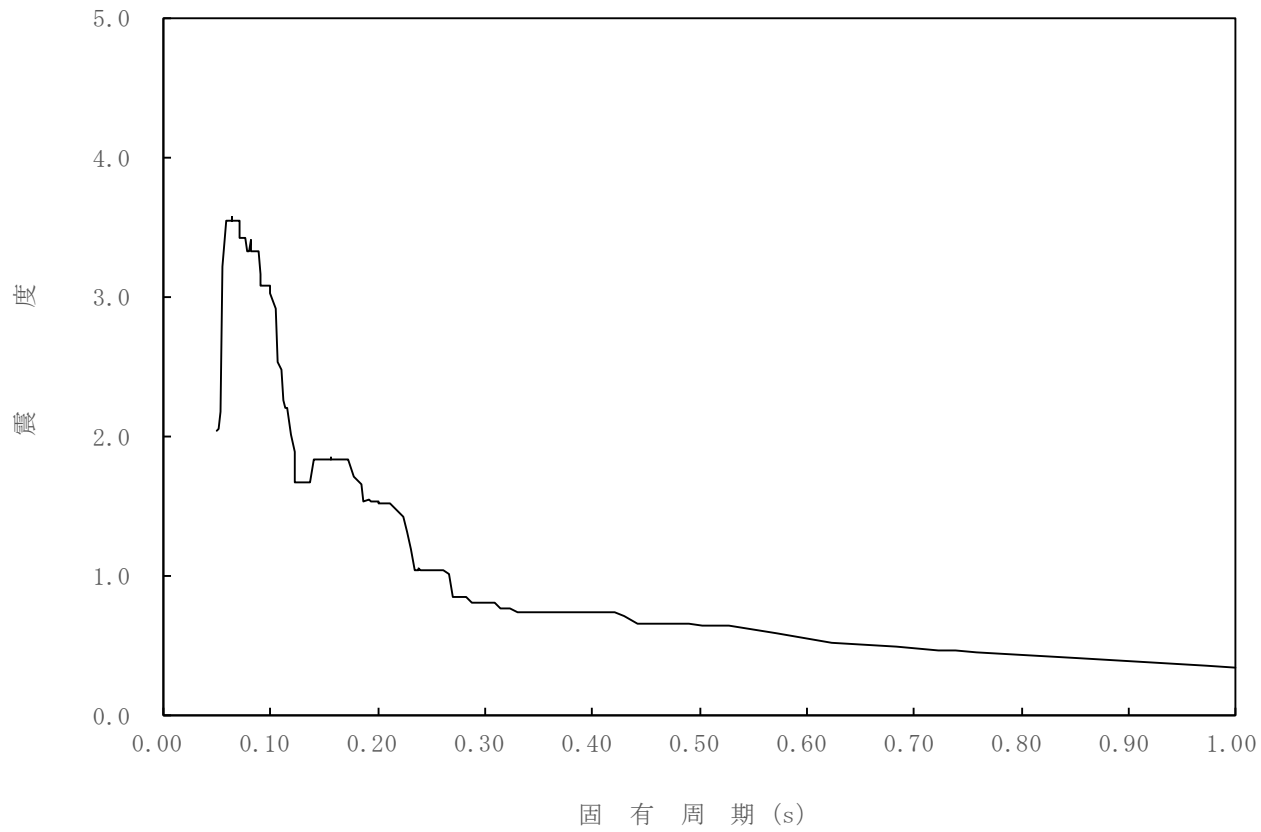
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D12100-025】

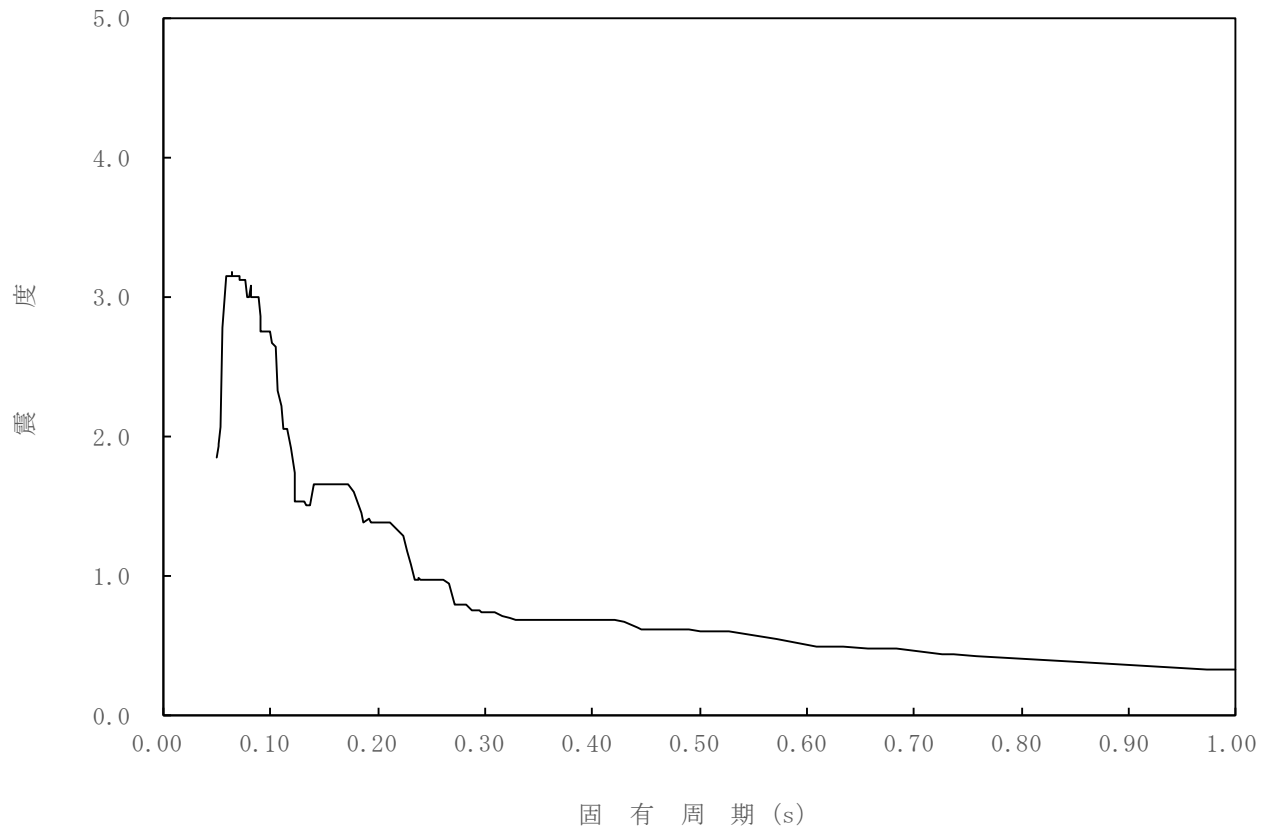
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D12100-030】

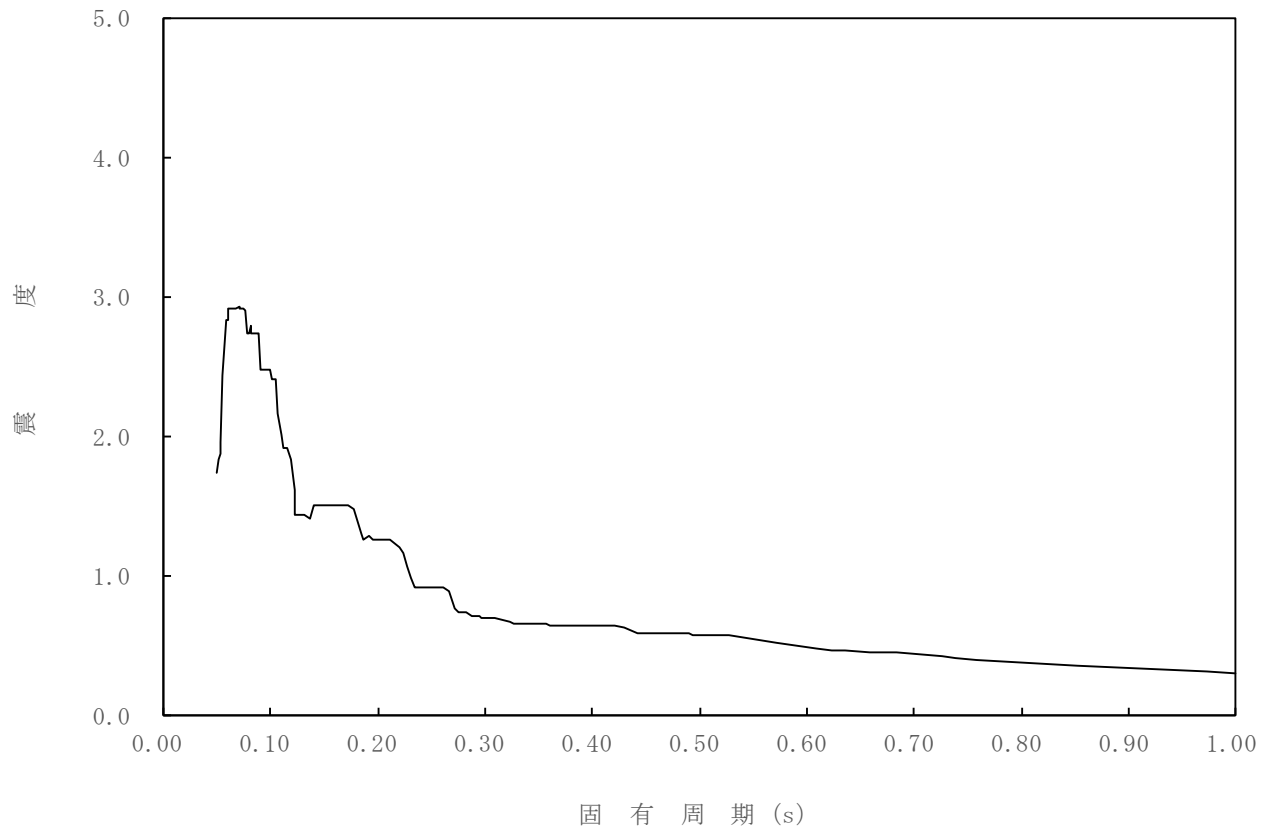
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：0.P. 12.100m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-D0D-SdV-D0D12100-050】

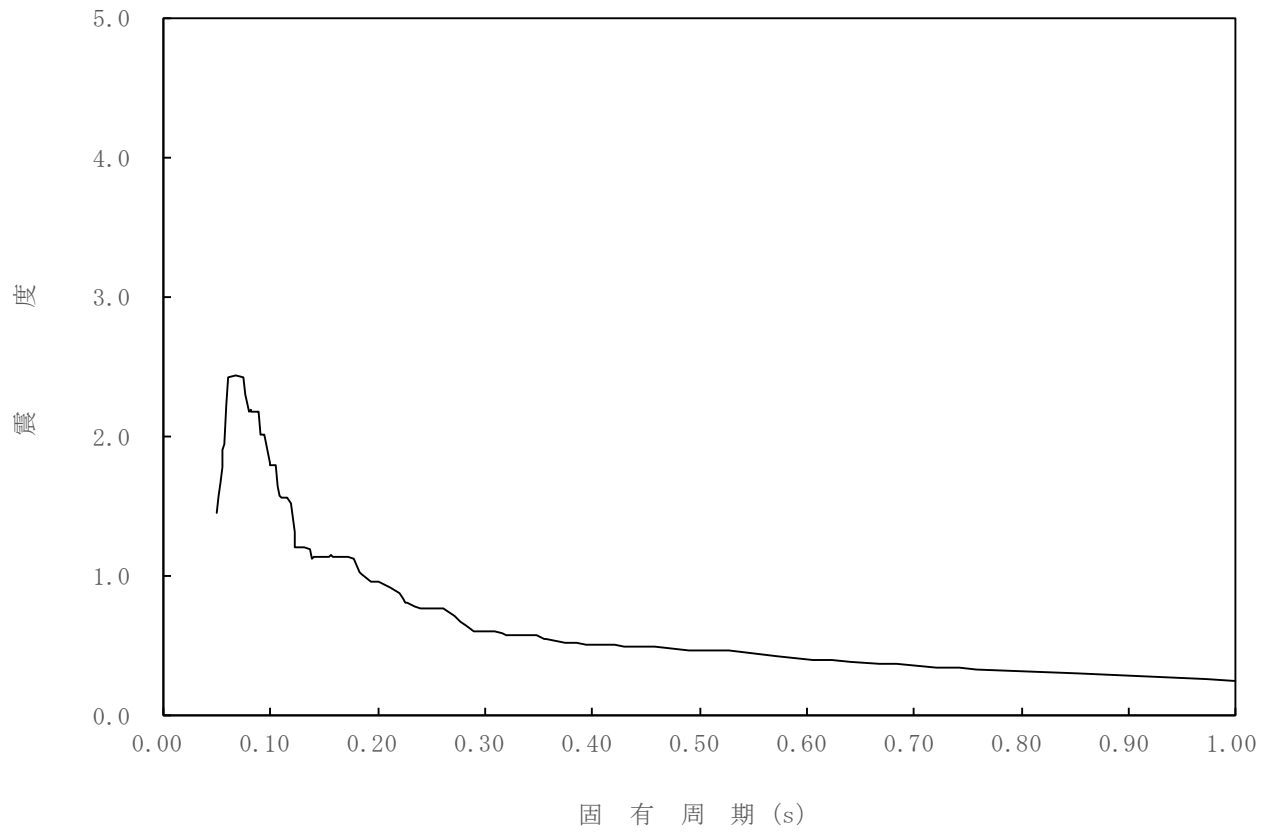
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 12.100m

— 鉛直方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D10500-005】

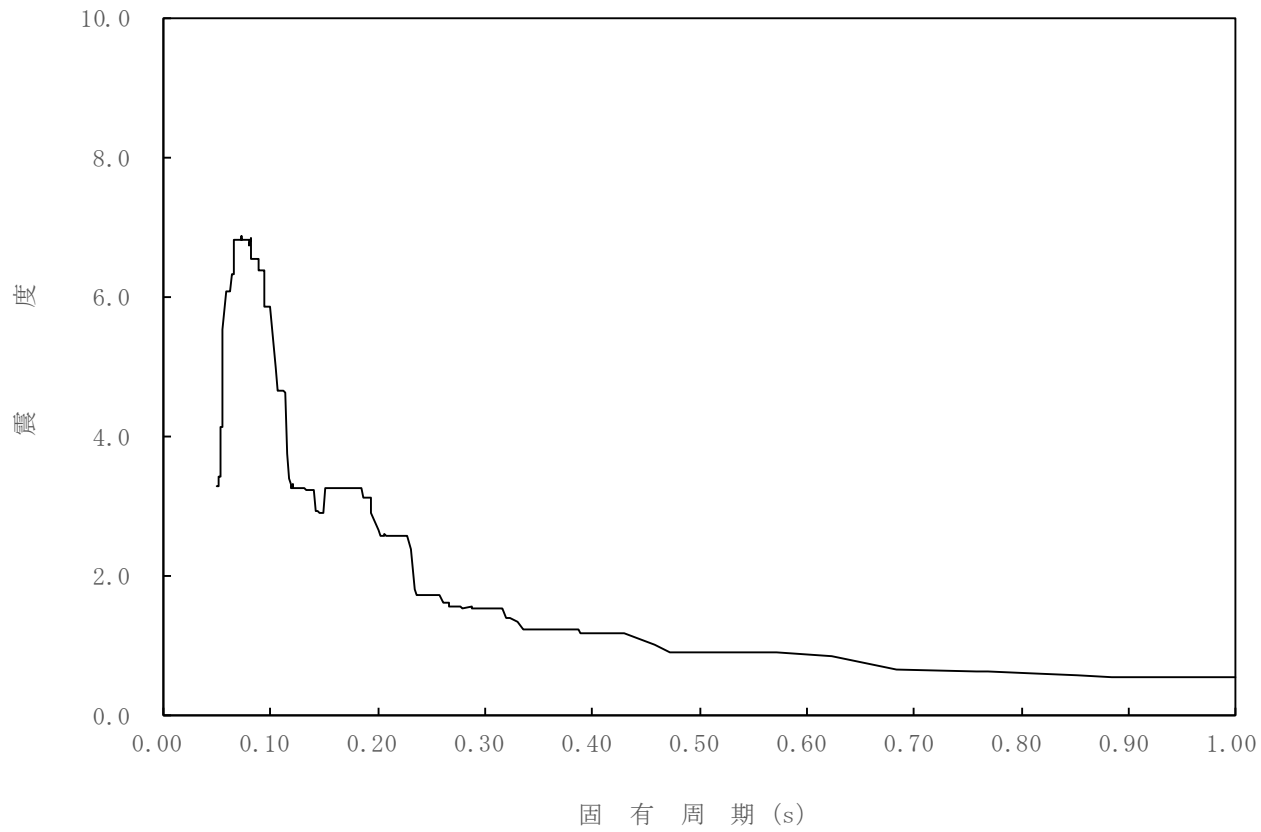
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：O.P. 10.500m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D10500-010】

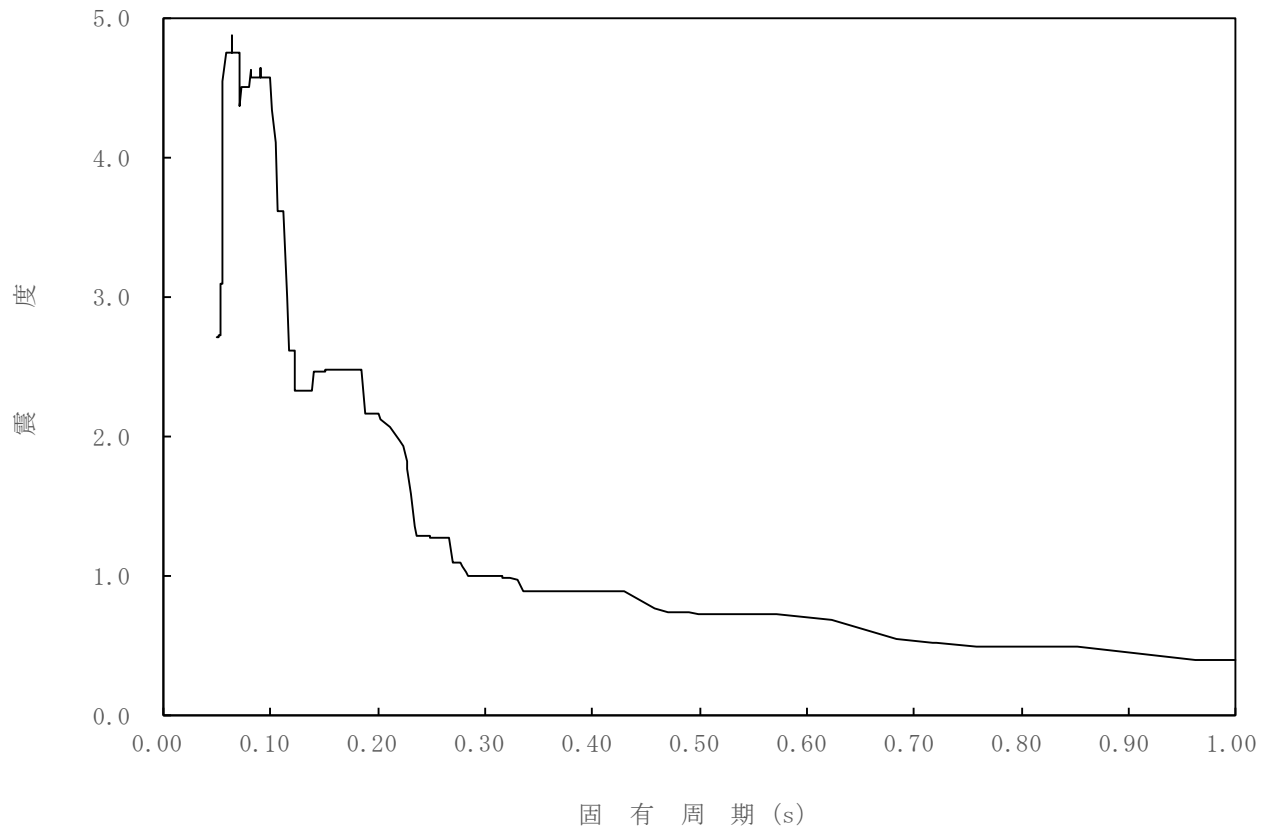
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：O.P. 10.500m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D10500-015】

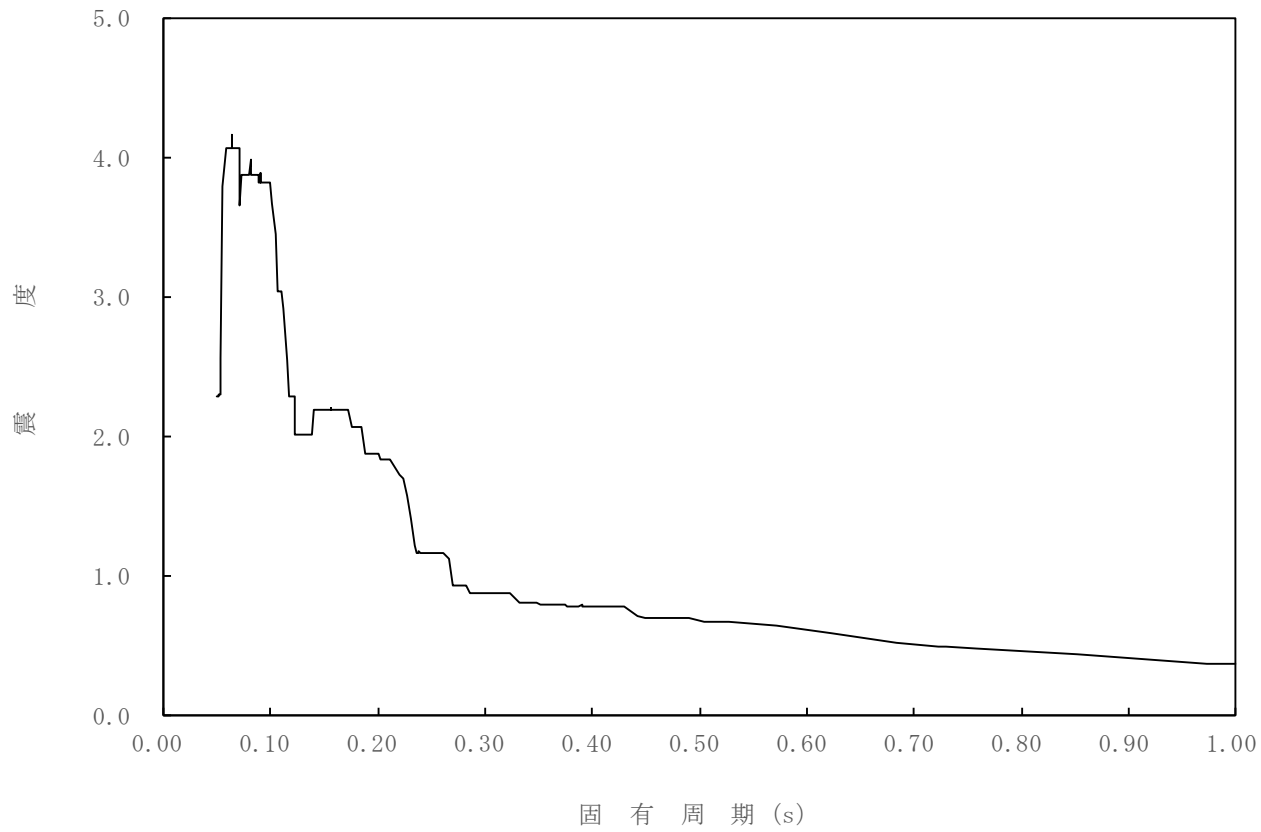
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：0.P. 10.500m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D10500-020】

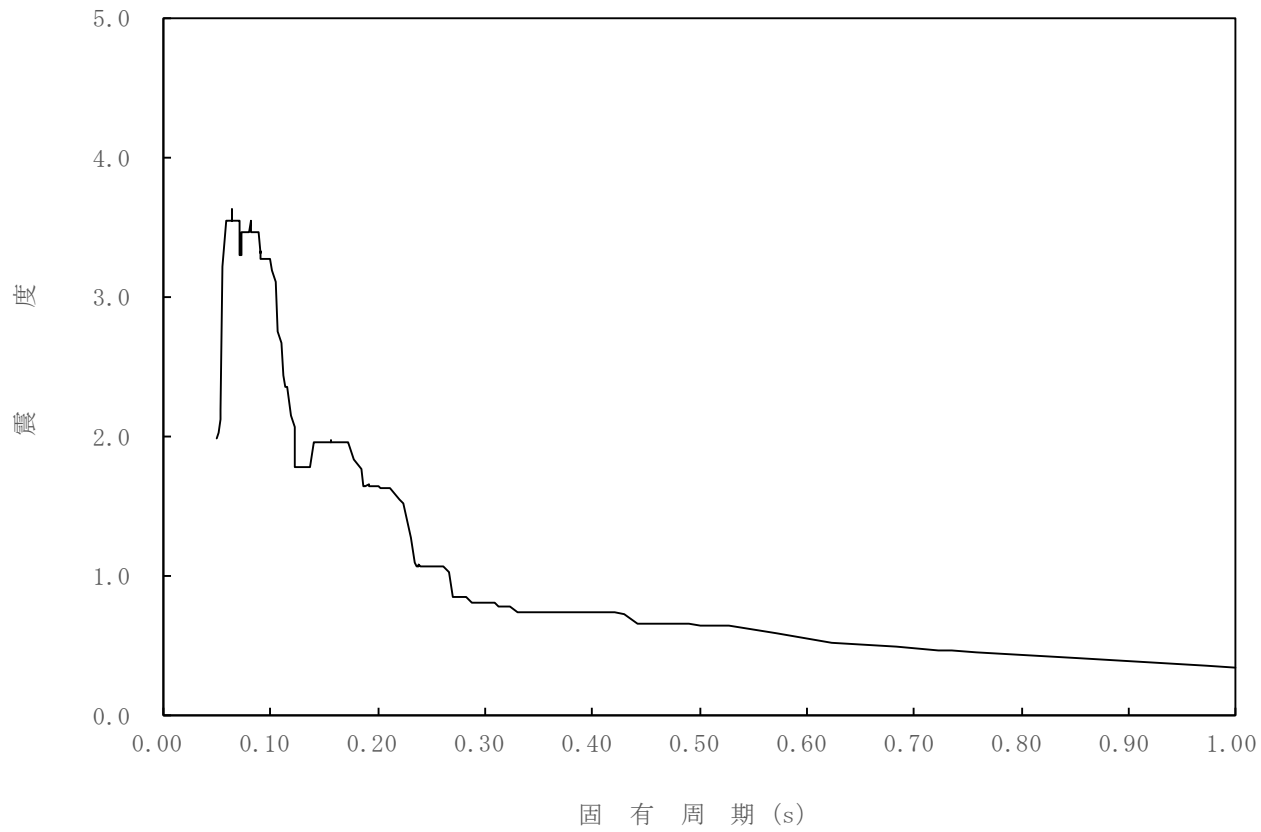
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：O.P. 10.500m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D10500-025】

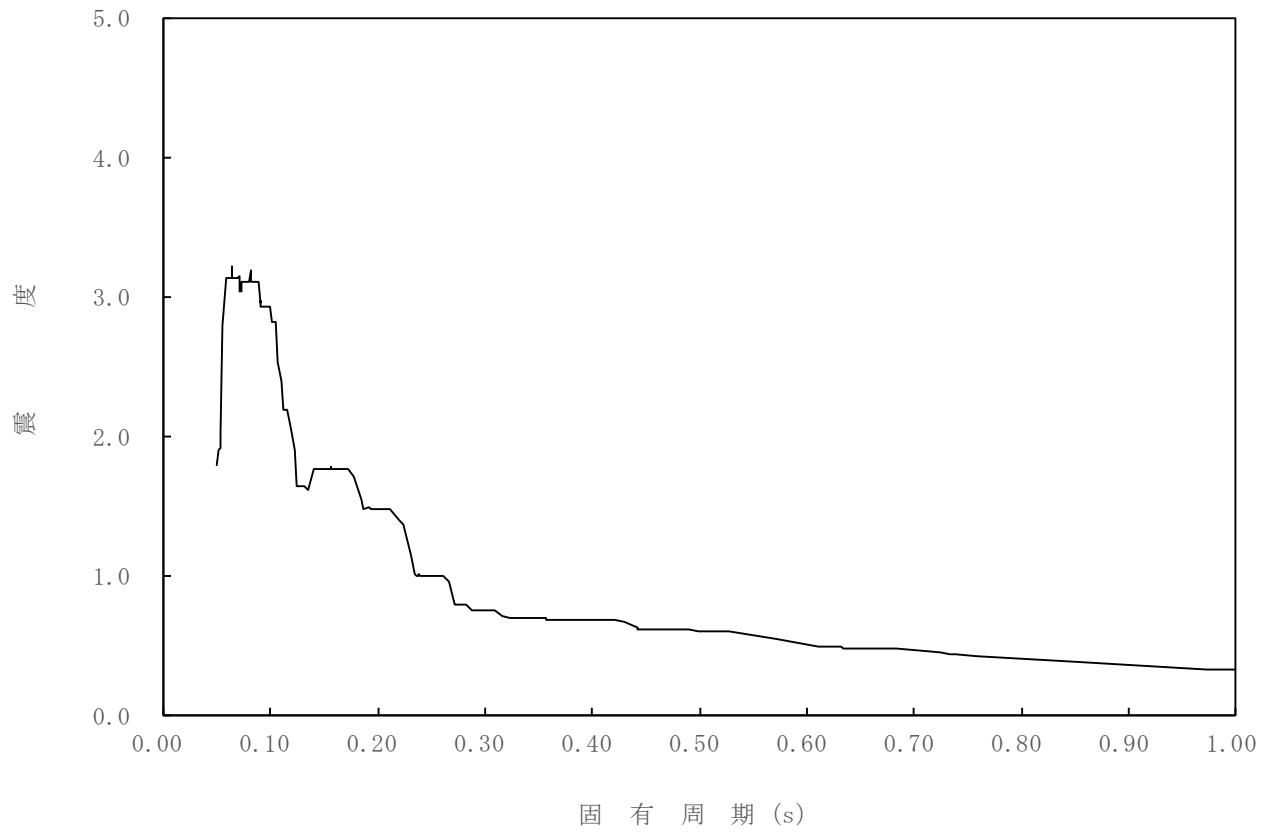
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0. P. 10.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D10500-030】

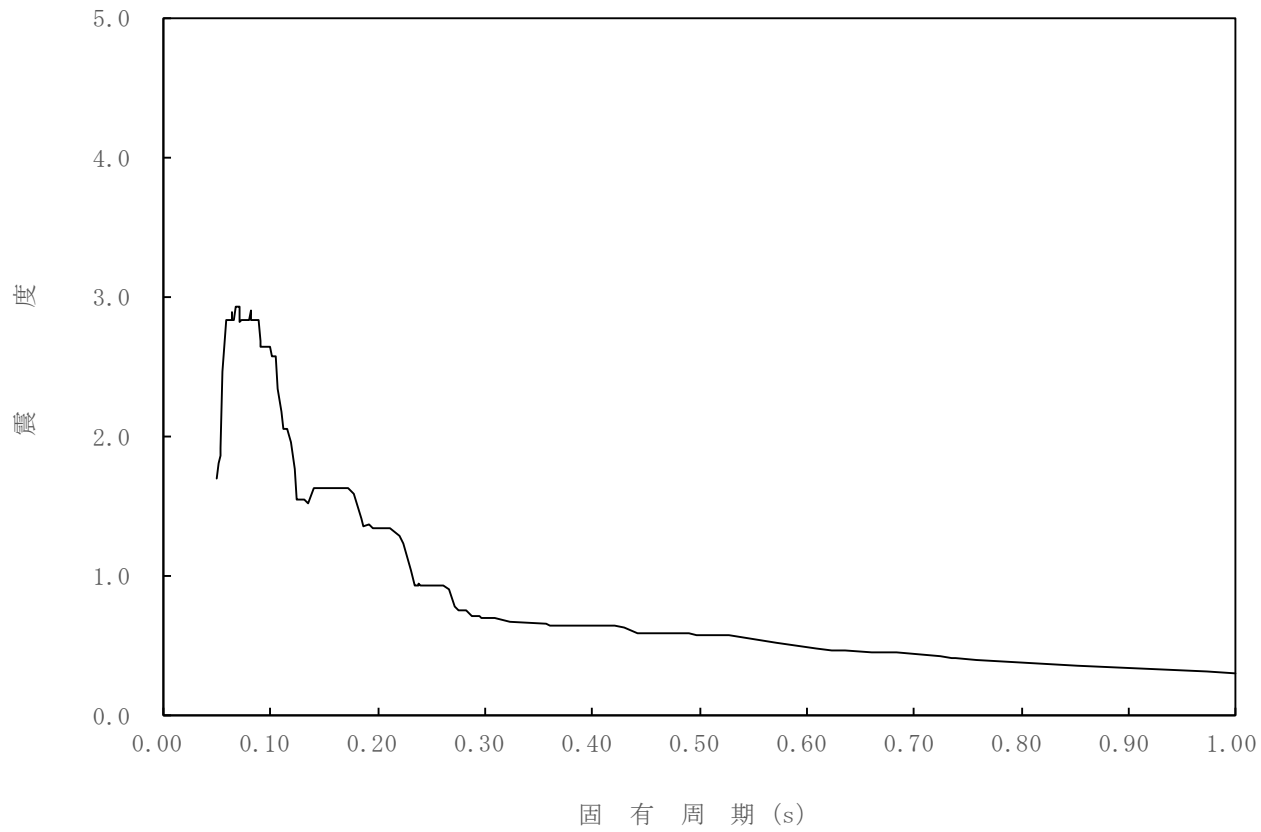
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 10.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 3.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D10500-050】

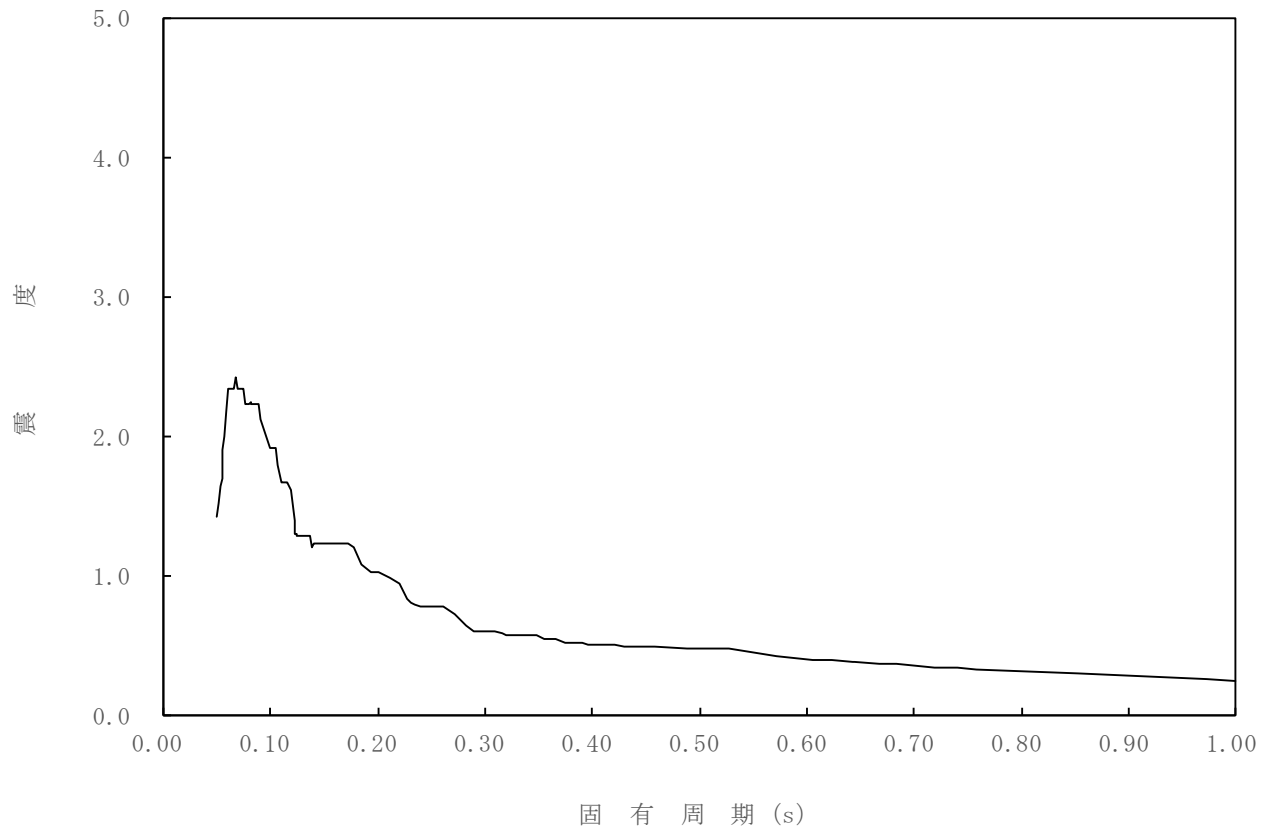
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：0.P. 10.500m

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-D0D-SdV-D0D9500-005】

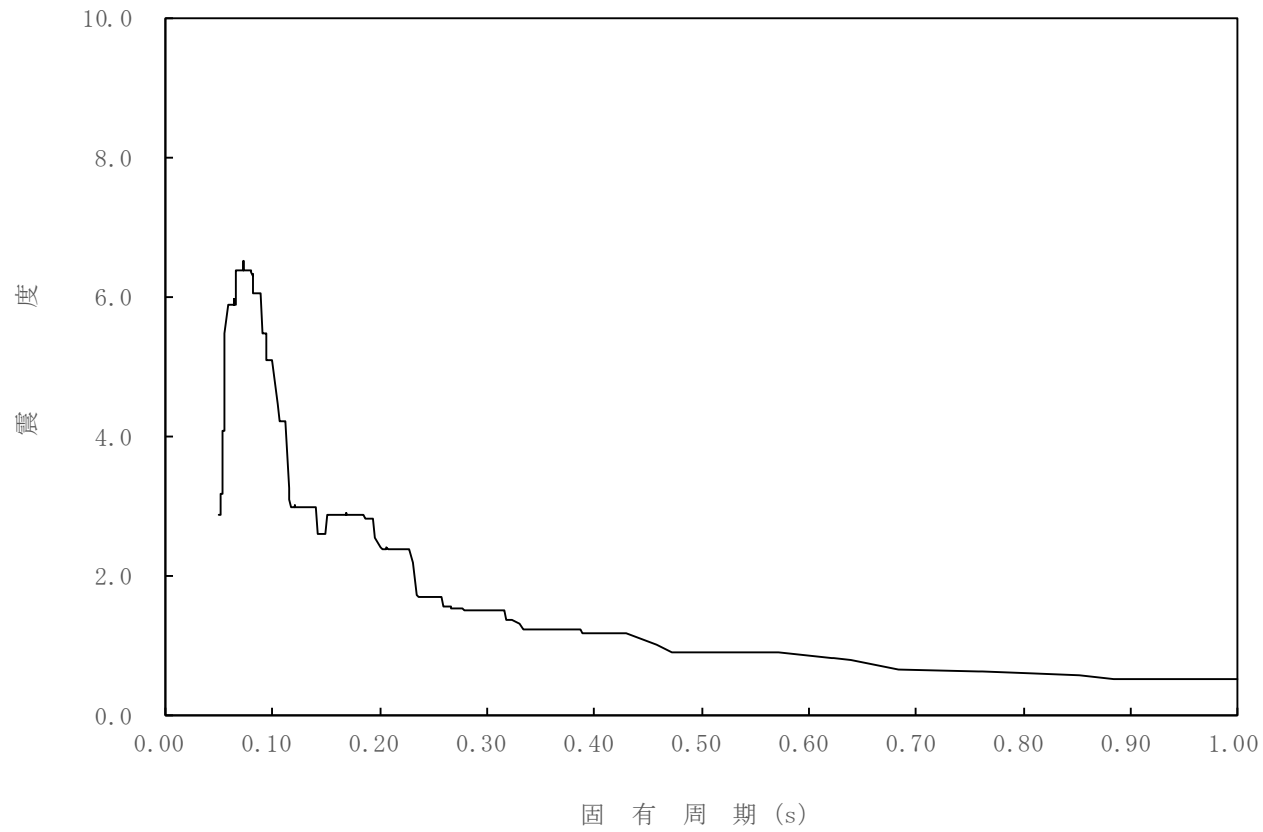
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D9500-010】

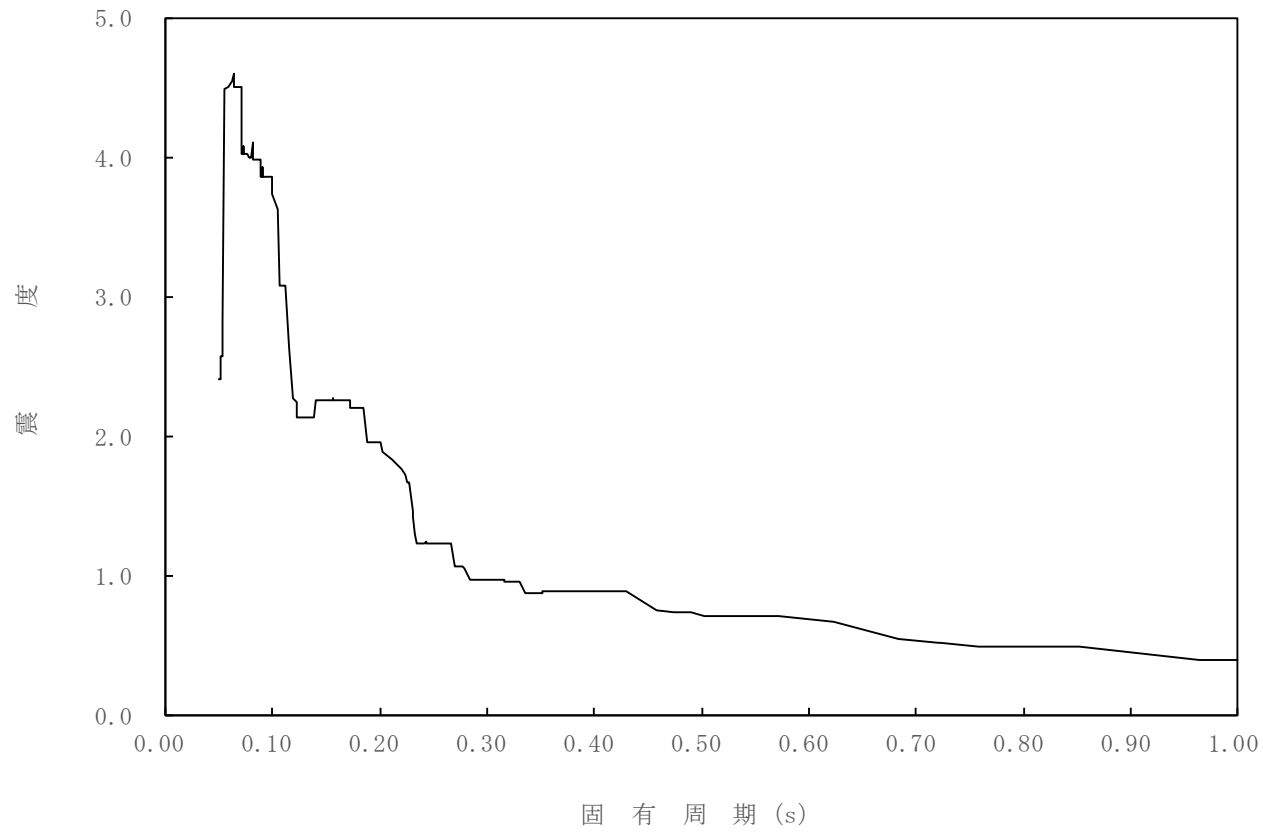
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D9500-015】

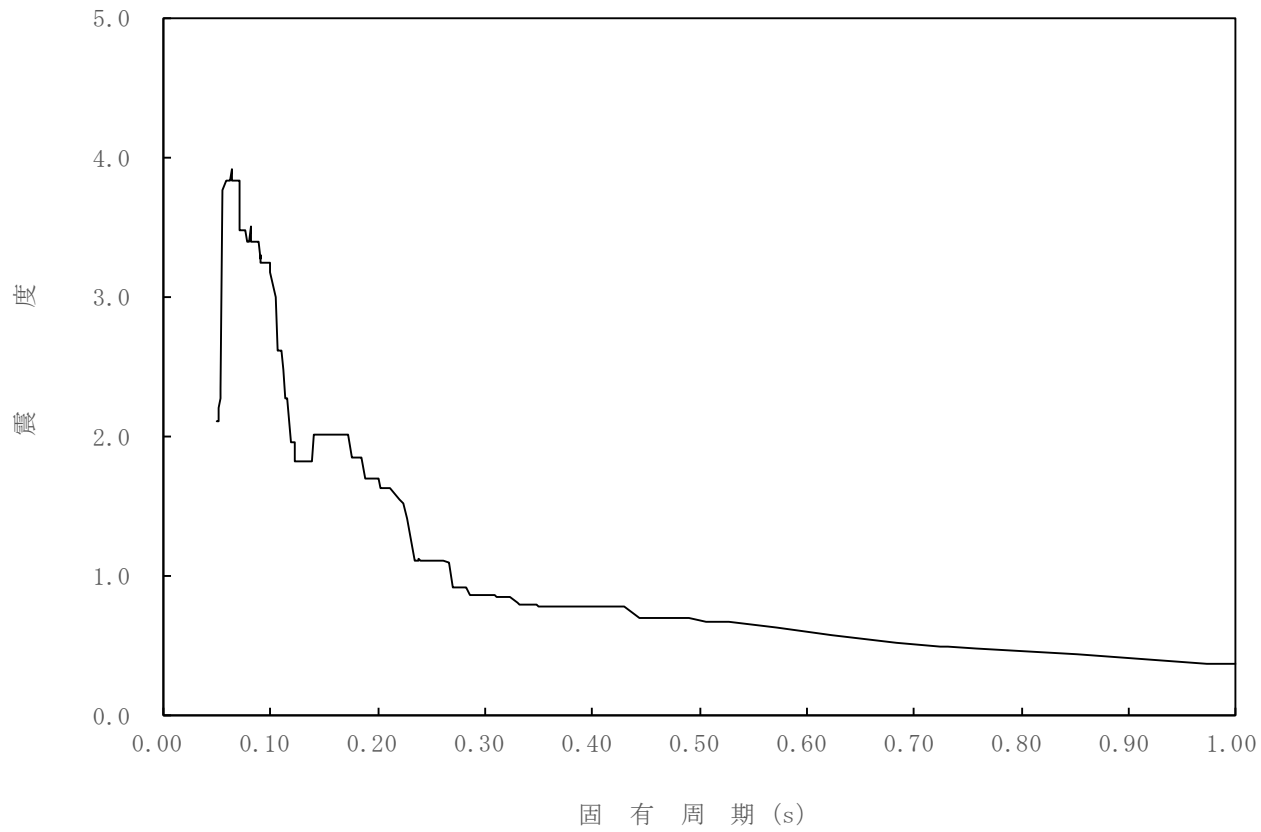
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 1.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-7-40

【02-D0D-SdV-D0D9500-020】

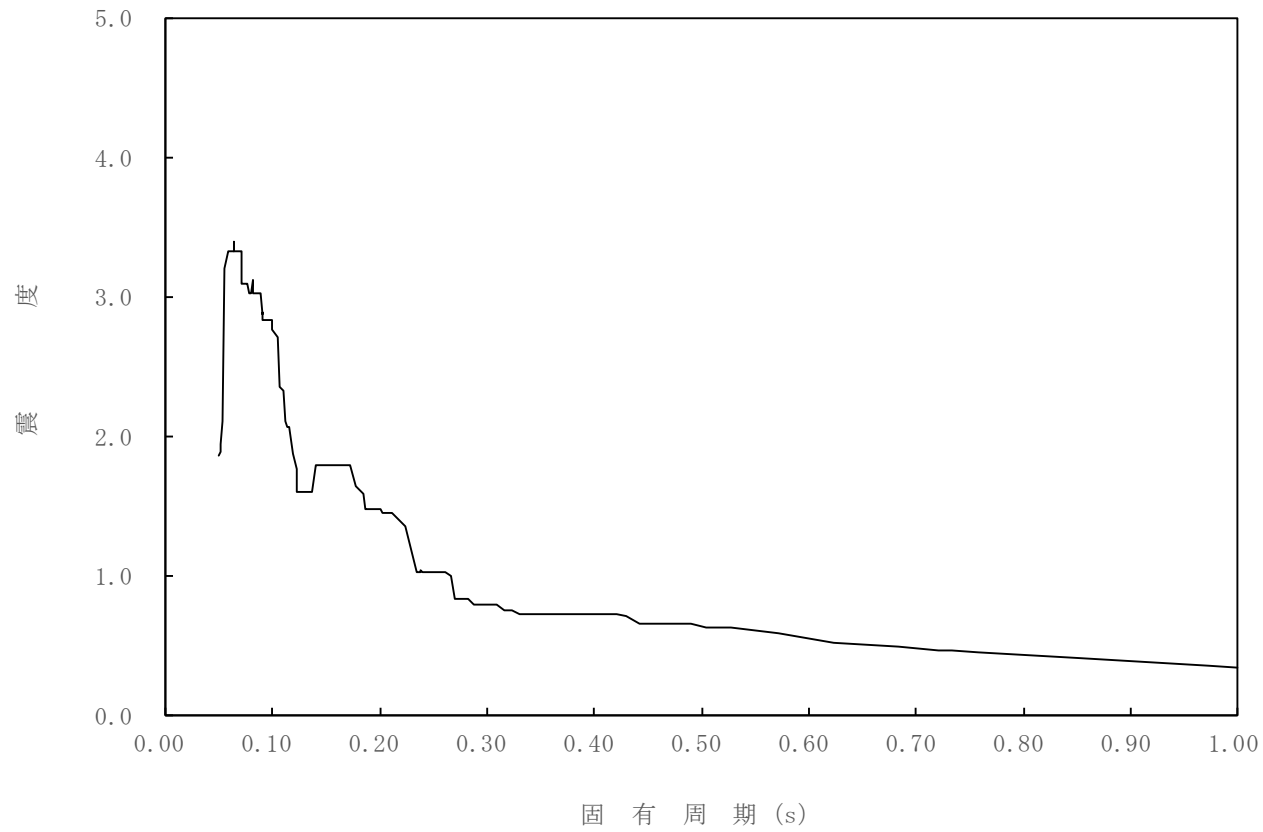
構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D9500-025】

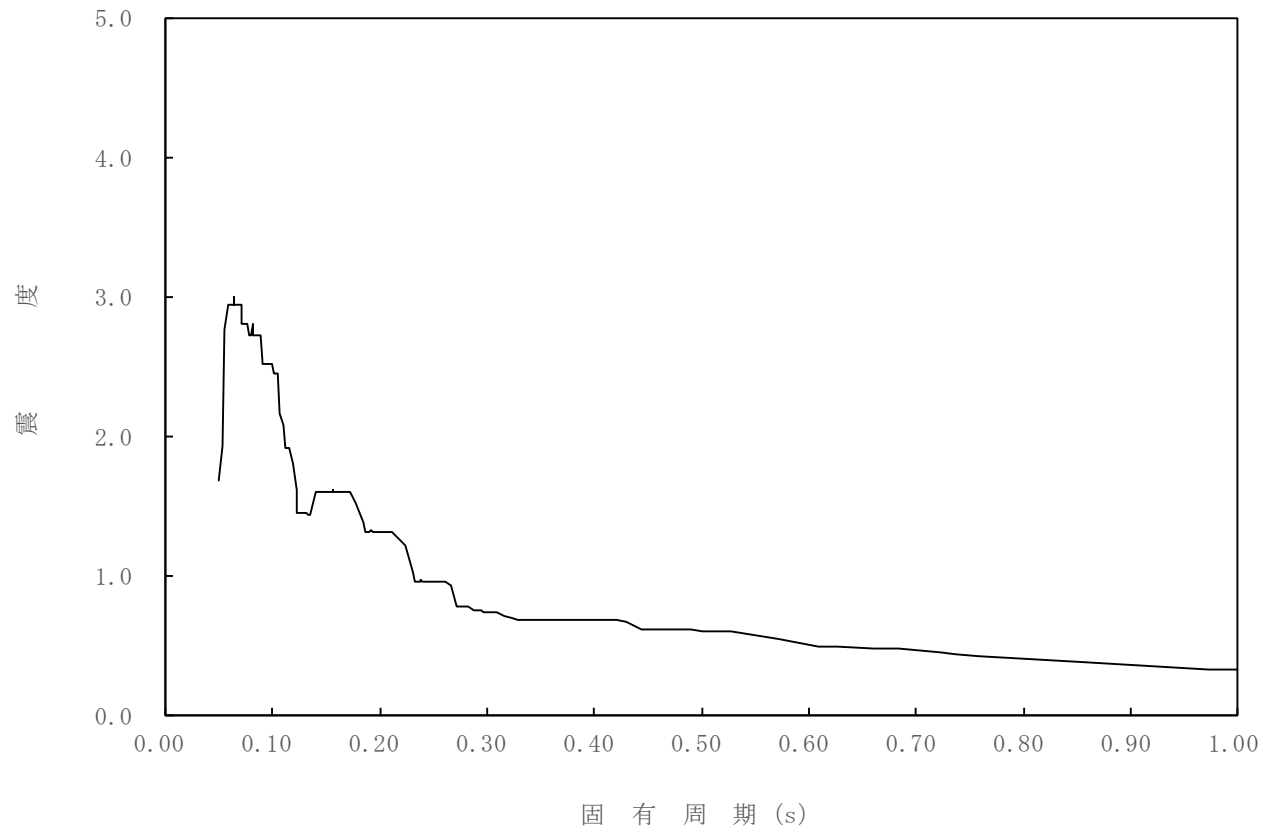
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D9500-030】

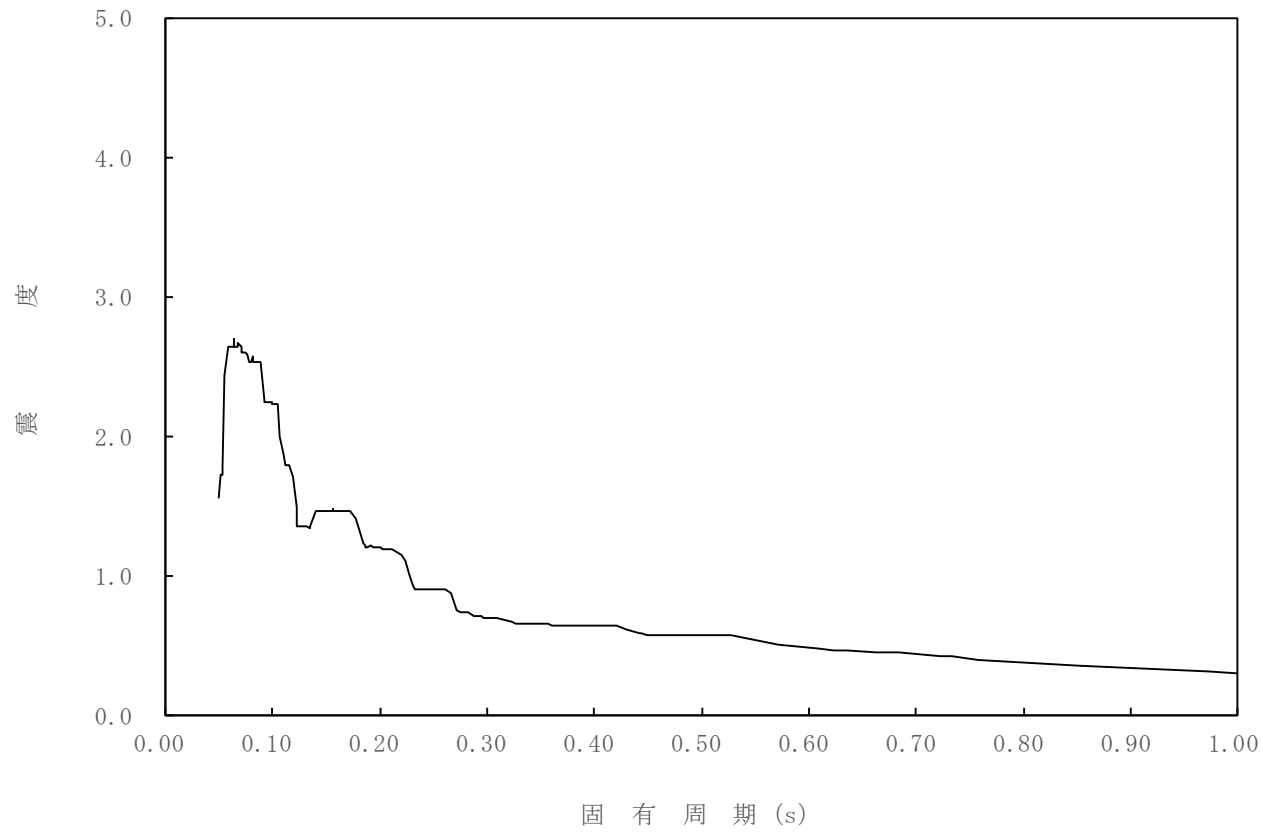
構造物名：軽油タンク連絡ダクト

標高：0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-D0D-SdV-D0D9500-050】

構造物名： 軽油タンク連絡ダクト

標高： 0.P. 9.500m

— 鉛直方向

減衰定数： 5.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d

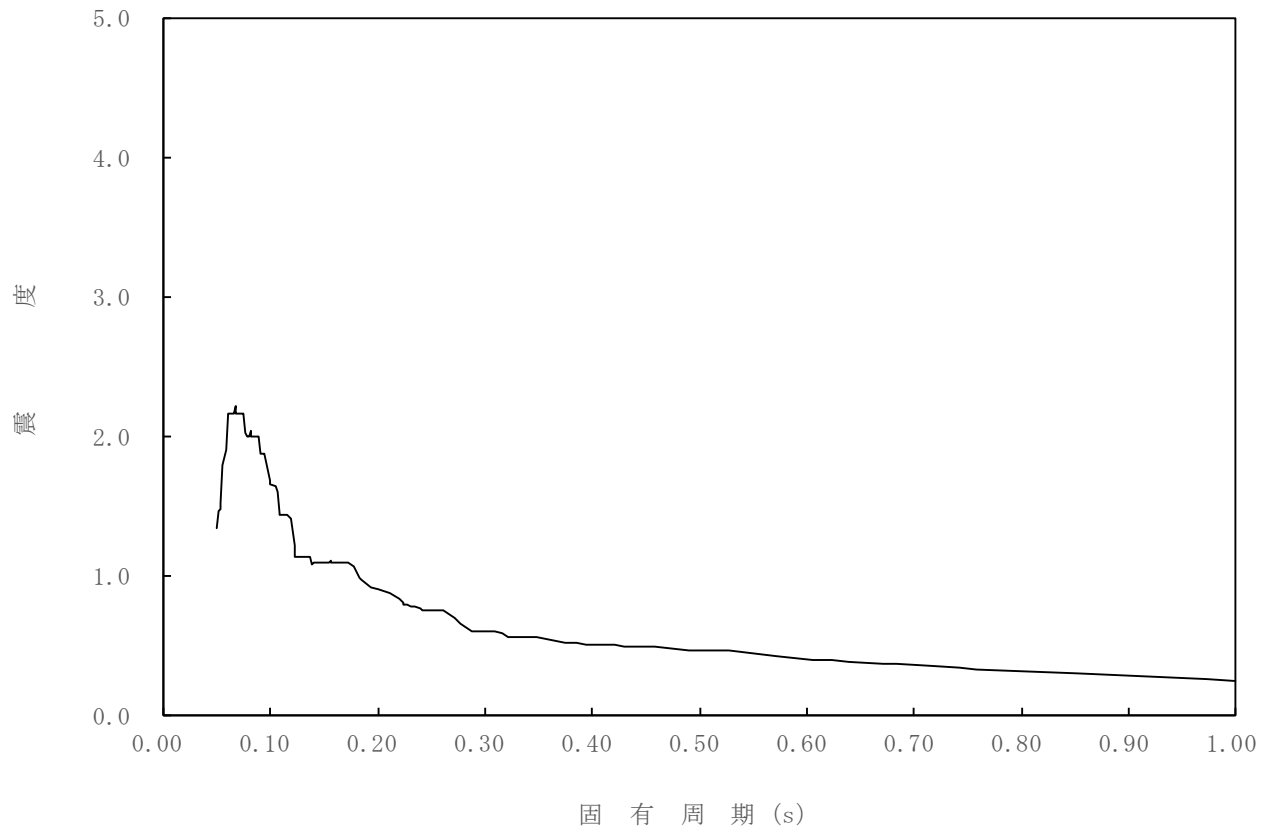


表 4-2-8 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 排気筒基礎 : 水平方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	排気筒基礎	水平 方向	1	14. 800	0. 5	02-STK-SdH-STK14800-005
					1. 0	02-STK-SdH-STK14800-010
					1. 5	02-STK-SdH-STK14800-015
					2. 0	02-STK-SdH-STK14800-020
					3. 0	02-STK-SdH-STK14800-030
			6	10. 410	0. 5	02-STK-SdH-STK10410-005
					1. 0	02-STK-SdH-STK10410-010
					1. 5	02-STK-SdH-STK10410-015
					2. 0	02-STK-SdH-STK10410-020
					3. 0	02-STK-SdH-STK10410-030
			10	6. 600	0. 5	02-STK-SdH-STK6600-005
					1. 0	02-STK-SdH-STK6600-010
					1. 5	02-STK-SdH-STK6600-015
					2. 0	02-STK-SdH-STK6600-020
					3. 0	02-STK-SdH-STK6600-030
			17	1. 000	0. 5	02-STK-SdH-STK1000-005
					1. 0	02-STK-SdH-STK1000-010
					1. 5	02-STK-SdH-STK1000-015
					2. 0	02-STK-SdH-STK1000-020
					3. 0	02-STK-SdH-STK1000-030



表 4-2-8 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 排気筒基礎: 鉛直方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	排気筒基礎	鉛直 方向	1	14. 800	0. 5	02-STK-SdV-STK14800-005
					1. 0	02-STK-SdV-STK14800-010
					1. 5	02-STK-SdV-STK14800-015
					2. 0	02-STK-SdV-STK14800-020
					3. 0	02-STK-SdV-STK14800-030
			6	10. 410	0. 5	02-STK-SdV-STK10410-005
					1. 0	02-STK-SdV-STK10410-010
					1. 5	02-STK-SdV-STK10410-015
					2. 0	02-STK-SdV-STK10410-020
					3. 0	02-STK-SdV-STK10410-030
			10	6. 600	0. 5	02-STK-SdV-STK6600-005
					1. 0	02-STK-SdV-STK6600-010
					1. 5	02-STK-SdV-STK6600-015
					2. 0	02-STK-SdV-STK6600-020
					3. 0	02-STK-SdV-STK6600-030
			17	1. 000	0. 5	02-STK-SdV-STK1000-005
					1. 0	02-STK-SdV-STK1000-010
					1. 5	02-STK-SdV-STK1000-015
					2. 0	02-STK-SdV-STK1000-020
					3. 0	02-STK-SdV-STK1000-030

【02-STK-SdH-STK14800-005】

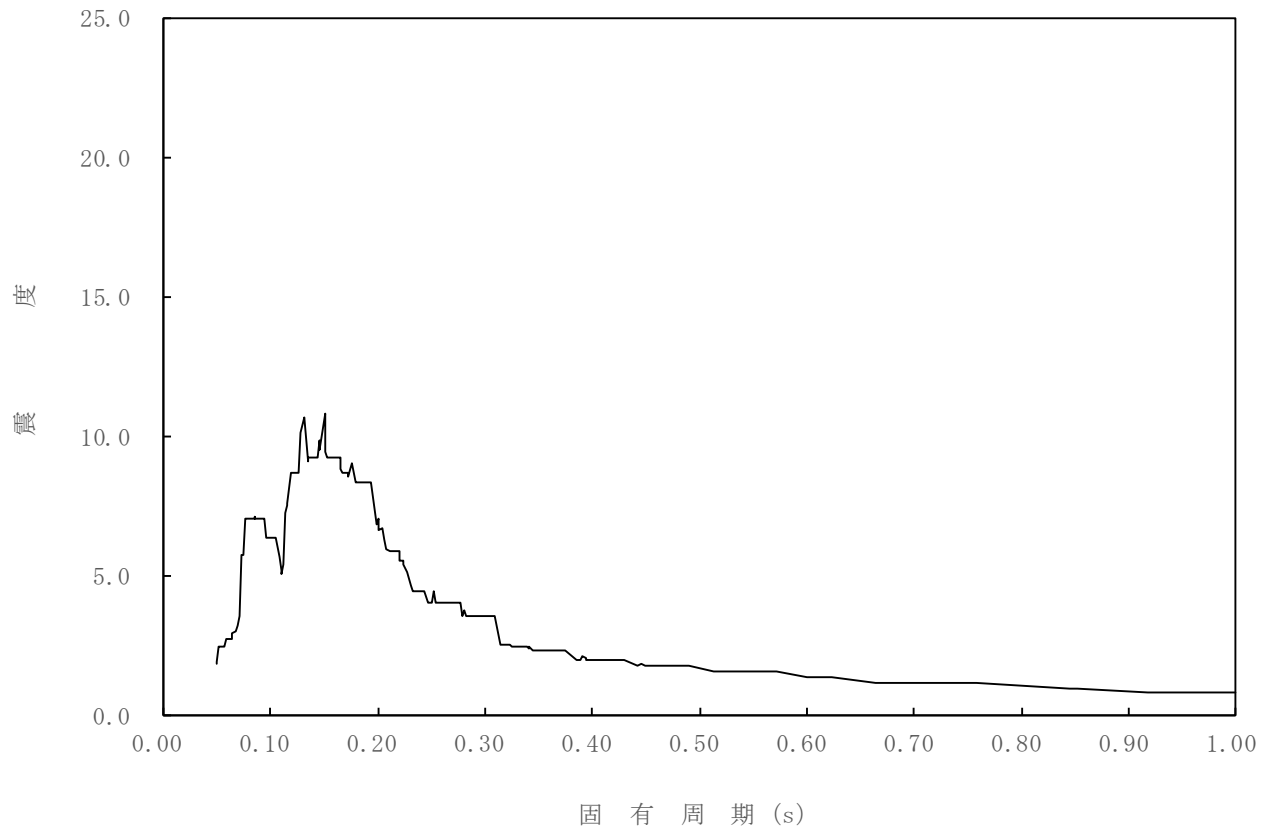
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK14800-010】

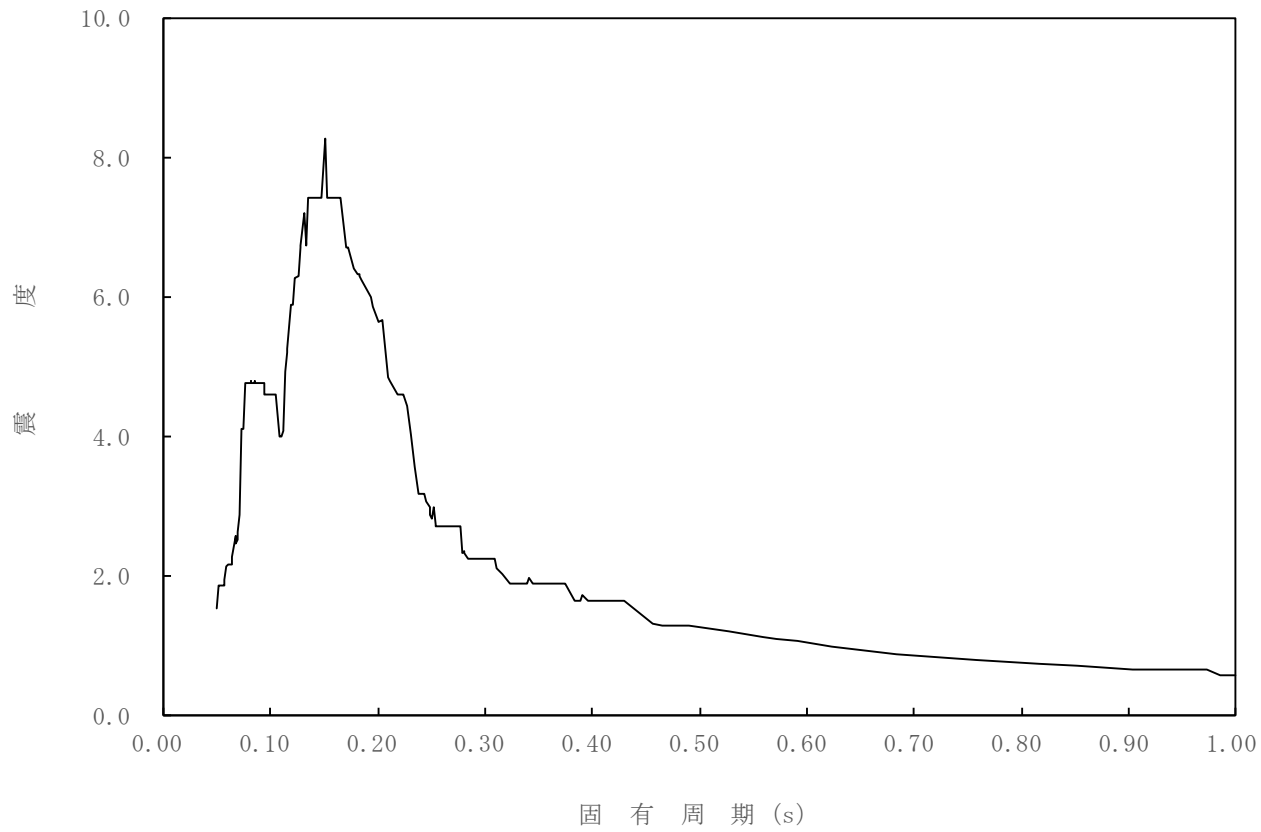
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-4

【02-STK-SdH-STK14800-015】

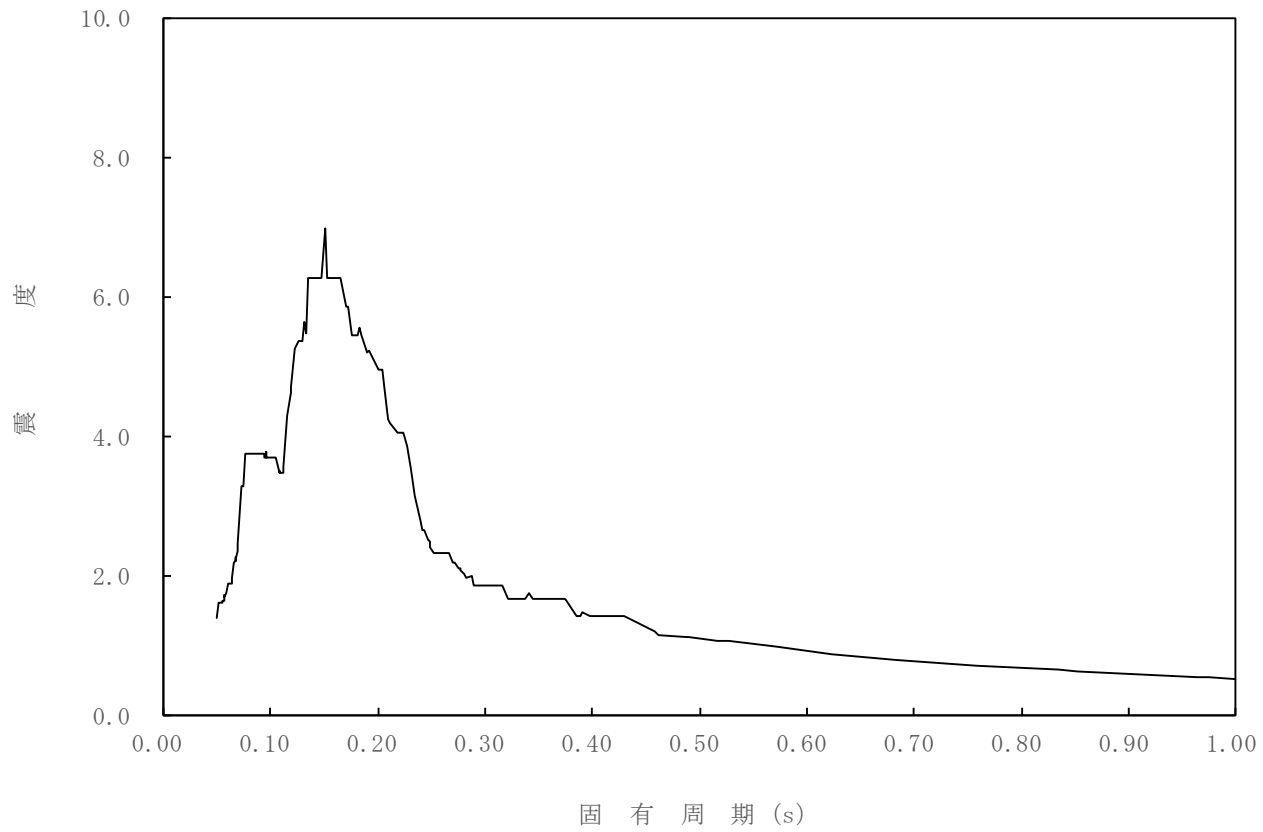
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK14800-020】

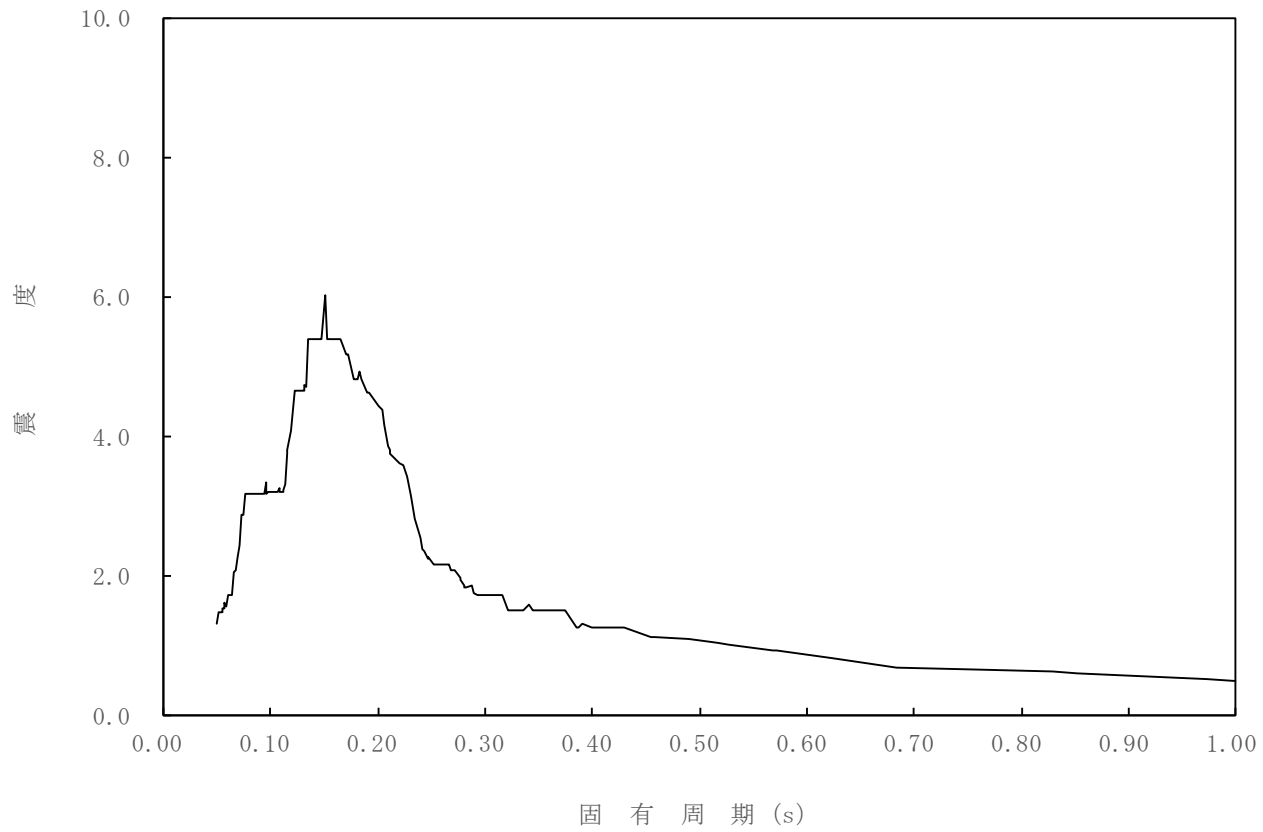
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK14800-030】

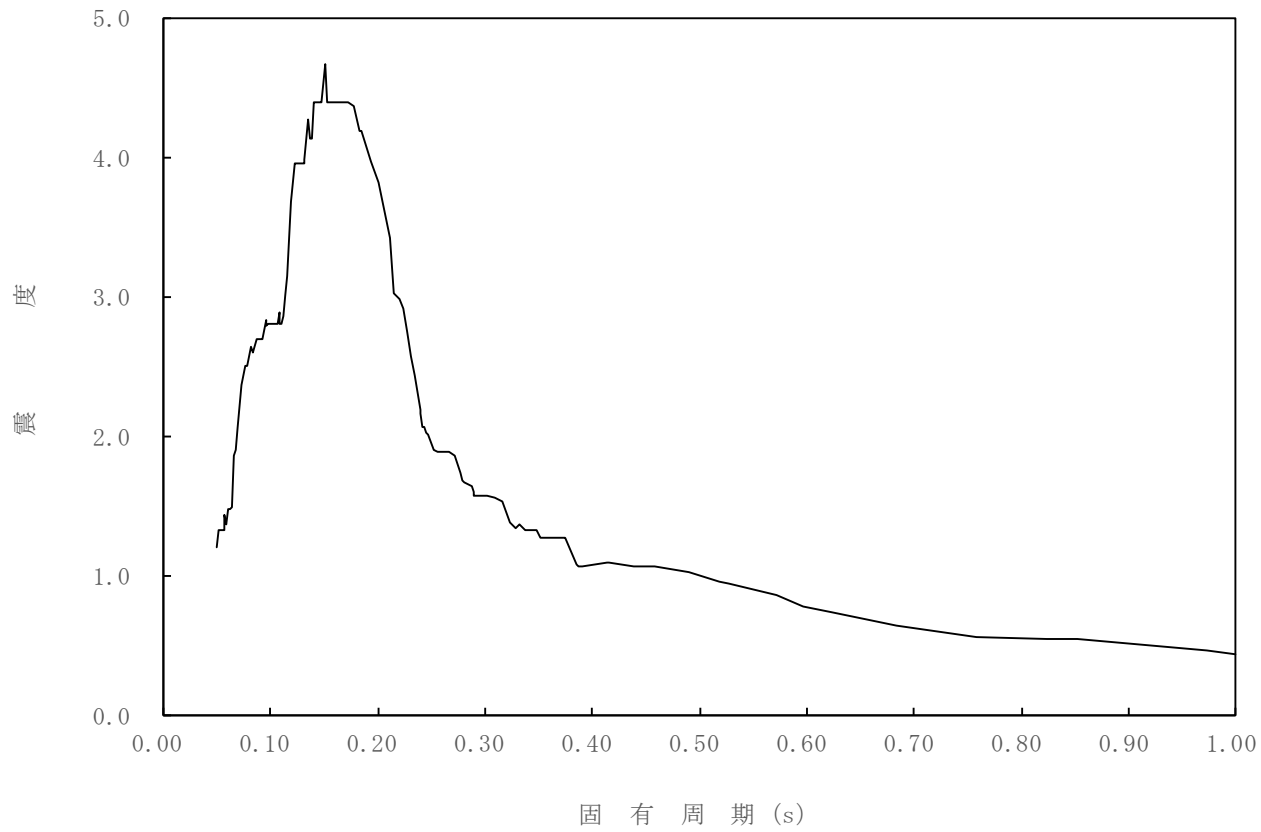
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 14.800m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-7

【02-STK-SdH-STK10410-005】

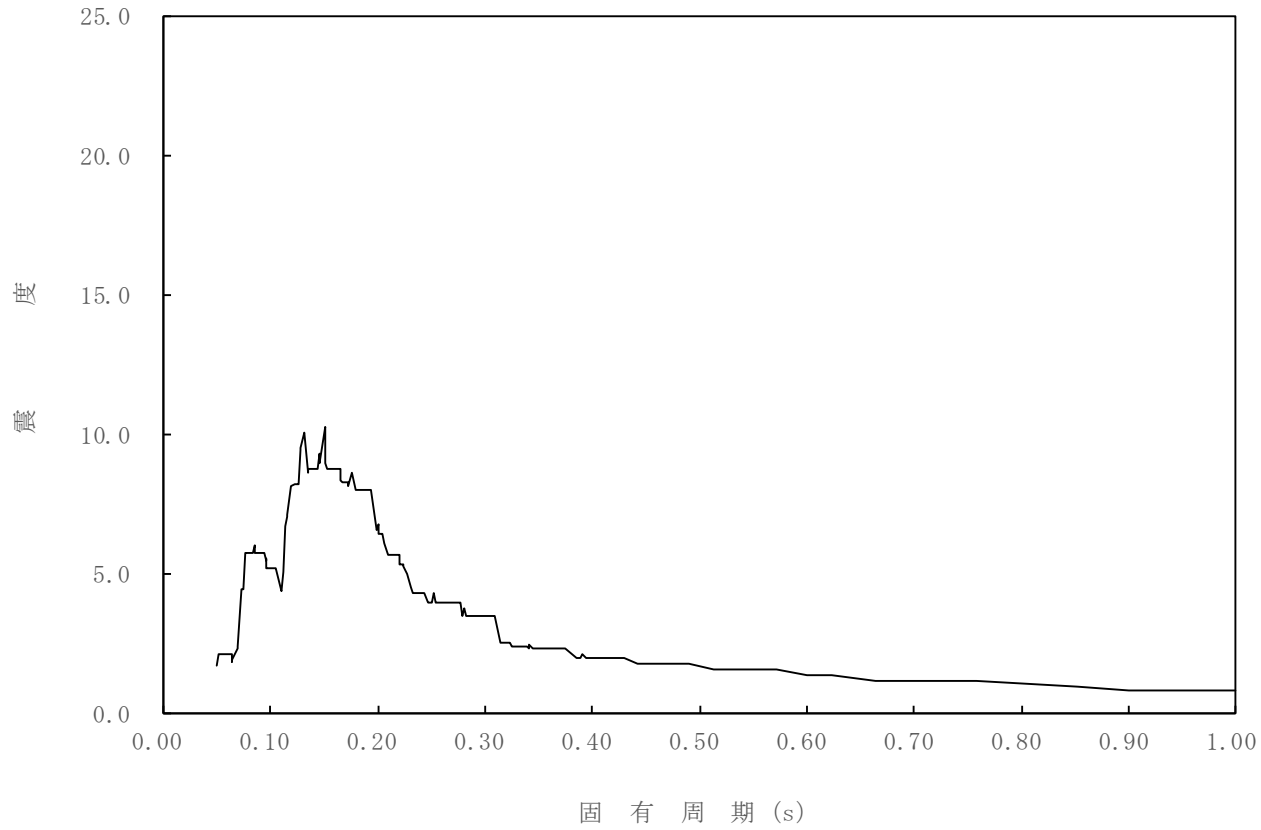
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 10.410m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK10410-010】

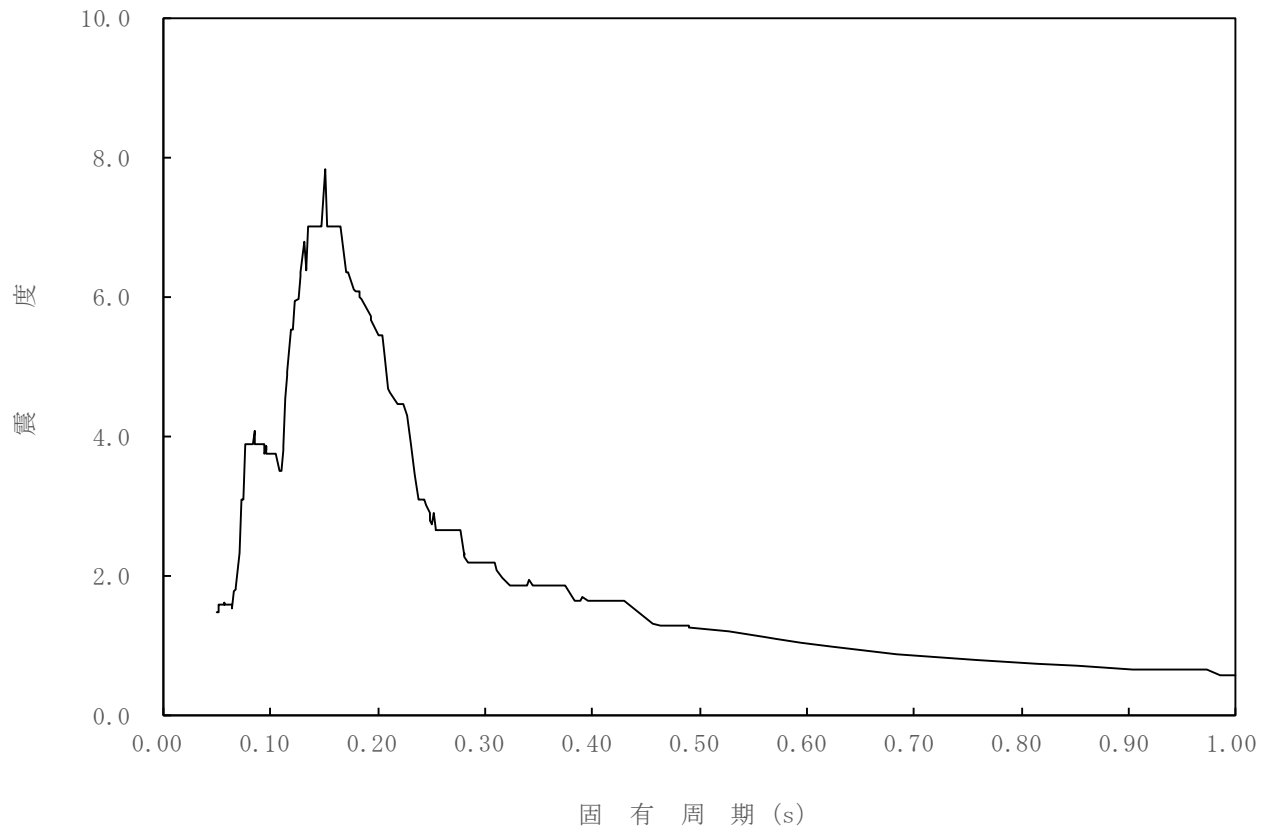
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 10.410m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-STK-SdH-STK10410-015】

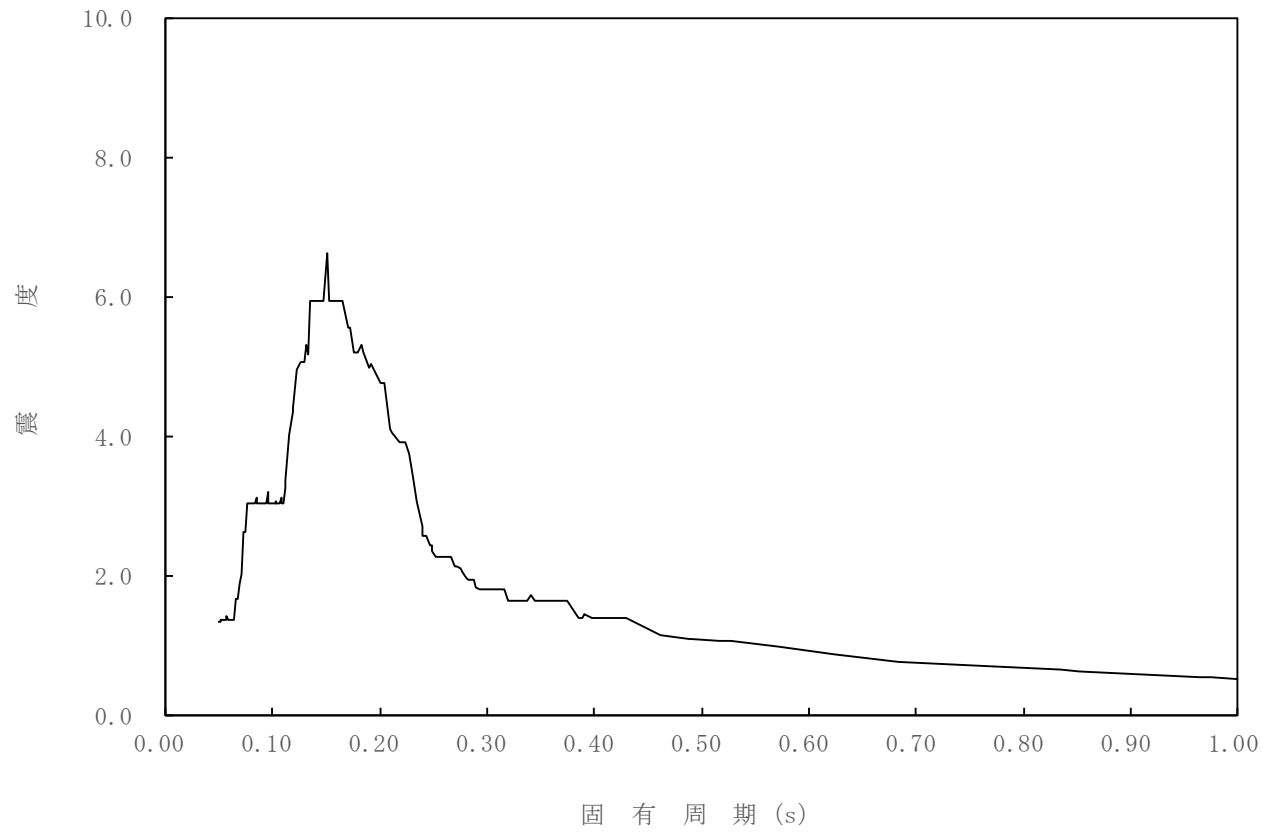
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 10.410m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-10

【02-STK-SdH-STK10410-020】

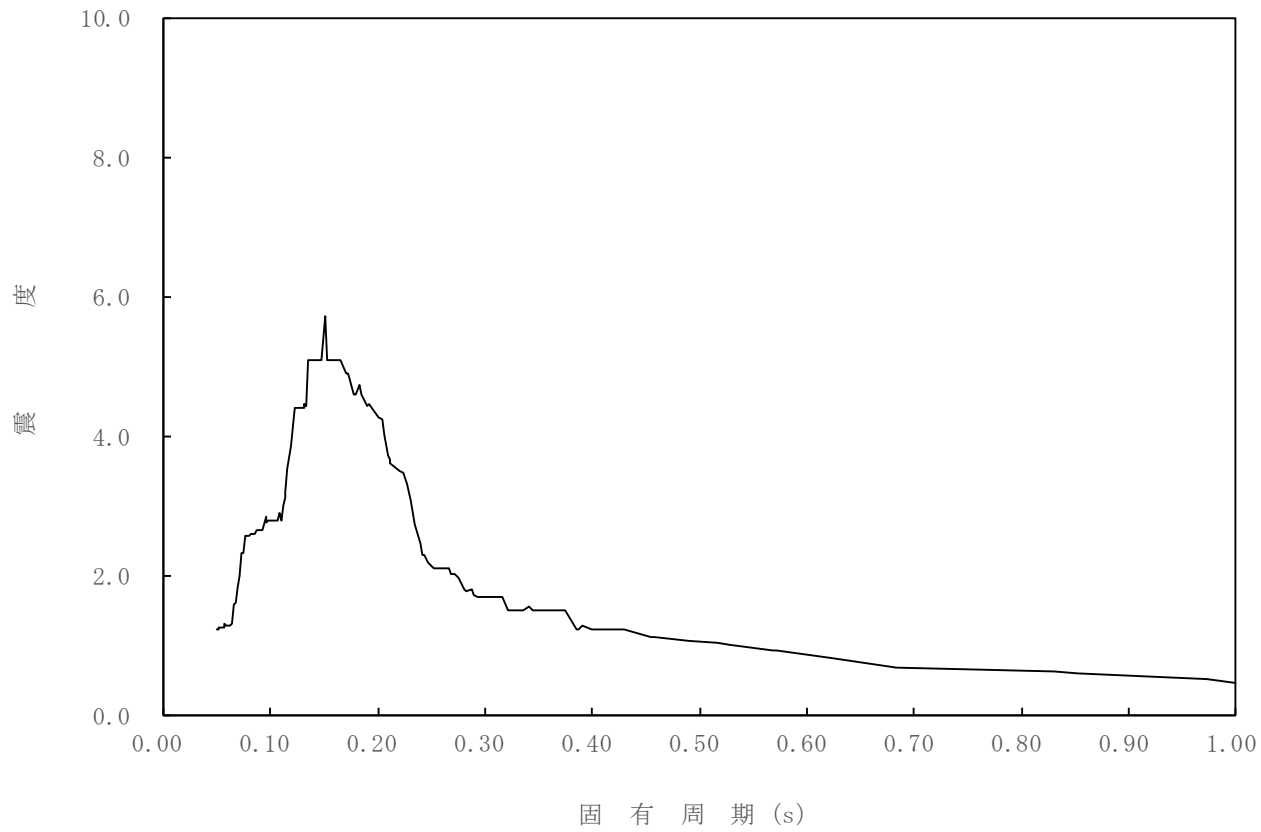
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 10.410m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK10410-030】

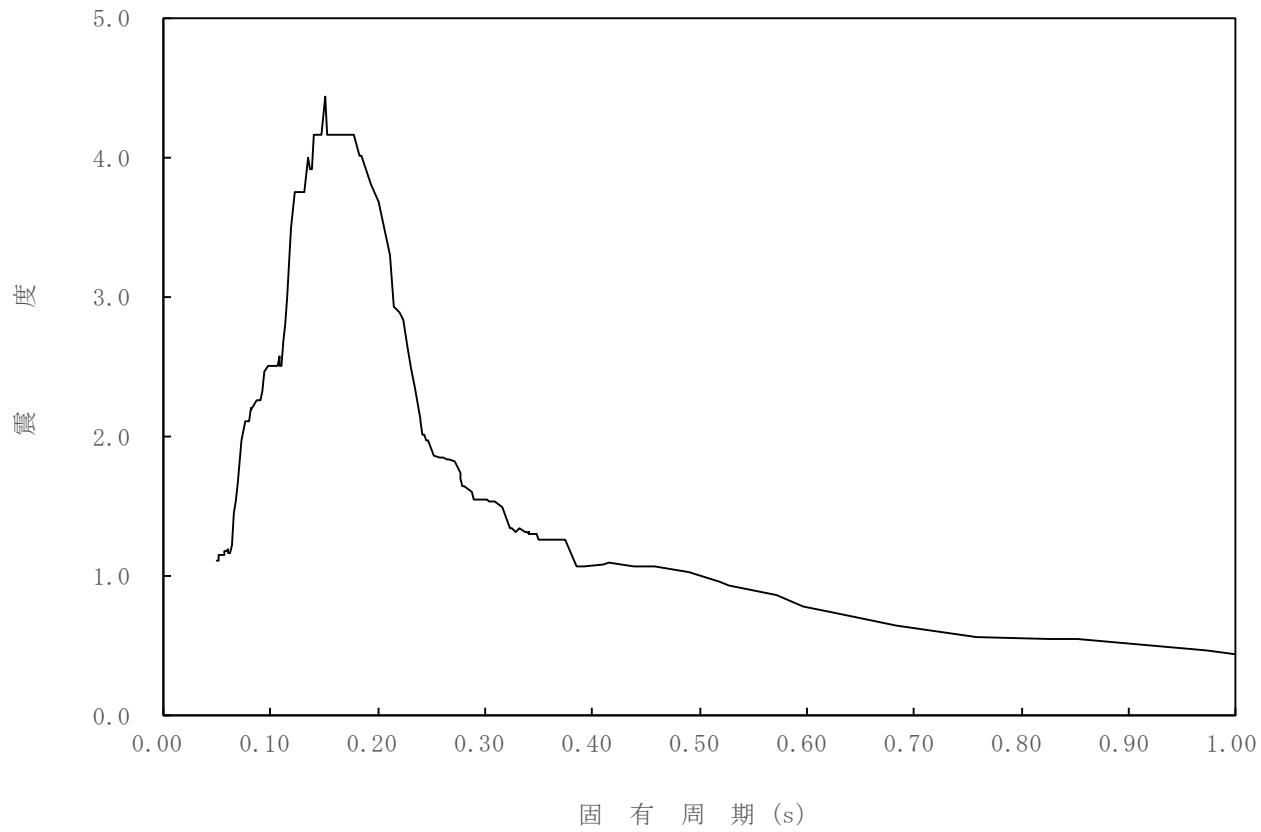
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 10.410m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK6600-005】

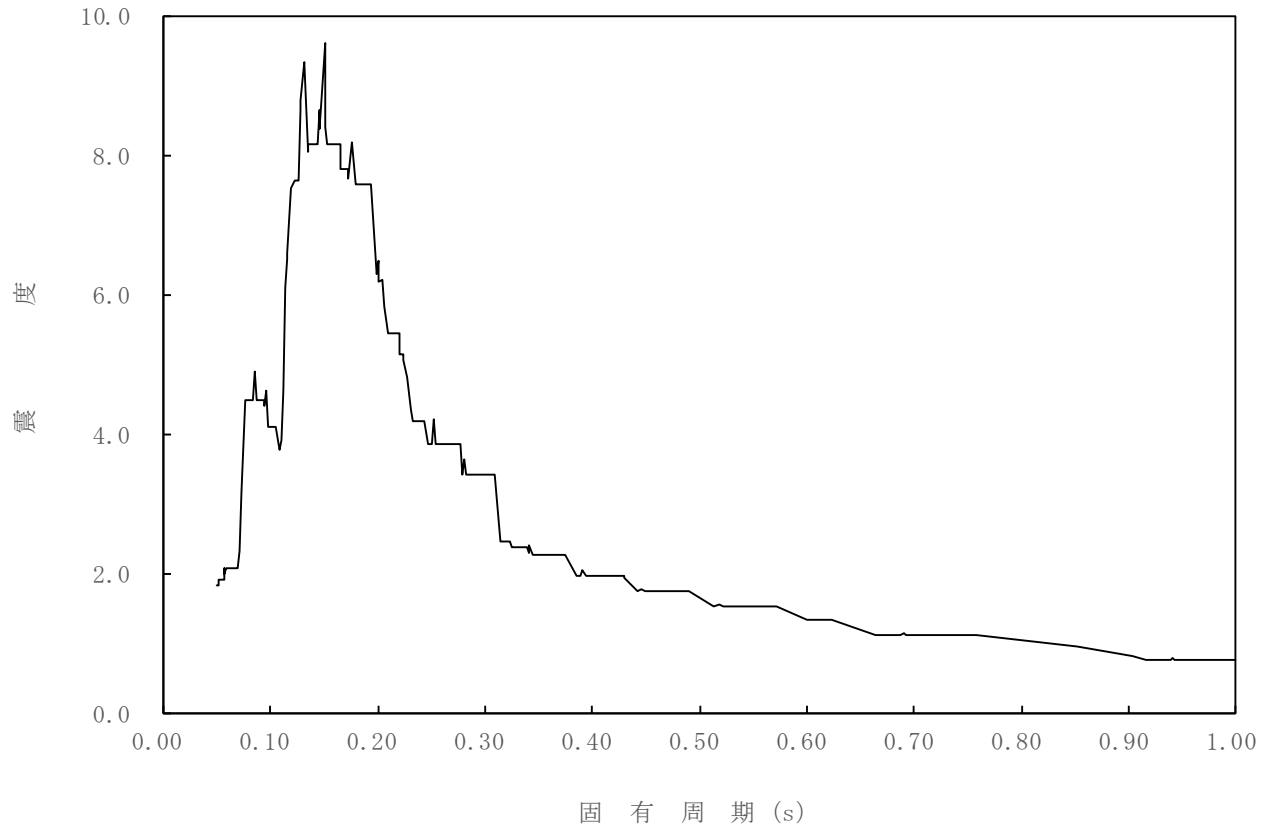
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK6600-010】

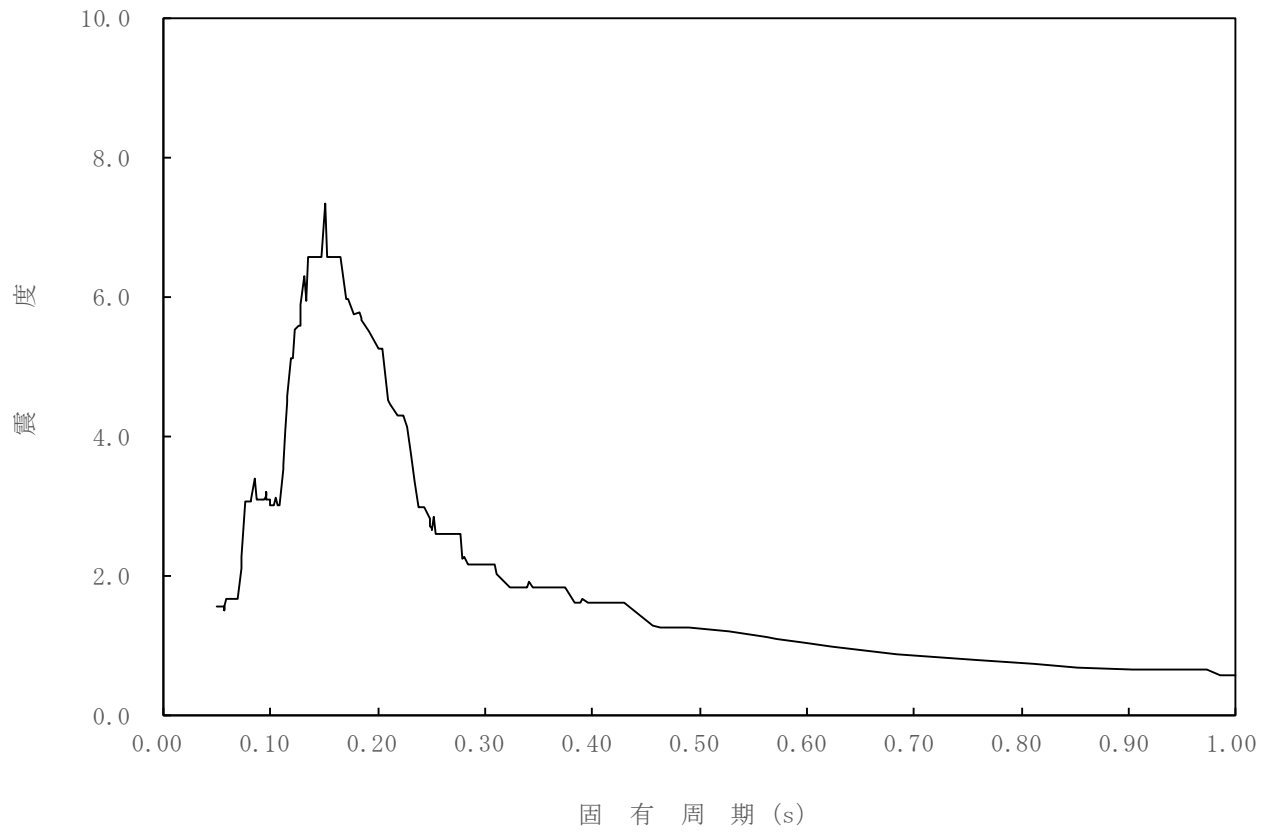
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK6600-015】

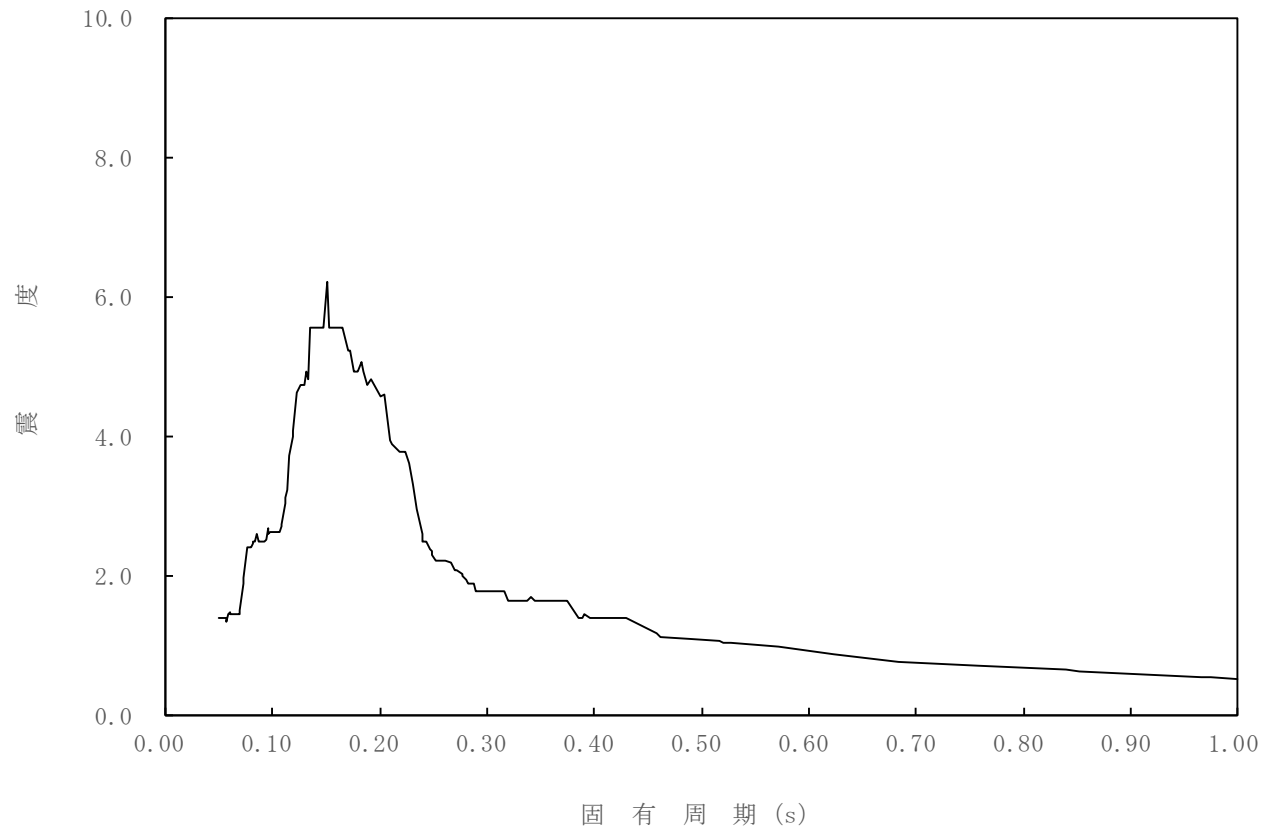
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-15

【02-STK-SdH-STK6600-020】

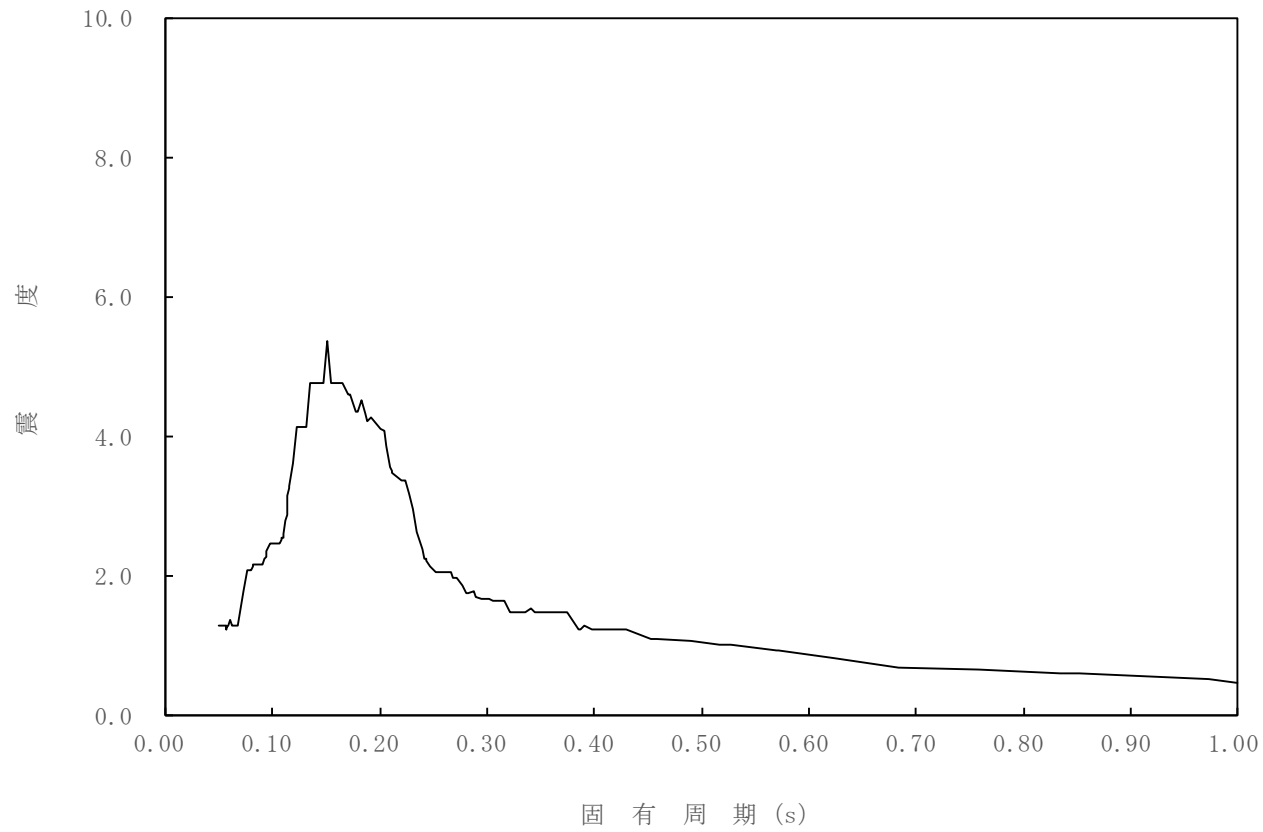
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-16

【02-STK-SdH-STK6600-030】

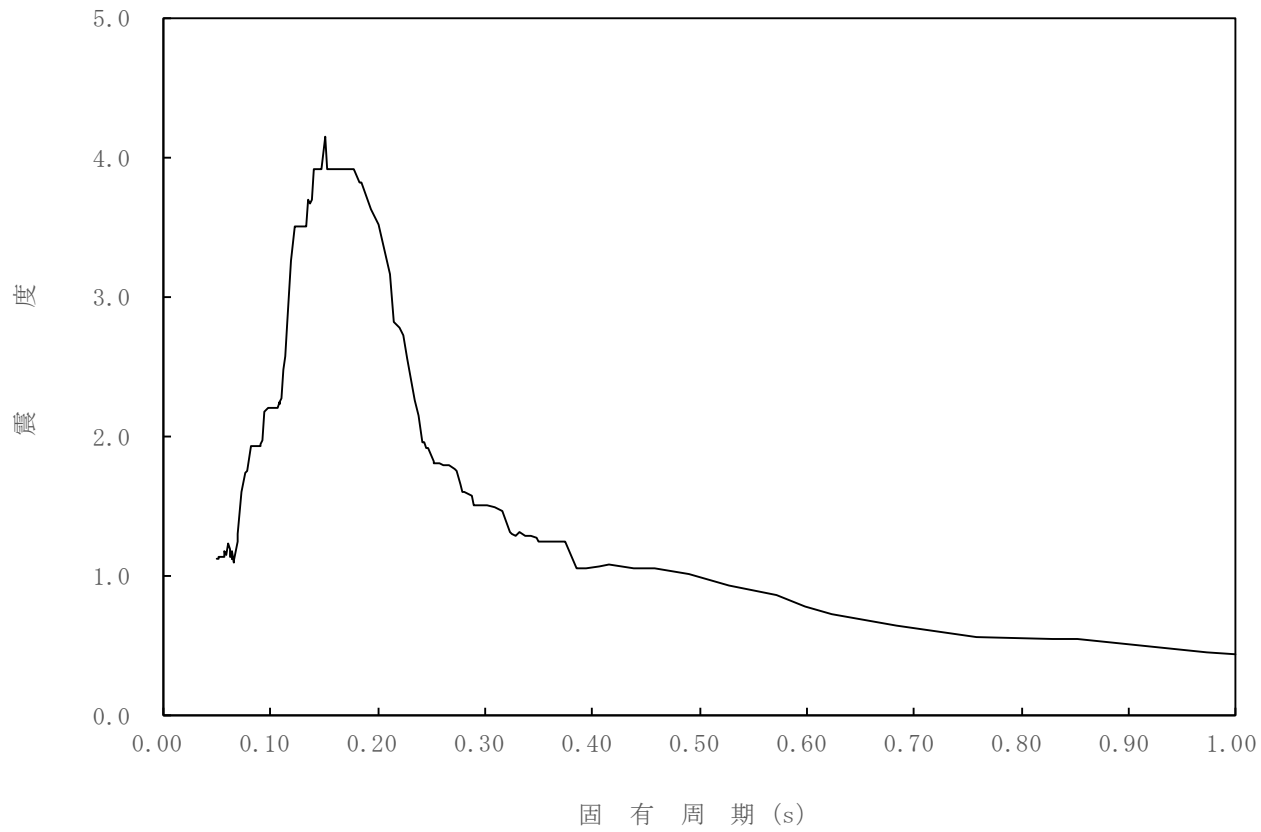
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-STK-SdH-STK1000-005】

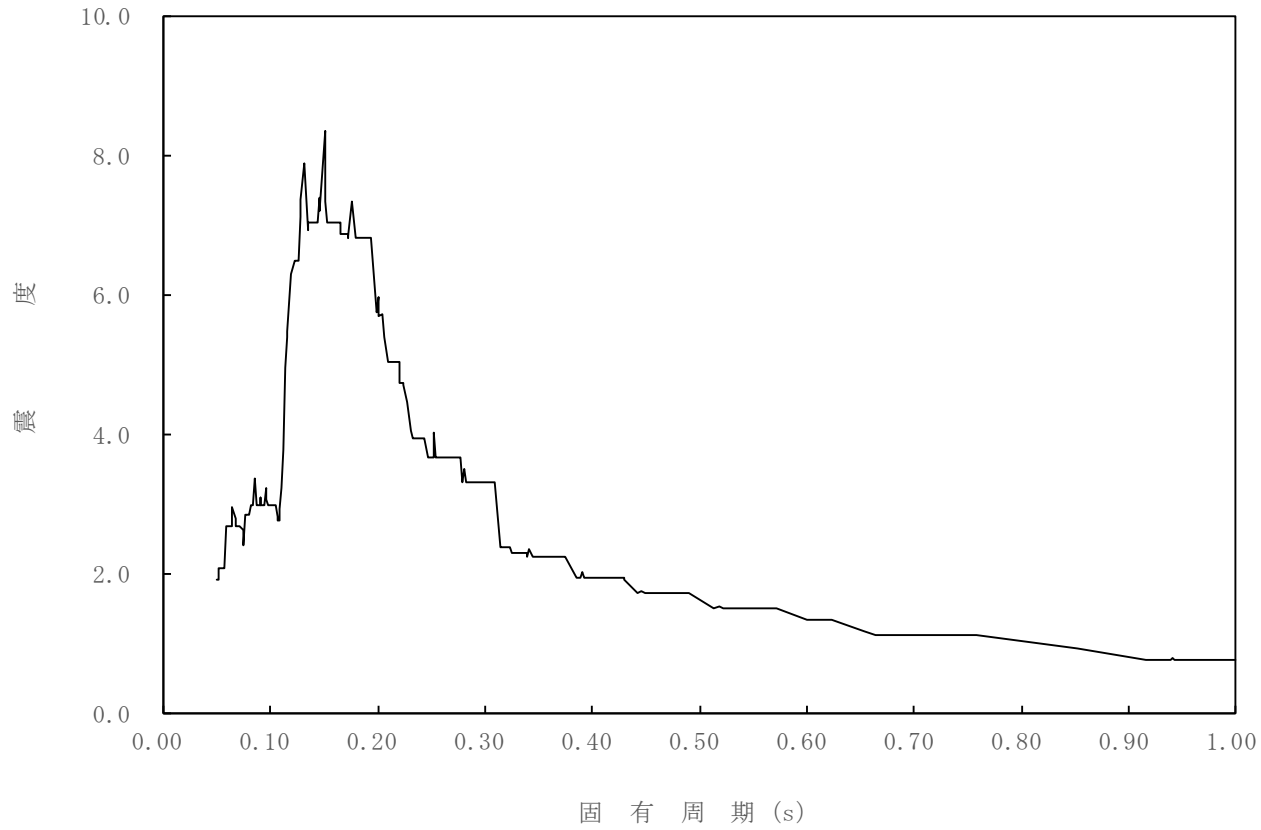
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK1000-010】

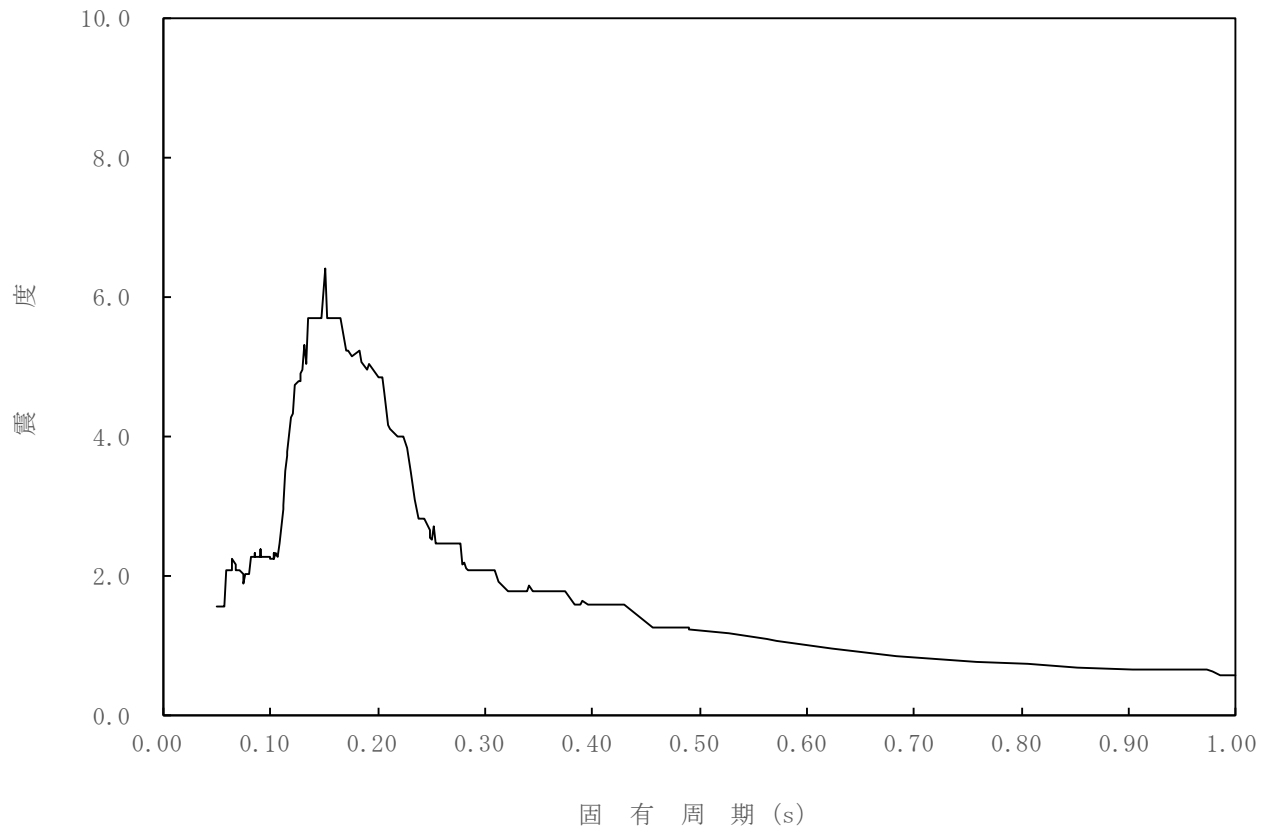
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK1000-015】

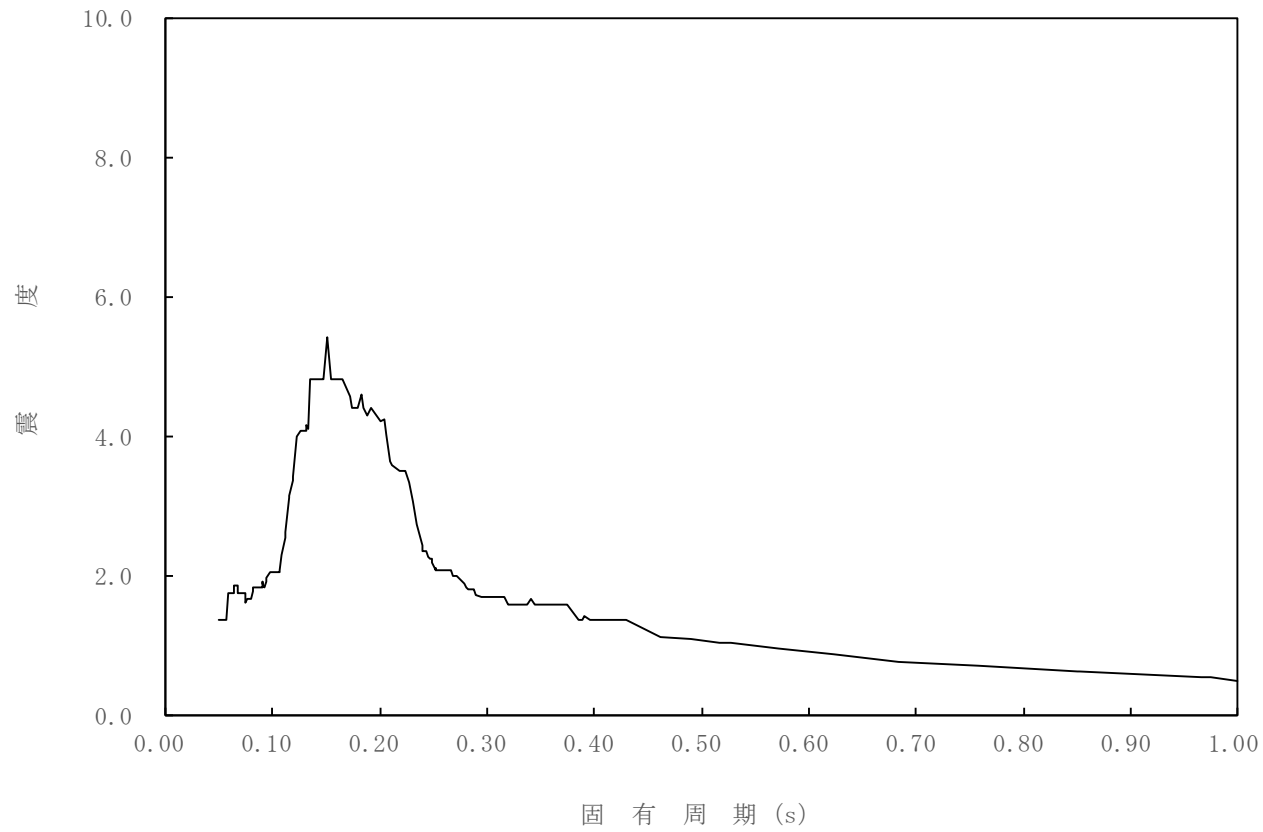
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-20

【02-STK-SdH-STK1000-020】

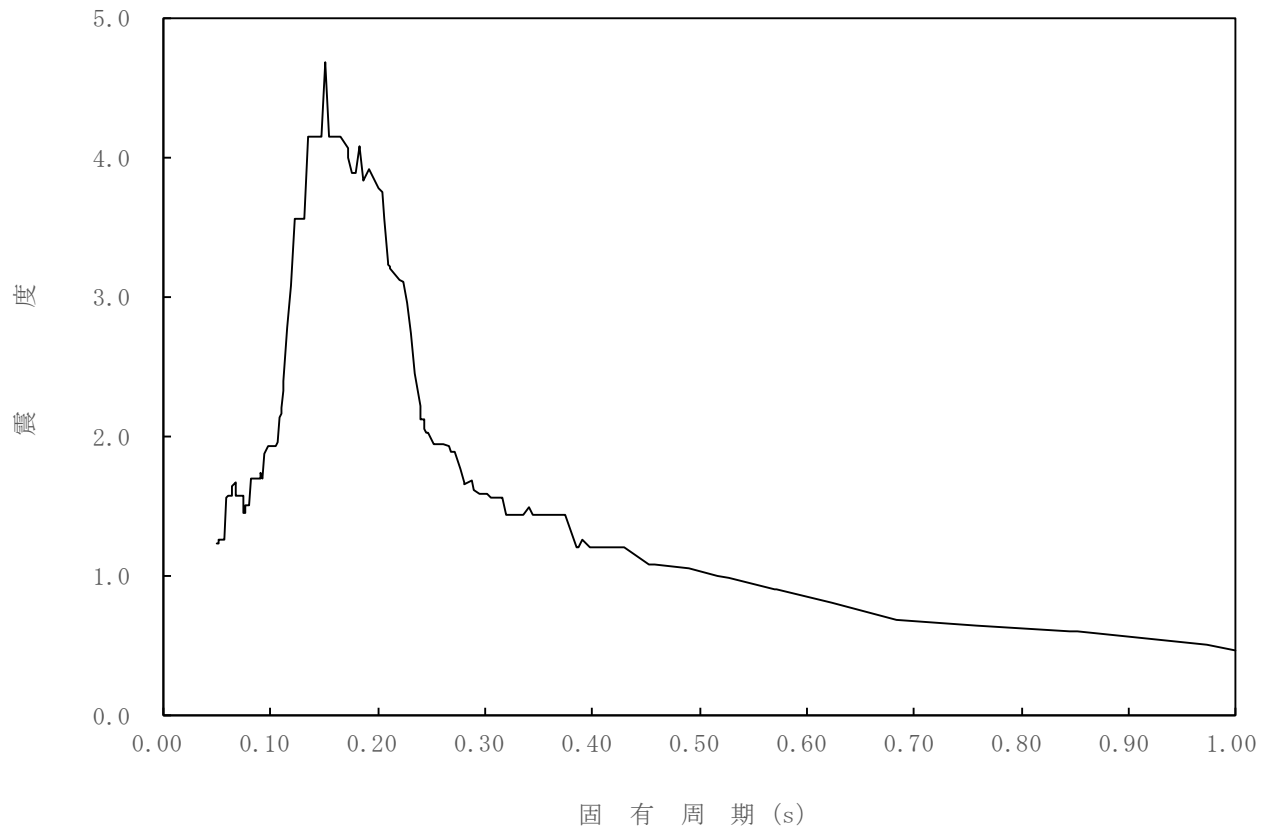
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdH-STK1000-030】

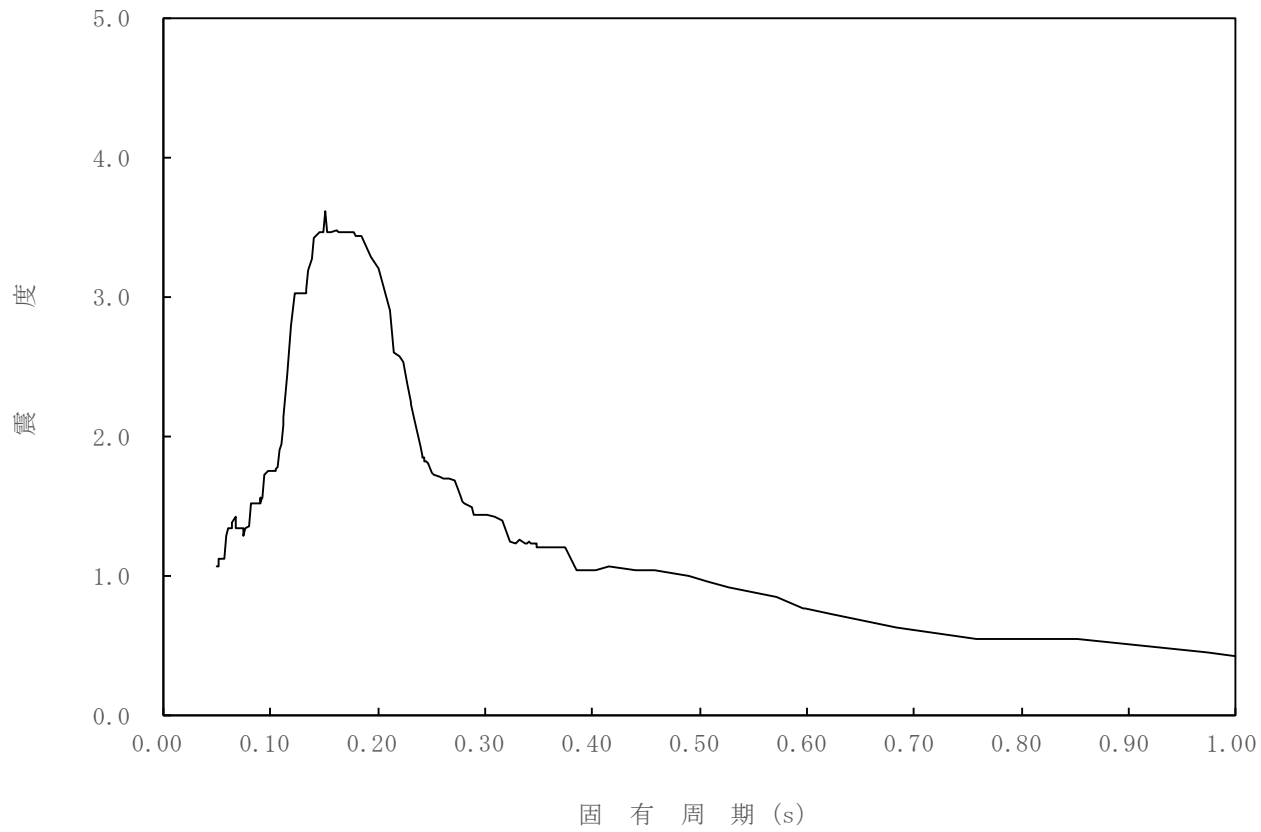
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK14800-005】

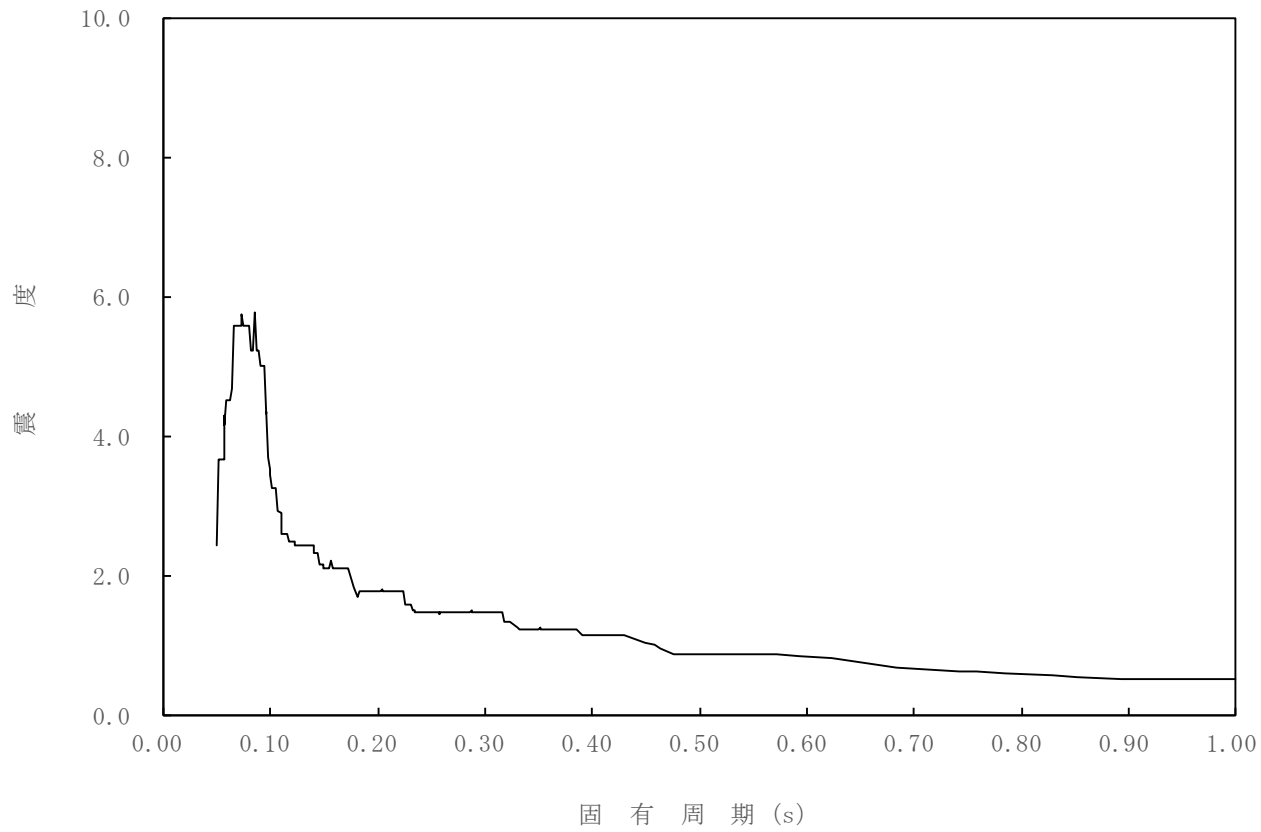
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK14800-010】

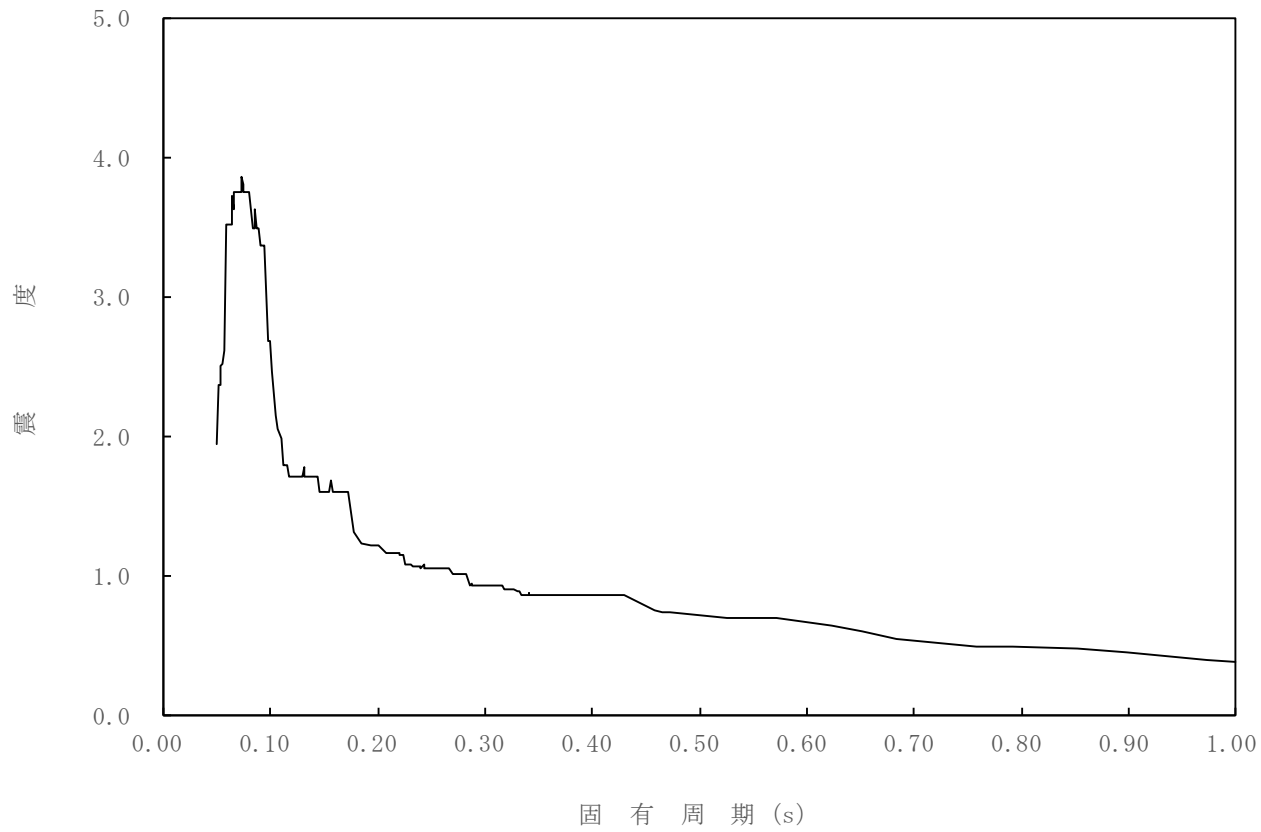
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK14800-015】

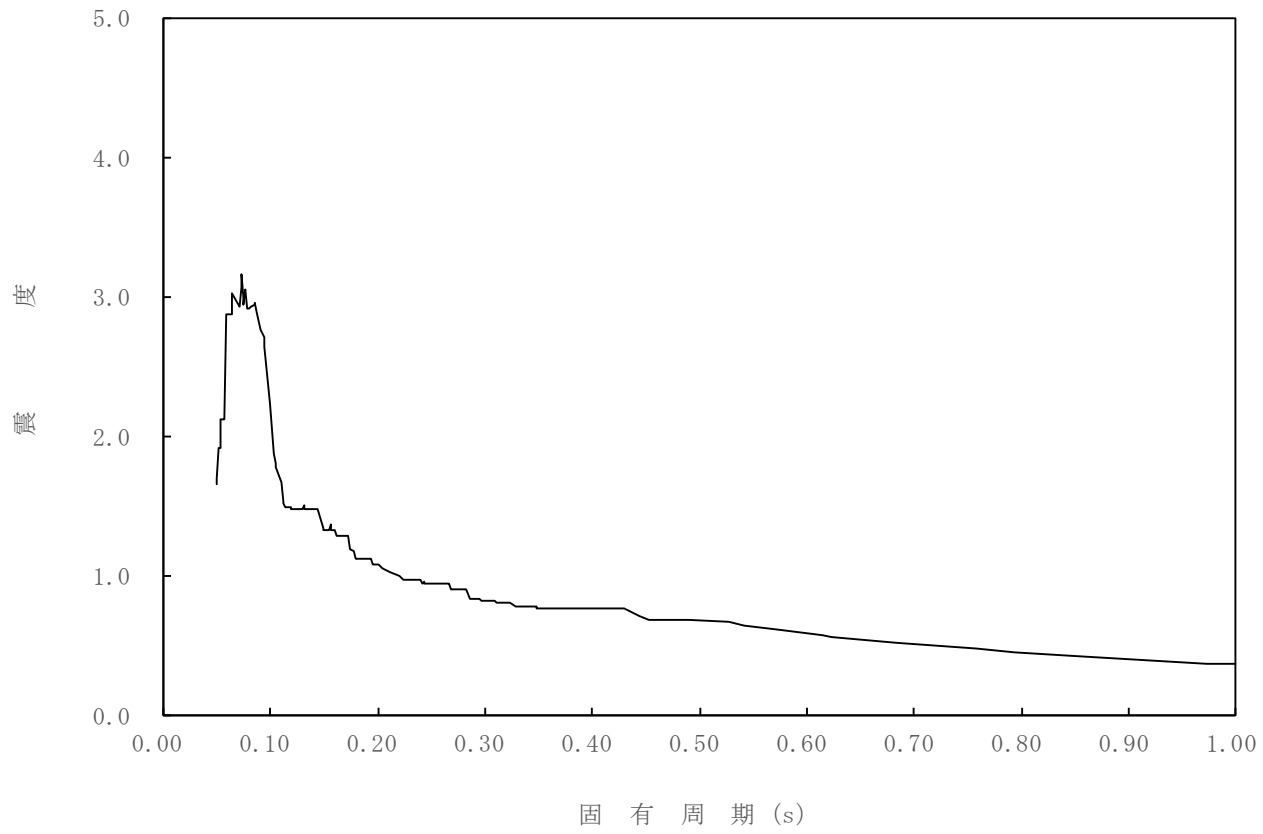
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-STK-SdV-STK14800-020】

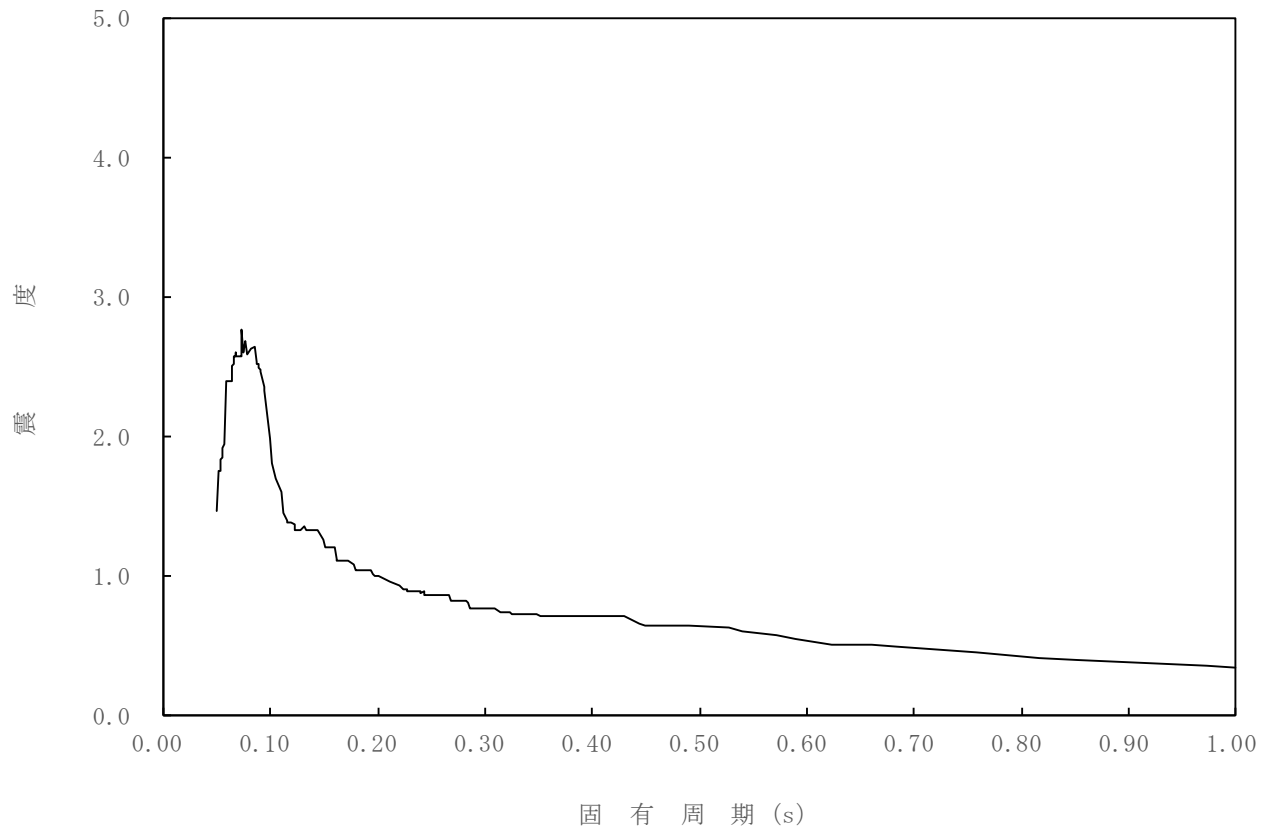
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK14800-030】

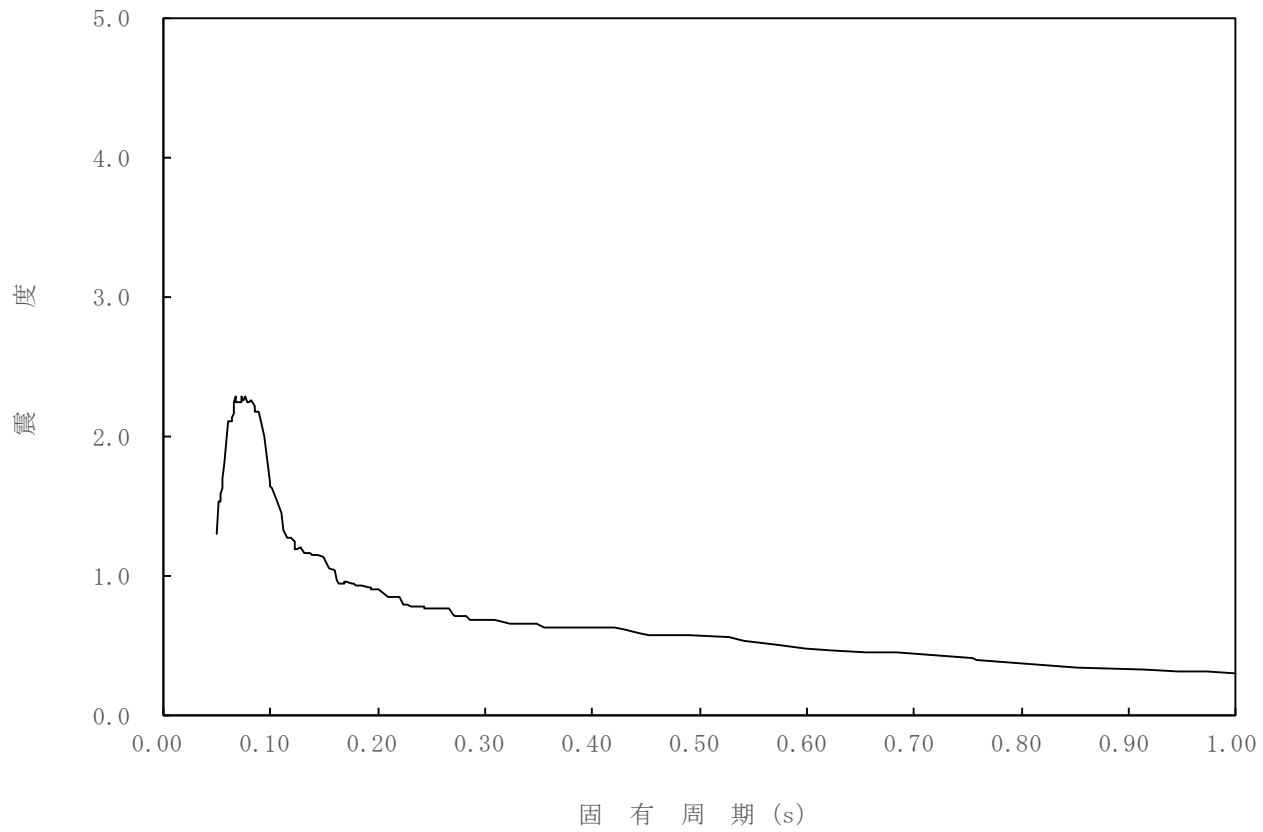
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 14.800m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK10410-005】

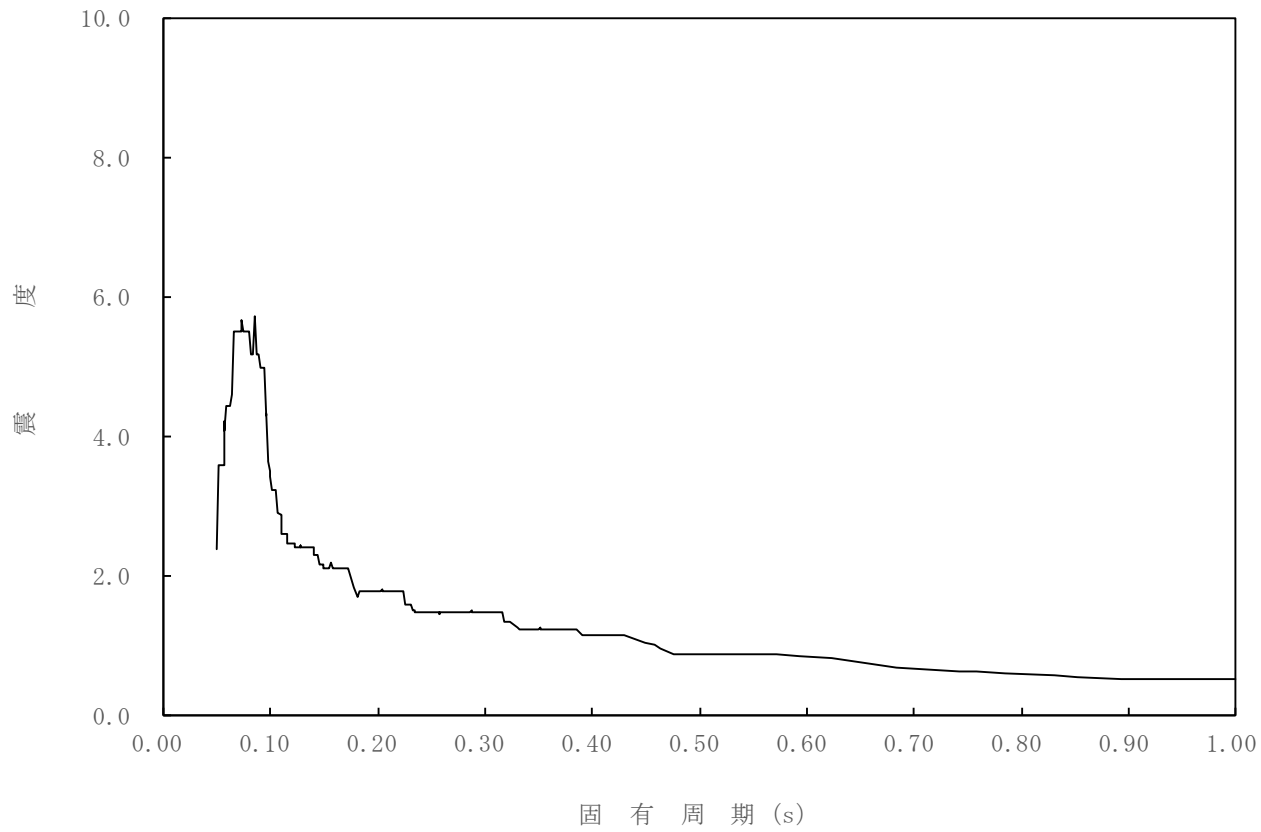
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 10.410m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK10410-010】

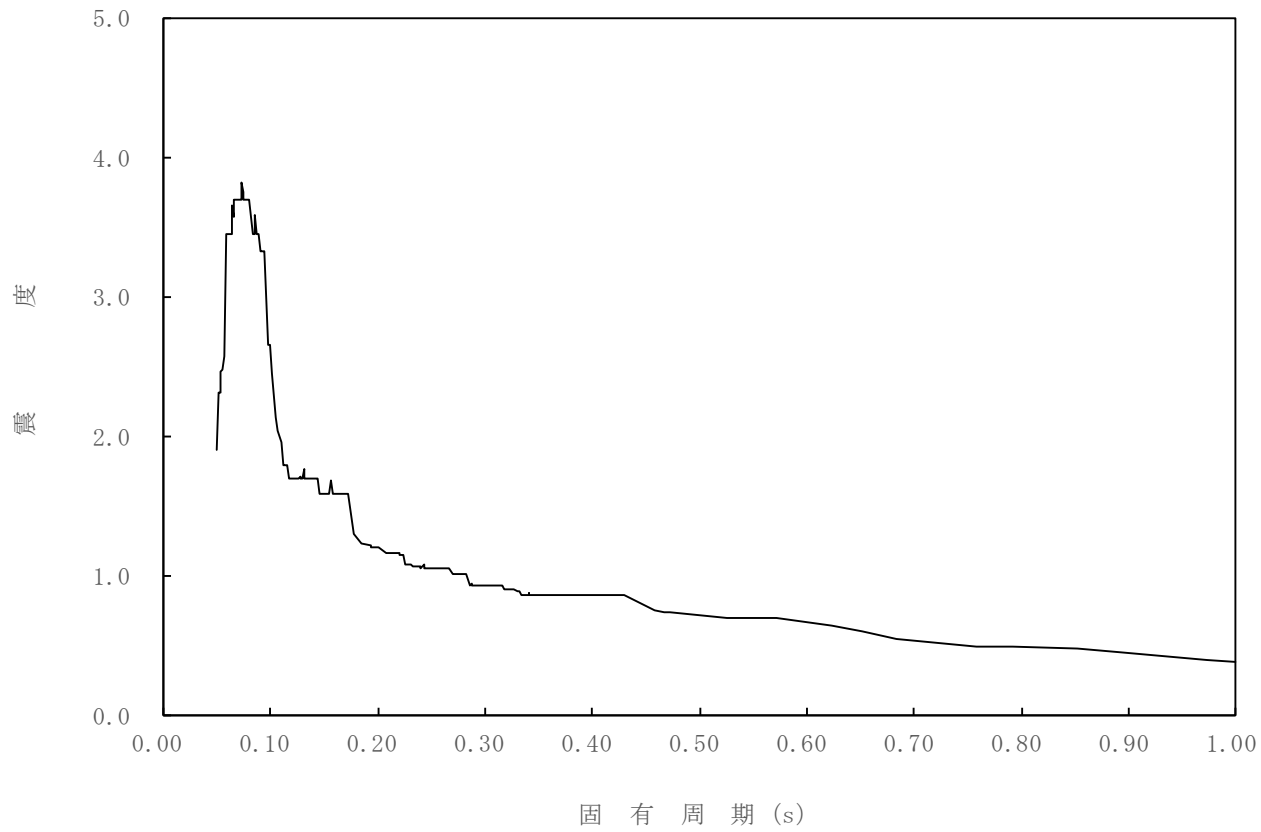
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 10.410m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK10410-015】

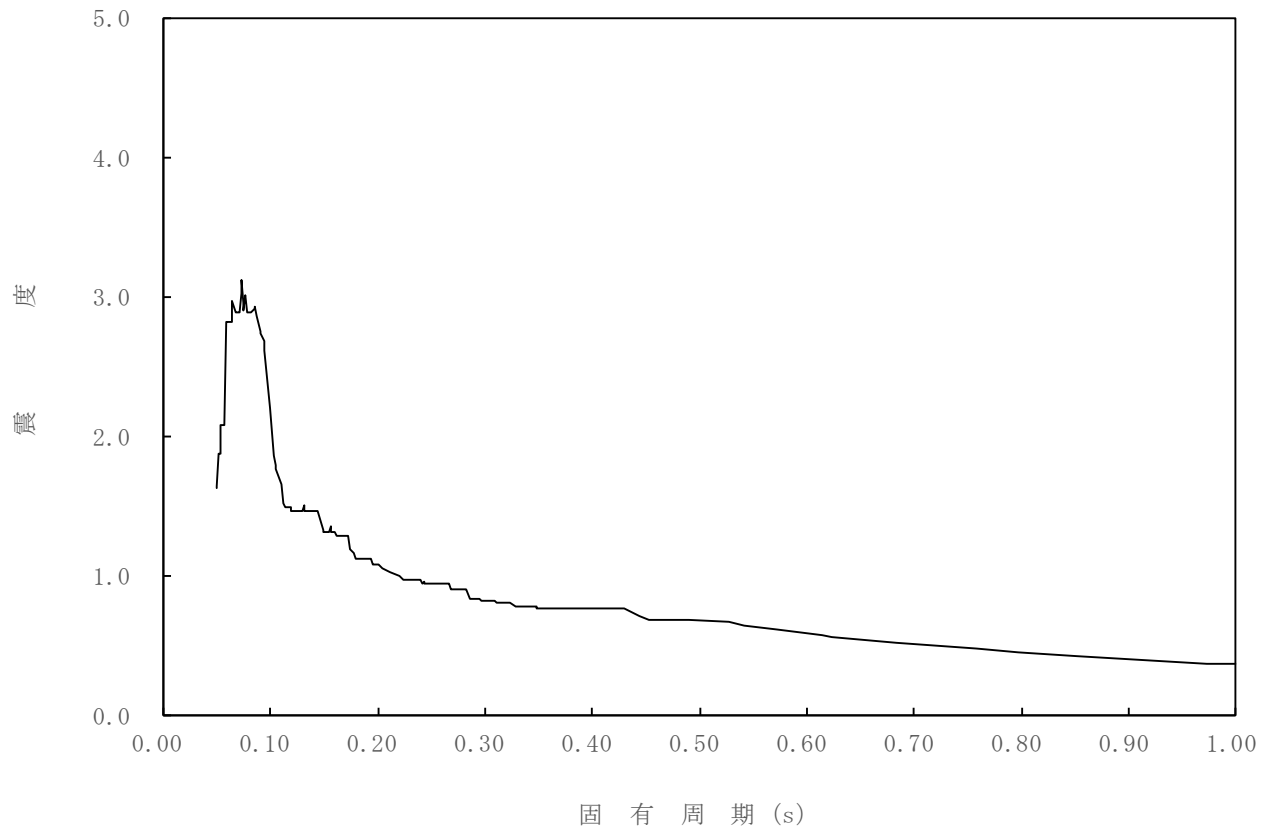
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 10.410m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-30

【02-STK-SdV-STK10410-020】

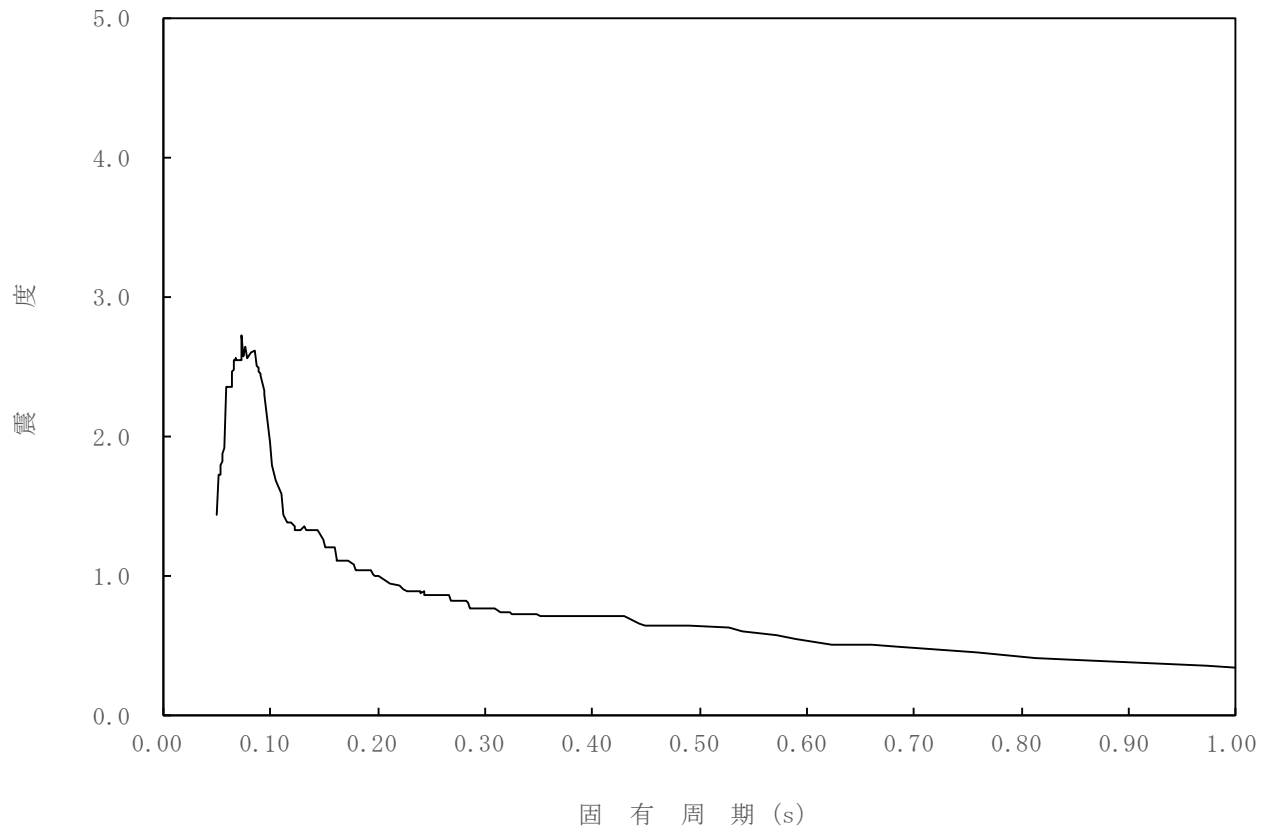
構造物名：排気筒基礎

標高：O.P. 10.410m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK10410-030】

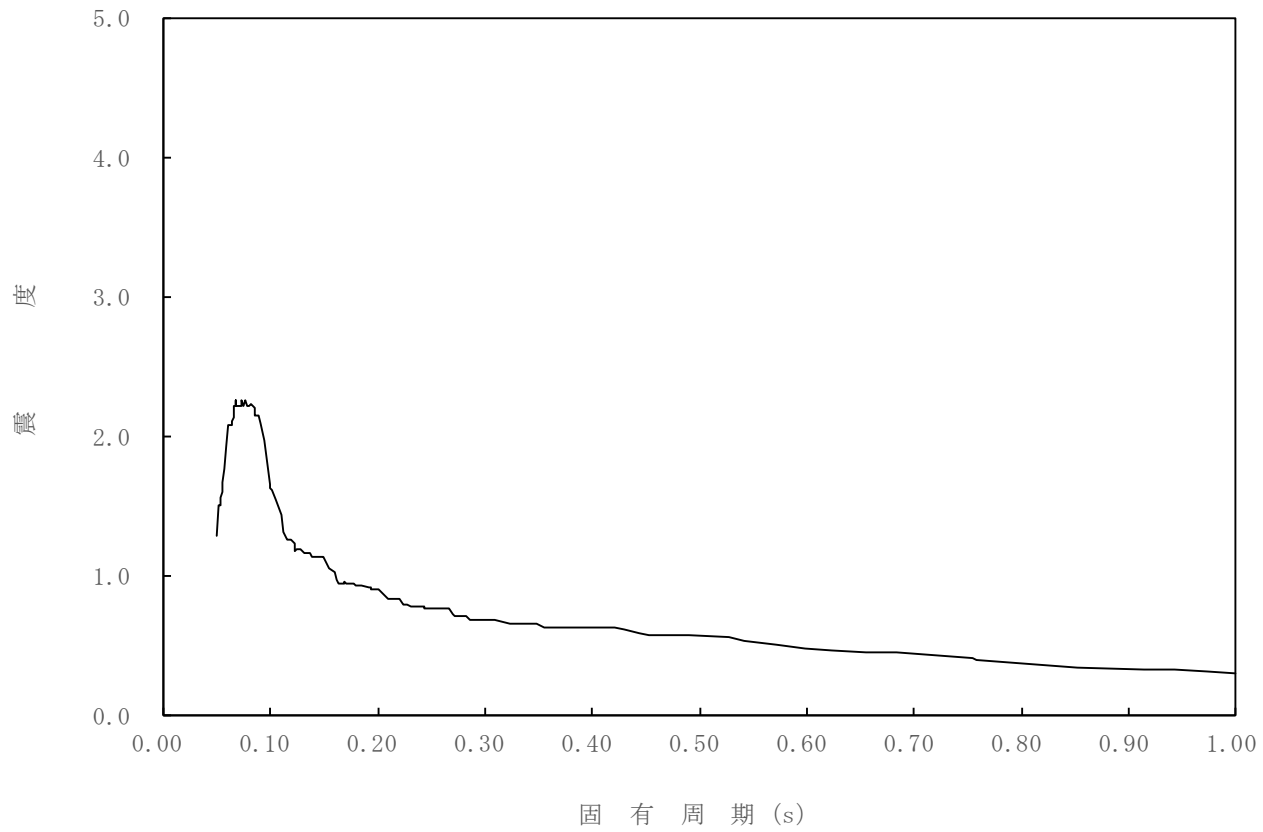
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 10.410m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK6600-005】

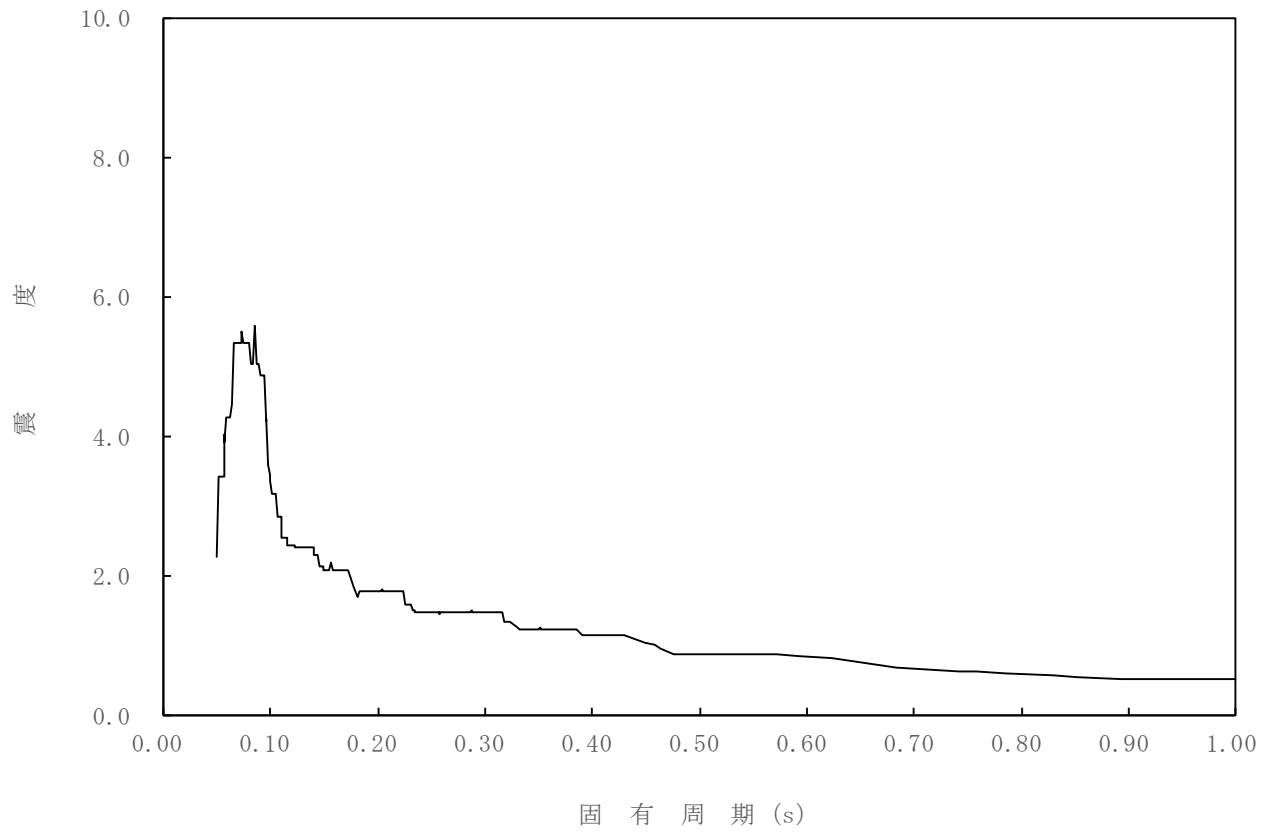
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-STK-SdV-STK6600-010】

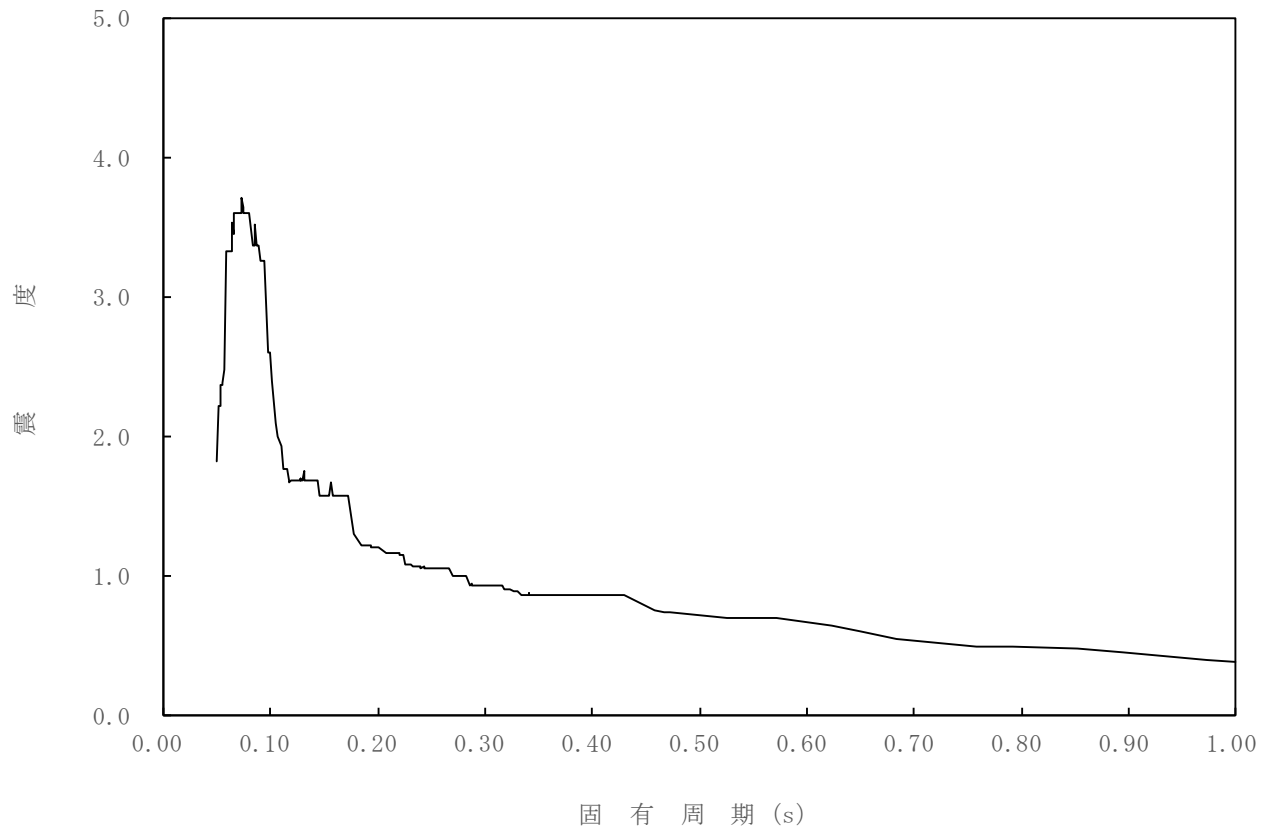
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK6600-015】

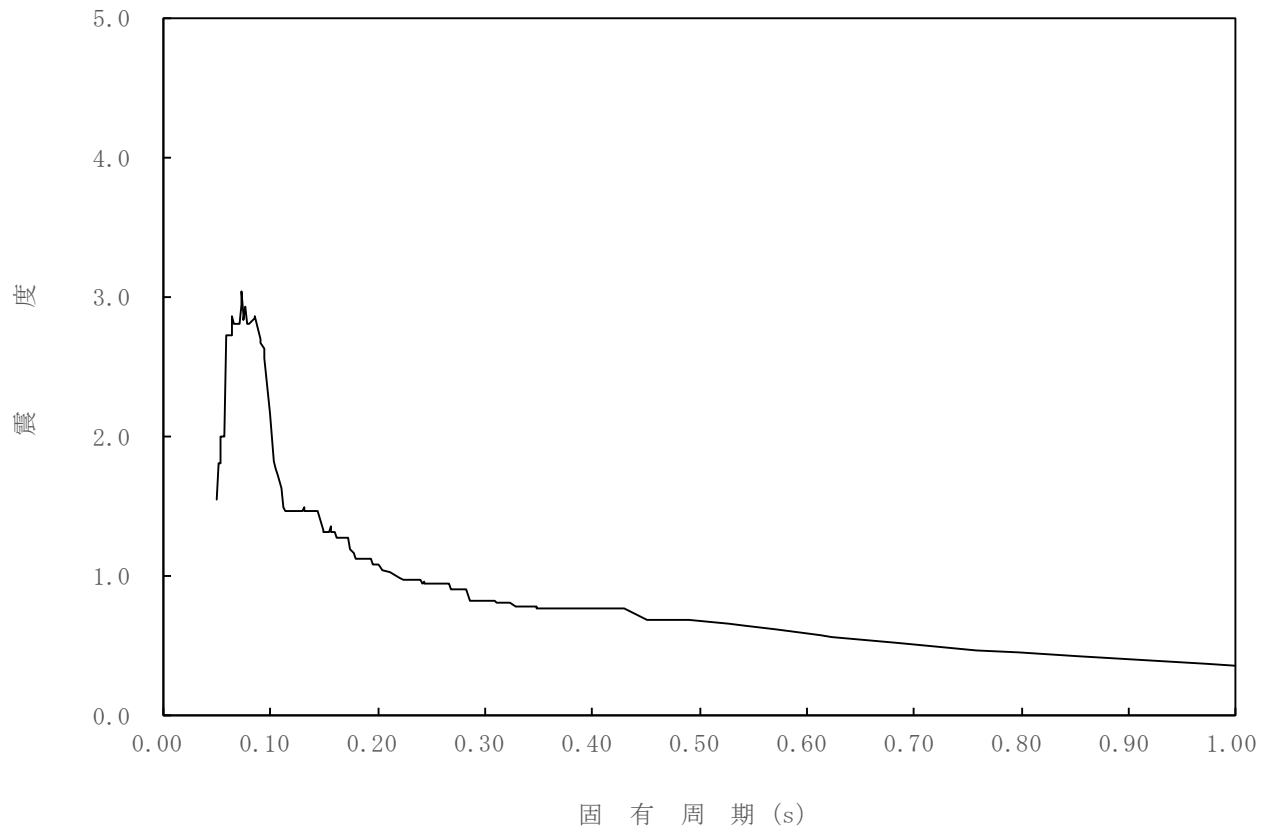
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK6600-020】

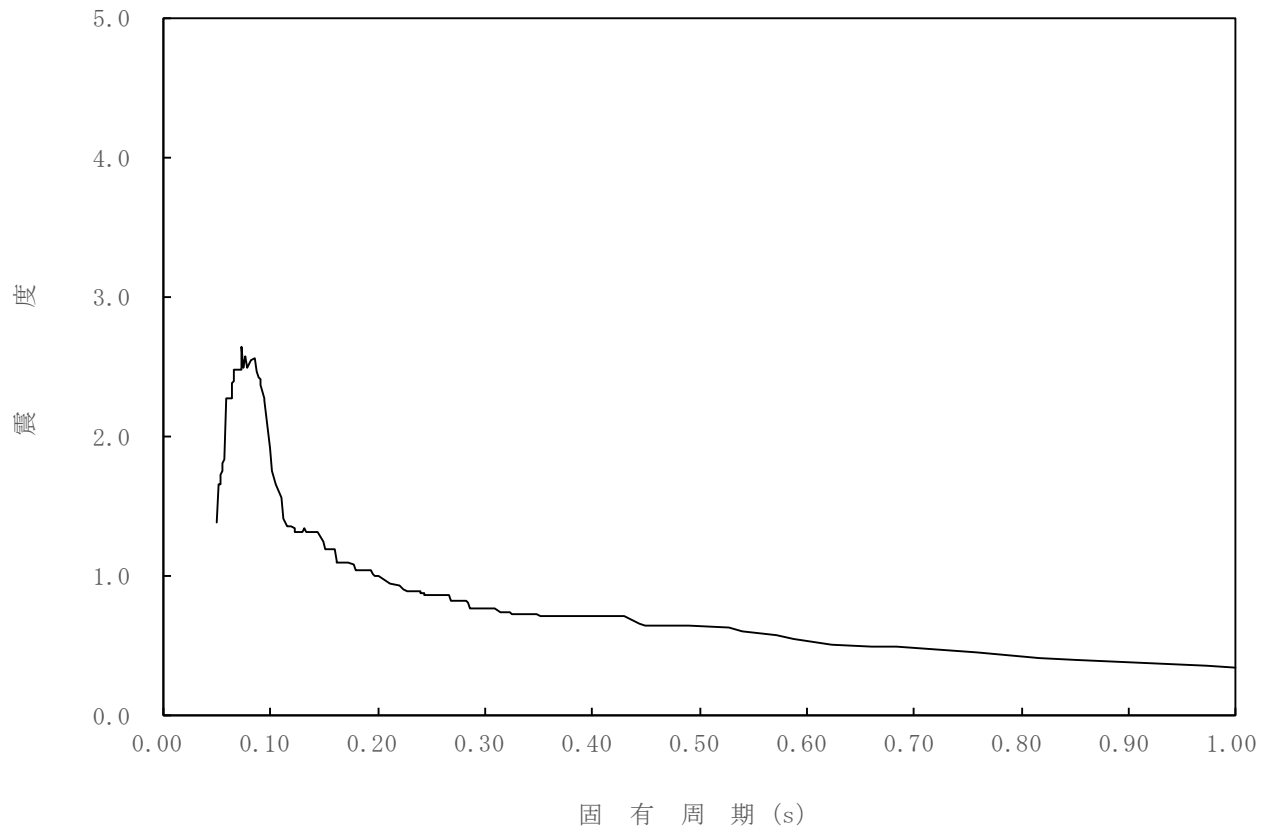
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK6600-030】

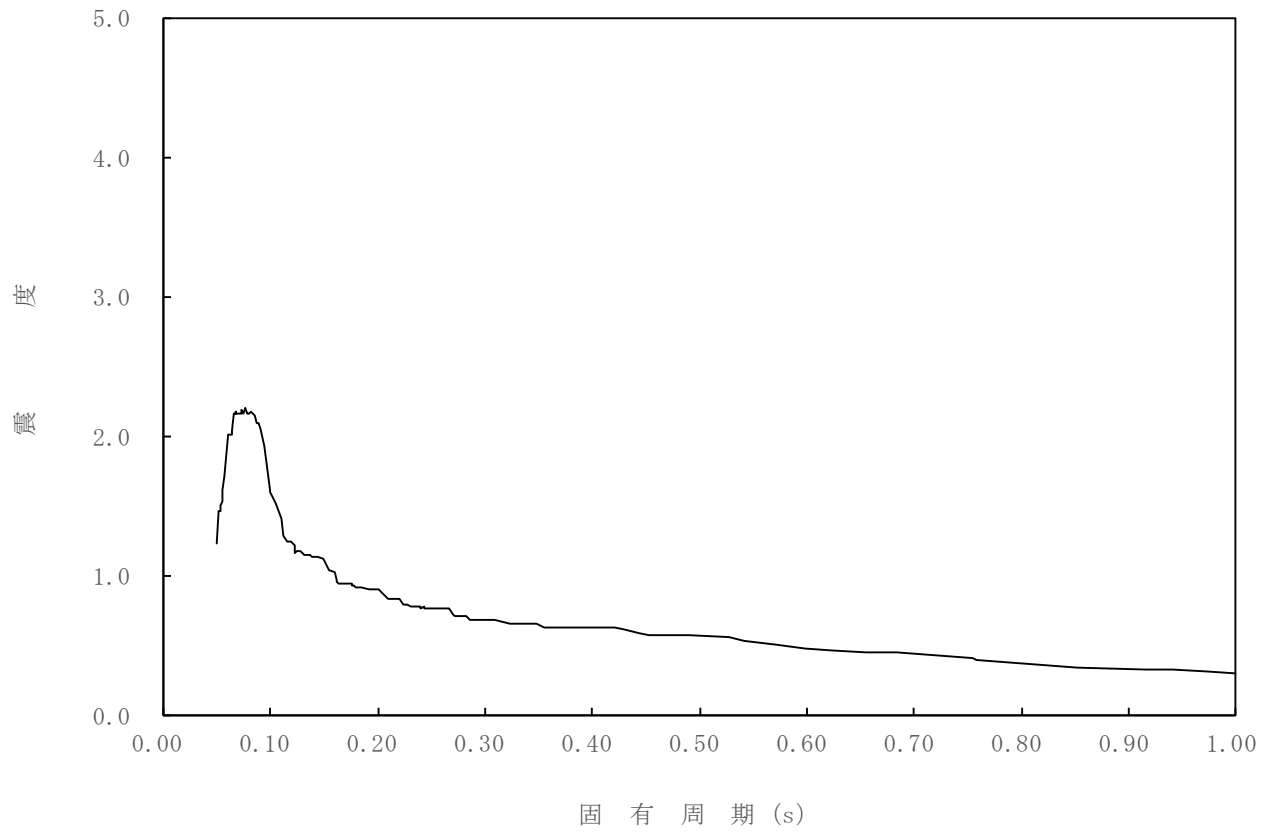
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 6.600m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK1000-005】

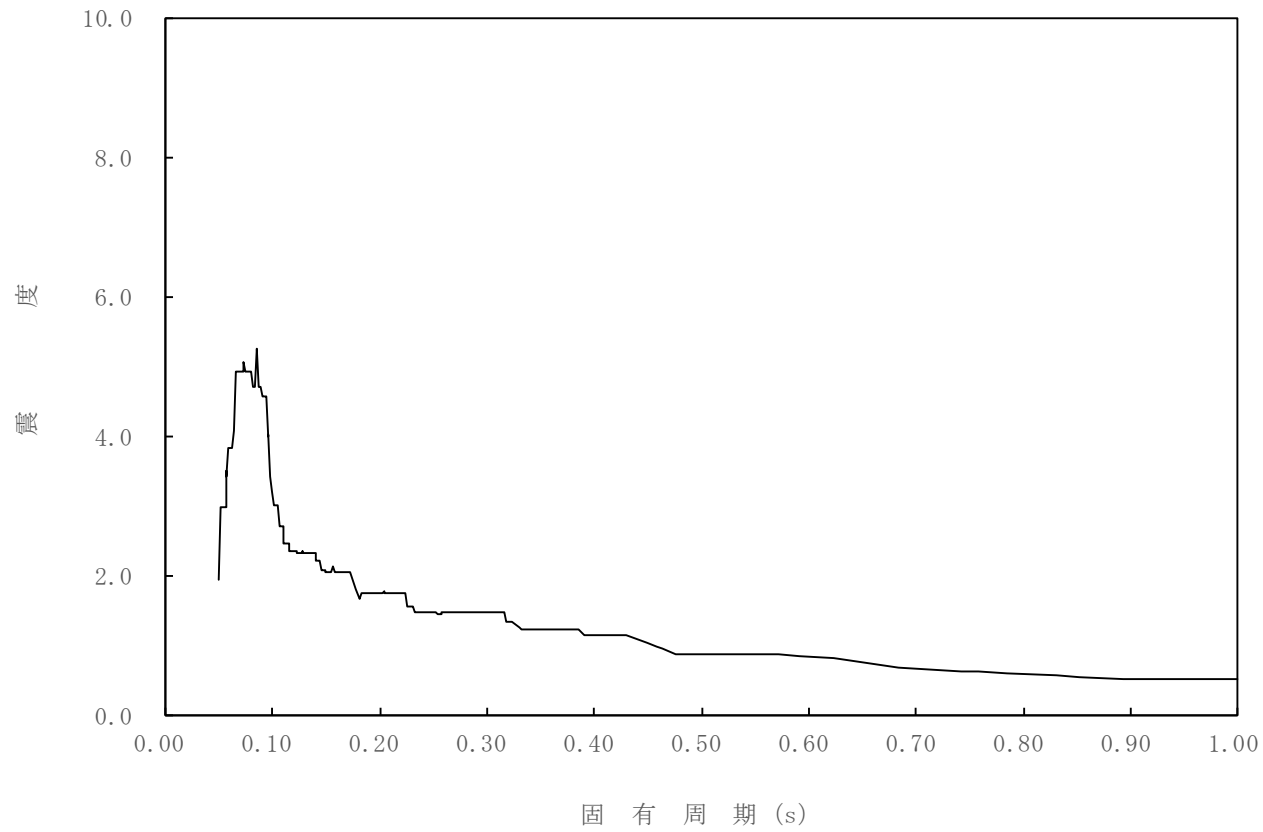
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK1000-010】

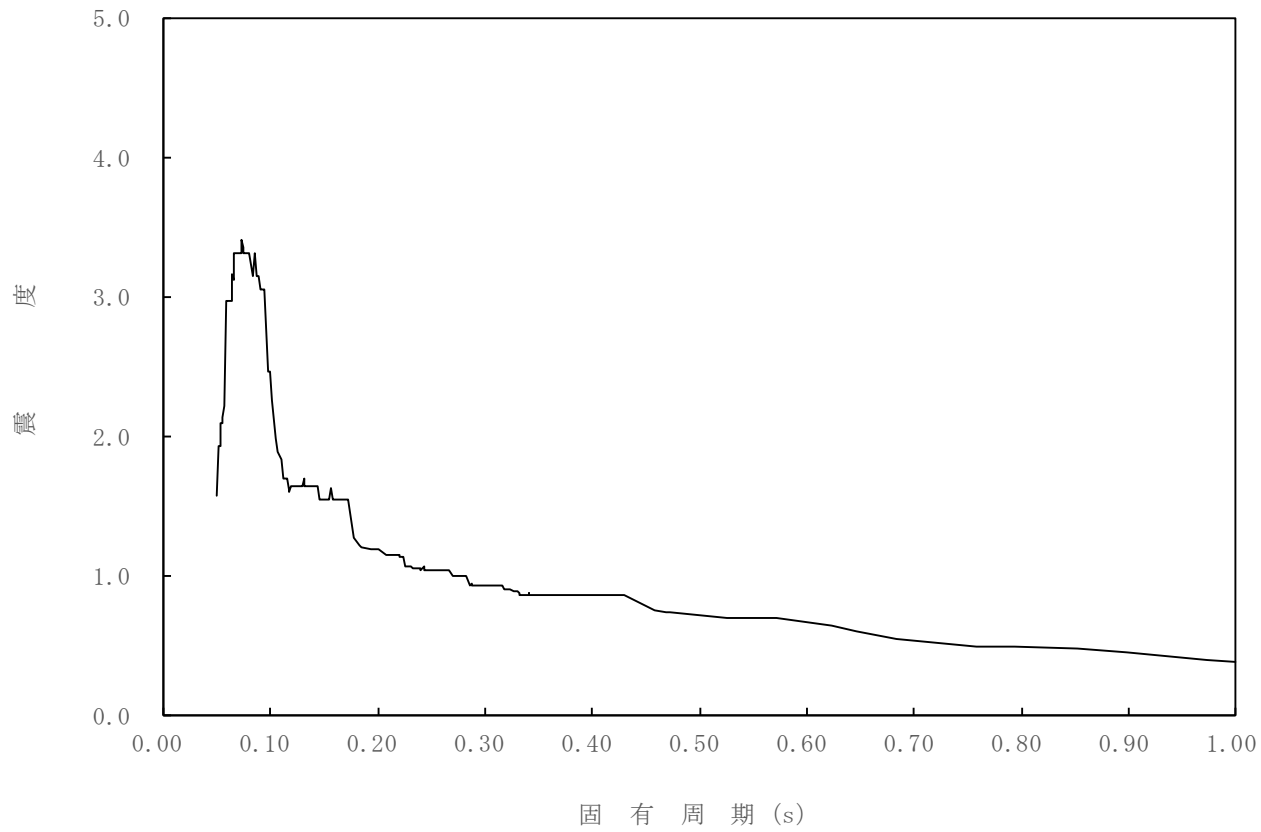
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-STK-SdV-STK1000-015】

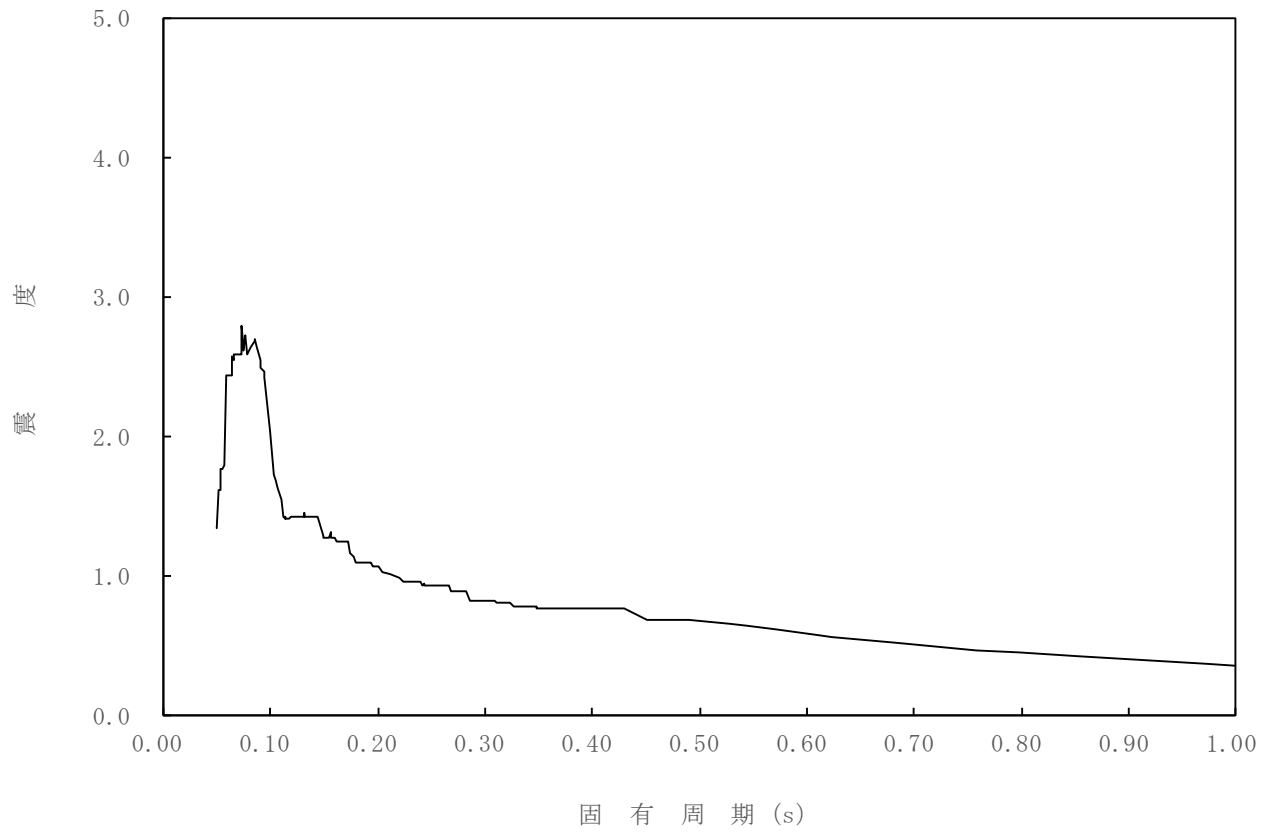
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-8-40

【02-STK-SdV-STK1000-020】

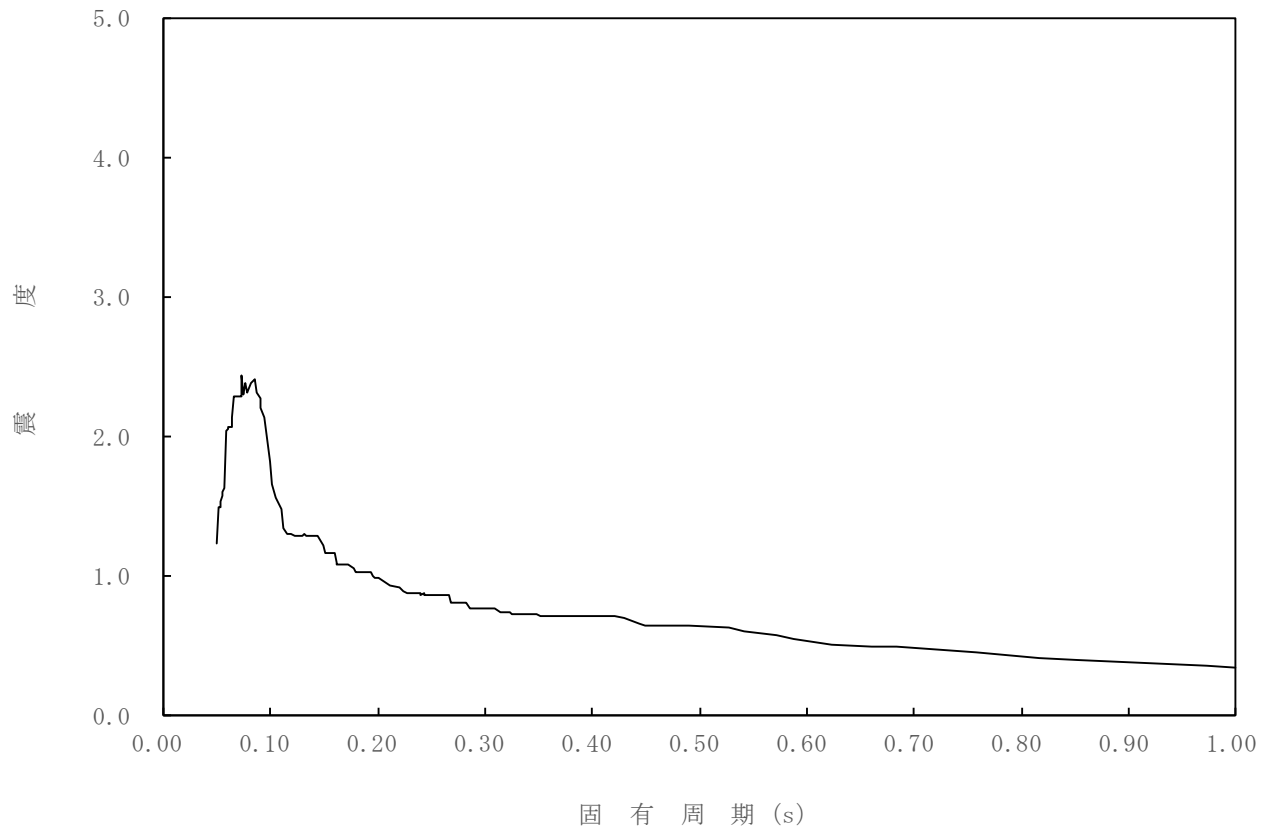
構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-STK-SdV-STK1000-030】

構造物名：排気筒基礎

標高：0.P. 1.000m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

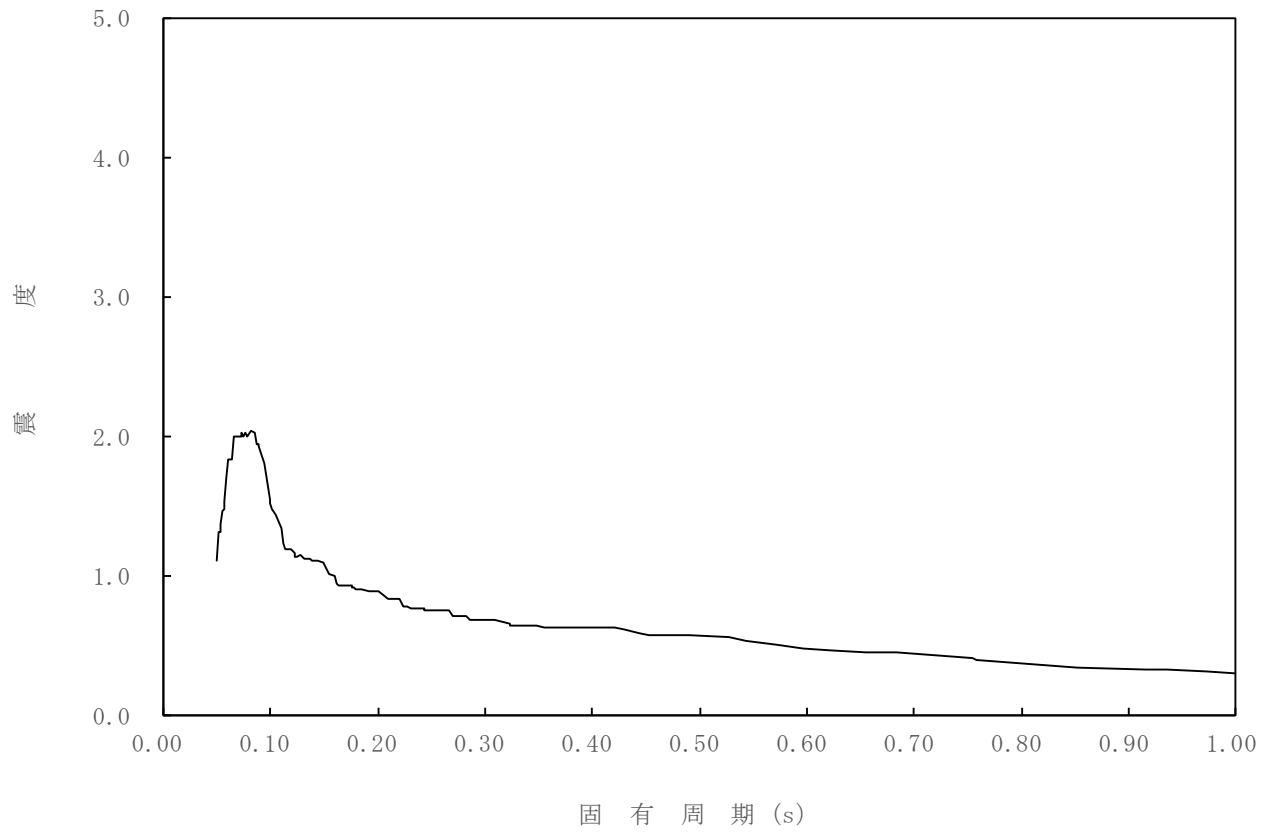


表 4-2-9 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 排気筒連絡ダクト: 水平方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	排気筒連絡 ダクト	水平 方向	断面① 1065		0.5	02-SGTS-SdH-SGTStop-005
			断面③ 11637		1.0	02-SGTS-SdH-SGTStop-010
			断面⑤ 10650		1.5	02-SGTS-SdH-SGTStop-015
			断面⑦ 10018		2.0	02-SGTS-SdH-SGTStop-020
					3.0	02-SGTS-SdH-SGTStop-030
			断面① 862 1303		0.5	02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-005
			断面③ 11410 11897		1.0	02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-010
			断面⑤ 10539 10763		1.5	02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-015
			断面⑦ 10000 10019		2.0	02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-020
					3.0	02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-030
			断面① 1064	-8.100~ 0.940	0.5	02-SGTS-SdH-SGTStop-005
			断面③ 11636		1.0	02-SGTS-SdH-SGTStop-010
			断面⑤ 10649		1.5	02-SGTS-SdH-SGTStop-015
断面⑦ 10019	2.0	02-SGTS-SdH-SGTStop-020				
	3.0	02-SGTS-SdH-SGTStop-030				

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-9 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 排気筒連絡ダクト: 鉛直方向)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 0. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	排気筒連絡 ダクト	鉛直 方向	断面① 1065		0.5	02-SGTS-SdV-SGTSstop-005
			断面③ 11637		1.0	02-SGTS-SdV-SGTSstop-010
			断面⑤ 10650		1.5	02-SGTS-SdV-SGTSstop-015
			断面⑦ 10018		2.0	02-SGTS-SdV-SGTSstop-020
					3.0	02-SGTS-SdV-SGTSstop-030
			断面① 862 1303		0.5	02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-005
			断面③ 11410 11897		1.0	02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-010
			断面⑤ 10539 10763		1.5	02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-015
			断面⑦ 10000 10019		2.0	02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-020
					3.0	02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-030
			断面① 1064	-8.100~ 0.940	0.5	02-SGTS-SdV-SGTSbottom-005
			断面③ 11636		1.0	02-SGTS-SdV-SGTSbottom-010
			断面⑤ 10649		1.5	02-SGTS-SdV-SGTSbottom-015
			断面⑦ 10019		2.0	02-SGTS-SdV-SGTSbottom-020
					3.0	02-SGTS-SdV-SGTSbottom-030

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

【02-SGTS-SdH-SGTStop-005】

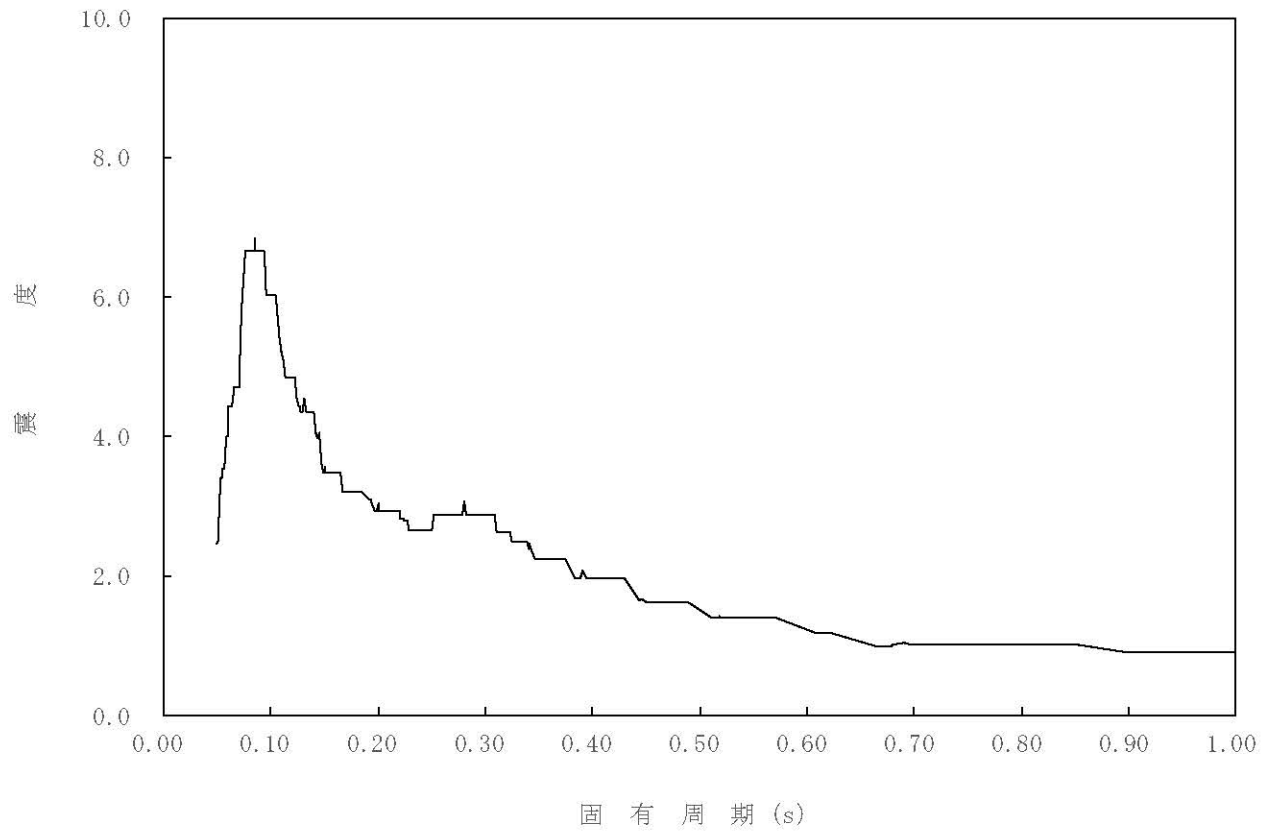
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-3

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTStop-010】

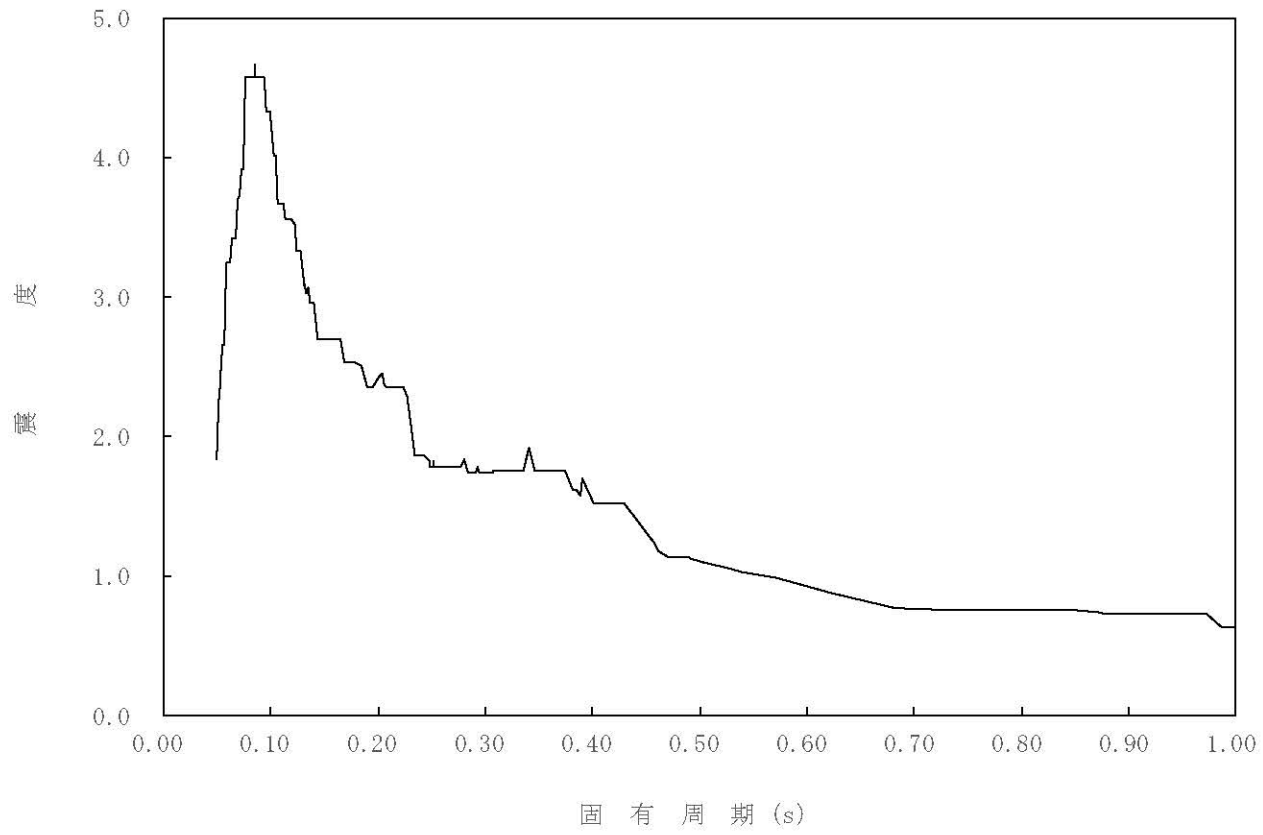
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-4

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTStop-015】

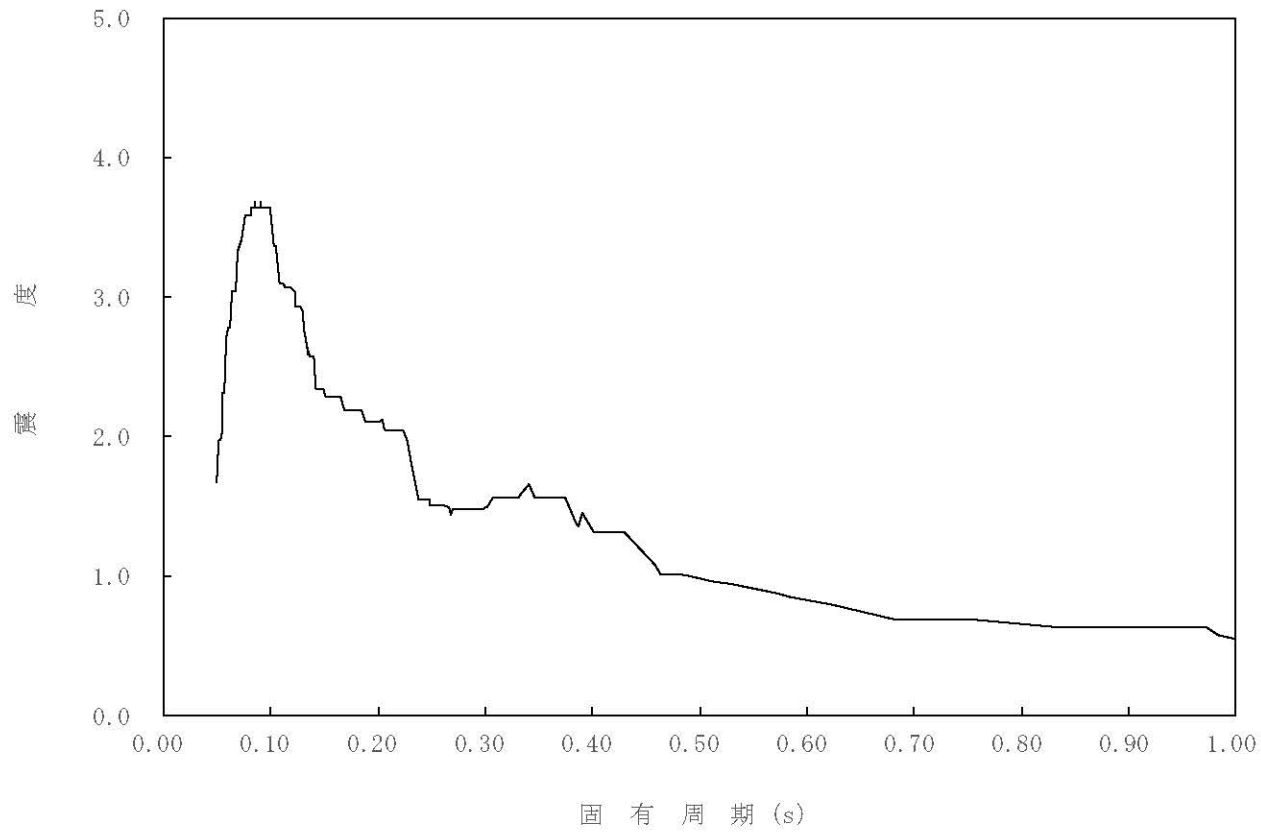
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-5

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTStop-020】

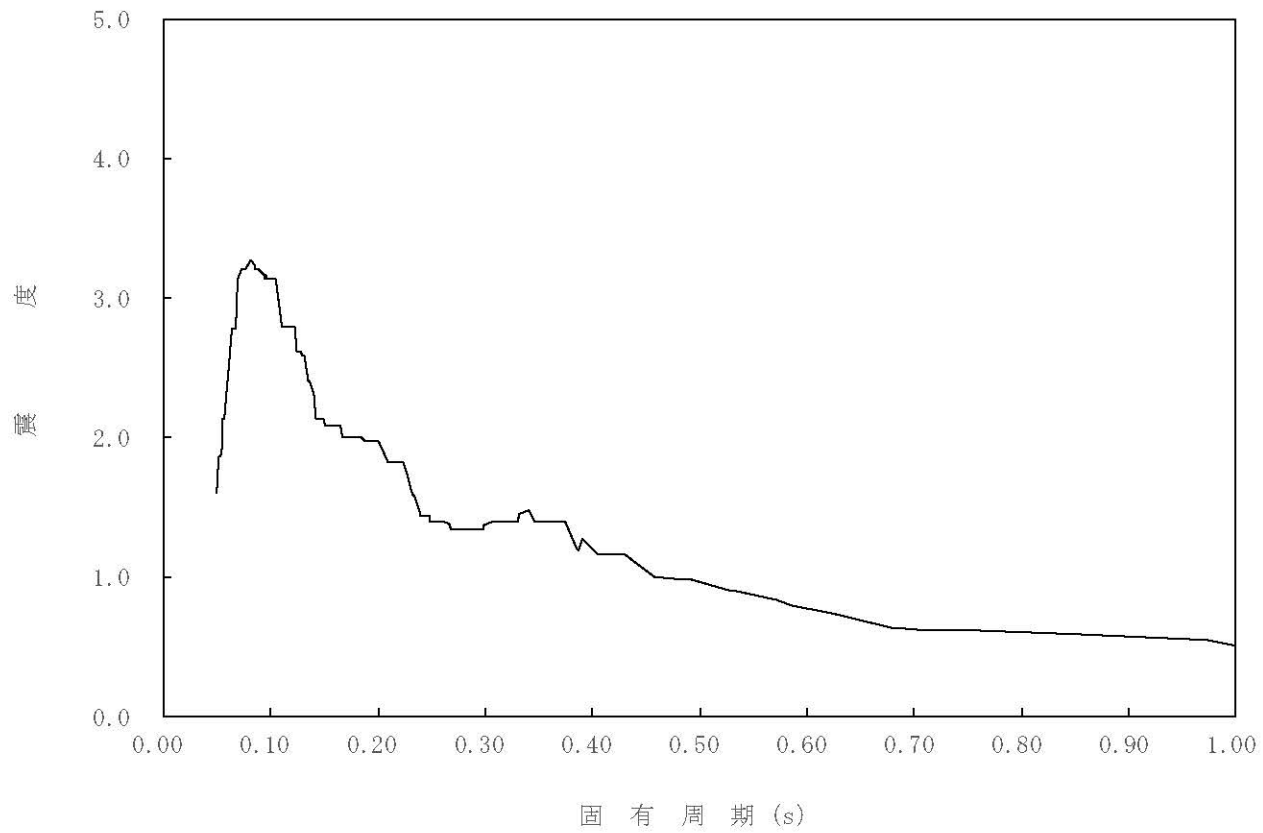
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-6

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTStop-030】

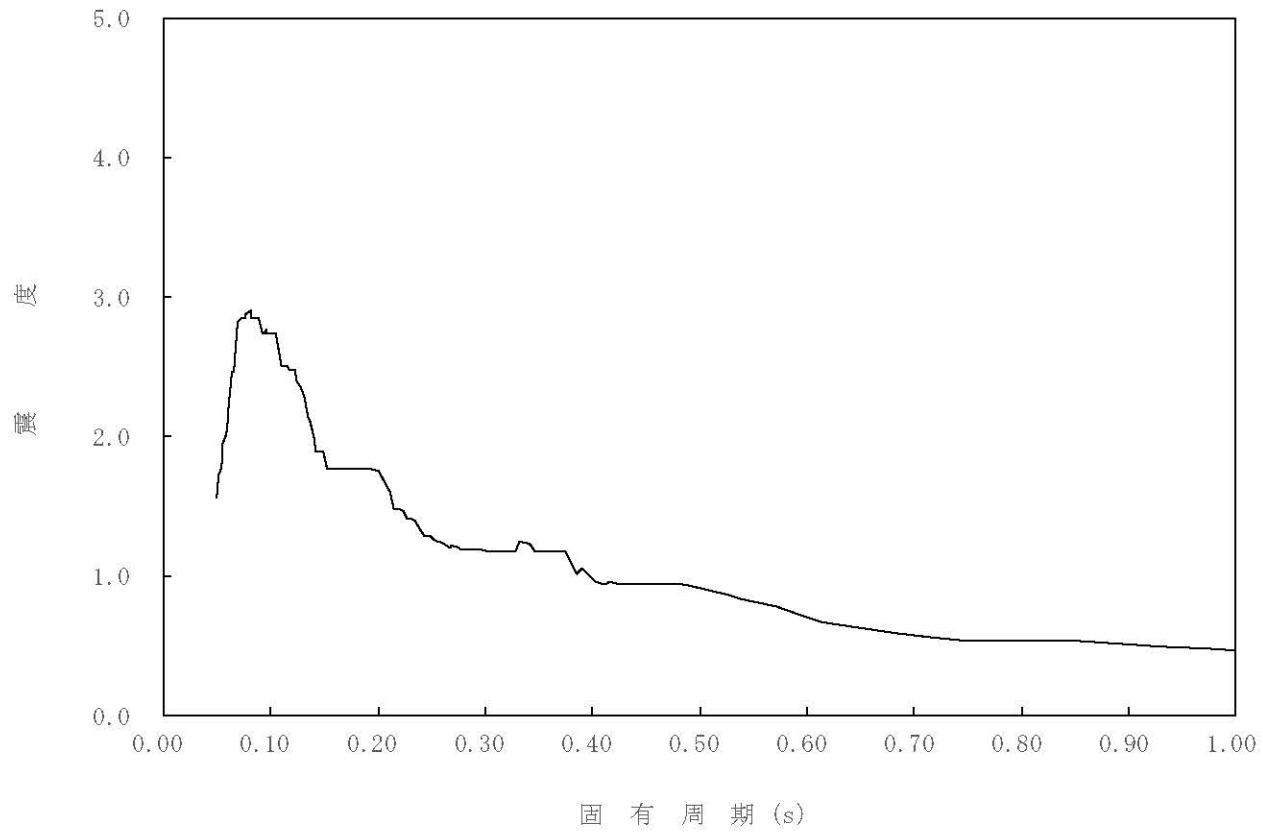
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-7

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。



【02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-005】

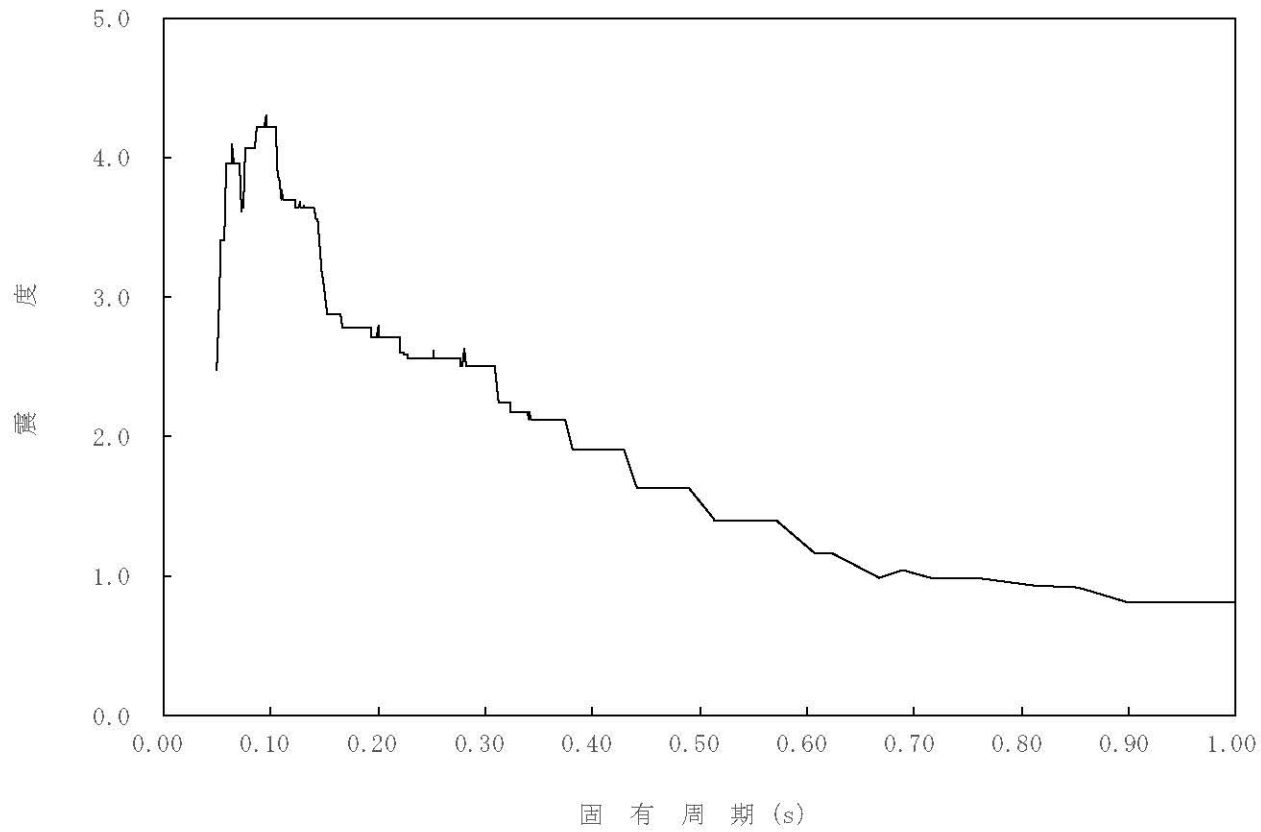
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-8

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-010】

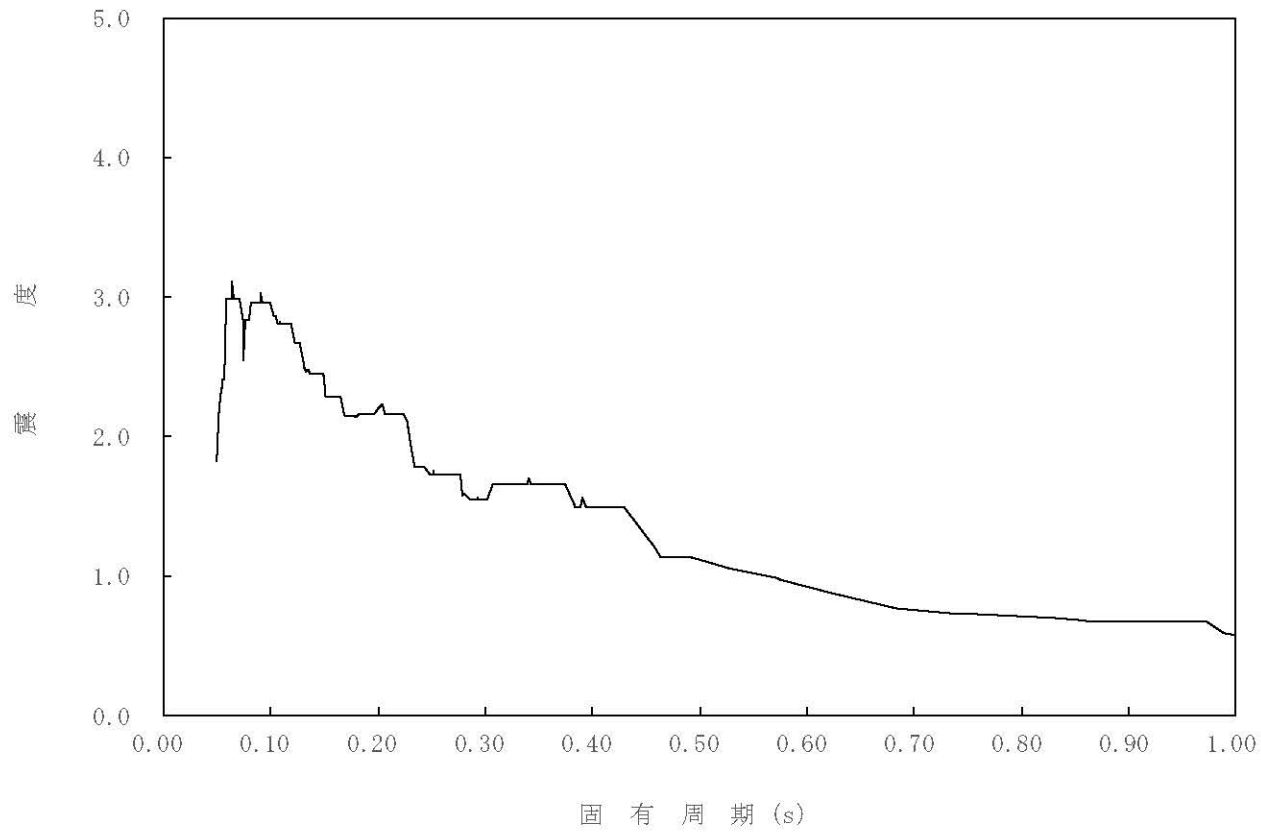
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-9

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-015】

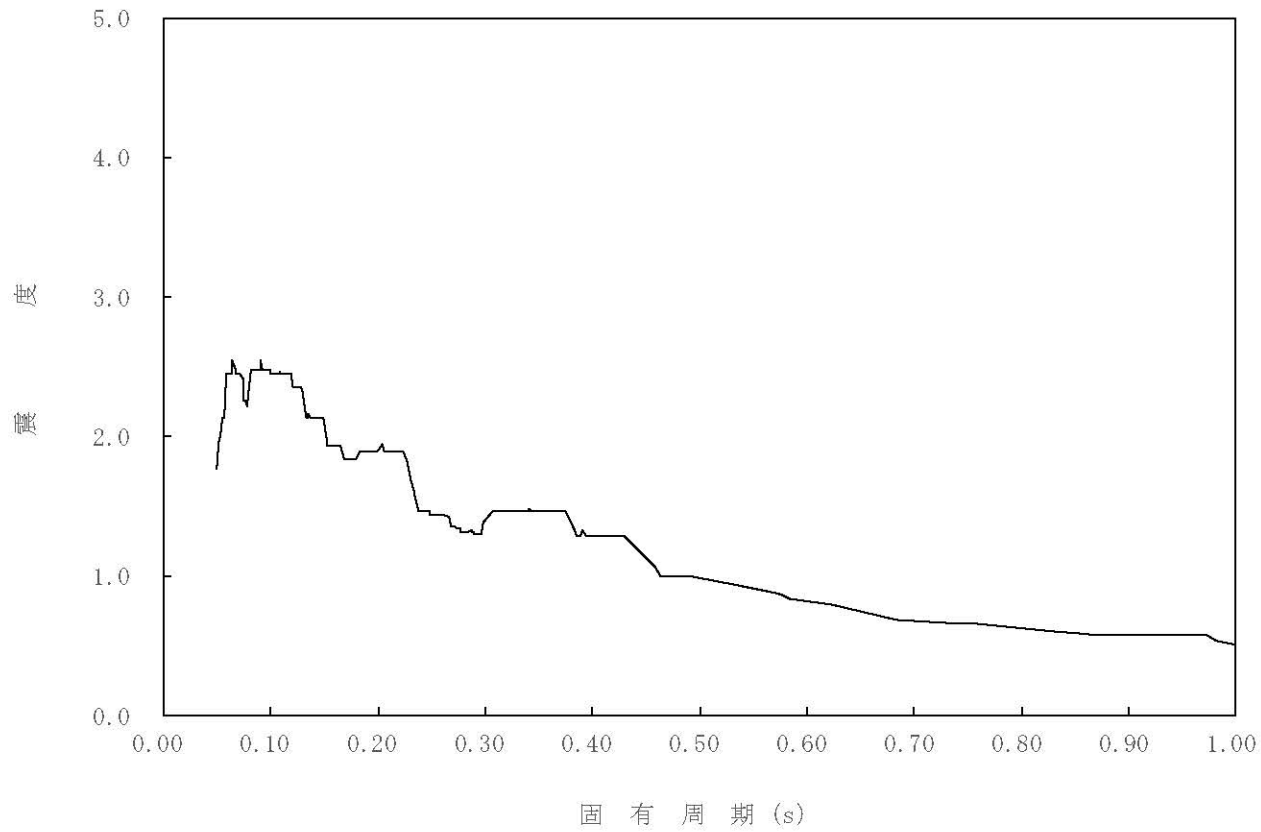
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-10

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-020】

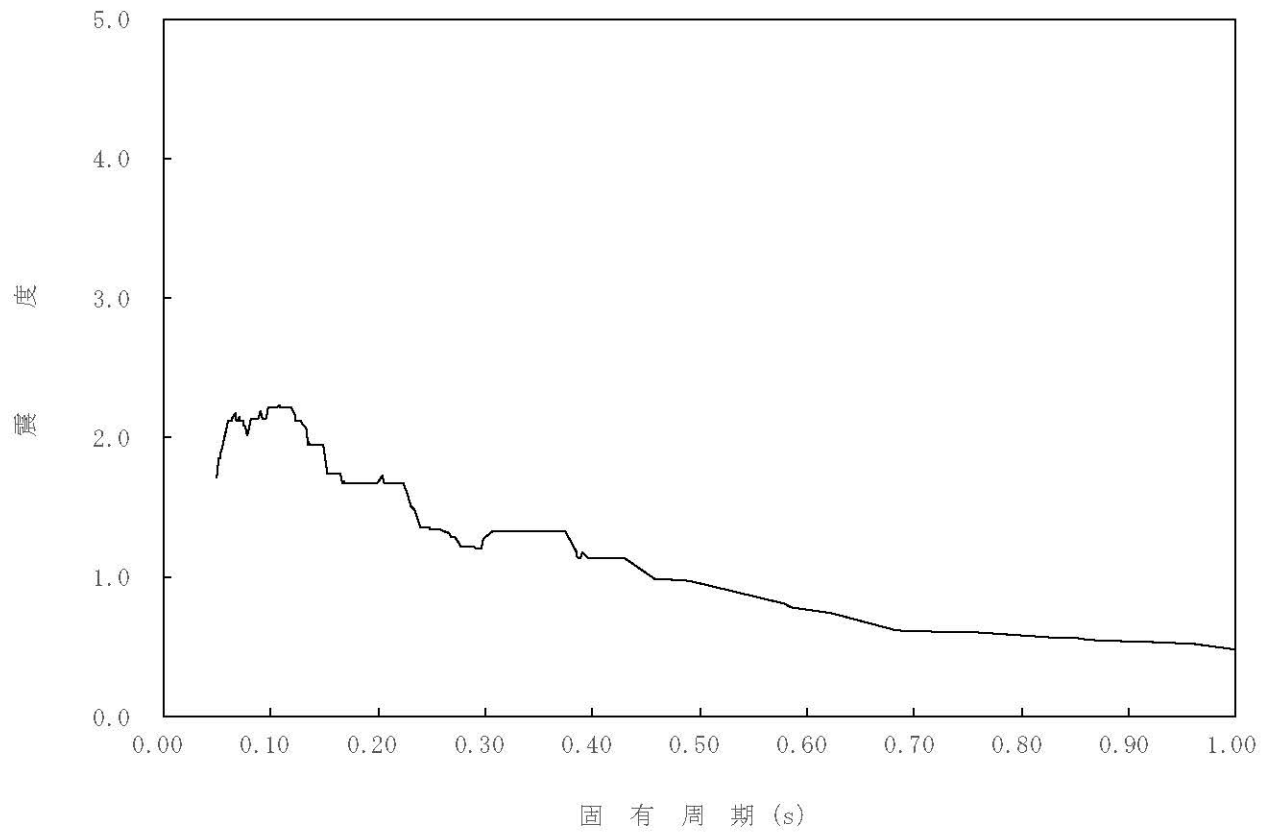
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-11

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTSmiddle-030】

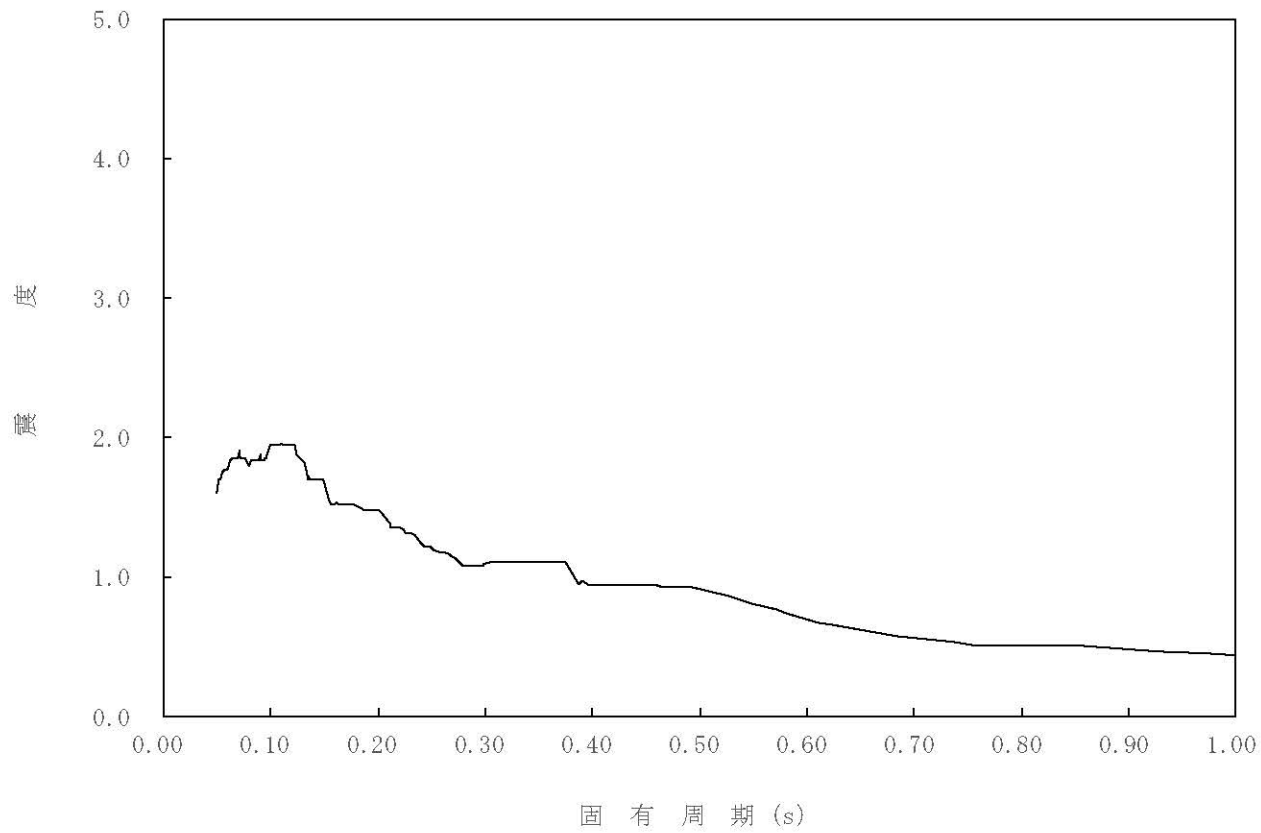
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-12

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdH-SGTSbottom-005】

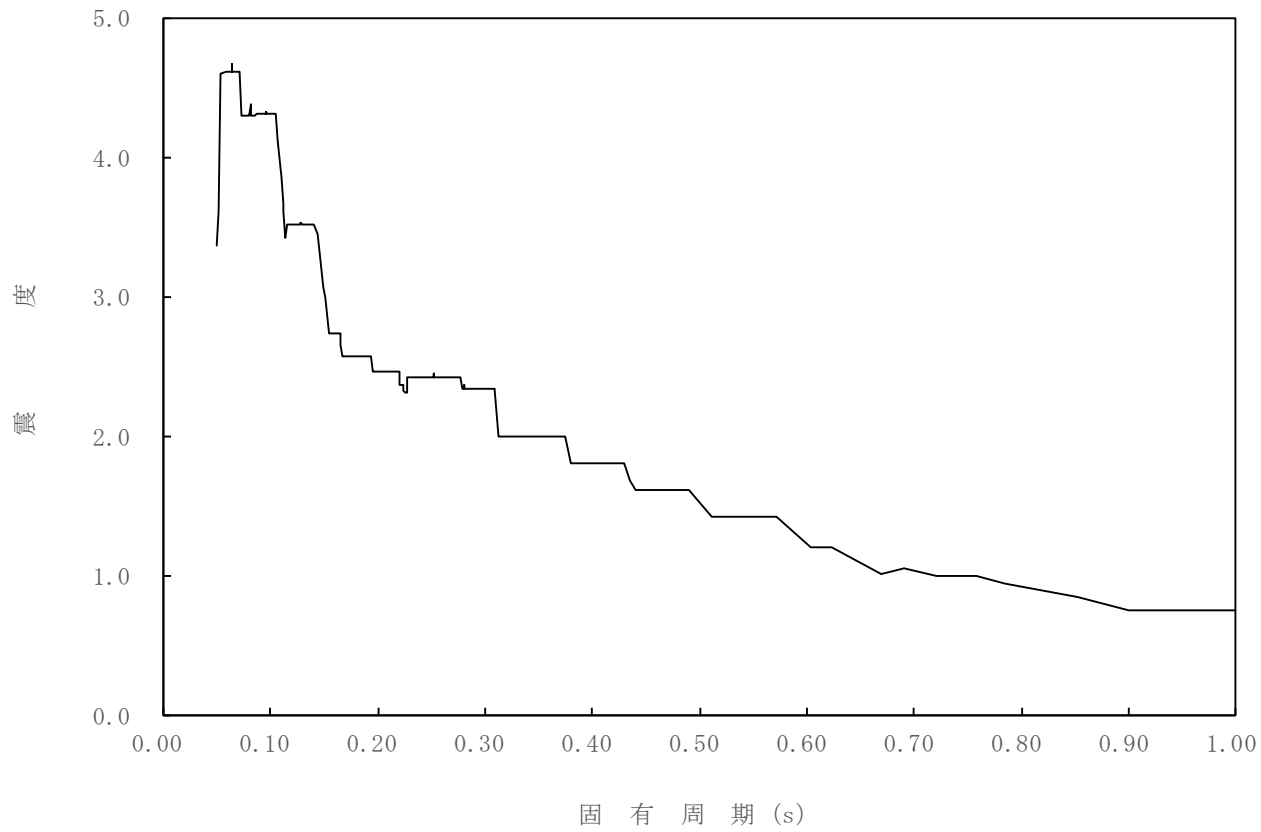
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SGTS-SdH-SGTSbottom-010】

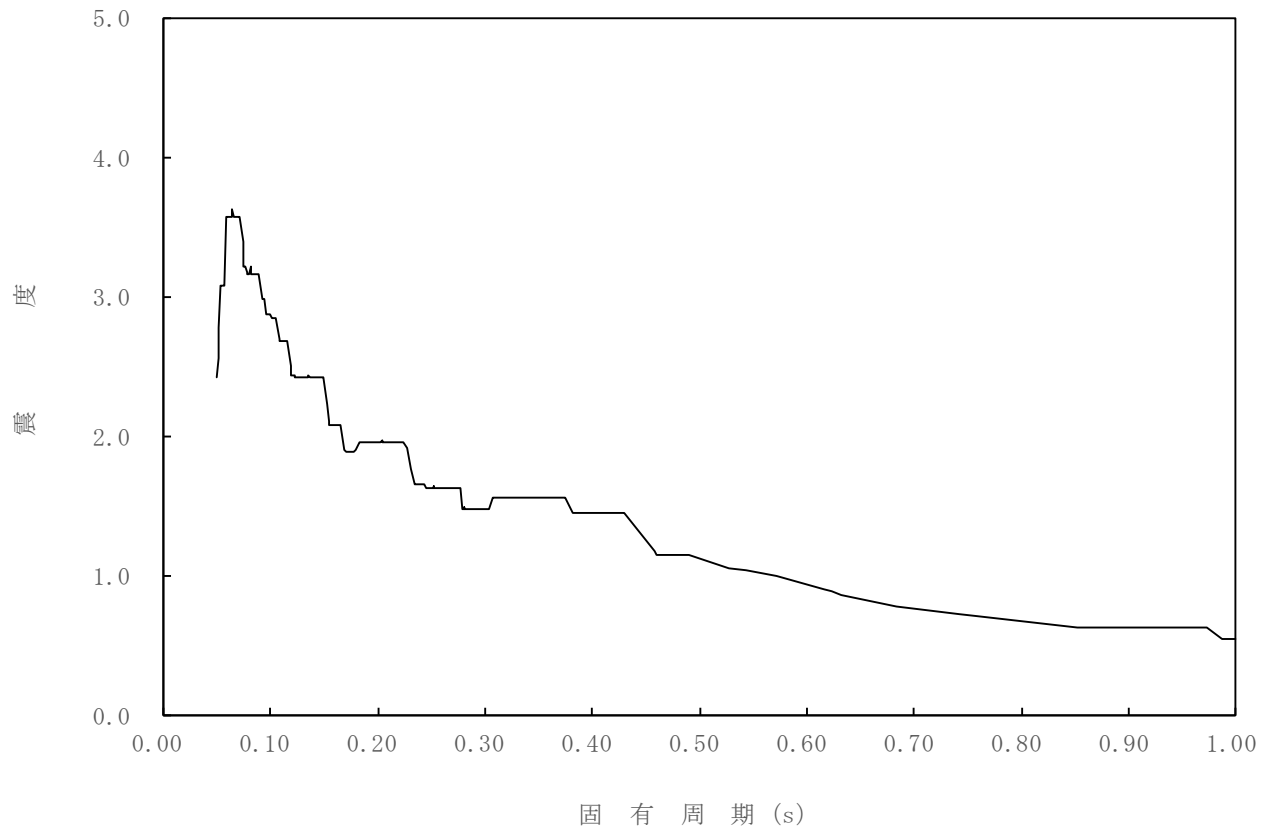
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：O.P. -8.100~0.940m

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SGTS-SdH-SGTSbottom-015】

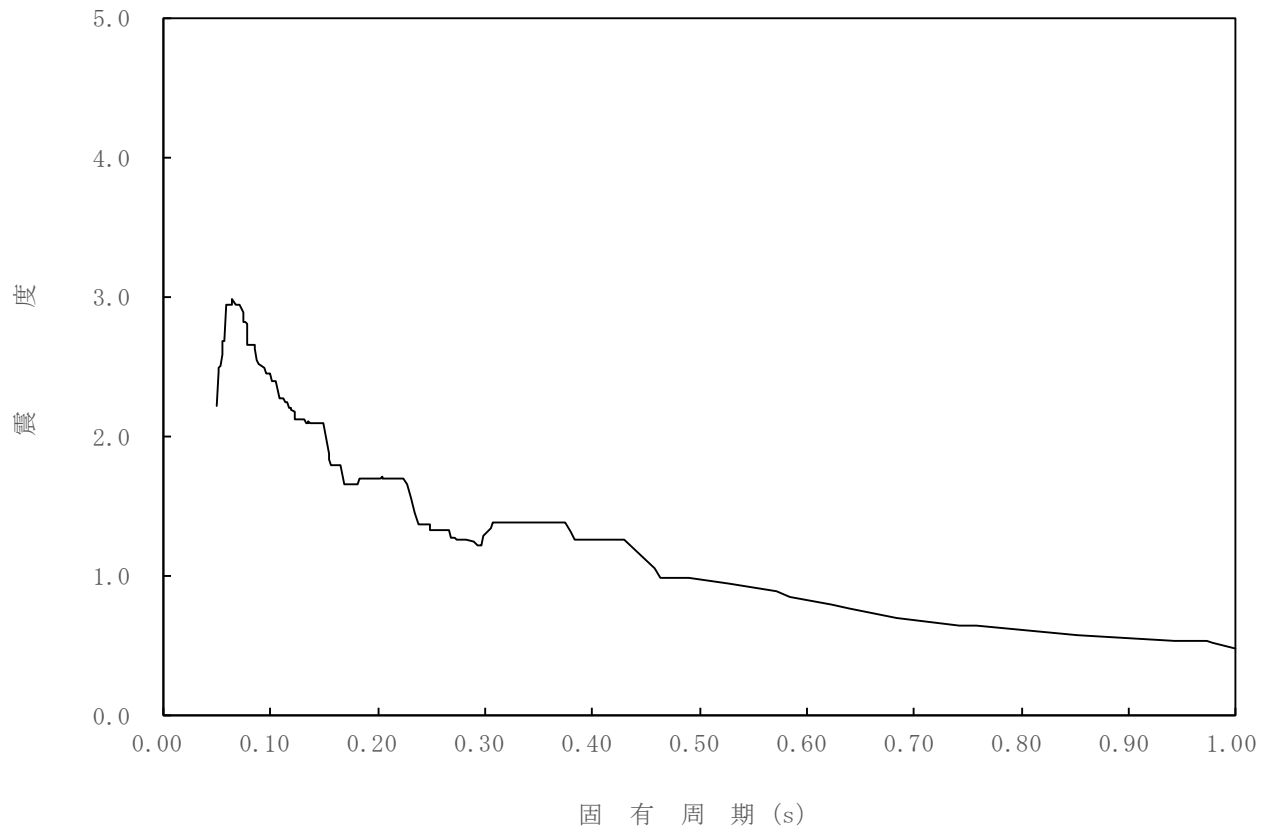
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-15



【02-SGTS-SdH-SGTSbottom-020】

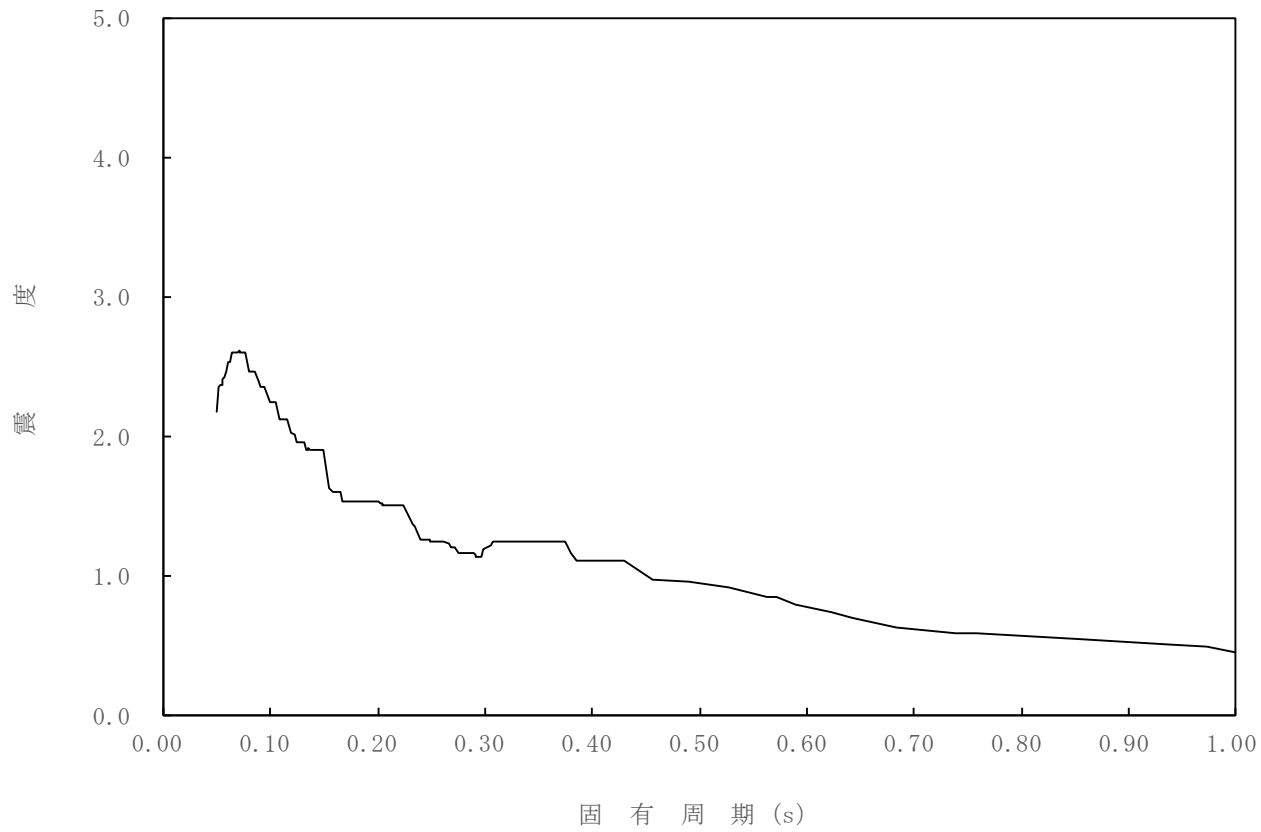
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-16

【02-SGTS-SdH-SGTSbottom-030】

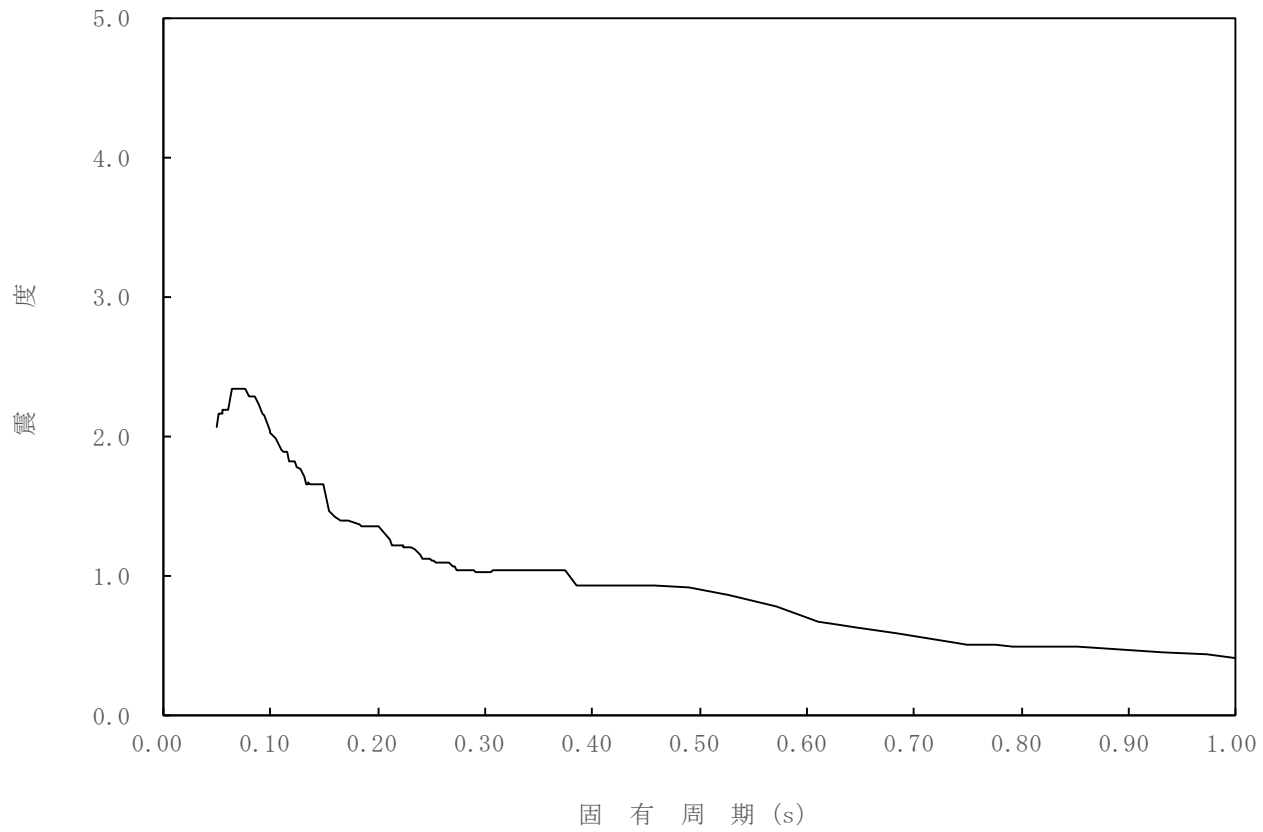
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-17

【02-SGTS-SdV-SGTStop-005】

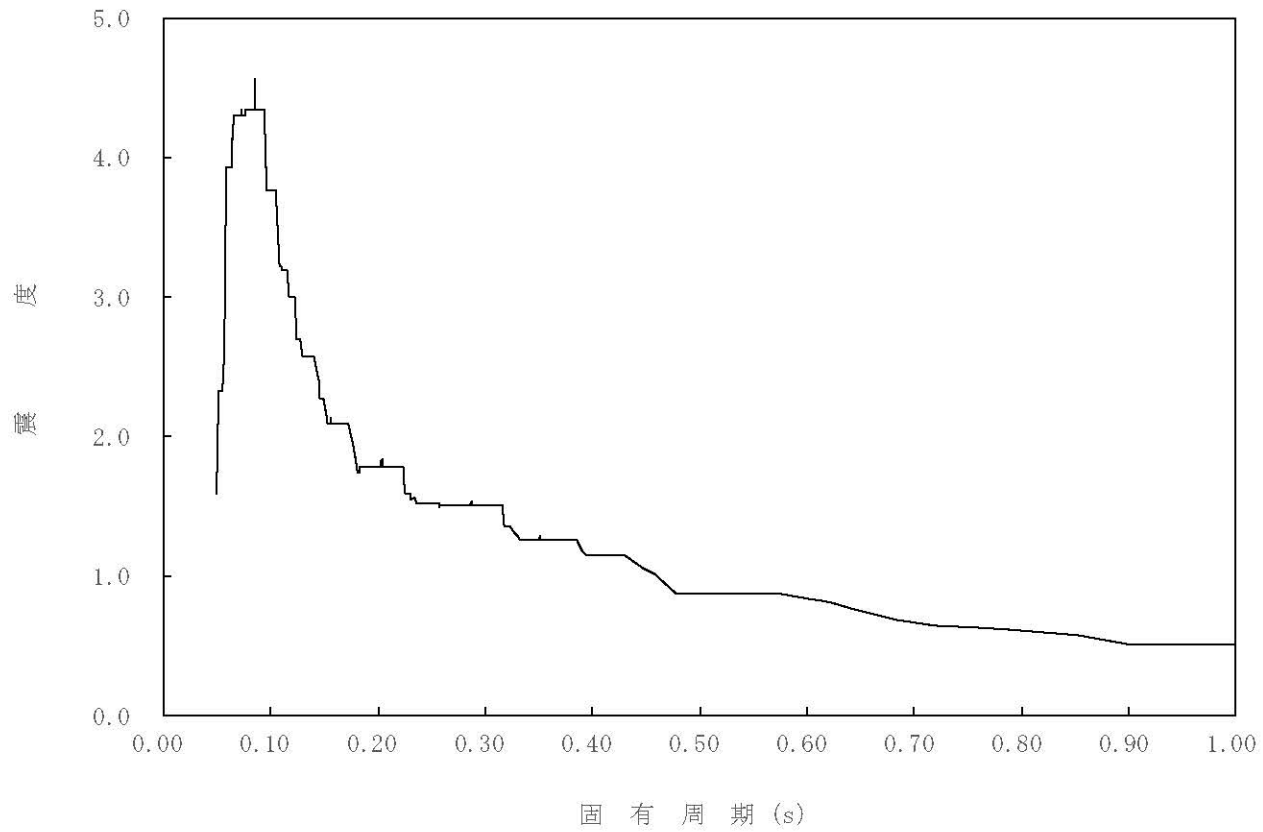
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-18

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTStop-010】

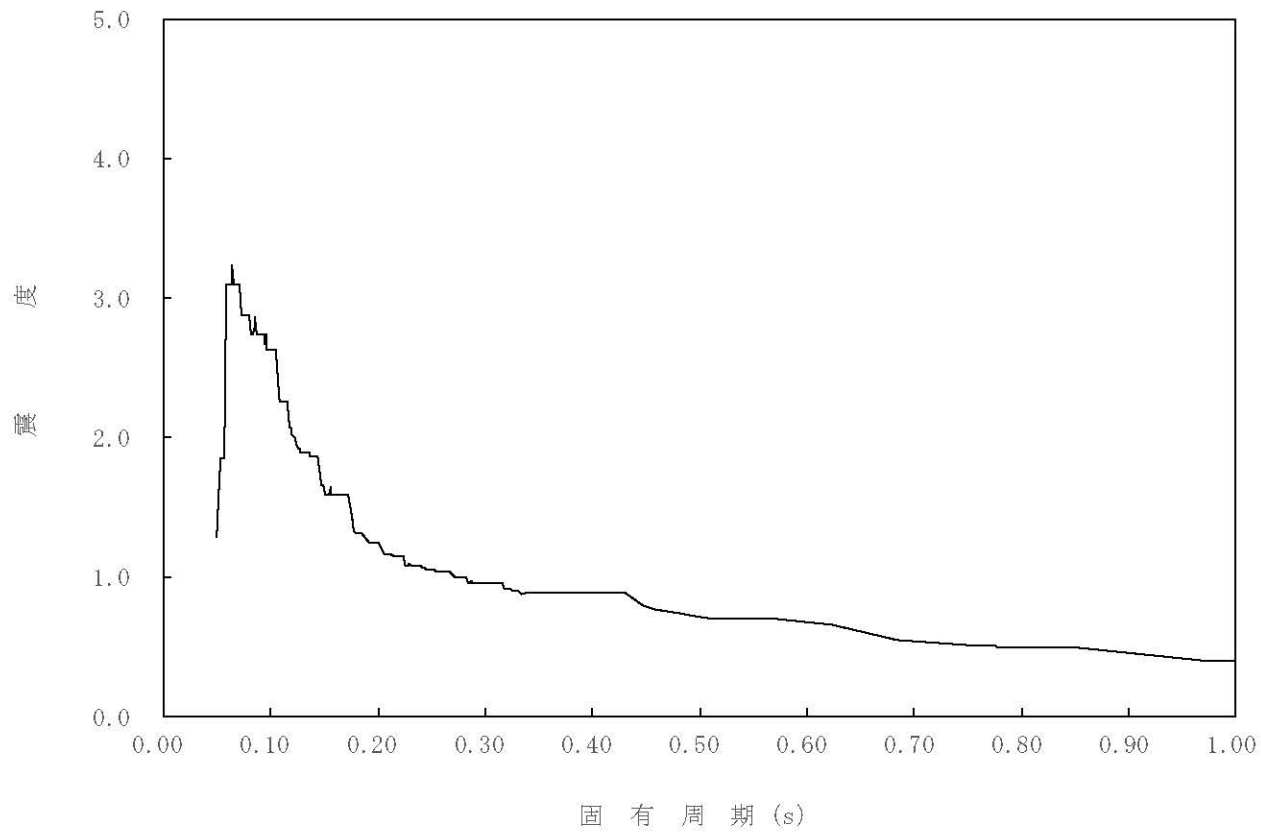
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-19

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTStop-015】

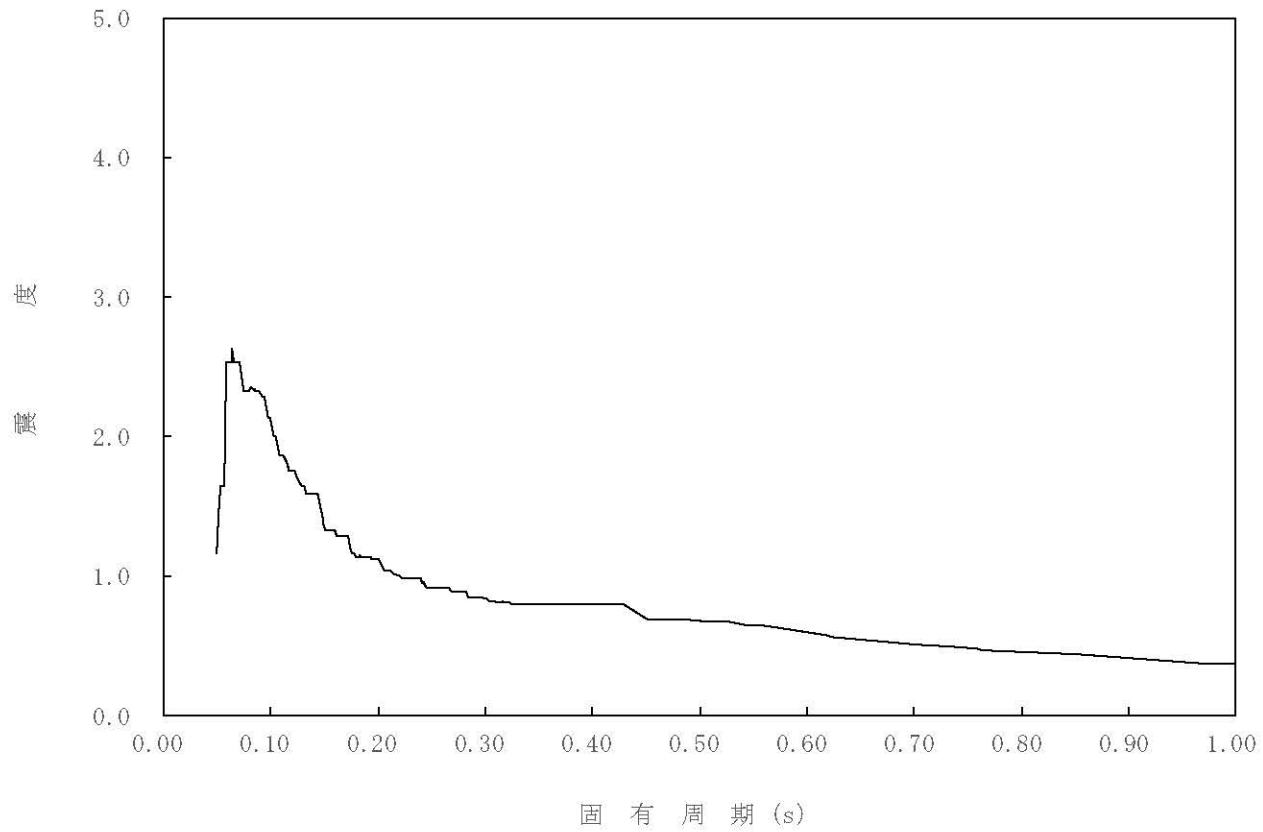
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-20

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTStop-020】

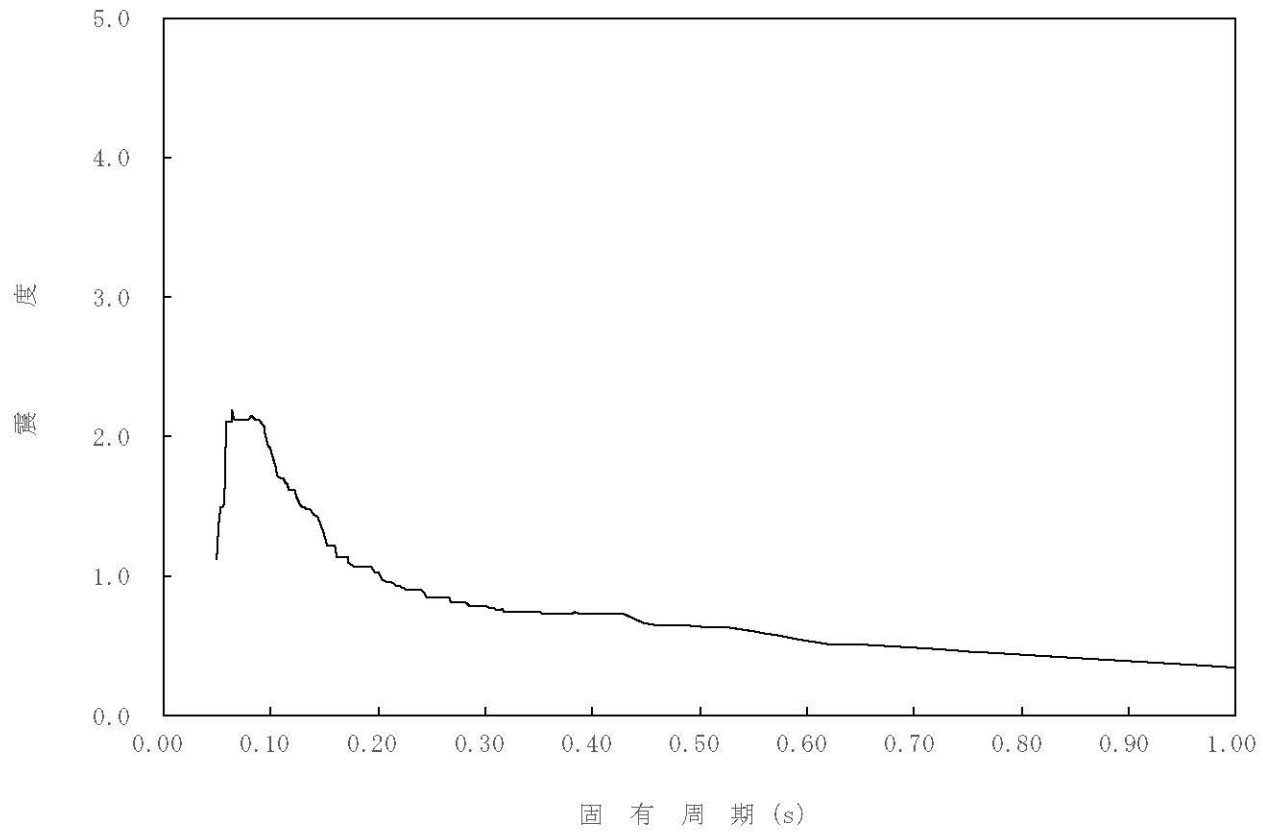
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-21

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTStop-030】

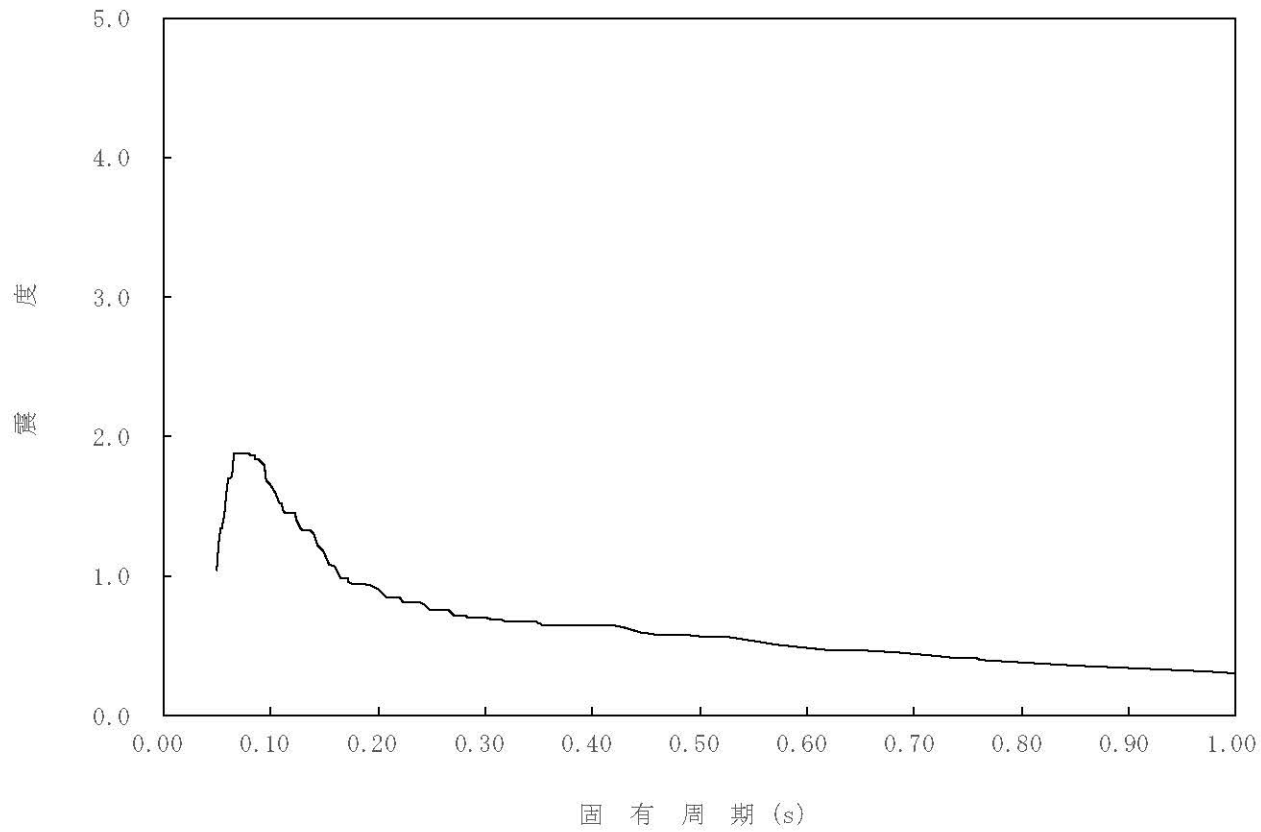
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-22

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-005】

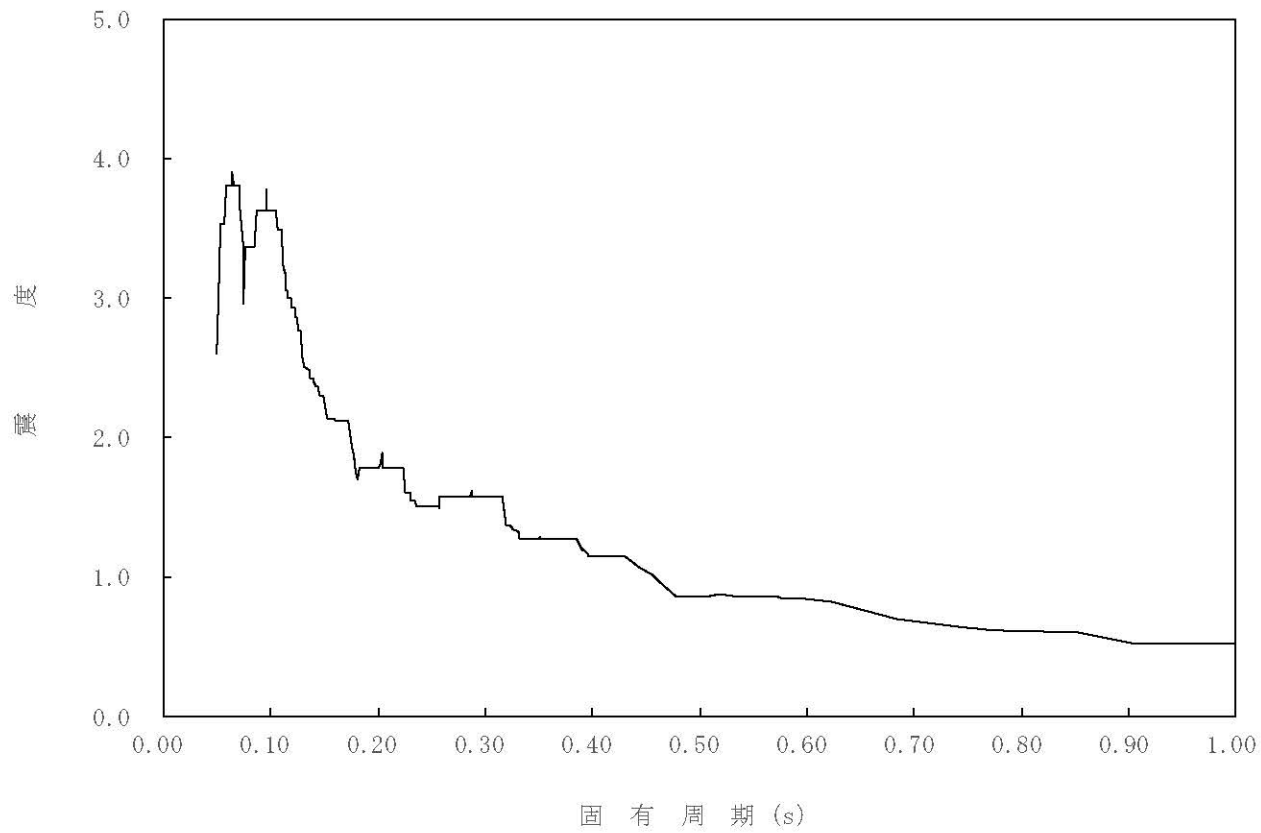
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-23

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。



【02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-010】

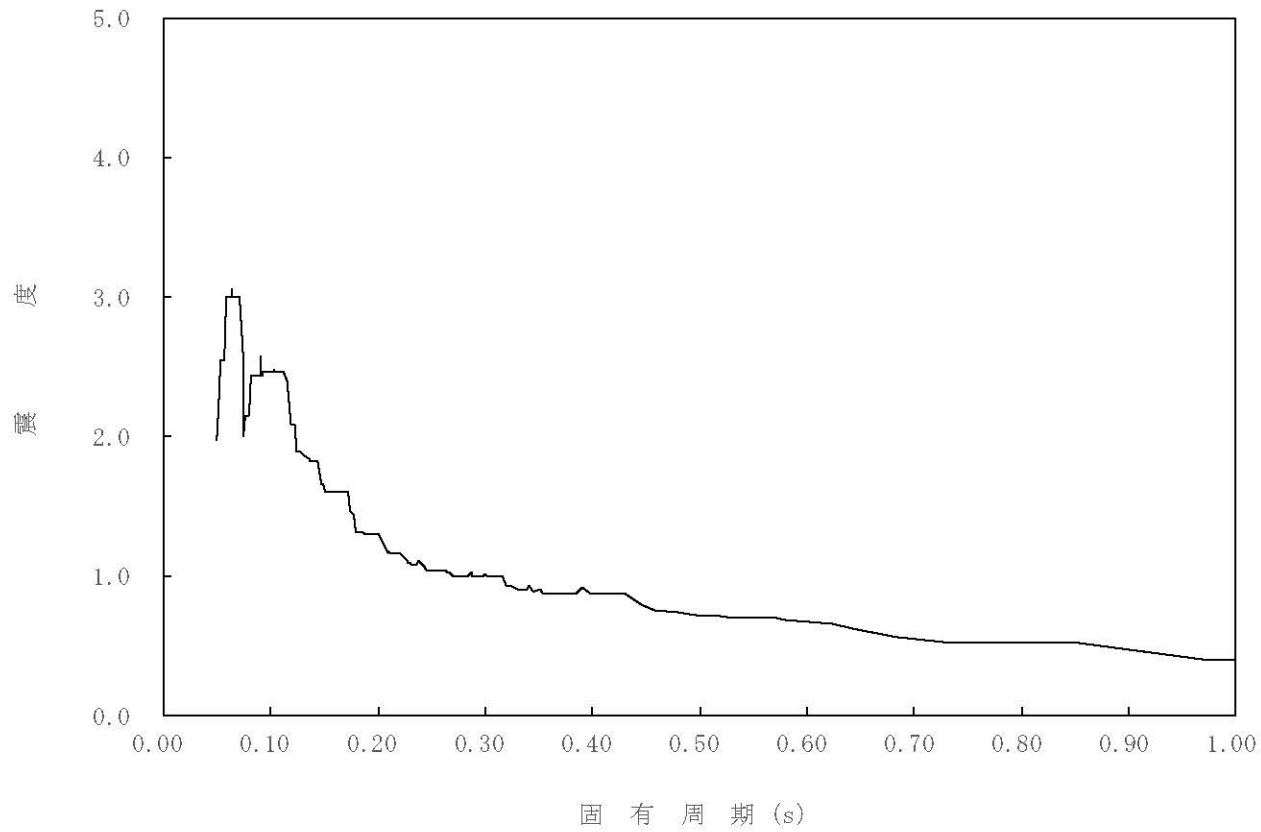
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-24

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-015】

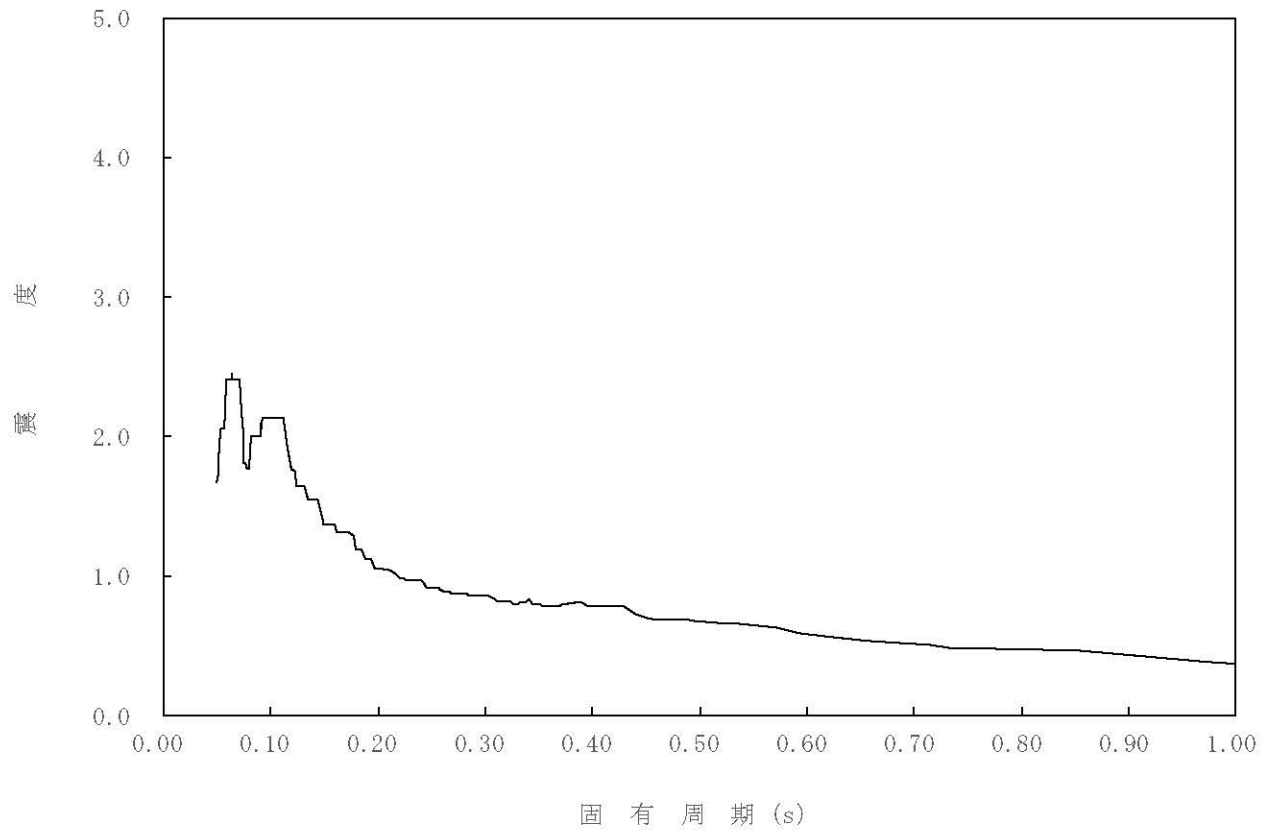
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-25

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-020】

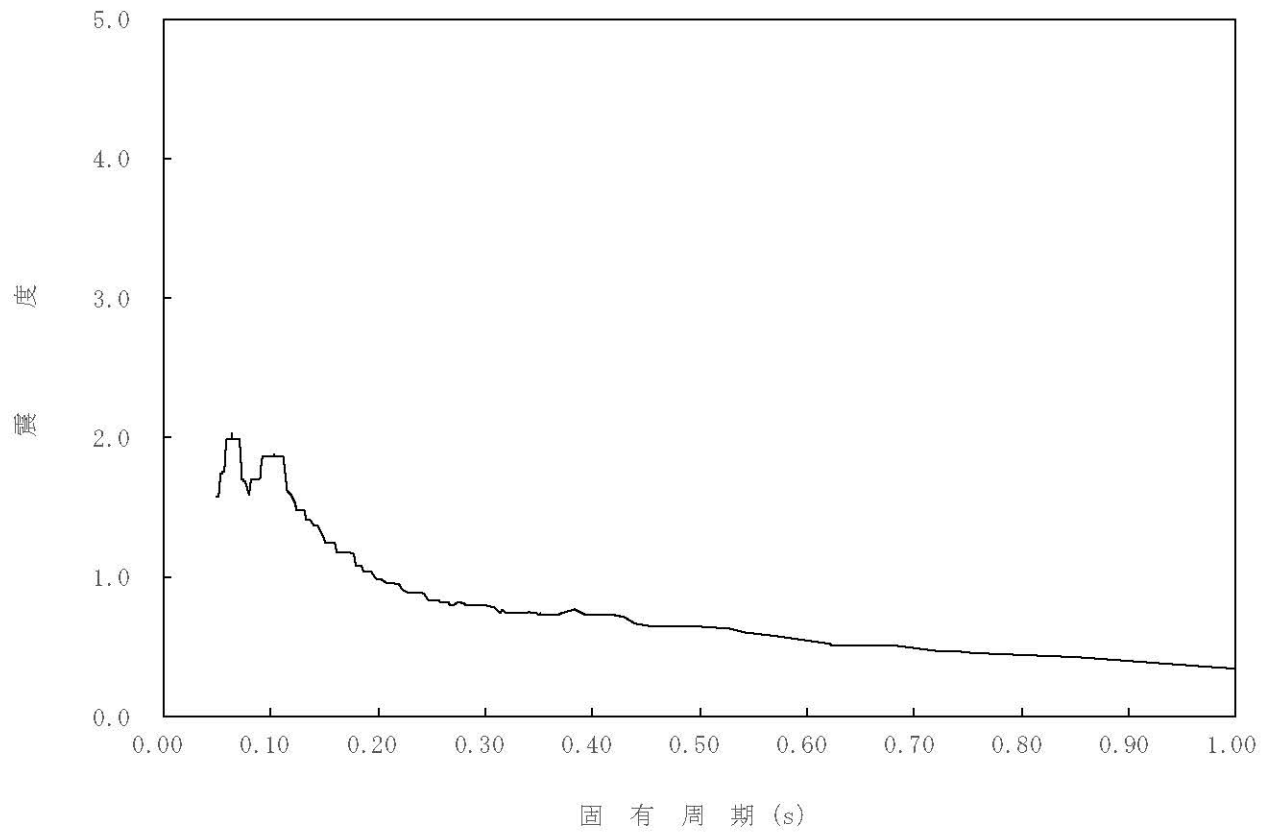
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-26

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTSmiddle-030】

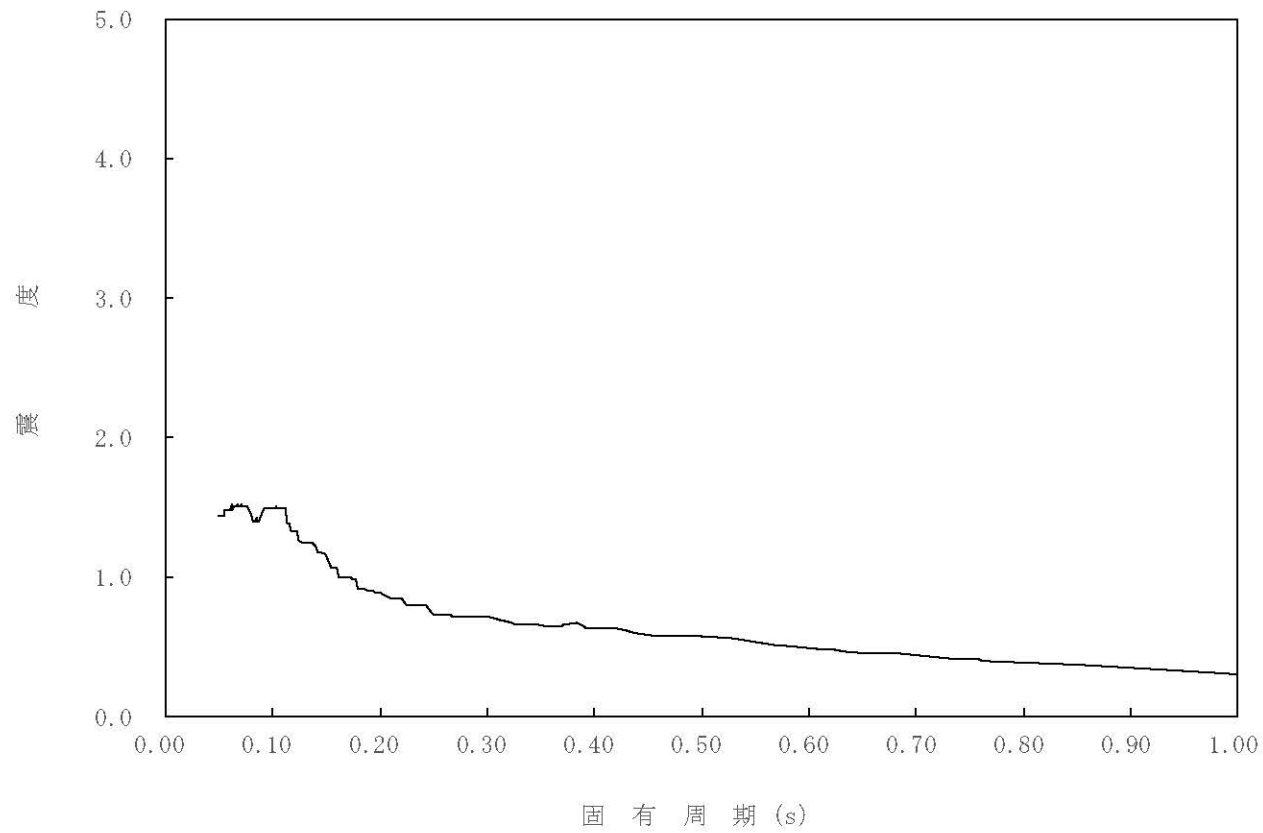
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-9-27

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

【02-SGTS-SdV-SGTSbottom-005】

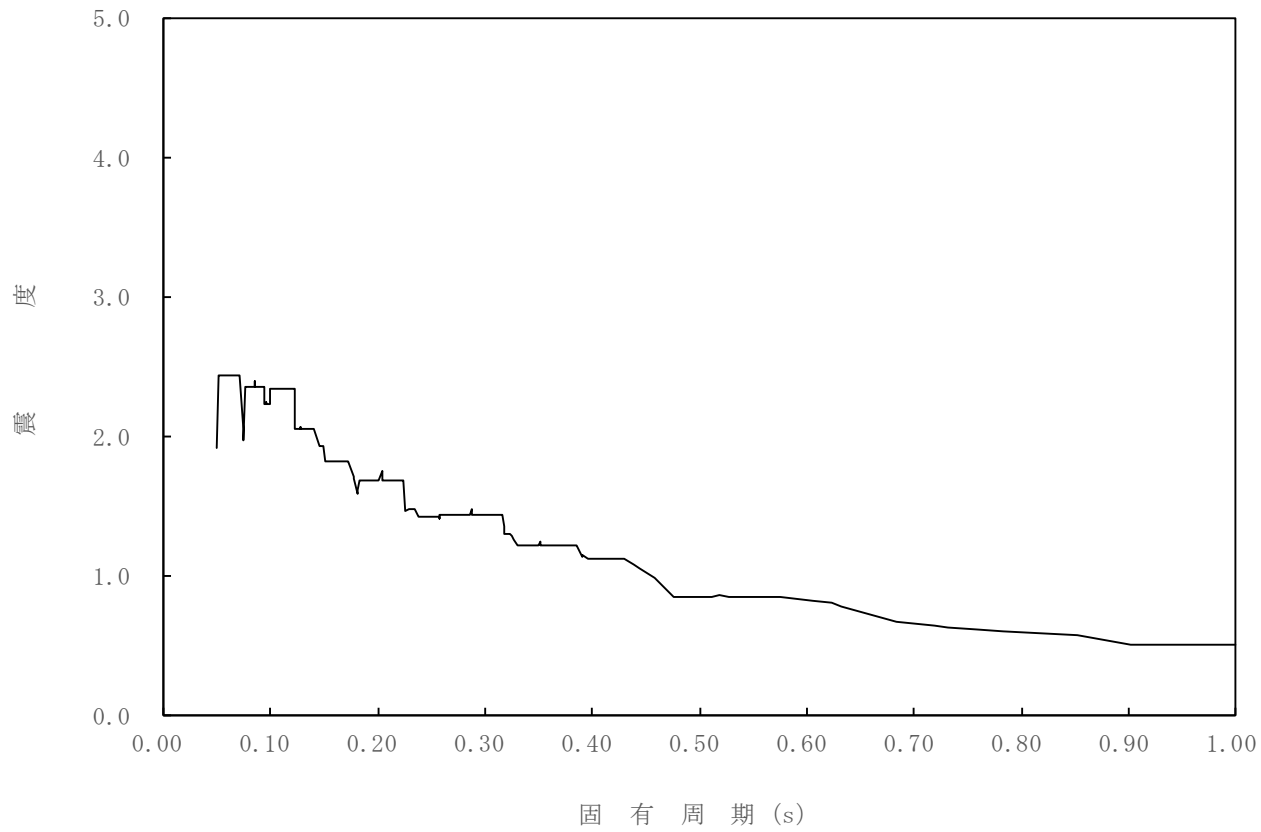
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SGTS-SdV-SGTSbottom-010】

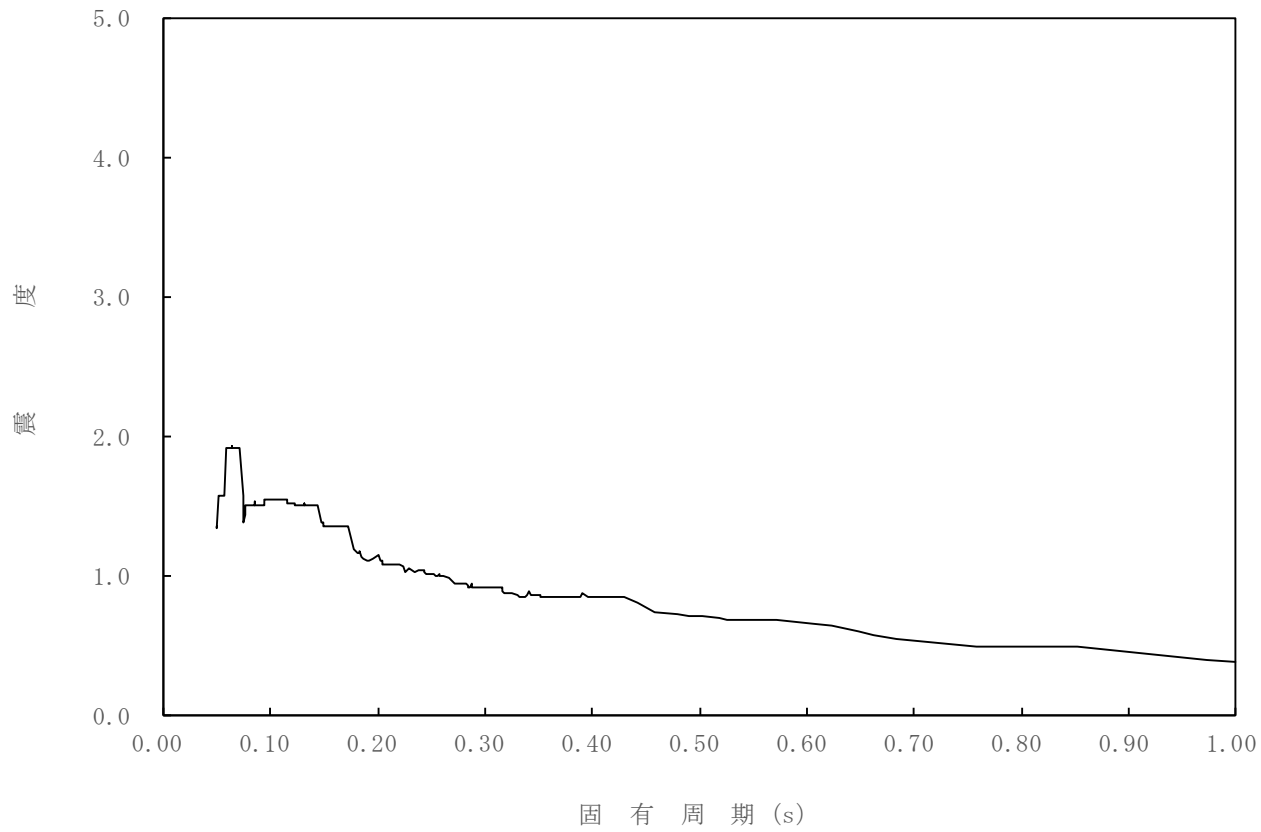
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SGTS-SdV-SGTSbottom-015】

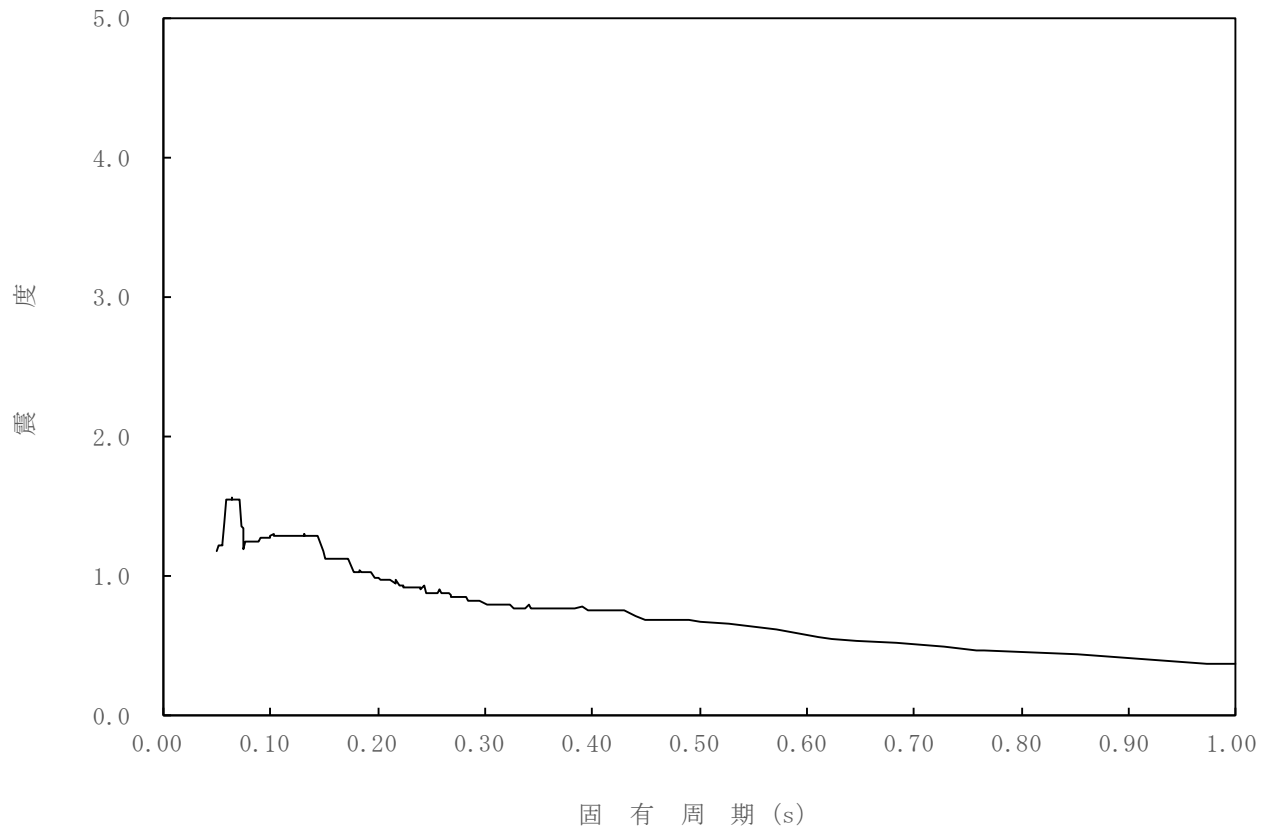
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



【02-SGTS-SdV-SGTSbottom-020】

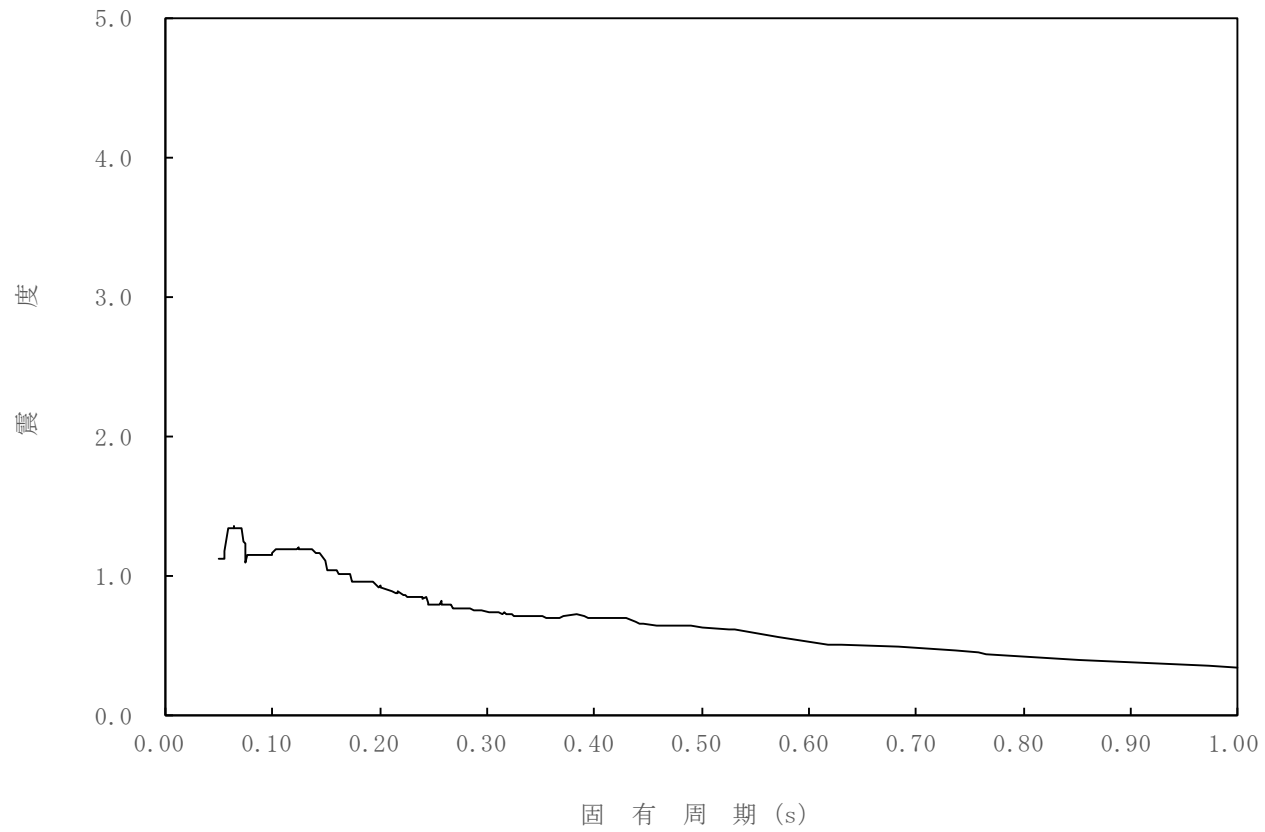
構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d





【02-SGTS-SdV-SGTSbottom-030】

構造物名：排気筒連絡ダクト

標高：0.P. -8.100~0.940m

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

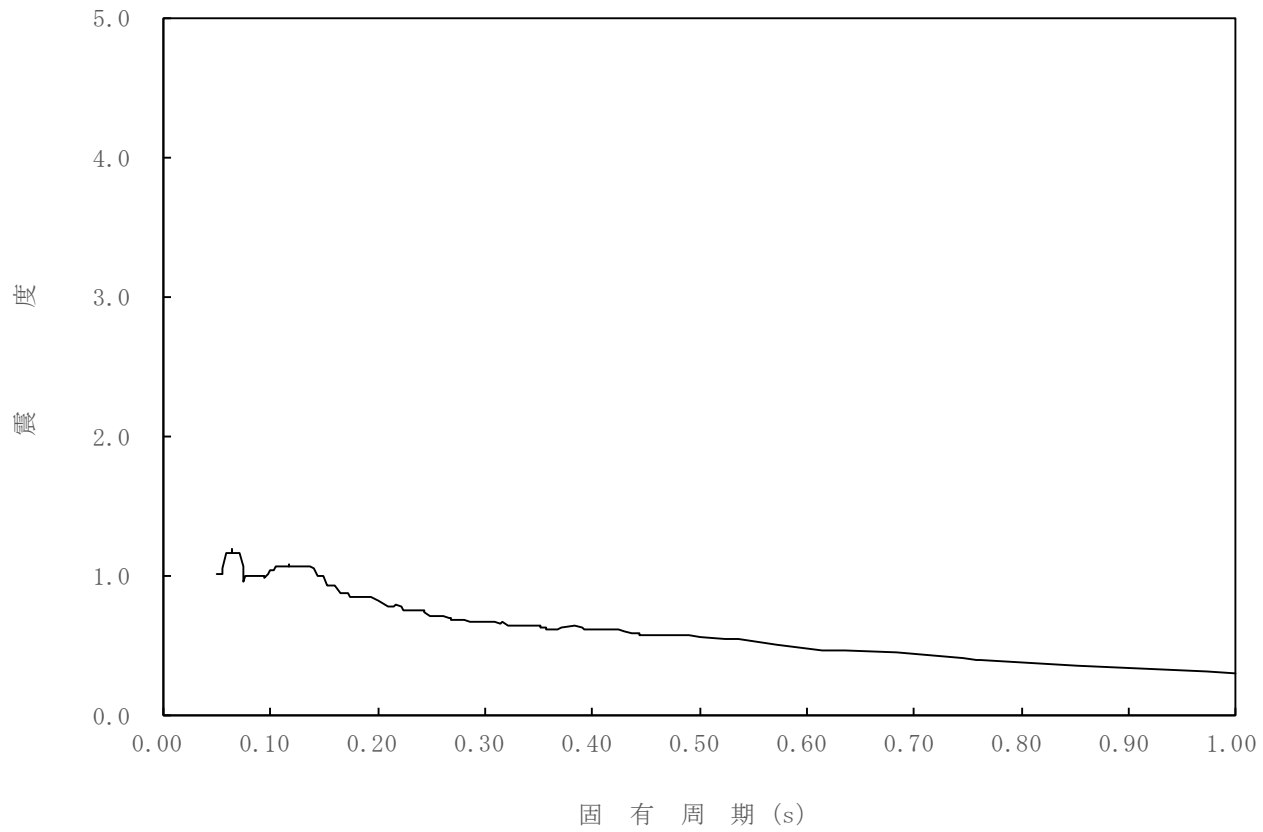


表 4-2-10 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 水平方向) (1/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 格納容器	水平 方向	30		0.5	02-PCV-SdH-PCV30-005
					1.0	02-PCV-SdH-PCV30-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV30-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV30-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV30-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV30-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV30-040
					5.0	02-PCV-SdH-PCV30-050
					29	0.5
			1.0			02-PCV-SdH-PCV29-010
			1.5			02-PCV-SdH-PCV29-015
			2.0			02-PCV-SdH-PCV29-020
			2.5			02-PCV-SdH-PCV29-025
			3.0			02-PCV-SdH-PCV29-030
			4.0			02-PCV-SdH-PCV29-040
			5.0			02-PCV-SdH-PCV29-050
			28			0.5
					1.0	02-PCV-SdH-PCV28-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV28-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV28-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV28-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV28-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV28-040
					5.0	02-PCV-SdH-PCV28-050
					27	0.5
			1.0			02-PCV-SdH-PCV27-010
			1.5			02-PCV-SdH-PCV27-015
			2.0			02-PCV-SdH-PCV27-020
			2.5			02-PCV-SdH-PCV27-025
			3.0			02-PCV-SdH-PCV27-030
			4.0			02-PCV-SdH-PCV27-040
			5.0			02-PCV-SdH-PCV27-050

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 水平方向) (2/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 格納容器	水平 方向	26		0.5	02-PCV-SdH-PCV26-005
					1.0	02-PCV-SdH-PCV26-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV26-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV26-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV26-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV26-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV26-040
					5.0	02-PCV-SdH-PCV26-050
			25		0.5	02-PCV-SdH-PCV25-005
					1.0	02-PCV-SdH-PCV25-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV25-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV25-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV25-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV25-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV25-040
					5.0	02-PCV-SdH-PCV25-050
			24		0.5	02-PCV-SdH-PCV24-005
					1.0	02-PCV-SdH-PCV24-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV24-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV24-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV24-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV24-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV24-040
					5.0	02-PCV-SdH-PCV24-050
			23		0.5	02-PCV-SdH-PCV23-005
					1.0	02-PCV-SdH-PCV23-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV23-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV23-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV23-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV23-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV23-040
					5.0	02-PCV-SdH-PCV23-050

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 水平方向) (3/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 格納容器	水平 方向	22		0.5	02-PCV-SdH-PCV22-005
					1.0	02-PCV-SdH-PCV22-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV22-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV22-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV22-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV22-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV22-040
			5.0		02-PCV-SdH-PCV22-050	
			21		0.5	02-PCV-SdH-PCV21-005
					1.0	02-PCV-SdH-PCV21-010
					1.5	02-PCV-SdH-PCV21-015
					2.0	02-PCV-SdH-PCV21-020
					2.5	02-PCV-SdH-PCV21-025
					3.0	02-PCV-SdH-PCV21-030
					4.0	02-PCV-SdH-PCV21-040
	5.0	02-PCV-SdH-PCV21-050				
	原子炉 しゃへい壁	20	0.5		02-PCV-SdH-RSW20-005	
			1.0		02-PCV-SdH-RSW20-010	
			1.5		02-PCV-SdH-RSW20-015	
			2.0		02-PCV-SdH-RSW20-020	
			2.5		02-PCV-SdH-RSW20-025	
			3.0		02-PCV-SdH-RSW20-030	
			4.0		02-PCV-SdH-RSW20-040	
		5.0	02-PCV-SdH-RSW20-050			
		19	0.5		02-PCV-SdH-RSW19-005	
			1.0		02-PCV-SdH-RSW19-010	
			1.5		02-PCV-SdH-RSW19-015	
			2.0		02-PCV-SdH-RSW19-020	
			2.5		02-PCV-SdH-RSW19-025	
			3.0		02-PCV-SdH-RSW19-030	
4.0			02-PCV-SdH-RSW19-040			
5.0	02-PCV-SdH-RSW19-050					

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2



表 4-2-10 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 水平方向) (5/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 压力容器	水平 方向	14		0.5	02-PCV-SdH-RPV14-005
					1.0	02-PCV-SdH-RPV14-010
					1.5	02-PCV-SdH-RPV14-015
					2.0	02-PCV-SdH-RPV14-020
					2.5	02-PCV-SdH-RPV14-025
					3.0	02-PCV-SdH-RPV14-030
					4.0	02-PCV-SdH-RPV14-040
					5.0	02-PCV-SdH-RPV14-050
			13		0.5	02-PCV-SdH-RPV13-005
					1.0	02-PCV-SdH-RPV13-010
					1.5	02-PCV-SdH-RPV13-015
					2.0	02-PCV-SdH-RPV13-020
					2.5	02-PCV-SdH-RPV13-025
					3.0	02-PCV-SdH-RPV13-030
					4.0	02-PCV-SdH-RPV13-040
					5.0	02-PCV-SdH-RPV13-050
			12		0.5	02-PCV-SdH-RPV12-005
					1.0	02-PCV-SdH-RPV12-010
					1.5	02-PCV-SdH-RPV12-015
					2.0	02-PCV-SdH-RPV12-020
					2.5	02-PCV-SdH-RPV12-025
					3.0	02-PCV-SdH-RPV12-030
					4.0	02-PCV-SdH-RPV12-040
					5.0	02-PCV-SdH-RPV12-050
			11		0.5	02-PCV-SdH-RPV11-005
					1.0	02-PCV-SdH-RPV11-010
					1.5	02-PCV-SdH-RPV11-015
					2.0	02-PCV-SdH-RPV11-020
					2.5	02-PCV-SdH-RPV11-025
					3.0	02-PCV-SdH-RPV11-030
					4.0	02-PCV-SdH-RPV11-040
					5.0	02-PCV-SdH-RPV11-050

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 水平方向) (6/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番	
S d	原子炉 压力容器	水平 方向	10		0.5	02-PCV-SdH-RPV10-005	
					1.0	02-PCV-SdH-RPV10-010	
					1.5	02-PCV-SdH-RPV10-015	
					2.0	02-PCV-SdH-RPV10-020	
					2.5	02-PCV-SdH-RPV10-025	
					3.0	02-PCV-SdH-RPV10-030	
			4.0		02-PCV-SdH-RPV10-040		
			5.0		02-PCV-SdH-RPV10-050		
			9		0.5	02-PCV-SdH-RPV9-005	
					1.0	02-PCV-SdH-RPV9-010	
					1.5	02-PCV-SdH-RPV9-015	
					2.0	02-PCV-SdH-RPV9-020	
					2.5	02-PCV-SdH-RPV9-025	
					3.0	02-PCV-SdH-RPV9-030	
			4.0		02-PCV-SdH-RPV9-040		
			5.0		02-PCV-SdH-RPV9-050		
			8		0.5	02-PCV-SdH-RPV8-005	
					1.0	02-PCV-SdH-RPV8-010	
					1.5	02-PCV-SdH-RPV8-015	
					2.0	02-PCV-SdH-RPV8-020	
					2.5	02-PCV-SdH-RPV8-025	
					3.0	02-PCV-SdH-RPV8-030	
			4.0		02-PCV-SdH-RPV8-040		
			5.0		02-PCV-SdH-RPV8-050		
			原子炉本体 の基礎		7	0.5	02-PCV-SdH-PED7-005
						1.0	02-PCV-SdH-PED7-010
						1.5	02-PCV-SdH-PED7-015
						2.0	02-PCV-SdH-PED7-020
						2.5	02-PCV-SdH-PED7-025
						3.0	02-PCV-SdH-PED7-030
	4.0					02-PCV-SdH-PED7-040	
	5.0					02-PCV-SdH-PED7-050	

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (1) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 水平方向) (7/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉本体 の基礎	水平 方向	6		0.5	02-PCV-SdH-PED6-005
					1.0	02-PCV-SdH-PED6-010
					1.5	02-PCV-SdH-PED6-015
					2.0	02-PCV-SdH-PED6-020
					2.5	02-PCV-SdH-PED6-025
					3.0	02-PCV-SdH-PED6-030
					4.0	02-PCV-SdH-PED6-040
			5.0		02-PCV-SdH-PED6-050	
			5		0.5	02-PCV-SdH-PED5-005
					1.0	02-PCV-SdH-PED5-010
					1.5	02-PCV-SdH-PED5-015
					2.0	02-PCV-SdH-PED5-020
					2.5	02-PCV-SdH-PED5-025
					3.0	02-PCV-SdH-PED5-030
					4.0	02-PCV-SdH-PED5-040
			5.0		02-PCV-SdH-PED5-050	
			4		0.5	02-PCV-SdH-PED4-005
					1.0	02-PCV-SdH-PED4-010
					1.5	02-PCV-SdH-PED4-015
					2.0	02-PCV-SdH-PED4-020
					2.5	02-PCV-SdH-PED4-025
					3.0	02-PCV-SdH-PED4-030
					4.0	02-PCV-SdH-PED4-040
			5.0		02-PCV-SdH-PED4-050	
			3		0.5	02-PCV-SdH-PED3-005
					1.0	02-PCV-SdH-PED3-010
					1.5	02-PCV-SdH-PED3-015
					2.0	02-PCV-SdH-PED3-020
					2.5	02-PCV-SdH-PED3-025
					3.0	02-PCV-SdH-PED3-030
					4.0	02-PCV-SdH-PED3-040
			5.0		02-PCV-SdH-PED3-050	

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2



表 4-2-10 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 鉛直方向) (1/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 格納容器	鉛直 方向	41		0.5	02-PCV-SdV-PCV41-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV41-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV41-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV41-020
					2.5	02-PCV-SdV-PCV41-025
					3.0	02-PCV-SdV-PCV41-030
			40		5.0	02-PCV-SdV-PCV41-050
					0.5	02-PCV-SdV-PCV40-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV40-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV40-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV40-020
					2.5	02-PCV-SdV-PCV40-025
			39		3.0	02-PCV-SdV-PCV40-030
					5.0	02-PCV-SdV-PCV40-050
					0.5	02-PCV-SdV-PCV39-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV39-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV39-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV39-020
			38		2.5	02-PCV-SdV-PCV39-025
					3.0	02-PCV-SdV-PCV39-030
					5.0	02-PCV-SdV-PCV39-050
					0.5	02-PCV-SdV-PCV38-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV38-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV38-015
2.0	02-PCV-SdV-PCV38-020					
2.5	02-PCV-SdV-PCV38-025					
3.0	02-PCV-SdV-PCV38-030					
5.0	02-PCV-SdV-PCV38-050					

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 鉛直方向) (2/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 格納容器	鉛直 方向	37		0.5	02-PCV-SdV-PCV37-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV37-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV37-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV37-020
					2.5	02-PCV-SdV-PCV37-025
					3.0	02-PCV-SdV-PCV37-030
			36		5.0	02-PCV-SdV-PCV37-050
					0.5	02-PCV-SdV-PCV36-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV36-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV36-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV36-020
					2.5	02-PCV-SdV-PCV36-025
			35		3.0	02-PCV-SdV-PCV36-030
					5.0	02-PCV-SdV-PCV36-050
					0.5	02-PCV-SdV-PCV35-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV35-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV35-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV35-020
			34		2.5	02-PCV-SdV-PCV35-025
					3.0	02-PCV-SdV-PCV35-030
					5.0	02-PCV-SdV-PCV35-050
					0.5	02-PCV-SdV-PCV34-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV34-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV34-015
			2.0		02-PCV-SdV-PCV34-020	
			2.5		02-PCV-SdV-PCV34-025	
			3.0		02-PCV-SdV-PCV34-030	
			5.0		02-PCV-SdV-PCV34-050	

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 鉛直方向) (3/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 格納容器	鉛直 方向	33		0.5	02-PCV-SdV-PCV33-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV33-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV33-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV33-020
					2.5	02-PCV-SdV-PCV33-025
					3.0	02-PCV-SdV-PCV33-030
			5.0		02-PCV-SdV-PCV33-050	
			32		0.5	02-PCV-SdV-PCV32-005
					1.0	02-PCV-SdV-PCV32-010
					1.5	02-PCV-SdV-PCV32-015
					2.0	02-PCV-SdV-PCV32-020
					2.5	02-PCV-SdV-PCV32-025
	3.0				02-PCV-SdV-PCV32-030	
	原子炉 しゃへい壁		23		5.0	02-PCV-SdV-PCV32-050
					0.5	02-PCV-SdV-RSW23-005
					1.0	02-PCV-SdV-RSW23-010
					1.5	02-PCV-SdV-RSW23-015
					2.0	02-PCV-SdV-RSW23-020
					2.5	02-PCV-SdV-RSW23-025
			22		3.0	02-PCV-SdV-RSW23-030
					5.0	02-PCV-SdV-RSW23-050
					0.5	02-PCV-SdV-RSW22-005
					1.0	02-PCV-SdV-RSW22-010
					1.5	02-PCV-SdV-RSW22-015
2.0		02-PCV-SdV-RSW22-020				
2.5	02-PCV-SdV-RSW22-025					
3.0	02-PCV-SdV-RSW22-030					
5.0	02-PCV-SdV-RSW22-050					

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 鉛直方向) (4/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番	
S d	原子炉 しゃへい壁	鉛直 方向	21		0.5	02-PCV-SdV-RSW21-005	
					1.0	02-PCV-SdV-RSW21-010	
					1.5	02-PCV-SdV-RSW21-015	
					2.0	02-PCV-SdV-RSW21-020	
					2.5	02-PCV-SdV-RSW21-025	
					3.0	02-PCV-SdV-RSW21-030	
			20		5.0	02-PCV-SdV-RSW21-050	
					0.5	02-PCV-SdV-RSW20-005	
					1.0	02-PCV-SdV-RSW20-010	
					1.5	02-PCV-SdV-RSW20-015	
					2.0	02-PCV-SdV-RSW20-020	
					2.5	02-PCV-SdV-RSW20-025	
			19		3.0	02-PCV-SdV-RSW20-030	
					5.0	02-PCV-SdV-RSW20-050	
					0.5	02-PCV-SdV-RSW19-005	
					1.0	02-PCV-SdV-RSW19-010	
					1.5	02-PCV-SdV-RSW19-015	
					2.0	02-PCV-SdV-RSW19-020	
	原子炉 压力容器				31	2.5	02-PCV-SdV-RSW19-025
						3.0	02-PCV-SdV-RSW19-030
						5.0	02-PCV-SdV-RSW19-050
					0.5	02-PCV-SdV-RPV31-005	
					1.0	02-PCV-SdV-RPV31-010	
					1.5	02-PCV-SdV-RPV31-015	
					2.0	02-PCV-SdV-RPV31-020	
					2.5	02-PCV-SdV-RPV31-025	
					3.0	02-PCV-SdV-RPV31-030	
	5.0	02-PCV-SdV-RPV31-050					

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 鉛直方向) (5/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 压力容器	鉛直 方向	30		0.5	02-PCV-SdV-RPV30-005
					1.0	02-PCV-SdV-RPV30-010
					1.5	02-PCV-SdV-RPV30-015
					2.0	02-PCV-SdV-RPV30-020
					2.5	02-PCV-SdV-RPV30-025
					3.0	02-PCV-SdV-RPV30-030
			29		5.0	02-PCV-SdV-RPV30-050
					0.5	02-PCV-SdV-RPV29-005
					1.0	02-PCV-SdV-RPV29-010
					1.5	02-PCV-SdV-RPV29-015
					2.0	02-PCV-SdV-RPV29-020
					2.5	02-PCV-SdV-RPV29-025
			28		3.0	02-PCV-SdV-RPV29-030
					5.0	02-PCV-SdV-RPV29-050
					0.5	02-PCV-SdV-RPV28-005
					1.0	02-PCV-SdV-RPV28-010
					1.5	02-PCV-SdV-RPV28-015
					2.0	02-PCV-SdV-RPV28-020
			27		2.5	02-PCV-SdV-RPV28-025
					3.0	02-PCV-SdV-RPV28-030
					5.0	02-PCV-SdV-RPV28-050
					0.5	02-PCV-SdV-RPV27-005
					1.0	02-PCV-SdV-RPV27-010
					1.5	02-PCV-SdV-RPV27-015
2.0	02-PCV-SdV-RPV27-020					
2.5	02-PCV-SdV-RPV27-025					
3.0	02-PCV-SdV-RPV27-030					
5.0	02-PCV-SdV-RPV27-050					

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 鉛直方向) (6/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 压力容器	鉛直 方向	26		0.5	02-PCV-SdV-RPV26-005
					1.0	02-PCV-SdV-RPV26-010
					1.5	02-PCV-SdV-RPV26-015
					2.0	02-PCV-SdV-RPV26-020
					2.5	02-PCV-SdV-RPV26-025
					3.0	02-PCV-SdV-RPV26-030
			25		5.0	02-PCV-SdV-RPV26-050
					0.5	02-PCV-SdV-RPV25-005
					1.0	02-PCV-SdV-RPV25-010
					1.5	02-PCV-SdV-RPV25-015
					2.0	02-PCV-SdV-RPV25-020
					2.5	02-PCV-SdV-RPV25-025
			24		3.0	02-PCV-SdV-RPV25-030
					5.0	02-PCV-SdV-RPV25-050
					0.5	02-PCV-SdV-RPV24-005
	1.0	02-PCV-SdV-RPV24-010				
	1.5	02-PCV-SdV-RPV24-015				
	2.0	02-PCV-SdV-RPV24-020				
	2.5	02-PCV-SdV-RPV24-025				
	3.0	02-PCV-SdV-RPV24-030				
	5.0	02-PCV-SdV-RPV24-050				
	原子炉本体 の基礎	鉛直 方向	18		0.5	02-PCV-SdV-PED18-005
					1.0	02-PCV-SdV-PED18-010
					1.5	02-PCV-SdV-PED18-015
					2.0	02-PCV-SdV-PED18-020
					2.5	02-PCV-SdV-PED18-025
					3.0	02-PCV-SdV-PED18-030
					5.0	02-PCV-SdV-PED18-050

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

表 4-2-10 (2) 設計用床応答曲線一覧表 (S d, 大型機器系連成解析: 鉛直方向) (7/7)

地震波	構造物	方向	質点番号	標高 O. P. (m)	減衰定数 (%)	図番
S d	原子炉 本体の基礎	鉛直 方向	17		0.5	02-PCV-SdV-PED17-005
					1.0	02-PCV-SdV-PED17-010
					1.5	02-PCV-SdV-PED17-015
					2.0	02-PCV-SdV-PED17-020
					2.5	02-PCV-SdV-PED17-025
					3.0	02-PCV-SdV-PED17-030
			16		5.0	02-PCV-SdV-PED17-050
					0.5	02-PCV-SdV-PED16-005
					1.0	02-PCV-SdV-PED16-010
					1.5	02-PCV-SdV-PED16-015
					2.0	02-PCV-SdV-PED16-020
					2.5	02-PCV-SdV-PED16-025
			15		3.0	02-PCV-SdV-PED16-030
					5.0	02-PCV-SdV-PED16-050
					0.5	02-PCV-SdV-PED15-005
					1.0	02-PCV-SdV-PED15-010
					1.5	02-PCV-SdV-PED15-015
					2.0	02-PCV-SdV-PED15-020
			14		2.5	02-PCV-SdV-PED15-025
					3.0	02-PCV-SdV-PED15-030
					5.0	02-PCV-SdV-PED15-050
					0.5	02-PCV-SdV-PED14-005
					1.0	02-PCV-SdV-PED14-010
					1.5	02-PCV-SdV-PED14-015
			2.0		02-PCV-SdV-PED14-020	
			2.5		02-PCV-SdV-PED14-025	
			3.0		02-PCV-SdV-PED14-030	
			5.0		02-PCV-SdV-PED14-050	

O 2 ⑥ VI-2-1-7 R 2

【02-PCV-SdH-PCV30-005】

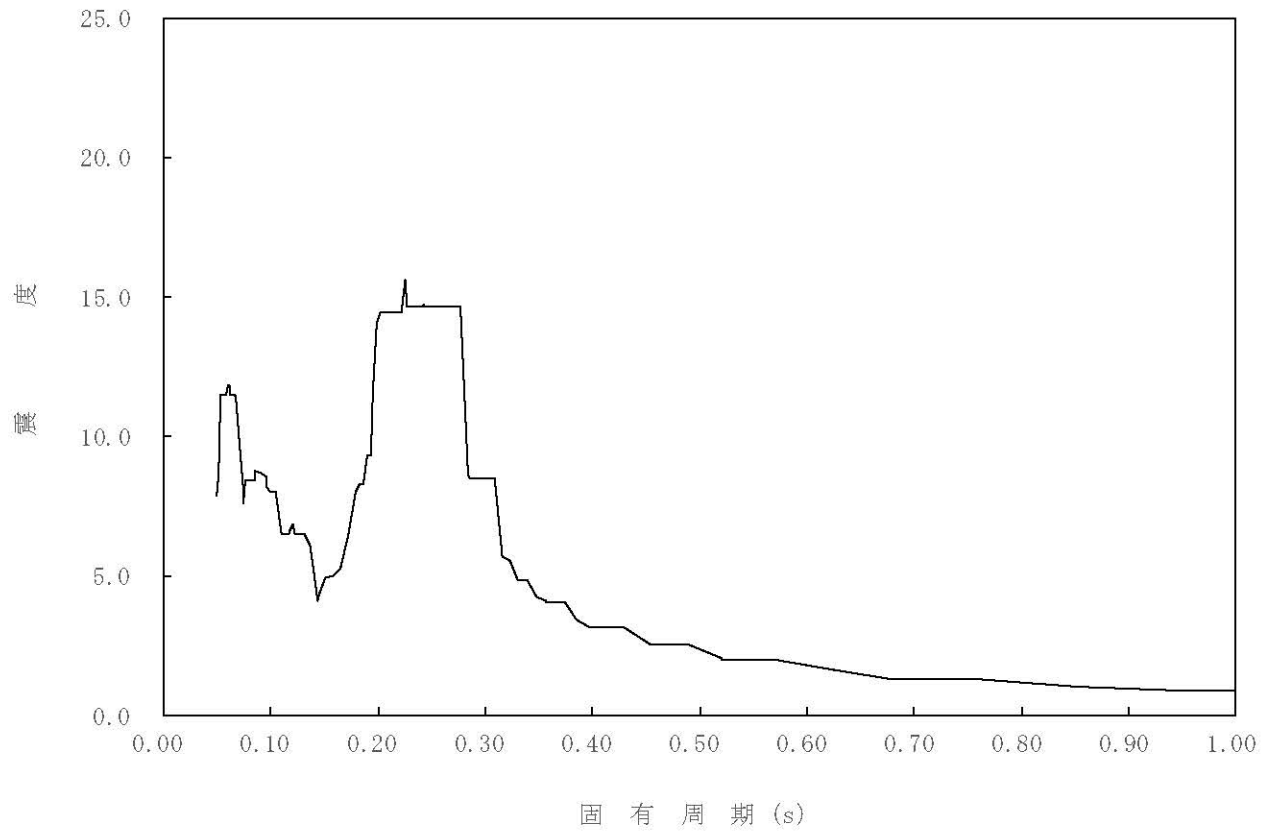
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-15

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV30-010】

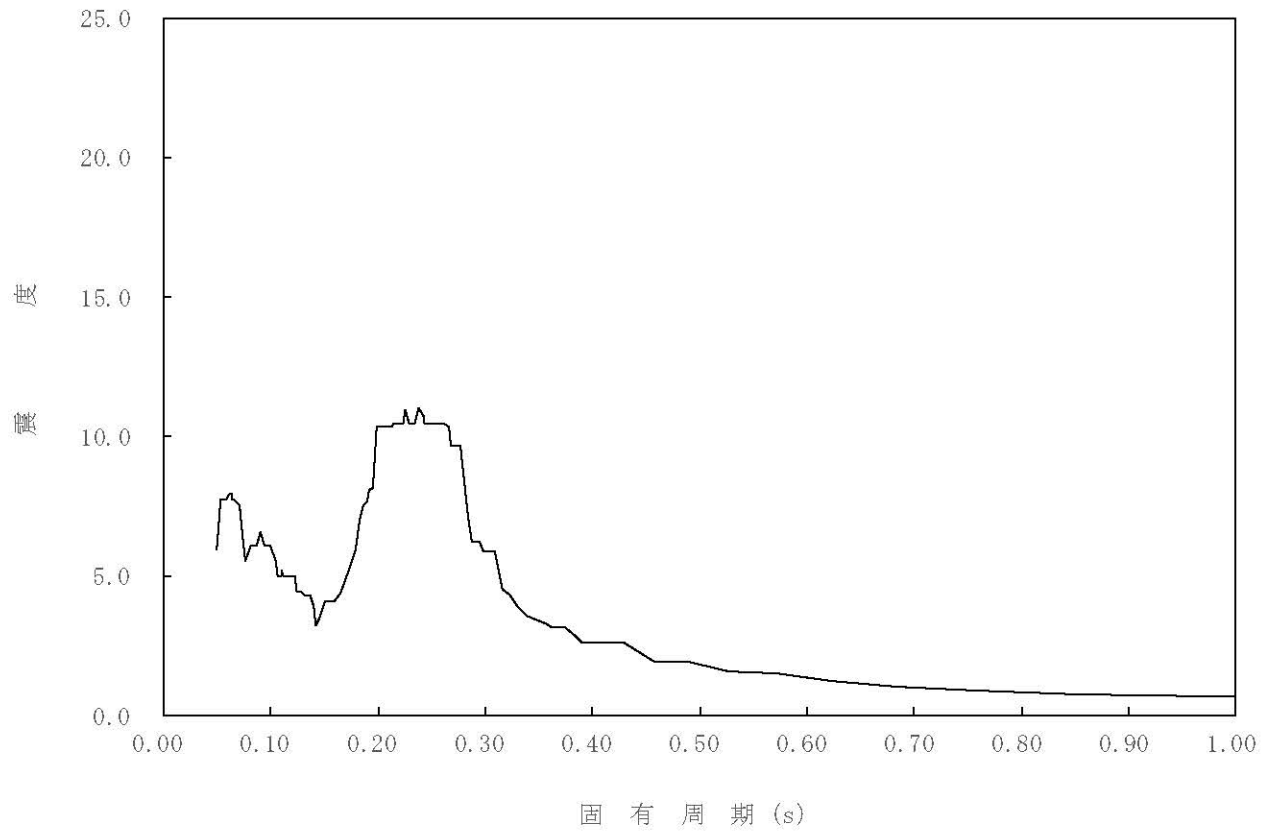
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-16

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV30-015】

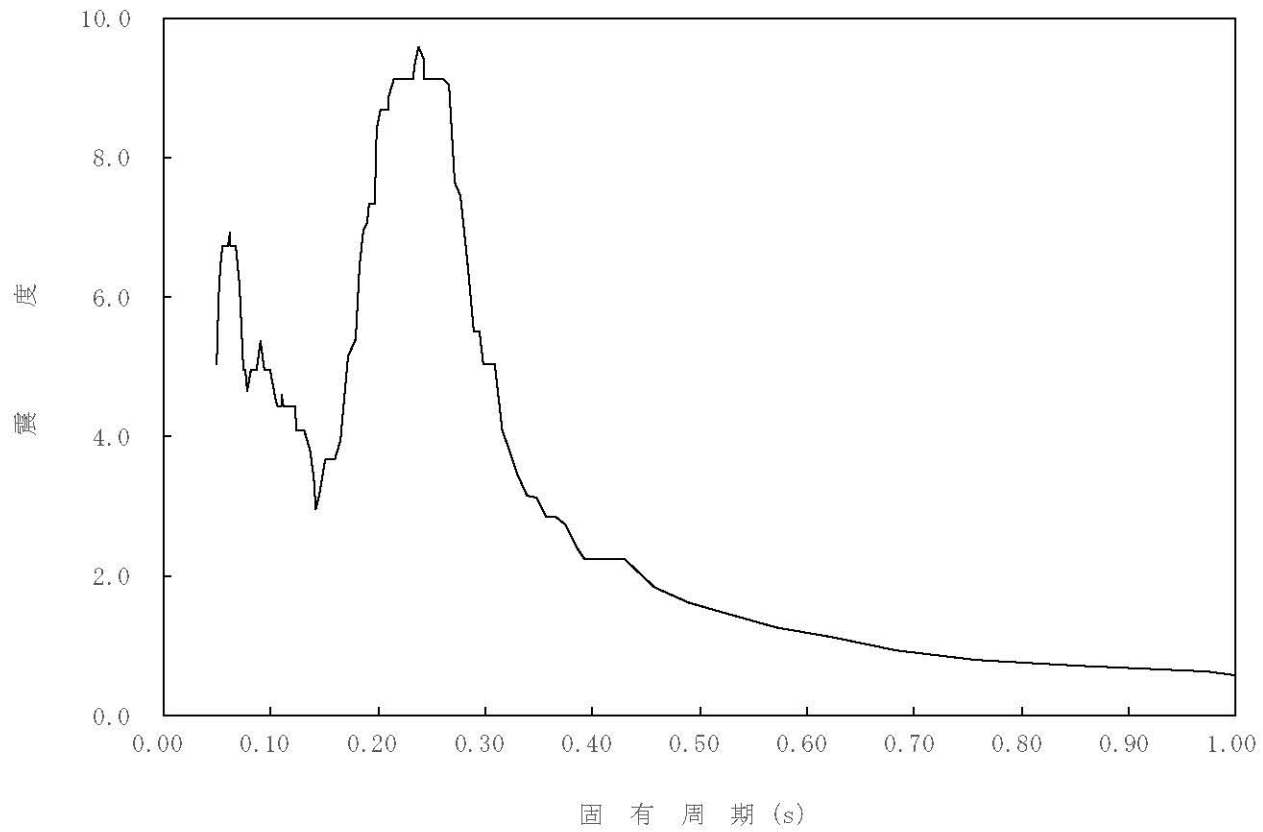
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-17

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV30-020】

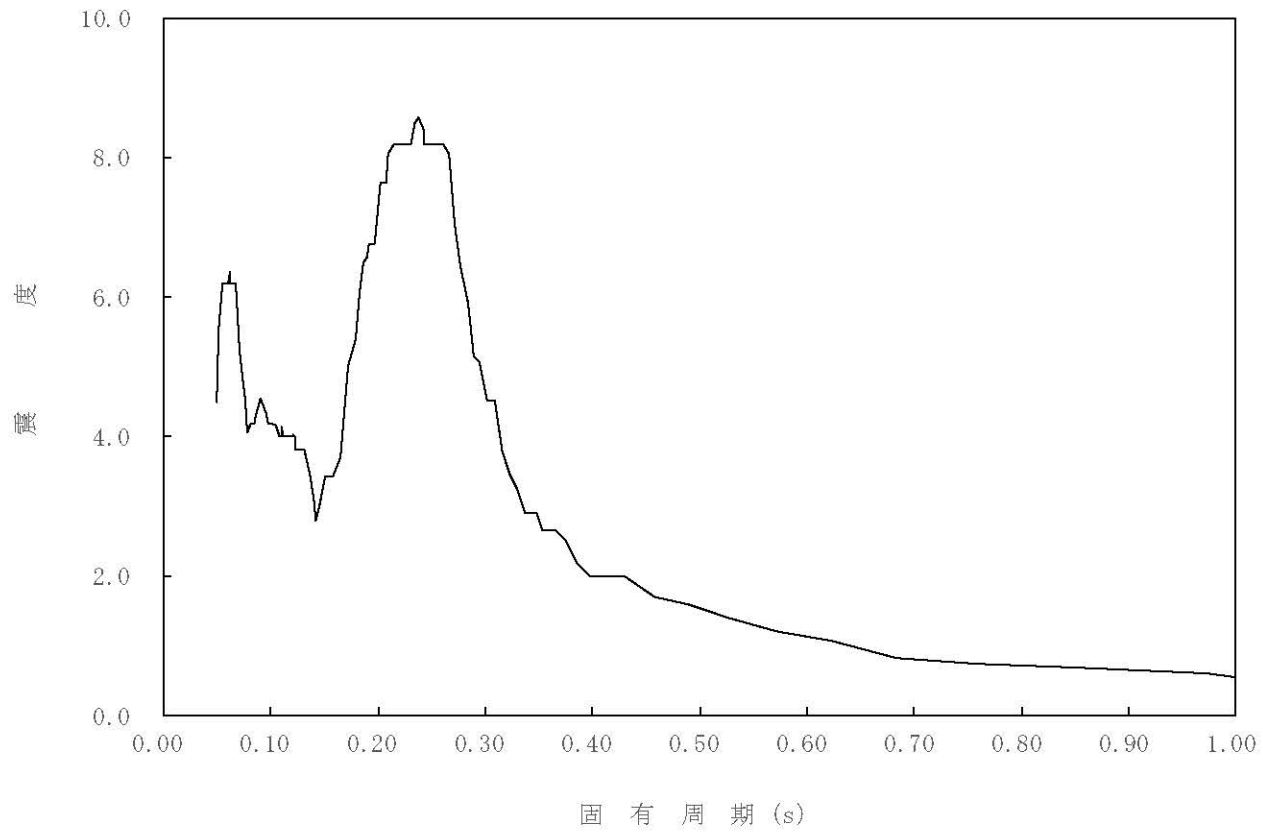
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-18

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV30-025】

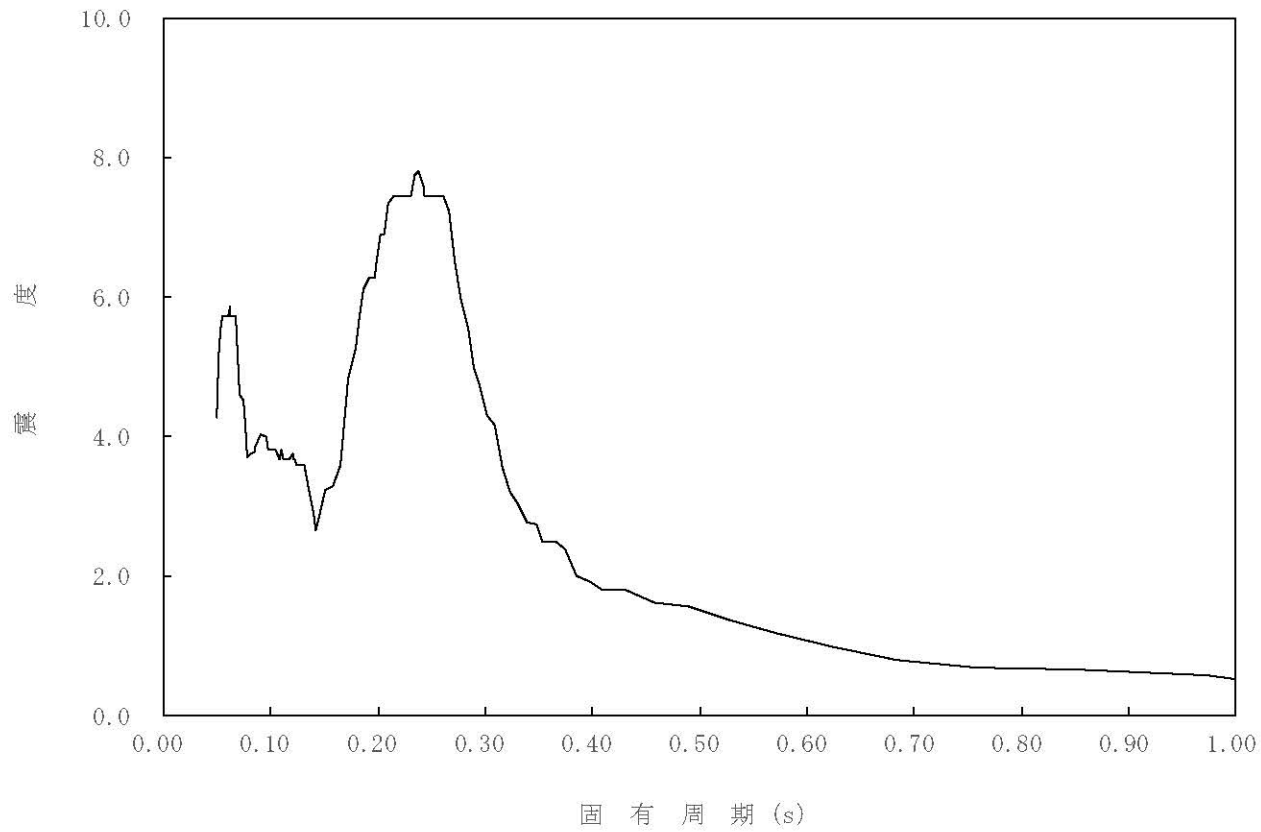
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-19

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV30-030】

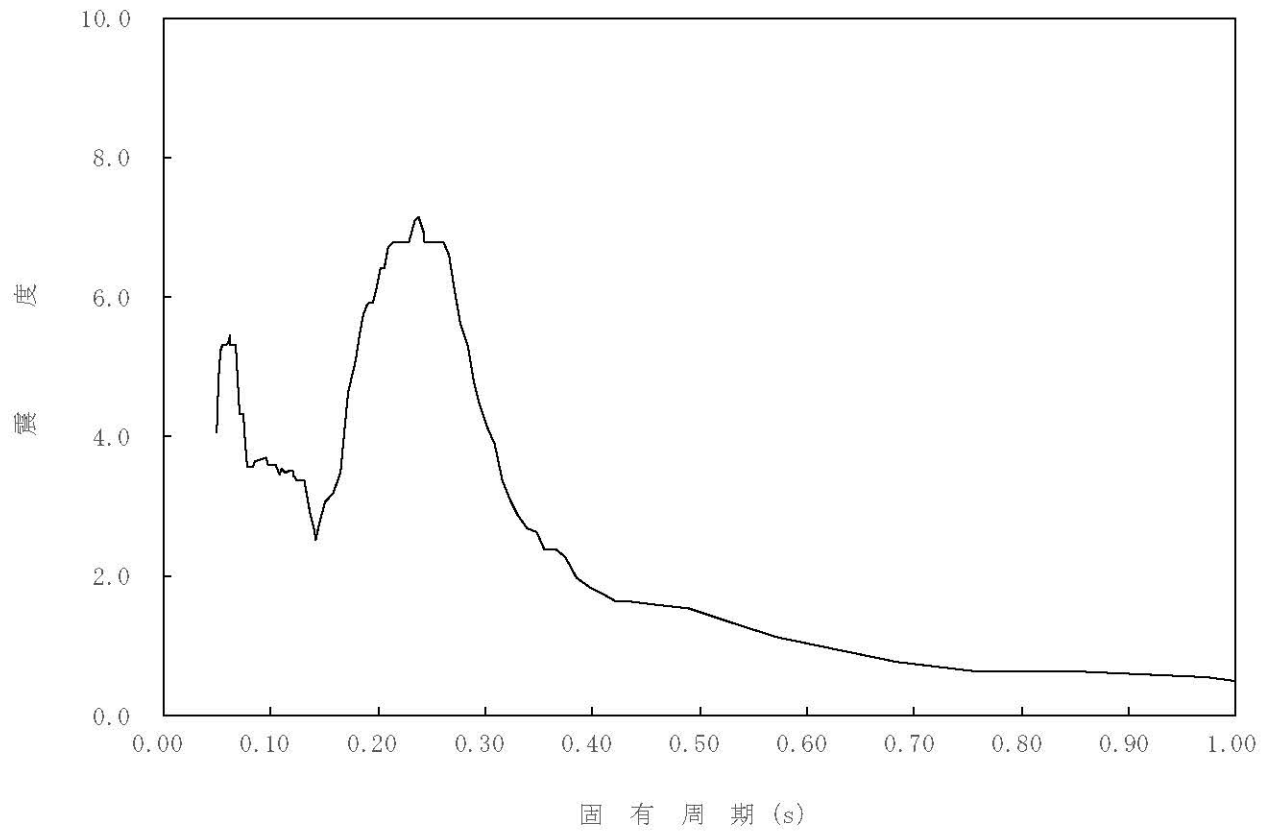
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-20

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV30-040】

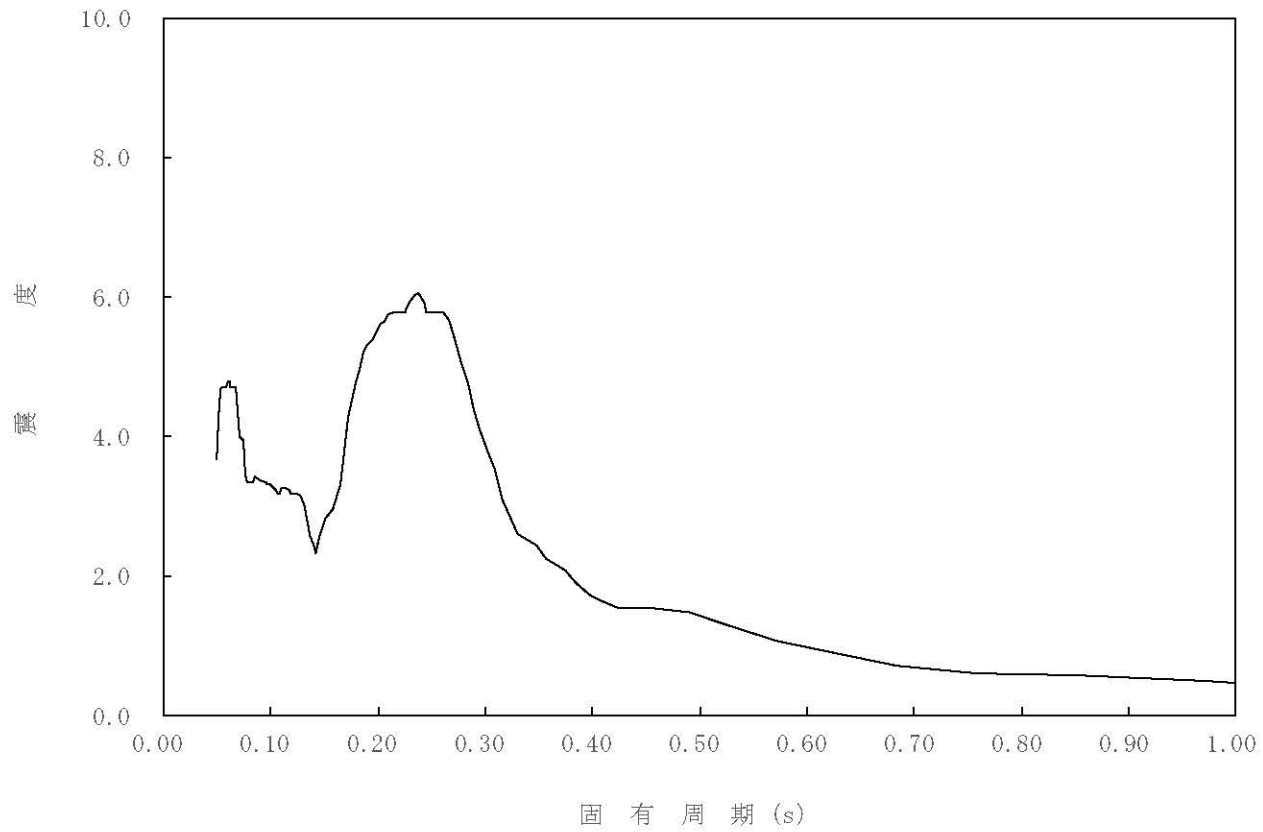
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-21

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV30-050】

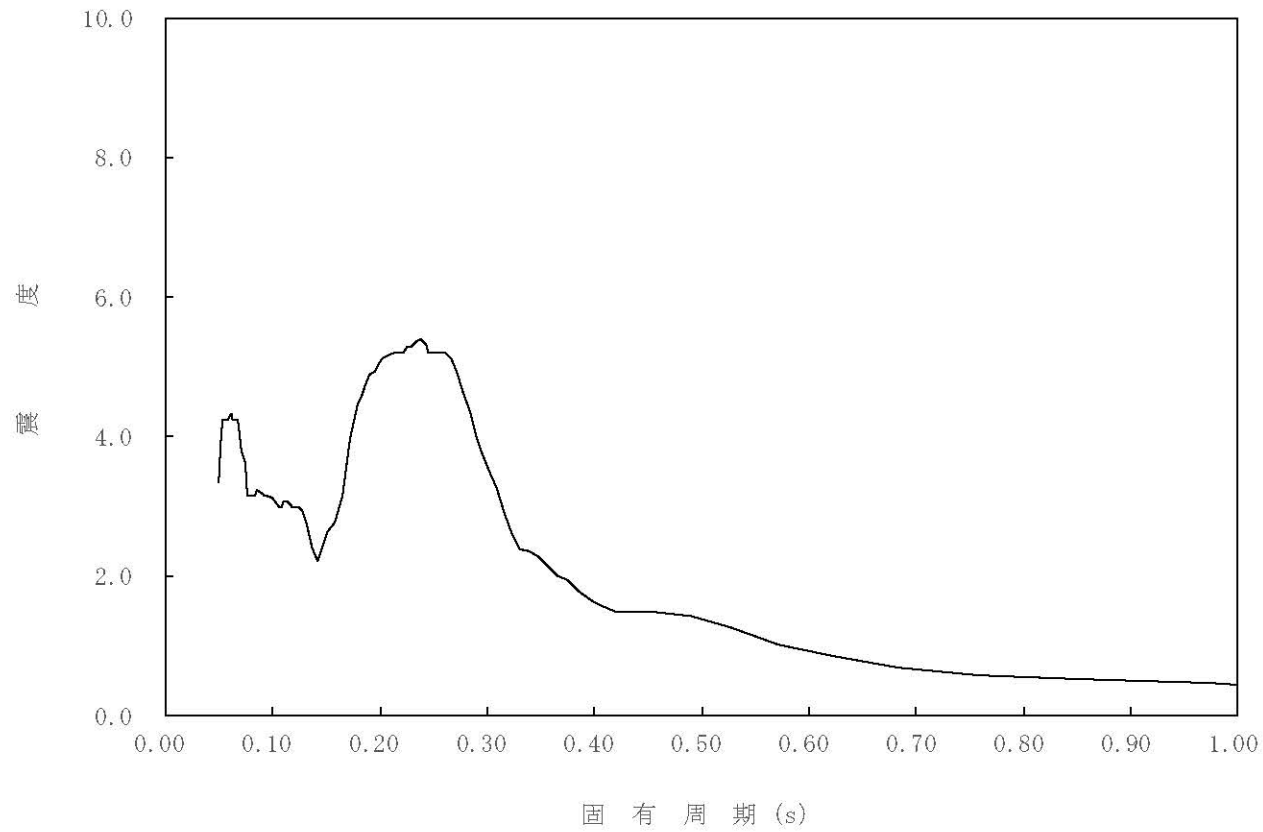
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-22

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV29-005】

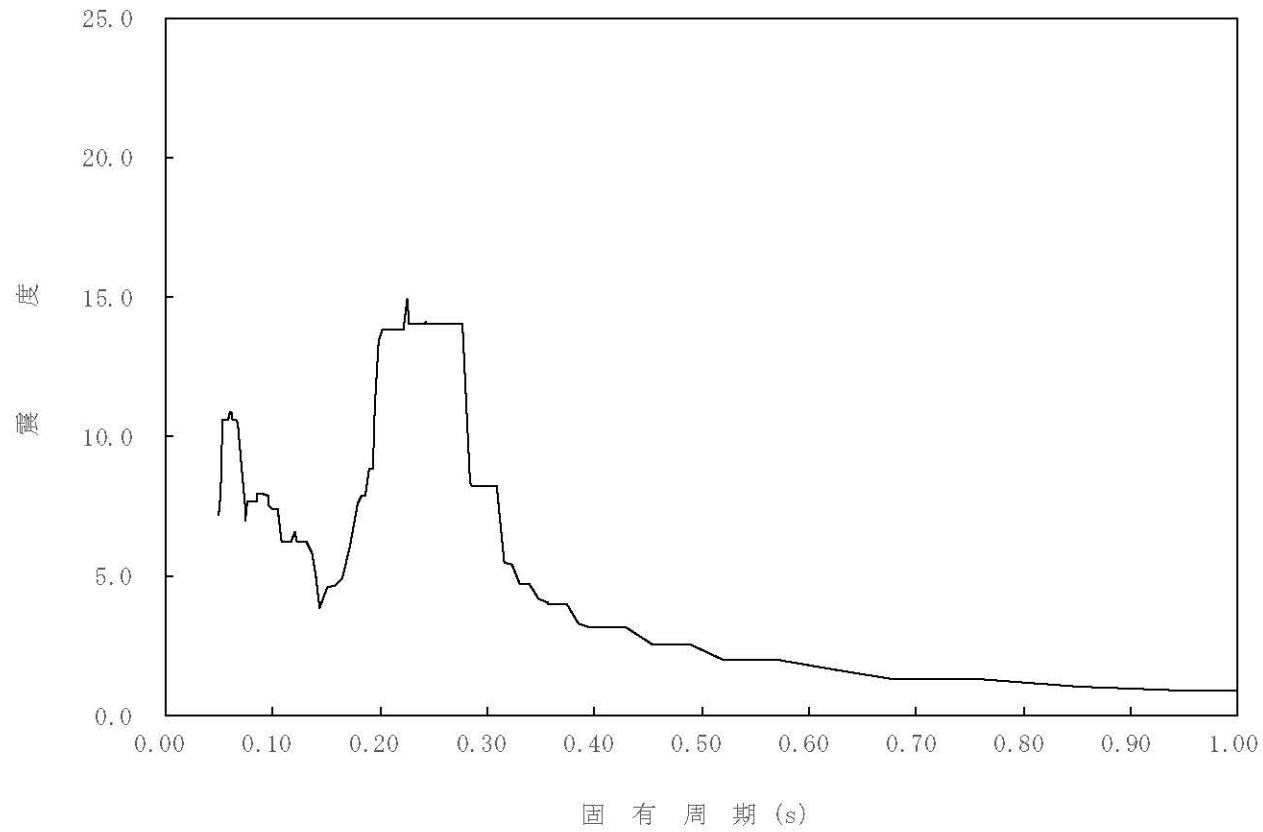
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-23

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV29-010】

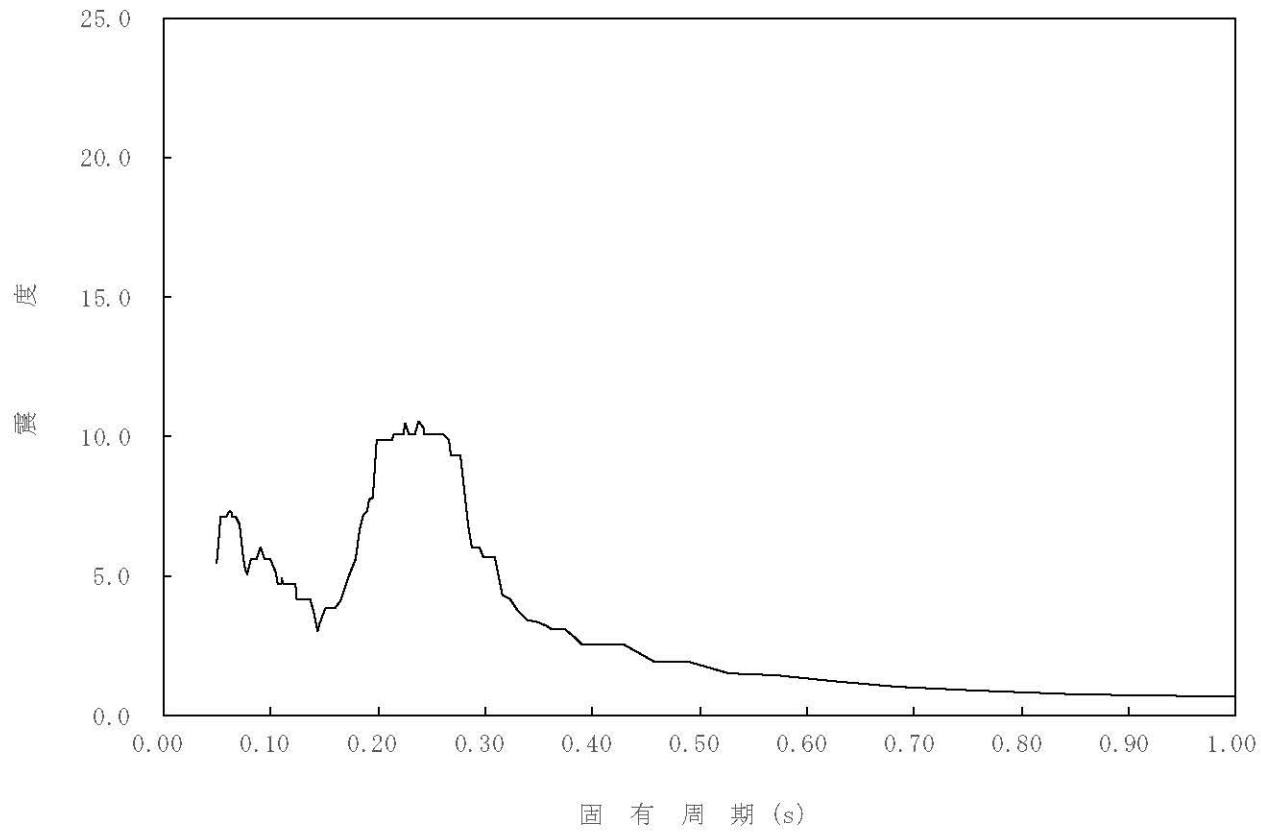
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-24

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV29-015】

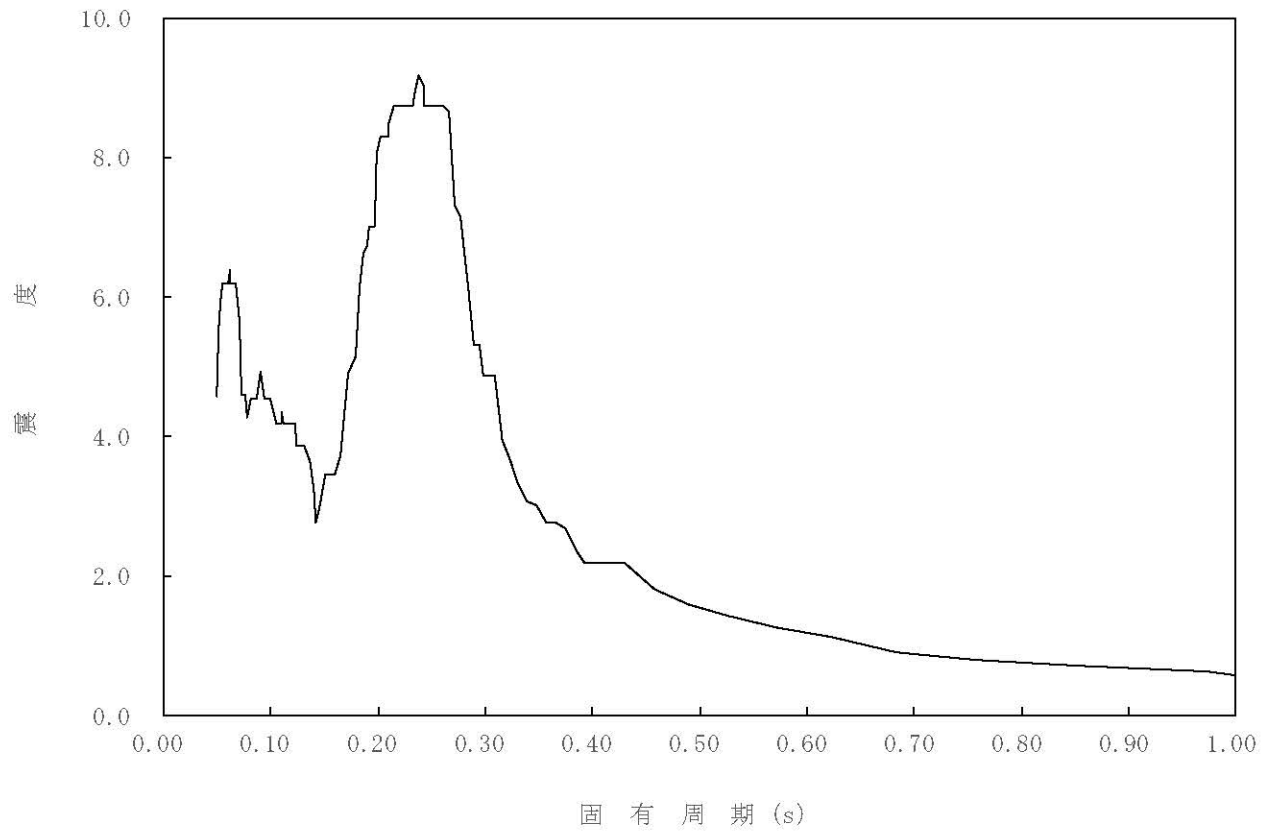
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-25

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV29-020】

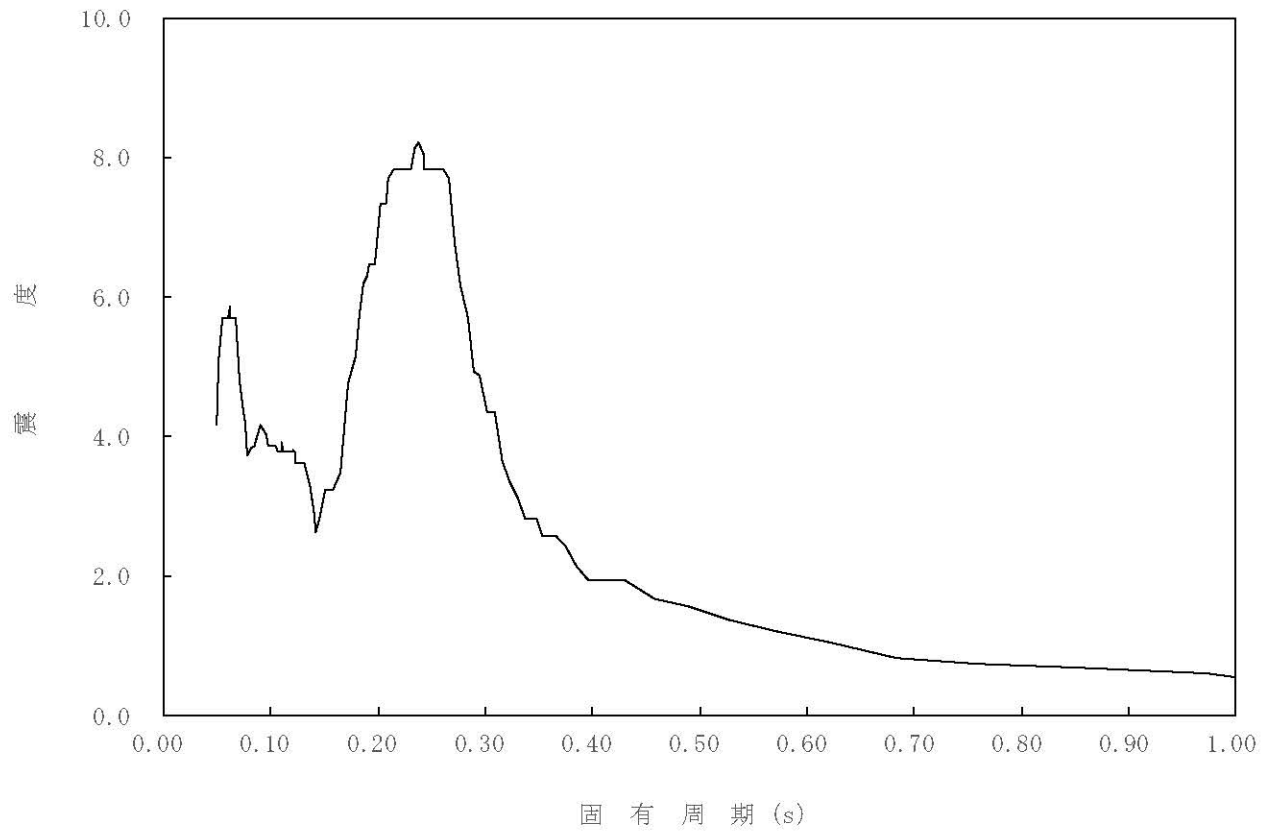
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-26

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV29-025】

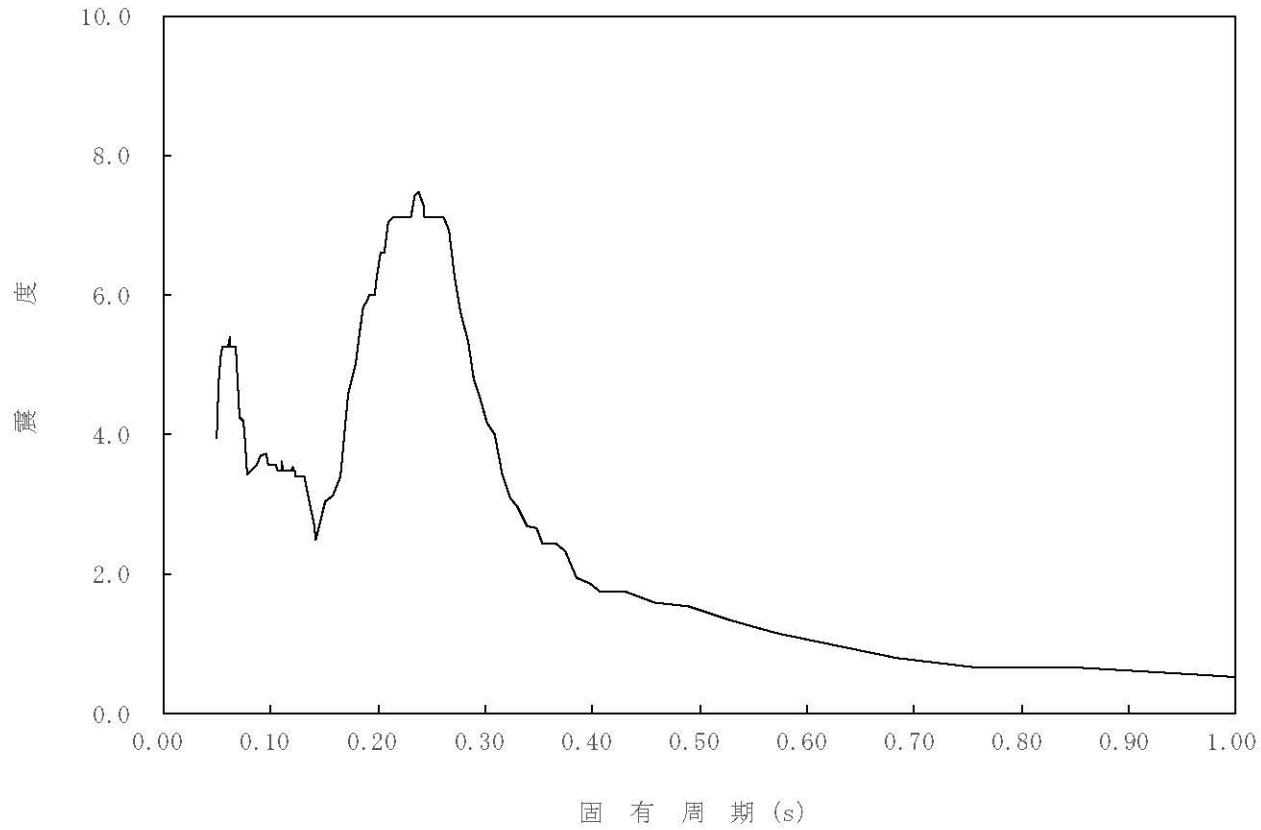
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-27

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV29-030】

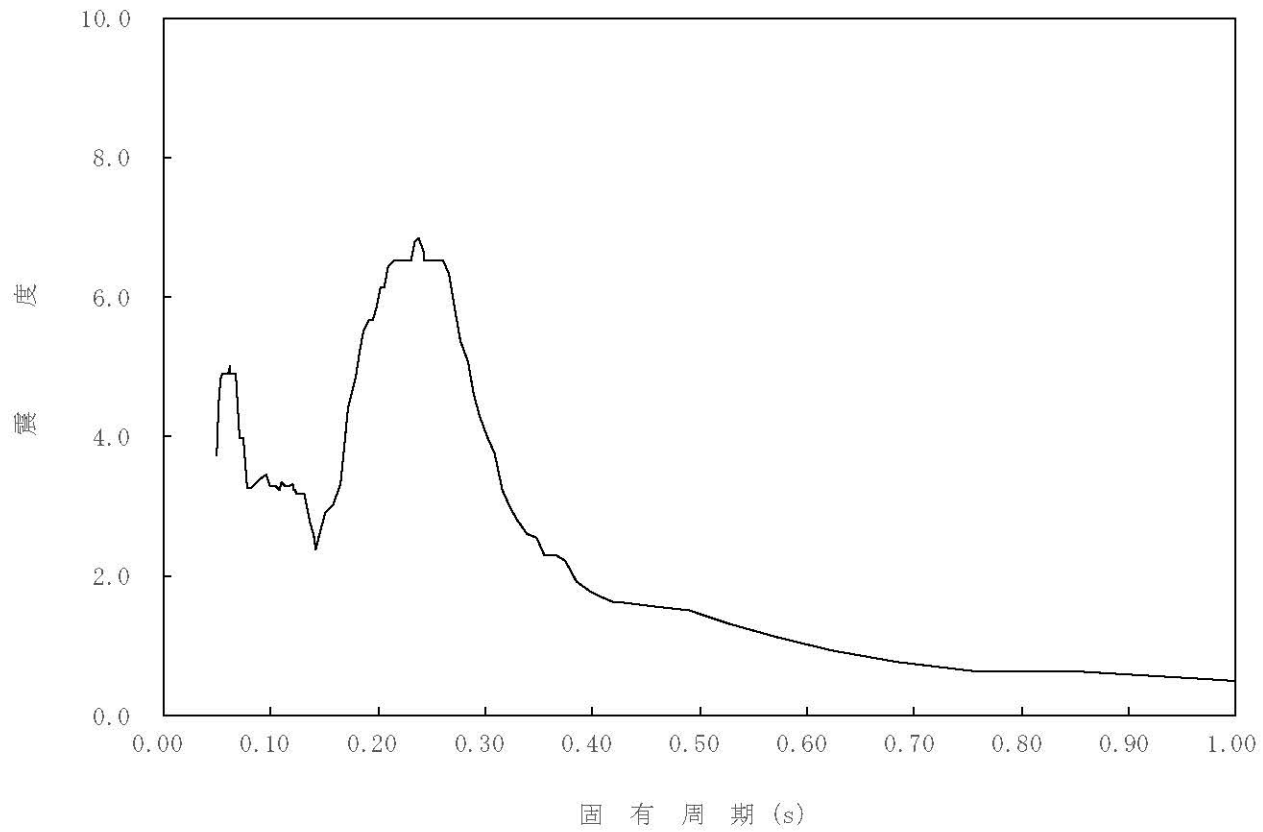
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-28

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV29-040】

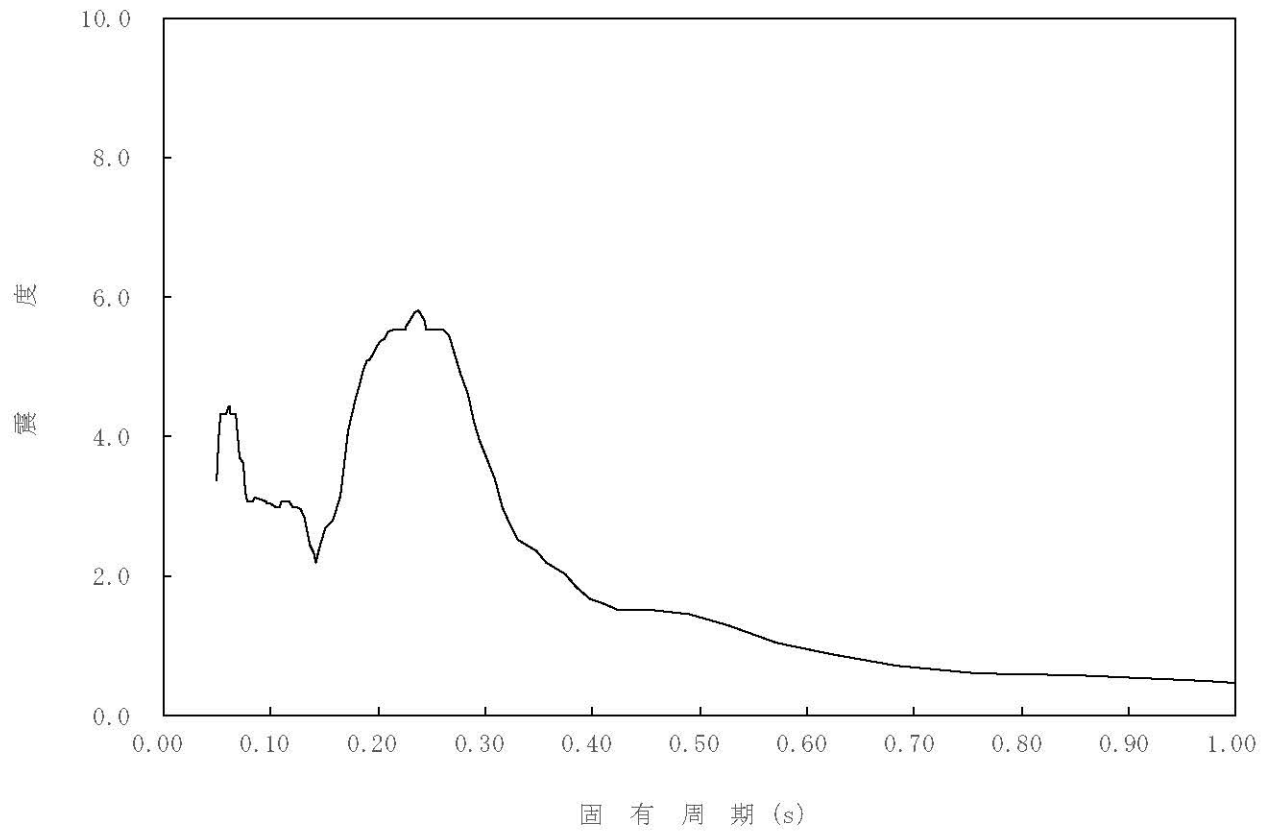
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-29

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV29-050】

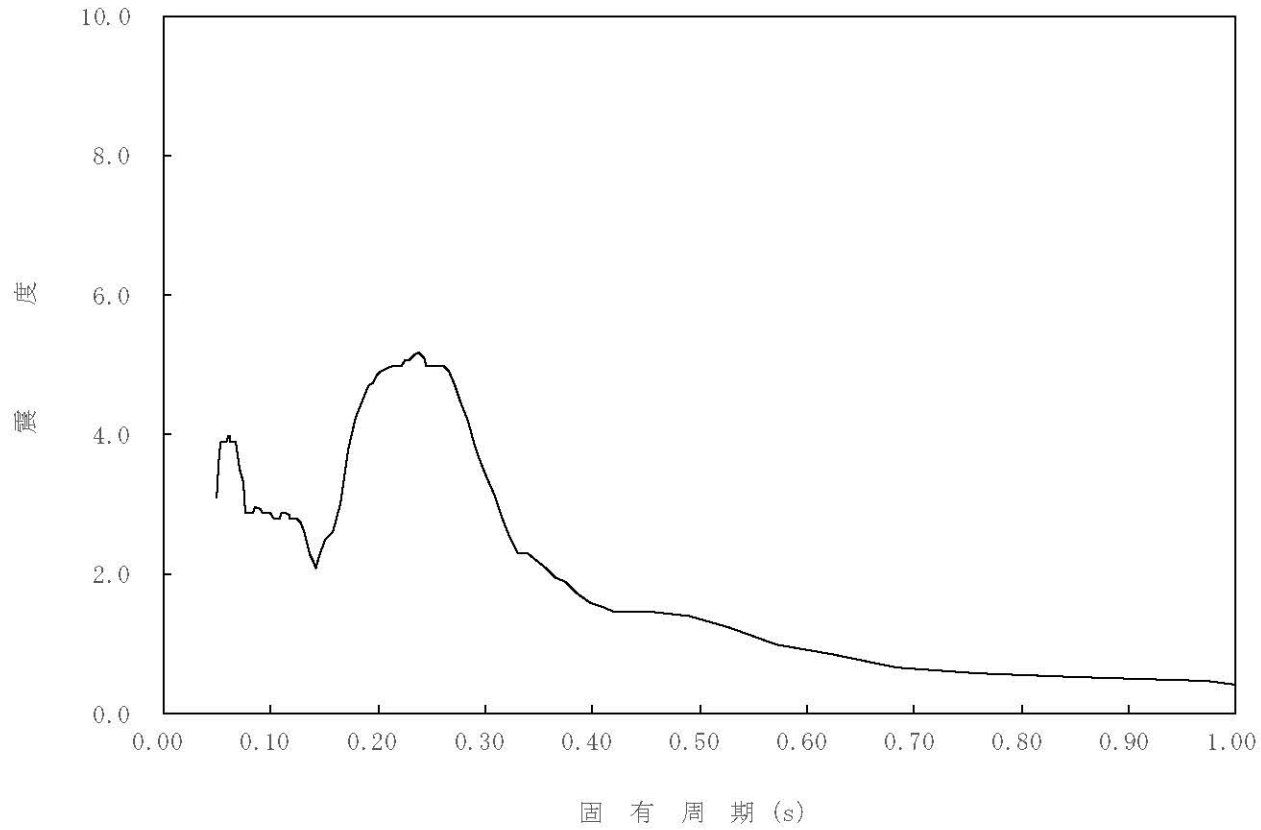
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-30

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV28-005】

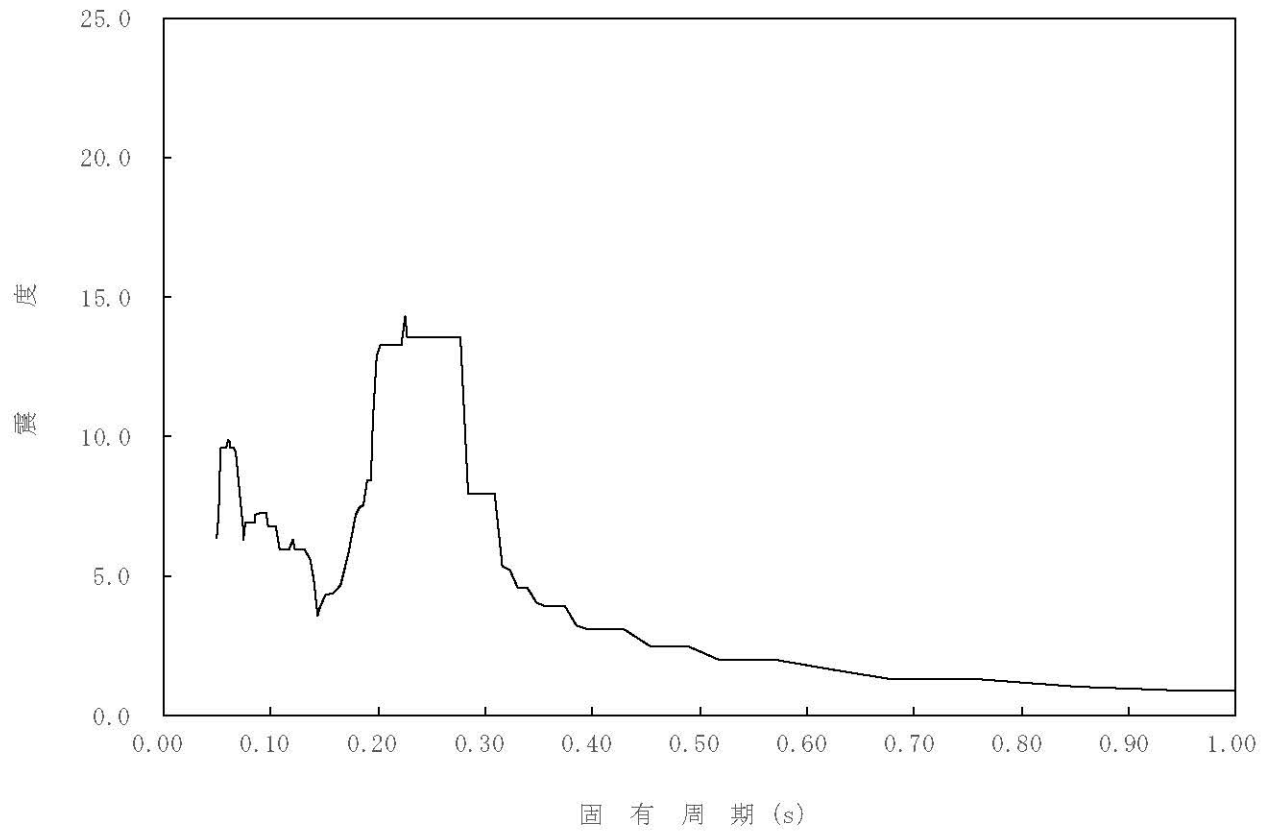
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-31

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV28-010】

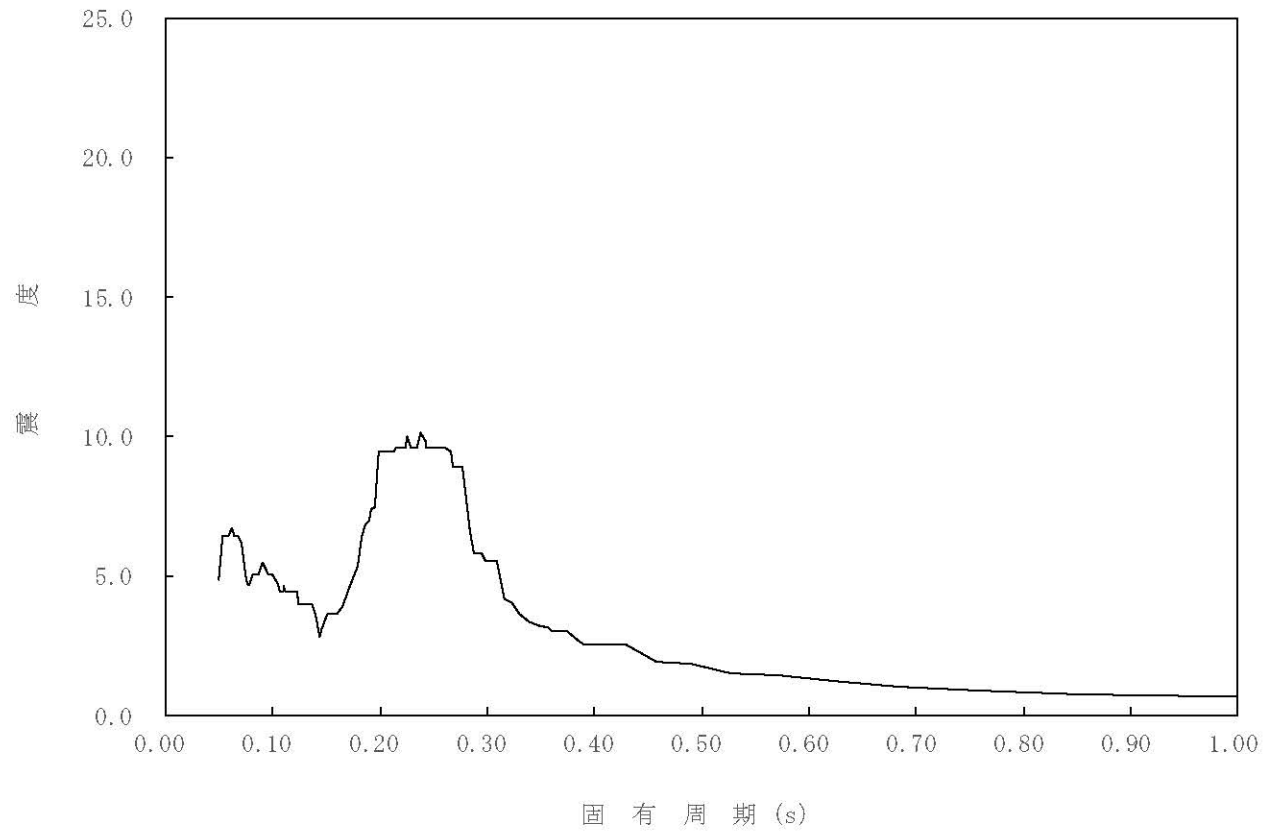
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-32

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV28-015】

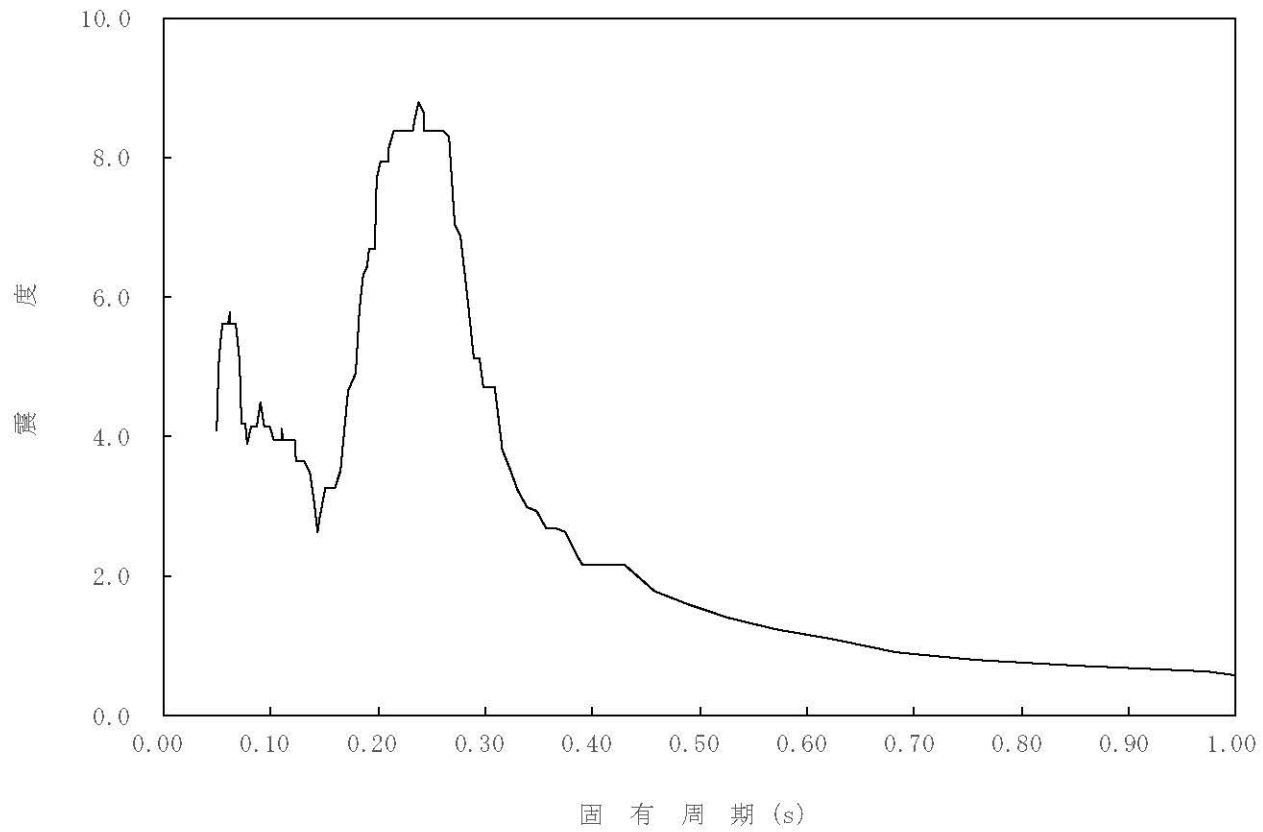
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-33

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV28-020】

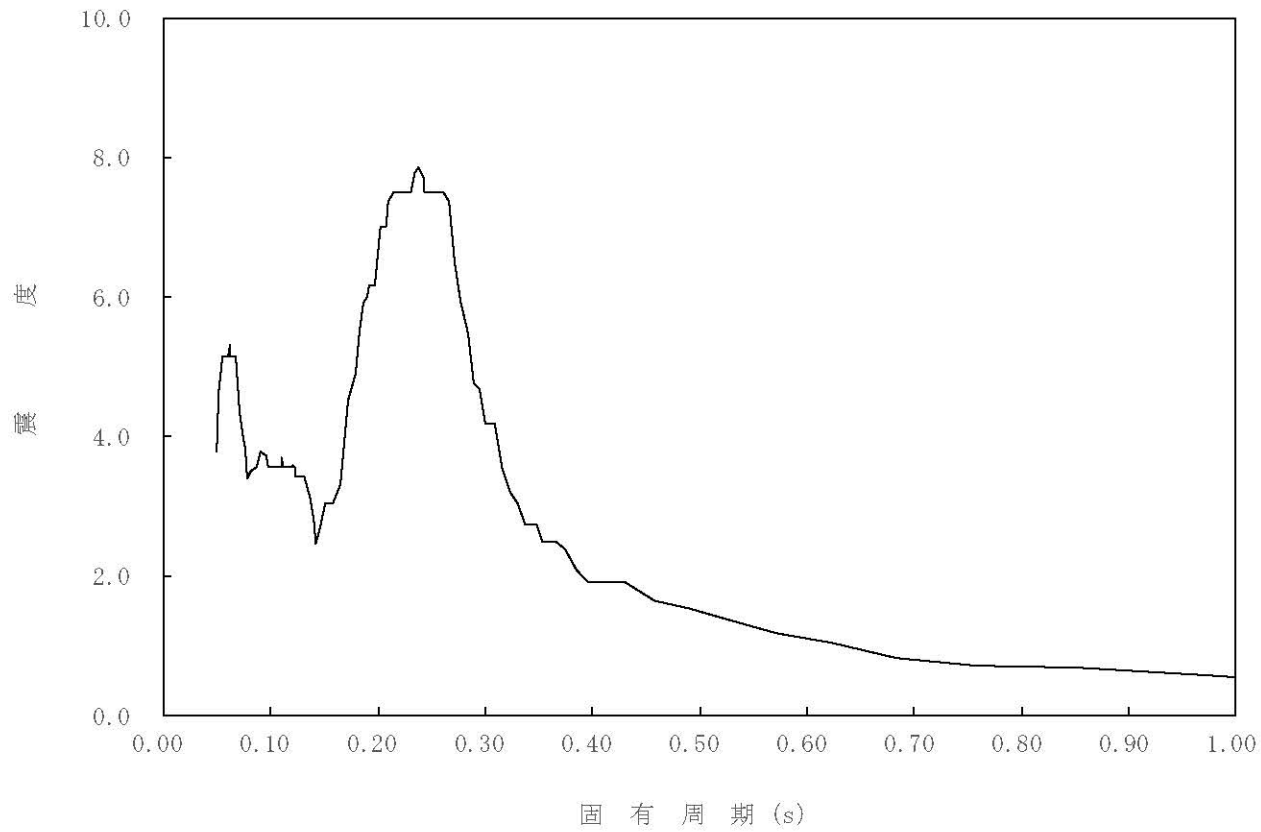
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-34

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV28-025】

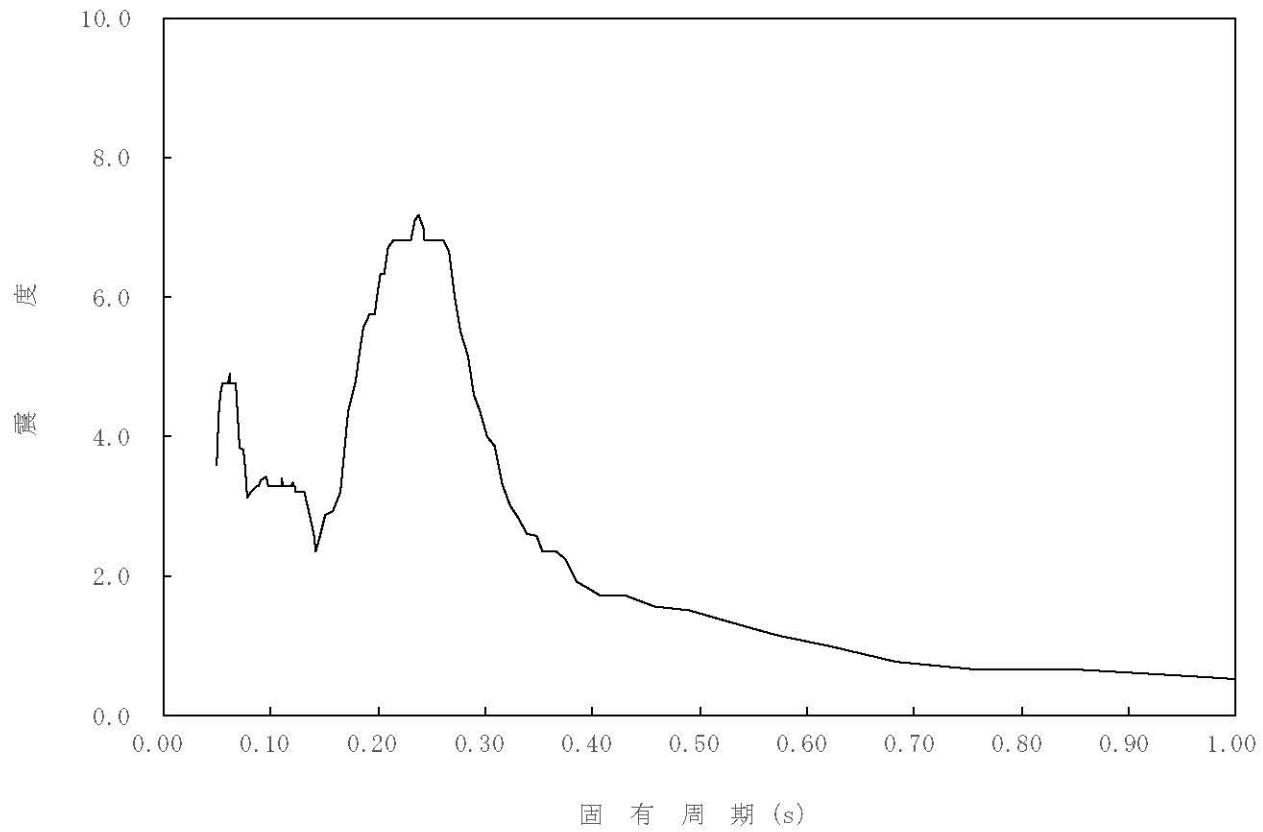
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-35

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV28-030】

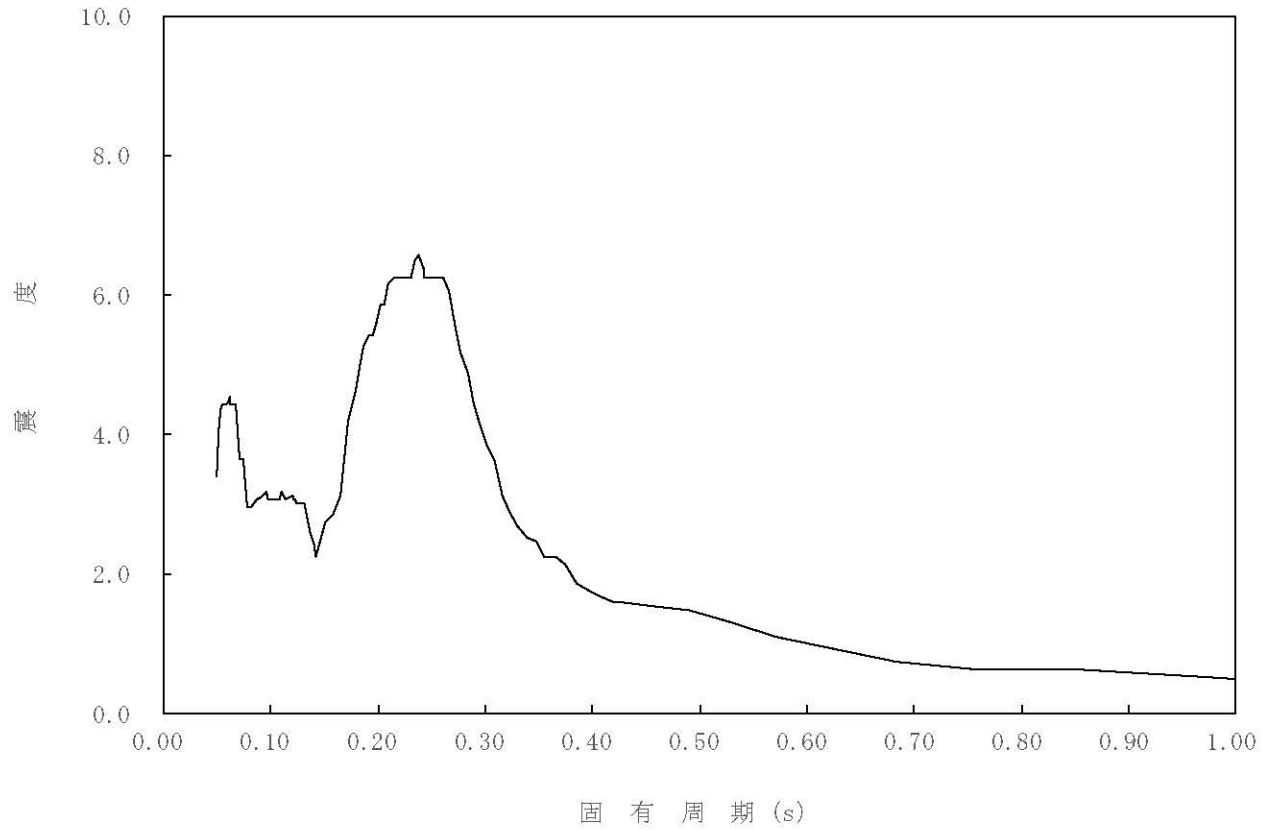
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-36

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV28-040】

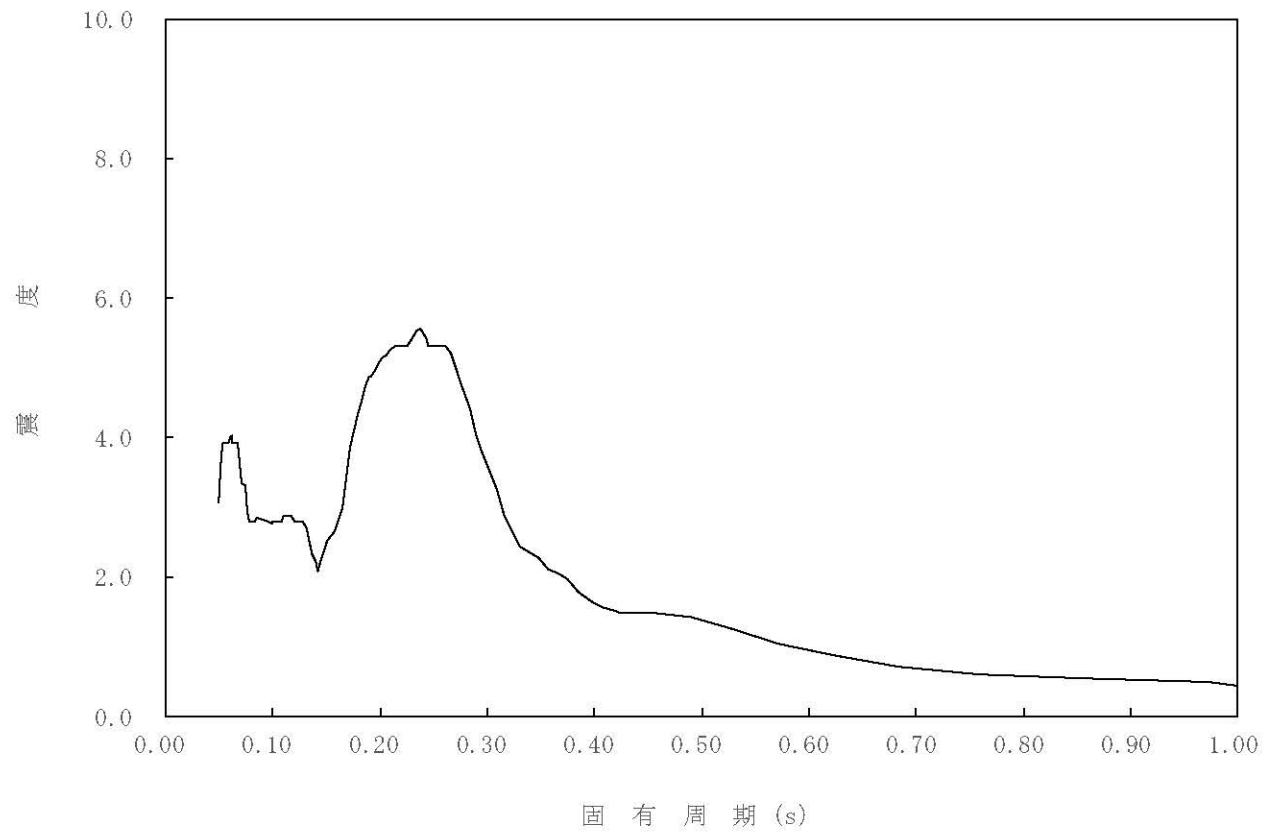
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-37

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV28-050】

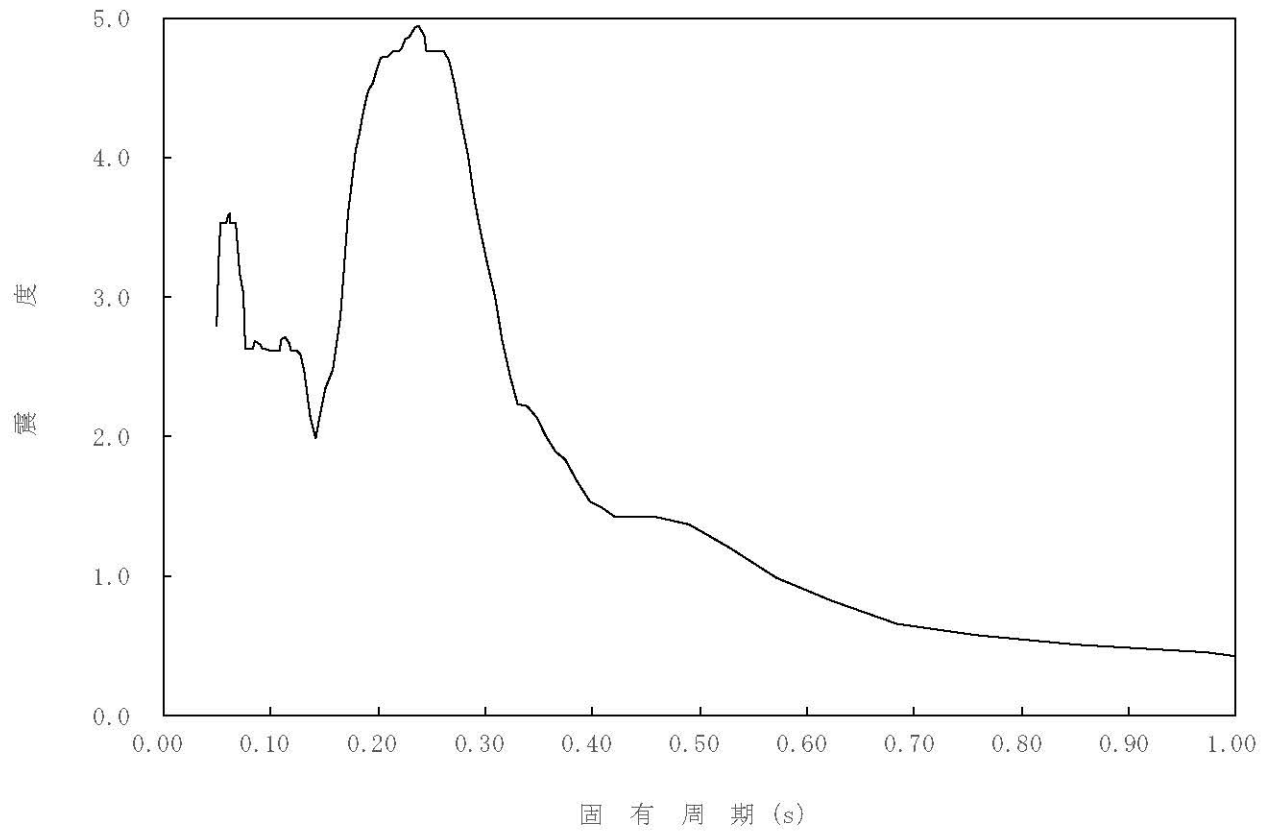
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-38

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV27-005】

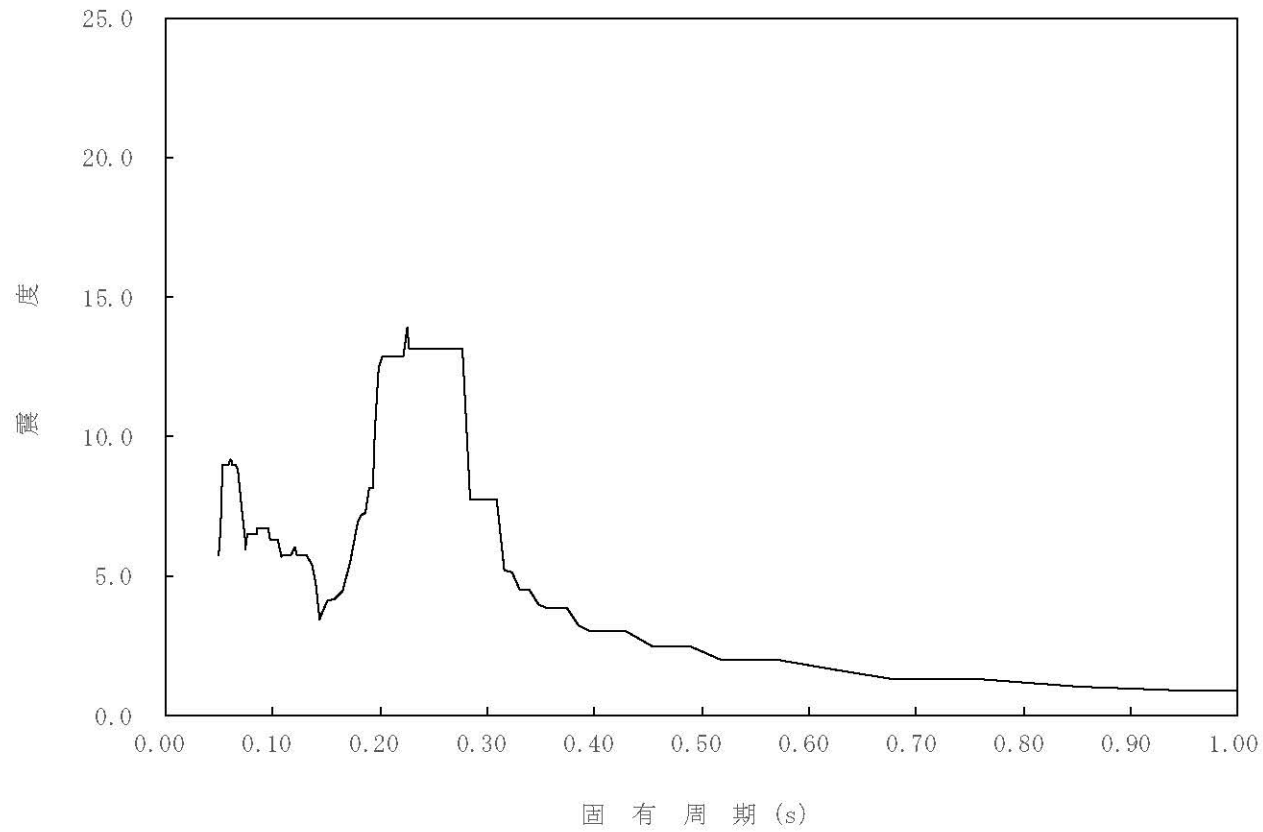
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-39

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV27-010】

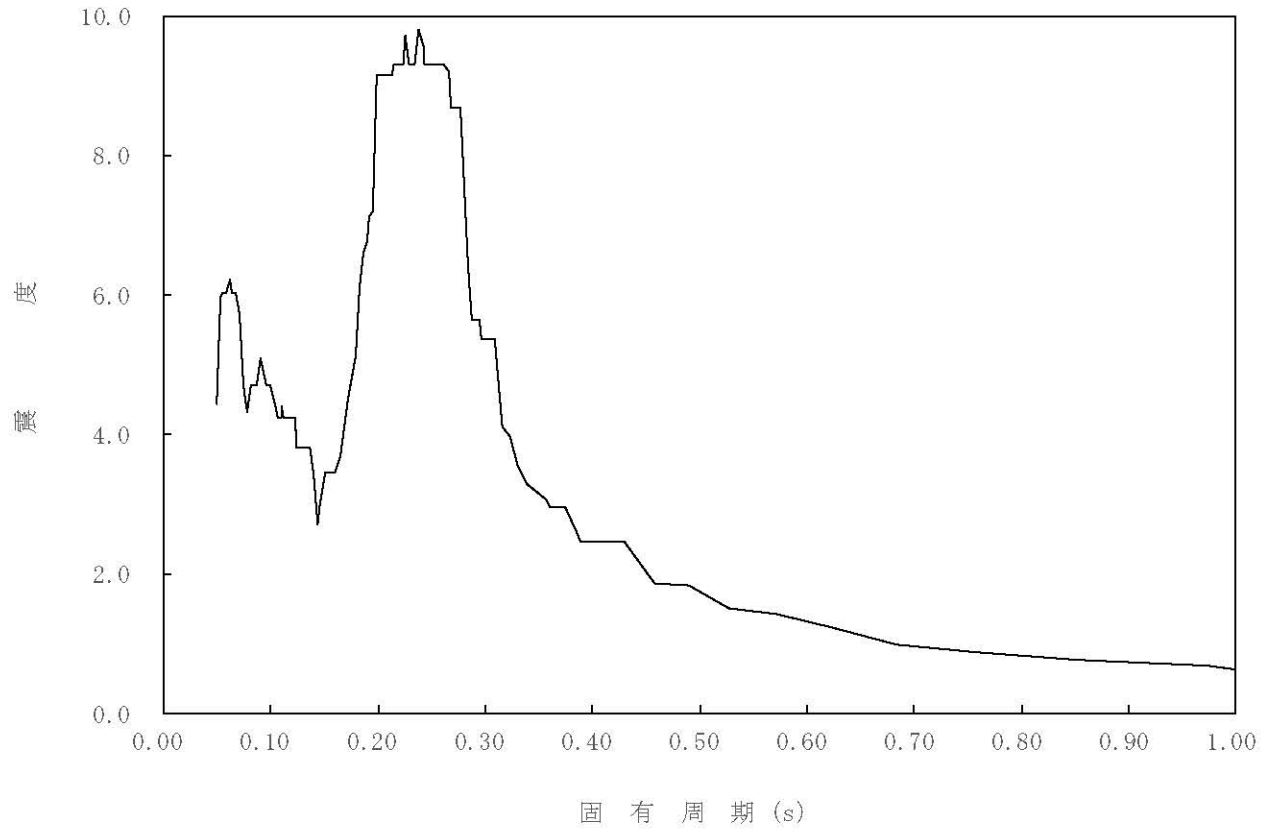
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-40

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV27-015】

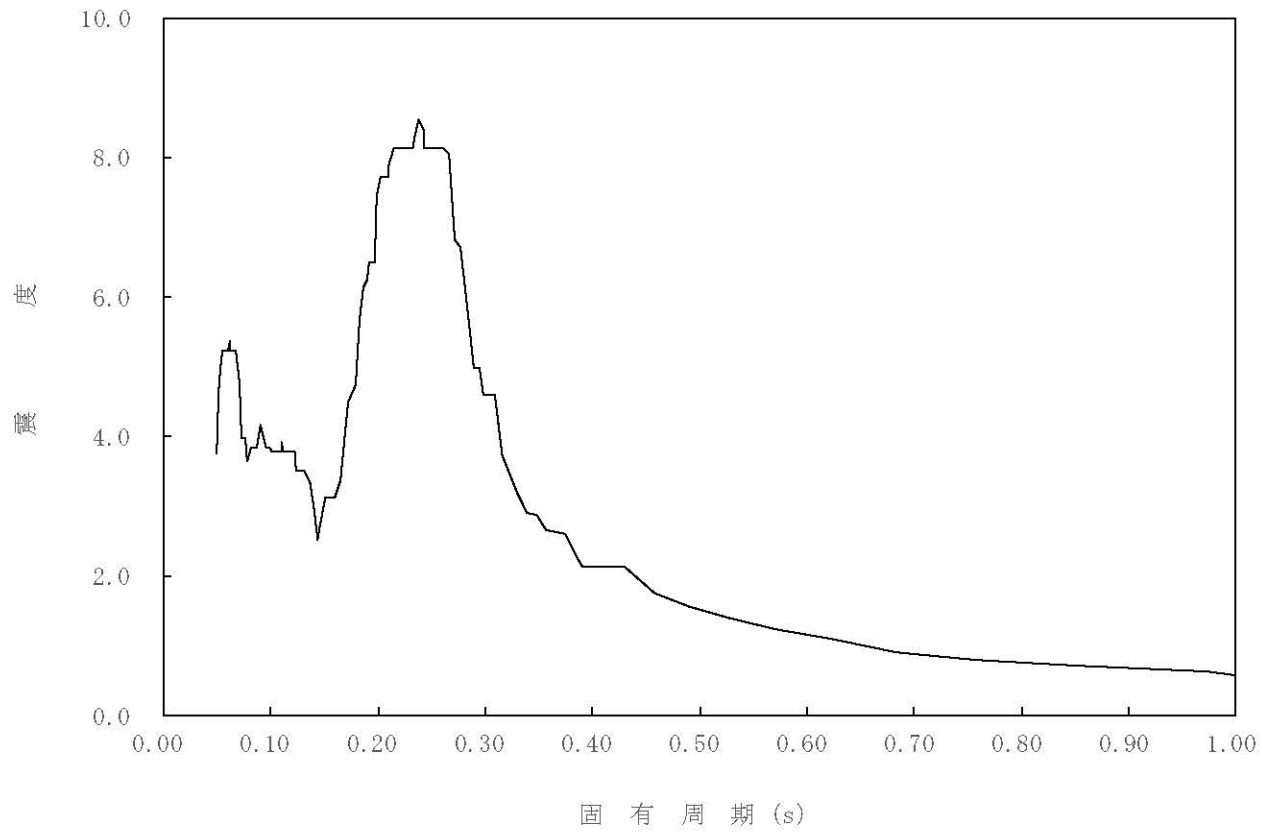
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-41

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV27-020】

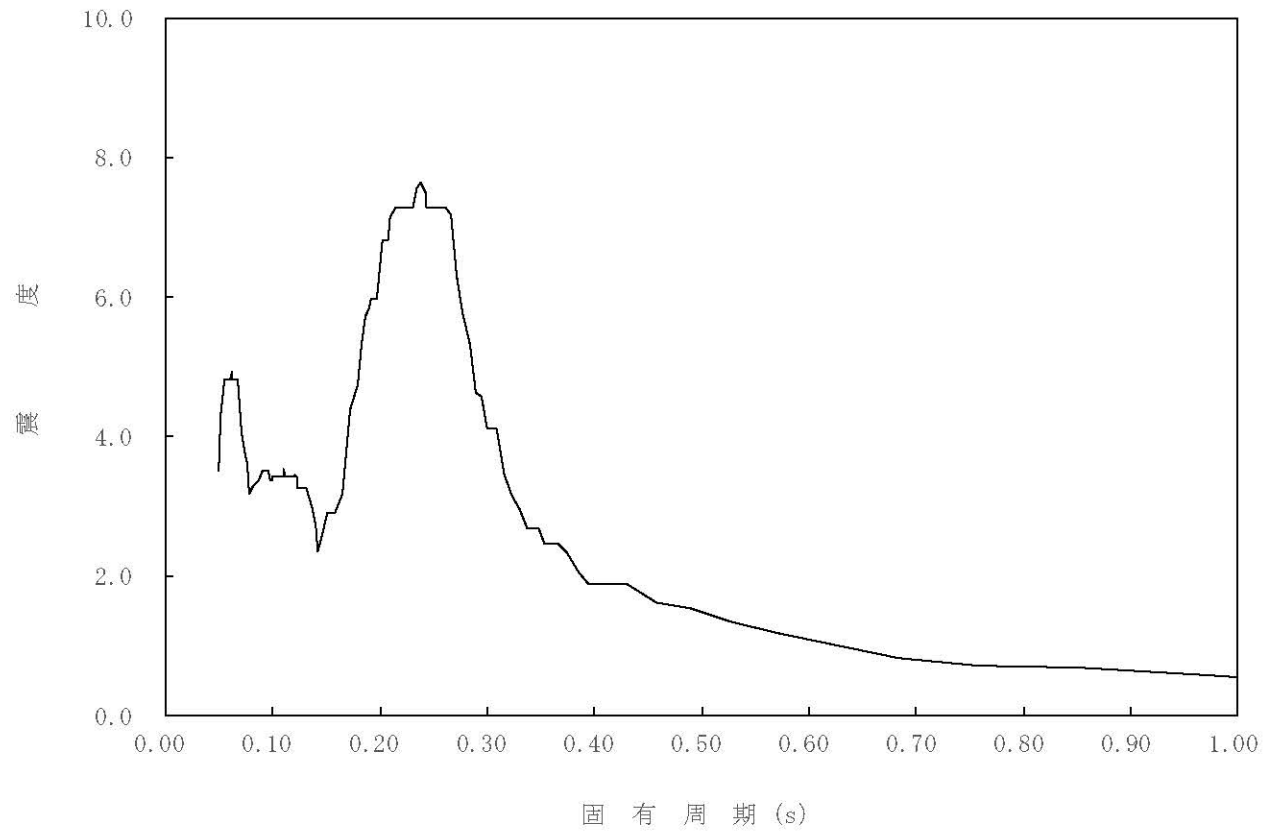
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-42

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV27-025】

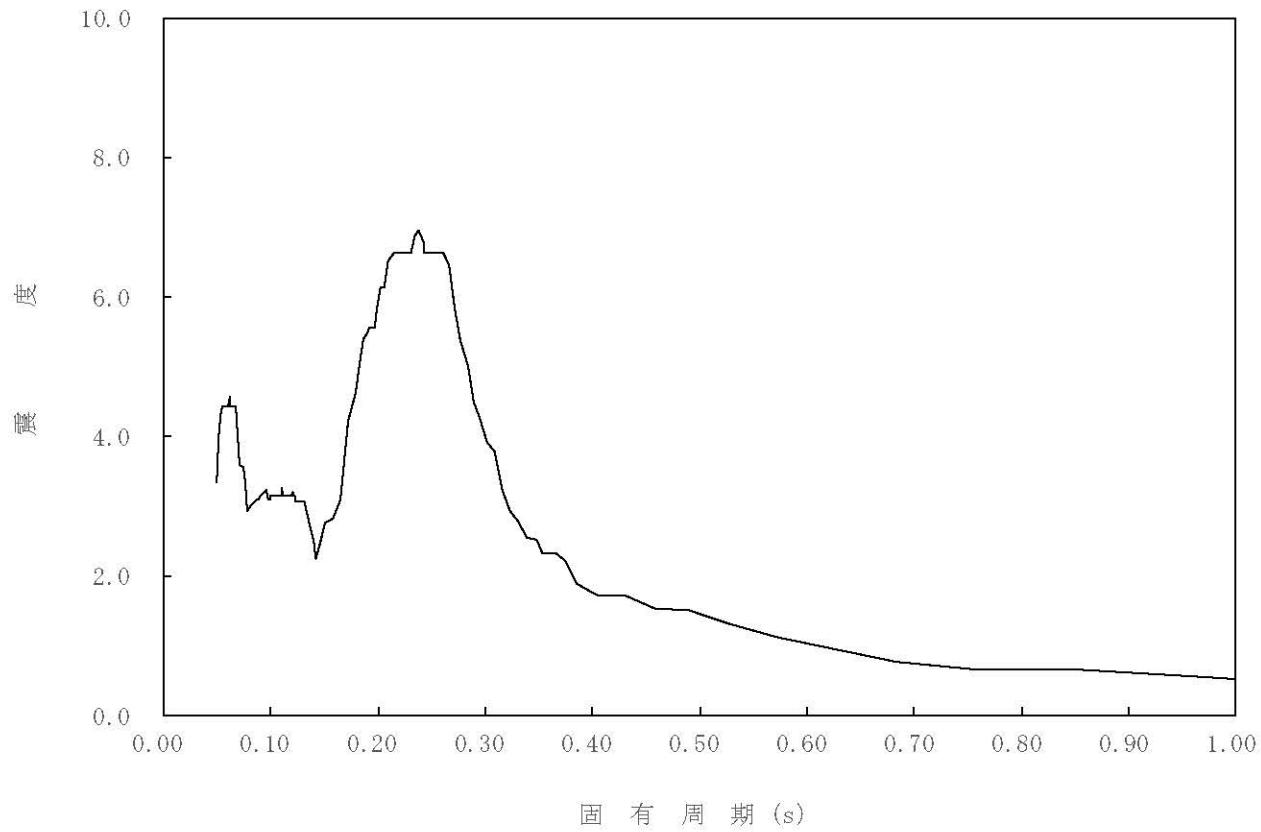
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-43

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV27-030】

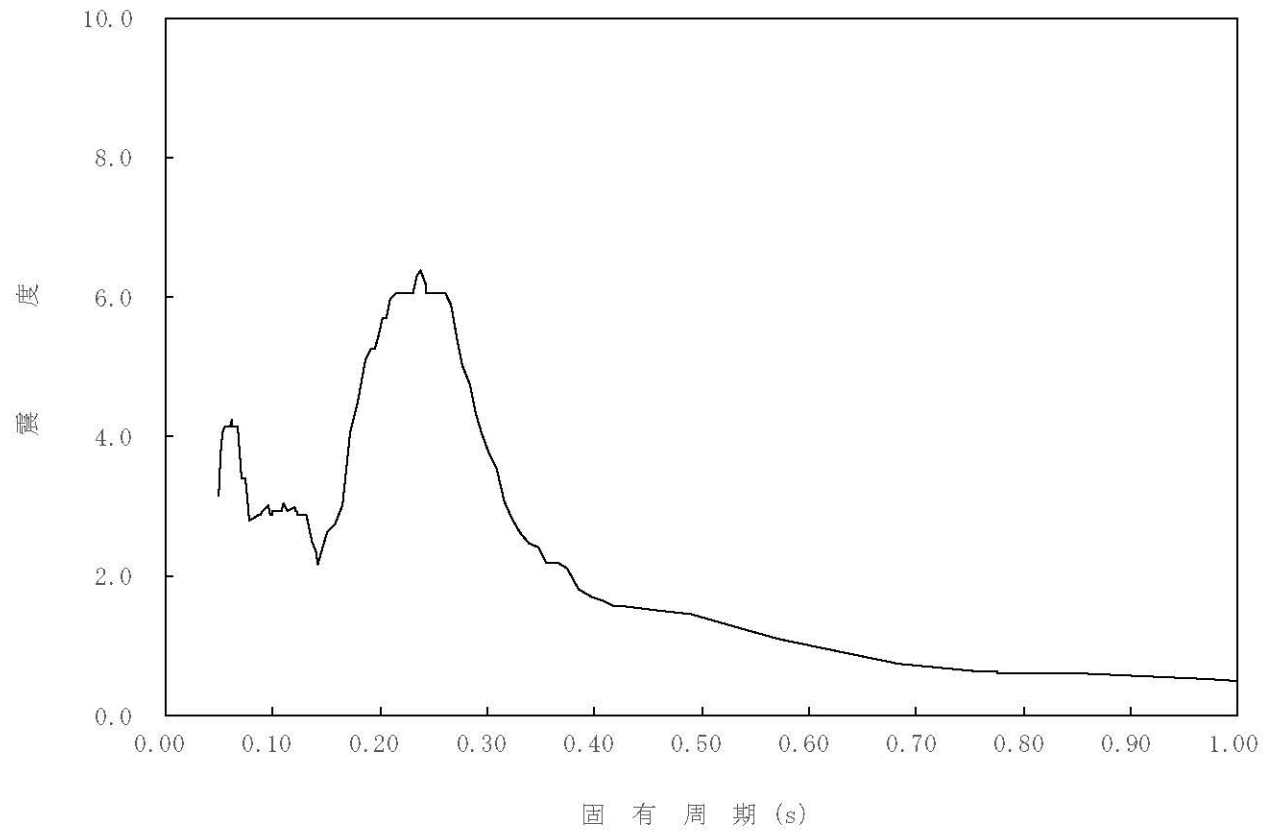
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-44

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV27-040】

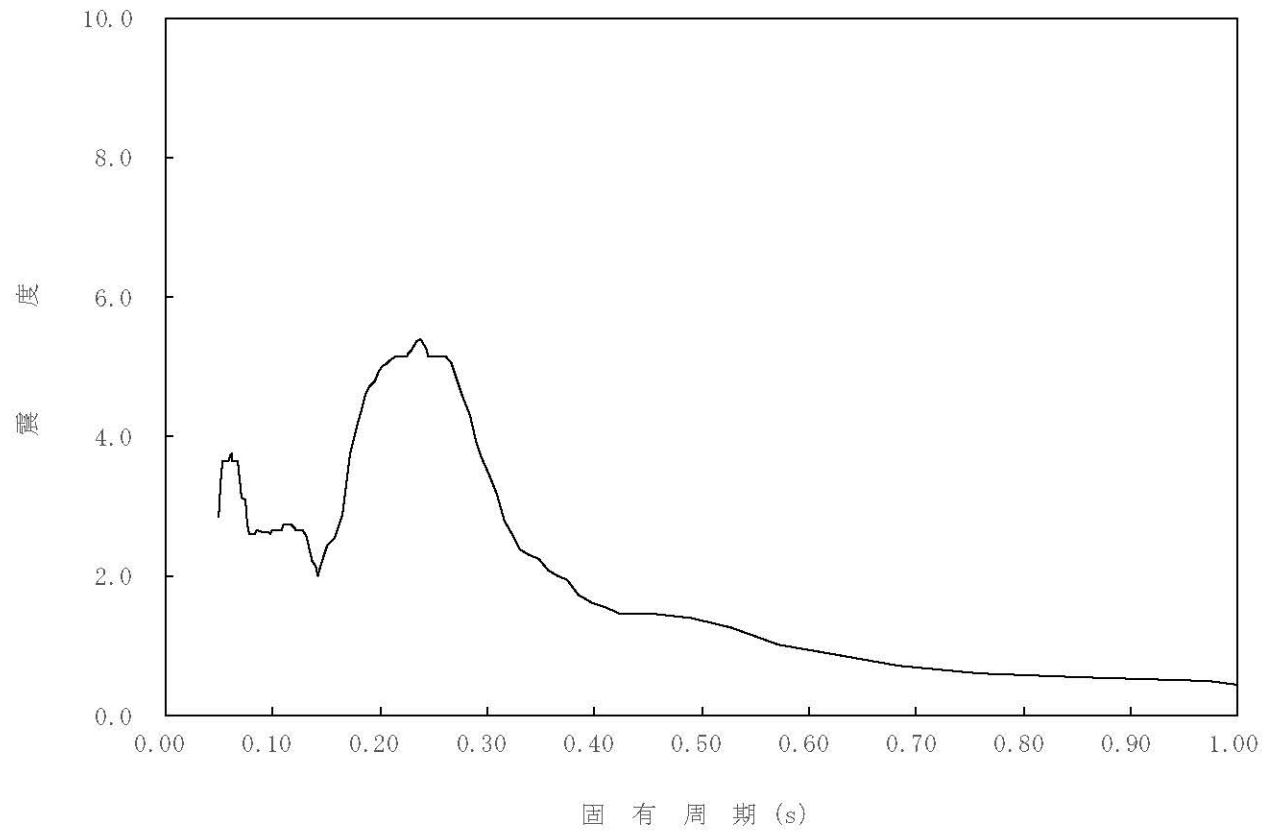
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-45

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV27-050】

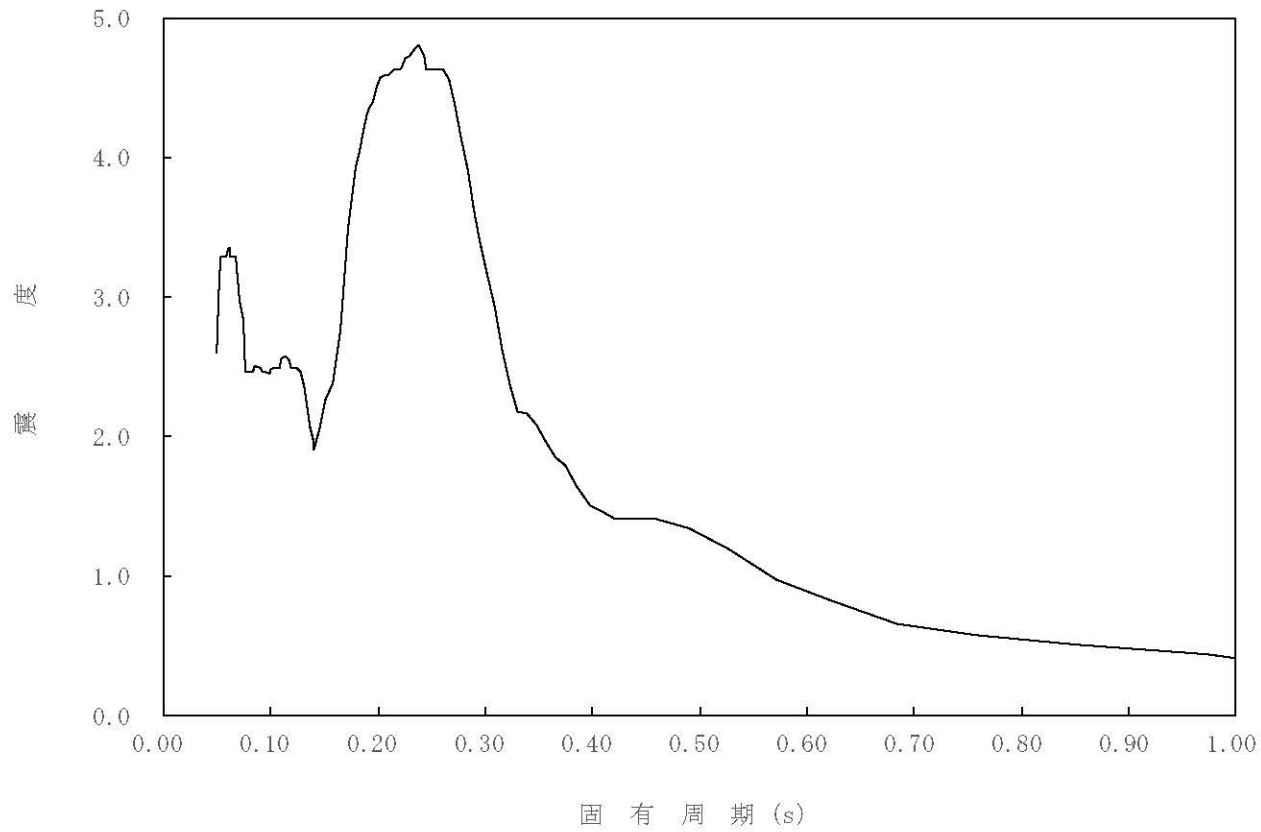
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-46

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV26-005】

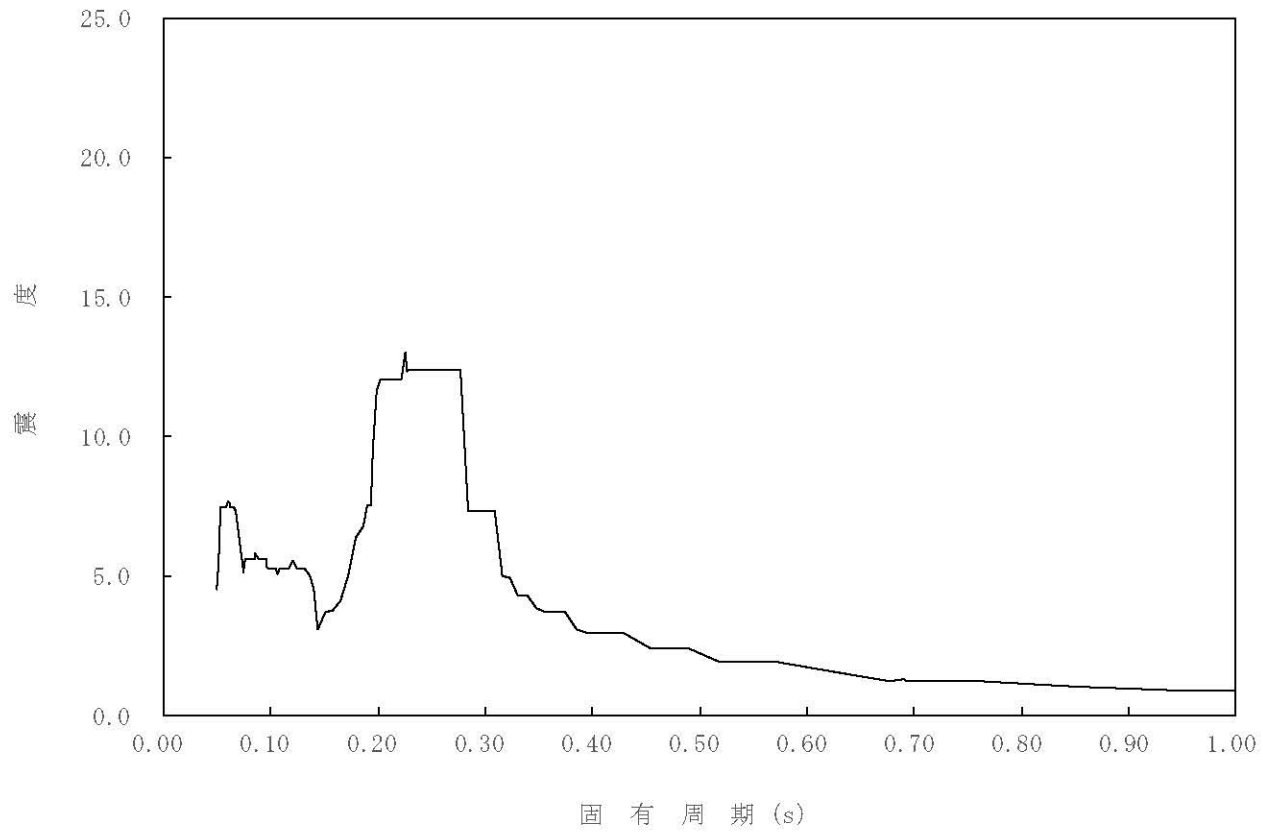
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-47

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV26-010】

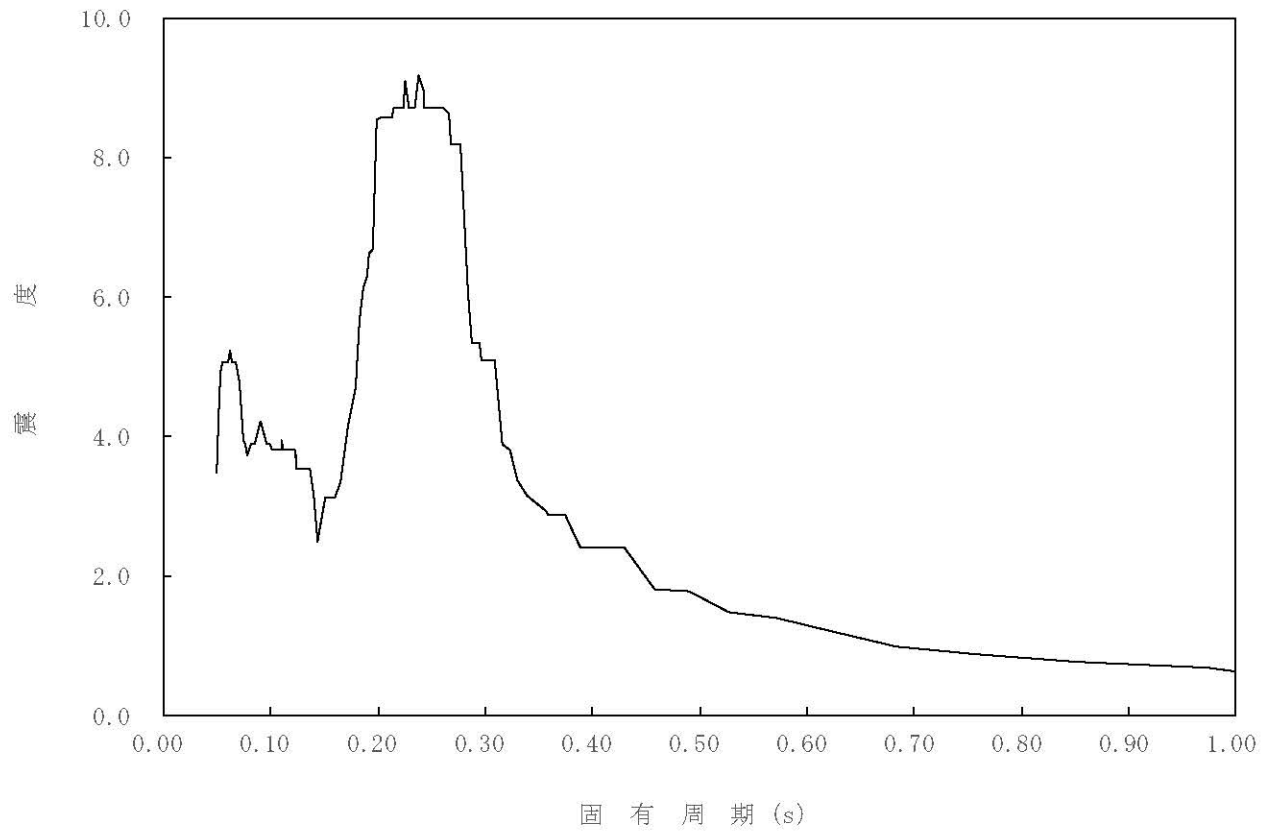
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-48

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV26-015】

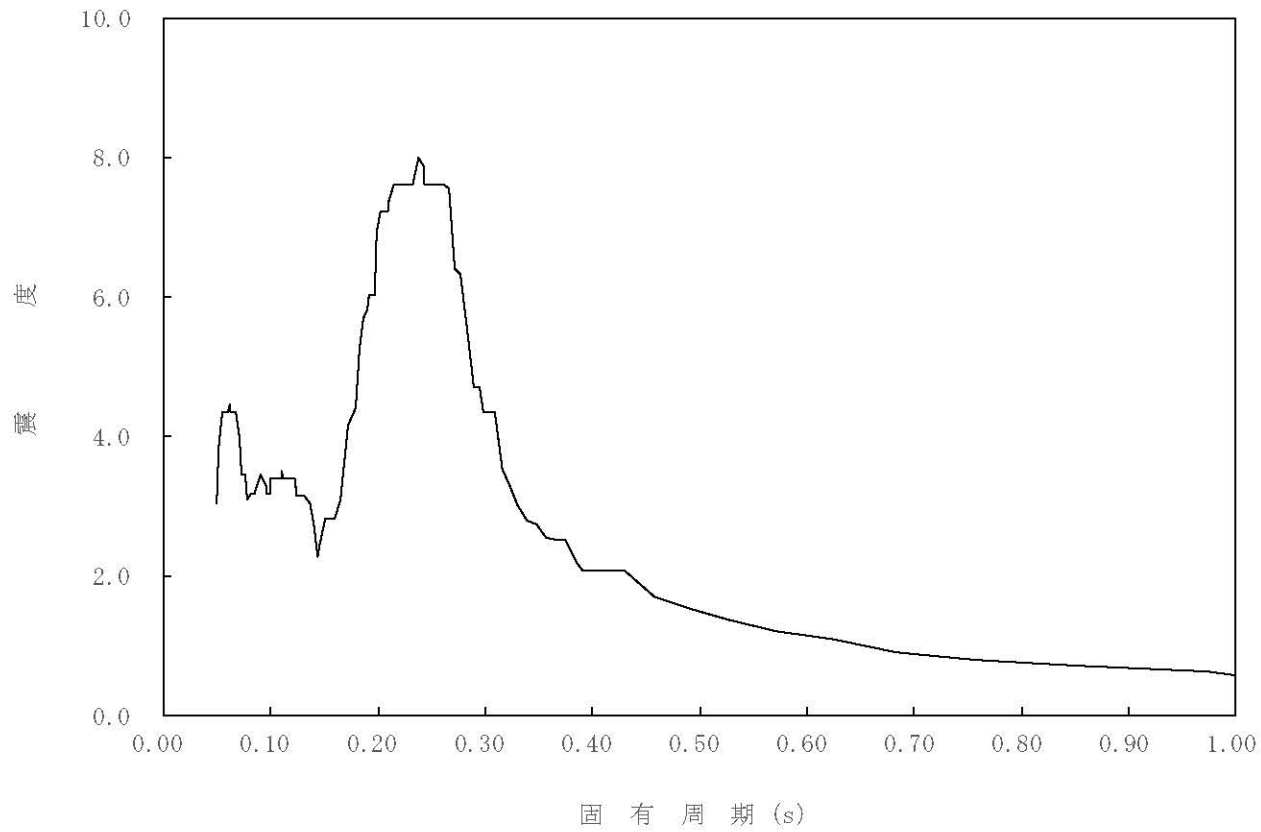
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-49

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV26-020】

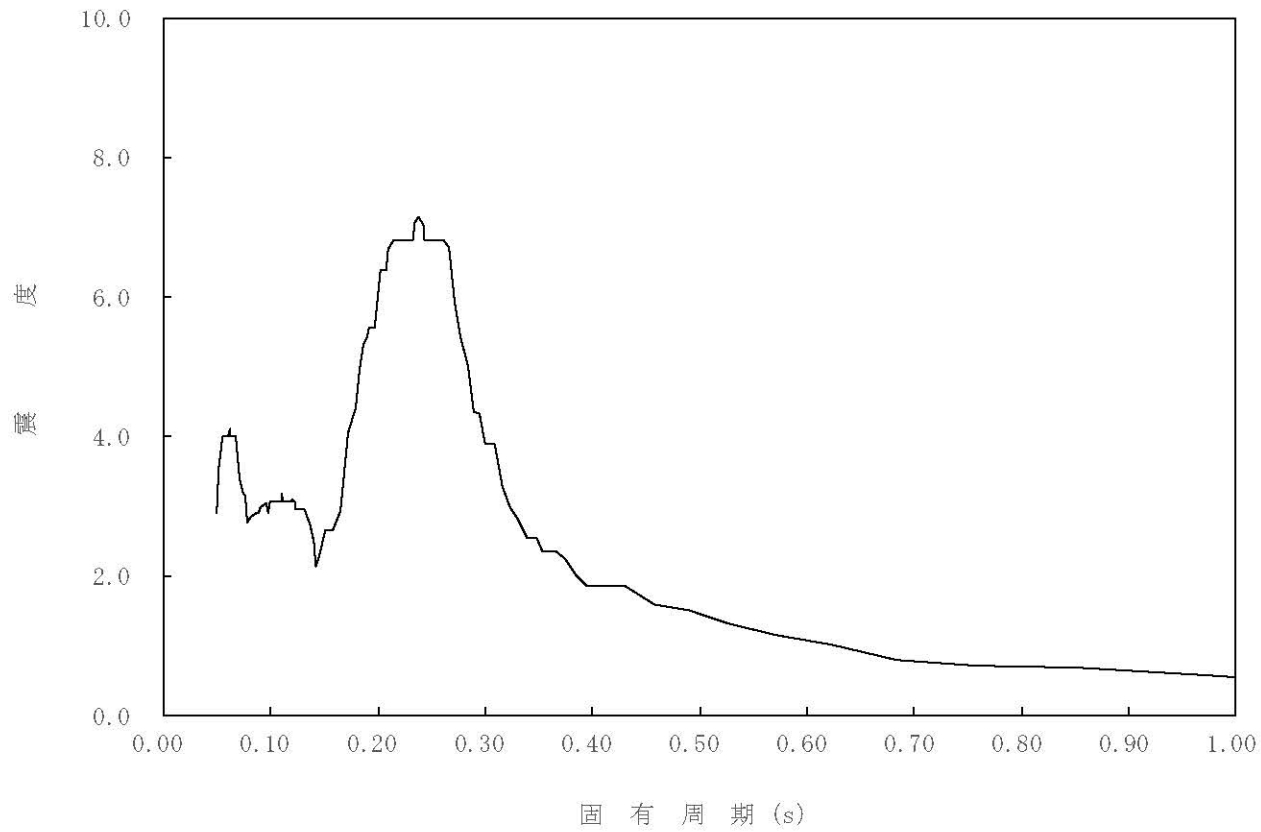
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-50

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV26-025】

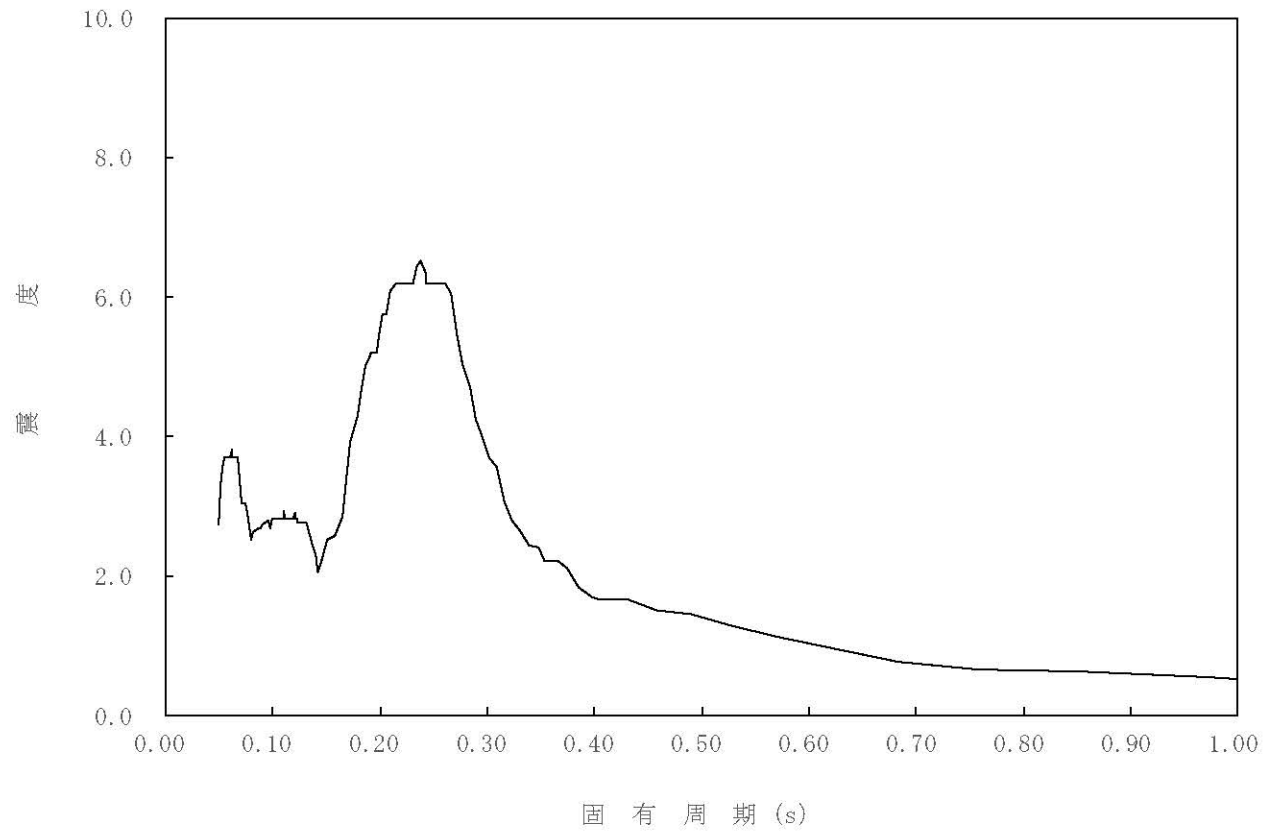
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-51

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV26-030】

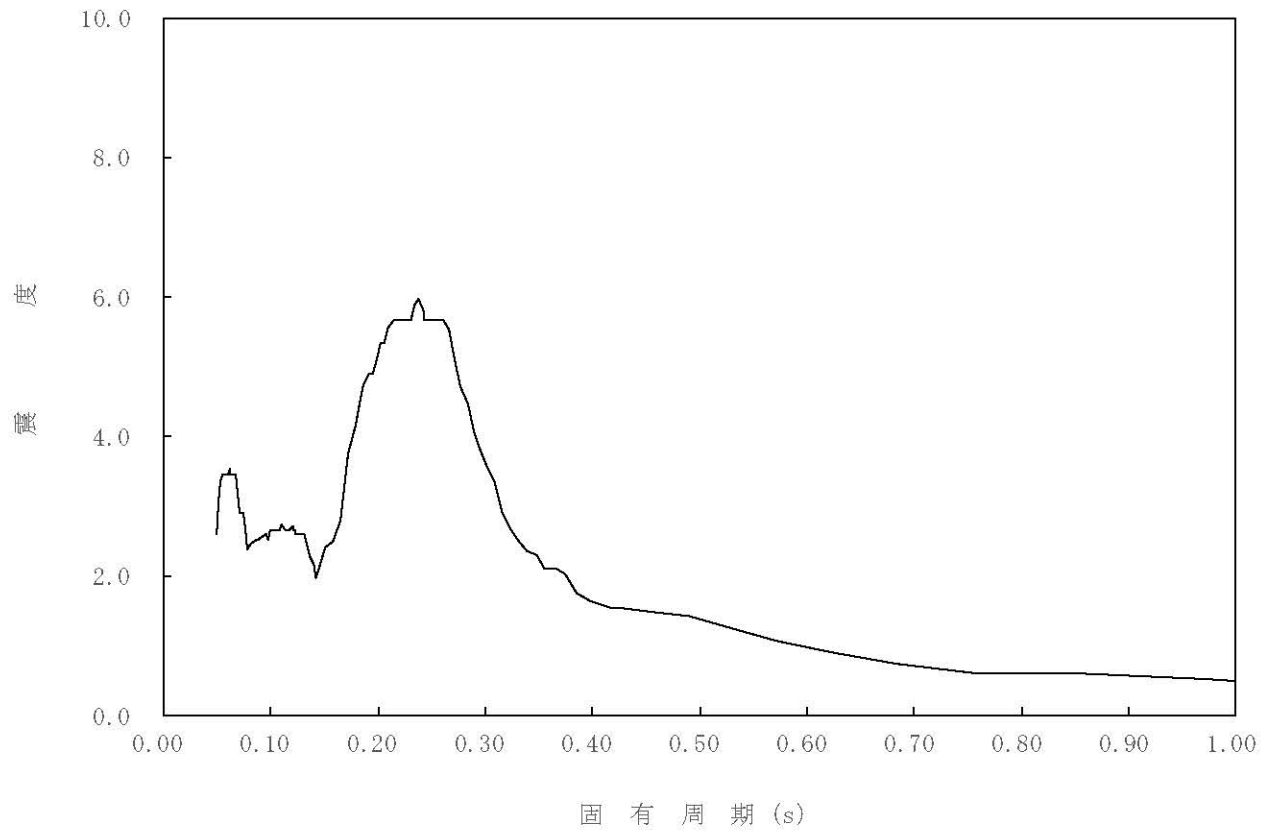
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-52

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV26-040】

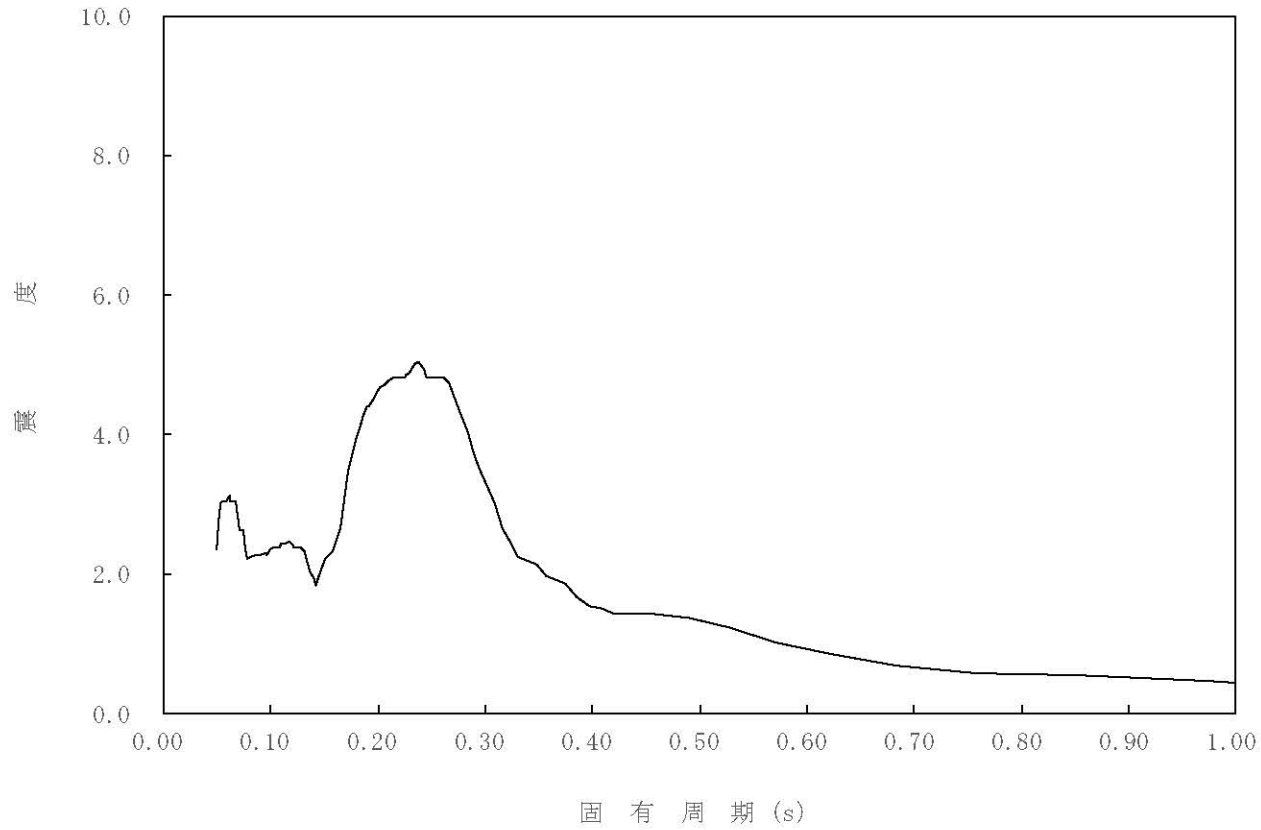
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-53

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV26-050】

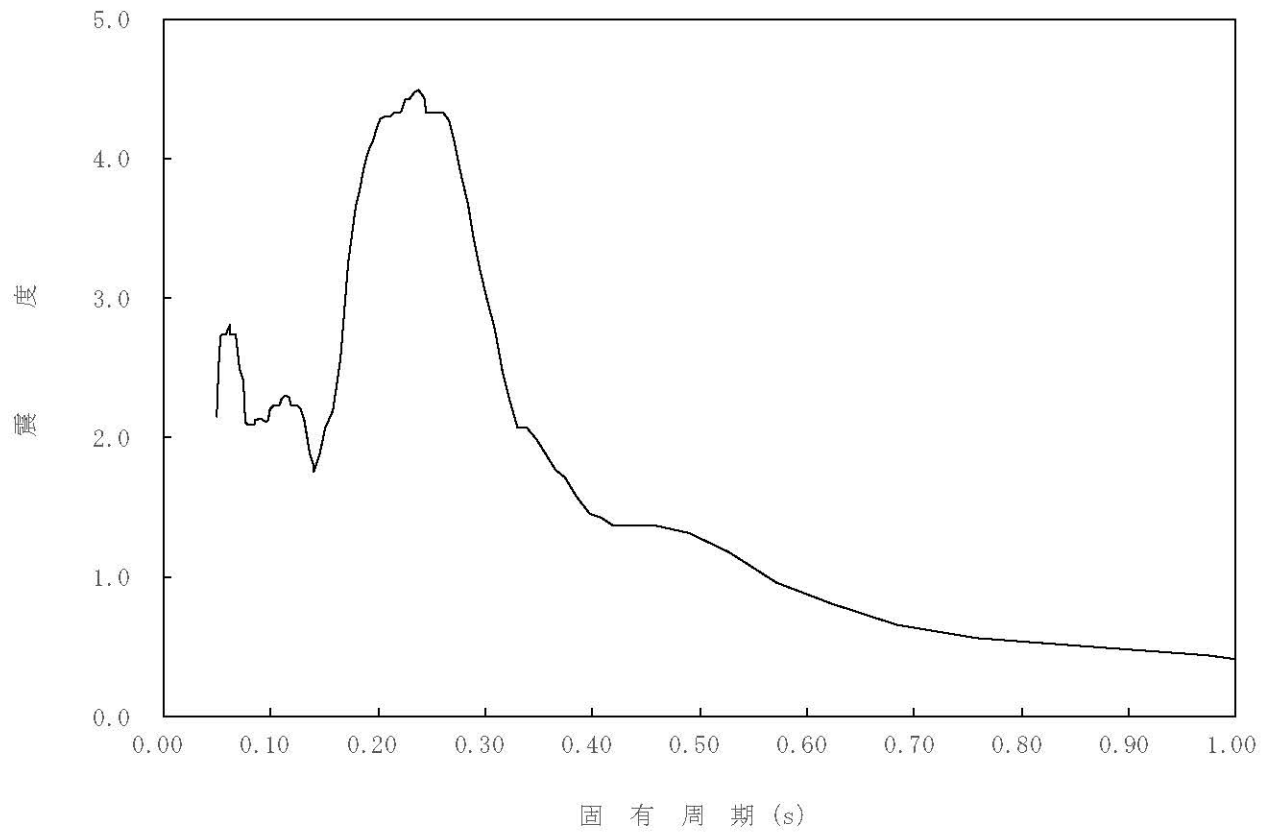
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-54

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV25-005】

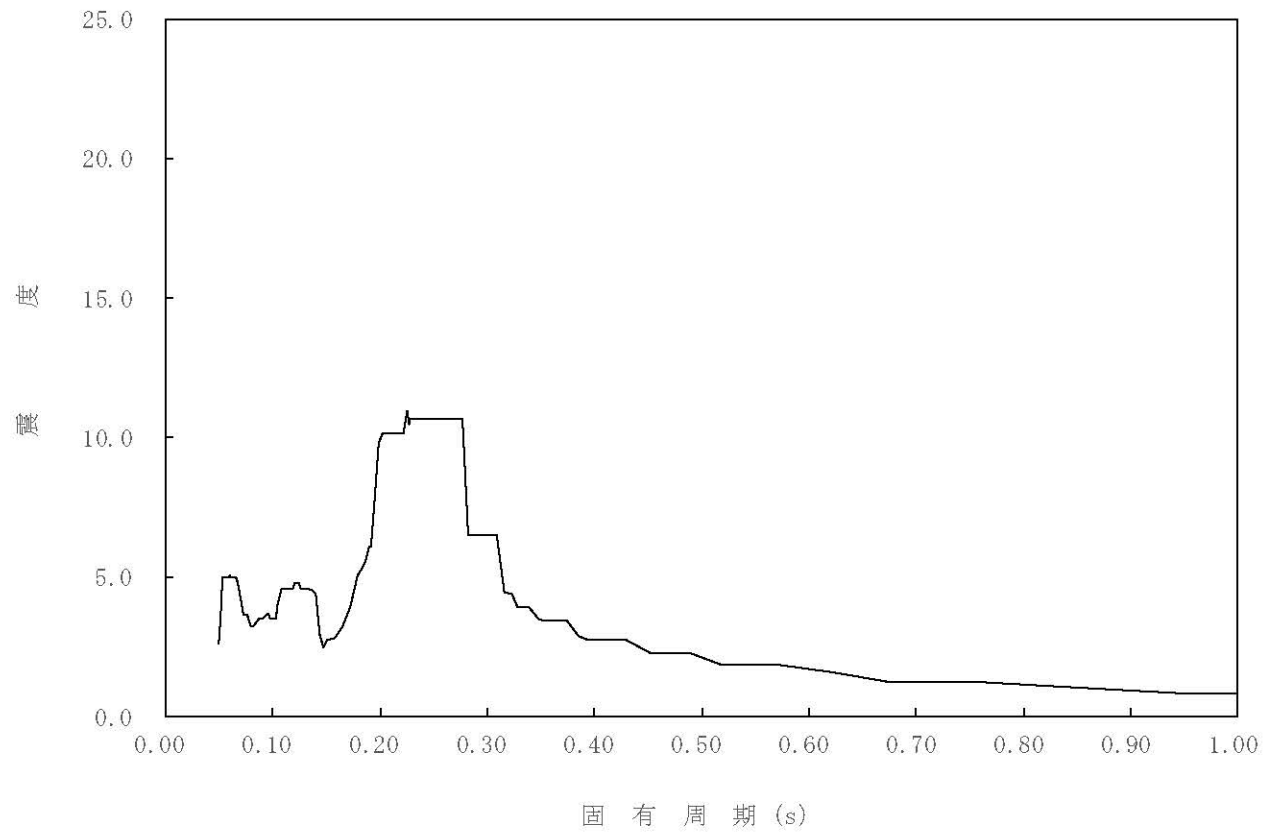
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-55

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV25-010】

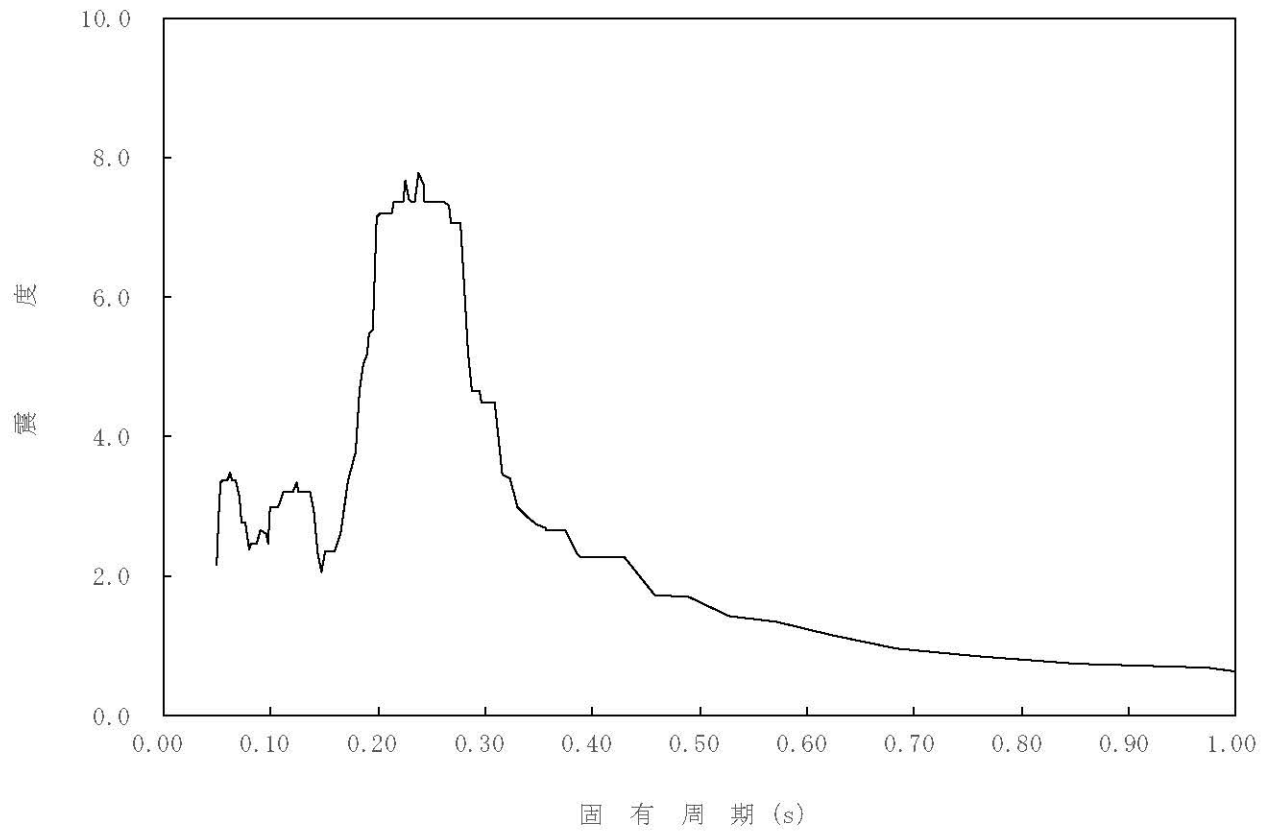
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-56

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV25-015】

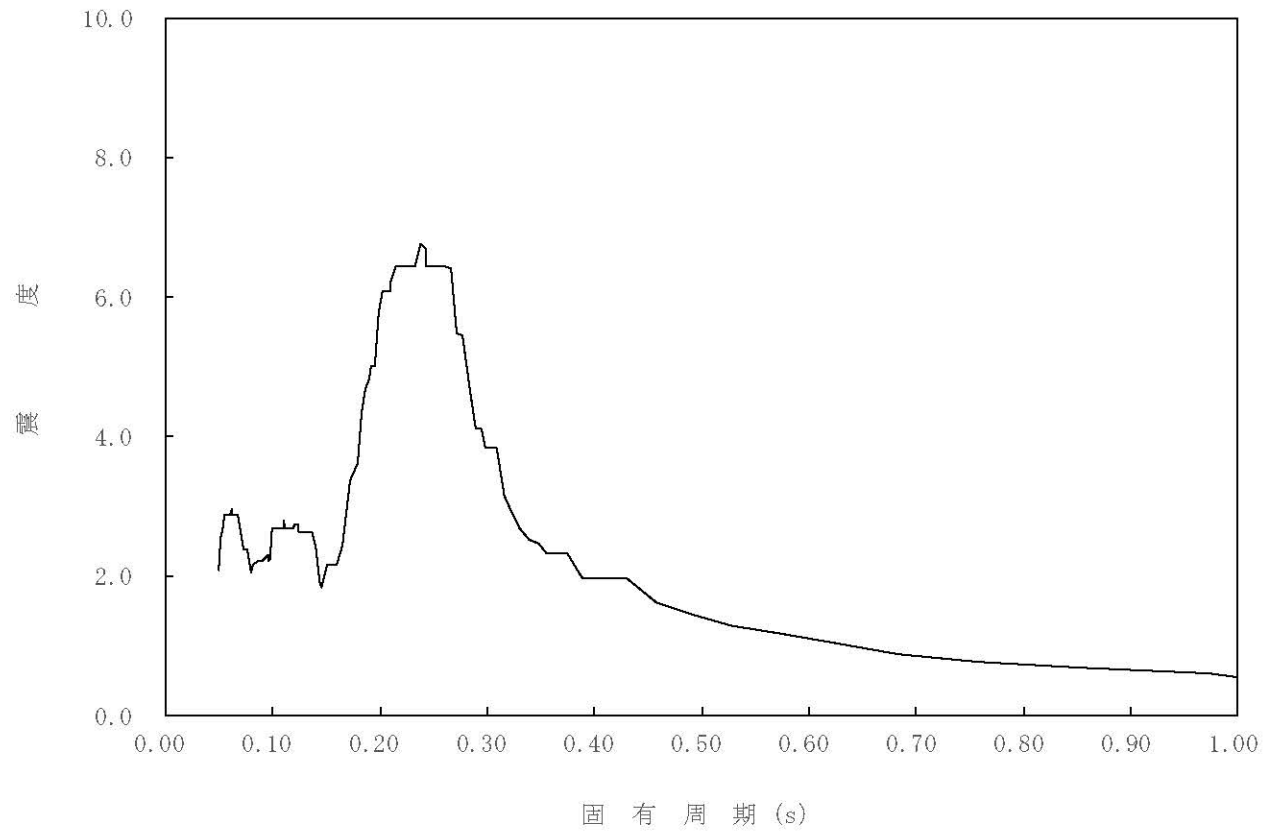
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-57

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV25-020】

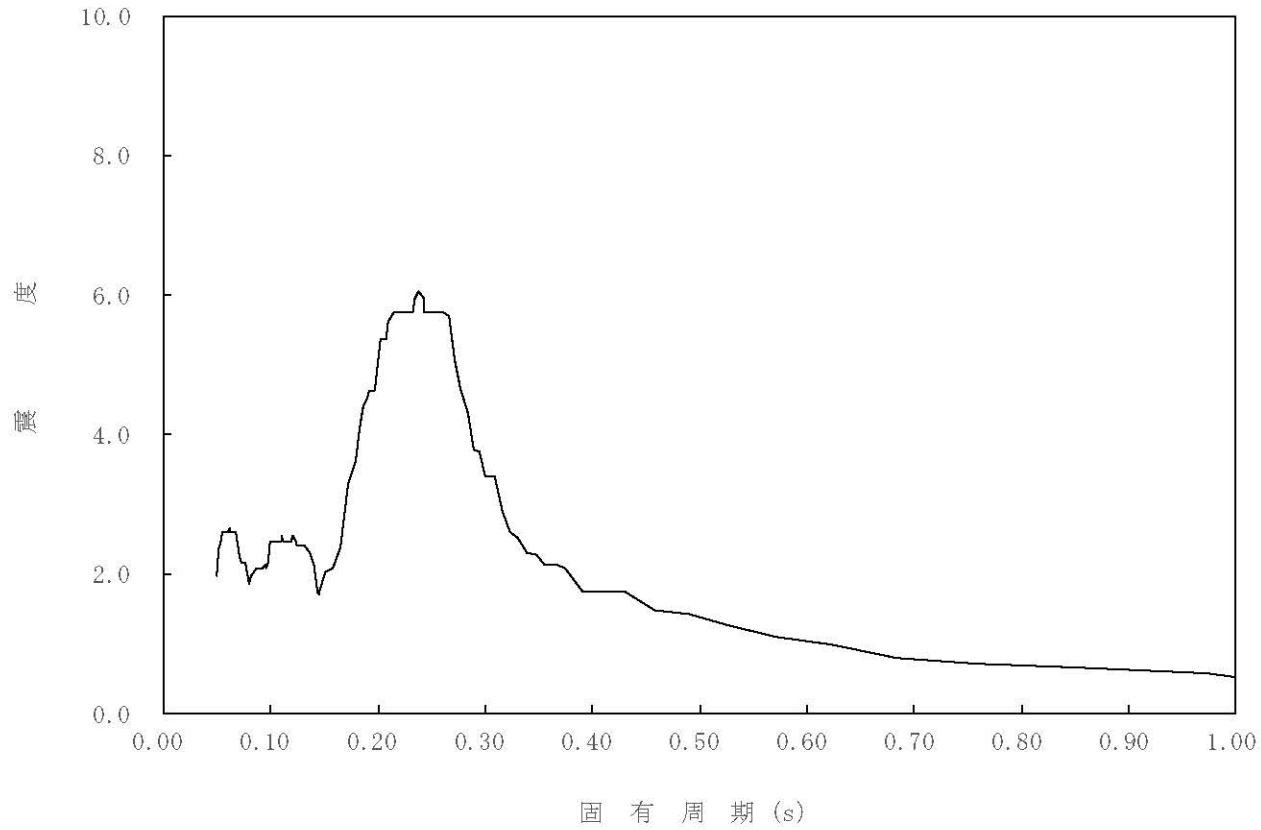
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-58

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV25-025】

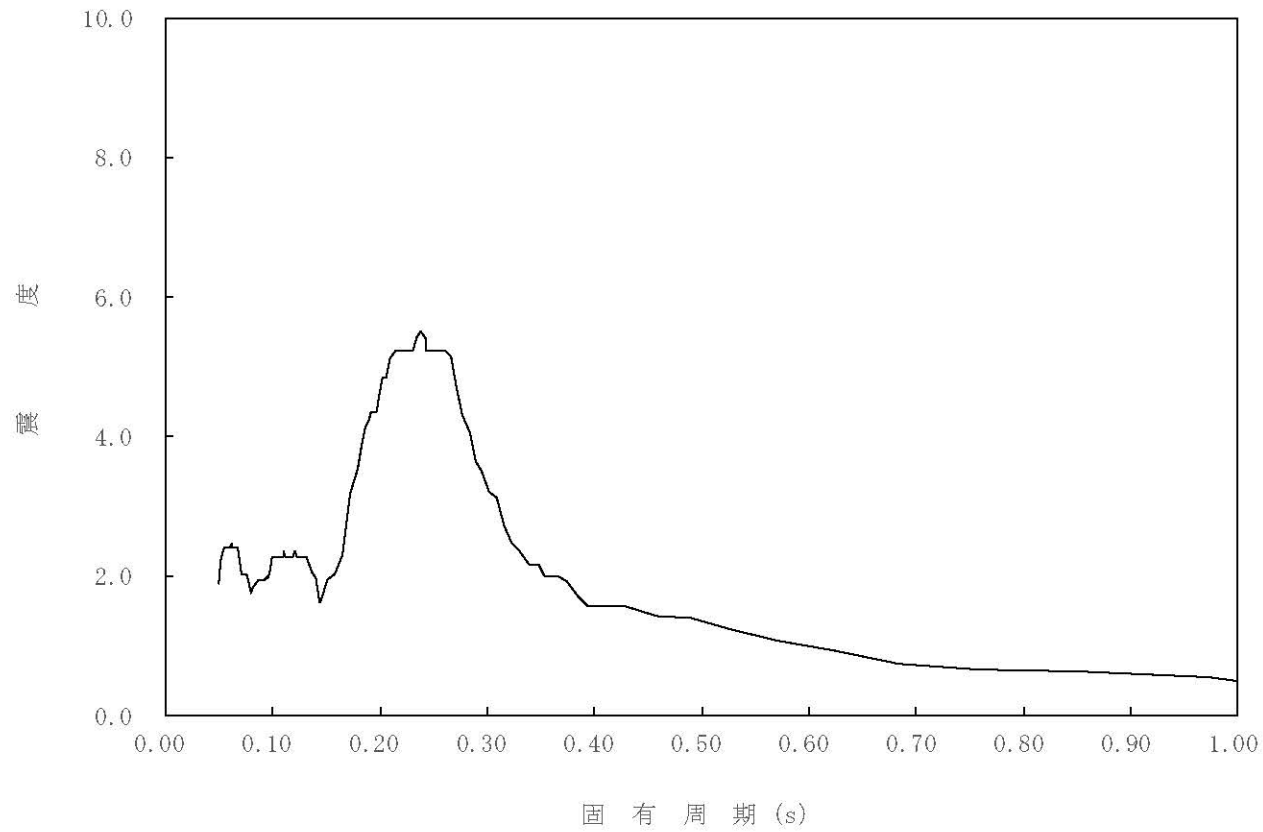
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-59

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV25-030】

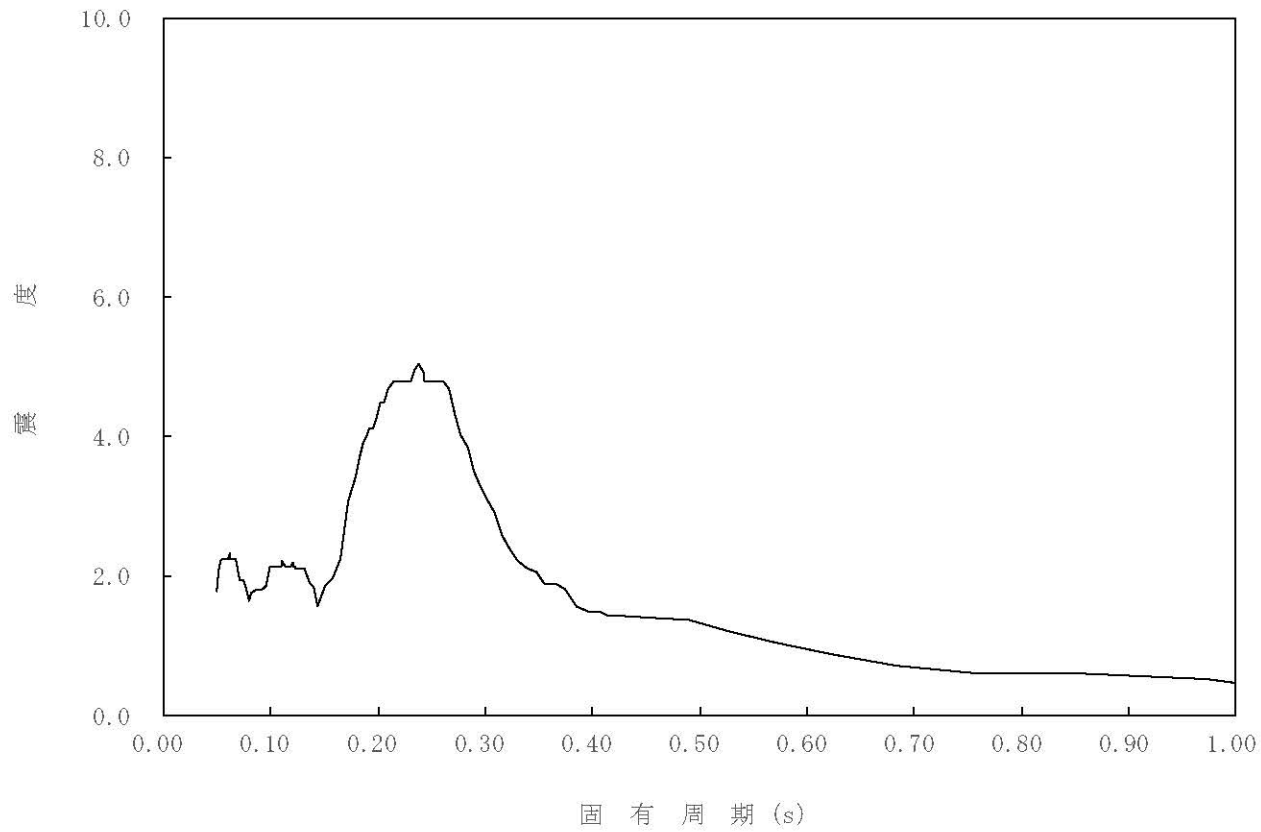
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-60

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV25-040】

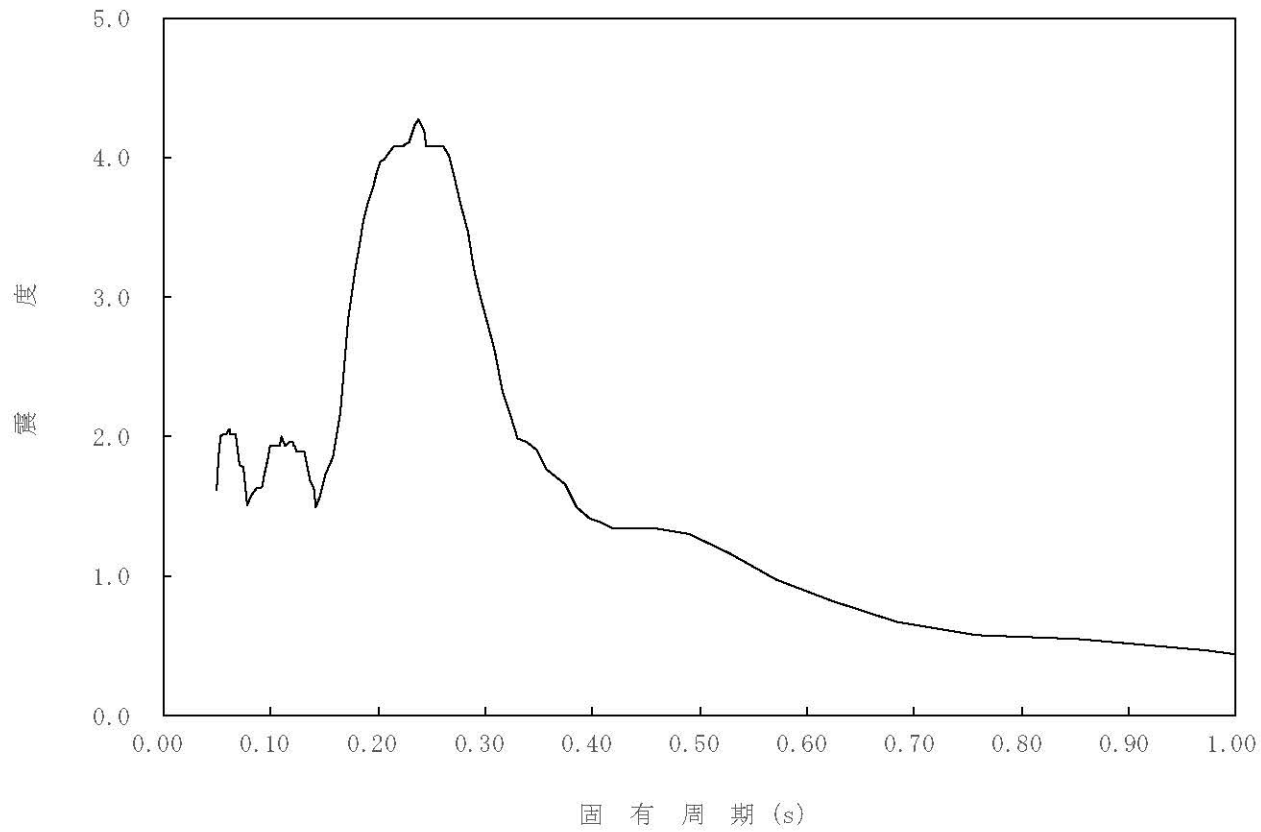
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-61

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV25-050】

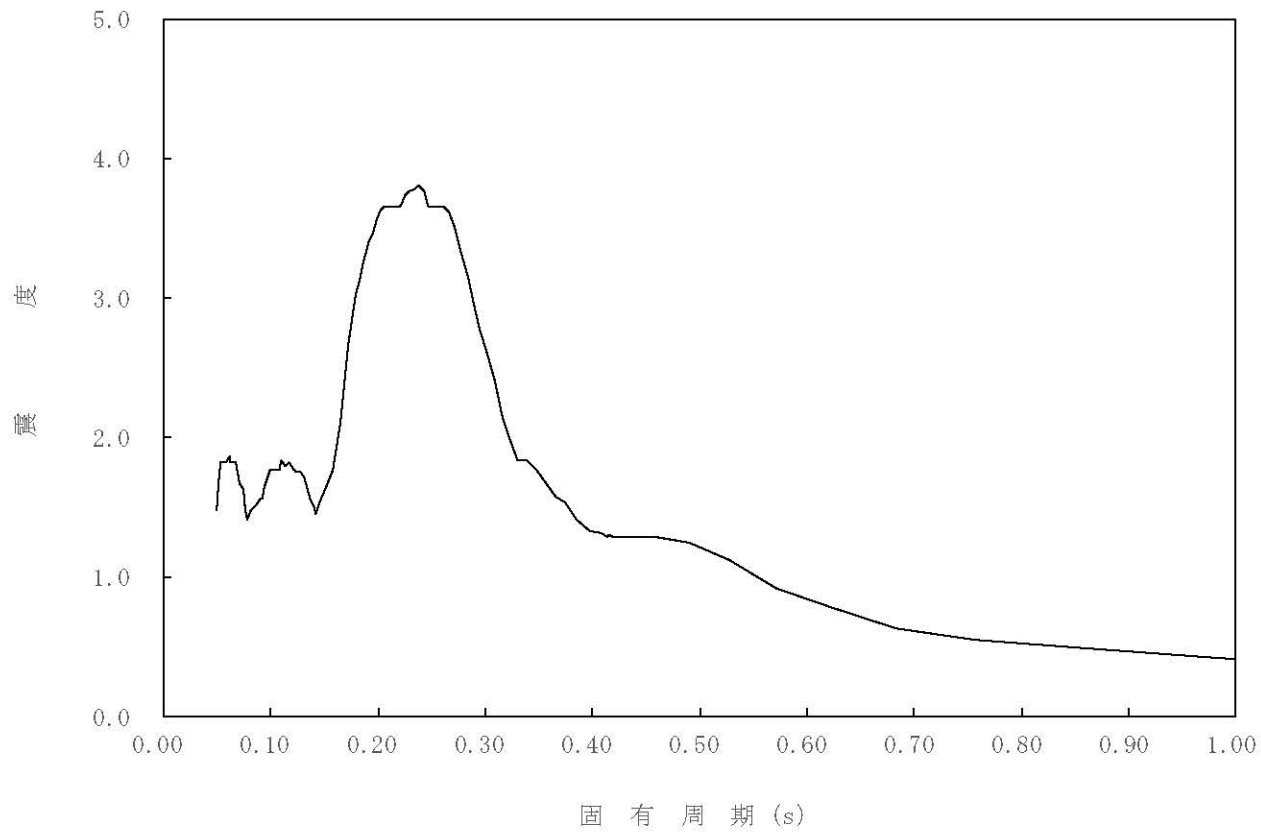
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-62

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV24-005】

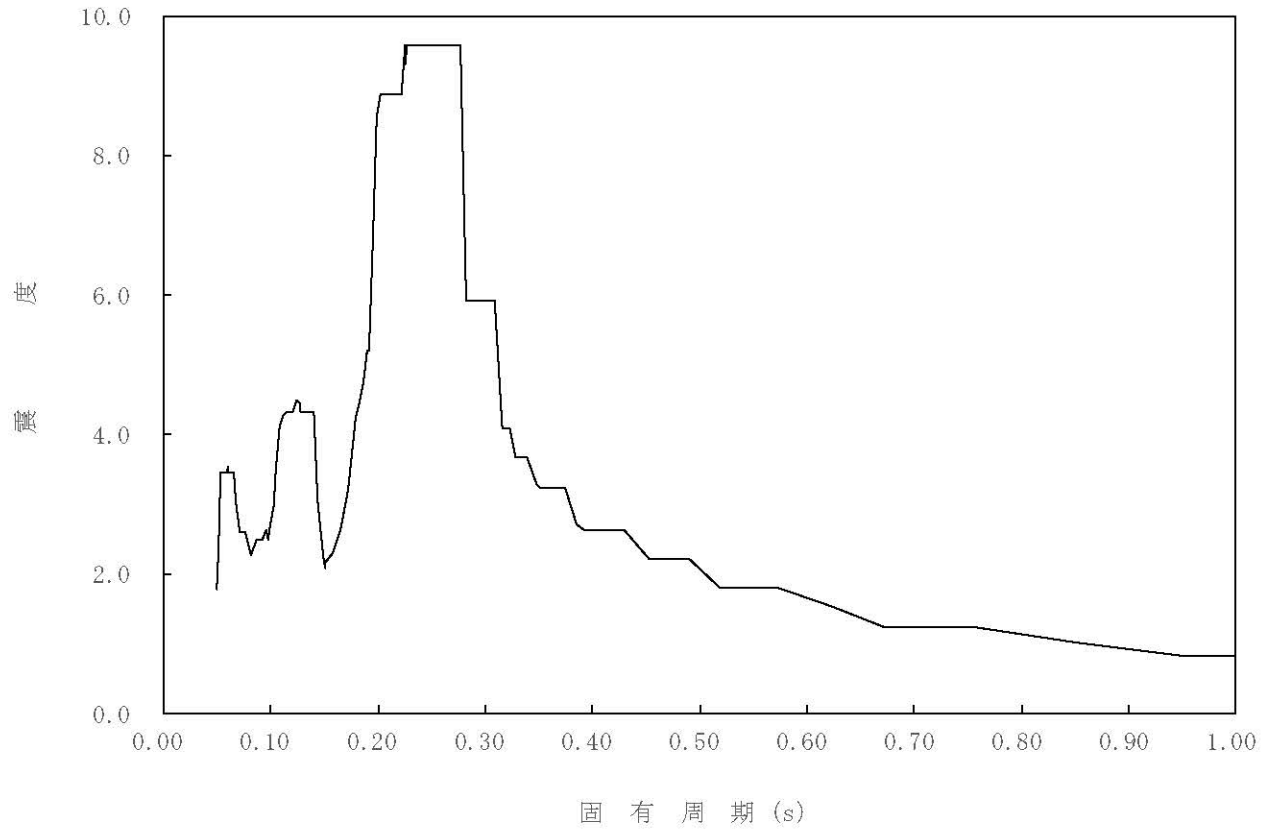
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-63

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV24-010】

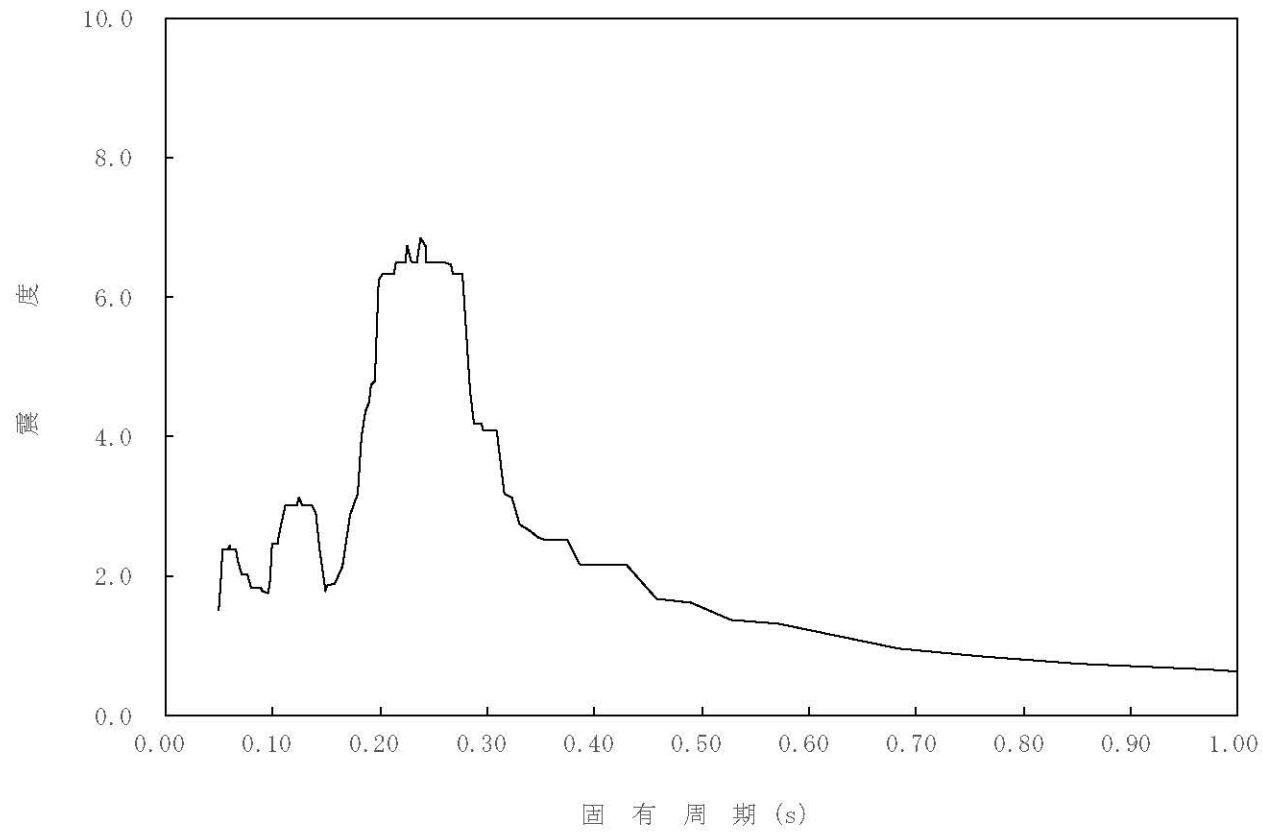
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-64

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV24-015】

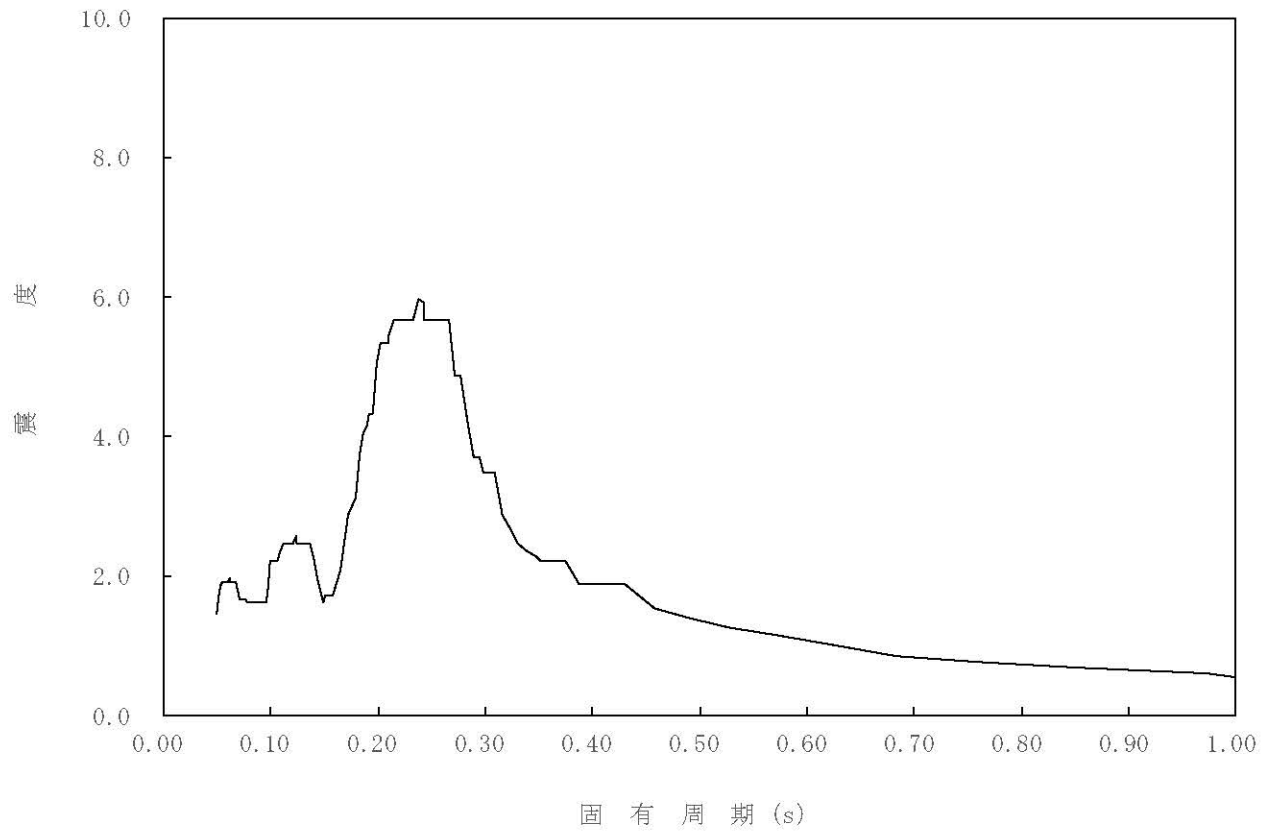
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-65

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV24-020】

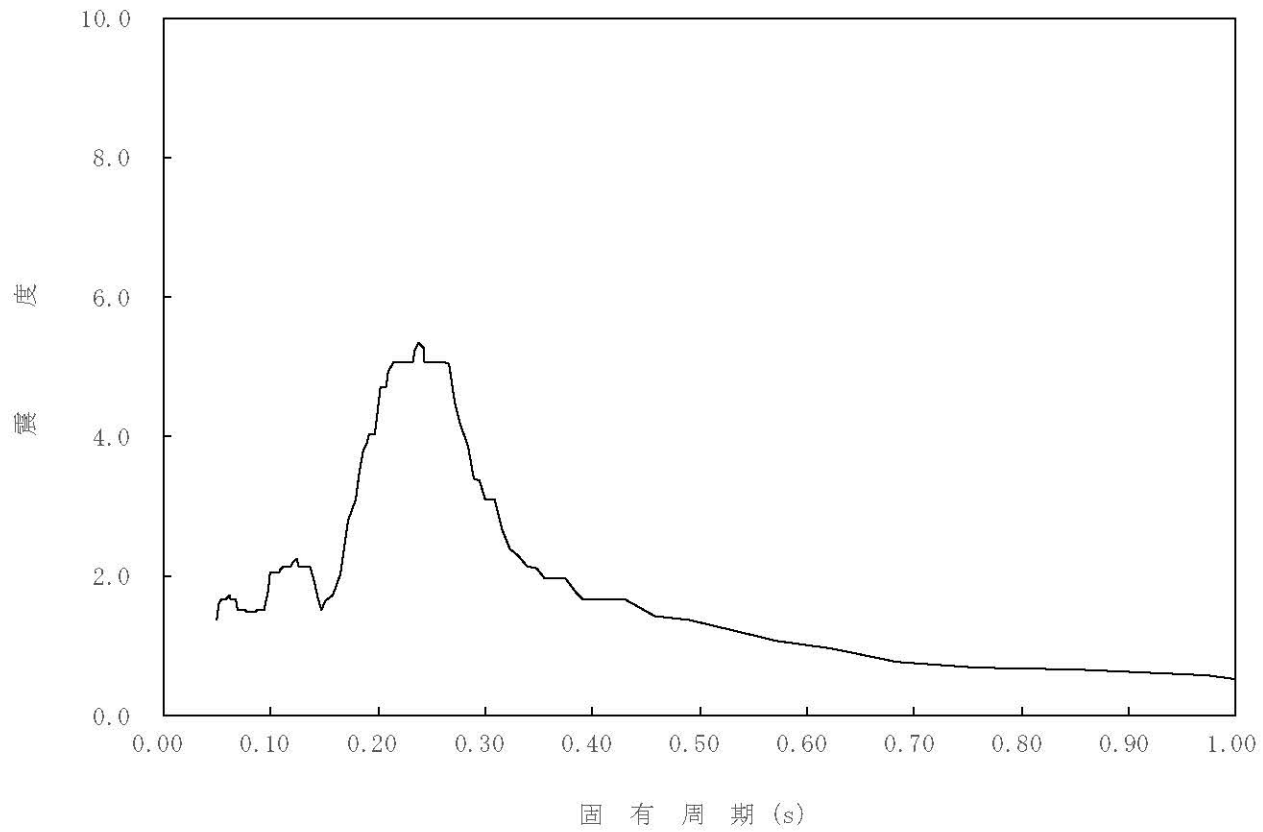
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-66

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV24-025】

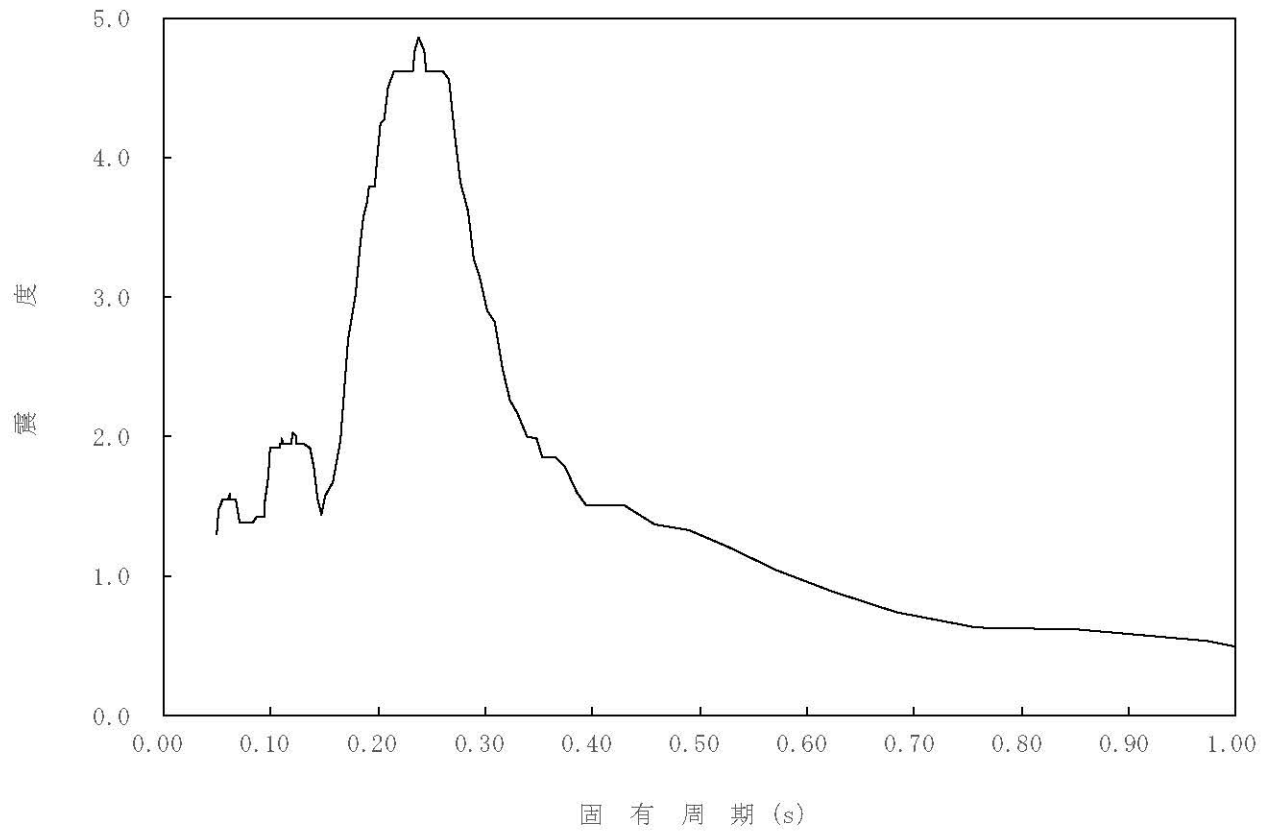
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-67

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV24-030】

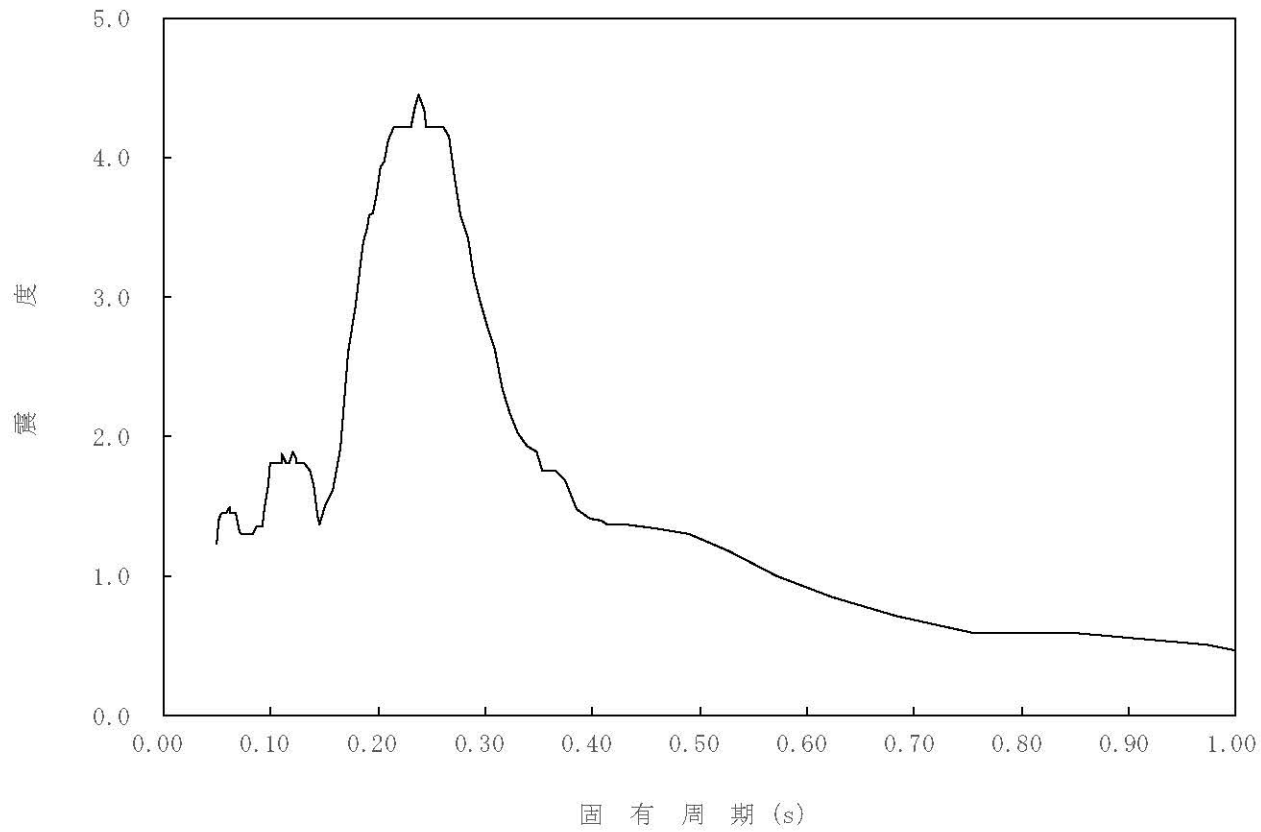
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-68

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV24-040】

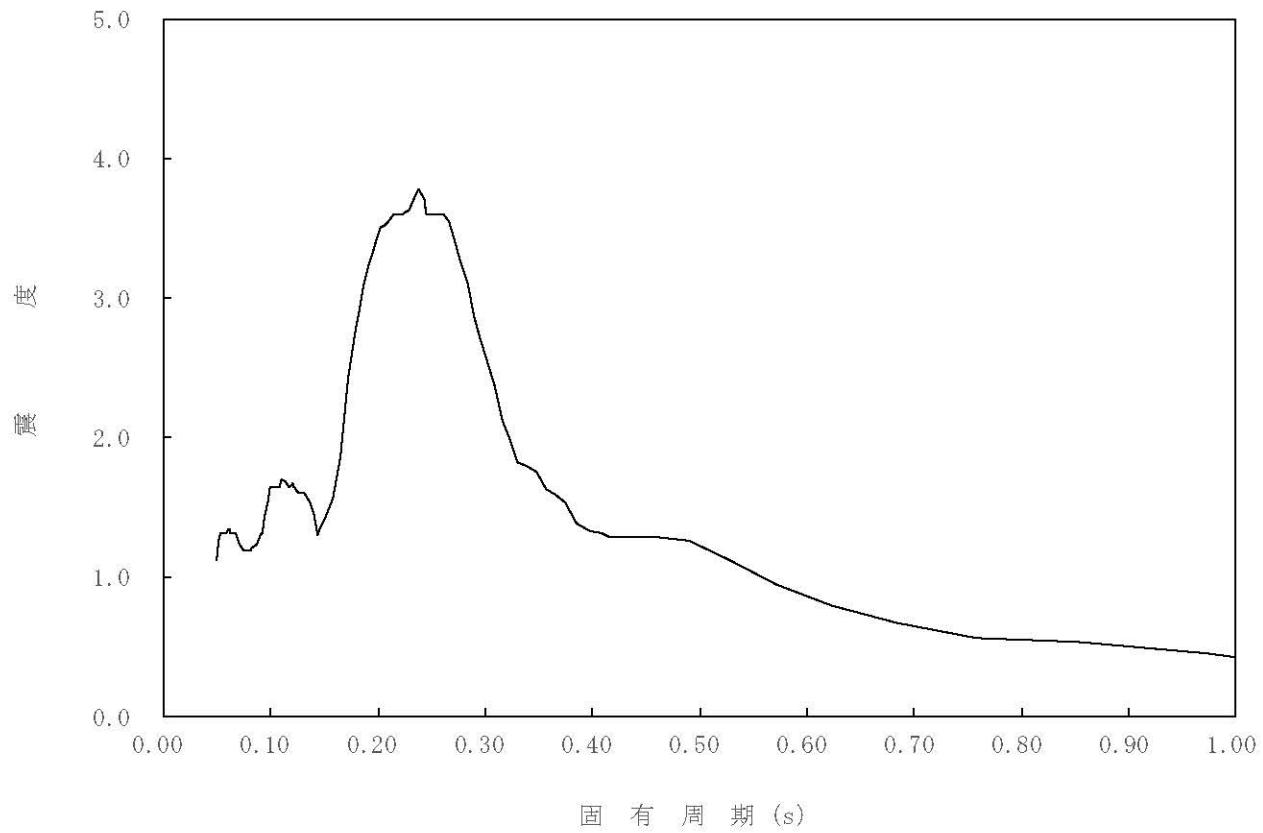
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-69

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV24-050】

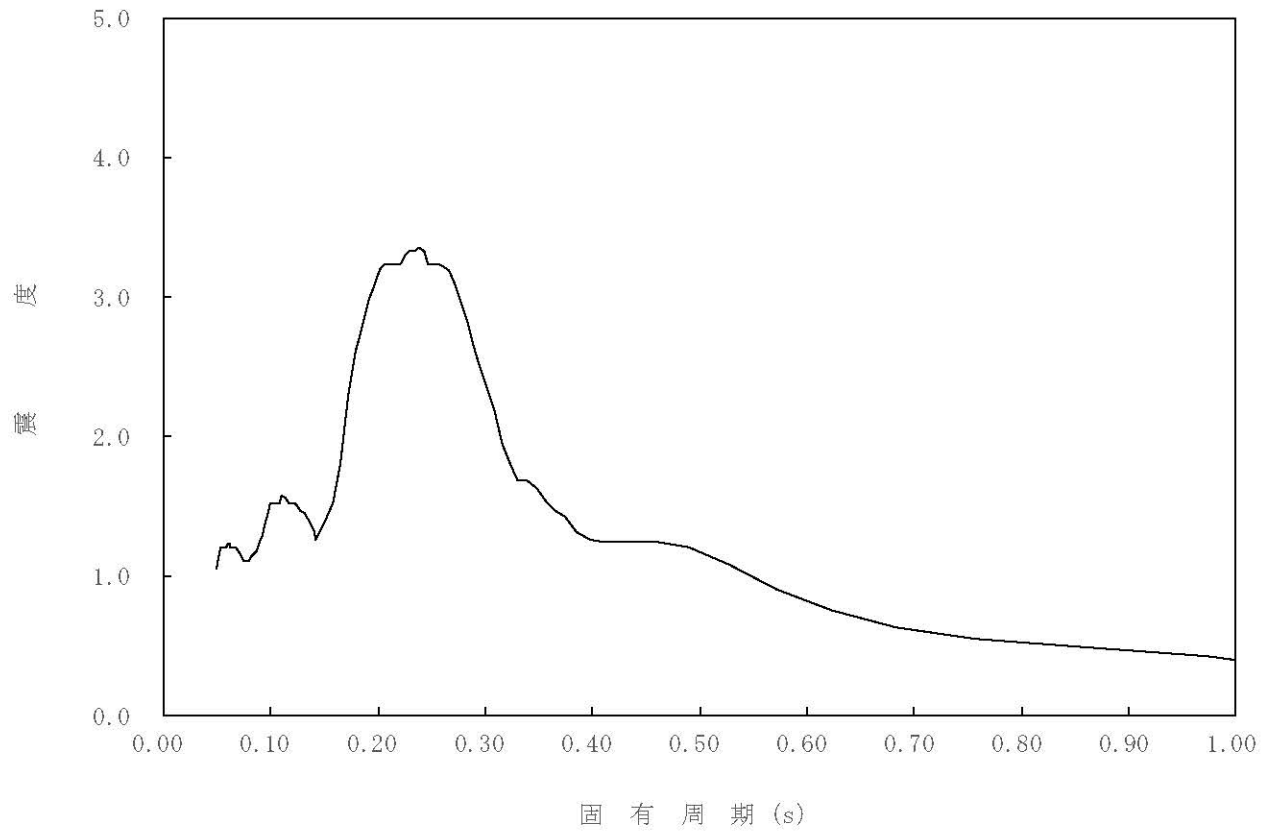
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-70

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV23-005】

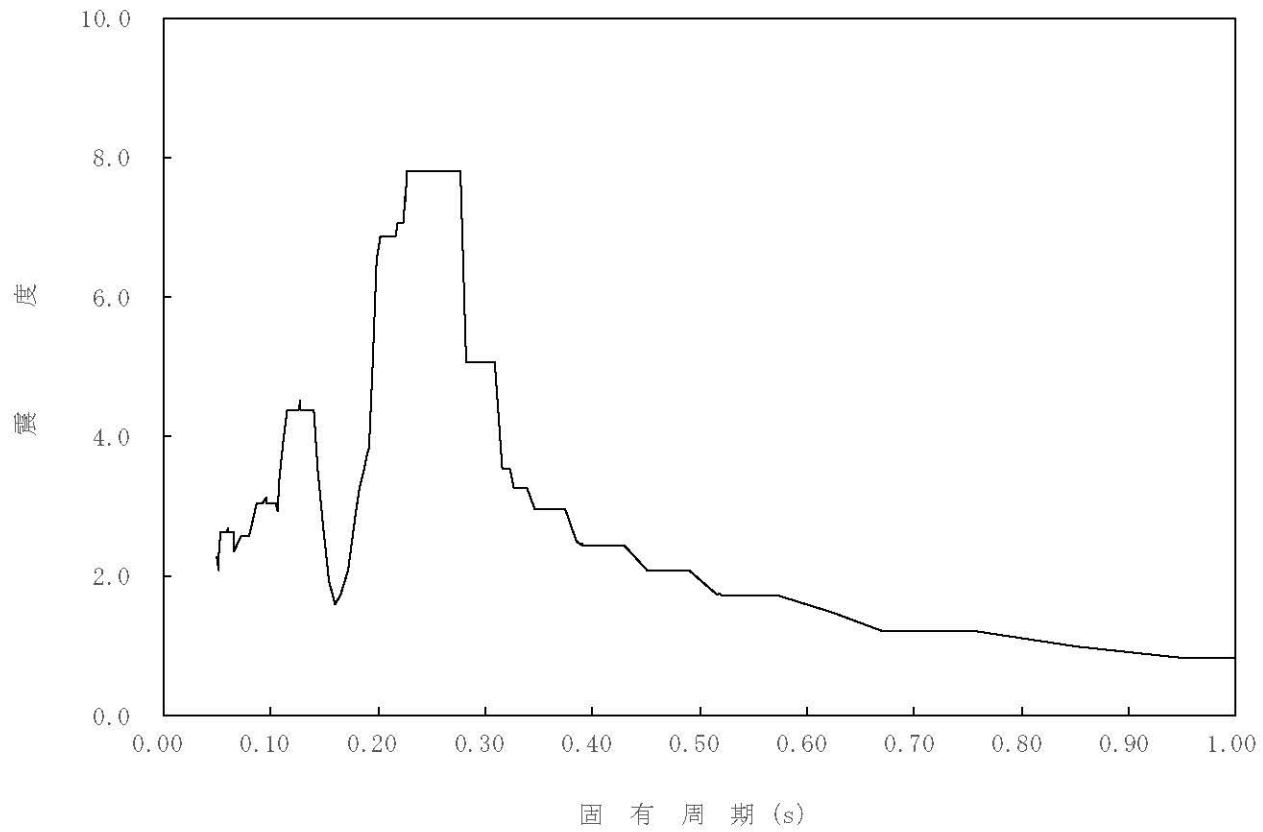
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-71

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV23-010】

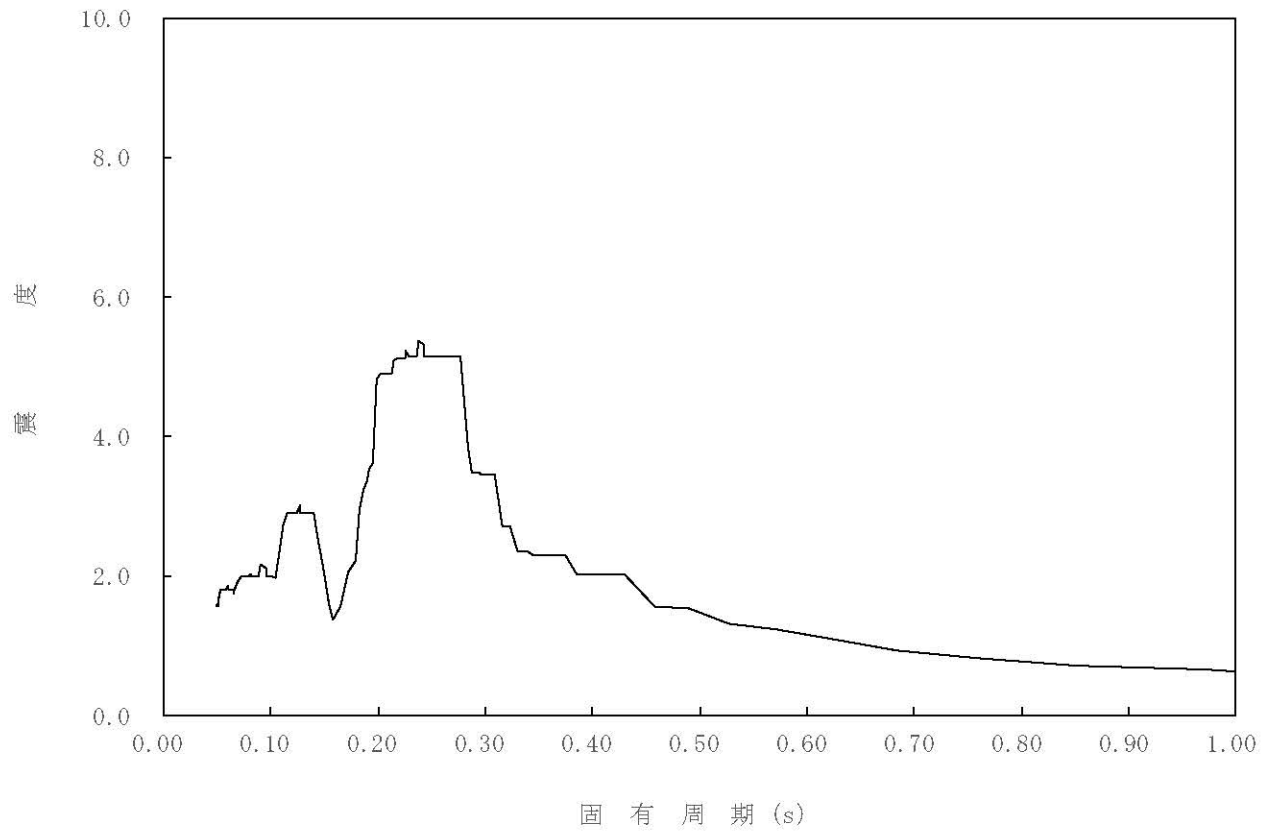
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-72

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV23-015】

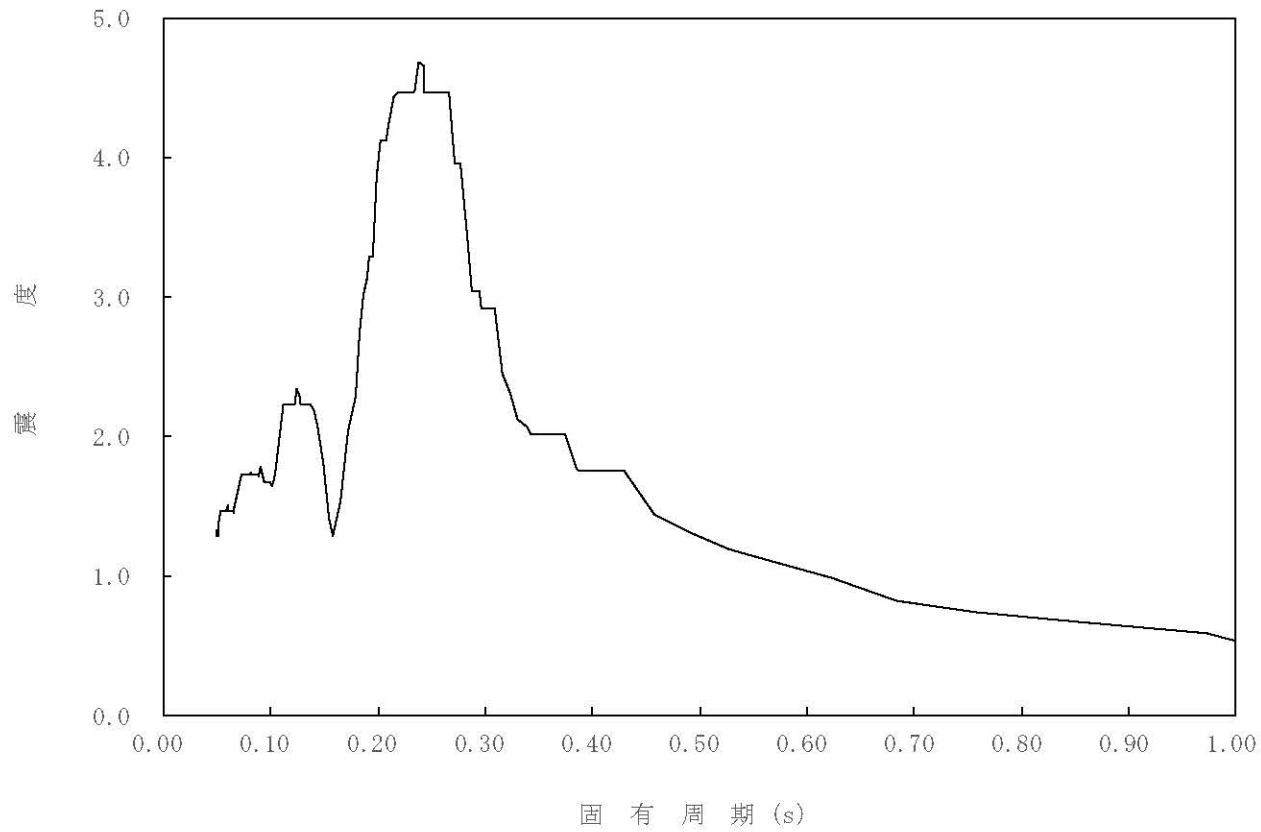
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-73

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV23-020】

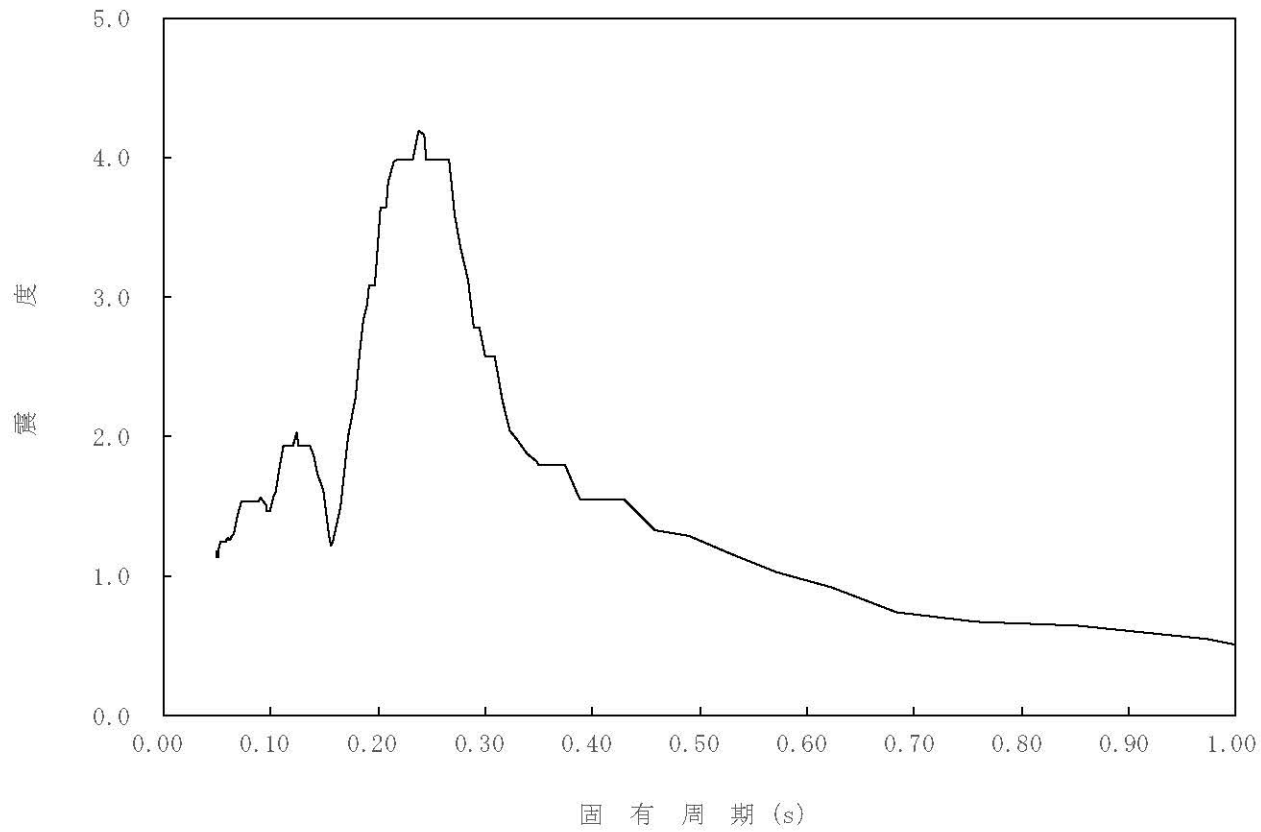
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-74

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV23-025】

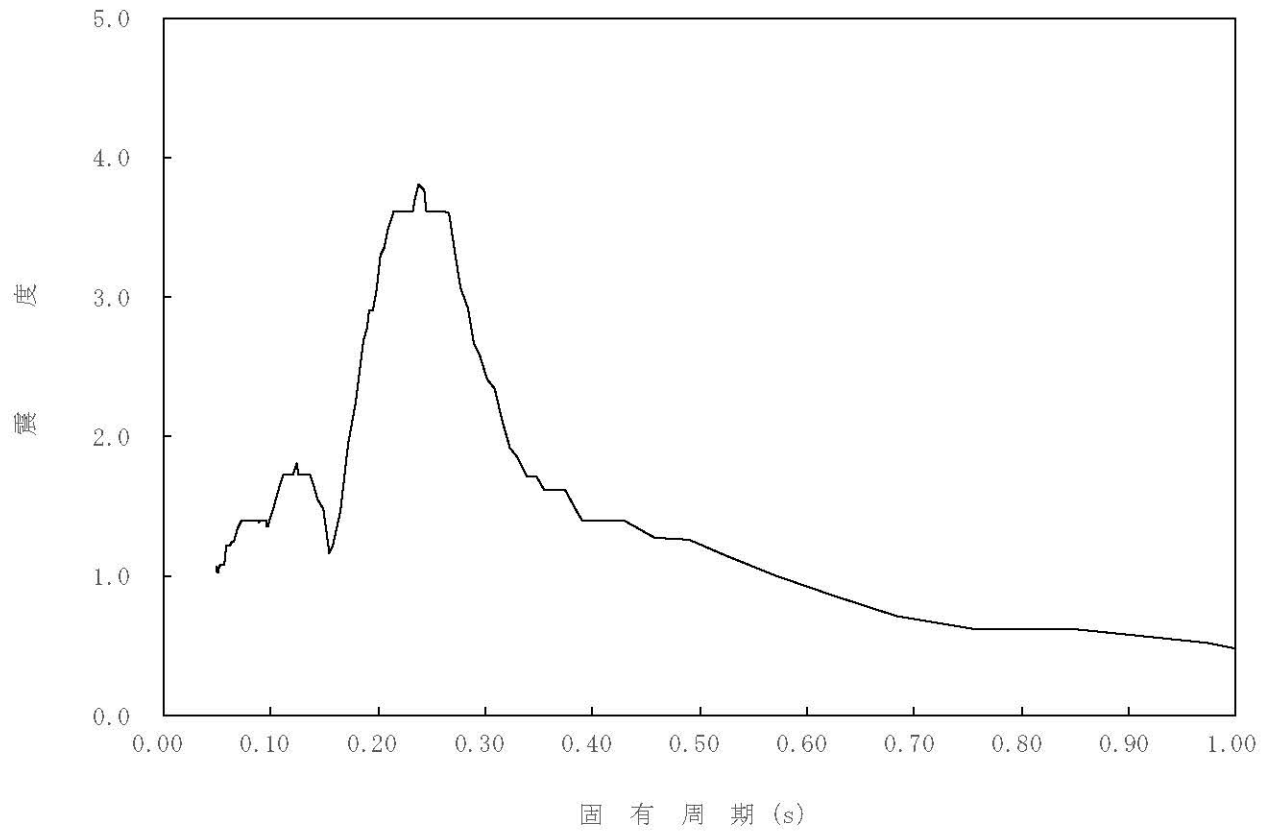
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-75

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV23-030】

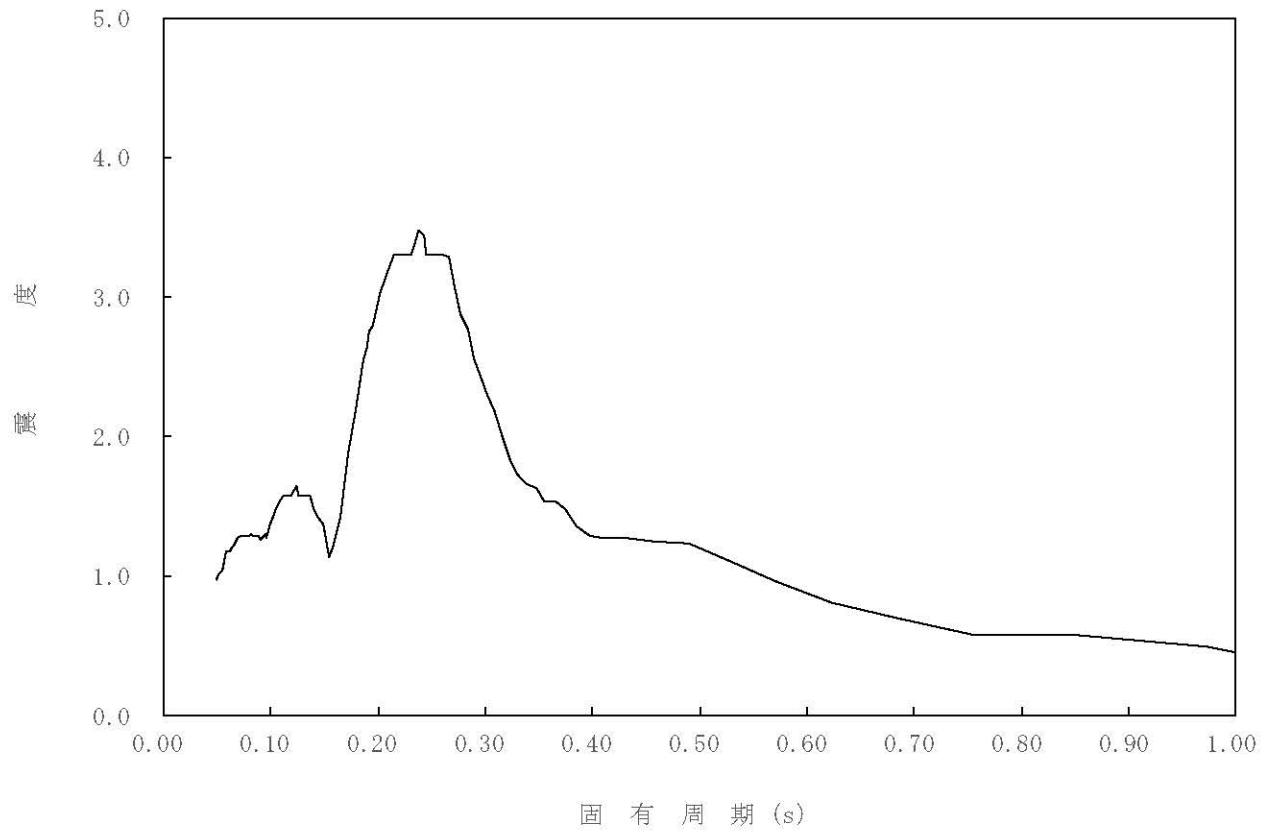
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-76

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV23-040】

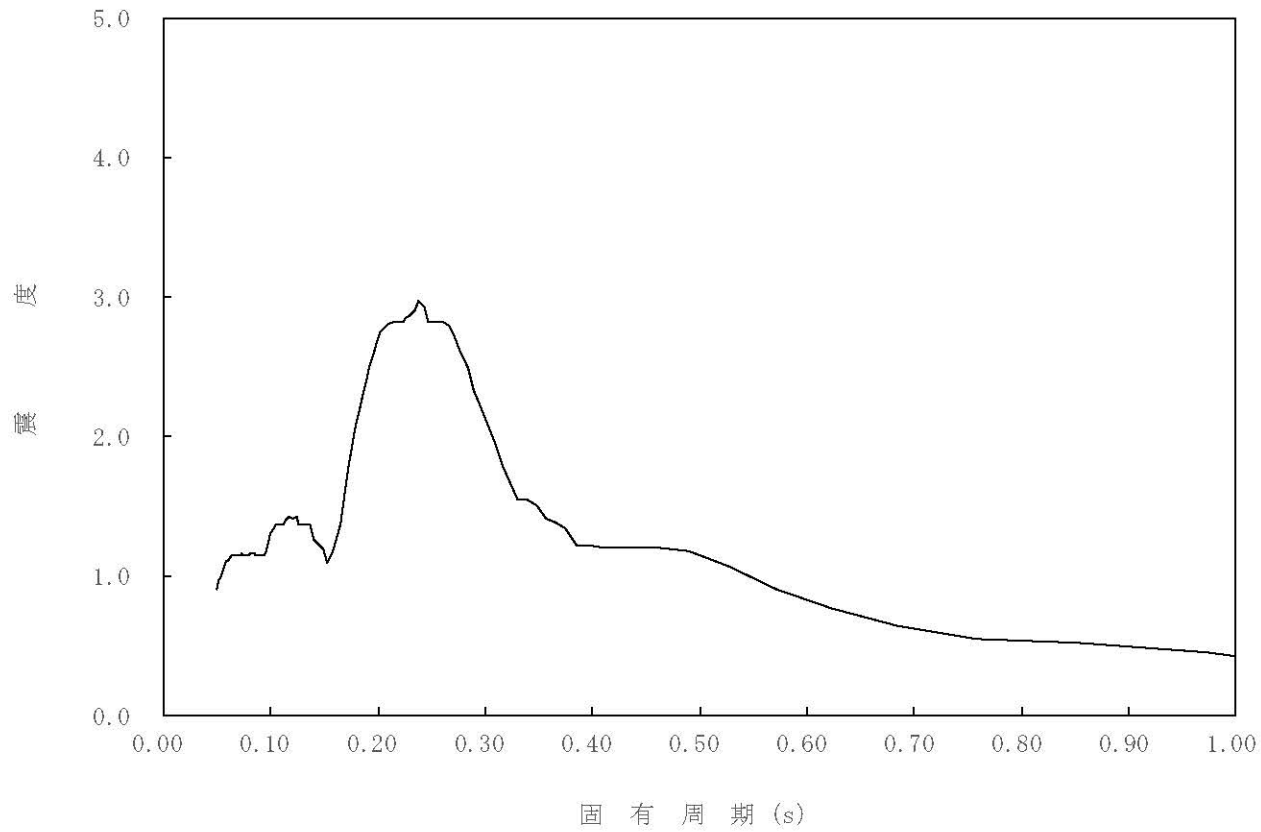
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-77

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV23-050】

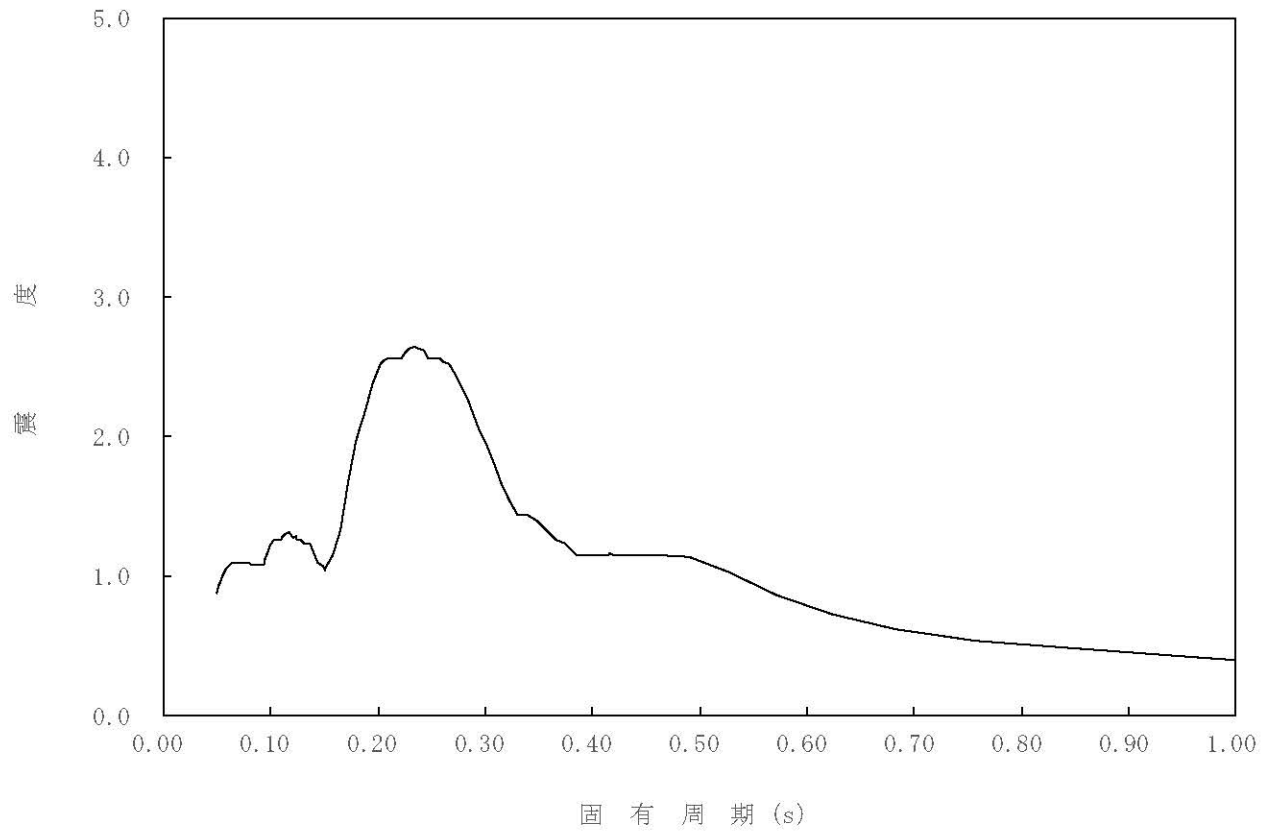
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-78

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV22-005】

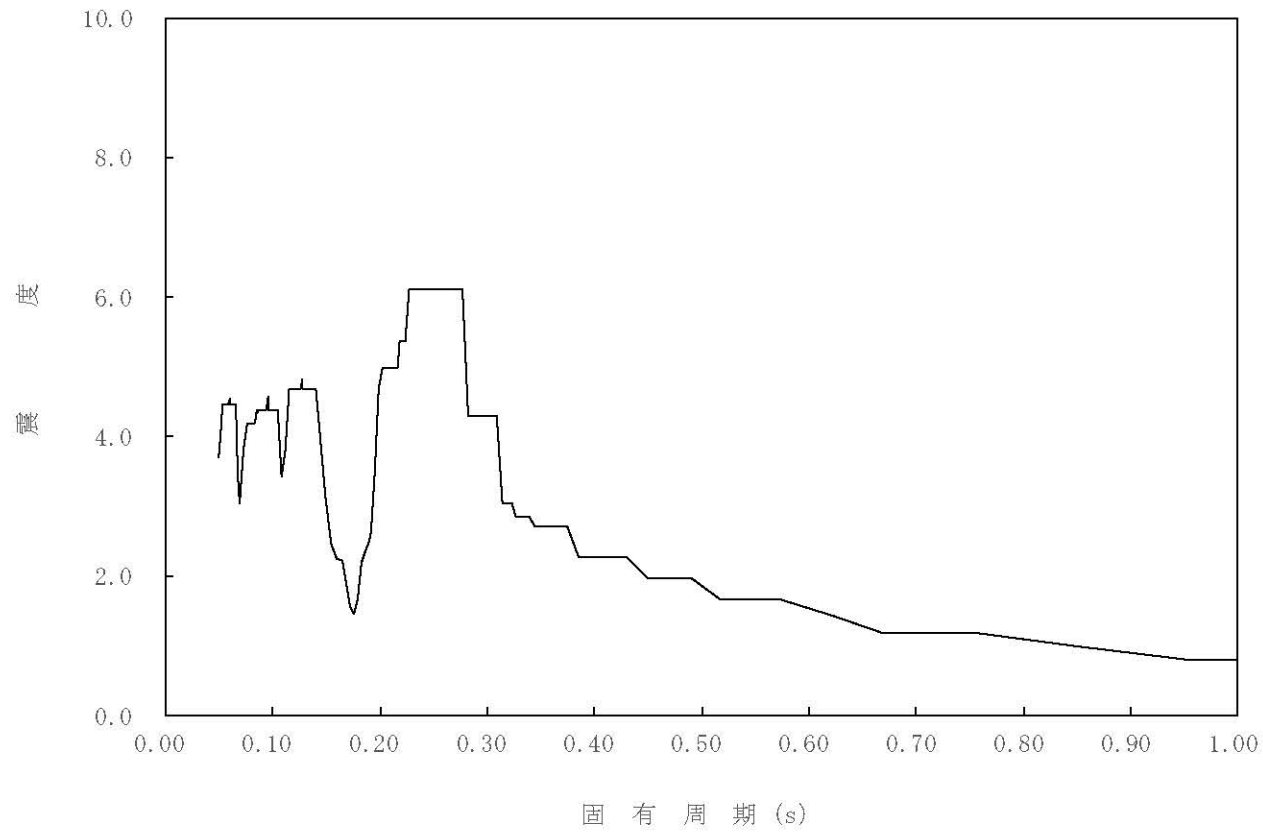
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-79

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV22-010】

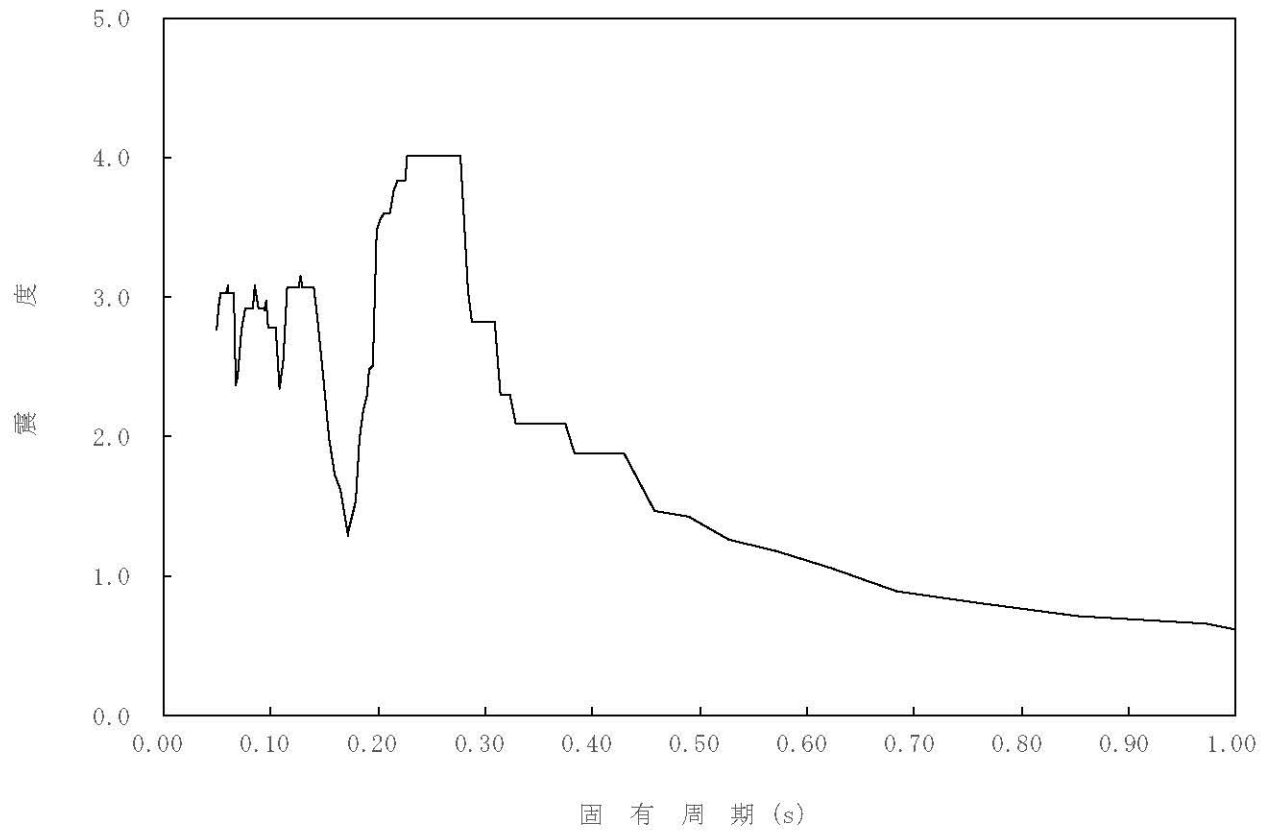
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-80

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV22-015】

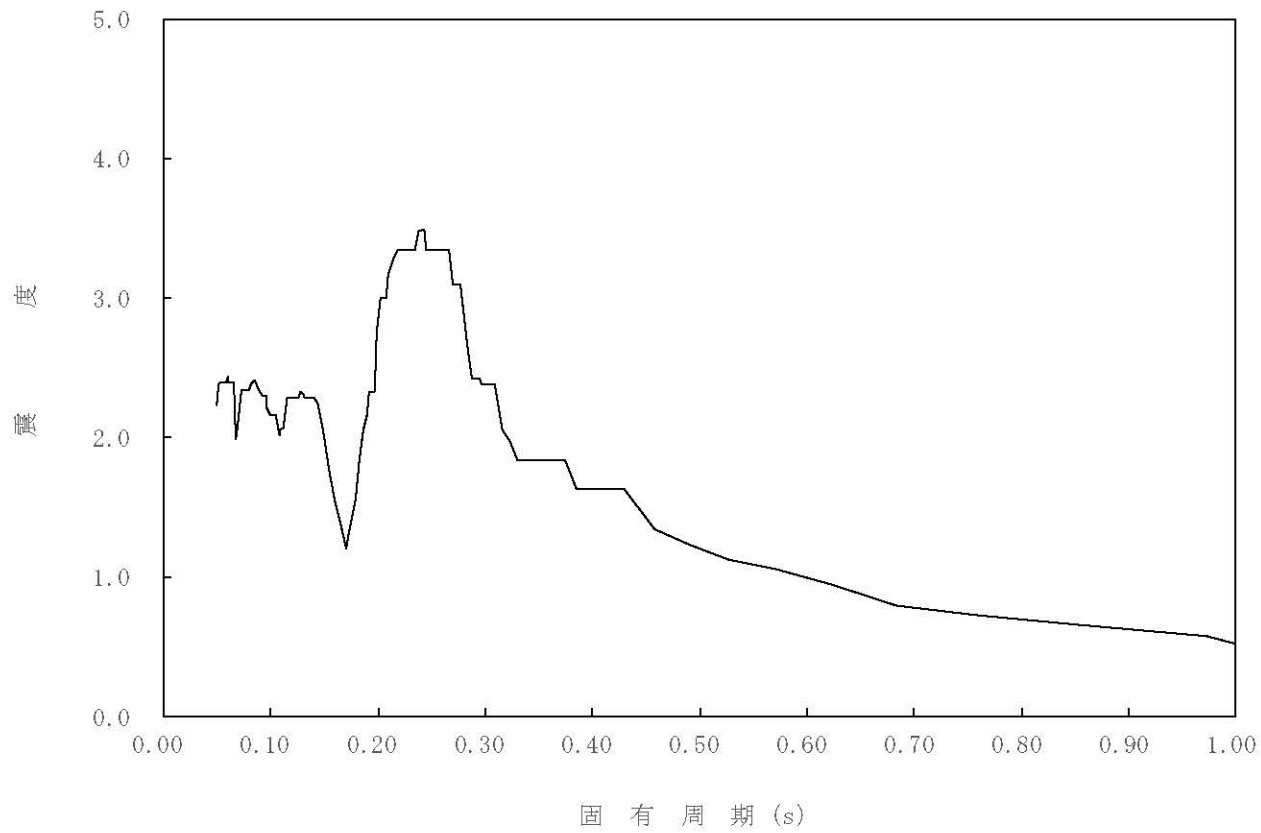
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-81

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV22-020】

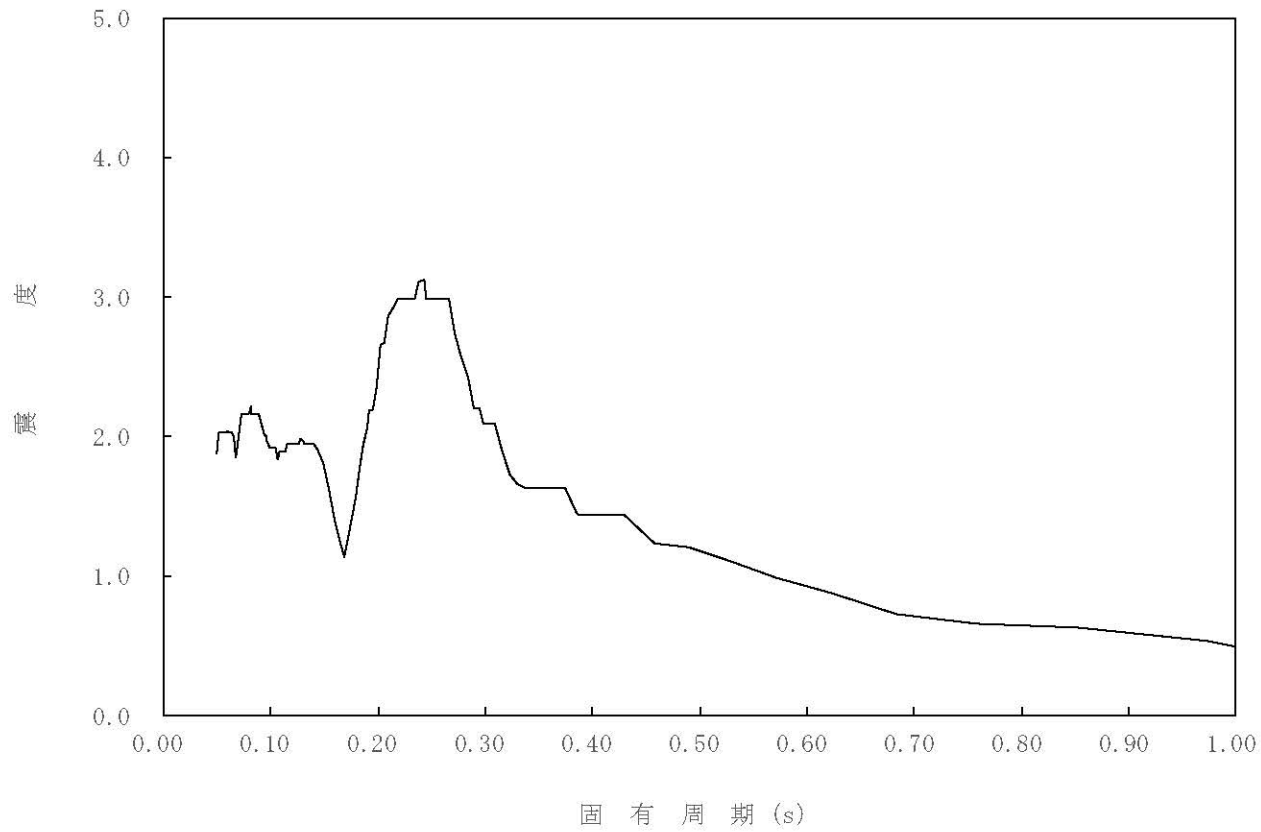
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-82

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV22-025】

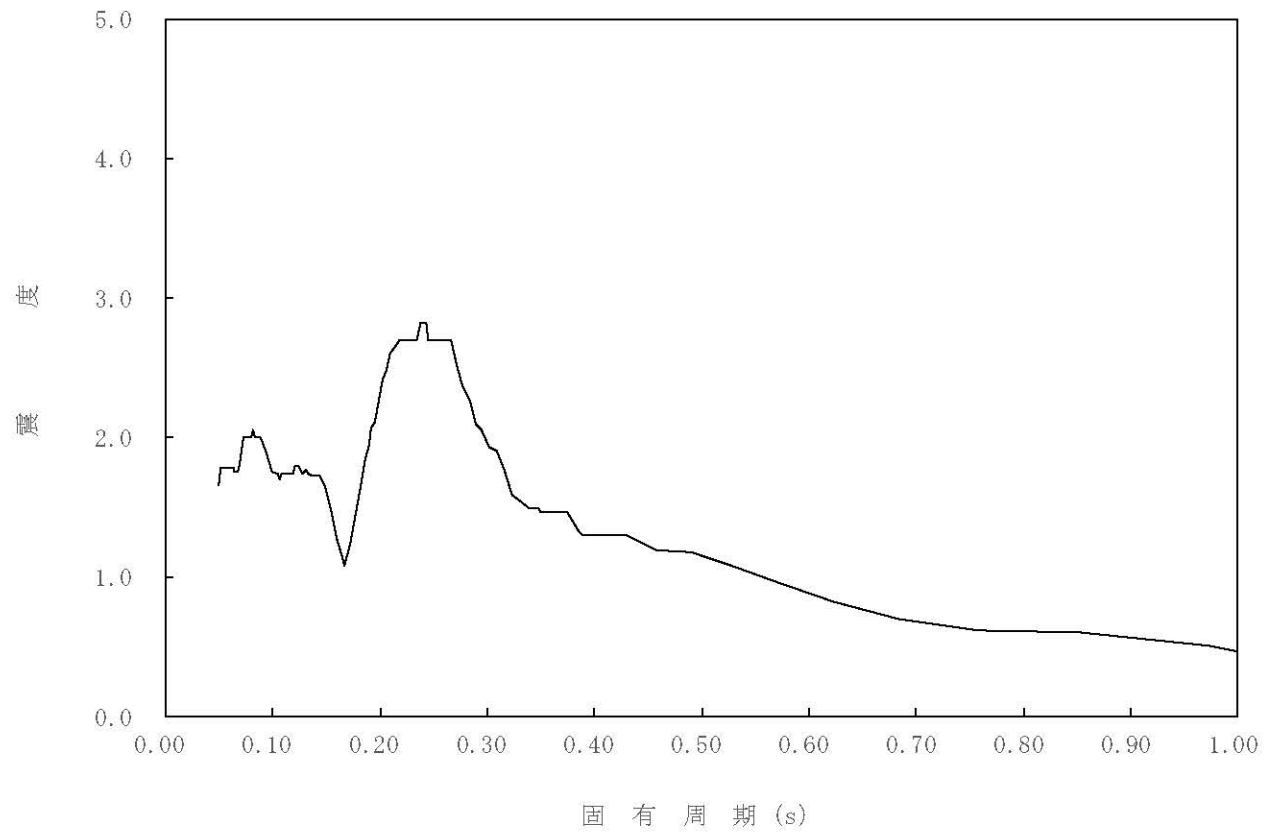
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-83

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV22-030】

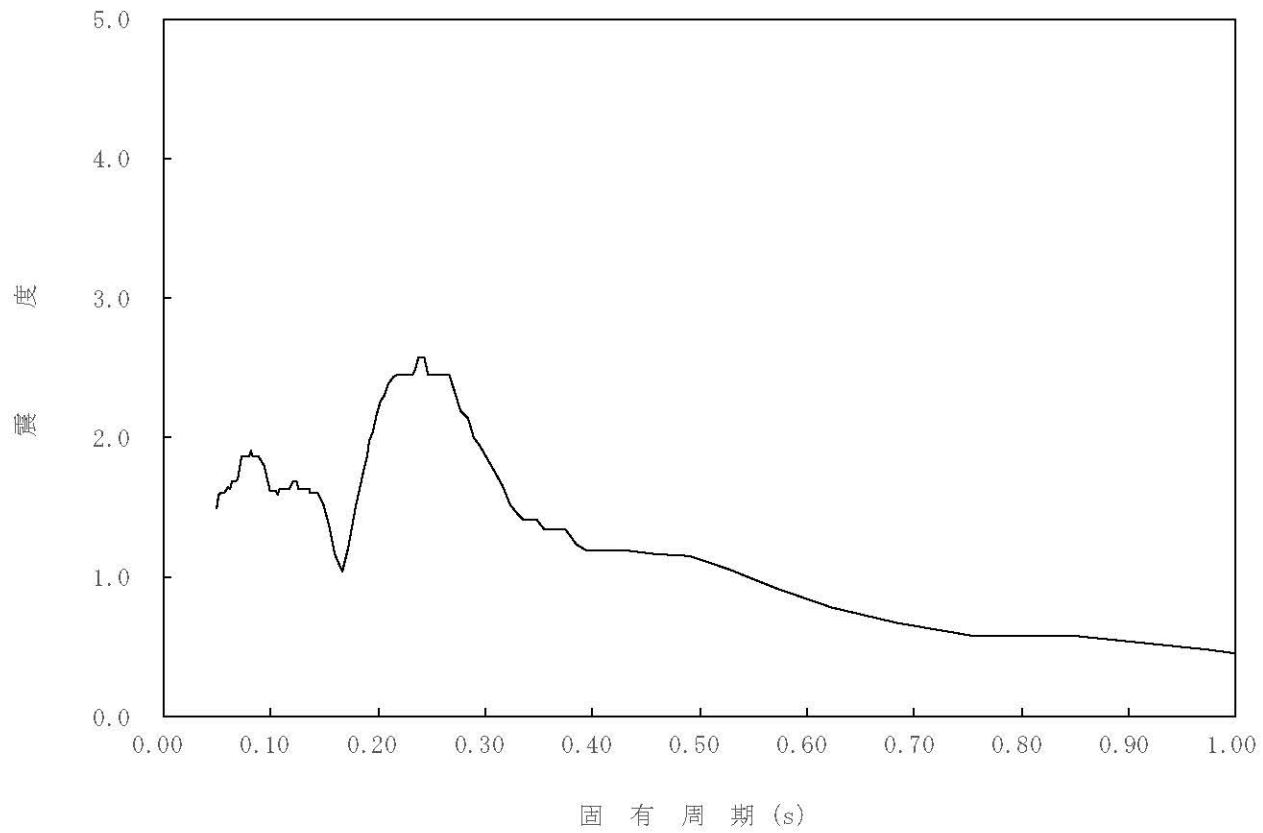
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-84

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV22-040】

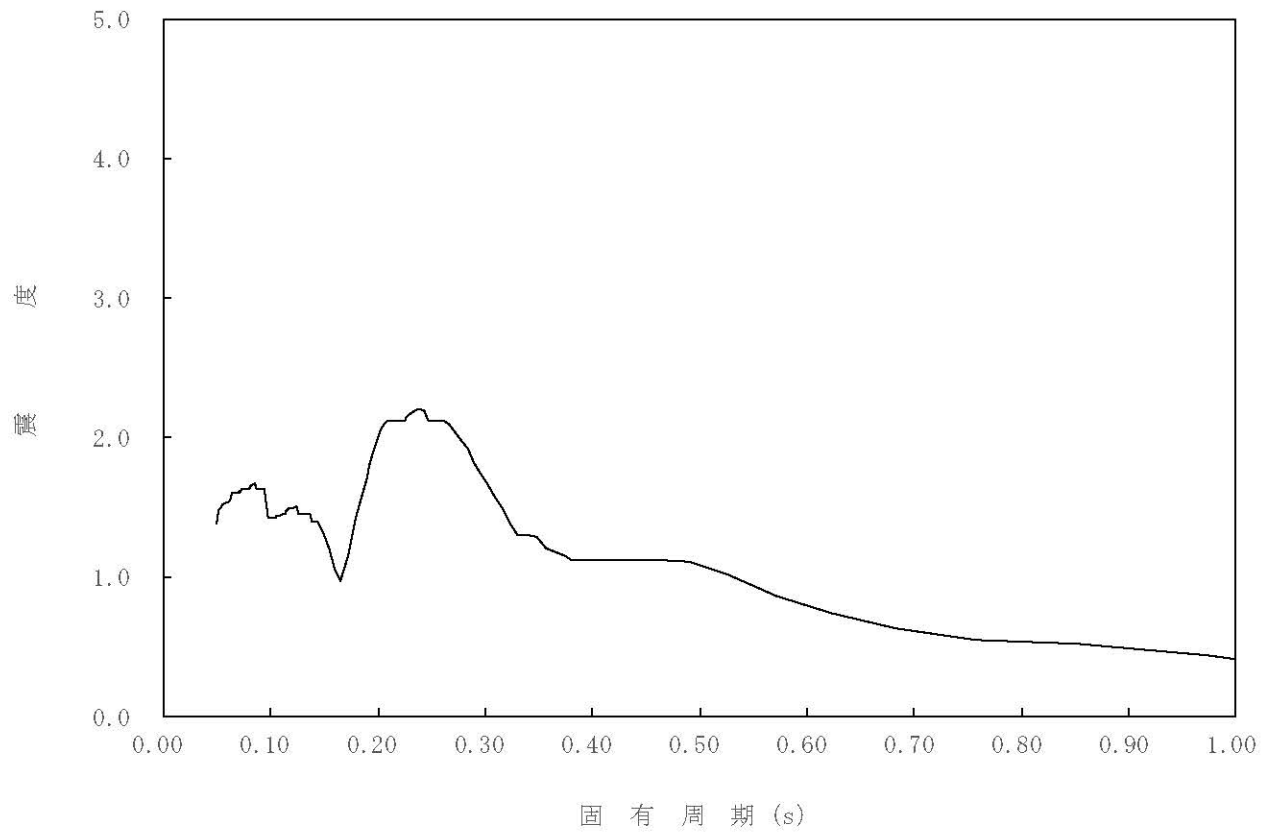
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-85

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV22-050】

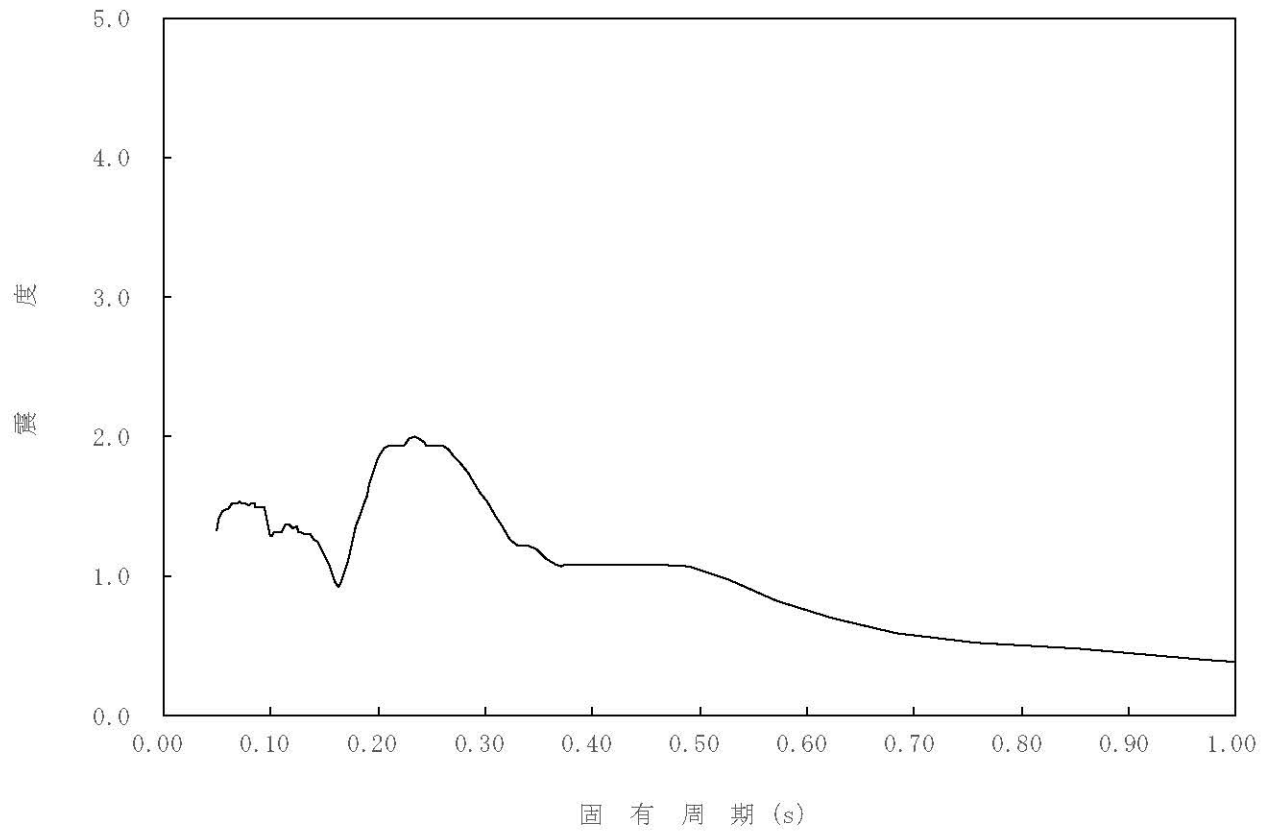
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-86

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV21-005】

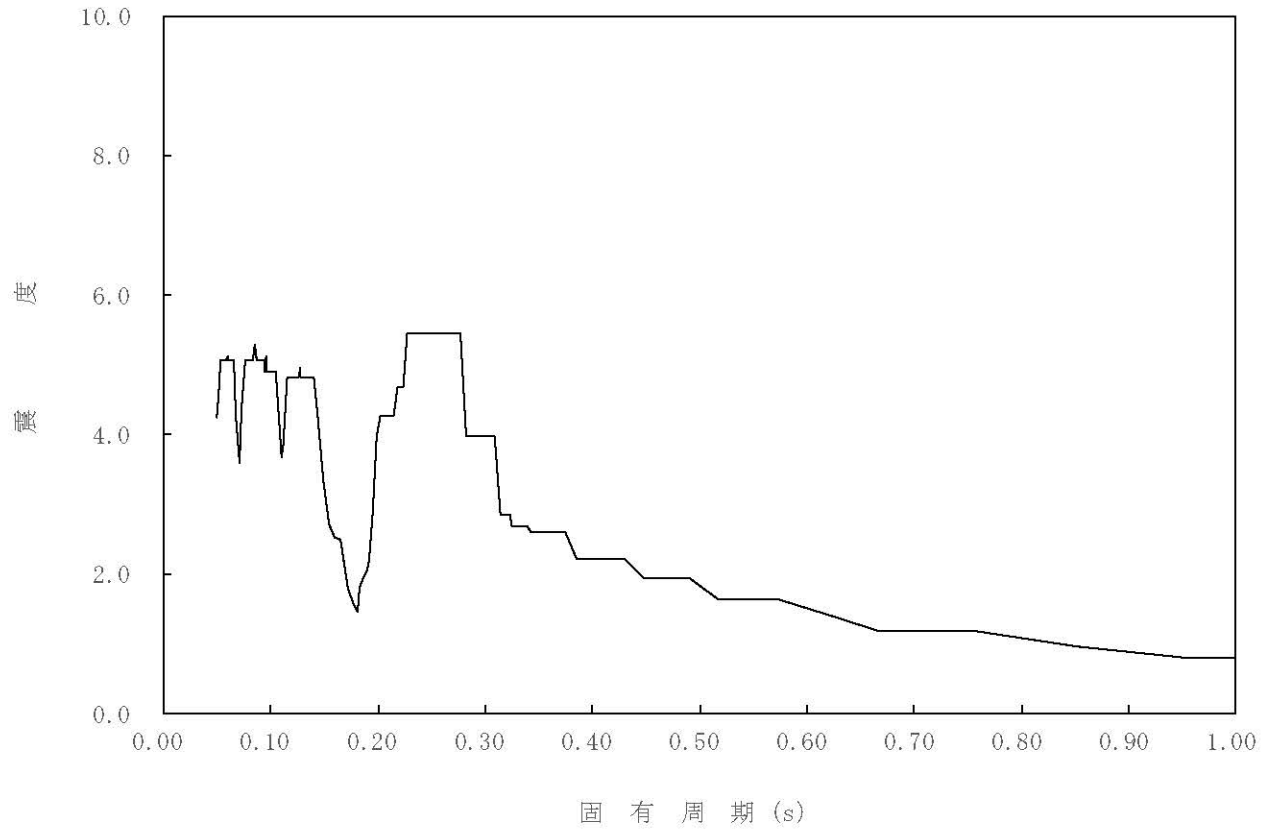
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-87

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PCV21-010】

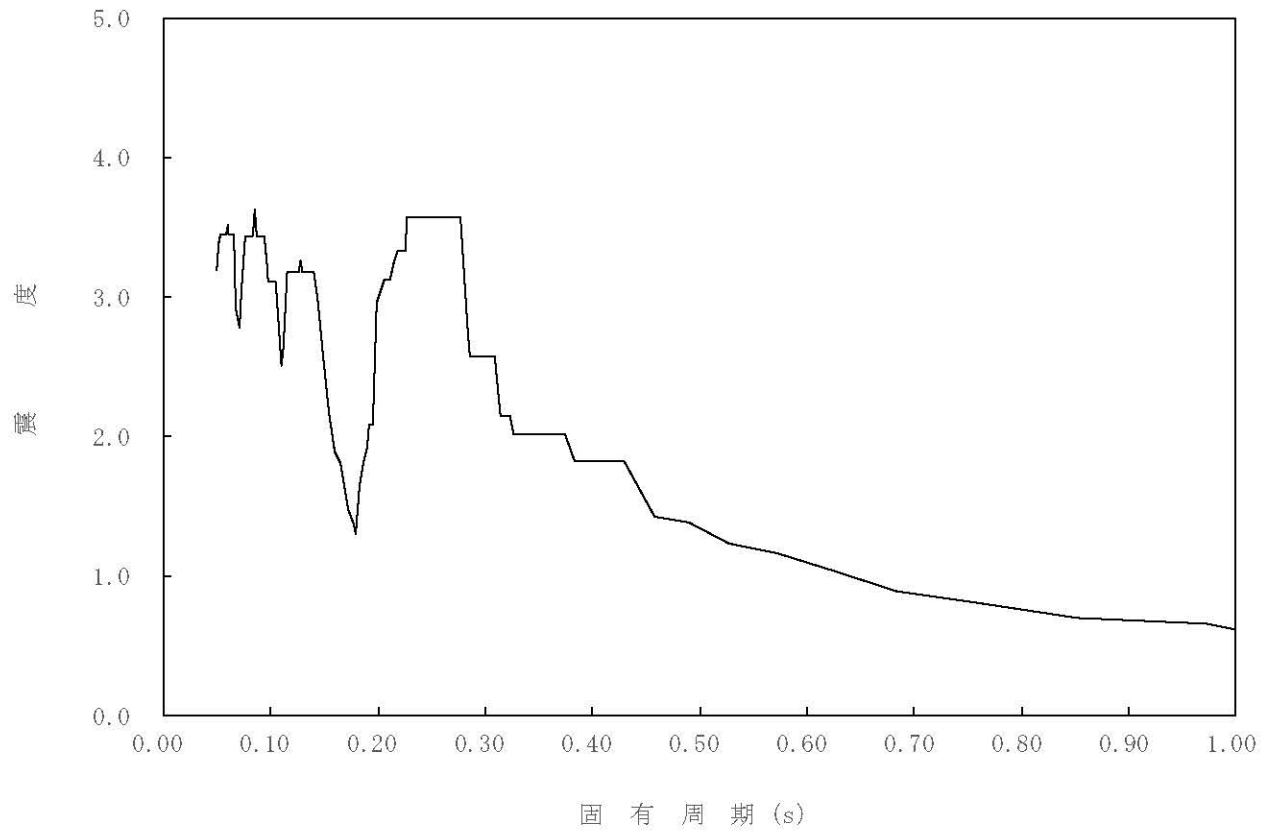
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-88

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV21-015】

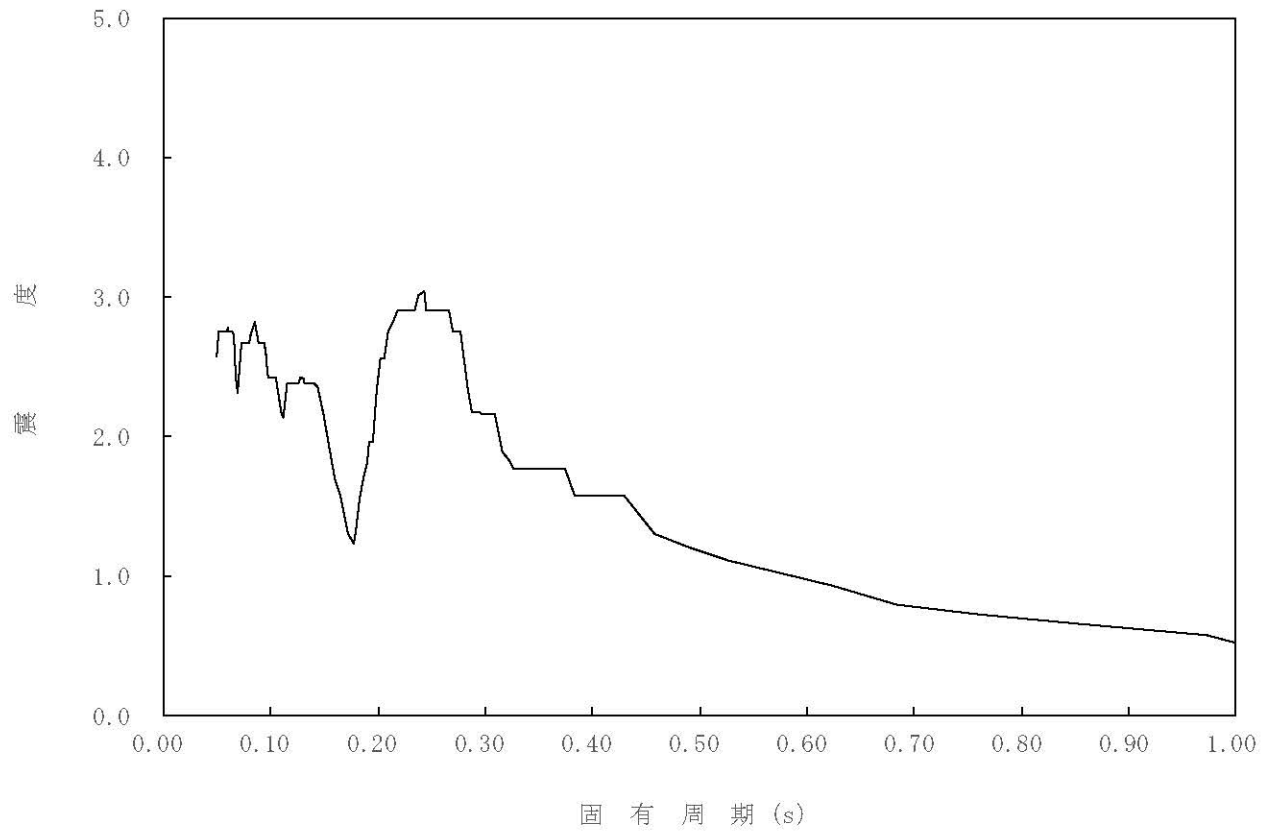
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-89

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV21-020】

構造物名：原子炉格納容器

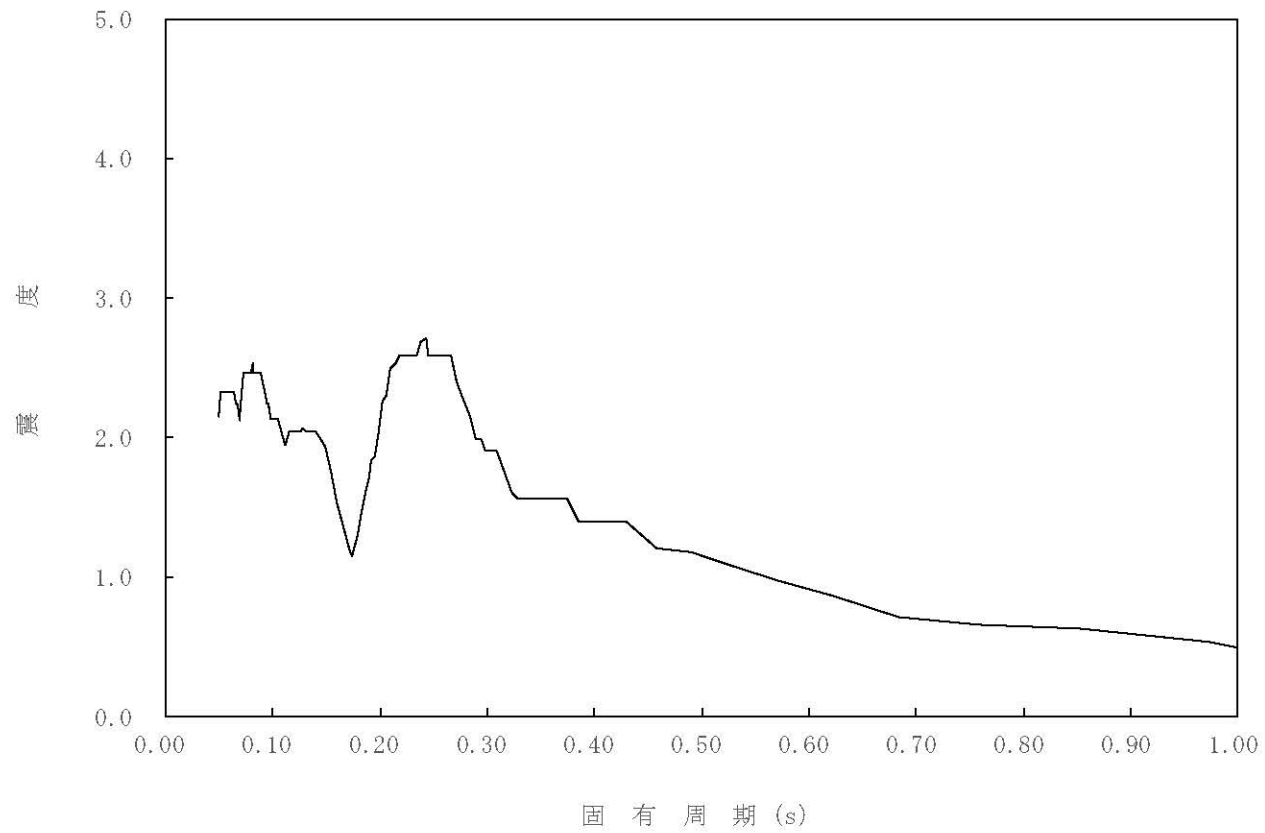
標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d

2-10-90



枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV21-025】

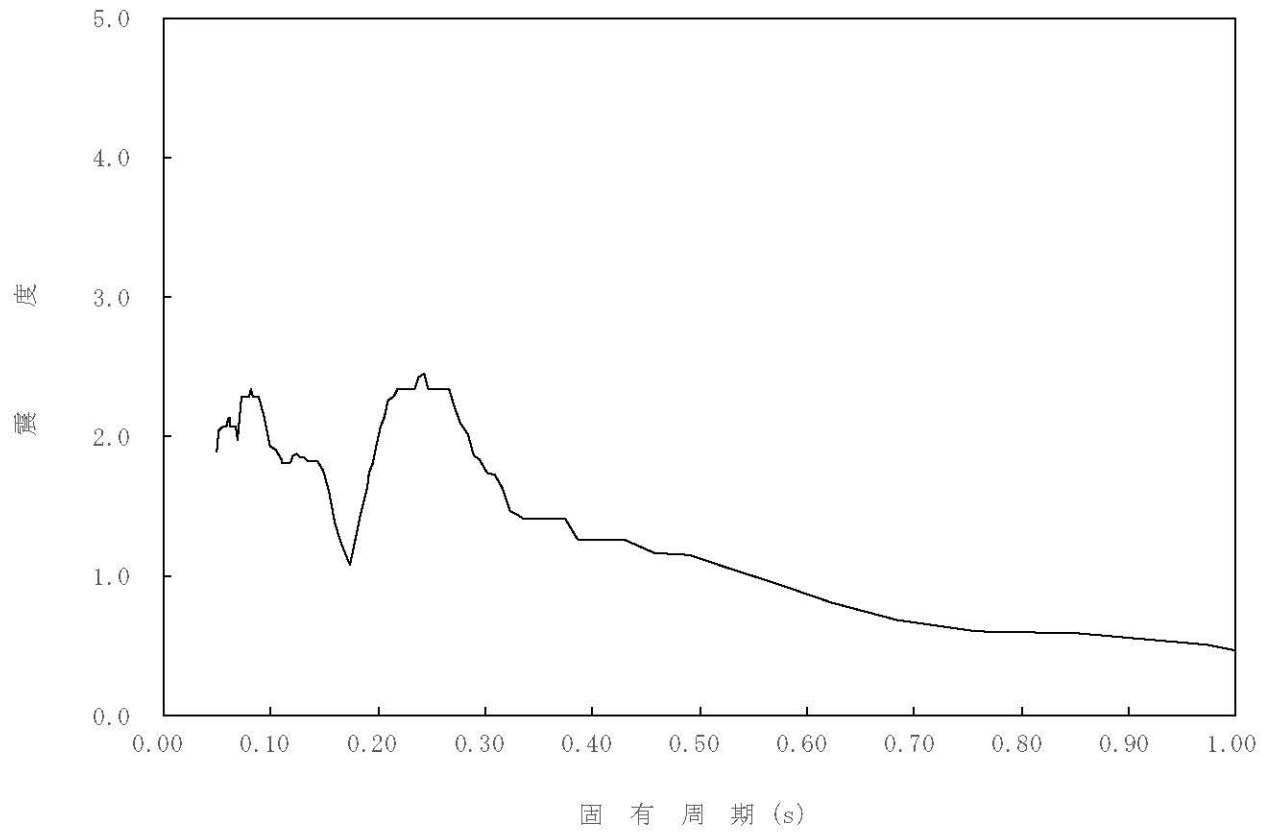
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-91

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV21-030】

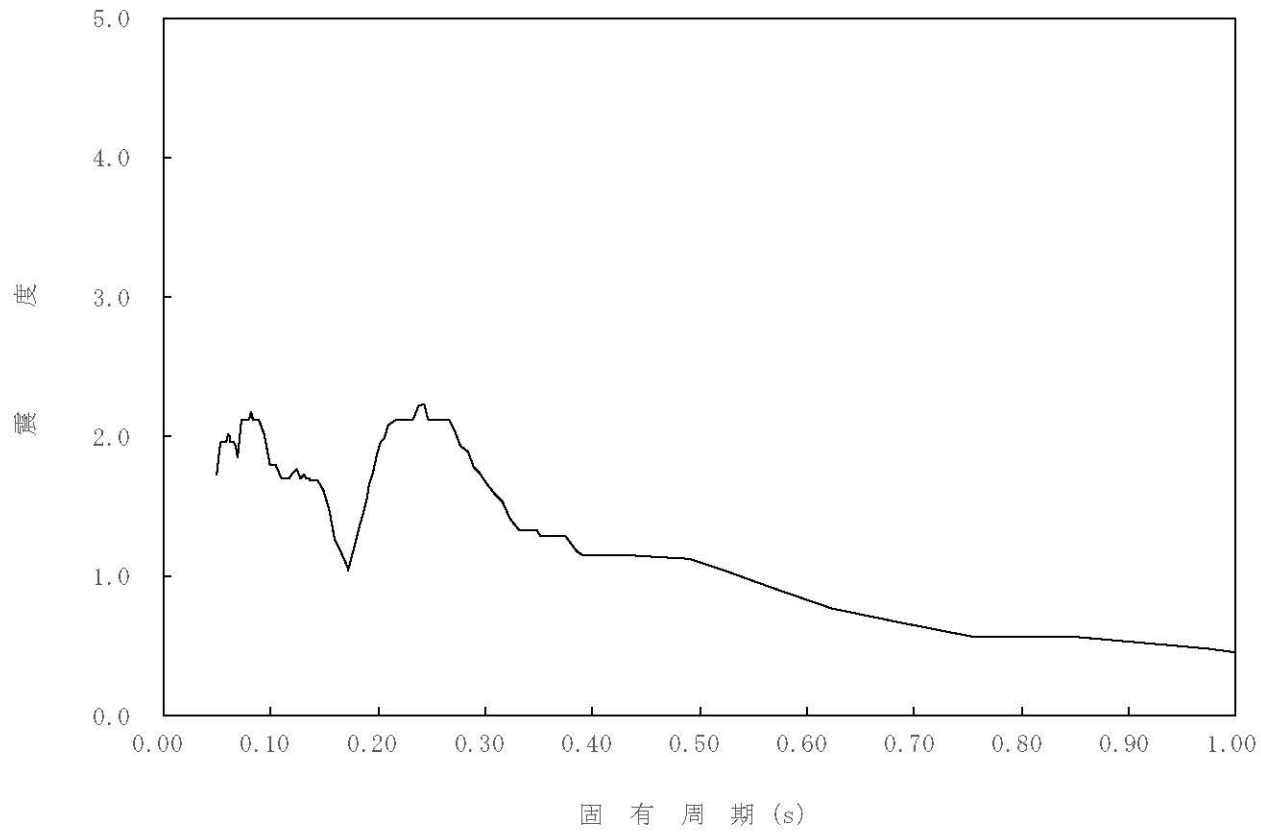
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-92

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV21-040】

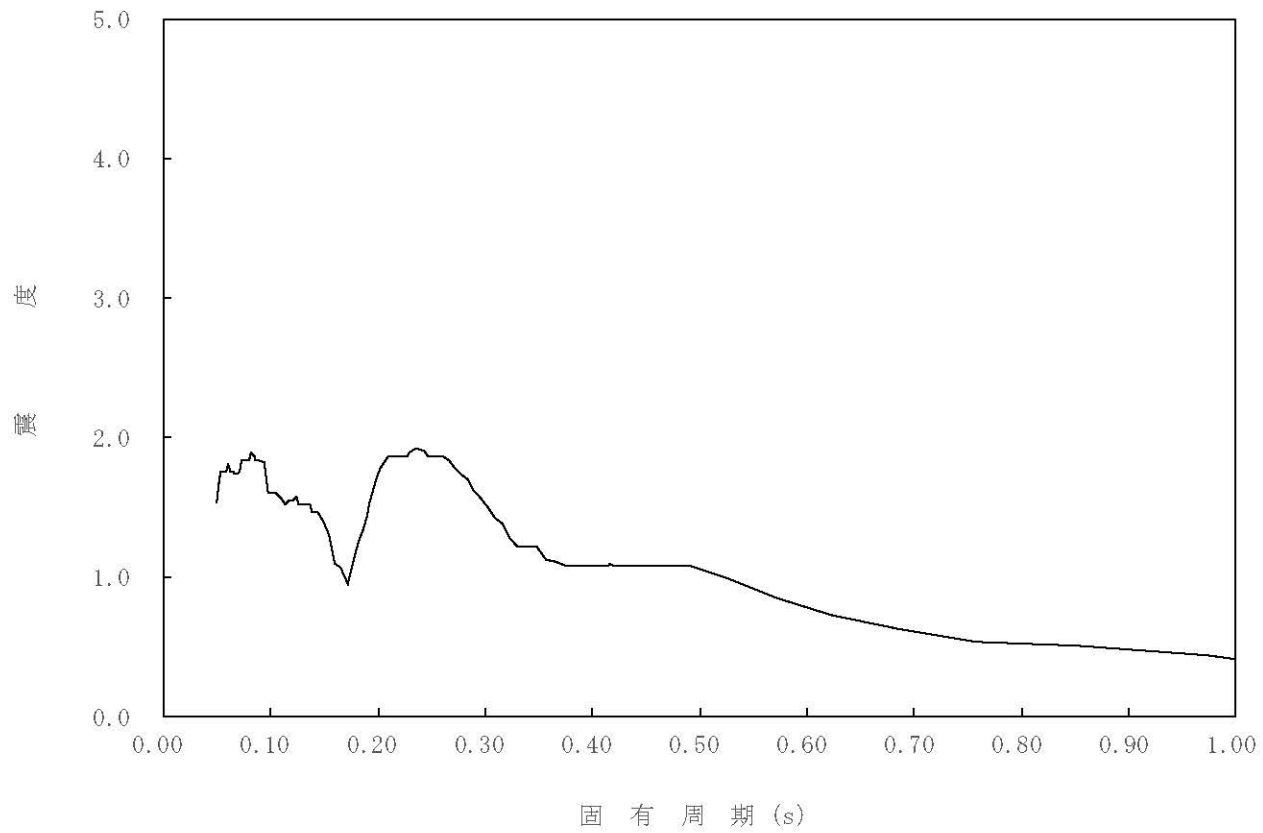
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-93

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PCV21-050】

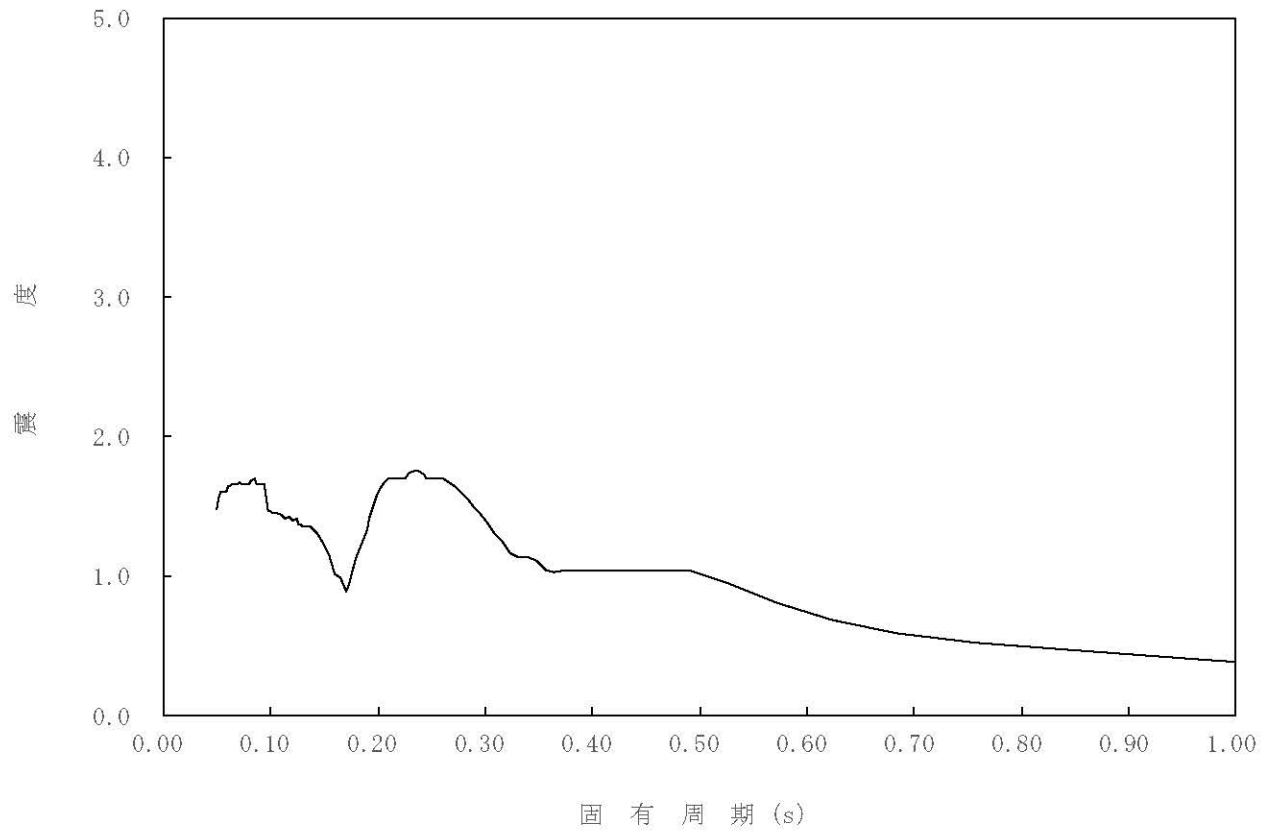
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-94

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW20-005】

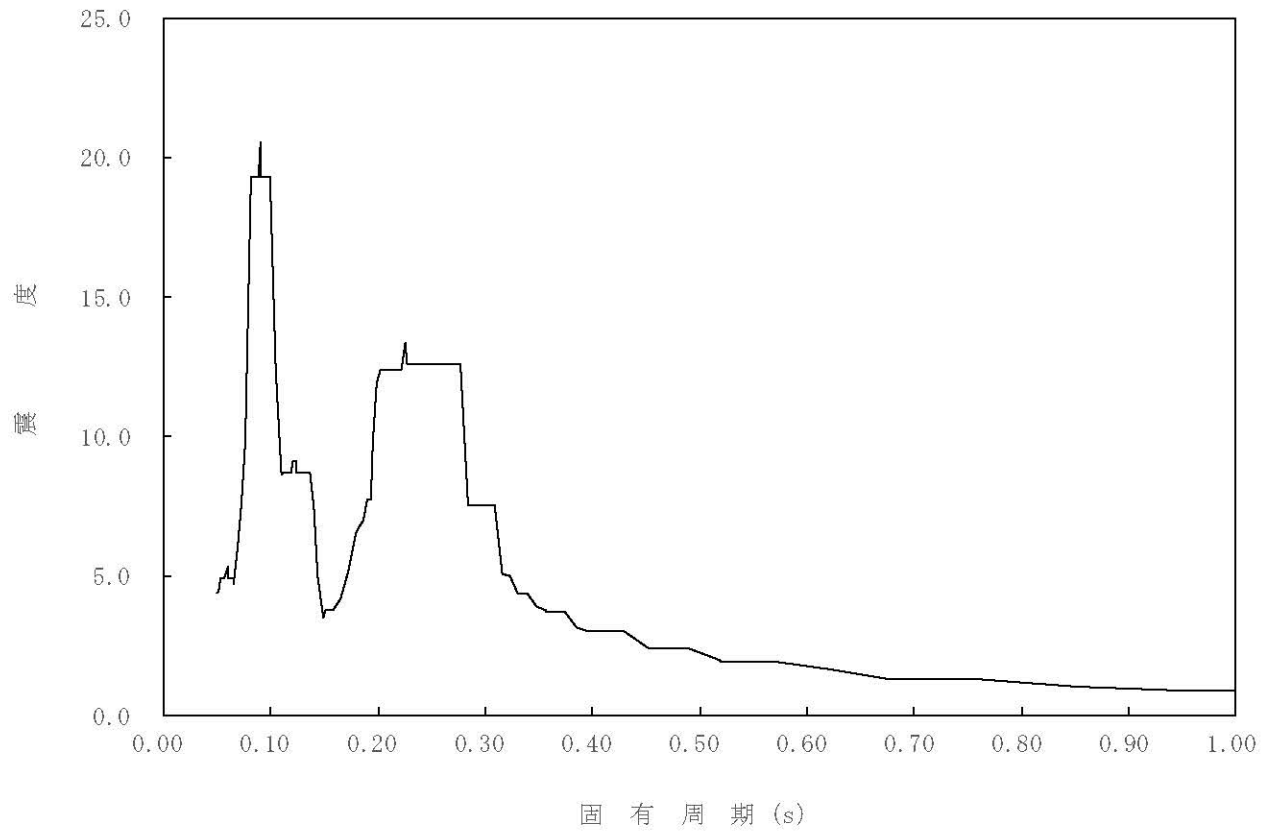
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-95

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RSW20-010】

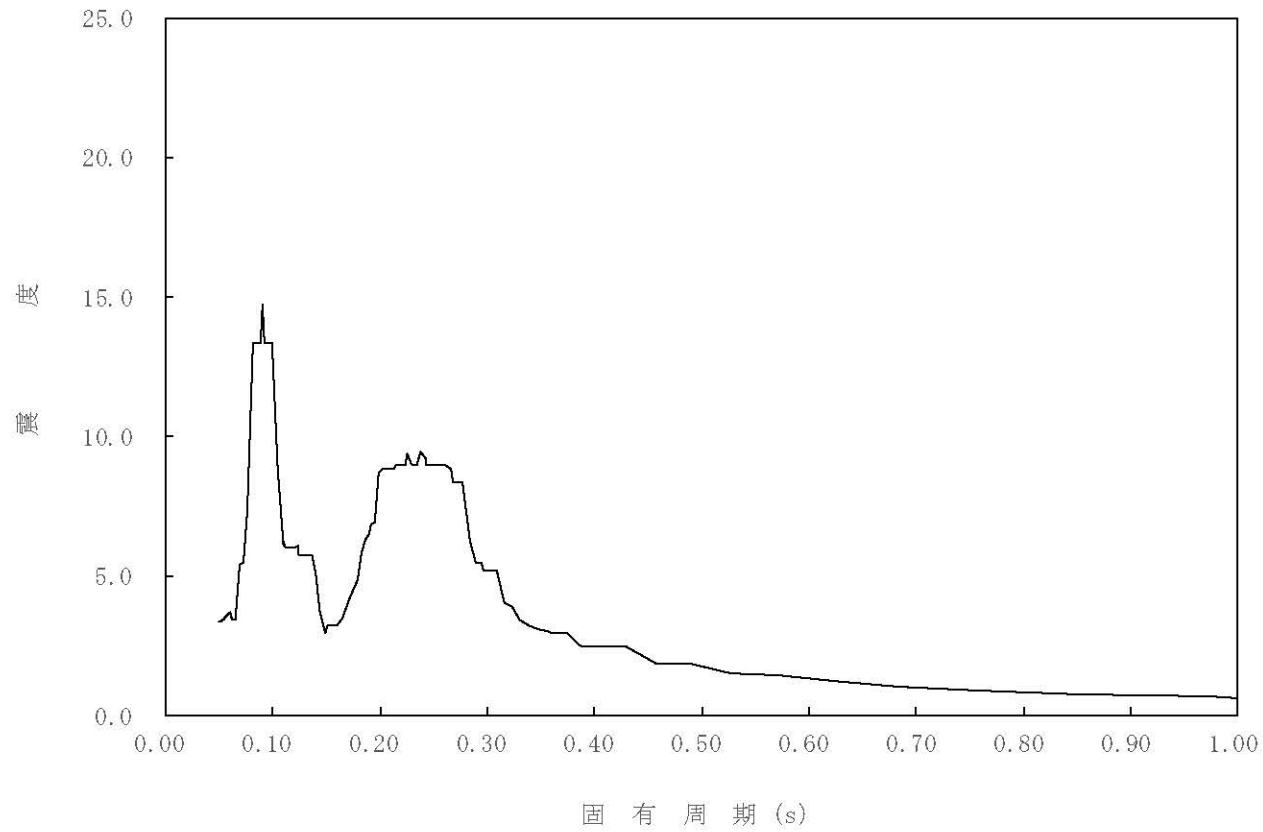
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-96

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW20-015】

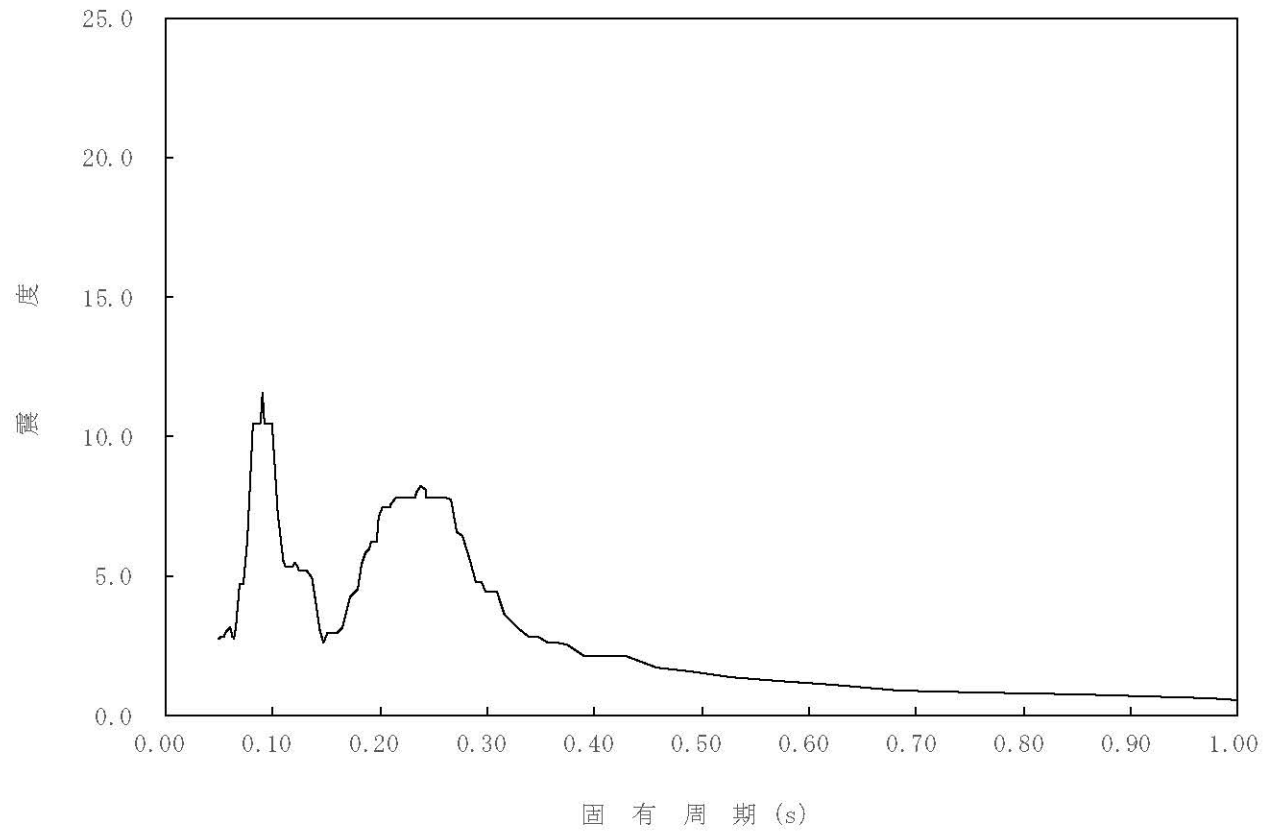
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-97

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW20-020】

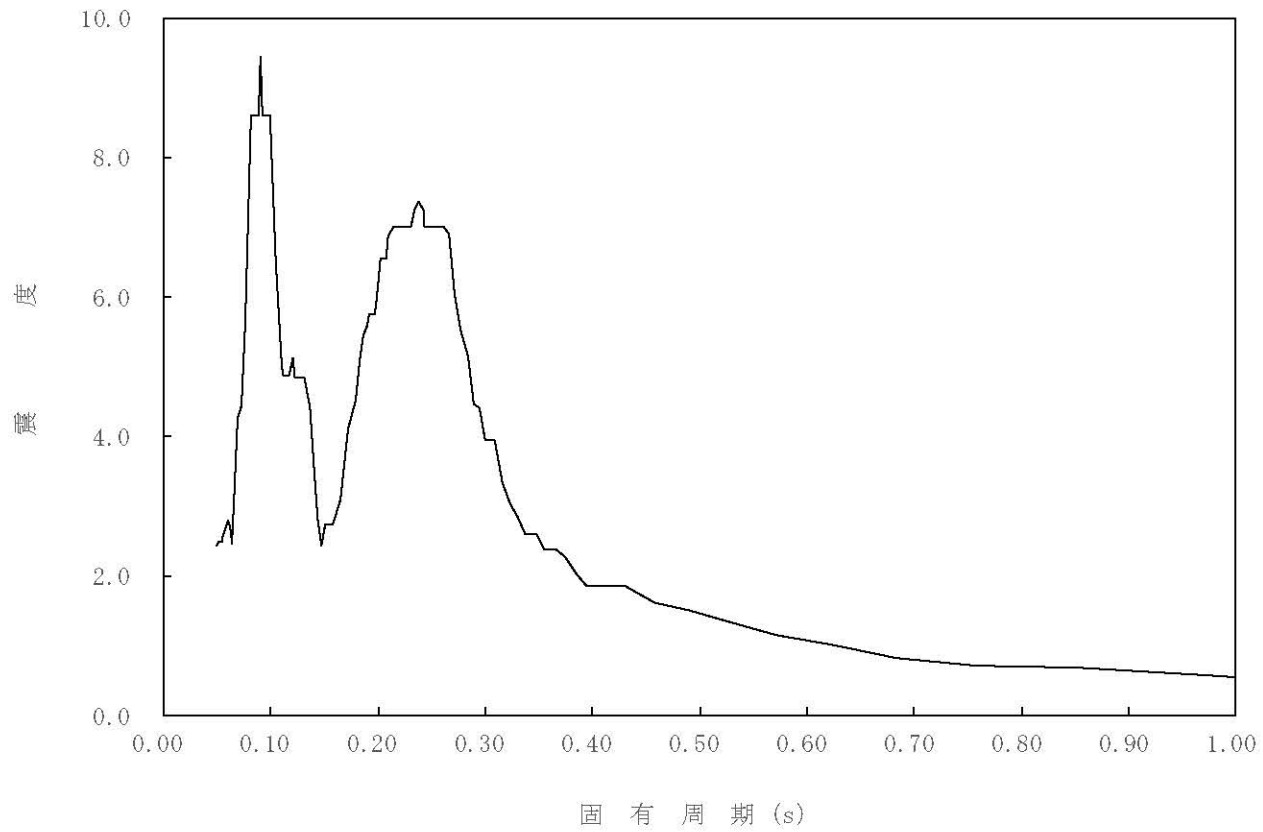
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-98

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW20-025】

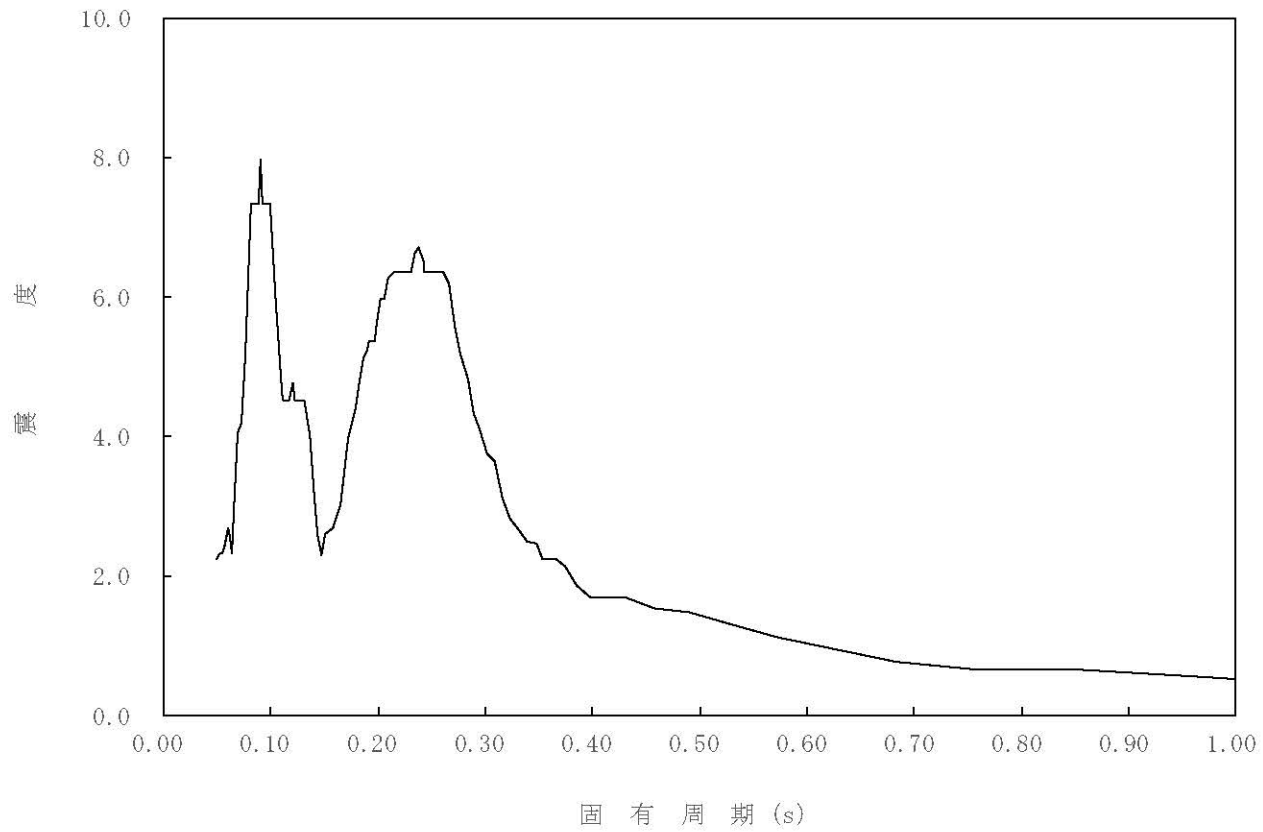
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-99

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW20-030】

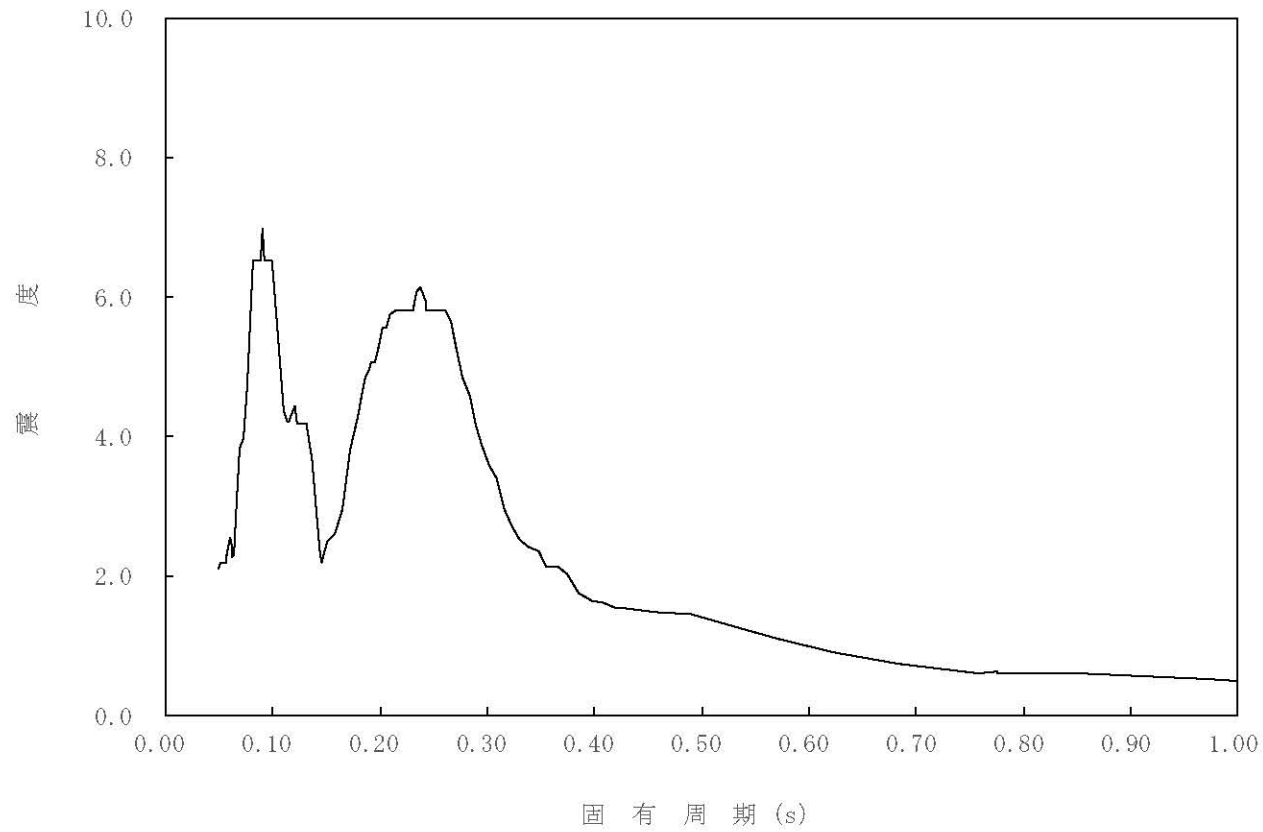
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-100

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW20-040】

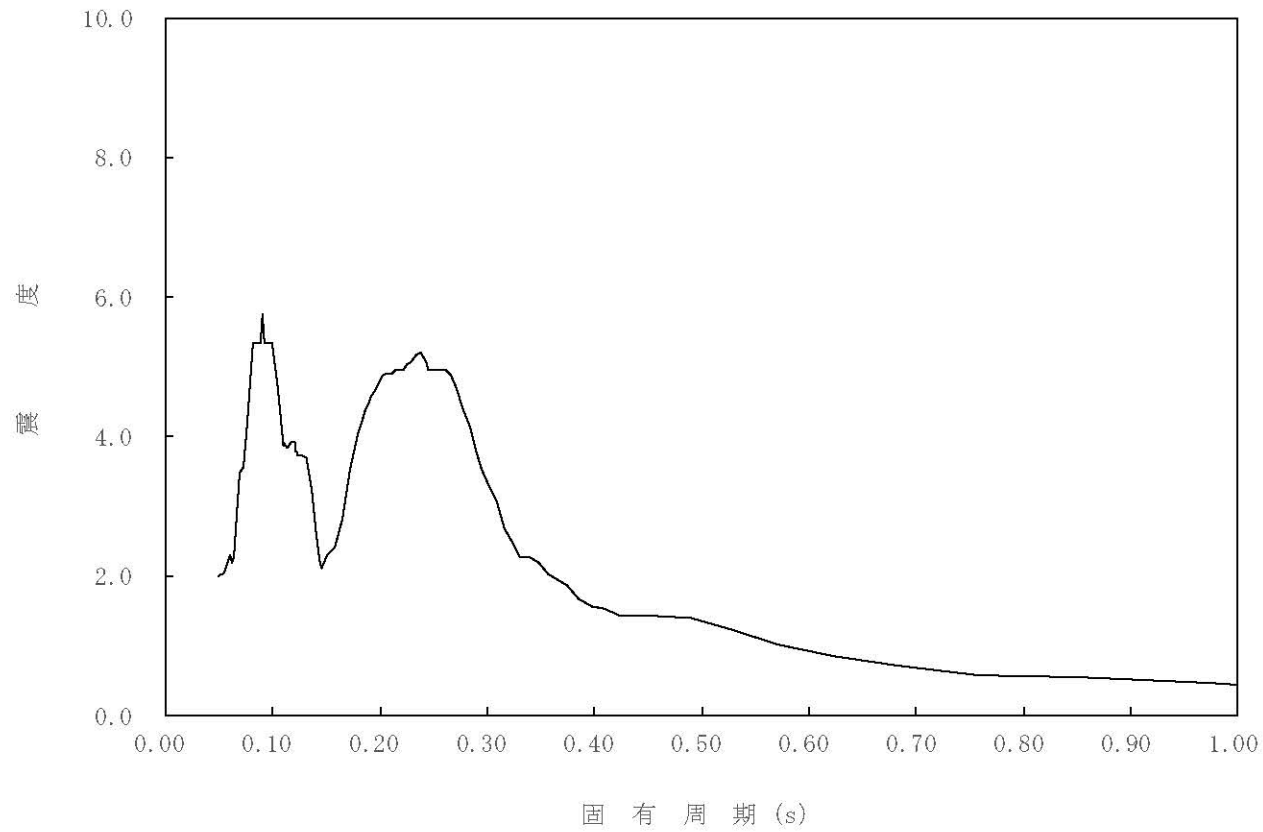
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-101

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW20-050】

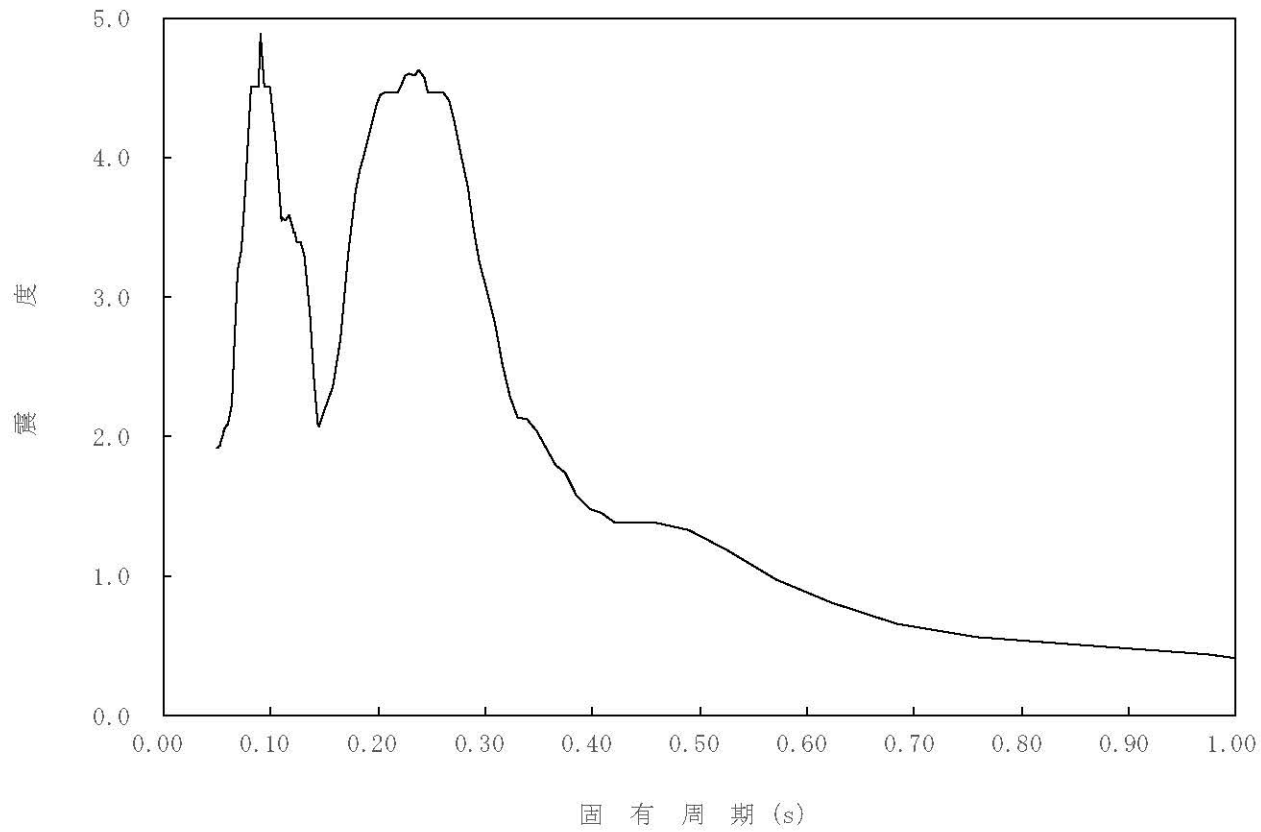
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-102

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW19-005】

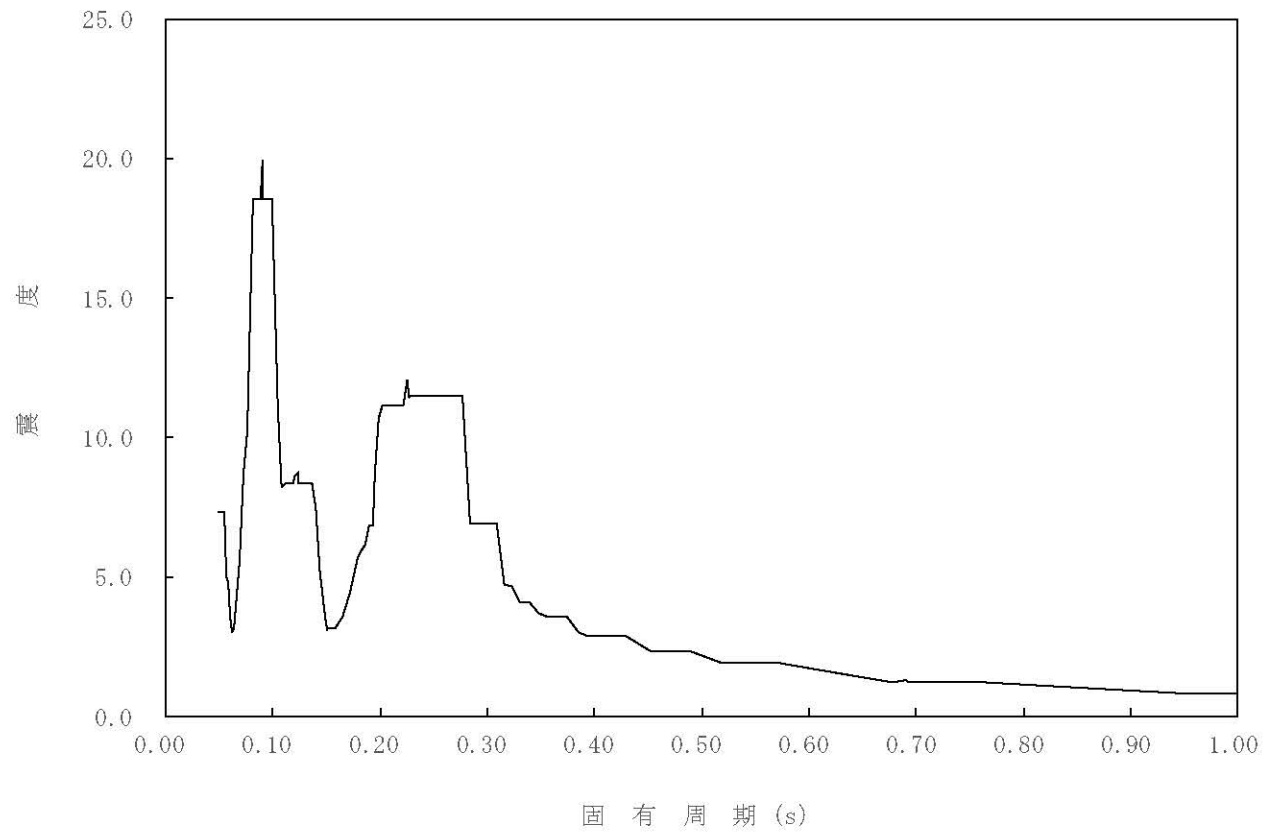
構造物名： 原子炉しゃへい壁

標高： 0.P.

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-10-103

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RSW19-010】

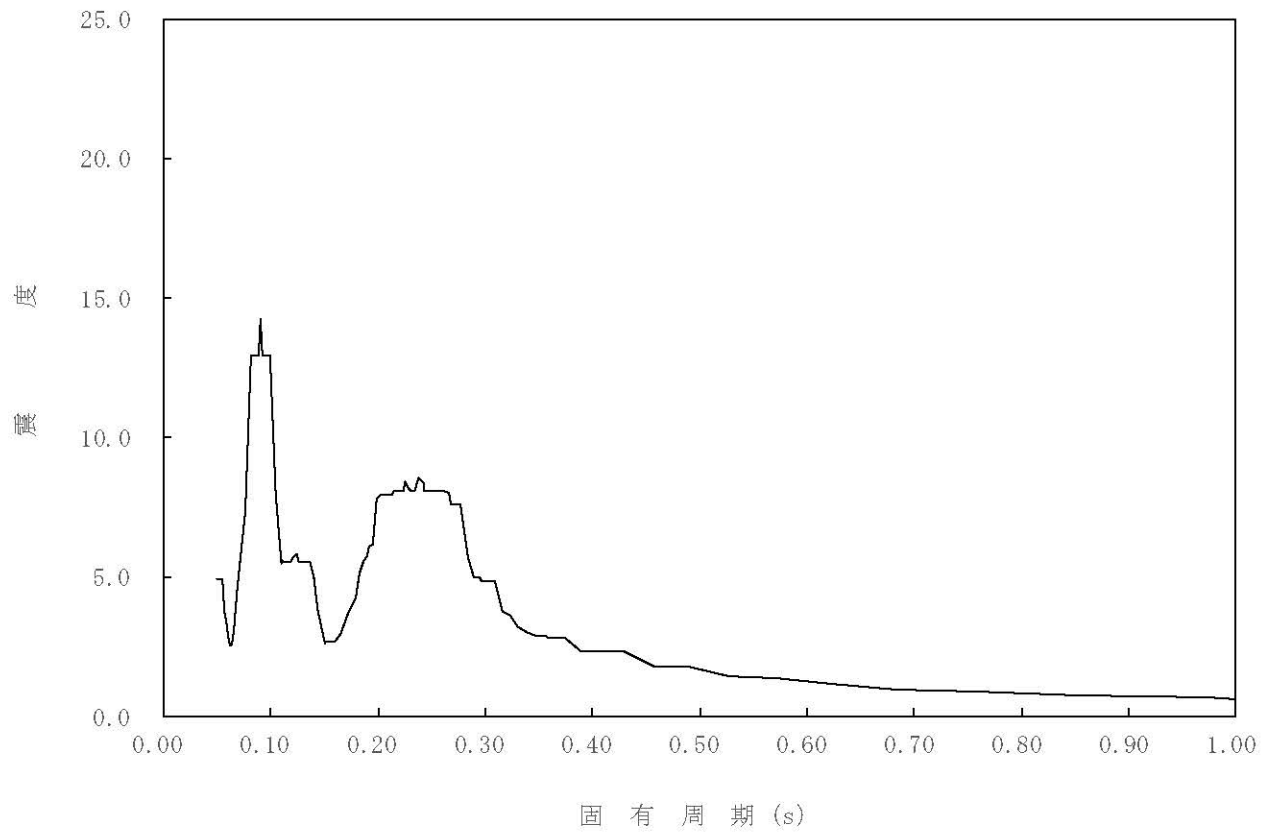
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-104

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW19-015】

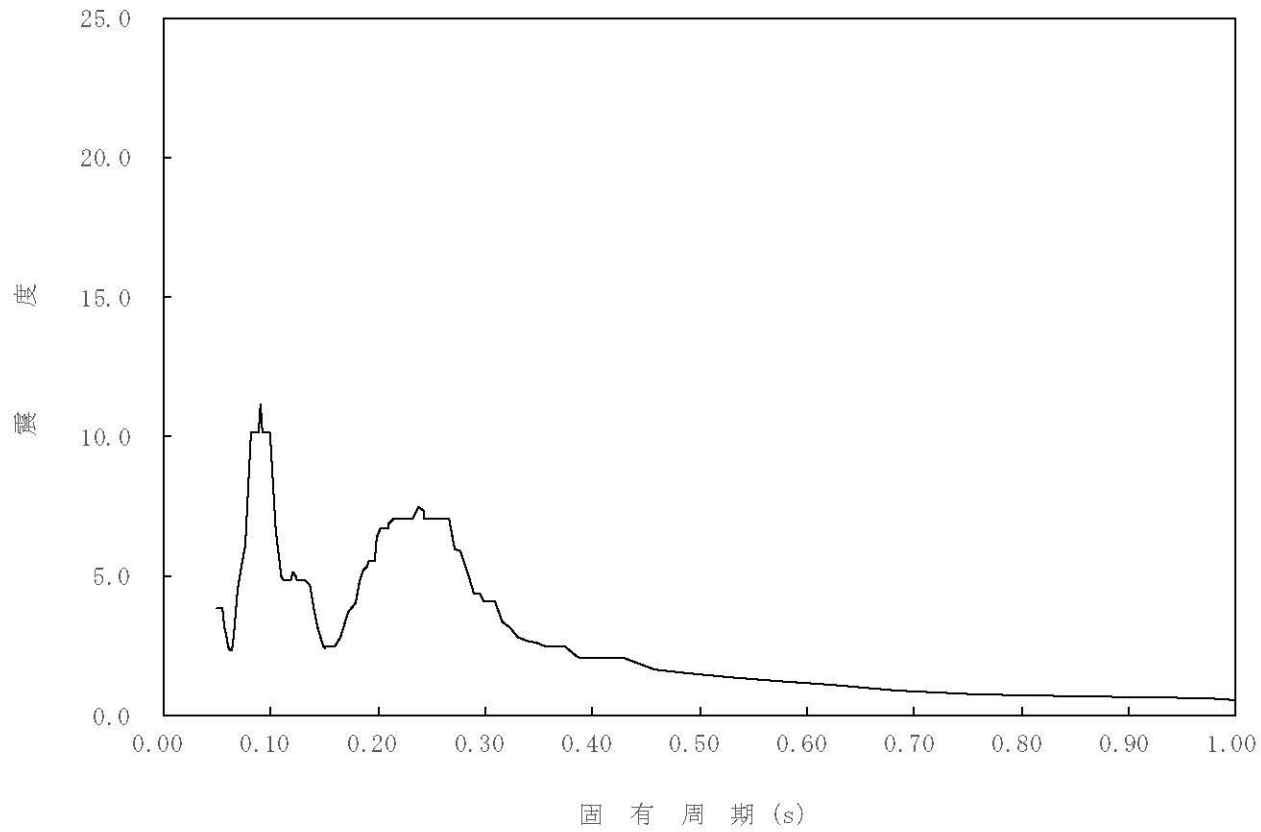
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-105

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW19-020】

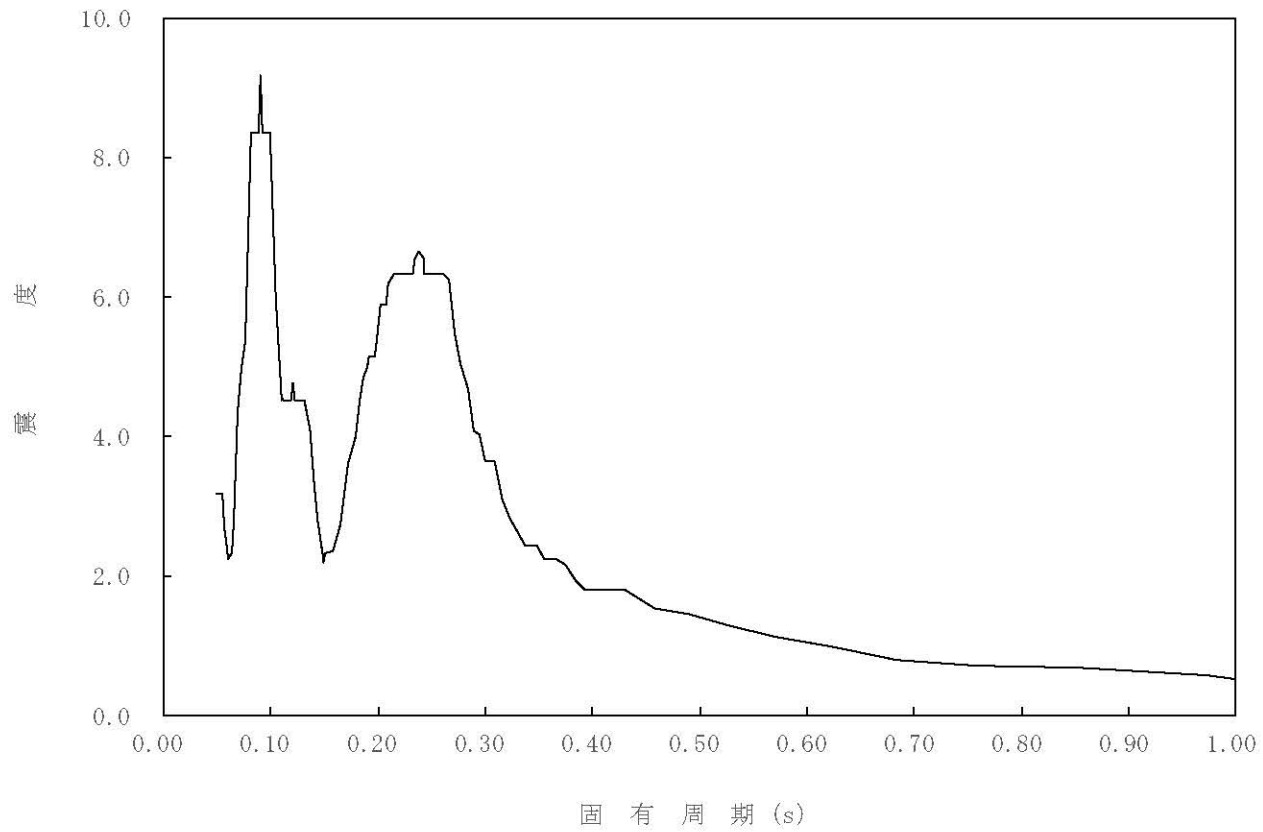
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-106

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW19-025】

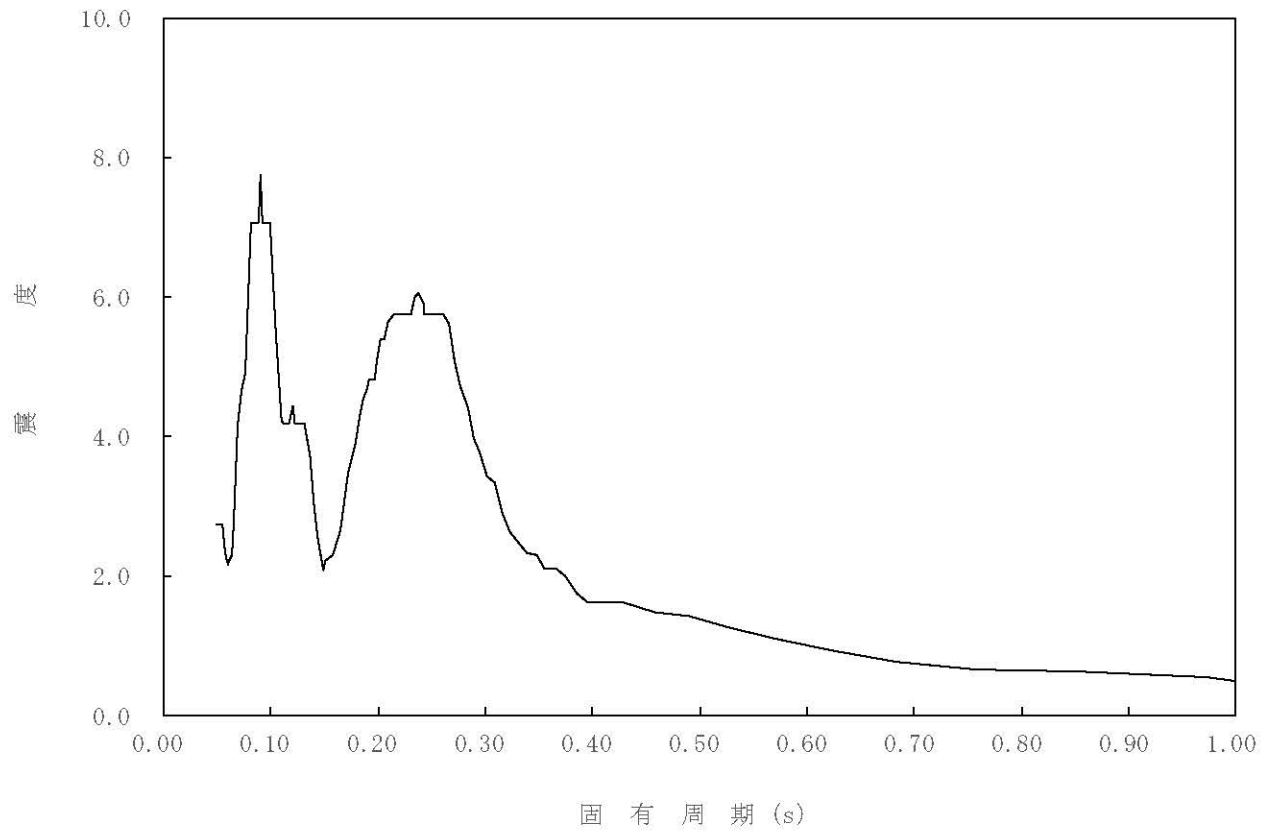
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-107

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW19-030】

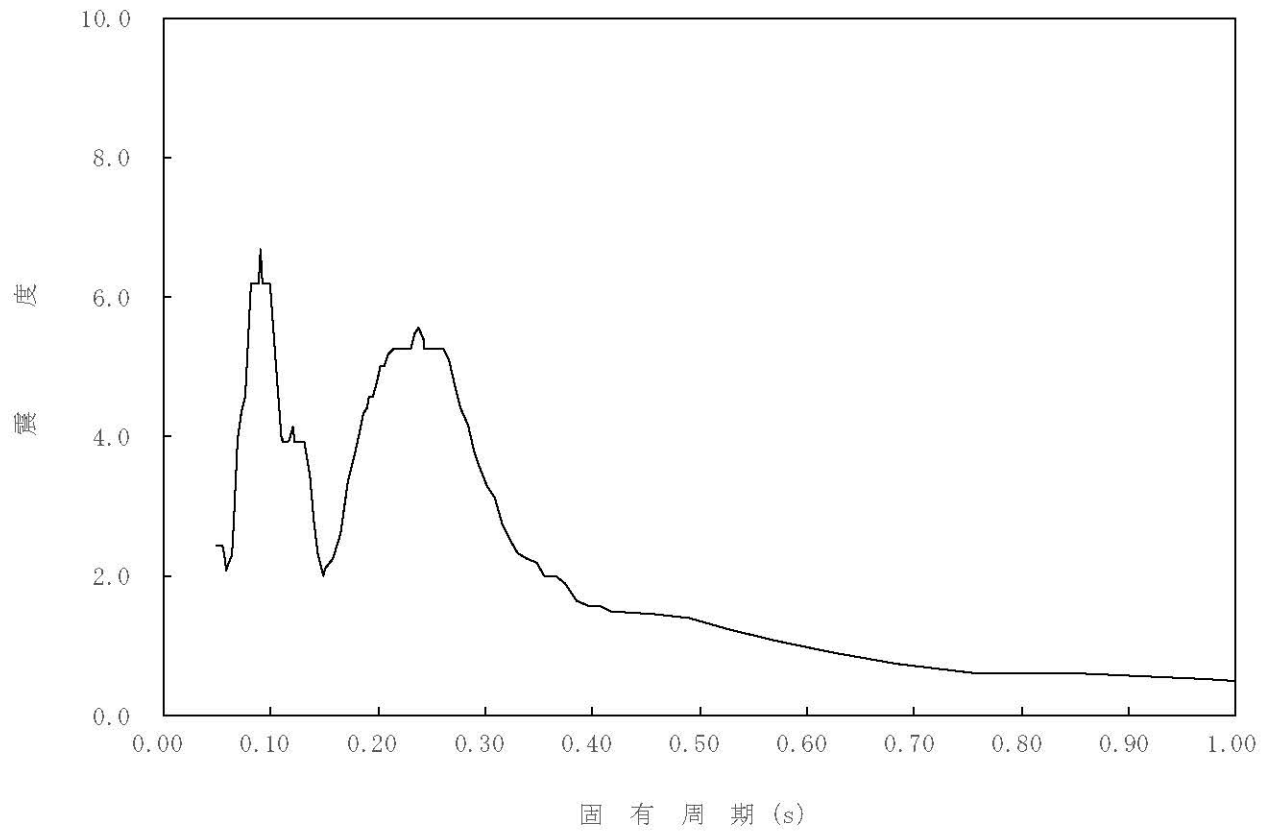
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-108

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW19-040】

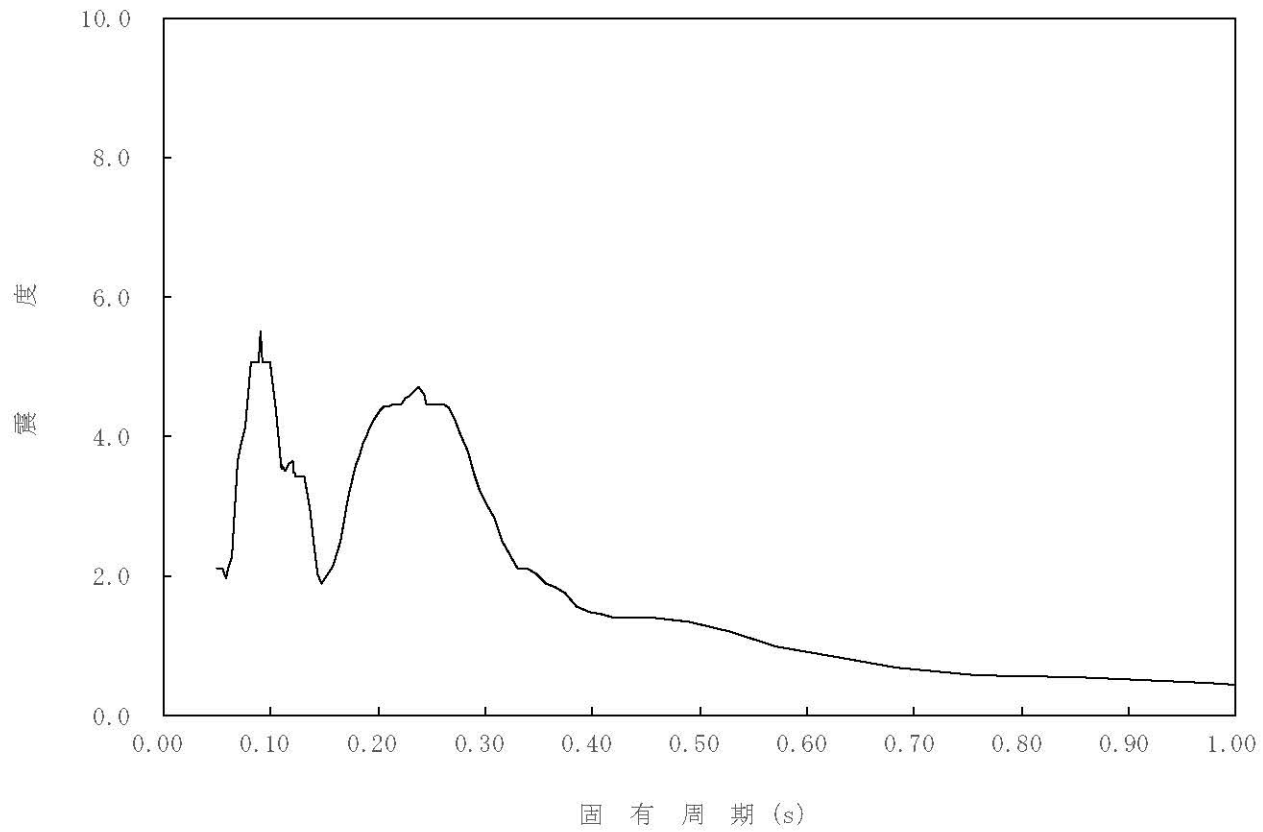
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-109

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW19-050】

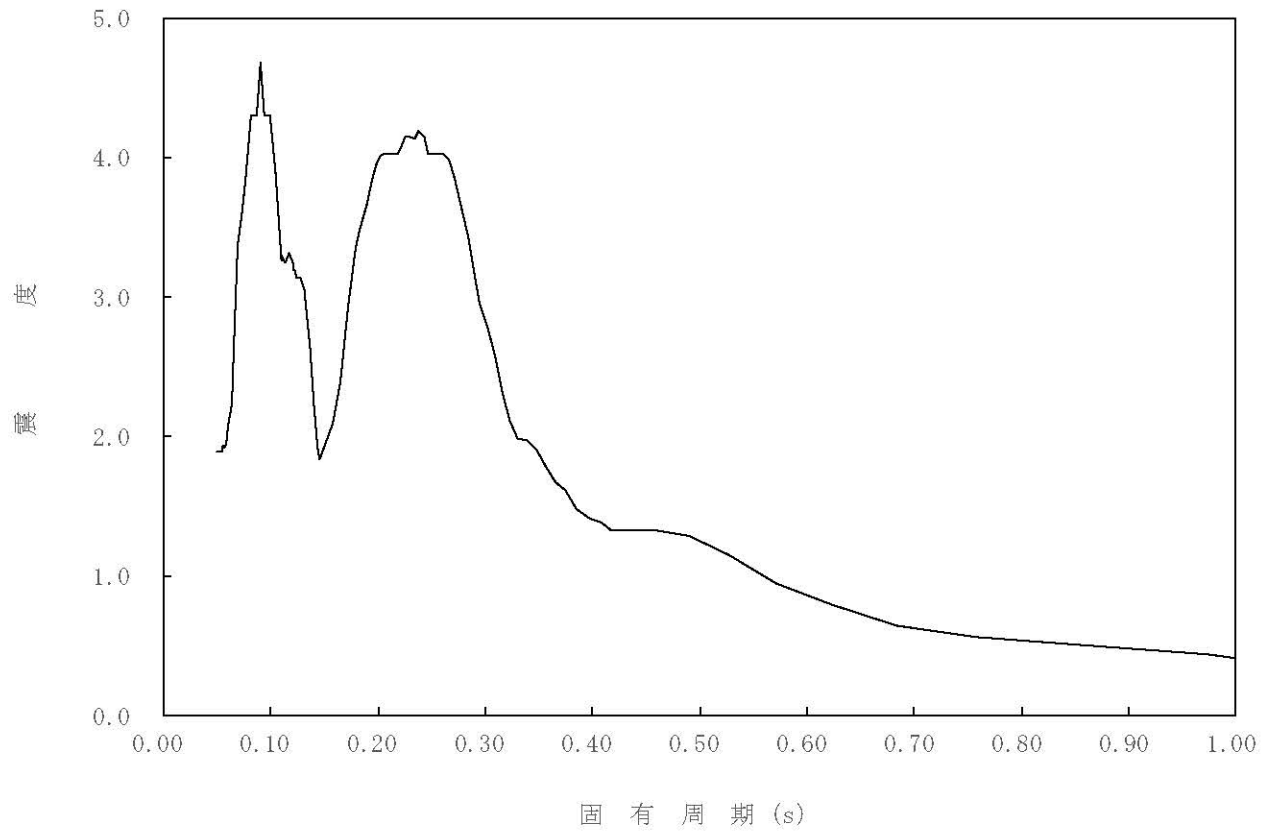
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-110

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW18-005】

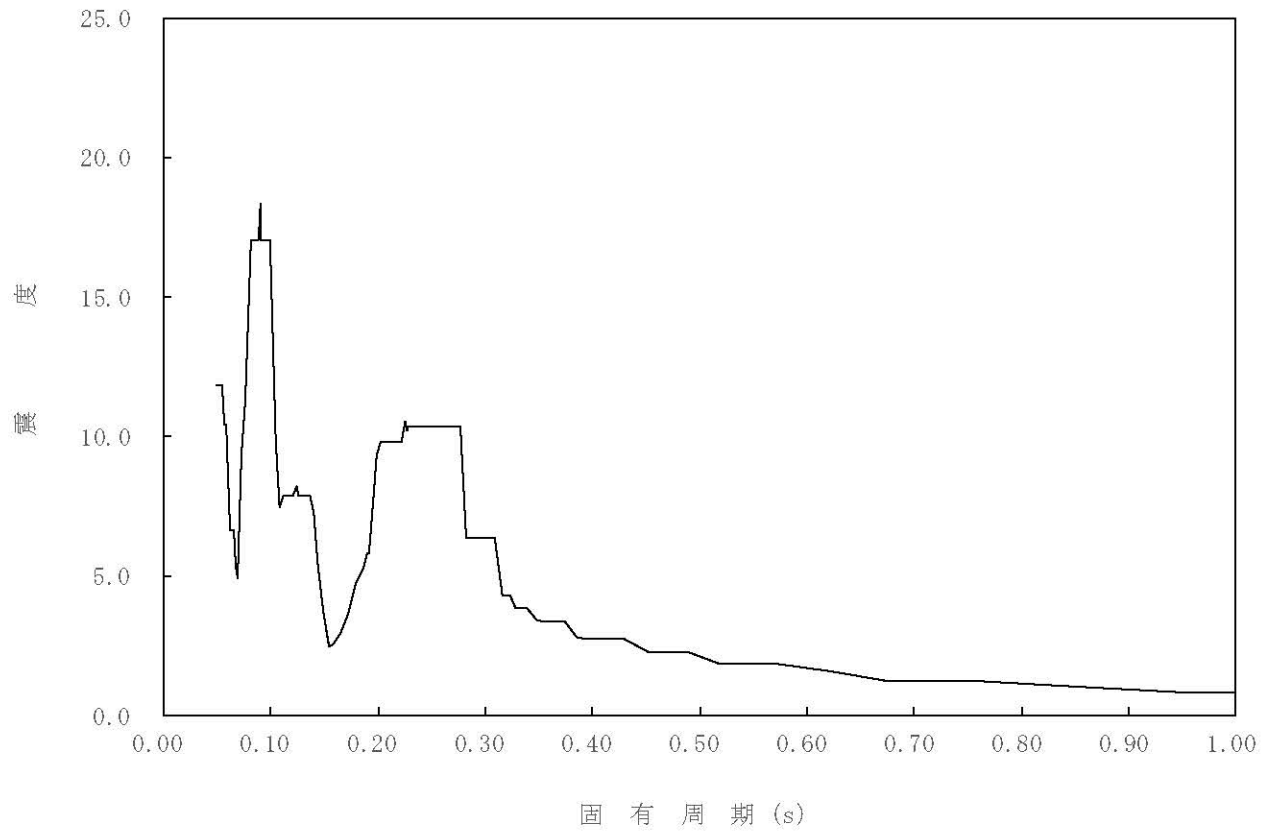
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-111

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RSW18-010】

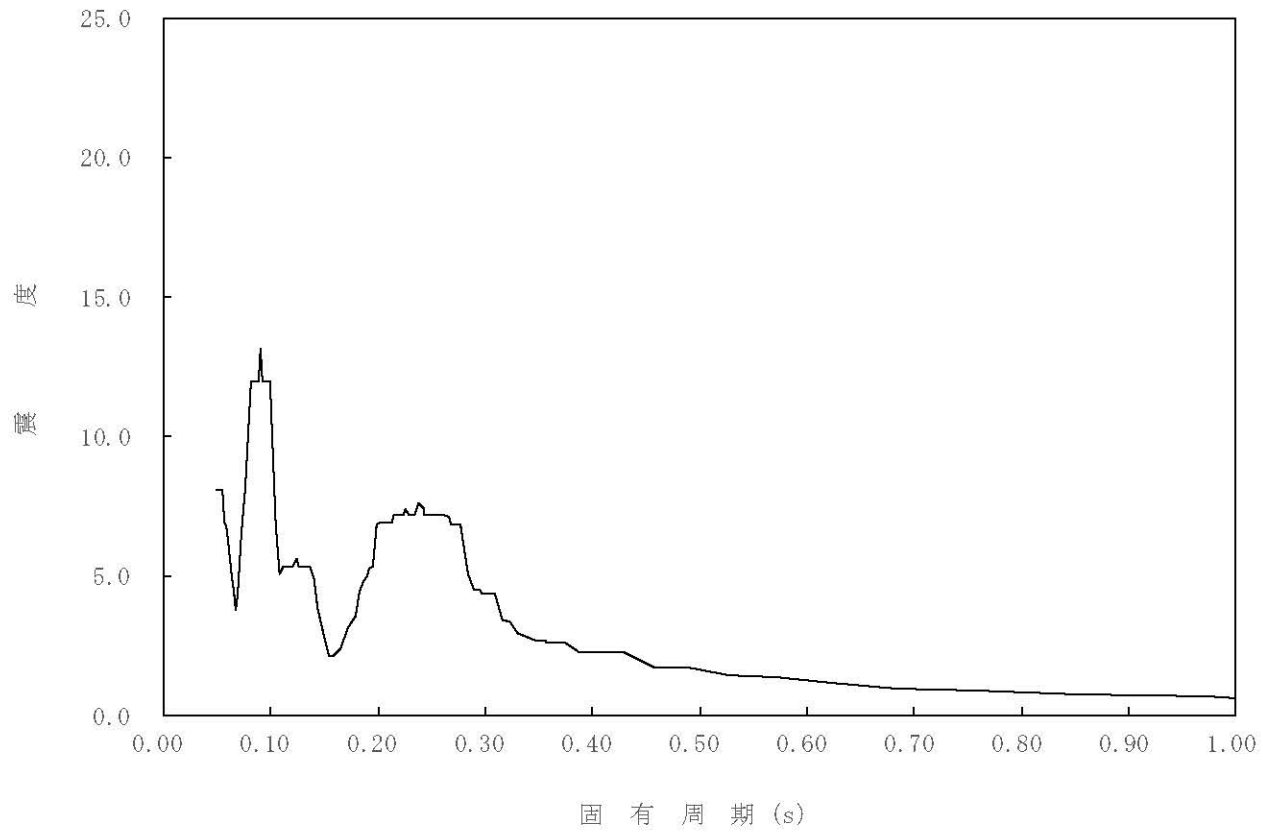
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-112

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW18-015】

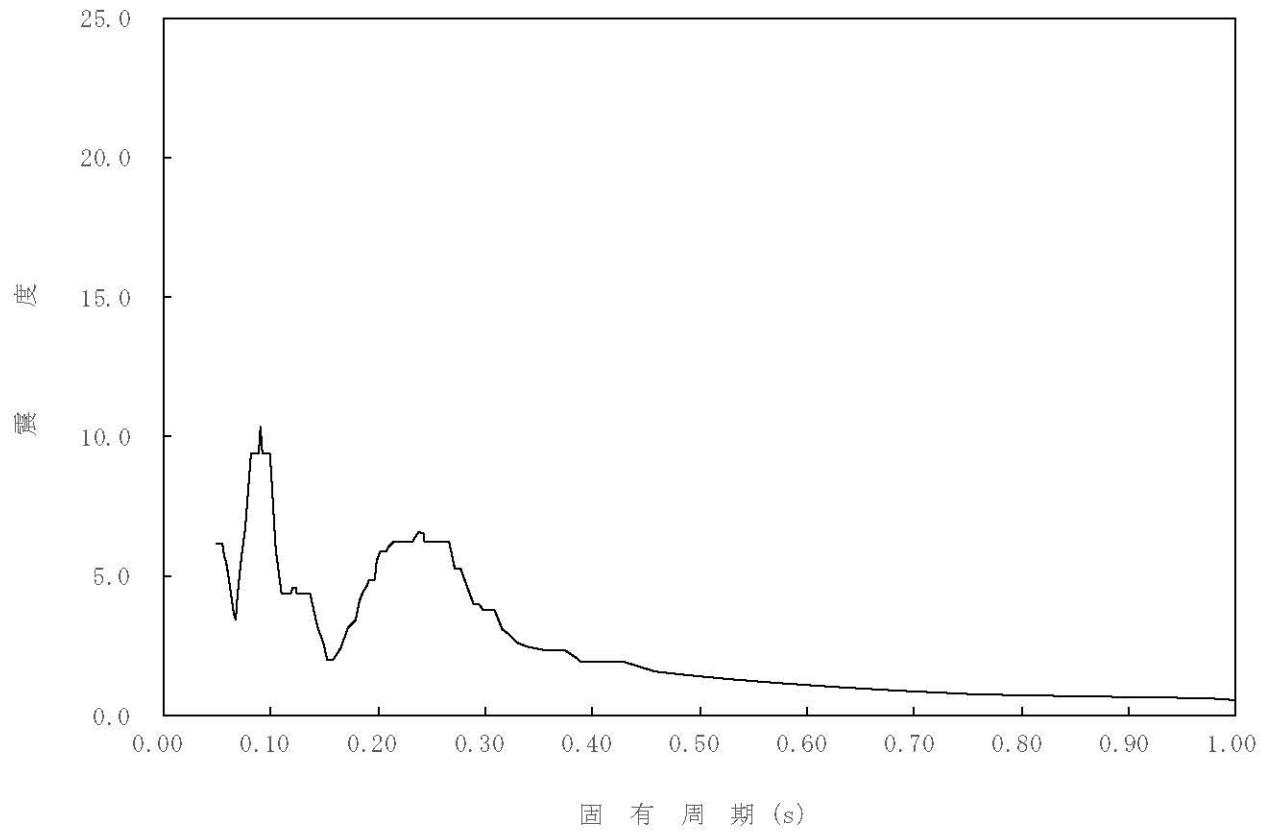
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-113

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW18-020】

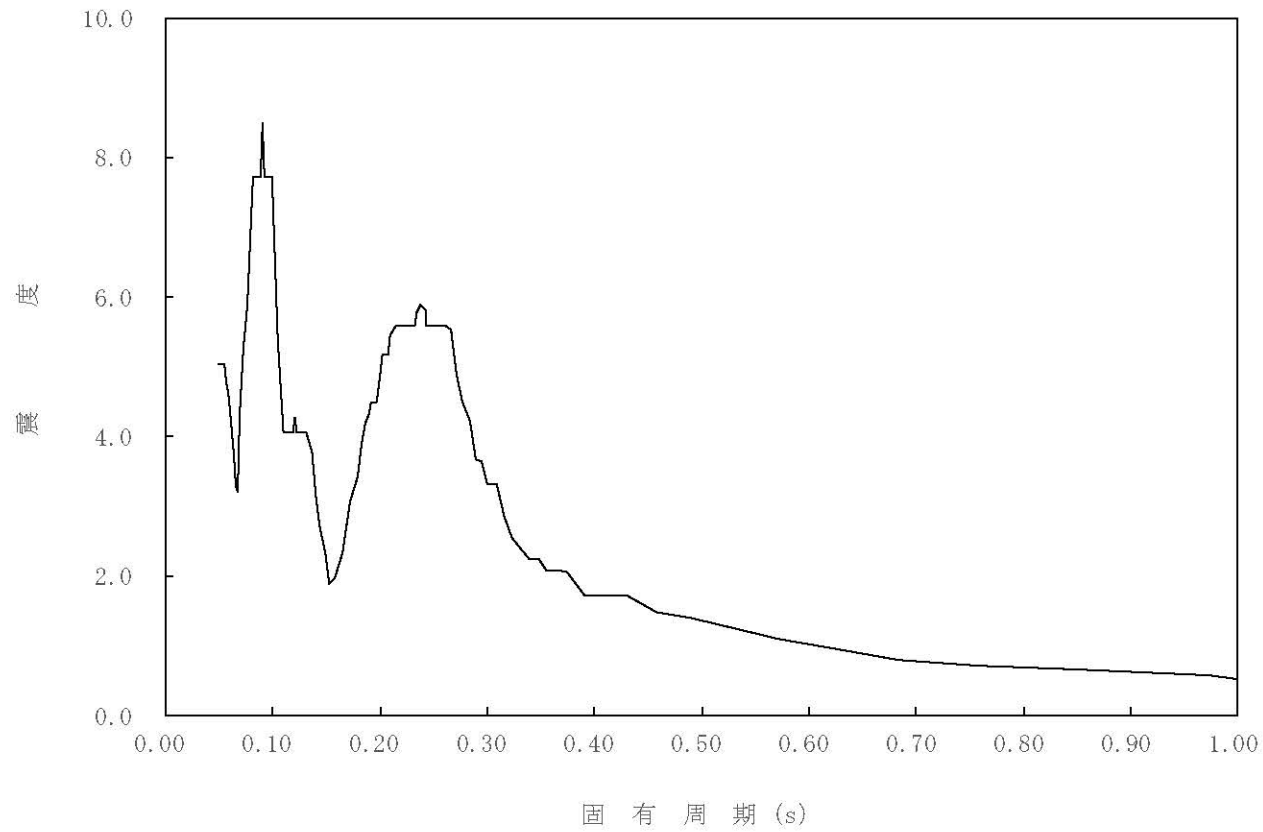
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-114

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW18-025】

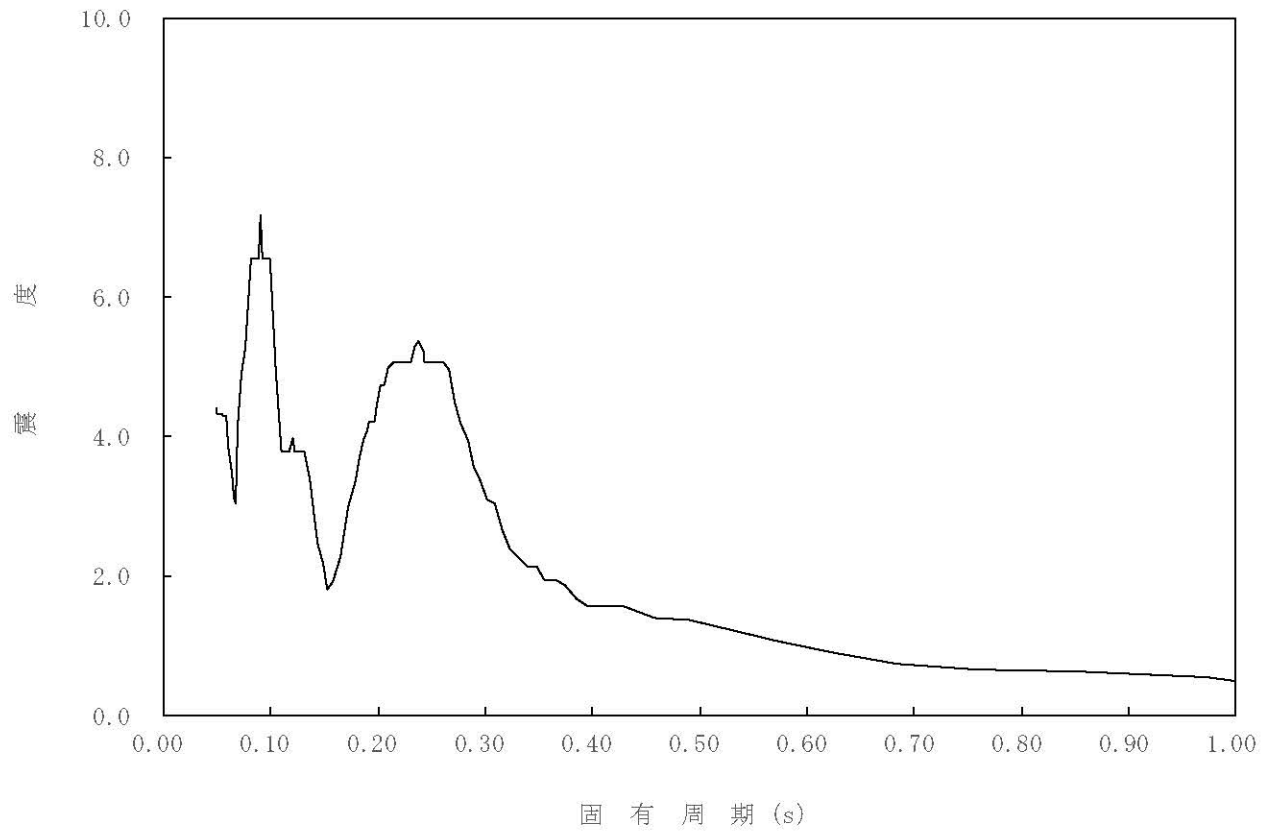
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-115

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW18-030】

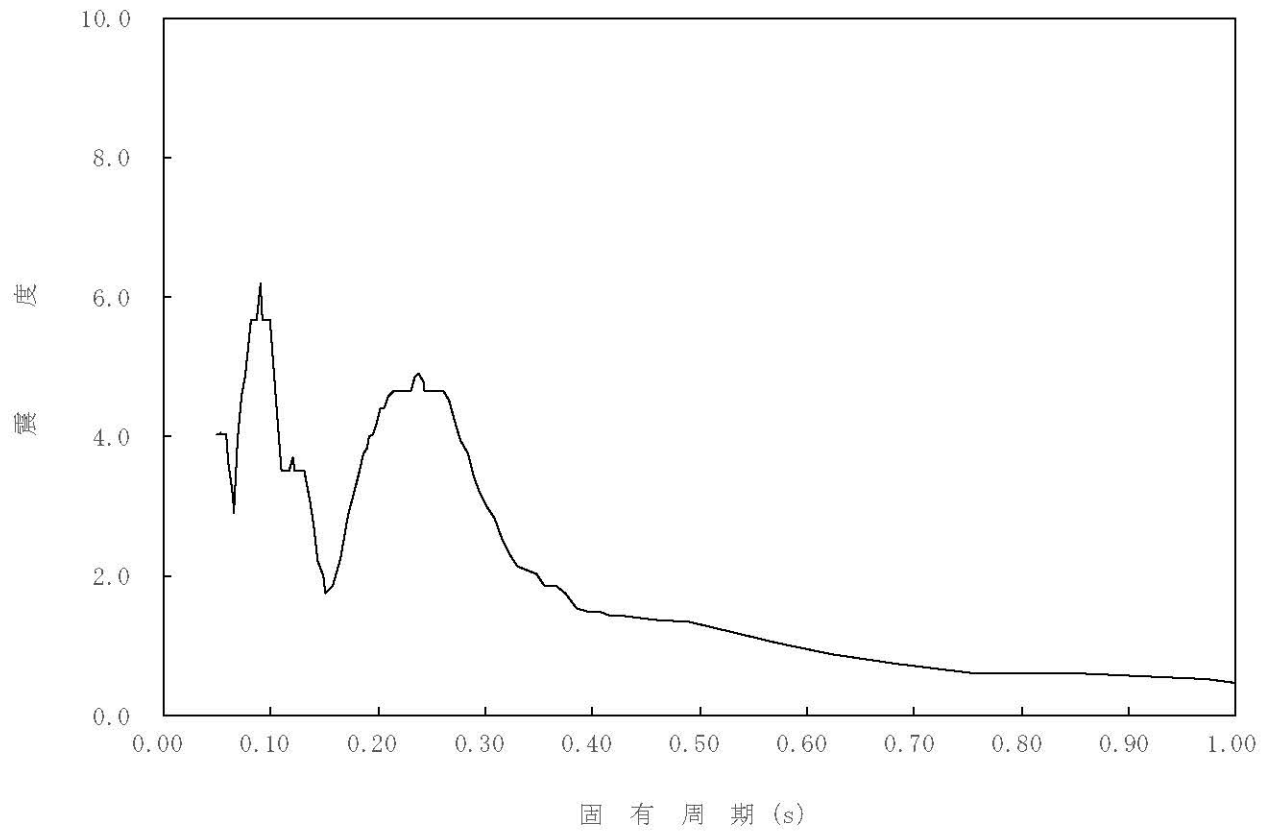
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-116

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW18-040】

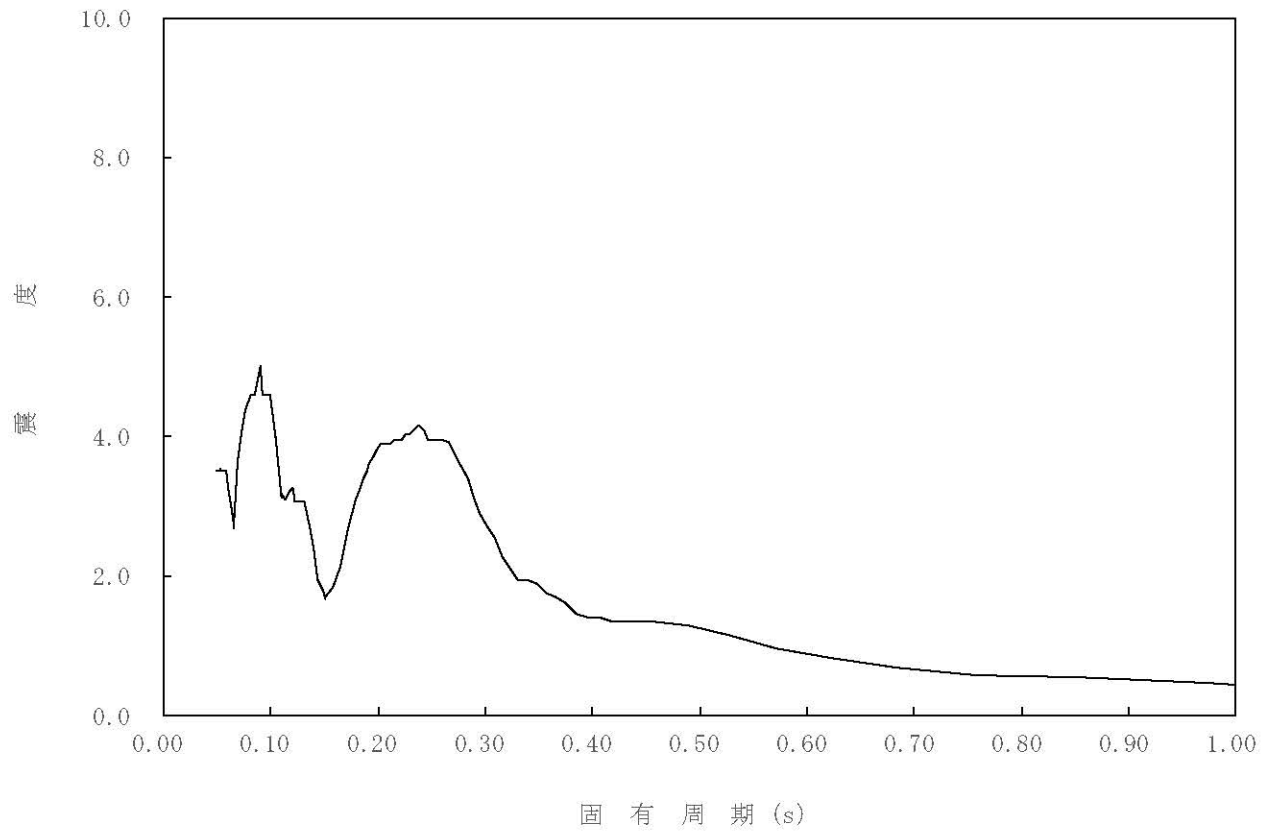
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-117

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW18-050】

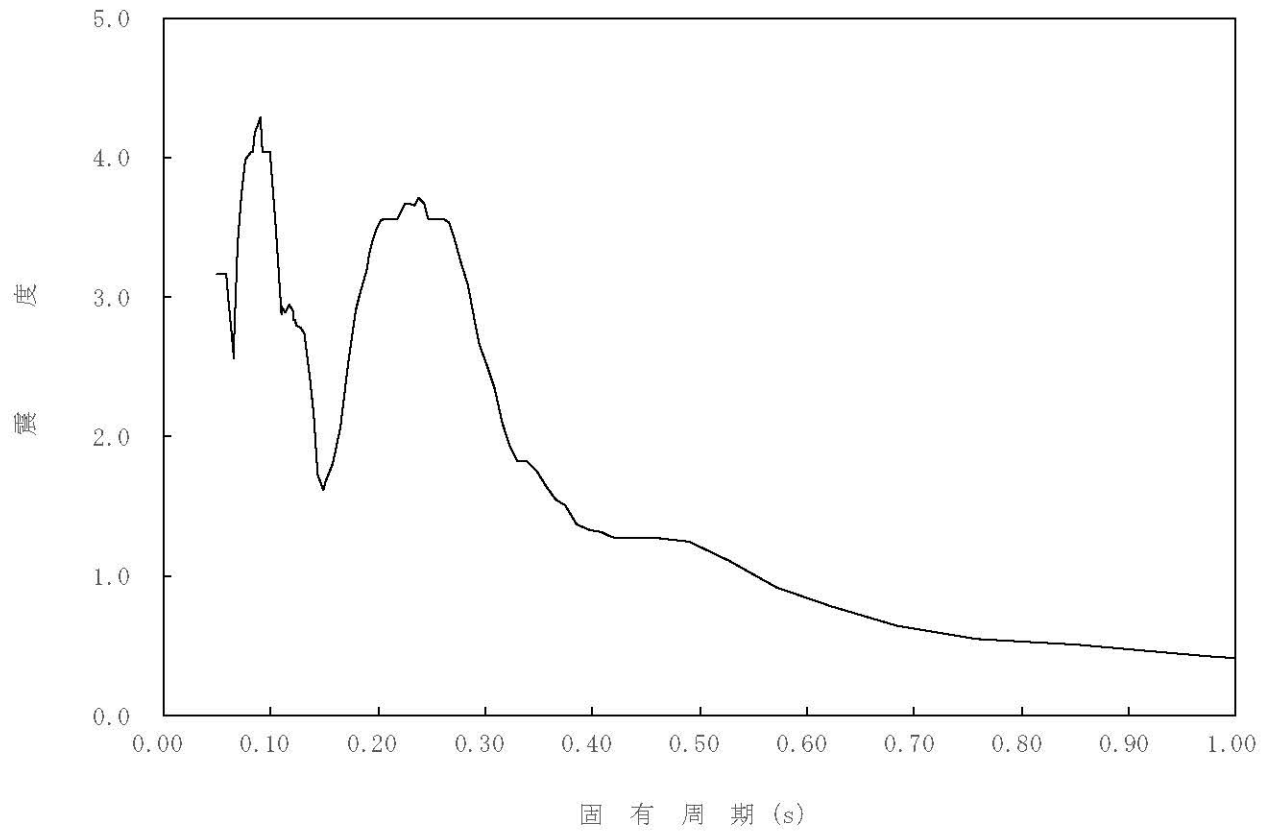
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-118

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW17-005】

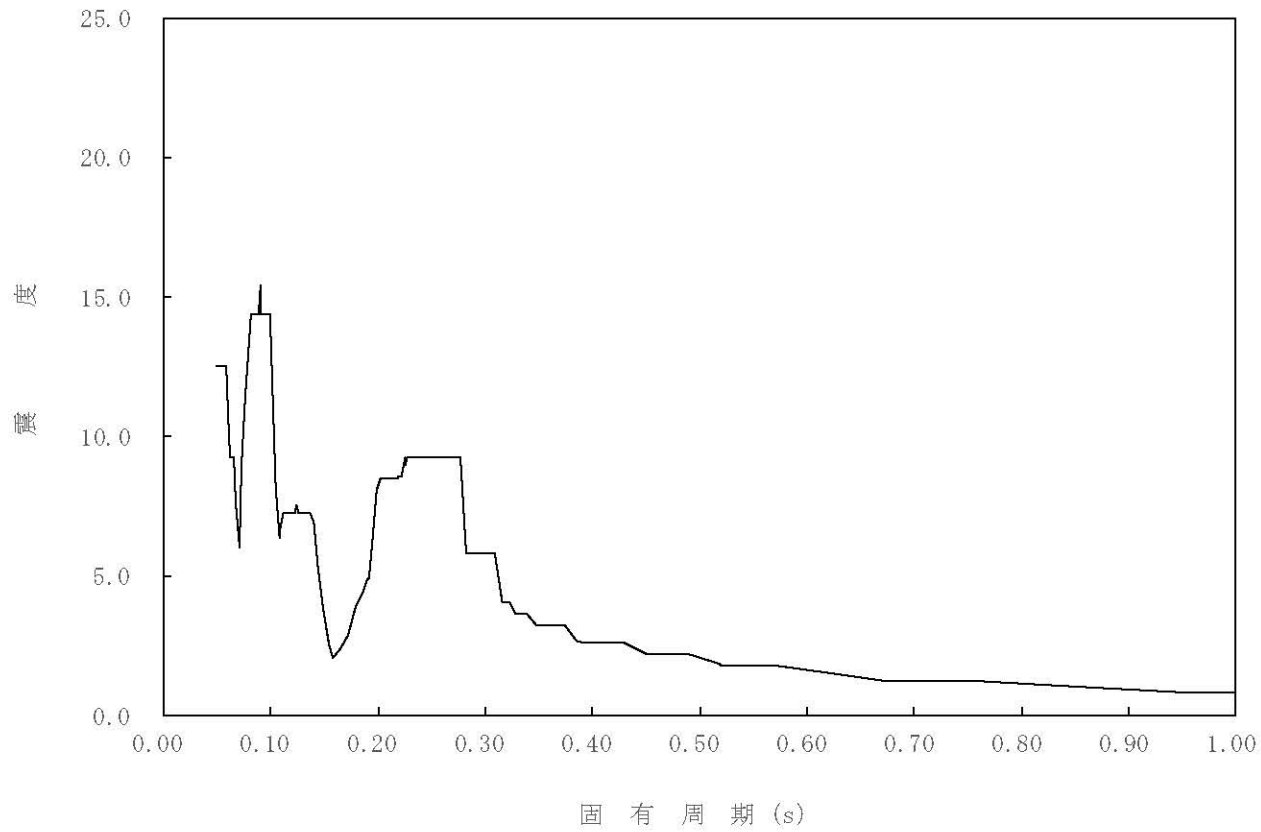
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-119

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RSW17-010】

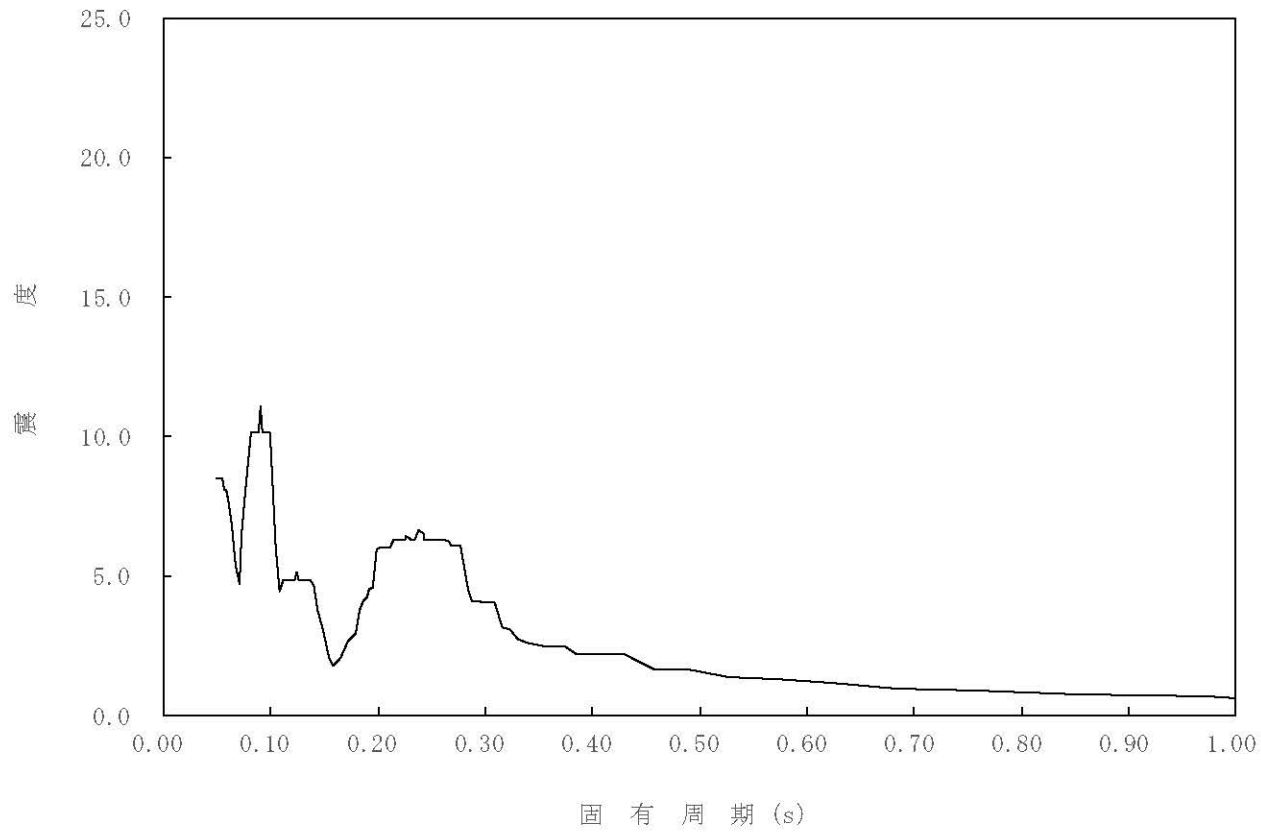
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-120

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW17-015】

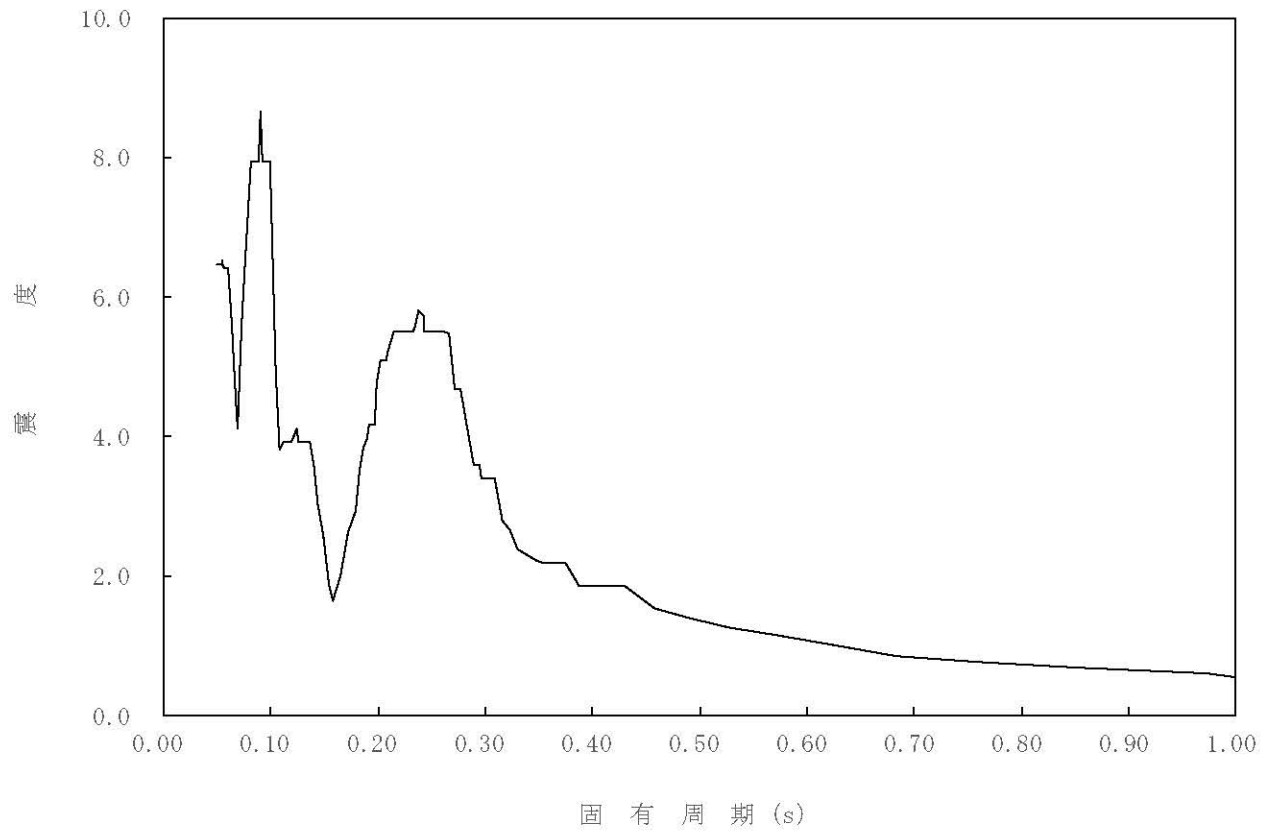
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-121

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW17-020】

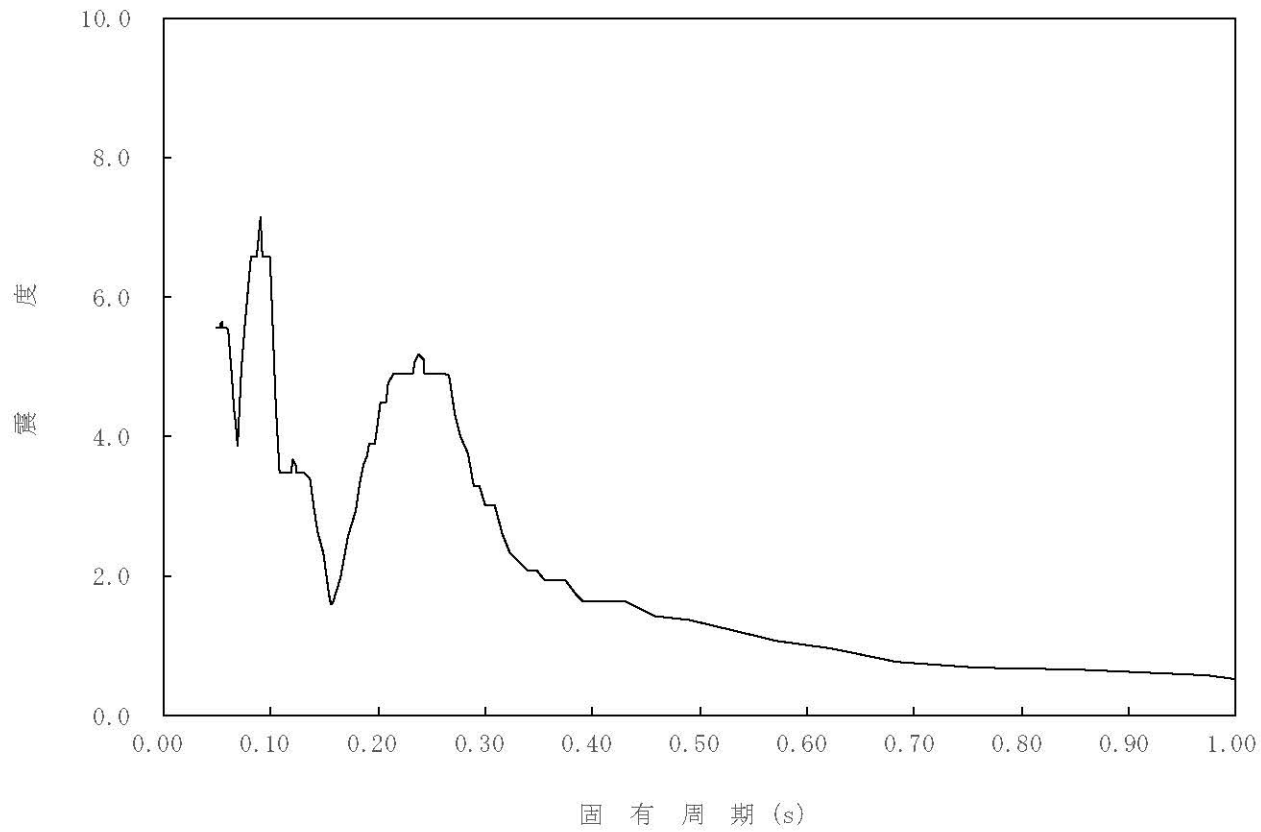
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-122

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW17-025】

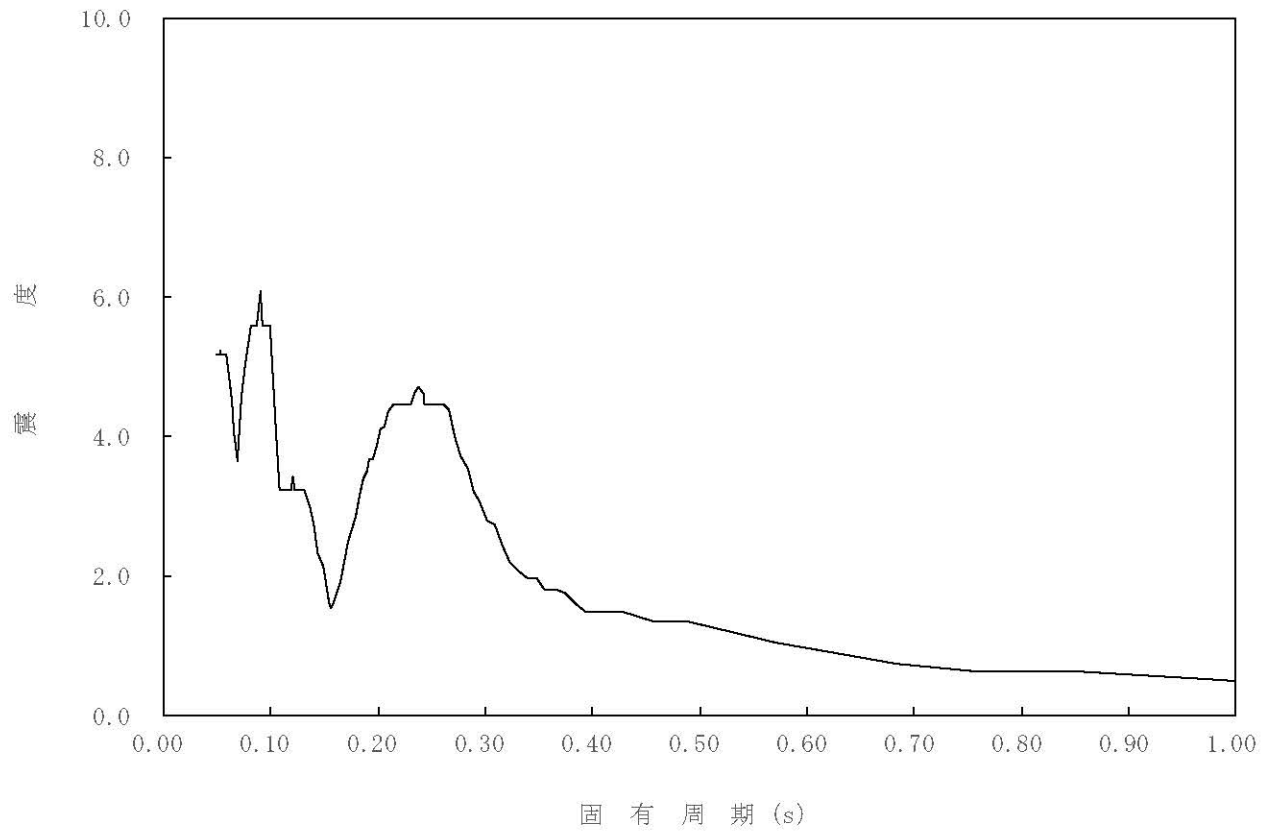
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-123

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW17-030】

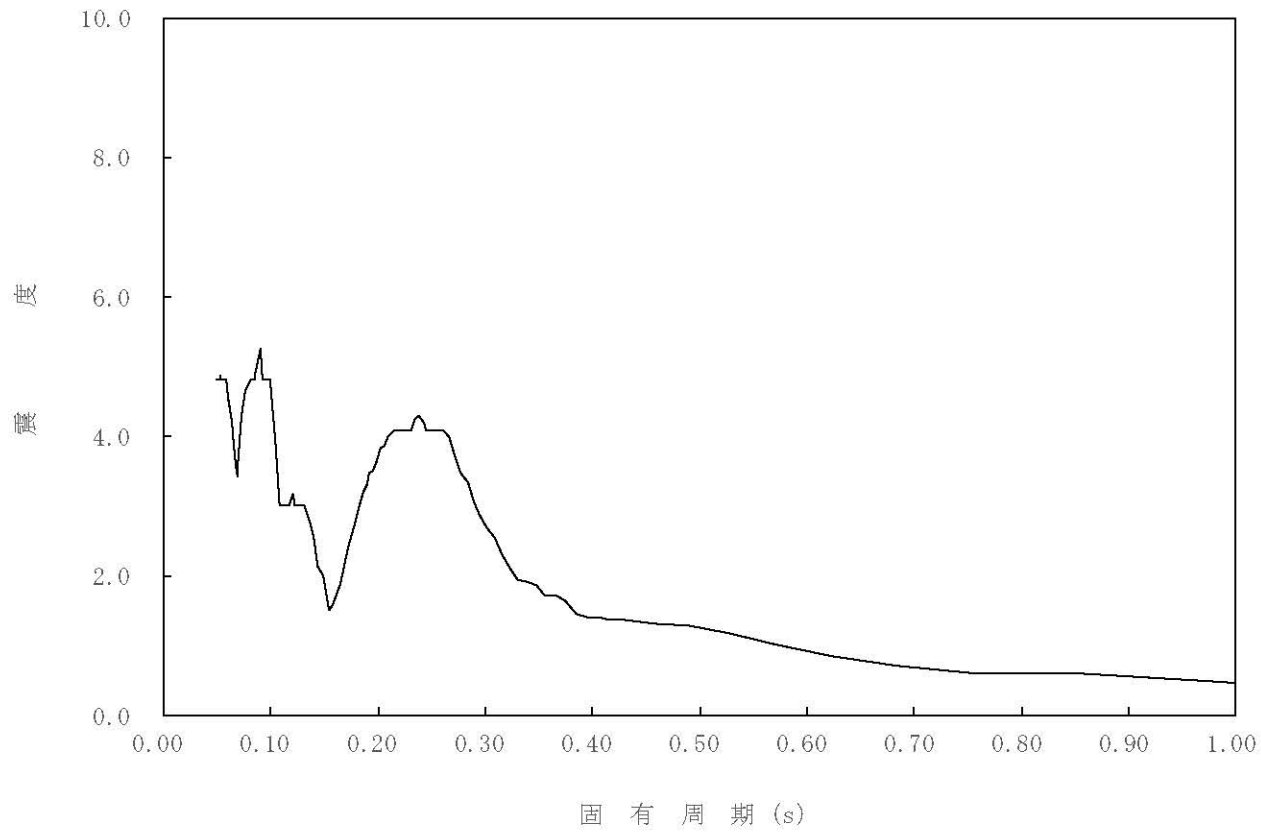
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-124

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW17-040】

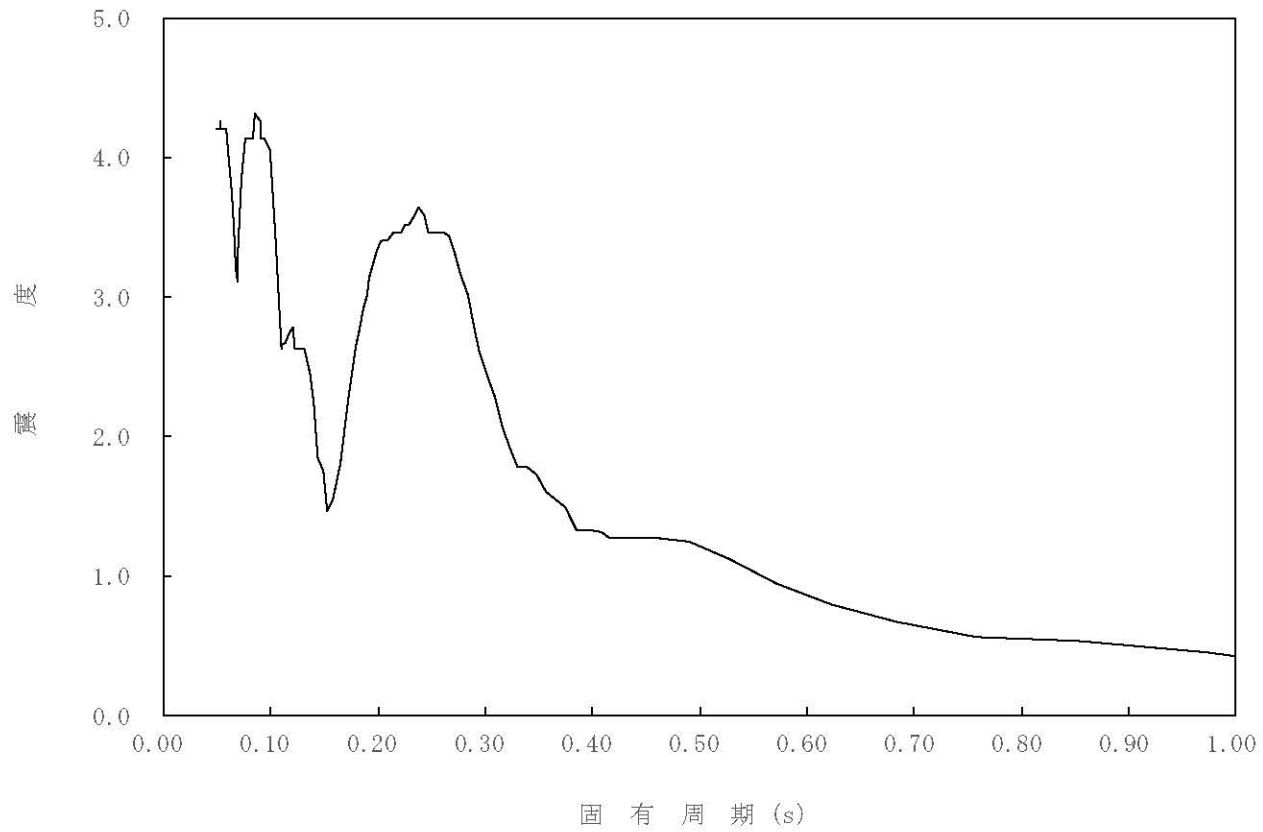
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-125

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW17-050】

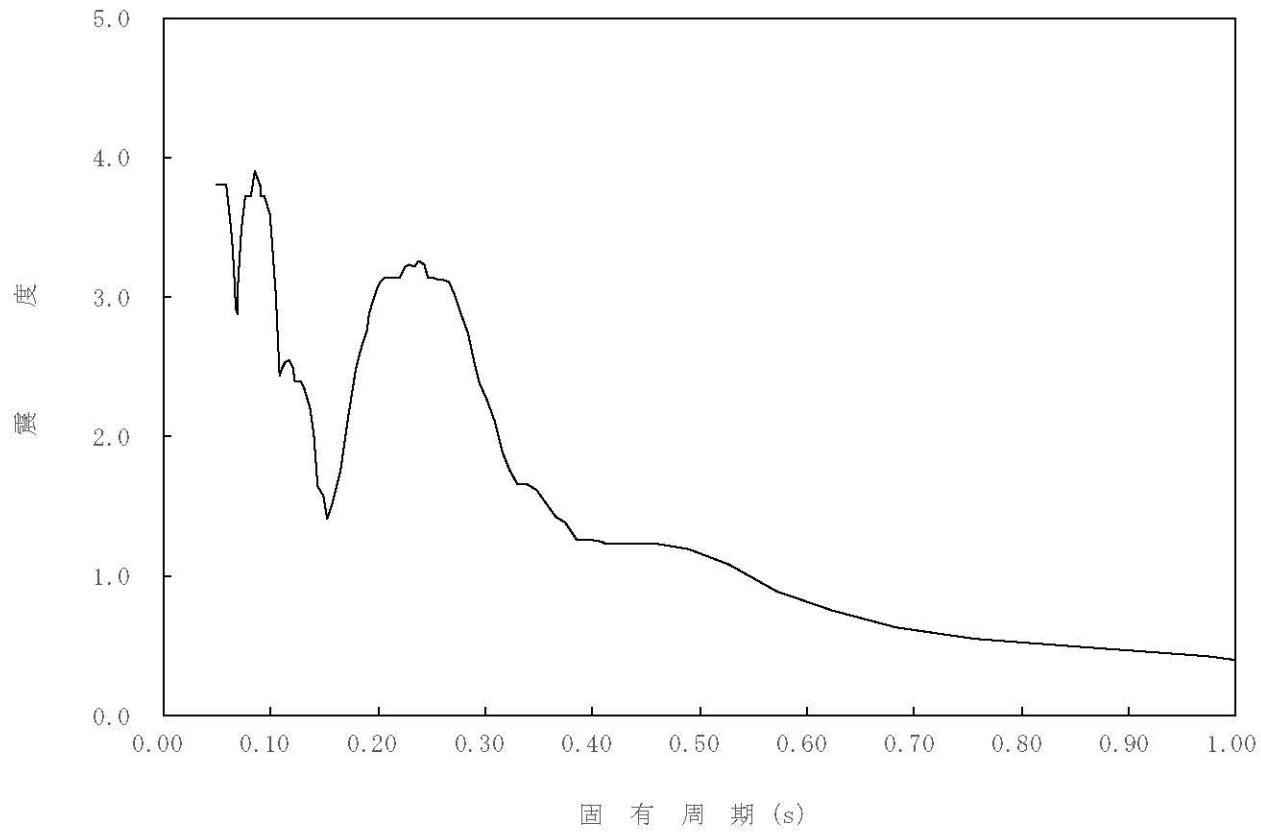
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-126

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW16-005】

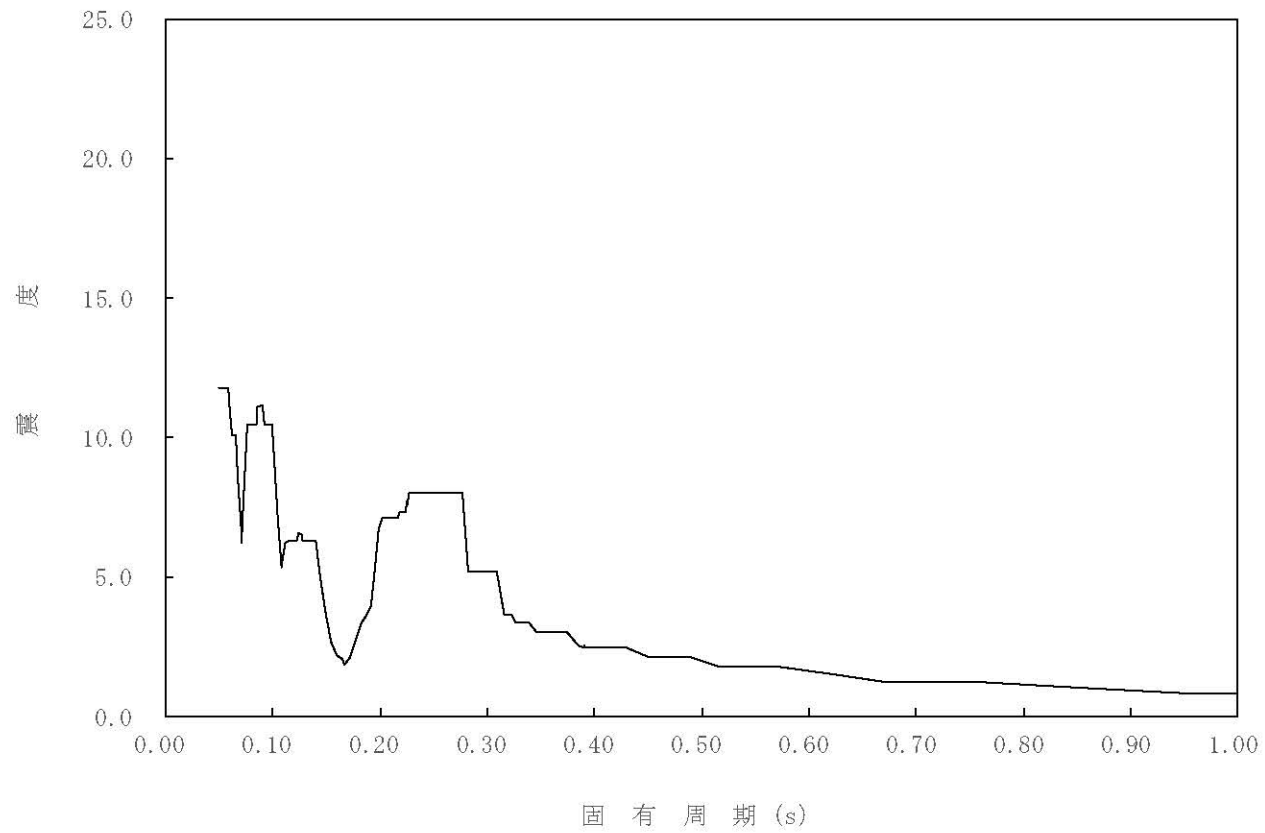
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-127

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RSW16-010】

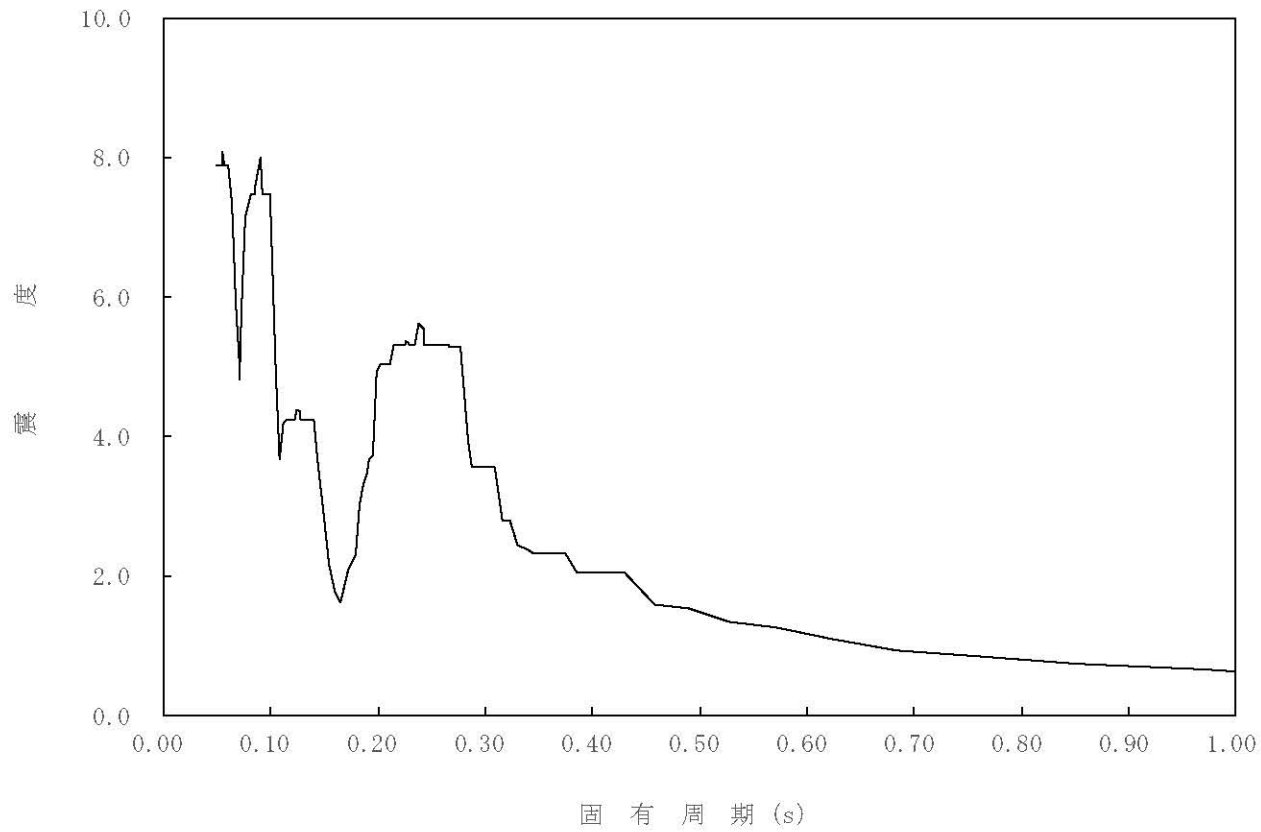
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-128

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW16-015】

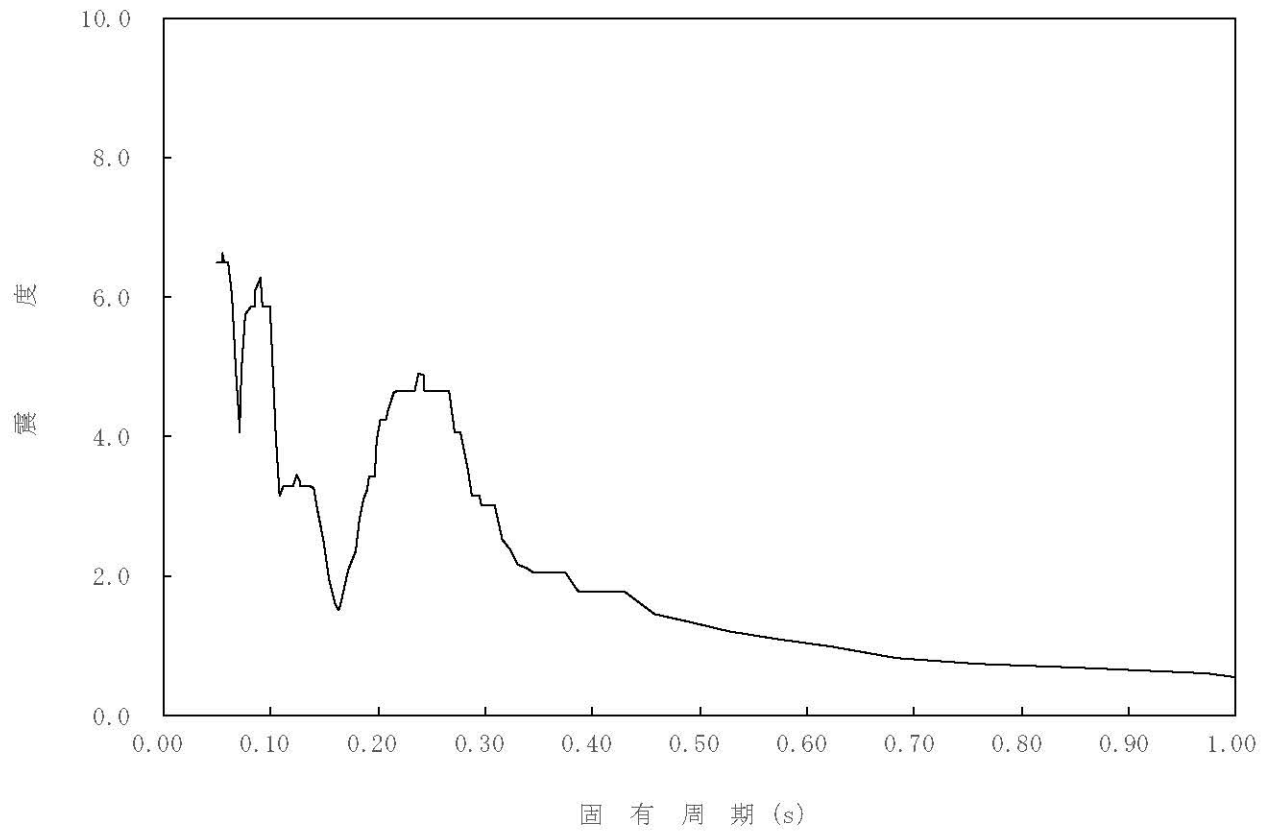
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-129

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW16-020】

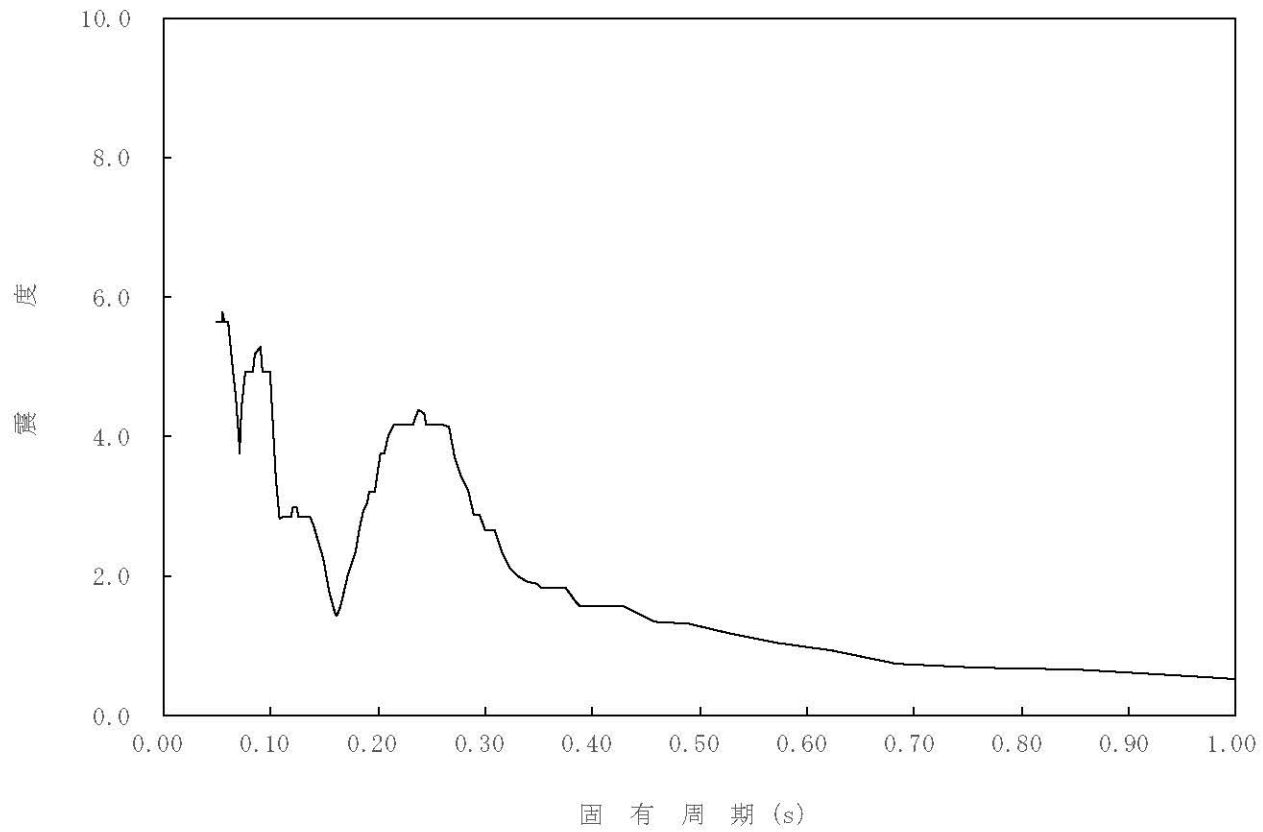
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-130

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW16-025】

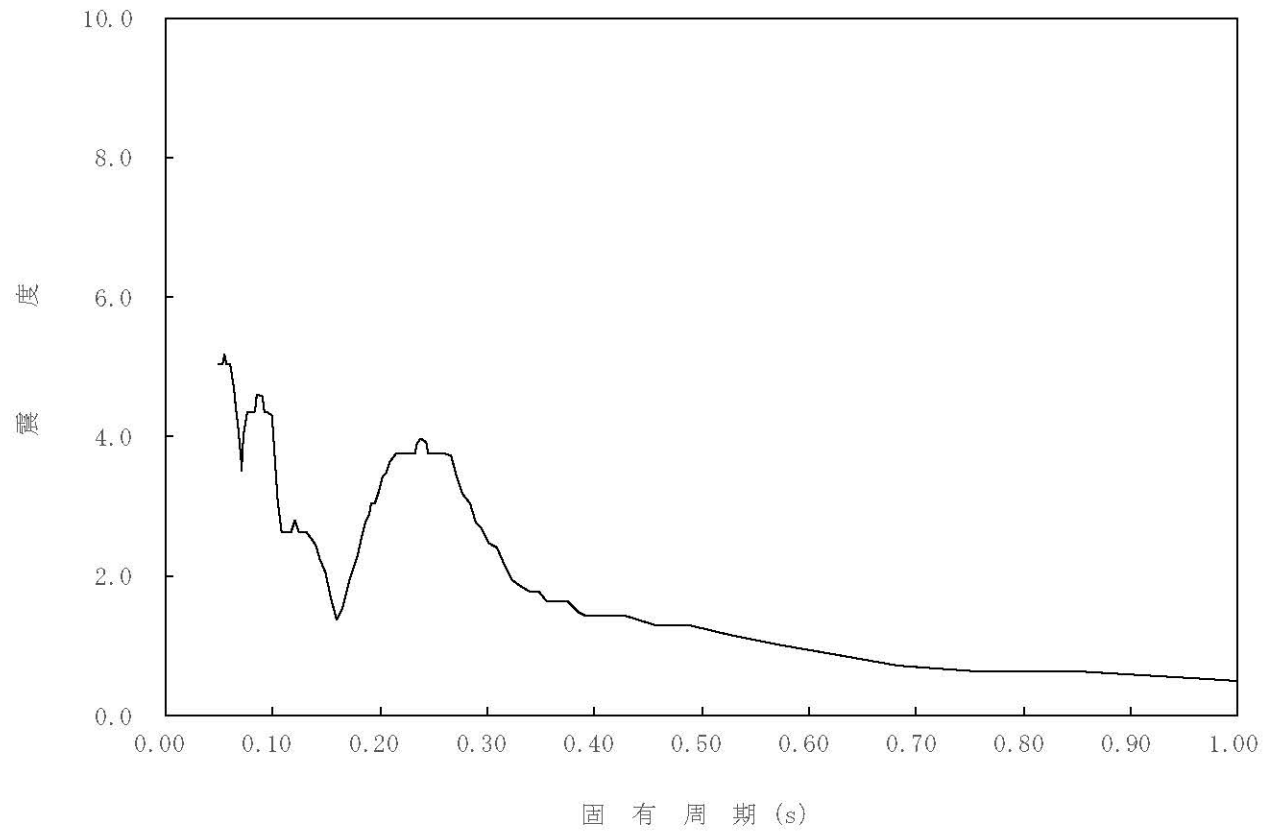
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-131

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW16-030】

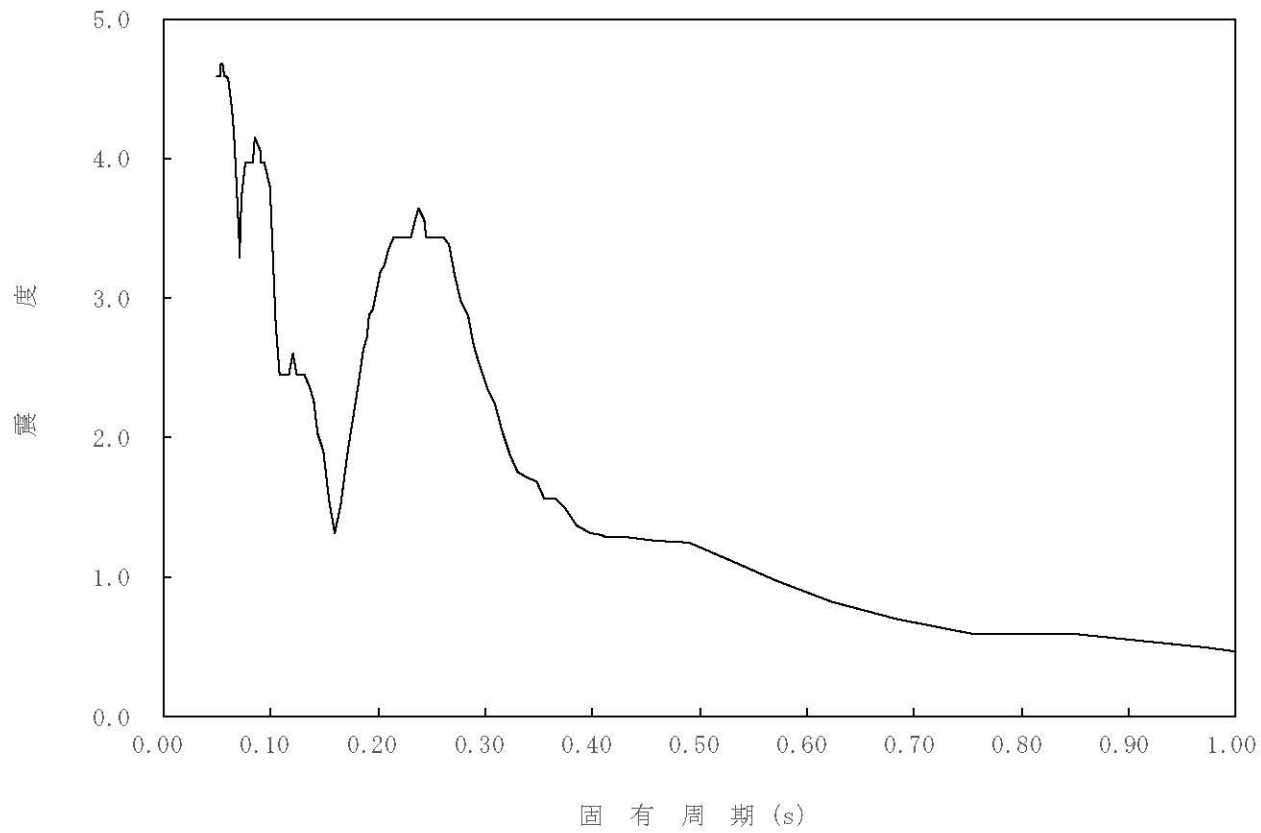
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-132

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW16-040】

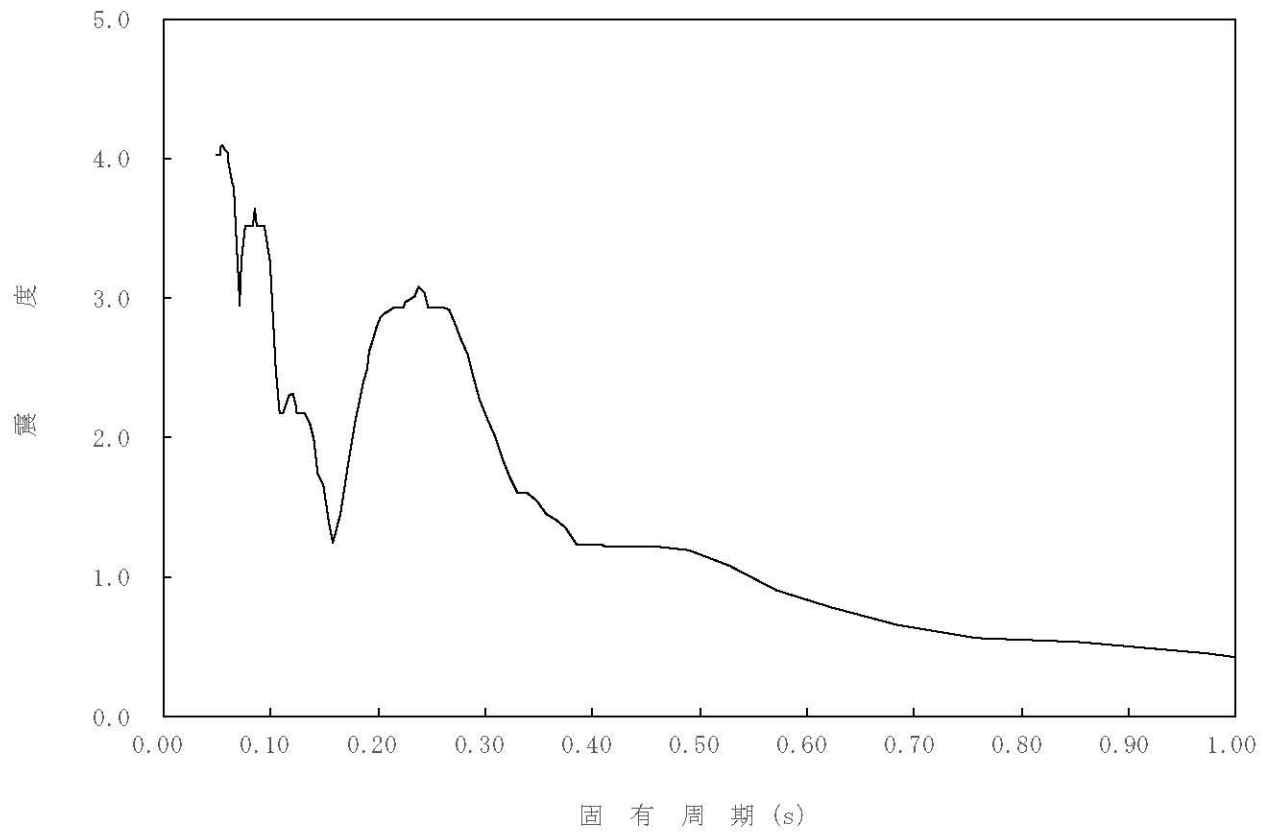
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-133

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RSW16-050】

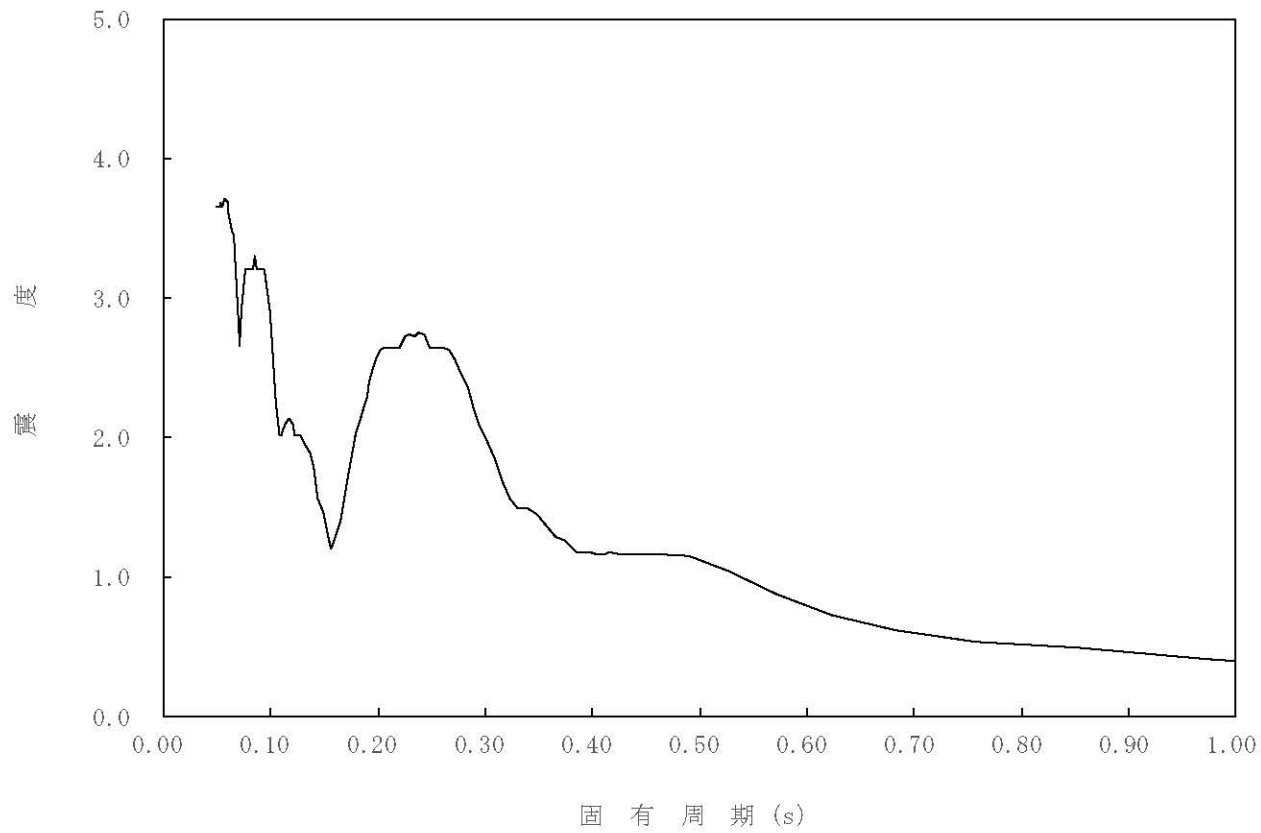
構造物名：原子炉しゃへい壁

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-134

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV15-005】

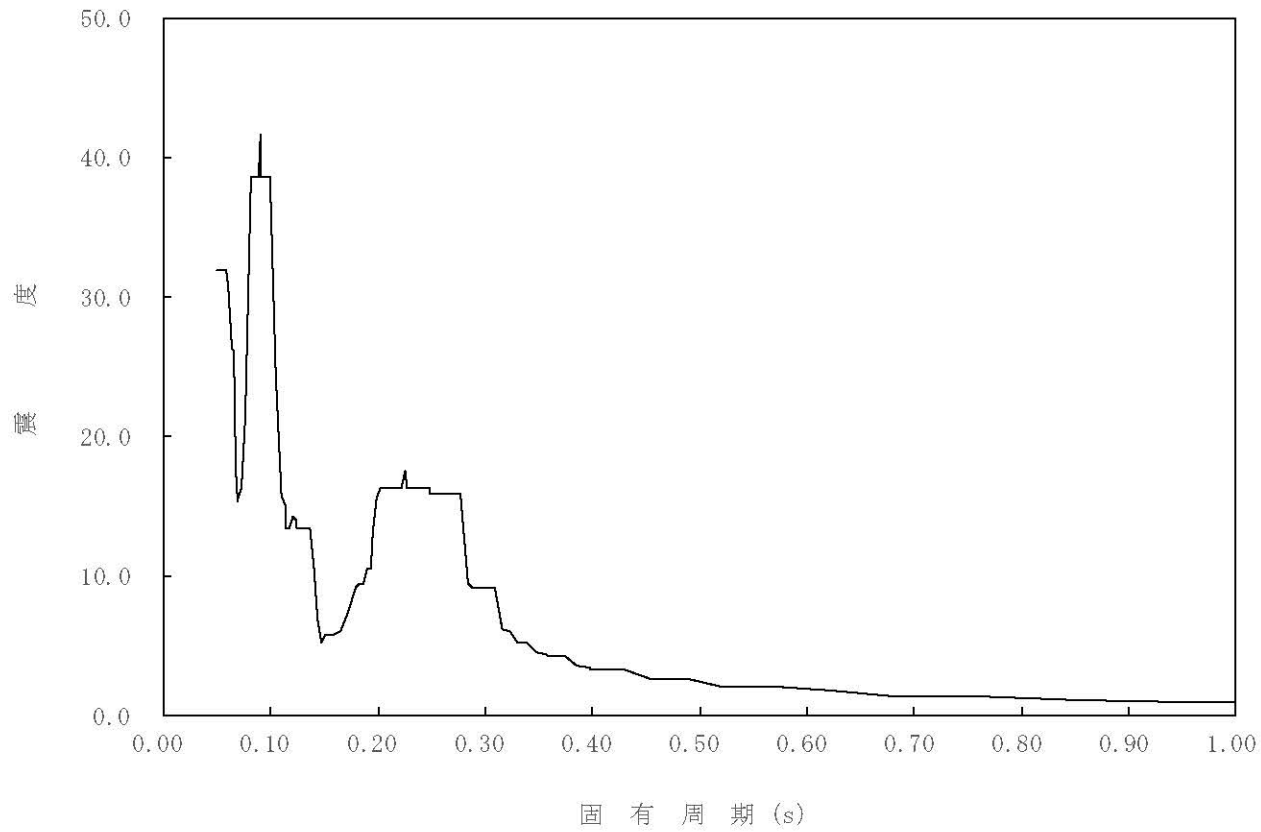
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-135

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV15-010】

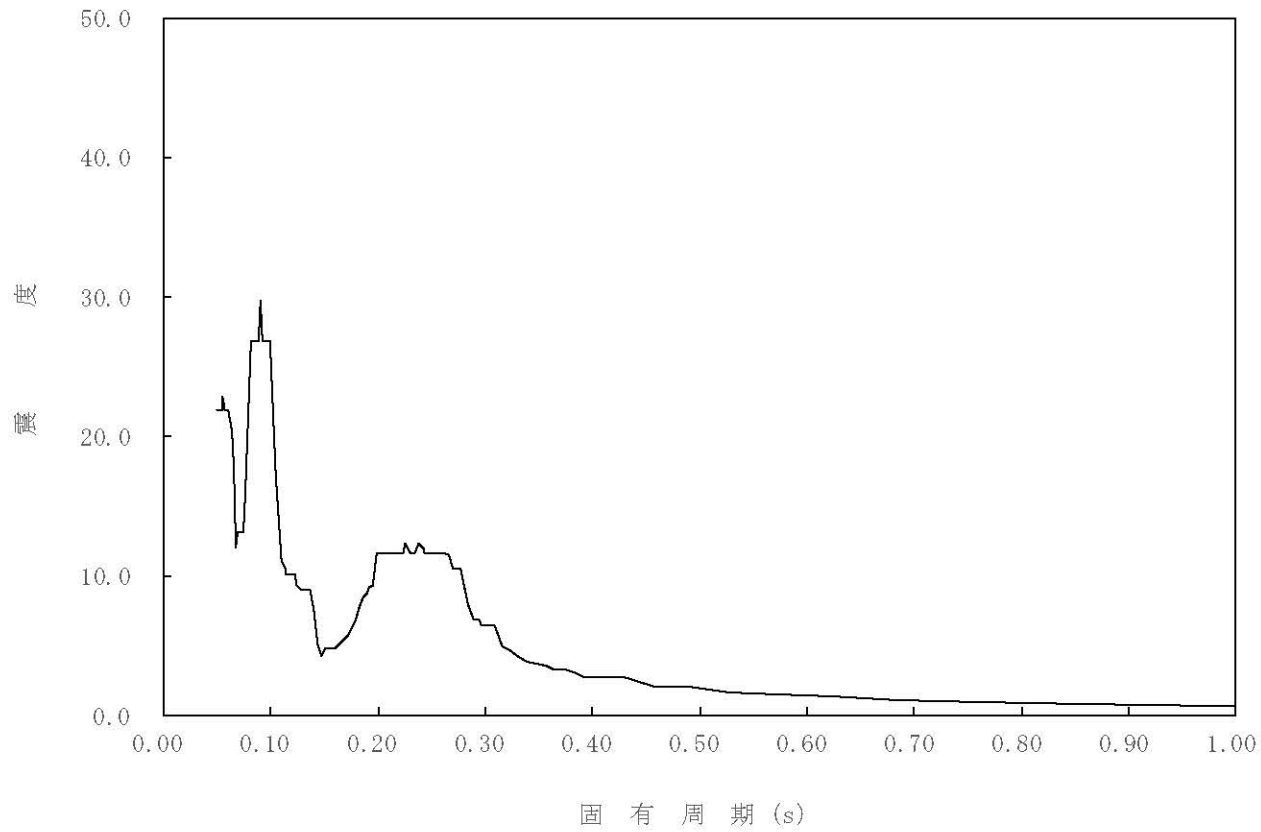
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-136

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV15-015】

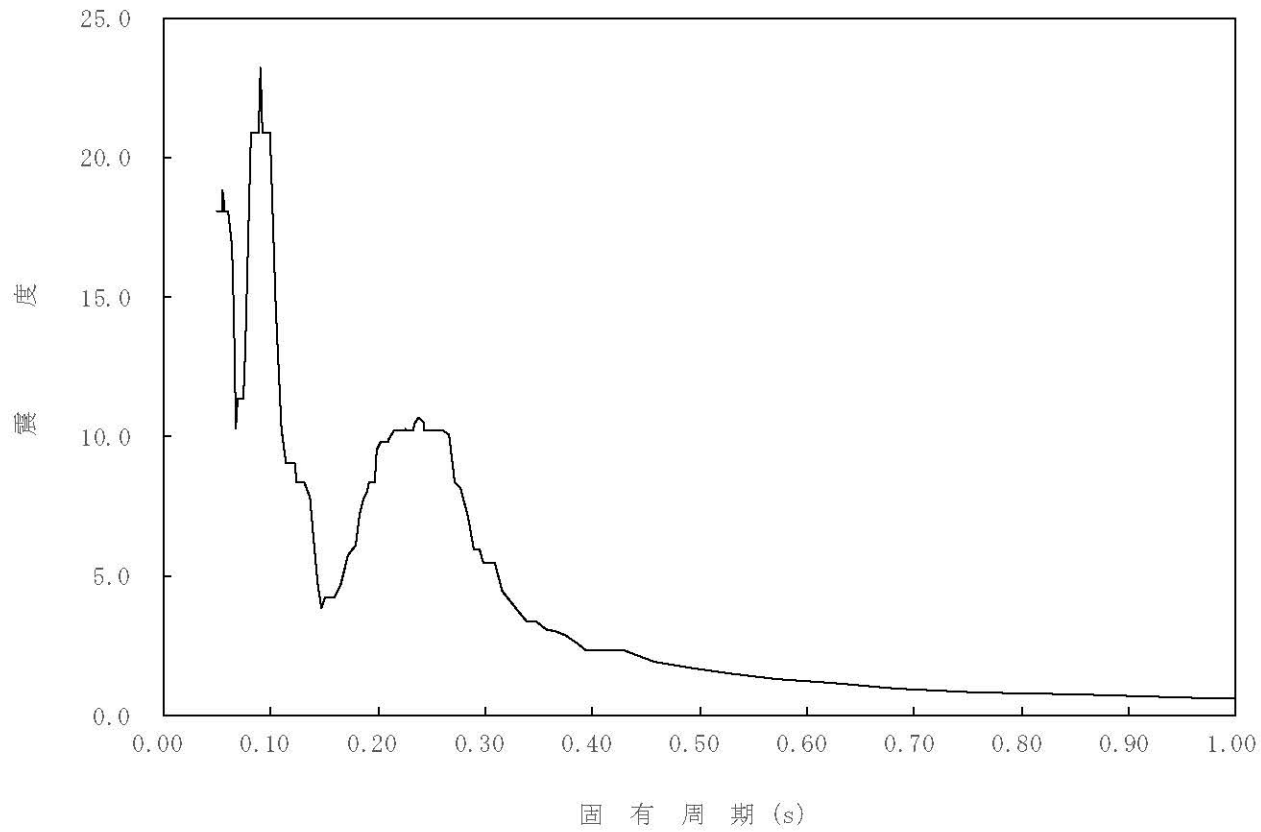
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-137

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV15-020】

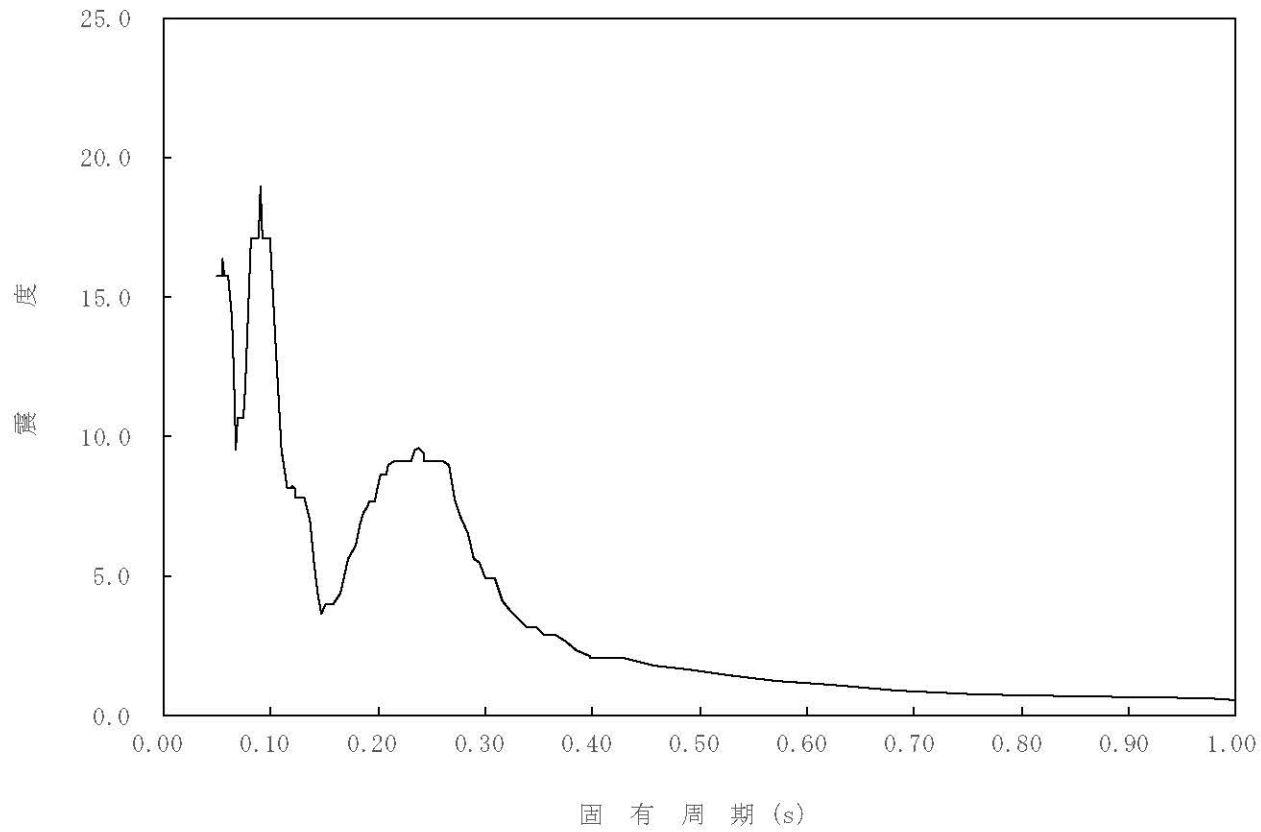
構造物名： 原子炉压力容器

標高： 0.P.

— 水平方向

減衰定数： 2.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-10-138

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV15-025】

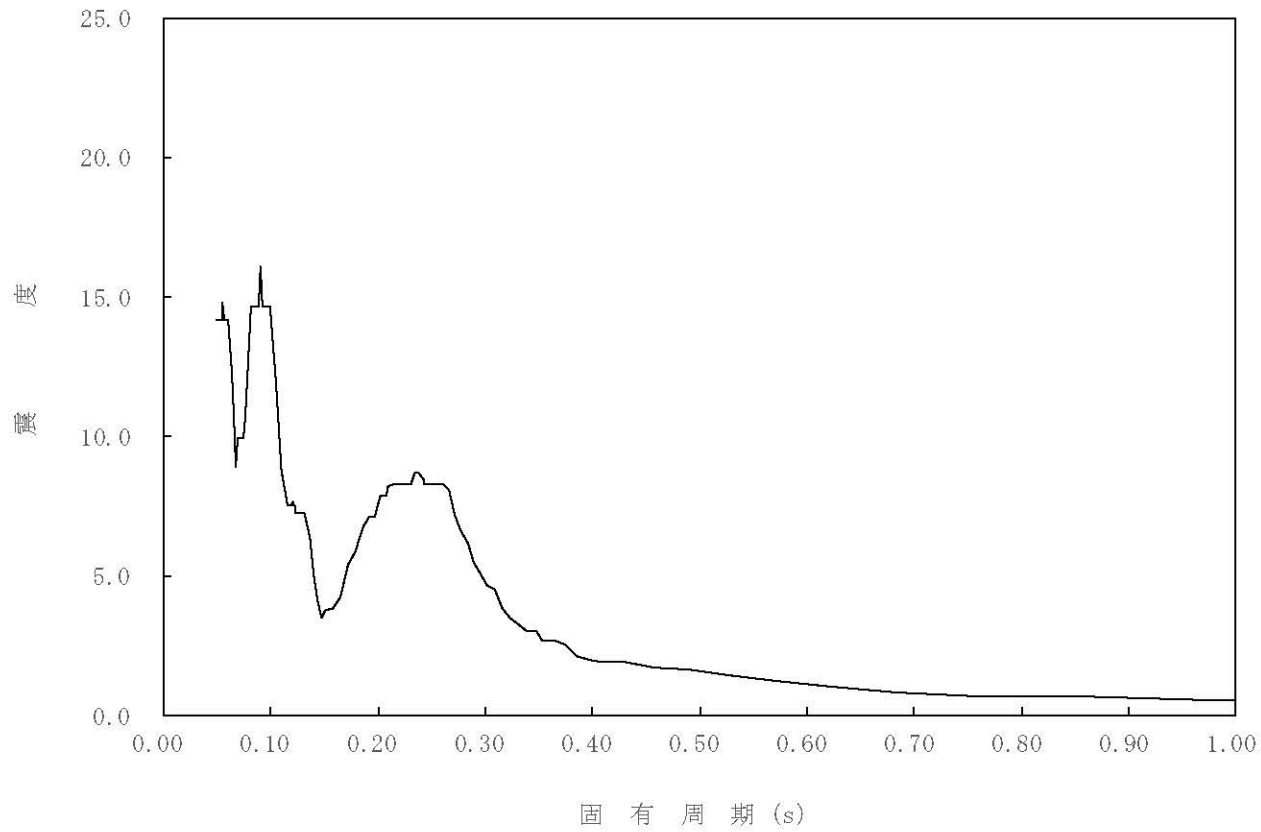
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-139

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV15-030】

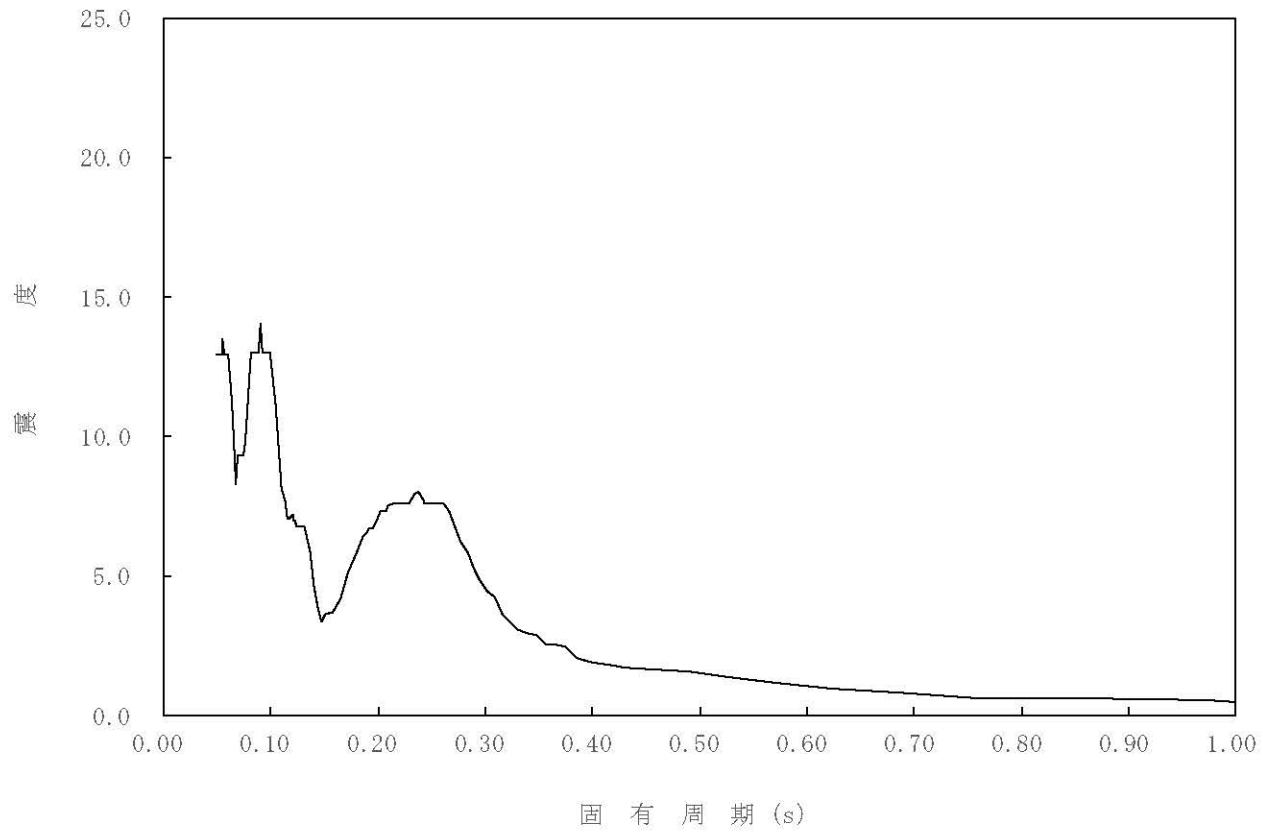
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-140

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV15-040】

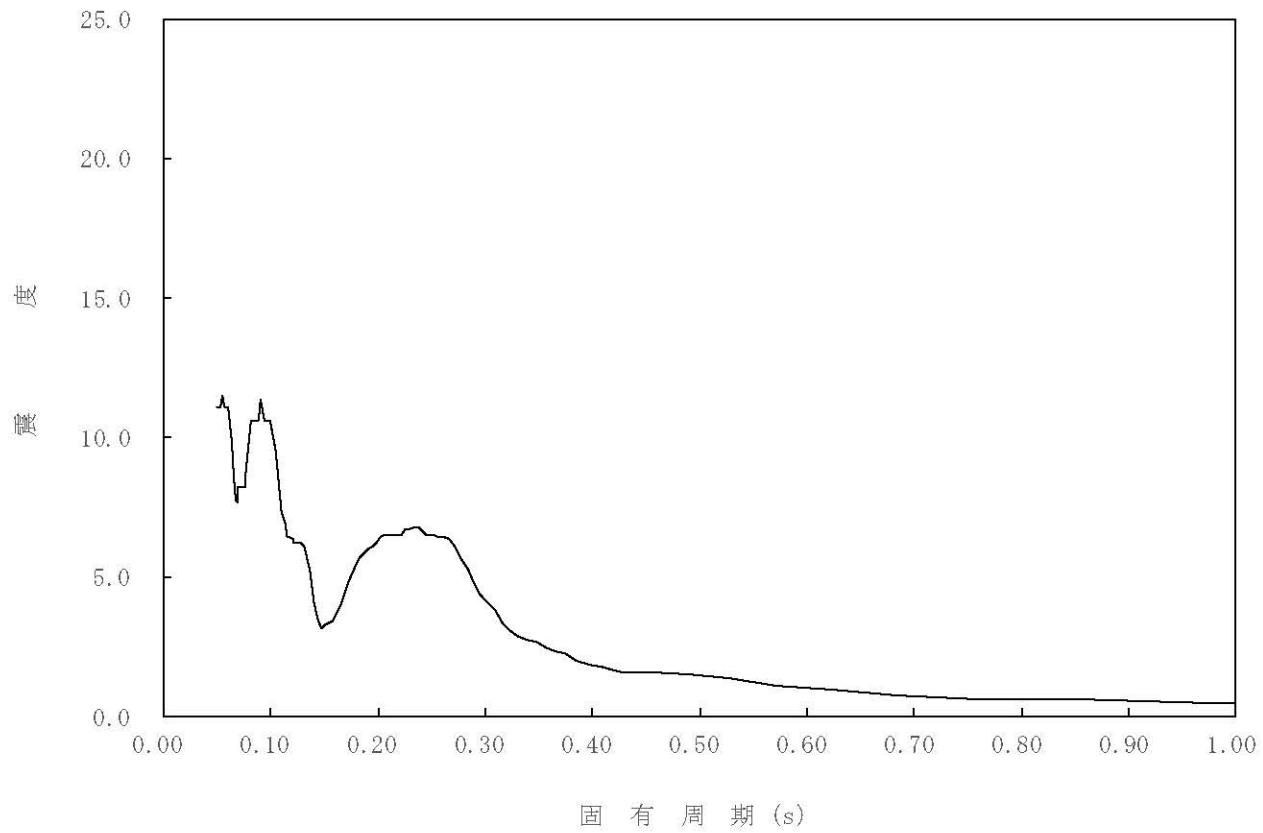
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-141

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV15-050】

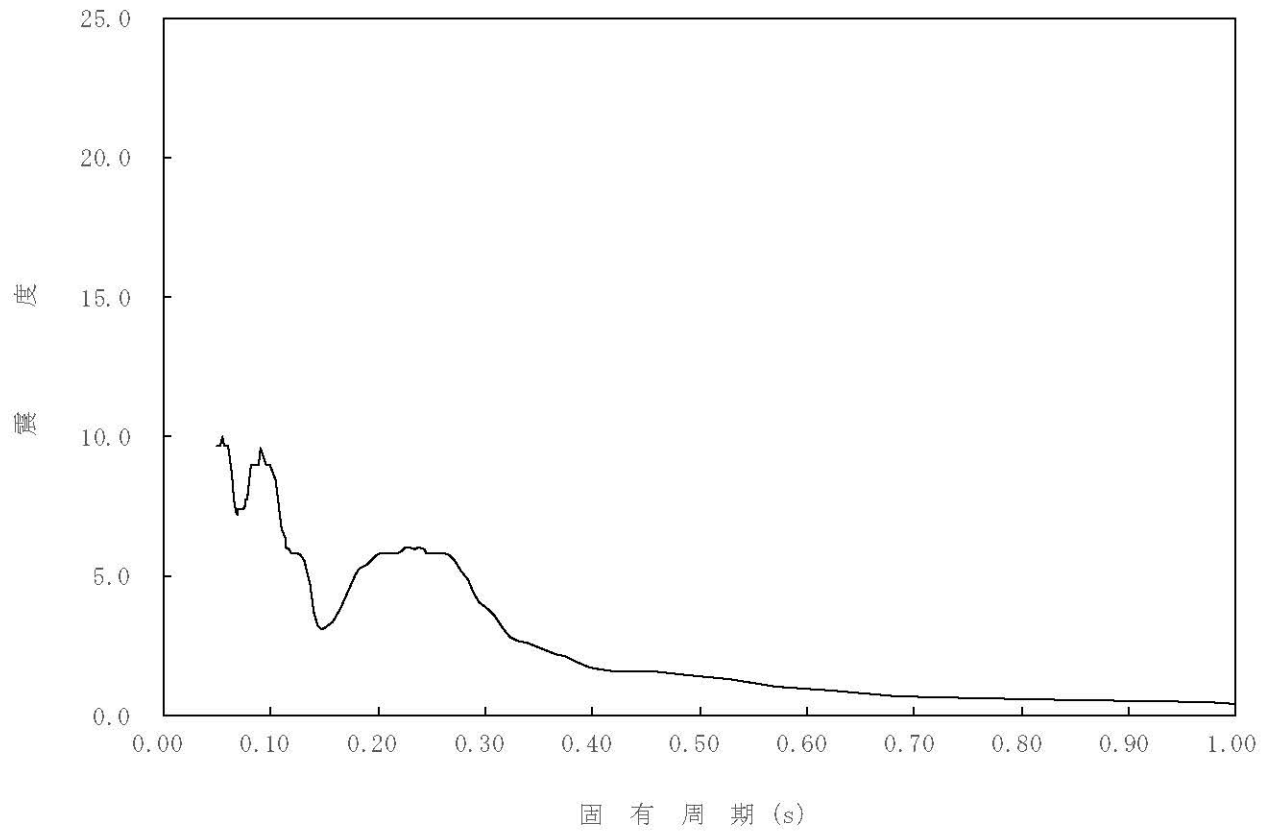
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-142

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV14-005】

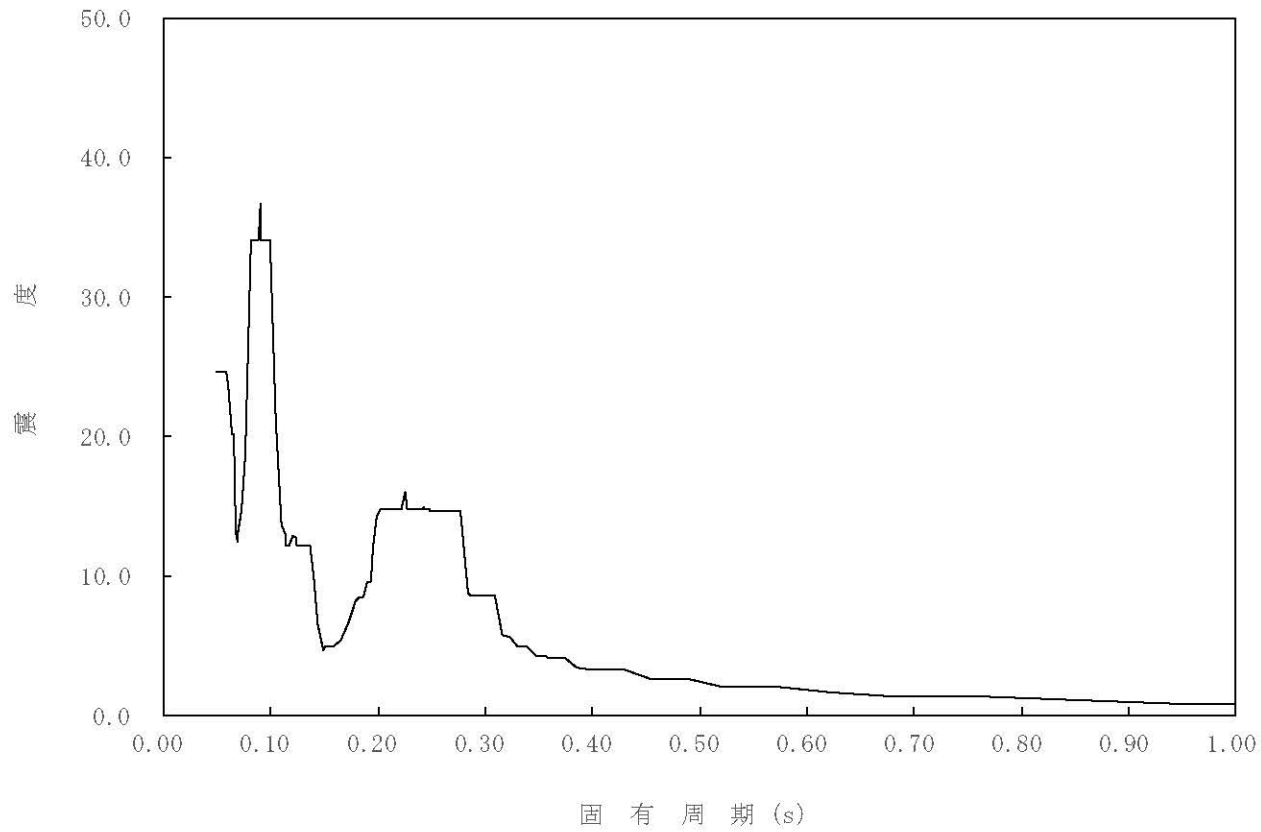
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-143

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV14-010】

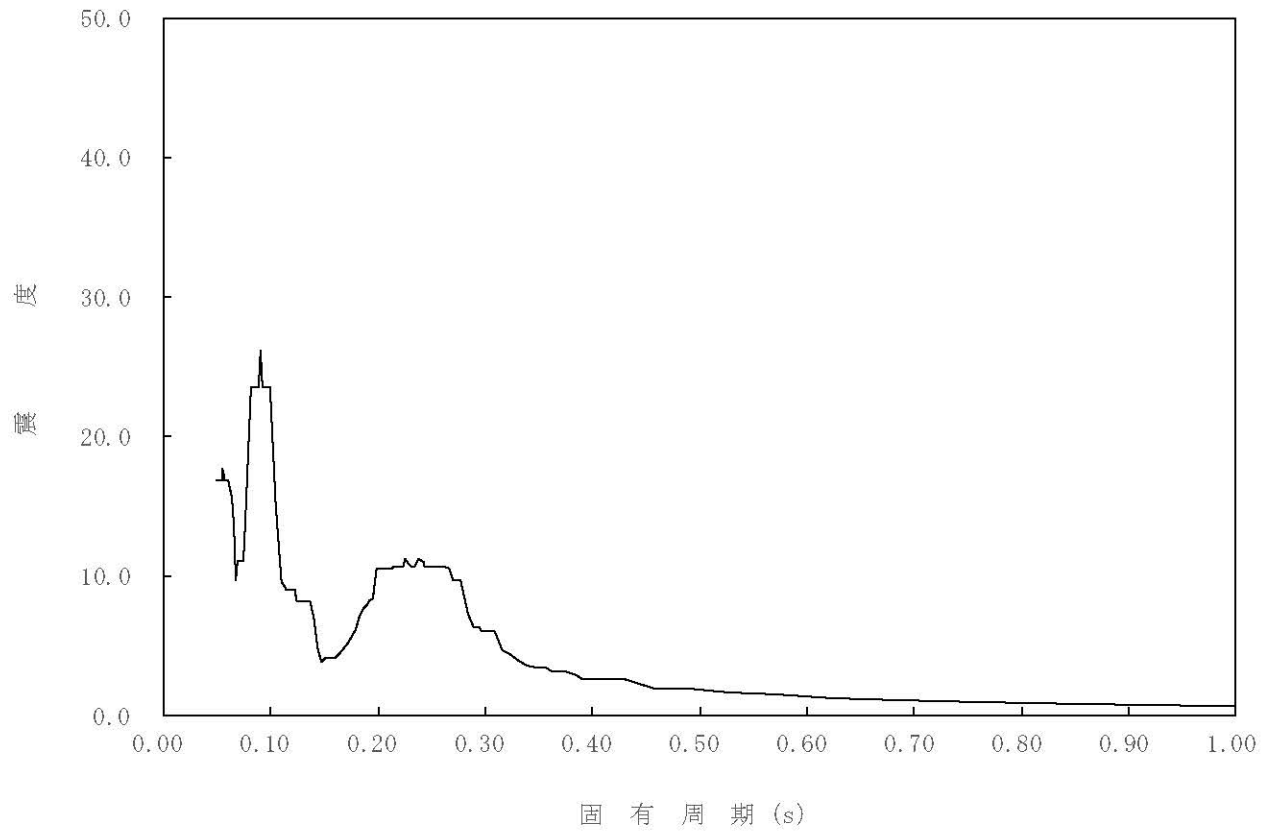
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-144

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV14-015】

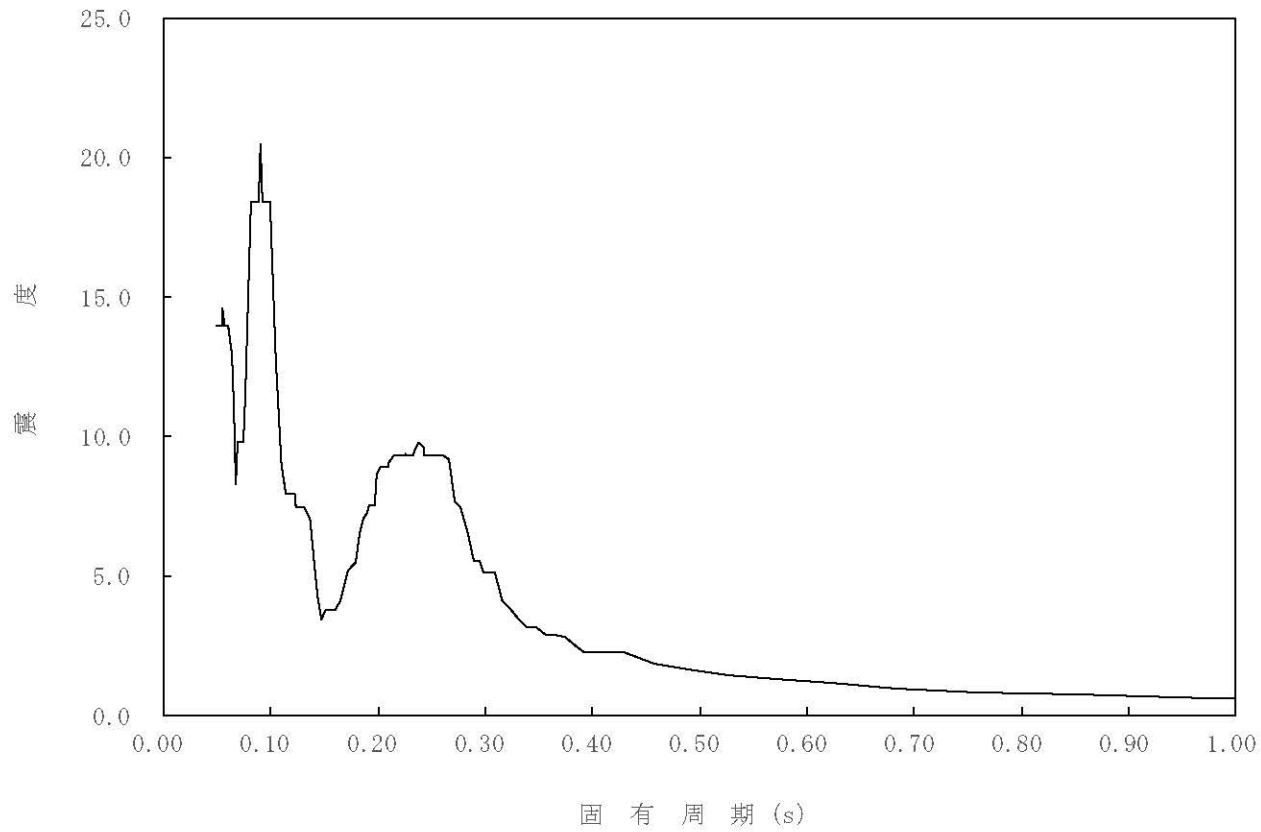
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-145

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV14-020】

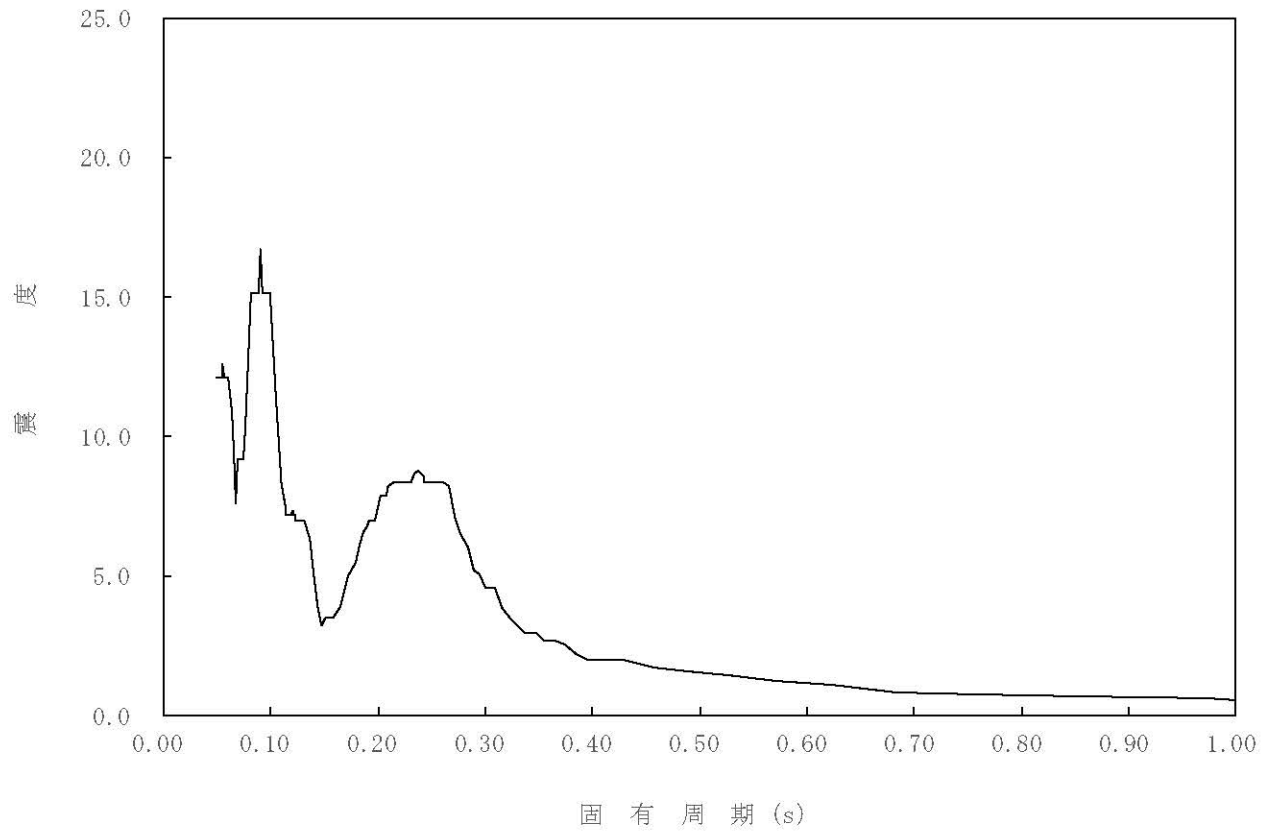
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-146

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV14-025】

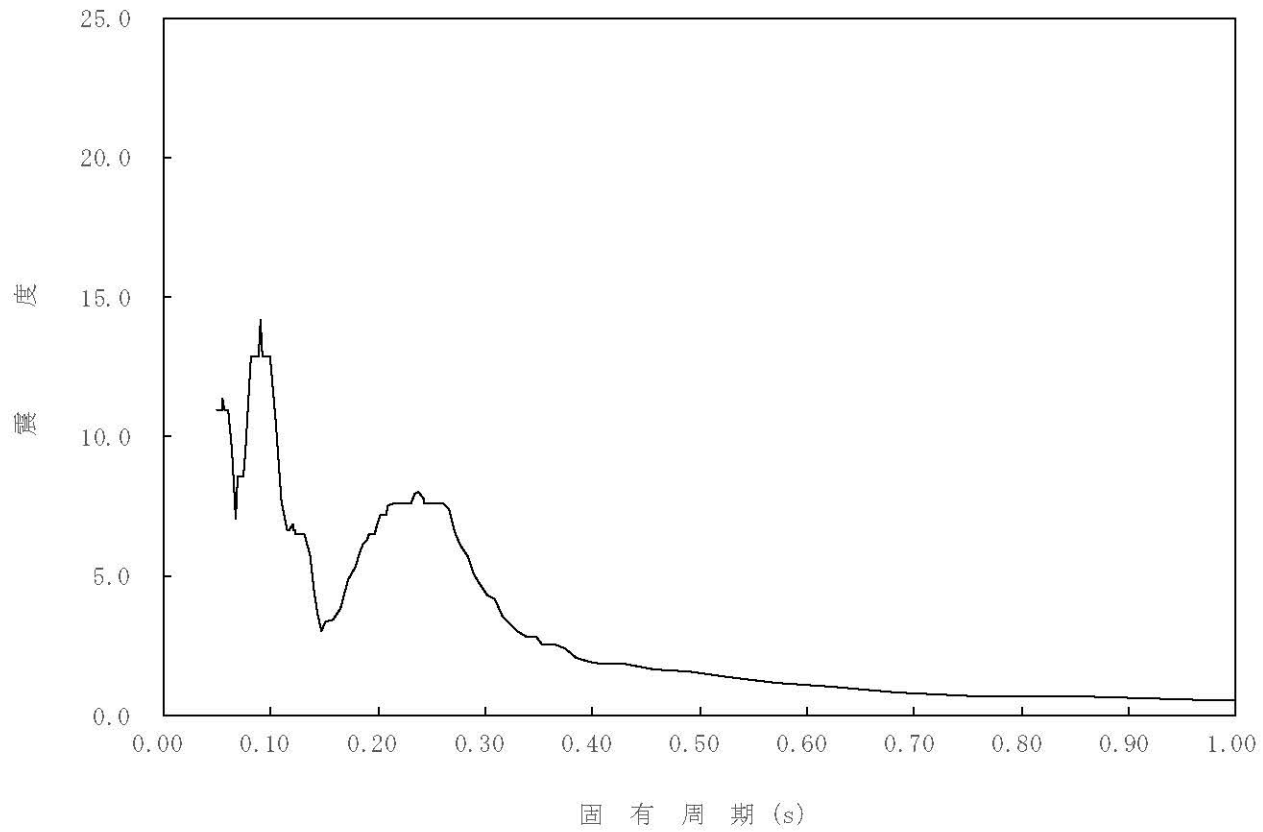
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-147

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV14-030】

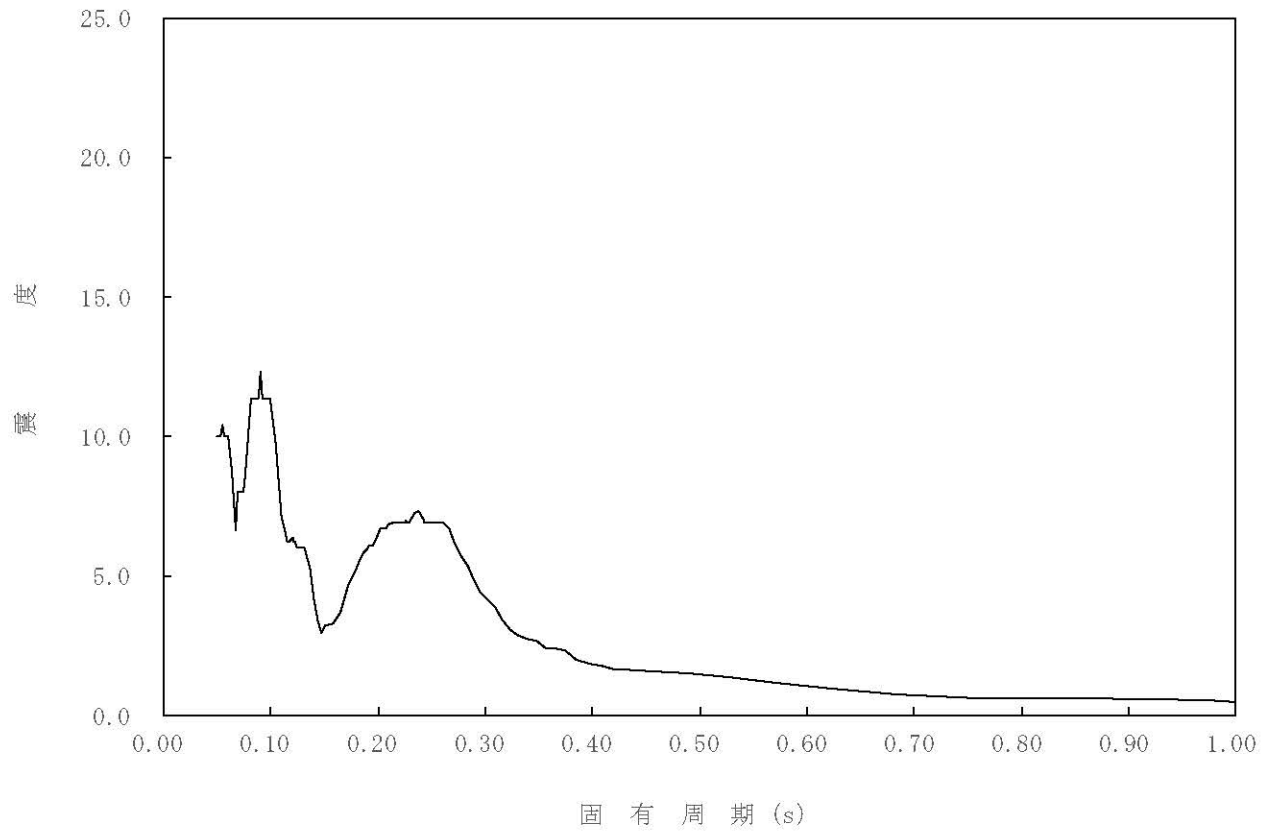
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-148

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV14-040】

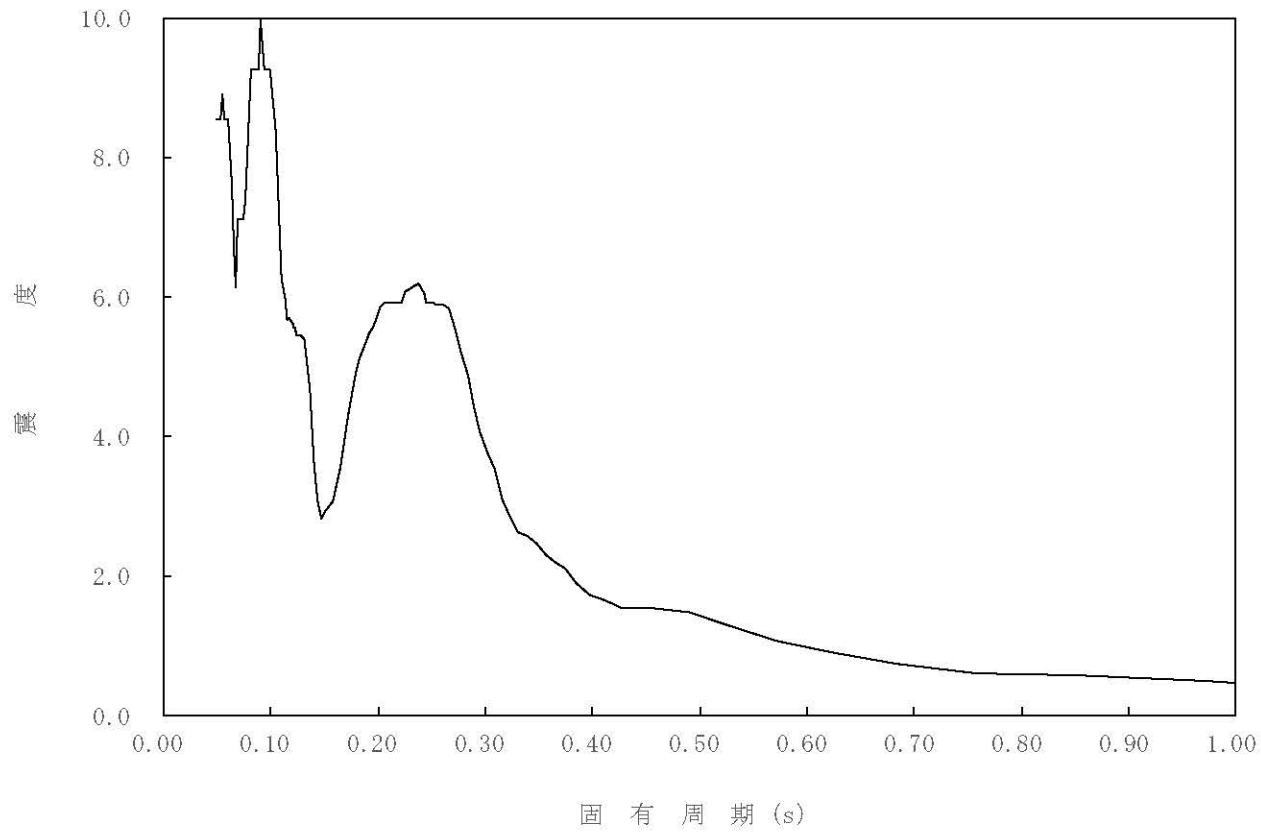
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-149

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV14-050】

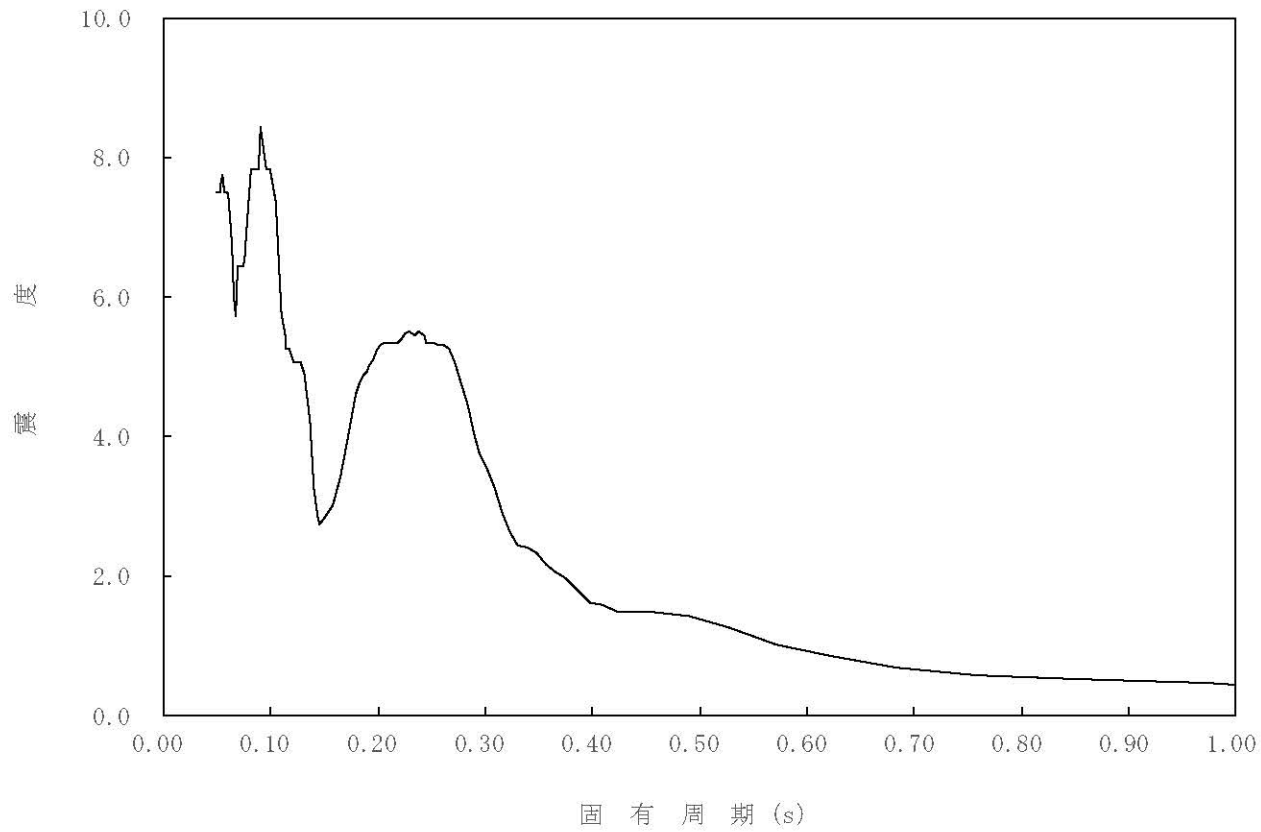
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-150

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV13-005】

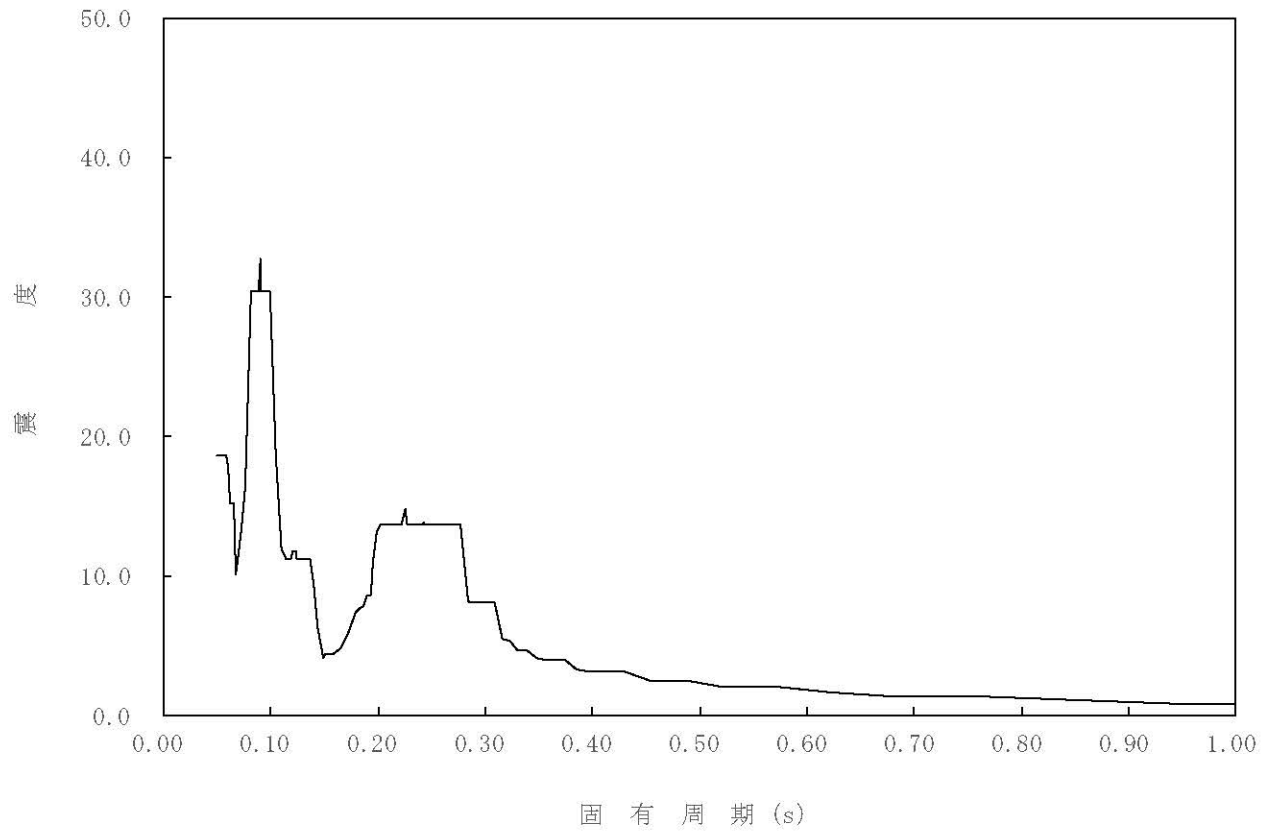
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-151

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV13-010】

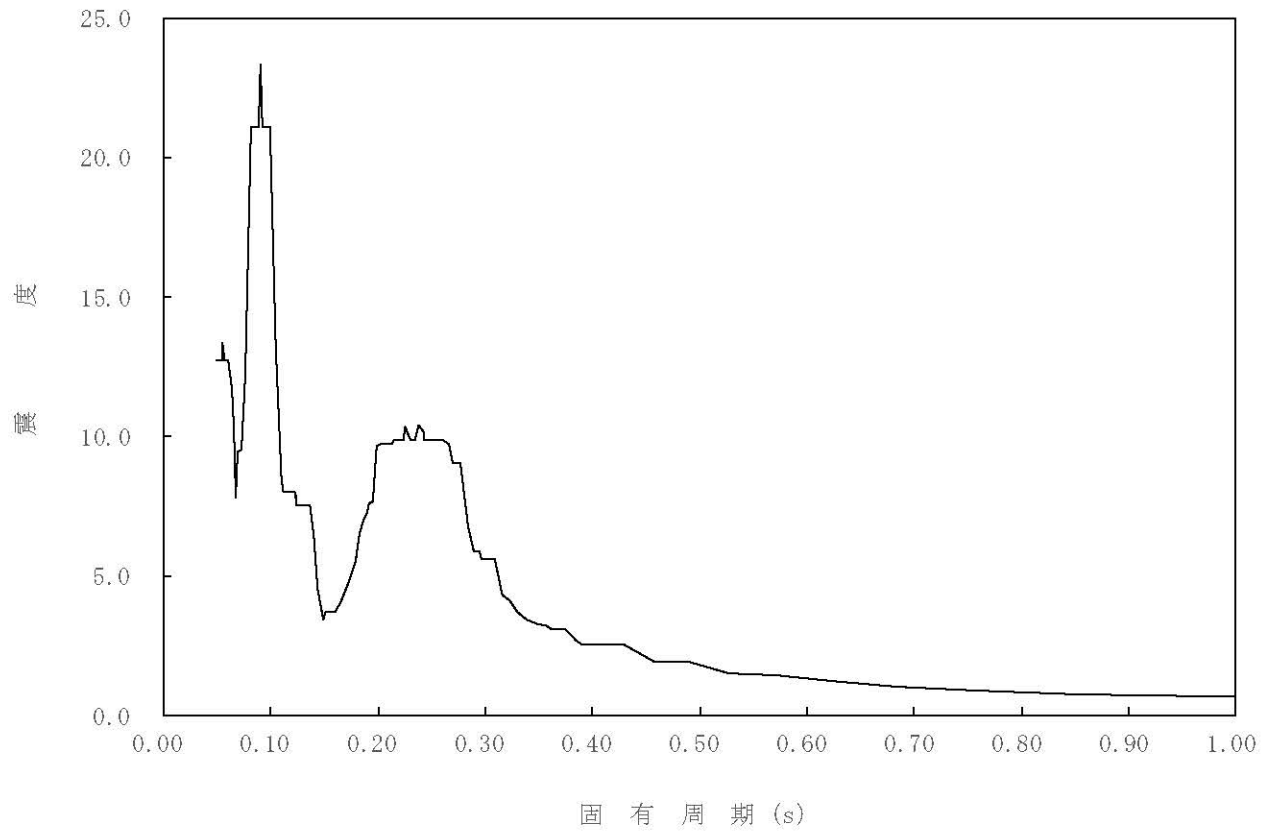
構造物名： 原子炉压力容器

標高： 0.P.

— 水平方向

減衰定数： 1.0%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-10-152

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV13-015】

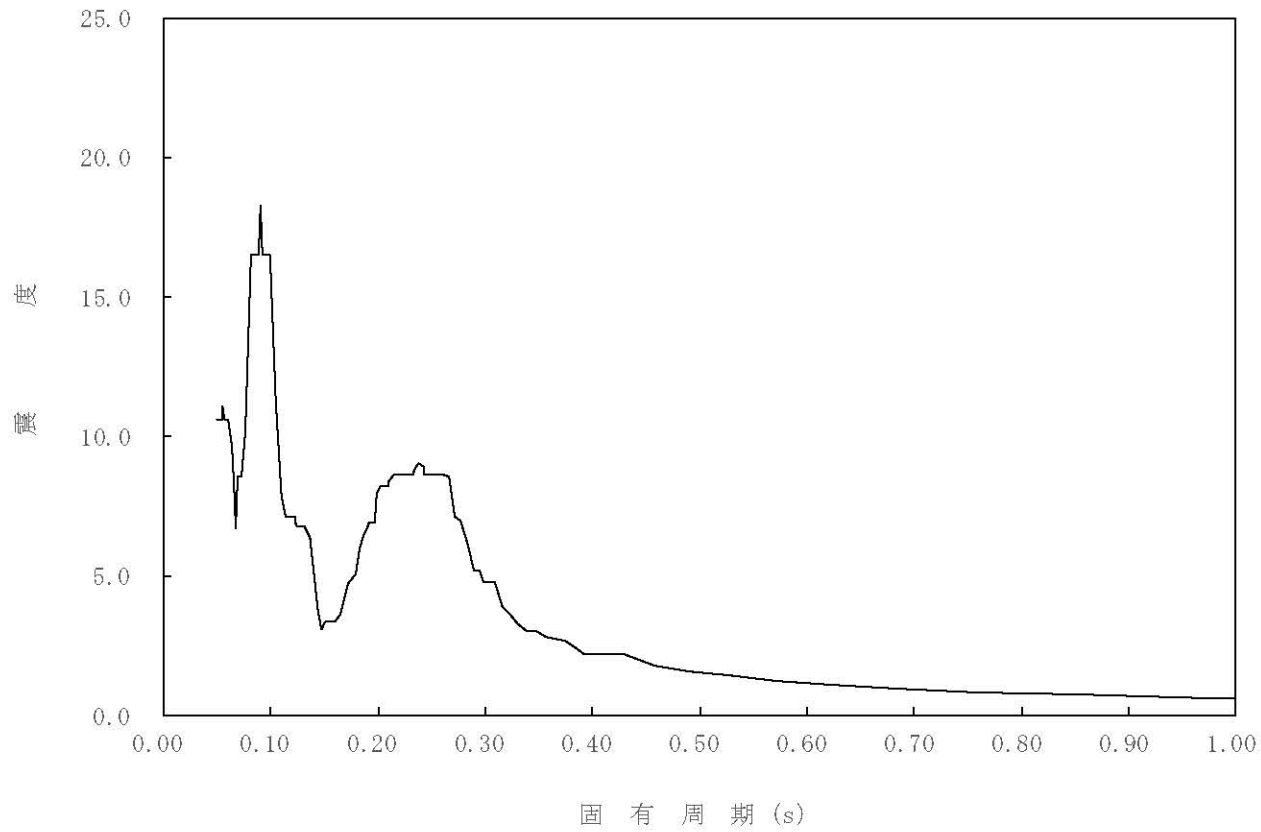
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-153

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV13-020】

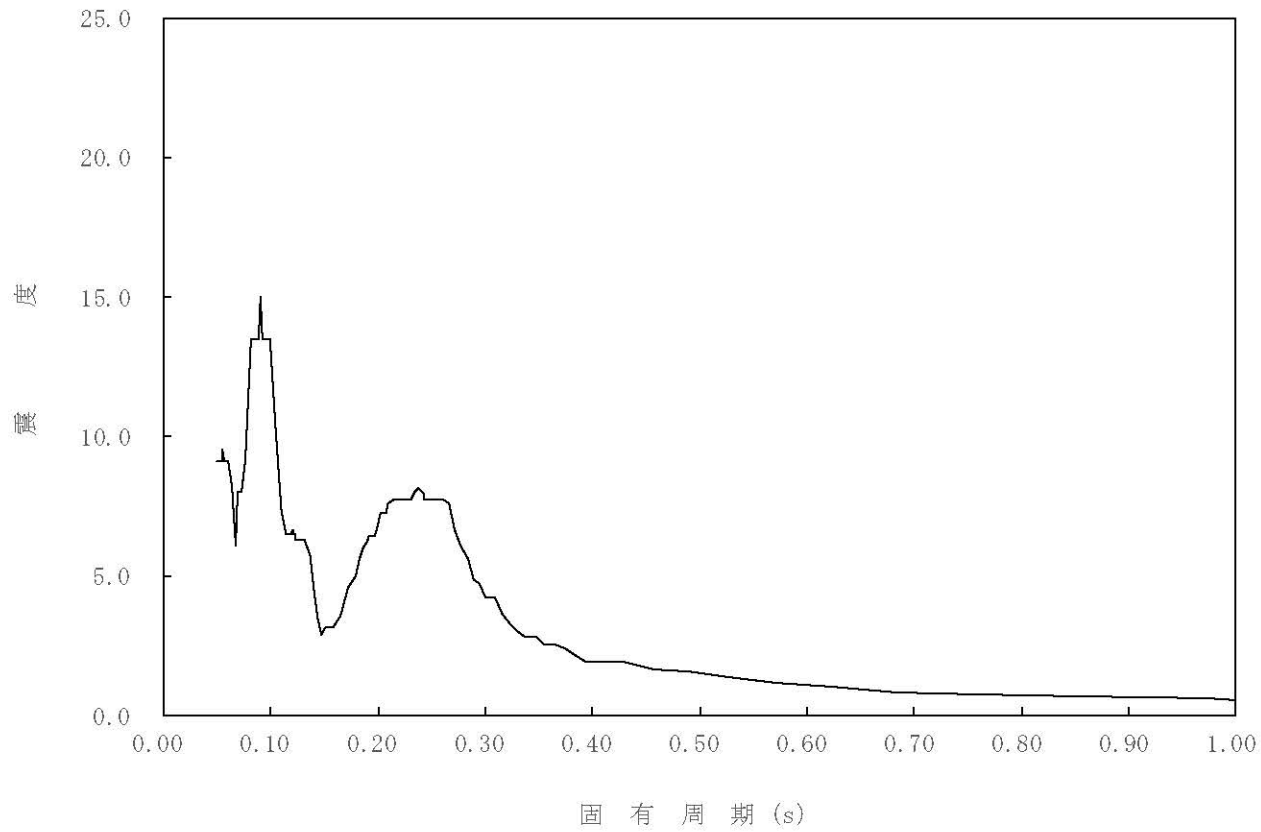
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-154

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV13-025】

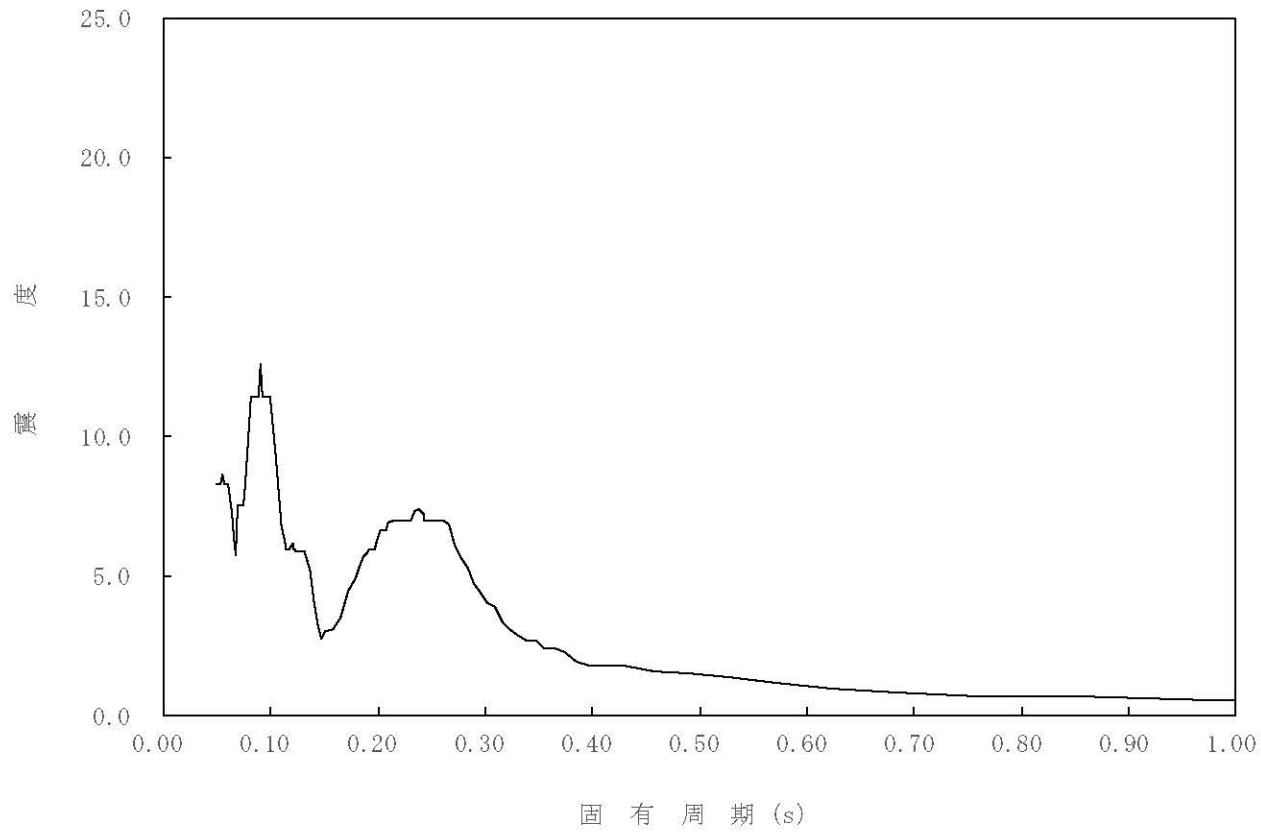
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-155

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV13-030】

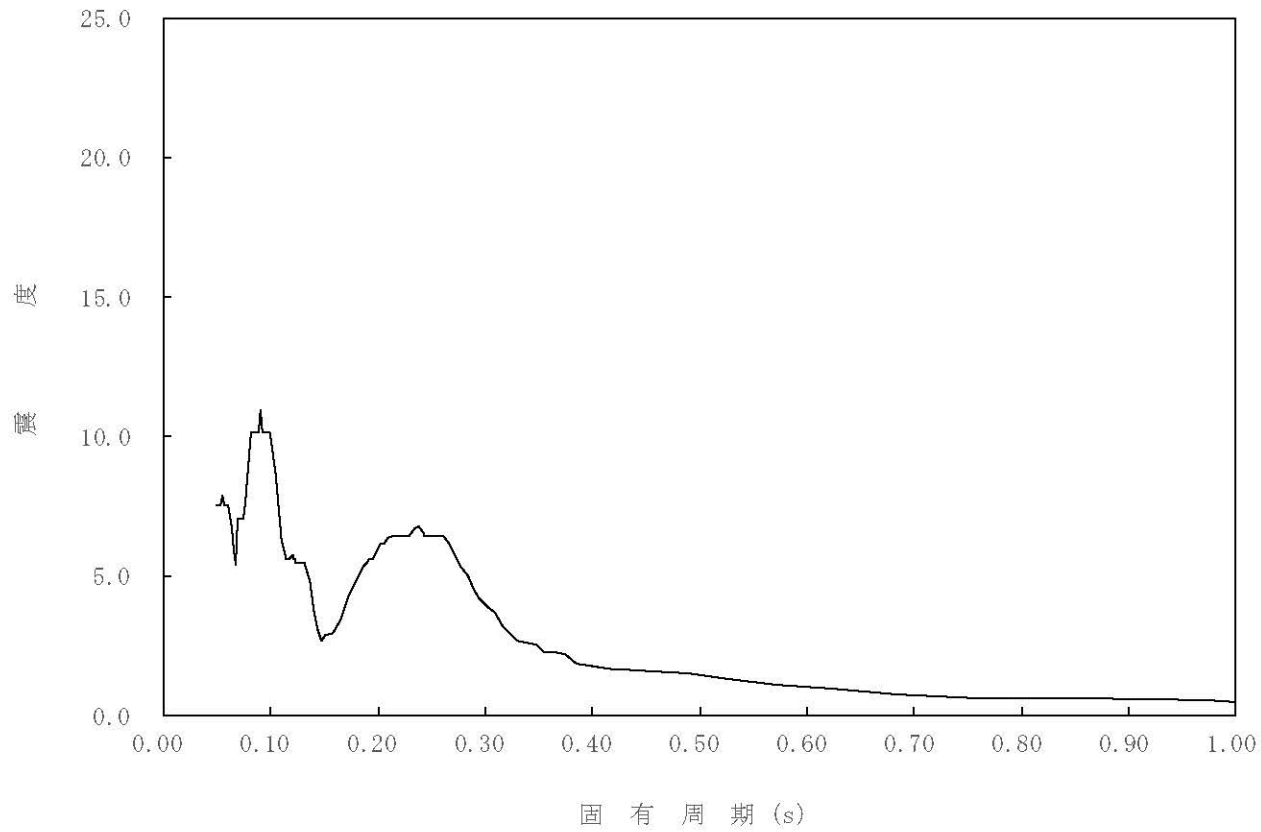
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-156

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV13-040】

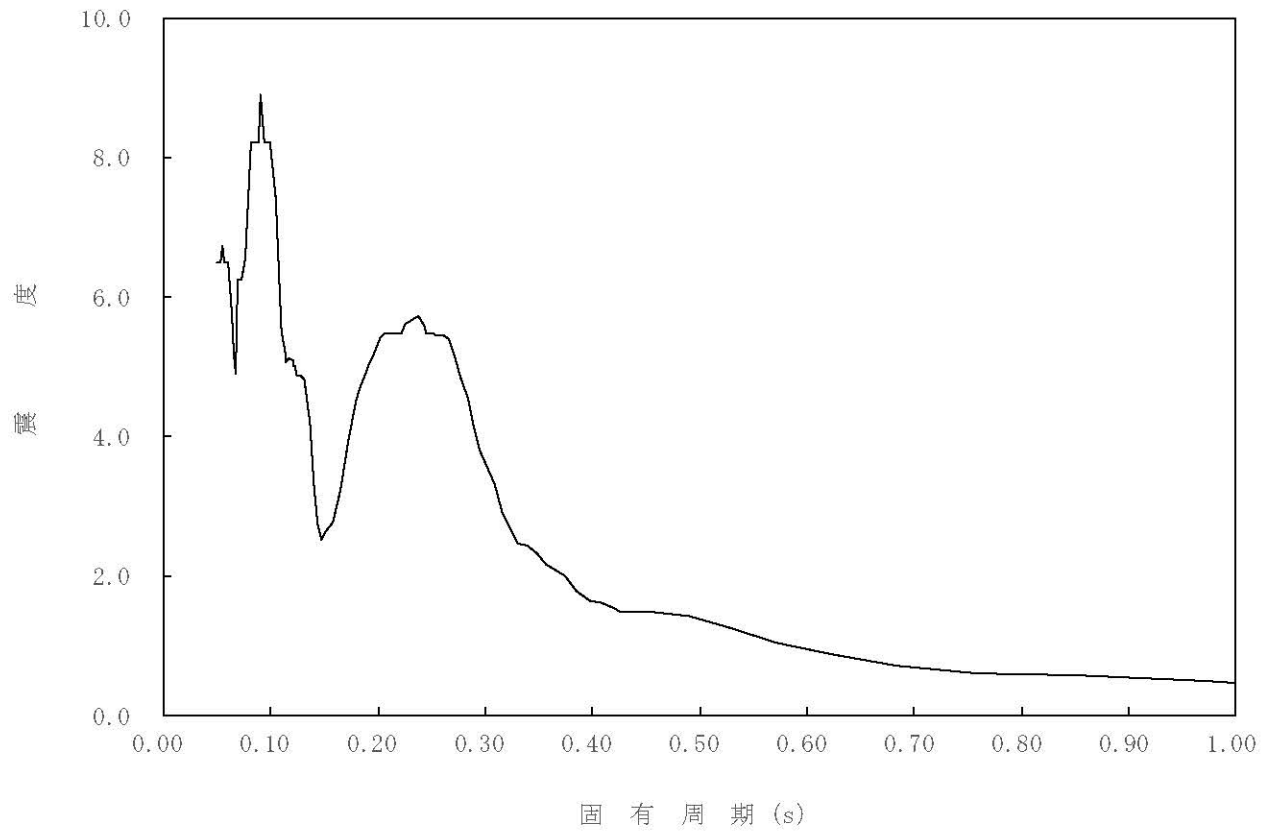
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-157

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV13-050】

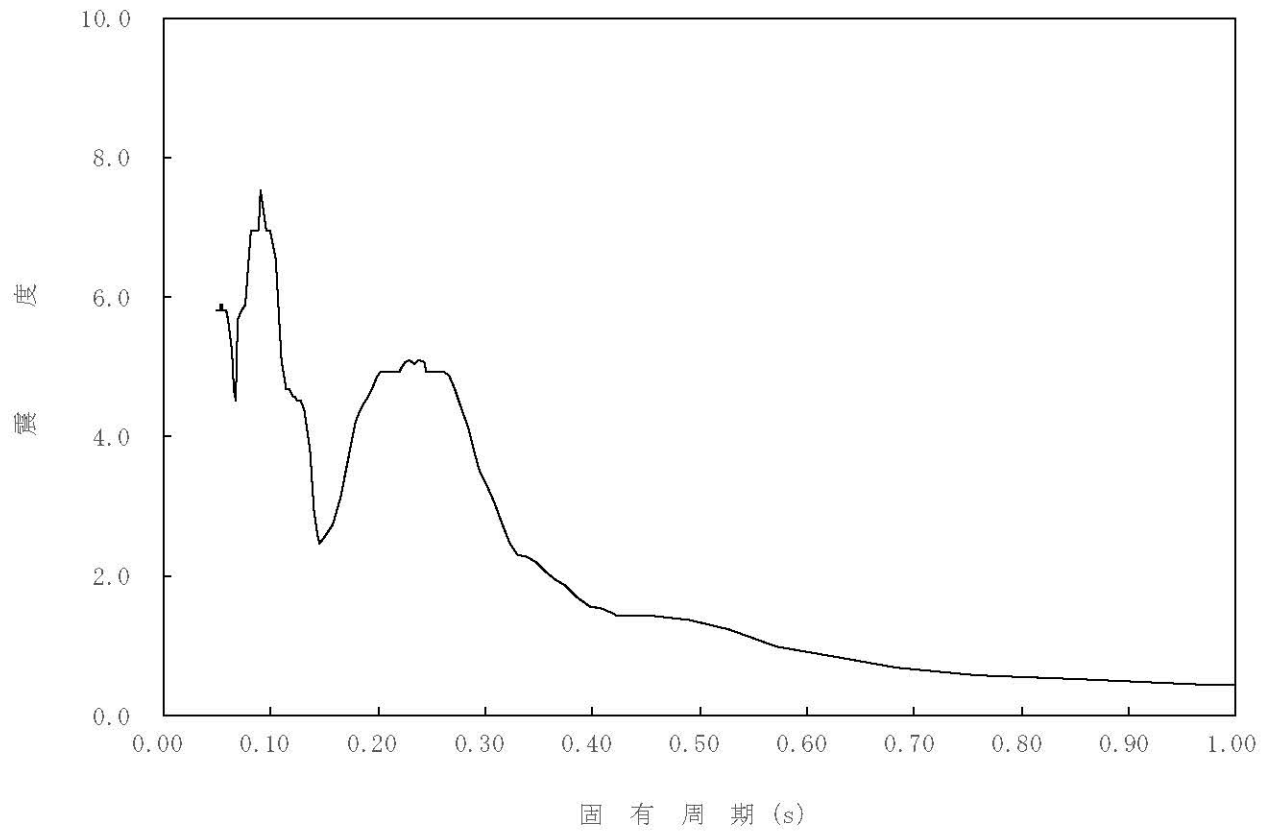
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-158

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV12-005】

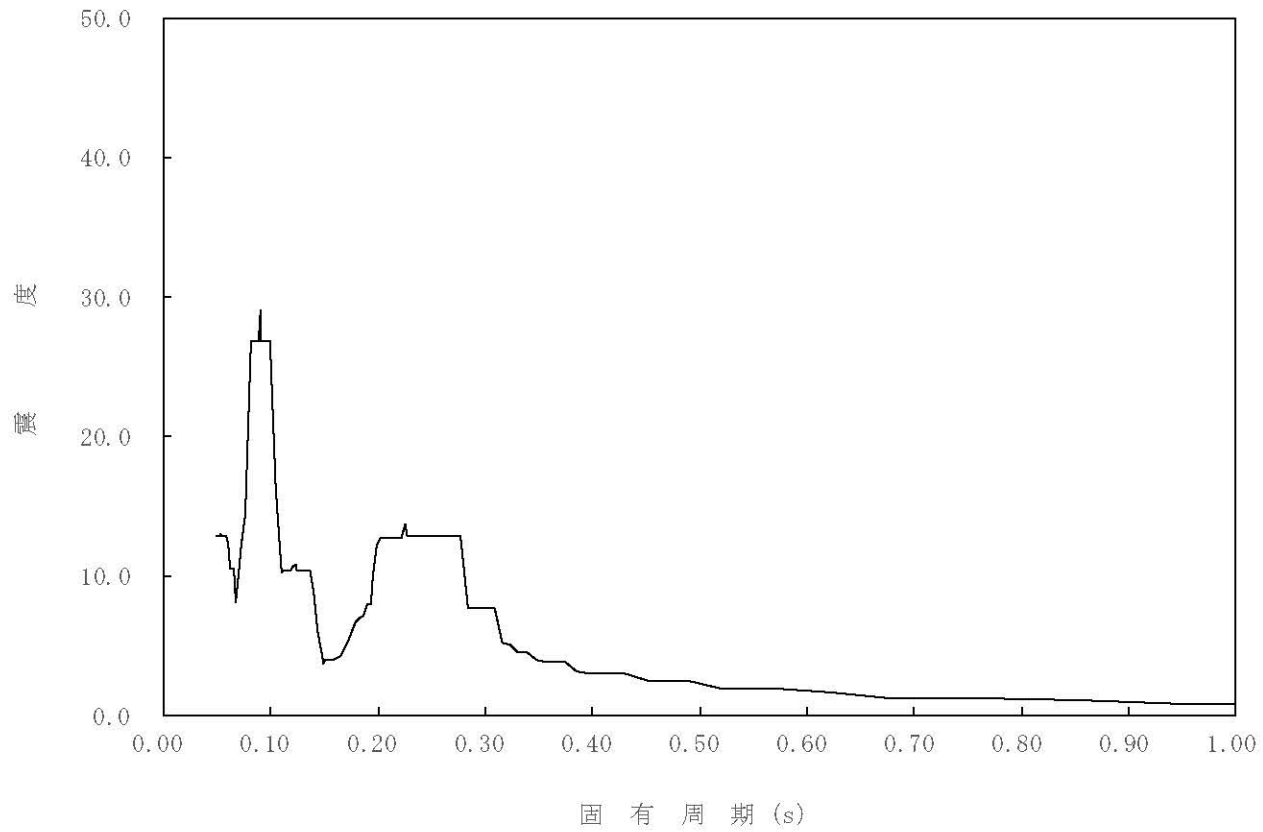
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-159

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV12-010】

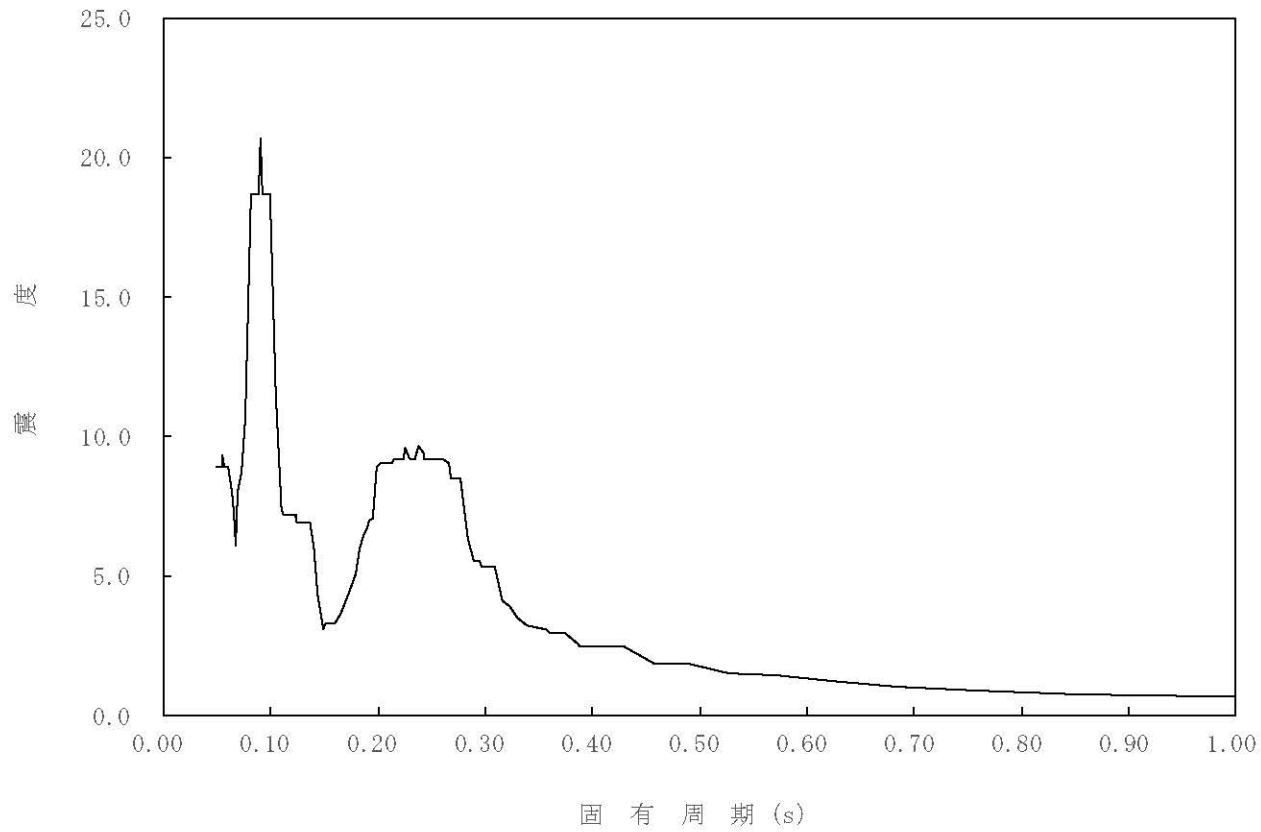
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-160

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV12-015】

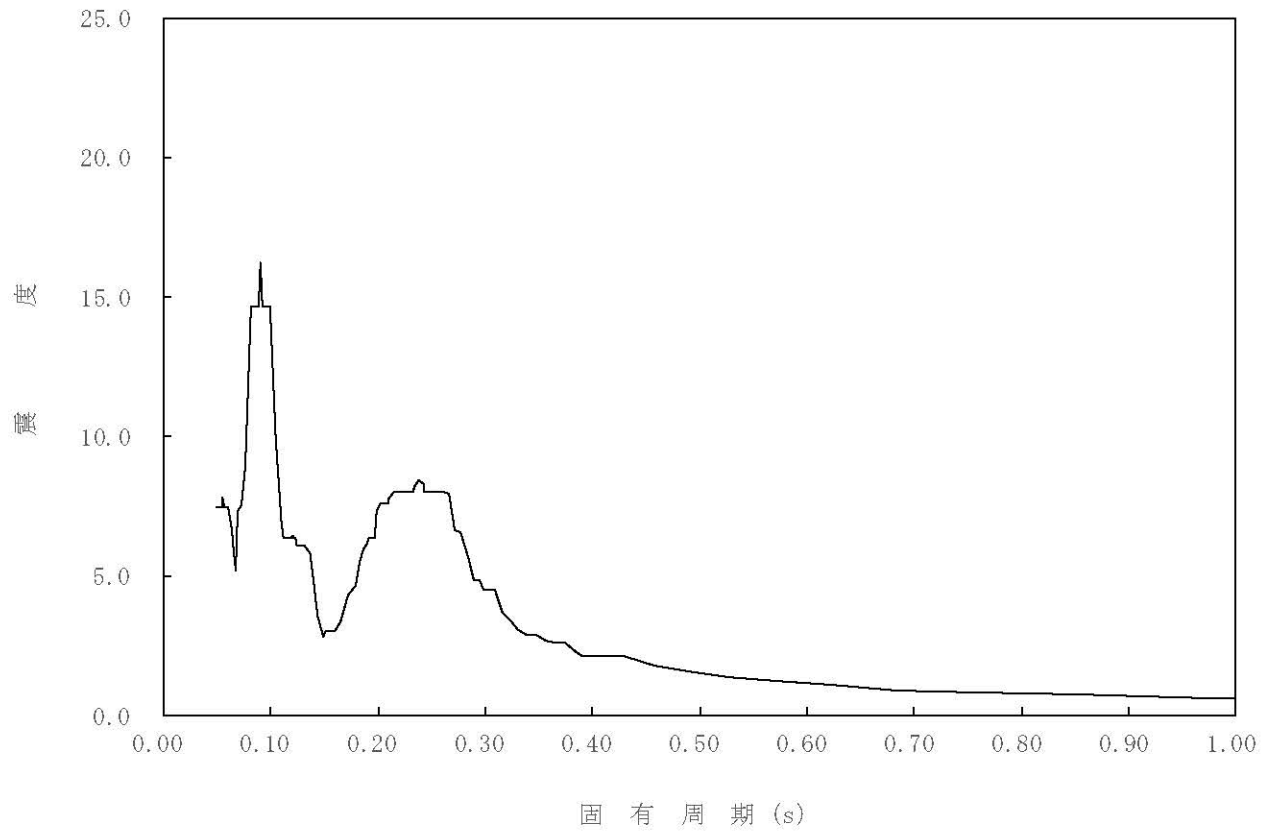
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-161

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV12-020】

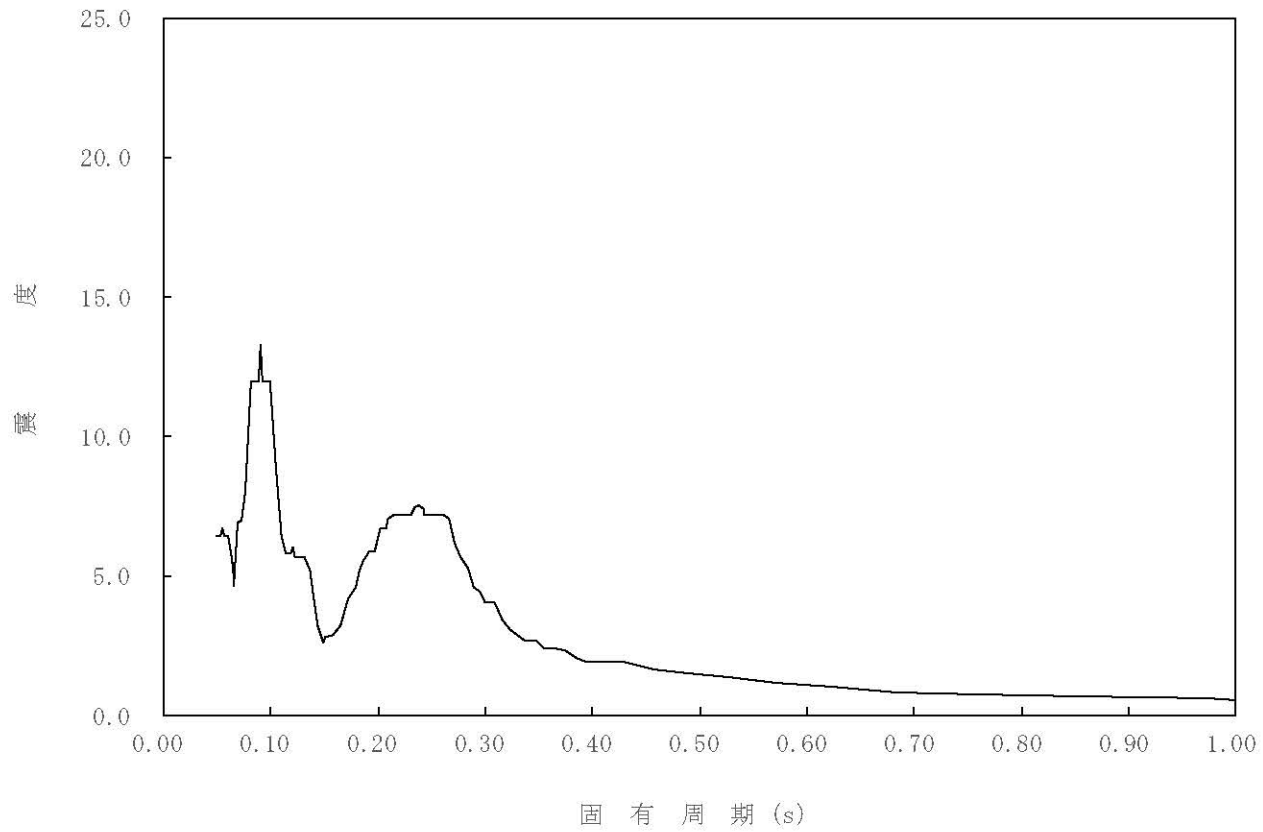
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-162

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV12-025】

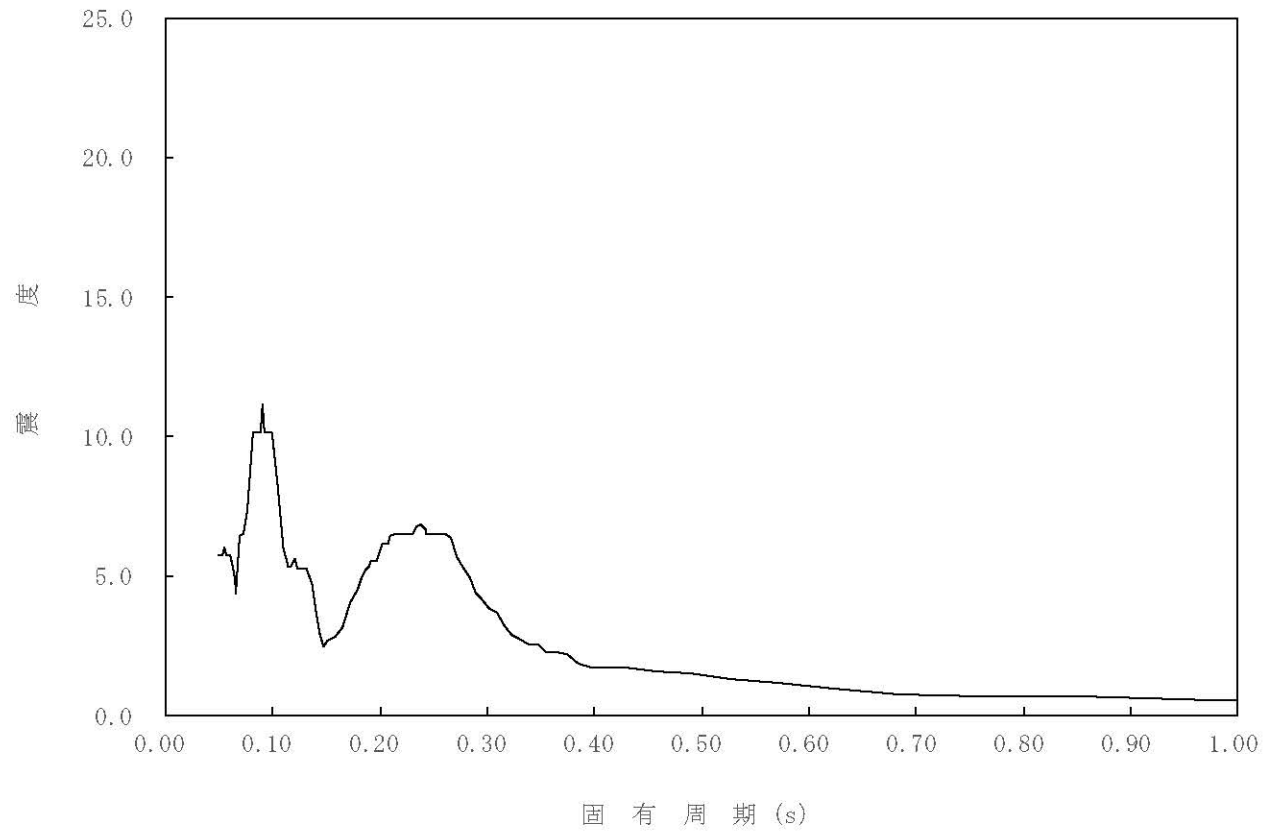
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-163

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV12-030】

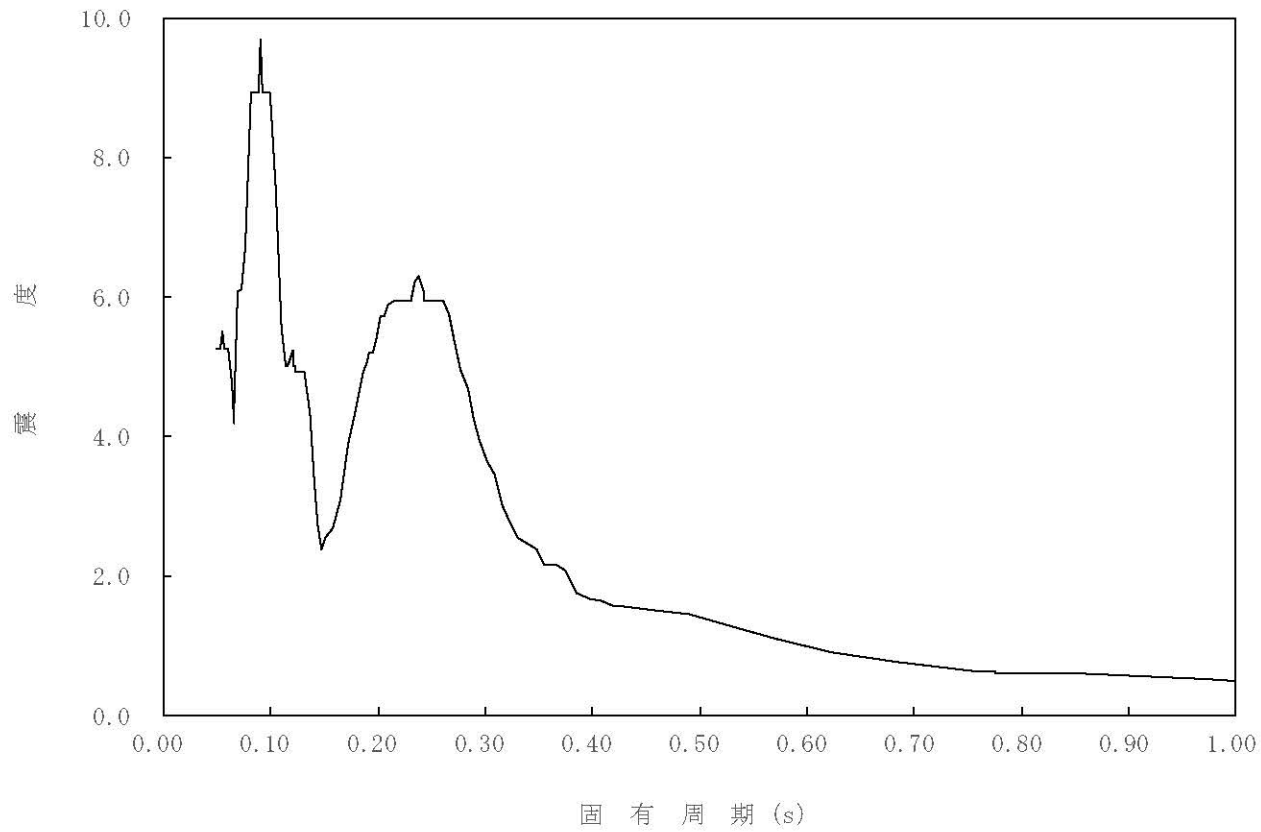
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-164

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV12-040】

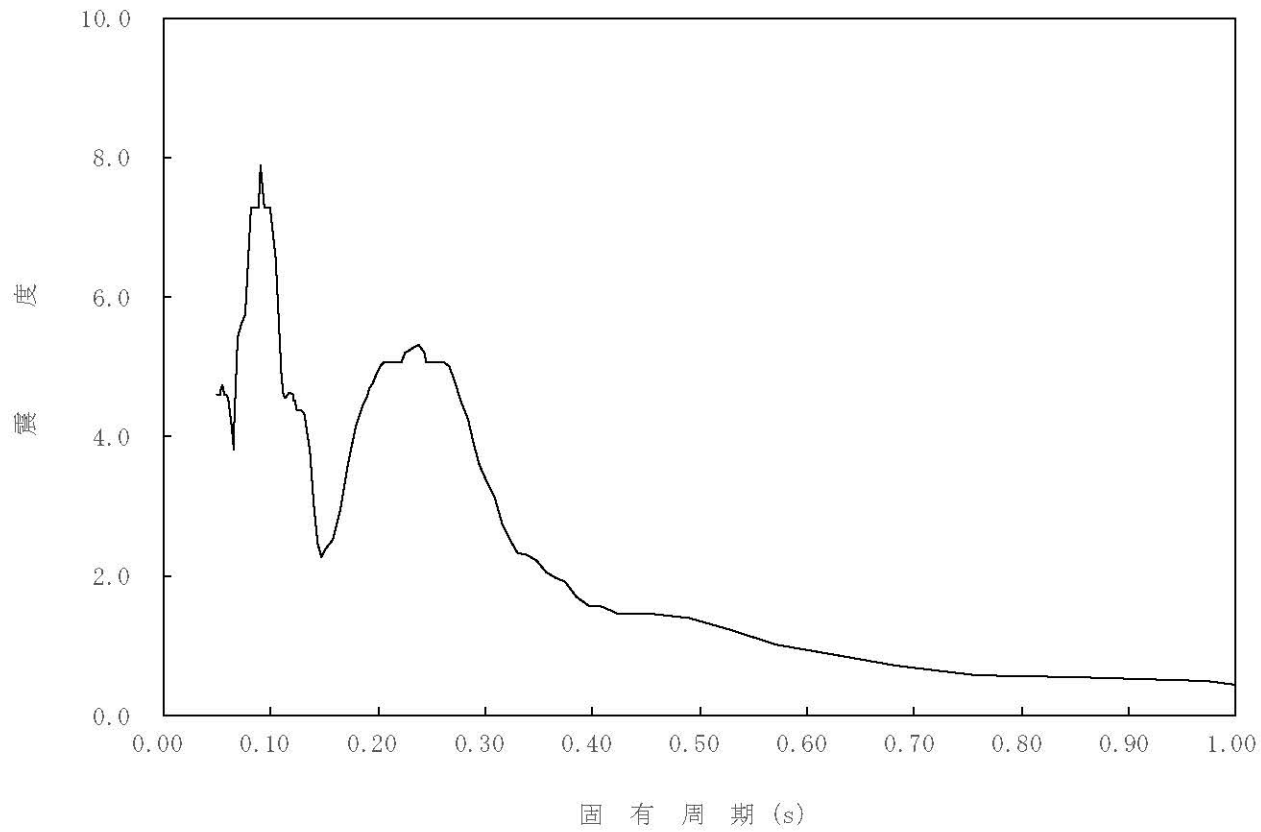
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-165

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV12-050】

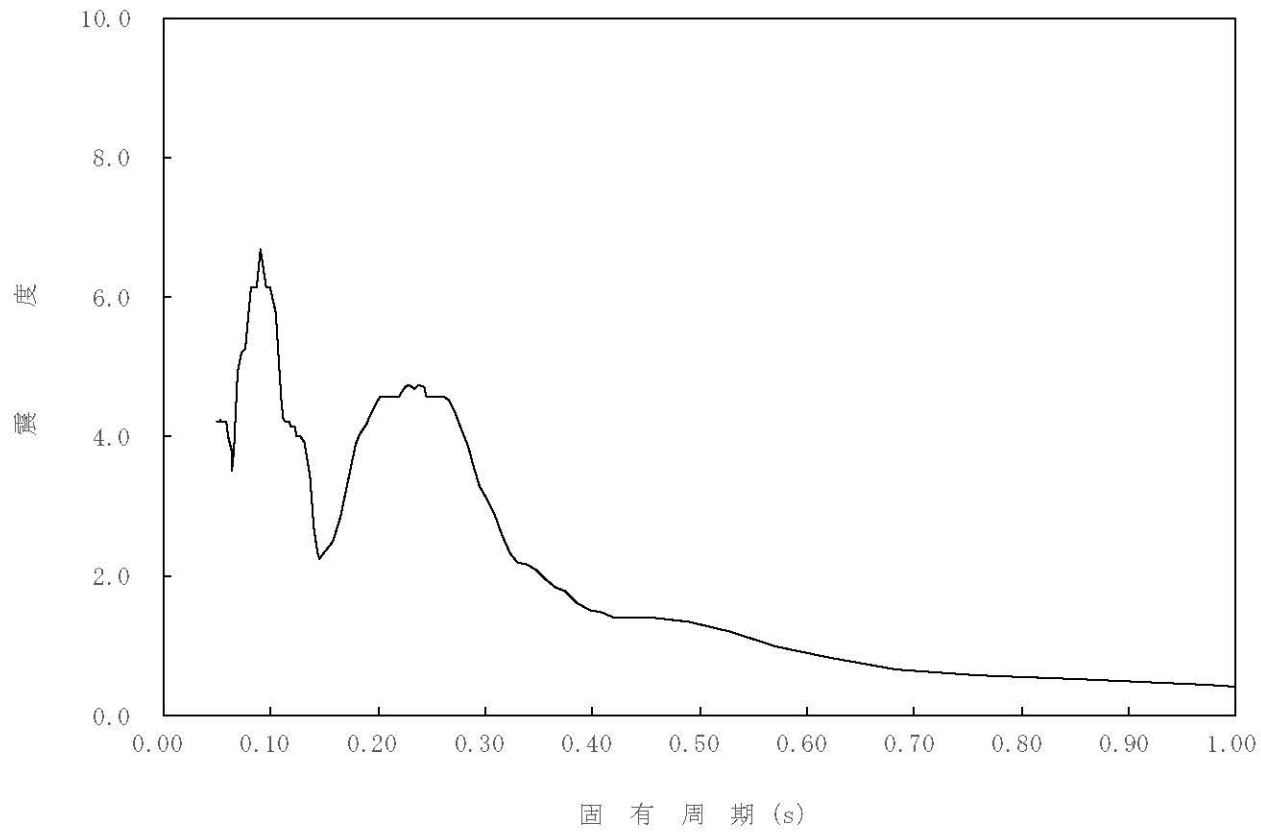
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-166

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV11-005】

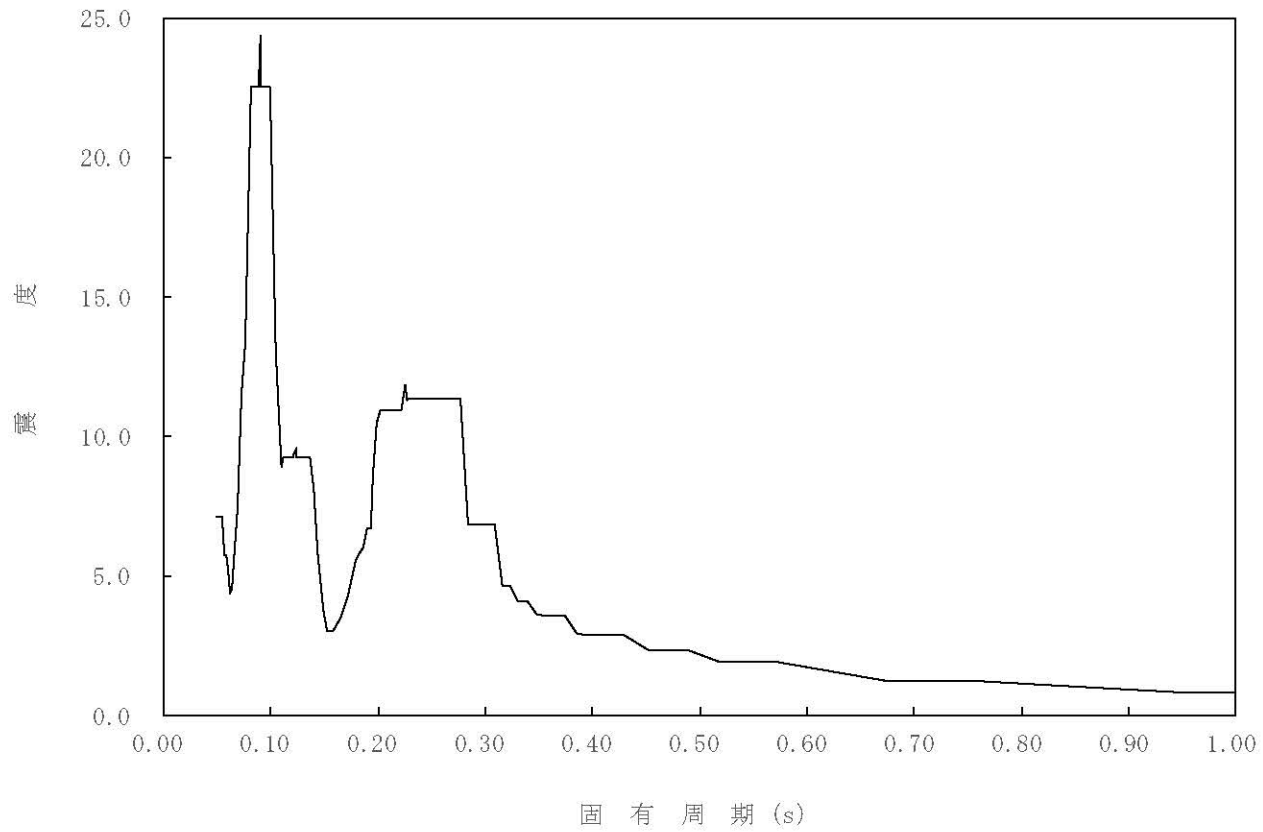
構造物名： 原子炉压力容器

標高： 0.P.

— 水平方向

減衰定数： 0.5%

波形名： 弾性設計用地震動 S d



2-10-167

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV11-010】

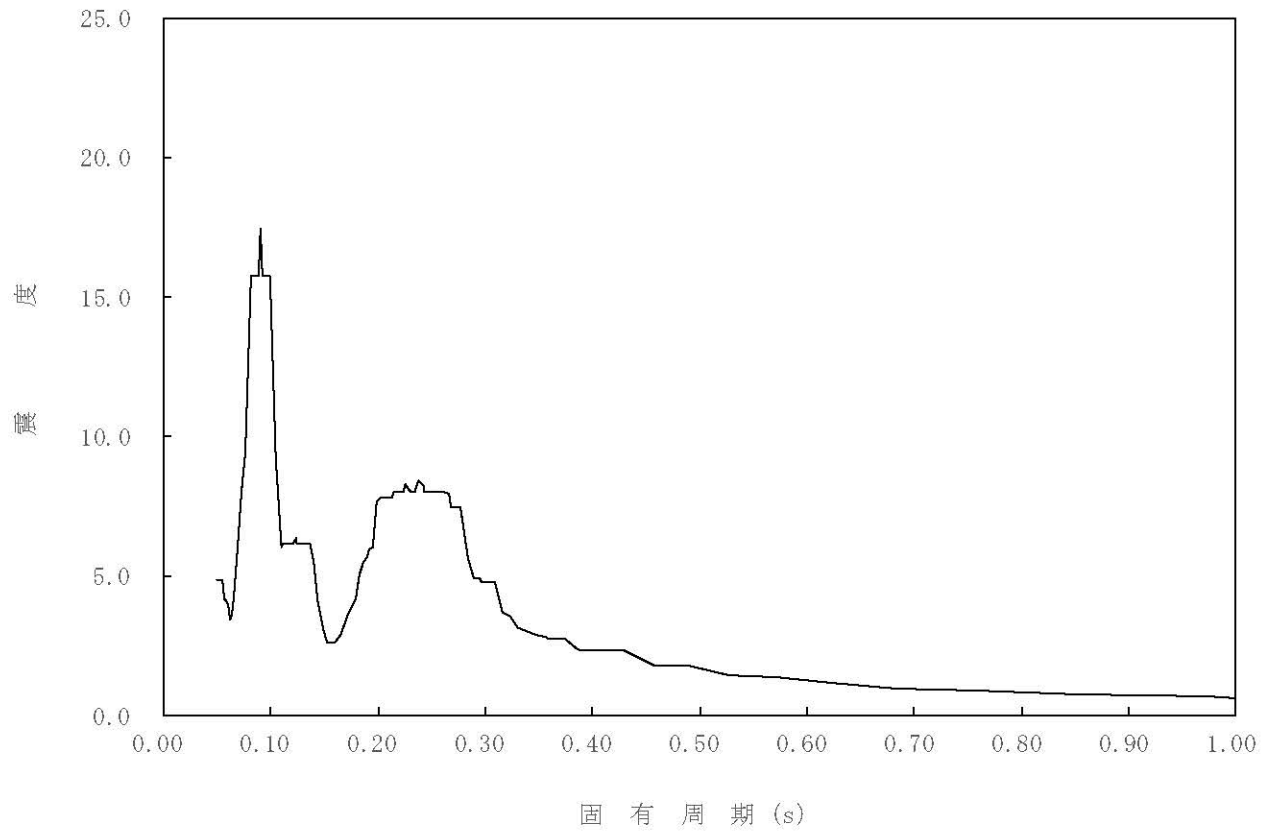
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-168

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV11-015】

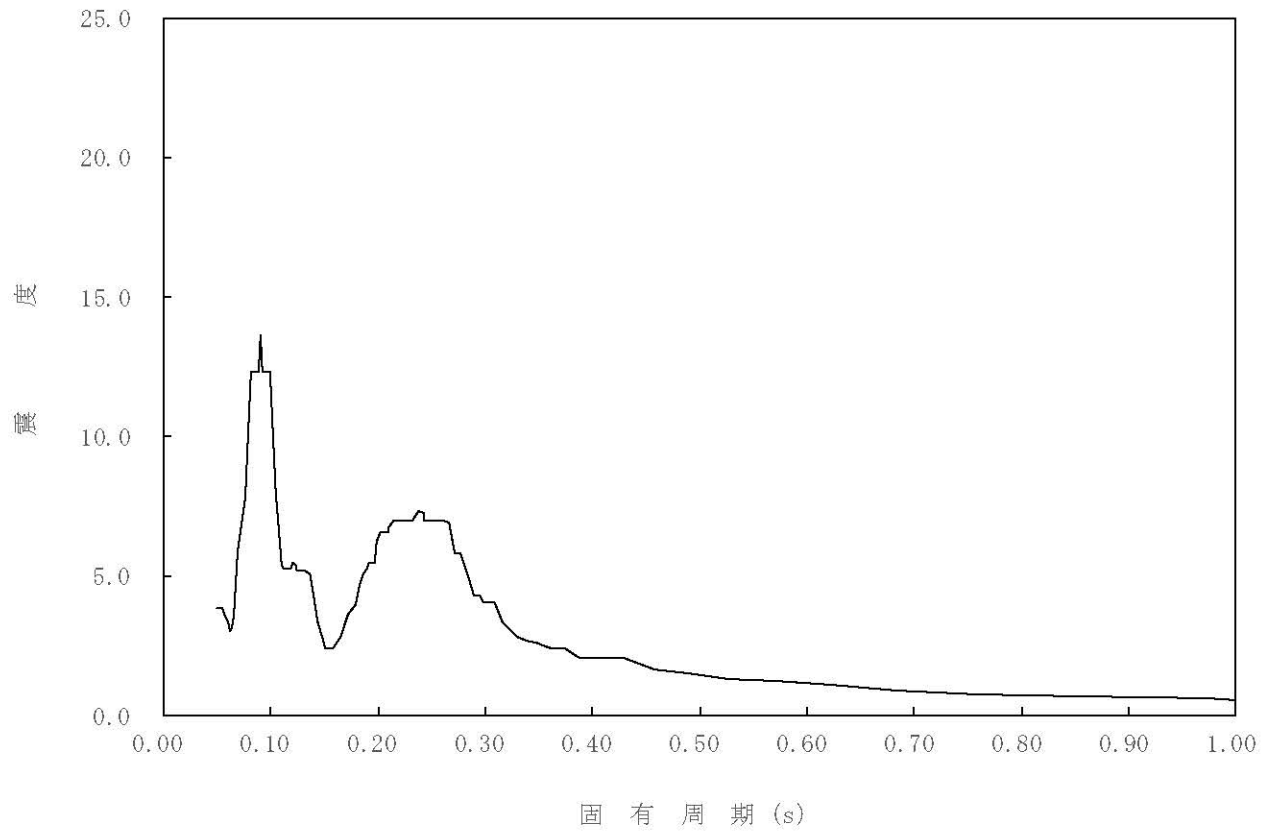
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-169

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV11-020】

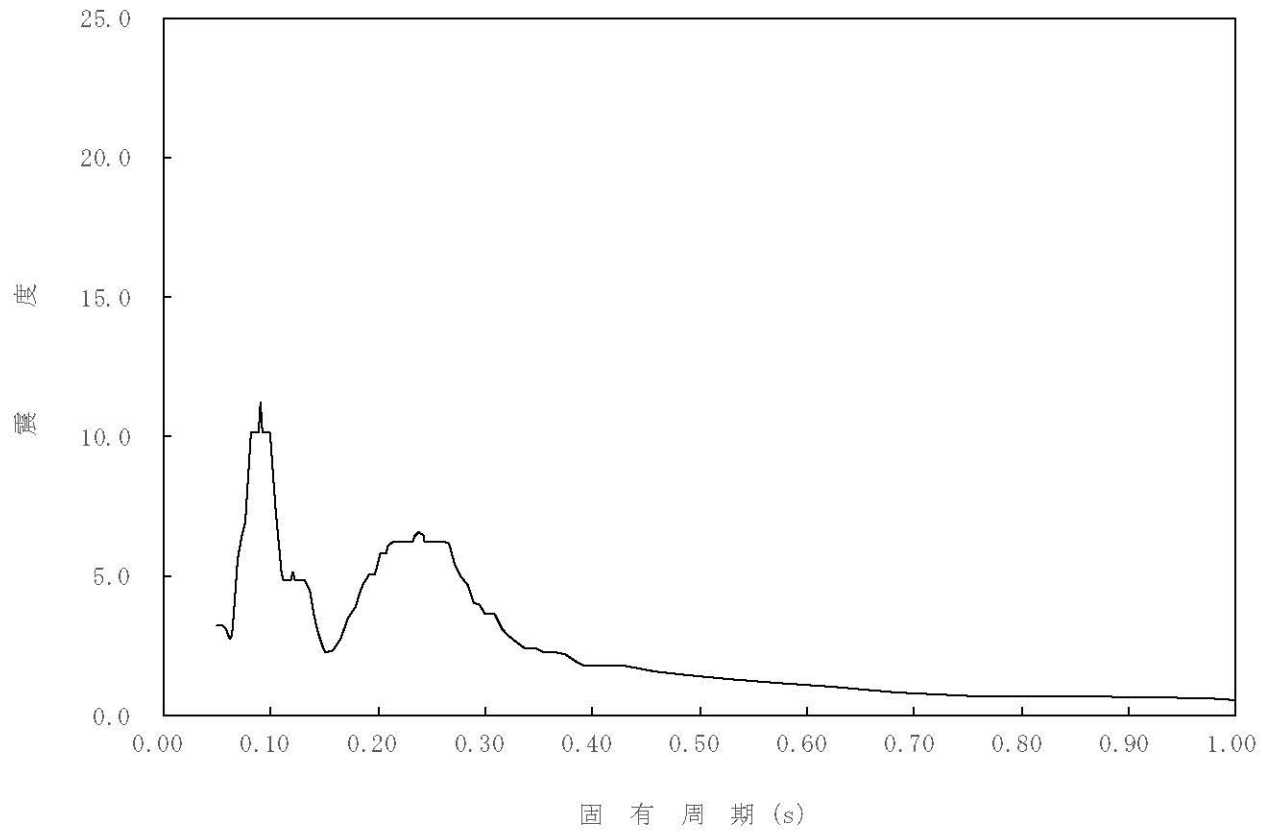
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-170

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV11-025】

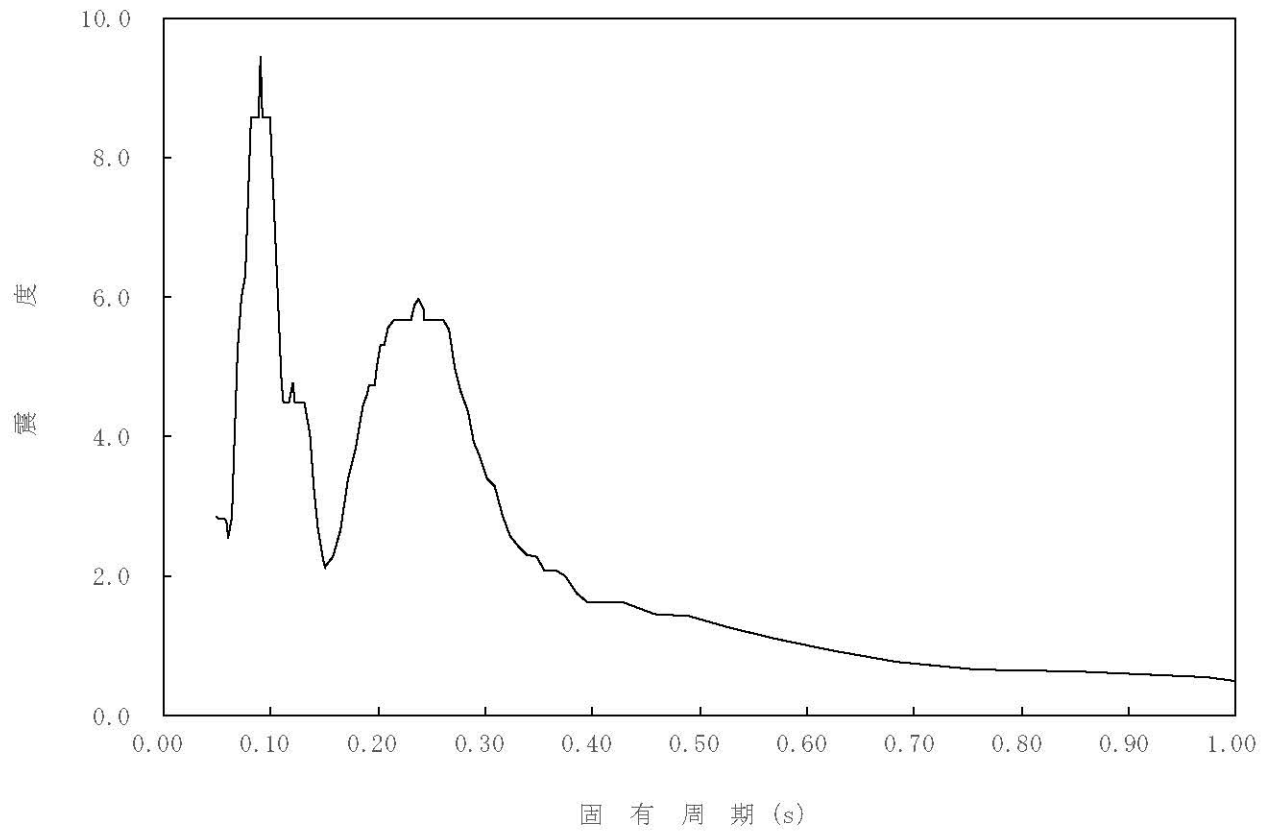
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-171

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV11-030】

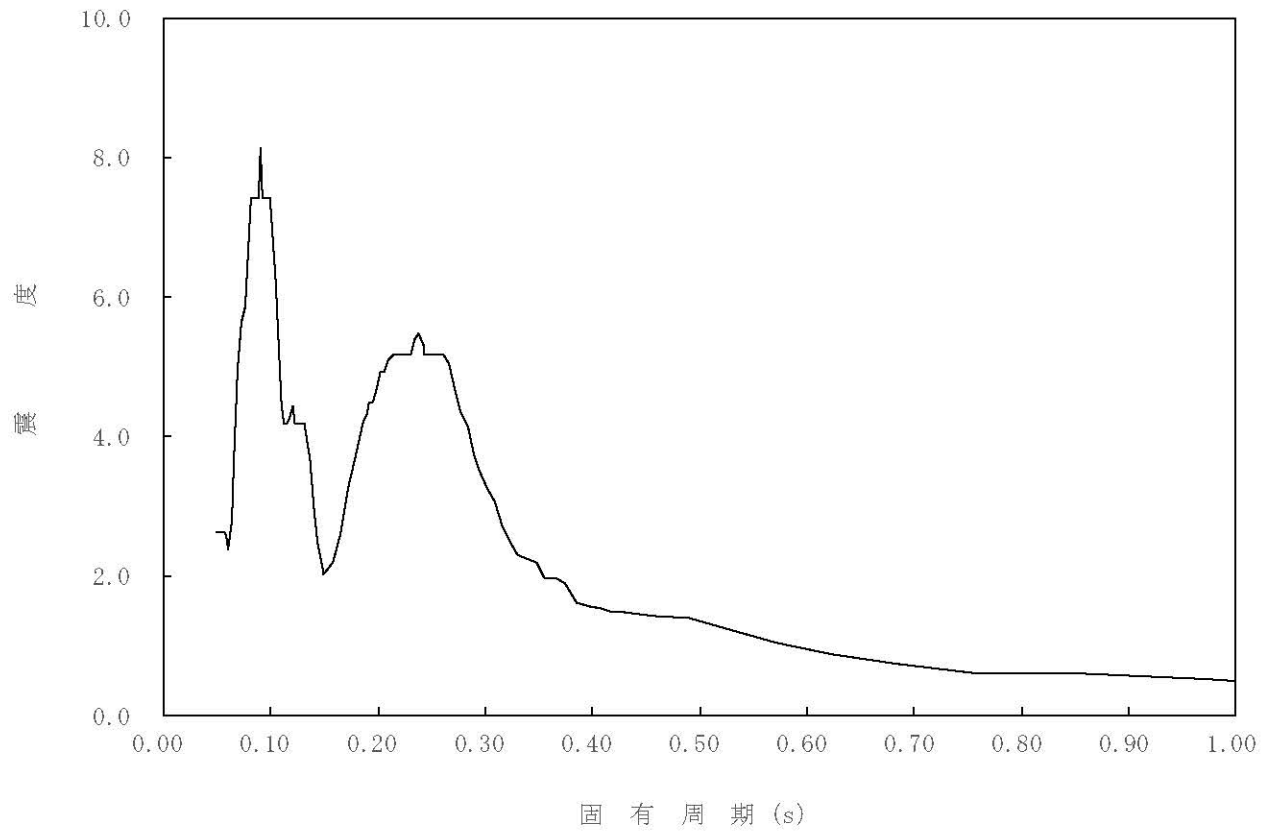
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-172

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV11-040】

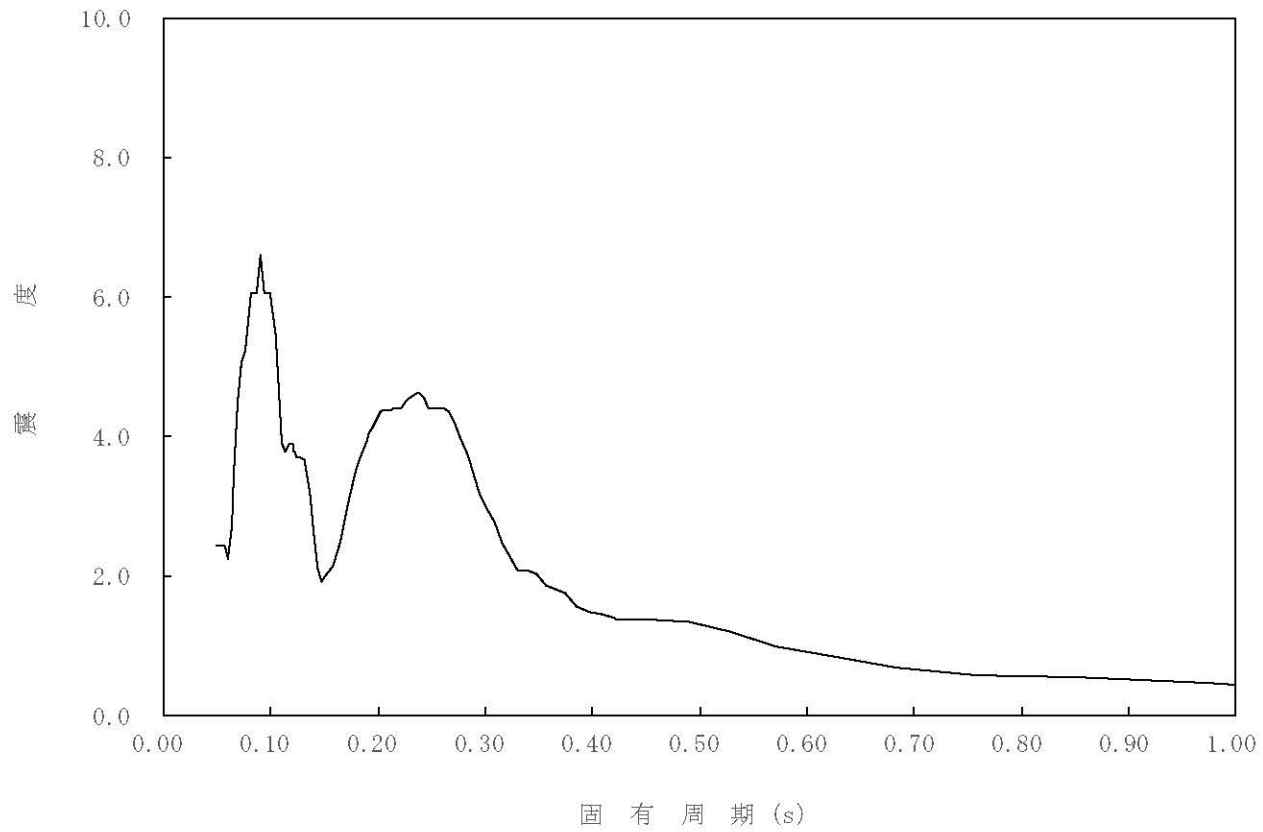
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-173

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV11-050】

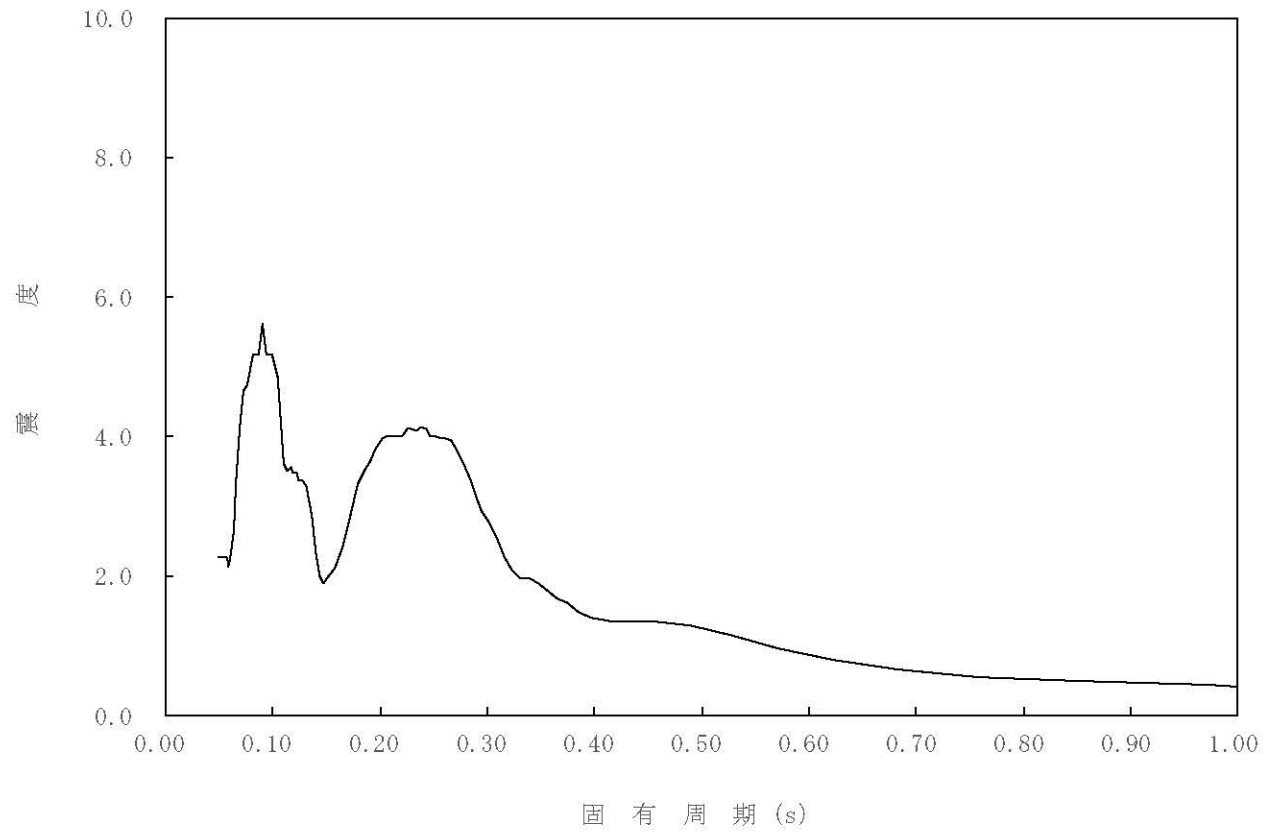
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-174

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV10-005】

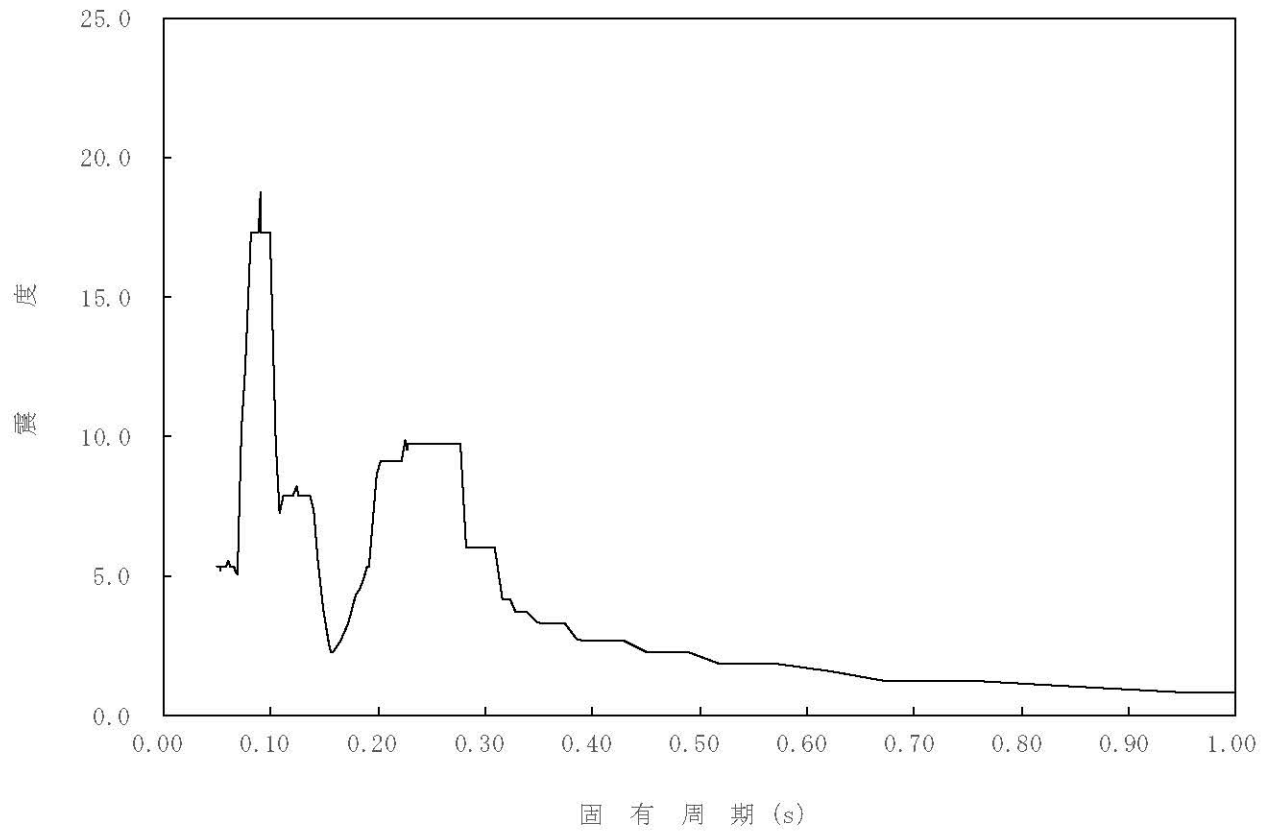
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-175

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV10-010】

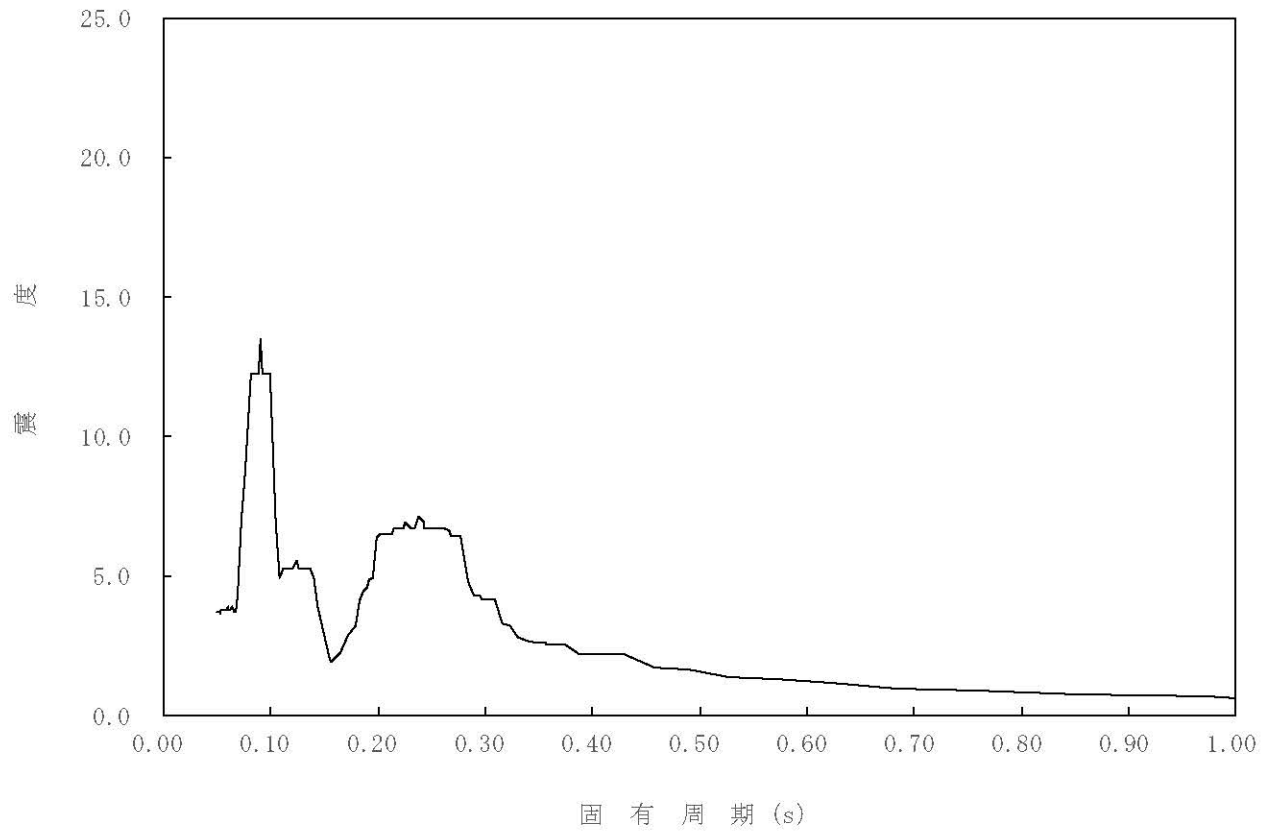
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-176

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV10-015】

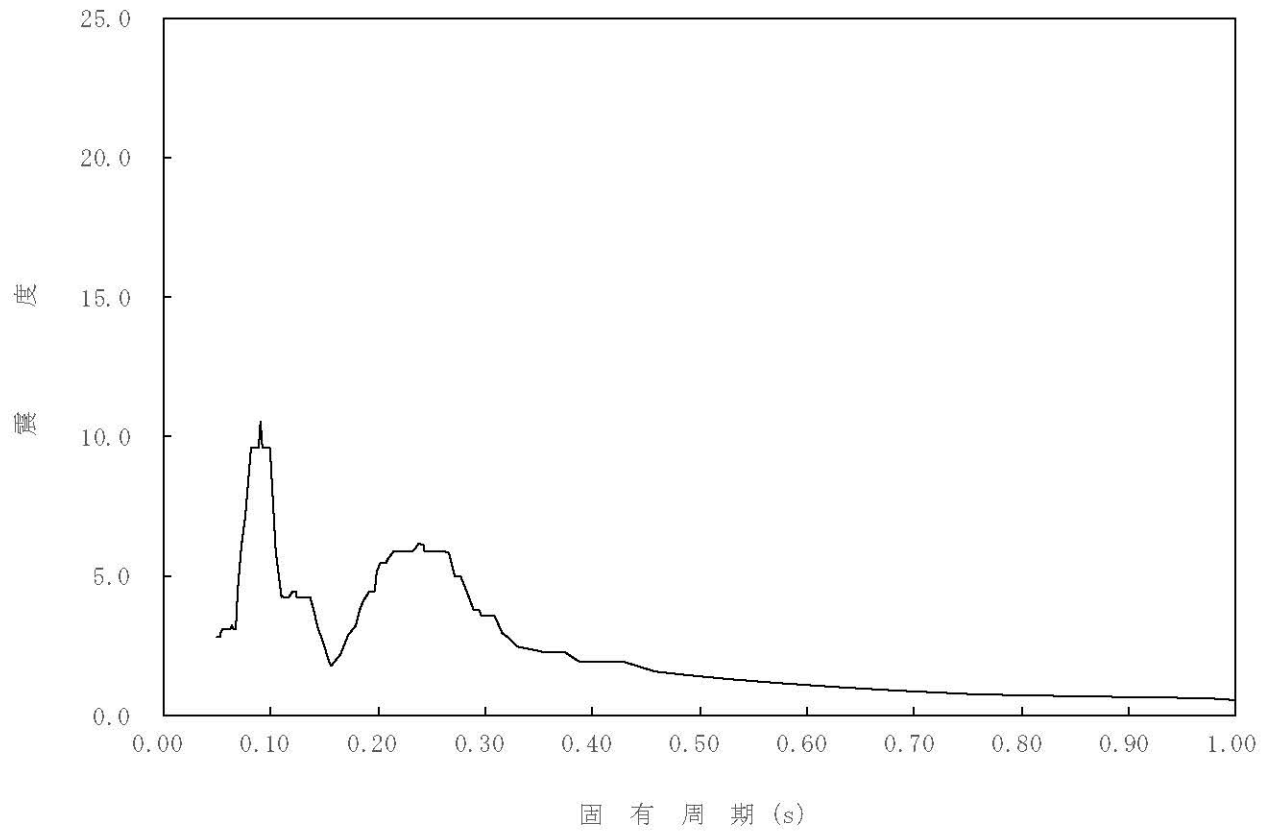
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-177

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV10-020】

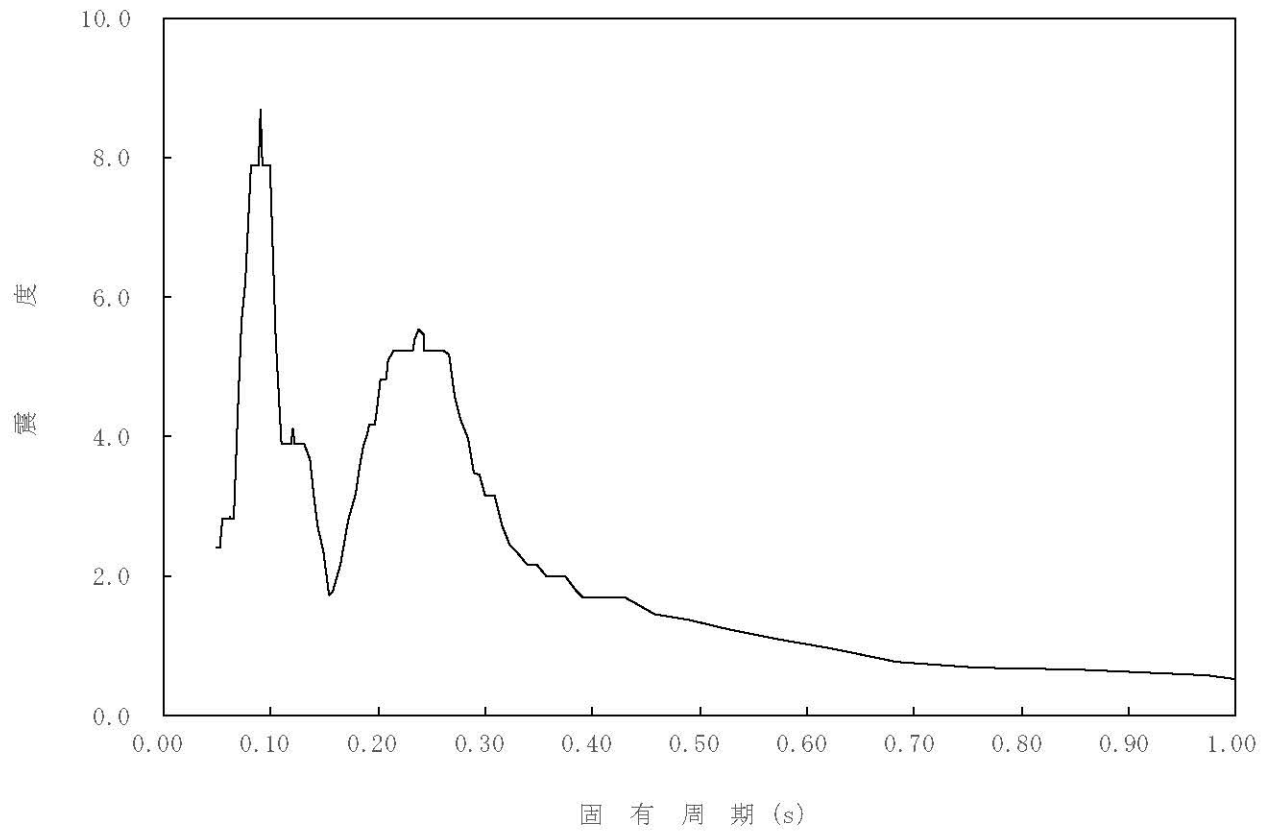
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-178

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV10-025】

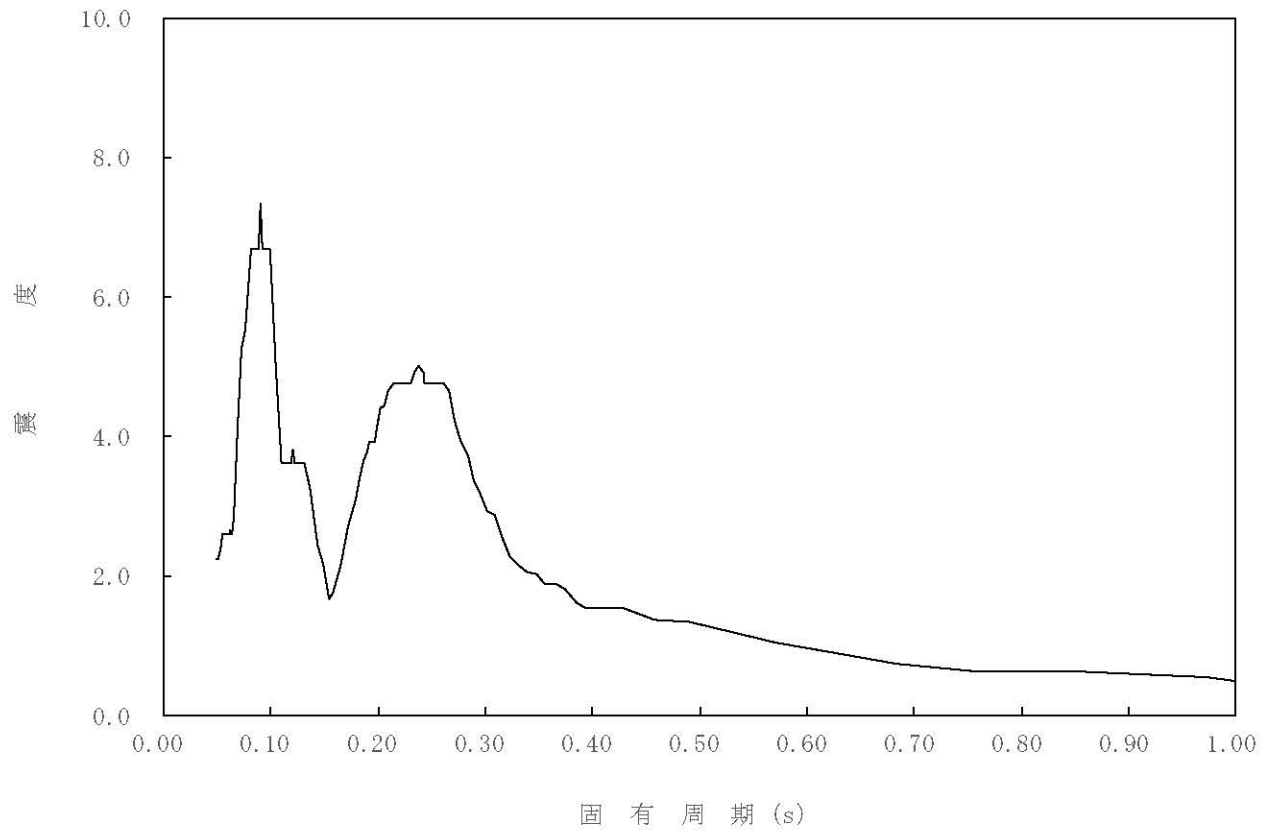
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-179

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV10-030】

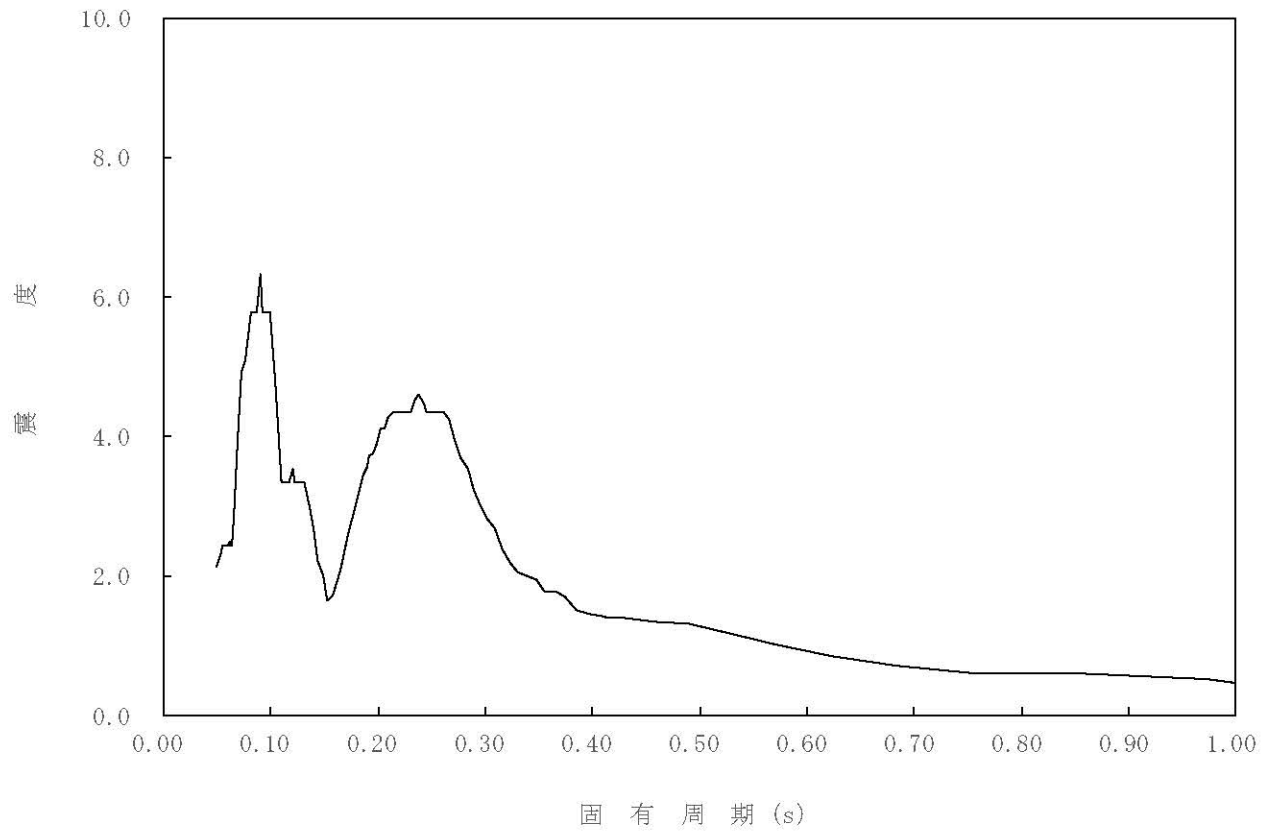
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-180

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV10-040】

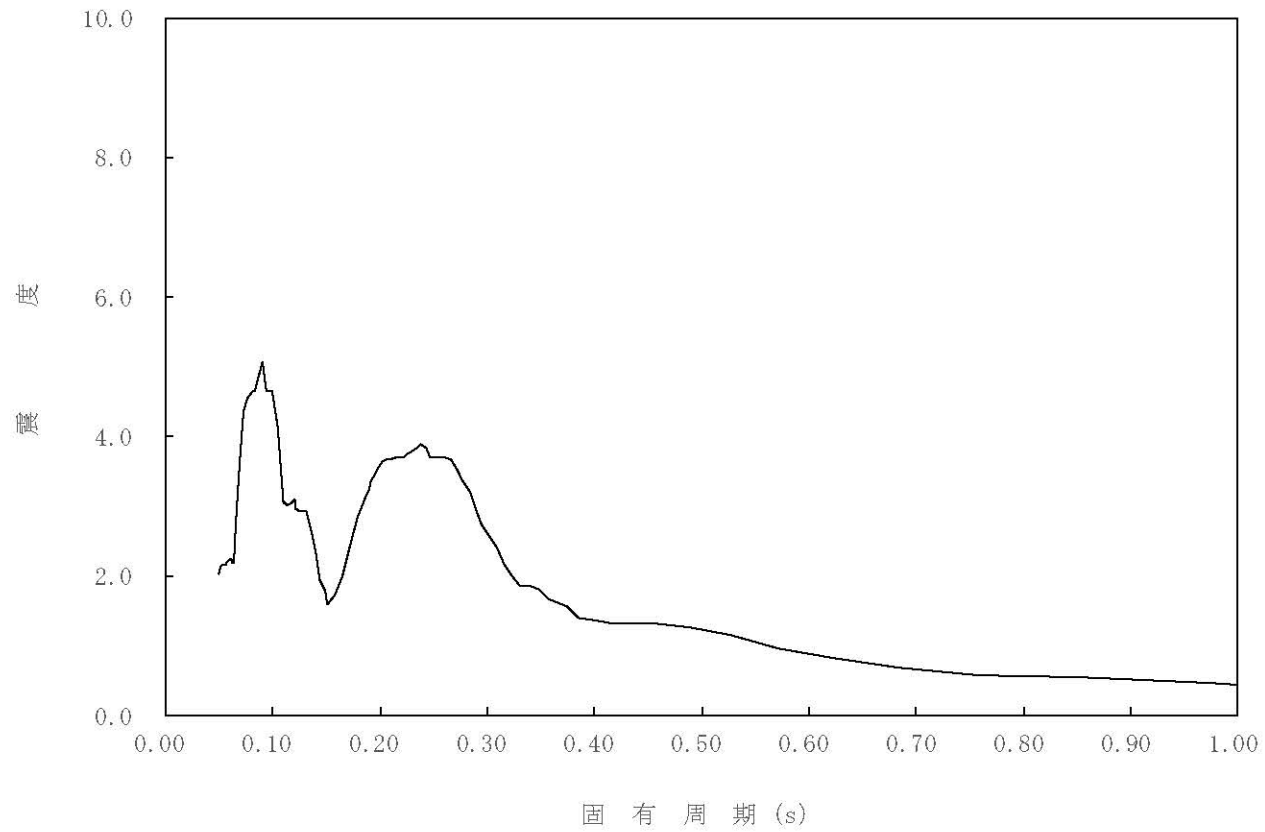
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-181

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV10-050】

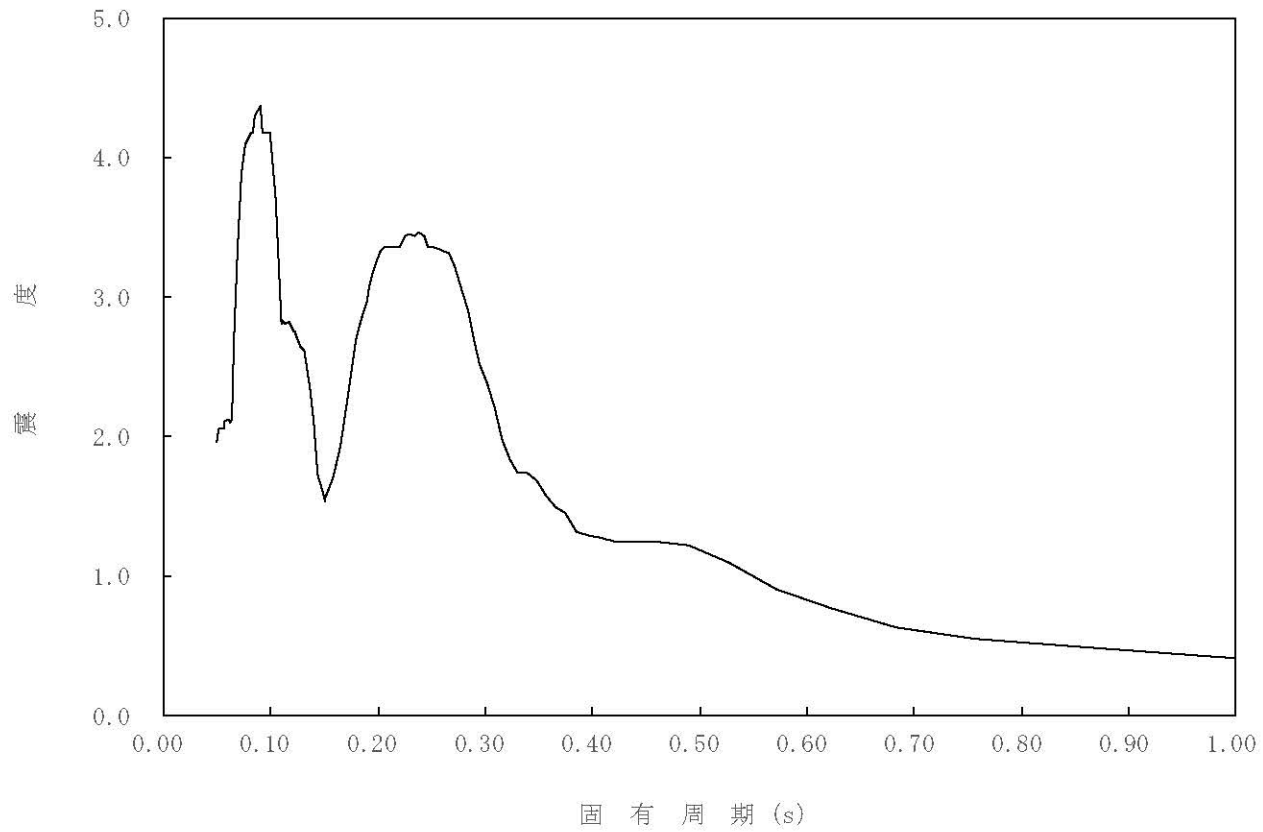
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-182

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV9-005】

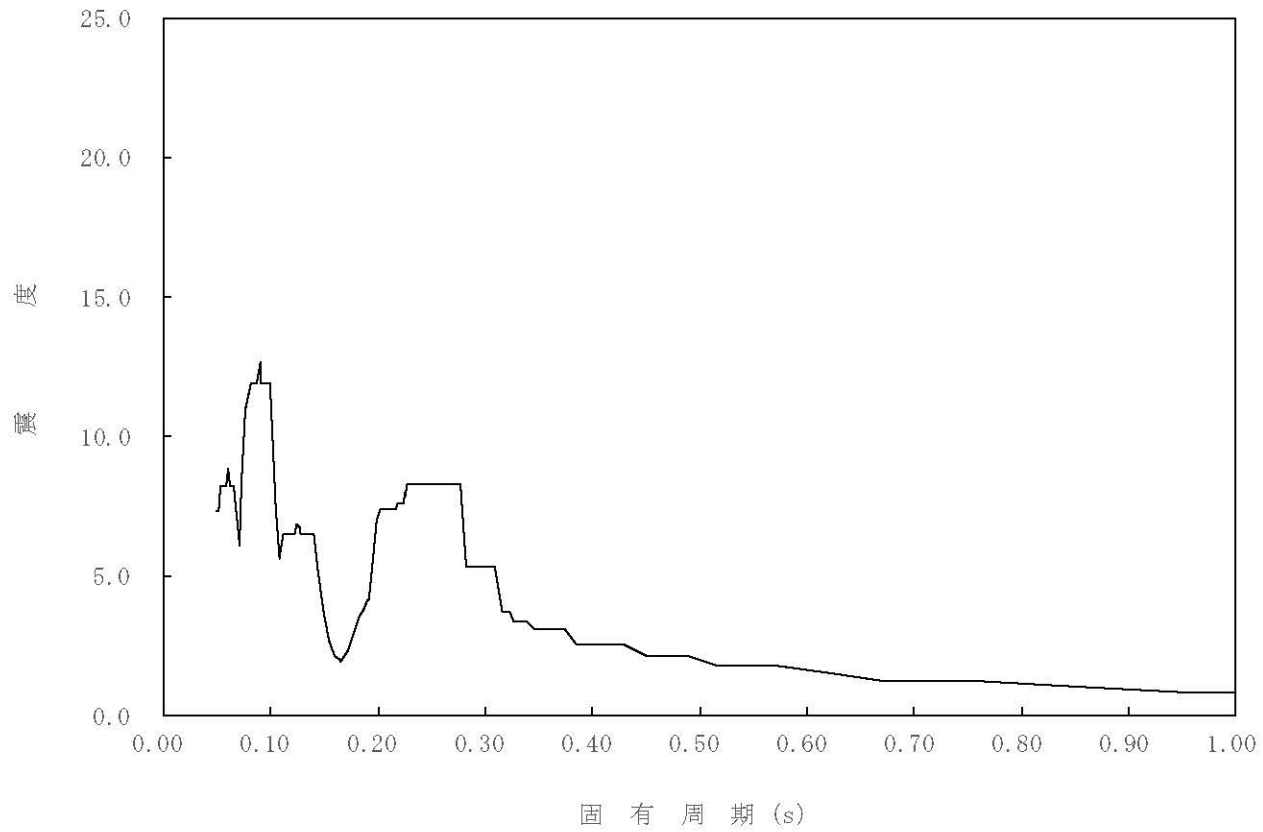
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-183

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV9-010】

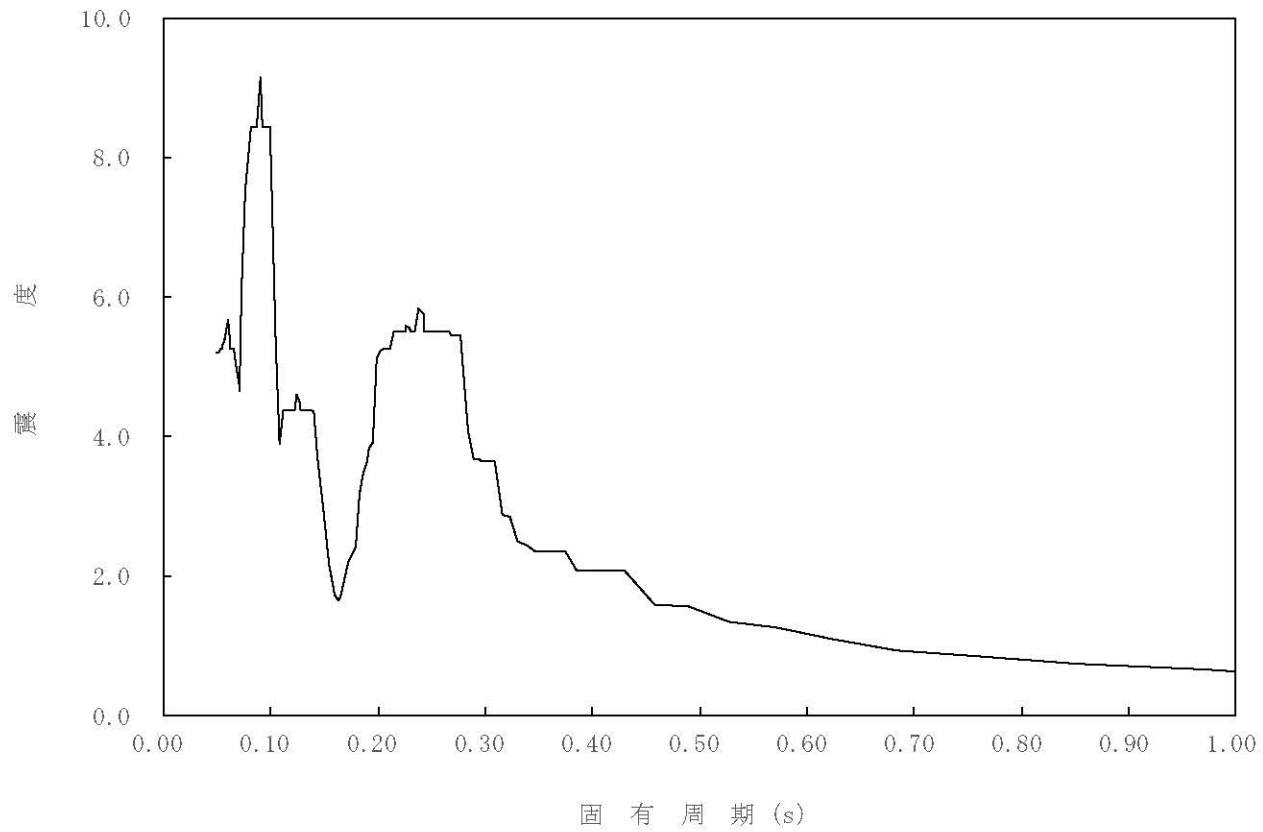
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-184

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV9-015】

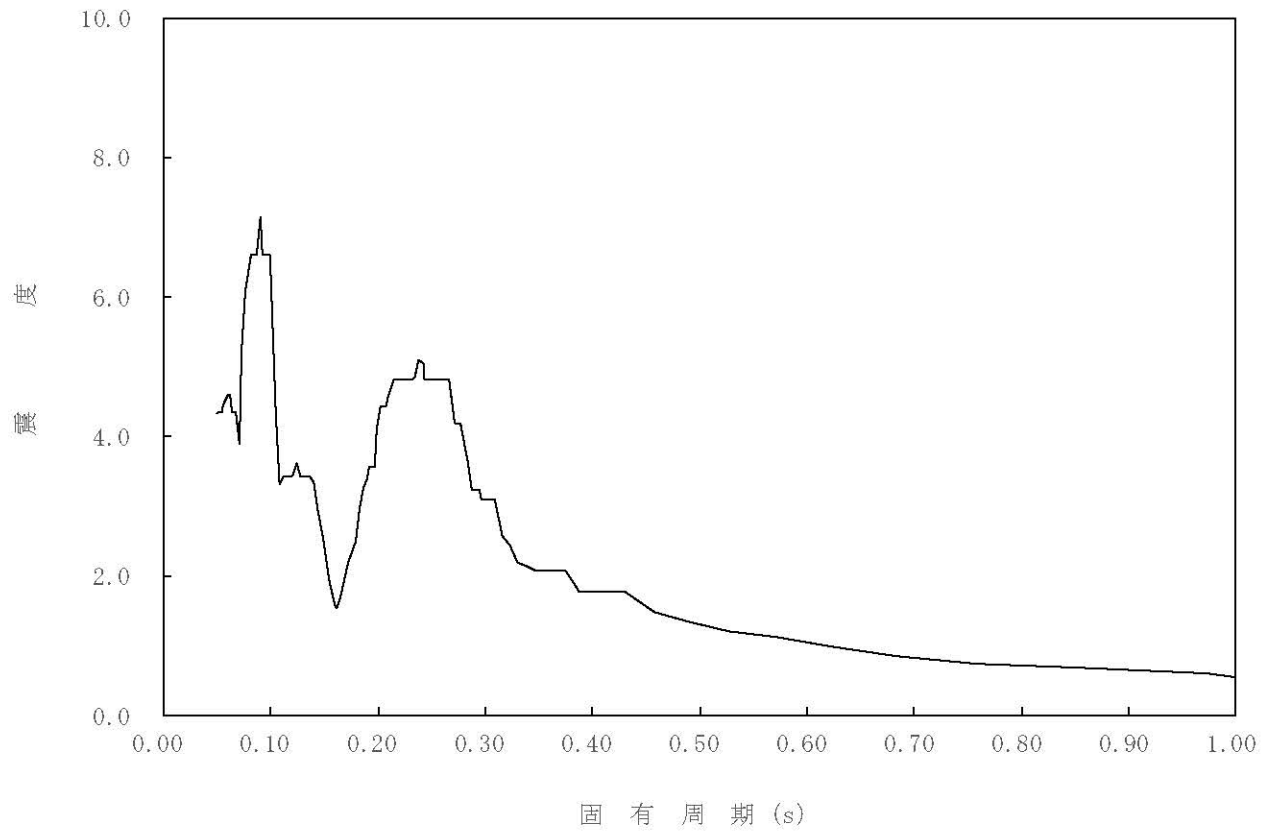
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-185

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV9-020】

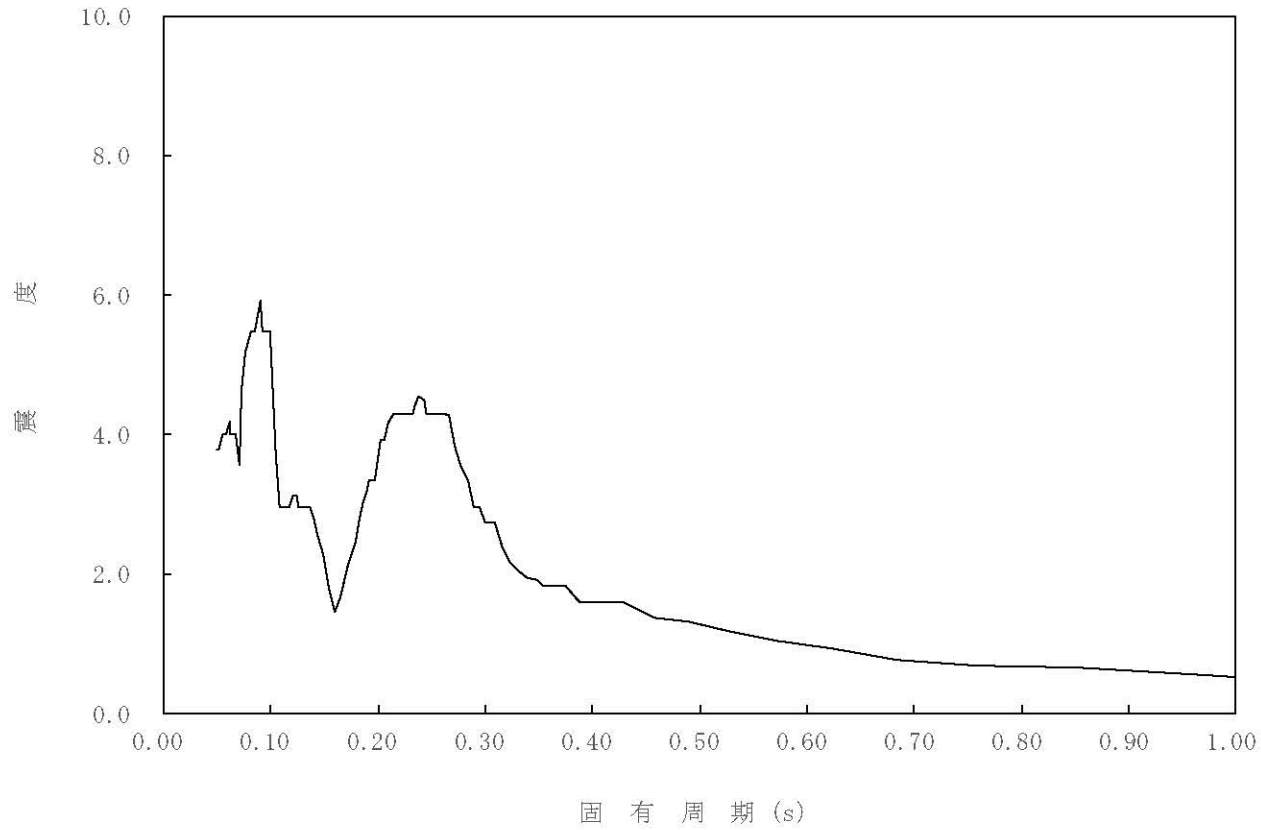
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-186

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV9-025】

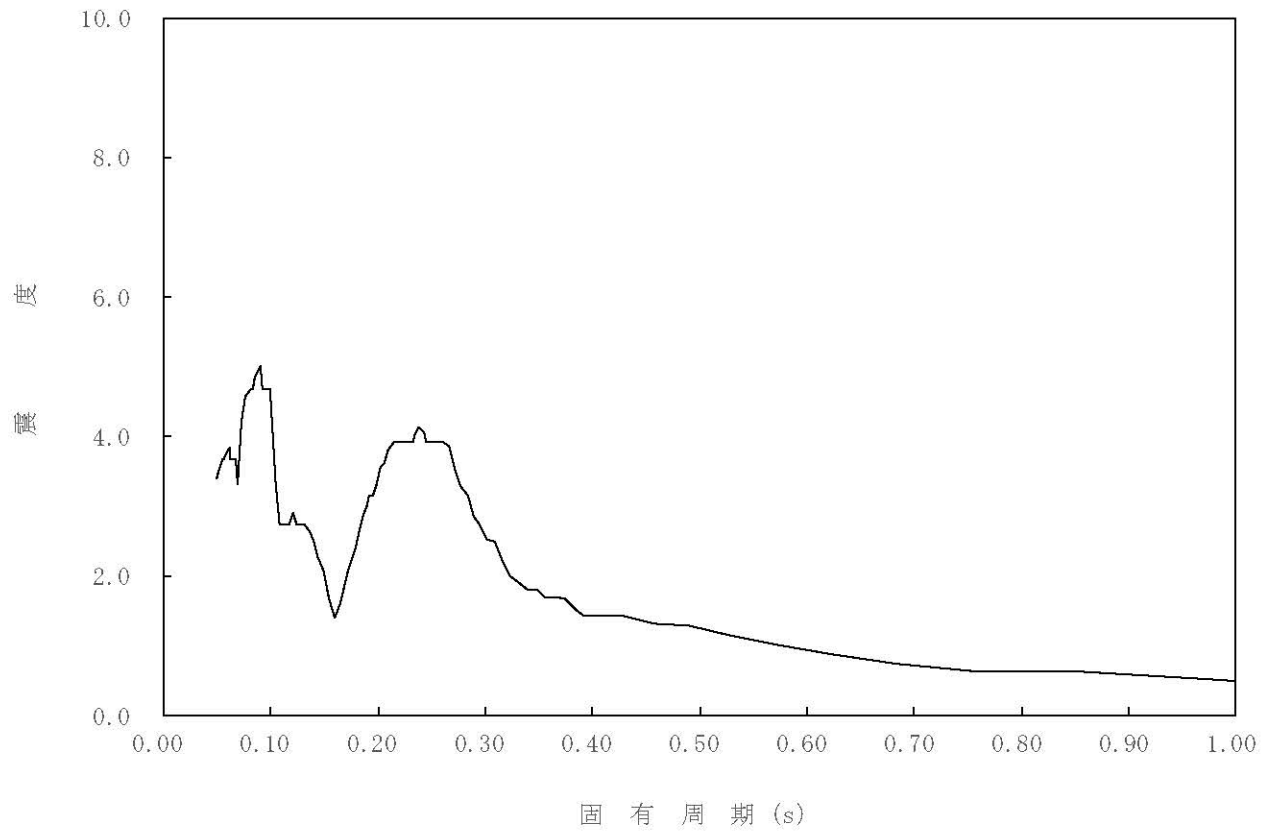
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-187

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV9-030】

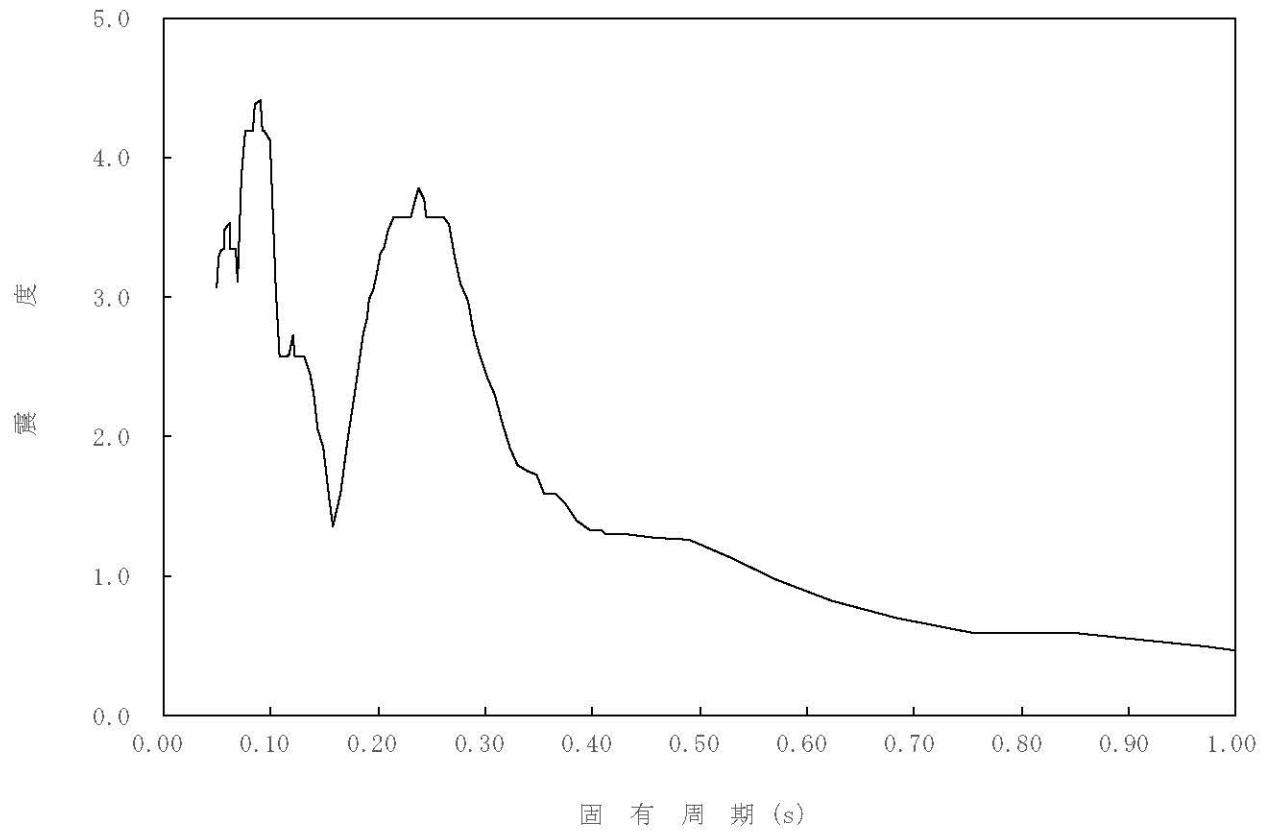
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-188

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV9-040】

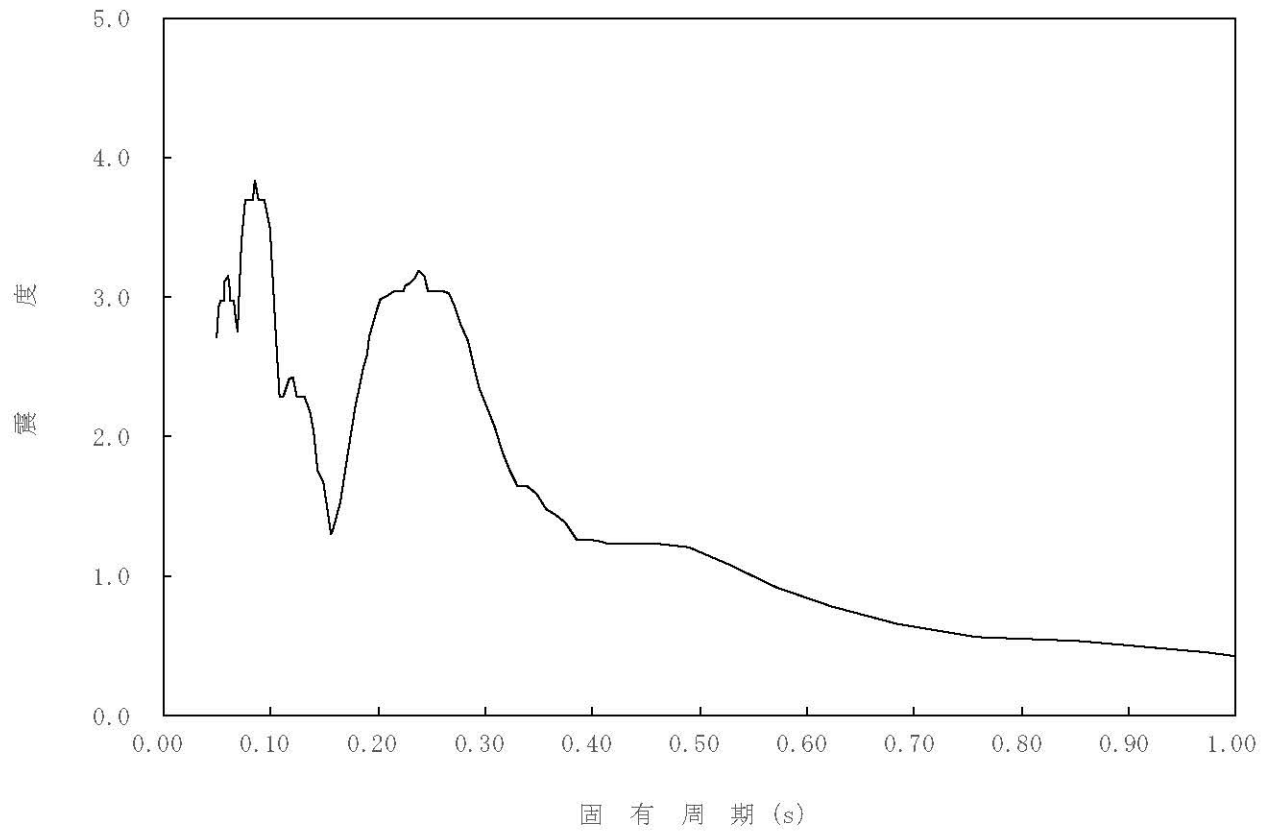
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-189

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV9-050】

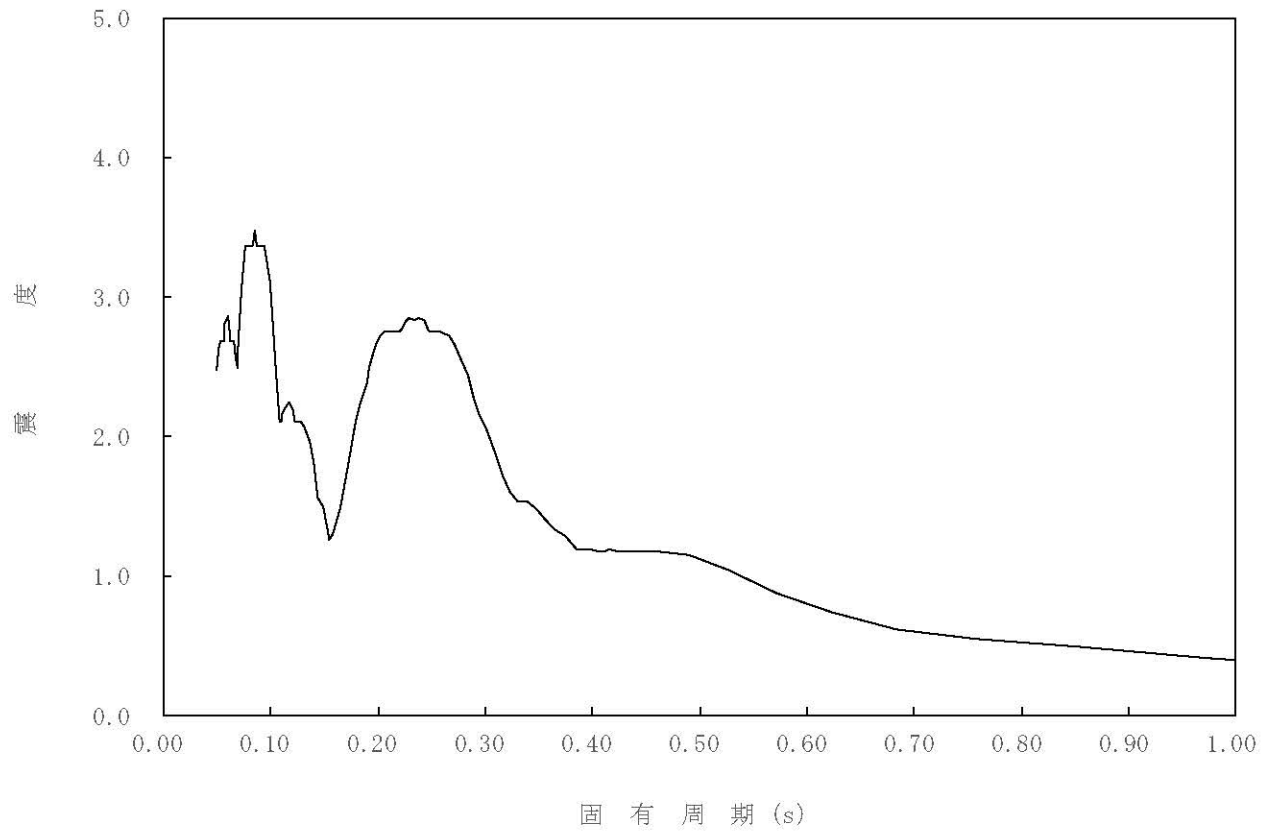
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-190

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV8-005】

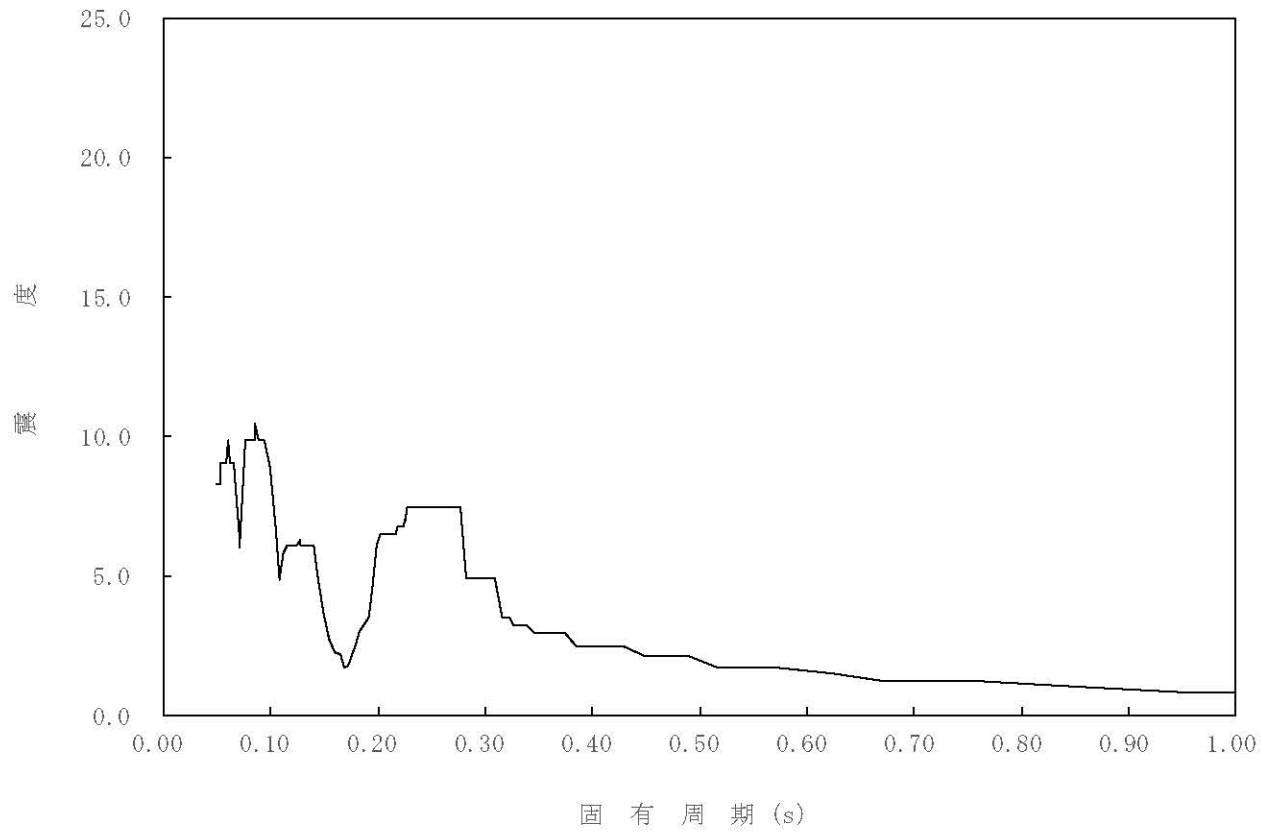
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-191

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-RPV8-010】

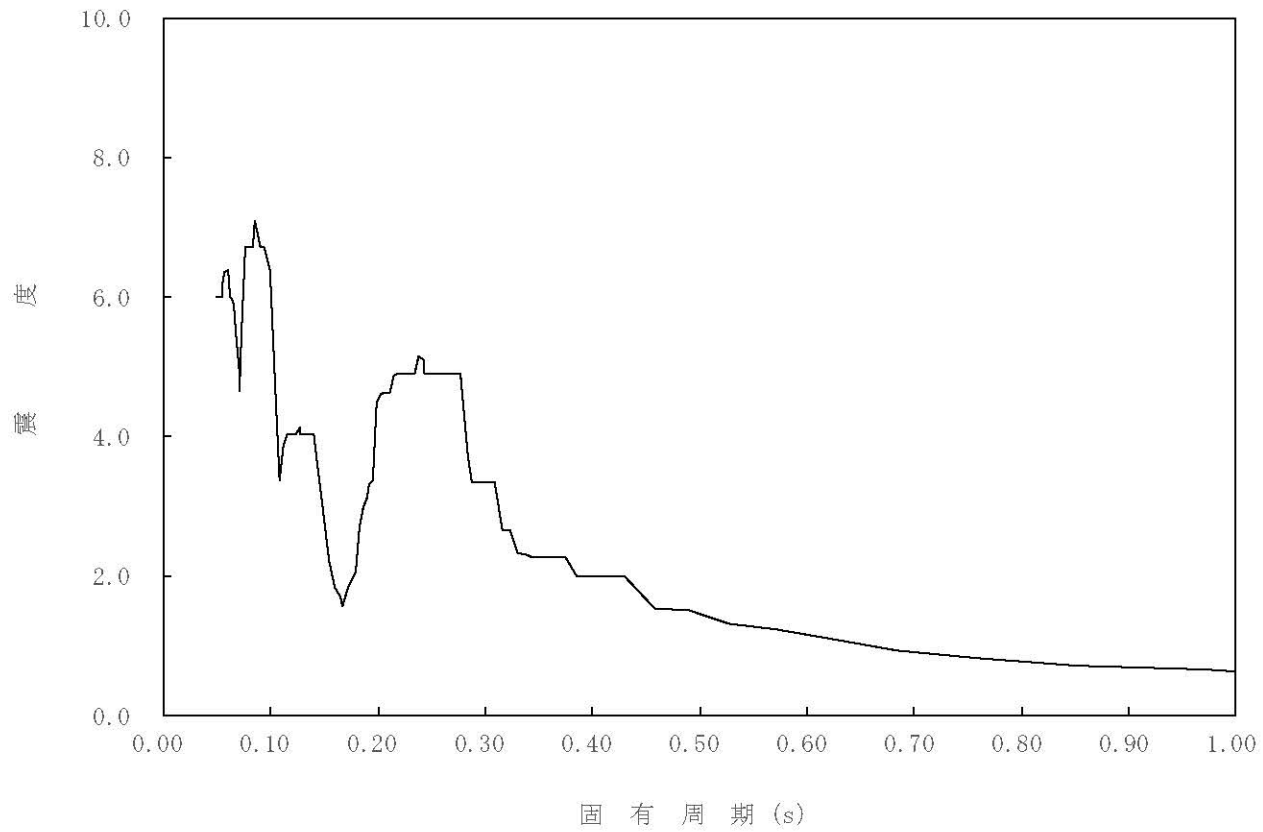
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-192

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV8-015】

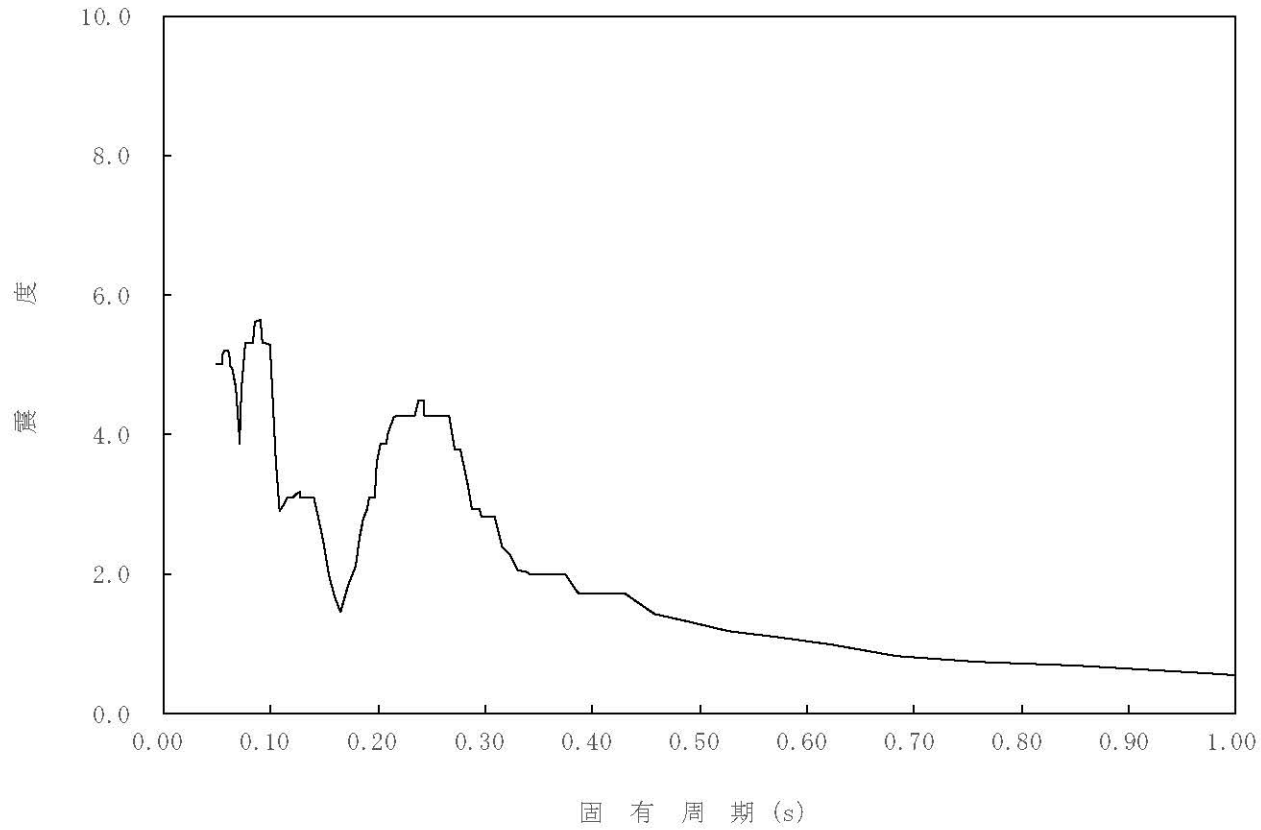
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-193

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV8-020】

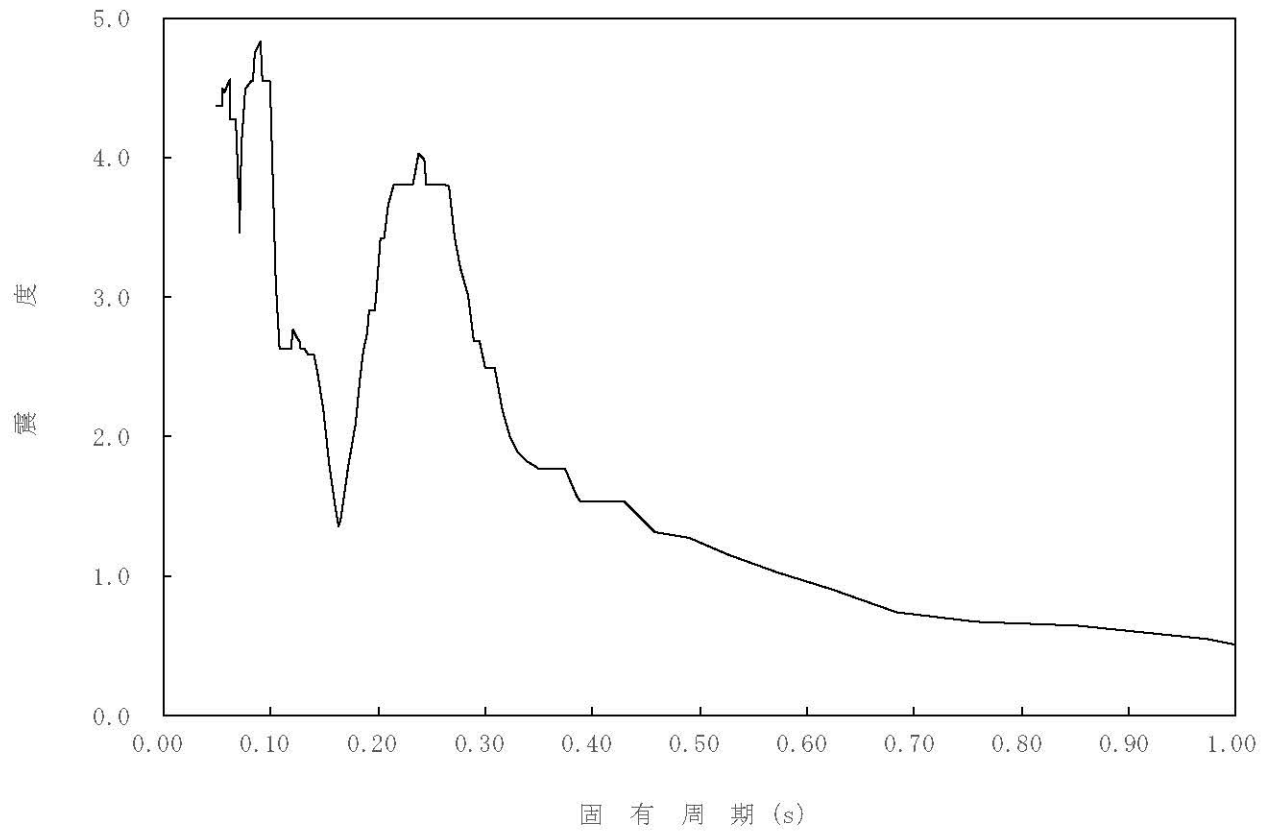
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-194

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV8-025】

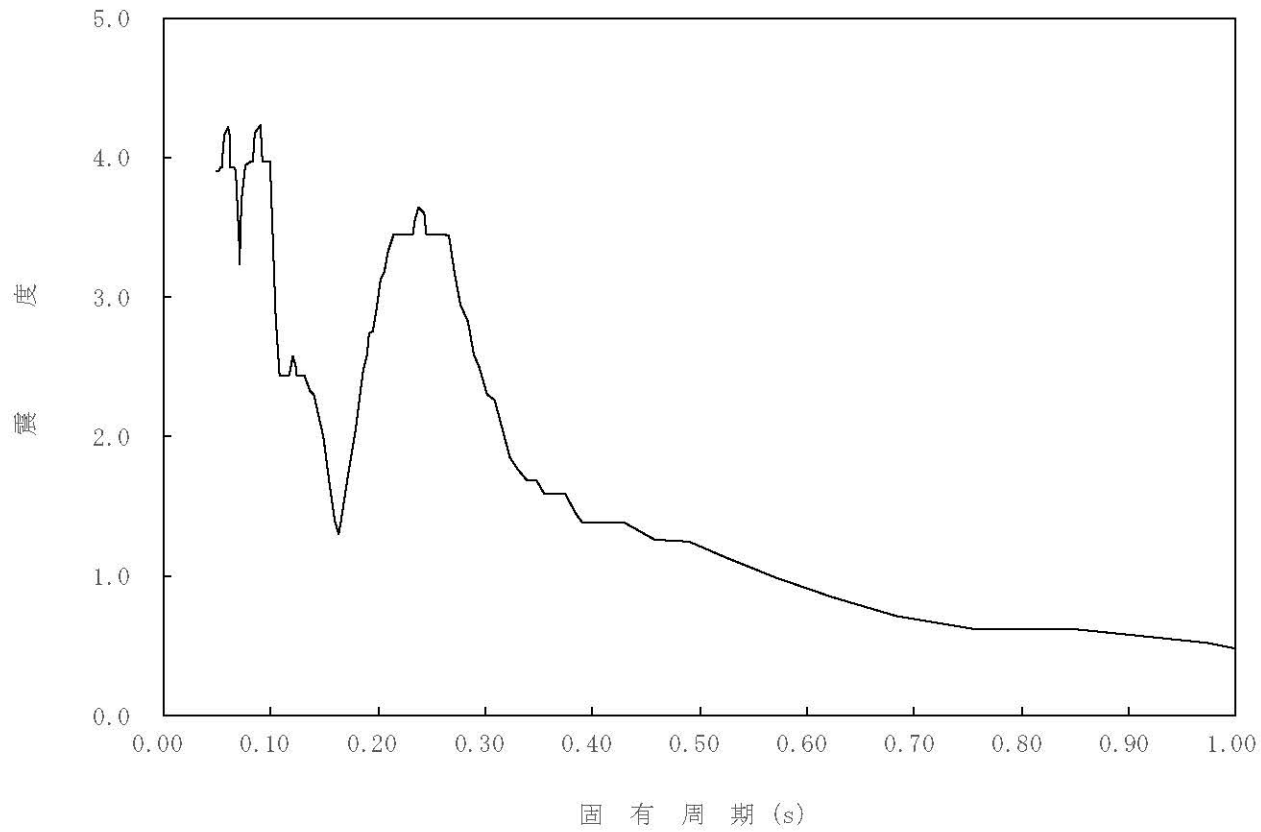
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-195

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV8-030】

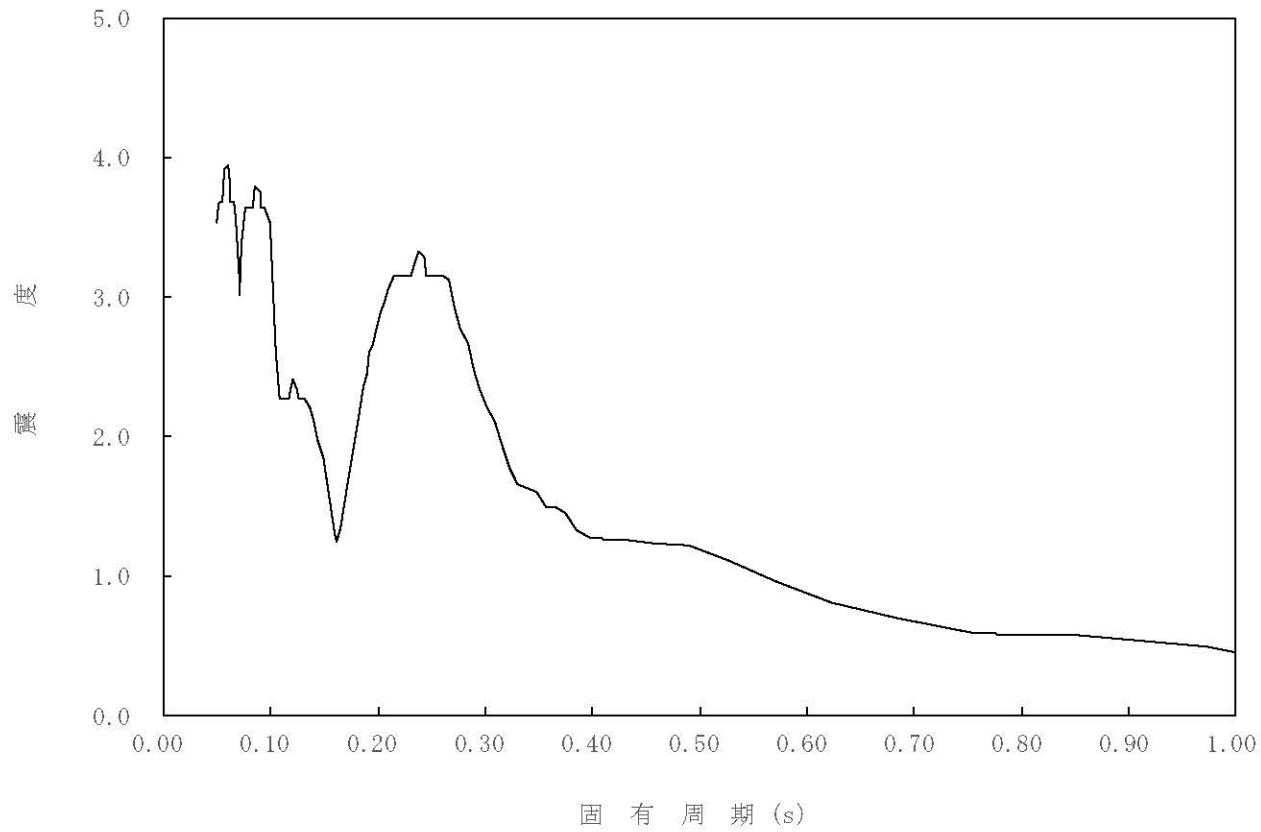
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-196

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV8-040】

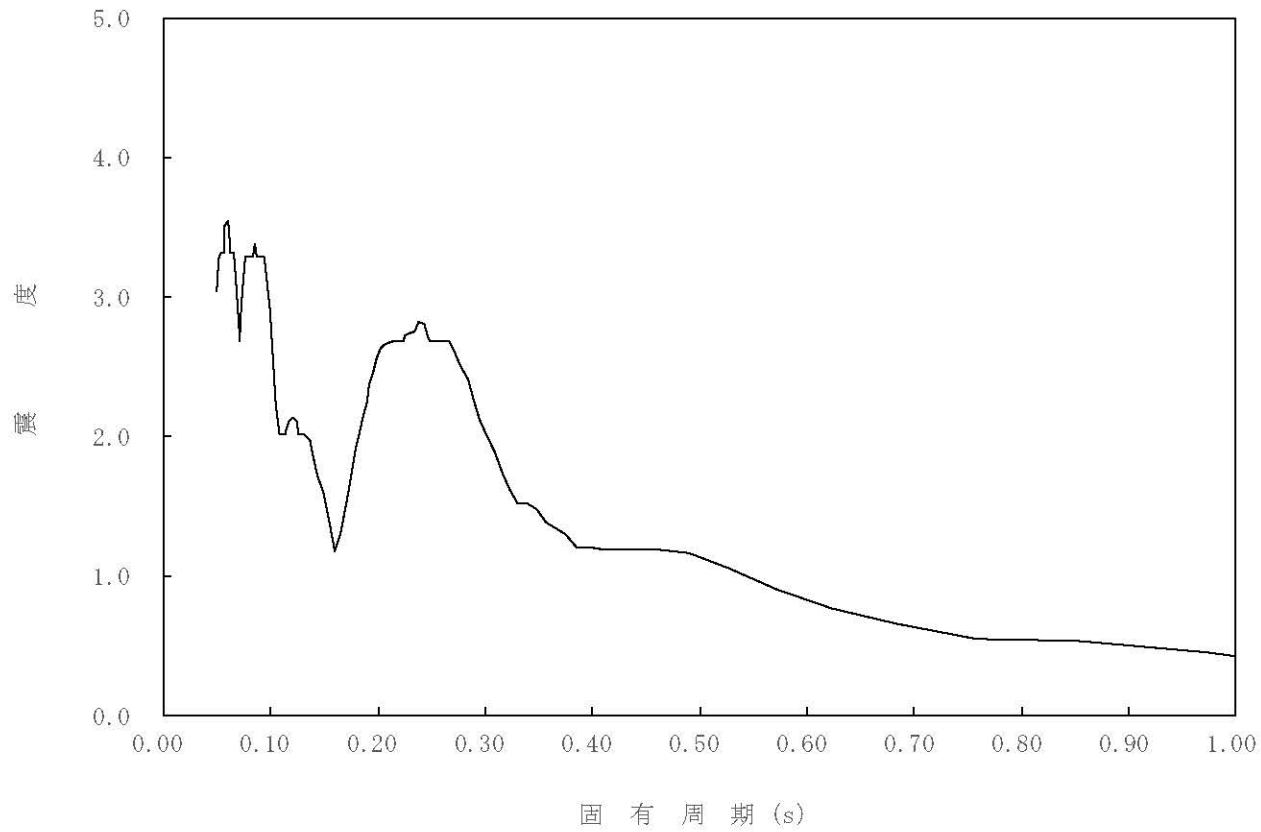
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-197

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-RPV8-050】

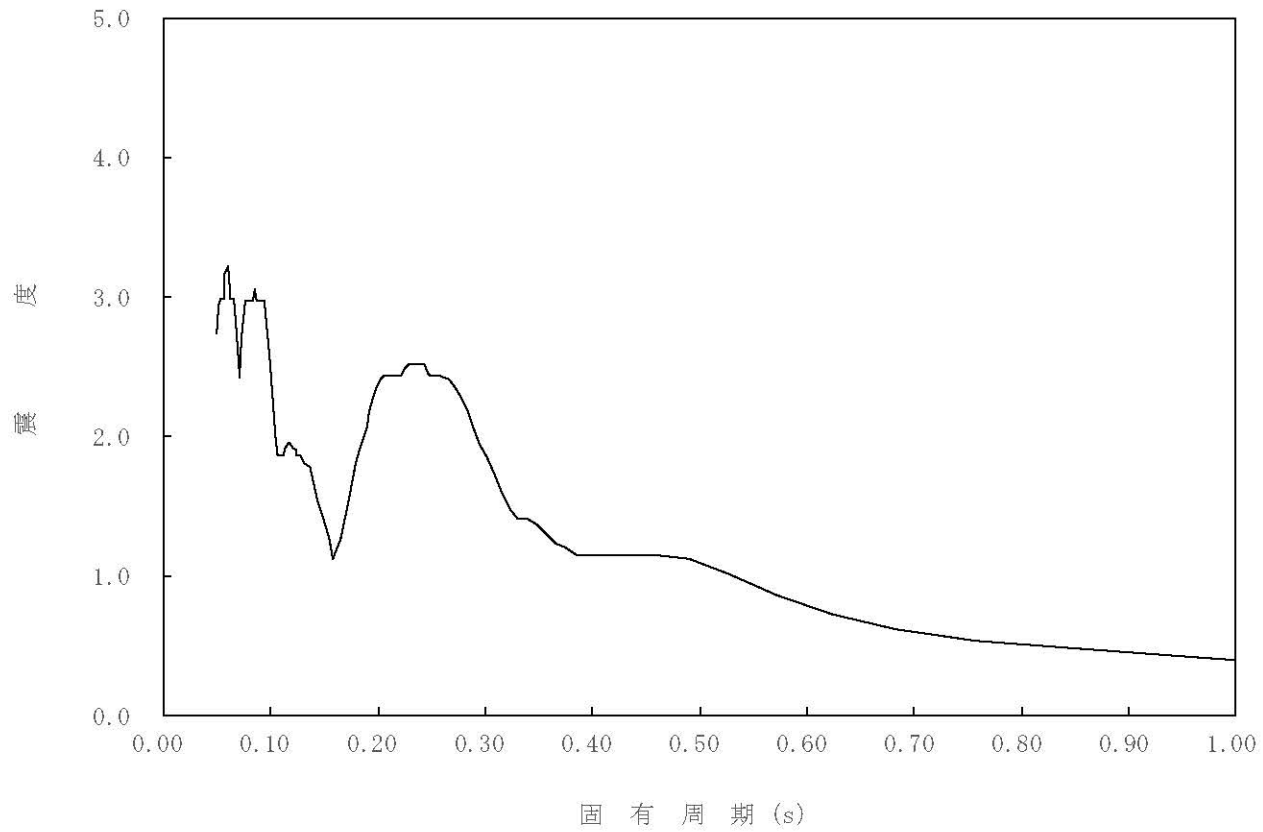
構造物名：原子炉压力容器

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-198

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED7-005】

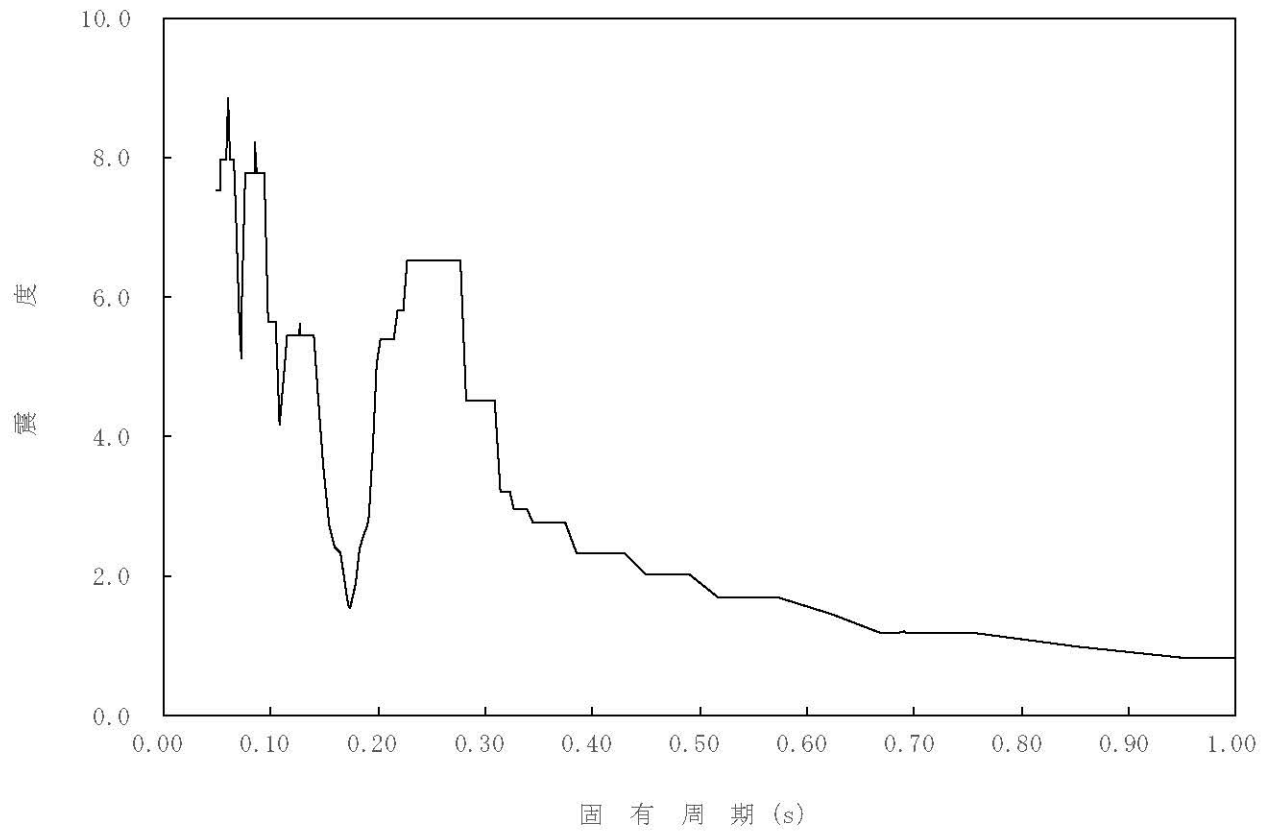
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-199

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PED7-010】

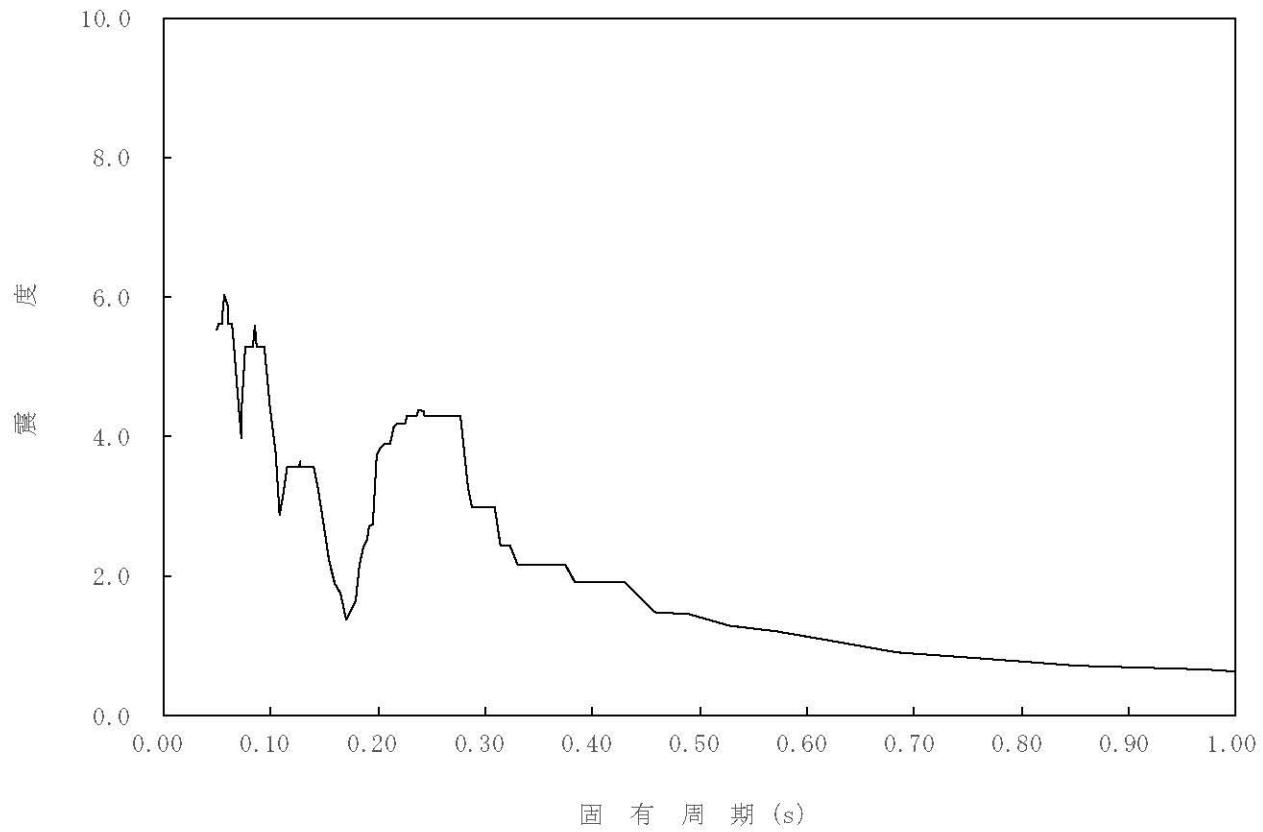
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-200

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED7-015】

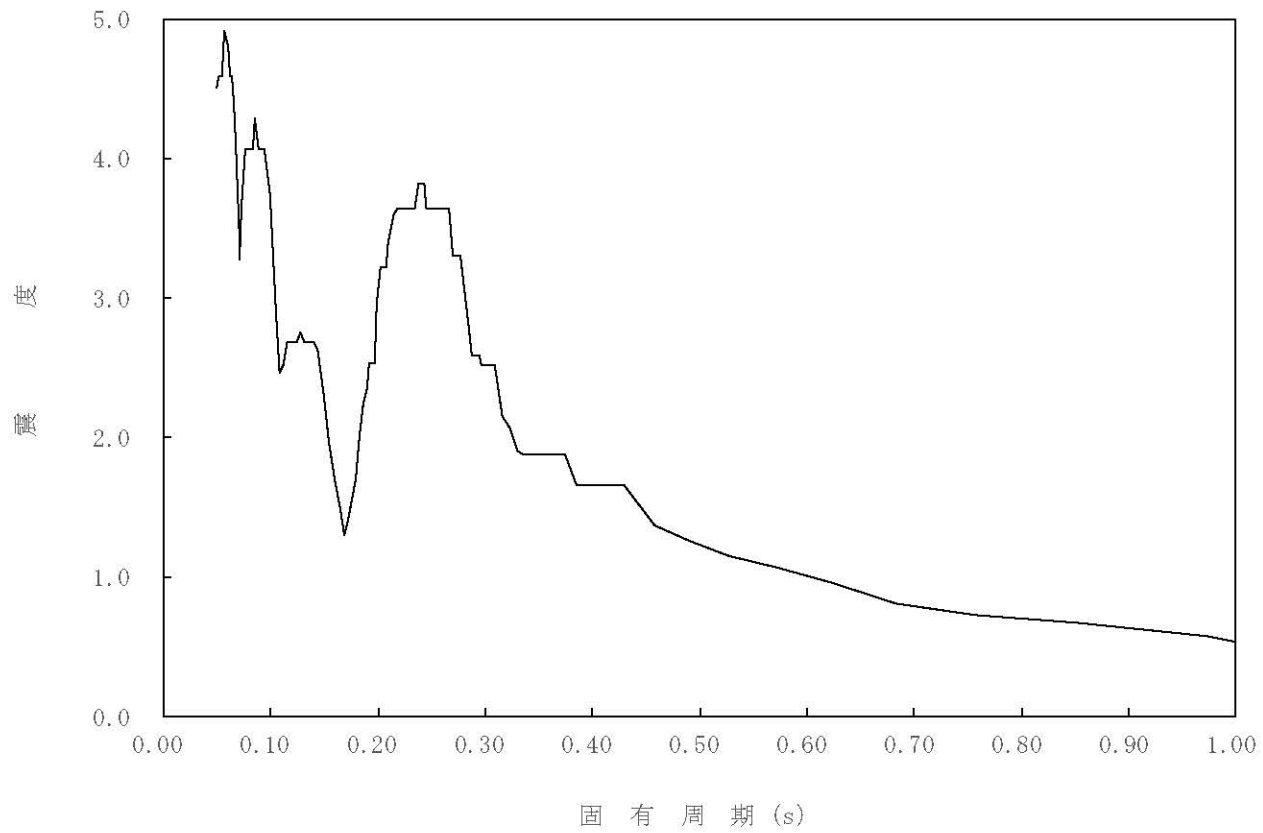
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-201

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED7-020】

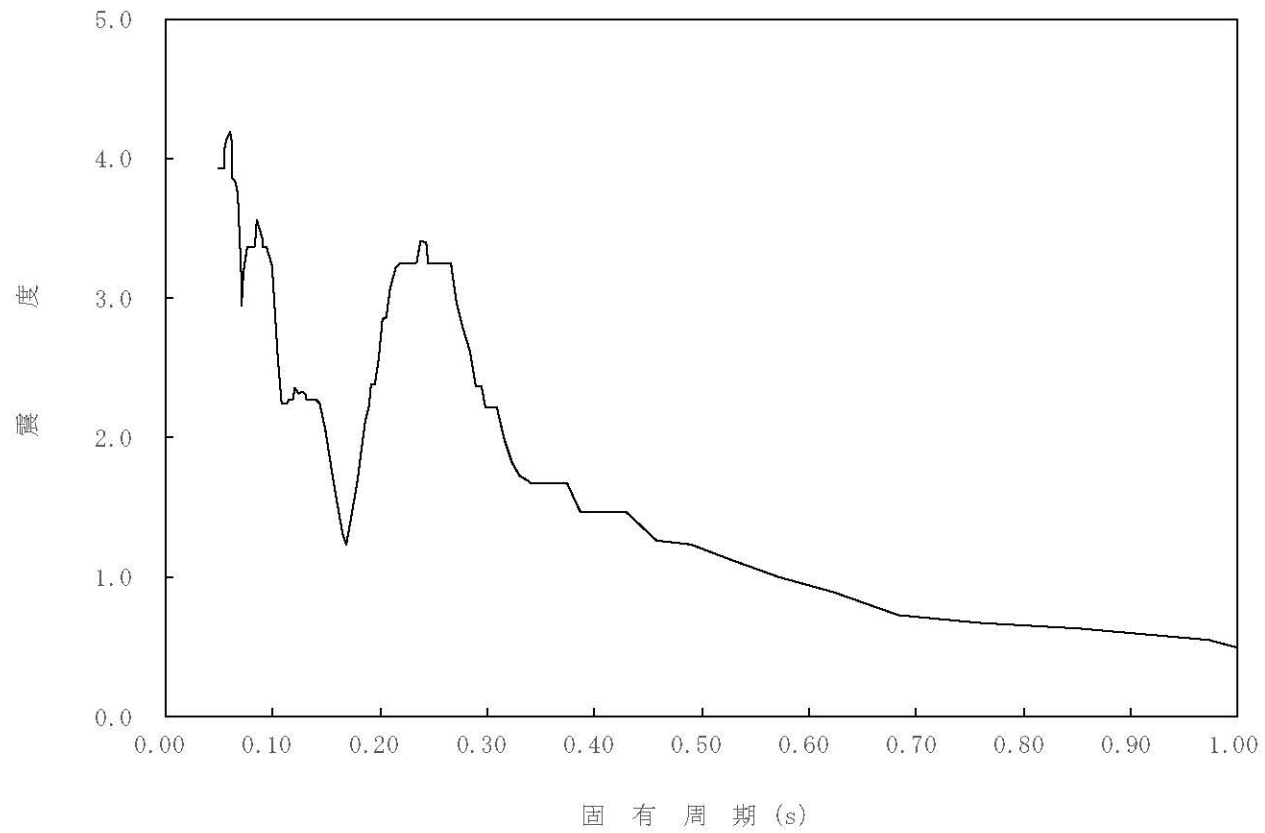
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-202

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED7-025】

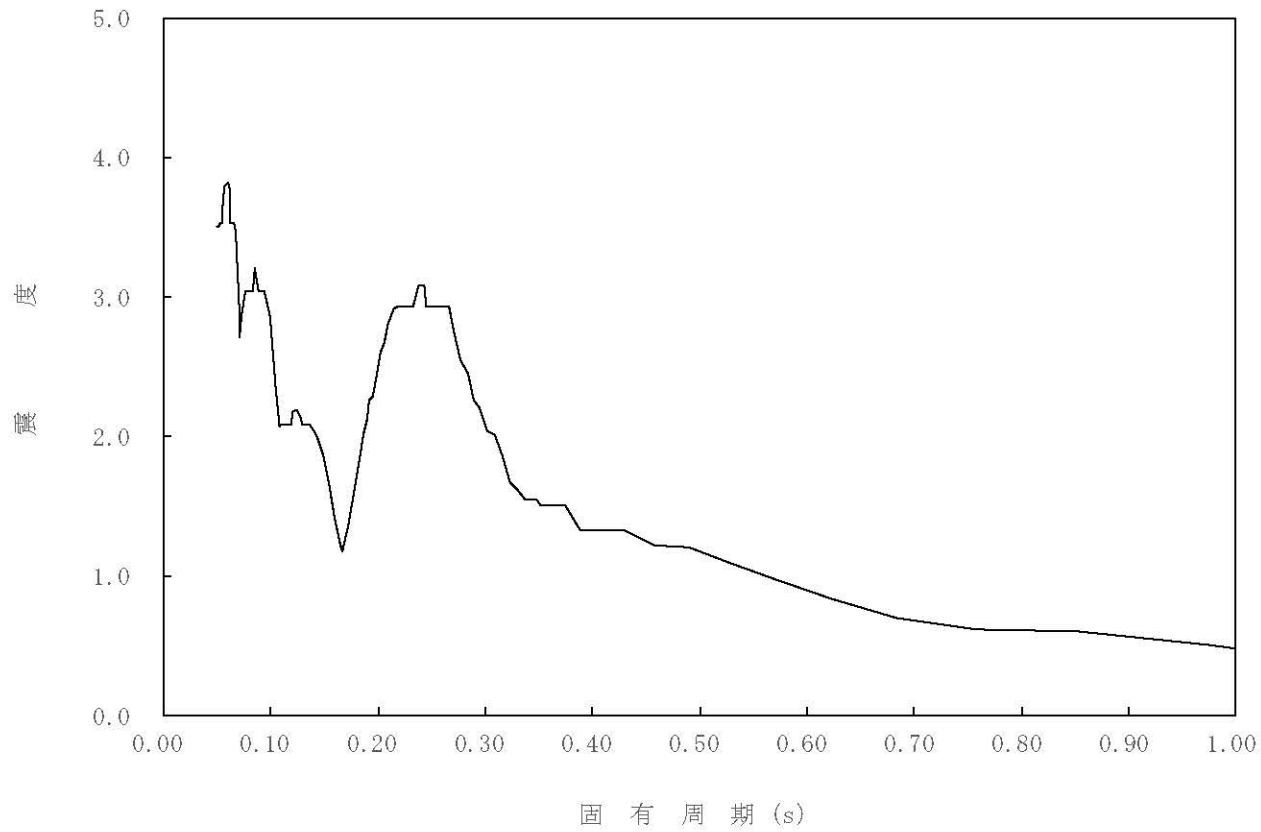
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-203

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED7-030】

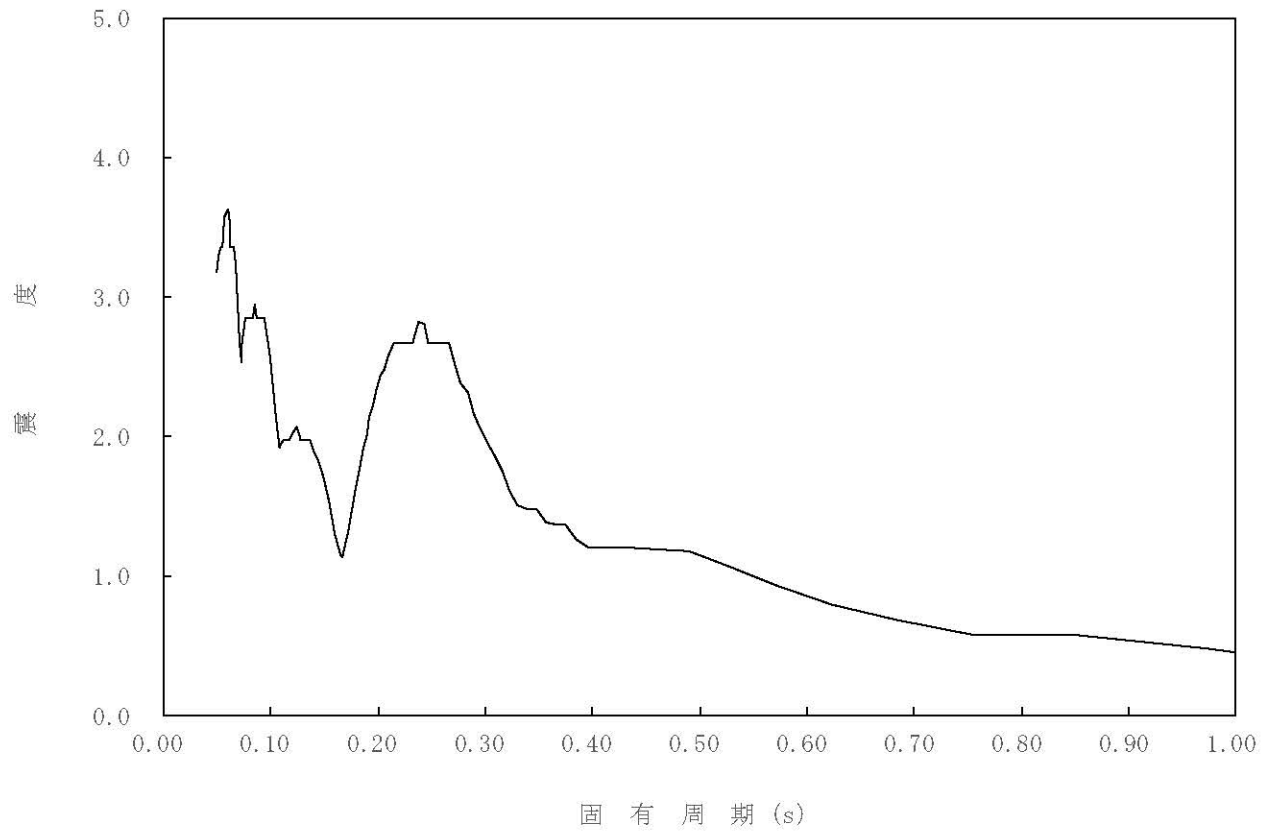
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-204

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED7-040】

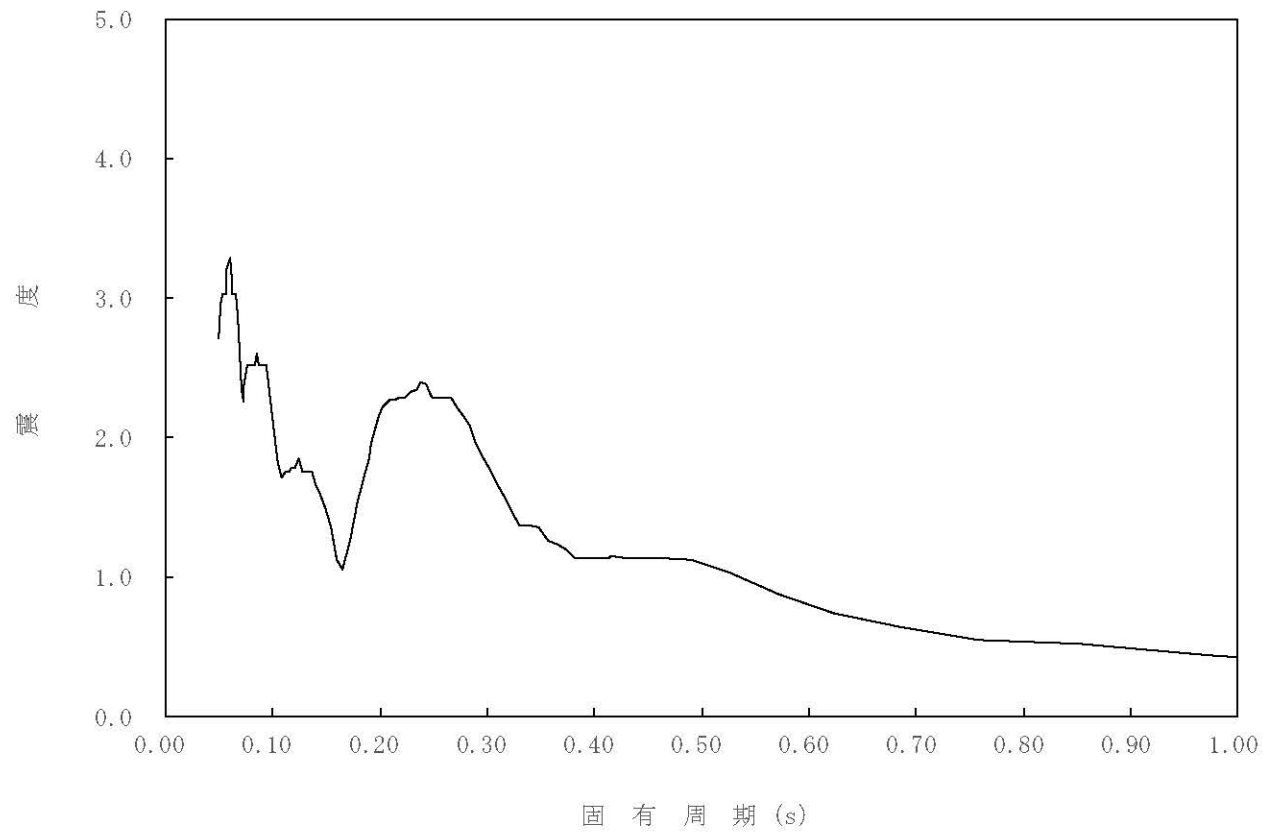
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-205

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED7-050】

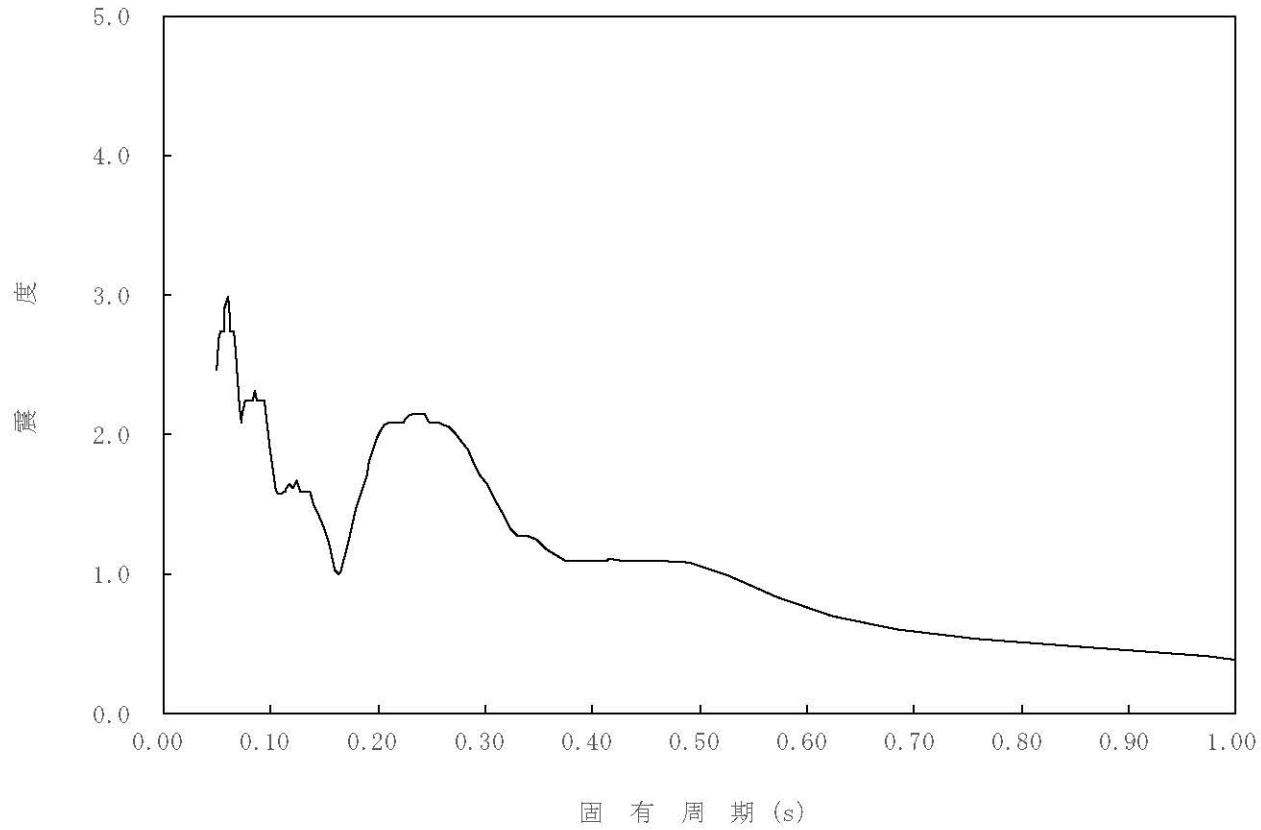
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-206

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED6-005】

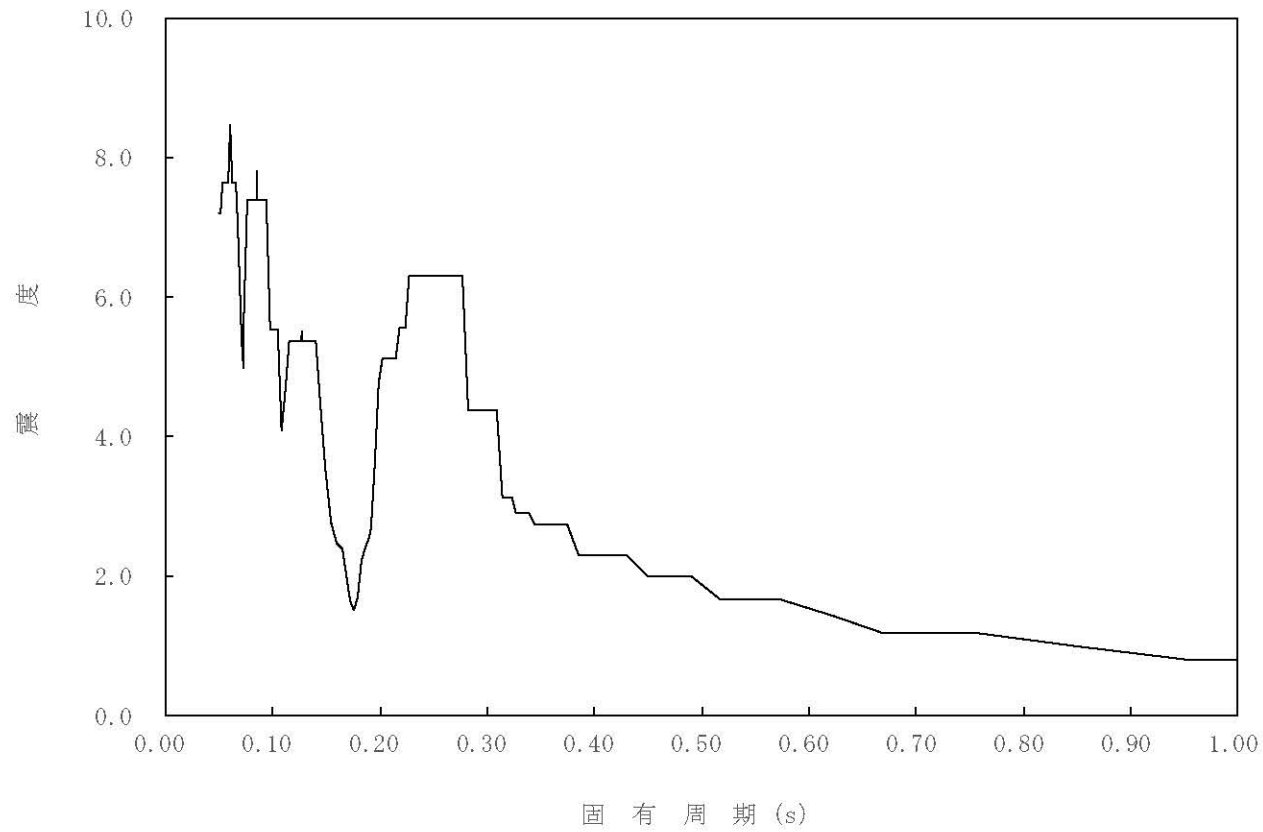
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-207

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PED6-010】

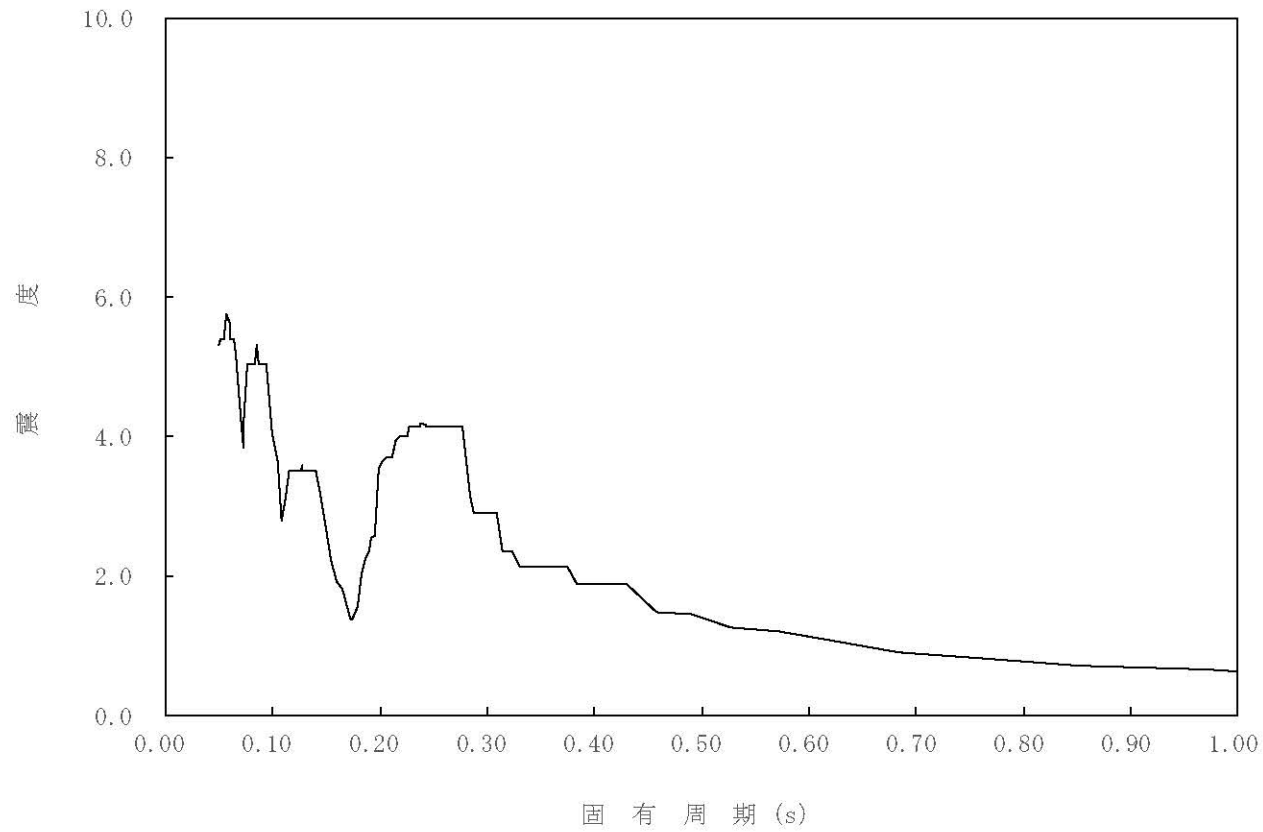
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-208

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED6-015】

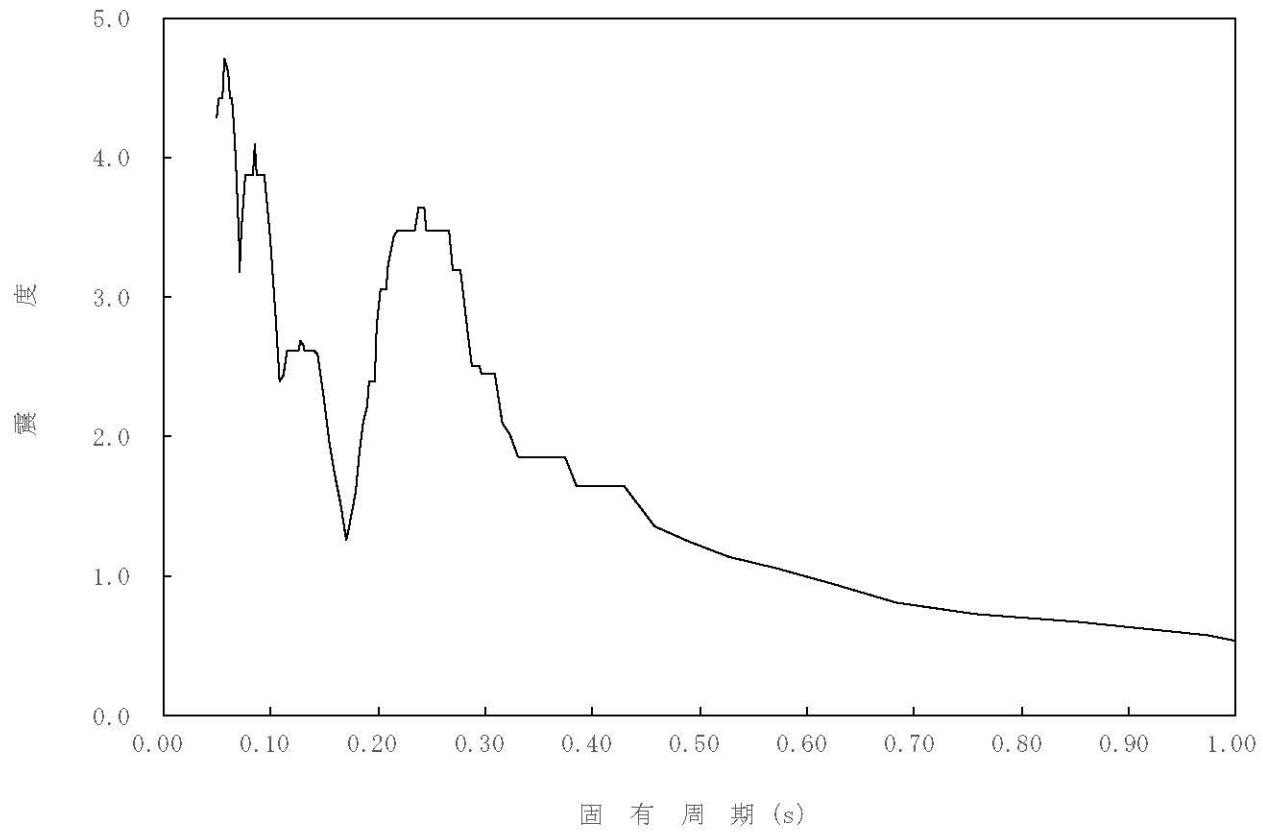
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-209

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED6-020】

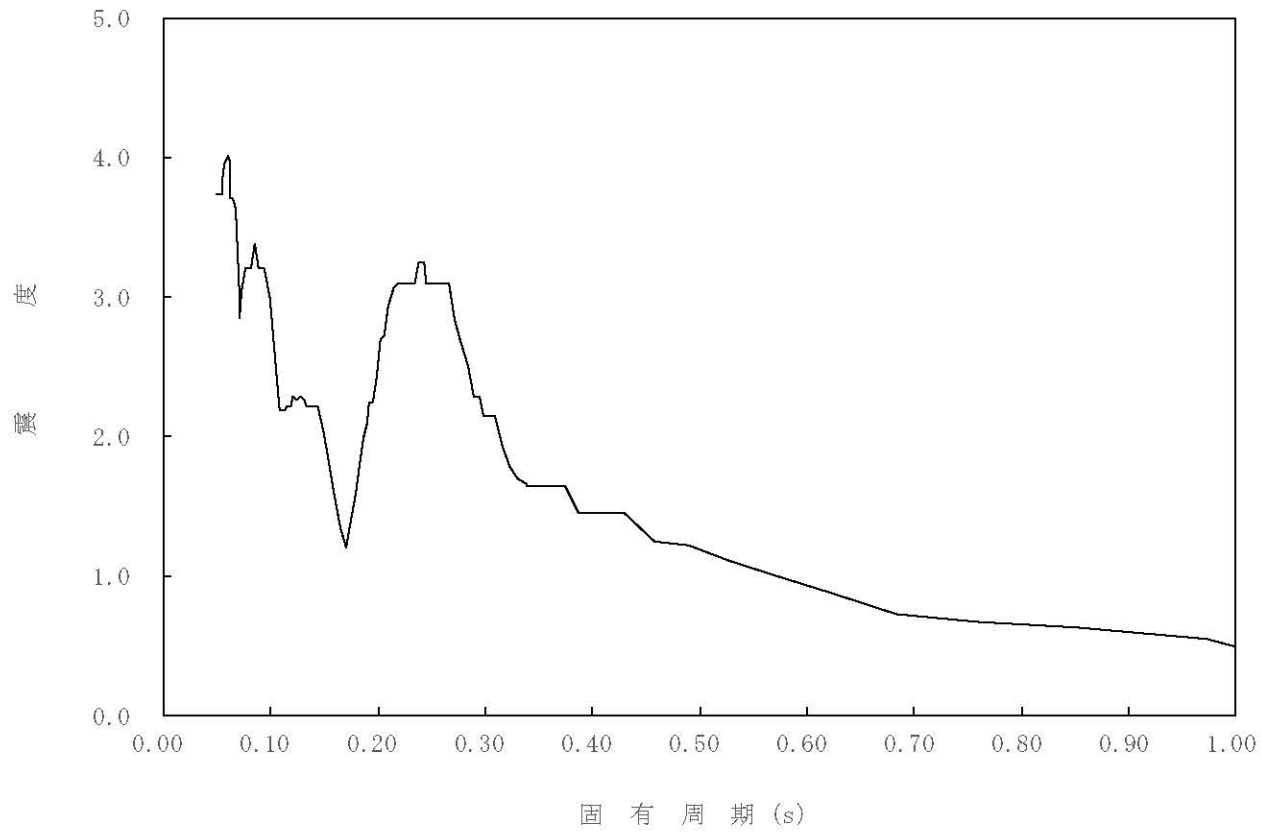
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-210

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED6-025】

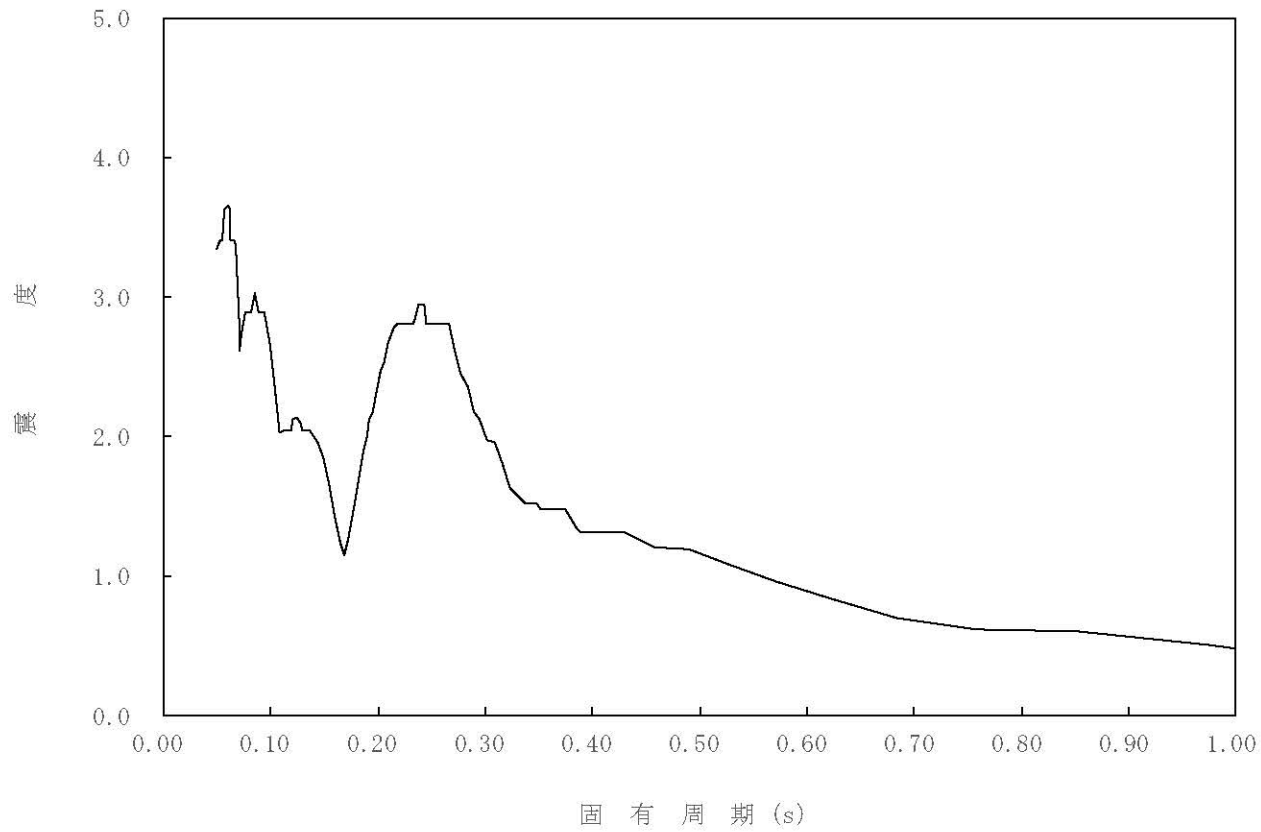
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-211

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED6-030】

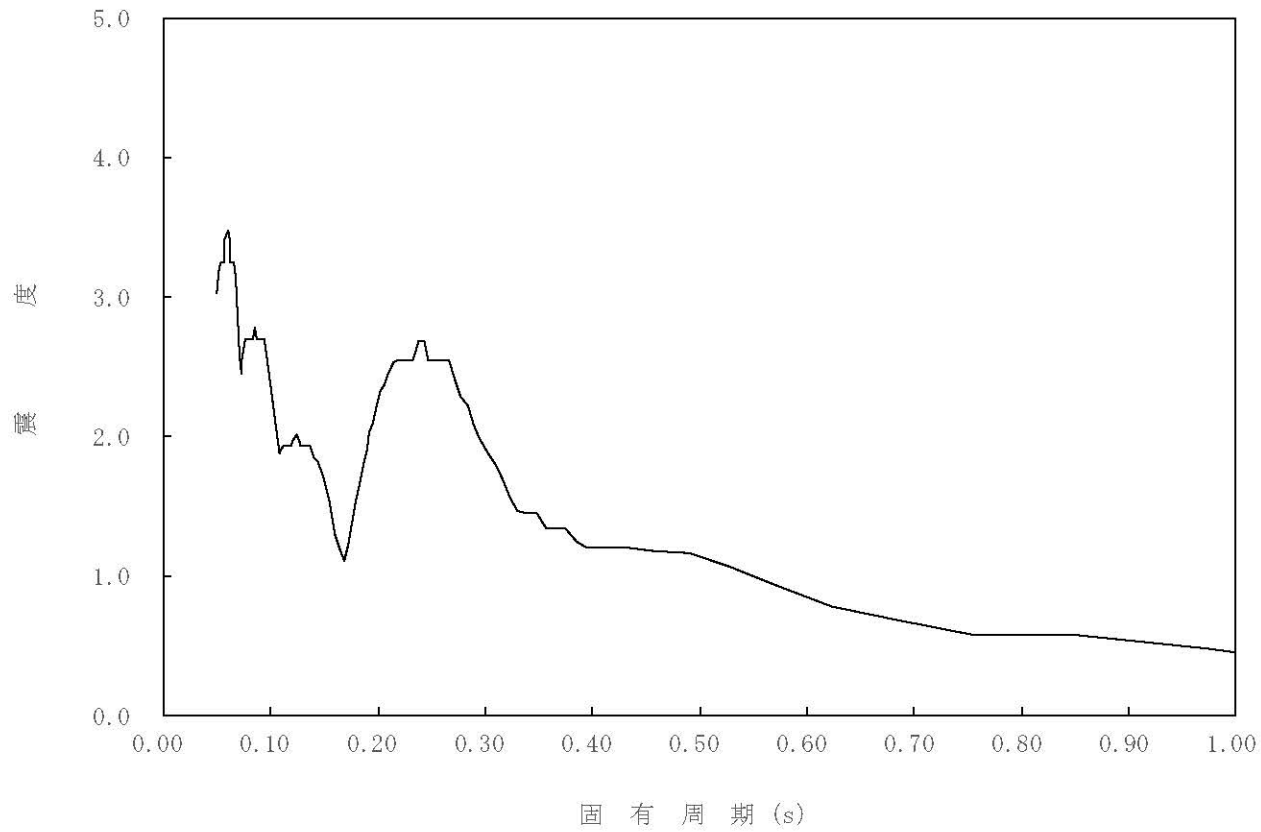
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-212

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED6-040】

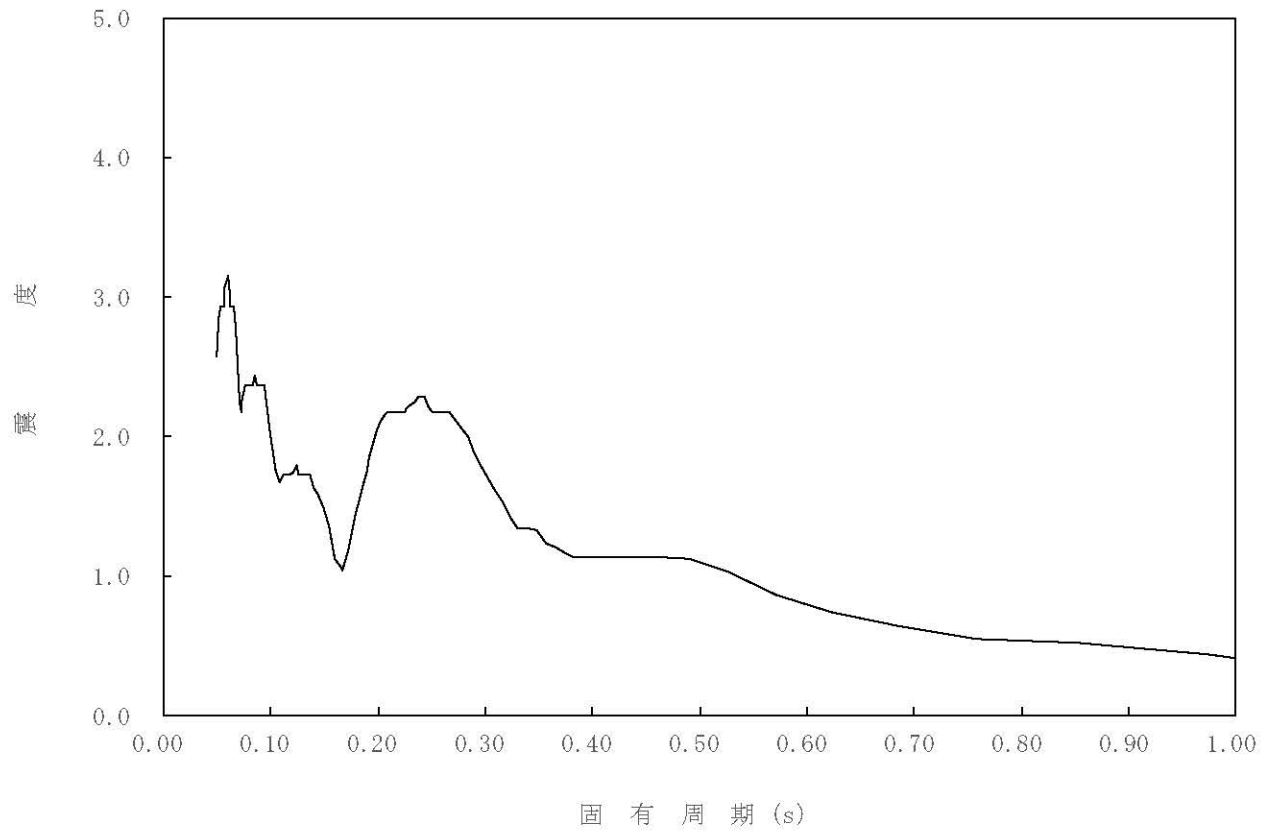
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-213

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED6-050】

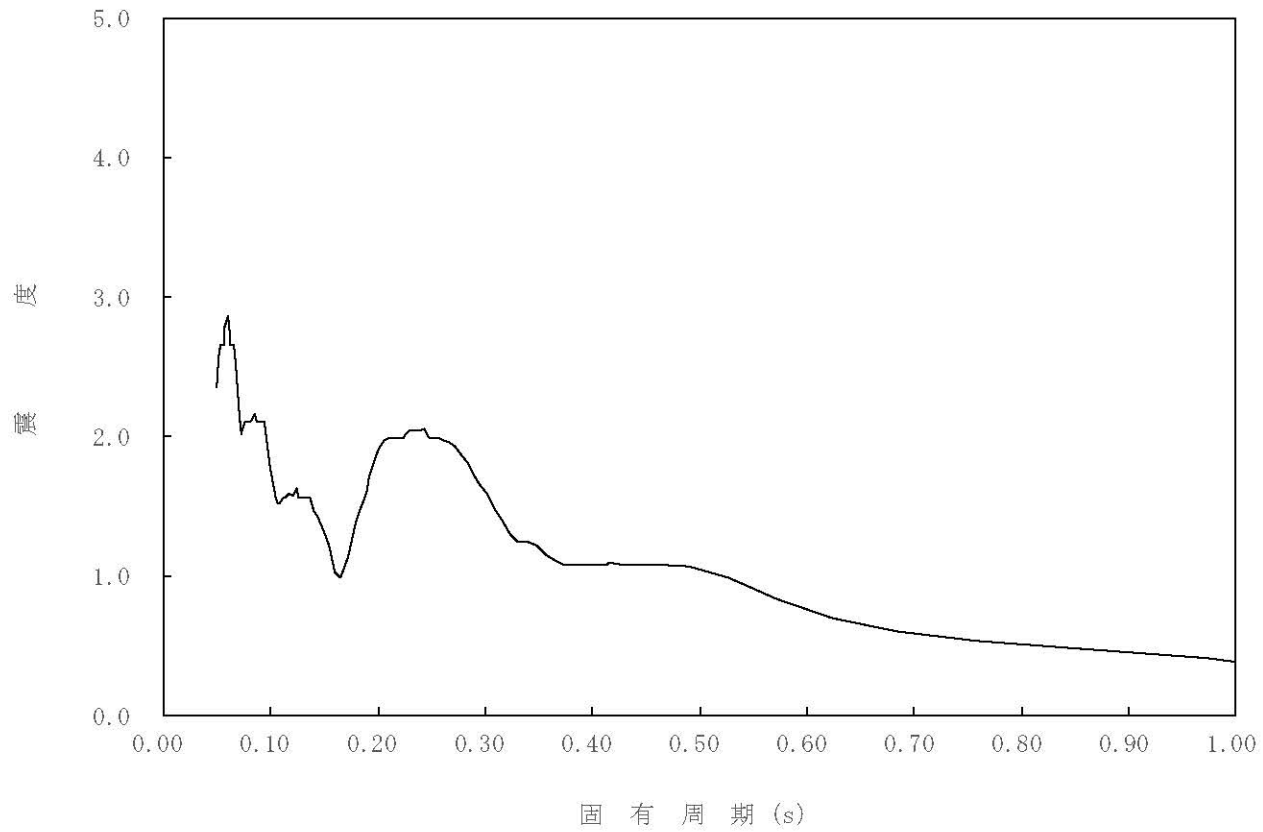
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-214

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED5-005】

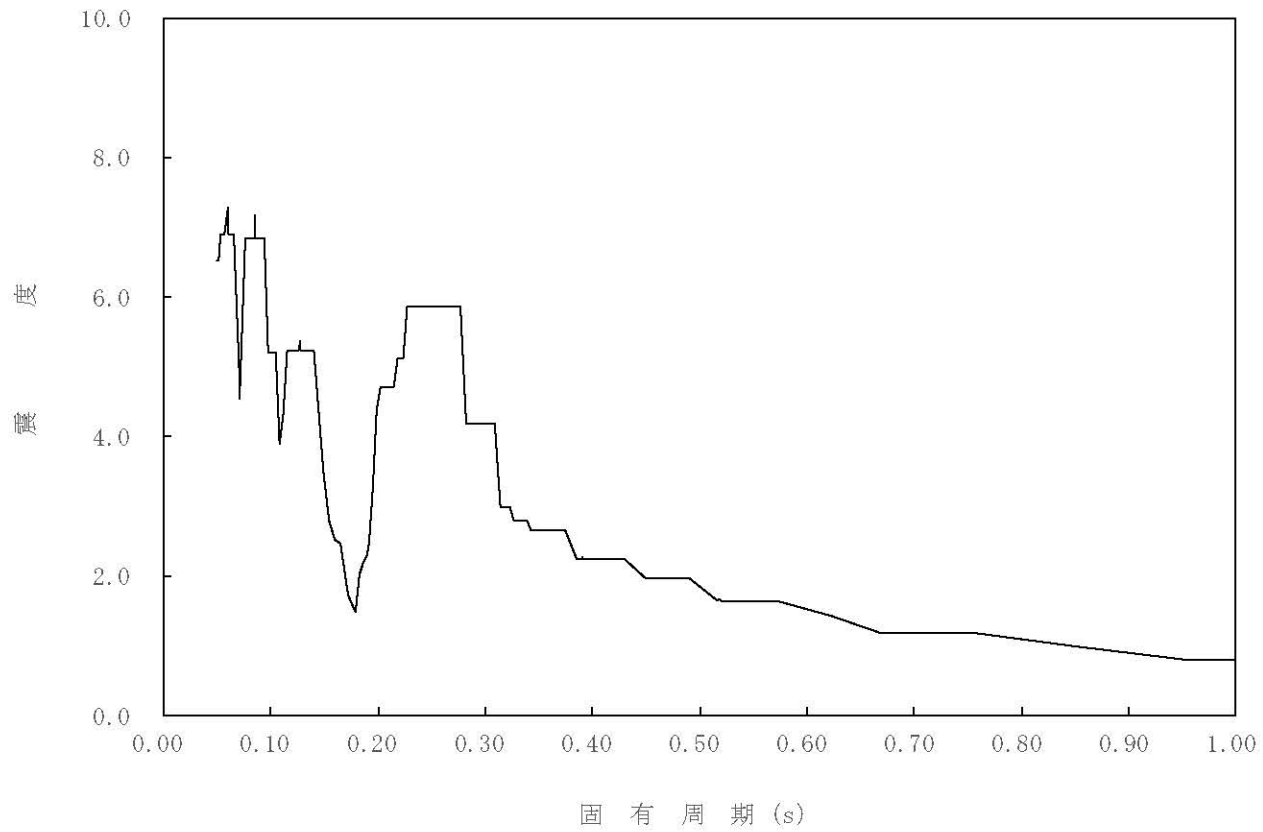
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-215

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PED5-010】

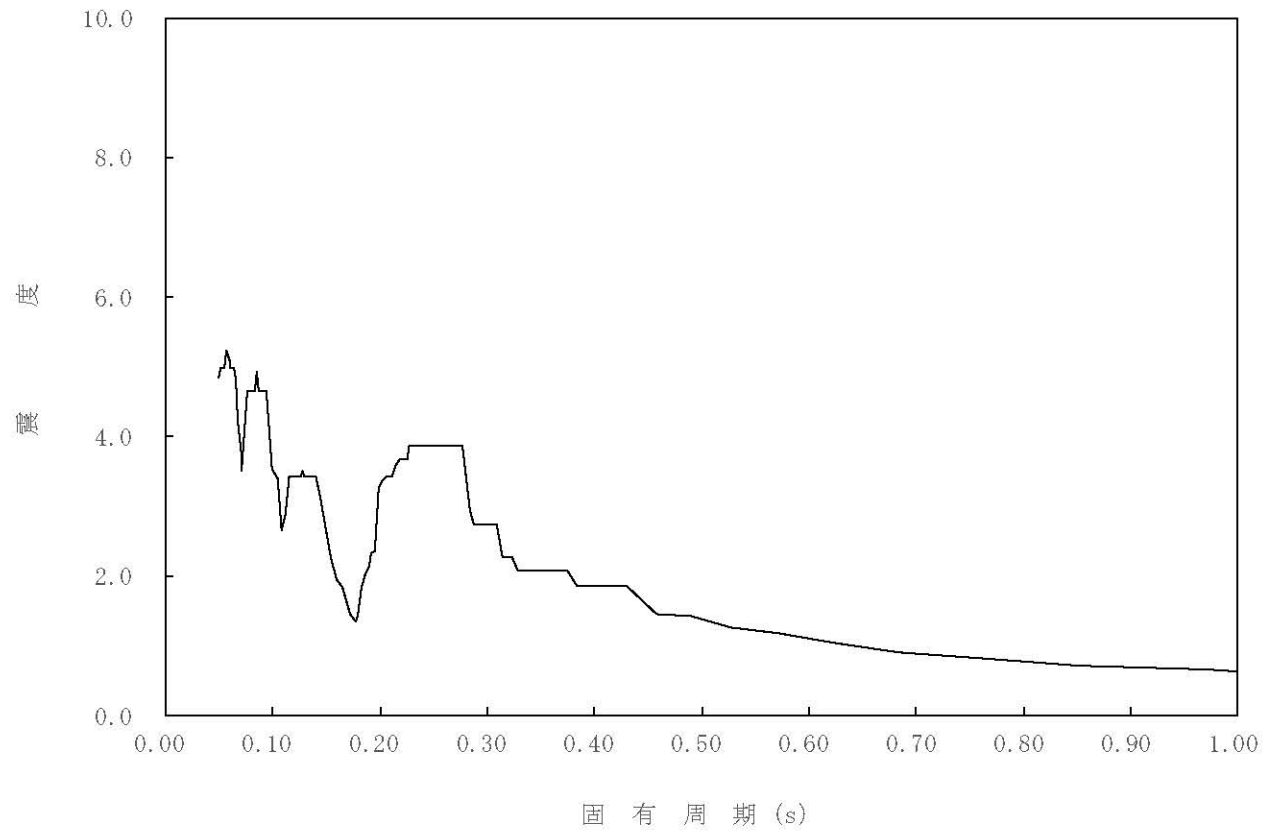
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-216

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED5-015】

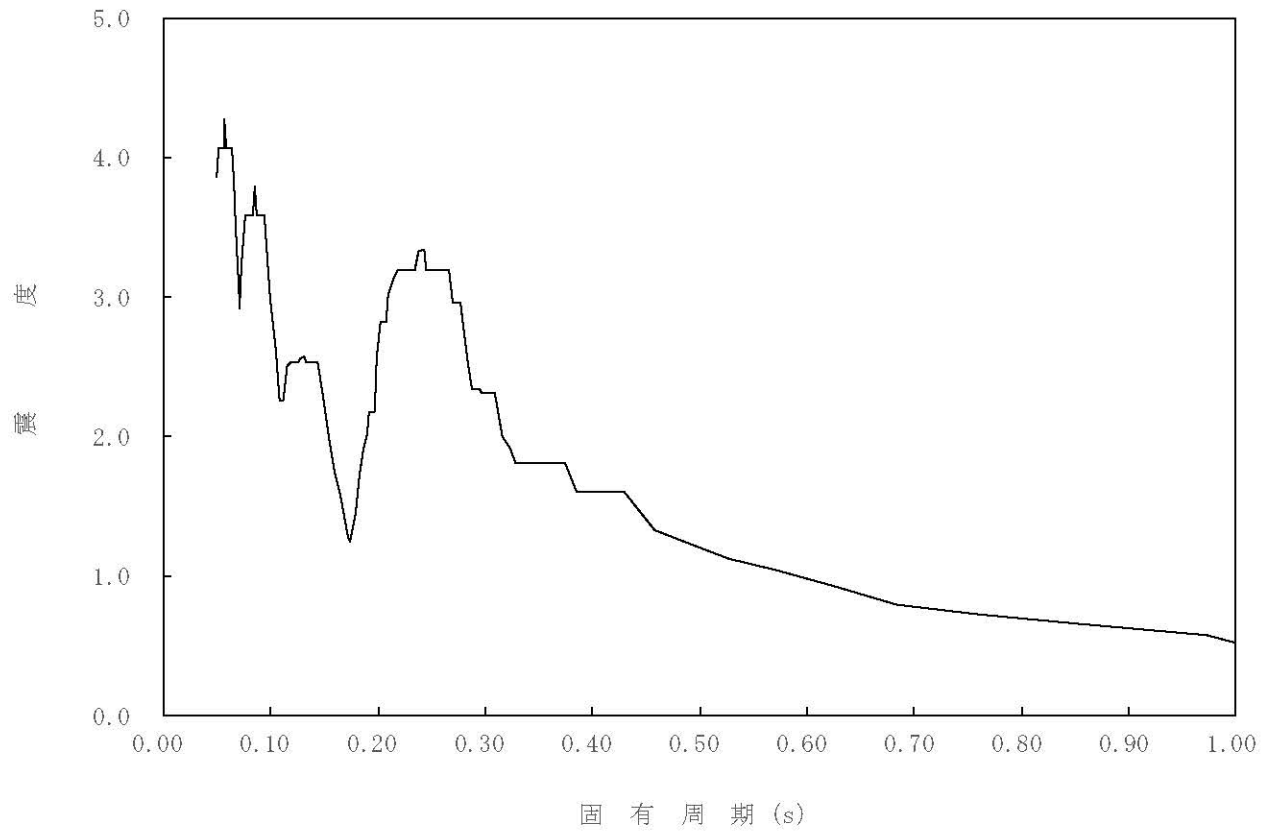
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-217

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED5-020】

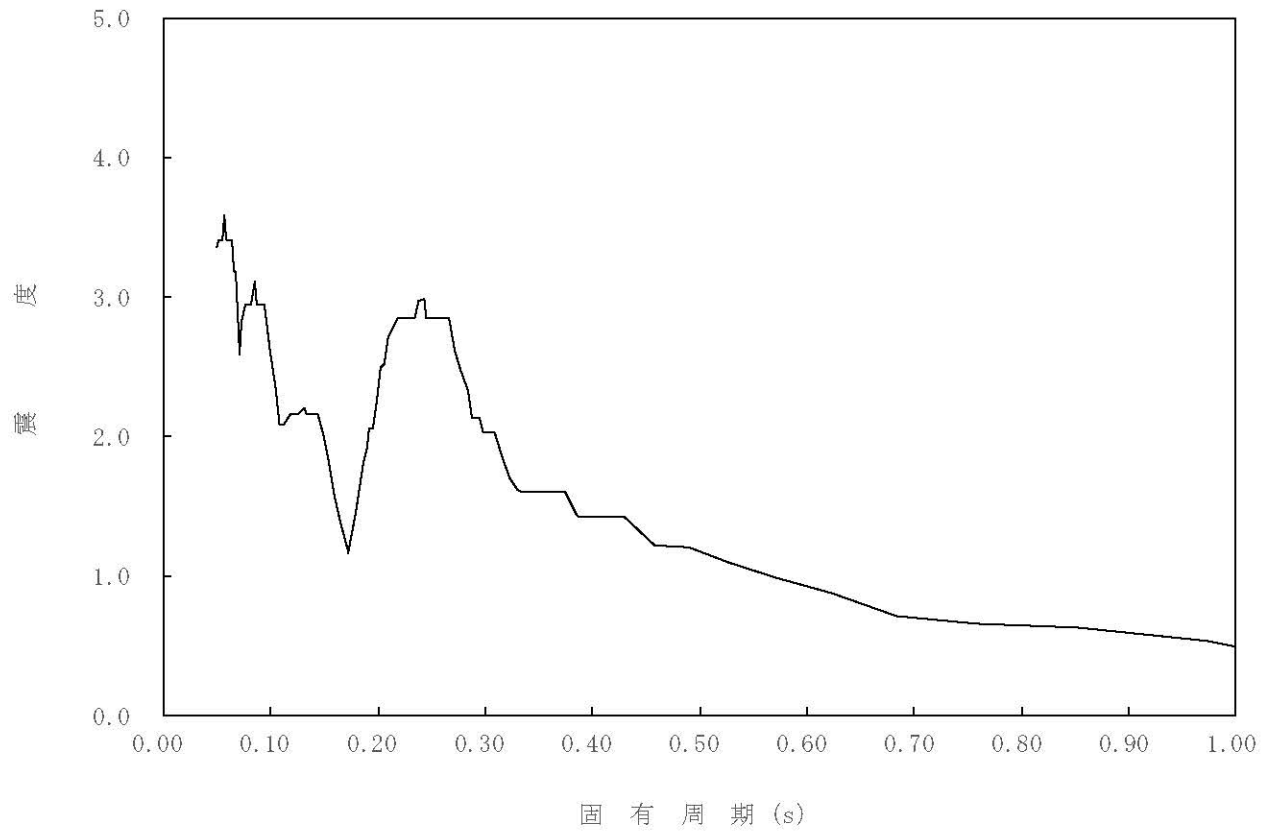
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-218

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED5-025】

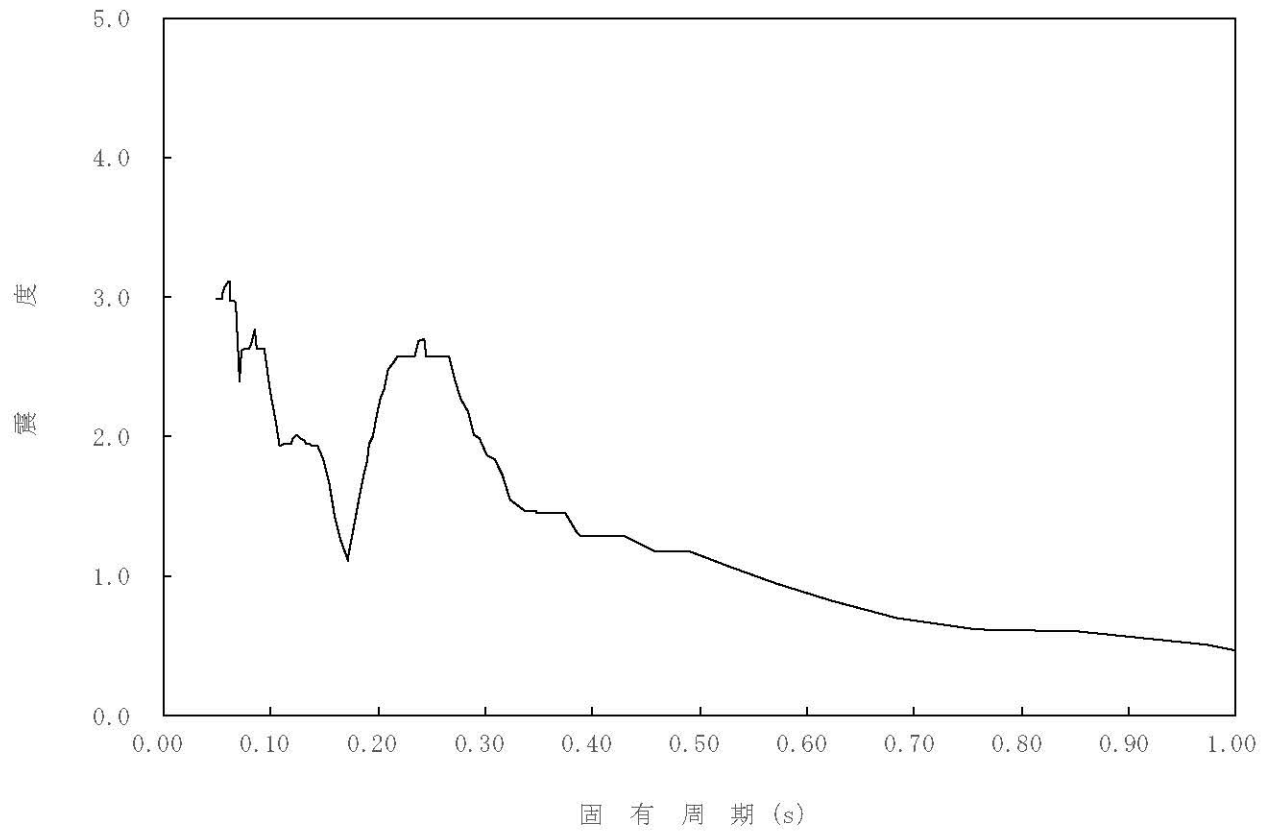
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-219

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED5-030】

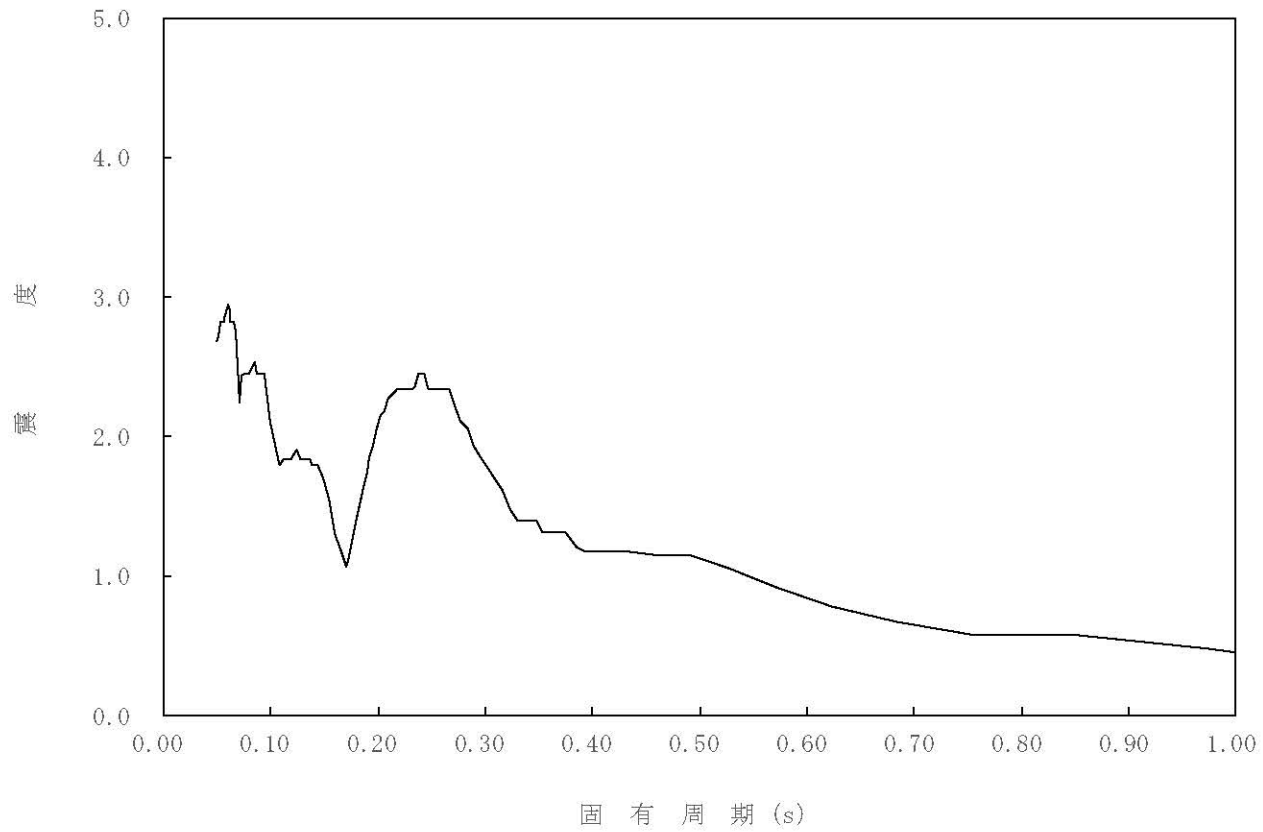
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-220

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED5-040】

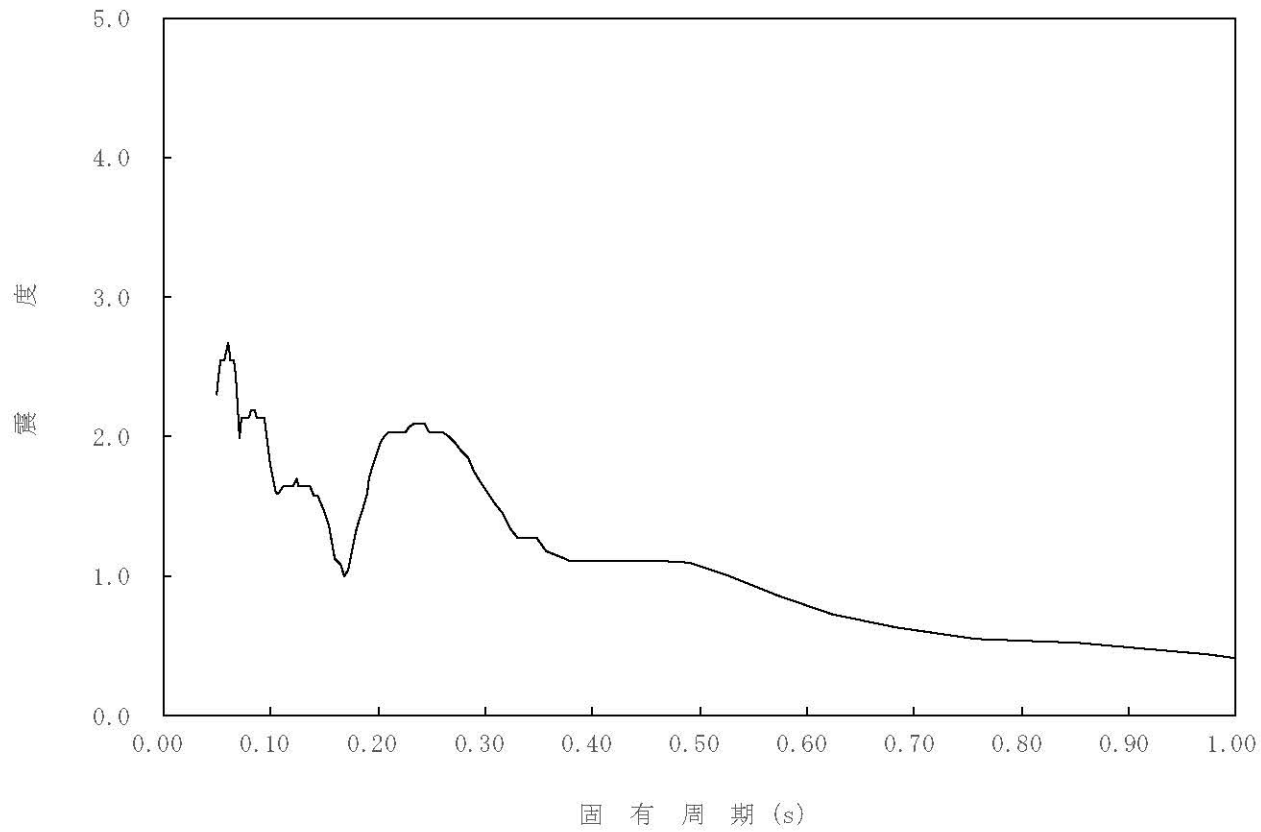
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-221

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED5-050】

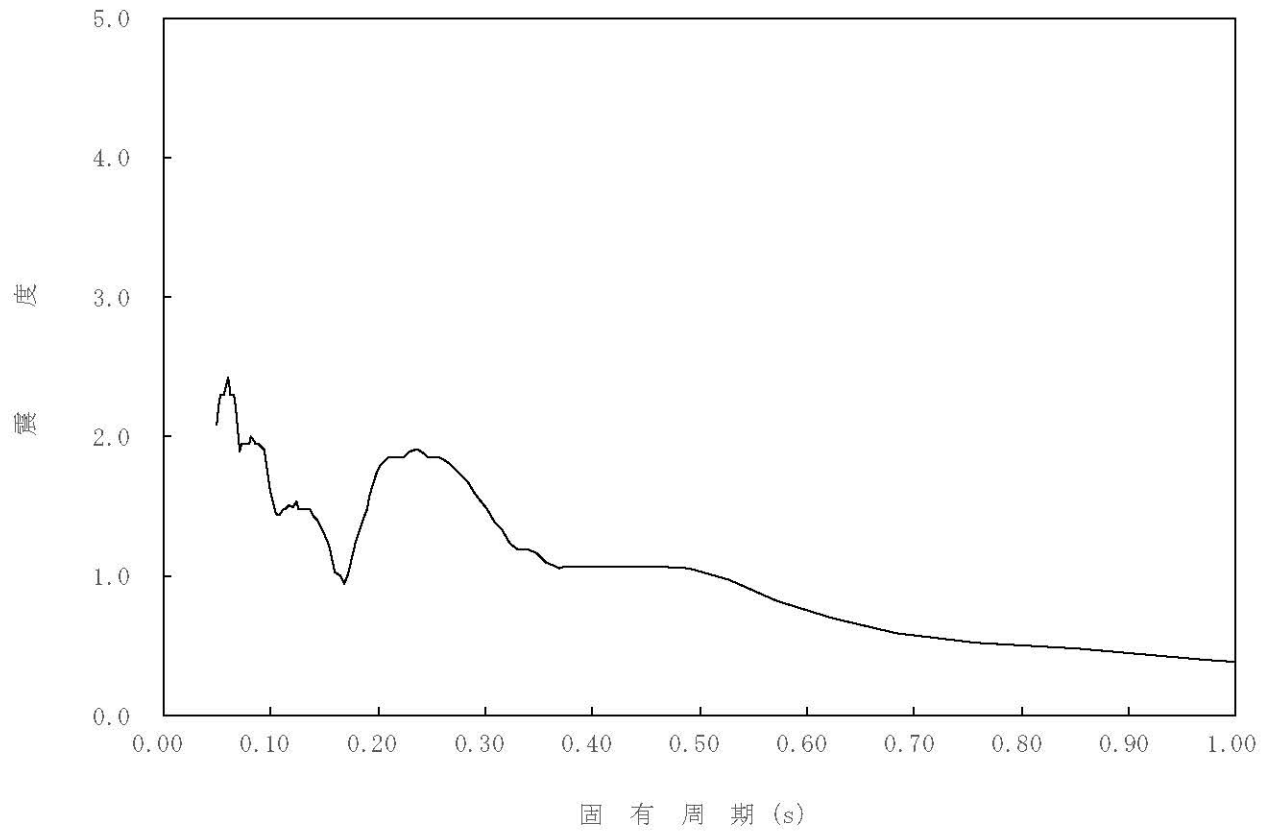
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-222

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED4-005】

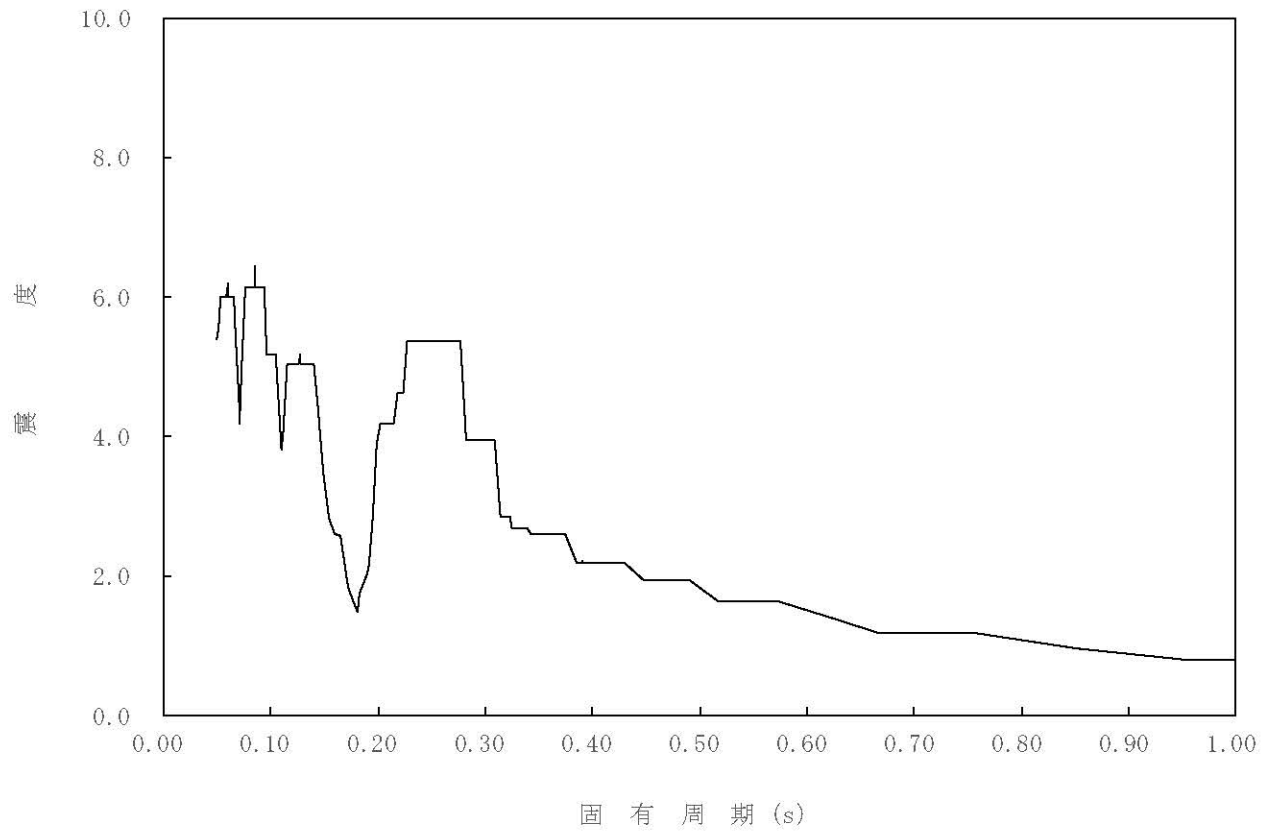
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-223

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PED4-010】

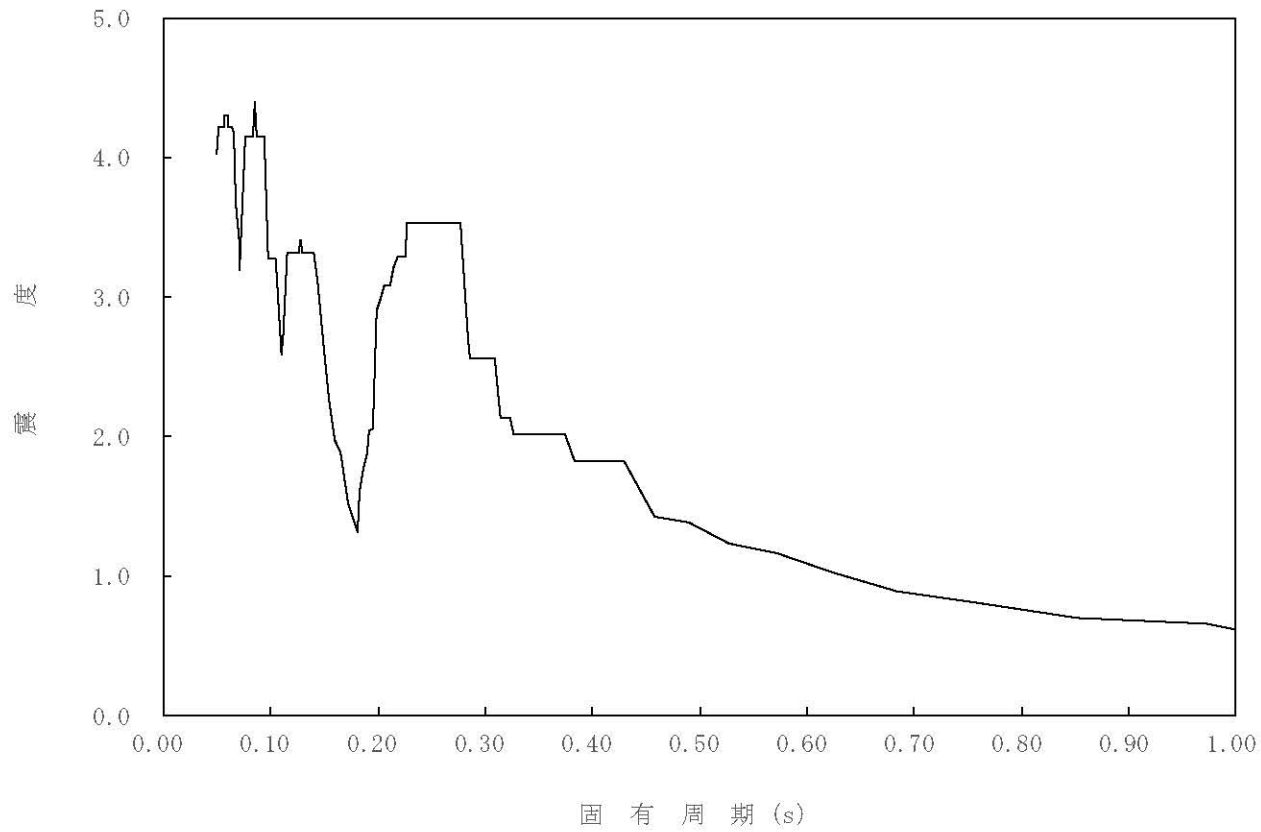
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-224

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED4-015】

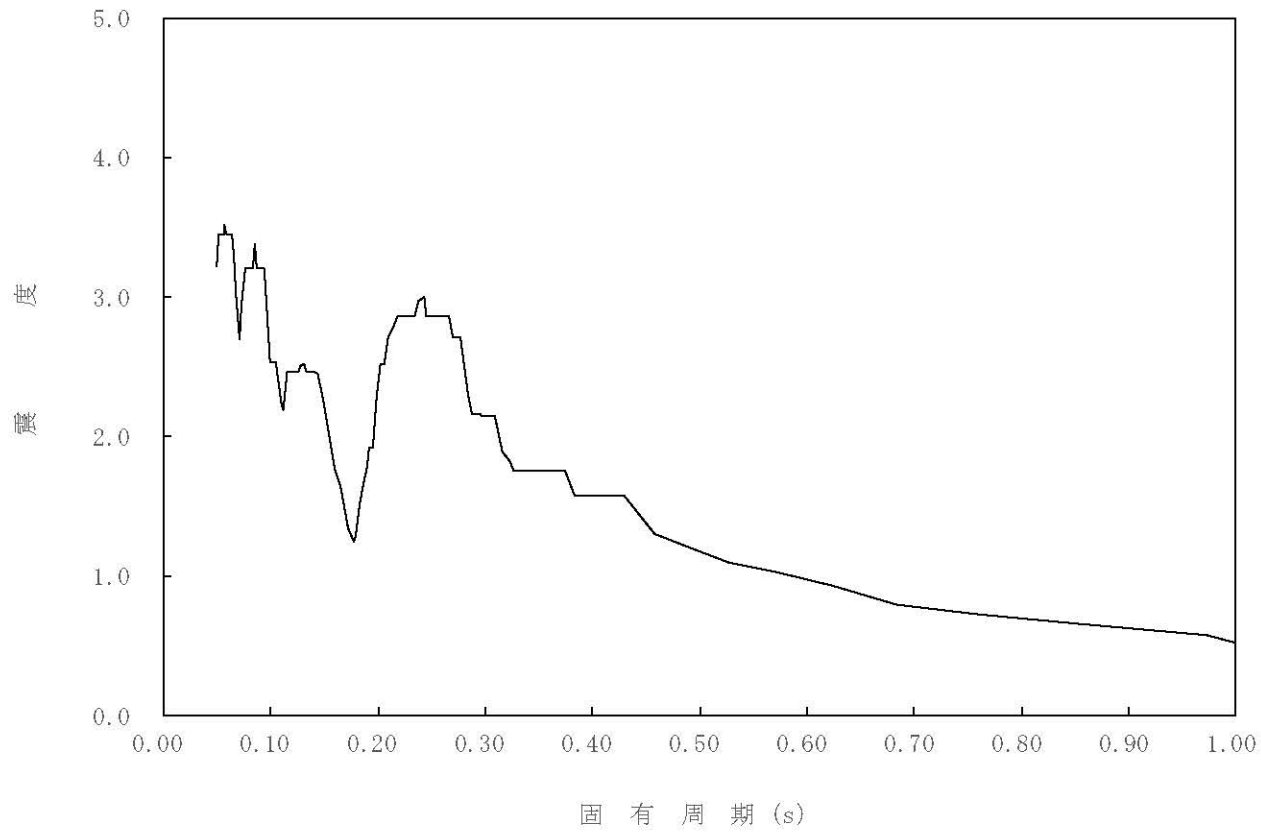
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-225

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED4-020】

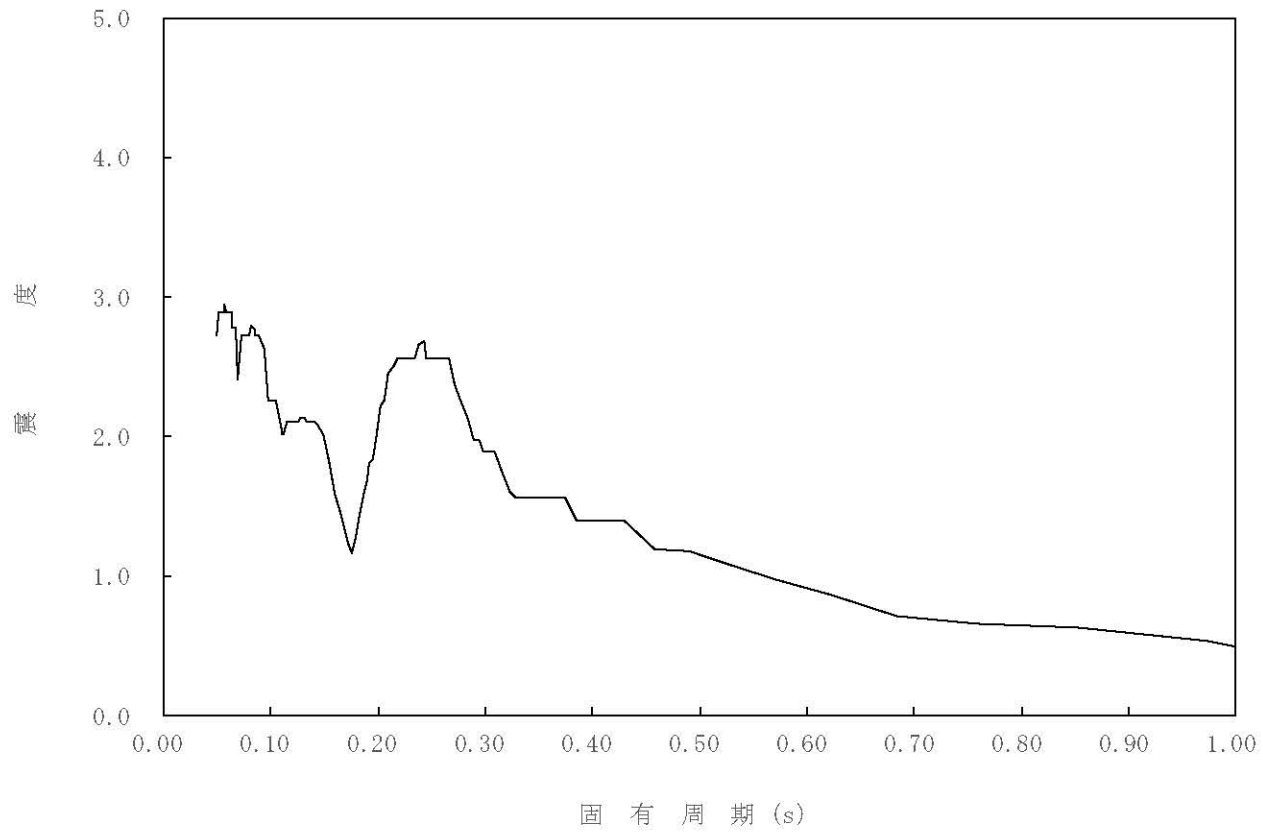
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-226

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED4-025】

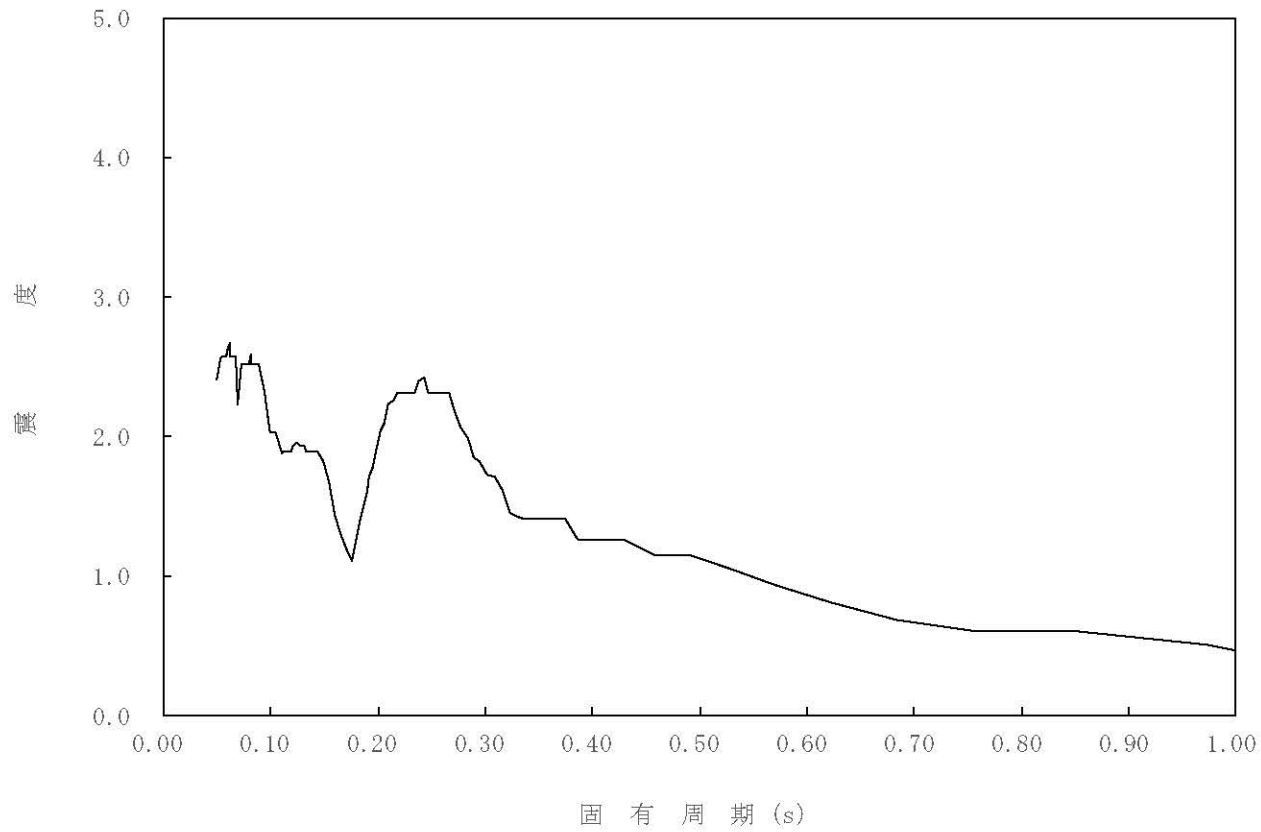
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-227

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED4-030】

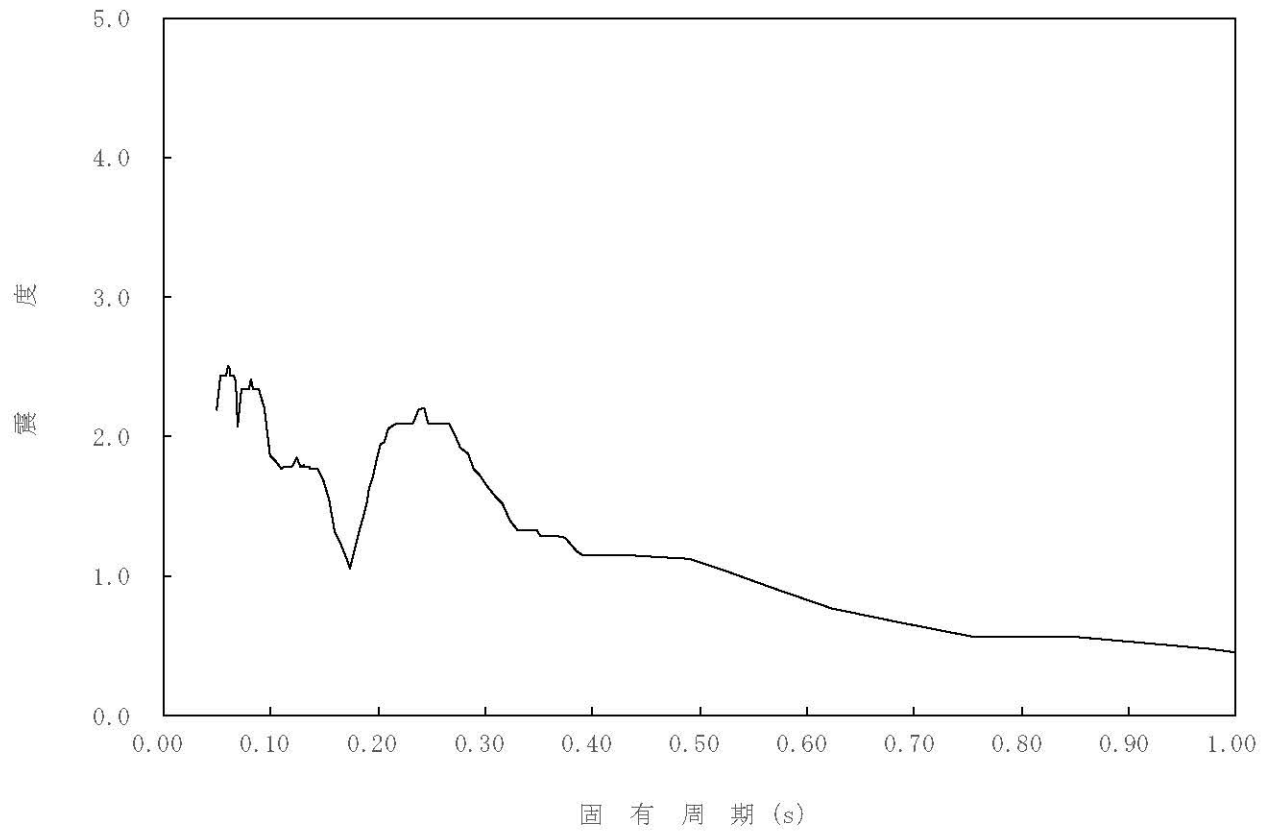
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-228

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED4-040】

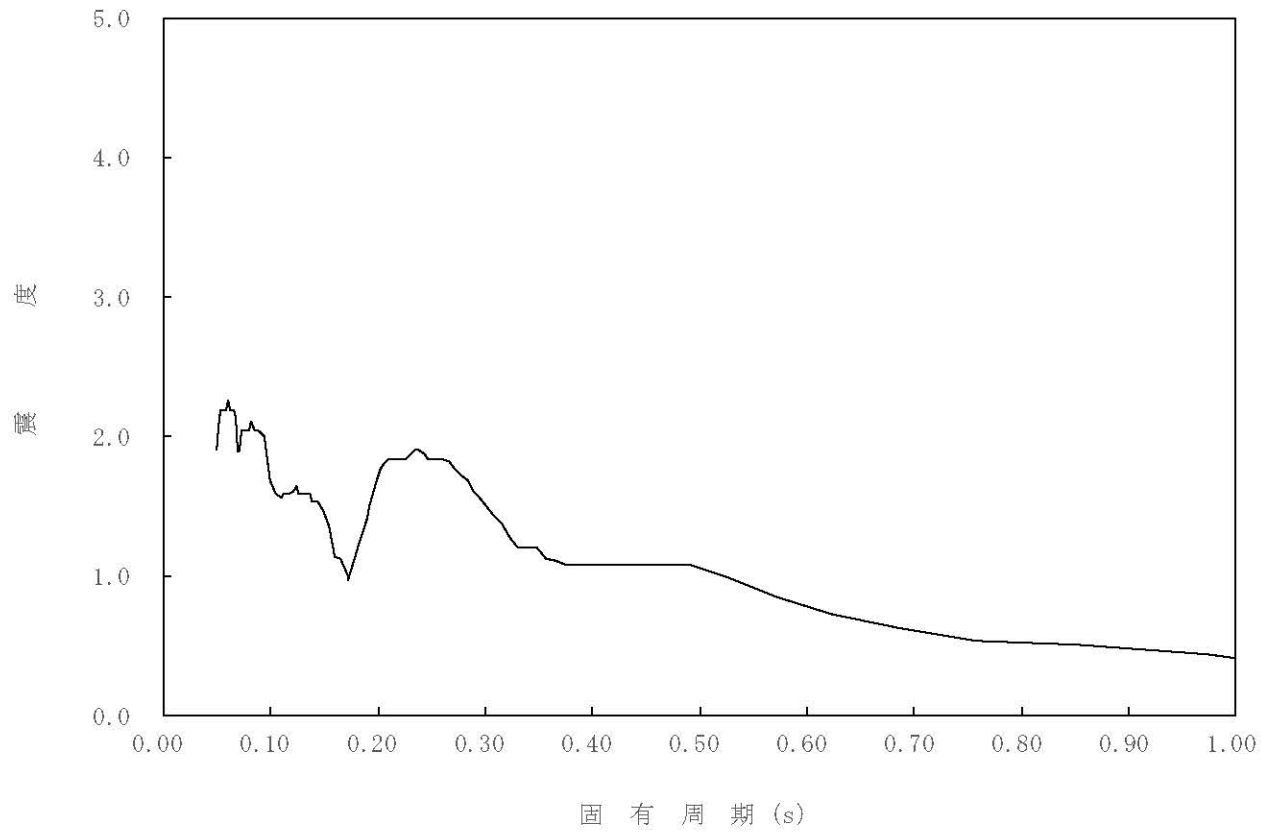
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-229

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED4-050】

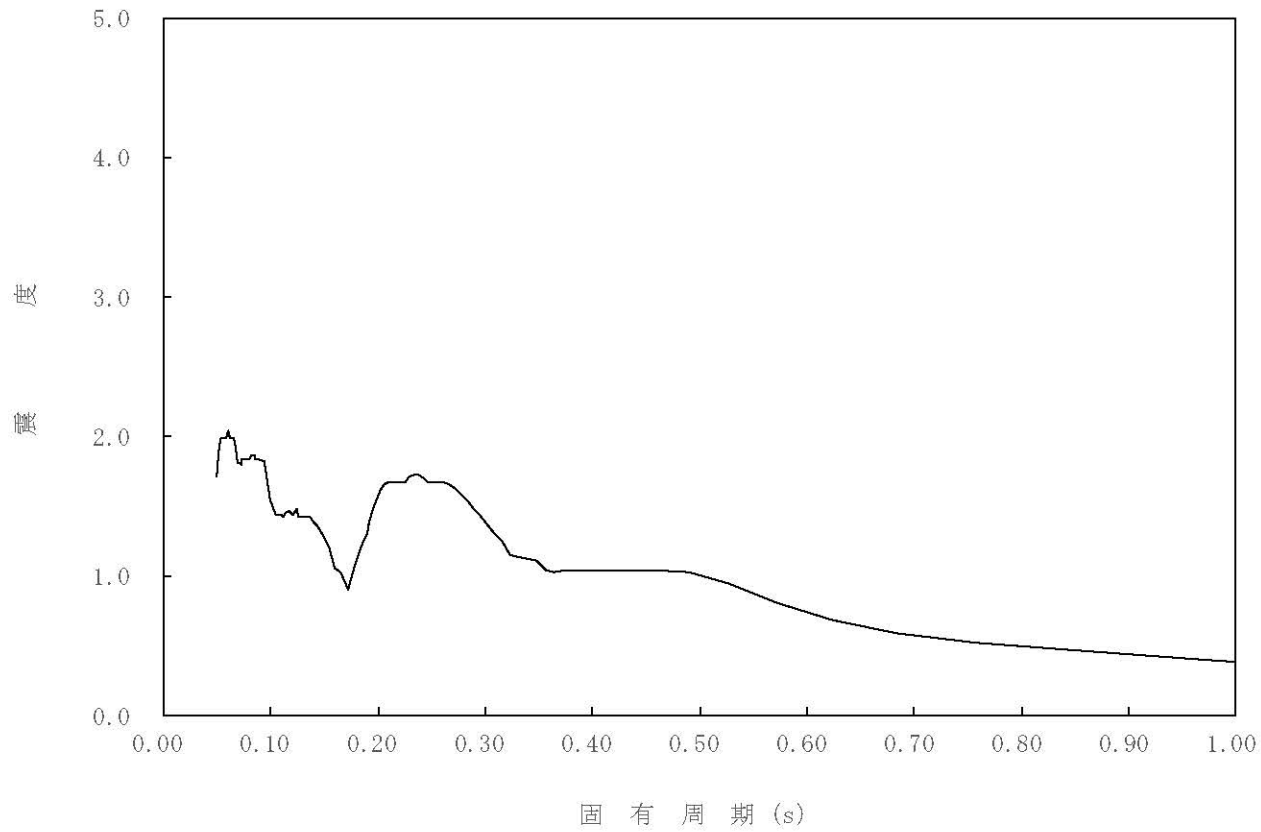
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-230

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED3-005】

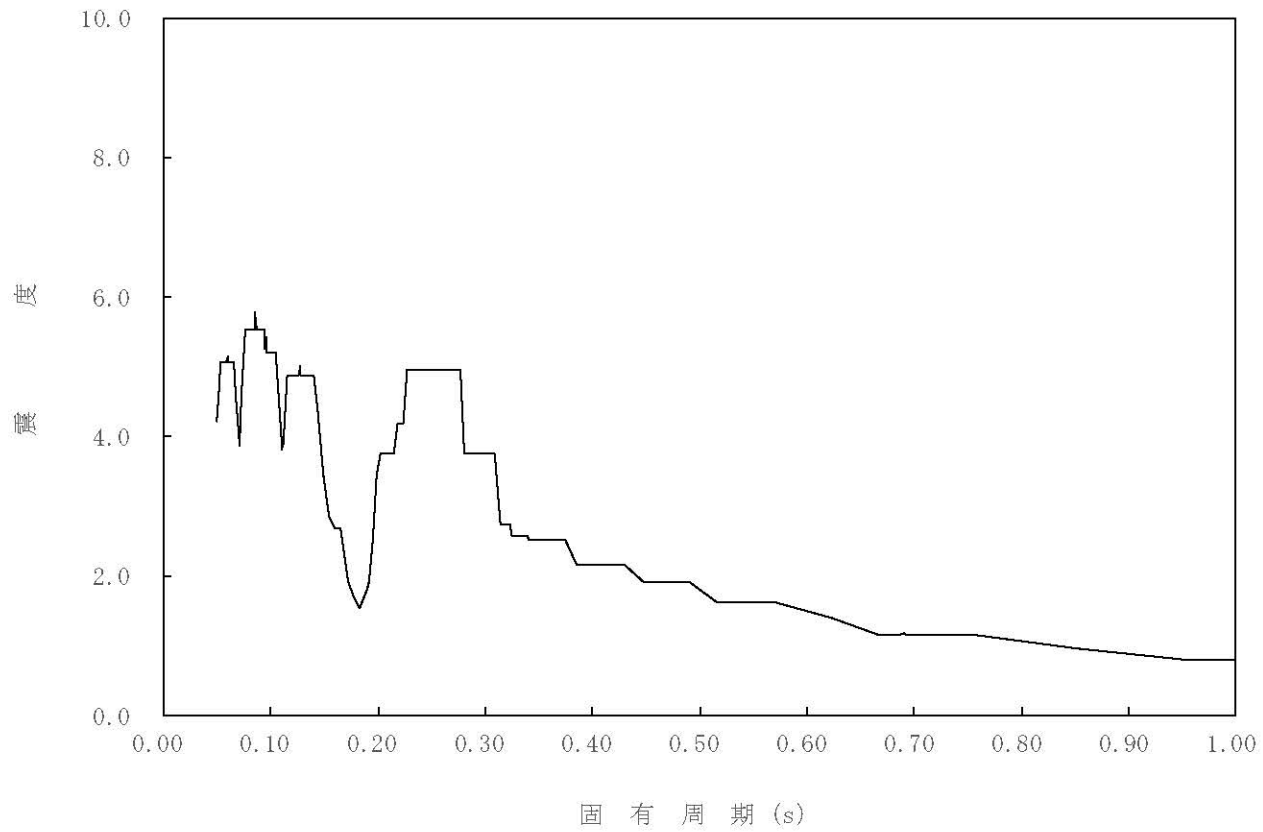
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-231

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdH-PED3-010】

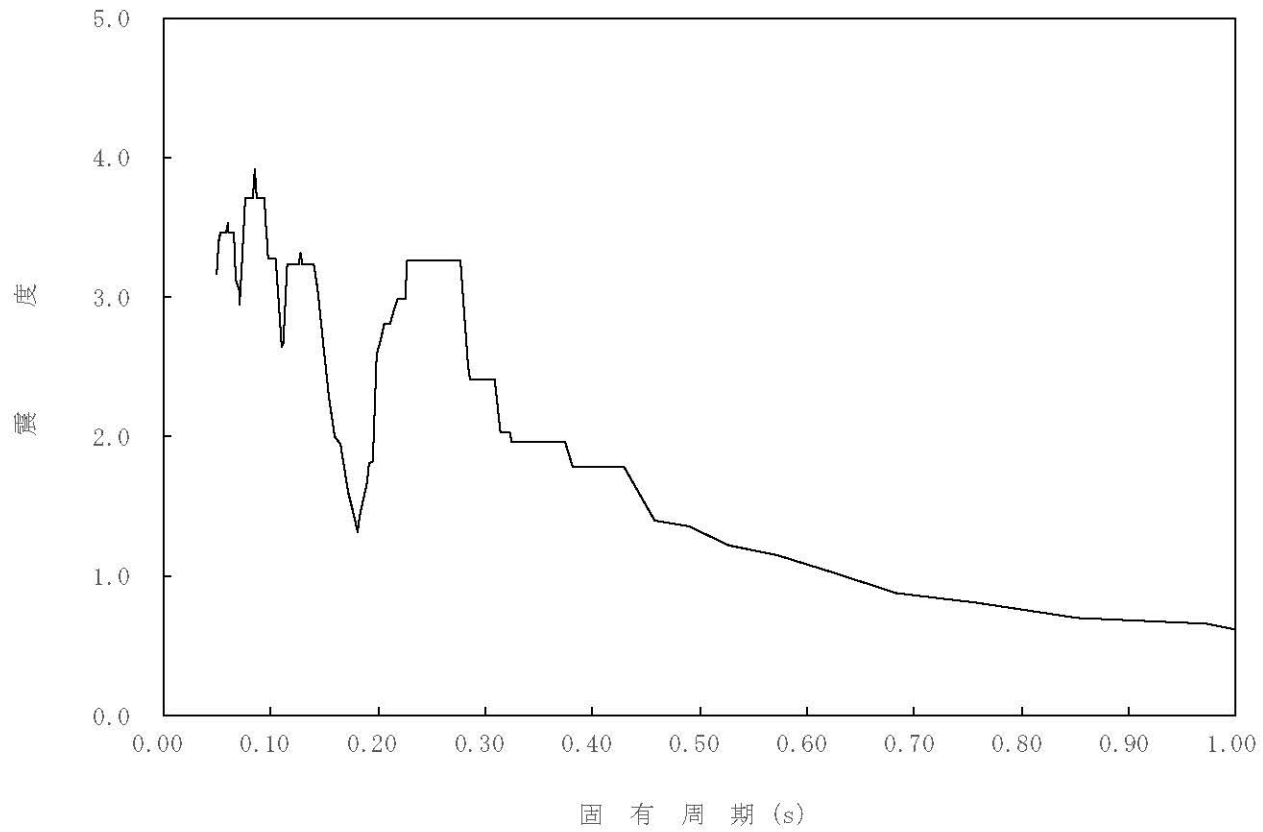
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-232

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED3-015】

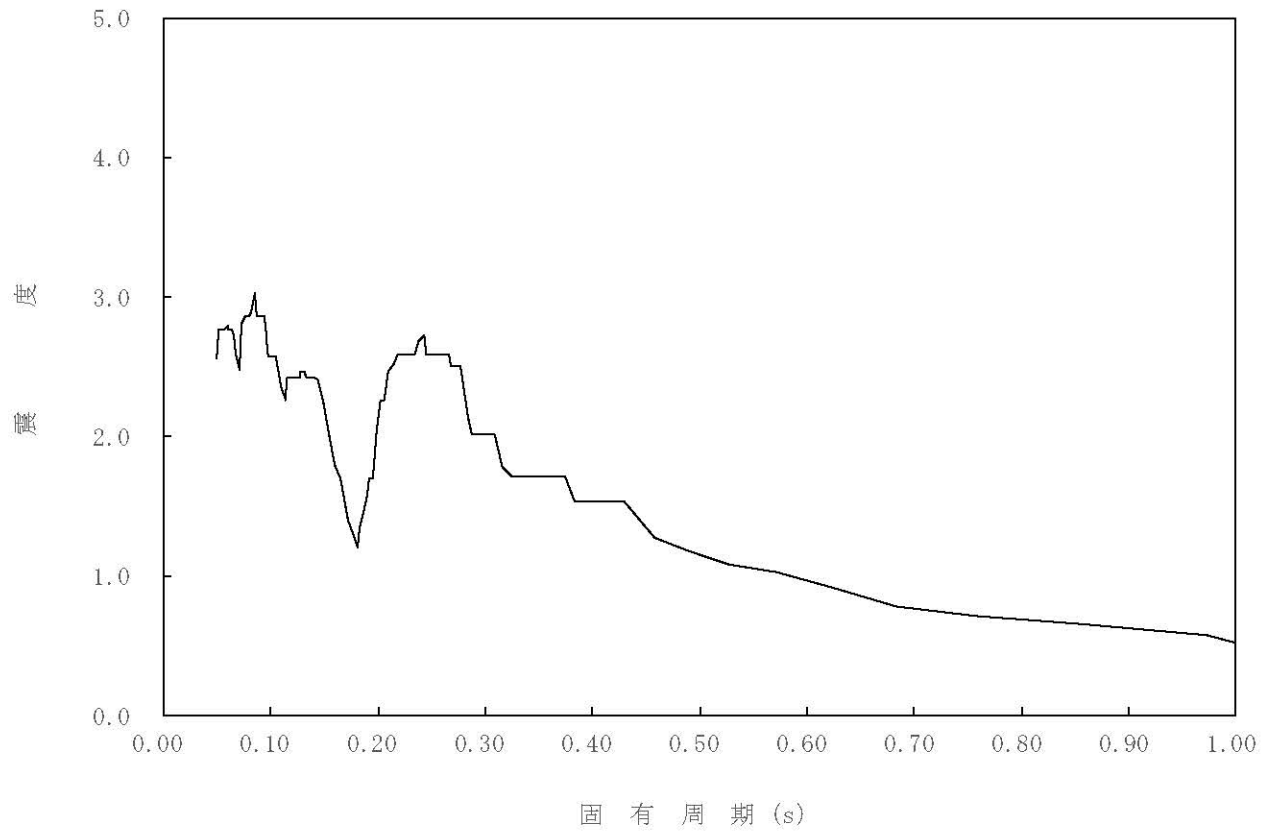
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-233

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED3-020】

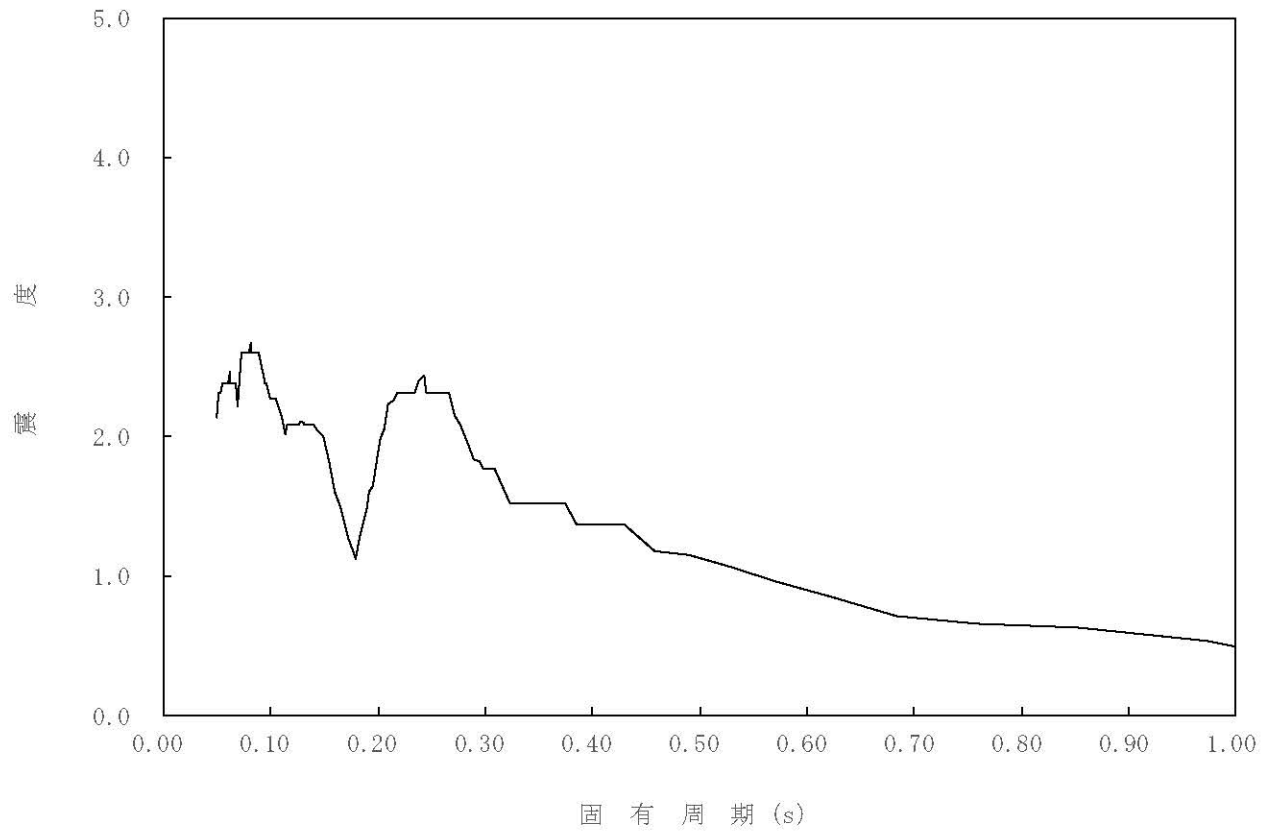
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-234

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED3-025】

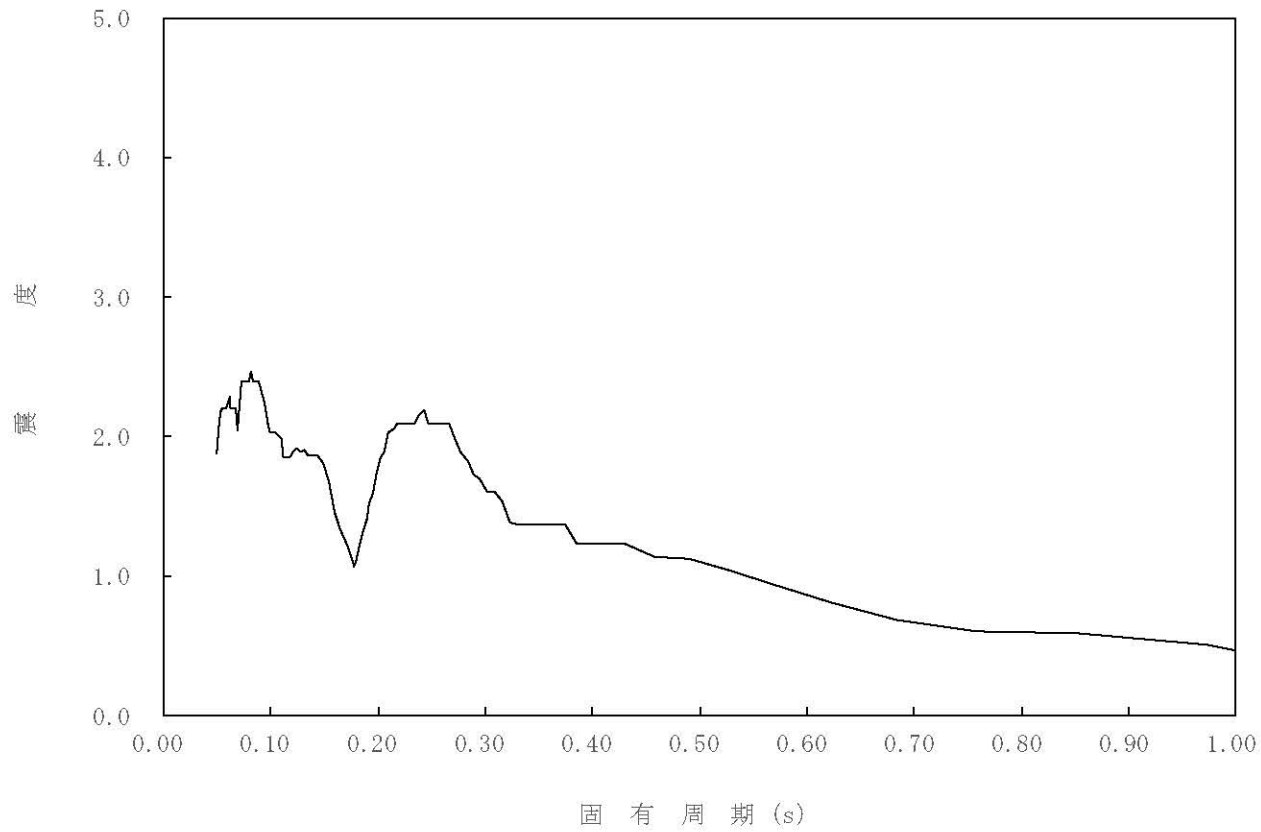
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-235

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED3-030】

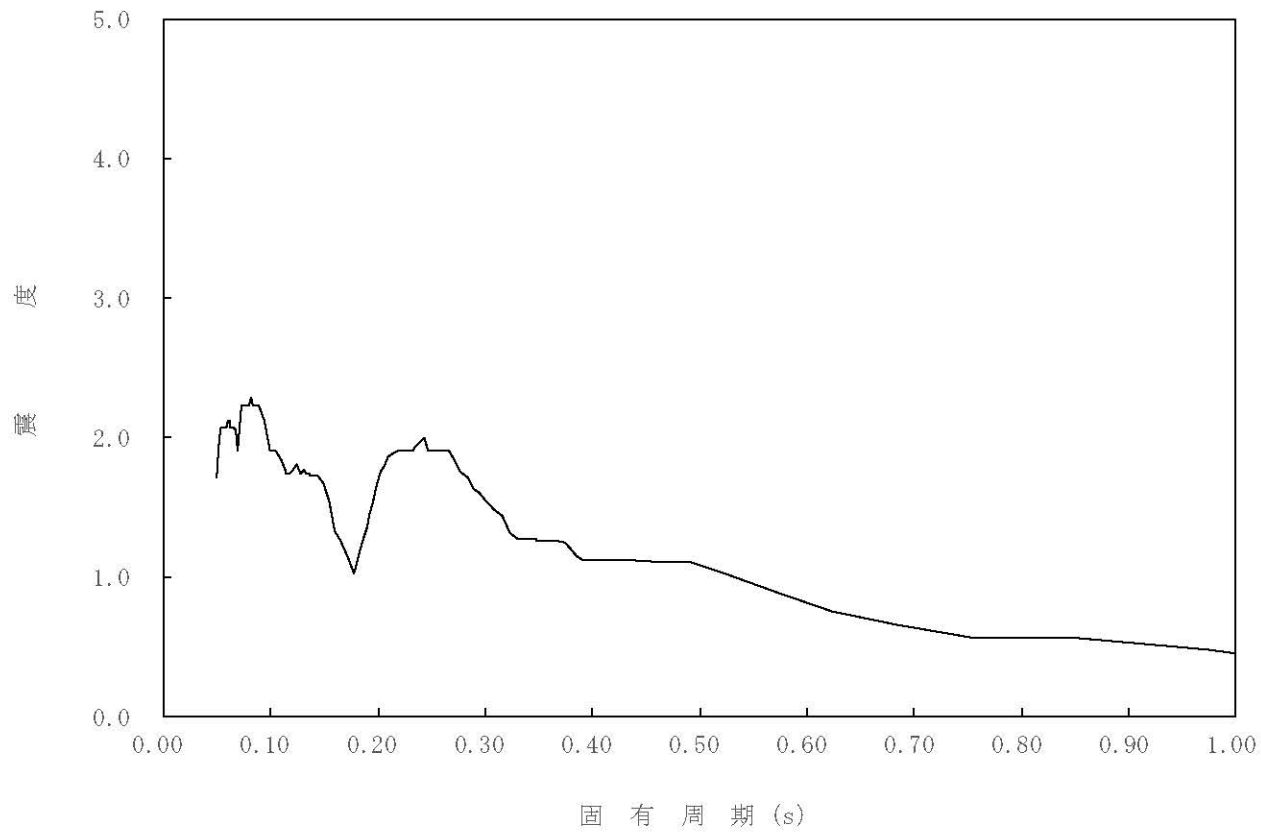
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動S d



2-10-236

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED3-040】

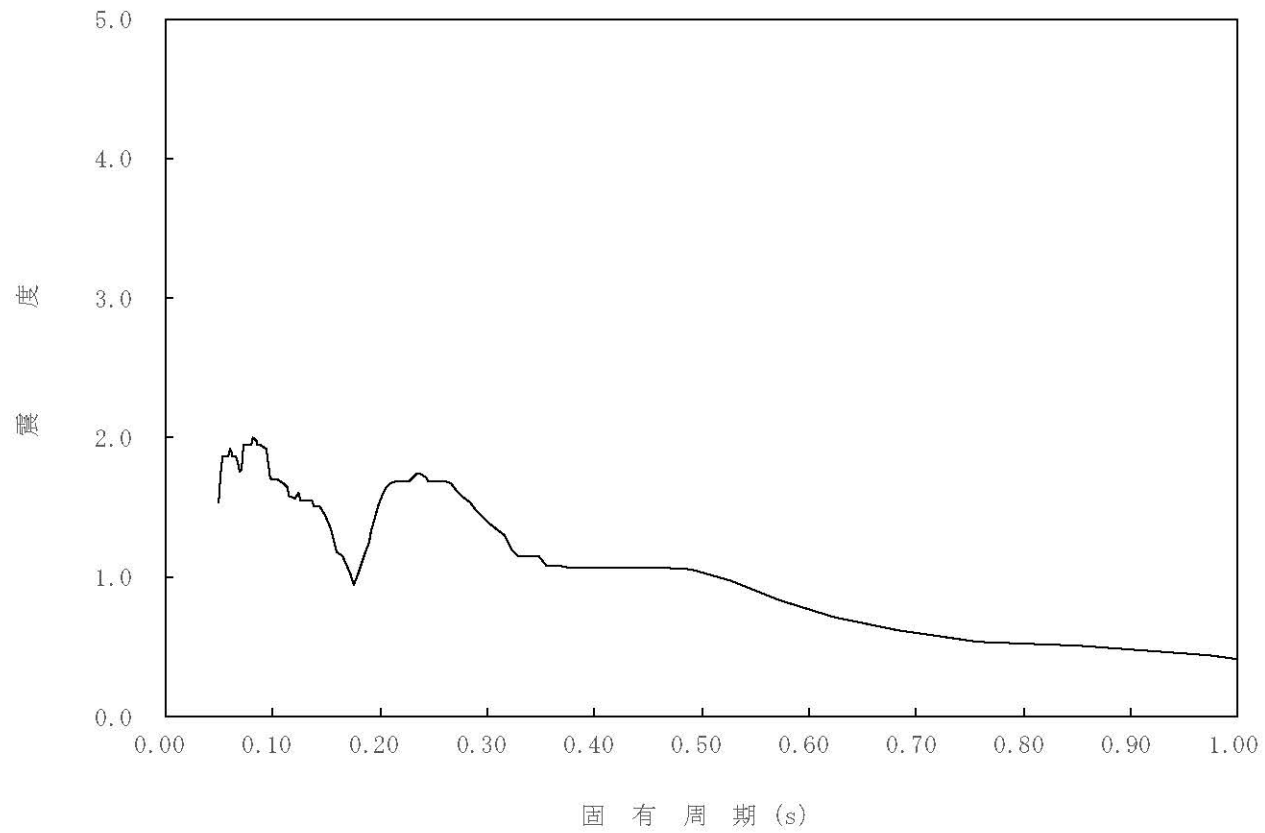
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：4.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-237

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdH-PED3-050】

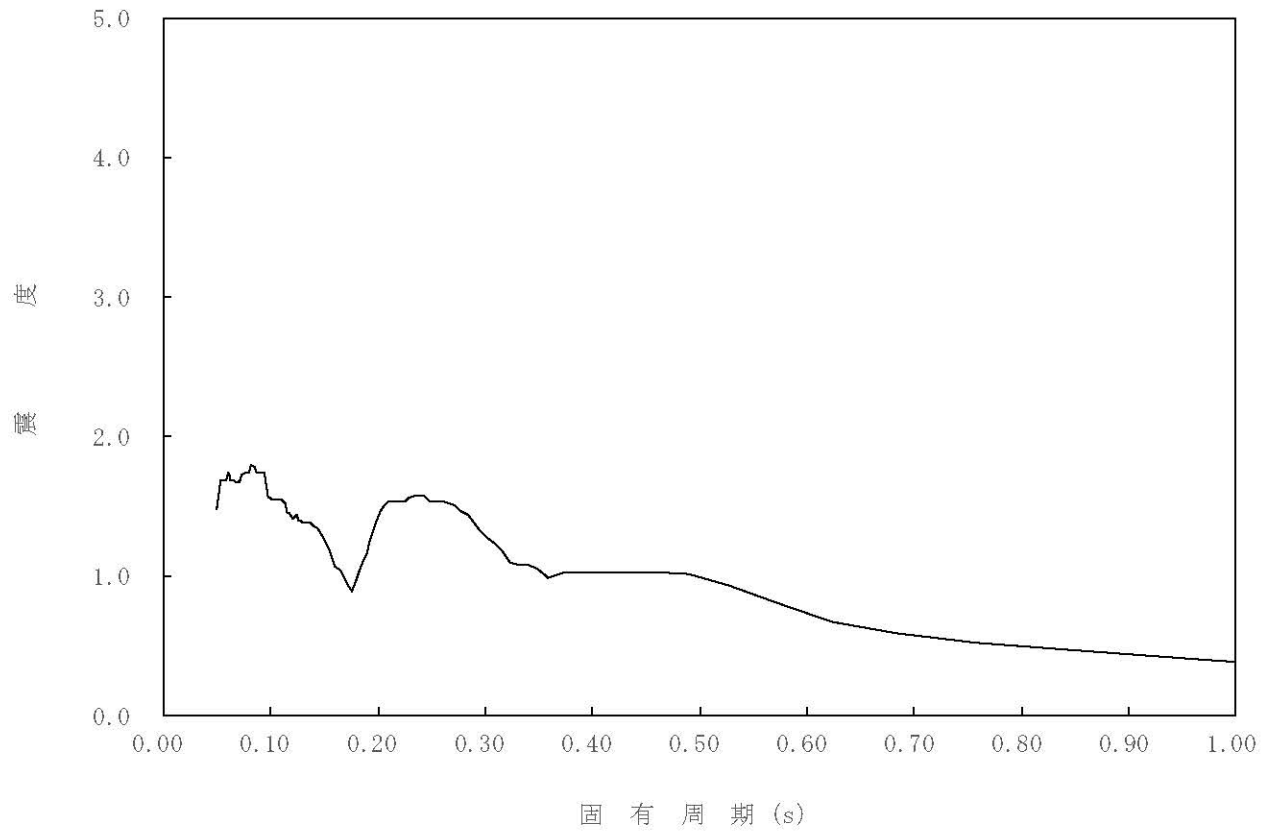
構造物名：原子炉本体の基礎

標高：0.P.

— 水平方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-238

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV41-005】

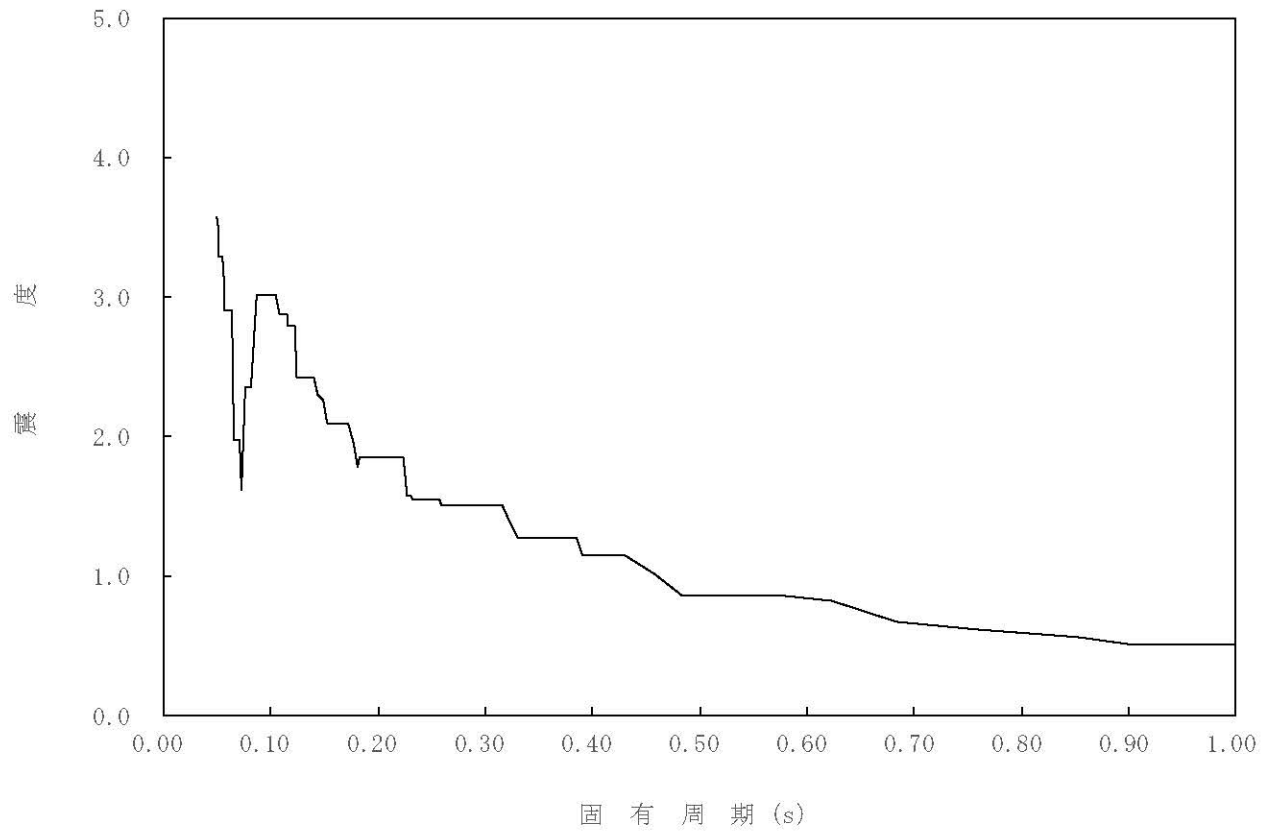
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-239

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdV-PCV41-010】

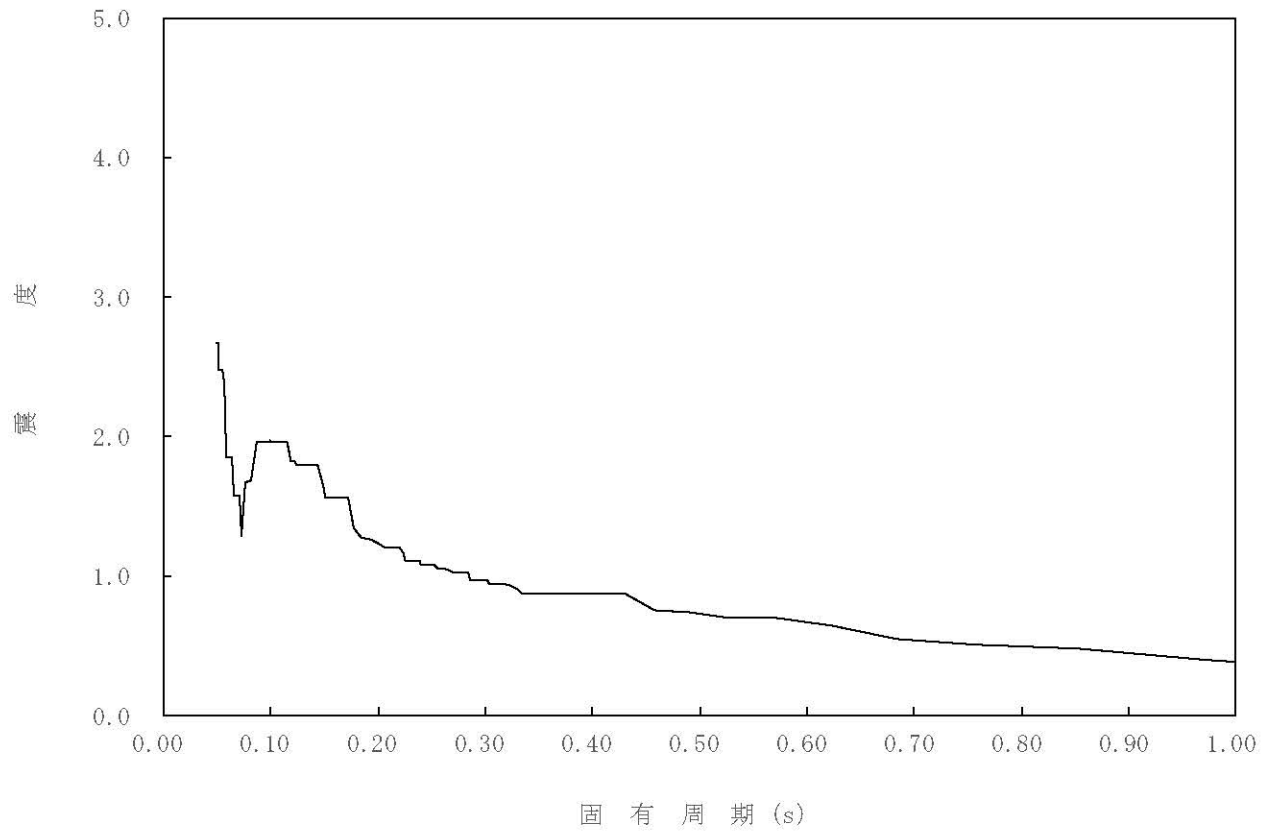
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-240

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV41-015】

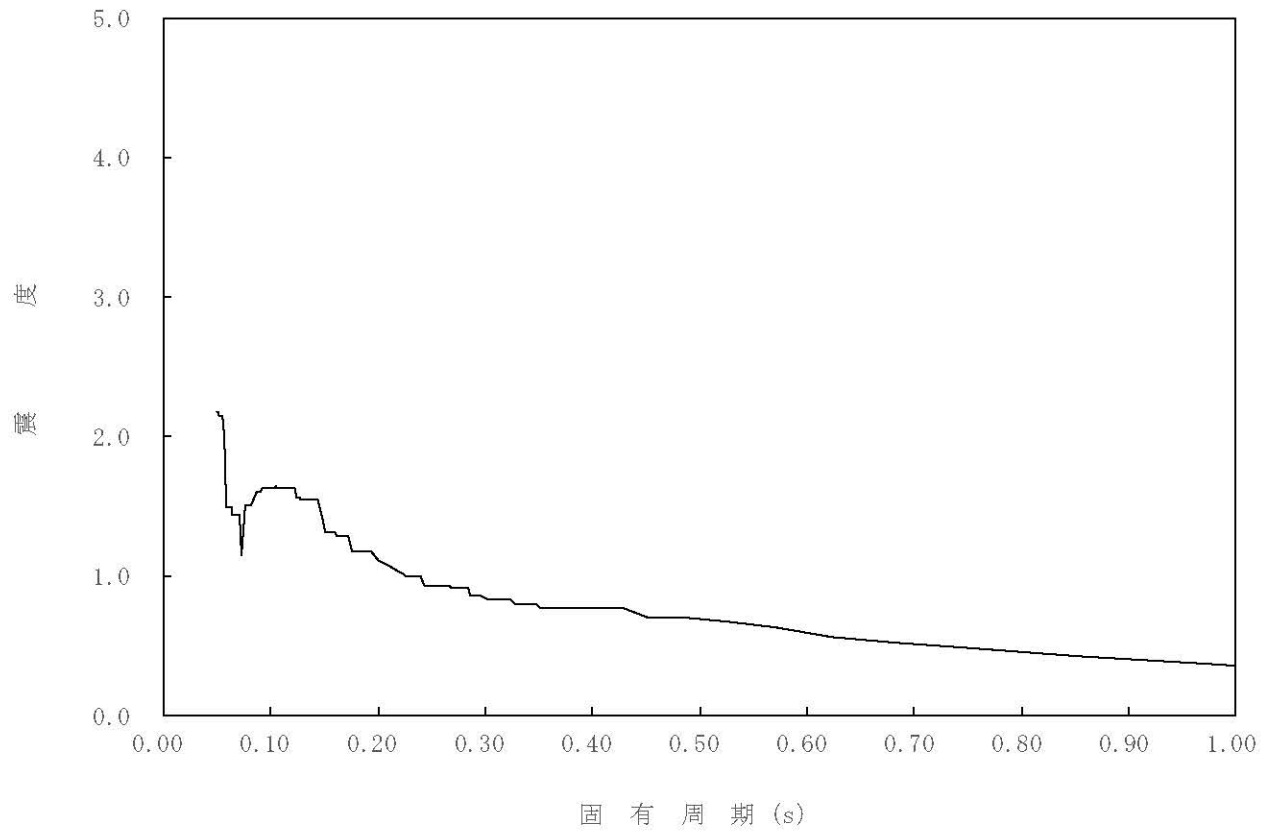
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-241

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV41-020】

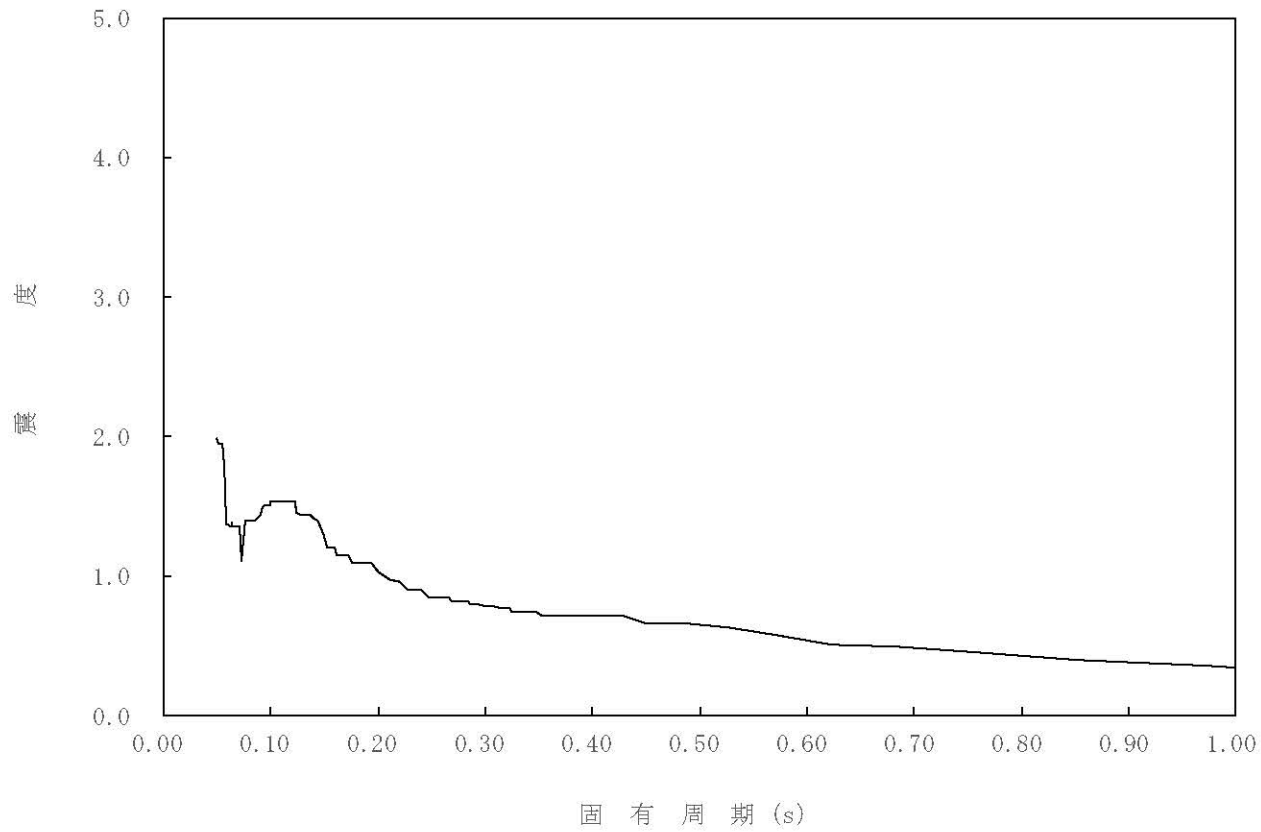
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-242

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV41-025】

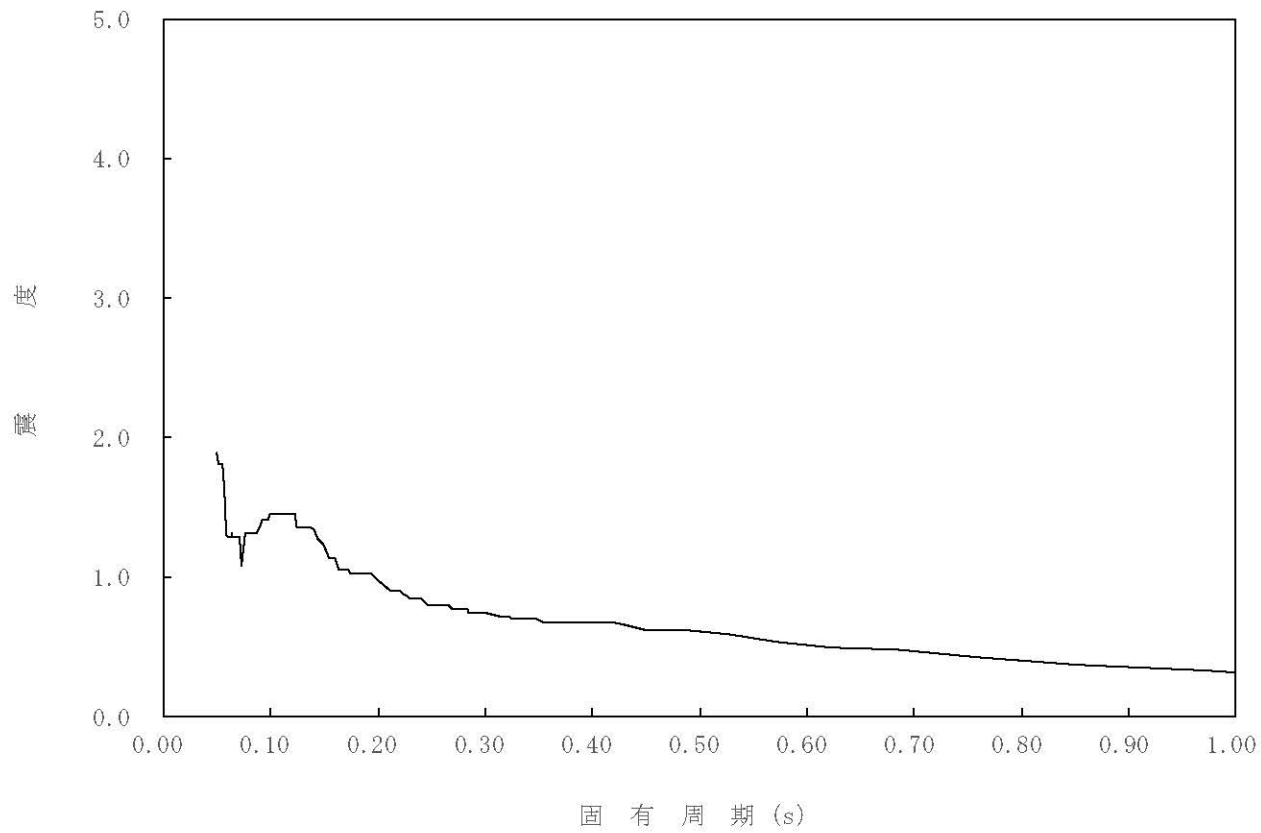
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-243

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV41-030】

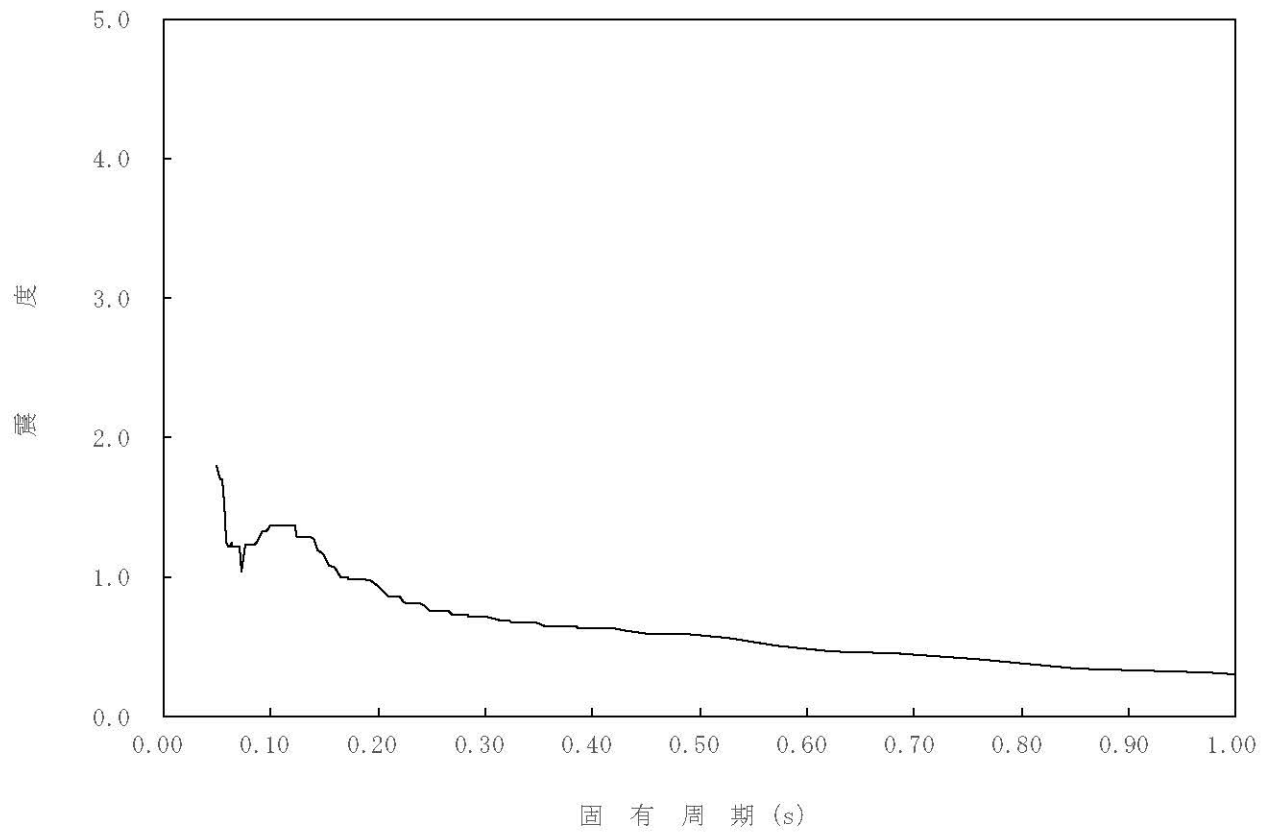
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-244

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV41-050】

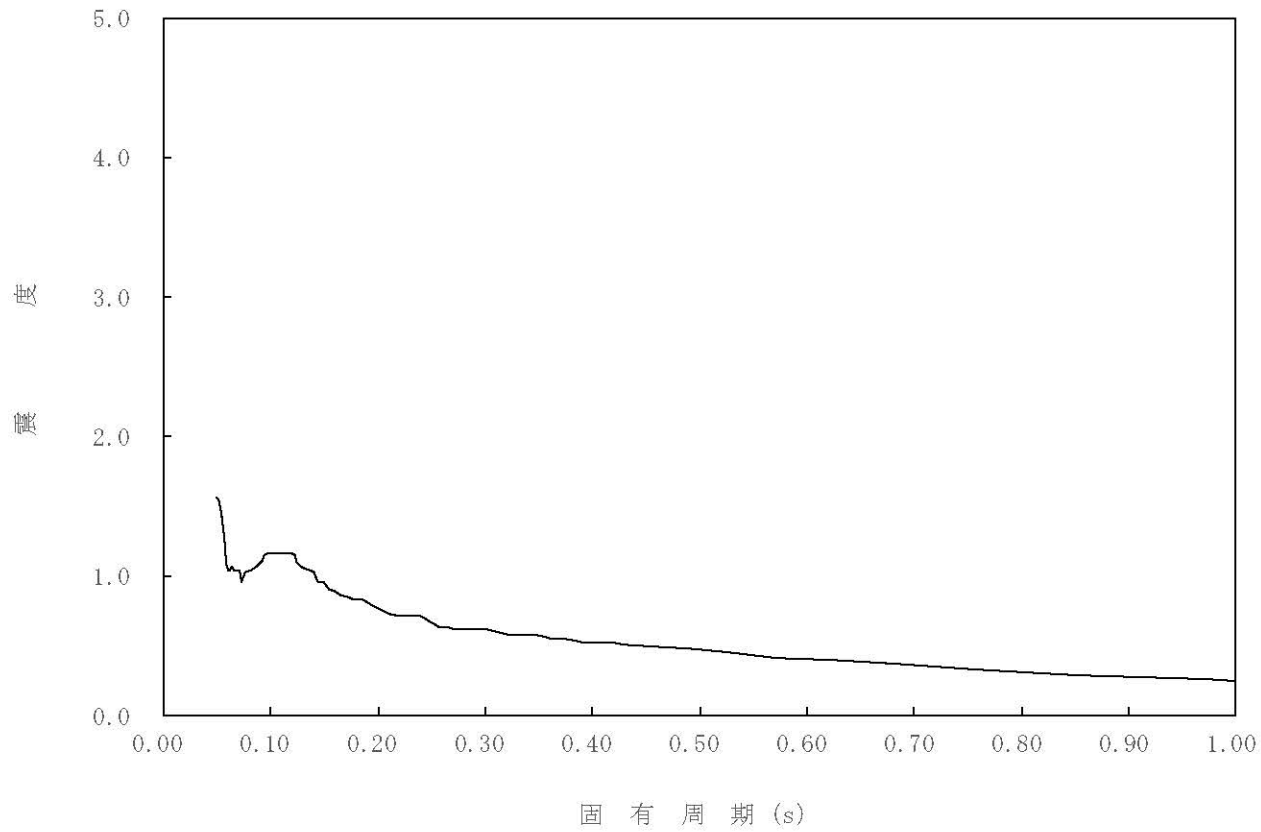
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：5.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-245

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV40-005】

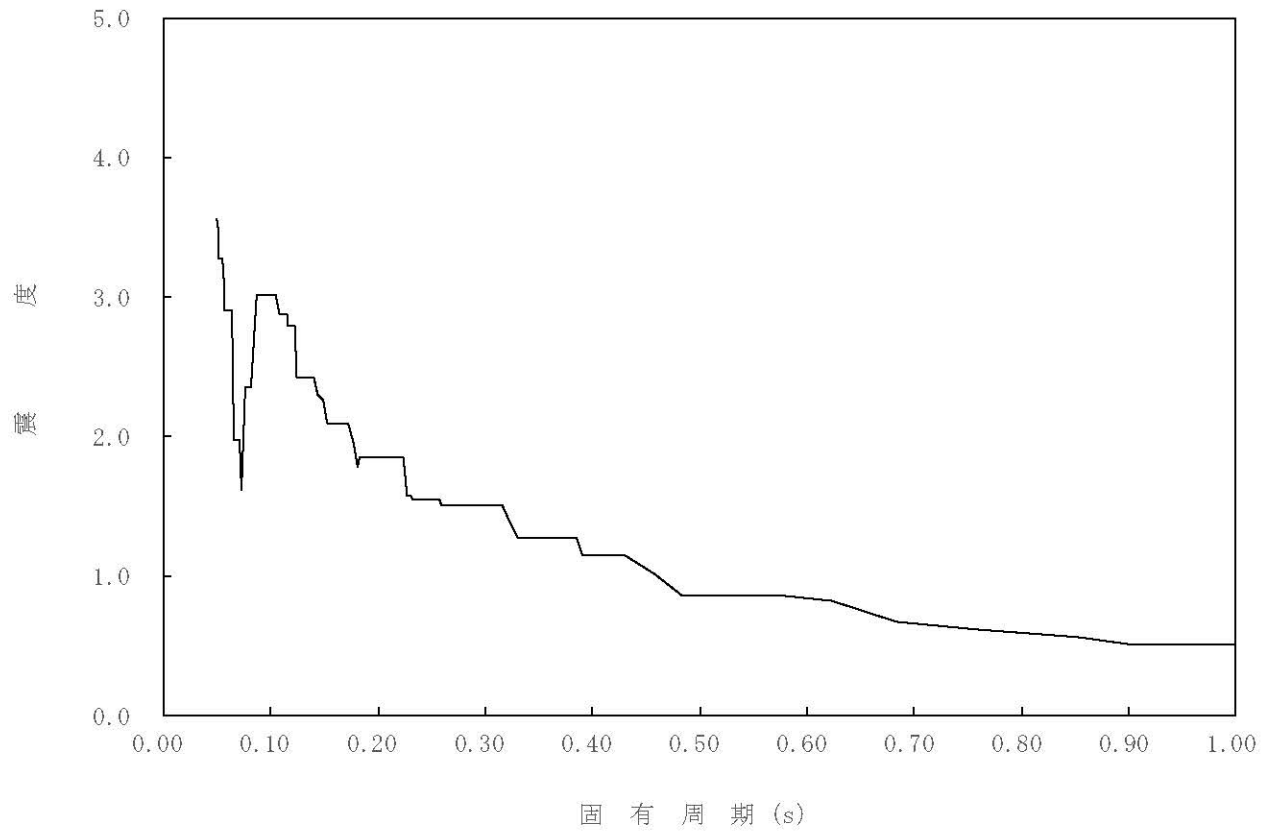
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：0.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-246

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV40-010】

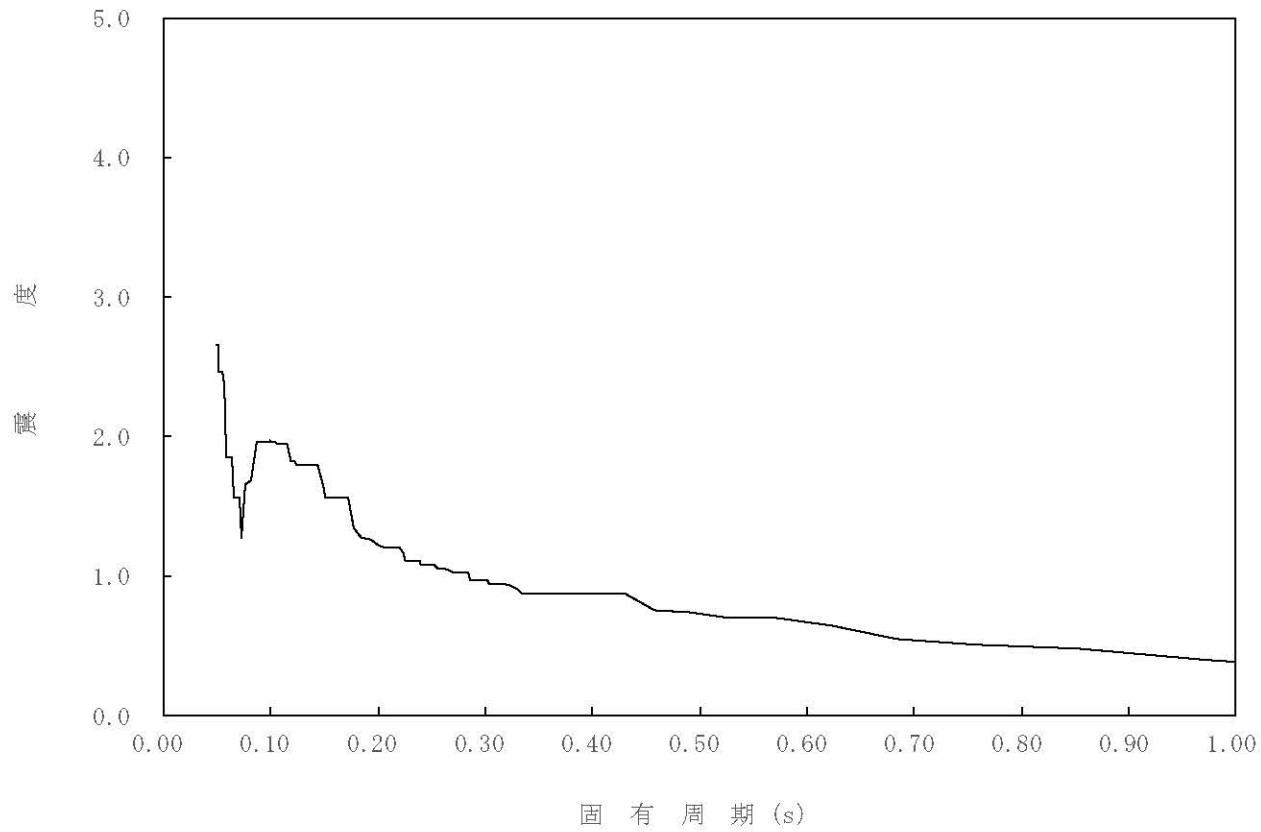
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-247

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



【02-PCV-SdV-PCV40-015】

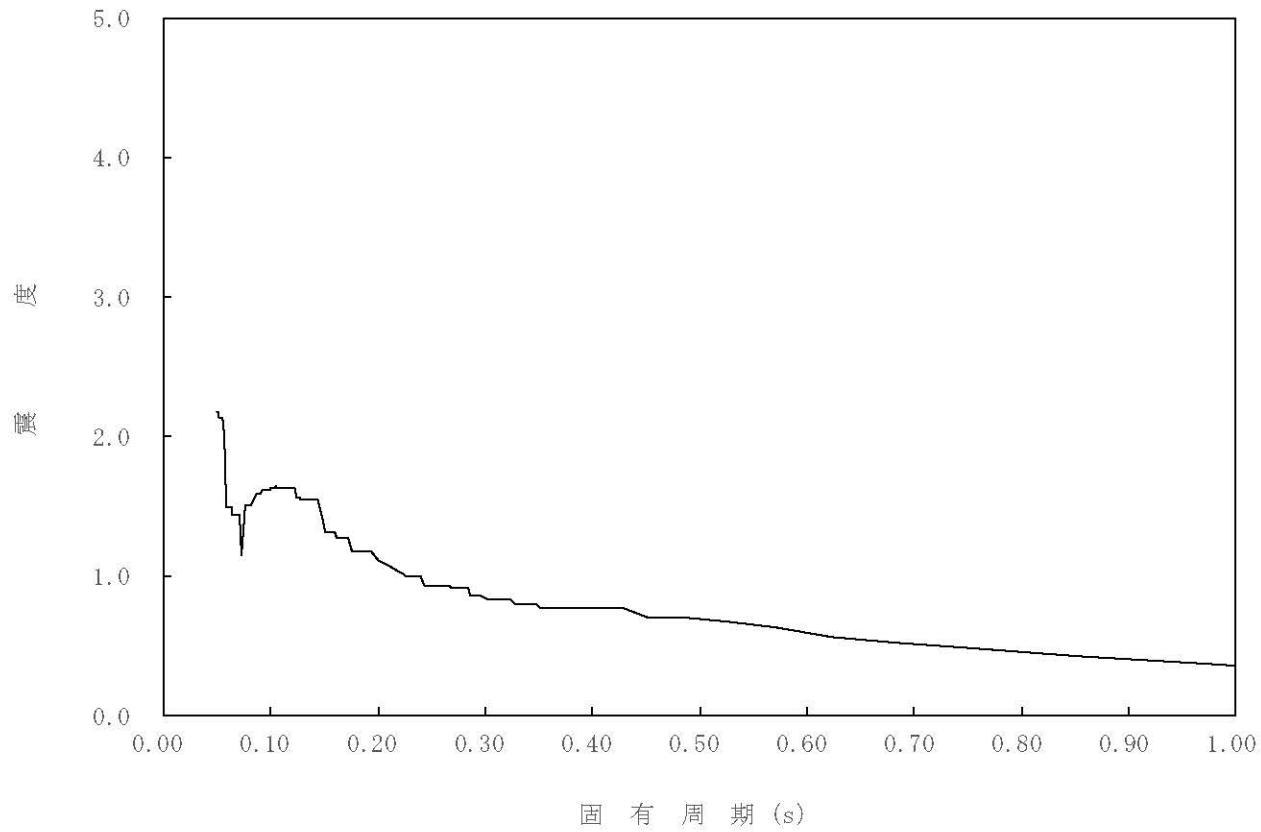
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：1.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-248

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV40-020】

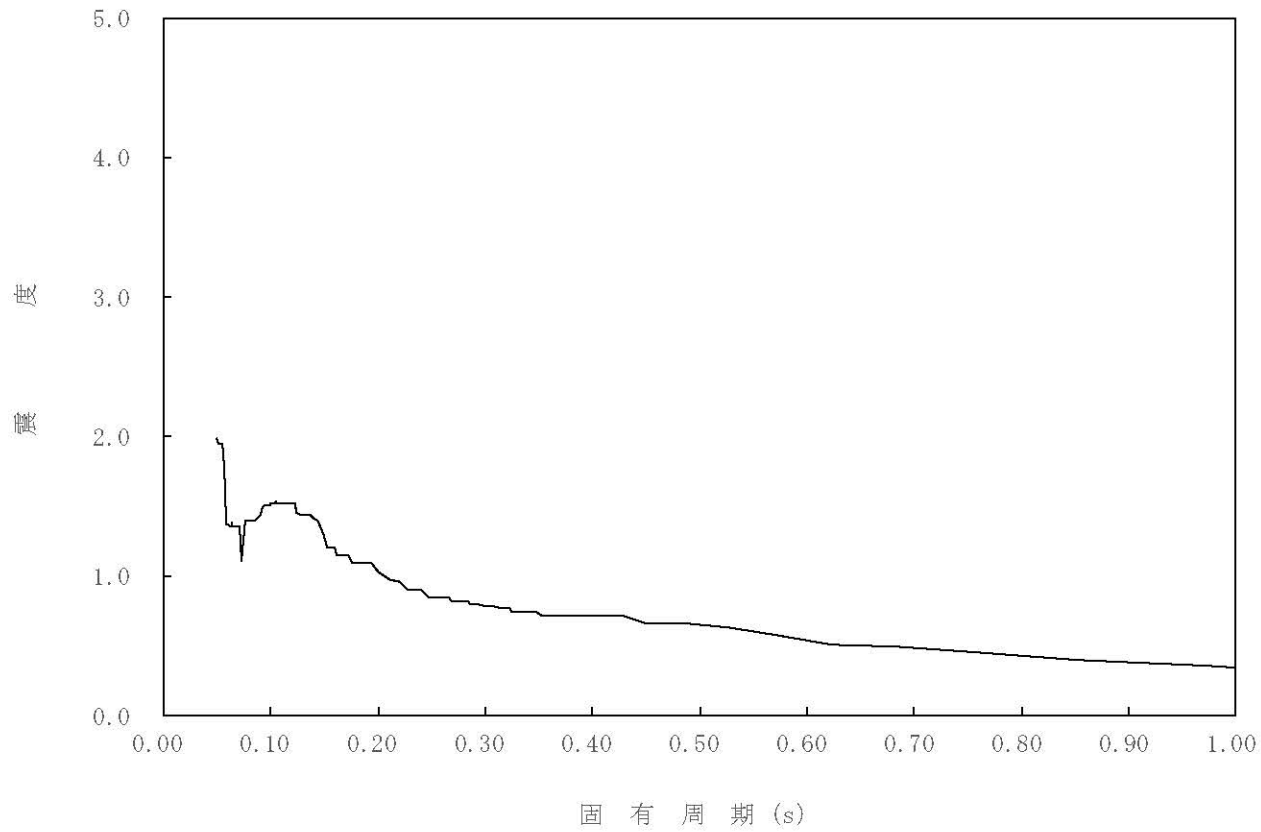
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：2.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-249

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV40-025】

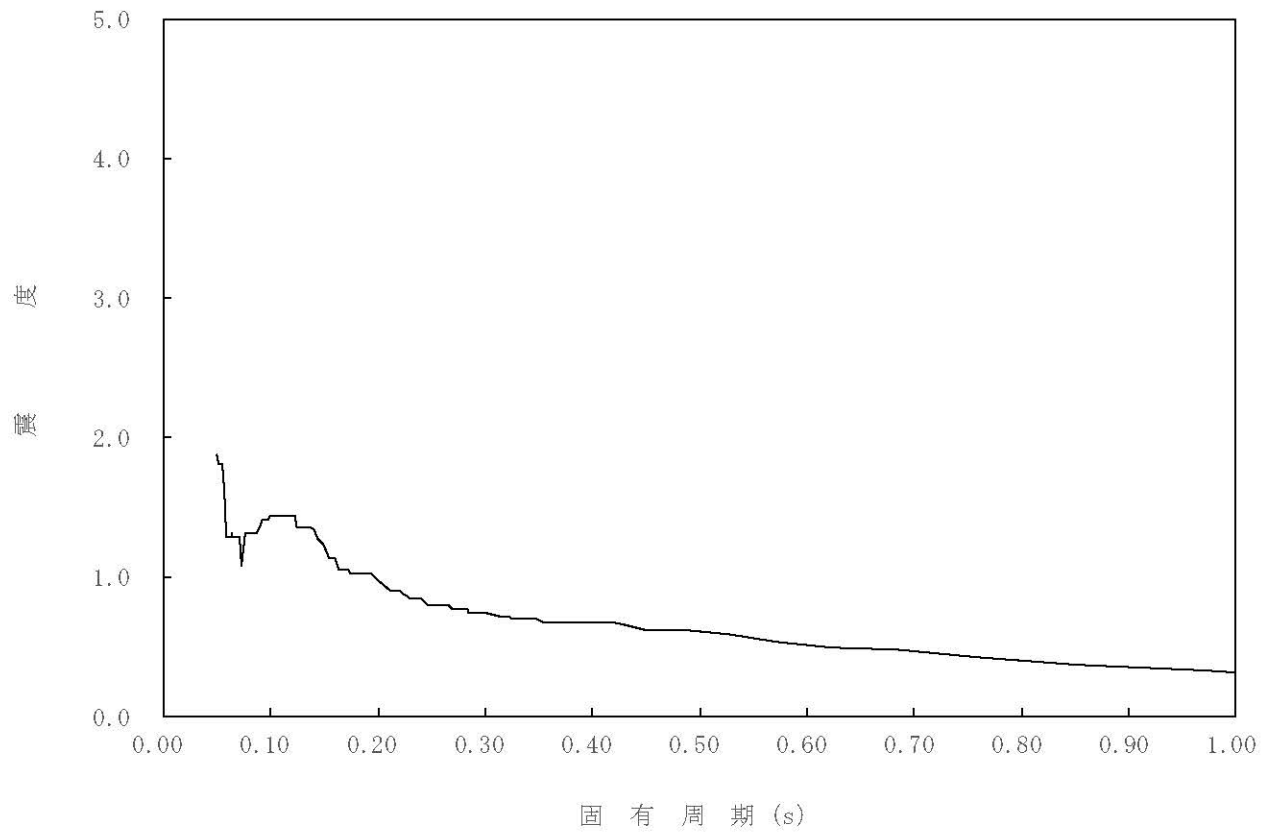
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：2.5%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-250

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

【02-PCV-SdV-PCV40-030】

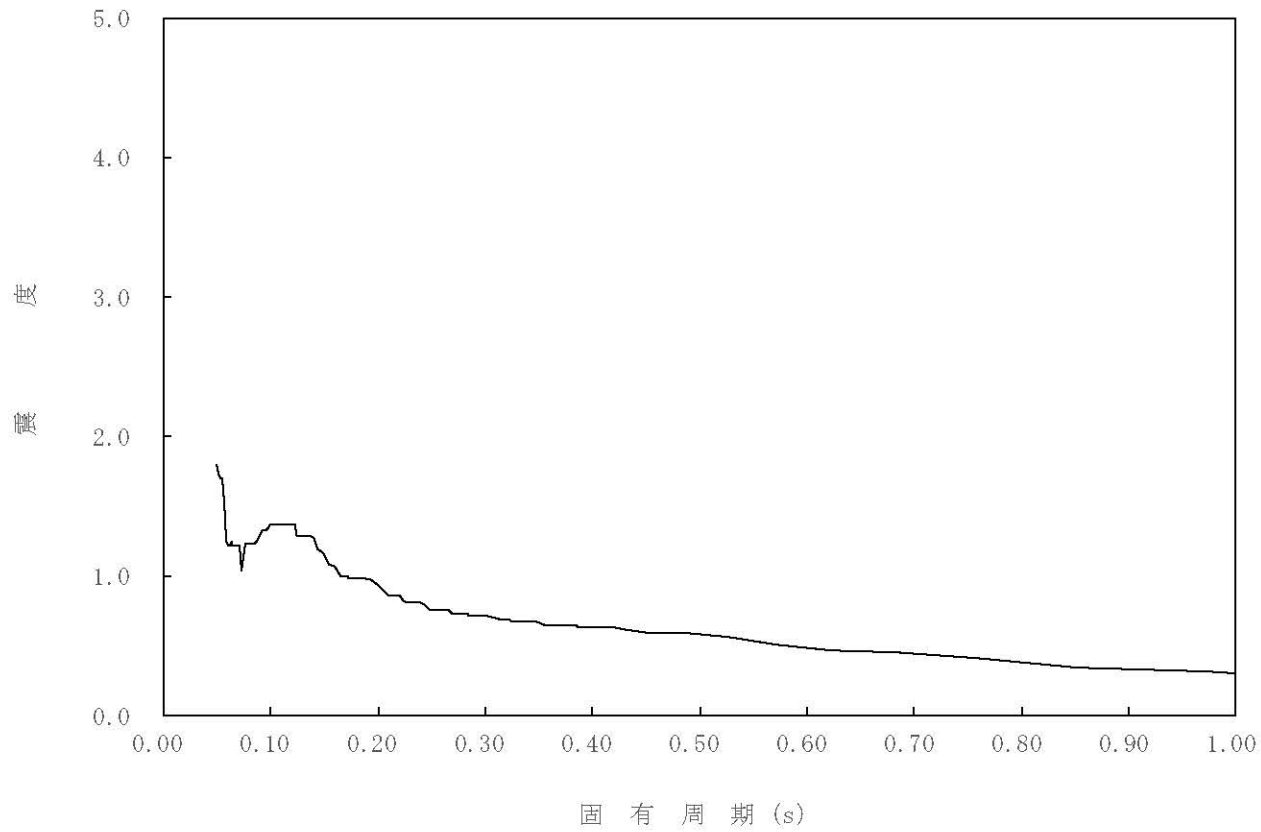
構造物名：原子炉格納容器

標高：0.P.

— 鉛直方向

減衰定数：3.0%

波形名：弾性設計用地震動 S d



2-10-251

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。